

中島長文

校

伊藤令子

補正

魯迅『古小説鈎沈』校本

京都大学文学研究科中国語学中国文学研究室

本書のための研究にあたっては、
一般財団法人橋本循記念会 平成二八年度 中国伝統文化に関する調査・研究助成
を得ました。ここに記して深謝いたします。

平田昌司（代表者）
中島長文
伊藤令子

『古小説鈎沈』校本序

先秦から隋に至るまでのすでに散佚した小説三十六種、歴代の書志に見られる伝統的な概念での小説を、古籍の中から丹念に拾い集めて成ったのがこの『古小説鈎沈』である。魯迅はこうした輯佚・校訂の作業が好きで、かなりの量の仕事をしている。すでに書物の形になった『会稽郡古書雜集』や『唐宋伝奇集』を含めて、いまでは『魯迅輯録古籍叢編』全四冊（一九九九年人民文学出版社）に纏められて読むのにずいぶん便利になった。古小説の関係では、『鈎沈』の他にすでに比較的まとまった伝本がある『搜神記』や『拾遺記』『異苑』などの佚文を集めた『小説備校』がある。これは『鈎沈』の作業のおまけとしてできたものと思われる。残念ながらわたしの作業はそこまで及んでいない。旧序で述べたように魯迅は、『鈎沈』は出来てはいるものの、本にするには今一度の検討が必要だと言いつつ世を去った。わたしの作業は、魯迅の意にどうかどうかは別として、いちおう今一度の整理だとしておこう。

『古小説鈎沈』校本の志怪の部分の序（旧序二）で、わたしはこの作業の目的を「魯迅が未定とした部分を定稿とし、できるだけ正確なテキストを提供する」と書いた。これは科研費を受けるための口実でもあったが、すべてがそうであったわけではなく、自分でもそれはある程度可能ではないかと考えていた。それはまさに門前の小僧習わぬ経を誦むの類であった。経学研究の一つに校勘という手法がある。そこでは一字一句が問題となる。聖なる経典を相手に、それがいく通りにも解釈されるのでは、経典の意味をなさないから、一字一句を問題にしてギリギリのところまで一つに収斂させようとする。わたしは聞き覚えたお経を見当はずれにも小説に応用しようとしたのである。しかし、小説とは何か。それは班固も言うように、街談巷語、道聽塗説する者の造るところである。街頭で話され巷間で語られ、道端で聞いている道端で人に伝える。人から人へ話され、人から人へ聴き継がれる。そこに正確さなど期すべ

くもない。一人の人が話したとき、その話が一つのヴァージョンであり、誰かが文字に書き記したとき、それがまた一つ別のヴァージョンである。かくして可能性としては無数のヴァージョンが生まれる。そのようなものについて一字一句を問題にしたところで何になるう。

校本ということでは、これも遠い昔、授業に出る予習のために周祖謨氏の『広韻校本』をたびたび使い、こうした誰からも信頼される書物を作るのは研究者の本領だろうと思ったことがある。そのこととわたしの『校本』とはどこかで繋がっているような気がするが、考えてみると経学と小説の場合と同じく、どこでどう違えたのか、やっぱり大きな筋違い、見当外れであった。声音の現象はすべて人間の生理的条件に基づくものであるから、いくら複雑な発音であれ、それが言語である限り結局は概念（あるいは規範）としては決まった一定の範疇に落ち着き、あとはそれに付随する説明に関してどれだけの学識があつて対応するかどうかだけが問題である。それに対して人間の妄想も基本的には人間の生理的条件に依るとは言え、直接生理的条件に依拠する音声とは違って、その生まれくる由来はわからず、その行く先もどこか分からず、その生まれ出る数も無限である。それを同じ基準で扱うのはまさに狂気の沙汰である。かくてわたしは二重に誤まったことになる。

だが魯迅が古小説の残片を集め『古小説鈎沈』とした根本の方法に帰るならば、「あらためて編輯し、そして昔の人の集本を校定した」と言うのであるから、それぞれの小説をまとまりのある姿にして、できるだけ読めるような形で、読者に提供しようとしたわけである。わたしは埒もなく余計なことをしたかもしれないが、その余計な部分を除いた、魯迅の方法の範囲内ではわたしの作業も解嘲の余地はあろうというものである。さらに開き直れば、経学の対象である経書なども、儒家が奉戴して経書となったままで、なかでも『尚書』や『春秋左伝』などは王者の書とか魯国の歴史とは言うものの、そこには大量の小道消息が含まれている。孟子がすでに言っている、尽く書を信ずれば則ち書なきにしかずと。そこに固定された小道消息とくらべて、古小説について一字一句を云々することは、小説の

流動性と多様性を逆に浮かび上がらせることにはならないか。また昔話の分類という作業があるように、分化変遷したり合体倒置されたりする小説の考察に何か役に立つことはないのか。これはいささか我田引水に類するが、しかしあくまでそれぞれの立場から自由に使ってもらえば、わたしの作業も最初の意図の範囲から外れたとしても、何か利用の価値があり得るのではないかという気もしている。ついでにここでその範囲外のことについてもう一つ言うならば、經典に固定された小道消息を、經典化という枠を外してただの小道消息として洗い直してみれば、小説の淵源に關して新たな知見を加え得る可能性があるのではないか。もちろんそんなことは已に誰かがやっているのかもしれないし、またそれはわたしのこの作業とは直接の関わりはないけれども。

ところで「古小説鈎沈序」が公表されたのは、一九一二年二月紹興で発行された『越社叢刊』第一集であつた。一九〇九年八月に日本から帰国した魯迅は、杭州の浙江兩級師範學堂（普通と高等師範）の教員となるが一年で辞め、郷里の紹興府中學堂の教員となり、翌年十月には辛亥革命を迎える。そして革命後は山会（山陰・会稽つまり紹興）師範學堂の校長になる。その間新旧勢力の対立や革命、それに加えて新勢力側の内紛など激動の時代を背景に、いずれも意を得ぬ状況を強いられたようで、親友の許寿裳に宛ててしきりに離郷の意を漏らしている。彼が『古小説鈎沈』をまとめたのはその間であつたと思われる。これについては林辰氏の「關於『古小説鈎沈』的輯錄年代」（『魯迅述林』所収）に詳しい。現に草稿の一部は「紹興府中學堂」の用箋に記されている。「鈎沈序」には「又今後はこのような間暇が少ないであろうことを慮つて」とある。南京に臨時政府が成立し、教育部が組織されたのは二月の初めである。初代の教育部長は蔡元培、魯迅を部員に推薦したのは許寿裳、魯迅が意を決して故郷を離れたのはそのためだろう。二月十三日には師範學堂の校長を辞めて、すぐに南京に向かつたと考えられる。『越社叢刊』の正確な発行時期はわからないが、以上の経緯からして「序」は二月の初めに書かれたもののようで、『鈎沈』自体はそれまでに完成していたと考えてよいだろう。

彼は「鈎沈序」で、「わたしは若い頃から古説を見るのが好きで、訛誤や脱略を見つけると類書に証拠を探し、たまたま逸文に出会うとこれはと書き取ったりした」と述べている。滅んだ書物の輯佚などという辛気臭い仕事はもちろん性格的に好きでないとやれたものではない。ただこうした仕事は、それをやっている間は何も他の事を考えなくて済む。心を空にしてそれだけに集中すればよいのだから、研究者なら暇があれば誰にでもできる事である。ちょうど庭の草取りのようなもので、ただひたすらそこに生えている草を抜けばよい。たとい取り残しても、後の人がまた抜けばよい。草取りよりよいのは、庭の草は抜けども抜けども次から次へと際限なく生えてくるが、これはやがて抜き尽くして終わりがあるということである。前に向かっての幻想は際限がないが、後ろを振り返れば、かつて膨大にあったろうものが時とともに滅んで残骸は有数である。心屈した日々の作業としてはもってこいである。そうした作業を通じて流れる時間はある意味奇妙な時間である。自分の時間のようでありながら必ずしも完全には自分の時間ではない。しかし他人に関わる時間ではない。魯迅の上にもそうした時が流れたのであろう。以後彼は南京へ出、又北京へ、さらに上海へと居を変えるが、輯佚・校訂の作業は『鈎沈』だけではなく続く。大部分は好きだからそうしたのであろうが、わたしにはどうも何物かへの代償としての行為であるように思えてならない。

『古小説鈎沈』について、その後ぼつぼつと個別的な研究が『魯迅研究月刊』（北京魯迅博物館）などに出るようになったが、わたしの作業はそれとの対照には及ばない。又日本の研究者では富永一登氏が詳しい訳注を出されている。見ることができる範囲では参考にさせてもらったが、まだ刊行中で全巻を見ることができなかったのは残念である。

さて作った本人でさえ扱いかねるこの作物を、何の縁あつてか文字通り発掘してくださったのは平田昌司教授で

ある。なにしろ金がなくて報告提出用のと自分用のとを合わせて四部しか作らなかったのだから。そして本人でさえもう二度と見るのは嫌だと思っていたこの作物を、一般財団法人橋本循記念会「平成二八年度 中国伝統文化に関する調査・研究助成」の賛助を得て、頭から尻尾までフォローして、今見られる形にしてくださったのは京都大学文学研究科中国語学中国文学専修博士後期課程の伊藤令子さんである。お二方のお蔭で必要とされる方々に見ていただけることとなった。そしてまた今までこの書の成稿のために手助けを吝しまれなかった人々の厚意も無駄にしないで済む。どう感謝の意を表すべきか、そのすべを知らない。

二〇一七年四月三日 中島 長文

附録

旧序 一

六朝以前の古小説の佚文を搜輯した『古小説鈎沈』の価値についてはあらためて言うまでもない。またその成書の経緯についても林辰氏の『魯迅述林』（一九八六年、人民文学出版社）に収められた『鈎沈』に関する四篇の文章がほぼその要を尽くしているよう。

残念なことに『鈎沈』は魯迅自身が言うように、かれの最終的な整理を経たものではない。一九三五年、鄭振鐸からの出版の誘いを断った手紙に云う。

『古小説鈎沈』については、印刷することはないと思います。というのは一つにはずいぶん長らくうちやつておいたので、もう一度整理しなおすとなると、また新しく手間ひまをかけなくてはなりません。二つにはこういう書物は読む人間は多分いくらもないでしょうから、いましばらくは放っておいて、いつか暇ができたときにまた考えることにすればよろしい。（三五〇三三〇信。『魯迅全集』第十三卷）

十冊の稿本はこうして束ねられたまま魯迅の死を迎えた。そしてその後、一九三八年、魯迅全集出版社が最初の全集を刊行したとき、はじめてその第八卷に『會稽郡故書雜集』とともに収録されて日の目を見た。以後『鈎沈』はこの全集版の紙型によって流布する。人民共和国成立後の一九五一年以降もやはり同じ紙型を使って単行され、香港出版

のものもそれを影印したものである。一九五七年に二度目の全集が出るが、そこには収録されない。一九七三年になって三度目の魯迅全集が刊行された。この全集は頁数から行数数字に至るまですべて一九三八年版全集の体裁に倣った無注本である。三八年版そっくりそのままの形で復刊したのには、前回五七年版十卷本全集の編集方法、注釈を否定するという極めて政治的な意図があったと推測される。しかしこの全集の第八巻、なかでも『古小説鈎沈』に限って言えば、初版に見られた出典の巻数の誤りを原典に当たって訂したり、標点の誤りを改めるなど、文革中の仕事としては極めてまっとうな作業ぶりで、当時の状況のただ中でこういう地味な仕事を続けていた人がいたのかと思うと、いささか敬意を表したくなる。

新しく一九八一年に刊行された全集には収集校訂したものや翻訳を含まないので、いま通行するのは結局、三八年版と七三年版のいずれも全集版ということになる。唐以前の古小説研究の基本的資料としてたえず引用される割には、出版の上ではそれ相当の待遇を受けているようには思われない。また七三年版全集本の校訂はあるものの、魯迅自身あらためての整理が必要だと言いつ残したにもかかわらず、本文に渉る校訂はまだ聞かない。日本でもかつて前野直彬氏等のグループが手を着けられたということだが、その後の落着は知らない。わたしのこの作業はいささかなりともその闕を補おうとするものである。蚩蜚憾樹、蚊子負山の憾みは免れぬけれども。

『鈎沈』は未だ成書の過程にあつて、その編成からして、すでに指摘されるように、いまいちどの整理を必要とするが、ここでは編成についてはしばらく稿本の旧を保ったまま、まず本文の校訂を主な作業とする。校訂には現在利用可能な善本はできる限り利用する。むろん個人の作業だから限界があるのはいうまでもない。しかしよりよいと判断したテキストによって『鈎沈』の原文を差換える場合もある。

いまこうした作業にとって、最も待ち望まれるのは『鈎沈』稿本十冊と、六千枚にのぼるといふ『鈎沈』編纂のための条子の公開である。これら手稿の影印出版によって、『鈎沈』に関してはかなりのがが判明するはずである。

『鈎沈』の解題、および『鈎沈』引書考は紙幅を考えて稿をあらためる。

一九九二年七月十日。

旧序 二

『古小説鉤沈』は、魯迅が近代作家としての活動を始める以前に、すでに書物としては滅んでしまった六朝を中心とする古小説群を散在する資料から、その名のとおり水底に沈んだものを鉤針で釣り上げるようにして丹念に拾い集め校訂を加えたものである。これは彼自身の学問的分野では、その後の『中国小説史略』に連なることは言うまでもない。そしてそれ単独でも六朝期小説の貴重な資料集成として研究者の間では由来重視されてきた。しかしながら『古小説鉤沈』は、未定稿として魯迅の生前には書物の形にならず、その死後一九三八年に出版された『魯迅全集』にはじめて標点を施して収録された。わたしの作業は、魯迅が未定とした部分を定稿とし、できるだけ正確なテキストを提供すべく校本の作成を目指したものである。先行する研究を参照し、魯迅が目撃した唐宋類書を中心として、テキストの各条文を再検討し、校訂を加え、校勘を記した。ただし書物全体の編成については、『妬記』を除いて三十八年版全集の旧に拠った。ここに提出するのは『古小説鉤沈』の志怪部分のそれである。軼事小説の部分については『神戸外大論叢』（第四三卷第二号・一九九二）第五〇巻第四号・一九九九）を参照されたい。

わたしのこの作業を通じて、基礎資料の整理から、整理原稿のコンピュータへの入力、およびその校正に渉る煩雑な作業に終始助力を惜しまれなかったのは、佐原陽子・高井美香・森雅子・尾崎睦美の方々である。なかでも佐原さんの助力は甚大である。彼女等の縁の下での努力がなければこの作業はとうてい日の目を見なかったであろう。ここに記して謝意を表する。

二〇〇三年三月

校例

一、 この校本の底本は、一九三八年魯迅全集出版社版『全集』第八巻收録の『古小説鈎沈』およびその紙型による人民文学出版社一九五一年北京重印第一版である。同時に一九九三年上海古籍出版社『魯迅輯校古籍手稿』第三函に収める『古小説鈎沈』手稿全八冊および各種藁本・資料とも対校した。また一九七三年人民文学出版社版『全集』第八巻所収、一九九〇年人民文学出版社『魯迅輯校古籍叢編』第一巻所収の『古小説鈎沈』をそれぞれ参照した。これら二書にはそれぞれの編集者による校訂がなされている。この書では底本の活字本を『鈎沈』と略称し、手稿を『稿本』と略称した。

この校本作成過程で管見に入った『古小説鈎沈』の版本は次の通りである。

一九三八年魯迅全集出版社版『全集』第八巻本

一九五一年人民文学出版社用『全集』第八巻紙型北京重印第一版本

一九七三年人民文学出版社版『全集』第八巻本

一九九三年上海古籍出版社『魯迅輯校古籍手稿』第三函本及び各種藁本・資料

一九九七年齊魯書社本 横組み簡体字版

一九九九年人民文学出版社『魯迅輯校古籍叢編』第一巻本

二〇〇八年浙江古籍出版社『古小説鈎沈手稿』（国家図書館古籍館特藏名家手稿）本* 節本

以上の他に一九四七年魯迅全集編集委員会編つまり魯迅全集出版社版の単行上下二冊本があるようだが、これは未見である。三十八年『全集』版の紙型によるものと思われる。

二、 書物の編成は底本の旧に従った。『魯迅輯録古籍叢編』所収本は、史志の著録を基準としているという推定に基づき、内容を勘案して、五集に分巻している。これは今後一つの目安になると思われるが、ここでは校本の主要な目的である校勘に直接関係しないので、それに従わなかった。

三、 校訂に使用した唐宋から明清・近代に至る主な書籍は後附の「古小説鈎沈校勘書目」に列挙した。条文で個別に用いた書籍は、その都度当該の場所で言及した。書物にはそれぞれにその書物の信用度というものがある。特に木版の印刷技術が極点に達した明末には、優れた版本も出た代わりに、商業主義と相まって粗製濫造のたがめな書籍も輩出した。例えば小説関係では『五朝小説』や『重校說郛』などというものはその好例で、何でもかんでも無批判に詰め込んであつて、その信用度はほとんどゼロに近い。その害は清朝に入っても『子史精華』など官撰の書にまで及んでいる。そうした書物は原則として引用しないし、校訂に必要がない限り言及しない。

四、 『古小説鈎沈』所収の各小説の一条ごとに通し番号を振って、検索等の便を図った。また『古小説鈎沈』以前の輯本、例えば『玉函山房輯佚書』や『明抄說郛』など相当纏まった量の小説を収録しているものについても、当該小説の各条ごとに配列順に従って通し番号をつけた上で引用した。『世說新語』や『搜神記』『搜神後記』などのついては、その刊本につけられた通し番号を利用した。

五、 『古小説鈎沈』に附された双行注は、魯迅の注も原注もすべて注番号をつけた上で、校記に編入し、本文は原文のみとした。

六、 校記の中で、○印以下はすべて校訂者の注記であり、○印のない部分、また○印以上の部分は『古小説鈎沈』の原文である。『鈎沈』の文に補足する場合は、補足部分に「」を付けて『鈎沈』の原文と区別した。

七、 新収の佚文や疑義のある新たな佚文は、その冒頭に○印ならびに通し番号をつけて、魯迅原輯の『鈎沈』の条文の後に、まとめて注記を施した。

八、『鈎沈』が依拠した書物の名は、もと原則として全体を覆うものは文末に標記し、一部を引くものは文中の当該箇所にも標記されていたが、この校本では一括して校記の冒頭に移し、かつ一部を引く書については*印を付けた。そしてその後、○印以下に『鈎沈』が及ばなかった書や、校訂者が調べた、他に依拠するに足る書、及び後代の収録書の名を列挙した。

九、字句の校勘に関する注記の番号は原則として句末に付けた。

十、校勘は原則として異体字には及ばない。小説の原文についてもコンピュータのソフトの制約から、通行の字で代替した箇所があり、そうでない場合は、例えば「啖」（これはコンピュータのソフトにあるのだが）という字は「□||□+炎」といった形式で表示した。

十一、同話や類話は「事見……」「参看……」という形で示したが、備忘のために記したまでもとより博搜網羅を目指したものではない。

『古小説鉤沈』校本

『古小説鈎沈』主要校勘書目

各小説の個別の専集はそれぞれの冒頭の校記に挙げたので、ここでは省略する。また校勘の範囲が限定的な書物も当該の校記に記した。各種書籍の版本は無論ここに挙げたもの以外に多くあるが、ここでは校勘に使用した主なものに限った。書名の後の括弧内は略称である。なおこの度の校勘とは直接の関係はないが、★印の書は『魯迅手蹟和藏書目録』（一九五九年北京魯迅博物館編）と『魯迅藏書志』（二〇一六年同上編）に著録されるものである。

瑠玉集殘二卷 闕名氏撰 古逸叢書本

藝文類聚一百卷 唐歐陽詢撰 一九八二年上海古籍出版社汪紹楹校排印本（『類聚』）

★明嘉靖間刊本

北堂書抄一百六十卷 唐虞世南撰 民國六十三年台灣宏業書局影印南海孔氏校注光緒十四年重刊本（『書抄』）

★孔氏校注光緒十四年重刊本

初學記三十卷 唐徐堅等撰 一九六二年中華書局排印本

★光緒十四年蘊石齋叢書本

白氏六帖事類集三十卷 唐白居易撰 一九八七年文物出版社影印南宋紹興間刊本（『白帖』）

白孔六帖一百卷 唐白居易・宋孔傳撰 民國六十五年台灣新興書局影印明嘉靖刊本（『六帖』）

太平御覽一千卷 宋李昉等撰 一九六三年中華書局影印四部叢刊本（『御覽』中華書局本）

又 嘉慶十七年鮑氏刊本光緒十八年南海李氏學海堂重刊本（鮑氏刊本）★

- 又 明倪氏刊本（明刊本）
- 太平廣記五百卷 宋李昉等撰 一九六一年中華書局汪紹楹校排印本（『廣記』汪校本）
- 又 民國三十五年北京文友堂影印明談愷刻本（談刻本）★
- 又 一九七二年日本中文出版社影印文友堂本
- 又 道光二十六年文光裕記藏版黃曉峰刻本（黃刻本）
- 又 民國五十九年台灣藝文印書館嚴一萍『太平廣記校勘記』（鈔宋本）
- 事類賦注三十卷 宋吳淑撰 一九八九年中華書局拋宋刊本校点排印本
- 又 清劍光閣刊本
- ★明嘉靖間刊本
- 類說六十卷 宋曾慥撰 一九五五年文學古籍刊行社影印明天啓年間刊本
- 又 北京圖書館古籍珍本叢刊本
- 又 一九九九年北京圖書館影印藏本
- 類說校注六十卷 宋曾慥撰 王汝濤等校注 一九九六年福建人民出版社校注排印本
- 海錄碎事二十二卷 宋葉廷珪撰 一九八九年上海古籍出版社影印明萬曆卓頭卿刊本（『海錄』）
- 又 二〇〇二年中華書局拋明劉鳳本排印本
- 錦繡万花谷前後統集一百二十卷 宋闕名氏撰 民國六十三年台灣新興書局影印明嘉靖間錫山秦氏刊本（『萬花谷』）
- 又 北京圖書館古籍珍本叢刊本
- 紺珠集十三卷 宋闕名氏撰 民國五十九年台灣商務印書館影印明刊本
- 記纂淵海一百九十五卷 宋潘自牧編 一九八八年中華書局影印宋本合成本

- 新編古今事文類聚 宋祝穆撰 一九八二年日本中文出版社影印明刊本
- 玉海二百卷 宋王昶麟撰 一九七七年中文出版社影印建仁寺藏本
- 新編分門古今類事二十卷 宋委心子撰 金心點校 一九八七年中華書局拋十萬卷樓叢書本排印本
- 又 四庫全書本
- 類林雜說十五卷 金王朋寿撰 民國間吳興劉氏嘉業堂刊本★
- 永樂大典殘卷 一九五九年至一九九八年中華書局影印本『大典』
- 天中記六十卷 明陳耀文撰 萬曆二十三年序刊本
- 又 四庫全書本
- 瑯琊代醉編四十卷 明張鼎思撰 昭和四十八年汲古書院和刻本漢籍隨筆集第七卷本即影印延寶三年刊本
- 淵鑑類函四百五十卷 清張英等奉勅撰 康熙年間原刊本『淵鑑』
- 格致鏡原一百卷 清陳元龍撰 民國六十年臺北新興書局影印雍正十三年海寧陳氏刊本
- 古今圖書集成 影印清光緒十五年上海圖書集成鉛版印書局排本
- 法苑珠林一百卷 唐寂道世撰 大正新修大藏經本『珠林』
- 法苑珠林校注一百卷 周叔迦·蘇晋仁校注 二〇〇三年中華書局排印本
- 義楚六帖二十四卷 宋義楚撰 平成二年日本朋友書店影印寬文九年飯田忠兵衛刊本
- 文選六十卷 梁昭明太子編 李善注 影印胡刻本
- ★文選李善注 光緒十八年上海廣百宋齋鉛印本

又 五臣注本

★六臣注文選 四部叢刊初編本

★評注昭明文選十五卷 清于光華評注 民國十二年掃葉山房石印本
文選集注殘本 一九一八年羅振玉影印本

水經注校（水經注箋）四十卷 後魏酈道元注 王國維校 一九八四年上海人民出版社排印本

★水經注 民國二十四年上海商務印書館統古逸叢書本

★全氏七校水經注四十卷補遺一卷付錄二卷 全祖望校 光緒十四年無錫薛氏刊本
齊民要術十卷 後魏賈思勰撰 一九八二年農業出版社繆啓愉校排印本

★光緒二十二年中江權署刊本

★四部叢刊初編本

大唐開元占經一百二十卷 唐瞿曇悉達撰 恒德堂刊本

又 四庫全書本 一九八九年中國書店影印本（『占經』）

天地瑞祥志殘九卷 唐薩守真撰 昭和七年東方文化學院京都研究所鈔本

世說新語箋疏三十卷 余嘉錫箋疏 一九八三年中華書局排印本

★世說新語六卷 光緒十七年思賢講舍刊本

★世說新語三卷 四部叢刊初編本

★世說新語六卷 民國六年上海商務印書館拋紛欣閣及袁氏刻惜陰軒叢本校印本

西陽雜俎二十卷 續集十卷 唐段成式撰 方南生点校 一九八一年中華書局排印本

★四部叢刊初編本

博物志校証十卷 晉張華撰 范寧校証 一九八〇年中華書局排印本

搜神記二十卷 晉干寶撰 汪紹楹校注 一九七九年中華書局排印本

搜神後記十卷 晉陶潛撰 汪紹楹校注 一九八一年中華書局排印本

顧氏文房小說四十種 明顧元慶輯 民國十四年上海商務印書館影印明陽山顧氏刊本★

漢魏叢書三十八種 明程榮編 上海涵芬樓影印程氏刊本★

漢魏叢書九十六種 清黃元壽輯 光緒二十一年石印本★

說郛一百卷 明陶宗儀編 民國五十二年台灣新興書局影印民國十九年商務印書館排印本《明鈔說郛》

★民國十九年商務印書館排印本

增補津逮秘書十五集 明毛晉輯 一九八〇年日本中文出版社影印民國十一年上海博古齋影印本

★崇禎十一年毛氏汲古閣刊本存六種

稗海 明商濬輯 民國五十七年台灣新興書局影印振鷺堂刊本

★明刊本存七種

十種古佚書 清茆泮林輯 道光十四年高郵茆氏梅瑞軒刊本★

玉函山房輯佚書 清馬國翰輯 嫻嬛館補校本

玉函山房輯佚書統編三種 王仁俊輯 一九八九年上海古籍出版社影印王仁俊手稿本

目次

『古小説鈎沈』校本序	1
附錄（旧序 一・旧序 二）	7
校例	11
『古小説鈎沈』主要校勘書目	15

目次	21

古小説鈎沈序	25
青史子 凡三條	27
裴子語林 原輯一八〇條 刪三條 新附一一條 凡一八八條	30
郭子 原輯八四條 刪二條 凡八二條	101
笑林 原輯二九條 新附一條 凡三〇條	130
俗說 原輯五十二條 新附一條 凡五十三條	141
殷芸小説 原輯一三六條 刪二條 新附二〇條 凡一五四條	158
水飾	228
列異傳 原輯五十條 新附五條 凡五五條	232

古異傳	凡一條	260
戴祚甄異傳	原輯一七條 新附二條 凡一九條	261
祖沖之述異記	原輯九〇條 新附三條 凡九三條	270
荀氏靈鬼志	原輯二四條 新附一條 凡二五條	312
祖台之志怪	凡一五條	326
孔氏志怪	凡一〇條	335
神怪錄	原輯二條 刪一條 凡一條	342
劉之遴神錄	凡三條	343
齊諧記	原輯一五條 刪一條 凡一五條	345
幽明錄	原輯二百六十五條 新附十一條 凡二百七十六條	355
謝氏鬼神列傳	凡一條	498
殖氏志怪記	凡二條	499
集靈記	凡一條	500
漢武故事	原輯五十三條 刪一條 新附十三條 凡六十五條	501
妬記	凡七條	548
異聞記	凡二條	554
玄中記	原輯七十條 新附二條 凡七十二條	556
陸氏異林	凡一條	584
曹毗志怪	原輯一條 新附一條 凡二條	586

目次

郭季產集異記	原輯十一條	新附四條	凡十五條	588
王浮神異記	凡八條			593
續異記	凡十一條			596
錄異傳	凡二十七條			601
雜鬼神志怪	原輯二十條	新附二條	凡二十二條	619
祥異記	凡二條			633
宣驗記	原輯三十五條	新附一條	凡三十六條	635
冥祥記	原輯百三十一條及自序	新附三條	凡百三十四條	655
旌異記	原輯十一條	新附二條	凡十三條	758
後記	(平田昌司)			769

『古小説鉤沈』校本

古小說鈎沈序

小說者、班固以爲出於稗官、閭里小知者之所及、亦使綴而不忘、如或一言可采、此亦芻蕘狂夫之議。是則稗官職志、將同古采詩之官、王者所以觀風俗知得失矣。顧其條最諸子、判例十家、復以爲可觀者九、而小說不與、所錄十五家、今又散失、惟『大戴禮』引有青史氏之記、『莊子』舉宋鉞之言、孤文斷句、更不能推見其旨。去古既遠、流裔彌繁、然論者尚墨守故言、此其持萌芽以度柯葉乎。余少喜披覽古說、或見譌敝^(一)、則取證類書、偶會逸文、輒亦寫出。雖叢殘多失次第、而涯略故在。大共貞語支言、史官末學、神鬼精物、數術波流、真人福地、神仙之中駟、幽驗冥徵、釋氏之下乘。人間小書、致遠恐泥、而洪筆晚起、此其權輿。況乃錄自里巷、爲國人所白心、出於造作、則思士之結想。心行曼衍、自生此品、其在文林、有如舜華、足以麗爾文明、點綴幽獨、蓋不第爲廣視聽之具而止。然論者尚墨守故言。惜此舊籍、彌益零落、又慮後此閒暇者眇、爰更比輯並校定昔人集本、合得如千種、名曰『古小說鈎沈』^(二)。歸魂故書、卽以自求說釋、而爲談大道者言、乃曰稗官職志、將同古采詩之官、王者所以觀風俗知得失矣。

校記

此序曾署周作人之名載一九一二年二月『越社叢刊』第一集、在推定『古小說鈎沈』成書時期上、很有力證據之一。一九三八年版『全集』未收、而一九四六年『魯迅全集補遺』(唐弢編 上海出版公司)始收錄之。以後至一九八一年『全集』第十卷『古籍序跋集』爲所再錄、今據此引。原稿一頁現存、書影在『魯迅輯校古籍手稿』第三函『古小說鈎沈』卷首可以看到。

(一)○『全集補遺』、『古籍叢編』「譌」誤作「僞」。(二)○『手稿』「鈎」作「拘」、題目亦同、

『全集補遺』亦同。『日記』一九二二年一月二日、又一月三日以及書信三五〇三三〇亦作「拘」。

青史子

凡三條

1 古者胎教之道^(一)、王后腹之七月而就寢室^(二)、太師持銅而御戶左^(三)、太宰持斗而御戶右^(四)、太卜持蓍龜而御堂下、諸官皆以其職御於門內^(五)。比及三月者^(六)、王后所求聲音非禮樂、則太師縵瑟^(七)而稱不習。所求滋味者^(八)非正味、則太宰倚斗而不敢煎調^(九)、而言曰^(一〇)、不敢以待王太子^(一一)。太子生而泣^(一二)、太師吹銅曰、聲中某律^(一三)。太宰曰、滋味上某。太卜曰、命云某。然後爲王太子懸弧之禮義。東方之弧以梧、梧者、東方之草、春木也、其牲以雞、雞者、東方之牲也。南方之弧以柳、柳者、南方之草、夏木也、其牲以狗、狗者、南方之牲也。中央之弧以桑、桑者、中央之木也、其牲以牛、牛者、中央之牲也。西方之弧以棘、棘者、西方之草也、秋木也、其牲以羊、羊者、西方之牲也。北方之弧以棗、棗者、北方之草、冬木也、其牲以雉、雉者、北方之牲也。五弧五分矢、東方射東方、南方射南方、中央射中央^(一四)、西方射西方、北方射北方、皆三射。其四弧具其餘各二分矢、懸諸國四通門之左、中央之弧亦具餘二分矢、懸諸社稷門之左^(一五)。然後卜王太子名^(一六)。上無取於天^(一七)、下無取於墜^(一八)、中無取於名山通谷^(一九)、無拂於鄉俗^(二〇)。是故君子名難知而易諱也。此所以養恩之道也^(二一)。

校記 大戴禮記三保傳篇。賈誼新書十胎教雜事。○皆題作「青史氏之記」而引。王應麟玉海五八「傳」。明楊慎丹鉛餘錄五、又丹鉛總錄四。天中記五一。胡應麟少室山房筆叢二九。其後輯佚工作有玉函山房輯佚書「青史子」二則、佚禮扶微(南菁書院叢書)二之一則、後者據賈誼新書摘錄從「王太子懸弧之禮義」到「懸諸社稷門之左」爲止。又竹柏山房家刻古書拾遺收三則、但仍失收鸞車之事。

(一)「之道」二字依新書引補。(二)新書引作「王后有身之七月而就寢室」。(三)「太師」鈎沈本作「太史」、新書作「太師」。孔廣森大戴禮記補注云、「師宋本譌史、從通解改。」汪中大戴禮記正誤亦云、「案大師盧刻作

太史、戴氏文集曰、當作太師、注同。戴校聚珍本云、各本訛作史、今據通解訂正。孔本亦作太師。此改大師、蓋用其說。○盧刻卽雅雨堂本作「太史」、但下皆作「太師」。蓋鈎沈依此「太史」而下皆改爲「太史」、誤。今據改。(四)○「斗」、孔注云、「升、盧本依新書作斗、古字升斗相似、新書寫誤耳。」大戴禮各本皆作「升」、唯雅雨堂本作「斗」耳。新書各本皆作「斗」。玉海依大戴禮作「升」、下同。注云、一作斗。(五)「太卜」已下依新書引補。(六)「比及」二字、新書引作「此」。○新書漢魏叢書本、百子全書本俱作「此」、但四部叢刊本、二十二子本並作「比及」二字。玉海引無「者」。(七)新書引作「撫樂」。(八)新書引無「者」。○百子全書本亦無、漢魏叢書本空一格、但四部叢刊本、二十二子本俱有。(九)新書引有已上五字、又「倚」作「荷」。(一〇)新書引無「言」字。(一一)新書引作「侍」。○二十二子本盧文弼校語云、「潭本侍作待、大戴禮同。」潭本卽宋長沙刊本也。(一二)○盧文弼校語云、「建本作立、亦當讀爲泣。」四部叢刊本作「立」。(一三)○「射中央」、二十二子本作「高射」、盧校語云、「潭本別本俱作中央射中央、今從建本。」建本卽宋建寧府刊本。(一四)「太卜曰」至此、已上依新書引補。○玉海不引「然後爲王太子懸弧之禮義」至此。胡應麟『少室山房筆叢』二九引『青史子』云、「青史子云、古禮、男子生而射天地四方。其文云、東方之弧以梧、梧者東方之草、春木也。南方之弧以柳、柳者南方之草、夏木也。中央之弧以桑、桑者中央之木也。西方之弧以棘、棘者西方之草、秋木也。北方之弧以棗、棗者北方之草、冬木也。」(一五)大戴禮記引作「然後卜名」。○玉海引同。(一六)「無」新書引作「毋」、下放此。○新書四部叢刊本無「於」。(一七)「墜」新書引作「地」。○盧校語云、「建、潭本作土、今從別本、與大戴同。」(一八)○新書盧校語云、「別本句首有中字、與大戴同。」四部叢刊本無「中」字。(一九)「拂」新書引作「悖」。(二〇)「恩」新書引作「息」。新書引有「也」字。○盧校語曰、「建、潭本無名字、而字、此所以字。別本皆有、與大戴同。又恩字、建、潭本作隱、別本作息。」四部叢刊本與建、潭本同。玉函依新書引有「正之者禮王太子無羞臣領臣之子也故謂之領臣之子也身朝王者妻朝后之子也是謂臣之子也此正禮胎教也」。盧校語云、「此段文訛誤、難曉。」

大戴禮記引無此段。

2 古者年八歲而出就外舍、學小藝焉、履小節焉。束髮而就大學、學大藝焉、履大節焉。居則習禮文、行則鳴珮玉、升車則聞和鸞之聲、是以非僻之心無自入也。在衡爲鸞、在軾爲和。馬動而鸞鳴、鸞鳴而和應。聲曰和、和則敬、此御之節也。上車以和鸞爲節、下車以珮玉爲度、上有雙衡、下有雙璜、衝牙玼珠以納其間^(二)、琚瑀以雜之、行以采芡、趨以肆夏、步環中規^(三)、折還中矩、進則揖之^(四)、退則揚之、然后玉鐃鳴也。古之爲路車也、蓋圓以象天、二十八釐以象列星、軫方以象地、三十幅以象月。故仰則觀天文、俯則察地理、前視則睹鸞和之聲、則聽則觀四時之運、此巾車之道也^(四)。

校記 『大戴禮記』三保傳篇。○『玉海』五八。『玉函』。事之一半亦見『通典』六三天子車輅。

賈誼新書六容經云、古者年九歲入就小學、蹀小節焉、業小道焉。束髮就大學、蹀大節焉、業大道焉。是以邪放非辟無因入之焉。古者聖王居有法則、動有文章。位執戒輔、鳴玉以行。鳴玉者佩玉也。上有雙珩、下有雙璜、衝牙玼珠、以納其間、琚瑀以雜之。行以采芡、趨以肆夏、步中規、折中矩。登車則馬行而鸞鳴、鸞鳴而和應、聲曰和、和則敬。二十二子抱經堂校定本。

(一)○玉海引「衝」作「衡」。舊注「玼亦作璵」。(二)○玉海引「環」作「還」、而闕「中規折還」四字。(三)○舊注「揖一作厭」。(四)○盧辨注云、「自青史氏已下太子之事也」。玉海亦引此注。

3 雞者、東方之牲也。歲終更始、辨秩東作、萬物觸戶而出、故以雞以祀祭也。

校記 風俗通義八。○題作「青史子書說」而引。佚禮扶微二。王仁俊『玉函山房輯佚書續篇』又引『佚禮扶微』。王應麟『漢志考證』等書早已說及『風俗通義』所引佚文。

裴子語林

原輯一八〇條 刪三條 新附一二條 凡一八八條

1 樓護字君卿^(一)、歷游五侯之門。每旦五侯家各遺餉之^(二)。君卿口厭滋味^(三)、乃試合五侯所餉之鯖而食甚美味^(四)。世所謂五侯鯖、君卿所致^(五)。

校記 廣記二百三十四。書鈔一百四十五。○天中記四十六(庫本、以下同)。淵鑑類函三百八十九鯖(原刊本、以下略稱淵鑑)。玉函山房輯佚書151(以下略稱玉函·阿拉伯數碼參看本書校例四)。周楞伽輯注裴啓語林2(一九八八年文化藝術出版社本。以下略稱周氏)。事亦見世說(今本不錄)、西京雜記、均是廣記二百三十四引(中華書局排印本)。又海錄碎事六。

(一) 鈎沈「樓」據廣記引作「婁」、書鈔(孔氏校注重刊景印本)引作「樓」、今據漢書遊俠傳改作「樓」。(二) ○書鈔引無「家各」二字。(三) ○書鈔引無「口厭滋味」四字。(四) ○書鈔引無「試」字、又無「甚」字。(五) 書鈔引作「君卿之爲也」。

2 胡廣本姓黃、五月生、父母置諸甕中、投之於江。胡翁見甕流下^(一)、聞有小兒啼聲^(二)、往取、因以爲子。遂登三司^(三)。廣後不治本親服、世以爲譏。

校記 御覽三百八十八。御覽四百八十八。○玉函108。周氏4。事又見鈎沈殷芸小說57、御覽二十一、三十一、三百六十一各引世說(今本世說不錄)。類似之事見御覽二十一引史記田文、三十一引孝子傳紀邁、宋略王鎮惡、異苑田文、三百六十一引史記田文、西京雜記王鳳、宋書王鎮惡。歲時廣記二十二亦引王鳳·王鎮惡·田文之事。

世說(御覽三六一引)曰、胡廣本姓黃、五月生、父母惡之、乃置之甕、投於江。胡翁見甕流下、聞有小兒啼聲、往

取、因長養之、以爲子。登三司、流中庸之號。廣後不治其本親服、云我於本親已爲死人也。世以此爲深譏焉。(御覽二一·三一引略同。)

(一)○三八八引無「胡翁見甕」四字。(二)○鮑本三八八「聞」上有「胡」字。(三)○四八八引至此爲止。

3 張衡之初死^(一)、蔡邕母胎孕^(二)、此二人才貌相類^(三)。時人云、邕是衡之後身^(四)。

校記 御覽三百六十、又三百九十六。六帖二十一。○白氏六帖事類集七九(文物出版社景宋本。以下略稱白帖)。天中記三十九。淵鑑二六一、又三三一。玉函99。周氏5。事又見鈎沈殷芸小說68。

(一)○六帖、三九六俱無「之初」二字。(二)○六帖「胎孕」二字作「始孕」、三九六引作「始懷孕」三字、中華書局本三六〇引無「胎」字、鈎沈據鮑本。「始」字當補。(三)○六帖無「此」字。六帖、三九六引「人」作「子」。三九六引「相」上有「甚」字。六帖引「類」作「似」。(四)○六帖引「衡之」作「張衡」。

4 陳元方遭父喪、形體骨立^(一)、其母哀之^(二)、以錦被蒙其上^(三)。郭林宗往弔、見錦被而責之^(四)。賓客絕百許日。

校記 御覽五百六十一、又八百十五。事類賦注十。○秘府略八六四。天中記四九。淵鑑一八二、又三六五。錦函138。周氏6。事見世說規箴篇3(余嘉錫『世說新語箋疏』規箴篇。以下同)、事文類聚續集二二引異記。類似之事見次條5。

(一)○事類賦注(中華書局景宋本)、御覽八一五、秘府略引皆無「形體」

二字。(二)○鈎沈「母」上脫「其」字。御覽、事類賦注引俱有、今依補。「哀」字、事類賦注、御覽八一五、秘府略引皆作「愍」。(三)○御覽五六一引無「被」字。(四)○事類賦注、御覽八一五、秘府略引俱無「錦被」二字。

5 傳信字子思、遭父喪、哀慟骨立、母憐之、竊以錦被蒙其上。林宗往弔之、見被、謂之曰、『卿海內之雋、四方是則。如何當喪、錦被蒙上。』郭奮衣而去。自後賓客絕百許日。

校記 御覽七百七。○天中記四八。淵鑑三七八被。玉函 137。周氏 7。類似之事見前條 4。

6 傳信忿母^(二)、母羸病恒驚悸、傳信乃取雞臛滅毛^(三)、施於承塵上^(四)、行落地、母輒恐怖^(四)。

校記 書鈔一百三十二。御覽七百一、又九百十九。○天中記四九。玉函 62。周氏 8。

玉函作「出北堂書鈔卷一百三十二、太平御覽卷七百一又卷九百五十一(又九百五)」、但「九百五十一」當作「九百十九」、鈎沈本作「九百五十一」是鈎沈襲玉函之一證也。

(一)二字御覽一引作「貧」。○「忿母」、御覽九一九作「貧」。 (二)○御覽引皆無「傳」字、又「臛」作「鴨」。御覽七〇一引「滅」作「去」。 (三)○御覽九一九「施」作「放」、七〇一引「施於」作「置」。 (四)○御覽九一九引「輒」作「轉」、鮑本無「母」字。

7 鄭玄在馬融門下^(一)、三年不得見、令高足弟子傳授而已^(二)。融嘗算渾天不合^(三)、召鄭玄令一算^(四)、便決、衆咸駭服^(五)。及玄業成辭歸^(六)、融心忌焉^(七)。玄亦疑有追者^(八)、乃坐橋下、在水上據屐^(九)。融果轉戒^(一〇)、欲敕追之^(一一)、告左右曰、『玄在土下水上據木^(一二)、此必死矣。』遂罷追^(一三)。竟以免。

校記 御覽六百九十八。*御覽三百九十三。*御覽七百五十。○記纂淵海七八(中華書局景宋本)。天中記四八。稗史彙編四四略引。淵鑑三七五屐。玉函 140。玉函誤作「御覽七十五」、鈎沈襲之。今正。周氏 9。類似之事見世說文學篇 1。

(一)○御覽七五○引無「在」字。(二)○御覽三九三引無以上三句。(三)○三九三引「融」上有「馬」字、而無「嘗」。中華書局本七五○引「嘗算」作「算嘗」、又脫「不」字、皆誤也。(四)○七五○引無「鄭」字、「一算」作「算一轉」、三九三引作「算一算」。(五)○三九三引無此一句四字。七五○引至此爲止。(六)○六九八引無「三年」以下至「及玄」。(七)○六九八引「焉」作「之」。(八)○六九八引「玄」上有「鄭」、又無「者」。(九)○六九八引無「在水上」三字。(一〇)○六九八引「戒」作「式」。(一一)○六九八引無「欲敕」二字、而「追」作「逐」。(一二)○六九八引「土」、中華書局本作「上」、鮑本作「橋」皆誤、「上」下有「而」字。(一三)○六九八引句末、中華書局本有「矣」字。三九三引自「馬融算渾天不合」至此爲止。

8 孔嵩字仲山、南陽人也、少與潁川荀彧未冠時共遊太學^(一)。彧後爲荊州刺史、而嵩家貧、與新野里客傭爲卒。彧時出、見嵩、下駕、執手曰、「昔與子搖扇俱遊太學^(二)、今子爲卒^(三)、吾亦痛哉。」彧命代嵩、嵩以傭夫不去。其歲寒心若此。嵩後三府累請^(四)、辭不赴^(五)。後漢時人^(六)。

校記 類林雜說五。案首尾皆王壽朋語。○永樂大典一二〇一七引云唐語林。案「唐」衍字。周氏10。

(一)○大典引此句作「少未冠、與潁川荀彧共遊太學」。(二)○大典引「昔」作「共」。(三)○大典引無「爲」。(四)○大典引「請」作「辟」。(五)○大典引無「辭」。(六)○大典引「後漢」作「後漢末」。

9 魏郡太守陳異、嘗詣郡民尹方、方被頭以水洗盤、抱小兒出、更無餘言。異曰、「被頭者欲吾治民如理髮。洗盤者欲吾清如水。抱兒者欲吾愛民如赤子也。」^(一)

校記 御覽三百六十四。○淵鑑二五九頭。玉函100。周氏11。

(一)○鈎沈「欲」下脫「使」字今補。玉函亦脫之。

10 孫策年十四^(一)、在壽陽詣袁術^(二)、始至^(三)、俄而外通^(四)、『劉豫州備來^(五)。』孫便求去^(六)、袁曰、『劉豫州何關君^(七)。』答曰、『不爾^(八)、英雄忌人。』卽出、下東階、而劉備從西階上^(九)。但得轉顧視孫足行^(一〇)、殆不復前矣^(一一)。

校記 御覽三百八十五。廣記一百七十四。續談助四(十萬卷樓叢書本·粵雅堂叢書本)。○殷芸小說(鈎沈105)。天中記五八。玉函106。周氏12。

(一)○廣記引「孫」上有「吳」。(二)(在壽陽)三字廣記引有。○續談助引亦有。(三)二字廣記引有。○續談助引亦同。(四)○廣記引無「外通」二字。續談助引此句四字作「而」一字。(五)○御覽引無「備」字。廣記引「來」作「到」。續談助亦無「備」、「來」作「到」。(六)廣記續談助俱無「孫」字。(七)(何關君)御覽引作「何若」。○續談助引無「劉」。(八)二字廣記引有。○續談助引無。(九)○鈎沈「西」字本作「東」、各本皆作「西」、七三年版全集已訂之。(一〇)廣記引作「但轉顧視孫之行步」。○續談助引作「但輒顧視之行」。(一一)○廣記、續談助引俱無「矣」字。

11 管寧嘗與華子魚少相親友。共園中鋤菜、見地有片金、揮鍤如故^(一)、與瓦石無異。華提而擲去。

校記 初學記十七。○五朝小說(上海文藝出版社版)。玉函89。周氏13。事見世說德行篇11前半。廣記二三五管寧引云出世說、汪校語云、明鈔本作出殷芸小說。敦煌文書S.二五二四引漢記。

(一)○初學記中華書局本「鍤」作「鉏」、玉函亦同。蘊石齋本亦作「鉏」。

12 諸葛武侯與宣王在渭濱^(一)、將戰、宣王戎服莅事、使人觀武侯^(二)、乘素輿、著葛巾^(三)、持白羽扇^(四)、指麾三軍^(五)、衆軍皆隨其進止^(六)。宣王聞而歎曰^(七)、『可謂名士矣^(八)。』

校記 書鈔一百四十。類聚六十七。御覽三百七、又七百七十四。*書鈔一百十八、又一百三十四。*御覽七百二。
*初學記二十五。六帖十四。事類賦注十四。○書鈔一四〇。白帖四。草堂詩箋二四、又三四（古逸叢書本）。*九家注杜詩一四^二。事文類聚續集二八（中文出版社景明本）。演繁露八。施注蘇詩（合注本）七「自淨土步功臣寺詩」。天中記二五、又四九。淵鑑二一二攻戰、又三七三巾、又三七九扇、又三八七輿。張澍諸葛故事遺事篇。玉函⁴⁹。周氏¹⁴。事又見殷芸小說（類說引。鈞沈失收）。何氏語林一四。
初學記二五引云、諸葛武侯持白羽扇、指麾三軍。

白帖、六帖（新興書局景明本）、草堂詩箋、事文類聚所引基本上俱同于初學記引。事類賦注引「武侯」下有「與宣王戰於渭濱乘素輿著葛巾」十三字。校勘不用以上諸本。

（一）○「諸葛」二字、書鈔一一八御覽七七四引無。「宣王」上御覽三〇七引有「司馬」二字。類聚引「王」作「皇」、下倣此。（二）○書鈔一三四引無「宣王」以下至「觀」九字。御覽七〇二亦同。書鈔一一八、一四〇、御覽三〇七、七七四引皆「觀」作「視」。（三）○書鈔一一八引「乘」作「秉」、誤。又無「著葛巾」三字。類聚同。書鈔一三四、一四〇、御覽七〇二引俱無「著」字。御覽三〇七引二句六字作「素輿葛巾」四字、御覽七七四引作「乘輿葛巾」四字。鈞沈據事類賦注補「著」字。（四）○類聚引此句四字作「毛扇」二字。御覽七〇二引無「持」字、七七四鮑本作「將」。三〇七引作「白毛扇」。（五）已上亦見初學記、六帖、事類賦注。（六）○書鈔一四〇、類聚、御覽三〇七、七七四引俱無「衆軍」二字。御覽七〇二引作「三軍」。書鈔一一八引「衆軍皆」作「並」。書鈔一三四、又一一八、御覽七〇二皆引至此爲止。（七）○御覽七七四中華書局本引「王」作「皇」。（八）○「矣」字據類聚引補、他本引無。

13

蜀人伊籍稱吳土地人物云、『其山嵯巍以嵯峨、其水汨渌而揚波、其人磊呵而英多。』

校記 世說言語篇、王武子孫子荊各言其土地人物之美云々。注云、案三秦記語林載蜀人伊籍稱吳土地人物、與此語同。今據以改寫。○玉函 1。周氏 15。玉函按語云、『劉義慶世說新語言語篇、王武子孫子荊各言其土地人物之美、孫云々。劉峻注、按三秦記語林蜀人伊籍稱吳土地人物、與此語同。據補。』

14 孫休好者雉、至其時、則晨往夕還。羣臣莫不上諫曰、『此小物、何足甚耽。』答曰、『雖爲小物、耿介過人、朕之所以好也。』

校記 廣記四百六十一。○天中記五八。玉函 153。周氏 16。事又見世說規箴篇 4。

15 豫章太守顧劭、是丞相雍之子、在郡卒。時雍方盛集僚屬圍碁、外信至而無兒書。雖神意不變、而心了有故^(二)。賓客既散、方歎曰、『已無延州之遺累、寧有喪明之責邪。』於是豁情散哀、顏色自若。

校記 御覽七百五十三。○玉函 141。周氏 17。事見世說雅量篇 1。又殷芸小說鈎沈 145。

(一)○中華書局本「了」作「料」。

16 魏武云、『我眠中不可妄近、近輒斫人不覺、左右宜慎之。』後乃陽凍眠、所幸小兒竊以被覆之、因便斫殺。自爾莫敢近之。

校記 御覽七百七。○天中記四八。玉函 136。周氏 18。事又見世說假譎篇 1、殷芸小說鈎沈 14。廣記一九〇引、記纂淵海五八。

17 魏武將見匈奴使、自以形陋、不足雄遠國、使崔季珪代當坐^(二)、乃自捉刀立牀頭^(三)。坐既畢、令人問曰^(三)、『魏

王何如。』使答曰、『魏王信自雅望非常^(四)、然牀頭捉刀人、此乃英雄也^(五)。』魏王聞之^(六)、馳遣殺此使。

校記 御覽七百七十九、又四百四十四。○劉知幾史通暗惑篇。殷芸小說(鈎沈15)。玉函117。周氏19。事又見世說容止篇1。事文類聚後集一八。

史通暗惑篇云、又魏志注語林曰、匈奴遣使人來朝、太祖令崔琰在坐、而已握刀侍立。既而使人問匈奴使者曰、曹公何如。對曰、曹公美則美矣、而侍立者非人臣之相。太祖乃追殺使者云々。按今本魏志不見此文。

(一)○御覽四四四引無「當坐」二字。(二)○七七九引無「乃」、「立」字。(三)○四四四引「令人」作「使僕」。七七九引無「問」。(四)○七七九引中華書局本「自」作「曰」、誤。鮑本作「是」。(五)○四四四、無「也」字。(六)○七七九中華書局本無「之」字。

18 楊脩字德祖、魏初弘農華陰人也^(一)。爲曹操主簿^(二)。曹公至江南^(三)、讀曹娥碑文^(四)、背上別有八字^(五)。其辭云^(六)、『黃絹幼婦外孫蒜白^(七)』。曹公見之不解、而謂德祖^(八)『卿知之不。』^(九)德祖曰、『知之。』曹公曰、『卿且勿言、待我思之。』^(一〇)行卅里、曹公始得^(一一)、令祖先說。祖曰^(一二)、『黃絹色絲、絕字也^(一三)。幼婦少女、妙字也。外孫女子、好字也。蒜白受辛、辭字也。調絕妙好辭^(一四)。』曹公笑曰^(一五)、『實如孤意^(一六)。』俗云有智無智隔卅里^(一七)、此之謂也。

校記 瑠玉集十二。學林七。案學林云出魏志注、今未見之。*草堂詩箋三十一。*類林雜說四。○敦煌文書S.五四七一千字文注。古文苑一九「邯鄲淳曹娥碑注」。白帖一九四五、二六、一三。*錦繡萬花谷前集二三。*九家注杜詩三〇—44「偶題」。三教指歸覺明注上之中(集成本)。*李白詩一六「送王屋山人」齊賢注略引。記纂淵海一二。玉函山房輯佚書補編(引瑠玉集)。周氏21。事又見世說捷悟篇3。李瀚蒙求注卷上(文化十一年勵不風館刊本舊注蒙求)。敦煌文書S.一三三、事文類聚前集六〇。群書類編故事一二。*類林雜說十四引魏志。參看『類林研究』「西

夏文本類林漢譯」二〇一八（史金波・黃振華・聶鴻音著 一九九三年九月寧夏人民出版社）。類似之事見典略（永樂大典一四六〇八引）、殷芸小說（鈎沈76）、異苑十卷本一〇。

古文苑一九邯鄲淳曹娥碑注云、語林。楊脩至江南、讀曹娥碑、碑背有八字、曰黃絹幼婦外孫齋白。曹操不解、問脩曰、卿知否。脩曰、知之。操曰、且勿言、待孤思之。行三十里、乃得之。令脩解。脩曰、黃絹色絲、色絲絕字、幼婦少女、少女妙字、外孫女子、女子好字、齋白受辛、受辛辭字。操曰、一如孤意。四部叢刊本

記纂淵海一二云、楊脩爲丞相曹操主簿。至江南、讀曹娥碑、上有八字。問脩、脩曰知之。操曰待朕思之。行三十里、乃得之。令脩解。脩曰、黃絹色絲、絕字。幼婦少女、妙字。外孫女子、好字。齋白受辛、辭字。操曰、一如朕意。乃得之。俗云、有智無智校三十里。裴啓語林「中華書局景宋本

類林雜說四云、楊脩字德祖、爲魏主曹操主簿。與魏主俱至汝南。讀曹娥碑、碑背有八字、云、黃絹幼婦外孫齋白。魏主讀之、不解其義。乃問脩曰、解否。脩曰、臣略少解。上曰、卿若解、且勿言、待朕思之。行三十里、魏主始得、乃問。脩曰、臣得久矣。黃絹色絲、色絲絕字。幼婦少女、少女妙字。外孫女子、女子好字。齋白受辛、受辛辭字。魏主大笑、卿意如朕意。有智無智校三十里。事出語林「嘉業堂叢書本 類林雜說十四又引此故事云出『魏志』。

（一）學林引無已上十一字。○草堂詩箋引亦同。（二）○學林「爲」下有「魏主」二字。（三）○學林、詩箋引俱無「曹公」二字。（四）○學林引「文」作「碑」、接下而讀。古文苑、詩箋皆同。（五）○學林、詩箋引俱無「上別」二字。詩箋引「背」作「陰」。（六）○學林引三字作「詞曰」二字、古文苑、詩箋引都作「曰」一字。（七）（蒜白）學林引作「齋白」、下放此。草堂詩箋三十一節引「蒜」亦作「齋」。○詩箋偶題詩、以下至「待我思之」爲止、作「操不能解脩知之」。（八）○學林此二句作「操不解問脩曰」六字、「曹公」作「操」、「德祖」作「脩」、下皆倣此。（九）○學林引「之不」作「否」。（一〇）○學林引無「卿」、「我」作「朕」。（一一）○學林引四字作「乃得之」、詩箋作「乃悟」。（一二）○學林、詩箋引以上六字作「令脩解曰」。（一三）詩箋、

「色絲」下重有「色絲」二字、無「也」字。下三解語法並同。○學林、古文苑、類林雜說引皆同。（一四）○學林、古文苑、類林雜說引並無此句五字。（一五）○詩箋引無此句四字。學林只作「操曰」。（一六）○學林引此句作「一如朕意」、詩箋引作「操意與合」、古文苑引作「一如孤意」。（一七）「隔」學林引作「校」、詩箋亦作「校」。類林雜說四引與詩箋同。○詩箋引「俗」作「語」。

19 董昭爲魏武帝重臣、後失勢。文明世、入爲衛尉^(二)、昭乃厚加意於侏儒^(三)。正朝大會、侏儒作董衛尉啼、面言昔太祖時事^(三)、舉坐大笑、明帝悵然不怡、月中以爲司徒^(四)。

校記 御覽四百八十八。又三百九十一。○續談助四、殷芸小說（鈎沈92）。淵鑑二六七笑。玉函112。周氏22。
（一）（以上十八字）御覽三百九十一引作「董昭失勢久爲衛尉」。○續談助引「入」作「下」。（二）○玉函、鈎沈俱無「昭」字、各本引並有、今依補。（三）○御覽三九一引「言」作「叙」、無「昔」字。（四）○御覽四八八引無「以」字、續談助引「以」作「遷」。

20 何晏字平叔^(一)、以主婿拜駙馬都尉^(二)。美姿儀^(三)、面絕白^(四)。魏文帝疑其著粉^(五)、後正夏月喚來^(六)、與熱湯餅^(七)。既啖大汗出^(八)、隨以朱衣自拭^(九)、色轉皎潔^(一〇)。帝始信之^(一一)。

校記 初學記十九、又二十六。書鈔一百二十八、又一百三十五。御覽二十一、又三百六十五、又三百七十九、又三百八十七、又八百六十。事類賦注四。御覽一百五十四。類林雜說九。○敦煌文書P.二六三五。*書鈔一四四。御覽六九〇。事文類聚續集一七、又後集一八。山谷外集一二「觀王主簿家醪醑」注引。*事物起原九。淵鑑二五九面、三七一朱衣、三八一粉、三八九餅。玉函57。周氏23。事又見世說容止篇2（文帝）作「明帝」。初學記十引魚豢魏略。敦煌文書P.二五二四、又S.七八。琚玉集一四引魏志。李瀚蒙求中。*白帖七一。荊楚歲時記（六月）引魏

氏春秋。參看『類林研究』45—14。

鈎沈注云、類林雜說九引作、「何晏字平叔、兒甚潔白、美姿容。明帝見之、謂其著粉。因命晏賜之湯餅。汗出流面、以巾拭之、轉見皎然。帝方信。」

敦煌文書P.二六三五引語林云、何晏字平叔、爲人白皙姿容。魏明帝見之、謂其著粉。命晏賜之熱餅。晏食餅、汗出流面、以巾拭之、轉白皎然。帝方始信。

(一)○初學記、書鈔、御覽二一、三七九、六九〇、八六〇、事類賦注引俱作「何平叔」三字。御覽三八七引無「字平叔」。(二)已上依御覽一百五十四引。(三)○御覽六九〇、又八六〇引俱無「美姿儀」。書鈔一二八、御覽除三七九以外皆「儀」作「容」。(四)○御覽一五四、三六五、通行本事類賦注引無此一句。初學記一九、御覽二一、三七九、宋本事類賦注引「面」作「而」。宋本事類賦注引「絕白」作「絕潔白」。(五)○唯御覽三八七引「魏文帝」作「明帝」、而一五四、三六五引只作「帝」。他引皆作「魏文帝」。御覽一五四引作「帝每疑傳粉」。御覽二一、宋本事類賦注引又無「其」字。書鈔、御覽一五四、三六五、三八七、事類賦注引皆「著」作「傳」、御覽二一引作「傳以」二字。(六)○初學記一九、書鈔一二八、御覽二一、六九〇引俱無「後正」二字。書鈔一三五、御覽一五四引無「正」字。御覽八六〇引無「後」字。書鈔一三五、御覽六九〇引「夏月」作「夏日」、事類賦注引作「夏」一字。御覽三六五、三八七引並無「後正夏月」四字。初學記一九、書鈔、御覽二一、一五四、三六五、三七九、三八七、事類賦注引俱無「喚來」二字。御覽六九〇引只作「喚」而無「來」字。(七)書鈔引作「以麪噉(一三五引作食)之」。御覽(一五四)引作「賜以湯餅」。○御覽二一、三七九引與鈎沈同。八六〇引無「既啖」二字。六九〇引作「與熱餅既噉」、三六五引作「賜湯餅令晏食之」。三八七引作「賜之湯餅、晏食之」。初學記二六引作「與熱餅噉之」。事類賦注引「啖」作「食」、通行本引「與」作「賜」。(八)○初學記二六、御覽三六五、三八七引無「大」。御覽三六五、三八七引皆作「汗出流面」、P.二六三五引亦同。(九)○御覽一五四引無「隨」、「拭」

下有「之」字。書鈔引「自拭」作「拭面」。御覽三六五引此句六字作「拭之」、三八七引作「以巾拭之」。(一〇)○書鈔引「色」上有「而顏」二字、句末有「也」字、又一三五引無「轉」字。御覽三六五引此句四字作「轉白」二字、一五四引作「尤皎然」。「潔」、唯初學記二六引作「潔」、他皆作「然」。初學記一九、書鈔、御覽二一、一五四、三六五、三八七、八六〇、事類賦注引皆至此爲止。(一一)○唯初學記二六、御覽六九〇引有末一句、而御覽引句頭有「時」字。P.二六三五引亦有「帝方始信」一句。

21 辛恭靜見司馬太傅、問、『卿何處人。』答曰、『西人。』太傅應聲戲之曰、『在西頗見西王母不。』恭靜答曰、『在西乃不見西王母、過東已見東王公。』太傅大愧。

校記 類聚二十五。○淵鑑二九九嘲戲。天中記二六。玉函 75。周氏 168。周氏以「辛恭靜」爲「辛恭靖」之訛、而以「司馬太傅」比定「司馬道子」。因系東晉之事移到鈞沈 150 桓野王之後。

22 夏侯太初從魏帝拜陵^(一)、陪列松柏下、時暴雨霹靂、正中所立之樹、冠冕焦壞。左右覩之皆伏、太初顏色不改。

校記 世說雅量篇〔3〕注。○玉函 6。周氏 24。類似之事見白帖八·二七「霹靂」、曹嘉之晉紀(御覽一三)。

(一)○世說引無「夏侯」、鈞沈補之。

23 景王欲誅夏侯玄、意未決、問問安王孚云、『己才足以制之否^(一)。』孚云、『昔趙儼葬兒、汝來、半坐迎之。泰初後至^(二)、一坐悉起。以此方之、恐汝不如。』乃殺之。

校記 續談助四。○殷芸小說(鈞沈 97)。周氏 25。

(一)○「否」、鈞沈本作「不」、今據續談助。(二)○「泰」鈞沈據粵雅堂叢書本、十萬卷樓叢書本作「太」。

24 王經少處貧苦、仕至二千石。其母語云^(一)、『汝本寒家兒、仕至二千石、可止也。』經不能止。後爲尚書助魏、不忠於晉、被收。流涕辭母曰、『恨昔不從敕、以致今日。』母無戚容、謂曰、『汝爲子則孝、爲臣則忠、有何負哉^(二)。』

校記 御覽四百四十一。○玉函116。周氏26。事見世說賢媛篇10。

(一)○「之」、鈎沈本作「云」、玉函引又作「云」。今據御覽引改。(二)○御覽中華書局本「何」作「可」。

25 劉靈字伯倫^(一)、飲酒一石、至醒復飲五斗^(二)。其妻責之^(三)。靈曰^(四)、『卿可致酒五斗^(五)、吾當斷之^(六)。』妻如其言^(七)。靈呪曰、『天生劉靈、以酒爲名、一飲一石、五斗解醒。婦人之言、慎莫可聽^(八)。』

校記 類聚七十二。類林雜說七。○淵鑑三九二酒。玉函87。周氏29。事又見世說任誕篇3(又御覽八四六引)。

敦煌文書P.二五二四宴樂篇、又P.三六三六酒事篇。蒙求注中劉伶解醒(據世說歟)。又晉書劉伶傳、瑠玉集一四引晉抄。白帖五一。群書類篇故事二二。參看『類林研究』36-11。

敦煌文書P.三六三六酒事篇云、劉靈好酒、一飲一石。官至散騎常侍、有奇才、天子重之。其妻責曰、君今官高祿重、而昏迷於糟麴、何以立身。靈謂妻曰、卿可美酒五斗、并及甘鮮脯、來辰於竈神、與卿設盟斷酒。妻喜之無盡。當卽拜比。及至來朝、劉靈親至竈前、乃爲呪曰、天生劉靈、與酒爲名、一飲一斛、五斗解醒。婦人之語、不足可聽。言訖舉觴、頓飲五斗、渾然下闕。

(一)類林(靈)作「伶」、下同。類林(倫)下有「沛國人也」四字。(二)類林(至)下有「醉」字。(三)類林無(五斗其)此三字。(四)類林(日上)有「調妻」二字。(五)類林此下有「并脯羞之類」。(六)類林此(當)下有「呪而」二字。(七)此四字類林作「妻信之遂設酒肉致於夫前」。(八)類林末有「於是復飲頽然而醉」八字。○類林(莫)作「不」。

26 愁中散夜燈下彈琴^(一)、忽有一人面甚小^(二)、斯須轉大、遂長丈餘^(三)。黑單衣皂帶^(四)。愁視之既熟、吹火滅^(五)、曰、「吾耻與魑魅爭光^(六)。」

校記 類聚四十四。御覽五百七十七、又八百七十六。六帖十四。*書鈔八百九。○白帖四、又二七五。事文類聚續集一八。淵鑑一八八琴、又三六〇燈。玉函56。周氏30。事見靈鬼志(鈎沈7)。幽明錄(異苑)。明鈔說郭三、類說一一。鈎沈失收、今275。睽車志。何氏語林一四。瑯琊代醉編三三。
白帖、六帖節引云、愁中散燈下彈琴、見一人黑衣、康乃吹燈滅、曰、耻與魑魅曾爭光。

(一)○書鈔、御覽八七〇引無「夜」字。書鈔、御覽引俱無「火」字。(二)○書鈔引「忽」上有「或」、類聚引無「忽」。(三)已上書鈔一百九亦引。○書鈔引無「遂」字。(四)御覽引作「革帶」。○御覽無「黑」字。類聚引「皂」作「草」。(五)○御覽五七七引此句三字作「乃吹燈滅之」、八七〇引作「吹其燈滅」。(六)○類聚、御覽五七七引無「吾」字。御覽八七〇「魅」作「鬼」。

27 愁中散夜彈琴、忽有一鬼著械來、歎其手快、曰、「君一絃不調。」中散與琴調之、聲更清婉。問其名^(一)、不對。疑是蔡邕伯喈^(二)、伯喈將亡、亦被桎梏。

校記 御覽六百四十四。○職官分紀四八。天中記四二。玉函56。周氏32。事又見何氏語林二三。

(一)○中華書局本「其」作「姓」。(二)○御覽引無「邕」字、而玉函有、或當刪之。

28 愁康素與呂安友、每一相思、千里命駕。安來值康不在、兄喜出迎、安不前、題門上作鳳而去。喜不悟。康至云、「鳳、凡鳥也。」

校記 廣記二百三十五。○天中記二〇。淵鑑二五三思友。玉函152。周氏32。事見世說簡傲篇4、敦煌文書P.二五二四朋友篇。又李瀚蒙求注上、嵇呂命駕。

29 陳協數日輒進阮步兵酒一壺(一)。後晉文王欲修九龍堰、阮舉協、文王用之。掘地得古承水銅龍六枚、堰遂成(二)。

校記 水經注十六。御覽七十三。○五色線上(津逮秘書本)。天中記一〇。淵鑑三五堰埭。玉函40。周氏34。
(一)(日輒)二字御覽引有。(一壺)二字御覽引有。(二)〇御覽引句末有「也」字。

30 胡母彥國至湘州(一)、坐廳事斷官事。爾時三伏中傍搖扇視事(二)、其兒子光從容顧曰、『彥國復何爲自貽伊戚。』

校記 御覽七百一。○天中記四九。淵鑑三七九扇。玉函133。周氏35。事又見白帖八三六。何氏語林二五。
(一)〇「湘」、鈎沈據鮑本作「相」、今據中華書局本改。(二)〇「伏」、鈎沈據鮑本作「秋」、今據中華書局本改。

31 鄧艾口吃、常云艾艾。宣王曰、『爲云艾艾、終是幾艾。』艾答曰、『譬如鳳兮鳳兮故一鳳耳。』

校記 御覽四百六十四。○玉函119。周氏20。事又見世說言語篇17。白帖九二。御覽四六六。廣記二四五。事文類聚後集一九。釋常談上(百川學海本)。明鈔說郭六八亦引釋常談。廣記引不著出處、汪氏校語云、御覽四六四引作出語林、又四六六引作出世說、文同。案四六四引作「宣王」即晉宣帝、四六六引作「晉文王」即晉文帝。世說言語篇17云、鄧艾口喫、語稱艾艾。晉文王戲之曰、『卿云艾艾、定是幾艾。』對曰、『鳳兮鳳兮、故是一鳳。』

32 鍾士季常向人道、『吾少年時一紙書、人云是阮步兵書、皆字字生義(一)、既知是吾、不復道也。』

校記 續談助四。○殷芸小說（鈎沈99）。唐寫文選集注殘本江文通雜體詩序陸善經注引。天中記三七。周氏28。唐寫文選集注殘本江文通雜體詩序陸善經注云、語林云、鍾士季嘗向人道、吾年少時一紙書、語人道是阮步兵書、皆字字生義。既知非是、便復不通（案通道之誤）也。

（一）○十萬卷樓叢書本無「皆」字。

33 滿奮字武秋^(一)、體羸惡風^(二)、侍坐晉武帝^(三)、屢顧看雲母幌、武帝笑之^(四)。或云^(五)、『北窗琉璃屏風、實密似疏。』奮有難色^(六)、答曰^(七)、『臣如吳牛、見月則喘^(八)。』或云^(九)、是吳質侍魏明帝坐^(一〇)。

校記 御覽七百一。*類聚六十九。*書鈔一百三十二。○天中記四九。淵鑑三七六屏風。玉函60。周氏36。事見

郭子（鈎沈22）、世說言語篇20、白帖三二十。

（一）○類聚引此句五字作「滿城武秋」、有訛奪。

（二）○御覽引無「體」字。

（三）○御覽引無「晉」字。

（四）○御覽引此無此句四字、而在「奮有難色」下。

（五）○類聚引「或」作「武」。

（六）已上依類聚六十

九引。又書鈔一百三十二引云、「晉武帝有琉璃屏風」。○「奮」字、御覽引無之、類聚引作「帝」。鈎沈以意改爲「奮」。

（七）○御覽引有「武帝笑之」四字、鈎沈刪之。（八）○鈎沈本「如」作「爲」、「則」作「而」。玉函亦引作同。今

據御覽引訂之。（八）○鈎沈本「云」作「曰」、玉函引亦同、今據御覽改。（九）○「吳」、御覽引作「胡」、

玉函亦作「胡」、鈎沈以意改爲「吳」。胡質、吳質都是魏人、但吳質有召有說肥瘦之說（見魏志吳質傳注引別傳）、并且只是魏朝重臣、蓋鈎沈亦據此改爲「吳」歟。

34 孟業爲幽州、其人甚肥。或以爲千斤。武帝欲稱之難^(一)。其大臣乃作一大秤、挂壁。業人見、武帝曰^(二)、『朕欲試

自稱有幾斤^(三)。『業答曰、『陛下正是欲稱臣耳^(四)。無煩復勞聖躬。』於是稱業^(五)、果得千斤。

校記 御覽八百三十、又三百七十八。○天中記二一。玉函¹⁰⁵。周氏³⁷。事又見瑠玉集所引王隱晉書、類林雜說一〇亦引。

(一)○御覽三七八引「欲」作「爲」。八三〇引「稱」作「秤」、下倣此。(二)○御覽八三〇引無「武」字。(三)○三七八引無「試」字。(四)○三七八引無「正是」二字。(五)○八三〇引「是」下有「遂」字。

35 諸葛靚字仲思、在吳於朝堂大會。孫皓問曰、『卿字仲思、爲欲何思之。』^(一)曰、『在家思孝、事君思忠、朋友思信、如斯而已。』

校記 御覽四百六十四。○玉函¹¹⁸。周氏³⁴。事見世說言語篇²¹。
(一)○「爲」字玉函脫之。

36 陳壽將爲國志、謂丁梁州曰、『若可覓千斛米見借、當爲尊公爲佳傳。』丁不與米、遂以無傳。

校記 類聚七十二。○天中記二九、文末云、「時論以此少論。梁州、敬禮之子也。」淵鑑三九五米。玉函⁸⁶。周氏³⁹。事又見何氏語林三〇紕漏篇。

37 晉蔡洪赴洛、洛中人問曰^(一)、『吳中舊姓何如。』答曰、『吳府君聖朝之盛佐、明時之俊乂。朱永長理物之宏德、清選之高望。嚴仲弼九臯之鳴鶴^(二)、空谷之白駒。顧彥先八音之琴瑟、五色之龍章。張威伯歲寒之茂松、幽夜之逸光^(三)。陸士龍鴻鵠之徘徊、懸鼓之待槌。此諸君以洪筆爲鋤耒、以紙札爲良田、以玄默爲稼穡^(四)、以禮義爲豐年^(五)。』

校記 蘇易簡文房四譜一。〔文末云、出劉氏小說、又出語林。〕*事類賦注十五。○宋本事類賦注一五、與文房

四譜引略同、以爲底本。淵鑑二〇四筆。玉函 54、注云、北堂書鈔卷一百四陳禹謨補注。周氏 42。事又見世說賞譽篇 20。又敦煌文書 P. 二五二四古類書人才篇。類似之事見文士傳（御覽四六〇引）、世說言語篇 22、晉書華譚傳、海錄碎事一九引文房四譜。

鈎沈所引事類賦注云、蔡洪赴洛、洛中人問之。曰、人皆以洪筆爲鋤耒、以紙札爲良田、以玄墨爲稼穡、以禮義爲豐年。

（一）○文房四譜學海類編本脫「洛」一字。（二）○文房四譜學海類編本引「鳴鶴」作「鴻鵠」。玉函引作「鳴鶴」。（三）○玉函「幽」作「迷」。（四）○玉函「玄」作「言」。文房四譜引「默」作「墨」。（五）○文房四譜引「禮義」作「義理」。

38 裴秀母是婢^(一)。秀年十八、有令望、而嫡母妬、猶令秀母親役。後大集客、秀母下食^(二)。衆賓見^(三)、並起拜之。答曰、『微賤豈宜如此、當爲小兒故耳。』於是父母乃不敢復役之^(四)。

校記 類聚三十五。御覽五百。○記纂淵海一〇二。天中記一九。淵鑑二五八奴婢。玉函 78。周氏 43。事又見白帖五十二（略引）、又五三八、六二二、又六三八。事文類聚後集五。群書類編故事六、類林雜說一三。

（一）○御覽引「母是婢」三字在「令望」下。（二）類聚引作「猶令秀母親下食與衆賓」、今據御覽。○記纂淵海引與類聚同。（三）○類聚、淵海俱無「衆」字。（四）〔父母〕御覽引作「大母」。○淵海引作「嫡母」。御覽引「役」作「使」。

39 夏少明在東國不知名^(一)、聞裴逸民知人、乃裹糧寄載^(二)。入洛從之^(三)、未至家少許^(四)。見一人著黃皮袴褶、乘馬將獵。少明問曰^(五)、『逸民家若遠^(六)。』答曰^(七)、『君何以問。』少明曰^(八)、『聞其名知人、從會稽來投^(九)。』裴曰、

『身是逸民、君可更來』^(一〇)。『明往、逸民果知之。又嘉其志局』^(一一)、用爲西門侯^(一二)。於此遂知名^(一三)。

校記 御覽四百四十四、又六百九十五、又八百三十二。*書鈔一百二十九。○淵鑑三七五袴褶。玉函59。舊小說

5。周氏44。事又見劉氏小說(廣記一七三)。何氏語林一五。

(一) 御覽六九五引無「國」字。(二) 四字御覽引有。(三) 〇書鈔引「之」下有「日」字。(四) 〇御覽四四四引「家」上有「裴」字。(五) 〇御覽六九五引「少明」作「夏」。御覽八三三引無「少明」二字。御覽四四四引無「日」字。(六) 〇御覽六九五、又八三三引「逸民」作「裴逸民」。「若遠」、御覽四四四作「遠邇」。六九五作「近遠」、八三三作「遠近」。(七) 〇御覽四四四鮑本無「日」字。(八) 〇御覽引「少明」作「夏」。(九) 〇書鈔引至此。御覽引「從」上有「故」字、「投」下有「之」。(一〇) 〇御覽四四四引無「君」。(一一) 〇御覽六九五、又八三三引無此五字。(一二) 〇御覽六九五引「用」上有「乃」、又八三三引「西」下有「明」字。(一三) 〇御覽八三三引中華書局本文未有「也」字。

40 李陽性游俠^(一)、士庶無不傾心。爲幽州刺史、當之職^(二)。盛暑一日詣數百家別、賓客與別、常填門^(三)。遂死於几下。

校記 世說規箴篇(8)注。*御覽四百七十三。○淵鑑三二一遊俠。玉函14。周氏45。

(一) 御覽引作「李陽大俠」。(二) 三句(十四字)御覽引有。(三) 御覽四百七十三引作「列賓客填門」。○御覽四七三引中華書局本作「賓客常填門」。

41 中朝有人、詣王大尉、適王安豐大將軍丞相在坐^(一)、因往別屋見李寅平子^(二)。還謂人曰、『今日之行^(三)、舉目皆琳瑯珠玉。』

校記 御覽八百三。○玉函 86。周氏 46。事見世說容止篇 15。「李寅」作「(王)季胤」。
(一)○御覽中華書局本「適」作「過」。(二)○「屋」、鈎沈據鮑本作「國」、今據中華書局本。
(三)○御覽引無「日」字、玉函引亦無。鈎沈或據世說補之歟。

42 王夷甫處衆中、如珠玉之在瓦石。

校記 御覽八百三。○玉函 147。周氏 47。事見世說容止篇 17。敦煌文書 P.二五二四。何氏語林一六。

43 裴令公目王安豐、眼爛々如崑下電。

校記 續談助四。○殷芸小說(鈎沈 113)。周氏 48。事見世說容止篇 6、亦 10、但後者云、王戎以稱裴楷。白帖七
二。

44 和嶠諸弟往園中食李、而皆計核責錢。故嶠婦弟王濟伐之也。

校記 世說儉嗇篇(1)注。○事文類聚後集二五。群書類編故事二三。天中記五二。廣群芳譜五四。玉函 35。
周氏 50。事見晉書王濟傳。何氏語林二九。

45 劉道真年十六(二)、在門前弄塵、垂鼻涕至胸(三)。洛下年少乘車從門前過、曰、『年少甚埽埽。』劉便隨車問、爲
惡爲然爾(三)。劉曰、『令君翁亦埽埽、母亦埽埽(四)。』

校記 御覽三百八十五。*御覽三十七。○玉函 107。周氏 51。事又見殷芸小說(鈎沈 126)。海錄碎事八上。
(一)○御覽三七引「十六」作「十五六」。(二)○御覽三七引至此。三八五引無「涕」字。(三)當有奪誤。

○按奪誤可以小說補訂。小說云、「此言爲善爲惡。」但尚當有奪誤。（四）○「塹垆」注云、「上呼回反、下徒回反」。疑此注顛倒前後。

46 劉道真遭亂^(一)、自於河側牽船^(二)、見老嫗採桑逆旅^(三)。劉謂之曰^(四)、「女子何不調機利杼、而採桑逆旅^(五)。」女答曰^(六)、「丈夫何不跨馬揮鞭、而牽船乎^(七)」。

校記 書鈔一百三十七。類聚二十五。御覽四百六十六、又七百六十九。○記纂淵海一六五、又一八九。事文類聚別集二〇。天中記二六。淵鑑二九九嘲戲、又三八六舟。玉函67。周氏52。事又見廣記二五三引啓顏錄、又類說一四（文學古籍刊行社景印明天啓刊本）所引啓顏錄、及類林雜說五。明鈔說郭六五引周圻開顏錄作出樂王記。何氏語林二七。

（一）○類聚引無「遭亂」二字。（二）○類聚、御覽、淵海引俱作「於河側自牽舡」。類聚、御覽引「船」作「舡」、下倣此。（三）四字御覽一引作「棹櫓」、下放此。○類聚引作「採旅」、御覽四六六引中華書局本作「採櫓」、鮑本引作「掉櫓」、淵海一引作「採櫓」、一引作「搖櫓」。廣記引作「操櫓」、類說引作「搖櫓」。按「採桑」是女工、無關嘲戲、又「採櫓」、「採旅」、「掉櫓」皆意不通。當或從御覽作「棹櫓」、或從廣記作「操櫓」、或從淵海。類說引作「搖櫓」。（四）○類聚引「謂」作「啁」、御覽七六九引鮑本作「調」。淵海一六五引無「謂之」、一八九引無「劉調之」。（五）○並與（三）同。（六）○御覽七六九引鮑本無「曰」字。（七）○類聚、御覽、淵海引並無「乎」。

47 道真嘗與一人共索祥草中食、見一嫗將二兒過、並青衣。調之曰^(一)、「青羊將兩羔。」嫗答曰、「兩猪共一槽。」校記 類聚二十五。○天中記二六。淵鑑二九九嘲戲。玉函73。周氏53。事見金樓子捷對篇。類林雜說五。明鈔

說郭六五引周圯開顏錄作出樂王記。何氏語林二七。

(一)○宋本類聚引「調」作「惆」。

48 劉道真子婦始入門、遣婦虔^(一)。劉聊之甚苦^(二)。婢固不從^(三)。劉乃下地叩頭^(四)、婢懼而從之。明日語人曰、『手推故是神物^(五)、一下而婢服淫^(六)。』

校記 類聚三十五。*海錄碎事七。○天中記二九。淵鑑三三四淫。玉函 77。周氏 54。事見何氏語林三〇。

(一)○類聚汪校語云、「原作婦、據馮校本作婢。今從之。」(二)海錄碎事引「子婦」至「甚苦」凡十二字、僅作一「求」字。(三)○海錄引無「固」字。(四)○海錄引無「劉」字。(五)〔海錄〕「推」作「椎」。

○海錄引「故」作「固」。(六)○海錄引「服」作「伏」。

49 吳主孫皓字孫賓、卽鍾之玄孫也。晉伐孫皓、皓降晉、晉武帝封皓爲歸命侯。後武帝大會羣臣、時皓在坐、武帝問皓曰、『朕聞吳人好作汝語、卿試爲之。』皓應聲曰、『□』、因還勸帝酒曰、『昔與汝爲隣、今與汝作臣、闕汝闕春^(一)。』座衆皆失色、帝悔不及。

校記 類林雜說五。○周氏 55。事見世說排調篇 5。又敦煌文書 P.二五二四文筆篇。建康實錄四引三十國春秋。記纂淵海一六五引古今詩話。參看『類林研究』 23—17。

敦煌文書云、汝語 吳孫皓。晉伐吳、孫皓降晉。晉武帝封皓爲歸命侯。晉帝會郡臣、皓在坐。帝詔皓曰、朕聞吳人好作女語、卿試爲之。皓時執酒杯。因勸帝曰、昔與汝隣國、今與汝作臣、上汝一杯酒、令汝壽萬春。

(一)○語林所闕、可據世說補。世說云、「上汝一杯酒、令汝壽萬春」。

50 賈充問孫皓曰^(一)、『何以好剝人面皮^(二)。』皓曰、『憎其顏之厚也^(三)。』

校記 御覽三百七十五、又三百六十四。○記纂淵海一五三。事文類聚一八。天中記二二。淵鑑二五九面。通俗編一六。玉函101。周氏56。

(一)○御覽引無「曰」字。玉函引有。(二)○御覽三七五引無「好」字。(三)○御覽三六四引無「也」字、淵海作「耳」。

51 王武子與武帝圍碁^(一)、孫皓看^(二)。王曰^(三)、『孫歸命何以好剝人面皮。』皓曰、『見無禮於其君者、則剝其皮^(四)。』乃舉碁局^(五)、武子伸脚在局下^(六)、故譏之。

校記 御覽七百五十三、*三百六十五、*又四百九十。○事文類聚後集一八。淵鑑三二九圍碁。玉函102。周氏57。事又見白帖八·五一。六帖二九。晉書王濟傳。建康實錄四引三十國春秋。

(一)○御覽四九○引「王」上有「晉」字。(二)○御覽七五三引「看」作「在側」二字。(三)○御覽四九○引「曰」作「問」、七五三引「王曰」作「武子問」三字。(四)一(七五三)引作「則剝之」。○七五三引又無「其」字。四九○引作「即剝其面皮」。(五)○御覽七五三引「乃」上有「武子」、「局」下有「下」字、而無下一句七字、訛奪。(六)○御覽三六○、四九○引至此爲止。事文類聚亦同。

52 王濟字武子、太原人也^(一)。又魏舒字陽元、濟陰人也。二人並善射^(二)、見重當時^(三)、俱仕晉朝^(四)。

校記 類林雜說九。○敦煌文書P.二六三五。今以此爲底本。周氏58。事見晉書(御覽七四四引)。參看『類林研究』42-6。

(一)○類林引無「也」字、下倣此。(二)○類林引無「並」字。(三)○類林引「見」作「名」。(四)

○類林引「俱」作「並」、又無「朝」字。

53 王武子性愛馬、亦甚別之^(一)、故杜預道『王武子有馬癖^(二)、和長輿有錢癖^(三)。』武帝問杜預^(四)、『卿有何癖。』對曰^(五)、『臣有左傳癖。』

校記 世說術解篇⁽⁴⁾注、李瀚蒙求注。*御覽八百三十六。事類賦注十引云、杜預嘗謂、王武子有馬癖、和長輿有錢癖、已有左傳癖。○天中記五五。玉函22。玉函補編引蒙求注。周氏59。事又見晉書杜預傳。釋常談^(百川學海本)。

(一)蒙求注引無此二句。○御覽、事類賦注引亦同。(二)○蒙求注引無「故」、「預」下有「字元凱」、「道」作「常云」。(三)「杜預」已下二句亦見『御覽』八百三十六引。(四)○蒙求注引無「杜預」。(五)○蒙求注引、無「對」字。

54 王武子葬^(一)、孫子荊哭之甚悲、賓客莫不垂涕^(二)。哭畢、向靈座曰^(三)、『卿常好驢鳴^(四)、今爲君作驢鳴^(五)。』既作、聲似真^(六)、賓客皆笑^(七)。孫曰^(八)、『諸君不死、而令武子死乎^(九)。』賓客皆怒^(一〇)。須臾之間、或悲或怒或哭^(一一)。

校記 御覽四百八十二、又五百五十六。世說傷逝篇⁽³⁾注。*御覽三百八十八、又三百八十九、*又三百九十一。○淵鑑二六七笑^(節引、與御覽三九一引同)、哭。玉函20。舊小說2。周氏60。事又見白帖一〇二〇、又二九六五。事文類聚前集四。類林雜說5。類似之事見世說傷逝篇1。

(一)○御覽三八九引「葬」作「死」。三八八、四八七、五五六引皆「葬」下有「夕」。(二)○御覽四八七、五五六引「不」下有「爲」。(三)○御覽三八八引「座」作「坐」、五五六引無「座」字。(四)○御覽三八八引無

「常」。三八八、三八九引俱「好」下有「我作」。(五)○御覽三八九引「今」下有「我」字。三八九、五五六引「君」作「卿」。三八九引鮑本無「驢鳴」二字。(六)「哭畢」至此已上、世說注引作「既作驢鳴」、今依御覽引補。○御覽三八八引此二句五字、中華書局本作「因作驢鳴似真聲」、鮑本作「因作體似真聲」。三八九引無「既作」二字、鮑本作「聲似真」作「體似真聲」。五五六引作「體似真聲」。(七)御覽三百九十一引云、「弔王武子客正哭、見孫子荊驢鳴、變聲成笑」。○御覽三九一引至此。三八八引「笑」作「莫不笑」、五五六引作「莫不大笑」、四八七引作「大笑」。(八)○「孫」下、三八八、四八七、五五六引俱有「聞笑顧謂」四字、三八九引有「聞之」二字。(九)○御覽三八八、五五六引皆無「而」字。御覽引皆「武子」上有「王」字。三八八、三八九、五五六引俱無「乎」字。(一〇)○世說注、御覽三八八、又三八九引至此為止。三八八、四八七、五五六引俱「皆」上有「莫不」二字。三八九句末有「焉」字。(一一)○御覽中華書局本「或怒或哭」四字作「或笑或怒」、四八七鮑本無「或怒」。

55 戴叔鸞母好驢鳴、叔鸞每爲驢鳴、以樂其母。

校記 御覽三百八十九。○玉函 21。周氏 3。周氏以戴叔鸞是後漢人移到樓護(鈎沈 1)之後。事見世說傷逝篇 1 注、「樂」作「說」以外、全同。白帖二九六五。

56 中朝方鎮還、不與元凱共坐。預征吳還、獨榻、不與賓客共也。

校記 世說方正篇(13)注。○玉函 5。周氏 61。參看郭子(鈎沈 18)。白帖一〇、一一。

57 洛下少林(二)、木炭止如粟狀(三)。羊琇驕豪(三)、乃擣小炭爲屑、以物和之、作獸形。後何召(七)之徒共集(四)、乃以

溫酒。火熱既猛^(五)、獸皆開口、向人赫赫然^(六)。諸豪相矜、皆服而效之。

校記 御覽八百七十一。○敦煌文書 P. 二五二四云、富貴 獸炭。語林曰、中略見 58 屠炭末獸形。溫酒、獸炭皆張口赫。事文類聚續集一八。淵鑑三六○炭。玉函 150。周氏 62。事又見殷芸小說(鈎沈 121)、晉書羊琇傳。晉朝雜記(御覽四九三引)。白帖二八五、又五三四。海錄碎事六。類林雜說八。

(一)○事文類聚此句上有「晉羊琇字稚舒、景獻皇后從弟性豪侈」十五字。(二)○事文此句作「炭貴如粟」。(三)○事文此句作「琇」一字。(四)○鈎沈「召」本作「呂」、玉函亦作「呂」。今暫從御覽、而俱必有訛誤。事文作「劭」。(五)○御覽中華書局本「既」作一空格、鮑本作「既」。(六)○鈎沈脫一「赫」字、今補。玉函亦脫。(七)○事文此二句作「諸貴皆效之」。

58

羊稚舒琇冬月釀酒^(一)、令人抱甕煖之^(二)。須臾復易其人^(三)、酒既速成、味仍嘉美^(四)。其驕豪此類。

校記 續談助四。*書鈔一百四十八。*御覽七百五十八、又二十七。*海錄碎事六。○殷云小說(鈎沈 121)。敦煌文書 P. 二五二四云、富貴 獸炭。語林曰、羊琇字稚舒、為晉散騎常侍。冬日作酒、人之抱瓮酒、交易人、而酒便默。默當作熟。類說二九引雞跖集。天中記四四。五朝小說 12。淵鑑一六冬、又三八四甕、又三九三酒。玉函 70。周氏 63。事又見白帖四二二、又二八五。類林雜說八。何氏語林二九。

(一)○續談助、御覽二七引「稚」俱誤作「雅」。書鈔作「羊琇字稚舒」。御覽、海錄引俱無「琇」。御覽二七引「月」作「日」、敦煌亦同。(二)海錄碎事六引至「抱甕」、下云、「速得味好」。亦見書鈔一百四十八、御覽七百五十八、「煖之」並作「為煖」。(三)○御覽引無「其」。(四)(二句)御覽二十七引作「速成而味好」。○御覽二七引至此為止。

59 劉寔詣石崇^(一)、如廁、見有絳紗帳大牀茵蓐甚麗^(二)、兩婢持錦香囊^(三)。寔遽反走^(四)、即謂崇曰^(五)、『向誤入卿室內^(六)。』崇曰、『是廁耳^(七)。』寔更往向、乃守廁婢所進錦囊、實籌^(八)。良久不得便行^(九)、出謂崇曰、『貧士不得如此廁^(一〇)。』乃如他廁^(一一)。

校記 御覽一百八十六、*又七百四。*世說汰侈篇⁽²⁾注。○御覽六九九。天中記一五、又四八、四九。五朝小說14。淵鑑二八六富、又三一三奢、又三七六帳。玉函36。舊小說3。周氏64。事又見敦煌文書P.二五二四、參看次條60。何氏語林二九。

(一)○鈎沈「寔」作「實」、而世說注、御覽一八六引「實」作「寔」、下倣此。御覽六九九引作「植」。當作「寔」、今依改。(二)○御覽一八六、六九九引「紗」作「文」、俱無「大牀」二字。(三)○御覽一八六引無「香」字。(四)○御覽一八六引「反走」作「退」一字。(五)○御覽一八六引「即」作「笑」。(六)○御覽一八六引無「內」。(七)世說注引至此止。(八)御覽七百四引云、「石崇廁內兩婢持錦囊、是籌也」。○御覽一八六中華書局本「實」作「是」。(九)○御覽六九九引、無「兩婢」以下至「此廁」之文、止作「不得行」三字。(一〇)○御覽一八六中華書局本無「如」。(一一)○御覽六九九引「乃」下有「更」字。

60 石崇廁常有十餘婢侍列、皆佳麗藻飾、置甲煎沈香、無不畢備^(一)。又與新衣、客多羞不能著^(二)。王敦爲將軍、年少、往脫故衣、著新衣、氣色傲然。羣婢謂曰、『此客必能作賊。』

校記 御覽一百八十六、又五百。又*七百十九。○五朝小說15。淵鑑三五○廁。玉函37。周氏65。事見世說汰侈篇2。『晉書』石崇傳。又敦煌文書P.二五二四。事文類聚一〇。

御覽五〇〇引云、石崇廁有十餘婢侍列、莫不畢備。又與新衣出、客多羞不能如廁。王敦大將軍、往脫故衣、著新衣、意傲然。群婢謂曰、「此客必能作賊。」

敦煌文書 P.二五二四云、崇會客、崇廁內置侍婢十人、皆衣錦繡絜瀾。侍中劉恒往廁、將謂入室、寺〔時〕走出。崇曰廁也。

(一) 御覽七百十九引云、「石崇廁置甲煎粉沈香汁之屬」。(二) 〇御覽一八六引無「羞」字。

61 石崇恒冬月得韭齏、爲客作豆粥、咄嗟便辦。王愷乃密貨帳下都督、云、『是擣韭根、裸以麥苗耳。』豆難煮、豫作熟豆、以白粥投之。

校記 御覽八百五十五、又八百五十九。〇書鈔一四四、又一四六、但後者不言出處。玉函 149。周氏 66。鈎沈以御覽二條合爲一條、玉函亦同。事見世說汰侈篇 5。晉書石崇傳。類林雜說八。

書鈔一四六云、韭齏。□□云、石崇冬月得韭薺齊、王愷貨帳下都督云。孔注云、此條或出語林耳。

御覽八五五云、語林 石崇嘗冬月得韭薺、王愷貨崇帳下督。云、是擣韭根、雜以麥苗耳。

書鈔一四四云、咄嗟便辦。語林云、石崇爲客作豆粥、咄嗟便辦。王愷乃密貨崇帳下。曰、豫作熟豆。

御覽八五九云、石崇爲客作豆粥、咄嗟便辦。王愷乃密貨崇帳中鮑本作下。都督。曰、豆難煮、唯豫作熟豆、以白粥投之。

62 石崇與王愷爭豪、窮極綺麗、以飾車服^(一)。晉武帝愷甥也^(二)、每助愷、以珊瑚高二尺許^(三)、枝柯扶疏、世間罕比^(四)、愷以示崇^(五)、崇視訖^(六)、以鐵如意擊之、應手瓦碎^(七)。愷聲色俱厲。崇曰、『此不足恨。』乃命取珊瑚有三尺光彩溢目者六十七枚^(八)、愷悵然自失。

校記 御覽七百三。*類聚七十。〇天中記四九。淵鑑三七九如意。玉函 85。舊小說 8。周氏 67。事見世說汰侈篇 8。李瀚蒙求注中。晉書石崇傳。白帖二八五。敦煌文書 P.二五二四。事文類聚二八。類林雜說八。

(一)○此二句類聚引、御覽引無。(二)○御覽引「愷」下有「之」字。(三)○鈎沈「二」本作「三」、七
三年版全集已據類聚御覽正。(四)○御覽引無以上二句八字。(五)○御覽引「示」下有「之」字。(六)
○御覽引無此句三字。(七)類聚七十(引至此止)。(八)○御覽中華書局本「枚」作「校」、鮑本作「枝」、
玉函作「枚」。世說作「枚」、又無「十」。

63

潘石同刑東市。石謂潘曰、『天下殺英雄、卿復何爲。』潘曰、『俊士填溝壑、餘波來及人。』
校記 世說仇隙篇(1)注。○玉函 39。周氏 69。事見殷芸小說(類說四九引、鈎沈失收、今 153)。何氏語林二四。

64

潘安仁至美(一)、每行老嫗以果擲之滿車(二)。張孟陽至醜、每行小兒以瓦石投之亦滿車(三)。
校記 世說容止篇注。御覽七百七十三、又*七百七十七。*初學記十九。○游仙窟注(二條)。天中記二(2)。
淵鑑三八七車。玉函 15。周氏 68。事見敦煌文書 P.二五二四、又 S.七八。類林雜說八。類似之事見世說容止篇 7。
琬玉集一四。

游仙窟注云、語林云、潘安仁至美、每行老嫗以菓擲之、常滿車。張孟陽至醜、每行小兒以瓦礫擲之、常亦滿車也。
敦煌文書 P.二五二四云、又安仁乘車入市、洛陽嫗見之、競以瓜果擲之盈車。

(一)御覽七七三引「至」作「貞」。鮑本脫「仁」字。(二)初學記十九引作「每行於道羣嫗以果擲之常盈車」。
○御覽七七三引「滿」上亦有「常」、「車」下有「中」。窟注一條引至此爲止。(三)又七百六十七引云、「晉張載
字孟陽甚醜、每出爲小兒擲瓦盈車」。○御覽七七三引無「小」字、「石」作「礫」、「投」作「擲」。

65

士衡在坐、安仁來、陸便起去。潘曰(一)、『清風至、塵飛揚。』陸應聲答曰、『衆鳥集、鳳皇翔(二)。』

校記 續談助四。○殷芸小說（明鈔說郭二五引語林、鈎沈128）。天中記二六。周氏70。事又見敦煌文書P.二五二四。

敦煌文書P.二五二四云、塵飛鳳翔 陸士衡坐、潘安仁來。陸起。潘曰、清風至、塵飛楊。陸答曰、衆鳥集、鳳皇翔。

（一）明鈔說郭引「潘曰」作「安云」。（二）○明鈔說郭引「皇」作「凰」。

66 陸士衡在洛、夏月忽思竹篠飲。語劉實云（一）、『吾鄉曲之思轉深（三）。今欲東歸（三）、恐無復相見之理（四）。』言此已復生三歎（五）。

校記 御覽八百六十一。＊又二十一。＊事類賦注四。○記纂淵海一七三（與御覽二一引同）。事文類聚續集四。天中記五。淵鑑一四夏、三九一飲。廣群芳譜四引亦與御覽二一同。玉函68。周氏71。事見何氏語林一〇。

（一）○「云」、鈎沈作「曰」、今據御覽改、玉函亦作「曰」。（二）事類賦注、御覽二十一引云、「陸機夏在洛、忽思東頭竹篠飲、語劉實曰、吾思鄉轉深矣」。（三）○御覽八六一引「欲」作「來」、玉函引作「欲」。（四）○玉函注云、「北堂書鈔一百四十四引竹篠飲、陳禹謨補注引至相見理」。不見孔本。（五）○玉函、鈎沈俱作「復生三歎」、不知何據。御覽中華書局本作「復之生感」。蓋有訛誤。

67 陸士衡爲河北都督（一）、已被閒構（二）、內懷憂懣、聞衆軍警角鼓吹（三）、謂其司馬孫掾曰（四）、『我今聞此（五）、不如華亭鶴唳（六）。』

校記 書鈔一百二十一。類聚六十八。御覽三百二十八、又四百六十九。＊世說尤悔篇（3）注。○御覽五六七。天中記五八。淵鑑二二八角、又三六八鼓吹。玉函50。周氏72。續談助四殷芸小說（鈎沈129）所引「士衡」一條作

「出小史」、全文與此條同。事又見何氏語林三〇。

(一)○類聚、御覽三三八、又五六七俱無「都」字。(二)○御覽五六七引「已」上有「日」字。御覽四六七、又五六七引俱「構」作「搆」。(三)「鼓吹」二字類聚引有。○御覽三引均亦有。御覽三三八、四六九引中華書局本俱「警」作「驚」。(四)世說尤悔篇注引作「機爲河北都督、聞警角之聲、謂孫丞」。○御覽五六七引無此一句六字、止作「日」一字。類聚引無「孫掾」二字。御覽三三八引中華書局本「掾」作「極」、誤。三三八鮑本以及四六九引作「拯」。(五)○御覽四六九引無「今」字。(六)○「鶴唳」世說注、御覽四六九引鮑本俱同。御覽五六七引作「唳」一字。書鈔、類聚、御覽三三八、亦四六九中華書局本引俱作「鶴鳴」。

68

宗岱爲青州刺史^(一)、禁淫祀^(二)、著無鬼論甚精^(三)、莫能屈。後有一書生葛巾修刺詣岱^(四)、與談論^(五)、次及無鬼論^(六)、書生乃振衣而去^(七)。曰、『君絕我輩血食二十餘年^(八)、君有青牛髯奴^(九)、所以未得相困耳^(一〇)。奴已叛^(一一)、牛已死^(一二)。今日得相制矣^(一三)。』言絕而失^(一四)。明日而岱亡^(一五)。

校記 御覽五百、又五百九十五、又八百八十四、又八百九十九。○五朝小說19。古今圖書集成神異典七(第四八九冊三十b)。玉函124。舊小說10。周氏73。事又見殷芸小說(續談助四引、又類說四九引、鈎沈132)、廣記三一七作出雜語。

(一)一引作「宋岱」。○御覽五九五、八八九引俱作「宋」。(二)○御覽五九五、八八四引俱無此句三字。(三)○御覽八八四引中華書局本「鬼」下有「神」字。(四)○御覽八九九引無「甚精」以下至「後」爲止六字。八八四引無「有一」。五〇〇、五九五、八八四引俱無「葛巾修刺」四字。(五)○御覽五〇〇引「與」上有「岱」字。五九五引無「與」字。八八四引作「談」一字。(六)○御覽五〇〇引無此句五字、八八四引無「無」字。(七)○御覽五九五、八八四引俱「振」作「拂」。八八九引無「與談論」以下至「而去」十五字。(八)○御覽五〇〇

引無「君」字。（九）○御覽五九五、八八四引俱「君」上有「以」字。（一〇）○御覽八八四引無「耳」字。（一一）○御覽五九五、八八四引「奴」上俱有「今」字。（一二）○御覽五九五引無「叛牛已」三字。（一三）○御覽五九五引中華書局本、八八四引俱無「日」字、五九五鮑本無「今日」。又八八四引無「矣」字。（一四）○御覽五九五引「絕」作「終」。又五九五鮑本「失」作「去」。（一五）○御覽五九五引無「而」字。八八四引此句作「來日岱亡」。八九九引中華書局本「亡」作「死」、鮑本此句作「明日岱死」。

69 明帝數歲，坐元帝膝上。有人從長安來，元帝問洛下消息，潸然流涕。明帝問、何以致泣（一）。具以東渡意告之。因向明帝、『汝意謂長安何如日遠。』答曰、『日遠。不聞人從日邊來，居然可知。』元帝異之。明日集羣臣宴會、告以此意、更重問之。乃答曰、『日近。』元帝失色、曰、『爾何故異昨日之言邪。』答曰、『舉目見日、不見長安。』

校記 書鈔七引語林云、答長安近日。其文不全。今以世說夙慧篇（3）補之。○玉函41。舊小說4。周氏74。事又見劉昭幼童傳（初學記二、御覽三、事類賦注一引）。敦煌文書S.一三三。晉書明帝紀。白帖六四〇、一一、一五。瑠玉集一二（引晉抄）。建康實錄六。獨異志中。事文類聚前集四四。參看『類林研究』2015、不錄出處。
（一）○鈞沈「泣」本作「臣」、玉函亦同、今正。

70 晉明帝年少不倫、常微行、詔喚人以衣幘迎之。涉水過衣幘悉濕。元帝已不重明帝。忽復有此、以為無不廢理。既入、幘不正、元帝自為正之。明帝大喜。

校記 御覽六百八十七。○淵鑑三七〇幘。玉函129。周氏75。

71 晉成帝時、庾后臨朝。諸庾誅南頓王宗、帝問、『南頓何在。』答曰、『黨唆作賊亂、已誅。』帝知非黨、曰『言舅

作賊、當復云何。』庾后以牙尺打帝頭、云、『兒何以作爾語。』帝無言、惟張目熟視、諸庾甚懼。

校記 書鈔七引語林止南頓王何在一句、今以困學紀聞(一三)所引殷芸小說補之。○周氏 76。事見殷芸小說(鈎沈 19)。又見建康實錄七末。

72 初溫嶠奉使勸進、晉王大集賓客見之。溫公始入、形容甚陋、合坐盡驚。既坐、陳說九服分崩、皇室弛絕。晉王君臣莫不歎歛。及言天下不可以無主。聞者莫不踴躍、植髮穿冠。王丞相深相付託。溫公既見丞相、便游樂不住曰(一)、『既見管仲、天下事無復憂。』

校記 世說言語篇(36)注。○玉函 2。周氏 77。事見晉書溫嶠傳。

(一)○「住」字、玉函、鈎沈俱作「往」、七三年版全集已訂之。

73 鍾雅語祖子言(一)、『我汝穎之士、利如錐。卿燕代之士、鈍如槌。』祖曰、『以我鈍槌打爾利錐。』鍾曰、『自有神錐、不可得打。』祖曰、『既有神錐、亦有神槌(二)。』鍾遂屈。

校記 御覽四百六十六。*類聚二十五。○淵鑑二九九嘲戲。玉函 74。周氏 78。事見金樓子捷對篇。晉書祖納傳。啓顏錄。何氏語林二七。

(一)○御覽引作「祖士言與鍾雅相調、鍾語祖曰」。 (二)類聚二十五(引至此止)。○玉函、鈎沈「亦」作「必」、今據類聚御覽引訂之。

74 庾公道王尼子、『非唯事事勝於人(一)、布置鬚眉亦勝人。我輩皆出其轅下。』

校記 御覽三百六十五、又三百七十四。○天中記二二。淵鑑二六〇鬚。玉函 104。周氏 79。事見何氏語林二二。

(一)○御覽三七四引無「於」字。

75 王平子從荊州下^(二)、大將軍因欲殺之^(三)。而平子左右有二十人、甚健、皆持鐵楯馬鞭^(四)。平子恒持玉枕^(五)。以此未得發^(六)。大將軍乃犒荊州文武、二十人積飲食、皆不能動。乃借平子玉枕、便持下牀。平子手引大將軍帶絕、與力士鬪甚苦、乃得上屋上。久許而死。

校記 世說方正篇(31)注。書鈔一百三十四。御覽八百五。○淵鑑三七八枕、玉函64皆節引。周氏80。事見晉書王澄傳。

御覽八〇五引云、平子從荊州下王敦、敦欲殺之。平子恒持一玉枕下牀去、故不得發。敦後矯平子左右、而借其玉枕持下床去、遂殺平子。

(一)○書鈔「下」作「徙」。 (二)(大將軍)書鈔引作「王敦」。○書鈔「因」作「敦伺」二字。 (三)○「鐵」字鈎沈脫、今據補。 (四)○書鈔引「恒」上有「手」字。 (五)五字依書鈔引補。

76 顧和爲揚州從事^(一)、月旦當朝未入、停車州門外。周侯飲酒已醉^(二)、著白袷、憑兩人來詣丞相^(三)。歷和車邊、和先在車中覓蟲、夷然不動。周始遙見^(四)、過去、行數步復又還^(五)、指顧心問曰、「此中何所有。」顧擇蟲不輟、徐徐應曰、「此中最是難測地。」

校記 御覽九百五十一。*世說雅量篇(22)注。○事文類聚後集四九。淵鑑四五〇虱。玉函7。舊小說1。周氏81。事見世說雅量篇22。晉書顧和傳。

(一)○御覽九五一引中華書局本「爲」上有「始」字。 (二)○御覽引「周」上有「須臾」二字、而無「飲酒」二字。 (三)已上十六字、世說雅量篇注亦引有。「已醉」二字據補。○「已醉」二字御覽亦引有、鈎沈當云「飲

酒」二字據補。(四)○御覽引「遙見」作「見遙」、或鈎沈以意顛倒。(五)○御覽引「復」作「覆」、中華書局本「又」作「反」。

77 周伯仁過江恒醉。止有姉喪三日醒、姑喪三日醒也(一)。大損資望、每醉、諸公常共屯守。

校記 世說任誕篇(28)注。*御覽四百九十七。○玉函25。周氏82。事見琨玉集嗜酒引晉抄。何氏語林二五。

(一)御覽四百九十七(引至此止)。世說注引作「伯仁正有姑喪三日醉、姉喪二日醉」當誤。○玉函注云、「太平御覽卷四百九十七引、周伯仁過江恒醉、止有姉喪三日醒、姑喪三日醒也。案劉引當與御覽同。後人以世說有三日不醒語、遂改兩醒字爲兩醉字。止訛正、三訛爲二耳。據御覽訂。」

78 周伯仁在中朝、能飲一斛酒。過江雖日醉(二)、然未飲一斛(三)、以無其對也。後有舊對、忽從北來、相得欣然、乃出二斛酒、共飲之。既醉、伯仁得睡、睡覺(三)、問共飲者何在。曰、「西廂。」問、「得轉不。」答、「不得轉。」伯仁曰、「異事。」使視之、齎腐而死。

校記 御覽四百九十七。*書鈔一百四十八。○玉函26。周氏83。事見白帖五一。事文類聚續集一五。何氏語林二五。類似之事見殷芸小說(類說四九引。鈎沈151)。白帖四。

(一)玉函、鈎沈脫「雖」一字、今據補。(二)書鈔一百四十八引云、「周伯仁在西彭。日飲一斛、過江未嘗飲一斛。」(三)○鈎沈「眠」二字本作「睡」二字、今據改。

79 周伯仁被收、經太廟、大喚宗廟之靈、以稍刺落地、罵曰、「王敦小子也。」

校記 書鈔一百二十四。○淵鑑二二四稍。玉函52。周氏84。事見建康實錄五。

80 庾公乘馬有的盧^(一)、殷浩勸公賣馬^(二)。庾云、賣之、必有買者、卽復害其生、寧可不安己而移於他人哉。昔叔孫敖殺兩頭蛇以爲後人、古之美談、效之、不亦達乎^(三)。』

校記 世說德行篇(31)注。○世說德行篇31注引語林止云、「殷浩勸公賣馬」。他皆以世說本文補。玉函32。周氏85。事見晉書庾亮傳。白帖二九四九。六帖九六。

(一) 此句依世說補。(二) 世說作「或語令賣去」注引語林。(三)「庾云」至此已上、並見世說德行篇。

81 庾公欲伐王公、先書與郝公曰、『老賤賊專欲轉張^(一)、殿中將軍、舊用才學之士^(二)、以廣視聽^(三)、而頃悉用面牆之人也^(四)。是欲蔽主之明、便欲勒數州之衆、以除君側之惡。今年之舉、蔑不濟矣^(五)。』

校記 御覽二百三十九。*書鈔六十四。○淵鑑一〇四雜號將軍。玉函43。周氏86。

(一) 已上三句、書鈔引作「庾公與郝公書」。○鈞沈「轉」作「專」、今據御覽改。(二)○御覽引無「之」字。

(三)○書鈔「廣」作「開」。(四)亦見書鈔六十四引。○御覽引「用」作「內」、無「之」、「也」二字。(五)

○御覽中華書局本「蔑」作「篋」、誤。

82 殷浩於佛經有所不了^(一)、故遣人迎林公。林乃虛懷欲往。王右軍駐之、曰、『淵源思致淵富^(二)、既未易爲敵、且己所不解、上人未必能通。縱復服從、亦名不益高。若佻脫不合、便喪十年所保。可不須往。』林公亦以爲然、遂止。

校記 世說文學篇(43)注。○丹鉛餘錄一、又丹鉛總錄一九。玉函33。周氏87。

(一)○鈞沈補「殷」字。(二)○丹鉛餘錄、玉函、鈞沈前「淵」字作「深」、今據世說改。殷浩字淵源。

83 大將軍王敦尚武帝女。此主特所重愛、遣送十倍諸主^(一)。主既亡、人就王乞、始猶分物與之。後乞者多、遂指庫屋數間以施^(二)。

校記 御覽四百七十七。○玉函 120。周氏 88。

(一)玉函、鈎沈「十」作「王」、今據御覽中華書局本改。(二)○「數間」、鮑本作如此、中華書局本作「間數」。

84 譙王丞作相州^(一)、過大將軍、曰、「卿才堪廟廊、自無間外。」

校記 書鈔七十。○淵鑑六○諸王。周氏 89。

(一)○孔注云、「今晉書作譙閔王承、見晉書宗室傳。丞當作承」。「相」字據晉書當作「湘」。

85 王大將軍每酒後、輒詠老騎伏櫪^(一)、志在千里。烈士莫年、壯心不已^(二)。便以如意擊珊瑚唾壺^(三)、壺盡缺。

校記 書鈔一百三十五。○淵鑑三七九如意。玉函 65。周氏 90。事見世說豪爽篇 4、晉書王敦傳。

(一)○玉函引「詠」下有「魏武帝樂府歌曰」七字。(二)○玉函引「不」作「未」。(三)○玉函引無「便」、「珊瑚」、而「如」上有「鐵」、「壺」下有「爲節」二字。而且云、「北堂書鈔卷一百二十五」。書鈔孔注云、「此蓋據陳本也」。玉函與淵鑑引同。

86 晉王敦與世儒議下都。世儒以朝廷無亂、且唱兵始、自古所難。諫諍甚苦。處仲色變^(一)、曰、「吾過蒙恩遇、受任南夏、卿自同姦邪、阻遏義舉。王法焉得相私。」因目左右令進。世儒正色曰、「君昔歲害兄、今又殺弟。自古多士、豈有如此舉動。」言畢流涕。敦意乃止。

校記 御覽四百二十八。○玉函 115。周氏 91。事見晉書王彬傳。

(一)○中華書局本「仲」作「冲」、誤。

87 大將軍丞相諸人、在此時、閉戶共爲謀身之計。王曠世弘來^(二)、在戶外、諸人不容之。曠乃剔壁闚之曰、『天下大亂、諸君欲何所圖謀、將欲告官。』遽而內之、遂建江左之策。

校記 御覽一百八十四。○五朝小說13。玉函95。周氏92。

(一)○玉函、鈎沈皆「弘」作「宏」、清諱、今據中華書局本訂。

88 大將軍收周侯、至石頭、坐南門石盤上、將戮之、送已褥與周。

校記 御覽七百八。○天中記四八。玉函139。周氏93。

89 大將軍刑周伯仁、以步障繞之。經日已具^(三)。王曰、『周伯仁子弟痴、何以不知取其翁屍。』周家然後收之。

校記 御覽七百一。○天中記四九。玉函132。周氏94。

(一)○天中記引「具」作「臭」。

90 簡文帝爲撫軍時^(一)、所坐牀上塵^(二)、不令左右拂^(三)、見鼠行之迹^(四)、視以爲佳^(五)。參軍見鼠白日行、以手版打殺之。意不悅。門下起彈、辭曰、『鼠被害尚不能忘懷、今復以鼠損人^(六)。無乃不可乎。』

校記 續談助四。*御覽七百六、又三十九、又九百十一。*書鈔一百三十三、又十二。○殷芸小說(鈎沈24)。

*山谷外集三「次韻師厚病問十首」之四注引。天中記四八。五朝小說16。淵鑑三七七牀。玉函42。周氏95。事見世說德行篇37。

(一)○書鈔、御覽引俱無「帝」。續談助引無「時」。(二)○御覽三三九引無「所」。書鈔、御覽三三九引「塵」上有「生」。御覽九一一引中華書局本「塵」上有「坐」字、當誤。鮑本「塵」上有「灰」字。(三)○書鈔「令」作「命」、御覽引皆「令」作「聽」。又御覽三三九「拂」下有「去」、九一一引「拂」作「掃去」。(四)○書鈔、御覽引俱無「之」。(五)已上五句、御覽七百六、又九百十一亦引有。「時」字及「視以」二字據補。書鈔一百三十三引同、又十二引「坐牀生塵」句。○書鈔「以」作「之」、句末有「也」字。御覽三三九引「佳」作「嘉」。(六)已上七句、御覽二百三十九引作「有參軍見鼠、以手板格煞之、撫軍謂曰」。

91 許玄度出都、詣劉眞長、先不識、至便造之。一面留連、標列貴略無造謁^(三)。遂九日十一詣許^(三)。語曰、卿爲不去、家將成輕薄京尹^(三)。』

校記 類聚五十、又五十五云、「劉眞長謂許玄度曰、卿爲不去、我將成輕薄京尹。」世說寵禮篇(4)注引作「玄度出都、眞長九日十一詣之。曰、卿尚不去、使我成薄德二千石」。○淵鑑一二二京尹、又二〇二講論。玉函24。周氏96。事見世說寵禮篇4。

(一)○類聚五〇「標列」作「標列」、汪紹楹注云、句有脫文。淵鑑一二二引同。類聚五〇引「謁」作「詣」、淵鑑一二二引同。玉函所引與鈎沈同。(二)○類聚引「九日十一」作「九日十一」、倒訛。鈎沈「詣」下本有「之」字、類聚引無、衍字也、今刪之。(三)○案「家」字或訛歟。

92 許玄度將弟出都婚、諸人聞玄度弟^(二)、朝野欽遲之^(三)。既見、乃甚癡、便欲嘲弄之^(三)。玄度爲之解紛^(四)、諸人遂不能犯^(五)。眞長歎曰^(六)、「許玄度爲弟婚^(七)、施十重鐵步障也^(八)。』

校記 書鈔一百三十一。類聚二十五。御覽七百一、又八百十三。○天中記四九。淵鑑二九九嘲戲、又三七七步障。

玉函 61。周氏 97。事見何氏語林四。

御覽八二三引語林云、許玄度出都爲弟婚。弟少愚、恐人嘲弄。玄度爲解而獲免。眞長笑曰、許玄度爲弟張十重鐵步障。

(一)○御覽七〇一引「聞」下有「是」字。(二)○書鈔引「野」作「市」。類聚引無「聞玄度弟朝野」六字。御覽七〇一引無「朝野」。(三)○類聚引「弄」作「弃」。(四)○書鈔引無「之」。(五)御覽引有此句。一「八一三」作「玄度爲解而獲免」。類聚引作「玄度爲之作賓主相對」。○御覽七〇一引「犯」下有「境」字。(六)○御覽七〇一引「眞長」上有「劉」。(七)○御覽七〇一引無「許」字。(八)○類聚、御覽引無「也」。

93 劉道生與眞長言(一)、『一時有名譽者、皆宗眞長。』

校記 書鈔九十八。○淵鑑二〇二講論。玉函 48。周氏 98。

(一)○書鈔孔本「言」作「談」、淵鑑、玉函、鈎沈皆作「言」。

94 仲祖語眞長曰、『卿近大進。』劉曰、『卿仰看邪。』王問何意。劉曰、『不爾、何由測天之高也。』

校記 世說言語篇(66)注。○玉函 3。周氏 99。事見世說言語篇 66。何氏語林四。

95 劉眞長與桓宣武共聽講禮記(一)。桓公云、『時有人心處、便咫尺玄門(二)。』

校記 類聚五十。御覽六百十五。○淵鑑二〇二講論。玉函 81。周氏 100。事見世說言語篇 64。

(一)○御覽引「桓」下有「公」字。(二)○御覽引「便」下有「覺」字、世說亦有。

- 96 劉尹見桓公每嬉戲、必取勝、謂曰、「卿乃爾好利、何不焦頭。」
校記 世說識鑒篇〔20〕注。○周氏101。事見何氏語林二七。

- 97 宣武征還、劉尹數十里迎之。桓都不語、直云、「垂長衣、談清言、竟是誰功。」劉答曰、「晉德靈長、功豈在爾。」
校記 世說排調篇〔24〕注。○玉函28。周氏102。事見何氏語林四。

- 98 劉眞長始見王丞相〔二〕、王公不與語〔三〕、時大熱〔三〕、以腹熨石局〔四〕、曰、「何乃淘〔五〕。」吳人以冷爲淘。淘音楚敬切。劉既出、人問、「見王公如何。」眞長云、「丞相何奇。止能作吳語及細唾也〔六〕。」

校記 世說排調篇〔13〕注。御覽三十四。*類聚五。○九家注杜詩五十四「遣興」五首之四引後半。天中記五。五朝小說11。淵鑑二一熱。玉函29。周氏103。事見世說排調篇13。

（一）御覽引有「始」字。○鈎沈注誤。世說本文有「始」字。類聚引「丞相」作「公」一字。（二）○類聚引作「王公了不與語」。御覽引無此五字。（三）○御覽引「大熱」作「盛夏」。（四）類聚五〔引至此止〕。○御覽引此句作「王公以腹熨彈棊局」。（五）御覽引作「對曰、未見他異、唯作吳語耳。」○御覽引與世說本文同。世說注止引「眞長云」以下三句十六字耳。

- 99 劉眞長與丞相不相得、每曰、「阿奴比丞相條達清長。」

校記 世說品藻篇〔43〕注。○玉函13。周氏104。事見世說品藻篇43。

- 100 劉眞長病積時、公主毀悴。將終、喚主。主既見其如此、乃舉手指之云、「君危篤、何以自脩飾。」劉便牽被覆面

背之、不忍視。

校記 御覽三百六十五。○玉函 103。周氏 105。

101 孔坦爲侍中、密啓成帝、不宜往拜曹夫人。丞相聞之曰、『王茂弘驚癡耳。若卞望之之巖巖、刁玄亮之察察、戴若思之峯距、當敢爾不。』

校記 世說賞譽篇〔54〕注。○玉函 34。周氏 106。事見郭子〔鈎沈 32〕、世說賞譽篇 54。

102 蘇峻新平、溫庾諸公以朝廷初復、京尹宜得望實^(一)、唯孔君平可以處之^(二)。孔固辭、二公逼諭甚苦、孔敖然曰、『先帝大漸、卿輩身侍御牀、口行詔令、孔坦爾時正璫臣耳^(三)、何與國家事。不可。今日喪亂、而猥見逼迫。吾俎豆上腐肉、任人截割邪。』庾愧不能答。

校記 御覽二百五十二。*書鈔七十六。○天中記三四。淵鑑一二二京尹三。玉函 97。周氏 107。與世說方正篇 37同。晉書孔坦傳。

(一)○鈎沈「尹」本作「兆」、玉函亦同、今據御覽中華書局本正。書鈔孔注云、陳本同、御覽二百五十二引語林、「尹」作「兆」。(二)已上亦見書鈔七十六。○書鈔引句末有「也」字。(三)○御覽中華書局本「坦」誤作「垣」。

103 孔君平病困、庾司空爲會稽、省之、聞訊甚至、爲之流涕。孔慨然曰、『丈夫將終、不問安國寧家之術、而反作兒女相問。』庾聞、廻還謝之、請其語言。

校記 御覽七百三十九。○周氏 108。事見世說方正篇 43、晉書孔坦傳。

104 陶侃字士行、丹陽人也。鄱陽孝廉范逵宿侃舍。侃家貧、母爲截髮爲髻待之。無薪伐屋柱炊飯、斬薦以供馬。逵感之、乃爲侃立聲譽。於是顯名。侃仕至大闕^(一)。晉時人。

校記 類林雜記八。○敦煌文書 P.二五二四。白帖六、二一。

敦煌文書 P.二五二四云、「賣髮 陶侃字士衡、丹陽人也。鄱陽范逵遇侃宿。侃家貧、侃母乃截髮賣、斫屋柱炊飯、斬臥薦以飼馬。逵爲侃立聲譽、由是顯名、仕至太尉。」

事見世說賢媛篇 19、更詳。又同注所引晉陽秋、王隱晉書。又晉書陶侃傳。白帖五、二一、又一〇、一〇。參看『類林研究』 40-7。

(一) 案首末並王朋壽語。○闕字當據敦煌文書補以「尉」字。「大」當作「太」。

105 陶大尉既作廣州、優游無事。常朝自運甓磚也於齋外、暮運於齋內。人問之、陶曰、「吾方致力中原、恐爲爾優游、不復堪事。」

校記 御覽七百六十七。○玉函 144。周氏 111。事見晉書陶侃傳。

106 康法暢造庾公、捉麈尾至彼。公曰、「麈尾過麗、何以得在。」答曰、「廉者不求、貧者不與、故得在耳。」

校記 御覽七百三。○天中記四九。玉函 134。周氏 112。事見世說言語篇 52、高僧傳四康僧淵傳。

107 庾翼爲荊州都督^(一)、以毛扇上成帝^(二)。帝疑是故物。侍中劉劭曰、「柏梁雲構、工匠先居其下^(三)。管絃繁奏、夔牙先聆其音。翼之上扇^(四)、以好不以新^(五)。」季恭聞之曰^(六)、「此人宜在帝左右。」

校記 御覽七百二。*類聚六十九。○天中記四九。淵鑑三七九扇。玉函 84。周氏 113。事見世說言語篇 53、但以「成帝」爲「武帝」。白帖四、但以「庾翼」爲「庾懌」。

(一)○類聚引「翼」作「廣」、下倣此、皆誤。(二)○御覽中華書局本「成」作「城」、誤。(三)○御覽引「工匠」作「匠者」。(四)○類聚引「上」作「此」。御覽中華書局本「上」作「止」、誤。(五)類聚六十九「引至此止」。(六)○「季恭」當作「釋恭」。

108 王□爲諸人談、有時或排擯高禿、以如意注林公、云、『阿柱、汝憶搖櫓時不。』阿柱乃林公小名。

校記 書鈔一百三十五。○周氏 114。參看世說輕詆篇 21 余嘉錫箋疏。

109 諸人嘗要阮光祿共詣林公、阮曰、『欲聞其言、惡見其面。』

校記 世說容止篇(31)注。○玉函 18。周氏 115。

110 林公云、『文度著膩顏、挾左傳、逐鄭康成、自爲高足弟子。篤而論之、不離塵垢囊也。』

校記 世說輕詆篇(21)注。○天中記四七。玉函 30。周氏 117。事見世說輕詆篇 21。

111 謝興在中朝、恒游宴、還家甚少。過江不復宿行。后一宿行、家遣之。乃自歎曰、『不復作樂、日分在朝。與阮千里總章重聽一典、六日亡歸。今一宿行、而家業紙也。』

校記 書鈔一百五。案「家遣之」已下有譌奪字。唐類函引作「謝興在中朝、恒游宴、還家甚少、偶與阮千里總章中聽一典、六日忘歸。」亦臆改。○淵鑑一八四樂總載。玉函 55。周氏 177。書鈔孔注云、「今案此條有誤」。

112

謝鎮西酒後、於槃案間爲洛市肆鴝鵒舞、甚佳。

校記 六帖九十五云、謝尚字仁祖、酒後爲鸚鵒舞、一坐傾笑。○世說任誕篇32注。今刪六帖引易以世說注。白帖二九一五、與六帖略同、又一八一三。淵鑑四二八鸚鵒。周氏123。王重民『敦煌古籍叙錄』云、P.五五二二引語林、未見之。事見晉書謝尚傳。李瀚蒙求注上「謝尚鸚鵒」。何氏語林二五。

113

謝仁祖爲鎮西將軍、著紫羅襪、據珊瑚床(一)、在大市佛圖門樓上(二)、彈琵琶、作大道之曲。

校記 書鈔一百二十九。類聚四十四、又七十。御覽五百八十三、又六百九十五。○李嶠雜詠一百二十首注琵琶詩、今以爲底本。天中記四三。淵鑑一八九琵琶、又三七四襪、又三八二胡牀。玉函58。周氏151。事見樂府詩集七五引樂府廣題、白帖一八一七。何氏語林二五。

鈎沈原文云、謝鎮西著紫羅襪、乃據胡牀、在大市佛圖門樓上、彈琵琶、作大道曲。

(一)○「珊瑚床」他本皆作「胡牀」。(二)書鈔引無此句。○御覽六九五引亦無。

114

謝公云、『小時在殿廷、會見丞相、便覺清風來拂人。』

校記 世說容止篇(25)注。○玉函16。周氏124。

115

謝安謂『裴郎乃可不惡(一)。何得爲復飲酒。』

校記 世說輕詆篇(24)。

(一)○鈎沈「郎」本作「啓」、而「啓」下有「云」字、不知鈎沈何據。今據改。

116 謝安目支道林、如九方臯之相馬、略其玄黃、取其偶逸。

校記 世說輕詆篇〔24〕。○周氏 152。事見高僧傳四支遁傳。

117 謝太傳問諸子姪曰〔一〕、『子弟何豫人事〔二〕、而正欲使其佳。』諸人莫有言者〔三〕。車騎答曰、『譬如芝蘭玉樹、欲其生於庭階也〔四〕。』

校記 類聚八十一、又六十四。初學記二十七。○白帖三〇二八止引車騎之答耳。*六帖一〇〇。藥字抄。御覽九八三。淵鑑三四九庭、又四〇八蘭。玉函 83。周氏 154。事見世說言語篇 92。又同 78。參看同 71、又晉書謝玄傳、建康實錄九。

〔一〕○初學記引「弟」作「姪」。〔二〕○初學記、類聚八一引「豫」作「預」。〔三〕○類聚六四引無「者」字。〔四〕○類聚八一引「庭階」作「階庭」、類聚六四引「也」作「耳」。類聚八一、初學記引俱無「也」字。

118 有人詣謝公別。謝公流涕、此人了不悲〔一〕。既去。左右曰、『向客殊自密雲〔二〕。』謝公曰、『非徒密雲、乃自旱雷爾〔三〕。』

校記 御覽四百八十九。○類聚二九。淵鑑三〇〇別。玉函 122。周氏 153。

〔一〕○御覽引無「此」字、鈎沈亦無、因而今據類聚補。玉函作「其」。〔二〕○鈎沈脫「向」字、今據補。〔三〕○御覽引無「爾」字。今據類聚補。

119 羊驍因酒醉、撫謝左軍謂太傳曰、『此家詎復後鎮西。』太傳曰、『汝阿見子敬、便沐浴爲論兄輩。』

校記 世說賞譽篇〔146〕注。○玉函 11。周氏 156。

120 太傅府有三才。裴邈清才、潘陽仲大才、劉慶孫長才。

校記 御覽二百六。○記纂淵海一一〇。淵鑑六三太傅。玉函 94。周氏 41。周氏因裴・潘・劉皆是西晉太傅司馬越之幕下而移到鈎沈 35 陳壽之後、次條亦同。事見世說賞譽篇 28。參看同 22。

121 王太保作荊州^(一)、有二兒亡^(二)、一兒欲還葬舊塋^(三)、一兒欲留葬^(四)。太保乃垂涕曰^(五)、『念故鄉仁也^(六)。不戀本土達也。唯仁與達、吾二子其有焉^(七)。』

校記 書鈔九十二。御覽三百八十七、又五百五十六。○淵鑑一八一葬。玉函 44。周氏 40。周氏因王祥是魏晉人而以此條及前條移到鈎沈 35 陳壽之後。事見晉書王祥傳。白帖一九三五。

(一)〔作荊州〕三字御覽引有。○御覽五五六引無。(二)○御覽五五六引「亡」作「喪」。(三)○御覽三八七引無「欲」字、又五五六引無「葬」字。(四)○御覽三八七引無「欲」字。(五)○御覽三八七引無「乃」字。(六)○御覽引「念」作「不忘」。(七)○御覽兩引俱無「其」字。

122 雷有寵、生活洽。

校記 世說惑溺篇〔7〕云、王丞相有幸妾、姓雷、頗預政事、納貨。蔡公謂之雷尚書。注引語林云々。○天中記一九。玉函 38。周氏 125。參看郭子(鈎沈 34)。

123 蘇峻新平、帑藏空、猶餘數千端麗練^(一)。王公謂諸公曰、『國家凋敝、貢御不致^(二)。但恐賣練不售。吾當與諸賢各

製練服之。『月日間賣、遂大售、端至一金。』

校記 御覽八百二十八。○玉函 148。周氏 109。事見晉書王導傳。白帖二、又八二九。何氏語林六。

(一)○御覽中華書局本「端」下有「分」字。(二)○中華書局本「致」作「至」。

124 王丞相拜揚州、賓客數百人、並加霑接、人人有悅色。唯有臨海一客、姓名顯(一)、時官在都、預王公坐(二)。及數胡人爲未洽。公因便還到過任邊云、『君出臨海、便無復人。』任大喜悅、因過胡人前、彈指云、『蘭閣蘭閣。』羣胡同笑、四坐並權(三)。

校記 世說政事篇(12)注。○鈎沈前後以世說本文補、與玉函引全同。玉函 4。周氏 119。

(一)〔至「姓任」〕已上依世說政事篇補。(二)世說注引語林。(三)「及數人」至此已上並依世說補。

125 丞相拜司空、諸葛道明在公坐(一)。王指冠冕曰(二)、『君當復著此乎(三)。』

校記 世說識鑒篇(11)注。御覽六百八十四。○玉函 8。周氏 119。事見晉書諸葛恢傳。何氏語林一六。

(一)○鈎沈「明」本作「民」、今依世說、御覽引改爲「明」。御覽引無「公」字。(二)○御覽引有「王」字、今依補。(三)○世說注引無「乎」字、御覽引有。

126 明帝函封與庾公信(一)、誤致與王公(二)。王公開詔、末云、『勿使冶城公知道(三)。』既視、表答曰、『伏讀明詔、似不在臣、臣開臣閉、無有見者。』明帝甚愧、數月不能出見王公(四)。

校記 書鈔一百三。御覽四百九十一、又五百九十三。○淵鑑一九七詔。玉函 53。周氏 118。事見何氏語林三〇。

(一)○御覽五九三引「封」下有「詔」。(二)○御覽五九三引鮑本「與」作「於」。御覽四九二引無「庾公」以

下八字。(三)○御覽四九一引中華書局本「治」作「治」、誤。又無「道」字。又五九三引「道」作「導」而下接。(四)○御覽四九一引「能出」作「欲」、又五九三引無「出」字。

127 何公爲揚州、有葬親者^(一)、乞數萬錢、而帳下無有。揚州常有楊胡恩切米^(二)、以賑孤寡、乃有萬餘斛^(三)。虞存爲治中、面見道、『帳下空素^(四)、求祭此米^(五)、付帳下。』何公曰、『何以道義不與孤寡爭粒^(六)。』

校記 御覽二百五十八、又四百二十六。書鈔三十八。○淵鑑二二八廉潔。玉函98。周氏126。事見何氏語林一。
(一)書鈔引無「葬親」二句。○御覽四二六引此一句作「親親有葬者」五字。(二)(鈎沈注)「御覽二五八」引作「糲」○書鈔引無「有葬」以下至「揚州」十五字、「楊」作「搗」。案楊或是「搗」字之訛。御覽注「胡恩切」又是「胡思切」歟。(三)○御覽四二六引「萬餘斛」作「千萬餘斛」、書鈔引作「十萬斛」。(四)○御覽四二六引「素」作「索」。(五)(祭)、一(御覽四二六)引作「糲」。○書鈔、御覽「米」下皆有「付帳下」三字、鈎沈脫此三字、今據補。玉函亦脫。書鈔引此句作「求糲此數萬斛」。御覽四二六引中華書局本「祭」作「出米」。(六)(書鈔)末云、「何名宏、字以道。」蓋永興注。○御覽二五八、又四二六引俱作「何次道」、「次道」、今據改。又四二六引「孤寡」上有「其」字。

128 阮光祿聞何次道爲宰相、歎曰、『我當何處生活。』

校記 世說品藻篇(27)注。○天中記二九。玉函12。周氏116。事見世說品藻篇27。何氏語林二八。

129 王仲祖有好儀形^(一)、每覽鏡自照曰^(二)、『王文開那生如馨兒^(三)。』時人謂之達也^(四)。又酷貪。帽敗、自以形美、乃入帽肆、就帽嫗戲、乃得新帽。

校記 御覽八百二十八。*世說容止篇〔29〕注。○天中記二二。玉函17。周氏127。後半又見李瀚蒙求注下「王濛市帽」。晉書王濛傳。建康實錄八。類林雜說九。*何氏語林四。

（一）御覽引作「少有三達」。（二）○御覽引無「每」、又「照」作「翫」。（三）御覽引作「王開山那生此兒」。（四）世說容止篇注〔引至此止〕。○御覽引無此一句。

130 王仲祖病、劉眞長爲稱藥、苟令則爲量水矣。

校記 御覽七百三十九。○淵鑑二六七疾。周氏130。事見何氏語林二四。

131 桓宣武外甥、恒在坐鼓琵琶。宣武醉後、指琵琶曰、「名士固亦操斯器。」

校記 御覽五百八十三。○天中記四三。淵鑑一八九琵琶。玉函125。周氏142。

132 桓宣武性儉。著故褌上馬不調、褌敗五形遂露。

校記 御覽六百九十六。○玉函131。周氏141。

133 桓宣武與殷劉談、不知其不堪^(一)。喚左右取黃皮袴褶^(二)、上馬持稍數迴、或向劉或擬殷、意氣始得雄王^(三)。

校記 御覽三百五十四。*書鈔一百二十四。○淵鑑二二四稍。玉函51。周氏140。事見何氏語林二一。

（一）五字、御覽引作「不如甚」。（二）○「左右」書鈔引作「右左」、蓋誤。御覽注「褶」字云、「音十」。（三）

○玉函注云、「北堂書鈔卷一百二十四稍部、陳禹謨補注引此節末句作以示武勇」。淵鑑引亦同。

134 桓温自以雄姿風氣。司馬宣王、劉越石一輩器、有以比王大將軍者^(一)、意大不平。征苻健還、於北方得一巧作老婢、乃是劉越石妓女。一見温入、潸然而泣。温問其故、答曰、『官家甚似劉司空。』温大悅、卽出外、脩整衣冠、又入呼問、『我何處似司空。』婢答曰、『眼甚似、恨小。面甚似、恨薄。鬚甚似、恨赤。形甚似、恨短。聲甚似、恨雌。』宣武於是弛冠解帶、不覺惛然而睡、不怡者數日。

校記 御覽三百九十六。○記纂淵海五七。玉函114。舊小說9。周氏139。事見晉書桓温傳、御覽五〇〇引傳「面」作「唇」。何氏語林二二。參看殷芸小說(鈎沈103)。

(一)○御覽中華書局本「比」作「叱」、誤。

135 羅含在桓宣武坐、人介與他人相識。含正容曰、『所識已多、不煩復爾。』

校記 御覽四百九十八。○玉函123。周氏143。事見世說方正篇56。

136 袁真爲監軍^(一)、范玄平作吏部尚書^(二)、一坐語袁^(三)、『卿此選還不失護軍。』袁曰、『卿何事人中作市井。』

校記 類聚四十八。御覽二百十五。○天中記三一。五朝小說18。淵鑑七六吏部尚書。玉函80。周氏148。事見何氏語林二八。

(一)○御覽引「軍」作「運」、訛誤。(二)○類聚引「玄」作「去」、訛誤。(三)○類聚引「一」作「大」、御覽引亦同、蓋誤。

137 丞相嘗曰、『堅石挈脚、枕琵琶、故自有天際想。』

校記 世說容止篇(32)注。○天中記四三。玉函19。周氏122。參看世說容止篇32。

138 劉承胤少有淹雅之度^(一)。王庾溫公皆素與周旋、聞其至、共載看之。劉倚被囊、了不與王公言、神味亦不相酬。俄頃賓退。王庾甚怪此意未能解。溫曰、『承允好賄、新被下必有珍寶^(二)。當有市井事。』令人視之、果見向囊皆珍玩、正與胡父諧賈。諧賈賣鬻。

校記 御覽七百四。○天中記四九。淵鑑三七九囊。玉函135。周氏121。事見何氏語林二五。
(一)○鈎沈「胤」本作「允」、玉函亦同、今據御覽正、下倣此。(二)○鈎沈無「被」字、今據御覽中華書局本補。

139 謝萬就安乞裘云^(一)、『畏寒。』答曰、『君妄語、正欲以爲豪具耳。若畏寒、無復勝綿者。』以三十斤綿與謝^(二)。
校記 御覽六百九十四、又八百十九。○天中記四七、又五〇。淵鑑三六六綿。玉函130。周氏155。事見何氏語林一九。

(一)○御覽八一九引「安」作「人」。(二)「千」一引作「十」。○御覽六九四鮑本、玉函俱作「千」。御覽中華書局本兩引皆作「十」、今依改。

140 王藍田食雞子、以箸刺之不得、便大怒、王述也。投於地。

校記 御覽七百六十。○淵鑑三八五匕箸。玉函142。周氏137。事見世說忿狷篇2。晉書王述傳。李瀚蒙求注下。白帖八四一。六帖二八。建康實錄八。事文類聚別集一六。

141 王藍田少有癡稱。王丞相以門第辟之^(一)。既見、無他問^(二)、問來時米幾價^(三)。藍田不答。直張目視王公^(四)。王

公云^(五)、『王掾不癡、何以云癡^(六)。』

校記 御覽二百四十九、又四百九十。○書鈔六八。五朝小說17。玉函96。周氏135。事又見建康實錄八。參看世說賞譽篇62。晉書王述傳。何氏語林一二。桂馥『札樸』四覽古「癡」。

(一)○書鈔、御覽四九○引無「王」字。書鈔引「門第」作「記室」、御覽兩引中華書局本、二四九鮑本皆作「地」一字。(二)○鈎沈此句作「他無所問」、御覽二四九、玉函引皆作「無所他問」、御覽四九○引中華書局本作「他無問」、鮑本作「無他問」。今據書鈔改。(三)○書鈔引無「來時」二字。御覽四九○「米」上有「東」字。(四)○御覽四九○引兩本「視」作「睨」。(五)○御覽四九○引無「王公」二字。(六)○書鈔引無此句四字。

142 王藍田作會稽^(一)。外自請諱^(二)。答曰、『惟祖惟考、四海所知、過此無所復諱^(三)。』

校記 書鈔九十四。御覽五百六十二。○淵鑑一八一諱。玉函46。周氏136。事見世說賞譽篇74。晉書王述傳。建康實錄八。事文類聚後集三。

(一)○御覽中華書局本「會稽」下有「令」字。(二)○御覽中華書局本此句作「人問諱」三字。鮑本無「自」。(三)○御覽引此句作「過無復諱」。

143 孫興公作永嘉郡、郡人甚輕之。桓公後遣傳教令作敬夫人碑。郡人云、「故當有才。不爾桓公那得令作碑。」於此重之。

校記 御覽五百八十九。○淵鑑二○○碑文。玉函126。周氏131。

144 褚公與孫綽游曲阿後湖^(一)。狂風忽起、舫欲傾^(二)、褚公已醉^(三)、乃曰、『此舫人皆無可以招天譴者^(四)、唯興公多

塵滓^(五)、正當以厭天欲耳^(六)。『便欲捉擲水中^(七)。孫遽無計^(八)、唯大啼曰^(九)、『季野、卿念我^(一〇)。』

校記 類聚九。寰宇記八十九。御覽六十六引、有注云、褚公褚彥回、季野褚公字也。○太平寰宇記八九丹陽縣（至順鎮江志二一亦引）。永樂大典二二七一引御覽。天中記一〇。淵鑑三三湖。玉函72。周氏132。事見何氏語林二八。參看世說輕詆篇9。

（一）○寰宇記引此句作「晉太傅褚袞游於湖」。御覽引亦無「與孫綽」三字。（二）○寰宇記、御覽引俱「舫」作「船」。御覽又無「欲」。（三）○類聚引「褚」誤作「諸」。（四）○寰宇記引「舫」下有「之」。（五）○「唯」下御覽引有「有」字、寰宇記亦有「有孫」二字。寰宇記又「滓」作「埃」。（六）○寰宇記引「欲」作「災」。寰宇記引至此止。（七）○御覽引「捉」下有「孫」字。（八）○御覽引「遽」作「懼」。（九）○御覽引「啼」作「呼」。（一〇）○晉書云、「褚袞字季野」、御覽以南齊褚淵字彥回混爲一人、今正。

145 王太尉問孫興公曰、「郭象何如人^(一)」。答曰、「其辭清雅、弈弈有餘^(二)、吐章陳文、如懸河瀉水、注而不竭。』

校記 書鈔九十八、又一百。○周氏129。事見晉書郭象傳。敦煌文書P.二四二五。參看世說品藻篇36。
（一）○書鈔一〇〇引無「人」字。（二）○書鈔一〇〇引「餘」作「珠」。

146 王長史語林道人曰、「眞長可謂金石滿堂。』林公以語孫興公、興公曰、「語不得爾選擇、正可得少碎珠耳。』

校記 御覽八百三。○淵鑑三六四珠。玉函145。周氏165。事見世說賞譽篇83前半。

147 晉孝武好與虞嘯父飲酒、不醉不出。後臨出拜^(一)、殆不復能起^(二)。帝因呼人扶上殿^(三)、虞侍中嘯父答曰、「臣位未及扶^(四)、醉未及亂、非分之賜、所不敢當。』帝美之、敕左右疏取其語^(五)。於是爲風俗、人相嘲調、輒云、「好語疏

取。』

校記 類聚四十八、又二十五。御覽二百十九。○天中記二六。淵鑑八五侍中、又二六六言語、二九九嘲戲。玉函

76。周氏165。參看建康實錄九。

(一)○類聚二五引無以上二句八字。(二)○類聚二五引此句作「殆醉拜不能起」。同四八引無「能」字。(三)○鈎沈無「因」字、今據類聚四八、御覽補。類聚四八引作「帝因呼人扶上殿」、二五引作「帝呼人扶」、御覽引作「帝因呼人扶上殿扶」、今從類聚四八。(四)○御覽鮑本「位」作「立」。(五)○類聚四八、御覽俱引至此止。類聚二五引無「左右」二字、又無「其」字。類聚四八、御覽引俱無「取」字。

148 毛伯成負其才氣(二)、常稱『寧爲蘭摧玉折、不作蒲芬艾榮』。

校記 文選顏延年祭屈原文注(胡刻本六〇)。御覽九百八十三。○玉函92。周氏145。事見世說言語篇96。
(一)○御覽引「負」上有「既」字、又「氣」作「器」。(二)〔蒲芬〕御覽引作「蕭芬」。

149 王中郎以圍碁爲手談(二)、故其在哀制中、祥後客來方幅會戲。

校記 世說巧藝篇(10)注。

水經注二十二引云、王中郎以圍碁爲坐隱、或亦謂之手談、又謂之爲碁聖。

類聚七十四引云、王中郎以圍碁是坐隱、支公以碁爲手談。『山谷外集』史容注引語林、與類聚同。』

御覽七百五十三引云、王中郎以圍碁爲坐隱、亦以爲手談。

海錄碎事十四引略同水經注、「或亦謂之」作「支公以圍碁爲」。

○類說三一引世說。能改齋漫錄六。山谷外集二「弈碁」注引。續博物志九。淵鑑三二九圍碁。玉函23。周氏138。

事見何氏語林二五。

(一)○世說注無「王中郎」三字、鈎沈依他書補。

150 桓野王善解音、晉孝武祖宴西堂、樂闌酒闌、將詔桓野王箏歌、野王辭以須笛。於是詔其吹笛奴碩^(二)、賜姓曰張、加四品將軍、引使上殿、張碩意氣激揚、吹破三笛、末取睹脚笛^(三)、然後乃理調成曲。

校記 類聚四十四。*初學記十六。*六帖六十二。○天中記四三。淵鑑一八九等。玉函 79。周氏 167。事見世說任誕篇 49 注引續晉陽秋。白帖一八二五云、「野王、伊小字也」。何氏語林二六。參看建康實錄九。何氏語林一九。
(一)初學記十六云、古之善吹笛者、桓子野及奴顧〔六帖作碩〕。注見語林。六帖六十二同。○亦見白帖一八二五。
(二)○類聚引「睹」作「睹」、訛。汪紹楹校語云、按世說輕詆篇、蔡伯喈睹睹條、注引伏滔長笛賦序桓子野有故長笛、云蔡邕之所作云々、疑當作睹睹條。

151 晉孝武祖宴西堂、詔桓子野彈箏、桓乃撫箏而歌怨詩、悲厲之響、一堂流涕。

校記 書鈔一百十一。○周氏 166。事見晉書桓伊傳。又世說任誕篇 49 注引續晉陽秋。

152 向世闌歌、桓子野一聞而洞歌。

校記 書鈔一百六。案有譌奪。○書鈔孔注云、今案此條有譌奪、陳奩本刪。周氏 178。

153 張湛好於齋前種松柏^(一)、養鴿^(二)。袁山松出游、好令左右作挽歌^(三)。時人謂、『張屋下陳屍、袁道上行殯』。

校記 世說任誕篇〔43〕注。書鈔九十二。御覽三百八十九、又五百五十二。○初學記一四。群書類編故事一二。

淵鑑二八二挽歌。玉函 27。周氏 149。事又見世說任誕篇 43。天中記五一。

(一) 世說注引無「柏」字。○初學記引亦同。書鈔引「湛」作「堪」、誤。御覽引「齋」作「齊」、亦訛。(二) 御覽三八九引無此句三字。(三) (挽歌) 二字書鈔引作「行路難辭」。○初學記引「作」作「行」、書鈔、御覽引皆無「作」字。

154 有人目杜弘治、標解甚清令(二)、初若熙怡容無韻、盛德之風、可樂詠也。

校記 世說賞譽篇(71)注。○何氏語林一六注。玉函 9。周氏 146。事見世說賞譽篇 71。
(一) ○鈎沈「弘」作「宏」、清諱、今改。

155 異才(二)、時賢皆重之。王右軍在郡、迎敬仁、叔仁輒同車、常惡其遲。後以馬迎敬仁、雖復風雨、亦不以車也。

校記 世說賞譽篇(134)注。○玉函 10。周氏 164。事見何氏語林二四。
(一) ○鈎沈補「王」字、玉函亦同。

156 右軍年十三、嘗謁周顗(二)。時絕重牛心炙(三)、坐客未噉、顗先割啖羲之、於是始知名(三)。

校記 書鈔一百四十五。以晉書補。○淵鑑三八九炙。玉函 69。周氏 158。事見世說汰侈編 12。晉書王羲之傳。白帖五二四、又八二九。建康實錄八。

(一) 四字依晉書補。○淵鑑、玉函俱「三」作「一」。據書鈔孔注可知陳·俞兩本作「十一」。(二) 書鈔一百四十五引語林。(三) 「坐客」至此已上並依晉書補。

157 王右軍少嘗患癩^(一)、一二年輒發動。後答許掾詩、忽復惡中、得二十字云、『取歡仁智樂、寄暢山水陰、清冷澗下瀨、歷落松竹林。』既醒、左右誦之。讀竟乃歎曰、『癩何預盛德事邪。』

校記 御覽七百三十九。○周氏 158。

(一)○御覽中華書局本「患癩」作「重患」。

158 王右軍目杜弘治^(一)、歎曰^(二)、『面如凝脂、眼如點漆、此神仙中人^(三)。』

校記 初學記十九。御覽三百六十五、又三百六十六、又三百七十九。○九家注杜詩一五、一一「醉歌行」。趙次公注杜詩已帙卷三同上。萬花谷續集五。淵鑑二五五美丈夫、又二五九面。玉函 90。周氏 158。事見世說容止篇 26。白帖七、一、又九。九。琬玉集美人篇引晉抄。御覽三八九引世說。事文類聚後集一八。

(一)○御覽三六五、三六六引「目」作「見」。 (二)御覽引有「歎」字。○御覽三七九引無。 (三)○御覽三六五引「此」作「如」。同三七九引句末有「也」字。

159 王右軍爲會稽令^(一)、謝公就乞牋紙^(二)。檢校庫中^(三)、有九萬枚^(四)、悉以付之^(五)。桓宣武曰^(六)、『逸少不節。』

校記 初學記十二。御覽二百五。*類聚五十八。*書鈔一百四。○事類賦注一五。五色線下。*山谷詩集注一九「求范子默染鴉青紙二首」之二注。錦繡萬家谷前集三三。永樂大典二八〇七引爲唐語林、誤。淵鑑二〇五紙。玉函 91。周氏 157。事見嘉泰會稽志一八引百衲琴、又云小說、今不見殷芸小說。文房四譜四。類說六〇引。何氏語林二一。

(一)○御覽、事類賦注引無「令」字。 (二)○御覽、賦注引無「就」字、賦注又無「紙」字。 (三)(檢校)二字類聚引有。 (四)○初學記、御覽引「有」上有「唯」字。賦注引「枚」作「張」。 (五)類聚五十八引作

「有九萬牋紙、悉以乞謝公」。書鈔一百四引作「謝公就王右軍乞牋紙、檢有九百萬、悉與謝公」。○初學記、御覽、賦注俱「以付」二字作「與」一字。（六）○御覽中華書局本「桓宣武」作「桓帝」、誤。鮑本作「桓宣」。

160

王子猷嘗暫寄人空宅住、使令種竹。或問、『暫住、何煩爾。』嘯咏良久、直指竹曰、『何可一日無此君。』

校記 御覽三百八十九。○玉函111。舊小說7。周氏161。事見世說任誕篇46。晉書王徽之傳。白帖三。建康實錄八。事文類聚後集二四。群書類編故事二三。筭譜（百川學海本）。何氏語林二六。

161

王子猷居山陰、大雪夜眠覺^(一)、開室酌酒^(二)、四望皓然、因起徬徨^(三)、詠左思招隱詩^(四)。忽憶戴安道。時戴在剡溪^(五)、即便夜乘輕船就戴^(六)、經宿方至、既造門、不前便返^(七)。人問其故^(八)、曰、『吾本乘興而來^(九)、興盡而返、何必見戴^(一〇)。』

校記 類聚二。初學記二。御覽十二。事類賦注三。*草堂詩箋十八節引。○草堂詩箋一八云、語林、王子猷居三陰、雪夜因詠招隱詩、忽憶戴安道。安道時在剡、乘興撐舟、經宿方至、造門而返。或問之、對曰、乘興而來、興盡而返、何必見戴也。

九家注杜詩三四、五「哭李尚書」、又三六八略引。趙次公注杜詩已帙卷六「舟中夜雪有懷盧十四侍御第一首」。天中記三。淵鑑九雪。三農紀一。玉函71。舊小說6。周氏161。事見世說任誕篇47。李瀚蒙求注上。晉書王徽之傳。白帖八三六、又一、二、二八。建康實錄八。事文類聚前集四。

（一）○初學記、御覽、賦注引並無「眠覺」二字。（二）○初學記、御覽中華書局本皆「酌」作「命」、賦注、御覽鮑本「酌酒」作「命酌」。（三）○初學記、御覽、賦注引並無「起徬徨」三字。（四）○初學記、御覽、賦注引並無「左思」。（五）○初學記、御覽引俱無「戴」、「溪」二字。宋本賦注引「戴」作「安道」、亦無「溪」

字。(六)○初學記此句八字作「乘興棹舟」四字、御覽、宋本賦注亦同。通行本賦注作「便乘舟往」。(七)○初學記、御覽、宋本賦注引並無「不前便」三字。通行本賦注無「不前」二字。(八)○此句初學記、御覽、賦注引並作「或問之、對」四字。(九)○初學記、御覽、賦注引並無「吾本」二字。類聚引「來」作「行」。(一〇)○御覽引文末有「安道」二字。

162

王子敬在齋中臥。偷人齋取物幪裝^(一)、一室之內^(二)、略無不盡^(三)。子敬臥而不動^(四)。偷遂復登厨^(五)、欲有所覓^(六)。子敬因呼曰、「偷兒、石漆青氈^(七)、是我家舊物、可特置不^(八)。」於是羣賊始知其不眠^(九)、悉置物驚走^(一〇)。

校記 御覽三百六十一、又七百八。書鈔一百三十四。六帖九十一。○白帖二八四、亦四。六帖一四節引。九家注

杜詩一七、一八「與任城許主簿游南池」。天中記四八。淵鑑三二五雜盜、又三七七氈。玉函¹¹³。周氏¹⁶²。事見晉書王

獻之傳。建康實錄十。事文類聚續集一一。何氏語林一四。

白帖二八、六帖九一雜盜云、語林曰、王子敬臥齋中、偷人取物、臥不動。偷復登厨、子敬曰、偷兒、青氈我家舊物。群盜驚走。

(一)○御覽七〇八引此句作「偷人取物」四字。(二)○書鈔、御覽七〇八中華書局本並無「之內」二字。(三)○書鈔引無「無不」二字。(四)○書鈔引無此一句。(五)○御覽七〇八引無「復」。書鈔引無「登」。御覽七〇八引「厨」作「褶」、三九三中華書局本作「床」。(六)○書鈔引無此一句。(七)「石漆」二字書鈔引有。○御覽七〇八引作「石染」、鮑本「青」作「清」。(八)○書鈔引無「特」。御覽七〇八引「不」作「否」。(九)○書鈔、御覽引俱「賊」作「偷」。(一〇)○御覽七〇八引無「始知其不眠悉」六字。

163

王子敬疾篤、兄弟勸令首罪。答曰、「無所應首。唯遣鄰家女以爲恨。」

校記 御覽六百四十一。○玉函 127。周氏 163。事見世說德行篇 39。晉書王獻之傳。建康實錄十。

164 殷洪喬作豫章郡守^(二)、臨去、郡下人因附書百餘函^(三)。至石頭悉擲水中^(三)、因呪之曰^(四)、『沈者自沈、浮者自浮。殷洪喬不能作達書郵。』

校記 類聚五十八。御覽五百九十五。*書鈔一百三。○淵鑑一九七書記。玉函 82。周氏 133。事見世說任誕篇 31、又三十國春秋(初學記六江引)。李瀚蒙求注下。晉書殷浩傳(又御覽七一引)。豫章古今記(明鈔說郭五一引)。建康實錄八。白帖一〇二三。

(一)○鈎沈「郡」下本有「守」字、而類聚、御覽、玉函、淵鑑皆無、恐衍、今刪。(二)○類聚此句九字作「人寄百餘函書」六字。御覽引無「下」字、而「因附書百餘函」作「寄百餘函書」。(三)書鈔一百三(引至此止)。
○類聚引「至」上有「既」。(四)○御覽中華書局本「呪」作「視祝」。

165 殷公北征、朝士出送之。軍容甚盛、儀止可觀、陳說經略攻取之宜。衆皆謂必能平中原。將別、忽馳逞才^(二)、自繫馬遂墮地。士以是知其必敗。

校記 御覽四百八十九。○玉函 121。周氏 134。
(一)○御覽中華書局本引無「馳」。

166 桓玄不立忌日、止立忌時^(二)。每至日絃歌不廢^(三)。

校記 書鈔九十四。御覽五百六十二。*世說任誕篇(50)注。○陸龜蒙小名錄上。*淵鑑一八一忌日、節引。玉函 47。周氏 170。

(一)(止立) 御覽引作「政有」。世說任誕篇注(引至此止)。○書鈔引無「止立」之句。小名錄引亦同、作「止忌五

時」。 (二)○御覽此句作「絃觴無廢」。

167 桓玄字信廼、沛國龍亢人也。晉時爲郗公、與荊州刺史殷仲堪語次、二人遂相爲嘲(二)。玄曰、『火燎平原無遺燎。』堪曰、『投魚深泉放飛鳥。』次復危言。玄曰、『矛頭漸米劍頭炊、百歲老翁攀枯枝。』堪曰、『井上轆轤臥小兒。』晉末安帝時人。

校記 類林雜說五。案首尾皆王朋壽語。○周氏 169。事見世說排調篇 61。又參看世說文學篇 65。又『類林研究』 23。

(一)○類林雜說原文「二」作「一」、鈎沈原稿亦同、三十八年版全集據文理改爲「二」。

168 祖約少好財、阮遙集好屐、並常自經營。同是一累、而未判其得失。有詣祖、見料視財物。客至、併當不盡、餘兩簋、以置背後、傾身障之、意未能平。或有詣阮、正見自蠟屐、因歎曰、『未知一生當著幾量屐(二)。』神甚閑暢。於是勝負始分也。

校記 御覽三百八十九。○玉函 110。周氏 144。事見世說雅量篇 15。建康實錄七。事文類聚續集二〇。
(一)○御覽引中華書局本「量」作「綱」。

169 范啓云、『韓康伯以肉鴨。』

校記 世說輕詆篇(28)注。海錄碎事八引末六字。首作「說林云」。○世說各本注亦云「出說林」。玉函注云、「引

說注引語林裴啓云「鈎沈或依此引、當刪。周氏 179。」

170 任元褒爲光祿勳、孫翊往詣之^(一)、見門吏憑几視之^(二)。孫入語任曰、「吏憑几對客^(三)、不爲禮^(四)。」任便推之^(五)、吏答曰、「得罰體痛、以橫木扶持、非憑几也。」任曰^(六)、「直木橫施、植其兩足、便爲憑几。何必孤鵠蟠膝^(七)、曲木抱要也^(八)。」

校記 書鈔一百三十三。御覽七百十。事類賦注十四。○天中記四八。淵鑑三八二几。玉函 63。周氏 33。因任元褒是西晉人、周氏以此條移到 27 嵇康之後。

(一)○「孫」下御覽中華書局本有「憑」、賦注、引有「馮」。(二)○書鈔引無「之」。(三)○御覽中華書局本、賦注引俱無「憑」。(四)已上十字、御覽引有。○賦注引亦有。(五)○書鈔引無「便」。賦注引「推」作「捶」。(六)○御覽、賦注引俱「任」作「孫」。(七)○「孤鵠蟠膝」、書鈔引作「孤蟠鵠膝」、御覽中華書局本作「孤蟠鵠膝」、鮑本作「孤鵠蟠膝」、賦注作「孤蟠鵠膝」、淵鑑、玉函俱作「孤鵠蟠膝」。(八)○御覽、賦注「要」作「腰」。御覽又無「也」。

171 范信能噉梅^(一)、人常致一斛^(二)、留信食之^(三)、須臾而盡^(四)。

校記 類聚八十六。御覽七百十七、又九百七十。事類賦注二十六。書鈔一百三十五引云、范汪至能噉散梅、人致一斛、留信待嚴、噉還之。○孔注云、「今案本條有脫誤」。天中記五二。淵鑑四〇〇梅。玉函 66。周氏 150。事見瑯琊代醉編二八。何氏語林三〇。廣群芳譜五四。

(一)書鈔、事類賦注、御覽引並作「范汪」。○玉函引作「范信」。書鈔孔注云、類聚引作范信。但類聚上海古籍出版社本作「范任」、案當作「汪」。或鈎沈據玉函作「范信」。御覽、宋本賦注引俱「能」上有「至」。御覽九七〇、賦

注引並「噉」作「啖」。(二)○宋本賦注引無「人」。書鈔、御覽七一一引無「常」。賦注引「致」作「置」、御覽七一一鮑本作「至」。(三)○御覽九一〇、賦注引並無此一句。御覽七一一空四格而後有「噉」字。鮑本空三格而有「噉」。(四)○御覽九一〇引中華書局本、賦注引俱「而」作「啖」。御覽鮑本無「而」。御覽七一一引文末有「也」。

172 王東亭作經王公酒壚下賦。

校記 世說文學篇(90)云、裴郎作語林、載王東亭作經王公酒壚下賦、甚有才情、賦佚不傳。今存其目。○參看世說傷逝篇2。

173 諸阮以大盆盛酒、木杓數枚也(一)。

校記 御覽七百六十二。○玉函143。周氏180。參看世說任誕篇12。
(一)○玉函、御覽鮑本俱「杓」作「勺」。

174 董仲道常在客宿、與王孫隔共語、同行人曰、『此人行必爲亂。』後果爲亂階。

校記 御覽三百八十八。○玉函109。周氏49。因董養字仲道是西晉人、周氏以本條移到27嵇康之後。

175 賢者國之紀、人之望。自古帝王皆以之安危。故書曰、惟后非賢不乂、惟賢非后不食。昔者周公體大聖之德、而勸於吐握、由是天下之士爭歸之。向使周公驕而且吝、士亦當高翔遠去、所至寡矣。

校記 初學記十七。御覽四百二。○天中記二四。淵鑑二六九慕賢知賢。玉函88。周氏1。本條不甚似語林之體、

所以鈎沈放此而表示懸疑。

176 淮北滎南河濟之間、有千樹梨。其人與千戶侯等。

校記 事類賦注二十七。○周氏181。通行本賦注云、「出語林」、而宋本賦注云、「出漢書」、御覽九六九引亦作漢書。參看班固漢書貨殖傳。此條亦不似語林體、當刪。

177 大夫向闔而立。

校記 廣韵二十四鹽注。『玉篇』門部。玉函93。周氏182。周祖謨廣韻校本校勘記云、「段氏云、吳語、王背檐而立、大夫向檐。案此引語林、蓋誤。」參看說文解字注第十二篇上、門部「闔」字。當刪。

178 報至尊。

校記 書鈔二十二太子。○周氏183。鈎沈誤卷數爲七、今正。書鈔注不引原文。

179 魏張魯有十子、時人語曰、「張氏十龍、儒雅温恭。」

校記 小學紺珠七。○廣博物志八○。淵鑑二四九兄弟。古謠諺五七引廣博物志。經籍佚文引古謠諺。周氏20。事見瑯琊代醉編一三。參看張璠漢紀（御覽一五七引）。

180 茶博士。

校記 王楸野客叢書二十九云、茶博士見語林。○范寅『越諺』中「賤稱」。周氏184。案野客叢書所云「語林」不

是裴啓語林、是王讜唐語林。今收於唐語林校證輯佚。類說三三引語林（卽唐語林）中有「煎茶博士」一條。海錄碎事六、事文類聚續集一二亦引「語林煎茶博士」、與類說引同。原來是封氏聞見記卷六「飲茶」文也。當刪。

○181

蔡邕飲酒、乃至一石、常醉在路上臥^(一)。人名曰醉龍^(二)。何在此醉臥^(三)、扶而歸也。

校記

五色線下。天中記四四。佩文韻府冬韻。

（一）天中記「常」作「嘗」。（二）韻府引至此止、亦「名」下有「之」。（三）案此句有訛奪。天中記「何」作「故」、亦不通。

○182

商則任廉丘尉^(一)、爲性廉謹^(二)。縣令丞多貪濁^(三)。因宴會次第舞^(四)、令丞舞、皆動手^(五)。勸則^(六)、則把手回身而已^(七)。令問其故、則曰、『長官動手、贊府動手、惟有一箇又動手^(八)、百姓何容活耶。』人皆大笑、嘲曰、『令丞俱動手^(九)、縣尉止回身。因舞爲刺史、得與厲貪之^(一〇)。』

校記

天中記二八云、裴啓語林。又三四云、語林。事見五雜組二六。

（一）天中記二八引「任」作「仕」、「丘」作「兵」、皆誤。（二）二八引此一句作「性廉」。（三）二八引無「濁」。（四）二八引無「次第」。（五）三四引「皆動手」作「訖」。（六）二八引「勸」作「尉」。（七）二八引無「則把手」。（八）三四引「又」作「更」。（九）三四引「俱」作「但」。（一〇）二八引無以上二句。

○183

陳元方云、『周公孔子、異代而出、周旋動靜、萬里同風。』

校記

后山詩注一二「送歐陽叔弼知蔡州」。

○184 孔北海居家、賓客日滿其門、愛才樂士、常恐不及。

校記 九家注杜詩補遺 1「李監宅二首」。

○185 禰衡被武帝謫爲鼓吏。正月十五日、試擊漁陽之曲、淵淵有金石聲。

校記 隋杜公瞻撰編珠二（康熙四十九年高士奇補遺刊本景印本）。事見世說言語篇 8。參看張衡文士傳（魏志一）荀彧傳注、世說言語篇 8 注引）、後漢書八〇禰衡傳。

○186 楊脩字德祖、魏初、弘農人也。曾有人酪魏武。魏武食訖、乃題器上作合字、使人遍賜羣臣。羣臣皆莫敢食、次

至德祖、德祖便食、一口而罷。魏武問其故、對曰、『合者人一口』。魏武大笑。衆人皆伏之。又德祖曾候人作相國門、魏武任看書活字。德祖見之、卽令改。魏武問其故。德祖曰、『門中安活是闊字、王嫌闊也、是以改。』

校記 敦煌文書 S.二〇七二。此以二事合爲一條、前一事見初學記一七聰敏引劉義慶說苑、又見類林雜說四、後一事見世說捷悟篇 1。參看『類林研究』1617、不錄出處。

○187 嵇康若孤松之獨立、醉若玉山之將頽。

校記 敦煌文書 P.二五二四。事見世說容止篇 5。瑠玉集一四引晉抄。海錄碎事八上。類林雜說九不錄出處。

○188 石崇字季倫、清河人也。晉惠帝時爲侍中、善能彈琵琶。

校記 敦煌文書 P.二六三五。參看『類林研究』4316。

○189 夏侯湛與潘岳爲友^(一)。二人並美兒、連臂而行、洛中謂之連璧。

校記 敦煌文書 P.二五二四。事見郭子(鈎沈10)。世說容止篇9。李瀚蒙求注上。晉書夏侯湛傳。瑠玉集一四。白帖十一三。

(一)「堪」當作「湛」。

○190 王敦嘗坐武昌釣臺、聞行船打鼓、嗟稱其能。俄而一槌小異。敦以扇柄撞几曰、「可恨。」時王應侍側曰、「不然、此是回颿撾。」使視之、云、「船人入夾口。」應知鼓、又善于敦也。

校記 丹鉛餘錄一六。又丹鉛總錄一八。又升庵詩話四。無他書可校、餘錄一、總錄一九所引語林一條符合鈎沈82。事見瑯琊代醉編二四。何氏語林二三。

○191 王恭嘗寓于司馬道子室、尚書令謝石爲吳歌。恭曰、「居端石之重、集宰相之坐、而效流俗之音乎。」石有慙色。校記 天中記三一云、語林。

○192 孔融、字文舉。桓帝時、河南尹李膺以簡重自居、不妄接士賓客、敕外自非富世名人及與通家、皆不得^(二)。融年十餘歲、欲觀其為人、乃造膺門、語門者曰、「我是李君通家子弟。」門者言之、膺請融問曰、「高明祖父嘗與僕有舊恩乎。」融曰、「然。先君孔子與君先人李老君同德比義、而相師友、則融與公累代通家也。」衆坐莫不歎息、僉曰、「異童子也。」膺引坐語曰、「卿欲食乎。」融曰、「須食。」膺曰、「教卿爲客之禮、但讓不須謝主。」融曰、「不然、教公爲主之禮、但置食不須問客。」膺慙、乃歎曰、「吾乃將死、不見卿富貴也。」融曰、「公殊未死。」膺問何故。答曰、「鳥之將死、其鳴也哀。人之將死、其言也善。向來公所言、未有善也。是故知未死。」膺奇之。時大夫陳煒復至、坐中以告煒、煒

曰、『夫人小時了了、大未必奇。』融曰、『想君小時必當了了。』遽大踟躇、舉坐大笑不已。

校記 天中記二五夙慧引作出「後書、世記、語林」。後漢書孔融傳與世說言語篇略同、均無主客之禮及「鳥之將死、其鳴也哀」一段、與御覽四六三引後漢書不同。御覽或與他書合而引之乎、但別無確證。惟類林雜說五辯捷篇與御覽引同、疑天中記「語林」當是「類林」之筆誤而已。

(一) 天中記萬曆刊本作「皆不得」、四庫全書本「得」下有「見」字。

○193 周武王東伐、夜濟河。時月明如晝、八百之旅皆薦寶而歌。有大蜂狀如丹鳥、飛集王舟。因以鳥畫幡旗。翌日而梟紂。名其舟曰蜂舟。鄭人擊趙簡子、得其蜂旗、則其遺類。

校記 事類賦注一六。五色線上。案本條文不似語林、而且事見拾遺記二、又御覽七九六引作拾遺記、蓋賦注、五色線誤引。

○194 漢武始穿昆明池、汎翔螭舟。時日已西傾、涼風激水、女伶歌甚清。帝追思李夫人之儔不可復得、悽然賦落葉哀蟬之曲。

校記 事類賦注一六。無他書可校。此條或節引拾遺記五、恐亦賦注誤引歟。

○195 後漢葛龔字元甫、善文奏。或有請葛龔奉千于人者^(二)、龔爲作之。其人心自載其名、并寫龔名以進。時語曰、『作奏雖工、宜書葛龔^(三)。』

校記 事文類聚別集六、引爲「裴榮期語林」。蓋誤笑林爲語林、而且加以語林撰者名。參看後漢書葛龔傳注引笑林(鈎沈6)。

(一)「千」據後漢書當作「干」。(二)「書」亦當作「去」。

○196 袁山松善音樂、作行路難、辭句婉切、酒酣從而歌之、聽者莫不流涕。初吳曇善唱樂、桓氏能挽歌。及松以行路難配之、號爲三絕也。

校記 書鈔九二、孔注云、今案陳本注裴啓語林、吳作羊、配作繼。事文類聚前集五九。群書類編故事一二與「153張湛云々」引作裴啓語林。淵鑑一八二挽歌。玉函45。案玉函據陳本引本條、但孔本所引云「又云」、此承上文續晉陽秋而云、因此當然不是語林之文。蓋事文類聚等皆據陳本系統誤引。事又見建康實錄九(太元十六年)注引三十國春秋。

○197 丞相從事中郎王文英枕自作聲。

校記 淵鑑三七八枕。案本條頗類志怪、不似語林體、而且書鈔一三四、又御覽七〇七俱作出洞林、蓋淵鑑誤引。

○198 博學之士所求而不得者鮮矣。未有不求而得者也。

校記 周氏185。周氏據書鈔九七云鈎沈未收。案書鈔孔注已云、「今案御覽六百十三引鄒子、與本鈔同。陳·俞本「鄒」誤「郭」。玉函山房輯郭子一卷、遂收此條、竟爲陳·俞所誤矣。」玉函亦收於郭子而不收於語林。周氏之失、當刪。

○199 韓壽、潁川人。晉武帝時、爲掾。有姿容。太尉賈充有女、在室見壽美容、心悅之、遂與壽通。充有異香、女竊香與壽。壽得因帶之。充怪壽香、疑壽與其女通、遂問於婢。婢以實告之。充因以女妻之。晉時人。出世說。

校記 『類林研究』 45 | 16、引作「語林」、所言與雜說略同、今以雜說文代之。雜說文末云、「出世說」。今本世說

惑溺篇 35 | 5 有此記事而更詳。西夏文本誤作「出語林」。

○ 200 衛玠、字叔寶、河東安邑人。甚姿兒、觀者塞路。玠邑宿疾、因發而死。時人謂之看殺。晉時人。

校記 『類林研究』 45 | 17、引作「語林」、亦與雜說略同、唯雜說不錄出處。今引雜說之文代之。案此事亦出世說、

見今本世說容止篇 14 | 19。

郭子

原輯八四條 刪二條 凡八二條

1 魏明帝世、使后弟毛曾與夏侯太初共坐。時人謂『蒹葭倚玉樹』。

校記 御覽四百四十七。○永樂大典（以下略稱大典）一一六〇二。玉函49。各本俱合以第2條爲一文。事見世說容止篇3。白帖一二五九。六帖四三。敦煌文書S.二五二四。李白詩一二「贈宣城宇文太守」注云魏志。

2 時目夏侯太初朗如明月入懷。

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇二。玉函49。事見世說容止篇4。他皆見第1條校記（除李白詩注）。

3 許允婦是阮德如妹^(一)、奇醜^(二)。交禮竟、許永無復入理^(三)。桓範勸之曰、『阮嫁醜女與卿^(四)、故當有意、宜察之。』許使人見婦卽出、提裙裾待之^(五)。許謂婦曰^(六)、『婦有四德、卿有幾。』答曰^(七)、『新婦所乏唯容。士有百行、君有其幾。』許曰、『皆備。』婦曰、『君好色不好德、何謂皆備。』許有慙色、遂雅相重^(八)。

校記 初學記十九。六帖二十一。御覽三百八十二。○白帖七五。萬花谷續集五。*記纂淵海一八九婦言、*又一九三醜惡。類林雜說一〇引云、出語林。淵鑑二五六醜婦人。玉函24。事見魏志夏侯玄傳注引魏氏春秋。世說賢媛篇6。琬玉集一四云、出魏志。敦煌文書P.二五二四醜女篇。又P.二五四九。稗史彙編四七。參看『類林研究』46、3引阮氏之事、但闕後半、未知出自何書。

（一）○白帖、六帖引「許允婦」作「許允之婦」、又無以下五字。（二）○御覽中華書局本引「奇」作「甚」。（三）○白帖、六帖「許永無」作「不」一字。又「理」作「房」。御覽鮑本「永」作「允」。（四）○御覽鮑本「嫁」作「家」。

(五)○御覽鮑本「提」作「捉」。「待」御覽各本皆作「停」。白帖、六帖引俱無桓範之事三十字。(六)○白帖、六帖引無「謂婦」二字。(七)○御覽鮑本脫「曰」字。(八)○白帖、六帖引「雅相重」作「相敬重」。

4 許允爲吏部郎^(一)、多用其鄉里。帝遣虎賁收允^(二)。婦出閤戒允曰^(三)、『明主可以理奪、難以情求^(四)。』允至^(五)、明帝核之。允答曰、『舉爾所知。臣之鄉人^(六)、臣所知也。願陛下檢校爲稱職與否^(七)。若不稱職^(八)、臣宜受其罪。』既檢校^(九)、皆官得其人^(一〇)。於是乃釋。允舊服敗壞、詔賜新衣。初被收、舉家號哭。允新婦自云^(一一)、『無憂、尋還。』作粟粥待之^(一二)、須臾允至^(一三)。

校記 類聚四十八。書鈔六十、又一百四十四。御覽八百五十九。○淵鑑

七七吏部郎中、又三八九粥。玉函²⁴。事見魏志夏侯玄傳注引魏氏春秋。世說賢媛篇⁷、注亦引魏氏春秋。*記纂淵海一一一亦引魏氏春秋、*又九七引世說。

(一)○類聚引「許允」下有「妻阮德如妹、允」六字。書鈔一四四引無「郎」字。(二)○「遣虎賁收」四字、書鈔六〇作「收之」二字、一四四引作「遣收之」三字。御覽各本皆「收」下有「之」字、而「允」以下至「舉家號哭」爲止略之。(三)○書鈔引皆無「出閤」二字。又六〇引「戒」作「誡」。(四)○書鈔一四四引略自此句至「無憂」爲止二十句。(五)○書鈔六〇引「允」作「既」。(六)○鈎沈排印本「之」誤作「臣」。(七)○書鈔六十引「不」作「否」。(八)○書鈔六〇引無「若」。(九)○書鈔六〇引無此三字。(一〇)「官得」二字書鈔引有。○書鈔六〇引至此止。(一一)○御覽各本「新婦自」作「婦」一字。(一二)○書鈔一四四引「作」上有「婦」字。(一三)○御覽各本無此句四字。

5 孫秀降、晉武帝厚存寵之、妻以姨妹蒯氏、室家甚穆^(一)。蒯嘗妬秀^(二)、乃罵爲狒子^(三)、秀大不平之^(四)、遂出不

復入。蒯氏自悔責^(五)、請救於武帝^(六)。時大赦羣臣、咸見既出、帝獨留秀、從容言曰^(七)、『天下曠蕩、蒯夫人可得從其例不^(八)。』秀免冠謝^(九)、遂爲夫婦如初^(一〇)。

校記 類聚五十二、*又三十五。御覽六百五十二。○淵鑑一五三赦宥、又二四七妒婦略引。玉函 25。事見世說惑溺篇 4。

(一) 御覽引有此句。○類聚五三引又有此句、而鈎沈亦從類聚作「穆」字、御覽各本皆作「睦」。(二) 類聚三五引自此句、因而作「孫秀妻蒯嘗妬、罵秀爲貉」。類聚五二、御覽各本「蒯」作「妻」。御覽各本「妬」作「怒」。「秀」字、鈎沈本脫之、今據類聚五二引補。(三) 類聚五二引作「乃罵爲貉子」、三五引作「罵秀爲貉」、御覽中華書局本作「乃罵秀爲貉子」、鈎沈引偶與中華書局本同、御覽鮑本作「罵爲貉子」、今改從類聚五二引。(四) 類聚三五、御覽各本俱無「之」字。(五) 類聚三五引無「自悔責」三字。(六) 御覽各本「請」上有「遂」。「武」字、鈎沈據類聚三五引。(七) 類聚三五引「群臣」以下至「從容言」爲止略之、而只作「帝」一字。御覽各本無「曰」。(八) 類聚三五引、御覽各本俱「不」作「否」。(九) 御覽鮑本「冠」誤作「官」。(一〇) 類聚三五引、御覽中華書局本無「遂」字。

6 賈公閭女悅韓壽^(一)、問婢識否^(二)。一婢云、『是其故主』。女內懷存想。婢後往壽家、說如此。壽乃令婢通己意。女大喜、遂與通^(三)。與韓壽通者、乃是陳騫女^(四)。騫以韓壽爲掾^(五)、每會聞壽有異香、是外國所貢、一著衣、歷日不歇。騫計武帝唯賜己及賈充、他家理無此香。嫌壽己女通、考問左右婢、具以實對。騫卽以女妻壽^(六)。未婚而女亡、壽因娶賈氏、故世因傳賈充女。

校記 *世說惑溺篇(5)注。*御覽五百、又九百八十一。案二說不同。蓋前一說是世俗所傳、後一說則郭氏論斷也。○*游仙窟二注。天中記二一引世說注。玉函 2, 3。事見世說惑溺篇 5。類聚三五。李瀚蒙求注。瑠玉集

一四引晉抄。晉書賈充傳。御覽三七九引晉書。群書類編故事九。稗史彙編一五四。

世說惑溺篇⁵注云、郭子調、與韓壽通者、乃是陳騫女、卽以妻壽、未婚而女亡。壽因娶賈氏、故世因傳是充女。游仙窟一注云、郭子、韓壽美姿容。案此句當在此節初。

(一)○御覽中華書局本「問」作「問」、誤。(二)○御覽各本「否」作「不」。

(三)御覽五百。(四)世說惑溺篇注。(五)○御覽各本「騫」作「陳騫」。游仙窟一注引亦同、引自此句始、「以」作「辟」。(六)御覽九百八十一。○御覽九八一引此句下有「壽時未婚」一句、且注云、「晉書云、賈充女切(竊)香與壽。」游仙窟注引至此爲止。無「卽」字。

7 王汝南少無婚處、自求郝普女。郝氏襄城人、父匡字仲時、一名普、洛陽太守。司空以爲癡。司空昶也。會無往婚、對其音樂^(二)、便許之。

校記 御覽四百九十。○玉函 63。事見世說賢媛篇 15。

(一)○世說此句作「人其意」。

8 王東海初過江^(一)、王丞字安期。東海內史。登瑯邪山^(三)、歎曰、「我由來不愁、今日直欲愁^(三)。」太傅云、當爾時形神俱往。

校記 御覽四百六十九。*類聚三十五。○淵鑑二六五愁。玉函。事見晉書王承傳。

(一)○御覽引脫「江」字。類聚注無「東海內史」。(二)○御覽各本皆無「邪」字。(三)類聚三十五(引至此止)。

9 王安期爲東海太守、小吏盜池中魚、綱紀推之。王曰、『與衆共之、魚何足惜。』
校記 御覽四百九十九。○玉函 64。事見世說政事篇 9。晉書王承傳。

10 潘安仁夏侯湛並有美容貌、常同行^(一)。人謂之連璧。

校記 初學記十九。御覽三百八十。○玉函 30。事見語林（鈎沈 189）。

世說容止篇 9。余嘉錫箋疏又引文選集注一一三上「夏侯常侍誅」注所引臧榮緒晉書。

（一）○鈎沈「常」作「嘗」、玉函亦同、今正。

11 冀州刺史楊準二子、喬字國彥、髦字士彥、清平有識^(一)、俱總角爲成器。準與裴頠樂廣友善、遣見之。頠謂準曰^(二)、『喬當及卿^(三)、髦小咸也。』廣謂準曰、『喬自及卿、髦尤精出。』準笑曰、『我二兒之優劣、乃裴樂之優劣^(四)。』論者皆許之^(五)。

校記 御覽四百九、又四百四十四。○玉函 45。事見世說品藻篇 7。晉書樂廣傳。

（一）一引誤作「楊淮字彥清」。○御覽四四四引云、「冀州刺史楊淮字彥清、二子喬髦有識。」楊準字始丘、鈎沈依訂御覽四四四引。「準」御覽各本俱作「淮」、玉函亦同。鈎沈或依晉書改。（二）○御覽鮑本無「曰」。（三）

○御覽四〇九引無「當」。（四）○御覽鮑本四〇九引無「之」。（五）○御覽四四四中華書局本「論」作「議」、玉函作「識」。御覽四〇九引無「皆」。

12 王渾與婦鍾氏共坐^(一)、見武子從庭前過。渾謂婦曰、『生兒如是足慰人意。』婦笑曰、『若使新婦得配參軍、生兒故可不翅如此。』參軍是渾中弟、名倫字太冲、爲晉文王大將軍、從征壽春遇疾亡、時人惜焉。

校記 御覽三百九十一。○玉函40。事見世說排調篇8。晉書鍾氏傳。

(一)○御覽引中華書局本「渾」作「淳」、誤。下同。

13 王渾妻鍾生女、甚賢明、令武子爲妹擇嘉婿^(二)、而未有其人。兵家子有才、欲以妻之。獨與母議、初不告、事定、乃白母曰、「誠是地也自可貴。要當令我見之。」於是武子令此兵與羣小雜處、使母帷察之^(三)。母曰、「刑衣者、汝可拔乎。」武子曰、「是。」母曰、「此才足拔萃、然地寒、非長年不足展其才、用觀其形骨、不可與婚。」數年果死。

校記 御覽四百四十四。○玉函47。事見世說賢媛篇12。晉書鍾氏傳。白帖六五。

(一)○「嘉」鈎沈本作「佳」、今據御覽引改。(二)○「帷」鈎沈本作「微」、與鮑本同、今依中華書局本改。

14 王武子衛玠之舅也。語人曰、「昨與吾外甥並坐、炯然若明珠之在我側、朗然來映人。」後卒、人謂之看殺。

校記 初學記十九。○初學記一九以「夏潘連璧」爲事對、而引衛玠別傳。世說容止篇14注亦引衛玠別傳、文略同、俱無「後卒人謂看殺」之語。白帖六二四、又七一、六帖二二引略同文、且又有「看殺」之語、但皆不示出處。案此條與玉函文同、蓋鈎沈依玉函引。以出處不明故當刪。

15 孫子荊上品狀^(一)。王武子時爲大中正。謂訪問、此人非卿能拔。『自爲之目曰^(二)、「天才英博^(三)、亮拔不羣。』

校記 文選任昉「齊竟陵文宣王行狀」注。御覽二百六十五、又四百四十七。○文選五四劉孝標「辨命論」注又引同文作「郭璞」、文選攷異云、郭子之誤。玉函33。事見世說言語篇24注及魏志一四孫資傳注所引晉陽秋。晉書五六孫楚傳。何氏語林一六。

(一)○御覽引「上」上有「應」字。又二六五引「狀」作「拔」。(二)已上十八字依御覽引補。○御覽四四七引亦

無自「時爲大中正」至「目」十四字、鈎沈依二六五引補。「問」字、鈎沈依御覽作「聞」、今正。(三)○鈎沈「才」作「下」、而文選、御覽俱作「才」、今依改。「博」御覽二六五引作「雄」。

16 王夷甫雅尚玄遠、又疾其婦貪^(一)、口未嘗言錢。婦欲試之。夜令婢以錢遶牀^(二)、不得行^(三)。夷甫晨起見錢闔之^(四)、命婢舉阿堵物。

校記 類聚六十六。○御覽四九二、續引云、「婦郭泰寧女、才拙性剛、聚斂無厭、夷甫患之。」參看次條17。淵鑑三六二錢。玉函27。事見世說規箴篇9。晉書四三王衍傳。

(一)○御覽引「貪」下有「濁」。(二)○御覽引「遶」作「繞」。(三)○鈎沈排印本「行」誤作「待」。(四)○御覽引「闔」作「閱」「閱」皆誤。

17 王夷甫婦郭太寧女、才拙而性剛^(一)、聚斂無厭、夷甫患之^(二)、而不能禁。時其鄉人幽州刺史李陽京都大俠^(三)、猶漢之樓護、護字君卿。郭氏甚憚之。夷甫驟諫之、乃云、「非但我言卿不可、李陽亦謂不可。」郭氏乃爲少損。

校記 御覽六百二十七、*又四百九十二。○玉函68。事見世說規箴篇8。晉書四三王衍傳。白帖六一。

(一)○御覽四九二引無「而」。(二)已上四句亦見御覽四百九十二。(三)○鈎沈依御覽鮑本六二七引刺史名作「李陽景」、今據世說規箴篇8改。下同。世說注引『晉百官名』云、「陽字景祖」、據此或當作「李陽陽字景祖京都大俠」。御覽中華書局本「俠」作「使」。

18 杜預拜鎮南將軍、朝士悉至、皆坐連榻^(一)。羊稚舒後至^(二)、曰、「元凱乃復以連榻坐客^(三)。」不坐便去^(四)。

校記 書鈔一百三十三。御覽七百六。○天中記四九。玉函12。事見世說方正篇13。白帖一〇、一二。六帖三四。

參看語林 56。

(一) 御覽引「皆」上有「客」字。又中華書局本「坐」作「在」。(二) 御覽引「羊」作「于」、誤。(三) 御覽鮑本無「乃」。(四) 〇「便」鈎沈作「而」、而書鈔、御覽皆作「便」、今從二書改。

19 陸士衡初入洛。張公云、『宜詣劉道真^(一)』於是二陸既往。劉尚在哀制、性嗜酒。禮畢、初無他言。唯問、『東吳有長柄壺盧^(二)、卿得種不。』陸兄弟殊失望、乃云『悔往。』

校記 御覽三百八十九。*齊民要術二(種瓠)。〇*大典二二五九。天中記四六。玉函 39。事見世說簡傲篇 5。
(一) 〇鈎沈本作「劉真長」、但御覽引作「劉道真」、世說、天中記、玉函亦皆同、今依改。(二) 〇齊民要術二引此句作「長柄瓠」。〇大典亦引此句同。但『齊民要術』四部叢刊本、校釋本俱引只此一句云、「東吳有長柄壺樓」、即「瓠」作「壺樓」。又鈎沈「卷二」誤作「卷十」。御覽中華書局本「壺盧」作「胡盧」。

20 陸士衡詣王武子^(一)、武子有數斛羊酪、指以示陸曰^(二)、『卿東吳何以敵此^(三)。』陸曰^(四)、『有千里蓴菜^(五)、未下鹽豉。』

校記 御覽八百六十一、又八百五十八。書鈔一百三十五。〇類聚七二。事文類聚續集一六。天中記四六、又二六但誤作語林。陳絳辨物小志(學海類編本)。淵鑑三九〇羹、又三九一酪酥。玉函 72。事見世說言語篇 20。晉書五四陸機傳。白帖五(重出)。六帖一六。

(一) 〇類聚引作「陸機」。書鈔、御覽八五八引無此句。(二) 〇鈎沈作「指示陸機」、今據類聚、御覽八六一引改。類聚引無「曰」字。(三) 〇書鈔引無以上八字。(四) 〇「陸」鈎沈作「機」、書鈔作「答」、今依類聚、御覽八六一引改。類聚引亦「曰」作「云」。(五) 〇類聚引有「有」字、今依補。

21 盧志於衆中問陸士衡、『陸抗是卿何物。』答曰、『如卿於盧毓。』士龍失色、既出戶、謂兄曰、『何至於此、彼或不知。』士衡正色曰、『我祖父名播海內^(一)、寧有不知。』識者疑兩陸優劣、謝安以此定之。

校記 御覽三百八十八。○玉函 38。事見世說方正篇 18。晉書五四陸機傳。金樓子捷對篇。

(一)○「祖父」御覽各本皆作「父祖」。或鈎沈以意改歟。

22 滿奮字武秋、高平人^(一)。畏風。在武帝坐^(二)、北窗作琉璃屏^(三)、實密似疏。奮有難色。帝問之^(四)、對曰^(五)、『臣若吳牛^(六)、見月而喘。』

校記 御覽一百八十八、又八百九十九。○李嶠雜詠一百二十首「牛」「屏」注。記纂淵海一二四。玉函 73。事見世說言語篇 20。白帖二。

雜詠「牛」注云、郭子曰、滿奮在晉武帝殿、坐見窓瑠璃屏明、奮畏風焉。帝咲之、如吳牛見月而喘。

同「屏」注云、郭子曰、滿奮在晉武帝坐、見北窓瑠璃屏風、畏風。帝咲曰、宛如吳牛喘月也。

(一)○御覽一八八引無以上六字。(二)○御覽八九九引作「晉武帝」。(三)○御覽八九九引「屏」誤作「扇」。

(四)一「八九九」引作「帝乃笑之」。(五)○御覽八九九引無「對」字、鮑本作「奮」、玉函引同。(六)御

覽八九九引「若」作「猶」。

23 劉道真、劉寶字道真、高平人、安北將軍。少時^(一)、漁釣而憊於草澤^(二)、善歌嘯、聞之者無不留連^(三)。有一老嫗^(四)、識其非常人^(五)、甚樂其歌嘯^(六)、乃殺狔進之^(七)。道真食狔盡了不謝^(八)。嫗見其不飽、又進一狔、又食半、餘半還之。後道真爲吏部郎、嫗兒爲小令史。道真乃超用之^(九)。兒不知所由、問母而後知之。於是齎牛酒以詣道真。道真笑曰^(一〇)、

「去去、無可復相報者」。

校記 類聚九十四、又*十九。*六帖六十二。御覽二百十六（鈎沈誤作二一九、今正）、又*三百九十二。*白帖一八三〇。天中記五四。淵鑑四三六家、又*二六六嘯。玉函21。事見世說任誕篇17。鈎沈以御覽為底本。

（一）○御覽三九二引有小注。（二）○類聚九四引句頭有「嘗」字、又「漁」作「魚」、而無「而憊於」三字。御覽引亦同。類聚一九引無此一句七字。白帖、六帖亦同。（三）○類聚九四引無「之」。類聚一九、白帖、六帖皆無此句七字。（四）○白帖、六帖「嫗」作「姥」。（五）○六帖引「識」作「謝」、誤。御覽二一六引無「常」字。類聚一九引「常」下有「之」字。（六）○六帖引「樂」作「識」、疑誤。類聚九四引無「歌」字。（七）

○御覽二一六引「乃」作「及」、又「狔」作「豕」、以下同。三九二引亦同。類聚九四引「狔」下有「以」字。白帖「進」作「推」、誤。六帖作「食」、疑亦誤。御覽三九二引無「之」。（八）已上亦見御覽三百九十二。○類聚一九、白帖、六帖引俱無「盡了」二字、又俱引至此為止。（九）○御覽倪炳校刻本「超」作「起」。（一〇）○類聚一九引脫「道」字。（一一）○類聚九四引只作「去」字。又無「可」者二字。

24 劉道真嘗為徒^(二)。扶風王駿以五疋布贖之^(三)。既而用為從事中郎^(四)。當時以為美談。

校記 御覽六百四十二、又八百二十。*書鈔六十八。○淵鑑三六六布。玉函69。事見世說德行篇22。

（一）○書鈔引「徒」上有「司」、衍。（二）○御覽六四二引「王」下有「司馬」二字、御覽八〇二引無「駿」、又「五」作「五百」、書鈔、世說亦作「五百」。（三）書鈔六十八（引至此為止）。○御覽鮑本八二〇引「中郎」作「郎中」。

25 周叔治為晉陵、謨字叔治、光祿大夫西平貞侯頡弟。周侯、仲智送之。周侯名顗、字伯仁、仲智名嵩、次弟也。叔治將別^(二)、涕泣不止。仲智悲之曰、「困人及婦人別惟知啼。」便捨去。周侯獨留與飲酒言語、臨別留涕^(三)、撫其背曰、「阿孺自愛^(四)。」

校記 御覽四百八十九。○玉函 61。事見世說方正篇 26。

(一)○御覽中華書局本無「別」。(二)○鈎沈「流」本作「留」、今正。(三)○「拏」、鈎沈依鮑本作「拏」、今依中華書局本改。

26 周伯仁道桓茂倫、欽崎歷落^(一)、可笑之人也。或云、是謝幼輿言。

校記 御覽四百四十七。○大典二一六〇三。玉函 57。事見世說容止篇 20。晉書七四桓彝傳。

(一)○「崎」鈎沈作「奇」、今依中華書局本。

27 將軍王敦起事^(一)、丞相導率諸兄弟詣闕請罪^(二)。值周侯將人見、諸王甚有憂色^(三)。丞相呼周侯曰^(四)、「伯仁^(五)、以百口賴卿。」周侯直過不應。苦相申救^(六)、既許^(七)。周大悅飲酒^(八)、及出^(九)、諸王猶在門^(一〇)、又呼顗。顗不與言、顧左右曰、「今年殺諸賊奴^(一一)、當取一金印如斗大繫肘^(一二)。」

校記 書鈔一百三十一。御覽六百八十二。○書鈔引作「鄒子」、誤。事見世說尤悔篇 6。建康實錄五。

(一)○御覽引「將軍」作「大將軍」。(二)○御覽引無「率諸」二字。「闕」作「門」、誤。又「請罪」作「謝甚」。(三)○御覽引無「值周侯將人見諸王甚」九字、而「憂色」下有「尚書周顗始入」一句六字。(四)○御覽「周侯」作「顗」一字。(五)「伯仁」二字御覽引有。(六)○御覽此一句作「既入、苦相申救甚至」。(七)○御覽引「許」作「釋」。(八)○御覽引「周」作「顗」。(九)○御覽此句作「及致醉而出」。(一〇)○御覽引作「王導等猶在門」。(一一)「又呼」至「今年」已上十三字、書鈔引止作「曰」字〔書鈔引作「周曰」、此依御覽。(一二)○御覽引未有「也」字。

28 郗太尉晚節絕好談論^(二)、既非所經而甚矜之。

校記 書鈔九十八。○淵鑑二〇二講論。玉函 7。事見世說規箴篇 14。

(一)○「郗」書鈔、鈎沈作「郗」、此郗卽郗鑒、今正。世說亦作「郗」。孔注本書鈔引無「論」字、而注云、陳・
俞本及玉函山房輯本郭子談下有論字。案世說亦無「論」字、今暫依舊。

29 王丞相性儉節^(一)、帳下甘果盈溢不散^(二)、涉春爛敗^(三)。都督白之、公令拾去。敕云、「慎不可使大郎知^(四)。」大
郎名悅、字長豫^(五)。

校記 御覽四百三十一、又*九百六十四。○*事文類聚後集二七。*淵鑑四〇〇甘。玉函 44。事見世說儉嗇篇 7。
晉書六五王悅傳。

(一)○中華書局本四三一引「節」作「卽」、字誤。九六四引無「節」字。(二)○『御覽』九六四引無「不散」二
字。(三)已上亦御覽九百六十四。○「涉」鈎沈本作「入」、今御覽改。九六四引「爛敗」作「敗爛」。(四)
○「慎」字鈎沈脫之、今補。(五)案二句是注。

30 王丞相云、「雒下論以我比安期千里、王丞字安期、阮瞻字千里。我亦不推此二人。唯共推王太尉夷甫也。」

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函 56。事見世說品藻篇 20。

31 王丞相治揚州廨舍、案行而言、「我正爲次道理此耳。」何次道少爲王公所知重、故有此歎。

校記 御覽二百五十五。○玉函 34。事見世說賞譽篇 60。晉書七七何充傳。

32 王丞相言、『刁元亮之察察、刁協字元亮。戴若思之巖巖、戴淵字若思。卞望之峰峒^(一)、並一見我而服也。』
校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函58。事見語林(鈎沈101)。世說賞譽篇54。建康實錄七。
(一)○鈎沈「峒」本作「炬」、玉函亦同、今據御覽中華書局本、大典改。

33 王丞相拜司空。廷尉作兩角髻、葛裙拄杖、臨路邊窺之、歎曰、『人言阿龍超、導小名赤龍。阿龍故自超。』不覺步至臺門。

校記 御覽三百九十四。○玉函58。事見世說企羨篇1。

34 王公有幸妾姓雷、頗與政事、納貨。蔡公謂之雷尚書。

校記 御覽二百十二。○事見世說惑溺篇7。參看語林(鈎沈122)。

35 庾公名位漸重、足傾王公^(一)。時庾亮在石頭^(二)、王公在冶城^(三)。忽風起揚塵^(四)。王公以扇拂之曰^(五)、『元規塵污人。』元規、庾亮字。王公、王導也^(六)。

校記 類聚六十六。六帖三。○白帖一。潛確類書六。淵鑑三三。玉函19。事見世說輕詆篇4。建康實錄七。
(一)○白帖「傾」作「頃」、誤。(二)○白帖、六帖俱無「亮」字、「石頭」作「石城」。(三)○白帖引無「公」字、六帖作「導」。類聚引無「冶」、白帖作「此城」、六帖作「都城」。鈎沈依世說改爲「冶城」。(四)○六帖引「忽」作「因」。(五)○白帖、六帖俱無「公」字。白帖又無「曰」字。(六)○白帖引注無「王公」二字、六帖引無「王公」以下。

36 王丞相未令不看事。

校記 書鈔三十六。案文有譌脫。○書鈔孔注云、今案玉函山房輯郭子謂據書鈔卷三十六引、無王事、其夾注云、按此上下不具、姑依錄之。而陳本亦與本鈔同。長文案此事當是世說政事篇15同、「未令」二字當依世說改作「末年」。

37 謝公在東山畜妓^(一)。簡文曰、「安石必出與人同樂、亦何得不與人同憂^(二)。」^(三)謝安石也。

校記 書鈔一百十。初學記十五。御覽五百六十八、有注。○淵鑑一八七女樂。玉函10。事見世說識鑒篇21。

(一)○淵鑑引此句下有「每遊山常以妓樂相隨」之句。(二)○初學記引「何」作「不」、與世說同。御覽引無「何得」二字。

38 人問謝太傅、「王子敬、可與先輩誰比。」謝答曰、「阿敬近王劉之間。」^(一)王脩、劉眞長^(二)。

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函51。事見世說品藻篇77。

(一)○注御覽中華書局本、大典俱作「王脩與眞長」、玉函引與鈎沈同。

39 王子敬問謝公、「嘉賓何如道季。」^(一)嘉賓、郗超小名^(二)。庾蘇、小名道季。答云、「道季誠抄撮清悟。嘉賓故自勝。」桓公稱云、桓溫也。『銷鏘有文武。』

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函52。事見世說品藻篇82。

(一)○御覽注、「郗」當作「郗」。

40 桓公問孔西陽^(一)、「安石何如文度。」孔思未答、反問公謂、「如何^(二)。」答曰、「安石居然、不可陵踐^(三)。」

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函54。事見世說品藻篇45。但「文度」作「仲文」、文度卽王坦之、仲文未知何人。

(一)○御覽中華書局本作「孔思陽」、誤。(二)○鈎沈作「何如」、今依中華書局本改。(三)○「陵」、鈎沈本作「陸」、七三年版全集已訂之。

41 何次道充字次道。嘗詣王丞相^(二)、以麀尾確牀^(三)、呼何共坐曰^(三)、「來來^(四)、此是君坐也^(五)」。

校記 書鈔一百三十四。御覽三百九十三、有注、又七百三。○天中記四九。淵鑑三七九麀尾。玉函15。事見世說賞鑒篇59。晉書七七何充傳。建康實錄八。

(一)○書鈔引「嘗」作「往」。御覽三九三引「嘗詣」作「往」一字、又「丞相」下有「許」字。(二)○御覽三九三引「以」上有「丞相」二字。御覽中華書局本七〇三引「確」作「敲」。(三)○御覽三九三引「曰」作「云」。(四)二字御覽(三九三)引有。(五)御覽一(七〇三)引作「此君子坐也」。○書鈔引文末有「也」字。今依補。御覽三九三引「坐」作「坐位」。

42 王含爲廬江、含字處宏、敦兄也^(一)。貪強狼藉^(二)。王敦欲護其兄、故於衆坐中稱^(三)、「家兄在郡、爲政定善^(四)、廬江人咸稱之。』時何充爲主簿在坐、正色曰、「充卽廬江人^(五)、所聞異於此^(六)。』敦默然、傍人爲之反側、充晏然神意自若^(七)。

校記 御覽四百九十二、又*四百二十八。○玉函43。事見世說方正篇28。晉書七七何充傳。建康實錄八。

(一)○御覽四九二原注云、「含字處恒、征東將軍、敦之兄也」。(二)○御覽四九二引「強」作「濁」。(三)○御覽四九二引無「坐」字。(四)○御覽四九二引無此句四字。(五)○御覽四九二引無「卽」字。(六)

○御覽四二八引至此爲止。(七)○御覽四九二引「充」下有「晏然」二字、今依補。

43 劉眞長云、『見何幼道飲酒、人傾家釀。』何唯、字幼道也(一)。

校記 書鈔一百四十八。○事見世說賞譽篇130。晉書七七何充傳。海錄碎事六。但皆「何幼道」作「何次道」。

(一)○余嘉錫世說箋疏賞譽篇云、晉書何充傳亦載此語。然書鈔一百四十八引『鄭子』、乃作「何幼道」。並有注云、「何唯、字幼道也」。嘉錫案『鄭子』當作郭子。「唯」當作「準」。何準字幼道、見棲逸篇注引『中興書』及今晉書外戚傳。

44 劉尹道桓溫、『鬚如反蝟毛、眼如紫石稜、自是孫仲謀一流人也。』

校記 御覽三百六十八。○玉函36。事見世說容止篇27。

45 瑯邪諸葛亡名(一)、面病鼠瘦。劉眞長視之(二)、歎曰、「鼠乃復窟穴人面乎(三)」。』

校記 書鈔一百五十八。御覽三百六十五。○天中記二二。何氏語林二七。淵鑑二五九面。玉函35。事又見瑯琊代醉編二七。

(一)○書鈔引「瑯邪」作「瑯琊」、「葛」作「亮」。御覽引「亡」作「忘」。(二)○御覽引「視之」作「見」一字。(三)○書鈔引「人」下有「之」字。

46 王右軍道劉眞長、『樹雲柯而不扶疏。』

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函53。事見世說賞譽篇88、「樹」作「標」。

47 許侍中顧司空俱作王丞相從事^(一)。嘗夜在丞相許戲、二人歡極、丞相便使人已帳中眠。顧至曉猶展轉不得熟寐、許上牀便大鼾。丞相語諸客曰、「此中亦是難眠處耳^(二)。」

校記 御覽六百九十九、又*三百九十三。○天中記四八。淵鑑三七六帳、又*二六七寢。玉函70。事見世說雅量篇16。

御覽三九三引云、許侍中、顧司空、入王丞相帳中眠。

(一)○「中」鈎沈依玉函作「郎」、他本皆作「中」、今依改。(二)○鈎沈脫「是」、今補。

48 時有爲王導主簿、檢校帳下、遵說語主簿、欲與主簿周旋、無爲知人几案間事。』

校記 書鈔六十九。○淵鑑六八主簿。玉函5。事見世說雅量篇14。但世說作「王導主簿」、淵鑑引亦同。鈎沈以此條放在47之後、或以爲「王導」是「王導」之訛誤歟。王導是後漢明帝時人。

49 海西時、諸公朝堂猶闇^(一)、惟會稽王來、軒軒如朝霞之舉。

校記 書鈔七十。○事見世說容止篇35。

(一)○「諸公」二字今依補。

50 初癸惑人太微、尋廢海西。簡文既登祚、復人太微。帝惡之。時郗超爲中書郎在直、引超入曰、「天命修短、故非所計、當無復近日事不。」超曰、「大司馬方將外固封疆^(一)、內鎮社稷、必無若斯之慮。臣爲陛下保之。」簡文因誦庾仲初詩曰^(二)、「士痛朝危、臣哀主辱。」其聲甚悽愴^(三)。郗受假還東。帝曰、「致意尊公、超父愔、字方回。家國之事、遂

至於此。由身不能、以道匡衡、思患豫防、愧歎之深、言何能譬。』因泣下。

校記 御覽四百六十九。○玉函 60。事見世說言語篇 59。續晉陽秋（御覽九引）。晉書九簡文本紀。

（一）○御覽引有「將」字、今依補。（二）○「庾」字御覽各本玉函皆作「序」意不通、蓋鈎沈依世說改爲「庾」。

（三）○御覽中華書局本「其」作「臣」、誤。

51 簡文云、『謝安南、名奉、字弘道。清冷如其弟、弟名躬、字弘遠（一）。學義不如孔嚴（二）。嚴字彭祖。』

校記 御覽四百四十七。○玉函 55。事見世說品藻篇 40。

（一）○案世說注引『謝氏譜』云、奉弟聘、字弘遠。「躬」「聘」字形相似、因而誤之。（二）○「義」鈎沈作「藝」、世說亦作「義」、今改。

52 晉撫軍云、「何平叔巧累於理、嵇叔夜雋傷其道。』

校記 續談助四。○殷芸小說（鈎沈 95）。事見世說品藻篇 31。

53 佛經以爲法治神明、則聖可致。簡文云（一）、『不知便可登峰造極不（二）。然陶冶之功、故不可輕（三）。』

校記 續談助四。○殷芸小說（鈎沈 23）。事見世說文學篇 44。

（一）○十萬卷樓本「云」作「曰」。（二）○十萬卷樓本、粵雅堂叢書本「極」下俱有「不」字、鈎沈脫之、七
三年版全集已訂之。（三）○十萬卷樓本「可」下有「輕」字、今依補。粵雅堂本作「經」。

54 王長史求東陽、王濛、字仲祖。撫軍不肯用。晉太宗簡文皇帝先爲撫軍大將軍。王後疾篤臨終。撫軍哀歎曰、『吾將負仲祖。』

於此乃命用之。長史曰^(二)、『人言會稽王癡、真癡也^(三)。』會稽王簡文先封也。

校記 御覽七百三十九、又四百九十。○玉函 62。事見世說方正篇 49。晉書九三外戚傳。建康實錄八。參看世說政事篇 21。

(一)○御覽中華書局本四九○引無「曰」字。(二)○御覽四九○引無「真癡也」三字。

55 王仲祖謝仁祖同爲王公掾^(一)、在坐、長史云、『謝仁祖能作異舞^(二)。』王公命爲之^(三)。謝便起舞、神意甚暇。王公熟視、顧謂諸客曰^(四)、『令人思王安豐^(五)。』安豐、王戎封也。

校記 御覽二百四十九。*書鈔一百七。○玉函 8。事見世說任誕篇 32。

(一)○書鈔此二句作「王仲祖謝仁祖同與王公在坐」。(二)○御覽引「仁祖」作「掾」一字。(三)書鈔一百七〔引至此爲止〕。○御覽引無「公」字。(四)○「顧」字鈎沈脫之、今依補。(五)○御覽中華書局本「令」作「使」。

56 王仲祖酒酣起舞、劉眞長曰、『阿奴今日不復減向子期。』

校記 書鈔一百七。○玉函 9。事見世說品藻篇 44。

57 王仲祖云、『眞長知我、勝我自知。』

校記 御覽四百四十四。○玉函 46。事見世說賞譽篇 109。

58 人有問王長史王仲祖也。江霰羣從兄弟者。王答曰、『諸江皆能自生活。』

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函 50。事見世說賞譽篇 127。

59 劉王共在廝南酣宴。謝鎮西往尚書墓還、是葬後三日。諸人欲要之。眞長云、『仁祖應來。』便遣要之、果卽迴駕。諸人迎之、把臂便下裁得脫幘。酣宴半坐、乃覺未得脫衰。

校記 御覽五百四十七。○玉函 66。事見世說任誕篇 33。瑠玉集嗜酒引。(一)○御覽中華書局本「廝」作「廝」。

60 王長史病已篤、王仲祖也^(一)。寢臥^(二)、燈下轉塵尾而視之^(三)。歎曰^(四)、『如此人曾不得滿四十^(五)。』及亡、劉尹臨殯、以犀柄塵尾著棺中^(六)、因慟絕^(七)。

校記 御覽三百九十三、又七百三。書鈔一百三十四。○天中記四九。淵鑑三七九塵尾。玉函 13。事見世說傷逝篇 10。建康實錄八。

(一)○書鈔引無「王」字、「已」字。御覽三九三引亦無「已」字、有注。(二)○書鈔、御覽七〇三引無「臥」字。(三)○書鈔、御覽三九三引皆無「而」字。(四)○書鈔引「歎」上有「而」字。(五)○書鈔引無「如」字。御覽三九三引無「滿」字。(六)御覽一(三九三)引作「以璧柄塵尾置柩(鮑本。中華書局本作「棺」)中。」○書鈔引無「柄」字。「塵」各本皆有此字、鈎沈排印本脫之、七三年版全集已補之。書鈔引「著棺中」作「置之柩中」。御覽七〇三引作「置柩中」。(七)○御覽七〇三引「絕」作「哭」。

61 范玄平注字玄平。在簡文坐談欲屈^(一)、引王長史王仲祖也。曰^(二)、『卿助我。』王曰、『此非拔山之力所能救^(四)。』

校記 書鈔九十八。類聚三十五。御覽六百十七。○淵鑑二〇二講論。玉函 26。事見世說排調篇 34。

(一)○鈎沈引御覽注。書鈔無注。類聚引本文作「范汪、字玄平」。(二)○書鈔引本文及注俱作「長吏」、誤。

鈎沈引類聚注。御覽注作「長史王仲祖」。本文書鈔、類聚、御覽引皆無「王」字，而鈎沈獨有之，今依改。（三）「曰卿助我」四字類聚引有。○御覽引亦有。（四）○類聚、御覽引「救」作「助」。御覽引文末有「也」字。

62 張憑舉孝廉出京，負其才氣，謂必參時彥^(二)。欲詣劉眞長。鄉里及同舉者咸共哂之。張遂徑往詣劉，既前處之下坐、通寒暑而已。眞長方洗濯料事，神意不接。良久，張欲自發而未有其端^(三)。頃之，王長史諸賢來詣，言各有隔而不通處。張忽遙於末坐判之，言約旨遠^(四)，便足以暢彼我之懷。舉坐皆驚。眞長延之上坐，遂清言彌日，因留宿，遂復至曉。張退，劉曰：「卿且前去，我正爾往取卿，共詣撫軍。撫軍簡文。」張既還船^(五)，同侶笑之曰：「卿何許宿還。」張笑而不登。須臾眞長至，遣教覓張孝廉船。同侶惋愕。既同載俱詣撫軍。至門，劉前進謂撫軍曰：「下官今日爲公得一太常博士。妙選既前。」撫軍與之語言^(七)，咨嗟稱善，數日乃止。曰：「張憑勁粹^(八)，爲理之窟。」即用爲太常博士。

校記 御覽六百十七、又*二百二十九。*書鈔六十七。*類聚四十六。○*書鈔九八、引郭子誤爲「鄭子」。*淵鑑二〇二講論。*續編珠一。玉函67。事又見世說文學篇53、與御覽六一七引略同。李瀚蒙求注中。晉書七五張憑傳。*白帖三、又八二九。海錄碎事五。李白詩一八「送王孝廉」注略引。

書鈔六七引云、張馮字嗣宗、劉眞長薦之撫軍曰、下官今日爲公得一太常博士好選。撫軍稱善。

又九八引云、張馮舉孝廉、出詣劉眞長、因俱詣撫軍。既前、撫軍與之談論、咨嗟稱善曰、張馮勁粹、爲理之窟。類聚四六引云、張憑舉孝廉、請劉眞長、還舡。須臾眞長至、遣覓張孝廉舡。同旅愕然。既同載俱詣軍。劉前進謂撫軍曰、爲公得一士、太常博士之妙選。既前、撫軍與之言、咨嗟稱善、乃曰、張憑勁粹爲理窟。即用爲太常博士。御覽中華書局本二二九引、除「咨嗟」作「咨嗟嗟」、「勃窣」作「勃倅」以外與類聚引同。

（一）○「謂必」鈎沈依鮑本引爲「必謂」、今依中華書局本改。（二）○「端」鈎沈依鮑本作「請」、今依中華書

局本改。(三)○御覽中華書局本「旨」作「皆」、誤。(四)○御覽中華書局本「船」皆作「舡」、下同。(五)○「旅」鈎沈作「侶」、類聚、御覽俱作「旅」、下同。(六)○「前進」二字依類聚、御覽三九引。(七)○御覽六一七引「語」下有「言」、今依補。類聚、御覽三九引俱「語」作「言」。(八)御覽一(三二九鮑本)引「勁粹」作「勃粹」。中華書局本亦作「勃粹」。

63

許玄度在西州講、韓王諸人並在坐。林公每欲小屈。孫興公曰(一)、『法師今日如著敝絮、在荊棘間行、觸地挂礙。』校記 書鈔九十八。○事見世說排調篇52。

(一)○書鈔孔本脫「公」字。

64

梁國楊氏子(一)、年九歲、甚聰慧(二)。孔君平詣其父、父不在(三)、乃呼兒、出爲設果(四)、有楊梅。孔指以示兒曰(五)、『此貴君家果(六)。』兒應聲答曰、『未聞孔雀是夫子家禽。』

校記 類聚九十一、又八十七。六帖二十、又九十九。御覽三百八十五、又四百六十七、又五百十八、又九百二十四。

四。案御覽四百六十四引作楊修字德祖、孔君平作孔文學。金樓子又以爲楊周七歲時事。○白帖六、四〇、又三〇、五。事文類聚後集二七。天中記五二。淵鑑四二二孔雀、又四〇三楊梅。玉函29。事見世說言語篇43。金樓子捷對篇(御覽九七二引)。敦煌文書P.二五二四談講篇。海錄碎事七下。類林雜說四(引劉劭幼童傳)。白帖二九、六。記纂淵海四一。

白帖六云、楊氏子年九歲、聰惠。孔君平指楊梅謂之曰、此君家果。答曰、未聞孔雀是夫子家禽。

御覽五一八引云、楊脩字德祖、九歲聰惠。孔文學詣其父、父不在、乃呼脩、脩爲設果、課有楊梅。融指示兒曰、此君之家果耶。脩應聲曰、未聞孔雀是夫子之家禽獸。

(一)○類聚八七、白帖、六帖皆無「梁國」二字。御覽九二四引「楊」作「陽」。(二)○類聚八七、白帖三〇、六帖九九引俱無「甚聰惠」三字。(三)○御覽中華書局本九二四引無「父」字、鮑本作「其家父、不在」。(四)○御覽三八五引無「出」字。類聚八七引無「父不在乃呼兒出爲」八字。御覽九二四引「爲」下有「之」字。類聚八七、御覽三八五、四六四引俱「果」作「菓」、下同。(五)○御覽三八五、四六四、九二四引俱無「日」字。(六)○御覽三八五、九二四引「貴」作「實」、又四六四引無「貴」字。

65 孫安國盛字安國。往殷中軍許共語、殷名浩也^(一)。往反精苦、賓主無間^(二)。左右進食、冷而復暖者數四^(三)。彼我奮擲塵尾、毛悉墮落^(四)、滿飡飯中^(五)。賓主遂至暮忘食^(六)。殷方語孫卿曰、「公勿作強口馬、我當併卿控。」孫亦曰、「卿勿作穴鼻牛^(七)、我當穿卿頰。」

校記 御覽三百九十、又*七百三。*書鈔一百三十四。○*天中記四九。*淵鑑二六六言語、又*三七九塵尾。
*玉函14。事見世說文學篇31。白帖二六四二。

(一)○注見御覽三九〇。(二)○書鈔引作「住及客主無閑」、當有訛誤。或「住及」當作「往反」。御覽七〇三引無二句八字。(三)○書鈔引「四」作「次」。(四)○御覽七〇三引無「毛」。(五)○書鈔引以上二句作「落毛滿飯中」。御覽七〇三引無「飡」字。(六)書鈔一百三十四、御覽七百三(引至此爲止)。○御覽七〇三引句末有「也」。(七)○「穴」鈎沈作「冗」、今依正。世說作「決」。

66

殷浩作揚州。尹行^(一)、日小暮^(二)、便命左右取被幘^(三)。人問其故、答曰^(四)、「刺史嚴、不敢夜行。」

校記 類聚七十。御覽七百七。○天中記四八。淵鑑三七八被。玉函28。事見世說政事篇22。

(一)御覽引作「殷浩好作揚州劉君行」。○世說「好」作「始」、又「君」作「尹」、當從世說、而又當補「劉」。(二)○御覽引「日」作「曰」、誤。又「小」下有「欲」字。(三)○御覽引「命」作「令」。類聚引「幙」作「僕」、誤。(四)○御覽引「日」作「云」。

67 殷中軍廢後、恨簡文曰、「上人著百丈樓上^(一)、擔梯將去。」

校記 初學記二十四。○淵鑑三四七樓。玉函32。事見世說黜免篇5。

(一)○「丈」鈎沈作「尺」、今依初學記改。

68 陶公自上流來、陶侃字士行也^(一)。赴蘇峻之亂^(二)、含怒於庾公。庾公謂必戮已、進退無計。溫公乃勸詣陶公^(三)。卿

但徑拜、必無他。我爲卿保之。『庾殊未了而不得不往、乃從溫公言詣陶^(四)。至便拜。庾風姿雅潤、陶見拜、不覺自起、止之曰、「庾元規、何緣拜陶士行^(五)。』

校記 書鈔八十五。御覽五百四十二。○玉函65。事見世說假譎篇8。參看容止篇23。

(一)○注見御覽。(二)○御覽引「亂」作「難」。(三)○御覽引「溫公」作「溫父」、誤。(四)已上六句〔全文〕見御覽引。○書鈔引只作「庾公詣陶公」。(五)○御覽引「行」作「衡」。

69 庾公爲護軍、屬桓廷尉、爲索一柱吏。桓後見徐寧而知之。寧字安期、東海人。致與庾公而稱云、「是海內清士。』

校記 御覽四百二十六。○玉函43。事見世說賞譽篇65。

70 世中稱庾文康爲豐年玉、庾稚恭爲荒年穀。

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函48。事見世說賞譽篇69。

71 庾道季云、『藺相如雖千載死人、懔懔恒如有生氣^(一)。曹蜍李志雖見在、厭厭如在九泉下^(二)。』

校記 類聚二十二。御覽四百四十七。○記纂淵海三八。玉函22。事見世說品藻篇68。

(一)○「懔懔」鈎沈作「凜凜」、玉函亦同、今依改。(二)○御覽引脫「在」。

72 畢茂世云、『一手持蟹螯、一手持酒盃^(一)、拍浮酒池中、可了一生哉。』

校記 御覽九百四十二。○高似孫蟹略(明鈔說郭三六引晉春秋)。玉函74。事見世說任誕篇21。晉書四九畢卓傳。琯玉集嗜酒引晉抄。類林雜說七。

(一)○鈎沈脫「酒」字、今補之。

73 桓公宣武也。年少至貧^(一)、嘗糲蒲失數百斛米、齒既惡、意亦沮。自審不復振、乃請救於袁彥道、桓具以情告^(二)。袁在艱中、欣然無忤^(三)、便云、『大快。我不但拔卿、要爲卿破之。我必作快齒、卿但快喚^(四)。』卽脫其衰、共出門去、覺頭上有布帽擲去^(五)、著小帽。既戲、袁形勢呼咀*音恒、咀、相呵。慨牡^(六)、擲必盧雉。二人齊叫、敵家震懼喪氣、俄頃獲數百萬^(七)。

校記。世說任誕篇(34)注。御覽七百五十四。○事見世說任誕篇34。晉書八三袁耽傳。白帖一九。九家注杜詩一、一〇「今夕行」注略引世說。

世說任誕篇34注云、桓公糲蒲、失數百斛米、求救於袁耽。耽在艱中、便云、大快、我必作采、卿但大喚。卽脫其衰、共出門去。覺頭上有布帽、擲去、著小帽。既戲、袁形勢呼袒、擲必盧雉。二人齊叫、敵家頃刻失數百萬也。

御覽七五四引云、桓公宣武也。年少至貧、嘗糲蒲、失數百斛米。齒既惡、意亦沮。自審不復振、乃請求於袁彥道。桓具以情告、袁欣然無忤、便即俱去出門、云、我不但拔卿、要爲卿破之。我必作快齒、卿但快喚。既戲、袁形勢呼咀音恒、恒、相呵。慨牡、擲必盧雉。二人齊叫、敵家震懼喪氣、俄頃獲數百萬。

(一)○注及音注俱見御覽引。(二)已上世說注引云、「桓公糲蒲、失數百斛米、求救於袁耽。」(三)御覽引有「欣然」句、次作「便即俱去出門云」。(四)已上四句、世說注引作「我必作采卿但大喚」。(五)已上五句、世說注引有之。○「布」鈎沈作「巾」、今依改。(六)○疑當作「袁形勢呼咀音恒、咀、相呵」。「慨牡」二字御覽引有。(七)已上二句、世說注引作「敵家頃刻失數百萬也」。

74

桓大司馬病篤、桓溫字元子也。謝公省病、謝安字安石也。從東門入。桓遙矚而歎曰、「吾門中不久復見如此客。」

校記 御覽四百五。○淵鑑二五四賓主。玉函42。事見世說賞譽篇105。

75

衛晨爲桓公長史(一)、溫公甚重之。於溫每宴(二)、率爾提酒脯、以就衛相對也。

校記 書鈔一百四十四。○淵鑑三八九脯。玉函17。事見世說任誕篇29。

書鈔孔注云、今案陳·俞本「晨」作「辰」、「溫」作「桓」、「重」作「厚」、「每」上刪「於溫」二字、「率爾」作「公輒」、無「相對也」三字。餘同。玉函山房輯本郭子「晨」作「展」、餘與陳·俞本同。

(一)○案「晨」當是「君長」之誤寫耳、「君長」衛永字也。(二)○「於溫」二字、今依書鈔補。

76

孫興公道曹輔佐云(一)、「才如白地明光錦(二)、裁爲負版袴(三)。非無文綵(四)、然酷無裁製(五)。」

校記 御覽六百九十二。*書鈔一百二十九。○秘府略八八三(續群書類聚本)。天中記四七。玉函11。事見世說

文學篇 93。

(一)○御覽中華書局本「云」上有「才」、「云」下無「才」。秘府略引亦同。鮑本無「云」。秘府略引「孫興公」下有注云、「綽、字興公」。(二)○秘府略引無「才如白地明光」六字。(三)○秘府略引「負版」作「員板」。御覽引「版」作「板」。書鈔引至此爲止。(四)○秘府略引「綵」作「采」。(五)○秘府略引「製」作「制」。

77 祖士少道右軍、『王家阿菟菟、羲之小名、吾菟。何緣復減處仲。』右軍道祖士少、『風領毛骨、恐沒世不復見如此人。』王子猷說世目、「士少朗邁」(一)、我家亦以爲微明(二)。」

校記 御覽四百四十七。○大典一一六〇三。玉函 60。事見世說賞譽篇 88、亦 132。

(一)○「朗」、鈎沈作「清」、今依御覽、大典改。(二)○「微」、鈎沈作「澈」、今改。

78 丞相辟王藍田爲掾(一)。庾公問丞相、『藍田何似。』王曰(二)、『真獨簡貴、不減父祖。然廣澹處故當不如爾(三)。』

校記 *書鈔六十八。○事見世說品藻篇 23。

(一)○「丞相」二字鈎沈作「承指」、案因字形相似而訛誤、今依世說改。(二)○書鈔引脫下文、「王曰」作「王也」、鈎沈據世說改作「曰」。(三)三句原脫今依世說品藻篇補。

79 光祿王蘊指廳前擗曰(一)、『我嘗在下得殘盤冷炙。』

校記 書鈔一百四十五。御覽七百五十八引云、「王光祿曰正得殘槃冷炙。」○淵鑑三八五盤。玉函 71。

(一)○書鈔孔注云、按「擗」字有誤。

80 殷仲堪云、『三日不讀道德經^(一)、便覺舌本間強^(二)。』

校記 類聚十七。御覽三百六十七。○天中記二二。淵鑑二六〇舌。玉函 20。事見世說文學篇 63。高似孫子略。

(一)○御覽引「經」作「論」。(二)○類聚引無「便」。

81 王佛大嘆曰、『三日不飲酒、覺形神不復相和親也。酒自引人入勝地耳。』

校記 書鈔一百四十八。○淵鑑三九二酒。玉函 18。事見世說任誕篇 52。同 48 以末一句爲「王衛軍、蒼」之言。晉書王忱傳。琬玉集嗜酒引晉抄。

82 謝萬嘗詣王恬、既至、坐少時、恬便入內^(一)。謝殊有喜色、謂必厚供。待良久^(二)、沐頭散髮而出、既亦不復坐、乃倨坐于胡牀^(三)。于中庭曬頭^(四)、神色傲上^(五)、了無慚作相對^(六)、于是而退。

校記 書鈔一百三十五。類聚七十。○玉函 16。事見世說簡傲篇 12。

(一)○類聚引「恬」作「王」。(二)已上三句、類聚引有。(三)○「踞坐于」、類聚引作「據」一字。「踞」鈎沈作「倨」、今改。(四)○「頭」、鈎沈作「髮」、今依改。(五)○書鈔引作「傲」、鈎沈本作「傲」。類聚引此句作「神氣慨然」。(六)類聚引作「了無相對意」。

83 謝哲字穎豫、陳郡人也。美風儀、舉止蘊藉、而襟懷豁然^(一)、爲士君子所重。

校記 御覽三百八十。○玉函 37。

(一)○御覽中華書局本「懷」作「情」。

84 萍之依水猶卉植地、靡見其布、漠爾鱗被、物有常託、孰知所自。

校記 御覽一千。案文是郭景純「萍贊」、疑御覽誤題也。當刪。

○ 85 博學之士、所求而不得者鮮矣。未有不求而得者也。

校記 玉函引云、北堂書鈔九十七。書鈔孔注云、「今案御覽八百十三引鄒子、與本鈔同。陳·俞本鄒誤郭。玉函山房輯郭子一卷、遂收此條、竟爲陳俞所誤矣。」文亦不類郭子、不可收於郭子。

○ 86 襄邑縣南十八里曰瀨鄉。有廟、中九井。或云、每汲一井、而八井水俱動。有能潔齋入祠者、須水温、卽隨事而温。

校記 明鈔說郭二五殷芸小說引云郭子。御覽一八九引瀨鄉記、文略同。說郭前條亦引崔玄干瀨鄉記、蓋採錄者誤作郭子。事又見類聚九引盛弘之荊州記神農井。文亦不似郭子。不可收於郭子。

笑林

原輯二九條 新附一條 凡三〇條

1 魯有執長竿入城門者、初豎執之^(一)、不可入、橫執之、亦不可入。計無所出。俄有老父至曰、『吾非聖人、但見事多矣。何不以鋸中截而入。』遂依而截之。

校記

廣記二百六十二。○玉函 22。

(一)○「豎」鈎沈排印本誤作「豎」。

2 齊人就趙人學瑟、因之先調膠柱而歸、三年不成一曲。齊人怪之。有從趙來者。問其意方知向人之愚^(二)。

校記

廣記二百六十二。○玉函 23。

(二)○「方」鈎沈作「乃」、今依改。

3 楚人有擔山雞者、路人問曰、『何鳥也。』擔者欺之曰、『鳳皇也。』路人曰、『我聞有鳳皇久矣、今真見之。汝賣之乎。』曰、『然。』乃酬千金。弗與。請加倍、乃與之。方將獻楚王、經宿而鳥死。路人不遑惜其金、惟恨不得以獻耳。國人傳之、咸以爲真鳳、而貴宜欲獻之。遂聞于楚王。王感其欲獻已也。召而厚賜之。過買鳳之值十倍矣。

校記

廣記四百六十一。○*五色線上。玉函 25。

4 楚人居貧、讀淮南、方得『螳螂伺蟬、自鄣葉可以隱形』。遂於樹下仰取葉、螳螂執葉伺蟬、以摘之、葉落樹下、樹下先有落葉、不能復分別。埽取數斗歸、一一以葉自鄣、問其妻曰、『汝見我不。』妻始時恒答言^(一)、『見。』經日乃

厭倦不堪、給云、『不見。』嘿然大喜、齎葉入市、對面取人物、吏遂縛詣縣。縣受辭、自說本末。官大笑、放而不治。

校記 御覽九百四十六。○御覽云、「邯鄲淳笑林」。天中記五七。瑯琊代醉編二八。稗史彙編九六。玉函14。

(一)○御覽中華書局本「恒」誤作「怕」。

5 漢司徒崔烈辟上黨鮑堅爲掾。將謁見自慮不過、問『先到者儀適有。』答曰、『隨典儀口倡。』既謁讚曰、『可拜。』堅亦曰、『可拜。』讚者曰、『就位。』堅亦曰、『就位。』因復著履上坐、將離席不知履所在、讚者曰、『履著脚。』堅亦曰、『履著脚也。』

校記 御覽四百九十九。○天中記二九。玉函8。

6 桓帝時有人辟公府掾者^(一)、倩人作奏記文、人不能爲作、因語曰、『梁國葛龔者先善爲記文^(二)、自可寫用。不煩更作。』遂從人言寫記文、不去龔名姓^(三)。府公大驚^(四)、不答而罷歸^(五)。故時人語曰、『作奏雖工、宜去葛龔。』

校記 御覽四百九十六。案後漢書葛龔傳注云、「龔善爲書記文奏。或有請龔奏以千人者、龔爲作之。其人寫之、忘自載其名、因并寫龔名以進之。故時人爲之語曰、作奏雖工、宜去葛龔。見笑林。」與御覽引異。○*記纂淵海一五○注云邯鄲笑林、又一五二注云裴榮笑林、又見史通。明錢世揚古史談苑一六(誤引作裴子語林。見戴不凡『小說見聞錄』二二六頁)。玉函7。

記纂淵海一五二云、昔漢代有脩奏記於其府者、遂葛龔所(爲)以進之、不知改易姓名。時人爲之語曰、作奏雖工、宜去葛龔。

(一)○鈎沈排印本「辟」誤作「辭」。(二)○御覽引「龔」下有「者」字、今依補。(三)○鈎沈補「葛」字、今依刪。(四)○「公」鈎沈作「君」、今依改。(五)○御覽引「罷」下有「歸」字、今依補。

7 某甲夜暴疾^(一)、命門人鑽火^(二)。其夜陰暝不得火^(三)、催之急^(四)。門人忿然曰、『君責之亦大無道理^(五)。今聞如漆、何以不把火照我、我當得覓鑽火具^(六)、然後易得耳^(七)。』孔文舉聞之曰、『責人當以其方也。』

校記 廣記二百五十八。*類聚八十。*御覽八百六十九。○天中記二九。玉函3。參看殷芸小說(鈎沈77)。

(一)〔某甲〕廣記引作「魏人」。(二)○御覽引無「命」。(三)○「其夜」御覽引作「是夕」、「暝」作「暗」。廣記引無「不得火」三字。御覽引「不」作「未」。(四)廣記引作「督迫頗急」。(五)○御覽、廣記引俱「之」作「人」。廣記引無「道」。(六)○御覽引無「我」。(七)類聚八十、御覽八百六十九(引至此為止)。

8 趙伯翁爲人肥大^(一)。夏日醉臥、有數歲孫兒^(二)、緣其肚上戲^(三)、因以李子八九枚內肚臍中^(四)。既醒了不覺、數日後乃知痛^(五)、李大爛汁出^(六)、以爲臍穴^(七)。懼死、乃命妻子處分家事^(八)、泣謂家人曰^(九)、『我腸爛將死^(一〇)。』明日李核出^(一一)、尋問乃知是孫兒所內李子也^(一二)。

校記 御覽三百七十一、又九百六十六。瑠玉集十四。類林雜說十。○天中記二一。玉函6。王仁俊玉函山房輯佚書補編引瑠玉集。

(一)〔公〕類林作「翁」。○御覽鮑本作「公」、但中華書局本亦作「翁」、因今依改。瑠玉集引無「翁」字、而下有「姓趙、字伯翁。不知何時人也」十一字。御覽三七一引無「爲人」二字。(二)○御覽三七一引無「有數歲」、九六八引無「有」。(三)○「肚上」、御覽九八六引、瑠玉集引俱作「腹」、類林引「肚子」。(四)○「臍」下」御覽注云、音毗。御覽三七一、類林引俱無「子」、「臍」。(五)○御覽三七一引「既醒了不覺數日後」作「至後日」、瑠玉集引作「後」、類林引作「後數日」。(六)○瑠玉集引無「大」。類林引此句作「李爛莫出」。(七)〔穴〕瑠玉集引作「膿」。○瑠玉集引此句作「謂言臍膿」。御覽三七一、類林引無此句。(八)○以上十字、御

覽三七一、類林引俱作「乃」一字。琬玉集引無。(九)○琬玉集引「泣謂」作「告」。(一〇)○御覽九六八引無以上十字。琬玉集引無「腸爛」、而句末有「矣」、類林引亦有。(一一)○御覽九六八引無「明日」。琬玉集此句作「遂遺勅分處、須與李核出」。類林引作「明日視之、乃有李核出」。(一二)○御覽三七一、琬玉集、類林俱無「尋問」二字。琬玉集引「乃」作「始」、類林引無「乃」。類林引「孫兒」作「向小兒」。御覽三七一、琬玉集、類林引皆無「是」。御覽九六八、琬玉集引「內李子也」作「爲」一字。

9 伯翁妹肥於兄、嫁於王氏、嫌其太肥、遂誣云、『無女身。』乃遣之。後更嫁李氏、乃得女身、方驗前誣也。

校記 類林雜說十。○事見琬玉集一四肥人引魏志。

10 漢世有人年老無子、家富性儉嗇、惡衣蔬食、侵晨而起、侵夜而息、營理產業、聚斂無厭、而不敢自用。或人從之求丐者、不得已而入內、取錢十、自堂而出、隨步輒減、比至于外纔餘半、閉目以授乞者。尋復囑云、『我傾家贍君、慎勿他說。復相效而來。』老人俄死、田宅沒官、貨財充于內帑矣。

校記 廣記一百六十五。○天中記二八。玉函16。

11 姚彪與張溫俱至武昌^(一)、遇吳興沈珩于江渚守風^(二)、糧用盡^(三)、遣人從彪貸鹽一百斛^(四)。彪性峻直^(五)、得書不答、方與溫談論良久^(六)、敕左右^(七)、倒鹽百斛著江水中^(八)、謂溫曰^(九)、『明吾不惜、惜所與耳^(一〇)。』

校記 廣記一百六十五。御覽八百六十五。○天中記四六。玉函14。事又見何氏語林二一。

(一)○案「姚彪」當是「徐彪」之訛誤。依吳志徐彪、張溫、沈珩皆是吳人、而且張溫宿與暨豔、徐彪同意、因豔事徐彪坐自殺、張溫廢。當作「徐彪」。御覽引無「與張溫俱」四字。(二)○此句御覽引作「遇風、與沈浙」疑

珩誤浙」江渚守風」、廣記引無「于江渚」、「于」字鈎沈所加。(三)○廣記引無「用」。(四)○御覽引無「一」。(五)○御覽引無「性峻直」三字。(六)○御覽引無此句七字。(七)○廣記引「敕」作「呼」。(八)○廣記引作「百斛鹽」、又無「水」字。(九)○御覽引無「謂温」二字。(一〇)○廣記引文末有「沈珩弟峻、有名譽而性儉吝」十一字、蓋是後截12之錯簡也。

12 沈珩弟峻字叔山^(二)、有名譽而性儉^(三)。張温使蜀、與峻別^(三)、峻入內^(四)、良久出、語温曰^(五)、『向擇一端布、欲以送卿^(六)、而無麗者。』温嘉其能顯非^(七)。又嘗經太湖岸上、使從者取鹽水、已而恨多、敕令還減之。尋亦自愧曰、『此吾天性也。』

校記 廣記一百六十五。*類聚八十五。*御覽八百二十。*續談助四。○殷芸小說(鈎沈108)。吳郡志二三。天中記二八、又五〇。淵鑑三六六布。玉函5。

(一)○廣記引此句作「吳沈峻」。續談助引作「沈峻、珩弟也」。(二)○續談助引「有」上有「甚」字。御覽引無「名」、「慙」。廣記、續談助引俱「慙」作「吝」。(三)○類聚引無此句三字、御覽引作「辭峻」。(四)○御覽引無「內」。(五)○續談助引「出語」作「謂」。(六)○續談助引「送卿」作「相送」。(七)已上亦見類聚八十五、御覽八百二十、續談助四。○續談助「能顯非」作「能自顯其非」。廣記、吳郡志引俱作「無隱」。

13 吳國胡邕爲人好色、娶妻張氏、憐之不捨、後卒、邕亦亡。家人便殯于後園中。三年取葬、見冢土化作二人^(二)、常見抱如臥。時人競笑之。

校記 廣記三百八十九。○玉函24。

(一)○各本皆「土」上有「上」字。

14 平原陶丘氏、取渤海墨台氏女。女色甚美、才甚令、復相敬。已生一男而歸。母丁氏年老、進見女。女既歸而遣婦。婦臨去請罪。夫曰、『曩見夫人、年德以衰^(一)、非昔日比。亦恐新婦老後必復如此。是以遣、實無他故。』

校記 御覽四百九十九。○淵鑑三十四愚。玉函 9。

(一)○御覽中華書局本「以」作「已」。

15 漢人有適吳、吳人設筍、問是何物^(一)、語曰『竹也^(二)。』歸煮其牀簀而不熟^(三)、乃謂其妻曰^(四)、『吳人輾輾欺我如此^(五)。』

校記 筍譜下。紺珠集十一。○廣博物志竹。五色線下云、陸雲笑林。海錄碎事三下竹門引云、六雲笑林、出于談助。紺珠集引云、陸雲笑林。事文類聚後集二四。明鈔說郭七五引談助、亦云陸雲笑林。淵鑑四一七竹。廣群芳譜八六。玉函 26。事見明鈔說郭一四引啓顏錄。

(一)○紺珠集、說郭引俱無「是」字。紺珠集引句末有「也」。 (二)○紺珠集、說郭引俱無「語」字。 (三)○說郭引「簀」作「簀」。紺珠集引無「而」字。 (四)○紺珠集、說郭引俱無「乃謂其妻」四字。 (五)○紺珠集、說郭引「輾輾」以下作「欺我哉」三字。

16 吳人至京師^(一)、爲設食者有酪蘇^(二)、未知是何物也^(三)。強而食之、歸吐遂至困頓^(四)、謂其子曰、『與儕人同死亦無所恨。然汝故宜慎之^(五)。』

校記 類聚七十二。御覽八百五十八。○天中記四六。淵鑑三九一酪酥。玉函 1。

(一)○類聚引無「師」字。 (二)○御覽引「蘇」作「酥」。 (三)○類聚引「未」誤作「來」。 (四)○御

覽引「頓」作「顧」接下。(五)○御覽引無「然」。

17 南方人至京師者、人戒之曰、『汝得物唯食、慎勿問其名也。』往詣主人門內^(二)、見馬矢便食之^(三)、覺惡臭乃止^(三)。步進見敗屨棄於路、因復嚼殊不可咽。顧伴曰、『且止。人言不可皆信^(四)。』後詣貴官、爲設鮓^(五)、因見視曰^(六)、『故是首物^(七)、且當勿食。』

校記 御覽六百九十八、又*八百五十一。○淵鑑三七五屬。玉函11。

(一)○御覽八五一引無「其名也往詣」五字。六九八引「往」中華書局本作「後」。(二)○御覽八五一引「矢」作「尿」。御覽六九八引無「之」。(三)○御覽六九八引無「覺」、「止」。又八五一引「惡臭」作「臭」。(四)○御覽八五一引無自「步進」至「皆信」二十六字。(五)「鮓」一(六九八)引作「饌」。(六)○「見」、八五一引無、六九八引中華書局本作「相」。(七)一(八五一)引作「戒故昔物」。○「故」鈎沈依鮑本作「汝」、今依六九八引中華書局本改。

18 太原人夜失火、出物^(一)、欲出銅鎗、誤出髮斗^(二)、便大驚怪^(三)、語其兒曰^(四)、『異事^(五)、火未至鎗已被燒失脚^(六)。』

校記 書鈔一百三十五。類聚七十三。御覽七百五十七。○淵鑑三八○髮斗。玉函2。

(一)○御覽引無此二字。(二)○御覽引「誤出」作「設得」。書鈔引「斗」作「斗」。(三)○類聚引「怪」作「惋」。(四)「語其兒」三字類聚引有。(五)二字類聚引有。○御覽中華書局本亦引有。(六)○御覽引無「鎗」。

19 平原人有善治僂者、自云、『不善、人百一人耳。』有人曲度八尺、直度六尺、乃厚貨求治。曰、『君且。』欲上背

蹈之。傴者曰、『將殺我。』曰、『趣令君直、焉知死事。』

校記 續談助四。○殷芸小說（鈎沈92）。

20 某甲爲霸府佐^(二)、爲人都不解、每至集會、有聲樂之事。己輒豫焉而耻不解。妓人奏曲^(三)、讚之。己亦學人仰讚和同。時人士令己作主人、并使喚妓客。妓客未集、召妓具問曲吹、一一疏著手巾、箱下先有藥方。客既集、因問命曲、先取所疏者、誤得藥方、便言是疏方有附子三分、當歸四分。己云、『且作附子當歸以送客。』合坐絕倒^(三)。

校記 御覽五百六十八。○玉函10。

（一）○鈎沈「甲」下無「者」、御覽引有。（二）○御覽中華書局本無「曲」。（三）○中華書局本「合」作「舍滿」、案「舍」字或衍。

21 有人弔喪、并欲齎物助之。問人可與何等物。人答曰^(二)、『錢布穀帛^(三)、任卿所有爾^(三)。』因齎大豆一斛置孝子前^(四)、謂曰、『無可有、以大豆一斛相助^(五)。』孝子哭喚奈何、己以爲問豆、答曰、『可作飯。』孝子哭復喚窮^(六)、己曰^(七)、『適得便窮^(八)、自當更送一斛^(九)。』

校記 類聚八十五。廣記二百六十二。○玉函4。

（一）○廣記引無「人」字。（二）○廣記引無「穀」。（三）○廣記引「卿」作「君」。（四）○類聚引「因」誤作「困」、而「置孝子前」作「相與」。鈎沈「大豆一斛」作「一斛豆」、今依正。（五）「一斛」已上十四字據廣記引補。○鈎沈「大豆一斛」作「一斛大豆」、今依廣記各本正。（六）○鈎沈「哭復」作「復哭」、今依類聚正。（七）廣記引作「孝子哭孤窮奈何。曰、造鼓。孝子更哭孤窮。曰、」○廣記汪校本「更」作「又」。（八）○鈎沈排印本「得」作「有」、今依改。（九）○廣記引此句作「更送一石」。

22 人有和羹者^(二)、以杓嘗之、少鹽便益之。後復嘗之、向杓中者、故云、『鹽不足。』如此數益升許、鹽故不減、因以爲怪。

校記 御覽八百六十一。○玉函12。

(一)○「和」鈎沈作「所」、御覽中華書局本作「和」、七三年版全集依此改。玉函誤作「斫」。

23 甲買肉、過入都廁^(一)、挂肉著外、乙偷之、未得去。甲出覓肉。因詐便口銜肉曰^(二)、『挂著門外^(三)、何得不失^(四)。』若如我銜肉著口^(五)、豈有失理。』

校記 御覽八百六十二。書鈔一百四十五。○淵鑑三八九肉。玉函13。

(一)○「過入都廁」、鈎沈作「過都入廁」、七三年版全集已依御覽、書鈔改。淵鑑所引與鈎沈同。(二)○「便口銜」、書鈔引作「啣」。「曰」鈎沈作「云」、「今改、書鈔引無「曰」。(三)○「門外」御覽引顛倒、或鈎沈以意改。(四)○書鈔引無以上二句八字。(五)○書鈔引無「若」、又無「銜肉」。

24 有甲欲謁見邑宰、問左右曰、『令何所好。』或語曰、『好公羊傳。』後人見、令問「君讀何書。』答曰、『惟業公羊傳。』試問、『誰殺陳他者。』甲良久對曰、『平生實不殺陳他。』令察謬誤、因復戲之曰、『君不殺陳他、請是誰殺。』於是大怖、徒跳出。人問其故、乃大語曰、『見明府便以死事見訪、後直不敢復來、遇赦當出耳。』

校記 廣記二百六十。○玉函17。

25 甲父母在、出學三年而歸、舅氏問其學何得、并序別父久。乃答曰、『渭陽之思、過於秦康。』既而父數之、『爾學

奚益。』答曰、『少失過庭之訓、故學無益。』

校記 廣記二百六十二。○玉函 19。

26 甲與乙鬪爭、甲齧下乙鼻。官吏欲斷之。甲稱『乙自齧落。』吏曰、『夫人鼻高耳、口低豈能就齧之。』甲曰、『他踏床子就齧之。』

校記 廣記二百六十二。○玉函 18。

27 傖人欲相共弔喪、各一不知儀、一人言粗習、謂同伴曰、『汝隨我舉止。』既至喪所、舊習者在前伏席上、餘者一相髡於背、而爲首者以足觸冢曰、『癡物。』諸人亦爲儀當爾。各以足相蹈曰、『癡物。』最後者近孝子、亦蹈孝子而曰、『癡物。』

校記 廣記二百六十二。○玉函 20。

28 有癡婿、婦翁死、婦教以行弔禮。於路值水、乃脫襪而渡、惟遺一襪^(一)。又覩林中鳩鳴、云『嘯嘯嘯嘯、而私誦之、都忘弔禮。』及至、乃以有襪一足立、而縮其跣者、但云『嘯嘯嘯嘯。』孝子皆笑。又曰、『莫笑、莫笑。如拾得襪、卽還我。』

校記 廣記二百六十二。○玉函 21。

(一)○「惟」原闕、依黃本補。

29 有人常食蔬茹^(二)、忽食羊肉。夢五藏神曰、『羊踏破菜園。』

校記 紺珠集十。○紺珠集引云陸雲笑林。海錄碎事六引亦云陸雲笑林。事見類說一四引啓顏錄。

(一)○海錄引「有」上有「昔」字。

○30 有民妻不識鏡。夫市之而歸。妻取照之、驚告其母曰、『某郎又索一婦歸也。』其母亦照曰、『又領親家母來也。』

校記 廣記二六二。廣記宋抄本、黃刻本俱云、出北夢瑣言。但現行北夢瑣言及逸文四卷皆不收此條。此文不類北夢瑣言。廣記在本條之前排列北夢瑣言「周韋二子」、因而可能廣記誤作「出北夢瑣言」。今從文友堂、中文出版社覆談愷刻本、汪校本以爲笑林。

俗說

原輯五十二條 新附一條 凡五十三條

1 有人指周伯仁腹曰^(一)、『此中何有』。答曰^(二)、『此中洪洞、容卿等數百人。』

校記 御覽三百七十一。○玉函 27。事見世說排調篇 18。

(一)○御覽明刊本「腹」作「腸」。(二)○御覽各本皆無「曰」、或鈎沈以意補。

2 阮光祿大兒喪、哀過、遂得失心病^(一)、服除後、經年病瘳。

校記 御覽七百四十一。*類聚三十四。○*九家注杜詩一三「別李秘書始興寺所居」。玉函 18。

(一)類聚〔引至此爲止〕。○杜詩注引亦同。御覽中華書局本「失心病」作「病心□」。

3 謝安小兒時、便有名譽、流聞遠國、慕容垂餉謝白狼氈一雙^(一)。謝時十三^(二)。

校記 書鈔一百二十一。御覽三百四十。○淵鑑二七二氈。玉函 5。

(一)〔「垂」〕御覽引作「魔」。注云、一作「慕容乖」也。(二)○書鈔引「十三」作「十二」。

4 謝萬作吳興郡、其兄安時隨至郡中。萬常晏起、安清朝便往牀前、叩屏風呼萬起。

校記 御覽七百一。○天中記四九。淵鑑三七六屏風。玉函 40。

5 謝萬與太傅共詣簡文^(一)、萬來無衣幘可前^(二)。簡文曰、但前^(三)。不須衣幘。『卽呼使人。萬著白綸巾鵠髦裘履^(四)、

板而前^(五)。既見共談、移日方去^(六)。大器之^(七)。

校記 御覽四百七十五。書鈔九十八。○玉函 33。事見晉書謝萬傳。何氏語林二四。

- (一) 此句以書鈔引。○御覽引作「謝萬詣簡文」。 (二) ○書鈔引無「來」、「可前」。 (三) ○書鈔引無二字。
(四) ○「鵠」鈎沈作「鶴」、今依御覽各本改。 (五) ○書鈔引無「即呼使人」以下至「而前」四句十六字。 (六)
「方去」二字書鈔引有。 (七) ○書鈔引無此句三字。

6 劉眞長少時居丹徒、家至貧、織芒屨以養母^(一)。劇方回數出南射堂射^(二)、劉往市賣屨、路經射堂邊、過人無不看射。劉過初不廻顧、方回異之、遣問信^(三)。答云^(四)、「老母朝來未得食、至市貨屨、不得展詣。』後過、劇呼之使來^(五)、與共語、覺其佳。

校記 御覽六百九十八、又*四百八十五。*書鈔一百三十六。○淵鑑三七五履。玉函 37。

書鈔一三六云、劉眞長居丹徒、家至貧、往市賣屨、路經射堂。方回數出射堂、呼之。

答曰、「老母朝來未得食、至市貨履、不得展詣也。』

- (一) 御覽四百八十五(引至此爲止)。○御覽六九八引無此句六字。「屨」字、鈎沈皆作「履」、今依正、下同。 (二)
○案「劇」當作「郝」、下同。 (三) ○御覽明刊本「遣」誤作「遺」。 (四) ○御覽明刊本無「云」。鈎沈作「曰」、
今依改。 (五) ○御覽明刊本「呼」誤作「乎」。

7 晉哀帝王皇后有一紫磨金指環^(一)、至小、正可第五指帶^(二)。

校記 書鈔一百三十六。初學記十。○淵鑑五七皇后總載、又三八一指環。玉函 11。

- (一) ○初學記引無「一」。 (二) ○「正」字鈎沈脫之、今依補。書鈔孔注云、陳·兪本正作止。初學記引「帶」

作「著」。

8 晉簡文集諸談士夜坐、每自設粥。

校記 書鈔一百四十四。○淵鑑三八九粥。玉函 13。事見殷芸小說（鈎沈 22）。

9 釋道安生便左臂上一肉、廣一寸許、著臂如釧、將可上下。時人謂之印手菩薩。

校記 御覽三百六十九。○淵鑑二六一臂。玉函 26。事見高僧傳五釋道安傳。

10 謝仁祖年少時、喜著刺文袴^(一)、出郊郭外^(二)。其叔父誚責之^(三)、仁祖於是自改、遂爲名流。

校記 御覽六百九十五。*書鈔一百二十九引至郊郭、文作水。○天中記四七。淵鑑三七五袴褶。玉函 6。事見晉書謝尚傳。參看白帖四·一。

（一）書鈔引「文」作「水」。○書鈔題爲「刺水袴」、又「著」作「爲」。（二）○書鈔引至「郊郭」爲止。（三）○御覽明刊本「誚」誤作「請」。

11 謝仁祖妾阿妃、有國色、善吹笛。謝死、阿妃誓不嫁。郗曇時爲北中郎、設權計遂得阿妃爲妾。阿妃終身不與曇言。

校記 類聚四十四。○淵鑑一九○笛。玉函 21。事見何氏語林二二。參看俗說（鈎沈 29）。

12 王子敬學王夷甫呼錢爲阿堵物^(一)。後既詔出、赴謝公主簿^(二)、過會下與共擲散^(三)。當其夕手自抱錢、戲竟明日^(四)。已後云、「何至須阿堵物。」

校記 御覽八百三十六。○手稿作「八百四十九」、七三年版全集已訂之。玉函 46。

(一)○「物」鈎沈原脫、今依補。玉函亦脫。(二)○御覽明刊本「赴」誤作「過」。(三)○鈎沈脫「共」字、今依中華書局本補。(四)○「戲」鈎沈據鮑本作「錢」、今依中華書局本改。

13 殷仲堪在都、嘗往看墓、諸從在瓦棺寺前宅上^(一)。于時袁羗與人共在窗下圍碁^(二)、仲堪在裏問袁易義。袁應答如流、圍碁不輟。袁意傲然、殊有餘地。殷撰辭致難、每有往復。

校記 類聚七十四。○淵鑑三二九圍碁。玉函 23。

(一)「諸」鈎沈原闕、今依補。又「在」鈎沈脫之、今亦補。(二)○鈎沈「時」作「是」、今依改。「羗」或當作「羊」。世說言語篇 90 注云、「袁羊、喬小字也。」未知袁羗。

14 顧虎頭爲人畫扇、作嵇阮都不點眼睛^(一)、便送還扇主曰^(二)、「點眼睛便欲能語^(三)。」

校記 書鈔一百三十四。御覽七百五十。又七百二。○玉函 41。參看世說寵禮篇 13。晉書顧愷之傳。

(一)○御覽七五〇引「嵇阮」作「阮籍嵇康」。御覽七〇二引「都」上有「而」字。御覽中華書局本鮑本「睛」俱作「精」、下同。(二)御覽一(七〇二)引作「扇主問之、顧答曰」。○御覽七五〇引無「便」。(三)御覽一(七〇二)引作「那可點點精點便語」。○鈎沈「精」皆作「睛」。書鈔引無「眼」、而文末有「也」。

15 桓大司馬在江陵、每歡宴、惡桓斌答爲嘲弄^(一)。司馬每瞋斌時^(二)、使就兄索食。

校記 書鈔一百四十三。御覽八百四十九。

御覽八四九引云、桓斌性噉^(一)「一字宋刊原闕」犬。大司馬「三字宋刊原闕」每瞋斌時、使從兄索食。

○淵鑑三三八食。玉函12。

(一)○「城」、御覽中華書局本作「域音城」、明刊本作「城」、皆誤。(二)○御覽中華書局本「瞋」作「瞋」、明刊作「賦」、皆誤。

16 桓温平蜀、以李勢女爲妾、南郡主甚妬^(一)。不卽知之、後知乃拔刃往李所、因欲斫之。見李在窗梳頭、姿貌端麗、徐徐結髮、歛手向主、神色閑正、辭甚悽惋。主於是擲刀、前抱之曰、『阿子、我見汝亦憐、何況老奴。』遂善之^(二)。

校記 類聚三十五。○事見妬記(鈎沈1)。世說賢媛篇21。敦煌文書P.二五四九。類林雜說九引蜀記。

敦煌文書云、桓宣武平蜀、以李勢女爲妾、甚有寵、私置之後齋。公主初不知、既聞、領數十婢將棒襲之。正值李梳頭、立於床上、髮委藉地、姿貌絕麗、膚色玉曜。不爲動容、徐下地結髮、歛手而言、『國破家亡、父母屠□、偷存旦暮、無心以生。今日若能見殺、實愜本懷。』主乃擲刀杖、泣而前抱之曰、『我見汝尚□愛、心神悽愴、何況賊種老奴耶。』因厚禮相遇。

(一)類聚三十五(引至此爲止)。(二)「不卽知」至此、已上並依世說賢媛篇(21)注引妬記補。

17 桓靈寶在南州時、自講莊子七篇、一日更說。

校記 書鈔九十八。○淵鑑二〇二講論。玉函3。參看世說排調篇63。

18 桓玄作詩^(一)、思不來、輒作鼓吹、既而思得云^(二)、『鳴鶴響長阜^(三)』、歎曰、『鼓吹固自來人思。』

校記 書鈔一百三十。類聚六十八。御覽五百六十七。○天中記三七。淵鑑三六八鼓吹。玉函7。事見何氏語林二一。

(一)○「玄」御覽各本作「公」。(二)○御覽鮑本「得」作「詩」。(三)「鶴」御覽引作「鵠」。○類聚引亦作「鵠」。

19 桓玄在南州、妾當產畏風、應須帳。桓曰、『不須作帳可。』以夫人故帳與之^(一)。

校記 御覽六百九十九。○天中記四八。淵鑑三七六帳。玉函38。

(一)○御覽中華書局本「以」下有「到」字、疑衍。

20 桓宣城喪後家至貧、孔夫人疾患、須羊解神不能得。桓溫以弟買得質羊^(一)、羊主家富謂桓言、『僕乃不須買得郎爲質、但郎家貧、幸可爲郎養買得郎耳。』車騎冲也。後江州出射堂射、羊主東邊看射^(二)。車騎猶識之、呼來問、『公識我否。』答云、『不識。』桓公曰、『我是昔日買得郎也。』

校記 御覽四百三十二。○玉函31。事見晉書桓冲傳。建康實錄九(太元九年)。

(一)○御覽明刊本「羊」誤作「牛」。(二)○鈎沈脫「射」、今依補。

21 桓石虎是桓征西兒^(一)、未被舉時、西出獵。石虎亦從獵圍中射虎、虎被數箭、伏在地。諸將謂石虎曰^(二)、『惡郎能拔虎箭不。』石虎小名惡子、答曰、『可拔耳。』惡子於是逕至虎邊、便拔得箭、虎跳越、惡子亦跳、跳乃高虎跳、虎還伏。惡子持箭便還。

校記 御覽八百九十三。○玉函46。事見晉書桓石虔傳。建康實錄九(太元十一年)。白帖八五二。廣記一九一引獨異志。

(一)○御覽明刊本「兒」誤作「說」。案「石虎」當作「石虔」、石虔、字鎮惡也。(二)○御覽中華書局本·明

刊本俱「謂」作「請」。

22 桓豹奴善乘騎^(二)、亦有極快馬。有一諸葛郎^(三)、自云、『能走與馬等。』桓車騎以百匹布置埒^(四)、與諸葛競走^(五)、先至者得布^(六)。便俱走、諸葛恒與馬齊^(七)。欲至埒頭、去布三尺許^(八)、諸葛一透坐布上^(九)、遂得之。

校記 類聚八十五。御覽三百九十四、又八百二十。○淵鑑三六六布。玉函 24。

(一)○御覽三九四引各本並作「桓公豹奴善騎乘」、明刊本「奴」誤作「怒」。(二)○御覽各本句頭皆有「時」字。(三)○御覽三九四引「埒」下有「頭」字、但明刊本・鮑本「埒」誤作「將」。(四)○鈞沈依御覽三九四引脫「馬」字、今依補。(五)○類聚引無「與」字。御覽八二〇引「競」作「並」。(六)○御覽八二〇引無「先」字。明刊本三九四引「至」誤作「生」。(七)○「恒」類聚引誤作「桓」、御覽三九四引作「常」。(八)○御覽三九四明刊本「埒」誤作「埒」、而無「許」字。御覽八二〇引作「欲至埒、馬頭去埒三尺許」。三九四中華書局本・明刊本俱「尺」作「丈」、鮑本作「疋」、案皆誤。(九)○御覽三九四引「透」作「跳」、八二〇引中華書局本作「步」、而無以下之文。

23 桓豹奴病勞、冷無氈可臥。桓車騎自撤已眠氈與之。

校記 書鈔一百三十四。御覽七百八。○天中記四八。淵鑑三七七氈。玉函 10。

24 王僧敬神明俊徹、爲一時之標。桓玄時集聚賓客、莫有出其右者。王在坐都不復有餘人、坐無王便覺殷仲文謝益壽爲佳。

校記 御覽三百九十三。○玉函 29。

25 王僧敬兄弟列坐齋中^(二)、見之若神。小人從戶前過、皆肅然毛豎。

校記 御覽三百九十三。○玉函 29。

(一)○御覽明刊本「坐齋」誤作「生齋」。

26 桓玄取羊欣爲征西行軍參軍。玄愛書、呼欣就坐^(二)、乃遣信呼顧長康、與共論書至夜、良久乃罷。

校記 御覽七百四十七。○玉函 43。

(一)○御覽明刊本「欣」誤作「秋」。

27 謝仁祖爲豫州主簿^(一)、在桓溫閣下^(二)。桓聞其善箏^(三)、使呼之^(四)。既至、取箏令彈^(五)。謝卽理絃撫箏^(六)、因而歌秋風^(七)、意氣殊異^(八)。桓以此知之^(九)、取謝引詣府^(一〇)。

校記 書鈔一百十、又*七十三。類聚四十四。御覽二百六十五、又五百七十六。○鈎沈出典爲「類聚一百六十五、又五百七十六」、七三年版全集已訂之。淵鑑一八九等。玉函 1。參看世說容止篇 32、裴子語林(鈎沈 137)。

書鈔七三引云、俗說云、謝景仁爲豫州主簿、在桓玄門下、聞其箏、令謝彈之、因而歌秋風、意氣殊遠。玄以此重之。

(一)「仁祖」書鈔一(七三)引作「景仁」。○御覽二六五引亦作「景仁」。(二)「桓溫」書鈔引作「桓玄」

○書鈔一一○引作「桓玄溫」、案「玄」衍。御覽二六五引亦作「玄」一字。「閣」字、類聚引、御覽二六五引作「閣」。

(三)○御覽五七六引亦無「桓」。類聚引「箏」作「彈箏」。(四)○「使」字書鈔引作如此、鈎沈依此、他書皆

作「便」。(五)○「令」字書鈔一一○引作「與」、鈎沈依此。御覽五七六引作「與令」、今以類聚、御覽二六五

引改。(六)○御覽二六五引「絃」作「弦」。(七)○類聚、御覽二六五引無「而」字。御覽五七六引「歌」下

有「日」字。(八)○御覽五七六引無「氣」。「異」字類聚引作「適」、御覽二六五引作「邁」、中華書局本五七六引「道」、疑誤、明刊本・鮑本作「迫」。(九)○書鈔引「桓」下無「大」、他書皆有「大」字。御覽二六五引「知」作「奇」。(一〇)○唯御覽五七六引有此句、而他書皆無。

28 桓玄寵丁期^(一)、朝賢論事、賓客聚集、恒在背後坐^(二)。食畢便迴盤與之^(三)。期雖被寵、而謹約不敢爲非。玄臨死之日、期乃以身捍刃。

校記 類聚三十三。*御覽七百五十八。○淵鑑三十三寵幸。玉函16。

(一)○御覽引作「丁牛期」。○案當作「丁仙期」。(二)三句御覽引無。(三)已上亦見御覽七百五十八。○御覽引「盤」作「槃」。

29 宋禕是石崇妓綠珠弟子^(一)、有國色^(二)、善吹笛^(三)。後人晉明帝宮^(四)。帝疾患危篤^(五)、群臣進諫請出宋禕、時朝賢悉見^(六)。帝曰、『卿諸人誰欲得者^(七)。』衆人無言^(八)。阮遙集時爲吏部尚書。對曰、『願以賜臣^(九)。』卽與之。

校記 類聚四十四、又*十八。御覽三百八十一、又五百六十八。*書鈔一百十一。○事文類聚續集二三。淵鑑一九〇笛、又*二五五美婦人。玉函19。事又見何氏語林二五。

(一)○御覽五六八引「妓」作「伎」、「珠」作「朱」、「子」鈎沈脫、今依補。(二)○御覽三八一引無「國」字。(三)(以上)亦見書鈔一百十。(四)已上亦見類聚十八。○類聚四四、御覽引俱「入」作「在」。「宮」御覽三八一引作「處」、五六八引無。(五)○御覽五六八引「帝」上有「聞」字。御覽三八一引「疾」作「瘵」、而無「危」字。(六)○御覽三八一引無此句五字。(七)○御覽引「得」下皆有「之」字、三八一引無「者」字。(八)○御覽三八一引無此句四字。(九)○「願」鈎沈排印本誤作「顧」、七三年版全集已訂之。稿本正作「願」。

30 宋禕死後葬在金城南山、對琅瑯郡門。袁山松爲琅瑯太守、每醉後輒乘輿上宋禕冢、作行路難歌。

校記 御覽五百九十七。○御覽引作俗記。玉函 20。

31 王東亭嘗之吳郡^(一)、就汰公宿別、汰公設豆藿糜^(二)、自噉一大甌。東亭有難色、汰公強進半甌^(三)。須臾東亭行帳、菓炙畢備^(四)。

校記 書鈔一百四十三。*御覽八百五十九。○天中記四六。淵鑑三八九糜。玉函 47。事又見何氏語林二四。

(一)○御覽明刊本「嘗」作「當」。(二)○書鈔引「汰」作「太」、而無「宿別汰公」四字。(三)御覽八百五十九〔引至此爲止〕。○書鈔引以上三句作「東亭強進半甌」。(四)○鈎沈「菓」作「果」、今依書鈔改。

32 王孝伯起事、王東亭殊憂懼。時住在募士橋下、持藥酒置左側^(一)、語其所念小人俞翼^(二)。令在門前、若見人騎僎從來^(三)、便可取酒藥與我。『俄有行人乘馬過^(四)、翼便進酒。王語翼、『汝更看定非官人。』王語翼、「汝幾誤殺我^(五)。』

校記 御覽四百六十九。○玉函 32。

(一)○御覽明刊本「持藥」作「僎藥」、誤抄。(二)○「語」御覽各本並誤作「諸」、鈎沈以意改。(三)○鮑本「來」誤作「東」。(四)○中華書局本「乘馬過」作「乘過馬」、誤。(五)○「誤」鮑本引無、鈎沈亦無、今依中華書局本・明刊本補。

33 陶夔爲王孝伯參軍、三日曲水集、陶在前行坐。有一參軍督護在坐、陶於坐作詩、隨得三五句、後坐參軍督護隨寫取詩成。陶猶更思補綴。後坐寫其詩者先呈。陶詩經日方呈。王怪收陶參軍^(一)、乃復寫人詩。陶愧愕不知所以。王後知

陶非濫，遂彈去寫詩者。

校記 御覽二百四十九。○玉函 25。

(一)○「王」今據中華書局本改、鈎沈作「大」。「收」中華書局本原闕、空一格。

34 王慶孫爲襄陽都督、後之鎮。爾時沔中蠻盛、斷道縛得王去。將還家、語王云、「汝是貴人、試作貴人行看」^(一)。驅逼不得已、王便行。蠻以其貴人不堪苦使^(二)、令與婦女共碓下春。

校記 御覽八百二十九引俗記。○玉函 45。

(一)○鈎沈依鮑本「看」作「者」、七三年版全集據宋刊本改。今從之。(二)○明刊本「使」作「便」、接下文讀。

35 有人詣謝益壽云、「向在劉丹陽坐、見一客殊毛。」謝曰、「正是我家阿瞻。」瞻多鬚、故云耳。

校記 御覽三百七十四。○天中記二二。玉函 28。

36 郗僧施青溪中汎到一曲之處^(一)、作詩一篇^(二)。謝益壽見詩笑曰^(三)、「青谿之曲復何窮盡^(四)。」

校記 御覽六十七引作「青谿中曲復何可窮」。類聚九。王楙野客叢書二十九。○建康實錄二注、又一○。太平寰宇記九○。玉函 15。

建康實錄二(赤烏四年冬十一月)注云、俗說、郗僧施泛舟青溪、每一曲作詩一首。謝益壽聞之曰、青溪中曲復何窮盡也。

(一)引「汎到」作「泛舟」。「曲」下無「之」字。○「施」鈎沈依鮑本作「游」、玉函亦同。太平寰宇記亦誤作「陀」。

今據諸書正。郝僧施見宋書。御覽明刊本「中」誤作「仲」。「汎到」御覽各本及寰宇記並作「泛舟」、又「曲」下無「之」字。寰宇記引又無「處」字。

(二)〔野客叢書引〕「詩一篇」作「一篇詩」。○御覽引亦同。寰宇記引句頭有「輒」字。

(三)〔野客叢書引〕「見詩笑曰」作「見其詩而嘆曰」。○御覽引「笑」作「嘆」。寰宇記引無「見詩笑」三字。

(四)御覽引作「青谿中曲復何可窮」。野客叢書引無「窮」字。○御覽明刊本脫「復」字。寰宇記引「之」作「中」。

否^(四)。』

37 王高麗年十四五時^(一)、四月八日在彭城佛寺中^(二)、謝混見而以檳榔贈之、執王手謂曰^(三)、『王郎謝叔源可與周旋否^(四)。』

校記 御覽九百七十一引風俗記。○案本條記事文體俱不類御覽七一引風俗記、同四八引江夏風俗記等、却頗似俗說之體、因此鈎沈採收之。事又見何氏語林。

(一)御覽明刊本誤作「四十五」。 (二)○明刊本「彭」誤作「鼓」。 (三)○明刊本誤作「王執手」。 (四)○明刊本「旋」誤作「施」。

38 殷伯弟爲何無忌參軍^(一)、在潯陽與何共樗蒲、得何百萬便住^(二)。何守請求贖決不聽^(三)。何大怒罵殷曰^(四)、『戇子敢爾取節來。』殷猶傲然謂何曰、『朝廷授將軍三千羸兵、狗頭節以威蠻獠^(五)。乃復擬議國士、異事。』何便令百人收殷付獄中。殷嘯歌自若^(六)、經一日悉死^(七)。

校記 御覽六百八十一、又*七百五十四。*書鈔一百三十。○淵鑑三六七節。玉函 35。

書鈔引云、俗說云、殷伯弟爲何無忌參軍、何罵殷曰、戇子敢爾取節來。殷猶傲然謂何曰、朝廷授將軍三千羸兵、杓竦節、以威蠻獠。

(一)書鈔引作「伯弟」。○御覽各本皆作「伯弟」、淵鑑引作「伯悌」。鈎沈依玉函作「伯仁」、今據諸書改。但書鈔

孔注云、今案御覽六百八十一引俗說、弟作仁、杓竦作狗頭、餘同。未知孰是。(二)○御覽六八一引無「萬」字。(三)三句(二十二字)書鈔引無。○鈞沈作「何守語求決不聽」、今據御覽六八一引改。御覽七五四引無此句。(四)○御覽七五四引至「罵殷」為止。(五)已上書鈔一百三十亦引。「狗頭節」作「杓竦節」。○玉函注云、北堂書鈔有「寧令」句、作「寧令妄自尊大耶」。書鈔孔注云、蓋據陳・俞本耳。(六)○御覽六八一引中華書局本・明刊本俱「殷」作「兵」、疑誤。鈞沈「歌嘯」作「嘯歌」、今依改。(七)○御覽六八一引中華書局本・明刊本俱「悲死」作「遂置悲」。

39 羊元保作吏部郎、數被召見^(一)、後有傳詔來、始入門。其兒靈孫年十許歲、見傳詔、語其父曰、『兒知也。正當圍碁耳^(二)。』

校記 御覽七百五十三。

(一)○「數」今據中華書局本補。(二)明刊本「也」作「之」、「正」作「去」。

40 司馬郎君時貴、好作妓、堂然香煙熏之、屋爲之黑。

校記 書鈔一百十二。○鈞沈誤作「一百十一」、今正。淵鑑一八七女樂。玉函4。

41 徐千木年少時、嘗夢烏從天上飛^(一)、銜繖樹其庭中^(二)、如此者三^(三)、過銜來、作惡聲而去。徐後果得三繖^(四)、遂以惡終。

校記 書鈔一百三十四。御覽七百二。○天中記四九。淵鑑三六七蓋。玉函8。

(一)「從天上飛」四字御覽引有。○御覽引「嘗夢」作「嘗夜夢見」四字。(二)○御覽引「庭」作「廷」。(三)

○「者」今據書鈔引補、御覽引作「凡」。(四)○御覽引無「三」。

42 毛泰買一玉窪、八十八万^(二)。

校記 御覽七百五十九。○玉函44。

(一)○「万」今據御覽中華書局本改、鈎沈依鮑本作「分」。

43 荀介子爲荊州刺史。荀婦大妬、恒在介子齋中、客來便閉屏風。有桓客者、時爲中兵參軍、來詣荀諮事、論事已訖、爲復作餘語。桓時年少、殊有姿容。荀婦在屏風裏便語桓云、『桓參軍、君知作人不^(二)。論事已訖、何以不去。』桓狼狽便走。

校記 御覽七百一。○天中記四九。淵鑑三七六屏風。玉函39。

(一)○御覽中華書局本「作」誤作「昨」、明刊本作「如此」。

44 車武子婦大妬、夜恒出掩襲車。車後呼其婦兄顏熙夜宿共眠^(二)、取一絳裙掛著屏風上。其婦果來拔刀逕上牀發^(三)、欲刃牀上人、定看乃是其兄、於是慙羞而退。

校記 御覽六百九十六。○廣記二七二引要錄。天中記一九。淵鑑三七四裳。玉函36。參看妬記(鈎沈6)。

(一)○明刊本「熙」誤作「照」。(二)○廣記引「發」下有「被」字。

45 張敷從彭城還^(二)、請假當歸東^(三)。傅亮時爲宋臺侍中^(三)、下舫中與張別^(四)、張不起、授兩手著舫戶外^(五)。傅遂不執其手^(六)、熟視張面曰、『植故是梨中之不臧者^(七)。』便去。

校記 御覽六百三十四。類聚二十九。○天中記五二。玉函17。參看宋書四六、南史三二張敷傳。

(一)「敷」御覽譌「邀」、今依類聚。○御覽引作「張敷在彭城」。(二)○類聚引無此句。御覽明刊本「歸東」作「皈東」。(三)○類聚引無「時爲末臺侍中」。(四)○類聚引作「下舫與別」。(五)○類聚引無「兩」字。今御覽各本「手」下有「指」、鈎沈無、暫依此。(六)○「不」鈎沈稿本作「下」、七三年版全集已訂之。類聚引無「其」。(七)類聚引「植」下有「故」字。○類聚引「植」作「查」。張敷小名植、父邵小名梨也。

46 傅亮北征、在黃河中、垂至洛、遙見嵩高山。于時同從客在坐。問傅曰、『潘安仁懷舊賦云、前瞻太室、傍眺嵩丘。嵩丘太室、故是一山』。何以言傍眺。』傅曰、『有嵩丘山、去太室七十里。此是書寫誤耳。』

校記 類聚七。○玉函14。事見殷芸小說(鈎沈133)。

(一)○鈎沈排印本無「故」、今據稿本補。

47 何承天顏延年俱爲郎。何問顏曰、『藿囊是何物。』顏答曰、『此當復何解邪。藿囊將是卿。』言腹中無所有、純是藿。此是世俗相調之辭也。

校記 御覽七百四。○天中記四九。淵鑑三七九囊。玉函42。

48 江夷爲右僕射^(一)。主上欲用其領詹事、語王准^(二)、『卿可覓比例。』准答曰、『臣當出外尋訪。』後准見主上問、『近所道事、卿已得例未^(三)。』准曰、『唯^(四)。謝琰右僕射領詹事^(五)。琰卽謝公之子、恐夷非其例。』事遂不行。

校記 類聚四十九。御覽二百四十五。○天中記三〇。淵鑑九八太子詹事。玉函22。

(一)○類聚引無「爲」字。(二)○「准」御覽各本並作「淮」、下同。(三)○御覽引「例」上有「比」字。

(四)○「唯」字今據御覽補。(五)○御覽鮑本誤作「謝玉」。

49 謝僕射陶太常詣吳領軍^(一)、坐久。吳留客作食、日中已申^(二)、方使婢賣狗供客^(三)。比得一頓食^(四)、殆無復氣力可語^(五)。

校記 御覽四百五、又四百八十五。○天中記二〇。玉函 30。參看晉書吳隱之傳。

(一)○御覽四八五脫「陶」字。(二)○四八五引「申」作「中」。(三)○四八五引有「方」字、今依補。
(四)○四八五引無「一頓」。(五)○四〇五引無「力」、四八五引無「殆」字。

50 劉柳爲僕射、傅迪爲左丞。傅大讀書、而不解其義^(一)。劉唯讀老莊而已^(二)。傅道劉云、『正讀十二卷^(三)、何足本人。』劉道傳云、『讀書雖多、而無所解、可謂書魔。』

校記 御覽六百十六。*書鈔九十八。○玉函 34。事見晉書劉柳傳。

(一)已上二句「九字」亦見書鈔九十八。○書鈔引「傅大」作「夫」。書鈔引至此爲止。御覽中華書局本「大」作「好」。鈎沈五年排印本「不」作「不可」、御覽、書鈔、稿本皆無、七三年版全集已訂之。(二)○「老莊」御覽中華書局本、明刊本俱作「莊老」。(三)○鈎沈排印本「正」作「止」、御覽引作「正」、稿本亦作「正」、今依正。

51 京下劉光祿養好鵝。劉後軍從京還鎮潯陽、以一隻鵝爲後軍^(一)。別純蒼色、頸長四尺許、頭似龍。此一隻鵝可堪五萬。自後不復見有此類。

校記 御覽九百十九引俗記。○天中記五八。玉函 50。

(一) 御覽中華書局本「隻」作「雙」、明刊本作「双」、下同。

52 齊沈僧照、別名法朗、攸之之孫也。記人吉凶、頗有應驗^(二)。嘗校獵中道而還、左右問何故。答曰、『國家有邊事、須還處分。』問何以知之。曰、『向聞南山虎嘯知耳。』俄而使至。

校記 御覽八百九十二。○稿本無卷數。事類賦注二〇。玉函49。事見天中記六〇引劉璠梁典、文略同。
(一) ○以上十七字、事類賦注引無。

○ 53 桓靈寶爲人哀樂至極。與人遠別、下牀時、猶含笑、臨行執手、涕淚數行而下。

校記 敦煌文書 P. 二五二四、引作俗語。S. 二五八八。* S. 七八。參看郭子(鈎沈25)。

殷芸小說

原輯一三六條 刪二條 新附二〇條 凡一五四條

1 齊甬城東有蒲臺^(一)，秦始皇所頓處。時始皇在臺下^(二)，繫蒲以繫馬^(三)，至今蒲生猶繫^(四)，俗謂之『始皇蒲』^(五)。始皇作石橋，欲過海觀日出處^(六)，時有神人能驅石下海^(七)，石去不速^(八)，神人輒鞭之，皆流血，至今悉赤^(九)。陽城山上石皆起立東傾^(一〇)，如相隨狀^(一一)，至今猶爾。秦皇於海中作石橋，或云、『非人功所建，海神爲之豎柱^(一二)』。始皇感其惠，乃通敬於神，來與相見。神云、『我計醜，約莫圖我形，當與帝會』。始皇乃從石橋入海，三十里與神相見，左右巧者潛以腳畫神形，神怒曰、『速去』。即轉馬，前腳猶立，後腳隨崩，僅得登岸。

校記 出三齊要略。*廣記四百八。*紺珠集二(15·18)。原本說郛二十五(小說一)。○類說四九1·15。會稽三賦注。『古小說鈎沈』以後，輯校殷芸小說有余嘉錫「殷芸小說輯證」(『余嘉錫論學雜著』上冊 中華書局·一九六三年)及唐蘭「輯殷芸小說并跋」(『周叔弢先生六十生日紀念論文集』一九五〇年·香港龍門書店一九六七年影印版)、周楞伽輯注『殷芸小說』(上海古籍出版社·一九八四年)。本書各略稱余氏·唐氏·周氏。余氏1。唐氏2。周氏1。

余氏按語云、三齊要略不見著錄、水經河水注引蒲臺事、濡水注引石橋事、皆作三齊略記。御覽三五〇引三齊略記云、富平城、孝明帝時改爲厭次。比城東南五十里有蒲臺、高丈八、秦始皇所頓處。時在臺下繫蒲繫馬、夾道數百步、到今蒲猶繫馬。蒲似水楊、而勁堪爲箭。又一六二引三齊記、又九五七引三齊略記云、甬城東南有蒲臺、又九九九引三齊略記略同。

廣記二九一引三齊要略云、秦始皇作石橋、欲過海觀日出處。傳云、時有神能驅石下海。陽城十一山、今盡起立、巖巖東傾、如相隨行狀。又云、石去不速、神人輒鞭之、皆流血。石莫不悉赤、至今猶爾。秦皇於海中作石橋。或云、

非人工所建、海神爲之豎柱。始皇感其惠、乃通敬於神、求與相見。神云、我形醜、約莫圖我形、當與帝會。始皇乃從石橋入三十里、與神相見。帝左右有巧者、潛以腳畫。神怒曰、帝負約、可速去。始皇卽轉馬、前腳猶立、後腳隨崩、僅得登岸。御覽四引三齊略、又五一引三齊略記、又八八〇引三齊略記、又七五〇引三齊記略、又八八二引三齊略記末有「腳畫者溺於海死」之句。

(一)「鬲城」廣記引作「南城」、誤。紺珠集作「歷城」。○類說引亦作「鬲城」、但無「齊」字。紺珠集引「臺」作「全」。(二)〇以上二句十二字、紺珠集引作「世傳秦始皇嘗過此」八字。類說引亦同、但無「嘗」字。(三)〇明鈔說郭引無「以」字。(四)〇類說、紺珠集12引至此爲止。廣記引「榮」作「榮」。(五)已上亦見廣記四百八。紺珠集引無末句。○廣記引「始皇」上有「秦」字。(六)〇類說15、紺珠集18引俱無「處」字。(七)〇類說、紺珠集引俱無「時」、「人」字、又「下」字皆作「入」字。(八)〇類說15引無「石」字。(九)紺珠集引作「神人鞭之流血石皆赤色」。○類說引亦同。(一〇)〇類說引「陽城」作「城陽」、會稽三賦注亦同。「山上」、類說、紺珠集、會稽三賦注引皆作「等山」。明鈔說郭引作「十一山」、又「皆」作「盡」、無「立」字。(一一)已上亦見紺珠集二、末作「有趨赴之狀」。○亦見類說15、會稽三賦注、末句亦同。(一二)〇「豎」鈎沈排印本作「豎」、稿本不誤、七三年版全集已訂。

2 秦始皇時、長人十二見於臨洮、皆夷服。於是鑄銅爲十二枚以寫之。蓋漢十二帝之瑞也。

校記 廣記一百三十五。○稗史彙編一六四。余氏2。唐氏3。周氏2。

3 滎陽板渚津原上有厄井^(一)。父老云、漢高祖曾避項羽於此井也^(二)。爲雙鳩所救。故俗語云、漢祖避時、難隱身厄井間^(三)、雙鳩集其上、誰知下有人。漢朝每正旦輒放雙鳩、或起於此^(四)。

校記 說郭二十五(2)。廣記一百三十五。○稗史彙編一六七。古謠諺五七引廣記。經籍佚文亦引廣記·古謠諺。余氏3、余氏曰、事見御覽九百二十一引地理志、文有異同。按御覽一八九引郡國志堯井事、亦類同。」唐氏4。周氏3。

(一)○「板渚津」廣記引作「南」一字。(二)○廣記引無「也」字。(三)○「井」廣記黃刻本引作「此」、古謠諺、經籍佚文皆依黃刻本。(四)○廣記引無「或」字。

4 漢高祖手敕太子云、『吾遭亂世、當秦禁學問、生不讀書、又不自喜(一)、謂讀書無所益(二)。洎踐阼以來、時方省書(三)、乃使人知之者作之(四)。追思昔所行多不是。』又云、『堯舜不以天下與子、而與他人。此非為不惜天下、但子不中立耳。人有好牛馬、尚惜(五)。況天下邪。吾以汝是元子(六)、早有立意。兼群臣咸稱、如有汝友四皓(七)、吾所不能致、而為汝來、自為汝大事也(八)。今定汝為嗣。』又云、『吾生不學書、但讀書問字而遂知耳。以此故不大工、然亦足自解(九)。今視汝書、猶不如吾。汝可勤學習。每上疏宜自書、勿使吏人也(一〇)。』又云、『汝見蕭曹張陳諸公侯、吾同時人、倍年於汝者、皆拜、并語汝諸弟(一一)。』又云、『吾得疾、遂困以如意母子相累。其餘諸子皆足自立(一二)。哀此兒猶小也。』

校記 出漢書高祖手敕。說郭二十五。○古文苑一○引「漢高祖手勅太子」。余氏曰、漢書實無此敕、續談助本有晉明帝啓元帝、亦只注云晉敕、則此條書字自是淺人妄增、今刪去。古文苑卷十錄此文、不著出處。章樵注云、漢書藝文志高祖傳十三篇、固自注、高祖與大臣述古語及詔策也、此篇或居詔策之一。其說是也。但古文苑為宋人所輯、其時高祖傳已亡、蓋即自小說錄出也。諸家注漢書者皆不引此、殆疑其非真、不知已先見梁人書中矣。」全漢文一。余氏4。唐氏5。周氏4。

(一)○古文苑引無「問生不讀書又不」七字。(二)○古文苑引無「所」字。(三)○「方省」二字、鈎沈作「□□」、明鈔說郭引作「方生」、古文苑引作「方省」、今從余氏作「方省」。(四)○此句、古文苑引作「乃使人

知作者之意」。(五)○古文苑引「惜」作「借」、誤。(六)○古文苑引「汝」作「爾」。(七)○「如有」涵芬樓本明鈔說郭、古文苑引俱無此二字。(八)○此句古文苑引作「爲可任大事也」。(九)○古文苑引「解」字上有「辭」字。(一〇)○古文苑引無「吏」字。(一一)○古文苑引「汝」上有「於」字。(一二)○古文苑引「子」作「兒」、「足自立」作「自足立」。

5 高祖初入咸陽宮、周行府庫、金玉珍寶不可稱言。其尤驚異者、有青玉九枝燈^(一)。高七尺五寸、下作盤龍^(二)、以口銜燈、燈然則鱗皆動^(三)、爛炳若列星而盈室^(四)。復鑄銅人十二枚、坐皆高三尺、列於筵上。琴瑟笙竽^(五)、各有所執、皆點綴華彩^(六)、儼若生人。筵下有二銅管、上口高數尺、出筵後、其一管空、一管有繩大如指^(七)。一人吹管^(八)、一人約繩^(九)、則琴瑟笙竽等皆作^(一〇)、與真樂不殊^(一一)。有琴長六尺、安十三絃、二十六徽、用七寶飾之。銘曰璠璣之樂^(一二)。玉笛長二尺三寸^(一三)、六孔^(一四)、吹之則見車馬山林隱嶙相次^(一五)、吹息則不復見。銘曰昭華之管^(一六)。有方鏡、廣四尺、高五尺九寸、表裏有明。直來照之^(一七)、影則倒見。以手掩心而照之^(一八)、則知病之所在^(一九)、見腸胃五臟、歷然無礙。又女子有邪心、則膽張心動。始皇常以照宮人、膽張心動者、則殺之。高祖悉封閉以待項羽、羽併將以東後、不知所在。

校記 出西京雜記上(四部叢刊本三)。說郭二十五(4)。*紺珠集二(20)。○*類說五九20。余氏5。唐氏6。周氏5。

(一)○今本雜記「九」作「五」。(二)○雜記此句作「作蟠螭」。(三)○涵芬樓本說郭引「然」作「燃」、又「鱗」下有「甲」字、雜記亦同。(四)○雜記「爛」作「煥」。(五)○雜記「瑟」作「筑」。(六)○雜記無「點」字。(七)○雜記「管」下有「內」字。(八)○雜記「一人」上有「使」字、「管」上有「空」字。(九)○雜記「約」作「紐」。(一〇)○雜記「琴瑟笙竽」作「衆樂」。(一一)○此句涵芬樓本說郭引作「雖

真樂不如」。雜記「不殊」作「不異焉」。(一二)紺珠集二引此二句。○紺珠集、類說引均作「琴以七寶飾之、名璠璣之樂」。雜記與鈎沈同、但「用」上有「皆」字。(一三)○雜記「笛」作「管」。(一四)○雜記作「二十六孔」。(一五)○雜記「鱗」作「麟」。(一六)○雜記「管」作「琯」。(一七)○雜記「直」上有「人」字。(一八)○雜記「掩」作「捫」、又「照之」作「來」。(一九)○雜記除「則」字以外無此句五字。

6 文帝自代還、有良馬九疋^(一)、一名浮雲、一名赤龍、一名絕羣、一名逸驃、一名飛燕^(二)、一名綠驕^(三)、一名龍子^(四)、一名麟駒^(五)、一名絕塵、號九駿^(六)。有求宣能御馬^(七)、代王號爲王良、俱還代邸。

校記 出西京雜記(四部叢刊本二)。說郭二十五(4)。○余氏7。唐氏6。周氏7。

(一)○今本雜記此句下有「皆天下之駿馬也」七字。(二)○雜記「飛燕」作「紫鸞驕」。(三)○「綠驕」涵芬樓本說郭作「綠螭」、雜記作「綠螭驄」。(四)○涵芬樓本說郭作「龍駒」。(五)○涵芬樓本說郭作「驕駒」。(六)○雜記作「號爲九逸」。(七)○涵芬樓本說郭作「有求最能馬」而無「御」字。雜記「求」作「來」而無「馬」字。

7 漢武帝嘗微行、造主人家、家有婢國色^(一)、帝悅之、仍留宿。夜與主婢臥。有一書生亦寄宿、善天文、忽見客星將掩帝座甚逼^(二)。書生大驚連呼咄咄、不覺聲高。仍入^(三)、見一男子持刀將欲入。聞書生聲急謂爲己故、遂縮走去。客星應時而退、如是者數遍。帝聞其聲、異而問之。生具說所見。帝乃悟曰、「此人必婢壻、將欲肆其凶惡於朕。」仍召集期門羽林^(四)、語主人曰、「朕天子也。」於是禽拏問之。服而誅。後帝歎曰、「斯蓋天啓書生之心^(五)、於扶祐朕躬^(六)。」乃厚賜書生。

校記 出幽明錄。說郭二十五(6)。○余氏8。唐氏8。周氏8。唐開元占經八三引幽明錄、參看幽明錄(鈎沈

27)。同文又見廣記一六一。

(一)○涵芬樓本說郭「國色」上有「有」字。(二)○涵芬樓本說郭引「座」作「星」。(三)○涵芬樓本說郭「入」作「又」。(四)○「期」鈎沈作空一格、今據涵芬樓本補、廣記引亦作「期」。(五)○余氏「蓋」作「乃」、恐引誤。鈎沈脫「之心」二字、今據涵芬樓本說郭、廣記引補。(六)○涵芬樓本說郭「於」作「以」、「祐」作「佑」。

8 武帝時^(一)、長安巧手丁緩者^(二)、爲恒滿鐙^(三)、七龍五鳳、雜以芙蓉蓮藕之奇。又作臥褥香爐、一名被中香、本出房風。其法後絕、至緩始更爲之。機環運轉四周^(四)、而爐體常平、可致之被褥^(五)、故以爲名。又作九層博山香爐。鏤爲奇禽怪獸、窮諸靈異、皆能自然轉動^(六)。又作七輪扇、輪大皆徑尺^(七)、相連續。一人運之、則滿堂皆寒戰焉^(八)。

校記 出西京雜記上(四部叢刊本一)。說郭二十五(6、未著出處)。○余氏9。唐氏9。周氏9。

(一)○雜記無此三字。(二)○雜記「手」作「工」、「丁緩」作「丁緩」、涵芬樓本說郭引作「丁緩」、下同。(三)○雜記「恒」作「常」。(四)○雜記「機環」上有「爲」字。(五)○雜記「致」作「置」。(六)○雜記無「能」字、「轉」作「運」。(七)○涵芬樓本說郭「輪大」作「大輪」。雜記「輪」上有「連七」、句讀。雜記又「尺」作「丈」。(八)○此句雜記作「滿堂寒顫」四字。

9 孫氏瑞應圖云^(一)、『神鼎者文質精也。知吉凶、知存亡、能輕能重、能息能行、不灼自沸^(二)、不汲自滿、中生五味。王者興、則出、衰則去。』說苑云、『孝武時、汾陰人得寶鼎獻之。甘泉宮羣臣畢賀上壽曰、陛下得周鼎。侍中吾丘壽王曰、非周鼎。上召問之、有說則生、無說則死。壽王對曰、周德者始於天授^(三)、成於文武、顯於周公。德澤上暢於天下、漏於三泉。上天報應、鼎爲周出。今漢繼周、德顯行^(四)、六合和同。至陛下之身而逾盛、天瑞並至。昔始皇親求鼎、於彭城而不得。天昭有德神寶、自至此、天所以遺漢、乃漢鼎非周鼎也。上曰善。』魏文帝典論亦云、『墨子曰、

昔夏后啓使飛廉折金^(五)、以精神於昆吾^(六)、使翁乙灼自若之龜、鼎成、四足而方。不灼自烹、不舉自滅、不遷自行^(七)。』拾遺錄云、『周末大亂、九鼎飛入天池。』末世書論云、『入泗水』、聲轉謬焉^(八)。

校記 廣記二百二十九。○余氏10。唐氏10。周氏10。

(一)○余氏注云、氏字原闕、據隋書經籍志補。廣記汪校語云、氏字原闕、據明鈔本補。廣記黃刻本已補。廣記各本皆作「應瑞圖」、鈎沈蓋據隋志五行改。天地瑞祥志一七引孫柔之『瑞應圖』云、神鼎者質文精也。知吉凶、能輕能重、能息能行、不煩自沸、不及自滿、中烟燼之氣、自然所生也。亂則藏於深山、王者興則出、襄則去也。』又和漢年號字抄引東宮切韻(引郭知玄切韻、郭書引瑞應圖)云、鼎者質文精也。如吉凶存亡輕重、能息能行、不灼而沸、不汲自自、中生五味。王者興則出、衰則去。所以桀昏遷商、紂暴遷周。』云、廣記引皆誤作「六」。(二)○廣記宋抄本「自」作「而」。(三)○今本說苑十一載此語、與此少有不同。此句作「周德始產于后稷、長於公劉、大於大王」。余氏「天授」改作「后稷」、而注云、原作天授、蓋因形近而誤、今據說苑及漢書改。(四)○廣記宋抄本「□」作「□□」。說苑、漢書吾丘壽王傳「德□」作「昭德」。(五)○廣記宋抄本「飛廉」作「飛龍魚」。(六)○余氏注云、句有誤字。(七)○余氏注云、此條諸家所輯典論皆失收。(八)○余氏文末注云、案小說所引書皆注於正文之末、云出某書、此條雜引羣書、獨先出書名、與他條體例不類、恐是廣記所改。所引拾遺錄、當即王嘉拾遺記、今本無此文。』唐氏亦文末注云、按此條與全書不類、且殷芸不見拾遺錄、疑廣記引誤。

10 漢武帝過李夫人^(一)、就取玉簪搔頭^(二)。自此後宮人搔頭^(三)、皆用玉簪^(四)、玉倍貴焉^(五)。又以象牙爲篋^(六)、賜李夫人。

校記 西京雜記上(四部叢刊本二)有之、無末二句。廣記二百二十九。○余氏11。唐氏51。周氏11。

(一)○余氏注云、原本闕首二字、帝作辛、考雜記作武帝、今據改。」汪校語云、據明鈔本改補。廣記黃刻本已改爲「漢武帝」。(二)○「搔」鈎沈作「檢」、而雜記作「搔」、今據雜記改。下同。余氏亦同。汪校語云、明鈔本「拴」作「搔」。談刻、黃刻本皆作「拴」。(三)○此句談刻本作「白比言人檢頭」、黃刻本作「白比宮人檢頭」、皆誤。雜記作「自此後宮人搔頭」、今據改。(四)○雜記無「簪」字。(五)○「簪玉倍」三字談刻本原闕、鈎沈從黃刻本。汪校作「爲之」二字而云、據明鈔本補。(六)○「又」字談刻本作「夫」、鈎沈從黃刻本作「又」。末二句西京雜記五云、「以象牙爲簾、賜李夫人」。唐氏注云、如「篋」字、今雜記下作「簾」疑象牙不可作簾、以「篋」字爲長。故不改。」

11 漢武以雜寶粧床屏帳等^(一)、設於桂宮、謂之四寶宮^(二)。

校記 紺珠集二(1)。海錄碎事四下。○鈎沈作海錄碎事七引、今正。*類說四九2。余氏12。余氏注云、案此出西京雜記二。「唐氏11。周氏12。

西京雜記二云、武帝爲七寶牀、雜寶案、廁寶屏風、列寶帳、設於桂宮。時人謂四寶宮。

(一)○類說脫「床」、「等」二字。(二)海錄碎事七引作「謂四寶宮也」。○紺珠集引「宮」作「帳」、誤。

12 成帝設雲帳雲幄雲幕於甘泉宮紫殿^(一)、謂之三雲殿^(二)。

校記 出西京雜記上(四部叢刊本一)。說郭二十五(8)。紺珠集二(2)。○余氏13。唐氏13。周氏13。

(一)○紺珠集引「雲帳」二字在「雲幕」之下、又無「紫殿」二字。涵芬樓本說郭引「幕」作「冪」。雜記無「宮」字。(二)○「謂之」雜記、涵芬樓本說郭並作「世謂」。

13 漢成帝好蹀鞠^(一)、羣臣以蹀鞠勞體、非尊者所宜。帝曰、『朕好之、可擇似而不勞者奏之。』劉向奏彈碁以獻、上悅^(二)、賜之青羔裘紫絲履、服以朝覲^(三)。或言始於魏文帝時宮中粧奩之戲。帝爲之特妙^(四)、能用手巾角拂之。有人自言能、令試之^(五)、以葛巾低頭拂之、更妙於帝。

校記 「前半」出*西京雜記上(四部叢刊本二)。*廣記二百二十八。*紺珠集二(3)。○*類說四九3。余氏14·15。余氏注云、後半出世說巧藝篇。唐氏12。周氏14·15。事又見世說巧藝篇及注引傳玄「彈碁賦叙」、參看博物志(佚文：魏志文帝紀、御覽九三)。

前一事紺珠集、類說略引云、漢成(類說作「武」)帝好蹀鞠、左右以爲勞。帝曰、擇似此(類說作「而」)不勞者奏之。乃彈碁以獻。

(一)○雜記、紺珠集、類說引皆「蹀」作「蹴」、下同。(二)○雜記「上悅」作「帝大悅」。(三)廣記所引一事出西京雜記上、「劉向」原作「家君」。○廣記引至此止。(四)○紺珠集引「特」誤作「時」。(五)○類說引無「自言能令試之」六字。

14 魏武少時、嘗與袁紹好爲游俠^(一)。觀人新婚、因潛入主人園、中夜叫呼云、『有偷兒至^(二)。』廬中人皆出觀^(三)、帝乃抽刀劫新婦^(四)、與紹還出。失道墜枳棘中、紹不能動^(五)。帝復大呼^(六)、『偷兒今在此^(七)。』紹惶迫自擲出俱免^(八)。魏武又嘗云、『人欲危己、己輒心動。』因語所親小人云、『汝懷刃密來、我心必動、便戮汝、汝但勿言、當後相報。』侍者信焉、遂斬之。謀逆者挫氣矣。又袁紹年少時、曾夜遣人以劒擲魏武^(九)、少下不著。帝揆其後來必高^(一〇)、因帖臥牀上^(一一)、劒果高^(一二)。魏武又云^(一三)、『我眠中不可妄近、近輒斫人^(一四)、亦不自覺。左右宜慎之^(一五)。』後乃佯凍^(一六)、所幸小人竊以被覆之^(一七)、因便斫殺。自爾莫敢近之^(一八)。

校記 廣記一百九十。○余氏18、注云、案出世說假譎篇(1·3·4·5)、本四節、此合爲一。唐氏15。周

氏 17。第四節、事見語林（鈎沈 16）。

（一）○「嘗」鈎沈依廣記黃刻本作「常」。（二）○世說「至」作「賊」。（三）○世說「廬」作「青廬」。（四）○世說「帝乃」作「魏武乃人」。（五）○世說「動」作「得動」。（六）○此句世說作「復大叫云」。（七）○世說無「今」字。（八）○世說「俱免」上有「遂以」二字。（九）○世說「夜」在「人」下。（一〇）○世說「帝揆」作「魏武揆之」。（一一）○鈎沈「帖」下有「席」字、今刪。唐氏「帖」作「貼」。（一二）○世說「劍」下有「至」字。（一三）○世說「又」作「常」。（一四）○世說「輒」作「便」。（一五）○世說「之」作「此」。（一六）○世說「乃伴凍」作「陽眠」。（一七）○世說「小人」作「一人」。（一八）○此句世說作「自爾每眠、左右幕敢近者」。

15 魏武將見匈奴使、自以形陋不足懷遠國^(一)、使崔季圭代當之^(二)。自捉刀立牀頭^(三)。事畢^(四)、令間諜問曰^(五)、『魏王何如。』使曰^(六)、『魏王雅望非常、然牀頭捉刀人乃英雄也^(七)。』王聞之^(八)、馳殺此使^(九)。

校記 廣記一百六十九。○余氏 17、注云、案此出世說容止篇（1）。唐氏 18。周氏 18。事見語林（鈎沈 17）。（一）○「自」字、鈎沈排印本脫之、稿本不脫。語林「懷」作「雄」、世說亦同。（二）○「當之」二字、語林作「當坐」、世說無之。（三）○語林句頭有「乃」字。世說句頭有「帝」字。（四）○此句語林作「坐既畢」、世說作「既畢」。（五）○語林「間諜」作「人」。（六）○語林作「使答曰」。世說作「匈奴使答曰」。（七）○語林、世說俱「乃」上有「此」字。（八）○語林「王」作「魏王」、世說作「魏武」。（九）○語林「馳」作「馳遣」、世說作「追」。

16 晉咸康中、有士人周謂者^(一)、死而復生、言天帝召見、引升殿^(二)、仰視帝^(三)、面方一尺。問左右曰、是古張天帝

邪。答云^(四)、上古天帝久已聖去^(五)。此近曹明帝也^(六)。

校記 紺珠集二(5)。○類說四九4。余氏20。唐氏17。周氏20、注云、查淵鑑類函天部天三曾引此條、至「面方一尺」爲止、謂出晉書、但晉書中未見此文。(一)○類說引以上二句作「晉周興」三字。(二)○類說引無「引」字。(三)○類說引「帝」作「紫氣鬱鬱」。(四)○類說引「云」作「曰」。(五)○類說引「聖」作「陞」。(六)○類說引「也」作「耳」。

17 晉明帝爲太子時^(一)、聞元帝沐、上啓云^(二)、『臣紹言、伏蒙吉日沐頭、老壽多宜、謹拜賀表。』答云、『春正月沐頭、至今大垢臭、故力沐耳^(三)。得啓知汝孝愛、當如今言、父子享祿長生也。』又啓云^(四)、『沐伏久勞極^(五)、不審尊體何如^(六)。』答云、『去垢甚佳、勞不極也^(七)。』

校記 出晉敕。續談助四(1)、注云、此卷並出秦漢晉宋諸帝。*紺珠集二(6)。○古文苑一○。*類說四九6。*丹鉛續錄四。*丹鉛雜錄五。余氏21、注云、案古文苑十有此文、蓋卽出於此。唐氏19。周氏21。『續談助』注「此卷」包括鈎沈第17・19・20・21・23・29條。『續談助』、今以十萬卷樓叢書本及粵雅堂叢書本校之。

紺珠集云、晉明帝爲太子、時聞元帝沐。上啓云、沐伏久、想勞極。不審尊體何如。答云、去垢甚佳、身不勞也。

(一)○類說引無「時」字。(二)(以上三句)續談助引作「晉明帝啓元帝」。○古文苑引亦同。(三)○古文苑引「力」作「乃」。(四)紺珠集引無「臣紹言」至此。○類說引亦同。(五)○古文苑無「伏」字。類說引此句作「伏聞沐久」。(六)○類說、丹鉛雜錄引皆「何如」作「如何」。(七)「勞不極」紺珠集引作「身不勞」。○此句古文苑引作「身不極勞也」。續談助、丹鉛雜錄引「勞」亦作「身」。

18 凌雲臺上、樓觀極盛^(一)。初造時先秤衆材^(二)、俾輕重相稱、乃結構^(三)。故雖高而隨風動搖、終不壞。明帝登而懼

其傾側^(四)、命以大木扶之、未幾頽壞。

校記 紺珠集二(4)。○類說四九5。余氏19、注云、案此出世說巧藝篇、惟多刪改。唐氏18。周氏19。

世說巧藝篇2云、陵雲臺樓觀精巧、先稱平衆木輕重、然後造構、乃無鎔銖相負揭。臺雖高峻、常隨風搖動、而終無傾倒之理。魏明帝登臺、懼其勢危、別以大材扶持之、樓即頽壞。論者謂輕重力偏故也。

(一)○類說引無以上五字。(二)○類說引「秤」作「稱」。(三)○類說引無此句三字。(四)紺珠集、類說引「明帝」上有「晉」字。鈎沈脫「晉」字、但仍置在晉明帝之項。余氏加「魏」字而注云、案晉明帝未嘗至洛陽、其誤顯然、今據世說改。余氏說是、當以本條移到15之後。

19 晉成帝時、庾后臨朝。南頓王宗爲禁旅官、典管籥。諸庾數密表疏宗、宗罵言云、『是汝家門閭邪。』諸庾甚忿之、託黨蘇峻誅之。後帝問左右、『見宗室有白頭老翁何在。』答、『同蘇峻已誅。』帝聞之流涕。後頗知其事、每見諸庾、道枉死。帝嘗在后前乃曰、『阿舅何爲云人作賊^(一)、輒殺之。人忽言阿舅作賊、當復云何。』庾后以牙尺打帝頭云^(二)、『兒何以作爾語^(三)。』帝無言。唯大張目熟視諸庾、諸庾甚懼。

校記 出雜語。續談助四(2)。困學紀聞十三。○余氏22、注云、案隋唐經籍志雜語三卷、不著撰人名氏。』

唐氏20。周氏22。事見語林(鈎沈71)。

困學紀聞云、按殷芸小說、晉成帝時、庾后臨朝、諸庾誅南頓王宗。帝問南頓何在。答曰、黨峻作賊、已誅。帝知非黨、曰、言舅作賊、當復云何。庾后以牙尺打帝頭云、兒何以作爾語。帝無言、惟張目熟視、諸庾甚懼。

(一)○「爲」鈎沈作「謂」、續談助各本皆作「爲」、今依改。(二)『紀聞』引有「頭」字。(三)○「兒」續談助各本皆作「鼠」、鈎沈從『紀聞』。但余氏云、案鼠或是成帝小字。

20 宣帝問眞長^(一)、『會王如何^(二)。』劉惔答、『欲造微。』桓曰、『何如卿。』曰、『殆無異。』桓溫乃喟然曰、『時無許郭、人人自以爲稷契。』

校記 出雜記。續談助四⁽³⁾。○余氏23、注云、案隋書經籍志云、梁有雜記十卷、何氏撰、亡。唐氏21。周氏23。

(一)〔宣帝〕案疑是宣武之誤。○鈎沈稿本無此按語、或三十八年版全集校訂者所加。余氏注亦云、宣帝不與劉眞長同時、當作桓宣武。(二)○余氏注云、當作會稽王、卽簡文帝也。

21 簡文在殿上行、右軍與孫興公在後、右軍指孫曰^(一)、『此是噉石客^(二)。』簡文聞之顧曰^(三)、『天下自有利齒兒^(四)。』

後王光祿作會稽、謝車騎出曲阿祖之^(五)。孝伯時罷、秘書丞在坐、因視孝伯曰、『王丞齒似不鈍。』王曰、『不鈍頗有驗。』

校記 ○鈎沈未著出處。續談助亦脫出處。出世說排調篇54。續談助四4。*類說四九17。余氏25。唐氏22。周氏25。

世說排調篇云、簡文在殿上行、右軍與孫興公在後。右軍指簡文語孫曰、此噉名客。簡文顧曰、天下自有利齒兒。後王光祿作會稽、謝車騎出曲阿祖之。王孝伯罷秘書丞在坐、謝言及此事、因視孝伯曰、王丞齒似不鈍。王曰、不鈍、頗亦驗。

余氏世說箋疏云、嘉錫案、噉名客與利齒兒、語意不甚可解。名既不可噉、且噉名亦何須利齒。若謂簡文此語爲指右軍言之、則右軍僅寥寥一語、未可便謂之「利齒兒」。考宋曾慥類說四十九載殷芸小說引世說作「右軍指孫曰、此是啖石客。簡文曰、公豈不聞天下自有利齒兒耶。」夫簡文既稱右軍爲公、則不得復呼之爲利齒兒、益知此語不爲右軍而發。蓋道家有啖石之法、右軍以興公善於持論、然多強辭奪理、故戲之爲啖石客。簡文聞之、便解其意、因答言彼齒牙堅利、自能啖石耳。亦以譏興公也。下文謝玄亦云「王丞齒似不鈍」、正是以右軍戲興公者譏之。後人不解啖石

之義、妄改爲噉名。又以簡文語與右軍意不相干、復改右軍指孫爲指簡文語孫、於是右軍與簡文共嘲興公者、變爲二人互相嘲矣。不知使此語在簡文卽位以後、則天子也。卽在未卽位以前、亦相王也。右軍非狂誕之徒、安敢如此輕相戲侮耶。宋晁載之續談助卷四載殷芸小說引世說「右軍指孫曰」、指下多一「謂」字、簡文下多「聞之」二字、餘與今本同、似不如類說所引爲得其真。惟「噉名」亦作「噉石」、知今本「名」字、確爲傳寫之誤矣。

(一)○鈎沈「指」下有「謂」字、類說引無。余氏注云、續談助謂字亦衍文也。今依余氏說刪之。(二)○「噉石」、鈎沈依粵雅堂本續談助作「噉名」。今本世說同。鈎沈稿本有加筆之跡、似「名」亦似「石」。類說引作「啖石」。今據十萬卷樓本續談助改作「噉石」。(三)○類說引無「聞之顧」三字。(四)○類說引「天下」上有「公豈不知」四字。又「兒」下有「耶」字。類說引至此爲止。(五)○「祖」鈎沈依續談助作「視」、今據世說改。

22 簡文集諸談士、以致後客前客夜坐、每設白粥。唯然燈、然暗輒更益炷。

校記 出世說。續談助四(4)。○余氏25。唐氏22。周氏26。今本世說無此條。續談助與第21條合爲一條。事見俗說(鈎沈8)。

23 佛經以爲祛治神明、則聖可致。簡文云(一)、『不知便可登峯造極。不然陶冶之功、故不可經(三)。』

校記 出郭子。續談助四(5)。○郭子(鈎沈53)。余氏26。唐氏2。周氏27。事見世說文學篇44。

(一)○十萬卷樓本續談助引「云」作「曰」。(二)○「輕」鈎沈依粵雅堂本作「經」、今依十萬卷樓本改。

24 簡文帝爲撫軍(二)、所坐上塵不令左右拂、見鼠行之迹爲佳(三)。參軍見鼠白日行、以手板打殺之。意不悅。門下起彈。辭曰、『鼠被害、尚不能忘懷、今復以鼠損人、無乃不可乎。』

校記 出語林。續談助四（6）。○語林（鈎沈90）。余氏27。唐氏24。周氏28。事見世說德行篇37。

（一）○鈎沈語林90「撫軍」下據書鈔一三三、御覽七〇六、又九一一補「時」字。（二）○鈎沈語林「爲佳」上有「視以」二字。

25 晉孝武帝卽位、時十三四^{（一）}、冬天晝日不著複衣、但著單絹裙衫五六重^{（二）}、夜則累茵褥^{（三）}。謝公云^{（四）}、『體宜令有常^{（五）}、陛下晝過冷、夜過熱、非攝養之術^{（六）}。』帝曰、『夜靜故也^{（七）}。』謝公歎曰^{（八）}、『上理不減先帝^{（九）}。』

校記 出世說。續談助四（7）。御覽二十七。○今本世說夙惠篇6。事類賦注五。余氏29。唐氏25。周氏30。
（一）續談助引作「晉孝武年十三四時」。○唐寫本世說作「晉孝武年十三四、時」、今本「十三四」作「十二」。（二）○世說「絹」作「練」、脫「裙」字。（三）○事類賦注引「褥」上有「重」字。（四）○「謝公」下世說有「諫」字。（五）○「令」字今據事類賦注、中華書局本御覽及世說補。（六）○世說「非」上有「恐」字。（七）二字御覽引有。○事類賦注引亦有。世說唐寫本作「夜靜」二字、今本作「晝動夜靜」。（八）○世說「謝公」下有「出」字。（九）○事類賦注「理」上有「明」字。

26 孝武未嘗見驢^{（一）}。謝太傅問曰^{（二）}、『陛下想其形^{（三）}、當何所以。』孝武掩口笑云^{（四）}、『正當似豬^{（五）}。』

校記 出世說。續談助四（8）。○今本世說無此條、御覽九〇一、淵鑑四三五皆引作世說。余氏30。唐氏26。周氏31。

（一）○御覽引「孝武」下有「帝」字。（二）○御覽引無「曰」字。（三）○御覽引「想」作「遙想」。（四）○御覽引「笑云」作「而笑答曰」。（五）○御覽引「正」作「頭」。

27 武帝嘗於殿北窗下清暑^(一)，忽見一人著白□黃練單衣^(二)，舉身沾濕，自稱是華林園中池水神、名淋溼君^(三)。語帝，『若能見待、必當相祐。』帝時飲已醉，便取常佩刀擲之。刃空過無礙。神忿曰，『已不能佳士見接，乃至於此，當知之。』居少時而帝暴崩。

校記 出幽明錄。續談助四（9）。○幽明錄（鈞沈134）。見開元占經一一三、御覽八八二、廣記二九四。述古

堂舊鈔本幽明錄56。余氏31。唐氏27。周氏32。

（一）○粵雅堂叢書本續談助「嘗」作「常」。 （二）○闕字御覽作「夾」、占經作「幃」、廣記作「帔」。續談助各本闕字下更有一「黃」字。 （三）○續談助十萬卷樓本引作「淋溼君」。

28 宋國初建、參軍高纂啓云、「欲量作東西堂牀、六尺五寸、並用銀度釘、未敢專。」輒宋武手答云^(一)、「牀不須局脚、直脚自足、釘不煩銀渡、鐵釘而已。」

校記 出宋武手敕。續談助四（10）。○余氏32。唐氏33。周氏33。事見宋書武帝紀。

（一）○十萬卷樓本「專輒」填倒作「輒專」、誤。

29 鄭鮮之王智傳亮啓宋武云^(一)、「伏承明旦見南蠻^(二)、明是四廢日^(三)、來月朔好不^(四)。不審可從羣情遷來月不^(五)。」宋武手答云^(六)、「勞足下勤至^(七)、吾初不擇日。」帝親爲答、尚在其家^(八)。

校記 出宋武手敕。續談助四（11）。紺珠集二（7）。○類說四九7。事文類聚前集一二。*稗史彙編五引。余氏33、注云、說郭本坦齋通篇節引。唐氏29。周氏34。參看宋書武帝紀。

（一）○類說、紺珠集、事文類聚引皆無王·傳二人、而又「宋武」下有「帝」字。余氏注云、原作智、據宋書改（爲王弘）。 （二）○粵雅堂叢書本續談助引無「旦」字。 （三）○類說、紺珠集、事文類聚引皆無「明」。 （四）

○粵雅堂本「朔」作「朝」。(五)○類說、紺珠集、事文類聚引皆無「羣情遷來月」五字、而「不」作「否」。(六)紺珠集引僅作「答云」。○類說、紺珠集、事文類聚引俱亦作「答曰」而已。(七)○粵雅堂本續談助引「勞」下有「第」字、恐衍。(八)紺珠集二引有「帝親爲答、尚在其家」二句。○今依補之。

30 介子推不出^(一)、晉文公焚林求之^(二)。終抱木而死^(三)。公撫木哀嗟^(四)、伐樹製屨^(五)。每懷割股之恩^(六)、輒潸然流涕、視屨曰^(七)、『悲乎足下』。足下之言將起於此^(九)。

校記 出異苑。續談助四(12)注云、此卷並周六國前漢人。紺珠集二(8)。說郭二十五(9)。○今本異苑一○。北戶錄三注引作「梁武小說」。御覽六九八。類說四九八。歲時廣記一五。余氏35。唐氏30。周氏36。事見南方草木狀中引東方朔瑣語。又淵鑑三七五履引東方朔瑣語。荊楚歲時記寒食節引琴操。

北戶錄(十萬卷樓叢書本)三注云、梁武小說、介子推逃祿隱跡、抱樹燒死。文公拊木哀嗟、裁而製屨。每懷割股之功、輒俯視其屨曰、悲乎足下。足下之稱將此起乎。

(一)○御覽六九八、今本異苑「不出」作「逃祿隱跡」。(二)○御覽、今本異苑無此句。類說引「求」作「逼」。(三)○御覽、今本異苑此句作「抱樹燒死」。類說、歲時廣記引俱無「終」、紺珠集引作「推」。(四)○御覽、今本異苑「公」作「文公」。「撫木哀嗟」類說、紺珠集、歲時廣記俱作「撫之盡哀」。(五)○御覽、今本異苑「伐樹」作「伐而」。此句類說、歲時廣記引俱作「乃伐木製履」、紺珠集引「乃」誤作「汚」、餘同。(六)○御覽、今本異苑「恩」作「功」。(七)○「潸」字鈎沈闕字、今涵芬樓本說郭補。續談助無以上二句。類說、紺珠集、歲時廣記此二句作「每俯視、則流涕曰」七字。(八)○歲時廣記引至此爲止。(九)○御覽、今本異苑「言」作「稱」、類說引作「呼」。紺珠集引脫「言」字。類說引無「將」字。紺珠集引「將起於此」作「蓋自此起焉」。

31 王子喬墓在京茂陵^(一)。國亂時^(二)、有人盜發之^(三)、都無所見^(四)。唯有一劍、懸在空中^(五)、欲取之^(六)、劍便作龍鳴虎吼^(七)、遂不敢近。俄而飛上天^(八)。神仙經云、『真人去世、而多以劍代其形^(九)、五百年後、劍亦能靈化。』此其驗也。

校記 出世說。續談助四(13)。「○今本世說無此條。余氏36、注云、今世說無此事、恐是幽明錄之誤。然御覽三百四十三廣記二百二十九亦均引作世說、則其誤久矣。」按此條不見幽明錄中。九家注杜詩二〇「蕃劍詩」注、錢注杜詩一〇亦引作世說。淵鑑二三三劍引作世語、又同卷引作「神仙傳」。唐氏31。周氏37。

(一)○御覽、廣記引俱無「茂」字。(二)○此句御覽、廣記引均作「戰國時」。(三)○御覽引此句作「人有盜發之者」。(四)○御覽引「都」作「覩」。廣記引無「所」字。(五)○御覽引此句作「停在室中」。廣記引「空」作「壙」。(六)○御覽引「取」上有「進」字。廣記引「之」作「而」。(七)○御覽、廣記引皆無「便」字。廣記引「龍鳴虎吼」作「龍虎之聲」。(八)御覽、廣記引俱「飛」上有「徑」字。御覽引至此為止。(九)○廣記引此句作「多以劍代」。

32 老子始下生、乘白鹿、入母胎中^(一)。老子爲人、黃色美髮^(二)、長耳廣額^(三)、大目疏齒、方口厚唇^(四)、耳有三門^(五)、鼻有雙柱^(六)、足蹈五字^(七)、手把十文^(八)。

校記 出顧玄□瀨鄉記^(九)。續談助四(14)。說郭二十五(10)。「○藝文類聚九五。*初學記二九。*御覽三六六、三六七、三六八、三七二、三八八引皆作瀨鄉記。類說四九18。錦繡萬花谷前集一八。天中記三九。淵鑑二四四生子。余氏37。唐氏32。周氏38。」

(一)○續談助引「生」下有「來」字。藝文類聚、初學記引作「老子乘白鹿、下託於李母也」。御覽九〇六引亦同、但無「也」字。(二)○「美髮」續談助、御覽三八八、涵芬樓本說郭引均作「美眉」。類說、萬花谷引以上二句

止作「既生」。(三)○類說、萬花谷引均無「長耳」。萬花谷引「額」作「頰」。(四)○御覽三六八引作「老君厚脣」。類說、萬花谷引皆無「方口」二字。(五)○御覽三六六引作「老子耳有三門」。(六)○御覽三六七引作「老子鼻雙柱」。(七)○御覽三七二引作「老子足蹈二五」。(八)○說郭引「十」作「千」○涵芬樓本說郭引亦同。(九)○余氏注云、原注、出崔玄山瀨鄉記。案此書撰人續談助作顧玄仙、說郭作崔玄千、茲從文選五十六新刻漏銘柱改。」按初學記引亦作「崔玄山瀨鄉記」。

33 襄邑縣八十里曰瀨鄉^(一)、有老子廟^(二)、廟中九井^(三)。或云、每汲一井而八井水俱動^(四)、有能潔齋入祠者、須水溫卽隨□而溫^(五)。

校記 出郭子^(六)。說郭二十五(11)。○*御覽一八九引作瀨鄉記。余氏失收。唐氏33。周氏39。事見幽明錄(鈎沈8)、初學記七、御覽一八九。參看路史後紀三注引荊記。

(一)○涵芬樓本說郭引「縣」下有「南」字、而且「八十」作「十八」。(二)○涵芬樓本說郭引無「老子」二字。(三)○涵芬樓本說郭引無「廟」字。(四)○御覽一八九引、以上五句作「老子廟中有九井、汲一餘井水並動」十四字。(五)○闕字、涵芬樓本作「事」。此句初學記所引幽明錄作「水溫清隨人意念」。(六)○此不是郭子之文、而是瀨鄉記之文也。因爲此文前半系御覽一八九所引瀨鄉記。疑說郭之筆誤也。參看校本鈎沈郭子86。

34 顏淵子路共坐於門^(一)、有鬼魅求見孔子、其目若日^(二)、其形甚偉^(三)。子路失魄口噤^(四)、顏淵乃納履^(五)、拔劔而前^(六)、捲握其腰^(七)。於是化爲蛇^(八)、遂斬之^(九)。孔子出觀^(一〇)、歎曰、『勇者不懼、知者不惑^(一一)、仁者有勇^(一二)、勇者不必有仁^(一三)』。

校記 說郭二十五〔12〕。續談助四〔15〕。廣記四百五十六。海錄碎事十四。○天中記五六。繹史九五。余氏38、注云、案此條不注書名、以下條及子路取水條推之、必衝波傳也。蓋此四條皆引衝波傳、而總注於末條之下耳。」唐氏34。周氏40。

(一)○「顏淵」續談助引作「顏泉」、而注云「唐神堯諱淵」。廣記引「淵」作「回」、又「門」上有「夫子之」三字。(二)○廣記引「日」上有「合」字。(三)○「形」廣記原作「時」、而汪校語云、據明鈔本改(爲「狀」)。(四)○續談助引「失魄口噤」作「甚懼」。廣記引下有「不得言」三字。(五)○續談助引無「乃」字。「履」鈎沈「履」、今依改。(六)「拔」廣記引作「杖」、而無「而」字。(七)○「握」鈎沈作「扯」、今據廣記改、說郭引作「掙」。續談助引無此句四字。(八)廣記引作「於是形化成虹」。○「虹」系鈎沈筆誤、廣記引作「蛇」。(九)○廣記引「遂」作「卽」。(一〇)○續談助引無「出觀」二字。(一一)○續談助引無此二句八字。(一二)廣記引作「智者不勇」。○續談助引「有」上有「必」字。(一三)廣記引「仁」作「智」。○續談助無此六句六字。

35 孔子嘗使子貢出(一)、久而不返(二)、占之遇鼎、弟子皆言無足不來(三)。顏回掩口而笑。孔子曰、『回笑是謂賜必來也。』因問回、『何以知賜來。』對曰、『無足者蓋乘舟而來。賜旦至矣。』明旦子貢乘潮至(四)。

校記 說郭二十五〔13〕。紺珠集二〔17〕。鈎沈誤作四、七三年版全集已訂。*海錄碎事一四。○*類說四九14。余氏39、注云、案藝文類聚七十一引衝波傳、文與此同而稍略、其事又北堂書鈔一百三十七引韓詩外傳。按初學記二〇、繹史九五亦引衝波傳。唐氏35。周氏41。

(一)○涵芬樓本說郭引無「出」字。(二)○類說引無「而」、紺珠集、海錄引均「而」作「之」。紺珠集又「返」作「反」。(三)○以上二句、類說引作「占得鼎卦、而無足。衆弟子以謂不來矣」。海錄作「占得鼎卦、無足。弟

子輩皆以爲不來矣」，紺珠集與海錄同，但無「爲」字耳。（四）海錄碎事節引，未作「鼎無足，其乘舟來耶。果然。」○「顏回掩口而笑」以下類說略引，與海錄引同，止「顏回曰」作「顏淵曰」而已。紺珠集亦略同，「其」作「則」。

36 子路顏回浴於泗水^(二)，見五色鳥，顏回問子路曰，「由識此鳥否。」子路曰，「識。」回曰，「何鳥^(三)。」子路曰，「榮之鳥^(三)。」後曰顏回與子路又浴於泗水，更見前鳥，復問，「由識此鳥否。」子路曰，「識。」回曰，「何鳥。」子路曰，「同之鳥^(四)。」顏回曰，「何一鳥而二名。」子路曰，「譬如絲絹，煮之則爲帛，染之則爲皁。一鳥而二名^(五)，不亦宜乎。」

校記 說郭二十五（14）。○余氏40。唐氏36。周氏43。繹史九五引衝波傳、文略同。

（一）○「泗」涵芬樓本說郭作「洙」，繹史引亦同。（二）○涵芬樓本無「子路曰由識此鳥否子路曰識回曰何鳥」十六字。繹史引亦同。（三）○繹史引作「榮榮之鳥」。（四）○涵芬樓本作「同同之鳥」。（五）○涵芬樓本無此一句五字，繹史所引衝波傳與鈎沈同。

37 孔子嘗游於山，使子路取水，逢虎於水所，與共戰攬尾得之，內懷中^(一)。取水還，問孔子曰，「上士殺虎如之何。」子曰，「上士殺虎持虎頭。」又問，「中士殺虎如之何。」子曰，「中士殺虎持虎耳。」又問，「下士殺虎如之何^(二)。」子曰，「下士殺虎捉尾。」子路出尾棄之。因恚孔子曰，「夫子知水所有虎，使我取水，是欲死我。」乃懷石盤，欲中孔子。又問，「上士殺人如之何。」子曰，「上士殺人使筆端。」又問曰，「中士殺人如之何。」子曰，「中士殺人用舌端。」又問，「下士殺人如之何。」子曰，「下士殺人懷石盤。」子路出而棄之。於是心服。

校記 出衝波傳。說郭二十五（15）。○天中記六。○廣博物志四六。稗史彙編三一。余氏41，注云，案，金樓子

雜記篇上所載略同、梁元帝著書在殷芸之後、知亦取之衝波傳也。繹史九十五引衝波傳較此亦多上士殺虎持虎頭等數句、蓋馬氏所見說郭猶是善本。」按魯迅所見原本說郭亦非今本涵芬樓本也。唐氏 37。周氏 44。事見金樓子（御覽八九二引）、又今本雜記篇、李暹注千字文「聆音察理、鑑貌辯色」。繹史九五亦引衝波傳。

（一）○涵芬樓本說郭引「內」作「納」。（二）○自「子曰上士殺虎持虎頭」至此為止凡三十七字、涵芬樓本脫之。天中記、稗史彙編、繹史均引有。

38 秦世有謠云、『秦始皇、何強梁。開吾戶、據吾床。飲吾漿、唾吾裳。食吾飯、以爲糧。張吾弓、射東牆。前至沙丘、當滅亡。』始皇既焚書坑儒、乃發孔子墓、欲取經傳。墓既啓、遂見此謠、文刊在冢壁、始皇甚惡之。及東游乃遠沙丘而循別路、忽見羣小兒攢沙爲阜、問之『何爲。』答云、『此爲沙丘也。』從此得病而亡。或云、孔子將死、遺書曰、『不知何男子、自謂秦始皇、上我之堂、據我之床、轉倒我衣裳、至沙丘而亡。』

校記 說郭二十五（16）。○余氏 42、注云、此條失注所出書名、今案其文見劉敬叔異苑四、文句小異、僅至從此得病止、無而已以下三十九字。考論衡實知篇云、「孔子將死、遺讖書曰、不知何一男子、自謂秦始皇、上我之堂、踞我之牀、顛倒我衣裳、至沙邱而亡」、與此條或說全合、蓋卽一事、傳聞異辭、故敬叔於篇末引之以存疑、而今本異苑脫去也。但論衡第云、其後秦王兼吞天下、號始皇、巡狩至魯、觀孔子宅、乃至沙邱、道病而崩、無發孔子墓取經傳事、異苑之言尤不可信。唐氏 38。周氏 48。

39 安吉縣西有孔子井、吳東校書郎施彥先後居井側（二）。先云、『仲尼聘楚、爲令尹子西所譖、欲如吳未定、逍遙此境、復居井側、因以名焉。』

校記 出山謙之吳興記。續談助四（16）。說郭二十五（17）。○余氏 43。唐氏 39。周氏 49。

(一)○涵芬樓本說郭引「吳」誤作「吾」。續談助各本俱「後」作「復」。

40 鬼谷先生與蘇秦張儀書云、「二君足下、功名赫赫、但春華到秋^(三)、不得久茂、日數將冬、時訖將老^(三)、子獨不見^(三)、河邊之樹乎、僕御折其枝、波浪激其根、^(四)此木非與天下人有仇怨^(五)、蓋所居者然^(六)。子見嵩岱之松柏^(七)、華霍之樹檀^(八)、上葉干青雲^(九)、下根通三泉^(一〇)、上有猿猱、下有赤豹麒麟^(一一)、千秋萬歲不逢斧斤之患^(一二)、此木非與天下之人有骨肉^(一三)、亦所居者然^(一四)。今二子好朝露之榮^(一五)、棄長久之功^(一六)、輕喬松之永延^(一七)、貴一旦之浮爵^(一八)、夫女愛不極席^(一九)、男歡不畢輪^(二〇)。痛夫、二君二君^(二一)。」
蘇秦張儀答書云、「伏以先生秉德含和之中、游心青雲之上^(二二)、飢必噉芝草^(二三)、渴必飲玉漿。德與神靈齊、明與三光同、不忘將書^(二四)、誠以行事^(二五)、儀以不敏、名聞不昭^(二六)、入秦匡霸^(二七)、欲翼時君、刺以河邊、喻以深山、雖復素闇^(二八)、誠銜斯旨^(二九)。」

校記 出鬼谷先生書。續談助四(17)。說郭二十五(18)。○*永樂大典一四五三七節引續談助。余氏44、注云、案鬼谷先生書、隋志不著錄、藝文類聚三十六引袁淑真傳曰、鬼谷先生、不知何許人也……先生遺書責之云々。然止節錄河邊之樹、嵩岱之松柏二節、御覽五百一十所引尤略。孫星衍據類聚收入續古文苑七、嚴可均輯全上古三代文既據真隱傳錄其文、又從杜光庭錄異記得其全篇及張儀答書、載入卷八及卷十一、然其文仍有刪節、又誤將光庭敘事之語并作張儀之文、蓋皆未見續談助及說郭也。」唐氏40。周氏50。事又見繹史114引真隱傳及錄異記。

(一)○續談助、永樂大典引俱脫「春」字。(二)○粵雅堂本續談助「時」誤作「特」。以上二句涵芬樓本說郭誤作「日所將冬、時說將老」。錄異記(津逮秘書本)作「日既將盡、時既將老」。藝文類聚引自「二君足下」至此、略作「若二君」。(三)○「子獨不見」、類聚引作「豈不見」、錄異記作「君不見」。(四)○類聚引「激」作「盪」。

又此句之下有「上無徑尺之陰、身被數千之痕」二句。(五)○續談助引脫「天」字。類聚引「非」作「豈」、「天下」作「天地」。(六)○類聚引作「所居然也」、下同。(七)○「子見」、類聚、錄異記俱作「子不見」。(八)○永樂大典引「霍」誤作「郭」。續談助粵雅堂本及永樂大典引「樹檀」作「檀」、十萬卷樓本誤作「壇」、鈎沈從說郭引。類聚引作「檀桐」、又句末有「乎」。(九)○此句類聚引作「上枝干於青雲」。錄異記「干」作「凌」。(一〇)○類聚引「通」下有「於」字。(一一)○類聚引無以上二句。錄異記作「上有玄狐黑猿、下有豹隱龍潛」。(一二)○說郭「患」作「伐」。(一三)○涵芬樓本說郭脫「之」、而「肉」作「血」。類聚與上(五)同、而「骨肉」下有「哉」字。(一四)○類聚引與(六)同。又「亦」作「蓋」。錄異記亦同。類聚、御覽、永樂大典均引至此為止。(一五)○錄異記「朝」作「雲」、誤。(一六)○說郭「棄」作「忽」。○錄異記作「慕」、誤。(一七)○「永」鈎沈據續談助作「求」、他本皆作「永」、今依改。(一八)○錄異記「旦」作「夕」。(一九)○「愛」續談助闕字、鈎沈據說郭。(二〇)○涵芬樓本說郭「畢」誤作「必」。錄異記無此二句。(二一)○錄異記作「痛焉悲夫二君」之反覆。(二二)○錄異記以上二句止作「先生秉德含弘」。(二三)○說郭「噉」作「啖」。(二四)○錄異記「將」作「賜」。(二五)○涵芬樓本說郭引「誠」作「戒」。錄異記「行事」作「貪味」。(二六)○續談助引「聞」誤作「問」。(二七)○十萬卷樓本續談助引「匡」作「斥」。(二八)○涵芬樓本說郭「聞」誤作「聞」。(二九)○涵芬樓本說郭引「銜」作「哉」。

41 張子房與四皓書云(一)、『良白仰惟先生、秉超世之殊操(二)、身在六合之間、志凌造化之表。但自大漢受命、禎靈顯集(三)、神母告符、足以宅兆民之心。先生當此時輝神爽乎雲宵(四)、濯鳳翼於天漢(五)、使九門之外、有非常之客、北闕之下、有神氣之賓、而淵游山隱(六)、竊爲先生不取也。良以頑薄承乏忝官(七)、調絕景不御(八)、而駕服驚駘。方今元首、

欽明文思、百揆之佐、立則延企^(九)、坐則引領、日仄而方丈不御^(一〇)、夜寢而閭闔不閉^(一一)。蓋皇極須日月以揚光、后土待嶽瀆以導滯、而當聖世鸞鳳林栖^(一二)、不翔乎太清^(一三)、騏驎嶽遁^(一四)、不步於郊莽^(一五)、非所以寧八荒慰六合也^(一六)。不及省侍^(一七)、展布腹心、略寫至言、想料翻然不猜其意^(一八)。張良白。』

四皓答書云、『竄蟄幽數、深谷是室、豈悟雲雨之使、奄然萃止^(一九)。方今三章之命邈、殷湯之曠澤、禮隆樂和、四海克諧、六律及於絲竹、和章應於金石^(二〇)、飛鳥翔於紫闕、百獸出於九門、頑夫固陋守彼巖穴、足未嘗踐閭闔、目未嘗見廊廟、野食於豐草之中、避暑於林木之下^(二一)。望月晦^(二二)、然後知三旬之終、覩霜雪、然後知四時之變。問射夫^(二三)、然後知弓弩之須、訊伐木^(二四)、然後知斧柯之用。當秦項之艱難、力不能負干戈、攜手逃走^(二五)、避役山草、倚朽若立、循水似濟^(二六)。遂使青蠅盜聲於晨雞^(二七)、魚目竊價於隋珠^(二八)、公侯應靈挺特、神父授策^(二九)、蓋無幽而不明也^(三〇)。豈有烹鼎和味、而願令菽麥廁方丈之御^(三一)、被龍服袞^(三二)、而欲使女蘿上紺綾之緒。恐汨泥以濁白水^(三三)、飄塵以亂清風^(三四)、是以承命傾筐、聞寵若驚、謹因飛龍之使^(三五)、以寫鳴蟬之音^(三六)、乞守兔鹿之志、終其寄生之命也^(三七)。』

校記 出張良書。續談助四^(一八)。說郭二十五^(一八)。*優古堂詩話。○*能改齋漫錄八沿引優古堂詩話。余氏45。唐氏41。周氏51。

(一)宋吳玘優古堂詩話引至篇末「張良白」。○能改齋漫錄引亦同。「四皓」上詩話、漫錄俱引有「商山」二字。(二)○涵芬樓本說郭引「操」作「參」、誤。(三)○漫錄引「禎」作「貞」。(四)吳引「乎」作「於」。○詩話、漫錄俱引「輝」作「耀」。詩話引「此時」上有「於」字。「霄」唐氏引作「雷」、恐字誤。(五)○涵芬樓本說郭引「濯」作「擢」。(六)吳引「游」作「潛」。○漫錄引亦同。(七)○「頑」鈎沈排印本誤作「良」、今改。涵芬樓本說郭引「忝」誤作「參」。(八)吳引「謂」作「所謂」。○涵芬樓本說郭、漫錄引亦同。(九)吳引「企」作「首」。○漫錄引同。(一〇)「仄」詩話、涵芬樓本說郭引作「晨」。(一一)吳引「寢」作「眠」。○漫錄同。(一二)吳引「栖」作「棲」。○漫錄同。(一四)○涵芬樓本說郭引「翔」作「期」。(一四)○「騏驎」涵芬

樓本說郭、漫錄引作「麒麟」、詩話引作「騏驎」。(一五)吳引「薜」作「藪」。○漫錄同。涵芬樓本說郭引作「艸」。漫錄引「步」作「涉」。(一六)○漫錄引「慰」誤作「尉」。(一七)(吳引)「不及」作「不得」。○漫錄同。(一八)○「料」涵芬樓本說郭、詩話、漫錄均作「望」。說郭又「猜」作「精」。(一九)○續談助引「奄然」誤作「奄齋」。(二〇)說郭引「章」作「聲」。○涵芬樓本作「章」。(二一)說郭引「木」作「泉」。○涵芬樓本同。(二二)續談助引「月」誤作「日」。(二三)○自「然後知三旬之終」至「問射夫」二十字、涵芬樓本說郭脫之。(二四)○涵芬樓本說郭引「訊」誤作「誅」。(二五)說郭「走」作「奔」。○涵芬樓本同。(二六)○涵芬樓本說郭引「水」誤作「木」。(二七)○續談助引「晨鷄」誤作「長鷄」。(二八)○涵芬樓本說郭引「魚目」誤作「魯公」、「隋」誤作「隨」。(二九)○鈞沈據粵雅堂本續談助引「授」作「援」、今依改。(三〇)○涵芬樓本說郭脫「蓋」字。(三一)○涵芬樓本說郭引「廁」作「側」。(三二)○鈞沈「袞」作「襄」、今據涵芬樓本說郭改、續談助引作「衣」。涵芬樓本「被」作「披」。(三三)○涵芬樓本說郭引「汨」作「滑」。(三四)○涵芬樓本說郭引「飄」作「颶」。(三五)○涵芬樓本說郭脫「謹」字。(三六)○續談助引原闕「鳴」字。(三七)○唐氏引「寄」作「書」、未知據何也。

42 晉簡文云、漢世人物當推子房爲標的、神明之功、玄勝之要、莫之與二。接俗而不虧其道、應世而事不嬰□(二)、玄識遠情、超然獨邁。

校記 出簡文談疏。續談助四(19)。○余氏46。唐氏42。周氏52。

(一)○鈞沈稿本、排印本均空一格、續談助無闕、鈞沈以意空一格。

43 樊將軍噲問於陸賈曰(一)、『自古人君皆云、受命於天、云、有瑞應。豈有是乎。』陸賈應之曰(二)、『有(三)。夫目瞶

得酒食、燈火花得錢財^(四)、午鵲噪而行人至^(五)。蜘蛛集而百事喜。小既有徵、大亦宜然、故曰目瞶則呪之^(六)、燈火花則拜之^(七)、午鵲噪則餒之、蜘蛛集則放之。況天下之大寶^(八)、人君重位、非天命何以得之哉。瑞寶信也^(九)、天以寶爲信、應人之德、故曰瑞應。天命無信^(一〇)、不可以力取也。』

校記 出西京雜記下。廣記一百三十五。○余氏47。唐氏43。周氏53。見今本西京雜記(四部叢刊本三)。

(一)○雜記無「於」。(二)○雜記無「陸」。(三)○雜記作「有之」。(四)○雜記「花」作「華」、下同。
(五)○雜記「午」作「乾」、下同。(六)○雜記無「日」、鈎沈作「云」、今廣記諸本改。(七)○雜記脫「燈」。
(八)○雜記無「之」。(九)○此句雜記作「瑞者寶也信也」。(一〇)○此句雜記作「無天命、無寶信」。

44 湘州有南寺、東有賈誼宅。宅有井、小而深、上斂下大、狀似壺、卽誼所穿井。旁局脚食牀容一人坐^(一)、卽誼所坐也。

校記 出盛弘之荊州記。續談助四(20)。○錢注杜詩一三「春日江村」五。余氏48、注云、北堂書鈔一百三十三引荊州記此條、無「小而深」以下十四字。唐氏44。周氏54。御覽七〇六、九家注杜詩三六「清明」一、錢注杜詩一八同亦引荊州記。事又見水經注三八湘水。

北堂書鈔一三三石牀引盛弘之荊州記云、湘州南寺之東、有賈誼宅。宅之中有井、井旁有局脚石牀、可容一人坐、形制甚古、相傳曰誼所坐也。

(一)「食牀」據書鈔、御覽引當作「石牀」。錢注杜詩引亦作「石」。續談助音譌。

45 誼宅今爲陶侃廟、時種甘^(一)、猶有存者。

校記 出庾穆之湘州記。續談助四(21)。○錢注杜詩一三「春日江村」五。余氏49、注云、御覽九百六十六引湘

州記此條。」唐氏 45。周氏 55。

御覽九六引湘洲記云、州故大城、內有陶侃廟、地是賈誼故宅。誼時種甘、猶有存者。

(一)「時」上當據御覽引補「誼」字。

46 漢董仲舒嘗夢蛟龍入懷中(二)、乃作春秋繁露。

校記 出西京雜記上。廣記一百三十七。○余氏 51。唐氏 47。周氏 56。

西京雜記(四部叢刊本二)云、董仲舒夢蛟龍入懷、乃作春秋繁露詞。

(一)○廣記諸本「嘗」作「常」。

47 漢文翁當起田、斫柴爲陂、夜有百十野猪鼻戴土著柴中、比曉塘成。稻常收、嘗欲斷一大樹、欲斷處去地一丈八尺、翁先祝曰、『吾得二千石、斧當著此處。』因擲之正斫所欲。後果爲蜀郡守。

校記 廣記一百三十七。○余氏 50。唐氏 46。周氏 57。事又見錄異傳(御覽七四引。鈎沈 18)、幽明錄(御覽七六三引。鈎沈 34)。

余氏注云、案北堂書鈔九十七、御覽六百十一並引廬江七賢傳云、「文黨字翁仲、未學之時、與人俱入叢木、謂侶人曰、吾欲遠學、先試投斧高木上、斧當掛。乃仰投之、斧果上掛。因之長安受經。」與此似是一事。

周氏注云、余氏所考雖是、但系此條後一事、至前一事則非出此、乃出杜光庭錄異傳。太平御覽七十四引錄異傳云、「文翁者、廬江人、爲兒童時、乃有神異。及長、當起歷下陂以作田。文翁終日砍伐柴薪、以爲陂塘。其夜、忽有數百頭野猪、以鼻載土著柴中、比曉成塘。」又、余氏所引後一事、亦見劉義慶幽明錄云、「文翁常欲斷大樹、砍斷處去地一丈八尺、翁先祝曰、吾若得二千石、斧當著此處。因擲之、中所砍一丈八尺處。後果爲郡。」幽明錄所云、實

較廬江七賢傳所云爲更近似也。」按周氏所云錄異傳不是杜光庭錄異記、而是六朝闕名氏錄異傳、鈎沈已收之。

48 漢武帝見畫伯夷叔齊形像、問東方朔、『此何人』^(一)。『朔曰』^(二)、『古之愚夫。』帝曰、『夫伯夷叔齊』^(三)、天下廉士、何謂愚夫邪^(四)。『朔對曰、『臣聞』^(五)、賢者居世、與時推移^(六)、不凝滯於物。彼何不升其堂飲其漿^(七)、汎汎如水中之鳧^(八)、與波俱游^(九)。天子轂下、可以隱居^(一〇)。何自苦於首陽乎^(一一)。』上喟然而歎^(一二)。

校記 出朔傳。續談助四(22)。廣記一百七十三有末句。○余氏52。唐氏48。周氏58。

(一)○廣記引「此」作「是」。 (二)○續談助引脫「朔」、下同。 (三)廣記引有此句。 (四)○續談助引「調」作「爲」。廣記引無「夫」字。 (五)〔臣聞〕二字廣記引有。 (六)○廣記引「時」作「之」。 (七)〔以〕上〕六字廣記引有。○續談助引無「彼」。 (八)○廣記引「汎汎」作「泛泛」。 (九)○「波」鈎沈據廣記引作「彼」、今依續談助引改。又廣記引「俱」作「徂」。『游』續談助引作「逝」。 (一〇)二句廣記引有。 (一一)○廣記引無「乎」。 (一二)廣記有末句。

49 漢武游上林、見一好樹、問東方朔。朔曰、『名善哉。』帝陰使人落其樹。後數歲復問朔。朔曰、『名爲瞿所。』帝曰、『朔欺久矣。名與前不同何也。』朔曰、『夫大爲馬、小爲駒、長爲雞、小爲雛、大爲牛、小爲犢。人生爲兒、長爲老。且昔爲善哉、今爲瞿所。長少死生、萬物敗成、豈有定哉。』帝乃大笑。

校記 廣記一百七十三。○稗史彙編九三。余氏53。唐氏49。周氏59。事又見琅邪代醉編二四、但云出「華陽博議」、誤。

50 武帝幸甘泉宮^(一)、馳道中有蟲、赤色、頭目牙齒耳鼻盡具^(二)。觀者莫識、帝乃使朔視之^(三)。還對曰、『此怪哉也』^(四)。

昔秦時^(五)、拘繫無辜、衆庶愁怨、咸仰首歎曰、怪哉怪哉。蓋感動上天^(六)、憤所生也。故名怪哉。此地必秦獄處。』
卽按地圖、果秦故獄^(七)。又問^(八)、何以去蟲。朔曰、凡憂者得酒而解。以酒灌之當消。於是使人取蟲置酒中、須臾果
糜散矣^(九)。

校記 出朔傳。說郭二十五(19)。廣記一百七十三。*海錄碎事二十二。○東方朔別傳見書鈔四五、御覽六四三、
又八一八、八四五、寶革酒譜(明鈔說郭六六引)。余氏54、注云、案御覽六百四十三引東方朔傳、較此尤詳。八百
十八、八百四十五亦節引之。唐氏50。周氏60。事又見郡國志(御覽五三引)。參看搜神記一一、法苑珠林一二(又
御覽六四三、廣記三四引)、幽明錄(鈎沈28)、述異記上。

御覽六四三引東方朔傳云、孝武皇帝時、幸甘泉宮、至長平坂上、馳道中央有虫覆、而赤如生肝狀。頭目口齒鼻耳盡
具。先驅旄頭馳還以聞曰、『道不可御。』於是上止車、遣侍中往視之、還盡莫知也。時東方朔從在後屬車。上召朔
使馳往視之。還對曰、『怪哉。』上曰、『何謂也。』朔對曰、『秦始皇時、拘繫無辜、幽殺無辜、衆庶怨恨、無所告
訴、仰天而歎曰怪哉、感動皇天。此憤氣之所存也。故名之曰怪哉。是地必秦獄處也。』上有詔使丞相公孫弘案地圖、
果秦之獄處也。(書鈔節引至此爲止。)上曰、『善。當何以去之。』朔曰、『夫積憂者得酒而去之。以酒置中、立獎
消靡。』上大笑曰、『東方生真所謂先生也。何以報先知之聖人哉。』乃賜帛百疋。

(一)○廣記引無「宮」。(二)○廣記引無「目」。(三)○廣記引「朔」作「東方朔」。(四)海錄碎事引
作「朔對曰此蟲名爲怪蟲」。○廣記引此句作「此蟲名怪哉」。(五)○廣記引無「秦」。(六)○涵芬樓本說郭
引「上天」作「天上」。(七)廣記引作「信如其言」。(八)○廣記引「又」上有「上」。(九)○廣記引無
「果」、「矣」二字。

51 楊雄謂長卿賦不似人間來。歎服不已。其友盛覽問、『賦何如其佳^(一)』。雄曰、『合纂組以成文、列錦繡以成質。』

雄遂簪合組之歌、列錦之賦。

校記 紺珠集二（9）。○余氏55、注說及西京雜記二・三中同一之事。唐氏52。周氏61。

（一）○明刊紺珠集引「賦」作「則」。

52 楊雄夢吐白鳳皇集於玄上（二）。

校記 紺珠集二（10）。○海錄碎事九上。永樂大典一三二三引海錄碎事。余氏56、注云見西京雜記卷二。唐氏53。周氏62。

西京雜記（四部叢刊本二）云、雄著太玄經、夢吐鳳凰集玄之上、頃而滅。

（一）○海錄引「雄」作「子雲」、永樂大典同。明刊紺珠集引脫「夢」字。

53 俞益期、豫章人、與韓康伯道至交州、聞馬援故事云、『交州在合浦徐聞縣西南窮日南壽靈縣界。傳云、「伏波開道、篙工鑿石、猶有故迹。」又云、「此道廢久壅塞、戴桓溝之、乃得伏波時故船。昔立兩銅柱於林邑岸。岸北有遺兵十餘家居。壽靈縣之南、悉姓馬、自相婚姻。今二百戶、以其流寓號曰馬流。言語猶與中華同。」』

校記 出俞益期牋。續談助四（23）。注云、此卷並後漢人物。○余氏57、注云、益期此箋、御覽七百七十一題爲俞益期與韓豫章箋、則當作於東晉穆帝時、而列爲後漢人物之首者、以其所言皆馬援事也。嚴可均全晉文一百三十三云、「喻希字益期、豫章人、升平末爲治書侍御史、累遷至將作大匠、有集一卷。」今案、北堂書鈔一百十九引喻益期箋、則俞本亦作喻。（中略）此條嚴氏已據書鈔及御覽輯入、因未見續談助、故尚有佚句。」唐氏54。周氏63。

北堂書鈔一一九云、喻益期牋、馬文淵立兩銅柱林邑表功。

御覽七七云、喻益期與韓豫章牋曰、「馬伏波昔開道、篙跡鑿石猶存。」

54 袁安父亡^(一)，母使安以雞酒詣卜工問葬地、道逢三書生^(二)，安以雞酒禮之。畢告安地、曰、當四世爲貴公。別行數步、顧視皆不見。因葬其地。後果位至司徒、子孫昌盛、四世三公焉^(三)。

校記 出幽明錄。續談助四（24）。○余氏58。唐氏55。周氏64。幽明錄（鈎沈40）有與此文不同。

（一）○續談助引作「父母亡」、鈎沈據幽明錄改。（二）○此句續談助兩本均引作「道邊三書生」、鈎沈亦「邊」下補「遇」字。按「邊」當系「逢」之筆誤、今據幽明錄改。廣記一三七·三八九兩引幽明錄皆作「道逢三書生」。（三）○續談助引「四」作「此」、鈎沈亦依改。

55 袁安爲陰平長、有惠化。縣先有雹淵、冬夏未嘗消釋、歲中輒出飛布十數里、大爲民害。安乃推誠潔齋、引愆貶己、至誠感神、雹遂爲之沈淪、伏而不起、乃無苦雨淒風焉。

校記 廣記一百六十一。○天中記三。余氏59。唐氏56。周氏65。

56 崔駰有文才、其縣令往造之。駰子瑗年九歲、書門曰、『人雖干木、君非文侯、何爲光光、人我里閭。』令見之問駰、駰曰^(一)、『必瑗所書。』召瑗將詰所書。乃曰、『君使臣以禮、臣事君以忠。』

校記 出世說。續談助四（25）。○余氏60、注云、案今世說無此事。御覽三百八十五亦引世說。唐氏57。周氏66。

御覽三八五引世說云、崔駰有文才不（衍文）、其縣令往造之。駰子瑗年九歲。書門曰、雖無干木、君非文侯、何爲□□、人我里閭。令見之問駰。曰、必兒所書。召瑗使書、乃書曰、君使臣以禮、臣事君以忠。

（一）○十萬卷樓本續談助原闕「駰」、鈎沈依粵雅堂本。

57 胡廣以惡月生^(一)。父母惡之^(二)、藏之胡盧、棄之河流^(三)。岸側居人收養之^(四)、及長有盛名。父母欲取之、廣以爲背其所生則害義^(五)、背其所養則忘恩、兩無所歸。以其託胡盧而生也乃姓胡^(六)。

校記 紺珠集二(11)。海錄碎事七。○類說四九9。事文類聚前集九。歲時廣記二二。群書類編故事二。天中記五。余氏61。唐氏58。周氏67。事見語林(鈎沈2)、御覽三一、又三六一俱引世說、但此事不見今本世說。

(一)○事文類聚、歲時廣記引作「胡廣本姓黃、以五月五日生」。類說引作「胡廣以五月生、俗謂惡月」。(二)○類說引無「惡之」二字。(三)○類說引此句作「棄河」。(四)○海錄、事文俱無「之」。(五)海錄碎事七引兩「背」字下皆有「其」字。以其二字無、「胡」下有「名廣」。(疑此文有脫誤。)○明刊紺珠集引有下「其」字、類說、海錄、事文、歲時廣記引俱有上下「其」字、因今依補。歲時廣記引「害」作「不」。(六)(海錄)「胡」下有「名廣」。○類說引無「名廣」而有「也」字。事文、歲時廣記引俱有下文云、「名廣。後登三司、有中庸之號。」歲時廣記引「後」下有「七」字。

58 馬融歷二縣兩郡^(一)、政務無爲、事從其約。在武都七年^(二)、在南郡四年^(三)、未嘗按論刑殺一人^(四)。性好音樂、善鼓琴吹笛^(五)、笛聲一發^(六)、感得蜻蛚出吟、有如相和^(七)。

校記 出融別傳。續談助四(26)。廣記二百三。*吳聿觀林詩話。○*錢注杜詩七八「哀詩鄭國公嚴武」。余氏62。唐氏59。周氏68。事之後半見文選「長笛賦序」。

(一)○廣記引作「二郡兩縣」。(二)○以上三句十三字、續談助引止作「七年」以承上文。(三)○廣記引無「在」。(四)○續談助引無「按」。(五)「善鼓琴」以下亦見宋吳聿觀林詩話引。(六)(觀林詩話引)「笛聲」作「之聲」。○廣記引無此句四字。(七)(觀林詩話引)脫「感」字及「如」字。「蛚」作「蛩」。○廣記引

以上二句作「每氣出、蜻蛚相和」。余氏注云、文選載融長笛賦序云、「性好音、鼓琴吹笛、而爲督郵、無留事、獨臥鄆平陽鄔中、有雒客舍逆旅、吹笛爲氣出精列相和。」別傳此條、卽敘此事。然據自序、乃是聽客吹笛、非融自吹也。蓋鼓琴吹笛下、必尚有數語、爲引書者刪去。李善注云、「歌錄曰、古相和歌十八曲、氣出一、精列二、則氣出精列皆曲名、不得有蜻蛚出吟之事。」吳聿亦以殷芸爲謬、愚謂此亦後人所妄改、廣記近之、而亦非原文。」按雖然此亦不解小說之所以爲小說者也。

59 郭林宗來游京師、當還鄉里^(一)、送車千許乘^(二)。李膺亦在焉。衆人皆詣大槐客舍而別^(三)。獨膺與林宗共載乘薄笨車^(四)、上大槐坂^(五)、觀者數千人、引領望之^(六)。眇若松喬之在霄漢^(七)。

校記 出膺家傳。廣記一百六十四。續談助四(27)。○天中記二五。余氏63。唐氏60。周氏69。

(一)○續談助引無「里」。(二)○續談助引無「許」。(三)○續談助引無「李膺亦在焉、衆人皆」八字。(四)○續談助引「獨」作「唯」、「膺」作「李膺」。又無「載」。(五)○續談助引脫「槐」字。(六)○續談助引無「引領」二字。(七)○續談助引「在霄」作「雲」。

60 李元禮謾謾如勁松下風、膺居陽城時、門生在門下者恒有四五百人、膺每作一文出手、門下共爭之、不得墮地。陳仲弓初令大兒元方來見膺、與言語訖、遣厨中食、元方喜以爲合意、當復得見焉^(一)。

校記 廣記一百六十四。○天中記二九。余氏69。唐氏65。周氏70·71。初句見世說賞譽篇2。
(一)○鈎沈作「當得復見焉」、今依廣記引改。

61 膺同縣聶季寶小家子、不敢見膺^(一)。杜周甫知季寶、不能定名、以語膺。呼見、坐置砌下牛衣上、一與言、卽決

曰、『此人當作國士。』卒如其言。

校記 廣記一百六十四。＊龔頤正續釋常談。○余氏 70。唐氏 66。周氏 72。續釋常談今見涵芬樓本說郭三五。云、殷芸小說、李舊周縣^マ聶季某甲實小冢子、不敢見^マ。龔。

(一)已上亦見龔頤正續釋常談引、首「膺」上有「李」字。

62 膺爲侍御史、青州凡六郡、唯陳仲舉爲樂安視事。其餘皆病、七十縣並棄官而去。其威風如此。

校記 廣記一百六十四。○通俗編一。余氏 71。唐氏 67。周氏 73。

63 陳仲舉雅重徐孺子、爲豫章太守、至便欲先詣之。主簿白^(一)、「羣情欲令府君先入拜。」陳曰、「武王軾商容之閭、席不暇暖、吾之禮賢、有何不可。」

校記 廣記一百六十四。○稗史彙編二七。余氏 65、注云、見世說德行篇「1」。唐氏 61。周氏 75。
(一)○「白」鈎沈據黃刻本廣記作「曰」、今依談愷刻本・汪校本改。世說作「白」。

64 徐穉亡、海內羣英論其清風高致、乃比夷齋、或參許由。夏侯豫章追美名德、立亭於穉墓首、號曰思賢亭。

校記 出穉別傳。續談助四「28」。○余氏 64。唐氏 62。周氏 76。

65 何顥妙有知人之鑒、初同郡張仲景總角造顥^(一)、顥曰、君用思精密而韻不能高、將爲良醫矣。景後果有奇術^(三)。王仲宣年十七時、過仲景、仲景謂之曰、君體有病、宜服五石湯、若不治、年及三十、當眉落。仲宣以其賒遠不治。後至三十、果覺眉落。其精如此、世咸歎顥之知人。

校記 廣記二百十八。續談助四(29)、注云出異苑。○*永樂大典二九七九引續談助。稗史彙編五八。余氏66。
67、注云、案今本異苑無此條。御覽四百四十四及七百二十二引此二事均作「何顥別傳」。唐氏63。周氏77。78。
(一)○廣記、粵雅堂本續談助引均無「同」。(二)已上亦見續談助四、注云出異苑。○大典引同。

66 李膺嘗以疾不迎賓客(一)。二十日乃一通客(二)。唯陳仲弓來、輒乘輦出門迎之(三)。

校記 出李膺家傳。續談助四(30)。○廣記一六四引膺家錄(四)。類說四九24。余氏68。唐氏64。周氏74。
(一)○廣記引「嘗」作「恒」、又「迎」作「送迎」。(二)○類說引以上二句止作「李膺有疾、不通客」。(三)○類說引無「輒」、「輦」作「輿」。(四)○汪校語云、明鈔本「錄」作「乘」。

67 漢末陳太丘寔與友人期行(一)。過期不至、太邱捨去。去後乃至。其子元方年七歲、在門外戲。客問元方尊君在否。答曰、待君不至、已去。友人便怒曰、非人與期行、相委而去。元方曰、君與家君期日中、時過申不來(二)、則是無信。對子罵父、則是無禮。友人慙下車引之。元方遂入門不顧。

校記 廣記一百七十四。○余氏81、注云、此出世說方正篇(1)。「唐氏。周氏88。鈎沈排印本此條與次條合爲一條、校訂者看錯稿本、今分開爲二條。

(一)○「寔」鈎沈據黃刻本作「實」、又「丘」作「邱」、今均改。(二)○汪校語云、明鈔本「申」作「中」。

68 有客詣陳太丘(一)、談論甚久(二)。太丘乃令元方季方炊飯以延客(三)。二子委甑(四)、竊聽客語、飯落成糜而進客去(五)。太丘將責之(六)。具言其故、且誦客語無遺。太丘曰、但糜自可、何必飯邪。

校記 紺珠集二(12)。○類說四九10。海錄碎事九上。錦繡萬花谷前集一六。淵鑑二四二父子。余氏80、注云、

案事見世說夙惠篇（1）、而字句多異、疑所引別一書、非世說也。」唐氏73。周氏87。

（一）○萬花谷引此句上有「陳太丘有子元方季方」九字、因而下無二子之名。（二）○此句明刊紺珠集、萬花谷、淵鑑引俱作「談鋒甚敵」、蘇詩合注一一「司景純席上和謝生二首」之三王注援引亦同。類說、海錄引俱作「談鋒甚敏」。未知鈎沈據何種刊本作如此。（三）○類說引無「乃」、「以」字。（四）○海錄引無「委甄」。（五）○類說引「落」下有「釜」字。（六）○類說引無「將」。

69 張衡亡月（二）、蔡邕母始懷孕（三）。此二人才貌甚相類（三）、時人云（四）、『邕是衡之後身也（五）。』初司徒王允數與邕會議、允詞常屈。由是銜邕、及允誅董卓并收邕、衆人爭之不能得。太尉馬日磾調允曰、『伯喈忠直、素有孝行、且曠世逸才、多識漢事、當定十志。今子殺之、海內失望矣。』允曰、『無蔡邕獨當、無十志何損。』遂殺之。

校記 廣記一百六十四。續談助四（31）、云出世說。○*類說四九25。*錦繡萬花谷前集一九。*天中記三九。
*琅邪代醉編一六。稗史彙編一六七。*淵鑑三二一寤前生。以上*符號與續談助所引前半之事。余氏72・73。唐氏69。周氏79・80。事見語林（鈎沈3）。

（一）○「亡月」廣記引作「死月」、類說引作「死」、萬花谷引作「死日」。（二）○「始懷孕」續談助引作「方姪」。○類說引亦同。（三）○類說引無此句八字。萬花谷引無「此」。（四）○類說引此句作「時調」、萬花谷引無「時」。（五）已上亦見續談助四、注云、「出世說」。○此條不見今本世說。續談助、類說引「是」皆作「即」。廣記、類說、萬花谷均無「也」字。

70

漢王諤遇鬼物、言『蔡邕作仙人（二）、飛去飛來、甚快樂也（三）。』

校記 紺珠集二（19）。○類說四九19。余氏74。唐氏70。周氏81。事見御覽八八三、廣記三二一引齊諧記（鈎

沈11)。

(一)○類說引無「人」。(二)○類說引無「也」。

71 鄭玄在徐州、孔文舉時爲北海相、欲其返郡、敦請懇惻、使人繼踵、又教曰、『鄭公久游南夏、今艱難稍平、儻有歸來之思、無寓人於室、毀傷其藩垣林木、必繕治牆宇、以俟還。』及歸融告僚屬、『昔周人尊師謂之『尚父』、今可咸曰『鄭君』、不得稱名也。』袁紹一見玄、歎曰、『吾本謂鄭君東州名儒、今乃是天下長者、夫以布衣雄世、斯豈徒然哉(一)。』及去(二)、紹餞之城東、必欲玄醉。會者三百人、皆使離席行觴、自旦及莫、計玄可飲三百餘杯、而溫克之容、終日無怠。

校記 廣記一百六十四。*海錄碎事七。○*類說四九30。天中記二五。何氏語林二四。類說、天中記、何氏語林引均闕「及去」以下之文。余氏76。唐氏71。周氏83。

(一)海錄碎事七引云、「袁紹稱鄭玄以布衣雄世」。○「袁紹」以下五句、類說亦引、而「玄」作「鄭君」、無「一」「吾」「斯」各字。(二)○「及去」以下與世說文學編「注所引別傳之文略同」。

72 鄭玄葬城東(一)、後墓壞、改遷厲阜。縣令車子義爲玄起墓亭、名曰昭仁亭。

校記 出玄別傳。續談助四(32)。○余氏75、注云、太平寰宇記二十四引高士傳曰、玄載病至魏郡元城、病篤卒、葬于劇東、後以墓壞、歸葬礪阜、在高密城西北五十里。與別傳合。城東疑當作劇東。」唐氏72。周氏82。

(一)○「鄭」續談助各本均作「郭」、鈎沈以意改、余氏唐氏亦同。

73 荀巨伯遠看友人疾(一)、值胡賊攻郡、友人語伯曰(二)、『吾且死矣(三)。子可去。』伯曰、「遠來視子、今有難而捨之

去^(四)、豈伯行邪^(五)。『賊既至、謂伯曰『大軍至此^(六)、一郡俱空^(七)。汝何人獨止邪^(八)。』伯曰、『有友人疾、不忍委之、寧以己身代友人之命^(九)。』賊聞其言異之^(一〇)、乃相謂曰^(一一)、『我輩無義之人^(一二)、而人有義之國。』乃偃^(一三)而退^(一四)、一郡獲全。

校記 廣記二百三十五。○永樂大典一二〇一七。余氏 77、注云、案此見世說德行篇(9)。」唐氏 74。周氏 84。事見明鈔說郭四引襄陽記。

(一)○大典引誤作「荀臣伯」。(二)○大典引「伯」作「臣伯」、下同。(三)○大典引「且」作「今」。(四)○大典引「之」作「爾」、當從。(五)○大典引「伯」作「荀臣伯」。(六)○大典引無「此」。(七)○大典引「俱」作「並」。(八)○大典引此句作「汝何男子而敢獨立」。(九)○大典引「己」作「我」。(一〇)○大典引此句作「賊稱其賢」。(一一)○大典引「乃」作「自」、「曰」作「言」。(一二)○大典引無「之」。(一三)○此句大典引作「疾旋踵而去」。鈎沈稿本・排印本「偃」下均空一格、而廣記各本並無闕字。按鈎沈或據世說「班軍而還」之例以意空一格歟。

74 謝子微見許子政虔及弟劭曰^(一)、『平輿之淵^(二)、有雙龍出矣^(三)。』

校記 出世說。續談助四(33)。注云、此一卷後漢人物也。○余氏 78。唐氏 75。周氏 85。見今本世說賞譽篇 3。續談助注「此一卷」包括鈎沈第 74・75・77・78・79・80・82 條。

(一)○「劭」原作「紹」、當作「劭」。許劭、許虔字子政之弟也。(二)○「輿」十萬卷樓本續談助誤作「與」。(三)續談助四注云、「此一卷後漢人物也」。

75 汝南中正周裴表稱許劭、高節遺風^(一)、與郭林宗李元禮盧子幹陳仲弓齊名。劭特有知人之鑒^(二)。自漢中葉以來、

其狀人取士、援引扶持、進導招致、則有郭林宗。若其形色、目童亂、斷兔滯、擿虛名^(三)、誠未有如劭之懿也。嘗以簡別清濁爲務、有一士失其所、便調投之潢汙。雖負薪抱關之類、吐一善言、未曾不有尋究欣然。兄子政掌抵掌擊節^(四)、自以爲不及遠矣。劭幼時、謝子微便云、『此賢當持汝南管籥。』樊子昭幘賈之子^(五)、年十五六、縣小吏、劭一見便云、『汝南第三士也、此可保之。』後果有令名。

校記 出劭別傳。續談助四(34)。○永樂大典二九七九引續談助。余氏79。唐氏76。周氏86。

(一)○「節」原闕、今據大典引補。(二)○十萬卷樓本續談助引「特」作「時」。(三)○十萬卷樓本「擿」作「摘」。(四)○「常」鈎沈稿本·排印本均作「掌」、誤、七三年版全集已改。(五)○「幘賈」二字、續談助引作「幘賈」、因不可解而鈎沈空二格。余氏注云、「疑當作幘賈、以形近而誤。魏志和洽傳注引汝南先賢傳曰、劭始發明樊子昭於幘幘之肆。世說賞譽篇注引海內先賢傳曰、劭拔樊子昭於市肆。皆可爲證。」世說品藻篇2亦引有蔣濟萬機論「子昭自賈堅」之句、亦可以爲證。今從余氏說。

76 蔡邕刻曹娥碑傍曰、『黃絹幼婦、外孫齋白^(一)。』魏武見而不能曉、以問羣僚、莫有知者^(二)、有婦人浣於江渚^(三)、曰、『第四車中人解。』卽禰正平也^(四)。衡以離合意解云^(五)、『絕妙好辭』。

校記 出異苑。說郭二十五(20)。○余氏88。唐氏89。周氏89。今本異苑一〇有此條。參看語林(鈎沈18)、典略(永樂大典一四六八引)、世說捷悟篇3等。

今本異苑云、陳留蔡邕字伯喈、避難過吳、讀曹娥碑文、以爲詩人之作、無詭妄也。因刻石旁作。

(一)○今本異苑此二句下有「八字」。(二)○今本異苑「知」作「解」。(三)○今本異苑無「人」。(四)○今本異苑「卽」作「既而」。(五)○涵芬樓本說郭有「云」字、今依補。此句今本異苑作「衡既以離合義解之。或謂此婦人既娥靈也。」

77 禰正平年少、與孔文學作爾汝交^(一)、時衡年未滿二十^(二)、而融已五十餘矣^(三)。

校記 出禰衡別傳。續談助四(35)。紺珠集二(13)引作「禰正平年未及冠、而孔文學已逾五十、相與爲爾汝交。」
○廣記二三五。類說四九11引與紺珠集同。余氏82。唐氏77。周氏90。別傳、十萬卷樓本續談助引作「列傳」、又廣記二三五引作「本傳」、後漢書文苑傳有此事而文不同、十萬卷樓本及廣記均誤。

(一)○「禰正平」、廣記引作「禰衡字正平」、又「交」上有「之」字。(二)○廣記引無「年」、「滿」二字。唐氏引脫「時」字。(三)○廣記引「融」作「文學」而無「餘」。唐氏引「矣」作「也」。

78 孔文學中夜暴疾。命門人鑽火。其夜陰暝、門人忿然曰、君責人太不以道。今暗若漆、何不把火照、我當得覓鑽火具^(一)、然後得火。文學聞之曰、責人當以其方^(二)。

校記 出俳諧文。續談助四(36)。○余氏83。唐氏79。周氏91。參看笑林(鈎沈7)。

(一)○續談助各本皆無「覓」字、或鈎沈據笑林補之歟、今暫存之。(二)○「方」續談助引皆誤作「文」、鈎沈當據笑林改爲「方」。

79 曹公與楊太尉書論刑楊修云、「操白、足下不遺賢子見輔。今軍征事大、吾制鍾鼓之音、主簿應掌、而賢子恃豪父之勢、每不與吾同懷。念卿父息之情、同此悼楚。謹贈足下錦裘二領^(一)、八節銀角桃枝一枚^(二)、官絹五百疋、錢六十萬、四望通幃七香車一乘、青牂牛二頭、八百里驊騮一疋、戎金裝鞍轡十副^(三)、鈴苞一具^(四)、驅使二人侍衛之^(五)。并遺足下貴室錯彩羅縠裘一領、織成韉一量、有心青衣二人、長奉左右^(六)。所奉雖薄、以表吾意。足下便當慨然成納^(七)、不致往返。」

楊太尉答書云、「彪白、小兒頑鹵、常慮當致傾敗。足下恩矜、延罪訖今。聞問之日、心腸酷裂。省覽衆賜、益以悲懼。」曹公卞夫人與太尉夫人袁書、「卞頓首頓首、貴門不遺賢郎輔佐、方今戎馬興動、主簿股肱近臣、征伐之計、事須諮^(八)。官立金鼓之節、而聞命違制。明公性急^(九)、輒行軍法。伏念悼痛酷楚、情不自勝。夫人多容、卽見垂恕、故送衣服一籠、文絹一百疋、房子官錦百斤^(一〇)、私所乘香車一乘、牛一頭。誠知微細、以達往意、望爲承納。」

楊太尉夫人袁氏答書、「袁頓首頓首、路岐雖近、不展淹久、歎想之情、抱勞山積。小兒疏細、果自招罪戾、念之痛楚。明公所賜已多、又加重賚禮、頗非宜荷受、輒付往信。」

校記 出魏武楊彪傳。續談助四(37)。[○]嚴可均輯全後漢文五一楊彪「答曹公書」、九六袁氏「答曹公夫人卞氏書」皆引古文苑。同全三國文三曹操「與太尉楊彪書」、一二武宣卞后「與楊彪夫人袁氏書」亦俱引古文苑。余氏84、注云、「案魏武楊彪傳不知何書、考後漢書楊彪傳注及魏志陳思王植傳均引典略載楊修之事、典略卽魚豢魏略、此當作出魏略楊彪傳、淺人不知、改爲魏武耳。古文苑(一〇)」載此數書、疑卽自殷芸小說錄入、但其文反較此爲詳、蓋晁白字鈔入續談助之時、有所刪節耳。」唐氏80。周氏92。

古文苑(四部叢刊本)卷十云、曹公與楊太尉書論刑楊修云、操白、與足下同海內大義、足下不遺以賢子見輔比中國、雖靖方外未夷、今軍征事大、百姓騷擾、吾制鐘鼓之音、主簿宜守、而足下賢子、恃豪父之勢、每不與吾同懷、卽欲直繩、顧頗恨恨謂其能改、遂轉寬舒、復卽有貸將延。足下尊門大累、便令刑之。念卿父息之情、同此悼楚、亦未必非幸也。謹贈足下、錦裘二領、八節角桃杖一枝、官絹五百匹、錢六十萬、四望通幃七香車一乘、青犢牛二頭、八百里驊騮馬一匹、赤戎金裝鞍轡十副、鈴苞一具、驅使二人。并遺足下貴室、錯綵羅縠裘一領、織成韉一量、有心青衣二人、長奉左右。所奉雖薄、以表吾意。足下便當慨然承納、不致往返。

楊太尉答曹公書云、彪白、雅顧隆篤、每蒙接納、私自光慰、小兒頑鹵、謬見采錄、不能期効、以報所愛、方今軍征未暇其備、位匡政、當與戮力一心、而寬玩自稽將違法制、相子之行、莫若其父、恒慮小兒必致傾敗、足下恩怨延罪、

迄今近聞問之日、心腸酷裂、凡人情誰能不爾。深惟其失、用以自釋、所惠馬及雜物、自非親舊、孰能至斯。省覽衆賜、益以悲懼。

曹公下夫人與楊太尉夫人袁氏書云、卞頓首、貴門不遺賢郎輔佐、每感篤念情在凝至、賢郎盛德熙妙、有蓋世文才、闔門欽敬、寶用無已。方今騷擾、戎馬屢動、主簿股肱、近臣征伐之計、須敬咨、官立金鼓之節、而聞命違制、明公性急、忿然在外輒行軍法。卞姓當時亦所不知、聞之心肝驚愕斷絕、悼痛酷楚、情自不勝。夫人多容、卽見垂恕、故送衣服一籠、文絹百匹、房子官錦百斤、私所乘香車一乘、牛一頭。誠知微細以達往意。望爲承納。

楊太尉夫人袁氏答書云、彪袁氏頓首頓首、路歧雖近、不展淹久歎息之勞、情抱山積、曹公匡濟天下、欠時遐邇以寧四海、歸仰莫不感戴、小兒疏細、謬蒙采拾、未有上報、果自招罪戾、念之痛楚、五內傷裂、尊意不遺伏辱惠告見明公與太尉書、具知委曲、度子之行不過、父母小兒違越分應至此、怜其始立之年、畢命埃土、遺育孤幼、言之崩潰、明公所賜已多、又加重贄禮。頗非宜荷受、輒付往信。

(一)○「足」字原闕、今據古文苑引補。(二)○余氏注云、「杖原誤枝、據書鈔百三十三及古文苑改。」龍谿精舍本古文苑作「桃枝一枝」。「一枚」古文苑諸本作「一枝」。(三)○十萬卷樓本續談助引作「戎裝金鞍轡」、余氏從此。(四)○余氏注云、「苞原作菴、從古文苑改」。古文苑諸本俱作「苞」。今從余氏。(五)「驅」字原闕、今據古文苑補。古文苑引無「侍衛之」三字。(六)○鈎沈稿本·排印本「長」下空一格、今據古文苑補。(七)原注「成」一作「承」。○古文苑引亦作「承」。(八)○古文苑引「須」下有「敬」字。(九)○「性急」二字、鈎沈空一格、今據古文苑補。(一〇)○余氏注云、「困學紀聞二十云、房子官綿百斤、古文苑誤作錦、而注者妄解。今按續談助亦作錦、疑宋本小說固已誤矣。」唐氏注亦云、「原誤錦據困學紀聞卷二十改正。」

校記 出徽傳。續談助四（38）。○余氏85。唐氏81。周氏93。事見蜀志龐統傳。

81 司馬徽居荊州、以劉表不明、度必有變^(一)、思退縮以自全。人每與語^(二)、但言佳。其妻責其無別^(三)。徽曰^(四)、『如汝所言、亦復甚佳。』終免禍^(五)。

校記 紺珠集二（14）。○類說四九12。記纂淵海四三（異文）。余氏86。唐氏81。周氏94。參看世說言語篇9注引司馬徽別傳、類林雜說二引文士傳。

記纂淵海四三引云、司馬徽與人語、莫問好惡、皆言好。有鄉人問徽安否。答曰、「好。」有人自陳子死。答曰、「大好。」妻責之曰、「人以君有德故相告。何忽聞人子死、便言好。」徽曰、「卿言亦大好。」

○（一）○類說引無「不明度」三字。（二）○類說引無「人」。（三）○下字「其」、類說引作「以」。（四）

「徽」今據類說引補。（五）○類說此句作「終免于難」四字。

82 潁川太守朱府君、以正月初見諸縣史燕、問功曹鄭劭曰^(一)、『昔在京師聞、公卿百僚歎述貴郡前賢後哲英雄瓌璋、然未覩其奇行異操。請聞遺訓。』對曰、『鄙潁川本韓之分野、豫之淵藪、其於天官上、當角亢之宿。下稟高少之靈、受岳瀆之精、託晉楚之際、處陳鄭之末、少陽之氣、太清所挺。是以賢聖龍蟠、俊彥鳳舉。昔許由巢父出於陽城、樊仲甫又出陽城、留侯張良又出於陽城^(二)、故元安出於許縣、灌彪義山出於昆陽、審尋初出於定陵、杜安伯夷又出於定陵、蔡道出於潁陽^(三)。』府君曰、『太原周伯況汝南周彥祖、皆辭徽禮之寵、恐貴郡未有如此者也。』劭公對曰、『昔許由耻受堯位洗耳河濱、樊仲甫者飲牛河路、耻臨濁流、回車旋牛。二周公但讓公卿之榮、以此推之、天地謂之咫尺不亦遠乎。』

校記 出鄭劭公對潁川太守。續談助四（39）。以上後漢人也。○余氏87、注云、「事見袁宏後漢紀十八、順帝永

建四年、惟彼此詳細不同。」唐氏 83。周氏 95。事又見後漢書（御覽一五九引）。

（一）○余氏注云、「公字原脫、據下文補。」今從。（二）○余氏注云、「留字原闕、今補。」（三）原注「道」一作「遵」。○余氏注云、「案後漢書蔡遵傳云潁川潁陽人也、據改。」

83 劉楨以失敬罷^(一)、文帝曰、「卿何以不謹文憲^(二)。」答曰、「臣誠庸短^(三)、亦緣陛下綱目不疎。」文帝出游、楨見石人曰、「問彼石人、彼服何羈^(四)、何時去衛、來游此都。」

校記 出世說。續談助四（40）。注云此卷並魏上人。○余氏 89、注云、「魏世人原作魏上人、今改。」唐氏 84。周氏 96。此條見今本世說言語篇 10、但引至「綱目不疎」為止、無「文帝出游」之事。下當有闕文、或系二事歟。

（一）○十萬卷樓本續談助引「楨」誤作「禎」、下同。（二）○「何」續談助各本均脫、鈎沈據世說補。「謹」鈎沈稿本・排印本皆作「敬」、又排印本以「不敬」斷句、而且以「文憲」爲人名、七三年版全集皆已正之。（三）○「庸」續談助作「痛」、意不通、鈎沈據世說改。（四）○「彼」余氏注云、「當作被」。

84 魏王北征^(一)、踰升嶺眺矚^(二)、見一岡不生百草^(三)。王絜曰、「此必古冢^(四)」。其人在世、服生礬石^(五)、熱蒸出外^(六)、故草木焦滅^(七)。」遽令鑿看^(八)、果是大墓^(九)、礬石滿塋^(一〇)。一說、絜在荊州、從劉表登嶂山而見此異^(一一)。曹武北征^(一二)、絜猶在江南、以此爲然^(一三)。

校記 出異苑。續談助四（41）。○余氏 90。唐氏 85。周氏 97。此條見今本異苑七。

（一）○異苑「魏王」作「魏武」。（二）○今本異苑「踰」作「蹋頓」而承接上文。十萬卷樓本續談助引「魏」誤作「韓」。（三）○異苑「岡」上有「山」字。又「百草」作「草木」。（四）○異苑此句作「必是古冢」。（五）○異苑「其」作「此」。「礬」續談助引作「礬」、津逮秘書本異苑亦作「礬」、而學津討原本異苑作「礬」、鈎沈或依

學津本改作「磬」。按當作「磬」，下同。（六）○異苑「熱」作「死而石氣」。（七）○異苑「草」作「卉」。（八）○異苑「遽」作「卽」。（九）○異苑「是」作「得」。（一〇）○異苑此句頭有「有」字。而且句末繼以「仲宣博識強記，皆此類也」十字。（一一）○「嶂」十萬卷樓本續談助、今本異苑皆作「障」。（一二）○異苑此句作「魏武之平烏桓」。（一三）○十萬卷樓本「然」作「言」。異苑此句作「此言爲謫注一作當」。

85 管寧避難遼東^(一)、還泛海遭船傾沒^(二)、乃思其嘗過曰^(三)、『吾曾一朝科頭^(四)、三晨晏起、今天怒猥集^(五)、過必在此^(六)。』

校記 出異苑。續談助四（42）。*紺珠集二（22）。*海錄碎事八。○類說四九19。余氏93。唐氏86。周氏100。此條見今本異苑一〇。

（一）○今本異苑「管寧」下有「字幼安」三字、又無「還」字。（二）○異苑此句作「後還、汎海遭風、船垂傾沒」。類說、紺珠集引以上二句止作「管寧泛海舟覆紺珠集作「復」。海錄引作「管寧泛海舟欲覆」。（三）○類說、紺珠、海錄均無「思其嘗過」四字。續談助引無「曰」字。異苑此句作「寧潛思良久曰」。（四）○類說、紺珠集、海錄、異苑皆「曾」作「嘗」。（五）○類說、紺珠、海錄均無此句。（六）海錄碎事八節引末有「風乃息」三字。○海錄引「必」作「皆」、異苑作「恐」。

86 魏管輅嘗夜見一小物^(一)、狀如獸、手持火、向口吹之、將焚舍宇。輅命門生舉刀奮擊斷腰、視之狐也。自此里中無火災。

校記 廣記四百四十七。○余氏110。唐氏103。周氏101。事見魏志管輅傳裴松之注引紀玄龍之語。

（一）○廣記引「嘗」作「常」。

87 王朗中年以識度推華歆^(一)、歆蜡日嘗與子姪宴飲^(二)。王亦學之、有人向張茂先稱此事^(三)。張曰、『王之學華、蓋是形骸之外^(四)、去之所以更遠。』

校記 出世說。續談助四〔43〕。○余氏 94。唐氏 87。周氏 102。此條見今本世說德行篇 12。

(一)○世說「中年」作「每」。(二)○世說「與」作「集」、「宴」作「燕」。(三)○世說「茂先」作「華」、「稱」作「說」。(四)○世說「蓋」作「皆」。按「蓋」或當作「盡」歟。

88 華歆遇子弟甚整雅^(一)、閑室之內、儼若朝典^(二)。陳元方兄弟、恣柔愛之道。二門之中^(三)、兩不失其雍熙之軌度焉^(四)。

校記 出世說。續談助四〔44〕。○余氏 95。唐氏 88。周氏 103。此條見今本世說德行篇 10。

(一)○世說「雅」作「雖」而屬於下文。(二)○世說「儼」作「嚴」。(三)○世說句頭有「而」字、「中」作「裏」。(四)○世說無「其」「度」字。

89 魏國初建、潘勗字元茂、爲策命文。自漢武以來^(一)、未有此制。勗乃依商周憲章唐虞辭義、溫雅與典誥同風。時朝士皆莫能措一字。勗亡後、王仲宣擅名於當時、時人見此策美、或疑是仲宣所爲、論者紛々。及晉王爲太傅、臘日大會賓客^(二)、勗子蒲時亦在焉。宣王謂之曰、『尊君有封魏君策、高妙信不可及、吾曾聞仲宣亦以爲不如^(三)。』朝廷之士乃知勗作也。

校記 御覽五百九十三。○余氏 91。唐氏 90。周氏 104。御覽引作「殷洪小說」、余氏有說。

(一)○中華書局本御覽引「以」作「已」、鮑氏刊本作「以」。(二)○「臘」鈎沈作「腊」、今依正。(三)

○「聞」中華書局本誤作「問」。

90 中華佛法雖始於漢明帝，然經偈故是胡音^(二)。陳思王登魚山臨東阿^(三)，聞巖岫有誦經聲^(四)，清婉適亮^(五)，遠谷有流響，肅然靈氣^(六)，不覺斂襟祇敬，便有終焉之志。諸曹解音，以為妙唱之極^(七)，即善則之^(八)。今梵唄皆植依擬所造也^(九)。植亡乃葬此土^(十)。

校記 出異苑。續談助四(45)。○余氏96。唐氏90。周氏104。此條見今本異苑五、文頗有異同。事之一半亦見魏志陳思王傳。宣驗記(鈎沈36)。

(一)○今本異苑無以上十七字。(二)○異苑「陳子王」下有「曹植字子建嘗」六字。十萬卷樓本「魚」作「漁」、誤。(三)○異苑「岫」下有「裏」字。(四)○異苑此句作「清通深亮」、亦參看注(九)。(五)○異苑「肅然」下有「有」字。(六)○異苑無以上二句十字。(七)○異苑「善」作「效而」二字。(八)○異苑「唄」作「唱」。(九)○異苑無末六字。但有下文云、「一云、陳思王遊山、忽聞空裏誦經聲、清遠適亮。解音者則而寫之、為神仙聲。道士效之、作步虛聲也」。

91 傅巽有知人之鑒、在荊州^(一)、目龐統為半英雄。後統附劉備、見待次諸葛亮、如其言。

校記 續談助四(46)。○*類說四九21。永樂大典二九七九引續談助。天中記二五。余氏97、注云、「此條失著書名、事見魏志劉表傳注引傅子。」唐氏91。周氏105。海錄七下亦引劉表傳云、「魏傅巽環環有知人鑒、在荊州目龐統為半英雄。」類說引止云、「巽曰、龐統為半英雄」而已。

(一)○余氏注云、「傅子作在荊州、此作房誤」。鈎沈作「房」、今從余氏改。大典引亦作「房」。

92 平原人有善治僂者。自云、『不善人百一人耳。』有人曲度八尺、直度六尺、乃厚貨求治^(二)。曰、『君且□。』欲上背踏之。僂者將曰、『將殺我。』曰、『趣令君直、焉知死事。』

校記 出笑林。續談助四〔47〕。○笑林（鈎沈19）。余氏98。唐氏92。周氏106。

（一）○粵雅堂本續談助引「求」下有一「治」字、衍。

93 董昭爲魏武重臣、後失勢。文明之世、下爲衛尉。昭乃厚加意於侏儒。正朝大會、侏儒作董衛尉啼面、言其太祖時事、舉坐大笑。明帝悵然不怡。月中遷司徒。

校記 出語林。續談助四〔48〕。○語林（鈎沈19）。余氏100。唐氏93。周氏108。

94 凌雲臺至高^(一)、韋誕書榜、卽日皓首^(二)。榜有未正^(三)、募工整之。有鈴下卒^(四)、著屐發緣^(五)、如履平地。疑其有術問之^(六)。曰、『無術。但兩腋各有肉翅^(七)、長數寸許^(八)。』

校記 紺珠集二〔16〕。○類說四九13。余氏101。唐氏94。周氏109。事又見西陽雜俎前集九盜俠篇。

（一）○類說引句頭有「魏」字。（二）○明刊紺珠集引無「首」字。（三）○「榜」字今據類說補。（四）

○「鈴」類說引誤作「鈴」。（五）○「屐」類說引作「履」。「登」紺珠集、鈎沈作「發」、今據類說改。（六）

○類說引無「疑其有術」四字、又「問」作「詰」。（七）○「無術。但」三字、今據類說引補。（八）○鈎沈作「長寸許」、類說引作「數寸」、明刊紺珠集引作「長數許」。今從余氏說。

95 晉撫軍云、『何平叔巧累於理、嵇叔夜雋傷其道。』

校記 出郭子。續談助四〔49〕。○郭子（鈎沈52）。余氏102。唐氏95。周氏110。事見今本世說品藻篇31。

96 王輔嗣注易、笑鄭玄云、『老奴甚無意。』於時夜久、忽聞外閤有著屐聲、須臾即入、自云是鄭玄。責之曰、『君年少何以穿鑿文句、而妄譏老子。』極有怒色。言竟便退、而輔嗣心生畏惡、經少時乃暴疾而卒。

校記 出幽明錄。續談助四〔50〕。○幽明錄（鈎沈99）。余氏103、注云、『案廣記三百十七載此事、不著出處。』唐氏96。周氏111。

97 景王欲誅夏侯玄〔一〕、意未決間〔二〕、問安王孚云〔三〕、己才足以制之否。孚云、昔趙儼葬兒〔四〕、汝來、半坐迎之。泰初後至〔五〕、一座悉起。以此方之〔六〕、恐汝不如。乃殺之。

校記 出語林。續談助四〔51〕。○類說四九22。語林（鈎沈22）。余氏104。唐氏97。周氏112。
（一）○類說引「誅」作「殺」、「玄」作「太初」。（二）○類說引無「問」。（三）○鈎沈稿本·排印本誤作「王安孚」、七三年版全集已正。（四）○類說引「儼」誤作「岩」。（五）○十萬卷樓本續談助引「太初」作「泰初」。類說引「後至」作「來」。（六）○類說引「方」作「知」。

98 鍾毓鍾會少有令譽、年十三、魏文帝聞之、語其父繇曰〔一〕、『令卿二子來〔二〕。』於是敕見、毓面有汗。帝問曰、『卿面何以汗。』毓對曰、『戰戰惶惶、汗出如漿。』復問會、『卿何以不汗出。』會對曰、『戰戰慄慄、汗不敢出〔三〕。』又值其父晝寢〔四〕、因共偷服散酒〔五〕。其父時覺、且假寐以觀之〔六〕。毓拜而後飲、會飲而不拜。既問之〔七〕、毓曰、『酒以成禮、不敢不拜。』又問會、『何以不拜。』會曰、『偷本非禮、所以不拜。』

校記 廣記一百七十四。○後半又記纂淵海四一引、未著出處。余氏105。唐氏98。周氏113。廣記汪校語云、「明鈔本作出世說」。見世說言語篇11·12。又參看同言語篇4。

(一)○世說「繇」上有「鍾」字。(二)○世說作「可令二子來」。(三)○「敢」廣記作「得」、世說作「敢」。(四)○世說「又」作「鍾毓兄弟小時」。按此條本來是二事、而合爲一條。(五)○「散酒」今本世說作「藥酒」。書鈔八五引世說作「散酒」。(六)○「假」世說作「託」。(七)○今本世說無「之」。

99 鍾會撰四本論始畢^(一)、甚欲嵇公看^(二)。致之懷中^(三)、既詣宅^(四)、畏其有難^(五)、懼不敢相示^(六)、出戶遙擲而去^(七)。

校記 出世說。續談助四(52)。○余氏106。唐氏99。周氏114。此條見今本世說文學篇5。

(一)○十萬卷樓本續談助引「本」誤作「木」。(二)○世說「看」作「一見」。(三)○世說「致之」作「置」。(四)○世說「詣宅」作「定」、恐誤。(五)○世說無「有」。(六)○世說此句作「懷不敢出」。(七)○世說此句作「於戶外遙擲、便回急走」。

100 鍾士季常向人道、「吾少年時、一紙書、人云是阮步兵書、皆字字生義^(一)、既知是吾、不復道也。』

校記 出語林。續談助四(53)。○語林(鈎沈31)。余氏107。唐氏100。周氏115。

(一)○十萬卷樓本續談助引無「皆」。

101 阮德如每欲逸走、家人常以一細繩橫繫戶前以維之。每欲逸走^(一)、至繩輒返。時人以爲名士狂。

校記 出世說。續談助四(54)。○余氏108。注云、「案今世說無此事、御覽七百三十九亦引作世說。唐氏101。周氏116。

御覽七三九云、「世說云、阮德如嘗與親友逍遙河側、歎曰、大丈夫不能使僕從陷於河橋、非丈夫也。坐者或曰、德如以高素致名、不應發此言、必將病之候。俄而性理果僻、欲逸走。家人嘗以一細繩橫繫之戶前以維之。每欲出、礙

繩輒反。時人以爲名士狂。」

(一)○續談助各本無「走」、鈎沈依上文補之。

102 德如嘗於廁見一鬼^(一)、長丈餘、色黑而眼大、著白單衣平上幘^(二)。去之咫尺、德如心安氣定、徐笑而謂之曰^(三)、
『人言鬼可憎、果然如是^(四)。』鬼赧而退^(五)。

校記 出幽明錄。續談助四(55)。○幽明錄(鈎沈66)。余氏109。唐氏102。周氏117。事又見琅邪代醉編三三。

(一)○鈎沈幽明錄(下同)引句頭有「阮」字。(二)○幽明錄「白」作「阜」。(三)○幽明錄「而謂」作「語」。(四)○幽明錄無「如是」二字。(五)○幽明錄作「鬼卽赧愧而退」。

103 桓宣武征蜀^(一)、猶見諸葛亮時小吏^(二)、年百餘歲。桓問^(三)、『諸葛丞相今與誰比^(四)。』意頗欲自矜^(五)。答曰、『葛公在時亦不覺異^(六)、自葛公歿後正不見其比^(七)。』

校記 出雜記。續談助四(56)。注云、此卷並吳蜀人。說郭二十五(21)。○張澍輯諸葛故事一(『諸葛亮集』一九六〇年·中華書局)余氏111。唐氏105。周氏118。參看語林(鈎沈134)、又晉書桓溫傳。

(一)○『故事』「桓宣武」作「桓溫」。(二)○說郭、『故事』引「諸葛亮」均作「武侯」。(三)○十萬卷樓本續談助引「桓問」誤作「復聞」。「故事」引「桓」作「溫」。(四)○說郭引止作「今與誰比」。(五)○粵雅堂本續談助引無「欲」、十萬卷樓本「欲自」作「有」。鈎沈從說郭。『故事』引無此句。(六)○十萬卷樓本「時」作「此」。「故事」引「葛公」作「諸葛」。(七)○說郭引脫「後」字。「故事」引無「葛」字、又無「正」。

104 武侯躬耕於南陽^(一)。南陽是襄陽墟名、非南陽郡也。

校記 出異苑。續談助四（57）。*困學紀聞十。○張澍輯諸葛故事五。*錢注杜詩一四「武侯廟」詩。蘇軾詩集二「隆中」詩查注引商芸小說。余氏112。唐氏106。周氏119。此條不見今本異苑。
（一）困學紀聞十引此句、「於」字據補。○困學紀聞引「武侯」上有「諸葛」二字。（二）○「郡」十萬卷樓本作「都」、誤。

105 襄陽郡有諸葛孔明故宅、故宅有井深五丈廣五尺。堂前有三間屋地基址極高、云是避水臺、宅西有山臨水。孔明常登之鼓琴而為梁甫吟、因名此山為樂山。先有董家居此宅、衰殄滅亡、後人不敢復憩焉。

校記 出襄陽記。續談助四（58）。○諸葛故事五。余氏113。唐氏107。周氏120。事又見御覽一七七引盛弘之記、又見水經注（四部叢刊本）二八沔水。王謨輯漢唐地理書鈔引御覽一七七而注云、「說郭引此云：」。所引之文與此條略同、但不見涵芬樓本說郭。

御覽一七七引盛弘之記云、「宅西有三間屋、基跡極高。云是孔明避水臺。先有姓董居之、滅門之後、無復敢有住者。（後略）」

諸葛故事五引習鑿齒襄陽記云、「襄陽有孔明故宅、有井、深五丈廣五尺、曰葛井。堂前有三間屋地、基址極高、云是避暑臺。宅西面山臨水、孔明常登之、鼓瑟為梁甫吟、因名此山為樂山。嗣有董家居此宅、衰殄滅亡、後人不敢復憩焉。」（未著出處）

106 孫策年十四、在壽陽詣袁術。始至而劉豫州到、便求去。袁曰、「豫州何關君。」答曰、「不英雄忌人。」即出下東階、而劉備從西階上。但輒顧視之、行殆不復前。

校記 出語林。續談助四（59）。○語林（鈎沈10）。余氏115。唐氏108。周氏122。

107 顧邵爲豫章^(一)、禁淫祀^(二)、毀諸廟。至廬山廟、一郡悉諫不從。夜忽有人開閣徑前^(三)、狀若方相、云是廬山君^(四)。

邵要之人坐^(五)、與談春秋^(六)、燈盡燒^(七)、左傳以續之。鬼欲凌邵、邵神氣甚烈^(八)、鬼反和遜、求復廟。邵笑而不答^(九)。

鬼怒曰、『三年內、君必衰、當此時相報。』如期、邵果病篤^(一〇)、咸勸復廟。邵曰、『邪豈勝正。』終不聽、遂卒。

校記 出志怪。續談助四(60)。○類說四九42。事文類聚前集四八。群書類編故事一一。余氏116。唐氏109。周氏

123。續談助引文不全、今據類說錄。此條見廣記二九三引志怪、文尤詳。詳見雜鬼神志怪(鈎沈8)。

○續談助引「顧」誤作「顏」。類說、事文類聚引「邵」作「劭」、下同、今從『吳志』本傳作「邵」。(二)○續談助引無此句。(三)○「忽」、「開閣」據續談助補。「徑」類說、事文類聚引均作「經」、今從續談助。(四)

○「云」續談助引作「說」。(五)○續談助引無此句。(六)○續談助引「與」下有「邵」字。(七)○續

談助引「燈」下有「火」字。事文類聚引「甚烈」作「湛然」。廣記引同。(八)○續談助引無此二句九字。(九)

○續談助引至此爲止。(一〇)○事文類聚引無「篤」字。

108 沈峻珩之弟也。甚有名譽、而性儉吝。張溫使蜀、與峻別、峻入良久、謂溫曰、向擇一端布、欲以相送、而無麗者。溫嘉其能自顯其非。

校記 出笑林。續談助四(61)。○笑林(鈎沈12、略有不同。)余氏118。唐氏111。周氏125。

109 諸葛恪對南陽韓文晁誤呼其父字^(一)。晁曰、『向人前呼其父字^(二)、爲是禮邪^(三)。』恪笑而答曰^(四)、『向天穿針不見天怒者^(五)、非輕於天意有所在耳^(六)。』

校記 續談助四(62)。○類說四九34。余氏120。唐氏114。周氏127。

(一)○類說引無「南陽」二字。(二)○類說引無「向」、「人」下有「子」字。(三)○類說引無「爲是」二字。(四)○類說引無「笑而答」三字。(五)○「怒」據十萬卷樓本補、粵雅堂本、類說均脫之。(六)○「非」鈎沈引作「其」、今據類說改。續談助引作「其」、亦通。

110 孫皓初立、治後園得一金像、如今之灌頂佛^(一)。未莫^(二)、皓陰痛不可堪^(三)。采女有奉法者、啓皓取像、香湯浴之。置殿上燒香懺悔、痛卽便止。

校記 出志咸微心記。續談助四(63)。○余氏 123。唐氏 116。周氏 130。事見宣驗記(鈎沈 18)、旌異記(鈎沈 1)、高僧傳一康僧會傳。

(一)按此下有闕文、旌異記具載之。○據旌異記補闕文。云、「孫皓得之、素未有信、不甚尊重、置於廁處、令執屏籌。至四月八日、皓如廁、戲曰、今是八日浴佛時。遂尿頭上。」(二)○「暮」鈎沈作「莫」、據續談助各本改。(三)○續談助各本「痛」均作「病」、鈎沈或依下文改歟、今暫存之。

111 杜預書告兒、古詩有書借人爲可嗤、借書送還亦可嗤。

校記 海錄碎事十八(引商芸小說)。○類說四九 27。記纂淵海五六。余氏 129、注云、資暇集下引王府新書、杜元凱遺其子書曰、書勿借人。古人云、古諺借書一嗤、還書一嗤。與此不同。古人云三字當是衍文。唐氏 122。周氏 137。此條在稿本欄外。

112 王安豐云、『山巨源初不見老易、而意闇與之同^(一)。』晉武帝講武於宣揚場^(二)、欲偃武修文^(三)。山公謂不宜爾、因與諸尚書言、孫武用兵本意^(四)。後寇盜蜂合、郡國無備、不能復制。皆如公言^(五)。時以爲濤不學孫吳、而闇與會^(六)。

王夷甫亦歎其闇與道合。

校記 出世說。續談助四〔64〕。注云、此卷並晉江左人。○余氏 125。唐氏 120。周氏 133。此條見今本世說識鑒篇 4。參看世說賞譽篇 21。

(一)○世說此三句在文末、而云「王夷甫亦歎云、公闇與道合。」(二)○世說「揚」作「武」。(三)○世說句頭有「帝」字。又以下云、「親自臨幸、悉召群臣」。(四)○鈎沈「吳」作「武」、今據下文並世說改作「吳」。世說又下有「遂究論、舉坐無不咨嗟。皆曰、山少傅乃天下名言」十九字。(五)○世說以上四句作「後諸王驕汰、輕遭禍難、於是寇盜處處蟻合、郡國多以無備、不能制服、遂漸熾盛、皆如公言」。(六)○世說「時」下有「人」字、「以爲」作「以謂」、「濤」作「山濤」。又「與會」作「與文理會」。

113 裴令公目王安豐、『眼爛々如巖下電。』

校記 出語林。續談助四〔跋 76〕。○語林(鈎沈 43)。余氏 128。唐氏 124。周氏 136。事見世說容止篇 6。參看次條 114。

114 裴令公姿容爽雋、疾困^(一)。武帝使王夷甫往看之^(二)。裴先向壁臥^(三)、聞王來^(四)、強回視之。夷甫出語人曰^(五)、『雙眸爛々^(六)、如巖下電^(七)、精神挺動、故有小惡耳^(八)。』

校記 出世說。續談助四〔跋 75〕。○余氏 127。唐氏 124。周氏 135。此條見今本世說容止篇 10、有小異。參看 113 條。
(一)世說以上作「裴令公有雋容姿、一旦有疾至困」。(二)○世說「武帝」作「惠帝」、又「看」下有「之」字。
(三)○世說「先」作「方」。(四)○世說「來」作「使至」。(五)○世說「夷甫」作「王」。(六)○世說此句作「雙目閃閃」。(七)○世說「如」作「若」。(八)○世說此句作「體中故小惡」。

115 魏時、殿前鍾忽大鳴、震駭省署。張華曰(一)、『此蜀銅山崩、故鍾鳴應之也。』蜀尋上事、果云銅山崩。時日皆如華言。

校記 廣記一百九十七。○余氏 133。唐氏 126。周氏 141。事見今本異苑二、余氏注云、此出異苑二、文有異同。『參看御覽五七五引東方朔傳。又見瑯琊代醉編二四。』

(一)○廣記引無「張」字、鈎沈以意補之。

116 中朝時、有人畜銅澡盤(二)、晨夕恒鳴如人扣。以白張華、華曰、『此盤與洛鍾宮商相諧、宮中朝莫撞鍾(三)、故聲相應、可鑪令輕、則韻乖鳴自止也。』依言卽不復鳴。

校記 廣記一百九十七。○余氏 134。唐氏 128。周氏 142。事見今本異苑二、余氏注云、此亦出異苑。『又見御覽五七五引廣古今五行記。』

(一)○鈎沈句頭有「蜀」字、廣記各本皆無、今依刪。(二)○廣記各本無「鐘」、鈎沈或依異苑補歟、今暫存之。

117 武庫內有雄雉、時人咸謂爲怪。華云、此蛇之所化也(一)。即使搜除庫中、果見蛇蛻之皮。

校記 廣記一百九十七。○余氏 135。唐氏 129。周氏 143。余氏注云、出異苑三。『又見白帖九。』
(一)○鈎沈「蛇」作「蛇」、廣記談刻本、黃刻本均作「蛇」、王校本作「蛇」、皆異體耳。

118 吳郡臨平岸崩、出一石鼓、打之無聲、以問華。華曰、可取蜀中桐材、刻作魚形、扣之則鳴矣。卽從華言、聲聞數

十里。

校記 廣記一百九十七。○余氏 136。唐氏 130。周氏 144。事見今本異苑二、又見白帖九二·十八引異苑。海錄碎事九上。

119 嵩高山北有大穴、空莫測其深。百姓歲時每游其上。晉初嘗有一人悞墜穴中、同輩冀其倘不死、試投食於穴。墜者得之爲糧、乃緣穴而行、可十許日、忽曠然見明。又有草屋一區、中有二人、對坐圍碁、局下有一杯白飲、墜者告以飢渴。碁者曰、『可飲此。』墜者飲之、氣力十倍。碁者曰、『汝欲停此不。』墜者曰、『不願停。』碁者曰、『汝從西行數十步、有一井、其中多怪異、慎勿畏、但投身入中、當得出。若飢即可取井中物食之。』墜者如其言。井多蛟龍、然見墜者(一)、輒避其路、墜者緣井而行、井中有物若青泥。墜者食之、了不覺飢、可半年許乃出蜀中。因歸洛下、問張華曰、『此仙館、所飲者玉漿、所食者龍穴石髓也。』

校記 廣記一百九十七。○*類說四九 43。余氏 137。唐氏 131。周氏 145。事見幽明錄(鈎沈 63)。又見初學記五、白帖二、御覽三九、事文類聚前集一三、群書類編故事三、皆引作出劉義(毅)慶世說。又見書鈔一四四引作出世語。參看幽明錄(鈎沈 62)、殷芸小說新附(鈎沈 150)。何氏語林二二·一一。

(一)○「見」鈎沈原闕、廣記作「其」、余氏注云、「疑爲見之誤」。今從余氏說。

120 晉張華有鸚鵡(一)。每出還、輒說僮僕好惡。一日寂無言、華問其故、曰、『被禁在甕中(二)、何繇得知(三)。』忽云、『昨夢不佳、所忌出外。』華強呼之、至庭。果爲飛鷹所擊、僅獲見免。

校記 *鐵圍山叢談六。○類說四九 39。鐵圍山叢談引文不全、今以類說補。瑯琊代醉編三九。余氏 131。唐氏 134。周氏 139。事見今本異苑三。

(一)○類說引無「晉」。(二)○鐵圍山叢談引「瓮」作「甕」。(三)○『鐵圍山叢談』引此句作「何繇得知」四字。又引至此爲止。以下據『類說』補。

121 羊琇驕豪、擣炭爲屑、以香和之、作獸形。

校記 出列傳。續談助四(65)。○余氏138、注云、列傳當作別傳。」唐氏135·周氏146。事見語林(鈎沈57)。又晉書外戚傳。

122 羊稚舒原注云琇。冬月釀酒(一)、令人抱甕暖之、須臾復易其人、酒既速成、味仍嘉美。其驕豪皆此類(二)。

校記 出語林。續談助四(65)。○余氏139。唐氏136。周氏147。此條見語林(鈎沈58)。

(一)原注云「羊稚舒」琇。○續談助引「稚」誤作「雅」。(二)○「皆」字、續談助引無、疑鈎沈以意補。

123 夏侯湛作周詩、成以示潘岳(一)。岳曰、『此文非徒溫雅(二)、乃別見孝悌之性。』岳因此作家風詩(三)。

校記 出世說。續談助四(67)。注云、此卷並晉江左人。○續談助注「此卷」只有鈎沈第123·124條而已。又鈎沈

第112王安豐之條「晉江左人」只三條而已。按原本殷芸小說應當有更多故事、唯續談助編者不選取許多軼事耳。余氏

140。唐氏137。周氏148。此條見今本世說文學篇71。事又見晉書夏侯湛傳、海錄碎事七下引世說。續談助注「此卷」

包括鈎沈第123·124條。

(一)○世說無「以」、又「岳」作「安仁」、下同。(二)○世說無「文」。(三)○世說「岳」作「潘」、而「作」

上有「遂」字。

124

孫子荊新除婦服、作詩示王武子^(一)。武子曰^(二)、『不知文生於情^(三)、情生於文^(四)。覽之悽然、生伉儷之重。』

校記 出世說。續談助四(69)。○余氏142。唐氏139。周氏150。此條見今本世說文學篇72。又白帖五引世說。

(一)○世說「示」上有「以」字。(二)○世說「武子」作「王」。(三)○世說「不」作「未」。(四)○世說「生」作「增」。

125

裴僕射原注云顧^(一)。時人謂言談之林藪。

校記 出顧別傳。續談助四(69)。注云、此卷並晉江左人。○余氏145。唐氏140。周氏150。事見今本世說賞鑒篇18、晉書裴顧傳。續談助注「此卷」有鈎沈第125·128·129·131·132之五條。

(一)○鈎沈據粵雅堂本引、十萬卷樓本以「顧」爲本文。

126

劉道真年十五六^(一)、在門前戲^(二)、鼻上垂鼻涕至胸。洛下少年、乘車從門前過^(三)、曰、『此少年甚呵墜。』原注上呼回反、下徒推反^(四)。劉隨車後問、此言爲善爲惡。答以爲善^(五)。劉曰^(六)、『若佳言、令爾翁呵墜、爾母呵墜^(七)。』

校記 出雜記。說郭二十五(24)。紺珠集二(21)。海錄碎事八。○類說四九29。余氏150。唐氏147。周氏158。事見語林(鈎沈45)。

(一)○涵芬樓本說郭「年」作「言」、誤。(二)○涵芬樓本無「戲」字。(三)○以上四句、海錄、紺珠集俱作「有人見劉道真」、類說引作「洛下人見劉道真」。(四)○涵芬樓本「呵墜」作「呵墜」、原注上呼回反、下扶推反。類說引作「嚳嚳」、而無注。紺珠集引作「咽墜」、文末注云、「呼回、徒推反」。又類說、紺珠集引「少年」作「年少」。(五)紺珠集引作「道真問、此言佳否。云、佳」。○類說引作「劉問、此言善否。云、善」。海錄與紺珠集同、但無「云佳」二字。類說引「爲善爲惡」作「爲善惡」。(六)○海錄、紺珠集引「劉」俱作「道真」。

(七)○類說引「令」上有「願」字。「爾」類說引作「若」、海錄、紺珠集作「汝」、涵芬樓本說郭引作「你」、下同。類說引「翁」下有「亦」字、「母」下有「亦」字。

127 新淦聶友小兒貧賤、常獵見一白鹿、射中之後、見箭著梓樹。

校記 出志怪。說郭二十五(22)。○余氏122。唐氏117。周氏129。涵芬樓本說郭注云、出恠心。事見搜神後記八、御覽七六七引搜神後記。廣記三七四未著出處、文與此條殆同、又四一五引搜神記。又汪紹楹搜神後記注云、見豫章記『雜鬼神志怪(鈎沈21)』。

128 士衡在坐(一)、安仁來、陸便起、潘曰(二)、『清風至塵飛揚。』陸應聲答曰、『衆鳥集鳳皇翔。』

校記 出語林。續談助四(70)。說郭二十五(23)。○余氏146。唐氏142。周氏154。此條見語林(鈎沈65)。又見敦煌文書P.二五二四。

(一)○續談助、涵芬樓本說郭引「坐」均作「座」。(二)○涵芬樓本作「安云」。

129 士衡爲河北督(一)、已遭間構、內懷憂懣。聞其鼓吹、謂司馬孫拯曰(二)、『我今聞之、不如聞華亭鶴唳。』

校記 出小史。續談助四(71)。○余氏147。唐氏143。周氏155。事見語林(鈎沈67)。

(一)○續談助引無「爲」、鈎沈或依語林補之。(二)○「拯」續談助引誤作「遊」。余氏注云、「遊當作拯、孫拯晉書附機傳。世說注作孫拯、書鈔作孫掾、御覽作孫極、參互考之、知皆孫拯之誤。」

130 蔡司徒說、在洛陽見陸機兄弟(一)、住參佐中三間瓦屋。士龍住東頭、士衡住西頭。

校記 困學紀聞二十。○余氏 148。唐氏 141。周氏 156。事見今本世說賞譽篇 39。

(一)○「洛」下鈎沈本有「陽」字、今據困學紀聞刪。

131 阮瞻作無鬼論。忽有人謁阮曰、『鬼神之道、古今聖賢共傳。君何獨言無。即僕便是。』忽異形^(一)。須臾消滅。後年餘遇病而卒^(二)。

校記 出列傳。續談助四(72)。○余氏 151。唐氏 144。周氏 159。事見幽明錄(鈎沈 67)、晉書阮瞻傳、群書類編故事一一。參看白帖二七·一。

(一)○鈎沈脫「其」、今依補。(二)○十萬卷樓本「病」作「疾」。

132 宋岱爲青州刺史^(一)、禁淫祀、著無鬼論^(二)、人莫能屈^(三)。鄒州咸化之^(四)。後有一書生詣岱^(五)、岱理稍屈^(六)、書生乃振衣而起曰^(七)、『君絕我輩血食二十餘年、君有青牛髻奴^(八)、所以未得相困耳^(九)。今奴已叛、牛已死。此日得相制矣^(一〇)。』言訖失書生^(一一)。明日而岱亡^(一二)。

校記 出雜記。續談助四(73)。○類說四九 41。廣記三一七引作「雜語」。余氏 152。唐氏 145。周氏 160。事見語林(鈎沈 68)。

(一)○「宋」廣記引作「宗」。(二)○廣記下有「甚精」二字一句。(三)○廣記引作「無能屈者」。(四)○類說引無以上二句九字。(五)○廣記引「詣岱」作「葛巾、修刺詣岱、與之談甚久」。(六)○廣記引「稍」作「未」。以下廣記作「辭或未暢。書生輒爲申之、次及無鬼論、便苦難岱、岱理欲屈」。(七)○類說引無二句十字、止作「曰」。續談助無「書」。(八)○類說引「君」上有「以」字、「奴」作「妓」。(九)○廣記、類說引無「所以」。類說引又無「耳」。十萬卷樓本「困」誤作「因」。(一〇)○廣記「此」作「今」。類說引「日」誤

作「自」。(一一)○廣記引作「言絕、遂失書生」。類說引無此句五字。(一二)○類說引無「而」、「亡」作「卒」。

133 昔傅亮北征、在河中流、或人問之曰、『潘安仁作懷舊賦曰、前瞻太室、傍眺嵩丘』。嵩丘太室一山、何云前瞻傍眺哉。『亮對曰、『有嵩丘山、去太室七十里。此是寫書誤耳』。』

校記 文選潘岳「懷舊賦」注。○天中記八。余氏 154。唐氏 149。周氏 162。事見俗說(鈎沈 46)。

(一)○按依傅亮語、或人所言「嵩丘」均當作「崇高」。(二)○「寫書」下鈎沈有「人」字、而文選諸本皆無此字、天中記引亦無、因今刪之。

134 齊宜都王鏐(一)、三歲喪母。及有識問母所在、左右告以早亡、便思慕蔬食(二)、祈請幽冥、求一夢見。至六歲、夢見一婦人(三)、謂之曰、『我是汝之母。』鏐悲泣。旦說之、容貌衣服、事事如平生也。

校記 御覽四百十一。○余氏附錄、案語云、「此書敘事終於宋、不得有齊事、此所引當是劉餗小說」。唐氏 150。注云、「按小說十卷今依續談助所注、每卷比次、只得九卷。第九卷爲晉江左人、文選御覽所引、下及齊世、則卷十所載、當是宋齊人也」。周氏 163。事見南史蕭鏐傳。按御覽宋本、明刊本「齊」均誤作「宋」、或鈎沈以爲宋事而誤收之、今暫存之。

(一)○御覽鮑氏刊本引訂作「齊」。「鏐」明刊本誤作「鑑」、下同。(二)○明刊本引無「思」。(三)○明刊本引無「見」。

135 鄭餘慶處分厨家、『爛蒸去毛、莫拗折項。』客以爲必是鵝鴨。乃是爛蒸葫蘆。

校記 海錄碎事六引商芸小說。○余氏附錄、案語云、「鄭餘慶唐人、安得見於殷芸書、廣記一百六十五引此作盧

氏雜說、海錄誤耳」。當刪。

136

學者當取三多、看讀多、持論多、著述多。三多之中、持論爲難。爲文須辭相稱、不然同乎按檢無足取。

校記 海錄碎事十八引小說。○余氏附錄、案語云、「此絕不似六朝人語、檢類說卷五十三楊文公談苑、正與此同、但無爲文須辭相稱以下數句耳」。當刪。

○ 137

晉武庫失火、漢高祖斬蛇劍穿屋而飛。

校記

史通雜記篇。余氏 6、注云、「劉敬叔異苑」。周氏 6。此條見今本異苑二。事又見晉書張華傳。

○ 138

漢帝及侯王送死、皆用珠襦玉匣。

校記

類說四九。海錄碎事二一引商芸小說。余氏 16、注云、「案此出西京雜記一」。唐氏 14。周氏 16。按今本西京雜記無「及侯王」三字、而有下文。

○ 139

諸葛亮、才智精銳、內外敏捷、萬人敵也。

校記

九家注杜詩二一 15「楊鹽又出畫鷹十二扇」詩引殷芸小說。

○ 140

海西時、諸公每朝、朝堂猶暗。惟會稽王來、軒軒如朝霞舉。

校記

類說四九 23。余氏 24。唐氏 148。周氏 24。事見郭子（鈞沈 49）、世說容止篇 35、海錄碎事八上。

○ 141 簡文初不別稻。

校記 北戶錄三。余氏 28、注云、「案世說尤悔篇曰、簡文見田稻不識、問是何草」。周氏 29。

○ 142 孫邕醇粹有素。魏武帝初置侍中、舉者不中選、遂下令曰、『吾侍中欲得渾沌、渾沌氏古之賢人也』。於是臣下方悟、遂舉邕、帝大悅。

校記 演繁露二。

○ 143 武侯與宣王治兵將戰。宣王戎服蒞事、使人密覘。武侯乃乘素輿、葛巾持白羽扇、指麾三軍、隨其進止。宣王歎曰、『可謂名士』。

校記 類說四九 31。余氏 114。唐氏 104。周氏 121。事見語林（鈎沈 12）。又余氏注云、「御覽六百八十七引蜀書亦同」。

○ 144 諸葛武侯於漢中積石作八陣圖。

校記 張澍諸葛故事制作篇引作殷芸小說。但未著出處。

○ 145 豫章太守顧邵、雍之子。雍集僚友圍碁、外啓書信至、而無兒書。雖神意無變、而心知有故。捉碁傷爪、指掌流血。客散、歎曰、『已無延陵之遺累、寧有喪明之深責。』於是割情散哀自若。

校記 類說四九 32。余氏 117。唐氏 110。周氏 124。事見語林（鈎沈 15）、世說雅量篇 1。

○ 146 沈玠守風糧盡（二）、從姚彪貸鹽百斛。彪性峻直、得書不答。呼左右令覆鹽百斛於江中、曰、『明吾不惜、惜所與

耳」。

校記 類說四九 33。余氏 119。唐氏 112。周氏 126。事見笑林（鈎沈 11）、又『何氏語林』一一。

（一）「玠」當作「珩」。參看笑林 11。

○ 147 孫權時、有人獲大龜、欲獻吳王。夜泊越里於大桑中。桑呼龜曰、『勤乎玄緒、奚事爾。』龜曰、『遭拘繫。然盡南山之薪、不能潰我。』桑曰、『諸葛元遜必致相困。求我之煮汝、計將安出。』龜曰、『子無多言、禍將及汝。』既至建業、恪諭權烹之、龜乃立爛。

校記 類說四九 35。余氏 121。唐氏 113。周氏 128。事見今本異苑三、較此爲詳。又今本述異記。

○ 148 孫皓問丞相陸凱曰、『卿一門在朝幾人。』答曰、『二相五侯將軍十餘人。』皓曰、『盛矣。』凱曰、『君賢臣忠、國之盛。父慈子孝、家之盛。今政荒民弊、覆亡是懼、臣何敢言盛也。』

校記 類說四九 36。余氏 124。注云、『案此出世說規箴篇（5）。』唐氏 119。周氏 131。

○ 149 衛瓘云、『吾前在中山郡、無事高枕而已。』

校記 類說四九 28。余氏 126。唐氏 125。周氏 134。

○ 150 洛下有洞穴、深不可測。一婦人欲殺其夫、推墮穴中。此人顛倒良久方甦。旁得一穴、行百餘里、覺所踐如塵、聞秬米香、啖之芬美。復遇如泥者、味似向塵。入一都郭、雖無日月、明踰三光。人皆被羽衣、奏奇樂。凡過此九處、有長人指柏下一羊、跪擲羊鬚得二珠、長人取之。後一珠令啖之。甚得療飢、請問九處。答曰、『問張華可知。』其人

隨穴得出。詣華問之。云、『如塵者黃河下龍涎、泥是崑崙山下泥。九處地仙名九館、羊爲痴龍、初一珠、食之壽等天地。次者延年。後一丸充飢而已。』

校記 類說四九 38。余氏 130。唐氏 132。周氏 138。事見幽明錄（鈎沈 62）。

○ 151 張華與友人飲九醞酒、頗同酣暢。華每醉令左右轉側、則必安泰。至明忽思友人夜來必死。急問之、果腹穿腸流床下。蓋不轉側耳。

校記 類說四九 44。余氏 132。注云、「事見廣記二百三十三、而文字大異。廣記引作世說、今世說無此事、蓋出於幽明錄、以其同爲劉義慶所作、因而致誤耳」。按鈎沈幽明錄不引此條。唐氏 133。周氏 151。參看語林（鈎沈 78）。

○ 152 王武子左右人、嘗於閤中就婢取濟衣服^(一)。婢欲姦之。其人云、『不敢。』婢云、『若不從、我當大叫^(二)。』其人終不從。婢乃呼曰^(三)、『甲欲姦己。』濟令殺之。其人具述前狀。武子不信。其人曰、『枉不可受、當訟府君於天。』武子終年疾困^(四)。此人見形云、『府君當去矣。』遂卒。

校記 類說四九 37。事文類聚後集一六引殷芸小說。余氏 143。唐氏 146。周氏 151。事見廣記一二九引『還冤記』、稗史彙編六九引亦云出『還冤記』、瑯琊代醉編二一。

（一）「閤」類說引作「門」、今從事文類聚。（二）「叫」事文類聚引作「呼」。（三）事文類聚引無「乃」字。（四）「終」事文類聚引「經」。

○ 153 石崇與潘岳同刑東市。崇曰、『天下殺英雄、君復何爲者。』岳曰、『殺士填塹^(一)、餘波來及我。』

校記 類說四九 40。余氏 141。唐氏 138。周氏 149。事見語林（鈎沈 63）。參看世說仇隙篇。

(一)「殺」語林作「俊」。余氏唐氏均作「壯」、未知據何書。

○154 吾彥爲交州時、林邑王范能獻青白猿各一口(二)。

校記 北戶錄一注。余氏144。周氏152。

(一)余氏注云、「晉書林邑王傳作范熊」。

○155 後分華亭村南爲黃耳村、以爲犬冢爲號焉。

校記 紹熙雲間志上引作商芸小說。至元嘉禾志一四引亦同。余氏149。周氏157。雲間志、嘉禾志所載黃耳冢之事均同文、而且前半俱引述異記(鈎沈15)陸機黃耳之故事。按殷芸小說此條、亦當引祖冲之述異記。

○156 孫興公常着戲頭、與逐除人共至桓宣武家、宣武覺其應對不凡、推問乃驗也。

校記 寶顏堂秘笈本荊楚歲時記。明鈔說郛二五荊楚歲時記引、又增訂漢魏叢書本荊楚歲時記引。余氏153、而注云、「案此事不見他書、惟建康實錄八引孫綽傳曰、京師每歲除日行儺令、所謂逐除也。結黨連群、通夜達曉、家至門到、責其送迎。孫興公嘗著戲爲儺、至桓宣武家、宣武覺其應對不凡、推問之、乃興公。今晉書綽傳無此語、疑是臧榮緒書之文、可與此條互證。」(亦御覽五三〇引)。周氏161。事見玉燭寶典一二引異苑拾遺。

○157 紂爲糟丘酒池、一鼓而牛飲者三千人、池可運船。

校記 明鈔說郛六宋寶莘酒譜引作小說。余氏34、注云、「案書鈔百四十八引六韜云、紂爲君、以酒爲池、迴船糟丘、而牛飲者三千人。」史記殷本紀正義亦略同云々。周氏35。此條以下、未知所謂「小說」確系殷芸小說否、

皆當懸疑。

○ 158 周公居東（二）、惡聞此鳥、命庭氏射之。血其一首、猶餘九首。

校記 瑯琊代醉編三九引小說。淵鑑四二八鶴。周氏 47 而注以歐陽脩「鬼車」詩為證。
（一）瑯琊代醉編引「東」下有「周」字、衍。今依淵鑑刪。

○ 159 孔子得九曲珠、欲穿不得。遇二女、教以塗脂於線、使蟻通焉。

校記 丹鉛摘錄四引小說。瑯琊代醉編二三引小說。事見祖庭事苑。

○ 160 後漢董永至孝、織女降而為妻、生董仲。

校記 瑯琊代醉編一引作小說。

○ 161 王右軍在會稽時、桓溫求側理紙。庫中有五十萬、盡付之。

校記 嘉泰會稽志一八引小說。事見語林（鈎沈 159）、嘉泰會稽志一八引百衲琴。

○ 162 天河之東有織女、天帝之子也。年年機杼勞役、織成雲錦天衣、容貌不暇整理。天帝怜其獨處、許嫁河西牽牛郎。嫁後遂廢織紉。天帝怒焉、責令歸河東、但使其一年一度相會。

校記 天中記二引小說。瑯琊代醉編一引作述異記、而不見今本述異記。

○163 俗說。有貧人止能辨販隻甕之資。夜宿甕中、心計曰、此甕賣之若干、其息已倍矣。我得倍息、遂可販二甕、自二甕化而爲四、所得倍息、其利無窮。遂喜而舞、不覺甕破。

校記 事文類聚前集三六。余氏99。周氏107。記纂淵海百卷本八四引小記、文全同。庫本云、「有貧人止販隻瓮、夜宿瓮中。心中計曰、此瓮賣之、其息已倍、遂可販二瓮、自二而四、其利無窮、遂喜而舞、不覺瓮破。」但不見宋本。

○164 有客相從、各言所志。或願爲揚州刺史。或願多貲財。或願騎鶴上昇。其一人曰、「腰纏十萬貫、騎鶴上揚州。」欲兼三者。

校記 天中記五八。淵鑑四二〇鶴。周氏132。事見方輿勝覽四四引太平廣記。輿地紀勝四七引亦同。

○165 梁武帝有良馬、名照殿玉獅子。

校記 天中記五五引作小說。淵鑑四三三引作梁武小說。

水飾

煬帝別敕學士杜寶修水飾圖經十五卷、新成。以三月上巳日、會群臣於曲水、以觀水飾。有^(二)神龜負八卦出河、進於伏犧^(三)。

玄龜銜符出洛^(三)、

黃帝齋於玄扈^(五)、鳳鳥降於洛上。

堯與舜坐舟於河、鳳凰負圖、赤龍載圖出河、並授堯。

龍馬銜甲文出河授舜^(七)。

堯見四子於汾水之陽。

陶於河濱。

舜與百工相和而歌、魚躍於水。

禹治水、應龍以尾畫地、導決水之所出、

禹過江、黃龍負舟。

遇兩神女於泉上。

姜嫄於河濱履巨人之跡^(一〇)。

王坐靈沼、於牝魚躍。

武王度孟津、操黃鉞以麾陽侯之波。

穆天子奏鈞天樂於玄池、

黃龍負圖出河、

鱸魚銜錄圖出翠鳩之水^(四)、並授黃帝。

丹甲靈龜銜書出洛授蒼頡^(六)。

堯與舜遊河、值五老人。

舜漁於雷澤、

黃龍負黃符璽圖出河授舜^(八)。

白面長人而魚身、捧歌圖授禹、舞而入河。

鑿龍門疏河。

玄夷蒼水使者授禹山海經、

帝天乙觀洛^(九)、黃魚雙躍、化為黑玉赤文。

棄后稷於寒冰之上、鳥以翼薦而覆之。

太子發度河、赤文白魚躍入王舟。

成王舉舜禮^(一一)、榮光幕河。

獵於澡津、獲玄貉白狐。

觴西王母於瑤池之上。

塗修國獻昭王青鳳丹鵠^(二)、飲於浴溪。

秦始皇入海、見海神。

武帝泛樓船於汾河、

遊洛、水神上明珠及龍髓。

曹瞞浴譙水、擊水蛟。

杜預造河橋成^(二五)。

五馬浮渡江、一馬化為龍。

金人乘金船。

青龍負書出河、並進於周公。

又釣卞溪獲大鯉魚^(二六)、腹中得兵鈴。

楚王渡江得萍實。

吳大帝臨釣臺望葛玄。

澹臺子羽過江、兩龍夾舟。

周處斬蛟。

卞隨投潁水。

趙簡子值津吏女。

秋胡妻赴水。

莊惠觀魚。

過九江、龍龜為梁。

王子晉吹笙于伊水、鳳凰降。

漢高祖隱芒碭山澤^(二七)、上有紫雲。

遊昆明池、去大魚之鉤^(二八)。

漢桓帝遊河、值青牛自河而出。

魏文帝興師、臨河不濟。

晉武帝臨會、舉酒勸頂、

仙人酌醴泉之水。

蒼文玄龜銜書出洛、

呂望釣磻溪得玉璜。

齊桓公問愚公名。

秦昭王宴於河曲、金人捧水心劍造之。

劉備乘馬渡檀溪。

潘丘訴與水神戰^(二九)。

屈原遇漁父。

許由洗耳。

孔子值河浴女子。

孔愉放龜。

鄭弘樵徑還風。

趙炳張蓋過江。

屈原沉汨羅水。

長鯨吞舟。

暘谷女子浴日。

巨靈開山。

若此等總七十二勢^(二八)、皆刻木爲之。或乘舟、或乘山、或乘平洲、或盤石、或乘宮殿。木人長二尺許、衣以綺羅、裝以金碧。及作雜禽獸魚鳥、皆能運動如生。隨曲水行。又間以妓航、與水飾相次。亦作十二航、航長一丈闊六尺。木人奏音聲、擊磬撞鐘、彈箏鼓瑟、皆得成曲。及爲百戲、跳劍舞輪、昇竿擲繩、皆如生無異。其妓航水飾、亦雕裝奇妙。周旋曲池、同以水機使之。奇幻之異、出於意表^(二九)。又作小舸子長八尺、七艘。木人長二尺許、乘此船以行酒^(三〇)。每一船、一人擎酒盃立於船頭、一人捧酒鉢次立、一人撐船在船後、二人盪漿在中央。遶曲水池、廻曲之處、各坐侍宴賓客。其行酒船、隨岸而行、行疾於水飾。水飾行遶池一匝^(三一)。酒船得三遍、乃得同止。酒船每到坐客之處卽停住、擎酒木人於船頭伸手、遇酒客取酒、飲訖還杯。木人受杯、廻身向酒鉢之人酒杓斟滿杯。船依式自行、每到坐客處、例皆如前法。此並約岸水中安機^(三二)。如斯之妙、皆出自黃衰之思。寶時奉敕撰水飾圖經、及檢校良工圖畫、既成奏進。敕遣寶共黃衰相知^(三三)、於苑內造此水飾、故得委悉見之。衰之巧性、今古罕儔。

校記 並太平廣記二百二十六飲大業拾遺。○*路史發揮六。*類說四。*紺珠集八。天中記九。玉芝堂談薈二六。

玉函。參看劇說二（中華書局本四六頁）。『古小說鈎沈』除正式稿本以外、還存『小說鈎沈藁本』一部草稿、其中有一部周作人所寫「隋杜寶水飾」、此是他據玉函山房輯佚書抄寫。鈎沈依其鈔本一字不改變而收錄、今據廣記引。

類說引大業雜記云、圖經（紺珠集引作「水飾圖經」）、煬帝令杜寶修『水室（紺珠集作「飾」）圖經十五卷、以上巳日會群臣於曲水。有神龜負八卦、黃龍負圖、黃魚雙躍、白魚入舟、呂望釣磻溪、金人捧劍、周處斬蛟、許由洗耳、莊周（紺珠作「莊惠」）觀魚、屈原沉湘（紺珠作「汨羅等」）、凡七十二事、皆（紺珠作「並」）刻木爲之。

（一）○「煬帝」至「有」三十五字、鈎沈不引、玉函亦不引。談刻本「有」下又一「神」字、衍。（二）○「進

於」鈎沈引作「授」字、黃刻本同。談刻本「於」上無「進」字。王校語云、「進字原闕、據明鈔本補。」（三）
○鈎沈「洛」下有「水」字、玉函、黃刻本同。（四）○鈎沈引無「太」字、玉函、黃刻本並同。（五）○「玄」鈎沈、『玉函』均作「元」、下同。（六）○抄宋本無「靈」字。（七）○「甲文」抄宋本作「甲赤文」。（八）
○抄宋本「黃符」作「黃文符」。（九）○「帝」字、談刻本、黃刻本、汪校本皆引有。玉函、鈎沈俱脫之。（一〇）○「嫫」字黃刻本誤作「源」。（一一）○「禮」下鈎沈、玉函並有「樂」字、衍。各本引皆無。（一二）
○「青鳳丹鵠」、鈎沈、玉函均作「丹鳳」。（一三）○抄宋本無「山」字。（一四）○汪校語云、「鈎」字原闕、據黃本補。鈎沈、玉函引並有。（一五）○鈎沈排印本脫「河」字、鈎沈稿本不脫、七三年版全集已補。（一六）○汪校語云、「又原作文、據明鈔本改」。各本皆作「文」、鈎沈、玉函並無「文」、又無「又」。（一七）○「訴」黃刻本誤作「訴」。（一八）○「若此等」三字、據廣記各本補。（一九）○「奇幻之異、出於意表」八字、鈎沈、玉函並脫、今據補。天中記引此爲止、後文止作「皆出自黃袞爲之」。（二〇）○抄宋本無「酒」字。（二一）○「水飾行」三字、玉函原作「水行」二字、鈎沈改「行」爲「飾」。今據廣記各本「飾」下補「行」字。（二二）○「約」字、鈎沈闕、今據廣記各本補。（二三）○「寶」字、鈎沈、玉函並脫、今據補。

列異傳

原輯五十條 新附五條 凡五五條

1 黃帝葬橋山、山崩無尸、惟劍寫存。

校記 御覽六百九十七。○御覽六九七鮑氏刊本云出「列異傳」、但四部叢刊本引為「列仙傳」、又見今本列仙傳、當刪。

2 秦穆公時^(一)、陳倉人掘地得異物^(二)。其形不類豬、亦不似羊、聚莫能名^(三)。牽以獻穆公^(四)、道逢二童子^(五)。童

子曰^(六)、『此名為媼^(七)、常在地下食死人腦^(八)。若欲殺之、以柏插其頭^(九)。』媼復曰^(一〇)、『彼二童子^(一一)、名為陳寶

^(一二)、得雄者王、得雌者霸^(一三)。』陳倉人捨媼逐二童子^(一四)、童子化為雉^(一五)、飛入平林^(一六)。陳倉人告穆公、穆公發

徒大獵^(一七)、果得其雌^(一八)。又化為石、置之汧渭之間。至文公、為立祠、名陳寶。雄飛南集^(一九)、今南陽雉縣其地也^(二〇)。

○。秦欲表其符、故以名縣。每陳倉祠時、有赤光長十餘丈、從雉縣來^(二一)、入陳寶祠中^(二二)、有聲如雄雉^(二三)。

校記 類聚九十。御覽九百十七・*三百七十五・*九百五十四〔作出列異記〕。*書鈔八十九。*史記封禪書索

隱。廣記四百六十一。

史記封禪書索隱引列異傳云、「陳倉人得異物、以獻之。道遇二童子云、『此名為媼、在地下食死人腦。』媼乃言、『彼二童子、名陳寶。得雄者王、得雌者霸。』乃逐童子、化為雉。秦穆公大獵、果獲其雌、為立祠。祭則有光雷電之聲。雄止南陽、有赤光長十餘丈、來入陳倉祠中。」

○事文類聚後集四四。群書類編故事二四又*二〇。天中記一二。*水經注一七・三一朱謀埠箋。淵鑑類函四二一雉、*一六二祭祠總載。繹史二八。列異傳等五種鄭學弢校注、(歷代筆記小說叢書 一九八八・文化藝術出版社) 以下

簡稱鄭氏。富永一登『魯迅輯古小說鈎沈校釋——列異傳』一（廣島大學文學部紀要第五四卷特輯號二・一九九四年十二月）以下簡稱富永氏。事亦見漢書郊祀志、搜神記八——²³³、太康地志（文選八羽獵賦李善注引・史記秦本紀集解正義引。李白詩一「大臘賦」章士寶補註引。）、水經注三一洧水篇、宋書符瑞志上、通典五五諸雜祠、白帖二九一八、今本述異記下、古今圖書集成神異典四九。參看三秦記（事類賦注一八鷄引）。

（一）○御覽三七五・九五四引省之。（二）○御覽三七五作「陳倉有得異物」、九五四作「陳倉人有得異物者」。類聚、御覽九一七脫「異」字。（三）三句御覽引有一「九一七」作「若羊非羊若豬非豬」。○類聚、廣記亦同、而且無「其形」二字。「豬」鈎沈本據御覽鮑氏刊本九五四作「狗」、他本皆作「豬」、今依改。御覽三七五無「衆」字。（四）○御覽三七五無「牽」字。御覽九一七「穆」作「諸」。御覽三七五「穆公」作「秦穆公」。（五）○御覽九五四無「道逢」二字、三七五作「道遇」。（六）○御覽三七五・九五四・廣記俱省「童子」二字。（七）御覽（三七五）作「蠅述」。注云「蠅音襖」。○廣記亦作「蠅述」。廣韻「蠅」、烏皓切、蟲名、如猿常地下食人腦。史記索隱引作「蜎」、水經朱箋引作「蜎」。太康記引作「糝弗述」。（八）○類聚、御覽九一七俱無「下」字、廣記作「地中」。御覽鮑氏刊本九一七「腦」作「腦髓」。（九）已上亦見御覽三百七十五・又九百五十四。○御覽九五四「以」作「使」。又「柏」作「柏葉」。「插」御覽九一七作「捶」、三七五作「燒」。「頭」類聚、御覽九一七、廣記並作「首」、今從御覽三七五、九五四。（一〇）○廣記無「復」字。（一一）○廣記「彼」作「此」。類聚、御覽無「子」字。（一二）○廣記「陳寶」作「雞寶」。（一三）○廣記「霸」作「伯」。（一四）○廣記「媼」作「之」。（一五）○「童子」據類聚及御覽四部鮑氏刊本、而御覽叢刊本作「童」、廣記作「二童」。（一六）○「乎」鈎沈本據御覽鮑氏刊本作「平」、今據類聚、御覽四部叢刊本改。廣記作「於」。（一七）○廣記省「穆公」二字。（一八）○御覽「雌」作「雉」。（一九）○御覽鮑氏刊本「雄」作「雄雌」、疑「雌」當系「雉」之訛。『御覽』四部叢刊本脫此一句四字。（二〇）已上廣記四百六十一亦引。○廣記「雉縣」作「雉飛縣」、又「其」

上有「即」字。(二二)○書鈔「雉縣」作「雉城」。(二三)○類聚「陳寶」作「陳倉」、御覽四部叢刊本無「寶」字、此據鮑氏刊本。(二四)○書鈔「聲」作「音聲」。「雉」鈎沈本作「雞」、今據諸本改、類聚作「雌」。

3 校記 史記封禪書索隱所引。本與第2條同、今刪之、參看2校記。

4 武都故道縣有怒特祠、云神本南山大梓也。昔秦文公二十七年伐之、樹瘡隨合。秦文公乃遣四十人持斧斫之、猶不斷。疲士一人、傷足不能去、臥樹下。聞鬼相與言曰、「勞攻戰乎。」其一曰、「足為勞矣。」又曰、「秦公必持不休。」答曰、「其如我何。」又曰、「赤灰跋於子何如。」乃默無言。臥者以告。令士皆赤衣、隨所斫以灰跋、樹斷、化為牛入水。故秦為立祠。

校記 水經(一七)渭水篇注。○水經注朱箋引太康地志及列異傳。鄭氏。富永氏2。事亦見史記秦本紀集解。正義、列異傳(鈎沈5)、摯虞決疑(御覽二一九引)、錄異傳(鈎沈3)、搜神記一八—415、玄中記(鈎沈45)。(一)○水經注「持」作「特」、而云「一作持」。

5 秦文公時(一)、梓樹化為牛(二)、以騎擊之(三)、騎不勝(四)。或徒墮地(五)、髻解被髮(六)、牛畏之入水(七)。故秦因是置旄頭騎(八)、使先驅。

校記 後漢書光武紀注。書鈔二百三十。御覽三百四十一(各本誤作出「列仙傳」)。類聚九十四。○明鈔說郭一○事始引。柳先生集四一(四部叢刊本)祭毒縣文。天中記五一。淵鑑類函三六七髦頭。四三五作出「列異經」。鄭氏。富永氏3。事亦見玄中記(書鈔一三〇引、鈎沈45)。按此是前條之異文也。

(一)○類聚作「秦文公伐梓樹」。(二)○御覽句頭有「有」字。書鈔無「樹」字。(三)○類聚「以」作「文」

公遣」。(四)○柳集注引無「騎」。(五)○御覽無「地」字。(六)○類聚三句作「騎墮地被髮」。柳集注引「髻」作「髮」。(七)○御覽「水」作「河」。(八)○類聚引作「牛畏之(入水不出)沒豐水中秦乃立怒特祠」。御覽「是置」作「致」。柳集注引「置」作「致」。

6 干將莫邪為楚王作劍^(一)、三年而成。劍有雄雌、天下名器也。乃以雌劍獻君、藏其雄者^(二)。謂其妻曰、『吾藏劍在南山之陰、北山之陽、松生石上、劍在其中矣。君若覺殺我。爾生男、以告之。』及至君覺、殺干將。妻後生男、名赤鼻、具以告之^(三)。赤鼻斫南山之松、不得劍、忽於屋柱中得之^(四)。楚王夢一人、眉廣三寸^(五)、辭欲報讐。購求甚急、乃逃朱興山中。遇客、欲為之報、乃刎首、將以奉楚王。客令鑊煮之、頭三日三夜跳不爛。王往觀之、客以雄劍倚擬王、王頭墮鑊中、客又自刎。三頭悉爛、不可分別、分葬之、名曰三王冢。

校記 御覽三百四十三。○御覽引作出列士傳、而注云「列異傳作莫邪為楚王作劍、藏其雄者。搜神記亦曰、為楚王作劍、餘悉同也」。又*三六五引列仙傳(「仙」疑譌)。鄭氏。富永氏4。事見搜神記一一——206、較此為更詳。又見吳越春秋(御覽三六四引)、孝子傳(御覽三四三引)、太平寰宇記一〇五。

(一)○列士傳「楚王」作「晉君」。(二)○列士傳「藏」作「留」。(三)○「具以」二字、鈎沈本脫之、今據補。(四)○御覽四部叢刊本「忽」誤作「思」。(五)御覽三六五引列仙傳云、「莫耶子赤鼻、眉間一尺」。

7 魏公子無忌曾在室中讀書之際、有一鳩飛入案下、鵠逐而殺之。忌忿其搏擊^(一)、因令國內捕鵠、遂得二百餘頭。忌按劍至籠曰、『昨搦鳩者^(二)、當低頭服罪、不是者可奮翼。』有一鵠俯伏不動。

校記 廣記四百六十。○鄭氏。富永氏5。事見類聚九一又六九及御覽九二六引列士傳、未知此文果是屬於列異傳否、今暫存之。參看論衡書虛篇(御覽九二六引)、瑠玉集十二引同賢記。類聚九一引列士傳云、「魏公子無忌方食、

有鳩飛入案下。公子使人顧望、見一鵠在屋上飛去。公子乃縱鳩（令出）、鵠逐而殺之。公子暮為不食。曰、鳩避患歸無忌、競（竟）為鵠所得、吾負之。為吾捕得此鵠者、無忌無所愛（疑當有脫字）。於是左右宣公子慈聲旁國。左右捕得二（三）百餘頭、以奉公子。公子欲盡殺之、恐有（無辜）、乃自按斂至其籠上、曰、誰獲罪無忌者耶。一鵠獨低頭、不敢仰視、乃取殺之、盡放其餘。名聲流布、天下歸焉。」括弧內御覽引。

（一）○「搏擊」、汪校本作「驚戾」、而校語云、「驚戾」原作「繫搏」、據明鈔本改。（二）○「搦」、汪校本作「殺」、而校語云、殺原作搦、據明鈔本改。

8 魯少千者、得仙人符。楚王少女英為魅所病（二）、請少千。少千未至數十里止宿、夜有乘輦車從數千騎來、自稱伯敬、候少千。遂請內酒數榼、肴饌數案。臨別言、「楚王女病、是吾所為。君若相為一還、我謝君二十萬。」千受錢、即為還、從他道詣楚、為治之。於女舍前、有排戶者、但聞云、「少千欺汝翁。」遂有風聲西北去、視處有血滿盆。女遂絕氣、夜半乃蘇。王使人尋風、於城西北得一死蛇、長數丈、小蛇千百、伏死其旁。後詔下郡縣、以其日月、大司農失錢二十萬、太官失案數具。少千載錢上書、具陳說、天子異之。

校記 廣記四百五十六。○鄭氏。富永氏 6。

（一）○鈎沈本脫「英」字、今依補。

9 任城公孫達、甘露中為陳郡（二）、卒官、將斂、兒及郡吏數十人臨喪。達有五歲兒（三）、歎作靈語、音聲如父、呵眾人云、「哭止（四）、吾欲有所道。」因呼諸兒（四）、以次教戒。兒悲哀不能自勝（五）、乃慰之曰（六）、「四時之運、猶有所終。人物短脆、當無窮（七）。」如此數千語（八）、皆成文章（九）。兒乃問曰（二〇）、「人死皆無知（二一）、惟大人聰明殊特（二二）、獨有神靈耶（二四）。」答曰、「存亡之事、未易可言（二五）、鬼神之事、非人知也（二六）。」索紙作書（二七）、辭義滿紙。投地云（二八）、

『封書與魏君宰、暮有信來、即以付之。』其暮君宰果有信來。

校記 御覽八百八十四。廣記三百十六。○鄭氏。富永氏 7。

(一)○廣記無「為」字。(二)○廣記無「有」字。御覽「達」作「公達」。(三)「忽作靈語音聲如父呵眾人哭」已上十二字御覽引闕。○御覽鮑氏刊本作「以十二字空格」、鈎沈補以廣記引、今依御覽四部叢刊本改。但四部叢刊本脫「語」、以廣記補之。(四)○御覽無「因」字。廣記「諸兒」作「諸子」。(五)○廣記「兒」作「兒等」。(六)○此句廣記作「及慰勉之曰」。(七)○以上七字、廣記作「人脩短殊、誰不致此」。(八)○廣記作「語千餘言」。(九)○廣記「成」作「合」。(一〇)○廣記「乃」作「又」。(一一)○廣記作「人亡皆無所知」六字。(一二)○「惟」字依廣記補。鮑氏刊本「大」誤作「人」。(一四)○鈎沈本脫「靈」、今依補。(一五)○廣記引無此八字。(一六)○廣記「人知」作「爾所知」。(一七)○「書」鮑氏刊本作「言」、鈎沈依作「言」、今依四部叢刊本改。廣記作「因素紙筆」。(一八)○廣記「投地」下有「遂絕」二字、而引至此為止。

10 漢中有鬼神樂侯、常在承塵上喜食鮮菜^(一)、能知吉凶。甘露中、大蝗起。所經處禾稼輒盡。太守遣使告樂侯、祀以鮮菜。侯謂吏曰、『蝗蟲小事、輒當除之。』言訖、翕然飛出。吏髣髴其狀類鳩、聲如水鳥。吏還、具白太守。果有衆鳥億萬^(二)、來食蝗蟲、須臾皆盡。

校記 廣記二百九十二。*書鈔一百四十六。○古今圖書集成神異典四一。鄭氏。富永氏 8。(一)書鈔一百四十六引云、「漢川神常在承塵上、喜食鯪菜。」(二)○「果」上鈎沈脫「即」字、今依補。

11 西河鮮于冀^(一)、建武中為清河太守、言出錢六百萬作屋^(二)、未成而死。趙高代之、計功用錢、凡二百萬耳。五官

黃秉功曹劉商言、是冀所自取^(三)、便表沒冀田宅奴婢、妻子送日南。俄而白日冀鬼人府^(四)、與商秉等共計校^(五)、定餘錢二百萬、皆商高等匿。冀乃表自列^(六)、付商上、詔還冀田宅。

校記 御覽八百三十六。○鄭氏。富永氏 9。事見水經注九淇水篇、廣記三二六引水經。

(一)○御覽四部叢刊本「鮮子」誤作「鮮子」。(二)○四部叢刊本無「作」字。(三)○「劉商」鮑氏刊本作「劉商」、今依改、以下同。(四)○四部叢刊本「鬼」下有「見」字。(五)○「計校」鮑氏刊本作「計較」、今依改。(六)○四部叢刊本「列」作「烈」。

12 壽光侯者、漢章帝時人、効百鬼衆魅。有婦為魅所疲^(一)、侯効得大蛇。又有大樹、人止之者死、鳥過亦死^(二)。侯効樹、夏枯^(三)、有蛇長七八丈^(四)、縣而死。

校記 御覽九百三十四。○淵鑑類函四三九蛇。鄭氏。富永氏 10。事亦見搜神記二—32、後漢書方術傳下。

(一)○鮑氏刊本及鈎沈「疲」作「疾」、今依四部叢刊本改。(二)○鈎沈脫此句、今依補。(三)○鮑氏刊本及鈎沈「夏」作「樹」。(四)○鮑氏刊本及鈎沈「有」上有「下」字。

13 蒼梧廣信女子蘇娥^(一)、行宿高要鵠奔亭^(二)、為亭長龔壽所殺、及婢致富、取其財物^(三)、埋置樓下^(四)。交趾刺史何敞行部宿亭^(五)、覺壽姦罪、奏之、殺壽。

校記 文選江淹詣建平王上書注。御覽一百九十四。具見珠林七十四(四部叢刊本九二)引冤魂志、「高安」作「高要」、「周敞」作「何敞」、當據正。○文選三九注及御覽引作出「謝承後漢書」、文末注云「列異傳云鵠奔亭」。事亦見書鈔七九引漢書、文末云、「異傳鵠奔亭也」。按書鈔脫「列」字。天中記一四。鄭氏。富永氏 11。搜神記一六—384亦載此事更詳、水經注三七、太平寰宇記一五九亦引。參看水經注一八引鰲亭之事、又珠林七四引釐亭之事。

(一)○御覽「蒼」作「倉」。(二)○文選注「高要」作「高安」、御覽無此二字。文選注作「高安鵠奔亭」、御覽作「鵠巢亭」、今據水經注三七、太平寰宇記一五九正、但冤魂志「鵠奔亭」作「鵠奔亭」。太平寰宇記引干寶搜神記云、「初掘時有雙鵠奔其亭故曰鵠奔亭」、而今本搜神記無此文。(三)○御覽無「其」字。(四)○「置」文選注引作「致」。(五)○冤魂志「周敞」作「何敞」、當據正。○水經注三七、太平寰宇記一五九引搜神記亦作「何敞」。

14 故司隸校尉上黨鮑子都^(一)、少時舉上計掾^(二)、於道中遇一書生^(三)、獨行無伴^(四)、卒得心痛、子都下車為按摩、奄忽而亡^(五)。不知姓字^(六)、有素書一卷^(七)、銀十餅^(八)。即賣一餅以資殯殮^(九)、其餘銀以枕之^(一〇)、素書著腹上。哭之謂曰^(一一)、「若子靈魂有知^(一二)、當令子家知子在此。今奉使命^(一三)、不獲久留。」遂辭而去^(一四)。至京師^(一五)、有驄馬隨之^(一六)。人莫能得近^(一七)、唯子都得近。子都歸、行失道^(一八)。遇一關內侯家、日暮住宿^(一九)、見主人、呼奴通刺。奴出見馬、入白侯曰、「外客盜騎、昔所失駿馬。」侯曰、「鮑子都上黨高士、必應有語^(二〇)。」侯問曰^(二一)、「君何以致此馬^(二二)。若此乃吾馬^(二三)、昔年無故失之^(二四)。」子都曰、「昔年上計、遇一書生、卒死道中。」具述其事^(二五)。侯乃驚愕曰、「此吾兒也。」侯迎喪開棺^(二六)、視銀書如所言^(二七)。侯乃舉家詣闕上薦^(二八)、子都聲名遂顯^(二九)。至子永孫昱^(三〇)、並為司隸^(三一)。及其為公^(三二)、皆乘驄馬^(三三)。故京師歌曰^(三四)、「鮑氏驄、三人司隸、再人公。馬雖疲^(三五)、行步工^(三六)。」

校記 類聚八十三。御覽二百五十。又八百十二。又八百九十七。書鈔六十一引「子永」已下、「工」作「通」。事類賦注^(二一)。○*通典三二。天中記五五。又*五〇。淵鑑類函一〇七司隸校尉。*三六一。又*一〇七。*四三三馬。類聚、御覽八九七、通典皆引作出「列異記」。鈞沈又作「出御覽八百九十一」、但此條不見于八九一、今刪。鄭氏。富永氏12。事又見獨異志二。李劍國『唐前志怪小說輯釋』又說及後漢書八一獨行傳王恽之事(一六三頁)。

(一)〔鈎沈本作「鮑宣字子都」而注云、「宣字」二字事類賦注引有。○中華書局本事類賦注引無此二字、又他書引均無、今依刪。御覽八九七引「故」作「胡」、誤。(二)○「舉」御覽八九七・事類賦注引有。「掾」御覽八九七、事類賦注省之。(三)○御覽八九七、事類賦注引無「中」。(四)○御覽八九七引無此句四字。御覽二五○「行」下有「時」。(五)○「亡」字、鈎沈本據御覽鮑氏刊本八一二・事類賦注作「卒」、今據御覽四部叢刊本及類聚引改。類聚、御覽八一二均無「而」、御覽八九七脫「而亡」二字。(六)○「名」、鈎沈本作「字」、今據類聚、御覽四部叢刊本二五○、八一二引改。(七)○御覽八一二引無「素」。(八)御覽一〔鮑氏刊本二五○〕引作「銀餅二」。○四部叢刊本皆作「銀十餅(餅)」。(九)○「資」今依御覽八九七、事類賦注引補。御覽二五○引無「殮」字。(一〇)○類聚引無「其」字、而「枕」作「坑」。『御覽』八一二引無「餘」。御覽八九七、事類賦注引均無「銀」。御覽二五○「以枕之」作「及」。(一一)○御覽八九七、事類賦注引「哭」作「埋」、御覽二五○引作「呪」。御覽二五○引無「謂」。(一二)○御覽八九七引「若子」作「子若」。(一三)○御覽二五○引無「奉」。(一四)○類聚、御覽八一二引至此為止。御覽八九七引無以上三句十二字、而事類賦注引無「謂曰」以下至此二十八字。(一五)○御覽八九七、事類賦注引句頭有「未」字。(一六)○「驄」鈎沈本據鮑氏刊本作「駿」、今據四部叢刊本及事類賦注引改。下同。(一七)○御覽八九七引無此句五字。(一八)○事類賦注引無以上四句十六字。(一九)○御覽八九七、事類賦注引無「日暮」二字。(二〇)○御覽八九七・事類賦注引無自「見主人」以至此凡三十七字。(二一)○御覽二五○引無「問」。(二二)○此句六字據事類賦注引。(二三)類聚引作「若此乃吾馬」。○御覽二五○引若此、鈎沈誤作「類聚」。今依入本文中。(二四)○據御覽二五○引。(二五)○自「曰」至此十七字、御覽八九七・事類賦注略引而作「因說之」三字。(二六)○「棺」今據御覽八九七・事類賦注引改、鈎沈據御覽二五○引作「槨」。(二七)○御覽引無「所」。(二八)○「家」御覽八九七引作「送」。(二九)御覽一〔八九七〕引無此四字、作「辟公府、侍御史、豫州牧、司隸校尉」。○以上十四字事類賦注亦引作

「侯乃薦辟公府、至司隸」。(三〇)○書鈔引句頭有「鮑宣」二字、通典引亦句頭有「自宣」二字。(三一)○書鈔・御覽八九七、通典引「並」作「俱」、而通典「司隸」下有「校尉」。(三二)○書鈔引無此句四字。事類賦注引無以上二句七字。御覽八九七引此句作「其在公」三字。通典引無「及」。(三三)○書鈔引無「皆」字。御覽八九七、通典引「皆」下有「復」字。(三四)○書鈔引無「故」、而「歌」下有「之」、通典引亦同。御覽八九七・事類賦注引亦有「之」。(三五)○「疲」御覽八九七、事類賦注引作「瘦」。(三六)書鈔六十一引「子永」已下。「工」作「通」。○通典引亦同、但不作「通」。御覽二五〇引「工」上有「轉」字。

15 汝南有妖、常作太守服、詣府門椎鼓、郡患之。及費長房來^(一)、知是魅、乃呵之。即解衣冠叩頭、乞自改。變為老鼈、大如車輪。長房令復就太守服作一札^(二)、敕葛陂君。叩頭流涕持札去。視之、以札立陂邊、以頸繞之而死。

校記 廣記四百六十八。○天中記五七。鄭氏。富永氏¹³。事見後漢書方伎傳、又見神仙傳(廣記一二引壺公、今本卷五)。

(一)○鈞沈本脫「來」、今依補。(二)○鈞沈本脫「令」、而七三年版全集已補。

16 費長房能使神^(一)。後東海君見葛陂君、淫其夫人。於是長房敕繫三年、而東海大旱。長房至東海、見其請雨、乃敕葛陂君出之、即大雨^(二)。

校記 御覽八百八十二。廣記二百九十三。○鄭氏。富永氏¹⁴。事又見神仙傳(廣記一二引壺公、今本卷五)。

(一)○廣記「神」作「鬼神」。(二)○廣記引句末有「也」字。

17 費長房又能縮地脈。坐客在家、至市買鮓。一日之間、人見之千里之外者數處^(一)。

校記 類聚七十二。御覽八百六十二。○天中記四六。淵鑑類函三八九鮓。鄭氏。富永氏 15。事又見後漢書方術傳。

(一)○「處」鈎沈據鮑氏刊本作「次」、今據類聚、御覽四部叢刊本改。

18 漢桓帝馮夫人病亡。靈帝時、有賊盜發冢、七十餘年、顏色如故。但小冷、共姦通之^(二)、至鬪爭相殺。竇太后家被誅、欲以馮夫人配食。下邳陳公達議、以『貴人雖是先所幸、尸體穢汙、不宜配至尊、』乃以竇太后配食。

校記 類聚三十五。○淵鑑類函三三四淫。鄭氏。富永氏 16。事又見後漢書五六陳球傳、搜神記一五—373、文大同。幽明錄(瑠玉集一四引、鈎沈44)、敦煌文書P.二六三五、類林雜說九。

(一)○「之」、今依補。

19 蔣子文漢末為秣陵尉、自謂骨青、死當為神。

校記 御覽三百七十五。○天中記二三。鄭氏。富永氏 17。事見『搜神記』五—92、文甚詳(又廣記二九三等引)。

20 胡母班為太山府君齋書詣河伯^(一)、貽其青絲履、甚精巧也。

校記 御覽六百九十七。○書鈔一三六引作出「列仙傳」、文大同。鄭氏。富永氏 18。事見搜神記四—74、文甚詳。
(一)○「詣」鈎沈本據鮑氏刊本作「請」、今據四部叢刊本改。

21 袁本初時、有神出河東、號度索君、人共立廟^(二)。兗州蘇氏母病往禱^(三)、見一人、著白布單衣高冠、冠似魚頭^(四)、調度索君曰^(五)、『昔臨廬山下^(六)、共食白李、未久已三千年。日月易得、使人悵然^(七)。』去後、度索君曰、『此南海君

也^(七)。』

校記 齊民要術十。初學記二十八。*類聚八十六。御覽八百八十二、又九百六十八。類林雜說十五。○天中記五

二。淵鑑類函三九九李。鄭氏。富永氏19。事亦見搜神記一七一407（廣記二九三亦引）。

類聚云、度索君謂南海君曰、『昔廬山共食白李、未久已三千載。』

（一）○御覽九六八「人」作「民」。 （二）○御覽八八二「氏」誤作「士」、又「往」誤作「莊」。要術引無「往」

字。 （三）○初學記·御覽九八六引皆無「冠」字。 （四）○御覽八八二引「調」作「語」。 （五）○類聚·

初學記·御覽引此句作「昔廬山」三字。 （六）○初學記引「悵」作「恨」。 （七）○御覽九六八引無「此」字。

22 華歆為諸生時^(一)、嘗宿人門外^(二)。主人婦夜產^(三)、有頃兩吏詣門^(四)、便辟易卻^(五)、相謂曰、『公在此。』躊躇良

久^(六)、一吏曰『籍當定、奈何得住^(七)。』乃前歆拜^(八)、相將入。出並行^(九)、共語曰、『當與幾歲。』一人曰、『當三歲

^(一〇)。』天明歆去^(一一)。後欲驗其事、至三歲、故往問兒消息、果已死^(一二)。歆乃自知當為公^(一三)、後果為太尉^(一四)。

校記 魏志華歆傳注。御覽三百六十一、又四百六十七。○御覽四六七注云出「列異記」、三六一注云「續搜神記

同」、見今本三一37。鄭氏。富永氏20。參看幽明錄（鈎沈41）。

（一）「歆」御覽引作「子魚」。○下同。御覽引無「時」字。 （二）○御覽四六七引「嘗」作「寄」、又兩引「人」

誤作「入」。困學紀聞一七云、「列異傳、華子魚宿人門外。」 （三）○御覽四部叢刊本三六一引「主」誤作「生」。

「產」御覽引作「生」、而四部叢刊本三六一引誤作「主」。 （四）○御覽四六七引無「有」字。御覽三六一引無「頃」

字。御覽四六七鮑氏刊本引「兩」作「而」、誤。御覽三六一引「兩吏詣門」作「兩吏來詣其門」。 （五）○御覽三

六一引「便」下有「相向」二字、而「卻」作「欲退」。 （六）○御覽三六一引句頭有「因」字。「躊躇」御覽三六

一引作「踟躕」、四六七引作「躊躇」。 （七）○御覽四六七引省「得」字。 （八）○御覽引作「乃前向子魚拜」。

(九)○御覽四六七引「出」上有「入」字。同三六一引無「並行」二字。(一〇)○御覽三六一引「當」下有「與」字。(一一)○御覽三六一引無此句四字。(一二)○御覽三六一引以上四句十七字作「子魚後故往視之、兒果年三歲已死」十四字。而四六七引無「年三歲」。(一三)御覽四六七引作「子魚喜曰我固當公」。○同三六一引作「乃自喜曰我固當公」。(一四)御覽引有末句。

23 蔣濟為領軍^(一)、其妻夢見亡兒涕泣曰^(二)、『死生異路。我生時為卿相子孫、今在地下為泰山伍伯。憔悴困辱、不可復言。今太廟西謳士孫阿^(三)、今見召為泰山令^(四)、願母為白侯屬阿^(五)、令轉我得樂處^(六)。』言訖、母忽然驚寤^(七)。明日以白濟^(八)。濟曰、『夢為爾耳、不足怪也^(九)。』明日暮復夢^(一〇)。曰、『我來迎新君^(一一)、止在廟下、未發之頃^(一二)、暫得來歸^(一三)。新君明日日中當發、臨發多事、不復得歸^(一四)。永辭於此^(一五)。侯氣疆難感悟、故自訴於母。願重啟侯^(一六)、何惜不一試驗也^(一七)。』遂道阿之形狀^(一八)、言甚備悉。天明、母重啟侯曰^(一九)、『昨又夢如此^(二〇)、雖云夢不足怪^(二一)、此何太適適、亦何惜不一驗之^(二二)。』濟乃遣人詣太廟下、推問孫阿、果得之。形狀證驗、悉如兒言^(二三)。濟涕泣曰^(二四)、『幾負吾兒。』於是乃見孫阿、具語其事。阿不懼當死、而喜得為泰山令^(二五)、惟恐濟言不信也^(二六)。曰^(二七)、『若如節下言^(二八)、阿之願也^(二九)。不知賢子欲得何職。』濟曰、『隨地下樂者與之。』阿曰、『輒當奉教。』乃厚賞之^(三〇)。言訖、遣還、濟欲速知其驗、從領軍門至廟下^(三一)、十步安一人、以傳阿消息^(三二)。辰時傳阿心痛、已時傳阿劇^(三三)、日中傳阿亡。濟泣曰、『雖哀吾兒之不幸、且喜亡者有知^(三四)。』後月餘。兒復來、語母曰^(三五)、『已得轉為錄事矣。』

校記 魏志蔣濟傳注。廣記二百七十六。

類林雜說六云、「蔣濟字子通、楚郡平阿人也。魏文帝時為太尉。濟有子亡、經十年、其妻夜夢亡兒告之曰、在地下屬太山、辛苦不可言。今領軍府南有孫阿者、太山府君欲為錄事。願母屬孫阿、使某得樂處。其母驚覺、涕泣告濟。濟為人剛強、初不信。至明夜又夢。兒還如前言、復告濟。濟召阿至、乃述夢中囑阿。阿曰、諾、如之言、地下與君

方便。經旬日阿病卒。後數日、其妻還夢見亡兒來曰、某地下乃得孫阿太山錄事力也。魏時人。事出列異傳。」文多省略譌奪、而與他書所引頗不同。○參看『類林研究』30、15。所引與雜說略同。

○少室山房筆叢三六「西綴遺」中亦略引。鄭氏。富永氏21。事見搜神記一六—380。參看白帖二七—五。

(一)○廣記引「蔣濟」上有「魏」字、而句末有「也」字。(二)○廣記引無「見」字、而「曰」上有「言」字。

(三)○廣記引「西」下有「有」字、而無「謳士」二字、又「孫阿」下有「者」字。(四)○廣記引「今見」作

「將」。(五)○廣記引「侯」作「領軍」。(六)○廣記引「令」字在「得」上。(七)○廣記引「忽然」作

「遂」。(八)○廣記引無「明日」二字。(九)○此句八字廣記引作「夢不足憑耳」五字。(一〇)○「暮」

字、廣記引作「母」。而「夢」下有「之、言」二字。(一一)○廣記引「我」下有「今」字。(一二)○廣記

引「頃」作「間」。(一三)○廣記引「來歸」作「歸來」。(一四)○廣記引「復得」作「得復」。(一五)

○廣記引無「永辭」二字。(一六)○廣記引無自「侯」至「願」十二字。而下「侯」作「之」。(一七)○廣記

引無「不」字。(一八)○廣記引「道」作「說」、而無「之」字。(一九)○廣記引「重啟侯」作「又為言之」。

(二〇)○六字依廣記引補。(二一)○廣記引「云」作「知」、又「怪」作「憑」。(二二)○廣記引無「此何

太適適、亦」六字、又無「不」字、而句末有「乎」字。(二三)○「證驗悉如兒言」六字、廣記引作「如其夢」

三字。(二四)○廣記引「濟」下有「乃」字。(二五)○廣記引無「得」字。(二六)○廣記引「言」下

有「之」字。(二七)○廣記引作「乃謂濟曰」。(二八)○廣記引作「若誠如所言」。(二九)○廣記引「阿」

作「某」。(三〇)○廣記引自「日輒當奉教」至「賞之」九字作「許諾」二字。(三一)○廣記引「門」下有

「下」字。(三二)○廣記引「阿」下有「之」字。(三三)○廣記引無此句五字。(三四)○廣記引「且」

作「見」、而「者」下有「之」字。(三五)○二句六字、廣記引作「母復夢兒來告曰」七字。

24 吳選曹令史長沙劉卓病荒^(一)、夢見一人^(二)、以白越單衫與之、言曰^(三)、『汝著衫汗^(四)、火燒便潔也^(五)。』卓覺^(六)、果有衫在側。汗輒火浣之^(七)。

校記 初學記二十六。御覽三百九十九。○天中記二三、又四七。鄭氏。富永氏 22。事見搜神記一〇——256、文略同。

(一)「長沙」二字御覽引有。○「病荒」初學記一作「病篤」、御覽引作「得病」。(二)

○御覽四部叢刊本引無「見」、鮑氏刊本無「見一」。(三)○御覽引「言」作「語」。(四)○御覽引「衫」上有「此」字。(五)○御覽引「火燒」上有「即」字。(六)○御覽引無「卓」字。(七)○御覽引作「後汗輒火燒之」。

25 吳時長沙鄧卓為神^(一)、遣馬印之^(二)。見物在下、粉粉如雪。卓問持馬者。曰、『此海上白鶴飛也。』一人便取鶴子數枚與卓。

校記 敦煌石室所出唐人寫本類書殘卷。○即敦煌文書 P. 二五二六修文殿御覽殘卷。鄭氏。富永氏 23。

(一)○「鄧」敦煌文書作「劉」、系「劉」之或體、即前條之劉卓也。當據改。(二)「印」疑當作「迎」。

26 大司馬河內湯蕤字聖卿^(一)、少時病瘧、逃神社中^(二)。有人呼『社郎、社郎』^(三)、聖卿應聲曰^(四)、『諾。』起至戶口^(五)、人曰『取此書去。』得素書一卷、乃譴劾百鬼法也^(六)。所効輒效^(七)。

校記 御覽五百三十二、又七百四十三。*書鈔八十七。○淵鑑類函一六七社稷。鄭氏。富永氏 24。事亦見幽明錄(鈎沈 192)更詳。

(一)「湯」御覽一(五三二)引作「陵」、一(七四三)作「陽」。○御覽七四三引無「大司馬河內」五字。(二)

○御覽五三二引無「神」字。御覽七四三引以上三句八字作「逃瘧神祠」。(三)○御覽七四三引「呼」下有「言」、「社郎」作「杜卸」。又五三二引作「社郎社」。鄭氏注云、「郎」字疑是「郎」字之誤。」(四)○御覽七四三引無「聲」字。(五)○御覽五三二引「口」作「中」。(六)書鈔八十七(引至此為止)。○「乃」字御覽五三二引無、七四三引作「皆」。又七四三引「鬼」作「神」、而俱無「也」字。(七)御覽七百四十三作「乃差」。○書鈔引無此句四字。

27 魏郡張奮者^(一)、家巨富。後暴衰^(二)、遂賣宅與黎陽程家^(三)。程人居^(四)、死病相繼。轉賣與鄴人何文^(五)。文日暮乃持刀上北堂中梁上坐^(六)。至三更、忽見一人^(七)、長丈餘、高冠黃衣、升堂呼問^(八)、「細腰^(九)、舍中何以有生人氣也^(一〇)。」「答曰『無之^(一一)』。須臾有一高冠青衣者次之^(一二)、又有高冠白衣者^(一三)、問答並如前^(一四)。及將曙^(一五)、文乃下堂中^(一六)、如向法呼之問曰^(一七)、「黃衣者誰也^(一八)。」「曰、『金也。在堂西壁下。』」「青衣者誰也。」「曰、『錢也。在堂前井邊五步^(一九)。』」「白衣者誰也。」「曰、『銀也。在牆東北角柱下^(二〇)。』」「汝誰也。」「曰、『我杵也^(二一)。在竈下。』及曉^(二二)、文按次掘之、得金銀各五百斤、錢千餘萬。仍取杵焚之^(二三)、宅遂清安。

校記 廣記四百。御覽七百六十二。○鄭氏。富永氏 24。事見搜神記一八—414。

(一)「魏郡」二字御覽引有。○御覽引「奮」作「舊」、又無「者」字。(二)○御覽引「後」誤作「復」。(三)御覽引無「遂」字。又「程家」作「程應」。(四)○御覽四部叢刊本引「程」作「應」、鮑氏刊本省之。(五)御覽引作「賣」荆民「何文」。(六)○御覽引無「文」。又無「乃」字、又無「梁上坐」三字。(七)○御覽引「忽見」作「有」。(八)○御覽四部叢刊本「升堂」作「來堂前」、鮑氏刊本作「來堂」。(九)○御覽鮑氏刊本「細腰」下有「曰」字。(一〇)○御覽引無「生」「也」字。(一一)○御覽引無此四字。(一二)○御覽引「有一」作「復一有一人」五字。而無「者」「之」字。(一三)○御覽引無「有」「者」。(一四)○御

覽引無「答」字。(一五)○御覽引無「及」字。(一六)○御覽引無「乃」中「字」。(一七)○御覽引「之」作「細腰」。(一八)○御覽引無「也」字，以下青衣、白衣同。(一九)○御覽引「邊」作「西」。(二〇)○御覽引「牆」作「堂」，又無「角」字，而四部叢刊本「柱」誤作「任」。(二一)○御四部覽叢刊本脫「杵」字。(二二)○御覽引「及曉」作「至明」。(二三)○御覽引無「仍」字。

28 南陽宗定伯^(一)，年少時，夜行逢鬼^(二)。問曰：『誰』。鬼曰：『鬼也』^(三)。鬼曰：『卿復誰』^(四)。『定伯欺之言』^(五)，『我亦鬼也』^(六)。鬼問：『欲至何所』答曰^(七)：『欲至宛市』。鬼言：『我亦欲至宛市』^(八)。『共行數里』^(九)。鬼言：『步行大極』^(一〇)，可共迭相擔也^(一一)。『定伯曰：『大善』^(一二)。鬼便先擔定伯數里。鬼言：『卿太重。將非鬼也』^(一三)。『定伯言：『我新死』^(一四)，故重耳』^(一五)。『定伯因復擔鬼』^(一六)，鬼略無重。如是再三^(一七)。『定伯復言』^(一八)：『我新死』^(一九)，不知鬼悉何所畏忌』^(二〇)。鬼答曰^(二一)：『唯不喜人唾』。於是共道遇水^(二二)，定伯因命鬼先渡^(二三)，聽之了無聲。定伯自渡，漕漕作聲』^(二四)。鬼復言：『何以作聲』^(二五)。『定伯曰：『新死不習渡水耳』^(二六)。勿怪』^(二七)。『行欲至宛市』^(二八)，定伯便擔鬼至頭上^(二九)，急持之^(三〇)，鬼大呼，聲咋咋^(三一)，索下，不復聽之。徑至宛市中，著地化為一羊^(三二)。便賣之，恐其便化^(三三)，乃唾之^(三四)，得錢千五百，乃去。於時言^(三五)：『定伯賣鬼』^(三六)，得錢千五百』^(三七)。

校記 御覽八百八十四·又*三百八十七。珠林六(百二十卷本一〇)。廣記三百二十一。○鄭氏。富永氏 26。事見搜神記一六—393。

(一)「宗」珠林引作「宋」。○廣記引亦同。(二)以上十二字御覽三八七引有。(三)〇二句七字、廣記引作「問之、鬼言我是鬼。」珠林引作「問曰言鬼」、疑當有脫誤。(四)○廣記引作「鬼問汝復卿」、有譌。珠林引作「尋復問之、卿復誰」。(五)〇「欺」珠林·廣記俱作「誑」。(六)○珠林·廣記俱無「也」字。(七)二句「八字」依珠林引補。○廣記引亦有。(八)○珠林引無「市」字。(九)○「共」珠林·廣記俱引作「遂」。

(一〇)○「極」珠林・廣記引俱作「遲」、今依御覽四部叢刊本。(一一)○廣記引「也」作「何如」。(一二)○御覽・廣記引並作「定伯乃大喜」。○廣記引與珠林同。(一三)四字珠林引有。○廣記引作「不是鬼也」。(一四)○廣記引「死」作「鬼」。(一五)○「故」下珠林、廣記俱有「身」字。(一六)○珠林引省「定」字。(一七)○「是」鈎沈作「其」、各本及鈎沈稿本並作「是」、今依改。(一八)○御覽三八七自此以下略引云、「問鬼所忌、鬼答曰、唯不喜人唾。伯便擔鬼着頭上、急持行之。徑至市中、下着地、化為一羊。賣之。恐其變化、唾之。賣得錢千五百」。(一九)○廣記引「死」作「鬼」。(二〇)○廣記引作「不知有何所惡忌」。鈎沈稿本「何」下有「無」字、誤。(二一)○鈎沈並稿本脫「答」字、今依補。(二二)○珠林・廣記引俱「共」下有「行」字。(二三)○珠林、廣記俱引無「因」、珠林「命」作「令」、又廣記引無「先」字。(二四)○廣記引「了」作「了然」。珠林引「聲」作「聲音」。(二五)○珠林引「漕灌」作「漕灌」、御覽引作「灌灌有聲」。(二六)○珠林引無「作」字。(二七)○珠林・廣記引俱「耳」上有「故」字。(二八)○珠林引作「勿怪吾也」。(二九)○珠林、御覽引俱無「市」字。(三〇)○「至頭上」珠林引作「着頭上」、廣記引作「著肩」上」。(三一)○廣記引「持」作「執」。(三二)○珠林、廣記引俱「咋咋」下有「然」字。(三三)○珠林、廣記引「著」上有「下」字。御覽八八四引省「一」字。(三四)○珠林引作「恐其變化為羊」、廣記引亦「便」作「變」。(三五)○廣記引無「乃」字。(三六)○廣記引作「當時有言」、珠林引作「于時石崇言」、搜神記亦作「于時石崇有言」。(三七)○御覽八八四引「定伯」上有「宗」字。(三八)○「千五百」珠林引作「千五百文」、廣記引作「千五」。

29 北地傳尚書小女、嘗拆荻作鼠、以狡獪放地。荻鼠忽能行^(一)、徑入戶限土中^(二)。又拆荻更作、咒之云、「汝若為家怪者、當更行、不者不動。」放地、便復行如前。即掘限內覓、入地數尺、了無所見。後諸女相繼喪亡。

校記 廣記三百六十。○鄭氏。富永氏 27。

(一)○「荻」、今依補。(二)○汪氏校語云、「限」原作「眼」、據明鈔本改。今從汪氏。

30 昔鄱陽郡樂安縣有人姓彭^(一)、世以捕射為業。兒隨父入山、父忽蹶然倒地、乃變成白鹿。兒悲號追、鹿超然遠逝、遂失所在。兒於是終身不捉弓^(二)。至孫復學射。忽得一白鹿、乃於鹿角間得道家七星符、並有其祖姓名年月分明。覩之惓悔^(三)。乃燒去弧矢。

校記 御覽八百八十八。○天中記五四。鄭氏。富永氏 28。事見今本『異苑』八。

(一)○「鄱」鈎沈本據御覽鮑氏刊本作「番」、今依改。「樂安」御覽・鈎沈作「安樂」、今依改。(二)○「終身不捉弓」、鈎沈本據鮑氏刊本作「不捉弓終身」、今依四部叢刊本改。(三)○「覩」鈎沈本據鮑氏刊本作「視」、今據四部叢刊本改。

31 北海營陵有道人、能使人與死人相見^(一)。同郡人婦死已數年、聞而往見之曰、「願令我一見死人^(二)、不恨。」遂教其見之^(三)、於是與婦人相見、言語悲喜、恩情如生時^(四)。良久乃聞鼓聲、悵悵不能出戶^(五)、掩門乃走。其裾為戶所閉、掣絕而去。後歲餘、此人死。家葬之。開見婦棺、蓋下有衣裾。

校記 文選江淹雜體詩注。*御覽八百八十四。○天中記四〇。鄭氏。富永氏 29。事見搜神記二—45、文較此為詳、而系於漢。參看本篇 40。

(一)○御覽引「使」作「令」。(二)「人」御覽引作「亦」。(三)○御覽引「遂」作「道人」。(四)○御覽四部叢刊本「生時」、文選注引無「時」字。鈎沈據御覽鮑氏刊本作「良久時」、而今依四部叢刊本改。(五)○

御覽引無「悵悵」、而後文作「遂別而去」、引至此為止。

32 陳留史均字威明、嘗得病、臨死、謂其母曰、『我得復生、埋我、杖豎我瘞上。若杖拔、出之。』及死、埋杖如其言。七日往視、杖果拔、即掘出之、便平復如故。

校記 御覽七百十。○天中記四八。淵鑑類函三七八杖。鄭氏。富永氏30。事見搜神記一五—363、作「史均」。

33 濟北弦超、神女來游、車上有壺榼青白琉璃五具。

校記 御覽七百六十一。〔鈎沈又稿本欄外注云〕案此嘉平中事、見珠林五〔百二十卷本八〕引搜神記。○案御覽引文不全、片斷而已。鄭氏。富永氏31。本事見『搜神記』一—31、廣記六一引集仙錄。

34 有神王方平降陳節方家、以刀二口^(一)、一長五尺^(二)、一長五尺三寸^(三)、名泰山環^(四)、語節方曰、『此刀不能為餘益、然獨臥、可使無鬼、入軍不傷。勿以入廁溷^(五)、且不宜久服。三年後求者急與^(六)。』果有戴卓以錢百萬請刀^(七)。

校記 御覽三百四十五。○淵鑑類函二二五刀。鄭氏。富永氏32。

(一) 御覽四部叢刊本引無「二口」二字。(二) 御覽四部叢刊本引「一」作「一口」。(三) 淵鑑引以上三句作「以刀一口、長五尺三寸」。(四) 淵鑑引作「泰山寶環」。(五) 「入」字、鈎沈稿本、排印本俱脫之、今依補。(六) 淵鑑引作「三年後、有從汝求者、可急與之」。(七) 淵鑑引「戴卓以」作「車載」二字。

35 東海君以織成青襦遺陳節方。

校記 御覽六百九十五。○天中記四七。鄭氏。富永氏 33。事見搜神記二——37。

36 神仙麻姑降東陽蔡經家、手爪長四寸、經意曰、『此女子實好佳手、願得以搔背。』麻姑大怒、忽見經頓地、兩目流血。

校記 御覽三百七十。○鄭氏。富永氏 34。參看神仙傳二·七（廣記七·六〇引）。

37 蔡經與神交、神將去、家人見經詣井上飲水、上馬而去。視井上、俱見經皮如蛇蛻、遂不還。

校記 御覽三百七十五。○鄭氏。富永氏 35。參看神仙傳二（廣記七引）。

38 田伯為廬江太守、移郡淫鬼。命盡到府、一月不自來見、當壞祠。唯廬君往見、自稱縣民、與府君約、『刻百日當遷大都、願見過。』後如期果為沛相公、不過于祠。常見廬君、月餘病死。

校記 書鈔七十六。○淵鑑類函一一三太守。鄭氏。富永氏 36。

39 豫寧女子戴氏久疾^(二)、出見小石曰、『爾有神、能差我疾者、當事汝。』夜夢人告之、『吾將祐汝。』後漸差、遂為立祠、名石侯祠。

校記 御覽五十一。○鄭氏。富永氏 37。事見書鈔一六〇引列仙傳、云「豫章女子戴氏久疾、出見小石。『爾有神、能我疾者、當事汝。』夜夢人告之。『吾將祐汝。』後漸瘳。立祠、名石侯祠。後人取石投火。咸曰、『此神石不宜犯之。』取者曰、『此石何神。』乃投井中、『神當出井中。』明晨視之。出井。取者發疾死。」行文不似列仙、富永氏云、「列仙」應是「列異」之訛、當從。事見搜神記四——90。

(一)○「疾」鈎沈本據御覽鮑氏刊本作「病」、今據四部叢刊本改。

40 談生者、年四十、無婦。常感激讀詩經。夜半有女子可年十五六、姿顏服飾、天下無雙、來就生為夫婦。乃言(二)、
『我與人不同、勿以火照我也。三年之後、方可照。』為夫妻、生一兒。已二歲、不能忍、夜伺其寢後、盜照視之、其
腰已上生肉如人、腰下但有枯骨。婦覺、遂言曰、『君負我、我垂生矣、何不能忍一歲、而竟相照也。』生辭謝涕泣、
不可復止。云、『與君雖大義永離、然顧念我兒、若貧不能自偕活者、暫隨我去、方遺君物。』生隨之去、入華堂、室
宇器物不凡。以一珠袍與之曰、『可以自給。』裂取生衣裾、留之而去。後生持袍詣市(三)、睢陽王家買之、得錢千萬。
王識之曰、『是我女袍、此必發墓。』乃取拷之(四)、生具以實對。王猶不信、乃視女冢、冢完如故。發視之、果過棺蓋
下得衣裾。呼其兒、正類王女、王乃信之。即召談生、復賜遺衣、以為主壻。表其兒以為侍中。

校記

廣記三百十六。○鄭氏。富永氏 38。事見搜神記一六— 396、屬于漢代。參看本篇 31。

(一)○汪氏校語云、「乃」原作「之」、據明鈔本改。鈎沈引亦作「之」、今從汪氏。
(二)○鈎沈脫「市」字、今依補。
(三)○鈎沈本「拷」作「考」、今依改。

41 臨淄蔡支者、為縣吏。曾奉書謁太守(一)、忽迷路、至岱宗山下。見如城郭、遂入致書。見一官、儀衛甚嚴、具如
太守。乃盛設酒餼、畢付一書。謂曰、『掾為我致此書與外孫也。』吏答曰、『明府外孫為誰。』答曰、『吾太山神也、
外孫天帝也。』吏方驚、乃知所至非人間耳。掾出門、乘馬所之。有頃、忽達天帝座太微宮殿、左右侍臣俱如天子。支
致書訖、帝命坐、賜酒食、仍勞問之曰、『掾家屬幾人。』對、『父母妻皆已物故、尚未再娶。』帝曰、『君妻卒經幾年
矣。』支曰、『三年。』帝曰、『君欲見之否。』支曰、『恩唯天帝。』帝即命戶曹尚書、敕司命輟蔡支婦籍於生錄中。
隨命與支相隨而去。乃蘇歸家、因發妻冢、視其形骸、果有生驗。須臾起坐、語遂如舊。

校記 廣記三百七十五。○*天中記八。鄭氏。富永氏 39。

(一)○「曾」鈎沈稿本並排印本據廣記黃刻本作「會」、今據談刻本改。

42 遼東丁伯昭、自說其家有客^(一)、字次節、既死、感見待恩、常為本家致奇異物。試臘月中從索瓜、得美瓜數枚來在前、不見形也。

校記 御覽九百七十八。○天中記五三。鄭氏。富永氏 40。

(一)○御覽四部叢刊本無「家」字。

43 汝南北部督郵西平劉伯夷有大才略^(一)、案行到懼武亭、夜宿。或曰、「此亭不可宿。」伯夷乃獨往宿^(二)、去火、誦詩書五經訖臥。有頃、轉東首、以絮巾結兩足、以幘冠之、拔劍解帶。夜時有異物稍稍轉近、忽來覆伯夷。伯夷屈起、以袂掩之、以帶繫魅。呼火照之、視得一老狸、色赤無毛。持火燒殺之。明日發視樓屋間、得魅所殺人髮結數百枚^(三)。於是亭遂清靜。舊說狸髡千人、得為神也。

校記 御覽二百五十三。○鄭氏。富永氏 41。事見搜神記一八—427。參看幽明錄(御覽五八〇引、鈎沈 181)。

(一)○搜神記「劉伯夷」作「到伯夷」、汪氏校語云、「群書拾補據後漢書鄧曄傳改『到』作『鄧』。當據改。」(二)○「往」鈎沈據鮑氏刊本作「住」、意亦通、今依四部叢刊本。

(三)○「得」鈎沈稿本並排印本作「見」、未知何據、今依正。又鈎沈脫「結」、今依補。

44 江嚴於富春縣清泉山、遙見一美女、紫衣而歌。嚴就之、數十步、女遂隱、唯見所據石。如此數四、乃得一紫玉、廣一尺。又邛浪於九田山見鳥、狀如雞、色赤、鳴如吹笙。射之中、即入穴。浪遂鑿石、得一赤玉、如鳥形狀也。

校記 廣記四百一。○鄭氏。富永氏42。事見錄異傳（御覽八〇五、事類賦注九引、鈎沈25・26）。

45 彭城有男子娶婦、不悅之。在外宿月餘日、婦曰、『何故不復入。』男曰、『汝夜輒出、我故不入。』婦云、『我初不出。』壻驚。婦云、『君自有異志、當為他所惑耳。後有至者、君便挽留之、索火照視之為何物。』後所願還至、故作其婦、前卻未入、有一人從後推令前。既上牀、壻捉之曰、『夜夜出何為。』婦曰、『君與東舍女往來、而驚欲託鬼魅以前約相掩耳。』壻放之、與共臥。夜半心悟、乃計曰、『魅迷人、非是我婦也。』乃向前攬捉、大呼求火、稍稍縮小、發而視之、得一鯉魚、長二尺。

校記 廣記四百六十九。○鄭氏。富永氏43。

46 景初中城陽縣吏王臣嘗作倦^(一)、枕机臥^(二)。有頃聞竈下有呼曰^(三)、『文納何以在人頭下^(四)。』應曰、『我見枕、不得動、汝來就我。』至乃飯函也^(五)。

校記 御覽七百七、又七百六十。○鈎沈「七〇七」誤作「七〇一」、七三年版全集已訂之。書鈔一三四引云、「王臣夜倦臥枕。有頃聞竈下有呼曰、『文約何以久頭下。』應曰、『我見枕、不得動。汝來就我。』至乃飲函也。」書鈔引作「列仙傳」、但不見今本列仙傳、案此條亦「列異」之訛。永樂大典九七六二引與御覽七六〇引全同。淵鑑類函三七八枕。鄭氏。富永氏44。事見搜神記一八—413。

（一）〔咸〕一〔七六〇〕引作「城」。（王臣夜倦）一〔七六〇〕引作「王巨嘗作倦」。○御覽七〇七引作「咸陽」。今除人名外俱依七六〇引。景初魏明帝年號。（二）○御覽七〇七引「机」誤作「枕」、鈎沈據此。今依七六〇引改。但鮑氏刊本作「枕机」。（三）○御覽七六〇引無「有頃」、又無下「有」字。（四）○御覽七〇七引作「文納何不以之頭下」、意不通。（五）〔飲缶〕一〔七六〇〕作「飯函」。○御覽七六〇飯函條下收之、而今依七六

○引。

47 正始中、中山王周南為襄邑長^(一)、有鼠衣冠從穴中出、在廳事上語曰^(二)、『周南^(三)、爾某月某日當死^(四)。』周南不應、鼠還穴^(五)。後至期^(六)、更冠幘絳衣出^(七)、語曰、『周南^(八)、汝日中當死。』又不應^(九)、鼠緩入穴。須臾、出語曰、『向日適欲中。』鼠入復出、出復入、轉更數、語如前語^(一〇)。日適中、鼠曰、『周南、汝不應、我復何道^(一一)。』言絕^(一二)、顛蹶而死^(一三)、即失衣冠^(一四)。周南使卒取視之、具如常鼠也^(一五)。

校記 書鈔一百五十八。類聚九十五。御覽八百八十五、又九百十一。○事文類聚後集四一。*群書類編故事二四。天中記五四。淵鑑類函三三鼠。鄭氏。富永氏45。本事見搜神記一八—437（珠林四部叢刊本四二引）。幽明錄（鈎沈52）。晉書五行志。宋書五行志。陸勳集異志四。參看幽明錄（鈎沈227）。

（一）○「正始中」三字、類聚・御覽引均在「周南」下。「正始」魏齊王芳年號也。（二）（衣冠從穴中出在廳事上）已上十字依御覽引。○此八八五引、但脫「事」、又無「有」字。書鈔引作「有鼠穴出」。類聚、御覽九一一引作「有鼠衣冠出廳事」。（三）○類聚・御覽九一一引均無「周南」二字。（四）二字御覽引有。○御覽八八五引、但作「以某月」。書鈔引作「某日死」。（五）○御覽八八五引作「穴中」。（六）○類聚作「至期復出」。御覽九一一引作「至期復」。御覽八八五引無「後」字。（七）○類聚・御覽九一一引均無「更」、「出」字。八八五引「出」作「而」。（八）○「周南」二字、類聚、御覽九一一引均無。（九）○御覽八八五引「又」上有「周南」二字。「又」依書鈔、他書俱作「復」。（一〇）○自「鼠緩入穴」而至此、凡二十八字、類聚・御覽九一一引均只作「入復更出」四字、御覽八八五引省之。（一一）○類聚引作「死我、復何道」、御覽九一一引作「我死、我復何道」。（一二）○「言絕」類聚・御覽九一一引均作「遂」一字、御覽八八五引作「言、鼠」。（一三）○御覽八八五引脫「死」字。（一四）○御覽（八八五）引作「冠衣」。（一五）（周南使卒）四字依御覽（八八五）引補。○書鈔引無「之」、

「也」字。類聚、御覽九一一引此二句十二字只作「視如常鼠也」五字。御覽八八五引無「具」、而「也」作「耳」。

48 武昌陽新縣北山上有望夫石^(一)、狀若人立者。傳云、昔有貞婦、其夫從役、遠赴國難。婦攜弱子、餞送此山^(二)、立望而形化為石。

校記 御覽八百八十八。○淵鑑類函三三二變化。鄭氏。富永氏46。事見幽明錄（鈎沈12）。事亦見白帖二。參看搜神記一一—296等。

（一）○御覽脫「陽」字、今依御覽四四〇引幽明錄補。（二）○鈎沈據御覽鮑氏刊本「弱」作「幼」、今依四部叢刊本。

49 廬山左右、常有野鵝數千為群。長老傳言、嘗有一狸食、明日見狸喚於沙州之上、如見繫縛。

校記 御覽九百十九。○鄭氏。富永氏47。

50 老子西遊、關令尹喜望見其有紫氣浮關、而老子果乘青牛而過也。

校記 史記老莊申韓列傳索隱。○史記各本多作「列仙傳」、但與今本列仙傳不合。唯百衲本史記（即黃善夫本）引作「列異傳」。未知鈎沈或因懸疑而引此條於篇末歟。御覽九〇〇引關中記云老子乘青牛而過關之事。富永氏刪之。

○51 宋康王埋韓馮夫妻、宿夕文梓生。有鴛鴦雌雄各一、恆栖樹上。晨夕交頸、音聲感人。

校記 類聚九二。文選集注卷九左思吳都賦鈔云、「列仙傳韓馮夫妻死作梓、號曰相思樹。」杜詩九家注五。天中記五九。潛確居類書一〇五。淵鑑類函四二六鴛鴦。鄭氏。富永氏48。事見搜神記一一—294、文較此更詳。又見「韓

朋賦」(『敦煌變文集』二)。

○52 桂陽太守張叔高、家居鄢陵。里中有樹、大十圍。遣客砍之、樹大血出。客驚怖。叔高曰、『樹老、汁赤耳。』砍之、血大流出。空處有一白頭翁出走、高以刀砍殺之。所謂木石恠變蛭蝨乎。

校記 御覽八八六。富永氏49。事見風俗通義怪神篇(又廣記四一五引)、又見搜神記一八—417。

○53 昔有神人、姓鄧名禹、字誇父。自有神力、身長一千七百丈。手執桑之杖。與日競走、所棄鞭策及所執桑之杖、皆化作林木。以其姓因號鄧林也。

校記 三教指歸覺明注上之上引作「列異記」。事見山海經海外北經、又見列子湯問篇。

○54 常山人行見觸體、因埋藏之、以所食具祭之。後半歲許、有一人課之曰、『卿隨我去。』其人曰、『子為誰。』答曰、『吾是子昔所埋觸體也。家今有賓客之會、故來諸子(一)、以報舊恩。』遂至家、家大會賓客、招魂。觸體及將人神座、共飲食、衆人無得見也。須臾有載麻布經幘來人者(二)。觸體之神、敬怖而走、曰、『此煞我者也。』衆人怖而問之。曰、『載麻者觸體走也。昔與但行而獨還(三)、家疑而不發。』得此遂發露。執而殺之。更迎觸體之喪也。

校記 天地瑞祥志一四引作「列異記」。

(一)「諸」、疑譌。(二)「載」或當作「戴」、下同。(三)「昔與」二字或當在「觸體」上。

○55 昔有攘羊者、以羊遺叔向母、埋之不食。後三年、攘羊事發、追捕向家。驗羊骨肉都盡、唯有舌在。國人異之、遂以羊舌為氏。

校記 類聚九四引此文、而未著出處、列于列仙傳之後、然而無「又曰」二字。事類賦注二中華書局本引作「列仙傳」、劍光閣本作「列異傳」。按行文不類列仙傳、今暫懸疑而存之。事見通志氏族略三晉邑。

古異傳

凡一條

1 斲木、本事雷公採藥使、化為鳥(一)。

校記 玉蜀寶典五。又高承事物紀原十引古今異傳云、啄木、本雷公採藥吏為此鳥也。○經史證類大觀本草一九、歲時廣記二十三俱引古今異傳。又咸淳毘陵志一三引古今異傳云、啄木、雷公採藥吏所化。潛確一〇六。

(一)○歲時廣記、潛確均「鳥」作「此鳥」。

戴祚甄異傳

原輯一七條 新附二條 凡一九條

1 司馬譙王為像。州人丘渭銀釧乙隻並鏡于面^(一)、市酒肉。夜夢道人訴譙王求釧等、檢校即還。

校記 書鈔一百三十六。○孔注云、此注略有脫誤。鄭學弢校注『列異傳等五種』(一九八八年·文化藝術出版社)所收、以下略稱鄭氏。

(一)○「于」疑譌。

2 □城張闔以建武二年從野還宅、見一人臥道側、問之、云、『足病不能復去、家在南楚、無所告訴。』闔憫之。有後車載物、棄以載之。既達家、此人了無感色、且語闔曰、『向實不病、聊相試耳。』闔大怒曰、『君是何人、而敢弄我也。』答曰、『我是鬼耳。承北臺使、來相收錄。見君長者、不忍相取、故佯為病臥道側。向乃捐物見載、誠銜此意。然被命而來、不自由、奈何。』闔驚、請留鬼、以豚酒祀之。鬼相為爵享、於是流涕固請、求救。鬼曰、『有與君同名字者否。』闔曰、『有僑人黃闔。』鬼曰、『君可詣之、我當自往。』闔到家、主人出見、鬼以赤標擦其頭、因回手以小鉞刺其心、主人覺、鬼便出。調闔曰、『君有貴相、某為惜之、故虧法以相濟。然神道幽密、不可宣泄。』闔後去、主人暴心痛、夜半便死。闔年六十、位至光祿大夫。

校記 廣記三百二十一。○鄭氏。

3 歷陽謝允、字道通。年十五、為蘇峻賊軍免所掠^(一)、為奴於東陽蔣鳳家^(二)。常行山中^(三)、見虎檻中狗。竊念狗餓、以飯飴之。人檻、方見虎、攀木仰看。允謂虎曰、『此檻本為汝施、而我幾死其中、汝不殺我、我放汝。』乃開檻出虎^(四)。

賊平之後^(五)、允詣縣、別良善^(六)、烏程令張球不為申理^(七)、桎梏考楚^(八)。允夢見人云^(九)、『此中易人難出、汝有慈心
(一〇)、當相拯拔^(一一)。』覺見一少年^(一二)、通身黃衣、遙在柵外、時進獄中與允言語^(一三)。獄吏知是異人、由是不敢枉允
(一四)。蒙理還都^(一五)、乃上武當山^(一六)。太尉庾公亮聞而愍之^(一七)、給其糧資^(一八)、遂到襄陽^(一九)。見道士說^(二〇)、『吾師
戴先生孟盛子非世間人也^(二一)。敕「若有西上欲見我者、可將來。」得無是君。』允因隨去、入武當山^(二二)、齋戒三日^(二三)
(二四)、進見先生^(二五)、乃昔日所夢人也^(二六)。問允、『欲見黃衣童子否^(二七)。』賜以神藥三丸^(二八)、服之便不飢渴、無所思
欲。先生亦無常處、時有祥雲紫氣蔭其上^(二九)、芬馥之氣^(三〇)、徹於山谷。

校記 御覽四十三。廣記四百二十六。○鄭氏。廣記引為「甄異記」。

(一)○廣記引作「少為賊所掠」。(二)○御覽引「為奴於」作「賣屬」。廣記引無「東陽」二字。(三)○御覽引「常」作「嘗」。(四)○自「常行山中」至此、廣記引作「常於山中、見穽中虎饑、因出之」。(五)○廣記引無「賊平之」三字。(六)○廣記引作「自白」。(七)○廣記引「烏程令張球」作「令長」。(八)○廣記引作「考訊無不至」。(九)○廣記引「允」下有「夜」字。又「云」作「曰」。(一〇)○廣記引作「汝自有慈惠」。(一一)○御覽引作「當救拯」。(一二)○御覽引「覺」作「迴」。(一三)○廣記引無「時進獄中」四字。(一四)○廣記引作「獄吏以告令長、令長由是不敢誣辱」。(一五)○「蒙理還都」鈎沈本作「即蒙理還」、今據御覽引改。、記引作「既還」。(一六)○御覽引「乃」作「西」。(一七)○廣記引「太尉」上有「時」字、「庾公亮」誤作「唐公亮」。(一八)○「其糧資」鈎沈顛倒作「其資糧」、今據御覽引改。廣記引作「以資履」。(一九)○御覽引「遂」作「隨」。廣記引「到」作「於」。(二〇)○廣記引「說」作「曰」。(二一)○廣記引作「吾師戴先生者成人君子、嘗言有志者與之俱來。得非爾耶」。(二二)○二句八字廣記引作「隨入山」。(二三)○廣記引無「戒」。(二四)○廣記引「先生」作「之」。(二五)○御覽引「乃」作「乃是」。(二六)○御覽引作「復見黃童不」。廣記各本引無「子」、或鈎沈以意補之。(二七)○御覽引句頭有「因」字。(二八)○廣

記引「祥雲」作「祥光」。(二九)御覽引作「或聞香氣」。○御覽各本引俱作「或聞芳香之氣」、未知鈎沈據何本。

4 庾亮領荊州、亮登廁^(二)、忽見廁中一物如方相。兩眼盡赤、身有光耀、漸漸從土中出。庾乃攘臂、以拳擊之。應手有聲、縮入地。因而寢疾遂亡。

校記 廣記三百二十一。○廣記引為「甄異錄」。鄭氏。事見搜神記九—249、文稍詳。
(一)○鈎沈本脫「亮」字、今依補。

5 徐州民吳清、以太元五年被差為征^(一)。民殺雞求福^(二)、煮雞頭在梓中^(三)、忽然而鳴、其聲甚長^(四)。其後破賊、賊帥邵寶臨陣戰死^(五)、于時僵尸狼藉、莫之能識。清見一人、著白錦袍^(六)、疑是主帥、便斬以聞^(七)。推校之、乃是寶首。清以功拜清河太守。越自行伍^(八)、猥蒙榮位^(九)、雞之祿更為祥^(一〇)。

校記 御覽八百八十五。廣記四百六十一。○御覽·廣記俱為「甄異錄」。*淵鑑類函四二五雞。鄭氏。
(一)○御覽鮑氏刊本引無「為」字。(二)○御覽引「民」作「人」。(三)○御覽引「煮」作「置」。廣記引「梓」作「盤」。(四)○廣記引有此句。(五)○廣記引作「後破賊帥邵寶、寶臨陣戰死」、鈎沈據此、今據御覽改。(六)○廣記引脫「錦」字。(七)○「便斬」鈎沈依廣記引作「遂取」、今據御覽引改。(八)○「行伍」廣記引作「什伍」。(九)廣記引「猥蒙」作「遽升」。(一〇)○廣記引「祥」作「吉祥」。

6 金吾司馬義妾碧玉、善絃歌。義以太元中病篤、謂碧玉曰、「吾死、汝不當別嫁、嫁當殺汝^(一)。」曰、「謹奉命。」葬後、其鄰家欲娶之^(二)、碧玉當去、見義乘馬入門、引弓射之、正中其喉、喉便痛亟、姿態失常、奄忽便絕。十餘日乃甦、不能語、四肢如被撾損、周歲始能言、猶不分明。碧玉色甚不美、本以聲見取、既被患、遂不得嫁。

校記 廣記三百二十一。○廣記引為「甄異錄」。鄭氏。

(一)○廣記引無「嫁」字、或鈎沈以意補之歟。(二)○「娶」鈎沈本作「取」、今依廣記引改。

7 吳縣張牧、字君林^(一)、居東鄉楊里。隆安中、忽有鬼來助驅使。林原有舊藏器物中、破甑已無所用^(二)、鬼使撞甑底穿為甑、比家人起、飯已熟。此鬼無他須、唯噉甘蔗、自稱「高褐」^(三)、主人因呼「阿褐」^(四)。『高褐』者「葛號」^(五)。邱壘累積、尤多古冢、疑此物是其鬼也。林每獨見之、形如少女^(六)、年可十七八^(七)、面青黑色、遍身青衣、乃令林家取一白甕^(八)、盛水半^(九)、以絹覆頭^(一〇)、明旦視之、有物在中^(一一)。林家素貧、因此遂富^(一二)。嘗語、『毋惡我、日月盡、自去。』後果去。

校記 廣記三百二十二。＊御覽九百七十四・又＊七百五十八並略。○御覽九七四、鈎沈誤作九四七、七三年版全集已訂之。鄭氏。事亦見錄異傳(鈎沈14、御覽七五七引)。

御覽九七四引云、隆安中、吳縣張牧字君林、忽有鬼來、無他須臾、唯欲噉甘蔗。自稱高褐。主人因呼阿褐。牧母見之、是小女、面青黑色、通身青衣。

御覽七八云、晉隆安中、吳縣張君才、忽有鬼來、令才取一白甕、盛水半、以絹覆頭、明日視之、錢滿甕。才家先貧、因此遂富。

(一)○「牧字」二字依御覽補。○「吳縣」鈎沈誤作「吳興」、七三年版全集已訂之。(二)○「甑」疑當作「甕」。(三)御覽引有此句。(四)○廣記汪氏校語云、「語」原作「器」、據明鈔本改。七三年版已正、今從此。(五)○鈎沈本脫「號」字、今依補。(六)御覽引作「牧母見之、是一小女」。○鮑氏刊本亦無「一」字。(七)○廣記引「八」下有「許」字。(八)○廣記引無「一」字。(九)○廣記引無「半」字。(一〇)○廣記引無「以」

絹」二字。(一一)御覽(七五八)引作「滿囊皆金」。○此依御覽鮑氏刊本引、但「滿」上有「錢」字。(一二)○廣記引無「因此」二字。

8 沛郡人秦樹者^(一)、家在曲阿小辛村。義熙中^(二)、嘗自京歸、未至二十里許、天暗失道、遙望火光、往投之、見一女子秉燭出、云、『女弱獨居、不得宿客。』樹曰、『欲進路、礙夜不可前去、乞寄外住。』女然之。樹既進坐、竟以此女獨處一室、慮其夫至、不敢安眠。女曰、『何以過嫌、保無慮、不相誤也。』為樹設食、食物悉是陳久。樹曰、『承未出適、我亦未婚、欲結大義、能相顧否。』女笑曰、『自顧鄙薄、豈足伉儷。』遂與寢止。向晨樹去、乃俱起執別。女泣曰、『與君一覩、後面莫期。』以指環一雙贈之、結置衣帶、相送出門。樹低頭急去、數十步、顧其宿處、乃是冢墓。居數日、亡其指環、帶結如故。

校記 廣記三百二十四。*御覽七百十八。○廣記引為「甄異錄」。天中記四九。淵鑑類函三八一指環。天中記。淵鑑類函皆依御覽引。鄭氏。事見今本異苑六。

御覽七一八云、沛郡秦拊、義熙中至曲阿村、日暮失路、遠見火光、投之。屋有少女、因寄宿。曉臨別、女以指環與拊。拊去、迴顧乃是冢焉。

(一)○〔樹〕御覽引作「拊」、下同。(二)○三字依御覽引補。

9 樂安章沈病死、未殯而蘇、云、『被錄到天曹、主者是其外兄、斷理得免。見一女同時被錄、乃脫金釧二雙^(一)、託沈以與主者、亦得還。遂共醺接。』女云、『家在吳、姓徐、名秋英。』沈後尋問、遂得之、父母因女妻沈^(二)。

校記 御覽七百十八。○御覽引為「甄異記」。天中記四九引作「集異記」、文全同、「集」系筆誤。淵鑑類函三八一釧。鄭氏。事見今本異苑八、較此更詳。

(一)○「脫」御覽各本引作「說」、鈎沈以意改。 (二)○御覽引「父母」上有「女」字、鈎沈省之。

10 吳興張安、病正發、覺有物在被上、病便更甚。安自力舉被捉之、物化成鳥、如鶴鷄、瘡登時愈。

校記 御覽七百四十三。○鄭氏。

11 沛國張伯遠、年十歲時病亡。見泰山下有十餘小兒^(一)、共推一大車、車高數丈、伯遠亦推之。時天風暴起揚塵、伯遠因桑枝而住。聞呼聲、便歸。遂蘇、髮中皆有沙塵。後年大、至泰山、識桑、如死時所見之也^(二)。

校記 御覽九百五十五。○鄭氏。

(一)○御覽鮑氏刊本引「泰」作「大」、鈎沈亦作「大」、今依四部叢刊本改。(二)○四部叢刊本引無「之也」二字。

12 劉沙門居彭城、病亡。妻貧兒幼、遭暴風雨、牆宇破壞。其妻泣擁穉子曰、「如爺若在、豈至於此。」其夜夢沙門將數十人^(一)、料理宅舍、明日完矣。

校記 廣記二百七十六。○鄭氏。

(一)○鈎沈本脫「門」字、七三年版全集已補。

13 長沙王思規為海鹽令、忽見一吏、思規問、「是誰。」吏云、「命召君為主簿^(一)。」因出板置牀前。吏又曰、「期限長、遠在十月。若不信我、到七月十五日日中時、視天上、當有所見。」思規敕家人至期看天、聞有哭聲^(二)、空中見人垂旒羅列、狀如送葬^(三)。

校記 廣記三百二十二。○廣記引為「甄異錄」。鄭氏。

(一)○嚴一萍校錄『太平廣記校勘記』云、「鈔宋本引」「思規問是誰吏云命」作「問此誰吏云所」。(二)○鈔宋本「哭」作「雷」。(三)○鈔宋本「送葬」作「葬送」。

14 廣陵華逸、寓居江陵、亡後七年來還。初聞語聲、不見其形、家人苦請、求得見之。答云、『我困瘁、未忍見汝。』問其所由、云、『我本命雖不長、猶應未盡、坐平生時罰撻失道、又殺卒及奴、以此減算。去受使到長沙^(一)、還當復過。』如期果至、教其二子云、『我既早亡、汝等當勤自勗勵。門戶淪沒、豈是人子。』又責其兄不垂教誨、色甚不平。乃曰、『孟禹已名配死錄、正餘有日限耳。』爾時禹氣強力壯、後到所期暴亡。

校記 廣記三百二十二。○廣記引為「甄異記」。鄭氏。

(一)○「去」字依黃刻本、談刻作「云」。皆難解。

15 譙郡夏侯文規居京^(一)、亡後一年、見形還家、乘犢車、賓從數十人、自云北海太守。家設饌、見所飲食、當時皆盡、去後器滿如故。家人號泣、文規曰、『勿哭、尋便來。』或一月或四五十日輒來、或停半日、其所將赤衣騶導、形皆短小、坐息籬間及廂屋中、不知。文規當去時、家人每呼令起、翫習不為異物。文規有數歲孫、念之、抱來、左右鬼神抱取以進、此兒不堪鬼氣、便絕、不復識人。文規索水嚥之、乃醒。見庭中桃樹、乃曰、『此桃我昔所種、子甚美好。』其婦曰、『人言亡者畏桃、君何為不畏。』答曰、『桃東南枝長二尺八寸向日者憎之、或亦不畏^(二)。』見地有蒜殼、令拾去之、觀其意似憎蒜而畏桃也^(三)。

校記 廣記三百二十五。*類聚八十六。*御覽九百六十七。*齊民要術十。○廣記引為「甄異記」。*天中記五二。*本草綱目二九·三八。*淵鑑類函三九九桃。鄭氏。

齊民要術十云、「譙郡夏侯規亡後、見形還家。經庭前桃樹邊過、曰、此桃我所種、子乃美好。其婦曰、人言亡者畏桃、君不畏邪。答曰、桃東南枝長二尺八寸向日者憎之。或亦不畏也。」類聚、御覽等引亦類同。

(一)〔譙郡〕二字依御覽引補。○齊民要術·類聚引俱有「譙郡」二字。齊民要術脫「文」字。(二)已上略見類聚八十六·御覽九百六十七·齊民要術十。○本草綱目二引止作「鬼但畏東南枝爾」。(三)○疑「畏」上當脫「不」字。

16 河南楊醜奴、常詣章安湖拔蒲、將暝、見一女子、衣裳不甚鮮潔^(一)、而容貌美、乘船載蓐、前就醜奴。家湖側、逼暮不得返。便停舟寄住^(二)、借食器以食、盤中有乾魚生菜。食畢因戲笑、醜奴歌嘲之。女答曰、「我在西湖側、日暮陽光額、託蔭遇良主、不覺寬中懷^(三)。」俄滅火共寢、覺有臊氣^(四)、又手指甚短、乃疑是魅。此物知人意、遽出戶、變為獺、徑走入水。

校記 廣記四百六十八。○廣記引為「甄異志」。鄭氏。事亦見幽明錄(鈎沈170)、今本異苑八。

(一)○「鮮潔」二字鈎沈稿本、排印本原闕、七三年版全集已依補。(二)○「便」鈎沈據黃刻本作「乃」。嚴氏校勘記云、墨釘作「便」。汪氏校語云、便字原空闕、據明鈔本補。今依改。(三)○嚴氏校勘記云、「寬」〔鈔宋本〕作「寫」。(四)○「有」鈎沈本據黃刻本作「其」、今依改。

17 王肇常在內宿、晨起出外、妻韓氏時尚未覺。而奴子云、「郎索紙百幅。」韓視帳中、見肇猶臥、忽不復見。後半載肇亡。

校記 蘇易簡文房四譜四。○鄭氏。

○18 荊州刺史桓豁、所住齋中、見一人長丈餘。夢曰、『我龍山之神、來無好意、使君既貞固、我當自去耳。』

校記 廣記二七六引為「□異記」。嚴氏校勘記云、小註「出□異記」作「出甄異記」。汪氏校語亦云、出甄異記、許本作述異記、按今見異苑卷七。王國良『魏晉南北朝志怪小說研究』（一九八八·文史哲出版社·三二一頁）云、藝文類聚卷四四引「陳都尉」一則、談愷本太平廣記卷二七六引「桓豁」一則、並云出自甄異傳（記）、可補鈎沈本之不足。」

事又見渚宮舊事五、云、桓豁、哀帝興寧三年、代兄溫為刺史、原注、溫徵人為揚州牧錄尚書事。累加征西大將軍司空。有惠政。所住舍中、見一人形長丈餘。夜夢曰、『我龍山之神也。來無好言、使君心既貞固、今自當去耳。』後卒無異徵。荊人遂於龍山立廟。今號為征西之神。

○19 永和中、吳郡陳緒家、平旦忽有叩門（一）。自通云、『陳都尉、寄住（二）。』緒有妾姓奚、能彈箜篌、神意歡悅（三）。既令妾絃歌、歌聲焦細。歷三年乃別去。

校記 類聚四四。天中記四三引為「甄異錄」。淵鑑類函一八九箜篌。王氏前揭書（前條）。參看幽明錄（鈎沈91）。

（一）天中記引作「叩閣」。（二）按以下當有脫文。（三）天中記引「神意」作「神思」。

祖沖之述異記

原輯九〇條 新附三條 凡九三條

1 廬山上有康王谷、巔有一城^(一)、號為釗城^(二)。天每欲雨^(三)、輒聞山上鼓角笳蕭之聲^(四)、聲漸至城、而風雨晦合、村人以為常候^(五)。傳云^(六)、此周康王之城、康王愛奇好異、巡歷名山、不遠而至。城中每得古器大鼎、及弓弩金之屬、知非常人之所處也。而山有『康王』之號、城又以『釗』為稱、斯言將有徵。

校記 御覽八十五。*御覽十。*事類賦注三。○*御覽一九二引為「述異志」。*永樂大典八〇九二引亦作「述異志」。*淵鑑七雨・三四谷。鄭學弢校注『列異傳等五種』(一九八八·文化藝術出版社「歷代筆記小說叢書」所收。以下略稱鄭氏)。

(一)事類賦注引作「北嶺」。○御覽一〇引作「北嶺上有一城」、又一九二引亦作「北嶺有城」。 (二)○「釗城」御覽八五・一〇四部叢刊本引均作「劉」、誤、下同。又一九二引作「康王城」。 (三)○御覽一〇引「欲」作「有」。又一九二引作「天雨」二字。 (四)○事類賦注引「山上」下有「有」字。御覽一九二引無「笳蕭」二字。 (五)已上亦見御覽十、事類賦注三並無「聲漸」二句。○御覽八五四部叢刊本引「村」作「時」。御覽四部叢刊本一〇及鮑氏刊本均作「村」。事類賦注引無「常」字。御覽一〇引至此為止。 (六)○以下御覽一九二引云「傳云、周康王好音、縈巡名山、故康王之號」。

2 廬山上有三石梁、長數十丈、廣不盈尺、俯眄杳然無底^(一)。咸康中^(二)、江州刺史庾亮、迎吳猛^(三)、猛將弟子登山游觀^(四)、因過此梁。見一老公^(五)、坐桂樹下、以玉杯承甘露、與猛、猛遍與弟子^(六)。又進至一處、見崇臺廣廈、玉宇金房^(七)、琳琅焜耀、暉彩眩目、多珍寶玉器^(八)、不可識名。見數人與猛共言、若舊相識^(九)。設玉膏終日。

校記 珠林三十一。御覽四十一・又六百六十三。○*李白詩一四「廬山謠」齊賢注。*天中記三。*淵鑑一〇露・二八廬山。李白詩注以下皆略引前半。鄭氏。事見水經注三九引尋陽記。珠林三八。

(一)○「杳然無底」珠林引無「然」字。御覽六六三引作「而查不見底」。(二)○御覽六六三引「咸康」上有「晉」字。(三)○御覽四一四部叢刊本引脫「吳」字。(四)○御覽引無「猛」字。又六六三引「觀」作「覽」。(五)○御覽六六三引「老公」作「翁」一字。(六)○御覽六六三引「遍與」作「分賜」。(七)○「玉宇金房」御覽六六三引作「金玉房字」。(八)○御覽六六三引無「琳琅」以下三句十三字。御覽四部叢刊本引「耀」作「燿」、「暉」作「輝」。(九)○此句御覽六六三引作「器物不可識」。又四一引作「不可識」三字。珠林引「名」作「各」字、誤。(一〇)○此二句御覽六六三引作「與猛言若舊」。(一一)○御覽四一引無此句五字。

3 昔有人發廬山採松子^(一)、聞人語云、「此未可取。」此人尋聲而上、見一異華、形甚可愛、其香非常^(二)、知是神異^(三)、因掇而服之^(四)、得壽三百歲也^(五)。

校記 珠林三十六。○*義楚六帖一八。鄭氏。

(一)○「子」據義楚六帖引補。(二)○義楚六帖引「非常」作「異常」。(三)○義楚六帖引作「疑是神仙之物」。(四)○義楚六帖引「掇」作「摘」。(五)○義楚六帖引作「延壽三百歲矣」。

4 南康南野有東望山^(一)、營民三人上山^(二)、頂有湖清深、又有果林^(三)、周四里許^(四)、衆果畢植、間無雜木、行列整齊、如人功也^(五)。甘子正熟^(六)、三人共食^(七)、致飽訖^(八)、懷二枚欲以示外人^(九)、便還。尋覓向逕^(一〇)、回旋半日、迷不能得^(一一)。即聞空中語云^(一二)、「速放雙甘^(一三)、乃聽汝去^(一四)。」懷甘者恐怖、放甘於地^(一五)。轉眄即見歸逕^(一六)、乃相與俱卻返。

校記 御覽九百六十六・又四百九十。＊初學記二十八。＊類聚八十六。＊事類賦注二十七。○天中記五二。＊淵鑑四〇〇甘。＊三農紀一〇柑。鄭氏。事見搜神記一七一⁴¹¹。

(一)○「南野」初學記引作「郡南」、御覽九六六・事類賦注引作「郡」。(二)○御覽四九〇引無「營」字、又九六六引「上」作「入」而無「三人」。(三)○以上此三句初學記引作「有人入山、山頂有果林」、事類賦注引作「山頂有果林」。(四)○初學記引無此句四字。(五)○初學記・事類賦注引無此句四字。(六)○類聚引「甘子」作「有甘」。御覽九六六・事類賦注引無「正」字。(七)○「三人」事類賦注引作「嘗有三人造之」。(八)○初學記・事類賦注引無「訖」字。(九)○事類賦注引句頭上有「又」字。御覽四九〇引「二」作「三」。類聚引無「以」「外」二字、初學記引無「以」字。(一〇)○御覽四九〇引無以上二句六字。(一一)○初學記引無以上四句十四字。御覽四九〇引無「半日」。事類賦注引「能得」作「得歸」。(一二)○初學記・事類賦注引無「即」字。類聚引「空」作「雲」。(一三)○初學記引「速」作「催」、類聚及御覽引無。(一四)○類聚、初學記引至此為止。(一五)○御覽四九〇引「懷甘者恐怖放」作「投所懷」。(一六)○「眄」御覽四九〇四部叢刊本四九〇作「盼」、鮑氏刊本作「盼」。「逕」四九〇引作「途」、事類賦注引作「徑」。又及事類賦注引至此為止。

5 南康有神、名曰『山都』。形如人、長二尺餘、黑色、赤目、髮黃被身^(一)。於深山樹中作窠、窠形如豎鳥卵^(二)、高三尺許^(三)、內甚澤、五色鮮明、二枚沓之、中央相連。土人云^(四)、『上者雄舍、下者雌室^(五)』。傍悉開口如規^(六)、體質虛輕、頗似木筒^(七)、中央以鳥毛為褥。此神能變化隱身^(八)、罕覩其狀^(九)。蓋木客山珍之類也^(一〇)。贛縣西北十五里、有古塘、名余公塘。上有大梓樹、可二十圍、樹老中空^(一一)、有山都窠。宋元嘉元年、縣治民哀道訓道虛兄弟二人^(一二)、伐倒此樹。取窠還家。山都見形謂二人曰^(一三)、『我處荒野^(一四)、何豫汝事^(一五)』。巨木可用^(一六)、豈可勝數。樹有我窠、故伐倒之。今當焚汝宇、以報汝之無道。』至三更中、內外屋上一時火起^(一七)、合宅蕩盡^(一八)。

校記 御覽八百八十四。廣記三百二十四。○廣記云出「南廣記」。*本草綱目五一獬豸、引為「任昉述異記」、不見今本述異記。蓋李時珍不知有祖記。*均藻一。古今圖書集成神異典三一七·*三一五。鄭氏。參看搜神記三一 313、異物志（初學記八31）、酉陽雜俎一五山蕭、玄中記（鈎沈56）。

（一）○御覽四部叢刊本引「身」作「之」。（二）廣記引作「窠」形如卵而堅。（三）○廣記引「高」作「長」。（四）○御覽四部叢刊本引「土」作「土」、誤。（五）○御覽鮑氏刊本引「室」作「室」、誤。（六）○鮑氏刊本引「如」作「加」、誤。（七）○鮑氏刊本引「似」作「作」、誤。（八）○廣記引「身」作「形」。（九）廣記「罕」引作「猝」。○鈎沈手稿·排印本均作「卒」。（一〇）○廣記引「疹」作「疹」。（一一）○此句廣記引作「老樹空中」。（一二）○廣記引「哀」作「有」。「道虛」廣記引作「道靈」。（一三）○廣記引「調」作「罵」。（一四）○廣記引「處」作「居」。（一五）○廣記引「豫」作「預」。（一六）○廣記引「巨」作「山」。（一七）○廣記引「火起」作「起火」。（一八）○句末廣記引有「矣」字。

6 南康雩都縣沿江西出^(二)、去縣三里、名夢口、有穴^(三)、狀如石室、名夢口穴^(三)。舊傳、嘗有神雞、色如好金、出此穴中、奮翼迴翔、長鳴響徹^(四)。見人輒飛入穴中^(五)、因號此石為金雞石^(六)。昔有人耕此山側、望見雞出遊戲、有一長人操彈彈之、雞遙見便飛入穴、彈丸正著穴上、丸徑六尺許^(七)、下垂蔽穴、猶有間隙^(八)、不復容人。又有人乘船從下流還縣^(九)、未至此崖數里^(一〇)、有一人通身黃衣^(一一)、擔兩籠黃瓜^(一二)、求寄載、因載之^(一三)。黃衣人乞食、船主與之盤酒^(一四)。食訖、船適至崖下^(一五)。船主乞瓜、此人不與^(一六)、仍唾盤上^(一七)、徑上崖^(一八)、直入石中^(一九)。船主初甚忿之、見其人石、始知神異^(二〇)、取向食器視之^(二一)、見盤上唾、悉是黃金。

校記 *類聚九十一。珠林二十八。廣記四百。御覽八百十一。又*三百八十七（引「有人乘船」以下）。*事類賦注九。案亦見今本任昉述異記（78）、然甚簡略、不如此文詳盡。○天中記五〇。*潛確一〇七。淵鑑三六一金。

又*四二五雞。鄭氏。參看南康記（御覽四八）。

（一）廣記引作「跨江南出」。（二）○御覽引無「有」。（三）四字賦注引有。○案不須補入。（四）○「徹」字、今依御覽・廣記補。（五）○「人」鈎沈本作「之」、今依類聚・御覽八一一改。（六）已上略見類聚九十一。○御覽八一・廣記引均無「金」字、賦注引作「金雞穴」。（七）○廣記引「丸」作「石」。（八）○御覽八一・鮑氏刊本引「間」作「門」、誤。（九）○御覽鮑氏刊本引「縣」作「鄉」。（一〇）○御覽三八七引無此句。（一一）○御覽八一引無「有」字。（一二）○「瓜」珠林引作「菰」、御覽・賦注均引作「紙」。（一三）（因載）二字御覽（八一）引有。（一四）（盤酒）二字廣記引有。（一五）○「船適」二字、御覽三八七・廣記引無。「崖」御覽三八七引作「岸」、下同。（一六）○御覽三八七引無以上二句八字。御覽八一・鮑氏刊本引「瓜」作「錢」。（一七）○廣記引「上」作「內」（一八）○御覽八一・賦注引「上」作「下」。（一九）○御覽三八七引「石中」作「去」、鮑氏刊本引作「石」一字。（二〇）○以上三句十四字、御覽三八七引止作「船主」二字。（二一）○御覽八一引無「向」字。

7 蘆塘有鮫魚、五日一化、或為美異婦人、或為男子、至於變亂尤多。郡人相戒、故不敢有害心、鮫亦不能為計。後為雷電殺之、此塘遂涸。

校記 御覽七十四。○四部叢刊本引為「異記」、鮑氏刊本作「述異記」。

8 豫章郡有盧松村^(一)、郡人羅根生、於此村側墾荒種瓜^(二)、又于旁立一神壇^(三)。瓜始引蔓、清晨行之^(四)、忽見壇上有新板^(五)、墨書曰、「此是神地所游處^(六)、不得停止、種殖可速去^(七)」。^(八)根生拜謝跪咒曰、「竊疑村人利此熟地生苗、容或假託神旨、以見驅斥^(九)、審是神教、願更朱書賜報。『明早往看、向板猶存、字悉以朱代墨^(一〇)、根生謝而去

也。

校記 廣記二百九十四。御覽九百七十八。○鄭氏。

(一)○廣記引無「郡」、「廬」作「廬」。(二)「郡人」二字廣記引有。○廣記引「於」作「來」。鈎沈「側」作「傍」、疑筆誤、御覽・廣記引皆作「側」、今依改。廣記引句末有「果」字。(三)○「又于旁立」、御覽四部叢刊本引「旁」作「外」、鈎沈依鮑氏刊本、廣記引作「園中有」。(四)○廣記引無此句四字。(五)○廣記引「新板」上有「一」字。(六)○按此處或當有譌脫、「所」上應補「神」字歟。(七)○廣記引無以上二句、而「去」上有「出」字。(八)○廣記引作「根生祝曰」。(九)○廣記引無以上三句二十字。(一〇)○御覽九百七十八「引至此為止」。○廣記引「悉」上有「字」。鈎沈手稿有「字」而後消去之。今依廣記引補。

9 章安縣西有赤城山^(二)、周三十里、一峰特高、可三百餘丈。晉泰元中、有外國道人白道猷^(三)、居於此山^(四)、山神屢遣狼、怪形異聲^(四)、往恐怖之、道猷自若。山神乃自詣之云、『法師威德嚴重、今推此山相與、弟子更卜所託^(五)。』道猷曰、『君是何神。居此幾時。今若必去、當去何所。』答云、『弟子夏王之子、居此千餘年、寒石山是家舅所住、某且往寄憩、將來欲還會稽山廟。』臨去遺信、贈三奩香、又躬來別、執手恨然。鳴鞞響角、凌空而逝。

校記 廣記二百九十四。○古今圖書集成神異典三〇。鄭氏。

(一)○「安」鈎沈排印本引作「按」、七三年版全集已正。「赤城」下之「山」字、鈎沈手稿・排印本均脫之、今依補。廣記鈔宋本無「有」字。(二)○「道」字許本黃本皆無、汪氏校語云、道字原闕、據明鈔本補。廣記鈔宋本「國」作「國道」、今依鈔宋本・汪本補。(三)○廣記鈔宋本「於此」作「其」。(四)○廣記鈔宋本「恠」作「作恠」。(五)○廣記鈔宋本「卜」作「有」。

10 和州歷陽淪為湖。先是有書生遇一老姥、姥待之厚^(一)、生謂姥曰、『此縣門石龜眼血出、此地當陷為湖。』姥後數往候之。門使問姥、姥具以告。吏遂以朱點龜眼。姥見、遂走上北山、城遂陷。

校記 類林雜說十。○亦見今本述異記 94。鄭氏。事見淮南子俶真篇、搜神記一三（初學記七引、御覽六六引、汪紹楹校注本 326）、水經注二八沔水篇（王國維校本）引神異傳。又見劉之遴神錄（鈎沈 1）、太平寰宇記二二、太平廣記四六八引鬼神傳。

（一）○「待」雜說引作「持」、誤。

11 出海口北行六十里、至騰嶼之南溪。有淡水、清徹照底。有蟹焉、筐大如笠、腳長三尺。宋元嘉中、章安縣民屠虎取此蟹食之、肥美過常。虎其夜夢一少嫗語之曰^(二)、『汝噉我、知汝尋被噉不。』屠氏明日出行、為虎所食、餘家人殯瘞之、虎又發棺噉之、肌體無遺。此水今猶有大蟹、莫敢復犯。

校記 御覽九百四十二。○淵鑑四四四蟹。鄭氏。

（二）○四部叢刊本引無「一」字。

12 園客種五色香草、有五色蛾集其上。蠶時、有一女來養蠶、得繭百二十枚、大如甕、女與客俱仙去。

校記 朱翌倚覺寮雜記上。○亦見今本述異記 91。事見列仙傳（御覽八一四引神仙傳·又八二五引。廣記四七三引·又五九引女仙傳）。鄭氏。或倚覺寮雜記所誤引歟。

13 漢宣城太守封邵忽化為虎、食郡民、民呼曰封使君、因去不復來。時語曰、『無作封使君、生不治民死食民。』

校記 海錄碎事十二。○亦見今本述異記 41。古謠諺六九。虎苑上。鄭氏。

14 吳黃龍年中，吳都海鹽有陸東美^(一)。妻朱氏，亦有容止。夫妻相重，寸步不相離。時人號為『比肩人』。夫婦云皆比翼恐不能佳也^(二)。後妻卒^(三)，東美不食求死。家人哀之，乃合葬。未一歲，冢上生梓樹，同根二身，相抱而合成一樹。每有雙鴻、常宿於上。孫權聞之嗟歎，封其里曰『比肩』，墓又曰『雙梓』。後子弘與妻張氏，雖無異，亦相愛慕。吳人又呼為『小比肩』。

校記 廣記三百八十九。○天中記一八，又云出「三吳記」。

(一)○鈞沈手稿「陸東美」下有「者」字。(二)○按此文當有脫誤。(三)○「卒」字鈞沈手稿·排印本引均作「死」，今依各本改。

15 陸機少時^(一)，頗好游獵^(二)，在吳毫盛客獻快犬^(三)，名曰黃耳^(四)。機後仕洛^(五)，常將自隨。此犬點慧、能解人語。又嘗偕人三百里外^(六)，犬識路自還^(七)，一日至家^(八)。機羈旅京師^(九)，久無家問，因戲語犬曰^(一〇)，『我家絕無書信，汝能齎書馳取消息不^(一一)。』犬喜搖尾，作聲應之。機試為書，盛以竹筒，繫之犬頸^(一二)。犬出驛路，疾走向吳^(一三)。飢則入草噬肉取飽^(一四)。每經大水，輒依渡者，弭耳掉尾向之^(一五)，其人憐愛，因呼上船。裁近岸^(一六)，犬即騰上，速去如飛。逕至機家^(一七)，口銜筒作聲示之^(一八)。機家開筒取書，看畢。犬又向人作聲^(一九)，如有所求。其家作答書內筒^(二〇)，復繫犬頸。犬既得答，仍馳還洛^(二一)。計人程五旬^(二二)，而犬往還裁半月^(二三)。後犬死，殯之，遣送還葬機村南^(二四)。去機家二百步^(二五)，聚土為墳^(二六)，村人呼為『黃耳冢』^(二七)。』

校記 類聚九十四。御覽九百五。廣記四百三十七。*事類賦注二十三。*初學記二十九(又嚴陸校宋本異文二九)。草堂詩箋十四節引。○*海錄二二下。記纂淵海一四。*王荊公詩李壁箋注四二(寄四姪旼二首之二)。事文類聚後集四〇。群書類編故事二四。*紹熙雲間志上。*至元嘉禾志一四。天中記五四。*潛確一三。淵鑑四三六狗。*

三農紀一九。鄭氏。

(一)○廣記黃刻本引「陸機」上有「晉」字。(二)○類聚·廣記引無「游」字。(三)御覽引有此「豪盛」字。○廣記引作「有家」。(四)○廣記引無「名」字。(五)○「後」御覽引作「往」、廣記引無。「仕」廣記引作「任」。(六)○廣記引「外」誤作「奴」。汪氏校語云、據明鈔本改。(七)○廣記引「還」作「隨」、汪氏校語云、據明鈔本改。(八)○廣記引無此句四字。(九)○「旅」御覽·廣記引作「官」。(一〇)○「因」御覽·廣記引作「機」。(一一)○御覽引「馳」下有「還」字。「不」廣記引作「否」。(一二)○廣記引無「之」。(一三)○類聚·廣記引無「疾」。(一四)○御覽引無「則」。廣記引無「取飽」二字。(一五)○「耳」類聚·廣記引作「毛」。(一六)○「舡」御覽鮑氏刊本作「船」。「裁」御覽引作「載」。(一七)四字(如飛逕至)類聚引作「先到」。○自「其人」以至「逕至」凡二十一字、廣記引只作「因得載渡到」五字。(一八)○御覽引「筒」作「竹筒」、「之」作「人」。(一九)○類聚引「向」作「伺」。(二〇)○御覽引作「其家作答內筒中」。(二一)○「既得答仍」廣記引作「復」一字。(二二)○「人程」類聚引作「人行程」、廣記引作「人行」。(二三)○廣記引無「而」、「裁」作「纔」。御覽·記纂淵海引無「月」。記纂淵海引至此為止。(二四)○廣記引無「殯之遣送」、而「機」下有「家」。類聚引無「南」。(二五)(二)廣記引作「五」。○但廣記各本均作「二」、未知鈎沈何據云如此。廣記引無「去機家」三字。(二六)○御覽引「聚」作「築」。(二七)○廣記引「呼」下有「之」字。

16 尋陽柴桑縣城、晉永和中、有童謠呼為『平石城』。時人僉謂平滅石之徵也。後桓玄篡位、晉帝為平固王、恭帝為石陽公、俱遷於此城。

校記 御覽一百九十二。○鈎沈本闕卷數、七三年版全集補之。

17 姚興永和十年、華山東界地燃、廣百餘步、草木烟枯、井谷沸竭^(一)、生物皆熟^(二)、民殘之徵也。晉惠帝光熙元年五月、范陽國北、地然可爨。至九月、而驃騎范陽王司馬虓薨。十一月、惠帝因食而崩^(三)。懷帝即位。太傅東海王司馬越殺太宰。河間王司馬顥專柄朝政、又尋死。遂泊永嘉之亂。東海淪殪^(四)、越之嗣副^(五)、亦皆殄滅。石勒焚越之尸、此其應也。

校記 開元占經四。

(一)○庫本引無「沸」。(二)○庫本引「生物」上有「置」字。(三)○庫本引「因」作「用」。(四)○庫本引脫「東」字。(五)○庫本引「嗣」作「亂」、誤。

18 桓冲為江州刺史^(一)、乃遣人周行廬山^(二)、冀覩靈異^(三)。既涉崇嶺^(四)、有一湖、匝生桑樹^(五)。有大群白鵝^(六)、湖中有敗觶赤鱗魚^(七)。使者渴極、欲往飲水。赤鱗張鬐向之、使者不敢飲。

校記 類聚*九·又八十八。*御覽九百三十六。案亦見今本任昉記中。(不見今本述異記)○御覽九五引為出「任昉述異記」。而九三六引止作「述異記」。淵鑑四一四桑·又*三二湖。鄭氏。事見周景式廬山記(御覽六六引)、又見述征記(同上引)、珠林二八引亦作出「述征記」、文大同。廣記四六七引又為「法苑珠林」。

(一)○「冲」類聚九引作「仲」、誤。(二)○御覽引無「乃」字。(三)○御覽九五五引「覩」作「都」、誤。(四)○御覽九五五引無「既」字。(五)○類聚八八引無「匝」字。(六)○類聚八八·御覽引無此句五字。(七)○類聚引無「湖中」、御覽九五五引無「中」字。類聚九引至此為止。

19 荊州刺史桓豁所住齋中、見一人長丈餘、夢曰、『我龍山之神、來無好意。使君既貞固、我當自去耳。』

校記 廣記二百七十六。○汪氏校語云、出甄異記、許本作出述異記、按今見「異苑卷七」。許本作「出■異記」、鈔宋本校勘記云、作「甄異記」、黃本引作出「述異記」。當刪而移諸甄異記（鈎沈18）。鄭氏。

20 晉元興末、魏郡民陳氏女名琬、家在查浦。年十六、飢疫之歲、父母相係死沒^(一)。唯有一兄、傭賃自活。女容色甚豔、鄰中士庶、見其貧弱、競以金帛招要之。女立操貞、概未嘗有許。後值盧循之亂、賊聚將加凌逼、女厲然不迴、遂以被害。

校記 御覽四百四十一引祖沖之記。○天中記二一。鄭氏。

(一)○「係」鮑氏刊本引作「繼」、今依四部叢刊本。

21 義熙四年、盧循在廣州陰規逆謀、潛遣人到南康廟祈請。既奠牲奏鼓、使者獨見一人、武冠朱衣、中筵而坐、曰、「盧征虜若起事、至此當以水相送。」六年春、循遂率衆直造長沙。遣徐道覆踰嶺至南康、裝艦十二^(一)、艫樓十餘丈。舟裝始辦、大雨一日一夜、水起四丈。道覆淩波而下、與循會巴陵、至都而循戰敗。不意神速其誅、洪潦之降、使之自送也。

校記 廣記二百九十五。○古今圖書集成神異典四一。鄭氏。

(一)○黃刻本引「艦」作「艦」、今依許刻本。

22 義熙五年、宋武帝北討鮮卑、大勝、進圍廣固、軍中將佐乃遣使奉牲薦幣謁岱嶽廟。有女巫秦氏、奉高人、同縣索氏之寡妻也。能降靈宣教、言無虛唱。使者設禱^(一)、因訪克捷之期。秦氏乃稱神教曰、「天授英輔、神魔所擬、有征無戰。蕞爾小虜、不足制也。到來年二月五日當剋。」如期而三齊定焉。

校記 廣記二百八十三。○天中記四〇。古今圖書集成神異典三二。鄭氏。

(一)○廣記引「使者」上有「使」字、鈎沈以為衍而刪之。

23 晉義熙中、有劉遁者、居江陵、忽有鬼來遁宅上。遁貧無竈、以汙鎗煮飯^(一)。飯欲熟、輒失之。尋覓於籬下草中、但得餘空鎗。遁密市冶葛、煮以作糜^(二)、鬼復竊之。於屋北得鎗^(三)、仍聞吐聲、從此寂絕。

校記 御覽九百九十。○鄭氏。事亦見搜神後記六一 77 (書鈔一四四・初學記二六・御覽八五九・廣記三一九引)更詳。又見廣記三二二引廣古今五行記。

(一)○四部叢刊本「汙」作「外」。鈎沈依鮑氏刊本。(二)○四部叢刊本「糜」作「麋」。(三)○鈎沈本依鮑氏刊本引「北」作「比」、今依四部叢刊本改。

24 乾羅者慕容廆之十二世祖也^(一)。忽一夕著金銀襦鎧^(二)、乘白馬、金銀鞍勒^(三)、自天而墜^(四)、鮮卑神之^(五)、推為君長。

校記 御覽三百五十六・又六百九十五。書鈔一百二十九・又一百二十六。○編珠二。天中記四七。淵鑑三三八甲・二二九鞍・三七四襦。鄭氏。

(一)「廆」一作「嵬」(書鈔一二六)御覽引作「十一」。○書鈔一二九引無「之」。書鈔一二六引作「十」。(二)○「忽一夕」、今依書鈔一二九補。編珠引作「忽一夕見一神」、淵鑑三七四引亦同。(三)○編珠引無以上二句七字。(四)○書鈔一二六引至此為止。(五)○書鈔一百二十九引至此為止。此句編珠引作「蓋鮮卑神也」、亦引至此。

25 苻健皇始四年^(二)、有長人見、身長五丈、語人張靖曰、『今當太平。』新平令以聞、健以為妖妄^(三)、召靖繫之。是月霖雨、河渭泛溢。蒲坂津監寇登^(三)、於河中流得大屨一隻、長七尺三寸、足跡稱屨、指長尺餘、文深七寸^(四)。

校記 初學記十九。御覽三百七十七引祖沖之。○天中記二一。淵鑑二五六長大人。鄭氏。事見十六國春秋(御覽一六四引)。

(一)○「苻」今依初學記、御覽引作「符」。(二)○御覽引無「為」。(三)御覽引(滿)作「蒲」。○今依御覽改。御覽引無「寇」。(四)○天中記引有續文云、「健歎曰、覆載之中、何所不有、張靖所見、定不虛也。乃赦之。」未知何據。

26 姚萇既殺苻堅^(一)、與苻登相拒於隴東。萇夜夢堅將天帝使者勒兵馳入萇營。以矛刺萇、正中其陰。萇驚覺、陰腫痛、明日遂死。

校記 御覽四百。○鄭氏、注云、事亦見晉書載記。

(一)「符」當作「苻」、下同。

27 秦周訪少時與商人泝江俱行^(一)。夕止宮亭廟下、同侶相語、『誰能入廟中宿。』訪性膽果決、因上廟宿、竟夕宴然。晨起、廟中見有白頭老公^(二)、訪遂擒之、化為雄鴨。訪捉還船、欲烹之、因而飛去。後竟無他。

校記 珠林三十二。○廣記四六二。天中記五八。淵鑑四二六鴨。鄭氏。事亦見尋陽記(御覽九一九引)。

(一)○廣記引「秦」作「晉」、又「訪」作「昉」、下同。周訪、字士述、晉書有傳(五八)。(二)○廣記引「公」作「翁」。

28 呂光永康二年^(一)、有鬼叫於都衛曰^(二)、『兄弟相滅、百姓斃、兩呂絕^(三)。』微吏尋聲視之^(四)、則靡所見^(五)。是年光死^(六)、子紹立五日^(七)、紹庶兄紹而自立^(八)。明年、其弟車騎大將軍常山公征伐屢有戰功^(九)、疑纂不已^(一〇)、帥眾攻、纂所殺。窮酣長酗^(一一)、游走無度。明年、因醉為從弟起所殺、起推兄隆為主。姚興因豐遣叔父征西將軍隴西公碩德伐之^(一二)、隆師徒撓敗、乃稱蕃於姚氏^(一三)、尋為姚氏所滅^(一四)。

校記 占經一百十三。*廣記三百二十一。○鄭氏。

(一)廣記引作「承康」。○廣記引「二」作「元」。(二)○廣記引「衛」作「街」。(三)○庫本引作「兩口絕祀」。廣記引無此三字。(四)○廣記引無「聲」。(五)○廣記引「靡」作「無」。(六)○廣記引「是」作「其」。(七)○占經庫本引作「嬌子」。廣記引「立」作「代立」。(八)已上亦見廣記三百二十一。○庫本引有庶兄之名「纂」。廣記引「纂」下有「殺」而無「而」字。(九)○庫本引「其」作「纂」。「伐」鈎沈引本作「光」、今依庫本改。(一〇)○鈎沈引本「纂」作「贊」、今依改、下同。(一一)○庫本引作「無窮常酗」。(一二)○「因豐」鈎沈引作「因民」、今依庫本。(一三)○此句今依庫本補。(一四)○庫本引「尋」作「三年遂」。

29 □□王子項在荊州^(一)、永光二年^(二)、所位柏折^(三)、棟椽並自濡溼^(四)、汁滴地、明年被誅。

校記 占經一百十四。○鄭氏。

(一)○□□庫本引作「宋臨」、鄭氏依宋書作「臨海」、臨海王劉子項、傳在宋書八〇。(二)○庫本引「二」作「元」。(三)○庫本引「位」作「住庭」。(四)○庫本引「棟椽」作「棟裂」。

30 張軌字士彥、為使持節護羌校尉涼州刺史。客相印曰、『詐傳子孫、長有西夏。』關洛傾陷、而涼土獨全。在職十三年、傳國三世八主一十六載^(一)。

校記 御覽六百八十三。○淵鑑三六八印。鄭氏。

(一)○鄭氏云、自張軌據有涼州、至張天錫降于後秦、共七十六年。這一句中的「一」乃「七」字之誤。

31 張駿有疾、夢出游觀、不識其處、甘泉涌出、有一玄龜、向駿張口言曰、『更九日、當有嘉問好消息。』忽然而覺、自書記之、封在筒中^(二)、人不知也。因寢疾、經九日而死。

校記 御覽四百。○大典一三二三九。鄭氏。

(一)○大典引「筒」上有「竹」字。(二)○「經」字今依各本補。

32 張駿薨、子重華嗣立、虎遣將軍王擢攻拔武御始始與^(一)、進圍抱罕。重華遣宋輯率衆拒之^(三)。濟河、次于金城、將決大戰。乃日有黑虹下于營中^(二)、少日輯病卒^(四)。

校記 書鈔一百五十一。*御覽十四。○淵鑑一一虹蜺。鄭氏。

(一)○鈎沈魯迅輯錄古籍叢編本案語云、據晉書石季龍載記當作「武街始興」。(二)御覽引〔宋輯〕作「樂輯」。
(三)○書鈔引至此為止。(四)○御覽引止作「有黑虹下樂輯營、少日輯病卒。」

33 宋高祖微時、嘗游會稽^(一)、過孔靜宅。正晝臥、有神人衣服非常、謂之曰、『起、天子在門。』既而失之。靜遽出、適與帝遇、延入、結交贈遺。臨別、執帝手曰、『卿後必當大貴。願以身嗣為託。』帝許之。及定京邑、靜自山陰令擢為會稽內史。

校記 御覽一百二十八。○鄭氏。

(一)○御覽四部叢刊本引「稽」作「下」、鈎沈依鮑氏刊本。

34 甄法崇、永初中、為江陵令、在任嚴明。于時南平僂士為江安令、喪官。至其年末^(一)、崇在廳事上、忽見一人從門入云、『僂江安通法崇。』法崇知士已亡、因問、『卿貌何故瘦。』答曰、『我生時所行、善不補惡、今繫苦役、窮劇理盡。』

校記 御覽三百七十八。○天中記二一。鄭氏。事亦見渚宮舊事（廣記三三引）、比本記更詳。

（一）○「末」鈎沈依鮑氏刊本作「歿」、今依四部叢刊本改。

35 宋文帝世、天水梁清家在京師新亭、臘日將祀^(一)、使婢于爨室造食、忽覺空中有物、操杖打婢、婢走告清、清遂往、見甌器自運盛飯斟羹、羅列案上、聞哺餽之聲。清曰、『何不形見。』乃見一人著平上幘、烏皮袴褶、云、『我京兆人、亡沒飄寄、聞卿好士、故來相從。』清便席地共坐、設肴酒。鬼云、『卿有祀事』云云。清圖某郡、先以訪鬼、鬼云、『所規必諧、某月某日除出。』果然。鬼云、『郡甚優閒、吾願周旋。』清答甚善。後停舟石頭、待之五日、鬼不來。於是引路達彭城、方見至。同在郡數年、還都、亦相隨而返。

校記 廣記三百二十三。○鄭氏。

（一）○「日」汪校本引作「月」。

36 宋車騎大將軍南譙王劉義宣鎮荊州^(一)。府吏蔡鐵者、其人善卜^(二)、能悉驗、時有妙見、精究如神^(三)。公嘗在內齋、見一白鼠、緣屋梁上、乃命左右射得之^(四)、內置函中。時侍者六人悉驅入齋後小小戶內、別呼人召鐵。鐵至^(五)、使卜函中何物^(六)、謂曰、『中則厚賞、僻加重罰。』鐵卜兆成^(七)、笑曰、『具已知矣^(八)。』公曰、『狀之^(九)。』鐵為之狀曰^(一〇)、『兌色之鼠背明戶^(一一)、彎弧射之絕左股^(一二)。鼠孕五子^(一三)、三雄而兩雌^(一四)、若不見信^(一五)、剖腹而立知。』公

乃使剖鼠腹^(二六)、皆如鐵言^(二七)、即賜錢一萬^(二八)。

校記 類聚九十五。御覽七百二十六・又九百十一。○*天中記五四。淵鑑四三三鼠。鄭氏。

(一)〔車騎大將軍〕五字御覽引有。○鈎沈排印本作「二字」、誤、手稿作「五字」。御覽七二六引脫「大」字。(二)〔者其人〕三字御覽(九一一)引有、又(七二六引)「鐵」作「鐵」、注云「音尖」。○御覽九一一引作「鐵」。(三)○自「能悉驗」至此、三句十一字、御覽九一一引無。(四)○「梁上乃」三字、御覽引無。「得」字、依四部叢刊本補之。(五)「能悉驗」至此、已上類聚引作「宣射得一白鼠置函乃召鐵」、今依御覽(七二六)。「鐵至」御覽九一一引作「既至」。(六)○「何」御覽九一一引有。(七)○自「謂曰」至「鐵」凡十一字、御覽九一一引無。類聚引「則」作「者」、又「僻」下有「即」字、而無「卜」字。鮑氏刊本引「加」作「如」。(八)○御覽七二六引作「知之矣」。(九)○御覽七二六引作「何」一字。(一〇)〔為之狀〕三字御覽(九一一)引有。(一一)○「戶」上鮑氏刊本引有「向」字。(一二)○御覽引「左股」上有「其」字。(一三)○御覽七二六引無「鼠」字。類聚引無「五子」。(一四)○御覽七二六引無「而」、下句亦同。(一五)○御覽七二六引作「若謂不信」。(一六)○御覽七二六引無「乃」字。(一七)○御覽九一一引「言」下有「也」字。(一八)○御覽九一一引無「即」。

37 宋元嘉中、南康平固人黃苗為州吏、受假違期。方上行、經宮亭湖、入廟下願、希免罰坐、又欲還家、若所願並遂、當上猪酒。苗至州、皆得如志、乃還。資裝既薄、遂不過廟、行至都界、與同侶並船泊宿。中夜、船忽從水自下、其疾如風、介夜四更、苗至宮亭、始醒悟。見船上有三人、並烏衣、持繩收縛苗、夜上廟階下。見神年可四十、黃面披錦袍^(一)、梁下縣一珠、大如彈丸、光耀照屋^(二)。一人戶外白、平固黃苗、上願猪酒、遯回家、教錄、今到。『命謫三年、取三十人。遣吏送苗窮山林中、鑱腰繫樹、日以生肉食之。苗忽忽憂思、但覺寒熱身瘡、舉體生斑毛。經一旬、毛蔽身

(三)、爪牙生、性欲搏噬。吏解鑕放之、隨其行止。三年、凡得二十九人。次應取新淦一女、而此女士族、初不出外、後值與娣妹從後門出詣親家^(四)、女最在後、因取之。為此女難得、涉五年、人數乃充。吏送至廟、神教放遣。乃以鹽飯飲之、體毛稍落、鬢髮悉出、爪牙墮、生新者、經十五日、還如人形、意慮復常、送出大路。縣令呼苗具疏事、覆前後所取人、遍問其家、並符合焉。髀為戟所傷、創癰尚在。苗還家八年、得時疾死。

校記 廣記二百九十六。○古今圖書集成神異典三一。鄭氏。

(一)○「面」、各本皆作「白」、汪氏校語云、面原作白、據明鈔本改。今依汪校本。(二)○「耀」、各本作「輝」、但廣記鈔宋本引「輝」作「耀」、鈎沈亦作「耀」、今依舊。(三)○「蔽」、鈎沈引作「被」、今依各本改。(四)○鈎沈引脫「詣」、今依補。

38 南康縣營民區敬之、宋元嘉元年與息共乘舫、自縣沂流、深入小溪、幽荒險絕、人迹所未嘗至。夕登岸、停止舍中、敬之中惡猝死。其子然火守戶^(一)、忽聞遠哭聲呼阿舅、孝子驚疑、俛仰間哭者已至。如人長大、被髮至足、髮多蔽面^(二)、不見七竅、因呼孝子姓名慰唁之。孝子恐懼、遽聚薪以然火^(三)。此物言、『故來相慰^(四)、當何所畏、將須然火。』此物坐亡人頭邊哭、孝子於火光中竊窺之。見此物以面掩亡人面、亡人面須臾裂剝露骨^(五)。孝子懼、欲擊之、無兵仗。須臾、其父尸見白骨、連續而皮肉都盡^(六)。竟不測此物是何鬼神。

校記 廣記三百二十四。○鄭氏。

(一)○「然」各本引作「燃」、下同。但廣記鈔宋本引作「然」、鈎沈亦同。(二)○「蔽」鈎沈引作「被」、今依各本改。(三)○「遽聚」、廣記鈔宋本引墨釘作「遽聚」。汪氏校語云、「遂聚」據明鈔本補。今依鈔宋本改、鈎沈本依黃氏刻本作「因悉」。(四)○鈔宋本引「慰」作「嫗」。(五)○鈔宋本引無「亡人面須」四字。(六)○「肉」鈎沈引作「骨」、今依各本改。

39 宋元嘉初、鎮北將軍王仲德鎮彭城、左右出臘、遇一鶴、將二子、悉禽之歸、以獻王、王使養之。其小者口為人所裂、遂不能飲食、大者輒含粟哺之^(一)、飲輒含水飲之、先令其飽、未嘗亡也。王甚愛之、令精加養視。大者羽翮先成、每翥冲天。小者尚未能飛、大者終不先去、留飲飴之。又於庭中蹇躍、教其飛颺。六十餘日、小者能飛、乃與俱去。

校記 御覽九百十六。○天中記五八。淵鑑四二〇鶴。鄭氏。

(一)○「輒」鮑氏刊本引作「即」、今依四部叢刊本改。

40 青州有劉幡者、元嘉初、射得一麋、剖腹以草塞之、蹶然而起、俄而前走。幡怪而拔其塞草、須臾還臥、如此三焉。幡密錄此種、以求其類、理創多驗。

校記 廣記四百四十三。○古今圖書集成禽蟲典七六。鄭氏。

(一)○鈎沈引「驗」作「愈」、或以意改歟、今依各本。

41 宋元嘉初、富陽人姓王、于窮瀆中作蟹斷^(一)、旦往視之^(二)、見一材長二尺許在斷中^(三)、而斷裂開^(四)、蟹出都盡。乃修治斷、出材岸上。明往視之^(五)、見材復在斷中、斷敗如前^(六)。王又治斷出材。明晨往視^(七)、所見如初。王疑此材妖異、乃取內蟹籠中、繫擔頭歸^(八)、云^(九)、『至家當斧破然之^(一〇)。』未至家三里^(一一)、聞中倅倅動、轉顧見向材頭變成一物、人面猴身、一手一足、語王曰、『我性嗜蟹、比日實入水破君蟹斷^(一二)、入斷食蟹、相負已爾^(一三)、望君見恕、開籠出我。我是山神、當相佑助、並令斷大得蟹^(一四)。』王曰、『汝犯暴人、前後非一罪、自應死。』此物種類專請乞放^(一五)、王迴頭不應^(一六)。物曰^(一七)、『君何姓何名^(一八)。我欲知之。』頻問不已^(一九)、王遂不答^(二〇)。去家轉近、物曰『既不放我、又不告我姓名、當復何計、但應就死耳。』王至家熾火焚之、後寂然無復異^(二一)。土俗謂之山獠^(二二)、云知人

姓名、則能中傷人、所以勤勤問王^(三)、正欲害人自免。」

校記 珠林三十一。廣記三百二十三。○鄭氏。事見搜神後記七—79（廣記三六〇引作搜神記、而不見今本）。

（一）○廣記引「斷」作「斷」、下同。廣記鈔宋本作「斷」、又凡「蟹」皆作「解」。（二）○鈔宋本引「視」作「觀」。廣記引無「之」。（三）○廣記引「材」下有「頭」字。（四）○廣記引無「中而斷」三字。（五）○廣記引「視」作「看」。（六）○「斷」今依珠林補、廣記引無。（七）○珠林引無「往視」二字。廣記引「出材明晨」作「再」一字。（八）○鈔宋本引「擔頭」作「頭擔」。珠林引作「攣頭擔歸」。（九）○珠林引「云」作「去」而接上。（一〇）○廣記引無「斧」。珠林引「破」作「斫」。（一一）○廣記引「至」作「之」。（一二）○「比日實」廣記引作「此寔」、又「君」作「若」。鈔宋本引「此」作「比」。（一三）○廣記引「爾」作「多」。（一四）○「并令」廣記引作「使全」。（一五）（種類專）三字廣記引作「轉頓」。（一六）○廣記引無此句五字。（一七）○「物曰」廣記引作「又頻問」。（一八）○廣記引作「姓名為何」。（一九）○廣記引無以上二句八字。（二〇）○廣記引作「王回顧不應答」。（二一）○廣記引無「然」。（二二）○（山□）廣記引作「山魃」。（二三）○廣記引無「勤」及「王」。

42 郭仲產宅在江陵批把寺南^(一)。宋元嘉中、起齊屋、以竹為窗櫺^(二)、竹遂漸生枝葉、長數丈^(三)、鬱然如林^(四)、仲產以為吉祥^(五)。及孝建中、被誅。

校記 御覽八百八十五。廣記三百六十。○大典一九八六引為「任昉述異記」。天中記五三。鄭氏。事亦見渚宮故事（廣記一四一引）。

（一）○汪氏校語云、「在」原作「見」、據明鈔本改。許刻本作「見」、大典引作「在」、黃刻本亦作「在」。「批把」廣記·大典均引作「枇杷」。（二）○「以竹」廣記引作「竹以」。（三）○大典引「丈」作「尺」、誤。（四）

○廣記・大典引「如」作「成」。(五)○大典引無此句六字。

43 宋元嘉中^(二)、吳縣中都里石玄度家、有黃狗生白雄子、母愛其子、異於常犬、銜食飴之、子成大狗。子每出獵未反、母輒門外望之。玄度久患氣嗽、轉就危困、醫為處湯、須白狗肺^(三)、市索卒不能得^(四)、乃殺所養白狗、以供湯用。母向子死處、跳踊嗥呼、倒地復起、累日不息。其家煮狗子肉^(四)、與客共食之、投骨于地、母輒銜置窟中^(五)、食畢、移入後園大桑樹下、掘土埋之、日向樹嗥喚、月餘乃止。玄度漸劇、臨死屢言^(六)、『湯不救我疾^(七)、恨殺此狗。』其弟法度從此終身不食狗肉。

校記 御覽九百七。廣記四百三十七。*類聚九十四。○*潛確一一三。淵鑑四三六狗。鄭氏。

藝文類聚九十四云、宋元嘉中、石玄度家有黃狗、生白雄子。母孕其子、異於常狗、銜食食之。子大、其狗出獵未反、輒門外望之。後玄度病、輒危困。醫為處方、湯須白狗肺。市索卒不能得、乃殺所養白狗、以湯供其用。母向子死處、跳踊嗥呼、倒復起、竟日不息。其家煮狗子肉共食之。投骨於地、母輒銜著窟中。

太平廣記四三七云、宋元徽中、有石玄度者、畜一黃犬。生一子而色白、犬母愛之異常、每銜食飼之。及長成、玄度每出獵未歸、犬母輒門外望之。後玄度患氣嗽、漸就危篤。醫為處方、須白狗肺焉。市索卒不得、乃殺所畜白狗、取肺以供湯用。既而犬母跳躍嗥叫、累日不息。其家人煮狗、與客食之。投骨於地、犬母輒銜置屋中、食畢、乃移入後園中一桑樹下、爬土埋之、日夕向樹嗥吠、月餘方止。而玄度所疾不瘳、以至於卒。終謂左右曰、湯不救我疾、實枉殺此狗。其弟法度、自此不食犬肉焉。

(一)御覽・廣記引作「元徽」。(二)(狗肺)御覽引作「犬牙」。○四部叢刊本引作「犬肺」。(三)○御覽・廣記引無「能」字。(四)○「狗子肉」四部叢刊本引作「肉」一字、鮑氏刊本作「狗肉」。(五)已上亦見類聚九十四。○鈎沈排印本「母」下有「親」字、但手稿並類聚・御覽・廣記引均無、今依刪。(六)廣記引作「而

玄度所疾不瘳、以至于卒、終謂左右曰」。(七)○「我疾」二字、鈎沈依廣記補之。

44 安國李道豫、宋元嘉中、其家大臥於當路、豫蹶之^(一)、犬曰、「汝即死、何以踏我。」豫未幾而卒。

校記 廣記四百三十八。○鄭氏。

(一)○廣記鈔宋本引「蹶」作「蹶」。

45 庾季隨有節概、膂力絕人。宋元嘉中、得疾晝臥、有白氣如雲、出於室內、高五尺許、有頃化為雄雞、飛集別牀。季隨斫之、應手有聲、形即滅、地血滂沱^(一)。仍聞蠻嫗哭聲、但呼阿子、自遠而來、徑至血處。季隨復斫、有物類猴、走出戶外、瞋目顧視季隨、忽然不見。至晡、有二青衣小兒、直從門入、唱云、「庾季隨殺官。」俄而有百餘人、或黑衣或朱衣遶屋^(二)、齊喚云、「庾季隨殺官。」季隨揮刀大呼^(三)、鬼皆走出滅形。還步忽投寺中、子忽失父所在。至寺、見父有鬼逐後、以皮囊收其氣^(四)、數日遂亡。

校記 廣記三百二十五。○鄭氏。

(一)○「沱」、各本皆作「流」、鈎沈或以意改歟。(二)○廣記鈔宋本引「遶」作「遶」。今依鈔宋本。(三)

○鈔宋本引「揮」作「跳」。(四)○鈔宋本引「收」作「取」。

46 南康郡鄧德明、嘗在豫章就雷次宗學、雷家住東郊之外^(一)、去史豫章墓半里許。元嘉十四年、德明與諸生步月逍遙、忽聞音樂諷誦之聲^(二)、即夜白雷、出聽曰、「此間去人尚遠、必鬼神也。」乃相與尋之、遙至史墓、但聞墳下有管絃女歌誦吟咏之聲^(三)、咸歎異焉。

校記 御覽五百五十九。○淵鑑一八三塚墓。鄭氏。

(一)○御覽四部叢刊本引「住」作「世」。(二)○「聞」四部叢刊本引作「開」、又「絃」作「縮」、而無「誦」。

47 薄紹之嘗為臧質參軍、元嘉二十四年、寄居東府之西賓別宅中、與祖法開鄰舍。開母劉、寢疾彌旬、以二十四年五月一日夜半亡^(一)。二日、紹之見群鼠、大者如豚、鮮澤五色、或純、或駁、或著平上幘、或著籠頭^(二)、大小百數、彌日累夜。至十九日黃昏、內屋四簷上有一白鼠、長二尺許、走入壁下、入處起火、以水灌之、火不滅、良久自滅。其夜見人、修壯赤色、身光如火、從燒壁中出、經人牀下、又出壁外。雖隔一壁、當時光明洞徹、了不覺有隔障^(三)。四更、復有四人、或與紹之言相佑、或瞋目吐舌、自暮迄旦。後夕^(四)、復燒屋、有二人長九尺許、騎馬挾弓矢、賓從數十人^(五)、呼為將軍。紹之問、『汝行何向。』答云、『被使往東邊病人還。』二十一日、群黨又至。家先有一白狗、自有鬼怪、暮常失之、至曉輒還。爾夕試繫之、須臾、有一女子來云、『勿繫此狗、願以見乞。』答、『便以相與。』投繩、竟不敢解、倏然走出。狗於是呻喚垂死、經日不能動。有一人、披錦袍、彎弧、注鏃直向。紹之謂、『汝是妖邪、敢于恐人^(六)。我不畏汝、汝若不速去、令大道神尋收治汝^(七)。』鬼弛弦縱矢^(八)、策馬而去。

校記 廣記三百二十五。○鄭氏。

(一)○鄭氏注云、詳上下文意、這一句裏的「二十二年」當作「二十四年」。今依鄭氏改。(二)○許本・汪校本皆作「籠」、鈎沈本作「龍」、今依改。(三)○「有」各本皆作「又」、疑鈎沈以意改。(四)○廣記鈔宋本「後」作「二十日」。(五)○鈔宋本引無「人」字。(六)○「于」許本・汪本引作「干」。鈎沈依黃刻本。(七)○鈔宋本引「若不速去令」作「不速去」。(八)○「弛」鈎沈排印本引作「馳」、誤、今依正。鈔宋本「矢」作「箭」。

48 嘉興縣寧陶村朱休之有弟朱元^(一)、元嘉二十五年十月清旦^(二)、兄弟對坐家中^(三)、有一犬來、向休之蹲^(四)、遍視二人而笑、遂搖頭歌曰^(五)、『言我不能歌、聽我歌梅花、今年故復可、奈汝明年何^(六)。』其家驚懼、斬犬榜首路側^(七)。

至歲末梅花時^(八)、兄弟相鬪、弟奮戟傷兄^(九)、官收治、並被囚繫、經歲得免。至夏、舉家時疾、母及兄弟皆卒^(一〇)。
校記 御覽九百七十。又*八百八十五·又*九百五。類聚八十六。案今本任昉述異記⁽²⁸³⁾亦載之、文較略。○
廣記四三八引為出「集異記」、情節全同。案「集」當是「述」之訛譌。*事類賦注二三。天中記五四。潛確一三。
淵鑑四〇〇梅·又四三六狗。*續編珠二。鄭氏。

(一)○類聚引作「嘉興縣朱休之有一弟」。(二)○類聚引作「元嘉中」。(三)○類聚引無「中」字。(四)
○今依類聚·御覽鮑氏刊本補「之」字。(五)○類聚引「歌」作「而笑」、而上句引無「而笑」。御覽八八五引「歌」
作「語」。(六)御覽一「九〇五」引作「明年當奈何」。(七)○「榜」鈎沈依鮑氏刊本「榜」改作「勝」、今
依四部叢刊本。四部叢刊本「榜」下空闕一格、鮑氏刊本雙行注云、「音滂」。(八)○「歲末」類聚引作「來歲」。
(九)○「相鬪弟奮戟傷兄」御覽九七〇引作「相忿奮戟傷兄」、又八八五引作「相鬪弟戰(鮑氏作戟)傷兄」。又八
八五引以下作「收繫皆死」。(一〇)○類聚引「卒」作「死」。

49 高平曹宗之、元嘉二十五年在彭城、夜寢不寤、旦亡^(一)、晡時氣息還通、自說所見、一人單衣幘、執手板、稱北
海王使者、殿下相喚。宗之隨去殿前、中庭有輕雲、去地數十丈、流蔭徘徊、帷恍之間、有紫烟飄飄、風吹近人、其香
非常。使者曰、「君停階下、今人白之。」須臾傳令、「謝曹君、君事能可稱、久懷欽遲、今欲相屈為府佐。君今年幾
嘗經函簿官未。」宗之答、「才幹素弱、仰慚聖恩、今年三十一、未嘗經函簿官。」又報曰、「君年算雖少、然先有福業、
應受顯要、當經函簿官、乃辭身可且歸家、後當更議也。」尋見向使者送出門、恍忽而醒。宗之後任廣州^(二)、年四十七、
明年職解、遂還州、病亡。

校記 廣記三百七十七。○鄭氏。

(一)○廣記鈔宋本引「亡」作「遂亡」。(二)○「任」鈎沈引作「仕」、今依各本改。

50 宋時豫章胡庇之^(一)、嘗為武昌郡丞、宋元嘉二十六年入解中^(二)、便有鬼怪^(三)。中宵籠月^(四)、戶牖少開、有人倚立戶外、狀似小兒。戶閉、便聞人行、如著木屨聲^(五)、看則無所見、如此甚數。二十八年三月^(六)、舉家悉得時病。空中語^(七)、擲瓦石或是乾土。夏中病者皆著^(八)、而語擲之勢更猛。乃請道人齋戒、竟夜轉經^(九)、倍來如雨、唯不著道人及經卷而已。秋冬漸有音聲、瓦石擲人、內皆青黯^(一〇)、而不甚痛^(一一)。庇之有一老婢^(一二)、好罵詈鬼、在邊大嚇。庇之迎祭酒上章、施符驅逐、漸復歇絕。至二十九年、鬼復來、劇於前。明年、丞廨火頻四發、狼狽澆沃、並得時死^(一三)。鬼每有聲如犬、家人每呼為吃噉、後忽語、語似牛^(一四)。三更叩戶、庇之問、『誰也。』答曰、『程邵陵。』把火出看、了無所見。數日、二更中(一五)、復戶外叩掌、便復罵之。答云、『君勿罵我、我是善神、非前後來者、陶御史見遣報君。』庇之云、『我不識陶御史。』鬼云^(一六)、『陶敬玄、君昔與之周旋。』庇之云、『吾與之在京日、伏事衡陽、又不嘗作御史。』鬼云、『陶令處福地^(一七)、作天上御史。前後相侵、是沈公所為。此廨本是沈宅、因來看宅^(一八)、聊復語擲狡獪。忽君攘卻太過^(一九)、乃至罵詈、令婢使無禮向之^(二〇)、復令祭酒上章、苦罪狀之^(二一)、事徹天曹。沈今上天言、君是佛三歸弟子^(二二)、那不從佛家請福、乃使祭酒上章。自今唯願專意奉法、不須與惡鬼相當^(二三)。』庇之請諸尼讀經、仍齋訖^(二四)。經一宿後、復聞戶外御史相聞、『白胡丞。見沈相訟甚苦^(二五)。如其所言、君頗無理^(二六)。若能歸誠正覺、習經持戒、則群邪屏絕。依依曩情、故相白也。』

校記 珠林四十六。○廣記三三四引為出「珠林」。鄭氏。

(一)○廣記引無「時」。(二)○廣記引無「中」。(三)○廣記引「怪」作「在焉」。(四)○廣記引「籠」作「籠」。(五)○廣記引「屨」作「屨」。(六)○廣記引「三」作「二」。(七)○廣記引「語」作「投」。
下「語擲」亦同。或當從。(八)○廣記引「著」作「差」。(九)○廣記引作「轉經竟從」。(一〇)○珠林大正大藏本・廣記引「內」作「肉」、當從、鈎沈依珠林百二十卷本。(一一)○廣記引「不」作「亦」。(一二)

○廣記引無「庇之」。(一三)案有譌字。○鈎沈依珠林引作「並得時死」、廣記引作「並息」。(一四)○廣記引作「音似吳」。(一五)○廣記引「二」作「三」。(一六)○廣記引無「鬼」。(一七)○大正大藏本引「令」作「今」。(一八)○廣記引無「因」。(一九)○大正大藏本引「忽」作「忿」。廣記引「忽君攘却」作「忿戾攘却」。(二〇)○廣記引「令」作「命」。(二一)○廣記引「苦罪狀之」作「告罪狀」。(二二)○廣記引「上天言君」作「為天然君」。(二三)「當」下疑奪「不」字。○鈎沈本依珠林百二十卷本作「不須與惡鬼當相困」、廣記引作「不須與惡鬼相當」、今從廣記。(二四)○廣記引作「庇之因請諸僧誦經齋戒訖」。(二五)○廣記引「見」作「今」。(二六)○鈎沈作「禮」、但珠林大正大藏本・四部叢刊本及廣記諸本皆作「理」、今依正。

51 燉煌索萬興、晝坐廳事東間齋中。一奴子忽見一人著幘、牽一驄馬、直從門入。負一物、狀如烏皮隱囊、置砌下、便牽馬出門。囊自輪轉、徑入齋中、緣牀腳而上、止于興膝前^(一)。皮即四處卷開、見其中周匝是眼、動瞬甚可憎惡。良久又還更舒合。仍輪轉下牀、落砌西去。興令奴子逐、至廳事東頭滅。惡之、因得疾亡。

校記 廣記三百二十五。○鄭氏。

(一)○廣記鈔宋本引「止于」作「正住」。

52 郭秀之寓居海陵、宋元嘉二十九年、年七十三、病止堂屋。北有大棗樹、高四丈許。小婢晨起、開戶埽地、見棗樹上有一人、修壯黑色、著皁襜褕、烏韋袴褶、手操弧矢、正立南面。舉家出看、並見了了^(一)。秀之扶杖視之、此人謂秀之曰、「僕來召君、君宜速裝。」日出便不復見^(二)、積五十三日如此。秀之亡後便絕。

校記 廣記三百二十五。○鄭氏。

(一)○鈎沈引「舉」作「覺」、今依諸本改。廣記鈔宋本引作「並見了了」。鈎沈空闕二格。許刻本・黃刻本皆作「見

了」。汪氏校語云、了字原闕、據明鈔本補、而作「見了了」。今依鈔宋本。(二)○鈔宋本引「日」作「東日」。

53 陶繼之元嘉末為秣陵令^(二)、殺劫。其中一人是大樂伎、不為劫、而陶逼殺之。將死曰、『我實不作劫、遂見枉殺、若有鬼^(三)、必自訴理。』少時^(四)、陶夢此伎來云^(四)、『昔枉見殺^(五)、訴天得理^(六)、今故取君^(七)。』遂跳入陶口、仍落腹中^(八)、須臾復出^(九)、乃相謂云、『今直取陶秣陵、亦無所用、更議王丹陽耳^(一〇)。』言訖、遂沒^(一一)。陶未幾而卒^(一二)。王丹陽果亡^(一三)。

校記 廣記三百二十三。御覽四百六。*六帖二十三。○*白帖七。白帖·六帖引為出「述征記」。鄭氏。

白帖云、陶繼為秣陵令、枉殺樂伎。後夢伎來曰、訴天得理、今來相取。遂跳入口中。繼斯須而死。

(一)○鈔宋本校勘記云、本節文內凡「陶繼之」均作「陶經之」。(二)○鈎沈引「有」作「見」、今依御覽四部叢刊本改。(三)「殺劫」至此、已上六帖廣記引並作「嘗枉殺樂伎」、今依御覽引補。(四)○鈎沈引無「陶」、又無「此」、今均依御覽四部叢刊本補。(五)○御覽引無此句四字。(六)○御覽引「理」作「雪」。(七)○御覽引作「今來相取」。廣記鈔宋本引「嘗枉殺樂伎夜夢伎來云昔枉見殺訴天得理今故取君」作「忽見二鬼皆長尺許朱衣徑趨膝前」。按此「二鬼」當與後文「並沒」相應也。(八)○御覽引「口」下有「中」字。鈔宋本引「陶口仍落腹中」作「口中」。(九)○鈔宋本引「復」作「俱」。(一〇)○鈎沈依廣記黃刻本作「王」、而許刻本·汪校本均作「上」。(一一)○許刻本·汪校本引「遂」作「並」。(一二)○自「仍落」至此、以上御覽引作「仍落腹而倒、俄而陶遂病死」。(一三)○鈔宋本「陽」作「陽□而」。

54 黃州治下有黃父鬼、出則為祟。所著衣帽皆黃^(一)、至人家張口而笑、必得疫癘^(二)。長短無定、隨籬高下。自不出已十餘年、土俗畏怖。廬陵人郭慶之有家生婢名採薇、年少有色。宋孝建中、忽有一人、自稱山靈、裸身長丈餘、臂腦

皆有黃色、膚貌端潔、言音周正、土俗呼為黃父鬼、來通此婢。婢云、意事如人、鬼遂數來。常隱其身、時或露形、形變無常、乍大乍小、或似烟氣、或為石、或作小兒、或婦人、或如鳥如獸。足跡如人、長二尺許、或似鵝迹、掌大如盤。開戶閉牖^(三)、其人如神、與婢戲笑如人。

校記 廣記三百二十五。○鄭氏。事見異苑六、文甚簡。

(一)○「恰」廣記諸本引均作「恰」、鈎沈以意改作「恰」。(二)○鈔宋本「癘」作「狀」。按當於「疫」字斷句、「狀」下接。鈎沈顛倒「疫癘」、今正。(三)○按「開」疑當作「閉」。

55 宋費慶伯者、孝建中仕為州治中。假歸至家、忽見三騶皆赤幘同來云、「官喚。」慶伯云、「纔謁歸、那得見召。且汝常黑幘、今何得皆赤幘也。」騶答云、「非此間官也。」慶伯方知非生人、遂叩頭祈之^(一)。三騶同詞、因許回喚、言、「卻後四日、當更詣君、可辦少酒食見待、慎勿泄也。」如期果至。云、「已得為力矣^(二)。」慶伯欣喜拜謝、躬設酒食、見鬼飲噉、不異生人。臨去曰、「哀君故爾、乞祕隱也。」慶伯妻性猜妬、謂伯云、「此必妖魅所罔也^(三)。」慶伯不得已、因具告其狀。俄見向三騶、楚撻流血、怒而立於前曰、「君何相誤也。」言訖失所在。慶伯遂得暴疾、未旦而卒。

校記 廣記三百二十六。○鄭氏。

(一)○諸本皆引有「之」、今依補。(二)○廣記鈔宋本引「為力」作「相為」。(三)○鈔宋本引「妖魅所罔」作「情私所要」。按與前文「猜妬」相應也。

56 潁川庾某、宋孝建中、遇疾亡。心下猶溫、經宿未殯。忽然而寤說^(一)、初死有兩人黑衣、來收縛之、驅使前行、見一大城、門樓高峻、防衛重複。將庾入廳前、同人者甚眾。廳上一貴人南向坐、侍直數百、呼為府君、府君執筆簡問到者^(二)、次至庾曰、「此人算尚未盡。」催遣之、一人階上來引庾出、至城門、語吏差人送之^(三)。門吏云、「須覆白、

然後得去。『門外一女子、年十五六、容色閑麗、曰、『庾君幸得歸、而留停如此、是門司求物。』庾云、『向被錄、輕來無所贖持^(四)。』女脫左臂三隻金釧投庾云^(五)、『并此與之。』庾問女何姓、云、『姓張、家在茅渚、昨霍亂亡^(六)。』庾曰、『我臨亡遺贖五千錢^(七)、擬市材、若再生、當送此錢相報。』女曰^(八)、『不忍見君艱厄^(九)、此我私物、不煩還家中也。』庾以釧與吏、吏受竟不覆白^(一〇)、便差人送去^(一一)。庾與女別、女長歎泣下。庾既恍忽蘇、至茅渚尋求、果有張氏新亡少女云。

校記 廣記三百八十三。○許刻本・黃刻本引均為此條出「還異記」、汪校本云、出「還冤記」。不見今本還冤志。今暫存焉。

(一)○「瘡」鈎沈引依黃刻本作「語」、今依改。(二)○「問」許刻本・汪校本引作「閱」、當從、黃刻本引作「問」、鈎沈因改作「問」。(三)○「語」鈎沈引作「也」、今依許刻本・汪校本改。(四)○「齋」、鈎沈引依黃刻本作「齋」、今依許刻本・汪校本改。(五)○「隻金」鈎沈引作「年坐」、今依許刻本・汪校本改。(六)○「霍」鈎沈引作「遭」、黃本作「電」、今依改。(七)○「齋」汪氏校語云、「齋」原作「齋」、據明鈔本改。今從此。(八)○「曰」鈎沈引依黃刻本作「以」、今依許刻本・汪校本改。(九)○「艱」鈎沈引作「獨」、黃刻本作「燭」。今依許刻・汪校本。(一〇)○「以釧與吏吏受」六字、鈎沈手稿・排印本均空闕六格、黃本引作「之知與人之受」、意不通、今依汪校本補。汪氏校語云、「以」原作「之」、據明鈔本改。(一一)○「便」鈎沈引作「更」、今依諸本改。

57 王瑤宋大明三年、在都病亡。瑤亡後、有一鬼細長黑色、袒著犢鼻褌、恆來其家。或歌嘯、或學人語、常以糞穢投入食中。又於東鄰庾家犯觸人、不異王家時。庾語鬼、『以土石投我、了非所畏^(一)、若以錢見擲、此真見困。』鬼便以新錢數十、正擲庾額。庾復言、『新錢不能令痛、唯畏烏錢耳^(二)。』鬼以烏錢擲之、前後六七過、合得百餘錢。

校記 廣記三百二十五。○鄭氏。

(一)○「了」、鈎沈手稿・排印本均作空闕一格、許刻本・黃刻本皆作「子」而汪校本依明鈔本改作「了」。今從。
(二)○廣記鈔宋本引「鳥」作「烏」、下同。今不從。

58 東平畢衆寶、家在彭城。有一驄馬甚快、常乘出入、至所愛惜。宋大明六年、衆寶夜夢見其亡兄衆慶曰、『吾有戎役、方置艱危、而無得快馬、汝可以驄馬見與。』衆寶許諾。既覺、呼同宿客說所夢、始畢、仍聞馬倒聲。遣人視之、裁餘氣息^(二)、狀如中惡。衆寶心知其故、為試治療、向晨馬死。衆寶還臥如欲眠、聞衆慶語云、『向聊求馬、汝治護備至、將不惜之。今以相還、別更覓也。』至曉馬活、食時復常。

校記 御覽八百九十七。○淵鑑四三三馬。鄭氏。

(一)○鈎沈引「裁」作「栽」、今依正。

59 宋驃騎大將軍河東柳元景、大明八年、少帝即位^(二)。元景乘車行還、使人在中庭洗車轅、曬之。有飄風中門而入、直來衝車。明年而闔門被誅^(三)。

校記 御覽八百八十五。○鄭氏。

(一)○「帝」鈎沈引作「年」、誤、今依正。 (二)○四部叢刊本引「闔」作「聞」。

60 宋大明中^(二)、頓丘縣令劉順^(三)、酒酣。蚤入妾許眠^(四)、晨起、見牀榻上有一聚凝血^(四)、如覆盆形。劉是武人、了不驚怪^(五)。乃令擣齏^(六)、親自切血、染齏食之。棄其所餘^(七)。後十許載、至元徽二年、為王道隆所害。

校記 御覽八百八十五。廣記三百六十。○鄭氏。

(一)○廣記引「大明」作「大元」、誤。廣記鈔宋本「元」作「明」。汪氏校語亦云、「明」原作「元」、據陳校本改。
(二)○廣記引無「縣」字。
(三)○此句五字、依廣記補。
(四)○廣記引無「牀」字。
(五)○鈔宋本引無「驚」字。
(六)○廣記引「擣」作「作」。
(七)○廣記引「所」作「有」。鈔宋本引「有」作「所」。

61 武康徐氏、宋太元中^(一)、病瘡、連治不斷。有人告之曰、『可作數團飯、出道頭呼傷死人姓名云、「為我斷瘡、今以此團與汝。」擲之徑還、勿反顧也。』病者如言、乃呼晉故車騎將軍沈充。須臾、有乘馬導從而至、問『汝為何人^(二)、而敢名官家。』因縛將去^(三)。舉家尋覓經日、乃於冢側叢棘下得之。繩猶在時、瘡遂獲痊。

校記 御覽七百六十六。○四部叢刊本引為出「異記」、鮑氏刊本作「述異記」。鄭氏。

(一)「太元」疑是「大明」之譌。
(二)「為」今依諸本補。
(三)「縛」四部叢刊本引作「傳」。

62 劉德願兄子太宰從事中郎道存、景和元年五月^(一)、忽有白蚓數十、登其齋前砌上、通身白色、人所未嘗見也。蚓並張口吐舌^(二)、大赤色。其年八月與德願並誅。

校記 御覽九百四十七。廣記四百七十三。○潛確二一八。淵鑑四四八蚯蚓。鄭氏。

(一)○廣記引無「五月」。
(二)○「吐」鈎沈引作「吞」、今依正。廣記鈔宋本引「吐」作「吐舌」。汪氏校語亦云、「舌」字原闕、據明鈔本補。今從。

63 周登之家在都。宋明帝時、統諸靈廟、甚被恩寵。母謝氏、奉佛法。泰始五年^(一)、夏月暴雨、有物形隱烟霧、垂頭屬聽事前地、頭頸如大赤鳥^(二)、飲庭中水。登之驚駭、謂是善神降之^(三)。汲水益之^(四)、飲百餘斛^(五)、水竭乃去。二年而謝氏亡、亡後半歲而明帝崩^(六)。登之自此事遂衰敗。

校記 御覽八百八十五。廣記三百六十。○古今圖書集成神異典三一七。鄭氏。

(一) 廣記引作「三年」。○御覽引「泰」作「太」、鈎沈亦同、今依廣記。(二) 廣記引「鳥」作「馬」。(三) 御覽四部叢刊本引「降」作「路」。(四) 廣記鈔宋本引「益」作「溢」。(五) 廣記引作「斗」。(六) 鈎沈本作「明年帝崩」、廣記引無「年」字。○廣記引無「亡」字。鈔宋本引無「後」字。又廣記引「明」上有「而」字、今從廣記。

64 豫章胡茲家在郡治^(一)。宋泰始四年、空中忽有故冢墓輒、青苔石灰著之。嗑然擲其母前、其數或五三俱至^(二)、舉家驚懼。然終不中人、旬日乃止。

校記 御覽七百六十七。○鄭氏。

(一) 〇「家」依四部叢刊本補。鈎沈依鮑氏刊本作「蜀郡治」、今依四部叢刊本省「蜀」字。(二) 〇「其」鈎沈依鮑氏刊本作「甚」、今依四部叢刊本改。

65 宋泰始中、有張乙者、被鞭、瘡痛不竭。人教之、燒死人骨末以傳之。雇同房小兒、登山岡、取一髑髏、燒以傳瘡。其夜戶內有爐火燒、此小兒守火^(一)、空中有物、按小兒頭、內火中、罵曰、「汝何以燒我頭。今以此火償汝。」小兒大喚曰、「張乙燒耳。」答曰、「汝不取與張乙、張乙那得燒之。」按頭良久、髮然都盡、皮肉焦爛、然後捨之。乙大怖、送所餘骨埋反故處、酒肉醢之、無復災異也。

校記 珠林四十六。○鄭氏。

(一) 〇「守火」鈎沈引依珠林四部叢刊本作「手又」、今依大正大藏本改。

66 王文明宋泰始末作江安令^(一)，妻久病，女於外為母作粥。將熟變而為血，棄之更作，亦復如初^(二)。如此者再^(三)。母尋亡沒^(四)。其後兒女在靈前哭，忽見其母臥靈牀上，兒如平生^(五)，諸兒號感^(六)，奄然而滅。文明先愛其妻手下婢^(七)，姪身將產。葬其妻日，使婢守屋，餘人悉詣墓所。部伍始發，妻便現形^(八)，入戶打婢。其後諸女為父辦食殺鷄，剗洗已竟^(九)，鷄忽跳起，軒首長鳴。文明尋卒，諸男相繼喪亡^(一〇)。

校記 珠林九十五。廣記三百二十五。○鄭氏。

(一)○珠林諸本引文頭有「宋時」二字。鈎沈引「泰」作「太」，依廣記，今依珠林正。鈎沈又依廣記脫「作」，今依珠林補。(二)○「亦」廣記引無。(三)珠林引有此句。(四)○「沒」今依珠林補。(五)○廣記引無「兒」。(六)○廣記引「感」作「戚」。(七)廣記引「手下」作「所使」。(八)○「現形」二字，廣記引無。(九)○「剗」廣記引作「割」。(一〇)○「繼」廣記引作「續」。

67 朱道珍嘗為孱陵令，南陽劉廓為荊州參軍。每與圍碁日夜相就，局子略無暫輟。道珍以宋元徽三年六月二十六日亡^(一)。至九月，廓坐齋中，忽見一人，以書授廓，云、朱孱陵書。廓開書，看是道珍手跡，云、『每思碁聚、非意致闊、方有來緣、想能近領。』廓讀書畢，失信所在^(二)，寢疾尋亡^(三)。

校記 御覽七百五十三。○淵鑑三二九圍碁。鄭氏。

(一)○四部叢刊本引無「二十六日」。(二)○御覽原注云、「失其書信」。(三)○鈎沈「寢」作「寢」，今依四部叢刊本引作「寢」。

68 朱泰家在江陵、宋元徽中、病亡未殯。忽形見、還坐戶側、慰勉其母。眾皆見之^(一)。指揮送終之具、務從儉約。謂母曰、『家比貧、泰又亡歿、永違侍養、殯殮何可廣費。』

校記 廣記三百二十三。○鄭氏。

(一)○廣記鈔宋本引「衆皆」作「舉家」。

69 蜀郡成都張伯兒、年十餘歲、作道士。通靈有遠鑒^(一)。時飲醇灰汁數升、云以洗腸療疾。

校記 御覽八百七十一。○鄭氏。

(一)○四部叢刊本引「遠」作「逆」。鈎沈以鮑氏刊本。

70 獨角者巴郡江人也^(一)。年可數百歲、俗失其名、頂上生一角、故謂之獨角。或忽去積載、或累旬不語。及有所說、則旨趣精微、咸莫能測焉。所居獨以德化、亦頗有訓導。一旦與家辭、因入舍前江中、變為鯉魚、角尚在首。後時暫還、容狀如平生、與子孫飲醺、數日輒去。

校記 珠林三十一〔百二十卷本四十一〕。廣記四百七十一。○鄭氏。事亦見廣記同卷江州人〔出廣古今五行記〕。

(一)○「巴郡江人」、珠林諸本引作「邑郡江人」、廣記引作「巴郡人」。

71 尹雄年九十、左鬢生角^(一)、長寸半^(二)。

校記 類聚十八。御覽三百七十三・又三百八十三。○淵鑑二五七老人。鄭氏。參看漢書五行志七下之上景帝二年條。

(一)○御覽三八三引「左鬢」作「頭」。(二)○御覽三八三四部叢刊本引「長」作「角」、同鮑氏刊本引無「長」字。「寸半」今依類聚、鈎沈引依御覽作「半寸」。

72 逢桃杖居江夏、病疾困篤、頻上奉章。夜中有物若豕、赤色、從十餘人、皆操繩、入門周床一匝而去。往問道士張玄冥、冥曰、『見者崇物伏罪。烏衣人宅、里社檢護耳、疾尋當除。』自是平復也。

校記 書鈔八十七。○鄭氏。

73 荀瓌字叔璋、事母孝、好屬文及道術^(一)、潛棲卻粒。嘗東游^(二)、憩江夏黃鶴樓上^(三)。望西南有物、飄然降自霄漢^(四)、俄頃已至、乃駕鶴之賓也。鶴止戶側、仙者就席、羽衣虹裳、賓主歡對^(五)。已而辭去^(六)、跨鶴騰空^(七)、眇然煙滅。校記 類聚六十三·又九十。御覽九百十六。事類賦注十八。案亦見任昉記⁽⁹⁸⁾。○諸書多為出「述異傳」。初學記二四。類說八(任昉述異記)。事文類聚後集四二。天中記五八。淵鑑四二○鶴·*又二四七樓。鄭氏。

(一)○以上二句九字、御覽·事類賦注引無。(二)已上四句類聚一(六三)引作「寓居江陵」。(三)○類聚六三引「鶴」作「鵠」。(四)○類聚六三引「霄」作「雲」。(五)○類聚九○引「主」作「已」。(六)(已而)二字御覽引有。○事類賦注引亦有。事文類聚引作「已乃」。(七)○類聚九○引「空」作「雲」。(八)任昉述異記「煙」作「而」。

74 尋陽張允^(一)、家在本郡、郡南有古城。張少貧、約屢往游憩。忽有一老公、來與張言、因問之、『此城何名。』答曰、『吾不知、為南郡城耳^(二)。』言訖便去、不知所之。張既出宦^(三)、仕進累遷、位登元凱、後為南郡太守、即以城號。以志老父之言焉。

校記 御覽一百九十二。○鈎沈闕卷數、一九七三年版全集已補。永樂大典八○九二引作「述異志」。鄭氏。

(一)○大典引「尋」作「晉」。(二)○大典引「南郡」作倒。(三)○御覽四部叢刊本引「宦」作「官」。

75 漆澄豫章人、有志幹絕倫。嘗乘船釣魚^(二)、俄頃盈舟。既而有物出水、鱗鱗黑色、長如十丈、不見頭尾。闔船驚怖、澄獨色不變。

校記 初學記二十二引祖冲之。○淵鑑三五八漁釣。鄭氏。

(一)○淵鑑引此句下有「得金鎖」三字。

76 諸葛景之亡後、宅上嘗聞語聲。當酤酒還、而無溫鎗。鬼云、「卿無溫鎗、那得飲酒。」見一銅鎗從空中來。

校記 御覽七百五十七。○鄭氏。

77 夏侯祖欣為兗州刺史^(一)、喪於官^(二)、沈僧榮代之。祖欣見形詣僧榮^(三)、牀上有一織成寶飾絡帶^(四)。夏侯曰、「此帶殊好、豈能見與之^(五)。」沈曰、「甚善^(六)。」夏侯曰、「卿直許、終不見關。必以為施、可命焚與^(七)。」沈對前燒、視此帶已在夏腰矣。

校記 御覽六百九十六。*書鈔一百二十九。○天中記四七。淵鑑三七一帶。鄭氏。

(一)書鈔引「欣」作「歡」、下同。(二)○此句三字書鈔引作「身喪」、「官」四部叢刊本引作「宮」、誤。(三)

○御覽鮑氏刊本引「僧榮」上有「沈」字。(四)○御覽四部叢刊本引「牀上」上有「沈」字。書鈔引無「一」。(五)書鈔引作「當能與之」。○御覽四部叢刊本引末二字作「之與」。(六)已上書鈔一百二十九亦

引。(七)○御覽四部叢刊本引「與」下有「沈」字、衍。

78 巴西張尋夢庭生一竹、節相似、都為一門。以問竺法度、云、「當暴貴、但不得久矣。」果然、如其所言。

校記 廣記二百七十六。○汪氏校語云、明鈔本作出異苑。按不見今本異苑。鄭氏。

79 陳留周氏婢、名興進^(一)、入山取樵、倦寢^(二)。忽夢見一女^(三)、語之曰^(四)、『近在汝頭前、目中有刺、煩為拔之、當有厚報。』乃見一朽棺^(五)、頭穿壞、髑髏墮地、草生目中、便為拔草、內著棺中、以甕塞穿、即於髑髏處得一雙金指環^(六)。

校記 御覽四百七十九引桓沖之記・又三百九十九・六帖二十三・*廣記二百七十六。○白帖七一・二一引作「述征記」。事文類聚後集二〇。群書類編故事九。*永樂大典一三三三六引作出「任昉述異記」。天中記二三。淵鑑三一一報德。鄭氏。諸書引文各有異同、此文主據御覽四七九引、事文類聚、群書類編故事所引最與御覽四七九引相似。參看列異傳(鈎沈54)。

(一)○「名興進」御覽三九九四部叢刊本引作「民與」、鮑氏刊本引作「名與」。(二)二字廣記引。(三)○「忽」字今依御覽三九九・廣記引補。御覽三九九引「女」下有「子」、廣記引同。(四)○廣記引作「坐中謁之曰」。(五)○「乃」御覽四七九引作「有」、又三九九引作「此婢乃」。(六)(即於髑髏處)六帖引作「(即於)其處」、廣記引作「(後於)路傍」。

80 陳敏為江夏太守、許宮亭廟神一銀杖、後以一鐵杖銀塗之。送杖還、廟神巫宣教曰、『陳敏之罪、不可容也。』乃置之湖中。杖浮在水上、敏舟值風傾覆矣。

校記 書鈔一百三十三。○鄭氏。事亦見神異記(御覽七一〇引、鈎沈2)。

81 庾邈與女子郭凝私通、詣社約取為妾、二心者死。邈遂不肯婚娉。經二載、忽聞凝暴亡。邈出門瞻望、有人來、乃是凝。斂手歎息之。凝告郎、『從北村還、道遇強人、抽刃逼凝、懼死從之、為能守節、為社神所責、卒得心痛、一宿

而絕。』邈云、『將今且停宿。』凝答曰、『人鬼異路、毋勞爾思。』因涕泣下露襟。

校記 書鈔八十七。*御覽五百三十二。○*天中記四二、與御覽引同。鄭氏。

82 清河崔基、寓居青州。朱氏女、恣容絕倫、崔傾懷招攬^(一)、約女為妾。後三更中、忽聞扣門外、崔披衣出迎、女兩淚嗚咽、云、『適得暴疾喪亡、忻愛永奪、悲不自勝。』女於懷中抽兩疋絹與崔、曰、『近自織此絹、欲為君作禪衫、未得裁縫、今以贈離。』崔以錦八尺答之、女取錦曰、『從此絕矣。』言畢豁然而滅。至旦、告其家、女父曰、『女昨夜忽心痛病^(二)、夜亡。』崔曰、『君家絹帛無零失耶。』答云、『此女舊織餘兩疋絹在箱中。女亡之始、婦出絹欲裁為送終衣、轉眄失之^(三)。』崔因此具說事狀。

校記 御覽八百十七。○秘府略八六八、文殊異。天中記四九。淵鑑三六五絹。鄭氏。

秘府略云、清河崔其宗、大明中、垣諛之為豫州、崔為西曹長、還門內、門外朱氏女年十五六。姿容絕倫。崔領懷招延、約娉為妾。後崔在解宿、夜忽聞叩門聲。左右出應、云、『未在門外。』崔便披衣出迎、女兩淚嗚咽云、『適得異疾來亡。歡愛永奪。』崔聞悲鯁、女於懷中抽兩疋絹與崔曰、『近自織此絹、欲為君作禪衫。今以贈離。』崔以錦八尺答之、女取錦豁然而滅。崔至且門、造其家。女父曰、『女昨夜患心痛、三更氣絕。女先織餘兩匹絹在箱中、女亡始不覺失。』至崔因此具說女夜來事狀。『與賢女錦或應在戶左右。』其家使人試履見錦卷牒方一尺許、正掩女心上。
(續群書類從本)

(一)○四部叢刊本引「傾」作「頃」、「攬」作「賢」、均誤。(二)○「心痛」鈎沈依鮑氏刊本作「然病」、今依四部叢刊本改。(三)○「眄」鮑氏刊本引作「盼」、鈎沈引改作「盼」、今從四部叢刊本。

83 蘭啟之家在南鄉、有樗蒲君廟^(一)。啟之有女、名僧因^(二)、忽蹶而寤^(三)、云、『樗蒲君遣婢迎僧、坐斗帳中、仍

陳盛筵^(四)、以金銀為俎案、五色玉為杯碗、與僧共食、一宿而醒也。』

校記 廣記二百九十四。○鄭氏。

(一)○「君」鈎沈本作「婁」、廣記鈔宋本引「婁」作「君」、今從。(二)○鈔宋本引「僧」作「曾」、下同。(三)○鈎沈引「氣」上有空闕一格。鈔宋本引「氣」作「氣蹶」。汪氏校語云、「蹶」原作「氣」、據明鈔本改。今從鈔宋本。「寤」許刻本・汪校本均作「寤」、疑筆誤。鈎沈依黃刻本。(四)○鈔宋本「筵」作「饌」。

84 太原王肇宗病亡、亡後形見、於其母劉及妻韓共語。就母索酒、舉杯與之、曰、「好酒。」語妻曰、「與卿三年別耳。」及服終、妻疾、曰、「同穴之義、古之所難。幸者如存、豈非至願。」遂不服藥而歿。

校記 廣記三百十八。○鄭氏。

85 汝南周義取沛國劉旦孫女為妻^(一)、義豫章艾縣令弟、路中得病、未至縣十里、義兄語、「弟必不濟^(二)。」便留家人在後、先與弟至縣、一宿死。婦至、臨尸、義舉手別婦^(三)。婦為梳頭、因復拔婦釵。斂訖、婦房宿、義乃上牀謂婦曰^(四)、「與卿共事雖淺、然情相重、不幸至此。兄不仁、離隔人室家、終沒不得執別、實為可恨^(五)。我向舉手別、又拔卿釵、因欲起、人多氣逼不果。」自此每夕來寢息^(六)、與平生無異。

校記 廣記三百二十二。○鄭氏。

(一)○廣記鈔宋本引「義」作「氏」。標題「周義」亦作「周义」。(二)○鈎沈引脫「弟」字、今依諸本補。又因文意於「義」下補「兄」字。(三)○鈔宋本引「尸義」作「义尸」。(四)○鈔宋本引「義」作「婿」。(五)○鈔宋本引「為可」作「可為」。(六)○鈔宋本引「自此每」作「於此」。

86 武昌小吏吳龜得一浮石、取其床頭^(一)、化成一女、端正、與龜為夫妻。

校記 書鈔七十七。案亦見今本任昉記⁽³⁰⁶⁾。○淵鑑一一七小吏。鄭氏。按事亦見幽明錄^(鈎沈166)。

(一)〔其〕疑當作「直」。

87 陳留董逸少時、鄰女梁瑩^(一)、年稚色豔。逸愛慕傾魂、貽椒獻寶、瑩亦納而未獲果。後逸鄰人鄭充在逸許宿^(二)。二更中、門前有叩掌聲。充臥望之、亦識瑩、語逸曰、『梁瑩今來。』逸驚躍出迎、把臂入舍。遂與瑩寢、瑩仍求去。逸攬持不置、申款達旦。逸欲留之、云、『為汝烝豚作食。』食竟去^(三)。逸起閉戶施帳、瑩因變形為狸、從梁上走去。

校記 御覽九百十二。○鄭氏。

(一)○鮑氏刊本引「鄰」上有「有」字、今依四部叢刊本刪。(二)○「許」鮑氏刊本引作「所」、今依四部叢刊本。(三)○「食」四部叢刊本引無。(四)○「施」四部叢刊本引作「絕」。今依鮑氏刊本。

88 南康營民伍考之伐船材^(一)。忽見太社樹上有一猴懷孕^(二)。考之便登木逐猴、騰赴如飛。樹既孤迥、下又有人、猴知不脫、因以左手抱樹枝、右手撫腹。考之禽得、搖擺地殺之^(三)。割其腹、有一子、形狀垂產。尔夜夢見一人稱神^(四)、以殺猴責讓之^(五)。後考之病經旬、初如狂、因漸化為虎、毛鬣爪牙悉生^(六)、音聲亦變^(七)。遂逸走入山、永失蹤迹^(八)。

校記 御覽九百十。*廣記一百三十一。○鄭氏。

(一)○御覽引「民」作「氏」。鈎沈改作「民」。御覽四部叢刊本引「船」作「舡」。「伍」鈎沈引作「任」、今依各本改。廣記引「考之」作「寺之」。(二)○「一」今依御覽四部叢刊本補。(三)○御覽四部叢刊本引「搖」作「遙」。(四)○「尔」御覽鮑氏刊本引作「是」、鈎沈依此。今依四部叢刊本改。(五)○廣記引此句之後有「當領重謫」四字。(六)○「毛鬣爪牙」御覽鮑氏刊本引作「毛爪」、今依四部叢刊本補。(七)○以上五句

二十四字、廣記引作「寺之乃化大蟲。」（八）○以上二句九字、廣記引作「入山、不知所在」。

89 南齊馬道猷為尚書令史^(二)。永明元年、坐省中、忽見鬼滿前、而傍人不見。須臾、兩鬼入其耳中、推出魂、魂落屐上。指以示人、『諸君見否。』傍人並不見、問魂形狀云何。道猷曰、『魂正似蝦蟇、云、「必無活理」^(三)、鬼今猶在耳中。』視其耳皆腫、明日便死。

校記 廣記三百二十七。

（一）○許刻本引「南齊」作「□□」、汪氏校語云、「南齊」二字原空闕、據黃刻本補。（二）○廣記鈔宋本引「必」作「判」。

90 廣州顯明寺道人法力、向晨詣廁、于戶中遇一鬼、狀如崑崙、兩目盡黃^(一)、裸身無衣。法力素有臂力^(二)、便縛著堂柱、以杖鞭之、終無聲。乃以鐵鎖縛之、觀其能變去否。日已昏暗、失鬼所在。

校記 廣記三百二十七。○鄭氏。

（一）○廣記鈔宋本引「盡」作「正」。（二）○鈔宋本引「臂」作「筋」。

○91 阮倪者、性特忍害。因醉出郭、見有放牛、直探牛舌本、割之以歸、為炙食之。其後倪生一子、無舌。人以為牛之報也。

校記 廣記一三一。

○92 庚續家有物^(一)、色赤、形似牛心^(二)、就視是凝血。後洩變成赤汁流散^(三)、丞相劉義宣所誅^(四)。

校記 天地瑞祥志一七。

(一)「庚」字當有譌。(二)「形」原作「刑」。(三)「洧」譌。「汁」原作「斗」。(四)「劉義宣」原作「劉宣」。

○93 漢北有鳥鷺丘、似鵜鶘、白色。每飛數萬、數為群、止則蔽野、列為方陣、頭悉向外、見人則振口。入漢境則胡兵大至。

校記 天地瑞祥志一八。

荀氏靈鬼志

原輯二四條 新附一條 凡二五條

1 明帝初、有謠曰、『高山崩、石自破。』高山、峻也、碩、峻弟也。後諸公誅峻、碩猶據石頭、潰散而逃、追斬之。校記 世說方正篇〔37〕注引靈鬼志謠徵。○鄭學弢校注『列異傳等五種』（一九八八・文化藝術出版社）所收、以下簡稱鄭氏。事亦見晉書五行志。參看第2條校記。

2 明帝末、有謠歌、『側側力、放馬出山側。大馬死、小馬餓。』後峻遷帝於石頭、御膳不具。

校記 世說容止篇〔23〕注引靈鬼志謠徵。○鄭氏。事亦見晉書五行志、云、明帝太寧初、童謠曰、『側側力力、放馬山側。大馬死、小馬餓。高山崩、石自破。』及明帝崩、成帝幼、為蘇峻所逼、遷於石頭、御膳不足、此大馬死、小馬餓也。高山、峻也。又言峻尋死。石、峻弟蘇石也。峻死後、石據石頭、尋為諸公所破、復是崩山石破之應也。

3 庾文康初鎮武昌〔二〕、出石頭、百姓看者於岸歌曰、『庾公上武昌、翩翩如飛鳥。庾公還揚州、白馬牽旒旒〔三〕。』又曰、『庾公初上時、翩翩如飛鴉。庾公還揚州、白馬牽旒車。』後連徵不入、尋薨、下都葬焉〔三〕。

校記 世說傷逝篇〔9〕注引靈鬼志謠徵。○廣記一四一又引世說。鄭氏。事亦見晉書五行志。

（一）○世說注引無「庾」字。鈎沈以意補。廣記引文頭有「晉」字。（二）○廣記引「旒」作「流」。（三）○廣記引作「還都葬之」。

4 初、桓石民為荊州鎮上明〔二〕、民忽歌黃曇曲曰、『黃曇英揚州〔三〕、大佛來上明〔三〕。』少時、石民死、王忱為荊州。

佛大、忱小字也。

校記 世說忿狷篇（7）注引靈鬼志謠徵。○鈎沈誤作「汰侈篇」、今依改。鄭氏。事亦見晉書五行志。

（一）○「上明」鈎沈本引作「土時」、七三年版全集據世說各本改作「上時」、沈寶硯校記作「上明」。余嘉錫『世說箋疏』又引李慈銘之說云、晉宋五行志皆作「上明」。「上明」者、荊州地名也。今從。（二）○「英」鈎沈本作空一格、今依補。（三）○「明」鈎沈本作空一格、世說注作「上明」、今從沈·李說。

5 河間王顥既敗於關中（二）、有給使陳安者（三）、甚壯健（三）。常乘一赤馬、俊快非常（四）。雙持二刀（五）、皆長七尺。馳馬運刀、所向披靡（六）。關西為之歌曰、『壘上健兒字陳安、頭細面狹腹中寬（七）、丈八大稍左右盤（八）。』後馬死、雙赤蛇出其鼻（九）。

校記 類聚六十。書鈔一百二十四。御覽三百五十四。○淵鑑二三四稍。鄭氏。事亦見晉書一〇三劉曜載記、御覽四六五所引趙書。

（一）○御覽鮑氏刊本引「顥」作「永」。（二）○「給使」書鈔引作「給事」。書鈔·御覽引無「者」。（三）○類聚引無此句三字。書鈔引「壯」作「特」。（四）○書鈔引無此句四字。御覽八九七引作「駿駛非常」。（五）○御覽鮑氏刊本引「雙」作「雙手」。書鈔引無「雙」。（六）○書鈔引無二句八字。（七）○書鈔·御覽引「細」作「小」。類聚引「腹」作「腸」。（八）○御覽引「大」作「長」。（九）○以上九字依次條（御覽八九七引）補。

6 陳安為河間王顥給使、甚壯健。常樂一馬、駿駛非常。後馬死、雙赤蛇出其鼻。

校記 御覽八百九十七。○天中記五五。淵鑑四三三馬。格致鏡原八五。鄭氏。但此文本當與前條合為一事、御覽

引止析出耳。當刪。

7 嵇康鍍下彈琴、忽有一人長丈餘、著黑單衣革帶。康熟視之、乃吹火滅之曰、『恥與魑魅爭光^(一)。』

校記 廣記三百十七。○廣記引與次條合、而鈎沈分為二條。天中記四二。鄭氏。事亦見鈎沈語林（鈎沈25）、幽明錄（類說一一・明鈔說郭三引、鈎沈275）、今本異苑六。

（一）○鈎沈句頭本引有「吾」字、今依刪。

8 嵇中散神情高邁、任心游憩。嘗行西南游、去洛數十里、有亭名華陽、投宿。夜了無人、獨在亭中。此亭由來殺人、宿者多凶^(二)。中散心神蕭散、了無懼意^(三)。至一更中操琴^(四)、先作諸弄、雅聲逸奏^(五)。空中稱善^(六)、中散撫琴而呼之、『君是何人^(六)。』答云^(七)、『身是故人、幽沒于此數千年矣^(八)。聞君彈琴、音曲清和^(九)、昔所好^(一〇)、故來聽耳。身不幸非理就終、形體殘毀^(一一)、不宜接見君子^(一二)、然愛君之琴、要當相見、君勿怪惡之。君可更作數曲。』中散復為撫琴、聲節曰、『夜已久、何不來也、形骸之間、復何足計^(一三)。』乃手挈其頭曰^(一四)、『聞君奏琴、不覺心開神悟、恍若甦生^(一五)。』遂與共論音聲之趣^(一六)、辭甚清辯^(一七)。謂中散曰^(一八)、『君試以琴見與^(一九)。』於是中散以琴授之、既彈衆曲、亦不出常。唯廣陵散聲調絕倫。中散纔從受之、半夕悉得^(二〇)、先所受引殊不及^(二一)。與中散誓、不得教人^(二二)、又不得言其姓^(二三)。天明語中散、『相與雖一遇於今夕、可以遠同千載^(二四)。於此長絕、能不悵然^(二五)。』

校記 廣記三百十七。御覽五百七十九引作「靈異志」。事類賦注十一同。○天中記四二。鄭氏。事亦見晉書四九嵇康傳。參看御覽五七九引世說、廣記三三四引幽明錄（鈎沈222）。

（一）已上依御覽引。○廣記引作「嘗行、去路數十里、有亭名月華。投。此亭由來殺人。」事類賦注引作「嵇中散嘗西南、去洛數十里、有亭名華陽、投宿。」（二）○御覽・事類賦注引無二句十字。（三）○事類賦注引無「至」

字。廣記引無「中」字。(四)○御覽·事類賦注引無此句四字。(五)○御覽·事類賦注引句頭有「而聞」二字。廣記引無「中」字。(六)○御覽引作「曰『君何以不來。』」、事類賦注引作「曰『君何不來此。』」。(七)○御覽引作「此人便□云」。(八)〔數千年矣〕四字依御覽並事類賦注引補。(九)○事類賦注引「音曲」作「幽曲」。(一〇)○御覽·事類賦注引無此句三字。(一一)○二句御覽引作「就終殘毀」、事類賦注引作「而就中殘毀」。(一二)○御覽·事類賦注引「接見」作「接待」。(一三)○自「然愛君之琴」至此、御覽引止作「向夜髣髴漸見」六字、事類賦注引亦作「由是髣髴漸見」。(一四)○事類賦注引「乃」作「以」。御覽·事類賦注引「挈」作「持」。(一五)○「曰」以下之言、御覽·事類賦注引無。(一六)○御覽引作「遂與中散論聲音」、事類賦注引作「與中散共論音聲」。(一七)○御覽引句頭有「其」字。(一八)○御覽引無「曰」字。(一九)○御覽引作「君試過琴」。事類賦注引省自「辭甚清辯」以至此凡十四字。(二〇)「於是」至此、已上依御覽事類賦注引。○事類賦注引「於是中散」作「乃」、無「既彈悉」三字、亦無「纔從」二字。御覽鈎沈引本作「既彈衆曲」、今依御覽補。又鈎沈引「廣陵散」下本有一聲調「二字、今依御覽·事類賦注引刪。廣記引作「乃彈廣陵散、使從受之、果悉得」。(二一)○御覽·事類賦注引無此句七字。廣記引句頭有「中散」二字。(二二)○事類賦注引省「與中散」三字。御覽·事類賦注引「人」作「他人」。而事類賦注引至此為止。(二三)六字依御覽引補。○御覽引文末有「也」字、而御覽引至此為止。(二四)○「遠」鈎沈據廣記黃刻本作「還」、今依談刻本引改。(二五)○「能不」、鈎沈據廣記黃刻本引、談刻本作「不能」、汪氏本據明鈔改作「不勝」。今從鈎沈。

9 晉周子長僑居武昌五丈浦東岡頭^(一)。咸康三年、子長至寒溪浦中嵇家^(二)、家去五丈數里^(三)、合暮還五丈、未達減一里許^(四)。先是空岡、忽見四瓦屋當道、門卒便捉子長頭、子長曰、「我是佛弟子^(五)、何故捉我。」吏問曰^(六)、「若是佛弟子、能經唄不。」子長先能誦四天王及鹿子經^(七)、便為誦之三四過^(八)。捉故不置、知是鬼^(九)、便罵之曰、「武

昌癡鬼、語汝、我是佛弟子、為汝誦經數偈、故不放人也^(一〇)。『捉者便放、不復見屋。鬼故遂之、過家門前、鬼遮不得人^(一一)、亦不得作聲。而心將鬼至寒溪寺中過^(一二)、子長便擒鬼胸、復罵曰^(一三)、『武昌癡鬼^(一四)、今當汝至寺中和尚前了之^(一五)。』鬼亦擒子長胸^(一六)、相拖渡五丈塘西行。後諸鬼謂捉者曰^(一七)、『放為、西將牽我入寺中。』捉者已放^(一八)、子長故復語後者曰^(一九)、『寺中正有道人輩、乃未肯畏之^(二〇)。』後一鬼小語曰、『汝近城東、看道人面^(二一)、何以敗^(二二)。』便共大笑。子長比達家^(二三)、已三更盡矣^(二四)。

校記 法苑珠林六十五(百二十卷本八二)。廣記三百十八。○鄭氏。

(一)○廣記引無「晉」、「僑」兩字。法苑珠林四部叢刊本即百二十卷本引「浦」作「涌」。廣記引「五丈」作「五大」、下同。(二)○法苑珠林大正新脩大藏經本引「嵇」誤作「愁」。(四)○廣記引無「減一里許」。(五)○廣記引無「是」字。(六)○廣記引無「問」。(七)○廣記引「鹿」作「庶」。(八)○廣記引無「便為」二字。(九)○廣記引無此句三字。(一〇)○廣記引無「也」字。(一一)珠林引作「入門」。(一二)○廣記引無「心」字。(一三)○廣記引作「云」一字。(一四)○廣記引無此句四字。(一五)○廣記引「今當」作「將」。而無「了之」二字。(一六)○廣記引無「亦」字。(一七)○廣記引無「諸」字。(一八)○廣記引作「捉者曰、已擒不放」。(一九)○廣記引作「子長復為後者曰」。(二〇)廣記引無「未」字、「道人」作「禿」、下同。○廣記各本均有「未」字、鈎沈注誤。(二一)○廣記引「看道人」作「逢禿時」。(二二)○珠林大正藏本引「敗」上有「得」字、四部叢刊本引「敗」作「得故」。(二三)○珠林四部叢刊本引「比」作「次」。(二四)○珠林引無「已」矣「兩字」。

10 晉南郡議曹掾姓歐、得病經年、骨消肉盡。巫醫備至、無復方計。其子夜如得睡眠、夢見數沙門來視其父。明旦、便往詣佛圖、見諸沙門、問佛為何神。沙門為說事狀、便將諸道人歸(一)、請讀經。再宿、病人自覺如輕。晝得小眠、

如舉頭見門中有數十小兒、皆五綵衣、手中有持幡仗者、刀矛者(二)。於門走入。有兩小兒在前(三)、徑至簾前。忽便還走、語後衆人(四)、『小住小住(五)。屋中總是道人(六)。』遂不復來前。自此後病漸漸得差。

校記 珠林九十五(百二十卷本一一四)。廣記一百六十一。○鄭氏。

(一)○廣記引「人」作「何」、汪氏校語云、據明鈔本改。(二)○廣記引作「持刀矛者」。(三)○鈔宋本「兩」作「兩箇」。(四)○廣記引「衆人」作「衆小人」。(五)○廣記引無此句四字。(六)○廣記引「屋中」作「住居中」。珠林大正藏本「總」作「純」、四部叢刊本作「經」。

11 石虎時、有胡道人驅驢、作估于外國。深山中行、有一絕澗、窈然無底。行者恃山為道、魚貫相連。忽有惡鬼牽驢入澗中(一)。胡人性急(二)、便大噴恚(三)。尋跡澗中惡鬼(四)、祝誓呼諸鬼神下逮。忽然出一平地城門、外有一鬼、大鑲項、腳著木桎梏(五)、見道人、便乞食、曰、『得食、當與汝。』既問(六)、乃是鬼王所治。前見王、道人便自說、『驅驢載物、為鬼所奪、尋跡至此。』須臾即得其驢、載物如故。

校記 御覽七百三十六。○鄭氏。事亦見『搜神後記』二一19。

(一)○四部叢刊本(宋殘刊部分、下同)引「驢」作「之下」。鈞沈據鮑氏刊本。(二)○四部叢刊本引「性急」作「急性」。(三)○鈞沈·鮑氏刊本引「恚」作「惡」、今依改。(四)○四部叢刊本引無「惡鬼」二字。而「逮」誤作「遠」。(五)○四部叢刊本引「木桎梏」作「大鐵桎」。(六)○四部叢刊本引「問」作「至門」二字。

12 蔡謨徵為光祿大夫。在家(一)、忽聞東南啼哭聲、有若新死。便見一少年女死人並離啼哭(二)。不解所為、恐是人家忿爭耳。忽聞呼魂聲、便見生女從空中去上天(三)、意甚惡之。少時、疾患、遂薨。

校記 廣記三百二十。○作出「靈異志」。鄭氏。

- (一)○廣記黃刻本引「在」誤作「石」。(二)○汪氏校語云、明鈔本「死」作「此」。又云、明鈔本「離」作「籬」。
(三)○汪氏校語云、明鈔本「生」作「此」。

13 河內姚元起居近山林、舉家恆入野耕種。唯有七歲女守屋、而漸覺瘦^(一)。父母問女、女云、「常有一人、長丈餘而有四面、面皆有七孔、自號「高天大將軍」來輒見吞、逕出下部、如此數過。慎勿道我。道我、當長留腹中。」闔門駭惋、遂移避^(二)。

校記 廣記三百二十。○玉芝堂談薈一四。鄭氏。

- (一)○「覺」字、鈎沈本脫之、今依補。(二)○廣記鈔宋本引「移避」作「避禍」。

14 吳興武唐閻勦^(一)、凌晨聞外拍手、自出看、見二烏幘吏、逕將至渚、云、「官使乘船送豆至。」乃令勦捉柅^(二)、二吏緹挽。至嘉興郡、暫住逆旅。及平望亭、潛逃得歸。十餘日、外復有呼聲、又見二吏、云、「汝何敢委叛。」將至船、猶多菽、又令捉柅船、二吏緹挽始前。至嘉樂故塚^(三)、謂勦曰、「我須過一處^(四)、留汝在後、慎勿復走。若有飲食、當相喚。」須臾、一吏呼勦上。見高門瓦屋、歡醺盈堂、仍令勦行酒、並賜炙啖。天將曉、二吏云、「□□去^(五)、汝且停。」頃之、但見高墳森木、勦心迷亂。其家尋覓、經日方得。尋發大瘡而死。

校記 廣記三百二十。○鄭氏。

- (一)○「武唐」鄭氏改作「武康」。(二)○「捉」字、原本無、鈎沈以意補。(三)○「塚」鈎沈依黃刻本作「家」、今依談刻本改。(四)○汪氏校語云、「過」原作「遇」、據明鈔本改。黃刻本亦作「遇」、鈎沈以意改作「過」。今從。(五)○空格二字、廣記引作「而見」、但意不通、因而鈎沈作空格。

15 南平國蠻兵、義熙初隨衆來姑熟^(一)、便有鬼附之。聲呦呦細長、或在簷宇之際、或在庭樹上。若占吉凶、輒先索琵琶、隨彈而言。于時郗倚為府長史、問、『當遷官^(二)。』云、『不久持節也。』尋為南蠻校尉^(三)。予為國郎中、親領此土^(四)、荊州俗語云^(五)、『是老鼠所作、名曰鬼侯。』

校記 廣記三百二十二。○格致鏡原八八。鄭氏。事見類聚四四。御覽八二引作異苑、但不見今本異苑。

(一)○廣記鈔宋本「熟」作「孰」。(二)○鈔宋本「遷」作「去」。(三)○「尉」原墨釘、鈔宋本墨釘作「尉」。汪氏校語云、「尉」字原空闕、據明鈔本・許本補。但黃刻本不闕。(四)○汪氏校語云、「土」原作「上」、據明鈔本改。鈞沈亦以意改。(五)○鈔宋本「俗」作「續」。

16 平原陳皋、於義熙中從廣陵樊梁夜乘船出^(一)。忽有一赤鬼、長可丈許。首戴絳冠、形如鹿角。就皋求載、倏爾上船^(二)。皋素能禁氣、因歌俗家南地之曲。鬼乃吐舌張眼、以杖竿擲之、即四散成火、照於野。皋無幾而死。

校記 廣記三百二十二。○鄭氏。

(一)○「夜」諸本皆作「後」、鈔宋本獨作「夜」、今從。(二)○鈔宋本「爾」作「而」。

17 太元十二年、有道人外國來^(一)、能吞刀吐火、吐珠玉金銀^(二)、自說其所受術師^(三)、即白衣^(四)、非沙門也。嘗行^(五)、見一人擔、擔上有小籠子^(六)、可受升餘。語擔人云、『吾步行疲極^(七)、欲寄君擔^(八)。』擔人甚怪之、慮是狂人、便語之云^(九)、『自可爾耳^(一〇)、君欲何許自厝耶^(一一)。』其人答云^(一二)、『君若見許^(一三)、正欲入君此籠子中^(一四)。』擔人愈怪其奇^(一五)、『君能入籠中、便是神人也。』乃下擔^(一六)、即入籠中^(一七)、籠不更大^(一八)、其人亦不更小^(一九)、擔之亦不覺重於先^(二〇)。既行數十里、樹下住食、擔人呼共食、云『我自有食』、不肯出、止住籠中^(二一)。飲食器物^(二二)、羅列肴膳、豐腆亦辦。反呼擔人食^(二三)、未半、語擔人、『我欲與婦共食。』即復口吐出一女子^(二四)、年二十許、衣裳容貌甚美、

二人便共食^(二六)。食欲竟、其夫便臥。婦語擔人^(二七)、『我有外夫、欲來共食。夫覺、君勿道之。』婦便口中出一年少丈夫、共食^(二八)。籠中便有三人、寬急之事、亦復不異。有頃、其夫動、如欲覺、婦便以外夫內口中。夫起^(二九)、語擔人曰、『可去。』即以婦內口中、次及食器物^(三〇)。此人既至國中^(三一)、有一家大富、資財巨萬^(三二)、而性慳悋^(三三)、不行仁義^(三四)、語擔人云^(三五)、『吾試為君破奴慳囊^(三六)。』即至其家。有一好馬甚珍之^(三七)、繫在柱下^(三八)、忽失去、尋索不知處^(三九)。明日、見馬在五升甕中、終不可破取^(四〇)、不知何方得取之^(四一)。便往語言^(四二)、『君作百人廚^(四三)、以周一方窮乏^(四四)、馬當得出耳^(四五)。』主人即狼狽作之畢^(四六)、馬還在柱下^(四七)。明旦、其父母老在堂上^(四八)。忽復不見、舉家惶怖、不知所在。開粧器^(四九)、忽然見父母在澤壺中^(五〇)、不知何由得出^(五一)。復往請之^(五二)、其人云^(五三)、『君當更作千人飲食^(五四)、以飽百姓窮者^(五五)、乃當得出^(五六)。』既作^(五七)、其父母自在牀上也^(五八)。

校記 珠林六十一〔百二十卷本七六〕。御覽七百三十七・又*三百五十九。○*天中記二八。鄭氏。事亦見吳均『續齊諧記』。

(一)○「來」字、鈎沈依珠林不引、今據御覽引補。(二)○御覽七三七引「能」作「解」。御覽三五九引自「太元十二年」至此、作「泰元中、有道人從外國來、多有法術」。(三)〔術〕御覽引作「師」。○鮑氏刊本與鈎沈同、四部叢刊本作「其所受術師」、今從此。御覽七三七引無「自」字。(四)○御覽引「白」誤作「日」、鮑氏刊本引此句作「曰白」二字、意不通。(五)○珠林・御覽七三七引無「嘗」字。(六)○御覽三五九引無「擔」字。(七)○御覽三五九引無「行」。(八)○珠林大正藏本引無「欲」字。御覽三五九引「寄」上有「暫」字。(九)○珠林・御覽三五九引均無「之」字。(一〇)○御覽三五九引無此句四字、同七三七引作「自可爾」。(一一)○御覽三五九引「厝」作「居」。(一二)○珠林引無「人」字。(一三)○珠林引無「君」字。(一四)○珠林引無「君此」二字。(一五)○御覽七三七引「擔人」上有「籠不便」三字、疑衍。又「其奇」作「之」一字。珠林引亦同。(一六)二句御覽〔三五九〕引有。○御覽七三七引無。鈎沈本脫「中」字、今依御覽三五九引補。

(一七)○御覽三五九引無此句三字。珠林引無「乃」字。(一八)○珠林·御覽七三七引均無「即」字。(一九)○御覽七三七引「不更大」作「更不大」。御覽三五九引「籠」下有「亦」字。(二〇)○御覽三五九引無此句六字。珠林引無「人」字。(二一)○御覽三五九引無「之」、又無「於先」二字。(二二)○珠林大正藏本引「止」作「正」。(二三)○珠林引句頭有「出」字。(二四)○御覽七三七引「反」作「乃」、而「食」上有「來」字。(二五)○御覽七三七引「即復口」作「腹中」。珠林引無「吐」字。(二六)○御覽七三七引無「便」字。(二七)○御覽四部叢刊本七三七引「婦」作「嬌」、「擔人」下有「云」字、鮑氏刊本作「曰」。(二八)○御覽七三七引無「共」字。(二九)○珠林引脫「內口中夫」四字。(三〇)○御覽三五九引省自「既行數十里」至此。(三一)○御覽三五九引無「此人既」三字。(三二)○御覽三五九引無「有」、又無「資財巨萬」四字。珠林大正藏本·御覽七三七四部叢刊本引作「資財巨萬」、珠林四部叢刊本作「貨財巨萬」、鈎沈據鮑氏刊本作「貴財巨萬」、今從珠林大正藏本等改。(三三)○御覽三五九引「悋」作「惜」。(三四)○珠林·御覽七三七引均無此句四字。(三五)○珠林·御覽七三七四部叢刊本引無「云」字。(三六)○珠林·御覽七三七引無「囊」。(三七)○珠林·御覽七三七引無「一」字、御覽三五九引「好」作「快」、「珍」作「惜」。(三八)○御覽一(三五九)引作「**柳**下」。○御覽三五九引此句作「在**柳**下繫」。御覽七三七引「柱下」作「柱上」。(三九)○御覽三五九引「索」作「求」、同七三七引「知處」作「得」。(四〇)○御覽七三七引無「取」字。(四一)○御覽一(三五九)引補。(四二)○珠林引無「往」字、御覽七三七引無「往語」二字。(四三)○御覽三五九引「廚」下有「食」字。(四四)○御覽三五九引此句作「周窮困者」。同七三七引無「方」字、珠林引無「一方」二字。(四五)○珠林·御覽七三七引無「當」字。(四六)○御覽七三七引無「狼狽」二字。御覽三五九引「畢」作「既畢」。(四七)○御覽三五九引至此為止、而且無「下」字。(四八)○御覽七三七引「旦」作「早」、而無「老」字。(四九)○珠林大正藏本引「粧」作「莊」、御覽引作「裝」、鈎沈依珠林百二十卷本。(五

○(一)○珠林引無「在」字。(五一)○御覽引無「得出」二字。(五二)○珠林引「往」下有「守」字。(五三)○珠林引無「人」字。(五四)○珠林引無「君」，而「千人飲食」大正藏本作「千餘人食」、四部叢刊本作「千人餘食」。(五五)○珠林引無「以」「姓」二字。(五六)○御覽引無此句四字。(五七)○「既作」御覽引作「當時便作」。(五八)○御覽引無「其」「自」「上」三字、珠林引無「也」字。

18 有沙門曇遊、戒行清苦。時刻縣有一家事蠱、人噉其食飲、無不吐血而死。曇遊曾詣之、主人下食^(二)、遊便咒焉。見一雙蜈蚣、長尺餘、於盤中走出、遊因飽食而歸^(三)、竟無他。

校記 廣記三百五十九。○搜神後記二—20「曇遊道人」條汪氏校語云、太平廣記引此條在「榮陽廖氏」條後、云、「出靈鬼志及續搜神記」。是「榮陽廖氏」條采自靈鬼志、「曇猷」條採自本書無疑。古小說鈎沈收本條於靈鬼志、當因二條牽連致誤。但廣記注不云「續搜神記」「搜神後記」、而只云「搜神記」、而且次條榮陽廖氏之事亦見今本搜神記、按或可能兩條均見靈鬼志並搜神記、因今暫存之於此。

(一)○廣記汪氏校語云、「下」原作「不」、據明鈔本改。鈔宋本亦作「下」。今從此。(二)○「遊」據談刻本補。三八年版全集「飽」誤作「絕」。

19 榮陽郡有一家姓廖、其家累世為蠱以致富^(一)、子女豐悅^(二)。後取新婦、不以此語之。家人悉行^(三)、婦獨守家^(四)、見屋中一大缸^(五)。試發^(六)、見一大蛇^(七)、便作沸湯^(八)、悉灌殺之^(九)。家人還^(一〇)、婦具說焉^(一一)、舉家驚惋^(一二)。無幾其家疾病^(一三)、死亡略盡^(一四)。

校記 御覽七百四十二。○廣記三五九引為「出靈鬼志及搜神記」。事見搜神記二—318。

(一)○廣記引無「其家」二字。又「以」下有「此」字。(二)○廣記引無此句四字。(三)○廣記引作「曾

遇家人咸出」。(四)○廣記引作「唯此婦守舍」。(五)○廣記引句頭有「忽」字。(六)○廣記引作「婦試發之」。(七)○廣記引「一」作「有」。(八)○廣記引作「婦乃作湯」。(九)○廣記引無「悉」字。(一〇)○廣記引作「及家人歸」。(一一)○廣記引「說焉」作「白其事」。(一二)○御覽鮑氏刊本引無「家」字。(一三)○廣記引「病」作「疫」。(一四)○「死」字鈎沈據鮑氏刊本脫之、今依四部叢刊本並廣記引補。

20 有士人姓鄒、坐齊中^(一)、忽有一人通刺詣之。題刺云舒甄仲。既去、疑其非人、尋其刺、曰、「吾知之矣、是予舍西土瓦中人耳^(二)」。便往令人將鍤掘之、果于瓦器中得桐人、長尺餘。

校記 御覽七百六十七。○鄭氏。事亦見幽明錄(鈎沈182)晉書九二鄒湛傳。

(一)○「有士」二字、鈎沈據鮑氏刊本脫、今據四部叢刊本補。(二)○鈎沈脫「耳」字、今依御覽引補。

21 郝世了在會稽造墓、其地多石。後破大石、得一龜、長尺二寸許。在石中、石了無孔也。得非龜石俱生乎。既破出之、龜行動與常龜無異。石受龜如人刻安之。

校記 廣記四百七十二。○格致鏡原九四。鄭氏。

22 濡須口有一大船舶、覆在水中、水小時便出見。嘗有漁人夜宿其傍、以船繫之。但聞箏笛絃管之音。夢人驅遣云、「勿近官妓」。此人驚覺、即移船去。傳云是曹公載妓船覆於此、於今存在。

校記 御覽三百九十九引「靈魂志」。案「魂」當是「鬼」字之譌。○鄭氏。事亦見搜神記一六—385(御覽九八一引·義楚二三引)、『搜神後記』六—60(書鈔一三七·珠林四九·御覽七五七·又七六九·寰宇記二四引)、廣古今五行記(廣記三二二引)。

23 李通喪、有一客往弔之。李通子哭、便進上聽事。忽通從閣中出、以綸巾繫頭。

校記 書鈔一百二十九引「虛異志」。案陳氏本書鈔及俞氏唐類函並作「述異志」。蓋以意改、疑亦是靈鬼志也。○鄭氏。

24 歷陽縣張應^(一)、先是魔家^(二)、取佛家女為婦。咸和八年、移居蕪湖。妻病。因為魔事、家財略盡、而病不差^(三)。妻曰、「我本佛家女、乞為我作佛事^(四)。」應便往精舍中見竺曇鏡^(五)、鏡曰、「佛普濟衆生、問君當一心受持身戒耳^(六)。」曇鏡期明當向其家。應夢見一人^(七)、長丈五六^(八)、正向於南面趨步入門^(九)、曰、「此家寂寂、乃爾不淨。」夢中見鏡隨此人後^(一〇)、白曰、「此家始欲發意、未可一一責之^(一一)。」應先手巧眠覺^(一二)、便把火作高座、及鬼子母座。鏡明食時往^(一三)、應高座之屬具足已成。聞應說夢^(一四)、遂夫妻受五戒。病亦尋差^(一五)。

校記 辯正論七注。○鈎沈本作「八」、今依正。*義楚六帖二。廣記一六一引辯正論。鄭氏。事見冥祥記(鈎沈23)、文更詳、神鬼傳(廣記一〇〇引)均「曇鏡」作「曇鑑」。

(一)○廣記引文頭有「晉」字、而「縣」作「郡」。大正藏本引「縣」作「郡縣」、義楚六帖引作「郡」。(二)○廣記引作「先奉魔」。(三)○「而病」今依廣記引補。(四)○義楚六帖作「我本事佛、允為作福」。廣記引無「乞」字。(五)○「曇」、鈎沈本作「法」、今據大正藏本改、下文亦有「曇鏡」。廣記「便」作「即」。(六)○廣記引無「佛」字、又無「身戒」二字、而「問」作「但」。(七)○廣記引「夢」上有「夕」字、而無「見」。(八)○廣記引作「長五六尺」。(九)○廣記引無「正向於南面」五字。(一〇)○廣記引無「夢中」二字。(一一)○廣記引無「一一」二字。(一二)○廣記引無「先手巧」三字。(一三)○廣記引無「明」字。(一四)○廣記引「應」下有「具向」二字。(一五)○廣記引「尋差」作「得瘥」。

○ 25

何文者漢人也。有一女子、容兒美也。卒死、葬明日見其塚、盡成菊花、故名菊花女、亦名女郎花。
校記 倭漢朗詠集私注上之下（六地藏寺本）。古名錄卷十三草部女郎花（日本古典文庫本）。

祖台之志怪

凡一五條

1 漢武帝與近臣宴會于未央殿，忽聞人語云，『老臣冒死自陳。』乃見屋梁上有一老翁^(一)，長八九寸，拄杖僂步，篤老之極。緣柱而下，放杖稽首，默而不言。因仰首視殿屋，俯指帝腳，忽然不見。東方朔曰，『其名「藻居」，兼水木之精，春巢幽林，冬潛深河。今造宮室，斬伐其居，故來訴於帝。曰仰視殿屋^(二)，殿名未央，訴陛下方侵其居宅未央也。俯指陛下腳者，足也。願陛下宮殿足於此，不願更造也。』上為之息宮寢之役。居少時，帝親幸河都^(三)，聞水底幽弦歌之聲，又有善芥。須臾，前梁上老翁及年少數人，絳衣素帶，纓佩乘藻，甚為鮮麗，淩波而出，衣不沾濡。帝問曰，『聞水底奏樂聲，為君耶。』老翁對曰，『老臣前昧死歸訴，幸蒙陛下天地之施，即止息斧斤，得全其居宅，不勝嘉歡，故私相慶樂耳。』獻帝一紫螺殼，狀如牛脂。帝曰，『朕聞無以識君，東方生知耳。君可思以吳□貽之^(四)。』老翁乃顧命取洞穴之寶^(五)，一人即受命，下沒泉底^(六)，倏忽還到，奉大珠徑寸，明耀絕世。帝甚翫焉，問朔，『何以識此珠為洞穴之寶。』朔曰，『河底有洞穴之寶』。帝以五千萬錢賜朔^(七)，取其珠。

校記 書鈔一百五十八。○古今圖書集成山川典二〇八。鄭氏。富永一登「魯迅輯『古小說鈎沈』校釈—祖台之『志怪』」(廣島大學文學部紀要一九九三年第五三卷) 1、以下略為富永氏。事亦見幽明錄(鈎沈31)、當可以補此文之闕。又見今本述異記下。

(一)○鈎沈脫「老」字，今依補。(二)○「殿屋」鈎沈並稿本皆作「宮殿」、今依孔本書鈔改。(三)○七三年版全集「河都」改作「河渚」。(四)○幽明錄作「可更以珍異見貽」。(五)○鈎沈脫「寶」字，七三年版全集已補之。(六)○「沒」孔本書鈔作「汲」、幽明錄亦作「沒」。(七)○鈎沈「千」作「十」、稿本作「千」、七三年版全集已訂之。

2 建安中、河間太守劉照夫人卒於府。後太守至、夢見一好婦人、就為室家。持一雙金鎖與太守^(一)、不能名。婦人乃曰、「此鏐^(二)。鏐鎖者、其狀如紐珠、大如指、屈伸在人。太守得置枕中。前太守迎喪、言有鏐鎖。開棺、見夫人臂果無復有鏐鎖焉。」

校記 御覽七百十八。○天中記四九。淵鑑三八一。均作「鏐鎖」。鄭氏。富永氏2。事亦見錄異傳(鈎沈9)。
(一)「鏐」音注云「古喚切」。(二)「鏐」音注云「竹悲切」。○四部叢刊本「悲」引作「志」。

3 吳未亡前、常有紫赤色氣、見牛斗之間。星官及諸善占者咸憂吳方興。惟張茂先於天文尤精^(一)、獨知為神劍之氣、非江南之祥。

校記 御覽六。○鄭氏。富永氏3。參看晉書三六張華傳。陶珽本說郭一一七祖台之志怪錄1。
(一)○鈎沈稿本·排印本皆脫「茂」、七三年版全集依補之。

4 陶太尉微時、喪當葬、家貧、親自營作塋。有一斑犢牛載塋致^(一)、忽然失去、便自尋覓。忽於道中逢一老翁、問云^(二)、「君欲何所覓。」太尉具答。更舉手指云、「向於山崗上見一牛眠山圩中^(三)、必是君牛。此牛所眠處^(四)、便好作墓、安墳當之、致之極貴^(五)。小復不當^(六)、位極人臣、世為方嶽矣。」又指一山云、「此山亦好、但不如向耳、亦當世出刺史也^(七)。」言訖、便不復見。太尉墓之、皆如其言。

校記 御覽九百○鄭氏。富永氏4。注云、事見晉書五八周訪傳。事亦見雜鬼神志怪(鈎沈14)。

(一)○四部叢刊本「斑」作「班」。「載塋致」鮑氏刊本作「塋已載致」、鈎沈又從之。今依四部叢刊本改。(二)○「問」今依補。(三)○「崗」鈎沈本引作「岡」、今依改。(四)○鈎沈稿本脫「處」、今依補。(五)○

「之」今依四部叢刊本補、鮑氏刊本引無。(六)○此處當有譌奪。(七)○「也」鈎沈稿本作「耳」、今依改。

5 義興郡溪渚長橋下、有蒼蛟吞噉人。周處執劍橋側伺、久之、遇出、於是懸自橋上投下蛟背、而刺蛟數創^(二)、流血滿溪^(三)、自郡渚至太湖句浦乃死。

校記 初學記七。○御覽七三。天中記五六。淵鑑三三二橋。鄭氏。富永氏 5。事亦見孔氏志怪(鈎沈 5)、世說自新篇 1、晉書五八周處傳。

(一)○御覽四部叢刊本引「懸」作一字空格。鮑氏刊本引作「懸」。御覽引「刺蛟」作「刺焉、蛟」。(二)○四部叢刊本引「滿」作「丹」。

6 晉懷帝永嘉中^(一)、譙國丁祚渡江至陰陵界。時天昏霧、在道北有社、見一物如人、倒立^(二)、兩眼垂血、從額下、聚地兩處、各有升餘。祚與從弟齊聲喝之^(三)、滅而不見。立處聚血皆化為螢火數千枚、縱橫飛起^(四)。

校記 御覽九百四十五。○淵鑑四四七螢。鄭氏。富永氏 6。參看陶珽本說郭一一七祖台之志怪錄 2。

(一)○四部叢刊本「晉」作「昔」、誤。(二)○四部叢刊本引「倒」作「到」。(三)○四部叢刊本引「聲」作「咭」。(四)○「起」鈎沈稿本作「散」、鮑氏刊本引無「散」、今依四部叢刊本改。

7 隆安中、陳慳於江邊作魚簞^(一)。潮去、於簞中得一女人、長六尺。有容色、無衣服。水去不能動、臥沙中、與語不應。人有就辱之。慳夜夢云、『我是江黃^(二)。昨失道落君為、小人遂見加凌。今當白尊神殺之。』慳不敢移、潮來自逐水去。姦者尋病死^(三)。」

校記 御覽六十八。○事見廣記二九五引洽聞記、文略同。又明鈔本說郭四引洽聞記。鄭氏。富永氏 7。

(一)「〔箴〕音注云」正匪切。(二)〇洽聞記「江黃」作「江神」。(三)〇「死」鈎沈稿本・鮑氏刊本皆無，今依四部叢刊本補。廣記引洽聞記亦作「病死」。

8 建康小吏曹著^(一)、見廬山夫人、夫人為設酒饌^(二)。金鳥啄鬚^(三)、其中鏤刻、奇飾異形、非人所名^(四)。下七子盒盤^(五)、盤中亦無俗間常肴糈^(六)。夫人命女婉出與著相見。婉見著欣悅^(七)、命婢瓊林令取琴出、婉撫琴歌曰^(八)、『登廬山兮鬱嵯峨、睇陽風兮拂紫霞^(九)、招若人兮濯靈波^(一〇)。欣良運兮暢雲柯、彈鳴琴兮樂莫過^(一一)、雲龍會兮樂太和^(一二)。』歌畢^(一三)、婉便還去^(一四)。

校記 御覽五百七十三。*八百四十九。*書鈔一百四十二。〇御覽五七三、鈎沈誤作五七二、書鈔一四二、又誤作一一四、七三年版全集已皆訂之。王銍補侍兒小名錄(叢書集成本)。*淵鑑三三八食。鄭氏。富永氏8。曹著之事又見次條9及御覽七五八引志怪(雜鬼神志怪鈎沈6)、白帖四、六帖一三。按原有比較完整之故事。參看陶珽本說郭一一七祖台之志怪錄7。

(一)〇小名錄「吏」作「史」。(二)御覽引「饌」作「噉」。〇書鈔引無「夫人」。(三)〇「金」鈎沈・鮑本引作「餘」、今依四部叢刊本改。(四)以上四句御覽引有。(五)〇四部叢刊本引「盒」作「合」。(六)書鈔一百四十二。御覽八百四十九。〇自「夫人為設酒饌」至此、御覽五七三・小名錄引無。書鈔引「中亦」作「內」。「俗間常肴糈」、御覽四部叢刊本引作「俗中肴」、鮑氏刊本引作「俗餽」。(七)〇小名錄引此句作「女欣然」三字。(八)〇小名錄引「琴」下有「而」字。(九)〇小名錄「拂」作「排」。(一〇)〇小名錄引無此句。(一一)〇小名錄引無此句。(一二)〇小名錄引「雲龍會」作「矯雲龍」。(一三)〇小名錄引作「琴歌既畢」。(一四)〇「還」鈎沈引作「辭」、今依御覽各本改。

9 建康小吏曹著^(二)、為廬山使君所迎、配以女婉^(三)。著形意不安、屢求請退^(四)。婉潛然垂涕^(四)、賦詩敘別^(五)、並贈織成禪衫也^(六)。

校記 書鈔七十七・又一百二十九。初學記二十六。○御覽六九三。淵鑑一七小吏。鄭氏。富永氏9。事見搜神記四—79。參看前條。

(一)○書鈔一二九「康」作「安」。(二)○初學記引「女」作「文」。(三)○御覽引「請」誤作「諫」。(四)○御覽引「垂」作「流」。(五)○初學記引無「詩」。(六)書鈔一(一二九)引「禪」作「單」。

10 吳中書郎盛冲至孝^(一)、母王氏失明。冲覽行^(二)、敕婢為母作食^(三)。婢乃取蟬螬蒸食之、王氏甚以為美^(四)、而不知是何物^(五)。兒還、王氏語曰^(六)、「汝行後^(七)、婢進吾一食^(八)、甚甘美極^(九)。然非魚非肉^(一〇)、汝試問之。」既而問婢、婢服曰、「實是蟬螬^(一一)。」冲抱母慟哭^(一二)、母目霍然開明^(一三)。

校記 珠林四十九(百二十卷本六二)。御覽四百十一、又九百四十八。○鄭氏。富永一登「魯迅輯『古小說鈎沈』校釈」祖台之『志怪』(續)(『廣島大學中國學學會』中國學研究論集』第八號二〇〇一年。以下略稱富永氏)富永氏10。事見搜神記一一—281、晉書八八盛彥傳。參看陶珽本說郭一一七祖台之志怪錄6。

(一)御覽一(四一一)引「冲」作「仲」、下同。○四部叢刊本九四八引作「冲」、下同。鮑氏刊本作「冲」。珠林大正藏本引「盛」作「咸」。(二)○「覽」珠林、御覽九四八引作「暫」。(三)○「為母作食」御覽引作「食母」。(四)○御覽四一一引「王氏」作「母」、下同。鮑氏刊本九四八引無「以為」二字。(五)○御覽四一一引無「而」。(六)○御覽四一一引無「語」。(七)○鮑氏刊本引「汝」作「女」。御覽九四八引無「後」。(八)○御覽四一一引無「一」。(九)○御覽九四八引無「極」、四一一引無「美極」。(一〇)○御覽四一一無下「非」。(一一)○以上二句御覽九四八引作「既而問婢、服、食是蟬螬」。珠林大正藏本引作「服」作「伏」、而無「曰」。(一

(二)○鮑氏刊本四一引脫「母」。(一三)○御覽引「開明」作「立開」。

11 吳中有一士大夫^(一)、於都假還^(二)、行至曲阿塘上、見一女子^(三)、容貌端正。便呼即來^(四)、便留住宿^(五)。士解臂上金鈴^(六)、繫其臂^(七)、令暮更來、遂不至。明日更使尋求^(八)、都無此色^(九)。忽過一豬圈邊^(一〇)、見母豬臂上繫金鈴^(一一)。

校記 御覽九百三(排印本誤作九百三十)、又七百十七。書鈔一百三十五。○天中記五四。淵鑑三八一鈴、四三六豕。鄭氏。富永氏11。事見搜神記一八一430。參看陶珽本說郛一一七祖台之志怪錄4。

(一)○「一士大夫」書鈔引作「士人」、御覽七一七引作「王大夫」。(二)○此句四字、書鈔·御覽七一七引無。(三)○書鈔引以上二句作「于曲阿見塘上有一女子」。御覽七一七引作「行至曲阿回塘上有一女子」。御覽九〇三鮑氏刊本引「行至」作「西」。(四)二句書鈔引有。○御覽九〇三引作「甚美」二字、七一七引無。(五)○書鈔引無「住」。御覽九〇三引作「留其宿」。(六)御覽引一(九〇三鮑氏刊本。四部叢刊本引作「鈴」)作「鈴」、一(七一七)作「合」、下同。○御覽七一七引無「士」。書鈔引「解」上有「乃」、而無「臂上」二字。(七)御覽一(七一七)引(臂)作「肘下」。○書鈔·御覽九〇三引「其」作「女」。(八)○書鈔引作「至明日更求女」。御覽九〇三引作「使人求」。又七一七引無「明日」。(九)○書鈔引「色」作「人」。御覽七一七引「此色」作「女人」。鮑氏刊本引「都」作「卻」。(一〇)○書鈔引「圈」作「牢」。御覽九〇三引作「過豬圈」、七一七引作「過豬欄邊」。(一一)御覽一(七一七)引(臂上)作「胛」(四部叢刊本作「鉀」)。○書鈔引「繫」作「有」。御覽七一七鮑氏刊本引作「見一豬胛有合」。

12 廷尉徐元禮嫁女、從祖與外兄孔正陽共詣徐家、道中有土牆、見一小兒、裸身、正赤手持刀、長五六寸、企牆上磨

甚缺^(二)。獨語、因跳車上曲闌中坐、反覆視刀、輒舐之。至徐家門前桑樹下、又跳下、坐灰中、復更磨刀。日晡、新婦就車中、見小兒持刀入室、便刺新婦、新婦應刀而倒。扶還解衣、視小腹紫色^(三)、如酒漿大、炊頃便亡。鬼子出門儻刀、上有血、塗桑樹^(三)、火然、斯須燒盡^(四)。

校記 御覽三百四十五。○鄭氏。富永氏 12。

(一)○四部叢刊本引「企」作「坐」。鮑氏刊本「駛」作「駛」。 (二)○四部叢刊本引「小」作「心」。 (三)○鈎沈稿本「樹」下有「葉」、御覽各本引皆無、今刪之。 (四)○「盡」今依四部叢刊本補。

13 荀晞為兗州、鎮去京師五百里。有貢晞珍異食者、欲貽都邑親貴、慮經信宿之間^(一)、不復鮮美。募有牛能日行數百里者^(二)、當厚賞之。有人進一牛云、『此一日行千里^(三)。』晞乃命具丁車善馭、書疏發遣。旦發、日中到京師^(四)、取荅書還、至一更始竟便達^(五)。晞以其駿快、疑筋骨必將有異^(六)、遂殺而觀之。亦無靈異^(七)。惟有雙肋如小竹大^(八)、自頭挾脊著肉裏^(九)、故外不覺也。

校記 御覽九百。○*事類賦注二十二引志怪。天中記五五。淵鑑四三五牛。鄭氏。富永氏 13。事見晉書六一荀晞傳。參看陶珽本說郭一一七祖台之志怪錄3。

(一)○事類賦注引無「之間」二字。 (二)○事類賦注引「有」作「得」、而無以下至「書疏發遣」凡二十八字。 (三)○「一」今依御覽各本補。 (四)○事類賦注引「日」上有「書疏」二字。 (五)○「竟」鈎沈稿本作「進」、今依御覽各本改。事類賦注引「便達」作「荅書已還」。 (六)○事類賦注引句頭有「疑」字、今依補。 (七)○事類賦注引無此句。 (八)○事類賦注引「惟」下有「有」字、今依補。 (九)○鈎沈稿本·印本皆「裏」作「裏」、今依御覽改。事類賦注引亦作「裏」。

14 騫保至壇丘陽上北樓宿^(二)。暮鼓二中、有人著黃練單衣白帽^(三)、將人持炬火上樓^(三)。保懼藏壁中^(四)。須臾、有二婢上帳^(五)、使迎一女子上^(六)、與白帽人入帳中宿。未明、白帽人輒先去。如此四五宿^(七)。後向晨、白帽人纔去^(八)、保因入帳中、問侍女子^(九)、『向去者誰。』荅曰、『桐郎^(一〇)。道東廟樹是^(一一)。』至暮鼓二中、桐郎復來^(一二)、保乃砍取之、縛著樓柱。明日視之、形如人、長三尺餘。檻送詣丞相、渡江未半、風浪起、桐郎得投入水、風波乃息^(一三)。

校記

類聚八十八。御覽九百五十六。○天中記五一。淵鑑四一四桐。廣群芳譜七三。鄭氏。富永氏 14。

(一)○類聚引「至」作「坐」、「丘」作「近」。御覽引「壇丘陽」作「檀丘塢」。(二)○類聚引「帽」作「恰」、下同、疑譌。御覽鮑氏刊本引「白衣」作「白衣」。(三)○類聚引「將」作「得」。(四)○御覽鮑氏刊本引「藏」作「止」。(五)○類聚・御覽四部叢刊本引作「二」、鮑氏刊本引作「三」、今依前二者。(六)○御覽四部叢刊本引「帳使」作「使婢」、鮑氏刊本引作「帳、婢」。(七)○御覽四部叢刊本引「此」作「是」。(八)以上十三字御覽引有。(九)○此句御覽引作「持女子問」。(一〇)○御覽引作「桐侯郎」。(一一)○御覽四部叢刊本引「廟樹」作「桐樹廟」。(一二)○御覽引無「復」。(一三)○御覽鮑氏刊本引「波」作「浪」。

15 會稽山陰東郭氏女、先與縣人私通、此人估還於縣東靈慈橋^(一)。女往入船就之、因共寢接^(二)、為設食鱠蜃^(三)。食畢、女將兩鱠蜃上岸去。船還來至郭、逢人語此女已死。乃往省之、尚未殯也。發衾視之、兩手各把一鱠蜃。

校記

御覽九百四十三。○鄭氏。富永氏 15。參看陶珽本說郭一一七祖台之志怪錄 5。

(一)○四部叢刊本引「估」作「買」。(二)○四部叢刊本引「接」作空一格。(三)○四部叢刊本引「鱠」作「食」。

○ 16 昔有人與其奴皆患心腹痛病。奴死、剖之得一白鰓、赤眼仍活、以諸藥納口中、終不死。有人乘白馬觀之、馬尿墮而鰓縮。遂以灌之、即化成水。其人乃服白馬尿而疾愈。

校記 本草綱目五○。事見御覽九三三引志怪、鈎沈收入雜鬼神志怪。祖台之文多言時處人名、而此文不及之、或本草綱目所誤引歟。引在此以供參考。

孔氏志怪

凡一〇條

1 楚文王好田^(一)，天下快狗名鷹畢聚焉。有人獻一鷹，曰：『非王鷹之儔^(二)。』俄而雲際有一物凝翔，飄飄鮮白，而不辨其形。鷹於是竦翮而升^(三)，轟若飛電。須臾，羽墮如雪^(四)，血灑如雨。良久，有一大鳥墮地而死。度其兩翅，廣數十里，喙邊有黃，衆莫能知。有博物君子曰：『此大鵬雛也，始飛焉，故為鷹所制。』乃厚賞獻者。

校記 初學記三十（引作「孔氏志」）。○白帖二九引略。記纂淵海六同上。杜詩九家注三一—三〇。以上三書均作「孔氏志」。淵鑑四二〇・又四二二。事又見幽明錄（鈎沈26）。

（一）○「好田」杜詩九家注引作「少時雅好田獵」六字。（二）○淵鑑四二〇引無「曰非王鷹之儔」四字，而云「者，文王見之，爪距神爽，殊異常鷹，故為獵於雲夢。」又四二二引與初學記引同。（三）○杜詩九家注引「鷹」下有「見之」二字。（四）○杜詩九家注引「羽」作「物」。

2 盧充者，范陽人也^(一)。家西三十里，有崔少府墓^(二)。充先冬至一日出家西獵，見一鷹，舉弓而射，即中之。鷹倒而復起，充逐之，不覺遠。忽見一里門如府舍，門中一鈴下有唱家前^(三)，充問曰：『此何府也。』答曰：『少府府也。』充曰：『我衣惡，那得見貴人。』即有人提襖新衣迎之。充著，盡可體，便進見少府展姓名。酒炙數行，崔曰：『近得尊府君書，為君索小女婚，故相延耳。』即舉書示充，充父亡時雖小，然已見父手跡，便歔歔無辭^(四)。崔即敕內，令女郎莊嚴，使充就東廊^(五)。充至，女已下車^(六)。立席頭共拜。為三日畢^(七)，還見崔。崔曰：『君可歸矣。女有娠相，生男，當以相還。生女，當留自養^(八)。』敕外嚴車送客。崔送至門，執手涕零，離別之感，無異生人。復致衣一襲、被褥一副。充便上車，去如電逝。須臾至家，家人相見悲喜。推問，知崔是亡人，而入其墓，追以懊惋^(九)。居四年^(一〇)，三月三日、

臨水戲、水中忽見二犢車^(二)、乍浮乍沒^(三)、既上岸、充往開車後戶、見崔氏女與三歲男兒共載。充見之、欣然、欲握其手、女舉手指後車曰、『府君見人。』即見少府、充往問訊。女抱兒還充、又與金盃別、並贈詩曰、『煌煌靈芝質、光麗何猗猗。華豔當時顯、嘉異表神奇。含英未及秀、中夏罹霜萎。榮曜長幽滅、世路永無施。不悟陰陽運、哲人忽來儀。會淺別離速、皆由靈與祇。何以贈余親、金盃可頤兒。愛恩從此別、斷絕傷肝脾。』充取兒盃及詩、忽不見二車處。將兒還、四座謂是鬼魅、僉遙唾之、形如故。問兒、『誰是汝父。』兒逕就充懷。衆初怪惡、傳省其詩、慨然嘆死生之玄通也。充詣市賣盃、高舉其價、不欲速售、冀有識者。歟有一老婢、問充得盃之由、還報其大家。大家即女姨也^(四)。遣視之、果是。謂充曰、『我姨姊崔少府女、未嫁而亡。家親痛之、贈一金盃、著棺中。今視卿盃甚似、得盃本末、可得聞不。』充以事對。即詣充家迎兒、兒有崔氏狀、又似充貌。姨曰、『我舅甥三月末間產^(五)、父曰春煥溫也、願休強矣。即字溫休。溫休、蓋幽婚也。其兆先彰矣。』兒遂成為令器、歷數郡二千石、皆著績。其後生植、為漢尚書。植子毓、為魏司空。冠蓋相承至今也。

校記 世說方正篇⁽¹⁸⁾注。李瀚蒙求注上引略。類林雜說十三。草堂詩箋二十七。○*杜詩九家注三〇—四九。*草堂詩箋一〇。和漢朗詠集私注六^(又下之下)引志怪。天中記一九。琅玕代醉篇三三。*淵鑑二四八。事見搜神記一六—397^(又御覽八八四·廣記三二六引)、續搜神記六—61^(又類聚四·法苑珠林九二引)。瑠玉集一二引世說^(後附)。

和漢朗詠集^(下之下)引志怪云、盧充、范陽城人也。城西三十里有崔少府墓。日獵逐麋、遂至府舍見崔、崔云、得賢尊書、為君索其小女。令充就東廊、并見女郎、禮畢見崔、崔曰、女生男、當相還。送至門執別、充遂至家。后三月三日、充臨水戲、見二犢車怎浮沈、已登岸、見之崔氏女與三歲兒共載、抱兒還充、贈詩一首與金盃一枚、別忽不見。兒長遂為令器、歷數郡二千石、冠蓋至今相承。^(六地藏寺本)。

(一)○世說注引無「也」、而瑠玉集引有。(二)○類林雜說引「府」下有「女」字、案衍也。(三)○鈎沈

脫「門」字、今依補。余嘉錫『世說箋疏』引李慈銘說云、「案有唱家前四字有誤。太平廣記三百十六引搜神記作唱客前。此處家字蓋客字之誤。」（四）○「歛」鈎沈作「歎」、今依改。（五）草堂詩箋二十七節引、「東廊」作「東廂」。（六）○「女」世說注引作「婦」、鈎沈或以意改歟。（七）○「為」鈎沈引作「焉」而上接、今依改。（八）○「留自」鈎沈引作「自留」、今依改。（九）○「惋」鈎沈引作「喪」、今依改。（一〇）蒙求注引作「經三年」、詩箋亦作「三年」。（一一）（水中）二字依蒙求注引補。○「二」世說注引作「一」、蒙求注、琬玉集引均作「二」。（一二）（詩箋）「乍沒」作「乍沉」、類林並同。○蒙求注引作「乍沈乍浮」。（一三）○世說注引無「大家」二字。琬玉集引有。（一四）○「舅」鈎沈引無、今依補。

琬玉集十二引世說云、

盧充後漢范陽人也。家西卅里有崔少府墓。充先冬一日、出家西獵、時見一鷹、舉弓射之、即中、充逐、不覺漸遠。忽見一門、有如府舍。充往問曰、此何官府。門人答曰、崔少府家也。充曰、我衣弊惡、不可進見少府。須臾有人捉一襜衣與充、充著、盡皆可體。於即進見少府、具展姓名。少府賜坐、為設酒穴。少府乃曰、近得尊府君書、為君索吾小女。故相迎耳。充起謙讓。少府出書示之。充父亡時、雖小、然已識手迹、見便歔歔^(一)、不敢有違。少府即令女莊嚴、使充往就。於是男女相拜而交禮焉。三日既畢、還見少府、少府曰、君可歸家、女若生男、當以相還、生女當女自留養。敕外嚴駕送客。並贈衣一襲、被褥一副。少府送出至門。離別之感、無異生人。充便上乘、去如電逝、須臾之須^(二)、忽即至家、家人見之、問知委曲、相對悲泣。推問少府乃是亡人、所見屋宅、並皆墳墓。後經四年、至三月三日、充臨水戲、水中見二犢車、乍沉乍浮、須臾之間、即便上岸、充往車後、見崔氏女與一小兒共載。充見欣然欲捉其手、女指後車曰、府君^(三)。充即迴視、便見少府、趨往問訊、脩女知禮、女因抱兒還充、又與金鏡結念、並贈詩一首。分別既訖、忽然不見二車、充將兒還、四^(四)謂是鬼魅、僉遙唾之、而此小兒形自如。□□之^(五)、誰是汝父。兒逕就充。衆人初雖恠惡、□□其詩^(六)、始歎死生之玄通、人鬼之合禮。□□市賣鏡^(七)、冀有識者。時有

一婢、問充得鏡所由、還報其大家、大家即女姨也。不信婢言、遣兒視之。視之果是姨姊之鏡。便謂充曰、我姨姊、崔少府之女、未嫁而亡、家親痛之、贈一金鏡、着其棺中。今視卿鏡甚似。得鏡本末、可得聞不。充具說由狀、一一皆同、即詣充家、迎兒。兒有崔氏狀。又似充兒。姨曰、我甥三月末產、父曰春暖溫也、願休強矣。即字溫休。溫休蓋幽婚也。其兆彰矣。兒遂成長、乃為令器。歷數郡守。其子殖子毓歷魏司空。冠蓋相承至今不絕也。出世說。

(一) 𩇛。此字疑譌、或當作「欸」。(二)「須」譌、當作「間」。(三) 闕二字或當作「在後」。(四) □當作「座」。(五) 闕二字或當作「衆問」或「皆問」。(六) 闕二字或當作「至讀」或「及讀」。(七) 闕二字當作「充往」。

3 後漢末^(一)、有一人腹內痛^(二)、晝夜切痛^(三)、臨終^(四)、敕其子曰^(五)、『吾氣絕後、可剖視之。』其子不忍違言^(六)、剖之^(七)、得一銅鎗^(八)、容可數合^(九)。後華佗聞其病而解之^(一〇)、便往^(一一)、出巾箱內藥以投之^(一二)、鎗即化清酒^(一三)。

校記 書鈔一百三十五。御覽七百四十三・*七百五十七。廣記二百十八。○*淵鑑三八三。

(一) 三字廣記引志怪有。(二) 御覽、廣記引作「有人得心腹痠病」。^(一)御覽四部叢刊本七四三引作「有人得痠病腹」。(三) ○「切痛」書鈔引作「攻」。(四) 二字廣記引有。○御覽七四三引亦有。(五) ○書鈔引「敕」上有「口」。御覽七四三引「曰」作「云」。(六) 六字廣記引有。○御覽七四三引無「言」。(七) ○書鈔引作「遂剖」。御覽七四三引「剖」作「割」。(八) ○御覽二(七五七)引「鎗」作「鎗」。^(一)御覽七四三引「鎗」作「酒鎗」。(九) ○御覽七四三引無「可」字。廣記引作「容數合許」。(一〇) ○書鈔引無「其病而解」四字。(一一) ○御覽七四三引無「往」字。(一二) ○廣記引「出」上有「因」字。御覽七四三引「箱內」作「櫛中」、廣記引「內」作「中」。御覽、廣記引「之」作「鎗」。(一三) ○「化為清酒」御覽七四三引作「消成酒」、廣記引作「成酒焉」。

4 鍾會是荀濟北從舅、二人情好不協。荀有寶劍^(一)、可直百萬^(二)、以付妻^(三)。會善書、學荀手跡、作書取劍^(四)、仍竊去不還。荀勗知是鍾、而無由得也^(五)、思所以報之。後鍾兄弟以千萬起一宅^(六)、始成、甚精麗、未得移住。荀極善畫、乃潛往畫鍾門堂^(七)、作太傅形象^(八)、衣冠狀兒如平生^(九)。二鍾入門^(一〇)、便大感動^(一一)、宅遂空廢^(一二)。于時咸謂勗之報會、過于所失數十倍。彼此書畫、巧妙之極。

校記 世說〔巧藝篇 4〕注引孔氏志怪。○御覽一八〇・三四三引世說。事又見書斷一（廣記二〇六引）。

（一）○御覽三四三引「寶」上有「好」字。（二）已上依世說巧藝篇補。（三）世說作「常在母鍾夫人許」、注引孔氏志怪曰「勗以寶劍付妻」。○御覽一八〇・三四三所引世說「夫人」上有「太」字。（四）○御覽一八〇・三四三所引世說「作書」下有「與母」二字。（五）○「荀勗」御覽一八〇引世說作「荀後」、又三四三引作「荀深」。鈎沈「由」下空二格、今依補。御覽兩引「也」作「求」。（六）○「後鍾」御覽一八〇所引世說作「會鍾」、又三四三引作「鍾會」。又「兄弟」下並有「共」字、「一」作「新」。（七）○御覽兩引「乃」作「於是」。（八）○御覽兩引「作」上有「並」字。（九）○御覽一八〇引世說「平生」下有「之容」二字。（一〇）○御覽一八〇引「二鍾」作「鍾來」、又三四三引作「二鍾來」。（一一）○御覽兩引「動」作「慟」。（一二）「會善書」至此已上並依世說補。○御覽兩引「宅」上有「於是」二字。

5 義興有邪足虎^(一)、溪渚長橋有蒼蛟、并大噉人^(二)、并郭西周^(三)、時調郡中三害。周即處也^(四)。

校記 世說自新篇〔1〕注。初學記八。○萬花谷後集六。淵鑑三三五。事又見晉書周處傳。

（一）初學記引作「白額〔獸〕」。（二）○初學記引以下作「並周處為三害」。（三）○世說注引無「并」、鈎沈或以意補。○（四）○按此是劉孝標注文、當刪也。

6 干寶父有嬖人、寶母至妬、葬寶父時、因推著藏中。經十年而母喪、開墓、其婢伏棺上。就視猶煖、漸有氣息、輿還家、終日而蘇。說『寶父常致飲食、與之接寢、恩情如生。』家中吉凶輒語之、校之悉驗。平復數年後方卒。寶因作搜神記、中云有所感起是也。

校記 世說排調篇(19)注。○天中記一九。事又見搜神後記四—42(御覽五五六引)。晉書干寶傳。五行記(廣記三七五引)、獨異志上。

7 晉明帝時^(一)、獻馬者夢河神請之、及至、帝夢同、即投河以奉神。始太傅褚裒亦好此馬、帝云^(二)、『已與河神。』及褚公卒、軍人見公乘此馬矣。

校記 廣記二百七十六。○廣記引作「孔約志怪」。天中記五五。淵鑑四三三。

(一)○廣記引無「帝」、鈎沈依標題補。(二)○「云」鈎沈排印本作「曰」、今依廣記·鈎沈稿本改。

8 會稽盛逸嘗晨興、路未有行人。見門內柳樹上有一人、長二尺餘^(一)、衣朱衣冠冕^(二)、俯以舌舐樹葉上露^(三)。良久、忽見逸、神意如驚^(四)、遽即隱不見。

校記 類聚八十九(引作孔氏志怪記)。御覽九百五十七。○淵鑑四一五。事見搜神後記七—83。廣群芳譜七六。

(一)○類聚引無「餘」。(二)○御覽引無上「衣」字。(三)○「舐」鈎沈引作「銑」、今依改。(四)○御覽引「如」下有「有」字。

9 會稽吏謝宗赴假吳中、獨在舡^(一)。忽見女子、姿性妖婉、來入船。問宗、『有佳絲否。欲市之。』宗因與戲、女漸

相容。留在舡宿歡宴、繼曉^(二)、因求宗寄載、宗便許之。自爾船人恆夕但聞言笑兼芬馥氣。至一年、往來同宿密伺之、不見有人。方知是邪魅、遂共掩之。良久、得一物、大如枕。須臾、又得二物^(三)、並小如拳。以火視之、乃是三龜。宗悲思數日方悟。自說、『此女子一歲生二男、大者名道愍、小者名道興。』既為龜、送之於江。

校記 御覽九百三十一。○廣記四六六引志怪、鈎沈收錄與雜鬼神志怪(鈎沈12)。按廣記所引是孔氏志怪異文、當移置於此。

(一)○「舡」鈎沈依鮑氏刻本作「船」、今依四部叢刊本改、下同。(二)○「繼」鈎沈依鮑氏刻本作「既」、今依四部叢刊本改。(三)○鈎沈脫「又」、今依補。

10 南方落民、其頭能飛。其俗所祠、名曰『蟲落』、因號落民。

校記 酉陽雜俎四引于氏志怪。按于氏疑是孔氏之譌。○事見搜神記十二—306、汪氏校語云、酉陽雜俎四引作「于氏志怪」疑即本書〔搜神記〕。按「于寶」屢誤作「于寶」、或汪說是歟。今存疑。

神怪錄

原輯二條 刪一條 凡一條

1 會稽吳詳者、少為縣吏。夜行至溪、見一女子。遂捉之宿、仍依寢。自明旦去、女贈詳以紫手巾、詳答以白手巾。校記 書鈔一百三十六。案御覽七百十六引作「志怪」、其文較略。○鈎沈以御覽七一六引文繫雜鬼神志怪⁵。事見搜神後記六—59（珠林五九引、廣記³¹⁷引）、而文更詳、首尾相應。又天中記四九引與御覽引同。

2 將軍王果、昔為益州太守、路經三峽、船中望見江崖^(一)、石壁千丈、有物懸之在半崖^(二)、似棺槨、問舊行之人、皆云見之已久^(三)、果令人緣崖就視^(四)、乃一棺也。發之^(五)、骸骨存焉。有石誌云^(六)、『三百年後水漂我、欲及長江垂欲墮、欲墮不墮遇王果^(七)。』果視銘愴然云、『數百年前知我名、如何捨去。』因留為營斂葬埋^(八)、設祭而去。

校記 李瀚蒙求注中引神怪志、御覽五百五十九同。○御覽引略。事見廣記三九一、但未著書名、而云「唐左衛將軍王果被責、出為雅州刺史」。又同姓名錄以為唐王果。依廣記應是唐代之書、雅州亦隋置。又見『隋唐嘉話』下（類說五四、河南邵氏聞見後錄三〇引）。疑不是六朝之書、當刪。

（一）○「崖」鈎沈排印本作「岸」、今依古注蒙求和刻本及鈎沈稿本改。（二）○和刻本無「之」。（三）○以上二句十一字依和刻本補。（四）○「果」依和刻本補。「緣」和刻本作「懸」。（五）二字依御覽引補。（六）御覽引作「銘曰」。（七）○和刻本無「欲墮」二字。（八）○「葬埋」和刻本作「及瘞埋」

劉之遴神錄

凡三條

1 由拳縣、秦時長水縣也^(一)。始皇時、縣有童謠曰、『城門當有血、城陷沒為湖^(二)。』有老嫗聞之憂懼^(三)、每旦往窺城門^(四)、門侍欲縛之^(五)、嫗言其故。嫗去後、門侍殺犬、以血塗門。嫗又往見血^(六)、走去不敢顧。忽有大水、長欲沒縣。主簿令幹人白令。令見幹曰、『何忽作魚。』幹又曰、『明府亦作魚。』遂乃淪陷為谷矣^(七)。老母牽狗北走六十里、移至伊萊山得免。西南隅今乃有石室、名為神母廟。廟前石上、狗迹猶存^(八)。

校記 水經注二十九引神異傳。寰宇記二十二引同上。○方輿勝覽三。天中記一○。由拳縣今浙江嘉興也。而寰宇記引于海州朐山縣。事亦見淮南子俶真訓注、搜神記一三—³²⁶（亦初學記七、御覽六六引）、廣記四六八引神鬼傳、今本述異記上、獨異志上。

（一）○寰宇記引無以上九字。（二）○寰宇記引無「為湖」二字。（三）寰宇記引作「老母」、下同。○寰宇記引「老母」上有「一」字。而下三次都止作「母」一字。「老嫗」之「老」字、今依水經注補。（四）○水經注引無「每」字。（五）〔門侍〕寰宇記引作「門傳兵」。○寰宇記引無「欲」字。（六）○寰宇記引無「又」字。（七）○水經注二十九引至此為止、「矣」今依水經注補。自「走去」至此寰宇記引止作「便走、須與大水至、郡縣陷。」（八）○自「老母牽狗」至此、依寰宇記引。

2 聖英廟在晉陵既陽城。^(一)

校記 寰宇記九十二引劉遴之神異錄。○輿地紀勝九又引寰宇記、方輿勝覽五引有下文「或云魚子英廟」、為劉遴之神錄。

(一)〔聖英廟在〕四字補。

3 廣陵縣女杜美^(二)、有道術^(三)、縣以為妖、桎梏之。忽變形莫知所之。因以其處為立廟^(三)、曰東陵、號聖母。^(四)

校記 並同上〔寰宇記九二〕。輿地紀勝九引神異錄。○事又見今本神仙傳七。

(一)輿地紀勝九引神異錄、「美」上有「杜」字、應據補。○今補。神仙傳云適杜氏。^(二)○輿地紀勝引無「術」。^(三)○輿地紀勝引無「以」字。^(四)○輿地紀勝引作「號曰東陵聖母」。

齊諧記

原輯一五條 刪一條 凡一五條

1 吳富陽縣董昭之^(一)、嘗乘船過錢塘江^(二)、中央見有一蟻^(三)、著一短蘆。蘆長二三尺^(四)、走一頭迴復向一頭^(五)、甚遑遽^(六)。昭之曰、「此畏死也」^(七)。『使以繩繫蘆^(八)、欲取著船^(九)。船中人罵、「此是毒整物、不可長、我當蹋殺之。」』昭意甚憐此蟻^(一〇)。船至岸、蟻緣繩得出^(一一)。中夜夢一人烏衣^(一二)、從百許人來謝云^(一三)、「僕不慎墮江、慚君濟活^(一四)。僕是蟲王^(一五)、君若有急難之日^(一六)、當見告語^(一七)。』歷十餘年^(一八)、時江左所在劫盜縱橫^(一九)、錄昭之為劫主^(二〇)、繫餘姚獄。昭之自惟蟻王夢^(二一)、結念之際、同被禁者問之^(二二)、云、「緩急當告、今何處告之。」獄囚言^(二三)、「但取兩三蟻著掌中祝之。」昭之如其言、暮果夢昔烏衣人^(二四)、云^(二五)、「可急去入餘杭山^(二六)、天子將下赦、今不久也^(二七)。』於是便覺^(二八)。蟻齧械已盡^(二九)、因得出餘。過江投餘杭山、遇赦遂得免^(三〇)。

校記 初學記二十。御覽六百四十三。又*四百七十九。廣記四百七十三。*類聚九十七。○鈞沈作「御覽六百四十二」、今正。*天地瑞祥志一八。*事文類聚後集四九。天中記五七。*潛確類書一一四。淵鑑一五〇獄、又四四八蟻、*又三一報德。玉函1。本事見搜神記二〇—456、文同。

(一)〔當陽〕廣記引作「富陽」。○類聚·御覽四七九·瑞祥志引均同、當陽不在吳、今遽類聚等引改作「富陽」。類聚·御覽四七九引無「縣」。瑞祥志引「昭」作「照」。廣記引作「有董昭之者」。(二)○初學記引物「嘗」、廣記引作「曾」。御覽四部叢刊本六四三引「嘗乘」二字作「泛」、鮑氏刊本作「業」。(三)○「中央」初學記·御覽六四三·廣記引均作「江中」、又御覽六四三引無「有」。瑞祥志引句末有「侯救其命」、而後略。(四)○此句六字、今依類聚引補。(五)○御覽引無此句八字。(六)○御覽四七九引「遑」作「迫」。(七)已上五句、初學記引作「著一短蘆、遑遽垂死」。○御覽六四三·廣記引亦同、但「垂」作「畏」。(八)廣記引有此句。○「使」

鈎沈依廣記引作「因」、今依初學記・御覽六四三引改、御覽四七九引作「便」、而且「蘆」上有「此」字。類聚引無此句。御覽六四三鮑氏刊本引「蘆」作「葭」。(九)○鈎沈依御覽四七九引文末有「頭」、類聚引無、今刪之。他書引均作「著船」二字。(一〇)○以上五句二十三字據類聚引、而他書引皆無。(一一)二句依御覽並廣記引補。○類聚引無此二句。初學記・御覽六四三・廣記等引均作「船至岸、蟻得出」。下句依御覽四七九引。鈎沈本「船」上有「會」字、而諸書引皆無、今刪。(一二)○御覽六四三引「夢」下有「見」。廣記引「中夜」作「其夜」、而「一人烏衣」作「一烏衣人」。(一三)○初學記・御覽六四三・廣記等引均無「從百許人」四字、類聚・御覽四七九引有。「云」鈎沈作「曰」、今依改。瑞祥志引有以上二句。(一四)○以上二句九字、類聚・御覽四七九引有、而他書省之。瑞祥志引作「僕蒙大恩延命」。(一五)廣記引作「僕は蟻中之王也。感君見濟之恩」。○初學記・御覽引均作「僕は蟻虫王」、而無後句六字。御覽六四三鮑氏刊本引作「僕は江中蟻、報君」。(一六)○初學記・御覽六四三引無「若」、「之曰」。御覽四七九引無「有」。廣記引作「君、後有急難」。(一七)類聚九十七・御覽四百七十九、此下並略。○略云、「後昭之遇事繫獄、蟻領群(三字御覽引無)蟻穴獄、昭遂得免(免)御覽作「脱」」。瑞祥志引亦同。初學記・御覽六四三引「告」作「先」。御覽四七九引無「語」。廣記引「見」作「相」。(一八)○御覽鮑氏刊本脫「年」字。(一九)○「縱橫」二字、今據御覽四部叢刊本補。四部叢刊本無「時」「所在」。初學記引作「時江左所劫盜橫」。鮑氏刊本作「時江左切盜」。(二〇)廣記引作「昭之」被橫錄為劫主」。鈎沈依御覽鮑氏刊本作「昭之從餘杭山過、為劫主所牽」、今依御覽四部叢刊本・初學記引改。(二二)○鈎沈依廣記引作「昭之忽思蟻王之夢」、今依初學記・御覽四部叢刊本。(二三)○以上二句鈎沈依廣記引補。(二四)已上四句、廣記引作「昭之具以實告、其人曰」。○鈎沈依御覽鮑氏刊本作「昭之曰、蟻云緩急當告、今何處告之」。今依御覽四部叢刊本並初學記引、但初學記引無「云」。又「獄」鈎沈依鮑氏刊本作「有」、今從初學記・四部叢刊本。(二四)○鈎沈依御覽鮑氏刊本・廣記引脫「昔」字、今依補。(二五)○鈎沈依鮑氏刊本「云」上「言」、今依四部

叢刊本・初學記引省之。(二六)○廣記引作「可急去投餘杭山中」。(二七)初學記・廣記引並作「天下既亂、赦令不及也」。核以下文似誤。○鈞沈依鮑氏刊本。御覽四部叢刊本「赦令」作「救命」、「不及」作「不久」、而且「既」下無「亂」。(二八)○廣記引作「既寤」二字。(二九)○初學記引作「醫械」作「攻商械」。(三〇)○鈞沈作「旋遇赦得免」。今依初學記・御覽引改。廣記引作「旋遇赦遂得無他」。

2 太元元年^(二)、江夏郡安陸縣薛道恂^(三)、年二十二。少來了了、忽得時行病、差後發狂、百藥治救不痊^(四)。乃復病狂走猶劇^(四)、忽失蹤跡、遂變作虎^(五)、食人不可復數^(六)。後有一女子、樹下採桑^(七)、虎往取之食^(八)。食竟乃藏其釵釧著山石間^(九)。後還作人、皆知取之^(一〇)。經一年還家^(一一)、復為人^(一二)。遂出都仕官^(一三)、為殿中令史。夜共人語、忽道天地變怪之事。道恂自云、『吾昔常得病發狂^(一四)、遂化作虎、噉人一年^(一五)。』中兼便敘其處所并人姓名^(一六)。其同坐人^(一七)、或有食其父子兄弟者^(一八)、於是號哭^(一九)、捉以付官^(二〇)。遂餓死建康獄中。

校記 御覽八百八十八。廣記四百二十六。○玉函¹⁰。

(一)○廣記引文頭有「晉」。(二)廣記引作「師道宣」。○御覽鮑氏刊本「恂」作「詢」、鈞沈依此本、今據四部叢刊本改、下同。(三)○御覽四部叢刊本「百」下有「藥」字、今從。而「痊」作「損」。(四)○「復病」今依四部叢刊本、鈞沈依鮑氏刊本作「服散」。鮑氏刊本「劇」上有「多」、今從四部叢刊本。(五)已上八句「三十六字」、廣記引作「少未了了、(後)忽發狂、變為虎」。(六)○廣記引「復數」作「紀」。(七)○廣記引「下」作「上」。(八)○廣記引無「往」。鈞沈依鮑氏刊本作「取食之」、今依四部叢刊本。(九)○廣記引無「食」、[著]作「於」。御覽引「間」作「門」。(一〇)廣記引作「後復人形、知而取之」。(一一)○廣記引無「一」。(一二)○御覽引無「復」、依廣記引。(一三)○廣記引無「都」。(一四)○廣記引無「昔」。「常」鈞沈依鮑氏刊本作「曾」、今依四部叢刊本。(一五)○「遂」鈞沈脫之、今依補。廣記引「噉」作「啗」、而無「一年」。(一

六)○鈎沈作「中兼道其處所姓名」、依鮑氏刊本「中兼道其處所噉人姓名」而脫「噉人」二字歟。今依四部叢刊本改。廣記引作「言其姓名」。(一七)○廣記引無「其」、而「同坐人或坐人」、下三字疑衍。(一八)○「其」依廣記引、御覽引無。(一九)○四部叢刊本「哭」作「泣」。(二〇)○廣記引作「捉送赴官」。

3 晉孝武太元八年、富陽民麻治者^(一)、為人好噉^(二)。江北華本者、為人好噉鼈^(三)、二人相善。麻治見一鼈、大如釜蓋、頭尾猶是大蛇。繫之經一月^(四)、盡變鼈。便取作膾、報華本食之、非常味美。麻治不肯食、華本疆令食之、麻治遂噉一鱗、便大惡心、吐逆委頓、遂生病。喉中有物^(五)、塞喉不下、開口向本、本見有一蛇頭、開口吐舌、本驚而走、治僅免。本後于宅得一蛇、大二圍、長五六尺、打殺作膾、喚麻治。別復切魚為膾自食、以蛇膾與麻^(六)。麻治得食甚美、苦求此魚。華本因醉^(七)、喚家人奉蛇皮及餘肉出^(八)。麻治見之大吐^(九)、歐血而死。

校記 廣記一百三十一。*書鈔一百四十五。*御覽八百六十二。*又八百六十一。○書鈔引竟不成體。御覽又略引。*類說五。*淵鑑三八九膾。三九一臠。玉函11。

御覽八六二引云、江南有麻姑治者、為人好噉鱠。江北岸有華本者、得一大蛇、喚麻為鱠、得食甚美、苦索魚名。華本因醉喚取蛇及餘肉出。麻治見之、大吐歐血死。

(一)○書鈔引亦作「麻姑」、但御覽四部叢刊本引作「麻姑治」、又作「麻治」、鮑氏刊本兩引作「麻治」。疑御覽四部叢刊本「麻姑治」之「姑」、衍、而他書引「姑」當是「治」之訛。今依改作「治」、下同。(二)○「為人」二字、今依書鈔・御覽引補。(三)已上二句亦見御覽八百六十一、有「江北」二字、「為人」二字、據補。(四)○按書鈔引題為「三月噉膾」、「三月」是「經三月」之意、故此「一」當作「三」。(五)○「喉」鈎沈依玉函引作「噉」、未知玉函所據、今改。(六)二句依書鈔引補。(七)○鈎沈依御覽八六二引補「華」字。(八)○「及」鈎沈依御覽補。「出」廣記引作「來」。(九)○「大吐」鈎沈依御覽引補。

4 江夏郡安陸縣、隆安之初^(一)、有一人姓郭名坦^(二)、兄弟三人。其大兒忽得時行病^(三)、病後遂大能食、一日食斛餘米。其家供給五年、乃至罄^(四)、語曰、『汝當自覓食。』後至一家、門前已得筭飯、又從後門乞^(五)、此家出語之、『汝已就前門得、那復後門乞^(六)。』其人答曰、『實不知君有兩門。』腹大飢不可忍、後門有三畦韭、一畦大蒜、因噉兩畦、便大悶極臥地。須臾至大吐、吐一物、似龍^(七)、出地漸漸大。及主人持飯出^(八)、不復能食^(九)、遂撮飯內著向所吐出物上、即消成水。此人於此病遂得差。

校記 御覽八百四十九。*書鈔一百四十三。○本草綱目二六、但誤作「薛用弱齊諧志」。淵鑑三三八八食。古今圖書集成食貨典二六一。玉函⁶。

(一)○「隆安之初」此句鈎沈依書鈔引補。(二)○御覽四部叢刊本引無「一」、鮑氏刊本引無「人」。(三)書鈔引作「有郭愷兄弟三人、寒天而忽得時行病」。(四)已上書鈔一百四十三亦引。○書鈔引無下「病」、「其」。(五)○御覽引無「又從」二字、鈎沈依玉函引、玉函注云、陳禹謨補注同、唯「後門乞」上有「又從」二字、據補。今從。(六)○以上三句十六字、鮑氏刊本脫之、今依四部叢刊本引補。(七)○四部叢刊本引作「籠」。(八)○「及」鈎沈依玉函引作「須臾」、鮑氏刊本作「須」一字、今依四部叢刊本引。(九)○鈎沈依鮑氏刊本作「腹不能食」、今依四部叢刊本改。

5 晉義熙四年^(一)、東陽郡太末縣吳道宗^(二)、少失父、單與母居^(三)、未有婦兒^(四)。宗賃不在家^(五)、鄰人聞其屋中砰碰磕之聲^(六)、闖不見其母、但有烏斑虎在其屋中^(七)。鄉里驚惶^(八)、恐虎入其家食其母^(九)、便鳴鼓會人共往救之^(一〇)。圍宅突進、不見有虎^(一一)、但見其母、語如平常^(一二)。不解其意^(一三)。兒還、母語之曰、『宿罪見譴^(一四)、當有變化事。』後一月日、便失其母^(一五)。縣界內虎災屢起、皆云母烏斑虎^(一六)。百姓患之、發人格擊之、殺數人。後人射虎中膺^(一七)、

并戟刺中其腹、然不能即得^(一八)。經數日後、虎還其家故牀上^(一九)、不能復人形、伏牀上而死。其兒號泣、如葬其母法^(二〇)、朝冥哭臨之^(二一)。

校記 珠林三十二(百二十卷本四三)。御覽八百八十八。廣記四百二十六。○玉函9。*通俗編三五。

(一)○御覽引無「晉」。(二)○「太末」御覽四部叢刊本引作「大末」、鮑氏刊本引作「大朱」、均誤。(三)○廣記引無「單」。(四)○御覽四部叢刊本引無「兒」。鮑氏刊本引無此句。廣記引作「未娶婦」。(五)御覽引作「會(四部叢刊本無)道宗收債、不在家」。廣記引作「一日道宗他適」。(六)○「硯」鈎沈作「碰」、今依諸書及鈎沈稿本改。廣記引作「窳」。(七)○御覽鮑氏刊本引「屋」作「室」。廣記引無「其」。(八)○御覽鮑氏刊本引「怛」作「怕」。廣記引作「隣人」二字。(九)○御覽鮑氏刊本引無「其家」二字。廣記引無「入其家」、而下「其」作「道宗」。(一〇)○廣記引作「遂鳴鼓會里人共救之」。御覽四部叢刊本引「共」作「以」。(一一)○御覽鮑氏刊本引「有」作「其」。(一二)○御覽鮑氏刊本引無「平」字。(一三)○御覽引「其」作「此」。(一四)○珠林·御覽四部叢刊本引「譴」作「追」。(一五)○珠林引無「其」。廣記引無「日」「其」、而「便」作「忽」。(一六)○「母」珠林引有、他書引無。(一七)○廣記引作「衆共格之、傷數人、後人射虎、箭帶膺」。珠林引「中膺」作「白鷹」、訛。(一八)○廣記引「得」作「死」。(一九)○御覽鮑氏刊本引「故」作「臥」。廣記引無「故牀上」三字。(二〇)○御覽鮑氏刊本引作「而葬其母如法」、廣記引作「葬之如母」。(二一)○廣記引無此句、御覽引無「之」。

6 廣州刺史喪還、其大兒安吉、元嘉三年病死、第二兒四年復病死。或教以一雄雞置棺中。此雞每至天欲曉、輒在棺裏鳴三聲、甚悲徹、不異栖中鳴。一月日後、不復聞聲。

校記 廣記四百六十一。○玉函13。文似不完。

7 周客子有女^(一)、噉膾不知足^(二)、家爲之貧。自至長橋南^(三)、見眾者挫魚作鮓^(四)、以錢一千求作一飽^(五)。乃擣噉魚^(六)、食五斛、便大吐之^(七)。有蟾蜍從吐中出、婢以魚置口中、即成水。女遂不復噉膾。

校記 御覽八百六十二。*書鈔一百四十五兩引。○淵鑑三八九膾。玉函7。參看本篇5。

(一)○御覽引無「客」。(二)御覽引有此句。(三)○御覽引無「自」。(四)○書鈔引「挫魚作鮓」作「鯪」。(五)○書鈔引句頭有「復」。御覽引無「作」。書鈔一引至此為止。(六)○御覽引無此句。(七)○書鈔另一引至此為止。御覽引無「之」。

8 有范光祿者、得病^(一)、腹腳並腫^(二)、不能飲食。忽有一人、清朝不自通達^(三)、進入光祿齋中^(四)、就光祿邊坐^(五)。光祿謂曰^(六)、『先不識君^(七)、君那得來、而不自通^(八)。』此人荅曰^(九)、『佛使我來治君病也^(一〇)。』發衣見之^(一一)。因捉其腳^(一二)、以甘刀針腫上^(一三)、儼忽之間、頓針兩腳及膀胱百餘下、然不覺痛。復欲針腹、其兒黃門不聽語、竟便去^(一四)。後針孔中黃膿汁當出二三升許^(一五)。至明曉、腳都差、針亦無孔^(一六)、范甚喜^(一七)。

校記 御覽七百四十三。廣記二百十八〔作「齊諧錄」〕。○*類說五。玉函12。

(一)○御覽引無「有」者」。(二)○廣記引「腹」作「兩」。(三)○御覽四部叢刊本引「達」作「遙」。鈎沈依鮑氏刊本引、今從。廣記引無「清朝」二字、而「達」作「名」。(四)○廣記引作「徑入齋中」。(五)○廣記引作「坐於光祿之側」。(六)○御覽引「謂曰」作「云」一字。(七)○「識」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「知」、今依四部叢刊本・廣記引改。(八)○廣記引「來而不自通」作「見詣」。(九)○廣記引作「答云」二字。(一〇)○御覽引無「也」。廣記引「治」作「理」。(一一)○廣記引作「光祿遂發衣示之」。汪校本「發」作「廢」、疑誤。(一二)○「捉其腳」三字、今依御覽引補。(一三)○廣記引無「甘」、汪氏校語云、「出針」原作「以

刀」，據明鈔本改。今從御覽引。（一四）已上四句依御覽引補。（一五）○「當出」鈎沈引作「嘗」，或依鮑氏刊本引而且脫「出」字歟，今依四部叢刊本改。廣記引作「出黃膿水三升許而去」。（一六）廣記引作「至明日，並無針傷而患漸愈」。（一七）○廣記引無此句。

9 餘杭縣南巷中有一人^(一)，姓沈名縱^(二)。其家近山，嘗一夕^(三)，與父同入山。至夜三更^(四)，忽見一人著紗帽、披絳綾袍^(五)，云是鬪山王^(六)。鬪山在餘杭縣^(七)。

校記 書鈔一百二十九。御覽八百十六。○天中記五○。淵鑑三七一袍。古今圖書集成食貨典三二七。玉函5。參看幽明錄（鈎沈178）、事同。按此條本當與次條合為一條。

（一）○「南巷中」今據第10補。（二）○御覽四部叢刊本引「縱」作「蹤」，又八〇五作「姓沈名路」。（三）○御覽引無以上二句七字。（四）○書鈔引無「夜」。御覽引「三更」作「二更中」。（五）○書鈔引作「忽見一人著絳綾袍」。（六）○書鈔引「鬪」作「鬪」。恐誤。（七）○書鈔引無此句。按或是御覽注文。

10 餘杭縣南巷中，有一人，姓沈名路^(一)，入山得一玉肫。從此以後，所向如意，家遂殷富。

校記 御覽八百五。○玉函4。按此條本當與前條合為一條。

（一）○「姓沈」鈎沈依玉函作「佚其」，御覽鮑氏刊本引作「□□」，今依四部叢刊本改。

11 廣陵王瓊之為信安令^(一)，在縣忽有一鬼，自稱姓蔡名伯喈，或復談議，誦詩書^(二)，知古今^(三)，靡所不諳。問『是昔蔡邕不^(四)』。荅云、『非也。與之同姓字耳^(五)』。問、『此伯喈今何在^(六)』。云、『在天上，或下作仙人，飛來去，受福甚快^(七)，非復疇昔也。』

校記 御覽八百八十三。廣記三百二十一。○玉函8。

(一) 廣記引作「廣漢王瑗之」。(二) 廣記引作「俄復談議詩」。(三) 廣記引句頭有「揆」字。(四) 廣記引作「是昔日蔡邕否」。(五) 〇「字」鈎沈脫、今依御覽·廣記引補。玉函亦脫。(六) 〇廣記引「此」作「前」。(七) 廣記引作「在天上作仙人、甚是受福、甚快樂」。○汪氏校語云、「甚是」二字原空闕、據黃本補。按鈎沈亦依黃本。

12 正月半、有神降陳氏之宅、云、『是蠶神^(一)、若能見祭^(二)、當令蠶桑百倍^(三)。疑非其事、祭門備之七祠。』今州里風俗、是日祠門戶^(四)。其法先以楊枝插於左右門上、隨楊枝所指、乃以酒脯飲食及豆粥饊糜、插箸而祭之。

校記 御覽八百二十五·又三十。○按此條似御覽三〇據荊楚歲時記寶顏堂秘笈本引。*白帖一。玉函2。參看續齊諧記吳縣張成事。

鈎沈引云、正月半、有神降陳氏之宅、云、『我是蠶神一引作室、若能見祭、當令蠶桑百倍。』已上亦見御覽三十今人正月半作饊糜、像此也。御覽八百二十五。

(一) 〇荊楚歲時記引作「室」、而白帖引作「神」、御覽八二五引亦作「神」。今依改。(二) 〇御覽八二五引無「若」。(三) 〇御覽八二五引無「桑」。(四) 〇寶顏堂本注云、「是」一作望。

13 東陽郡朱子之、有一鬼恆來其家。子之兒病心痛、鬼語之、『我為汝尋方、云燒虎丸飲即差。汝覓大戟與我、為汝取也。』其家便持戟與鬼、鬼持戟去。須臾還放戟中庭、擲虎丸著地、猶尚煖。

校記 御覽三百五十三。廣記三百十八。○玉函3。事見今本異苑六(廣記四七四引)、「朱子之」作「朱牙之」。

14 國步山有廟、有一亭、呂思與少婦投宿、失婦。思逐覓^(二)、見大城、有廳事^(三)、一人紗帽馮几。左右競來擊之、思以刀砍、計當殺百餘人、餘者乃便大走^(三)、向人盡成死狸。看向廳事、乃是古時大冢^(四)、冢上穿下甚明、見一群女子在冢裏、見其婦如失性人、因抱出冢口、又人抱取在先女子^(五)、有數十、中有通身已生毛者、亦有毛腳面成狸者。須臾、天曉、將婦還亭、亭長問之、具如此答。前後有失兒女者、零丁有數十。吏便歛此零丁至冢口、迎此群女、隨家遠近而報之、各迎取於此。後一二年、廟無復靈。

校記 御覽五百九十八。○*丹鉛續錄六。玉函 15。

(一)○鈎沈依鮑氏刊本引「思」下有「食」字、衍、今依四部叢刊本刪之。(二)○以上三句四部叢刊本引作「見天城廳事」。(三)○「乃便」御覽引作「便乃」、鈎沈或以意改歟。(四)○四部叢刊本引「時」作「始」、誤。(五)○四部叢刊本引「在」作「於」。(六)○「吏」鈎沈引作「長」、今依改。

15 張然滯役多年、婦遂與奴私通。後歸、奴與婦謀然。狗注睛舐脣視奴。然曰、『烏龍與手。』應聲盪奴、奴失刀仆、然取刀殺奴也。

校記 九十八。○玉函 14。但白帖二九、六帖均不記出處。此條初學記二九引作出「陶潛搜神記」、類聚九四・御覽九〇五引均作「續搜神記」、亦見今本搜神後記九—100。此條當是玉函誤收、鈎沈疑其非齊諧記之文而置諸卷末、當刪。

○ 16 屍以訴冤。

校記 白帖二九引為「齊諧志」。淵鑑四三六狗。皆不成文。

幽明錄

原輯二百六十五條 新附十一條 凡二百七十六條

1 廟方四丈、不作墻壁^(一)。道廣五尺^(二)、夾樹蘭香。齋者煮以沐浴、然後親祭^(三)、所謂「浴蘭湯」^(四)。』

校記 類聚三十八。初學記十三。○萬花谷後集一七。淵鑑一六二祭祠總載。鄭晚晴輯注『幽明錄』(一九八八·文化藝術出版社。以下略稱鄭氏。)六一²⁶⁰。富永一登「魯迅輯『古小說鈎沈』校釋」『幽明錄』(一)至(八)(『中國學研究論集』第九至一六號·廣島大學中國學學會·二〇〇二年十月至二〇〇六年三月。以下略稱富永氏。)1。
(一)○初學記引無「作」。類聚引無「壁」。
(二)○初學記引作「四尺」。類聚「廣」下空一格、汪氏校語云、「原闕、明本作五、初學記十三作四。」
(三)○類聚引此句作「後祭」二字。
(四)○類聚引無「浴」。

2 海中有金臺、出水百丈、結構巧麗、窮盡神工^(一)、橫光巖渚^(二)、竦曜星漢^(三)。臺內有金几^(四)、彫文備制^(五)、上有百味之食^(六)、四大力神常立守護^(七)。有一五通仙人、來欲甘膳、四神排擊、遷延而退^(八)。

校記 御覽八百四十九。又*二百七十七·*七百十·*八百十一。書鈔一百三十三·又*一百四十二兩引。*類聚六十二。○*遊仙窟注。*大典二六〇四金臺。*天中記四八·又五〇。*淵鑑三六海·又三四九臺·又三八二几·又三八八食兩引。胡校本⁵¹。鄭氏六一²⁵⁷。富永氏²。

書鈔一三三引云、海中有金臺、內有金几、雕文備制。上有百味之食。四大神力嘗守護之。

(一)○遊仙窟注引至此為止。御覽一七七「盡」作「極」、「工」作「功」。
(二)○御覽一七七引此句作「橫巖雲渚」。
(三)二句見類聚六十二、御覽一百七十七引。○御覽八四九引無以上二句。御覽一七七引「漢」作「河也」。御覽七一〇引無以上四句十六字。
(四)○御覽八一引至此為止。書鈔引無「臺」。御覽七一〇引「臺」作

「其」、胡校本同。御覽八四九引「几」作「机」。大典引云、「海中有金臺、臺內有金几」耳。(五)○「制」鈎沈作「置」、今依諸書改。書鈔一三三引至此為止。(六)○書鈔一四二・御覽七一○引至此為止、胡校本亦同。書鈔一四二引「之」作「飲」。(七)已上略見書鈔一百三十三・又一百四十二兩引。御覽七百十・又八百十一。○御覽八四九四部叢刊本引「大」作「丈」。(八)○「遷」今依御覽四部叢刊本補。

3 鄴城鳳陽門五層樓、去地二十丈、長四十丈、廣二十丈^(二)、安金鳳皇二頭於其上。石季龍將衰^(三)、一頭飛入漳河^(四)、清明見在水底^(五)、一頭今猶存^(六)。

校記 類聚六十三。御覽一百七十六〔鈎沈誤作一百七十八、七三年版全集已訂之〕。＊初學記二十四。○淵鑑三
四七樓。鄭氏六—258。富永氏3。

(一)○初學記引無以上三句十三字。御覽引無以上二句八字。(二)初學記二十四引有此句。(三)○初學記引至此為止。(四)○「朗」類聚引作「浪」。御覽鮑氏刊本無「清」。(五)○御覽引「猶」作「獨」、譌。

4 始興縣有皋天子廟^(一)。因山崎嶇、十有餘里。坑塹數重、阡陌交通。城內堂基、碎瓦柱穿猶存。東有皋天子冢。皋天子、未之聞也。

校記 御覽一百九十三。○＊路史發揮五引云、「始興有鼻天子冢・鼻天子城」。朱謀瑋水經注箋三八溱水篇云、「幽明錄始興有鼻天子冢、又有鼻天子城。王隱晉書云、大泉陵縣北部東五里、有鼻墟、象所封也云云」。鄭氏六—247。富永氏4。

(一)○「廟」鈎沈據鮑氏刊本作「國」、今依四部叢刊本改。按「皋」恐「鼻」之訛、次條「畢」亦同。

5 始興縣有睪天子城、城東有冢。昔有發之者、垂陷、而冢裏有角聲震於外、懼而塞之。

校記 書鈔一百二十一。○淵鑑二二八角。鄭氏六—247。富永氏5。參看第4條校記。本事亦見太平寰宇記一六〇南雄州始興縣條。

6 始興靈水源有湯泉^(一)。每至霜雪、見其上蒸氣高數十丈^(二)、生物投之、須臾便熟^(三)。泉中常有細赤魚出游、莫有獲者。

校記 御覽九百四十。又*七十一。○胡珽校述古堂舊鈔本(琳琅秘室叢書本。以後略稱胡校本)27。鄭氏六—249。富永氏6。本事見水經注三八溱水云、「又與雲水合、水出縣北湯泉、泉源沸湧、浩氣雲浮、以腥物投之、俄頃即熟。其中時有細赤魚游之、不為灼也。」

(一)〔靈〕一〔九四〇〕引作「雲」。○按「靈」譌、依水經注當作「雲」字。胡校本亦作「雲」。(二)〇「見」御覽九四〇引無。胡校本同。(三)〇御覽七〇引至此為止。以上二句八字、御覽九四〇引無。胡校本亦同。

7 艾縣輔山有溫冷二泉^(一)、同出一山之足^(二)。兩泉發源^(三)、相去數尺。熱泉可煮鷄豚^(四)、冷泉常若冰生^(五)。雙流數丈而合、俱會於一溪^(六)。

校記 初學記七〔兩引〕。御覽七十一。○編珠一。淵鑑三一溫泉。又*泉。鄭氏六—250。富永氏7。

(一)〇初學記一引止此二句、「有」作「出」。(二)御覽引有此句。(三)〇「兩泉」二字、初學記引無。(四)御覽引作「可以瀹鷄」。(五)已上亦見御覽七十一、「生」字據補。〇「冷」鈎沈引作「冰」、今依初學記。御覽兩書改。(六)〇編珠引作「又江乘湯泉、半溫半冷、共同一壑。」

8 襄邑縣南瀨鄉、老子之舊鄉也。有老子廟^(二)、廟中有九井。能潔齋人祠者^(三)、水溫清隨人意念^(三)。

校記 初學記七。御覽二百八十九。○事文類聚續集一〇。天中記一〇。胡校本 69。鄭氏六—251。富永氏 8。本事見殷芸小說(鈎沈 33)。

(一)〇以上三句十六字御覽引作「襄邑縣南有瀨鄉老子廟」。事文類聚·胡校本亦同。(二)〇御覽引無「能」祠」、胡校本亦同、又無「者」。(三)〇此句胡校本作「汲一井、餘八井水皆動」、但此文或系瀨鄉記、見御覽一八九引。

9 始安熙平縣東南有山、山西其形長狹、水從下注塘、一日再減盈縮、因名為『朝夕塘』。

校記 御覽七十四引盛弘之荊州記、注云幽明錄又載。○鄭氏六—253。富永氏 9。

10 耒陽縣東北有蘆塘^(二)、淹地八頃、其深不可測。中有大魚、常至五日、一躍奮出水^(三)、大可三圍、其狀異常^(三)。每躍出水^(四)、則小魚奔迸、隨水上岸、不可勝計。

校記 御覽七十四。寰宇記一百十五(古逸叢書本太平寰宇記殘卷)〇胡校本 7。玉函山房輯佚書補編。鄭氏六—254。富永氏 10(『中國學研究論集』第二號以下同)。

(一)〇御覽鮑氏刊本「耒」作「來」。(二)〇寰宇記引無「水」。(三)〇寰宇記引無此句四字。(四)〇寰宇記引無「躍」。

11 宜都建平二郡之界、有五六峰、參差互出^(二)。上有倚石^(三)、如二人像、攘袂相對。俗謂二郡督郵爭界於此。

校記 初學記五。類聚六。御覽五十二。事類賦注七。案水經注三十四云、「江水自建平至東界峽、盛弘之謂空冷峽、峽甚高峻、即宜都建平二郡界也。其間遠望、交嶺表、有五六峰、參差互出、上有奇石、如二人像、攘袂相對。」

俗傳兩郡督郵爭界於此，「宜都督郵、厥勢小東傾。議者以為不如也。○天中記八。淵鑑二六石。鄭氏六—246。富永氏11。

(一)○類聚引無以上二句八字。御覽四部叢刊本「互」作「玄」、誤。鮑氏刊本作「牙」。(二)○類聚引無「上」。事類賦注引「倚」作「奇」。

12 武昌陽新縣北山^(一)、上有望夫石、狀若人立^(二)。古傳云^(三)、昔有貞婦^(四)、其夫從役、遠赴國難^(五)、婦攜弱子^(六)、餞送此山、立望夫而化為立石^(七)、因以為名焉^(八)。

校記 初學記五。事類賦注七。御覽四百四十。○淵鑑二六石。胡校本63。鄭氏六—245。富永氏12。事亦見御覽四八引輿地記、又五二引世說、又八八八引列異傳(鈎沈48)、文皆略同。亦見「輿地志」(寰宇記殘卷一一三引)云、「菁山」上有望夫石、石上曾生蕪菁。山上有石、高三丈、形如女人、謂之望夫石。傳云、昔有貞婦、其夫赴國難、婦送於此、遂化為石。

(一)「陽新縣」三字御覽引有。(二)○句末御覽引有「者」。(三)○「古傳云」、鈎沈依事類賦注引作「相傳」、今依初學記引改。御覽引作「傳云」。(四)○胡校本「婦」作「女」。(五)○胡校本「遠」作「走」。(六)○初學記引「婦」、胡校本同。事類賦注引無此句四字。(七)御覽四百四十引作「立望而死、形化為石」。○胡校本同。(八)○御覽引無此句。事類賦注引無「以為」二字。

13 巴丘縣自金岡以上二十里^(一)、名黃金潭^(二)、莫測其深^(三)。上有瀨^(四)、亦名黃金瀨^(五)。古有釣於此潭^(六)、獲一金鏢、引之遂滿一船^(七)。有金牛出^(八)、聲貌奔壯^(九)、釣人被駭^(一〇)、牛因奮勇躍、而還潭^(一一)、鏢乃將盡^(一二)、釣人以刀斫得數尺^(一三)。潭瀨因此取名^(一四)。

校記 類聚八十三。御覽八百十一・又九百。事類賦注九。○李嶠百二十詠詩「牛」注引幽明錄云、楚巴丘縣自金剛以上廿里、有黃金潭。有人釣得一金牛鑠、引之、金牛出聲、奔吐風波。其駭牛乃入潭。因合曰金牛潭也。」能改齋漫錄九引類聚。淵鑑三六一金。胡校本 28（與御覽九〇〇引略同）。鄭氏三一 92。富永氏 13。

（一）御覽二引（八一）作「百」。○御覽九〇〇引無「自」。類聚引「岡」作「崗」。御覽九〇〇引「二十」作「世」、胡校本同、鮑氏刊本作「世」。（二）○事類賦注引「以上二十里名」作「上有」。（三）○御覽八一引無此句。（四）○事類賦注引句頭有「潭」。（五）○御覽九〇〇引無「名黃金潭莫測其深上有瀨亦」十二字。（六）○御覽九〇〇引無「此」、事類賦注引「釣」上有「人」。（七）○類聚引「船」作「舡」。（八）○御覽八一・事類賦注引句頭有「而」。御覽九〇〇引無「有」。（九）御覽一引（八一）作「莽」。○類聚引無「貌」、胡校本誤作「兒」。事類賦注引「奔」作「甚」。御覽四部叢刊本兩引均作「奔」、鮑氏刊本作「莽」。（一〇）○御覽四部叢刊本八一引「被」作「波」。事類賦注引「被駭」作「駭懼」。（一一）○御覽八一・事類賦注引至此為止。御覽九〇〇引無「釣人被駭、牛因」六字。「奮勇」以下御覽兩引・事類賦注引均作「奮躍還潭」。（一二）○御覽九〇〇引此句作「鑠久乃盡」、胡校本同。（一三）○御覽九〇〇引無「以」。御覽鮑氏刊本「刀」作「力」、胡校本「刀斫」作「力斫」。（一四）○御覽九〇〇引句頭有「故」而無「因此」、胡校本同。

14 淮南牛渚津（一）、水極深無可算計（二）、人見一金牛、形甚瑰壯（三）、以金為鑠絆（四）。

校記 類聚八十三。御覽七十一・又八百十一。○淵鑑三六一金。胡校本 6。鄭氏三一 93。富永氏 14。

（一）○類聚引無「南」、今依御覽補、胡校本亦同。（二）○御覽鮑氏刊本八一引「計」作「津」。（三）○御覽四部叢刊本八一引「瑰」作「魁」。（四）○御覽八一引此句作「以金鑠絆也」。

15 廬山自南行十餘里、有鷄山、山上有石鷄^(二)、冠距如生。道士李鎮於此下住、常寶玩之。鷄一日忽摧毀、鎮告人曰、『鷄忽如此、吾其終乎。』因與知故訣別、後月餘遂卒。

校記 廣記一百四十二。○鄭氏六—255。富永氏 15。

(一)○鈎沈無「上」、今依廣記補。

16 衡山三峰最為竦桀^(一)、自非清霽素朝、不可望見。峰下有泉、飛流如舒一匹絹、分映青林、直注山下、雖纖羅不動^(三)、其上翳翳、恆淒清風也。

校記 御覽七十一。○鄭氏六—256、注云、異苑卷一有類是記載。富永氏 16。

(一)○鈎沈依鮑氏刊本無「衡山」二字、今依四部叢刊本補。(二)○四部叢刊本「纖」引誤作「織」、鈎沈依鮑氏刊本。

17 宮亭湖邊傍山間^(一)、有石數枚、形圓若鏡、明可以鑑人^(三)、謂之石鏡^(三)。後有行人過^(四)、以火燎一枚、至不復明^(五)、其人眼乃失明^(六)。

校記 御覽七百十七。*類聚六。○御覽五二。天中記八。淵鑑三〇鏡。*又二六石。胡校本 41。鄭氏三—96。富永氏 17。

(一)○御覽四部叢刊本引「間」作「門」、疑訛。御覽五二引「山」作「石」、胡校本「山」作「右」。(二)○御覽五二引無「以」字。(三)已上亦見類聚六。(四)○御覽五二、胡校本均無「有行」二字。(五)○御覽五二引「至」作「今」。胡校本無此句四字。(六)○御覽五二、胡校本均「乃」作「遂」。

18 山陰縣九侯神山、上有靈壇、壇前有古井、常無水、及請告神、水卽涌出^(一)、供用足、乃復漸止。

校記 御覽一百八十九。○胡校本 60。鄭氏六—252。富永氏 18。

(一)○御覽四部叢刊本、胡校本均「水卽」作「卽水」。鮑氏刊本作「水卽」。

19 譙縣城東、因城為臺、方二十丈、高八尺。一曰、古之冢也^(二)、魏武帝即築以為臺、東面牆崩、金玉流出、取者多死、因築復之^(三)。

校記 御覽八百十一。○鄭氏六—259。富永氏 19。

(一)○「冢」鈎沈作「葬」、今依御覽改。(二)○「築復」鈎沈依鮑氏刊本作「復築」、今依四部叢刊本改。

20 樂安縣故市經荒亂^(一)、人民餓死^(二)、枯骸填地^(三)。每至天陰將雨、輒聞吟嘯呻歎聲聒於耳^(四)。

校記 御覽四百八十六。○胡校本 47。鄭氏六—264。富永氏 20。

(一)○胡校本「故市」作「事故」。(二)○胡校本「餓」作「飢」。(三)○胡校本「骸」作「體」。(四)

○胡校本此句作「輒吟呻歎聲、聒耳如蛙」。

21 平都縣南陂上有冢^(一)、行人於陂取得鯉、道逢冢中人來云、「何敢取吾魚^(二)」。奪着車上而去。

校記 御覽九百三十六。○胡校本 26。鄭氏三—265。富永氏 21。

(一)○胡校本「縣」下有「有」。(二)○胡校本「敢」作「故」。

22 廣陵有冢、相傳是漢江都王建之墓也^(一)。常有村人行過、見地有數十具磨、取一具持歸。暮即叩門求磨甚急、明

旦送着故處^(三)。

校記 御覽七百六十二。○胡校本 25。鄭氏六—266。富永氏 22。

(一)○鈎沈依鮑氏刊本引、「相傳」下本有「是」、御覽四部叢刊本引無「是」、今依刪。胡校本同。四部叢刊本、胡校本引「建」作「逮」、今依鈎沈·鮑氏刊本。(二)○胡校本無「明」。

23 廣陵露白村人、每夜輒見鬼怪、咸有異形醜惡^(一)。怯弱者莫敢過。村人怪如此、疑必有故、相率得十人、一時發掘、入地尺許、得一朽爛方相頭。訪之故老、咸云、「嘗有人冒雨送葬^(二)、至此遇刼、一時散走、方相頭陷沒泥中。」

校記 御覽五百五十二。○鄭氏三—128。富永氏 23。

(一)○四部叢刊本引「咸」作「或」。(二)○四部叢刊本引無「送」。

24 碩縣下有眩潭、以視之眩人眼、因以為名。傍有田陂、昔有人舡行過此陂^(一)、見一死蛟在陂上^(二)、不得下。無何、見一人、長壯烏衣、立於岸側、語行人云、「吾昨下陂、不過而死、可為報眩潭^(三)。」行人曰、「眩潭無人、云何可報^(四)。」烏衣人云、「但至潭、便大言之。」行人如其旨、須臾、潭中有號泣聲。

校記 御覽六十六。○胡校本 1。鄭氏三—94。富永氏 24。

(一)○「舡」鈎沈依鮑氏刊本作「船」、今四部叢刊本改。(二)○胡校本「一死蛟」作「一大蛟死」(三)○胡校本「為」作「以」。(四)○胡校本無「云」。

25 東萊人性靈、常作酒多醇、濁而更清、二人曰以是醇□。

校記 書鈔一百四十八。○*淵鑑三九三酒。古今圖書集成食貨典二八三。鄭氏六—263、注云、按此則引文不全、

可與卷四「飯麴易處」條（鈎沈37）參看。富永氏25。

（一）○「常」鈎沈脫之、今依補。

26 楚文王少時好獵^(一)、有一人獻一鷹^(二)、文王見之、爪距神爽、殊絕常鷹^(三)。故為獵於雲夢^(四)、置網雲布、烟燒張天、毛群羽族、爭噬競搏、此鷹軒頸瞪目、遠瞻雲際^(五)、無搏噬之志。王曰、『吾鷹所獲以百數、汝鷹曾無奮意、將欺余耶。』獻者曰、『若效於雉兔、臣豈敢獻。』俄而、雲際有一物凝翔^(六)、鮮白不辨其形、鷹便竦翮而升、轟若飛電。須臾、羽墮如雪、血下如雨、有大鳥墮地、度其兩翅、廣數十里^(七)、衆莫能識。時有博物君子曰、『此大鵬雛也。』文王乃厚賞之。

校記 御覽九百二十六・又*九百二十七。*類聚九十一・又九十二。廣記四百六十。○類聚九二引為「後幽明錄」。李白詩「獨漉篇」章士斌注。事類賦注一八。事文類聚後集四二。*群書類編故事二四。*琅瑯代醉編二四。*錢注杜詩一六「見王監兵馬使說近山有白黑二鷹」。胡校本43。鄭氏三一74。富永氏26。本事亦見孔氏志怪（鈎沈1）。（一）○事文類聚・李白詩注・群書類編故事引皆「好獵」二字作「雅好畋獵」、又承之而有「天下快狗名鷹畢聚焉」之句。（二）○御覽九二六引及他諸書引皆「人」上無「一」。御覽九二七引有。事文類聚・李白詩注・群書類編故事皆下文云、「曰、非王鷹之儔」。（三）○以上三句・李白詩注・廣記引作「王見其殊常」。（四）○李白詩注引句末有「之澤」二字。（五）○此句依類聚九二・廣記引補。御覽九二六引「瞻」作「視」、胡校本亦同。（六）○事文類聚・李白詩注引「凝翔」作「翱翔飄颻」。（七）○御覽九二六引無「廣」。事類賦注・事文類聚・李白詩注・群書類編故事引皆下句云、「喙邊有黃」。胡校本作「兩口邊有黃」。（八）○類聚九一・事文類聚・李白詩注引「識」作「知」。

27 漢武帝常微行過人家^(一)，家有婢國色，帝悅之^(二)，因留宿^(三)，夜與婢臥^(四)。有書生亦家宿^(五)，善天文，忽見客星移掩帝座甚逼^(六)，書生大驚懼^(七)，連呼咄咄，不覺聲高，乃見一男子^(八)，操刀將欲入戶^(九)，聞書生聲急^(一〇)，謂為己故，遂蹙縮走^(一一)，客星應時即退^(一二)。帝聞其聲，異而召問之^(一三)，書生具說所見。乃悟曰：『此人是婢壻^(一四)，將欲肆其凶於朕^(一五)。』乃召羽林^(一六)，語主人曰：『朕天子也。』於是擒奴伏誅^(一七)，厚賜書生^(一八)。

校記 開元占經八十三。○殷芸小說（鈎沈7）。天中記二。鄭氏——36。富永氏27。本事亦見廣記一六一、汪氏校語云：「原闕出處。陳校本作出幽明錄。」按陳校是也。廣記引文大同于殷芸小說。

（一）○開元占經庫本引「人」上有「主」、廣記引「過人家」作「造主人家」。（二）○庫本「之」作「焉」。（三）○庫本引「因」作「仍」。（四）○「臥」鈎沈依恆德堂本作「□」、今依庫本·殷芸小說·廣記引改。（五）○廣記引「書生」上有「一」、「家」作「寄」。（六）○廣記引「移」作「將」。（七）○「懼」鈎沈依恆德堂本作「躍」、今依庫本·廣記引改。（八）○庫本·廣記引「乃」作「仍」。（九）○廣記引無「欲」。（一〇）○「聞」鈎沈稿本·排印本作「問」、七三年版全集已訂。（一一）○庫本·廣記引無「蹙」。（一二）○廣記引下句云：「如此者數過」。（一三）○廣記引無「召」。（一四）○廣記引此句作「必此人壻也」。（一五）○廣記引「其凶」作「兇惡」。（一六）○廣記引「召」作「召集期門」。（一七）○庫本引「伏」上有「而」。廣記引「伏誅」作「問而款服、乃誅之」、而下文云：「帝歎曰、斯蓋天啟書生之心、以扶祐朕躬、乃」。（一八）○廣記引文末有「焉」。

28 漢武見物如牛肝、入地不動、問東方朔、朔曰：『此積愁之氣、惟酒可以忘愁、今即以酒灌之、即消。』

校記 書鈔一百四十八。○鄭氏——37·36。富永氏28。書鈔孔氏校語云：「御覽六百四十三及本鈔四十五獄篇、百三十髦頭篇、百五十七阪篇引東方朔別傳略同。」事亦見御覽六四三·八一八·八四五引東方朔別傳·御覽五三引

郡國志・殷芸小說（鈎沈50）。參看搜神記一一——270。

29 漢武帝在甘泉宮、有玉女降^(一)、常與帝圍棊相娛^(二)。女風姿端正、帝密悅、乃欲逼之^(三)。玉女因唾帝面而去^(四)、遂病瘡經年^(五)。故漢書云、『避暑甘泉宮。』正其時也^(六)。

校記 御覽八十八・又三百八十七・又*七百四十二。*書鈔十二。○天中記二一。淵鑑二五五美婦人。鄭氏五
196 富永氏29。本篇30書鈔引「玉女」作「王母」、疑「玉女」之訛、今合之于本條。

(一)○書鈔一二引只作「甘泉王母降」而已。(二)○御覽七四二引無「常」「相娛」。(三)○御覽八八引無「欲」。又七四二引「逼」作「通」。(四)○「玉」今依八八・三八七兩引補。三八七引無「因」。(五)御覽七百四十二引作「女因唾帝面、遂成瘡、帝避跪謝、神女為出溫水洗之。」○事亦見御覽七一溫泉門所引辛氏三秦記始皇之記事。(六)○「正」、御覽八八・三八七兩引作「此」。

30 甘泉王母降。

校記 書鈔十二。○富永氏30。今合此條于第29條、當刪。

31 漢武帝與群臣宴於未央殿、方噉黍臠^(一)、忽聞人語云^(二)、『老臣冒死自訴^(三)。』不見其形、尋覓良久^(四)、梁上見一老翁、長八九寸^(五)、面目頽皺^(六)、鬚髮皓白^(七)、拄杖僂步、篤老之極^(八)。帝問曰、『叟姓字何。居在何處。何所病苦、而來訴朕。』翁緣柱而下、放杖稽首、默而不言^(九)。因仰頭視屋^(一〇)、俯指帝腳、忽然不見。帝駭愕不知何等、乃曰、『東方朔必識之。』於是召方朔以告、朔曰、『其名為「藻兼」^(一一)、水木之精也。夏巢幽林、冬潛深河^(一二)。陛下頃日頻興造宮室^(一三)、斬伐其居、故來訴耳。仰頭看屋^(一四)、而復俯指陛下腳者、足也^(一五)、願陛下宮室足於此也^(一六)。』

帝感之。既而息役^(二七)。幸瓠子河^(二八)、聞水底有絃歌之聲^(二九)、前梁上翁及年少數人、絳衣素帶^(三〇)、纓佩甚鮮、皆長八九寸、有一人、長尺餘、凌波而出、衣不霑濡^(三一)、或有挾樂器者。帝方食、為之輟膳、命列坐於食案前^(三二)。帝問曰、『聞水底奏樂、為是君耶。』老翁對曰、『老臣前昧死歸訴、幸蒙陛下天地之施、即息斧斤、得全其居^(三三)、不勝歡喜^(三四)、故私相慶樂耳^(三五)。』帝曰、『可得奏樂否。』曰、『故齋樂來、安敢不奏。』其最長人便治絃而歌^(三六)、歌曰^(三七)、『天地德兮垂至仁、愍幽魂兮停斧斤、保窟宅兮庇微身、願天子兮壽萬春。』歌聲小大無異於人^(三八)、清徹繞越梁棟^(三九)。又二人鳴管撫節、調契聲諧^(四〇)。帝歡悅、舉觴並勸曰^(四一)、『不德不足當雅贐^(四二)。』老翁等並起拜受爵^(四三)、各飲數升不醉^(四四)。獻帝一紫螺殼、中有物狀牛脂。帝問曰、『聞無以識此物。』曰、『東方生知之耳^(四五)。』帝曰、『可更以珍異見貽^(四六)。』老翁顧命、取洞穴之寶。一人受命、下沒淵底^(四七)、倏忽還到^(四八)、得一大珠、徑數寸^(四九)、明耀絕世、帝甚愛翫^(五〇)。翁等忽然而隱^(五一)。帝問朔、『紫螺殼中何物^(五二)。』朔曰、『是蛟龍髓^(五三)、以傳面令人好顏色。』又女子在孕、產之必易^(五四)。會後宮難產者試之^(五五)、殊有神效。帝以脂塗面、便悅澤。又曰、『何以此珠名洞穴珠。』朔曰、『河底有一穴、深數百丈、中有赤蚌、蚌生珠、故以名焉。』帝既深歎此事、又服朔之奇識^(五六)。

校記 廣記一百十八。御覽八百八十六。又*二十二(窮神秘苑所引)。又*八百五十。*類聚八十四。*事類賦注九。*書鈔一百四十四。○*御覽八〇三。*長安志三。*類編長安志八。天中記二五。又*五七。*通雅二〇。淵鑑二七八博物。又*二六四珠。*三九四黍。*四四三螺。胡校本153。古謠諺九四。鄭氏五—198。富永氏31。事見祖台之志怪(鈎沈1)、任昉述異記下、陸勳集異志一。

(一) 書鈔一百四十四。御覽八百五十引此二句、「與群臣」三字據補。○御覽八五〇引「群」作「近」、無「方」。「殿」鈎沈依廣記引無、書鈔。御覽引均有、今依補。御覽二三引「黍臠」作「棗」。(二) ○御覽八八六引無「人」。(三) ○御覽八八六引脫「冒死自訴」。(四) ○御覽八八六引以上二句作「尋覓不見」。(五) ○御覽八八引「老翁」作「公」、下同。(六) ○廣記注校本·黃刻本引「頽」作「頽」、鈔宋本作「頽」。(七)

○胡校本無「鬚」。御覽八八六引無以上二句八字。（八）○御覽八八六引無此句四字。（九）○御覽八八六引以上三句十三字作「公下稽首不言」。（一〇）○御覽八八六引作「目仰視屋」、又二二引作「仰觀屋宇」。（一一）御覽引有「兼」字。○廣記·胡校本並無。長安志·天中記引作「藻廉」。類編長安志引作「藻簾」。通雅引云、「藻兼、即藻廉水木之精。」無「也」。（一二）○御覽八八六引無「幽」「深」。（一三）○御覽八八六引無「頃日頻」三字。（一四）○胡校本「屋」作「梁」。此句下當依御覽八八六引補「殿名未央也」五字、言築造宮殿未已也。（一五）御覽一引（八八六）作「仰視屋者、殿名未央也。俯視腳者、腳足也。」○胡校本「陛下」作「下腳」。御覽二引作「所視殿名未央、下視腳者、足於此也」。按足、止也。（一六）○御覽八八六引無「陛下宮室」。廣記·胡校本無「也」。（一七）○御覽二略引至此為止、而此句作「上乃悉罷諸役」、八八六引作「帝爲此暫止」。胡校本「役」作「後」、屬于下句。（一八）類聚·御覽引並作「幸河渚」。○事類賦注引亦同、但皆有主語。御覽八八六引作「少時幸河渚者」、「者」譌。鈎沈排印本誤作「何渚」、七三年版全集已正之。（一九）○廣記、胡校本「絃」作「弦」、下同。廣記汪校本·黃刻本引無「之」、但鈔宋本引有。類聚·御覽八〇三引「聲」作「音」。御覽八八六引此句之下有「肴膳芬芳」四字、疑譌。（二〇）御覽引「帶」作「裳」。○鮑氏刊本作「裳」、四部叢刊本作「帶」。（二一）○御覽八八六引無「有一人長尺餘」「衣不露濡」三句。（二二）御覽引「前」作「上」。○御覽八八六引無「方食爲之輟膳」六字。胡校本無「案」。（二三）○御覽八八六引無「得」而「居」下有「宅」。胡校本亦有「宅」。（二四）御覽（八八六）引「歡喜」作「欣躍」。（二五）○胡校本無「私」。御覽八八六引「慶樂」作「賀」一字。（二六）○廣記·胡校本並無「治」。（二七）○御覽引無「歌曰」以下歌詞。（二八）○廣記鈔宋本「小大」作「大小」。（二九）○御覽八八六引此句作「清婉繞梁」。（三〇）○御覽引無以上十一字。（三一）○御覽八八六引「歡」作「欣」。（三二）○胡校本無「不德」。（三三）○廣記·胡校本「拜」下並有「受」、今依補。（三四）○御覽八八六引自「舉觴並勸」至此、四句凡二十五字作「勸酒」二字。（三

五)○「帝問曰」以下十七字御覽八八六引無。(三六)○御覽八八六引「更」作「思」。(三七)○御覽八八六引「沒」作「波」。類聚引「淵」作「川」。(三八)○御覽八八六引無「到」。(三九)○御覽八八六引無「徑」。(四〇)○御覽八八六引無此句。鈎沈「翫」作「觀」、廣記·胡校本作「翫」。今依改。」(四一)○御覽八八六引「俄而公等忽然而去」。(四二)○御覽八八六引無以上二句九字。(四三)○御覽八八六引「蛟龍髓」作「蛟髓」。(四四)○御覽八八六引以上二句作「又女子在草中用之、產易」。御覽八八六引至此為止。(四五)○「難產」廣記汪校本·黃刻本·鈎沈稿本皆作「產難」、廣記鈔宋本·鈎沈排印本作如此。(四六)以上二句十二字、依廣記引、他書皆不引。

32 漢武帝以玄豹白鳳膏磨青錫屑、以酥油和之為鑒、雖雨中鑒不滅。

校記 類林雜說十三。○此條鈎沈稿本補記于欄外。類林雜說引為「幽明錄·異書」。但初學記二五·御覽八七〇皆引洞冥記云、「漢武帝」丹豹髓、白鳳膏、磨青錫為屑、以淳蘇油和之、照於神壇、夜暴雨、火(御覽引作「燈」)光不滅。以麟鬚拂拂霜蛾赴燈者。」事亦不關幽明、疑或類林雜說所誤引者歟、懸疑而暫存。鄭氏六—268。富永氏32。

33 董仲舒常下帷獨詠、忽有客來(一)、風姿音氣、殊為不凡、與論五經、究其微奧。仲舒素不聞有此人而疑其非常(二)。客又曰『欲雨(三)』。仲舒因此戲之曰(四)、『巢居知風、穴居知雨(五)、卿非狐狸、即是鼯鼠(六)』。客聞此言、色動形壞、化成老狸(七)、蹶然而走(八)。

校記 廣記四百四十二(鈎沈脫四十之四)。御覽九百十二。○天中記六〇。淵鑑七雨·四三一狐。古今圖書集成神異典三一六。胡校本72(與御覽引略同)。鄭氏三—83。富永氏33。事見搜神記一八—420。琯玉集一一。

(一)○御覽引此句作「有客來詣」、胡校本同。(二)○自「風姿」以下至「而疑」、凡二十六字、御覽引作「語

遂移曰、舒知、胡校本亦同。(三)五字(客又曰欲雨)廣記引無。○胡校本作「天欲雨」。(四)○「仲舒」二字、鈎沈脫之、今依御覽引補。廣記引此句作「乃謂之曰」。(五)○廣記引「知風」作「卻風」、「穴居」作「穴處」。(六)○御覽引「即」作「則」、胡校本亦同。廣記引「騷」作「老」。(七)○御覽引「老狸」作「老狐狸也」。(八)○御覽引無此句。胡校本此句作「而去」二字。

34 文翁常欲斷大樹^(二)、欲斷處去地一丈八尺^(三)、翁先祝曰、『吾若得二千石、斧當着此處。』因擲之、中所欲一丈八尺處^(三)。後果為郡。

校記 御覽七百六十三。○胡校本 66。鄭氏二—41。富永氏 34。事見殷芸小說(鈎沈 47)。

(一)○胡校本「欲」作「顧」。(二)○「欲」鈎沈依鮑氏刊本作「砍」、今依四部叢刊本改。下文「欲」亦同。胡校本脫「欲斷」二字。(三)○胡校本「所欲」作空闕一格。

35 長安有張氏者、晝獨處室、有鳩自入^(二)、止於對牀^(三)。張惡之、披懷祝曰、『鳩、爾來為我禍耶、止承塵。為我福耶^(三)、入我懷。』鳩翻飛入懷^(四)、以手探之、不知所在、而得一金帶鈎焉。遂寶之^(五)。自是之後^(六)、子孫昌盛^(七)。

校記 初學記二十七。御覽八百十一。事類賦注九。○*海錄八下。萬花谷後集三二。天中記五〇。淵鑑三六一金。

鄭氏二—46。富永氏 35。事見搜神記九—240・三輔決錄(淵鑑三六二引)・法苑珠林五六(百二十卷本七〇)未著出處。法苑編珠(廣記一三七引)。

(一)○事類賦注劍光閣本引「自」下有「外」、但中華書局本無。(二)○「對」御覽鮑氏刊本・事類賦注劍光閣本引均無、御覽四部叢刊本・事類賦注中華書局本引均有。(三)○御覽引無「我」。(四)○事類賦注引無「翻」。(五)○初學記引「之」作「焉」。(六)○事類賦注引無「之後」。(七)○事類賦注劍光閣本引「昌」

作「富」、中華書局本作「盛昌」。

36 漢何比干夢有貴客、車騎滿門、覺以語妻子^(一)、未已、門首有老姥、年可八十餘^(二)、求避雨、雨甚盛而衣不沾濡^(三)。比干延入、禮待之、乃曰、『君先出自后稷、佐堯、至晉有陰功^(四)、今天賜君策。』如簡長九寸、凡九百九十枚以授之、曰、『子孫能佩者富貴。』言訖出門、不復見^(五)。

校記 廣記一百三十七。古今類事十五。○*類說一一。淵鑑三一報德冥報。鄭氏二—42。事見搜神記九—241。後漢書何敞傳注·三輔決錄(廣記二九一引)。

(一)「妻子」古今類事十五亦引作「其家人」。(二)○廣記鈔宋本無「可」。(三)○古今類事引無「盛」沾」。(四)○古今類事引無「至晉」二字。(五)○淵鑑引有後文云、「何氏自汝陰徙平陵、代為名族。」

37 漢建武元年、東萊人姓乚、家嘗作酒廬。入內政見三奇客、共持麴飯至、杼其酒飲。異以飯麴代處^(一)、而三鬼相與醉于林中。

校記 書鈔一百四十八。○鄭氏四—155。富永氏37。事見搜神記一六—391。高士奇續編珠三。
(一)○此文有訛奪、意不通。

38 漢明帝永平五年^(一)、剡縣劉晨阮肇共入天台山取穀皮^(二)、迷不得返、經十三日^(三)、糧食乏盡、飢餒殆死。遙望山上有一桃樹、大有子實、而絕巖邃澗^(四)、永無登路^(五)。攀援藤葛^(六)、乃得至上。各噉數枚^(七)、而飢止體充。復下山、持杯取水、欲盥漱、見蕪菁葉從山腹流出^(八)、甚鮮新、復一杯流出、有胡麻飯糲^(九)、相謂曰、『此知去人徑不遠^(一〇)。』便共沒水、逆流行二三里^(一一)、得度山出一大溪、溪邊有二女子^(一二)、姿質妙絕^(一三)、見二人持杯出^(一四)、便笑曰、『劉

阮二郎、捉向所失流杯來。』晨肇既不識之、緣二女便呼其姓、如似有舊、乃相見忻喜^(二五)。問、『來何晚耶^(二六)。』因邀還家^(二七)。其家銅瓦屋^(二八)、南壁及東壁下各有一大牀、皆施絳羅帳、帳角懸鈴^(二九)、金銀交錯^(三〇)、牀頭各有十侍婢^(三一)。敕云^(三二)、『劉阮二郎、經涉山岵、向雖得瓊實、猶尚虛弊、可速作食。』食胡麻飯、山羊脯、牛肉、甚甘美^(三三)。食畢行酒、有一群女來^(三四)、各持五三桃子^(三五)、笑而言、『賀汝壻來。』酒酣作樂、劉阮忻怖交并^(三六)。至暮、令各就一帳宿、女往就之、言聲清婉、令人忘憂。至十日後欲求還去^(三七)、女云、『君已來是、宿福所牽、何復欲還邪^(三八)。』遂停半年^(三九)。氣候草木是春時^(四〇)、百鳥啼鳴^(四一)、更懷悲思^(四二)、求歸甚苦^(四三)。女曰、『罪牽君當可如何^(三四)。』遂呼前來女子有三四十人^(四五)、集會奏樂、共送劉阮、指示環路。既出、親舊零落、邑屋改異^(四六)、無復相識。問訊得七世孫^(四七)、傳聞上世人山、迷不得歸。至晉太元八年、忽復去、不知何所^(四八)。

校記 珠林三十一。御覽四十一。又*九百六十七。*類聚七。*六帖五。*事類賦注二十六。○*白帖二。事文類聚前集一四。*天中記七。*淵鑑二八天台山。胡校本65。鄭氏——1。富永氏38。事見神仙記(廣記六一引。明鈔本作搜神記、不見今本)·剡錄三。又世俗諺文引續齊諧記、但不見今本。富永氏又云、蒙求·類林雜說一五·輿地紀勝一二均引續齊諧記。

(一)〔明帝〕二字依類聚·御覽(四一)引補。○類聚引作「帝」一字、「類聚」當作「六帖」、白帖引亦同。胡校本與鈎沈同。(二)〔晨〕御覽九百六十七引作「晟」、注云「音成」。(取穀皮)三字御覽引有。○胡校本作「一作晟」。(三)○御覽四一·胡校本「三」作「餘」。(四)五字依御覽引補。(五)○「永」御覽四一·胡校本作「了」、御覽九六七四部叢刊本引似「永」又似「求」、鮑氏刊本作「求」。鈎沈依珠林。(六)○御覽九六七引「攀援」作「扳音班緣」。御覽四一引作「攀葛捫羅」。胡校本作「攀葛」二字。(七)○御覽四一·胡校本無「上各」二字。(八)○胡校本「腹」作「眼」。(九)○御覽四一(以後皆四一)·胡校本無「飯」。(一〇)二句依御覽(四一)引補。○御覽引「知」作「必」。胡校本無「知」、又無「必」。(一一)○御覽引無以上二句十

字。今依珠林補「行」字。（一二）○珠林引無「溪」字、鈎沈依御覽引補。（一三）○六帖引作「姿容」。（一四）○御覽四部叢刊本引「二」下有「女」、作「二女人」、鮑氏刊本作「二人女」皆誤。（一五）○忻喜、珠林引作「而悉」、今從御覽。○「乃」鈎沈依珠林百二十卷本、大正藏本無。（一六）○珠林、胡校本無「耶」、鈎沈依御覽補。（一七）○「邀」鈎沈依百二十卷本、大正藏本、御覽、事類賦注、胡校本皆作「要」。（一八）○銅御覽作「筒」。○胡校本亦同。「其家」鈎沈依珠林百二十卷本、大正藏本作「皆」、御覽引無「其」、胡校本亦同。（一九）○御覽、胡校本無「帳」字。（二〇）○御覽、胡校本句頭有「上」。（二一）○御覽、胡校本無「有」。（二二）○御覽、胡校本「敕」上有「便」。（二三）○御覽、胡校本「食」作「有」、無「牛肉」「甘」。（二四）○御覽、胡校本無「一」。（二五）○御覽、胡校本作「三五」。（二六）○御覽引有此句。（二七）○鈎沈排印本脫「至」、稿本有、今依補。（二八）○「至十日後」至此、已上並依御覽引補。○胡校本作「君已來此、乃宿福所招、與僊女交接、流俗何所樂哉」。（二九）○類聚、白帖、御覽引「停」作「留」、胡校本作「住」。（三〇）○胡校本此句作「天氣常如三月」。（三一）○御覽引「啼鳴」作「嗚呼」。（三二）○御覽引「悲思」作「土」。（三三）○胡校本此句作「晨肇求歸不已」。（三四）○御覽四一引只作「當如何」、又九六七引作「罪牽君如何」。胡校本作「女乃僊主」。（三五）○胡校本無「遂呼前來」、又無「四」。（三六）○御覽、胡校本「改」作「全」。白帖引「改異」作「更變」。（三七）○御覽、胡校本無「訊」。類聚引「問訊」作「訊問」。（三八）○以上三句依珠林引。

39 曹娥父溺死、娥見瓜浮、得屍。

校記 類聚八十七。○淵鑑四〇四瓜。鄭氏六一 269。富永氏 39。參看會稽典錄（世說捷悟篇 3 注引、魯迅輯會稽郡故書雜集）·項原列女傳（後漢書八四列女傳注引）。

40 漢袁安父亡^(一)，母使安以鷄酒詣卜工^(二)，問葬地。道逢三書生，問安何之。具以告。書生曰：『吾知好葬地。』安以鷄酒禮之、畢，告安地處云：『當葬此地^(三)，世世為貴公^(四)。』便與別，數步顧視，皆不見。安疑是神人，因葬其地，遂登司徒、子孫昌盛、四世五公焉^(五)。

校記 廣記一百三十七·又三百八十九。續談助四（即殷芸小說（鈎沈54）、文略）。亦見古今類事（一七。稿本欄外注）。○事文類聚前集五八。*明鈔說郭三。鄭氏二—43。富永氏40。事見後漢書四五袁安傳·錄異傳（鈎沈8）有後日譚。

（一）○廣記三八九·續談助引無「漢」。事文類聚引「亡」作「卒」。 （二）○廣記三八九引「工」作「貢」。古今類事引作「者」。 （三）一「一三七」引無此句。 （四）○廣記一三七引作「當此世為貴公」。鈎沈「世」字重疊、今依廣記兩引等刪。「貴公」事文類聚·古今類事引均作「上公」、明鈔說郭引作「貴官」。 （五）○廣記三八九引無「焉」。鈎沈排印本「四」誤作「日」、七三年版全集已正之。

41 陳仲舉微時^(一)、嘗行宿主人黃申家^(二)。申婦夜產^(三)、仲舉不知。夜三更、有扣門者^(四)、久許聞裏有人應云^(五)：『門裏有貴人^(六)、不可前、宜從後門往^(七)。』俄聞往者還、門內者問之、見何兒^(八)、名何、當幾歲。『還者云、是男兒^(九)、名阿奴、當十五歲。』又問曰：『後當若為死。』答曰：『為人作屋、落地死。』仲舉聞此、默志之^(一〇)。後十五年、為豫章太守、遣吏往問昔兒阿奴所在^(一一)。家云：『助東家作屋、墮棟而死矣^(一二)。』仲舉後果大貴^(一三)。

校記 廣記一百三十七·又三百十六。亦見古今類事三。○古今圖書集成神異典四二。鄭氏四—133。富永氏41。（魯迅）案御覽三百六十一引搜神記云、陳仲舉微時、嘗宿黃申家、而申婦方產。有扣申門者、家人咸不知。久久方聞屋裏有言、「賓堂下有人、不可進。」扣門者相告曰、「今當從後門往。」其一人便往、有頃還、留者問之、「是何

等、名為何、當與幾歲。」往者曰、「男也、名為奴、當與十五歲。」「後應以何死。」答曰、「應以兵死。」仲舉告其家曰、「吾能相、此兒當以兵死。」父母驚之、寸刃不使得執也。至年十五、有置鑿於梁上者、其末出、奴以為木也、自下鉤之、鑿從梁落、陷腦而死。後仲舉為豫章太守、故遣吏往餉之申家、并問奴所在。其家以此具告仲舉。仲舉歎曰、「此謂命矣。」注云、「幽明錄同」。與廣記所引者小異。（今本搜神記一九—448）

（一）一〔廣記三一六〕引作「陳蕃」。（下同）。○鈞沈排印本「微」作「徵」、七三年版全集已正之。（二）類事「申」作「甲」。（三）○廣記一三七引「婦」作「家」。類事引作「甲妻」。（四）○類事引「扣」作「叩」。（五）○廣記一三七·類事引無「裏有人」三字。（六）○廣記三一六引脫「貴」。（七）○廣記三一六引此句作「相告云、從後門往。」類事引無「門」字。（八）○類事引「見」作「是」。（九）○廣記三一六引無「兒」。（一〇）一〔廣三一六〕引作「聞而不信」。○類事引「默」上有「而」字。（一一）○廣記三一六汪校本引「往」作「征」。（一二）○「墮棟」鈞沈稿本作「墮地」、排印本作「落地」、今依汪校本改、黃刻本亦同。廣記三一六引作「墮棟亡歿」。（一三）○廣記三一六引無此句。類事有後文云、「嗚呼、仲舉之貴、阿奴之死、固有定數、而名亦非由人乎。」

42 隴西秦嘉、字士會、雋秀之士。婦曰徐淑、亦以才美流譽。桓帝時、嘉為曹掾赴洛。淑歸寧於家、晝臥、流涕覆面、嫂怪問之^{（一）}、云、「適見嘉自說^{（二）}、往津鄉亭病亡^{（三）}、二客俱留、一客守喪、一客齋書還、日中當至。」舉家大驚、書至^{（四）}、事事如夢。

校記 御覽四百。○永樂大典一三二三六。天中記一八。胡校本 87。鄭氏四—164。富永氏 42。

（一）○「嫂」御覽引作「嫂」、今以嫂代之。胡校本作「嫂」。（二）○大典「適」下有「夢」字。（三）○胡校本「津」作「律」。（四）○胡校本有「有頃」二字。

43 常山張顗為梁相^(二)。天新雨後、有鳥如山鵲^(三)、飛翔稍下墜地^(四)。民爭取^(五)、即化為一圓石。顗椎破之、得金印、文曰、『忠孝侯印』^(五)。顗表上聞、藏之秘府。顗漢靈帝時至太尉。

校記 類聚四十六。*初學記二十七。○淵鑑六六太尉。又*三六一金。鄭氏二—44。富永氏43。事見搜神記九—

239。(事類賦注七·一九引)·博物志七—263·廣記四六一、未著出處、文與搜神記略同。

(一)〔常山〕初學記引作「南川」。○初學記中華書局本亦作「常山」、未知魯迅所據刊本、魯迅藏書目錄載光緒十四年蘊石齋刻本十六冊。(二)初學記引有「山」字。(三)○初學記引「墜」作「墮」。(四)○初學記引「民」作「人」、太宗諱。(五)已上初學記二十七亦引。

44 馮貴、前漢漢桓帝貴人也^(二)、美豔絕雙。死後卅餘年、群賊發其塚、見貴人顏色如故。賊遂競姦之、鬪爭相煞而死。

校記 瑠玉集十四。○鄭氏一—33。富永氏44。事見列異傳〔鈎沈18〕·搜神記一五—373·後漢書五六陳球傳。又六五段穎傳·敦煌文書P.二六三五·類林雜說九。

(一)○「漢」一字衍。

45 句章人至東野還、暮不至門^(二)、見路旁有小屋燈火^(三)、因投寄宿止^(四)。有一小女、不欲與丈夫共宿^(五)、呼鄰家女自伴夜^(五)、共彈琴箏篴。至曉此人謝去、問其姓字。女不答^(六)、彈絃而歌曰^(七)、『連綿葛上藤、一援復一緝。欲知我姓名^(八)、姓陳名阿登。』

校記 御覽五百七十三。書鈔一百六。○廣博物志二五。淵鑑一八五歌。古謠諺九四。胡校本46。鄭氏四—186。

富永氏 45。事見續搜神記六— 58（珠林五九・御覽八八四引）。（魯迅）案廣記三百十六引靈怪集、與此同。（漢會稽句章人、至東野還、暮不及門、見路傍小屋然火、因投宿至。有一少女、不欲與丈夫共宿、呼鄰家女自伴、夜共彈箏篴、歌曰、連綿葛上藤、一緩復一絀、汝欲知我姓、姓陳名阿登。」末有云、明至東郭外、有賣食母在肆中、此人寄坐、因說昨所見。母驚曰、「此是我女、近亡葬於郭外爾」。

（一）○書鈔引「至」作「及」。（二）○書鈔引無「燈火」。（三）○「止」今依御覽四部叢刊本補、鮑氏刊本無。（四）○「宿」鈎沈稿本・排印本皆作「處」、不知所據。今依御覽引改。（五）○鈎沈依御覽引「鄰家」下有「止宿」、今依御覽四部叢刊本刪、以「女」補。（六）○自「不欲」至此、凡三十四字、書鈔引無。（七）○書鈔引作「夜彈琴絃而歌曰」。（八）〔知〕書鈔引作「問」。

46 漢時太山黃原、平旦開門、忽有一青犬、在門外伏守、備如家養。原繼犬、隨鄰里獵、日垂夕、見一鹿、便放犬、犬行甚遲、原絕力逐終不及。行數里、至一穴、入百餘步、忽有平衢、槐柳列植、行牆迴匝^(一)。原隨犬入門、列房櫳戶、可有數十間^(二)、皆女子、恣容妍媚、衣裳鮮麗。或撫琴瑟、或執博碁。至北閣^(三)、有三間屋、二人侍直、若有所伺。見原、相視而笑^(四)、「此青犬所致^(五)、妙音壻也。」一人留、一人入閣。須臾、有四婢出、稱、「太真夫人白黃郎。有一女年已弱笄、冥數應為君婦。」既暮、引原入內。內有南向堂^(六)、堂前有池、池中有臺、臺四角有徑尺穴、穴中有光映帷席^(七)、妙音容色婉妙、侍婢亦美。交禮既畢、宴寢如舊。經數日、原欲暫還報家、妙音曰、「人神異道^(八)、本非久勢。」至明日、解珮分袂、臨階涕泗、後會無期、深加愛敬、「若能相思、至三月旦、可修齋潔^(九)。」四婢送出門、半日至家。情念恍惚。每至其期、常見空中有駟車、髣髴若飛。

校記 珠林三十一（百二十卷本四一）。○廣記二九二引珠林、文大同。鄭氏——13。富永氏 46。

（一）○廣記引「行」作「垣」。（二）○廣記引無「櫳戶」。（三）○「閣」鈎沈誤作「閣」、今依正。（四）

○廣記引「笑」下有「云」。(五)○廣記引「致」上有「引」。(六)○廣記引無「內」。(七)○廣記引「映」作「照暎」。(八)○「道異」鈎沈作「異道」、珠林各本・廣記引均作「道異」、今依正。(九)○廣記引「潔」作「戒」。

47 漢末大亂、潁川有人將避地他郡。有女七八歲^(一)、不能涉遠、勢不兩全。道邊有古塚穿敗、以繩繫女下之。經年餘還、於冢尋覓、欲更殯葬。忽見女尚存、父大驚、問女得活意、女云、「冢中有一物、於晨暮際輒伸頭翕氣^(二)、為試效之、果覺不復飢渴。」家人於冢尋索此物、乃是大龜。

校記 御覽五百五十九。○淵鑑一八三塚墓。鄭氏一—23。富永氏47。事見異聞記(鈎沈1)・獨異志(廣記四七二引)・*少室山房筆叢三六。

(一)○御覽四部叢刊本「七八歲」上有「年」字。(二)○「際」鈎沈依鮑氏刊本作「徐」、今依四部叢刊本。

48 孫鍾、吳郡富春人、堅之父也^(一)。少時家貧^(二)、與母居、至孝篤信^(三)、種瓜為業^(四)。瓜熟^(五)、忽有三少年^(六)、容服妍麗、詣鍾^(七)。乞瓜。鍾引入庵中、設瓜及飯^(八)、禮敬殷勤^(九)、三人臨去^(一〇)、謂鍾曰、「蒙君厚惠、今示子葬地^(一一)、欲得世世封侯乎。欲為數代天子乎^(一二)。」鍾跪曰、「數代天子、故當所樂。」便為定墓^(一三)。又曰^(一四)、「我司命也、君下山、百步勿反顧^(一五)。」鍾下山六十來步^(一六)、回首^(一七)、並為白鶴飛去^(一八)。鍾遂於此葬母^(一九)、冢上有氣屬天^(二〇)。鍾後生堅、堅生權、權生亮、亮生休、休生和^(二一)、和生皓、為晉所伐、降為歸命侯^(二二)。

校記 李瀚蒙求注中。御覽五百五十九・又九百七十八。事類賦注二十七。*初學記八。*類聚八十七(未著出處)。
*敦煌石室所出唐寫本類書殘卷(敦煌文書P.二五二四)・類林雜說七(引文後附)。
○*事文類聚後集二六。淵鑑一八三塚墓・四〇四瓜・三三五江南道。鄭氏二—45。富永氏48、又提及敦煌文書P.二五二六。事見異苑四・宋書符

瑞志上。

類林雜說七引幽明錄云、孫鍾吳郡富春人也。孫武之後。鍾種瓜為業、瓜初熟、有三人來就乞瓜、鍾遂引三人入草菴、設飯摘瓜以食之。三人食訖、謂鍾曰、蒙君厚恩、無以報也。請視君葬地。遂將之上山、謂曰、欲得世世封侯、數世天子。鍾曰、諾。遂指一處可葬之。三人曰、我等是司命、君下山百步、勿反顧。鍾行三十步、回首見三人化作白鶴飛去。鍾於指地葬父母。冢上常有紫氣屬天、漫延於地。父老曰、孫氏興矣。鍾生堅、字文臺。仕靈帝為破虜將軍、長沙太守。堅生權、字仲謀。漢末據江東建立為吳天子、都揚州號建業、後都武昌。權生亮、亮生林、林生皓、皓為晉所伐。皓降、晉武帝封為歸命侯。果四世天子為王。孫權號太皇、亮被廢、休為景皇帝、皓為後主、皇帝相繼六十八年。○參看『類林研究』35、13所引、與雜說略同。

(一)二句依御覽引補。○御覽五五九引「父」作「祖」。又九七八引無「吳郡」之。 (二)○此句御覽兩引無。
(三)蒙求注無此句。 (四)「為業」二字御覽引有。 (五)○御覽引無此二字。 (六)○「忽」今依類聚·御覽五五九·事類賦注補。初學記引「三」作「二」。類聚·御覽九七八引「少年」作「年少」。 (七)「自」忽至「鍾」、以上十一字」蒙求注引作「三人來」、今依御覽引。○御覽五五九引無「容服妍麗」鍾」。 (八)○御覽九七八引以上二句作「愛樂無已、為設食出瓜」。又五五九引作「鍾為設食」。 (九)四字依御覽(九七八)引補。○事類賦注引亦有。 (一〇)○御覽引無「三人」。蒙求注引無「臨去」。 (一一)○御覽五五九引作「日、我司命也、感君不知、何以相報、此山下善可作冢」。下句初學記引亦同。敦煌文書P.二六二四引作「謂鍾曰、無以相報、示子以葬地。遂上山示地」。御覽九七八引「我等司命、感郎見接之厚。送出門。三人曰、山中可作塚」。 (一二)○御覽五五九引作「復言、欲連世封侯、而數代天子耶」。蒙求注引無前「乎」、而各本皆無前後「乎」。按鈎沈依後「乎」以意補前「乎」歟。 (一三)已上四句依御覽(五五九)引補。○蒙求注引作「鍾曰、好為數代天子」。 (一四)○蒙求注引「又」作「三人」、敦煌文書P.二六二四引作「訖」。 (一五)御覽(五五九)引作「君可下山百步

後、顧見我去處、便是墳所也」。○「下山」御覽引作「山下」、鈎沈以意改。（一六）敦煌石室類書殘卷引作「鍾行可八十步」。御覽（五五九）引作「百步」。○「來」字、今依蒙求注補。初學記引「鍾隨下山三十步」。（一七）○「首」鈎沈作「看」、今依蒙求改。御覽五五九引作「便顧見」。（一八）（鶴）御覽一（九七八）引作「鶴」。已上亦見御覽五百五十九、又九百七十八。事類賦注二十七。初學記八。類聚八十七。敦煌石室所出唐寫本類書殘卷。○類聚引作「出門悉化為白鶴」。敦煌文書（P.二五二四）引作「遂化為白鶴而去」。初學記引作「二人悉化成白鶴、飛入空中」。御覽引作「悉化為白鶴（鶴）也」。事類賦注引作「出門悉化成白鶴」。（一九）○初學記引作「即孫堅所葬地」。（二〇）○「屬」鈎沈作「觸」、今依蒙求古注和刻本改。（二一）○蒙求注引以上二句作「亮及休和」、作為事實他書引皆誤也。（二二）○敦煌文書P.二六二四引作「鍾生堅、堅生權。漢末據江東並立為吳王」。

49 董卓信巫、軍中常有、言禱祀求福^(一)。一日、從卓求布、倉卒與新布手巾。又求取筆、便捉以書手巾上、如作兩口、一口大、一口小、相累於巾上。授卓曰^(二)、「慎此也」^(三)。後卓為呂布所殺^(四)、後人乃知況呂布也。

校記 御覽七百三十五。*書鈔一百三十六。○天中記四〇。淵鑑三七九手巾。胡校本5。鄭氏二—56。富永氏49云、事見後漢書董卓傳・同李賢注引英雄記・三國志董卓傳裴松之注引英雄記。

（一）御覽引作「軍中常有巫、都言禱求福利」。（二）○自「一日」至此、御覽引作「言從卓求布、倉卒無布有手巾。言曰、可用耳。取便書巾上、如作兩口、一口大一口小相累。以舉謂卓曰、「四部叢刊本此處用日本活字本、與鮑氏刊本同。胡校本「取」下有「筆」。（三）○書鈔引至此為止。（四）○胡校本「後卓」作「卓後」。（五）○「乃」御覽四部叢刊本作「則」。

50 魏武帝猜忌晉宣帝父子非曹氏純臣^(一)、又嘗夢三足馬、在一槽中共食、意尤憎之^(二)。因召文明二帝、告以所見、

並云、『防理自多、無為橫慮^(三)。』帝然之。後果害族移器^(四)、悉如夢焉。

校記 御覽四百。○天中記二三。胡校本 85。鄭氏二— 57。富永氏 50 云、事又見宋書符瑞志上·晉書宣帝紀。

(一)○胡校本「子」上有「父」、今據補。(二)○胡校本此句作「覺猶憶之」。(三)○胡校本「無」作「毋」。

(四)○胡校本無「害族」二字。

51 鍾繇忽不復朝會、意性有異於常。寮友問其故、云、『常有婦人來、美麗非凡』。問者曰^(一)、『必是鬼物、可殺之。』後來止戶外、曰、『何以有相殺意^(二)。』元常曰、『無此。』慫慂呼入、意亦有不忍^(三)、乃微傷之。便出去、以新綿拭血竟路。明日使人尋跡、至一大塚、棺中一婦人形體如生、白練衫、丹繡襦褳、傷一髀^(四)、以襦褳中綿拭血。自此便絕。

校記 廣記三百十七。○胡校本 90。鄭氏四— 171。富永氏 51。事見陸氏異林(鈎沈 1)·搜神記一六— 399。

(一)○汪校本·黃刻本均「問者」作「問者」而承上文、鈎沈以意改、鈔宋本作「問」。(二)○鈔宋本「以」作「汝」。(三)○胡校本無「意」。(四)○胡校本「髀」作「脾」。

52 魏齋王芳時、中山有王周南者、為襄邑長、忽有鼠從穴出、語曰、『周南、爾以某日死。』周南不應。至期、更冠幘阜衣而出、曰、『周南、爾以日中死。』亦不應、鼠復入穴^(一)。日適中、鼠又冠幘而出、曰、『周南、汝不應^(二)、我何道。』言絕、顛蹶而死、即失衣冠所在。就視之、與常鼠無異。

校記 廣記四百四十。○胡校本 156。鄭氏三— 112。富永氏 52。事見搜神記一八— 437·列異傳(鈎沈 47)·晉書五行志·宋書五行志·陸勳集異志四。參看本篇 227。

(一)○胡校本「復」作「後鑽」。(二)○鈔宋本·胡校本「應」下有「我」。

53 孫權時、南方遣吏獻犀簪^(一)。吏過宮亭湖、廬山君廟請福^(二)、神下教求簪^(三)、而盛簪器便在神前^(四)。吏叩頭曰^(五)、『簪獻天子、必乞哀念^(六)。』神云、『臨入石頭、當相還。』吏遂去^(七)、達石頭、有三尺鯉魚跳入缸^(八)、吏破腹得之^(九)。校記 御覽六百八十八・又九百三十六。○淵鑑三七一簪。胡校本19。鄭氏五—197。富永氏53。事見搜神記四—81。
(一)○御覽六八八引無「犀」。 (二)○御覽九三六引無「湖廬山君」四字。 (三)○御覽六八八引無「神」。胡校本作「下教於巫求吏簪」。 (四)○御覽六八八引無以上八字。 (五)○「頭」今依御覽六八八四部叢刊本引補、胡校本亦同。 (六)○御覽九三六引無以上三句十二字。 (七)○御覽九三六引無「吏遂」二字。 (八)○御覽九三六引無「有」。 (九)今依御覽四部叢刊本。 (九)○御覽九三六引「腹」作「魚」。

54 孫權病、巫啟云、『有鬼著絹巾、似是故將相、呵叱初不顧、徑進入宮。』其夜、權見魯肅來、衣巾悉如其言。校記 廣記三百十七。○胡校本92。鄭氏四—182。富永氏54云、事見御覽八一七引搜神記(今本失收)。

55 吳興錢乘、孫權時、曾晝臥久不覺、兩吻沫出者數升^(一)。其母怖而呼之^(二)、曰、『適見一老公、食以燂筋^(三)、恨未盡而呼之。』乘本尪瘠、既爾之後、遂以力聞。官至無難監。

校記 御覽三百九十八。○天中記二三。胡校本84。鄭氏一—32。富永氏55。

(一)○「吻」鈎沈作「吻」、今依御覽引。鈎沈脫「者」、今補。 (二)○胡校本下有「問何為」三字。 (三)○鈎沈「筋」作「筋」、今以筋代之。

56 吳時葛祚為衡陽太守^(一)、郡境有大槎橫水^(二)、能為妖怪。百姓為立廟、行旅禱祀、槎乃沈沒、不者槎浮、則船為之破壞。祚將去官、乃大具斤斧、將去民累。明日當至、其夜、聞江中啍啍有人聲。往視、槎移去、沿流下數里、駐灣

中、自此行者無復沈覆之患。衡陽人為祚立碑曰、『正德祈禳、神木為移也。』

校記 廣記二百九十三。○胡校本 117。鄭氏一—20。富永氏 56。事見搜神記二—275。

(一)○鈎沈依廣記黃刻本作「葛祚吳時」、汪校本亦同。今依鈔宋本改。(二)○鈔宋本無「大」。

57 王姥、吳時人。黃龍中^(一)、年九歲病死、自朝至暮復蘇。云、『見一老嫗、挾將飛見北斗君。有狗如獅子大、深目、伏井欄中、云此天公狗也。』

校記 事類賦注八。○天中記五四。淵鑑四三六狗。鄭氏五—226。富永氏 57。

(一)○以上三句、鈎沈依劍光閣本作「吳時、有王姥」、今依中華書局本改。天中記、淵鑑引均作「黃龍中」、但無「吳時人」。

58 吳時、陳仙以商賈為事、驅驢夜行^(一)。忽過一空宅、廣廈朱門、都不見人、仙牽驢入宿。至夜、聞有語聲、『小人無畏、敢見行災。』便有一人逕到仙前、叱之曰、『汝敢輒入官舍。』時籠月曖昧、見其面上壓深、目無瞳子、脣齟齒露、手執黃絲。仙即奔走投村^(二)、具說事狀。父老云、『舊有惡鬼。』明日、看所見屋宅處、並高墳深隧。

校記 廣記三百十七。○胡校本 91。鄭氏四—176。富永氏 58。

(一)○「夜」今依鈔宋本補、胡校本亦有。(二)○鈎沈·汪校本·黃刻本皆「投」作「後」、今依鈔宋本改、胡校本亦同。

59 吳末、中書郎失其姓名、夜讀書。家有重門、忽聞外面門皆開^(一)、恐有急詔。戶復開、一人有八尺許、烏衣帽、持杖坐牀下、與之熟相視、吐舌至膝。於是大怖、裂書為火、至曉雞鳴便去。門戶閉如故、其人平安。

校記 御覽四百六十九。○鄭氏四—183。

(一)○四部叢刊本「面」作「西」、依鮑氏刊本。

60 鄧艾廟在京口、止有一草屋^(一)。晉安北將軍司馬恬於病中、夢見一老翁曰、『我鄧公、屋舍傾壞、君為治之。』後訪之、乃知艾廟、為立瓦屋。隆安中、有人與女子會於神座上^(二)、有一蛇來繞之數匝^(三)。女家追尋見之、以酒脯禱祠、然後得解。

校記 廣記三百十八。○胡校本 96。鄭氏五—199。事之前半亦見異苑七。

(一)○汪氏校語云、「止」原作「上」、據明鈔本改。今依汪校本。(二)○胡校本「神座」作「座神」。(三)○鈎沈依黃刻本「數」下有「四」、汪校本亦有、今依鈔宋本刪、胡校本亦無。

61 有人相羊叔子父墓、有帝王之氣、叔子於是乃自掘斷墓。後相者又云^(一)『此墓尚當出折臂三公^(二)。』祐工騎乘^(三)。有一兒五六歲、端明可喜。掘墓之後、兒即亡^(四)。羊時為襄陽都督^(五)、因盤馬落地^(六)、遂折臂^(七)。於時士林咸歎其忠誠^(八)。

校記 六帖三十。御覽三百六十九。*世說術解篇注。○白帖九—一二。廣記三八九。淵鑑二六一臂。胡校本 54。鄭氏二—47。事見世說術解篇 3、又見晉書三四羊祜傳。

(一)六帖三十引作「相者再至云」。(二)○御覽引「尚」作「由」。胡校本作「猶」。(三)○世說注引「祐」作「羊祜」、御覽·胡校本作「叔子」。胡校本「工」作「止」。(四)○自「有一兒」至「即亡」凡十八字、白帖·六帖·御覽·胡校本均無。(五)○御覽·胡校本「羊時」作「及」、都作「縣」。(六)○御覽·胡校本無「因」。廣記引「盤」作「乘」。(七)○御覽·胡校本引至此為止。(八)○此句世說注引有、廣記引亦有。

62

漢時洛下有一洞穴^(一)，其深不測。有一婦人欲殺夫，謂夫曰^(二)：『未嘗見此穴^(三)。』夫自逆視之^(四)，至穴^(五)，婦遂推下^(六)，經多時至底。婦於後擲飯物，如欲祭之。此人當時顛墜恍惚^(七)，良久乃蘇^(八)，得飯食之，氣力小強。周遑覓路，仍得一穴，便匍匐從就，崎嶇反側，行數十里，穴寬^(九)，亦有微明，遂得寬平廣遠之地^(一〇)。步行百餘里，覺所踐如塵，而聞粃米香，啗之芬美^(一一)，過於充飢^(一二)，即裹以為糧^(一三)，緣穴行而食此物，既盡，復遇如泥者，味似向塵^(一四)，復齎以行^(一五)。所歷幽遠，里數難詳^(一六)，而轉就明廣^(一七)，食所齎盡^(一八)，便入一都，郭郭修整^(一九)，宮館壯麗，臺榭房宇，悉以金魄為飾^(二〇)，雖無日月，而明踰三光^(二一)。人皆長三丈，被羽衣，奏奇樂，非世所聞^(二二)。便告求哀，長人語令前去，從命前進^(二三)。凡過如此者九處。最後所至^(二四)，苦告飢餒^(二五)，長人指中庭一大柏樹^(二六)，近百圍，下有一羊，令跪掬羊鬢。初得一珠，長人取之，次掬亦取，後掬令啗，即得療飢^(二七)。請問九處之名，求停不去。答曰：『君命不得停，還問張華，當悉此閒^(二八)。』人便隨穴而行，遂得出交州^(二九)。往還六七年間^(三〇)，即歸洛，問華，以所得二物視之^(三一)。華云：『如塵者是黃河下龍涎^(三二)，泥是崑山下泥^(三三)，九處地仙名九館大夫^(三四)，羊為癡龍^(三五)，其初一珠，食之與天地等壽，次者延年。後者充飢而已。』

校記 珠林三十一〔百二十卷本四一〕。*初學記二十九。*六帖九十六。*類聚九十四。*御覽八百三。*又九百二。廣記一百九十七。*寰宇記五。*事類賦注九。*又二十二。○*白帖二九。鈎沈注云，御覽三十九。三九未引此條，但八〇三原注云，事具嵩山。*杜詩趙注（戲作寄上漢中王二首之一）。*萬花谷續集一四。天中記五六。淵鑑四三六羊。*又三六四珠。胡校本 159。但以豫章燃石合為一事，條理不通。鄭氏一—25。事又見殷芸小說（鈎沈 150）。參看次條。

（一）〔漢時〕當誤。○初學記·御覽九〇二引「洞」作「澗」。（二）○珠林大正藏本引「夫」下有「騰騰」二字。（三）○胡校本「嘗」作「曾」。（四）○「逆」珠林大正藏本·胡校本均作「送」、廣記引作「過」。（五）〔之

至穴」三字依廣記引補。○胡校本亦同。(六)○廣記引作「婦推夫墜穴」、胡校本同。(七)「此人」二字廣記引有。(八)○珠林·胡校本無「乃」、廣記引有。(九)○廣記·胡校本「小」作「稍」。(一〇)○廣記·胡校本作「穴小、寬」。(一一)珠林引作「遂得平」、此依御覽。○廣記·胡校本亦與御覽引同。(一二)○「啗」鈎沈依廣記、諸本引均作「噉」。(一三)四字廣記引有。○胡校本作「過之于以充飢」。(一四)○「以」鈎沈依廣記·胡校本亦同。珠林引作「而」。(一五)「緣穴行」至此、已上依廣記引補。○鈎沈排印本「遇」誤作「過」。胡校本與廣記引略同。(一六)○廣記·胡校本作「又齎以去」、鈎沈「行」作「去」、今依珠林。(一七)○廣記·胡校本「詳」作「測」。(一八)○「而轉」二字、今依珠林引補。(一九)○廣記·胡校本句頭有「而」。(二〇)○「郭」珠林大正藏本作「城」、百二十卷本作「郡」、類聚·廣記引皆作「郭」。(二一)「魄」賦注引作「寶」。○類聚·初學記引同。胡校本作「瑰」。(二二)○鈎沈「明」上有「而」、依珠林百二十卷本。大正藏本·廣記·胡校本皆無。(二三)○鈎沈引「世」下有「問」、珠林·廣記·胡校本等引皆無、今依刪。廣記·胡校本句末有「也」。(二四)廣記引有此句。○廣記引注校本·黃刻本均作「進道」、胡校本作「前進」。(二五)○珠林引無「所」、廣記·胡校本引皆有。類聚引作「至最後所」。賦注引「後」作「晚」。(二六)○鈎沈脫「告」字、今依諸書引補。(二七)○廣記引「人」下有「人」字、疑訛衍。(二八)賦注引作「三捋得三珠、初得兩珠、長人取之、令啗後所得者、遂不飢」。○廣記·胡校本「啗」下有「食」。(二九)○廣記·胡校本無「問」。「當悉」句讀。(三〇)○鈎沈「州」作「郡」、依廣記引。胡校本亦同。今依珠林·類聚·御覽等引以及晉書地理志改。(三一)○珠林引此句於文末而云「此人往還七八年間」。(三二)珠林引作「人便隨穴出交州、還洛閭華、以所得物示之」。此依廣記。(三三)○廣記·胡校本無「下」。(三四)○鈎宋本「泥」上有「有」、胡校本有「似」。(三五)○「大夫」廣記·胡校本無、類聚引作「大」、御覽八〇三引·賦注九引並作「大夫」。(三六)○類聚引「癡」作「螭」。

63 嵩高山北有大穴、莫測其深、百姓歲時每遊觀其上。晉初嘗有一人誤墜穴中。同輩冀其儻不死、乃投食於穴中、墜者得之。為尋穴而行、計可十許日、忽曠然見明。又有草屋、中有二人、對坐圍碁。局下有一杯白飲。墜者告以飢渴。碁者曰、『可飲此。』墜者飲之、氣力十倍^(一)。碁者曰、『汝欲停此否。』墜者曰、『不願停。』碁者曰、『從此西行有大井^(二)、其中有蛟龍^(三)、但投身入井、自當出。若餓、取井中物食之。』墜者如言、可半年、出蜀中。歸洛下^(四)、問張華。華曰、『此仙館大夫^(五)、所飲者玉漿^(六)、所食者龍穴石髓^(七)。』

校記 初學記五引劉義慶世說、御覽三十九同。案今本世說無此文、唐宋類書引幽明錄、時亦題世說也。○類聚七引亦云「世記」。今依類聚引補前半。白帖二·事文類聚前集一三·群書類編故事三皆引作「劉義慶世說」、又書鈔一四引為「世語」。胡校本 76。鄭氏——26。事又見搜神記——2、殷芸小說（鈎沈 119）。參看前條。

（一）○以上今依類聚引補。鈎沈依初學記·御覽引云、「嵩高山北有大穴、晉時有人誤墜穴中、見二人圍棋、下有一杯白飲、與墮者飲」。胡校本「一杯」下有「自飲、亦」、又「與墮者」下有「飲竟」。 （二）○胡校本脫「此」。 （三）○御覽引無「有」、胡校本有。 （四）○御覽·胡校本作「因人洛」。 （五）○「夫」今依類聚補。御覽引「大夫」作「也」。胡校本亦同。 （六）○類聚引句末有「也」。胡校本同。御覽四部叢刊本引作「耳」、鮑氏刊本引無。 （七）○御覽·胡校本「穴」作「肉」。

64 張華將敗、有飄風吹衣軸、六七倚壁。

校記 御覽八百三十引世說。○鄭氏六——270。鄭氏注引廣古今五行記（廣記三九六引）云、「西晉永康元年、大風、飛砂折木。其年四月、張華舍風飄起折木、飛繒軸六七枚。是月、趙王倫矯制廢賈后、害張華·裴頠等。」

65 陳郡謝鯤、嘗在一亭中宿。此亭從來殺人、夜四更末^(二)、有一人黃衣呼^(三)、『幼輿、可開戶^(三)。』鯤令申臂於窗中^(四)、於是授腕^(五)、鯤即極力而牽之^(六)、臂便脫、乃還去^(七)。明日看乃鹿臂^(八)、尋血遂取獲焉^(九)。

校記 初學記二十九。六帖九十七。○白帖二九一六。事文類聚後集三六。淵鑑四三〇鹿。續編珠二。鄭氏三—109。事見搜神記一八—429。晉書四九謝鯤傳。

(一)○白帖·六帖引無「末」。(二)○初學記引無「人」。(三)六帖引作「呼於門外」。○白帖引同。(四)○白帖·六帖引「鯤」下有「因」。(五)○白帖·六帖引無「授腕」。(六)○白帖·六帖引「牽」作「掣」。(七)○以上二句白帖·六帖引作「臂脫而去」。(八)○白帖·六帖引「臂」作「膊」。(九)○白帖引作「尋血獲鹿焉」。六帖引「獲」作「得」。

66 阮德如嘗於廁見一鬼^(一)、長丈餘、色黑而眼大^(二)、著皂單衣^(三)、平上幘、去之咫尺^(四)。德如心安氣定^(五)、徐笑語之曰^(六)、『人言鬼可憎、果然^(七)。』鬼即赧愧而退^(八)。

校記 御覽一百八十六·又八百八十三。廣記三百十八。續談助四。○類說一一。明鈔說郭三。淵鑑三三〇鬼。胡校本 97。鄭氏四—151。事見殷芸小說(鈎沈 102)。

(一)○續談助引無「阮」。類說·說郭引「於」作「登」。(二)○御覽一八六引無「而」。(三)○廣記·類說·續談助·說郭·胡校本等引「皂」均作「白」。(四)○以上二句類說引作「手上摸、相之咫尺」。說郭引「去之」作「相去」。(五)○御覽八八三引無「氣」。(六)○御覽一八六引「笑」作「喚而」。廣記引「語」作「謂」。類說·說郭引此句作「笑曰」二字。續談助引作「徐笑而語之曰」、胡校本「語」作「謂」、餘同。(七)○類說·續談助·說郭引「果然」下有「如是」二字。(八)○御覽一八六引無此句。廣記·類說·續談助·說郭·胡校本等引皆作「鬼赧而退」四字。

67 阮瞻素秉無鬼論^(一)、世莫能難、每自謂理足可以辨正幽明^(二)。忽有一鬼^(三)、通姓名作客詣阮^(四)、寒溫畢、聊談名理^(五)。客甚有才情^(六)、與言良久^(七)、及鬼神事、反覆甚苦^(八)、遂屈^(九)。乃作色曰^(一〇)、『鬼神古今聖賢所共傳、君何獨言無耶^(一一)』。僕便是鬼^(一二)。』於是忽變為異形^(一三)、須臾消滅^(一四)。阮嘿然、意色大惡。後年餘病死^(一五)。

校記 御覽六百十七·又八百八十三·*又五百九十五。廣記三百十九。○胡校本 77。鄭氏四—159。事見搜神記一六—348。殷芸小說(鈎沈131)·晉書四九阮瞻傳·陸勳集異志一。

(一)〔秉〕御覽八百八十三引作「常著」。○御覽五九五引作「亦著」。(二)○御覽八八三·廣記引無以上二句十五字。御覽六一七四部叢刊本引「辨」作「辯」、鮑氏刊本作「辨」。(三)○御覽八八三引「忽有」作「而」。廣記引無「忽」。胡校本無「有」。(四)○御覽八八三·廣記·胡校本「阮」均作「之」。(五)○「聊」鈎沈作「即」、不知何據。今依御覽·廣記引改、胡校本亦同。廣記汪氏校語云、談原作諸、據明鈔本改。鈔宋本作「談」。(六)○御覽八八三引「情」作「辨」、胡校本亦同。(七)○此句今依御覽八八三引補、胡校本同、鈎沈依御覽六一七·廣記引作「末」一字。(八)○胡校本「苦」作「善」。御覽六一七鮑氏刊本引「反」作「返」、「苦」誤作「若」。(九)○御覽八八三引無以上六字。下句廣記引作「客遂屈之」四字。胡校本「遂」上有「鬼」。(一〇)○廣記引「乃」作「仍」。(一一)○御覽六一七·八八三引皆「耶」作「即」、而屬於下文。胡校本作「耶、即」。(一二)○廣記引無此句。(一三)○廣記引「於是忽」作「即」、胡校本作「遂」。(一四)○御覽八八三·廣記引「消」作「便」。(一五)○以上二句九字、御覽八八三四部叢刊本引作「大□惡之、年餘卒」。鮑氏刊本引無「□」。廣記引無「後」。胡校本作「年餘病卒」。

68 永嘉中^(一)、泰山巢氏先為相縣令^(二)、居在晉陵^(三)、家婢採薪、忽有一人追之^(四)、如相問訊、遂共通情^(五)、隨婢

還家、仍住不復去。巢恐為禍、夜輒出婢。聞與婢謳歌言語、大小悉聞^(六)。不使人見、見形者唯婢而已^(七)。恆得錢物、酒食日以充足^(八)。每與婢飲宴^(九)、輒吹笛而歌。歌云、『閑夜寂已清、長笛亮且鳴。若欲知我者、姓郭字長生^(一〇)。』

校記 類聚十四。御覽五百八十。廣記三百二十四。事類賦注十一。○御覽·事類賦注中華書局本引均作「幽明記」。

*李嶠百二十詠笛詩注引幽明錄云、巢氏有婢、往晉陵採薪、忽有一人隨婢、還不見其形。每吹笛而歌。歌曰、閑夜寂寂以清、長笛寥亮且鳴、若欲知我者、姓郭名長卿也。」

*類說一一。*明鈔說郭三。天中記四三。淵鑑一九〇笛。*古謠諺九四。胡校本138。鄭氏三一117。

(一)○廣記引作「元嘉」、胡校本亦同。(二)○類聚引「泰山」下有「民」字。廣記引「相」作「湘」。(三)

○廣記引無「在」、胡校本亦同。御覽鮑氏刊本作「住」。(四)○「追之」類聚引無「之」、御覽引作「隨追尋」、

李嶠詩注·賦注·類說·明鈔說郭諸引無「追之」。(五)二句廣記引有。(六)已上五句廣記引有。(七)

類聚引無此句。○廣記注校本·黃刻本引無「形」、但鈔宋本引有。(八)○以上二句十字、依廣記引補。(九)

○類聚引無「每」、廣記引作「每與飲」、胡校本亦同。鈎沈作「宴飲」、今依御覽·賦注引正。(一〇)○御覽·

賦注·類說·明鈔說郭引「已」作「以」、賦注引又「且」作「以」。

69 晉永嘉之亂、郡縣無定主、強弱相暴^(一)。宜陽縣有女子、姓彭名娥、父母昆弟十餘口^(二)、為長沙賊所攻^(三)。時娥

負器出汲於溪、聞賊至走還^(四)、正見塢壁已破^(五)、不勝其哀^(六)、與賊相格、賊縛娥驅出溪邊^(七)、將殺之。溪際有大山

^(八)、石壁高數十丈^(九)、娥仰天呼曰^(一〇)、『皇天寧有神不^(一一)。我為何罪、而當如此^(一二)。』因奔走向山、山立開廣數

丈^(一三)、平路如砥、群賊亦逐娥入山、山遂崩合^(一四)、泯然如初、賊皆壓死山裏、頭出山外^(一五)、娥遂隱不復出^(一六)。娥

所捨汲器化為石^(一七)。形似雞^(一八)、土人因號曰石雞山^(一九)、其水為娥潭^(二〇)。

校記 珠林三十二(百二十卷本四三)。御覽八百八十八。廣記一百六十一、又三百九十七。○胡校本160。鄭氏五

195。

(一)○御覽引無以上三句十四字、廣記三九七引無「郡縣」以下二句九字。(二)○御覽鮑氏刊本引「口」作「人」。
(三)○珠林大正藏本·廣記一六一·胡校本「攻」作「殺」、廣記三九七引作「擄」。鈎沈依珠林百二十卷本。(四)○廣記三九七引無「聞賊至走」四字。廣記一六一引「聞」作「問」而屬於上文。(五)○廣記三九七引無「正」。廣記一六一·胡校本「塢」作「牆」。(六)○廣記三九七引作「殆不勝哀」。(七)○廣記三九七引「出」作「去」。
(八)○廣記三九七引無「溪」。(九)○廣記三九七引無「高數十丈」。又三九七鈔宋本引作「大石山壁」。(一)○珠林引作「娥仰呼曰」、廣記一六一·胡校本作「仰呼」、又三九七引作「娥仰呼皇天」。鈎沈從御覽。(一)○廣記三九七引「皇天」作「山靈」。御覽·廣記三九七引無「寧」。廣記一六一·胡校本「不」作「否」。(二)○廣記三九七引無此句。(一三)○御覽四部叢刊本引無「立」、鮑氏刊本引作「高」。(一四)○御覽作「崩」。
○「崩」鈎沈作「隱」、珠林兩本及諸書皆作「崩」、不知鈎沈何據、今依珠林等書。(一五)○珠林大正藏本引無「山外」、百二十卷本引作「山人」。廣記一六一·胡校本無「山裏頭出山外」六字。鈎沈依御覽。(一六)○珠林引無此句。○諸書引皆有此句、系魯迅記錯、此注當刪。(一七)○御覽鮑氏刊本引無「捨」。(一八)○御覽引「形」下有「頭」。(一九)○御覽引無「石」。(二〇)「其水」二字御覽引有。○珠林大正藏本引作「水」一字、又百二十卷本·廣記兩引均無此二字。廣記三七九汪校本引作「溪為娥潭」、黃刻本作「溪有娥潭」、又一六一引作「女娥潭」三字、胡校本引亦同。

70 晉元帝世、有甲者、衣冠族姓、暴病亡。見人將上天詣司命、司命更推校、算歷未盡、不應枉、召主者發遣令還。甲尤腳痛、不能行、無緣得歸。主者數人共愁、相謂曰、「甲若卒以腳痛不能歸、我等坐枉人之罪。」遂相率具白司命、司命思之良久、曰、「適新召胡人康乙者、在西門外、此人當遂死。」其腳甚健、易之、彼此無損。『主者承敕出、將

易之。胡形體甚醜、腳殊可惡、甲終不肯。主者曰、『君若不易、便長決留此耳。』不獲已、遂聽之。主者令二人並閉目^(三)、倏忽、二人腳已各易矣。仍即遣之、豁然復生。具為家人說、發視果是胡腳、叢毛連結、且胡臭。甲本土、愛翫手足^(三)、而忽得此、了不欲見、雖獲更活、每惆悵殆欲如死。旁人見識此胡者、死猶未殯。家近在茄子浦、甲親往視胡尸、果見其腳著胡體、正當殯殮、對之泣。胡兒並有至性、每節朔、兒並悲思、馳往抱甲腳號咷。忽行路想遇^(四)、便攀援啼哭。為此每出人時^(五)、恆令人守門、以防胡子。終身憎穢、未嘗悞視^(六)。雖三伏盛暑、必服重衣^(七)、無暫露也。

校記

廣記三百七十六。○胡校本 123。鄭氏四—185。

(一)○鈔宋本引無「遂」。(二)○汪校本·黃刻本引無「人」。鈔宋本·胡校本引有、鈎沈依胡校本。(三)○「翫」鈎沈作「觀」、今據汪校本改。(四)○胡校本引「遇」作「逢」。(五)○胡校本引無「時」。(六)○胡校本引「悞」作「誤」。(七)○「服」鈎沈·汪校本·黃刻本皆作「復」、今依鈔宋本改。

71 王敦召吳猛^(一)、猛至江口、入水中、命船人並進^(二)。船至大雷^(三)、見猛行水上^(四)、從東北還逆船。弟子問其故、猛云、『水神數興波浪、賊害行旅、暫過約敕^(五)。』以真珠一握為信。

校記

類聚八十四。御覽八百三。○淵鑑三六四珠。鄭氏五—216。

(一)○御覽四部叢刊本引「吳」作「王」。(二)○御覽四部叢刊本引「船」作「舡」、下同。御覽引無「並」。(三)○御覽四部叢刊本引「雷」作「電」、誤。(四)○御覽引「上」作「中」。(五)○御覽引「敕」作「勒」、或當從。鮑氏刊本引無「過」。

72 王敦近吳猛、惡之於坐、郊然失去。乃附戴還南^(一)、一宿行千里、同行客視船下有兩龍載船、皆不着水。

校記

書鈔一百三十七。○淵鑑三八六舟。鄭氏五—215。事亦見異苑五。

(一)○書鈔孔氏注云、按「王敦」十八字有譌誤。陳·俞本改作「吳猛還豫章、附載客船」、餘同。淵鑑引與陳·俞本同。鄭氏注云、「郊」疑當作「款」。

73 晉有干慶者^(一)、無疾而終^(二)。時有術士吳猛語慶之子曰^(三)、「干侯算未窮、方為請命^(四)、未可殞殞。尸臥淨舍^(五)、惟心下稍暖^(六)、居七日^(七)、時盛暑、慶形體向壞^(八)、猛凌晨至^(九)、教令屬續候氣^(一〇)、續為作水、令以與洗^(一一)、並飲漱、如此便退^(一二)。日中許、慶蘇焉^(一三)、旋遂張目開口、尚未發聲、闔門皆悲喜^(一四)。猛又令以水含灑^(一五)、乃起^(一六)、吐腐血數升^(一七)、稍能言語^(一八)、三日、平復如常^(一九)。說初見十數人來^(二〇)、執縛桎梏到獄^(二一)、同輩十餘人、以次語對^(二二)、次未至^(二三)、俄而見吳君北面陳釋、聽斷之王^(二四)、遂敕脫械令歸^(二五)。所經官府、莫不迎接^(二六)、請謁吳君^(二七)、而吳君皆與之抗禮^(二八)、即不知悉何神也^(二九)。

校記 廣記三百七十八。御覽八百八十七。○胡校本 124。鄭氏五— 217。參看搜神記一— 26。

(一)御覽引「干」作「于」。○下同。廣記鈔宋本亦作「于」。(二)御覽引作「無病卒」。(三)御覽引無「時有術士」四字、又無「之」。(四)廣記引作「我為試其命」。○黃刻本引作「其」。汪校本作「請」、汪氏校語云、「請」字原空闕、據明鈔本補。鈔宋本·胡校本亦作「請」。(五)「淨」鈞沈依廣記引作「靜」、今依御覽改。(六)御覽引「稍」作「尚」。(七)御覽引無「居」。(八)二句御覽引有。(九)御覽引無「凌晨至」。(一〇)「續」今依御覽四部叢刊本引補。(一一)「與」今依御覽四部叢刊本引補。(一二)「教令」至此、廣記引作「以水漱之」、今據御覽引補。(一三)御覽四部叢刊本引無「焉」、鮑氏刊本引無「蘇焉」。(一四)「旋遂」以下至此、御覽引作「但開眼張口、不得發聲、時合門欣喜」。(一五)御覽引作「以向水洗哈」。廣記鈔宋本「含」作「哈」。(一六)「乃」鈞沈引作「遂」、不知何據。今依廣記引改。胡校本亦同。(一七)廣記引作「吐血數聲」。(一八)「稍」鈞沈依御覽鮑氏刊本引、四部叢刊本引無、廣

記・胡校本均作「兼」。(一九)○廣記引無「如常說」三字、鈎沈依御覽引。(二〇)○御覽鮑氏刊本引無「初」。(二一)○御覽鮑氏刊本引「獄」下有「中」。(二二)○廣記引「語」作「旋」。(二三)○御覽引無「次」。(二四)○「聽」今依御覽四部叢刊本引補、廣記引無「聽斷之」。(二五)○御覽引無「令」。(二六)○廣記引「莫不」作「皆見」。(二七)○廣記引無「請謁」。(二八)○御覽引無「而吳君」、「之」。廣記引無「皆」。(二九)○御覽引無「即」、胡校本引誤作「節」。御覽鮑氏刊本引「神也」作「主耳」、四部叢刊本引「也」作「耳」。

74 王丞相見郭景純、請為一卦、卦成、郭意甚惡、云、『有震厄、公能命駕、西出數里、得一柏樹、截如公長、置常寢處、災可消也。』王從之、數日果震、柏木粉碎。

校記 御覽九百五十四。○胡校本 70。鄭氏五—210。事見世說術解篇 8。

75 王丞相茂弘、夢人欲以百萬錢買大兒長豫^(一)、丞相甚惡之、潛為祈禱者備材作屋^(二)、得一窖錢、料之百萬億^(三)、大懼、一皆藏閉、俄而長豫亡^(四)。

校記 御覽四百。*六帖二十三。○*白帖七。天中記二三。淵鑑三二一夢。胡校本 86。鄭氏二—69。事又見世說敘錄考異、文與天中記所引同。廣記一四一引世說、與敘錄考異同。

(一)○胡校本「長豫」作「長孫」、下同。(二)○「材」鈎沈依御覽鮑氏刊本引作「炭」、今依御覽四部叢刊本引改。胡校本作「掘地作屋」。世說敘錄考異作「備矣、後作屋」。(三)六帖引「料之」作「其數」。○白帖同、無「億」。(四)○白帖引作「長豫無病而死」。廣記引有後文云、「長豫名悅、導之次子也」。

76 中書郎王長豫有美名^(一)、父丞相導^(二)、至所珍愛。遇疾轉篤^(三)、導憂念特至^(四)、正在北牀上坐^(五)、不食已積日。

忽見一人^(六)、形狀甚壯^(七)、著鎧持刀^(八)、王問、『君是何人。』答曰、『僕是蔣侯也、公兒不佳^(九)、欲為請命、故來耳。勿復憂。』王欣喜動容、即求食^(一〇)、食遂至數升^(一一)、內外咸未達所以。食畢、忽復慘然、謂王曰、『中書命盡、非可救者。』言終不見也^(一二)。

校記 廣記二百九十三。珠林九十五〔百二十卷本二一四〕。○鄭氏五—206。事又見搜神後記五—51。晉書六五王悅傳。

(一)○珠林引文頭有「魏」、誤。(二)○珠林引無「導」。(三)○廣記引「疾」作「病」。(四)○珠林引「導」作「丞相」。(五)○珠林引「正」作「政」、而無「北」。(六)○珠林引「見」作「為現」。(七)○廣記引「形」作「行」。(八)○珠林引「持」作「執」。(九)○珠林大正藏本引「佳」作「住」。(一〇)○珠林引「即」下有「命」。(一一)○「遂」鈎沈脫之、今依兩書補。(一二)○珠林引無「也」。

77 蔡謨在廳事上坐、忽聞鄰左復魄聲、乃出庭前望。正見新死之家、有一姥嫗、上著黃羅半袖、下著縹裙、飄然升天。聞一喚聲、輒回顧。三喚三顧、徘徊良久、聲既絕、亦不復見。問喪家、云亡者衣服如此。

校記 廣記三百二十。○胡校本105。鄭氏四—131。

78 某郡張甲者^(一)、與司徒蔡謨舊有親^(二)、僑住謨家、暫行數宿^(三)、過期不反^(四)。謨書眠、夢甲云、『暫行忽暴病、患心腹痛病^(五)、脹滿不得吐痢^(六)、某時死^(七)、主人殯殮。』謨悲涕相對^(八)、又云、『我病名乾霍亂、自可治也^(九)。但人莫知其藥、故令身死耳。』謨曰、『何以治之。』甲曰、『取蜘蛛生斷去腳^(一〇)、吞之則愈^(一一)。』謨覺、使人往甲行所驗之、果死^(一二)。問主人病與時日^(一三)、皆與夢符。後有患乾霍亂者^(一四)、謨試用輒差^(一五)。

校記 御覽七百四十三。又九百四十八。廣記二百七十六。○永樂大典一三三三六。本草綱目四〇。胡校本8。鄭

氏——31。

(一)○廣記引無「某郡」二字。(二)○「舊」鈎沈依御覽七四三鮑氏刊本引作「上」、今依四部叢刊本引改、九四八引無。廣記引亦同。(三)○鈎沈·御覽七四三·廣記引皆作「暫數宿行」、今依御覽九四八引改。胡校本引作「暫停數宿」。(四)○廣記引「反」作「及」。(五)○「痛病」二字、今依廣記引補。御覽九四八引作「病痛」、七四三引無。胡校本作「痛」。(六)○「痢」御覽九四八·廣記·大典·胡校本皆作「下」。御覽鮑氏刊本九四八引「脹」作「腹」。(七)○御覽七四三引「死」下有「亡」。(八)○御覽七四三引無以上二句九字。(九)○御覽九四八鮑氏刊本引無「也」。(一〇)○鈎沈依御覽九四八鮑氏刊本引作「故今死耳」、胡校本同、今依御覽七四三引改。但七四三引無「耳」。自「主人」以此至此、凡三十一字廣記·大典引無。(一一)○「下」取御覽一「兩」引作「去」。○胡校本引「蜘蛛」作「□□」。御覽兩引·廣記·胡校本皆作「去」、今依改。(一二)○鈎沈依御覽九四八鮑氏刊本引「吞」上有「而」、今依御覽四部叢刊本·廣記·胡校本刪之。御覽七四三引「則」作「即」。(一三)○大典引至此為止。(一四)○御覽九四八引無「與」。(一五)○鈎沈「有」下有「患」、但諸書引皆無、或鈎沈以意補歟。今暫存此。(一六)○御覽九四八引無「謨」。自「問主人」以下至此、凡二十三字廣記引無。

79 晉建武中、剡縣憑法作賈^(一)、夕宿荻塘、見一女子、著縷服、白皙、形狀短小、求寄載。明旦、船欲發、云、「暫上取行資。」既去、法失絹一匹、女抱二束芻置船中。如此十上、失十絹。法疑非人、乃縛兩足、女云、「君絹在前草中。」化形作大白鷺、烹食之、肉不甚美^(二)。

校記 廣記四百六十二。○胡校本 149。鄭氏三一 102。

(一)○「作」鈎沈依廣記黃刻本引作「侔」、今依改。(二)○胡校本「不」作「味」。

80 晉司空郗方回葬婦於離山邊^(一)，使會稽郡吏史澤治墓，多平夷古墳^(二)，後壞一冢^(三)，構制甚偉，器物殊盛^(四)。冢發，內聞鼓角聲^(五)，時郗公自來觀墓，俄而罕然^(六)，角聲自是多如此^(七)。

校記 書鈔一百二十一。御覽三百三十八。○*淵鑑二八角。胡校本10。鄭氏四—148。事見異苑七。

(一)○「邊」今依書鈔補。胡校本「離」作「禹」。(二)「使會稽郡吏史澤治墓多」以上九字據御覽引補。○鈞沈脫「平夷古墳」四字，今依補。胡校本「古」作「生」。(三)○胡校本此句作「復□處」。(四)二字依御覽引補。(五)○御覽引無「內」。(六)○御覽引無以上十一字。(七)○「角聲」二字，今依御覽引補。胡校本「多」作「每」。

81 晉南頓王平新營一宅，始移，夢見一人云，『平與令黃欲以一器金賂暴勝之^(一)，為暴所戮，埋金在吾上，見鎮在甚，若君復築室，無復出入金^(二)。』平明旦即鑿壁下^(三)，入五尺果得金。

校記 御覽八百十一。○鄭氏四—162。

(一)○「黃」鈞沈作「王」，今依御覽引改。(二)○御覽四部叢刊本引作「無復□入金」，今依改「涯」為作「金」。(三)○「平」四部叢刊本引作空闕一格。

82 巴丘縣有巫師舒禮^(一)，晉永昌元年病死^(二)，土地神將送詣太山。俗人謂巫師為道人^(三)，路過冥司福舍前^(四)，土地神問吏，『此是何等舍。』吏曰，『道人舍^(五)。』土地神曰，『是人亦是道人^(六)，便以相付。』禮入門，見數千間瓦屋^(七)，皆懸竹簾^(八)，自然牀榻^(九)，男女異處，有誦經者，唄偈者^(一〇)，自然飲食者^(一一)，快樂不可言。禮文書名已到太山門^(一二)，而身不至^(一三)，推問土地神^(一四)，神云^(一五)，『道見數千見瓦屋，即問吏，言是道人^(一六)，即以付之。』

『於是遣神更錄取^(二七)、禮觀未徧、見有一人^(二九)、八手四眼、提金杵^(三〇)、逐欲撞之^(三一)、便怖走還出門^(三二)、神已在門迎^(三三)、捉送太山^(三四)。太山府君問禮、『卿在世間、皆何所為^(三五)。』禮曰、『事三萬六千神^(三六)、為人解除祠祀、或殺牛犢猪羊雞鴨。』府君曰、『汝佞神殺生、其罪應上熱熬^(三七)。』使吏牽著熬所^(三九)、所見一物^(四〇)、牛頭人身、捉鐵叉^(四一)、又禮著熬上宛轉^(四二)、身體焦爛^(四三)、求死不得^(四四)。已經一宿二日^(四五)、備極冤楚^(四六)。府君問主者、『禮壽命應盡。為頓奪其命。』校祿籍^(四七)、餘算八年。府君曰、『錄來^(四八)。』牛首人復以鐵叉叉著熬邊^(四九)。府君曰、『今遣卿歸^(五〇)、終畢餘算^(五一)。勿復殺生淫祀^(五二)。』禮忽還活^(五三)、遂不復作巫師^(五四)。

校記 珠林六十二(百二十卷本七八)。御覽七百三十五。廣記二百八十三。○鈎沈本作「御覽三百七十五」、七三年版全集正作「七百三十五」。胡校本 61。古今圖書集成神異典二三。鄭氏五— 233。按本條當在次條之後。

(一)○珠林引文頭有「晉」。(二)○胡校本此句之下有「復活云、死時」五字。(三)○廣記引「人」作「常」。珠林大正藏本引「道人」作「道路人」、誤。御覽引句末有「也」。(四)(冥司)二字廣記引有。○御覽四部叢刊本·胡校本作「人過禮舍門前」、鮑氏刊本引「人」作「吏」、廣記引「路」作「初」。(五)○廣記引句末有「也」。(六)○「亦」下之「是」、今依珠林·御覽引補。胡校本亦同。廣記引作「舒禮即道人」。(七)○御覽四部叢刊本引作「見□間瓦□」。鮑氏刊本引「瓦屋」作「戶」。胡校本作「數千屋」。(八)○廣記引無「竹」。(九)○御覽(鮑氏刊本)引作「坐無」。(「自然」)廣記作「置」。○四部叢刊本引作「自然」、廣記引無「牀」。(一〇)○御覽引作「唱偈者」、廣記引作「唄唱者」。(一一)○御覽引無「自」者」。(一二)○御覽引「到」作「至」。廣記引作「禮名已(黃刻本作「以」)送太山」。(一三)○御覽引作「而又身不到」、珠林引作「而又身不至到」、胡校本引作「而身又不到」、鈎沈依廣記引。(一四)○珠林引無「問」、御覽引作「入」、胡校本「推問」作「惟入」。或鈎沈以意改歟。(一五)○御覽引無「神」、胡校本同。(一六)○御覽四部叢刊本引「是」作「女」、訛誤。鮑氏刊本·胡校本並引「是」。(一七)○御覽·胡校本「更」作「即」。(一八)○自「推問」以下至此、

凡三十六字廣記引無。(一九)○廣記引作「忽見一人」。(二〇)○珠林·御覽·胡校本均「捉」作「捉」、鈎沈從廣記引。(二一)○御覽引「遂」作「遂」、胡校本同。廣記引此句作「遂禮」二字。(二二)○珠林引「怖」作「怖」。廣記引此句作「禮怖走出」。(二三)○廣記引「迎」作「外」。(二四)○廣記引作「遂執禮送太山」。胡校本無「送太山」。(二五)○御覽引「皆」作「昔」、廣記引無。(二六)○御覽四部叢刊本引「三」作「一」。(二七)○廣記引無此句八字。(二八)「佞神殺生其」五字依廣記引補。○廣記引「上應熬」作「重」。(二九)○御覽引無「使吏」、而作「便」。廣記引作「付吏牽去」。(三〇)○廣記引句頭有「禮」。(三一)○廣記引「捉」作「持」。(三二)廣記引作「捉禮」投鐵牀上。「而無「宛轉」二字」。(三三)○胡校本作「宛轉身體、身體焦爛」。(三四)○御覽引「得」作「死」。(三五)○御覽引無「已經」。廣記引此句作「累經宿」。(三六)廣記引有此句。(三七)○「祿」鈎沈稿本先作「錄」、但抹消後作「祿」、諸書引皆作「錄」。(三八)○御覽四部叢刊本引此二句作「乃命將錄來」、但鮑氏刊本引「來」作「求」。(三九)○御覽引「牛首人」作「牛頭」。(四〇)○御覽鮑氏刊本「今」作「命」、胡校本作「令」。(四一)○自「禮壽命」以至此、凡四十四字、廣記引作「知禮壽未盡、命放歸、仍誡曰」。(四二)○御覽四部叢刊本引「復」作「後」。又御覽引「祀」作「祠」。(四三)○御覽·胡校本「忽」作「乃」、廣記引「忽還」作「既」。(四四)○御覽·廣記·胡校本無「遂」。御覽·胡校本「作」作「為」。

83 晉太寧元年^(一)、餘杭人姓王失其名、往上舍、過廟乞福、既去亡履^(二)、已行五六里、嬾復更反取^(三)、一持履後至^(四)、云、「宮使還君^(五)。」化為鵠、飛入田中。

校記 御覽六百九十七。○淵鑑三七五履。胡校本22。鄭氏五—200。

(一)○胡校本「太寧」作「太康」。(二)疑有脫誤。○鈎沈稿本無此注、此系三十八年版全集標點者所附也。「亡

履」二字、今依四部叢刊本補、鮑氏刊本脫之。(三)○胡校本此句作「忘履未及取」。(四)○胡校本此句上有「一白衣人」四字。(五)○「宮」鈎沈稿本·排印本·胡校本皆作「官」、御覽四部叢刊本·鮑氏刊本均作「宮」、今從御覽。

84 晉太興二年^(一)、吳民華隆好獵^(二)、養一快犬^(三)、號曰的尾^(四)、常將自隨^(五)。隆後至江邊伐荻、犬暫出渚次^(六)、隆為大蛇所圍繞周身^(七)、犬還、便咋蛇、蛇死^(八)。隆僵仆無所知^(九)、犬彷彿涕泣^(一〇)、走還舡^(一一)、復反草中^(一二)。其伴怪所以^(一三)、隨往見隆悶絕委地^(一四)、將歸家^(一五)。二日、犬為不食、隆復蘇乃始進飯^(一六)。隆愈愛惜^(一七)、同於親戚^(一八)。後忽失之、二年尋求、見在顯山^(一九)。

校記 御覽九百五。廣記四百三十七。○淵鑑四三六狗。胡校本158。鄭氏三—76。事見搜神記二〇—458。按本條當在第82之前。

(一)○廣記引「太」作「泰」。(二)○「民」鈎沈排印本誤作「氏」、鈎沈稿本·御覽引均作「民」、廣記引作「人」、今依御覽引改。「好」御覽四部叢刊本引作「生」。廣記·胡校本「獵」上有「弋」。(三)○廣記·胡校本作「畜一犬」。(四)○「號」鈎沈稿本·排印本作「名」、今依御覽·廣記引改、胡校本亦同。(五)○廣記·胡校本「常」作「每」。(六)○廣記·胡校本均無自「伐荻」以下七字。(七)○廣記·胡校本均無「隆」所、「為」上有「被」、「大」上有「一」。(八)○以上七字、廣記·胡校本作「犬遂咋蛇死焉」。(九)○廣記引「隆」上有「而華」、「知」下有「矣」、胡校本無「華」、餘同。(一〇)廣記引作「彷徨嗥吠」。○胡校本「彷彿」作「傍」、餘與廣記引同。(一一)○廣記·胡校本無此句三字。(一二)○廣記·胡校本作「往復路間」。(一三)「其伴」廣記引作「家人」○廣記·胡校本作「家人怪其如此」。鈎沈作「其伴怪其所以」、御覽四部叢刊本無上「其」、而御覽兩本引無下「其」。今依御覽引刪下「其」。(一四)「委地」二字廣記引有。○廣記·胡校本「隨往」作「因

隨犬往」，而無「見」。廣記鈔宋本「見隆」作「□隆□」。(一五)○廣記·胡校本「將」作「載」。(一六)○廣記·胡校本「犬為不食」以下至此，凡十一字作「乃蘇、隆未蘇之間，犬終不食」。(一七)○廣記·胡校本「隆愈」作「自此」。(一八)○廣記·胡校本句末有「焉」。廣記引「同」上有「如」。(一九)○「後忽」以下，廣記·胡校本無。

85 晉咸和初、徐精遠行、夢與妻寢、有身。當為巫師、死作社公^(一)。明年歸^(二)、妻果產、男後如其言矣。

校記 廣記二百七十六。○永樂大典一三二三五。天中記二三。胡校本142。鄭氏一—28。

(一)○以上二句八字、今依鈔宋本·大典·胡校本補、但鈔宋本「作」作「所」、從大典·胡校本。(二)○胡校本無「歸」。(三)○「男」今依大典引補。

86 牽騰以咸和三年為沛郡太守、出行不節、夢烏衣人告云、『何數出不輟^(一)。唯當斷馬足。』騰後出行、馬足自斷。騰近行廓外^(二)、忽然而聞^(三)、有一人、長丈餘、玄冠白衣、遙叱將車人使避之。俄而長人至^(四)、以馬鞭擊御者、即倒。既明、從人視車空、覓騰所在^(五)、行六七十步、見在榛莽中、隱几而坐、云了不自知。騰後五十日被誅^(六)。

校記 廣記三百二十一。○鄭氏二—61。

(一)○廣記鈔宋本「何」作「焉」。(二)○「近行」鈞沈作「行近」、廣記汪校本·黃刻本皆作「近行」、今依改。(三)○汪氏校語云、「廓外忽」三字原空闕、據黃本補。(四)○汪氏校語云、「避之俄而」四字原空闕、據黃本補。(五)○汪氏校語云、「覓騰所」三字原空闕、據黃本補。(六)○「後」廣記兩本並無、未知鈞沈何據、今暫存之。

87 晉咸康中、豫州刺史毛寶戍邾城。有一軍人於武昌市買得一白龜、長四五寸、置甕中養之、漸大、放江中。後邾城遭石氏敗、赴江者莫不沈溺。所養人被甲入水中、覺如墮一石上、須臾視之、乃是先放白龜。既得至岸、迴顧而去。

校記 廣記一百十八。○天中記五七。鄭氏三一85。事又見續搜神記一〇—117。天中記案語云、本傳邾城之役、寶亦溺死、庾亮痛哭、發疾遂薨。其軍人放龜事亦附傳末。白氏六帖引搜神記、直以為寶事、而後之合璧·記纂·對類等書、俱承誤不改、爾雅翼復以毛寶過江白龜載之而度為異何耶。

88 庾崇者、建元中於江州溺死、爾日即還家見形、一如平生^(一)、多在妻樂氏室中^(二)。妻初恐懼、每呼諸從女作伴。於是鬼來漸疏^(三)、時或暫來、輒恚罵云^(四)、『貪與生者接耳、反致疑惡、豈副我歸意耶。』從女在內紡績、忽見紡績之具在空中^(五)、有物撥亂^(六)、或投之於地、從女怖懼皆去。鬼即常見。有一男、纔三歲、就母求食、母曰、『無錢、食那可得。』鬼乃悽愴、撫其兒頭曰^(七)、『我不幸早世、令汝窮乏、愧汝念汝、情何極也^(八)。』忽見將二百錢置妻前、云可為兒買食。如此經年、妻轉貧苦不立。鬼云、『卿既守節、而貧苦若此^(九)、直當相迎耳。』未幾、妻得疾亡、鬼乃寂然。

校記 廣記三百二十二。○胡校本133。鄭氏四—170。

(一)○胡校本無「一」。 (二)○胡校本「樂」作「皋」。 (三)○「鬼來」鈎沈依廣記作「作伴」、今依胡校本改。 (四)○胡校本「恚」作「忿」。 (五)○鈔宋本·胡校本此句均作「之具遂見空中」。 (六)○胡校本無「有物」。 (七)○鈔宋本·胡校本「撫」作「循」。 (八)○胡校本「也」作「已」。 (九)○鈔宋本無「苦」。

89 石勒問佛圖澄、『劉曜可擒、兆可見不^(一)。』澄令童子齋七日、取麻油掌中研之、燎旃檀而呪。有頃、舉手向童子、掌內粲然有異^(二)。澄問、『有所見不。』曰、『唯見一軍人、長大白皙、有異望^(三)、以朱絲縛其肘^(四)。』澄曰、

『此即曜也。』其年果生擒曜。

校記 御覽三百七十。○淵鑑二六一手。胡校本 23。鄭氏五—236。事見晉書九五佛圖澄傳。

(一)○胡校本「不」作「否」、下同。(二)○「絜」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「晃」、胡校本亦同、今依四部叢刊本改。(三)○御覽四部叢刊本「有異望」作空闕三格。(四)○「絲」今依御覽四部叢刊本補。

90 石虎時、太武殿圖賢人之像^(一)、頭忽悉縮入肩中^(二)。

校記 御覽八百八十五。○胡校本 35。鄭氏二—58。事見宋書五行志。

(一)○胡校本「武」作「極」。(二)○胡校本無「忽悉」。

91 新城縣民陳緒家、晉永和中、旦聞扣門、自通云陳都尉、便有車馬聲、不見形、逕進呼主人共語曰、『我應來此、當權住君家、相為致福。』令緒施設牀帳於齋中。或人詣之、齋持酒禮求願、所言皆驗。每進酒食、令人跪拜授闌裏、不得開視。復有一人、疑是狐狸之類、因跪急把取、此物卻還牀後、大怒曰、『何敢嫌試都尉^(三)。』此人心痛欲死、主人為扣頭謝^(四)、良久意解。自後衆不敢犯、而緒舉家無恙、每事益利、此外無多損益也。

校記 廣記二百九十四。○胡校本 118。鄭氏三—119。參看甄異錄(鈎沈 19)

(一)○「齋」鈎沈依廣記黃刻本作「齋」、汪校本亦同、今依鈔宋本改。(二)○「人」鈎沈作「身」、今依鈔宋本、胡校本改。(三)○鈔宋本「試」作「戲」。(四)○「扣」胡校本作「叩」、鈔宋本無「謝」。

92 晉昇平元年、剡縣陳素家富、娶婦十年、無兒、夫欲娶妾、婦禱祠神明、忽然有身。鄰家小人婦亦同有、因貨鄰婦云、『我生若男、天願也。若是女、汝是男者、當交易之。』便共將許、鄰人生男、此婦後三日生女、便交取之。素

忻喜、養至十三、當祠祀、家有老婢、素見鬼、云『見府君家先人來至門首^(二)、便住。但見一群小人來座所、食噉此祭。』父甚疑怪、便迎見鬼人至、祠時轉令看、言語皆同。素使人問婦、婦懼具說言此事。還男本家、喚女歸。

校記 廣記三百十九。○胡校本 103。鄭氏四—136、注云、御覽卷八百八十三引『風俗通』亦載同類事、唯事主為汝南周翁仲。

(一)○鈎沈作「見府君先人來至門首」、今依廣記·胡校本補。

93 晉升平末、故章縣老公有一女、居深山、餘杭□廣求為婦^(一)、不許。公後病死、女上縣買棺、行半道、逢廣、女具道情事^(二)。女因曰、『窮逼、君若能往家守父屍、須吾還者^(三)、便為君妻。』廣許之。女曰、『我欄中有猪、可為殺以飴作兒^(四)。』廣至女家、但聞屋中有拚掌欣舞之聲^(五)。廣披籬^(六)、見眾鬼在堂、共捧弄公尸。廣把杖大呼入門^(七)、群鬼盡走。廣守尸、取猪殺。至夜、見尸邊有老鬼、伸手乞肉、廣因捉其臂、鬼不復得去^(八)、持之愈堅^(九)。但聞戶外有諸鬼共呼云、『老奴貪食至此^(一〇)、甚快。』廣語老鬼、『殺公者必是汝、可速還精神、我當放汝。汝若不還者、終不置也。』老鬼曰、『我兒等殺公耳^(一一)。』即喚鬼子、『可還之。』公漸活、因放老鬼。女載棺至、相見驚悲、因取女為婦^(一二)。

校記 廣記三百八十三。○鈎沈作「三百七十三」、七三年版全集已正之。胡校本 128。鄭氏一—8。

(一)○鈎沈「廣」上補一□。廣記標題云、「餘杭廣」、本闕姓。鈔宋本「婦」作「婿」。 (二)○汪氏校語云、明鈔本「女具」作「與女」。 (三)○胡校本無「者」。 (四)○胡校本無「為」。 (五)○鈔宋本「舞」作「鼻」。 (六)○鈔宋本·胡校本「籬」作「籬」。今依鈔宋本。 (七)○「呼」鈔宋本作「喚」、胡校本作「噪」。 (八)○「復」鈎沈作「得」、今依廣記改。 (九)○「愈」鈔宋本·胡校本並作「逾」。 (一〇)○「此」胡校本作「死」。 (一一)○「耳」鈎沈依黃刻本作「比」、今依汪校本·胡校本改。 (一二)○胡校本「取」作「娶」。

94 苻堅時、有射師、經高山、望見松樹上有一雙白鳥^(一)、似鵠而大。至樹下、又見一蛇、長五丈許、上樹取鳥^(二)。未至鳥一丈^(三)、鳥便欲飛^(四)、蛇張口翕之^(五)、鳥不得去^(六)。繽紛一食頃^(七)、鳥轉欲困^(八)、射師發弩射三矢^(九)、蛇隕而鳥得颺^(一〇)、去樹百餘步、山邊整理羽毛^(一一)。須臾雲晦雷發^(一二)、驚耳駭目^(一三)、射師懼不得旋踵^(一四)。見向鳥徘徊其上^(一五)、毛落紛紛、似如相援。如此數陣^(一六)、雷息電滅^(一七)、射師得免^(一八)、鳥亦高飛^(一九)。

校記 御覽四百七十九・又九百十四。○淵鑑三二一報德。古今圖書集成禽蟲典四。胡校本 59。鄭氏三一 88。

(一)○「樹」鈎沈依鮑氏刊本作「柏」、御覽四七九引無、今依御覽九一四四部叢刊本引改。胡校本無「上」。(二)○御覽九一四引「上樹」作「樹上」。(三)○御覽四七九引無此句。(四)○御覽四七九引無「便」。(五)一(鮑氏刊本九一四)引「翕」作「飲」。○又九一四四部叢刊本引作「歛」。(六)○御覽四七九引無「得」。(七)○御覽四七九引「食」作「飡」。(八)○御覽四七九引無此句。(九)一(九一四)引「穀」作「引」。○胡校本亦作「引」。御覽四七九四部叢刊本引作「穀」闕「受」。(一〇)○御覽四七九引此句作「蛇落鳥得去」。(一一)○御覽九一四引無「樹百餘步山邊整理羽毛」十字。胡校本「樹」作「於」。(一二)○御覽四七九引無「晦」。(一三)○御覽四七九引無此句。(一四)○御覽九一四引無此句七字。(一五)○御覽九一四引「見」作「而」。胡校本亦同、而無「向」。(一六)○御覽九一四引無以上二句八字。胡校本無上「如」。(一七)○鮑氏刊本四七九引「雷」作「雲」。胡校本作「雲電息滅」。(一八)○御覽九一四引無此句。(一九)○胡校本句頭有「已而」二字。

95 晉司空桓豁在荊州^(一)、有參軍翦五月五日鸚鵡舌^(二)、教令學語^(三)、遂無所不名^(四)、與人相問顧^(五)。參軍善彈琵琶^(六)、鸚鵡每立聽移時^(七)。又善能效人語笑聲^(八)。司空大會吏佐、令悉效四坐語、無不絕似。有生鸚鵡鼻^(九)、語難學、

學之不似、因內頭於瓮中以效焉^(二〇)、遂於鸚鵡者語聲不異^(二一)。主典人於鸚鵡前盜物、參軍如廁、鸚鵡伺無人、密白主典人盜某物、將軍銜之而未發^(二二)。後盜牛肉^(二三)、鸚鵡復白、參軍曰、『汝云盜肉、應有驗。』鸚鵡曰、『以新荷裹著屏風後^(二四)。』檢之、果獲、痛加治^(二五)、而盜者患之^(二六)、以熱湯灌殺。參軍為之悲傷累日、遂請殺此人、以報其怨^(二七)。司空教曰^(二八)、『原殺鸚鵡之痛、誠合治殺^(二九)、不可以禽鳥故、極之於法。』令止五歲刑也。

校記 御覽九百二十三・*又五百八十三・*七百四十・*廣記四百六十二。北戶錄注一・*六帖四十五・*類聚四十四。○*白帖二九。事文類聚*前集九・又後集四三。歲時廣記二三。群書類編故事二四。天中記五九・又*四三。琅琊代醉編三八。淵鑑四二八鸚鵡・又*一八九琵琶。胡校本83。鄭氏三一77。事又見異苑三・渚宮舊事五。(一)○御覽四部叢刊本脫「州」。白帖・六帖均無「晉司空桓豁在」六字。(二)○鈎沈稿本・排印本「參軍」誤作「司空」、七三年版全集已正之。白帖・六帖・御覽五八三引「剪」字在「五月五日」之下。類聚・北戶錄注・廣記鈔宋本「鸚」皆作「鵲」。(三)○白帖・六帖引作「教學人語」。(四)○御覽五八三引「名」作「鳴」。(五)四字類聚引有。○御覽五八三引亦有。類聚引「問」作「闕」。鈎沈此注在「問」字之下、今改句讀而置在「顧」下。(六)○白帖・六帖引無「善」。(七)已上亦見六帖四十五・類聚四十四・御覽五百八十三。○類聚引無「立」。北戶錄注引無以上四字凡二十三字、胡校本同。(八)○御覽九二三鮑氏刊本引「又」作「有」、鈎沈或以意改歟、四部叢刊本作「又」、事文類聚引亦同。北戶錄注引作「遂」、胡校本亦同。御覽九二三引無「笑」。(九)(生)廣記引作「參佐」。○北戶錄注引作「一佐」。胡校本同。(一〇)已上御覽七百四十亦引。(一一)○北戶錄注・胡校本無「與鸚鵡者語聲」、而句末有「也」。(一二)○御覽四部叢刊本「某物將軍」四字作「如千種一二條列」、應有訛奪。胡校本作「于種一二條列」。鮑氏刊本・事文類聚引作「某物將軍」、按「將」當作「參」。北戶錄注引無自「主典人」以下至此、凡三十三字。(一三)○北戶錄注引「後」下有「主典人」三字。(一四)○胡校本「後」作「於」、誤。(一五)○北戶錄注引無此句三字。(一六)○胡校本「患之」作「怨患」。(一七)○北戶錄

注引無此句四字。(一八)○「言」鈎沈依鮑氏刊本作「教」、今依四部叢刊本改。北戶錄注引無「言」或「教」。(一九)○北戶錄注引無以上二句十字。事文類聚後集·群書類編故事·天中記等引「治殺」皆作「論殺」。胡校本「殺」作「然」、而屬於下句。

96 桓沖鎮江陵、正會夕當烹牛、牛忽熟視帳下都督甚久、目中泣下。都督呪之曰、「汝若能向我跪者、當啟活也。」牛應聲而拜、衆甚異之。都督復謂曰、「汝若須活(一)、遍拜衆人者直往(二)。」牛涕殞如雨、遂拜不止。值沖醉、不得啟、遂殺牛。沖醉止、得啟、沖聞之嘆息、都督痛加鞭罰。

校記 御覽九百。○胡校本31。鄭氏三—91。事又見渚宮故事五(廣記四三四亦引)。

(一)○胡校本無「須活」二字。(二)○「直」鈎沈依鮑氏刊本作「眞」、胡校本亦同、今依四部叢刊本改。

97 晉桓豹奴為江州時、有甘錄事者(一)。家在臨川郡治下、兒年十三(二)、遇病死、埋著家東群塚之間。旬日、忽聞東路有打鼓倡樂聲。可百許人、徑到甘家、問、「錄事在否(三)」。故來相詣、賢子亦在此。』止聞人聲、亦不見其形也。乃出數甕酒與之、俄頃失去、兩甕皆空。始聞有鼓聲、臨川太守謂是人戲、必來詣己、既而寂爾不到。聞甘說之(四)、大驚。

校記 廣記三百十九。○胡校本102。鄭氏四—145。

(一)○汪校本作「著」、鈎沈依黃刻本·鈔宋本亦作「者」。(二)○胡校本作「三十」。(三)○胡校本「否」作「不」。(四)○鈎沈脫「聞」、今依補。胡校本引有。胡校本「甘」作「爾」。

98 王輔嗣注易(一)、輒笑鄭玄為儒(二)、云、「老奴甚無意(三)」。於時夜分(四)、忽然聞外閤有著屐聲(五)。須臾便進(六)、

自云鄭玄^(七)、責之曰、『君年少、何以輕穿文鑿句^(八)、而妄譏誚老子耶^(九)。』極有忿色^(一〇)、言竟便退。輔嗣心生畏惡^(一一)、經少時、遇厲疾而卒也^(一二)。

校記 類聚七十九。御覽八百八十三。廣記三百十七。續談助四(殷芸小說(鈎沈96))。○天地瑞祥志一四。類說一一。淵鑑三三○神。胡校本79。鄭氏四——156。

(一)○天地瑞祥志引「注」作「讀」。(二)○續談助引無「輒」。(三)○類聚·瑞祥志·御覽·廣記引均無「甚」、胡校本亦同。續談助引有。(四)○類聚引「於」作「王」。(五)○鈎沈「聞」下有「門」字、疑衍、今刪。瑞祥志·御覽·廣記·續談助·胡校本均無「然」。瑞祥志·胡校本「閣」作「閤」。瑞祥志引「著履聲」作「音」。(六)○天地瑞祥志·廣記引「須臾」下有「便」、今依補。續談助引「進」作「即入」。(七)○御覽引「自」誤作「白」。續談助引「云」下有「是」。(八)○此句天地瑞祥志引作「何輕穿數鑿文句」、疑「數」衍。御覽引·胡校本作「何以輒穿鑿文句」、廣記·續談助引作「何以穿鑿文句」。(九)○天地瑞祥志引只作「妄譏」二字。廣記引「誚」作「詆」。胡校本「譏誚」作「說詆」。御覽·廣記引「耶」作「也」、續談助·胡校本無。(一〇)○續談助引「忿」作「怒」。廣記鈔宋本引無「有」。(一一)○「嗣」今依瑞祥志補。續談助引句頭有「而」。廣記引作「弼惡之」三字。胡校本「畏」作「異」。(一二)○類聚引作「少年遇厲疾而卒」、廣記引作「後遇癘而卒」、續談助引作「經少時、乃暴疾而卒」、胡校本作「少時遇病而卒」、御覽引「疾」作「病」。鈎沈脫「而」、今依諸書補。瑞祥志引句末有「也」。

99 謝安石當桓溫之世、恆懼不全^(一)、夜忽夢乘桓輿^(二)、行十六里、見一白鷄而止、不得復前^(三)、莫有解此夢者^(四)。及溫死後^(五)、果代居宰相^(六)、歷十六年、而得疾^(七)。安方悟云、『乘桓輿者、代居其位也^(八)。十六里者、得十六年也^(九)。見白雞住者^(一〇)、今太歲在酉^(一一)、吾病殆將不起乎^(一二)。』少日而卒。

校記 御覽三百九十八·又七百七十四。書鈔一百四十。○天中記二三。胡校本 39。鄭氏二—49。事亦見晉書七九謝安傳。

(一)○書鈔引無以上二句、止作「謝安」。(二)○書鈔引無「忽」、而「桓」下有「溫」。御覽七七四引作「輿」、三九八四部叢刊本作「輦」、鮑氏刊本作「輦」、胡校本作「車」。(三)○御覽七七四引無此句四字。(四)○書鈔引無自「不得」以下至此二句十字。御覽三九八引無「者」。(五)○「及」今依御覽兩引補、胡校本亦有。御覽三九八引「死」作「亡」。胡校本無「死」。書鈔引此句止作「後」一字。(六)○書鈔引「果」作「累」、御覽七七四引無。書鈔引「居」作「為」。(七)○書鈔引無「而得疾安」四字。御覽七七四部叢刊本引「疾」作「病」。胡校本無「而」。(八)○御覽三九八引無以上二句九字。又七七四部叢刊本引「居」作「君」。(九)○御覽三九八·胡校本無「得」也」。書鈔引無自「云、乘桓輿者」以下至此、凡十九字。(一〇)○御覽三九八·胡校本無「白」。御覽七七四部叢刊本引「住」誤作「生」。(一一)○書鈔引無「今」。(一二)○書鈔引此句作「卒也」二字、書鈔引省略多。御覽七七四引無「將」。御覽三九八引無「乎」。

100 陳相子^(一)、吳興烏程人、始見佛家經、遂學昇霞之術^(二)。及在人間齋^(三)、輒聞空中殊音妙香、芬芳清越。齋竟而絕^(四)。

校記 珠林三十六(百二十卷本四九)○義楚六帖六。鄭氏五—227。

(一)○義楚六帖引句頭有「有」。(二)○義楚六帖引無以上二句十一字。(三)○義楚六帖引此句作「祈福設齋日」。(四)○此句今依義楚六帖引補。六帖有後文云、「志感也」、或當是義楚按語也。

101 安開者^(一)、安城之俗巫也^(二)、善於幻術、每至祠神時、擊鼓宰三牲、積薪然火盛熾、束帶入火中、章紙繞盡^(三)、

而開形體衣服猶如初^(四)。時王凝之為江州^(五)、伺王當行^(六)、陽為王刷頭^(七)、簪荷葉以為帽、與王著^(八)。當時亦不覺帽之有異^(九)、到坐之後^(一〇)、荷葉乃見、舉坐驚駭^(一一)、王不知^(一二)。

校記 珠林六十一(百二十卷本七六)。御覽六百八十七·又七百三十七。○天中記四七。胡校本20。鄭氏五—219。

(一)○御覽七三七引無此三字。珠林引無「者」。

(二)○御覽七三七引「之」下有「人」。又六八七引「巫」作「師」。

(三)○御覽鮑氏刊本「章」作「竟」。

(四)○自「每至」以下至此、凡六句三十四字、御覽六八七引無。胡校本亦無。

(五)○珠林引「凝」作「疑」、訛。御覽七三七引「州伺」二字作「祠」。

(六)○御覽六八七·胡校本「伺」作「向」。御覽七三七引「當」下有「酒」。

(七)○御覽七三七引無「陽」。

(八)○御覽七三七引無「著」。

(九)○「時」鈎沈作「是」、今依御覽六八七·胡校本改。御覽七三七引「當時亦」作「亦當」、而無「帽之」二字。珠林引無「與王著、當時亦不覺帽」九字、當有脫文。

(一〇)○胡校本「到」作「列」。

(一一)○御覽七三七引「舉」作「一」。

(一二)○珠林·御覽七三七引無此句。胡校本此句作「王乃知之」。

102 晉左軍琅邪王凝之夫人謝氏、頓亡二男、痛惜過甚、銜淚六年。後忽見二兒俱還、並著械、慰其母曰、『可自割^(一)、兒並有罪謫、宜為作福。』於是得止哀、而勤為求請。

校記 廣記三百二十。○胡校本108。鄭氏五—231。事亦見晉錄(辯正論七注)、冥祥記(鈎沈38)及異苑六。

(一)○「割」鈎沈作空闕一格、今依補。

103 晉世王彪之^(一)、年少未官^(二)、常獨坐齋中^(三)、前有竹、忽聞有歎聲、彪之惕然、怪似其母、因往看之、見母衣服如昔^(四)。彪之跪拜獻歎、母曰、『汝方有奇厄、自今已去、當日見一白狗^(五)。若能東行出千里、三年、然後可得免災

(六)。』忽不復見。彪之悲悵達旦。既明、獨見一白狗、恆隨行止、便經營行裝、將往會稽。及出千里外、所見便蕭然都

而開形體衣服猶如初^(四)。時王凝之為江州^(五)、伺王當行^(六)、陽為王刷頭^(七)、簪荷葉以為帽、與王著^(八)。當時亦不覺帽之有異^(九)、到坐之後^(一〇)、荷葉乃見、舉坐驚駭^(一一)、王不知^(一二)。

盡^(七)。過三年乃歸^(八)、齋中復聞前聲^(九)、往見母如先、謂曰、『能用吾言^(一〇)、故來慶汝。汝自今已後、年踰八十、位班台司。』後皆如母言^(一一)。

校記 御覽八百八十三。廣記三百二十。○胡校本 81。鄭氏四—142。

(一)○廣記引無「世」。(二)○胡校本「官」作「冠」。(三)○御覽·胡校本無「中」。(四)○胡校本「昔」作「生」。(五)○御覽引無「日」、胡校本亦同。(六)○廣記引無「可」。胡校本「災」作「矣」。(七)廣記引有此句。(八)○御覽引無「過」。(九)○廣記引此句作「復還先齋住、忽聞前聲」。(一〇)○廣記引作「從吾」、鈔宋本作「從故吾來慶汝」。(一一)○廣記引無「後」。

104

晉海西公時、有一人母終、家貧無以葬。因移柩深山、於其側志孝結墳^(一)、晝夜不休。將暮有一婦人抱兒來寄宿、轉夜、孝子作未竟^(二)、婦人每求眠、而於火邊睡、乃是一狸抱一烏雞。孝子因打殺、擲後坑中。明日、有男子來問、『細小昨行、遇夜寄宿^(三)、今為何在。』孝子云、『止有一狸、即已殺之。』男子曰、『君枉殺吾婦、何得言狸。狸今何在。』因共至坑視、狸已成婦人、死在坑中。男子因縛孝子付官、應償死。孝子乃謂令曰^(四)、『此實妖魅、但出獵犬、則可知魅、復來催殺孝^(五)。』令因問獵事、『能別犬不^(六)。』答云、『性畏犬、亦不別也。』因放犬、便化為老狸、則射殺^(七)、視之婦人已還成狸^(八)。

校記 珠林三十一「百二十卷本四二」。○珠林大正藏本未著出處。四部叢刊本注云、「右此三驗出幽明錄」。鄭氏三—120。

(一)○珠林大正藏本「志孝結墳」作「作履」。(二)○鈞沈「作未竟」作「未作竟」、今依諸本改。(三)○珠林大正藏本「遇夜」作「以」。(四)○大正藏本無「孝子」。(五)○百二十卷本無此句、今依大正藏本補。(六)○鈞沈「不」作「否」、今依改。(七)○大正藏本「殺」下有「之」。(八)○大正藏本無「視之」。

105 桓溫北征姚襄、在伊水上、許遜曰、『不見得襄、而有大功。見襄走入太玄中。』問曰、『太玄是何等也。』答曰、『南為丹野、北為太玄、必西北走也。』果如其言^(一)。

校記 類聚六。○天中記一六。淵鑑三三野。鄭氏五——201。

(一)○類聚中華書局本無「其」、天中記亦無、淵鑑引有。

106 桓大司馬鎮赭圻時、有何參軍晨出行於田野中、溺死人髑髏上。還晝寢^(一)、夢一婦人語云、『君是佳人^(二)、何以見穢污、暮當令知之。』是時有暴虎、人無敢行夜出者^(三)、何常穴壁作溺穴。其夜趨穴欲溺、虎忽嚙斷陰莖即死^(四)。

校記 御覽八百九十二。○胡校本49。鄭氏五——238。

(一)○四部叢刊本「晝」下有「空闕」一格。(二)○胡校本無「是」。(三)○胡校本「夜」上有「及」。(四)

○「忽嚙」鈎沈作「怒溺」、今依四部叢刊本改、鮑氏刊本「忽」作「怒」、胡校本作「來嚙」。

107 桓溫內懷無君之心、時比丘尼從遠來。夏五月、尼在別室浴、溫竊窺之。見尼裸身先以刀自破腹、出五藏、次斷兩足、及斬頭手。有頃浴竟、溫問、『向窺見尼、何得自殘毀如此。』尼云、『公作天子、亦當如是。』溫惆悵不悅。

校記 御覽三百九十五。○鄭氏五——214。事又見搜神後記二——16、冥祥記(鈎沈29)、晉書九八桓溫傳、建康實錄

九、三寶感通錄下。

108 陳郡袁真在豫州、送妓女阿薛阿郭阿馬三人與桓宣武^(一)。至經時、三人共出庭前觀望、見一流星、直墮盆水中^(二)。薛郭二人更以瓢取^(三)、皆不得。阿馬最後取星、正入瓢中。使飲之^(四)、即覺有妊、遂生桓玄。

校記 占經七十一。○鄭氏二—51。事見搜神後記三—27、文更詳。又見晉書九十九桓玄傳。鄭氏注云、按『太平御覽』卷六百四十五引『世說』曰、「桓宣武之誅袁真也、未當其罪、世以為冤焉。袁真在壽春、嘗與宣武一妾、妊焉、生玄。及篡、亦覆桓族。識者以為天理之所至。」今按世說新語無此文、疑亦幽明錄中語。

(一)○占經庫本「三」作「二」、誤。(二)○庫本「墮」作「墜」。(三)○庫本「取」上有「酌」。(四)○庫本「使」作「便」。

109 習鑿齒為荊州主簿、從桓宣武出獵、見黃物射之、即死。是老雄狐、臂帶絳綾香囊。

校記 御覽七百四。○鄭氏三—108。事見搜神後記九—108、渚宮故事五(引搜神後記、廣記四四七亦引)。

110 桓大司馬溫時、有參軍夜坐^(一)、忽見屋梁棟間^(二)、有一伏兔、張目切齒而向之、甚可畏惡^(三)。兔來轉近、遂引刀而斫之^(四)、見正中兔^(五)、而實反傷其膝^(六)、流血滂沱^(七)。深怪此意、命家中悉藏刀刃、不取自近。後忽復見如前、意迴惑、復索刀重斫、因傷委頓、幸刀不利、故不至死、再過而止。

校記 御覽九百七·又*八百八十五。*廣記三百五十九。○古今圖書集成神異典三一六。鄭氏三—121。

(一)廣記引作「穆帝末年、桓溫府參軍(夜坐)」。(二)○御覽八八五·廣記引「間」作「上」。(三)○「惡」今依御覽九〇七引補。(四)○廣記引「斫」作「砮」、鈔宋本作「斫」。(五)御覽九〇七引無「見」、而「兔」上有「於」。(六)○廣記引「反」作「及」、但鈔宋本作「反」。(七)○御覽八八五引此為止。

111 顧長康在江陵愛一女子、還家、長康思之不已、乃畫作女形、簪着壁上。簪處正刺心、女行十里、忽心痛如刺、不能進。

校記 御覽七百四十一。○胡校本 13。鄭氏一—30。事亦見晉書九二文苑傳。

112 劉琮善彈琴^(一)、忽得困病^(二)、許遜曰^(三)、『近見蔣家女鬼相錄在山石間^(四)、專使彈琴作樂、恐欲致災也。』琮曰、『吾常夢見女子將吾宴戲、恐必不冤。』遜笑曰、『蔣姑相愛重、恐不能相放耳。已為誅之^(五)、今去當無患也^(六)。』琮漸差。

校記 御覽五百七十七。書鈔一百九。○淵鑑一八八琴。鄭氏五—213。

(一) 書鈔引「琮」作「綜」。○御覽引無「彈」。(二) 書鈔引「病」作「疾」。(三) 書鈔引「遜」作「由」、誤。(四) 御覽引無「見」。(五) 御覽引「已」作「以」。(六) 書鈔引無「今」。

113 陶公在尋陽西南一塞取魚、自謂其池曰鶴門^(一)。

校記 世說賢媛篇「20」注。○鄭氏六—271。

(一) 〇「池」鈎沈排印本誤作「他」、七三年版全集已正之。

114 許遜少孤、不識祖墓、傾心所感、忽見祖語曰、『我死三十餘年、於今得正葬、是汝孝悌之至。』因舉標榜曰、『可
以此下求我。』於是迎喪、葬者曰、『此墓中當出一侯及小縣長。』

校記 御覽五百十九。○鄭氏二—48。

115 桂陽羅君章、二十許都未有志^(一)、不屬意學問^(二)。常晝寢、夢得一鳥卵、五色雜耀^(三)、不似人間物、夢中因取吞之。於是漸有志向^(四)。遂更勤學^(五)、讀九經、以清才聞。

校記 御覽九百二十八。○胡校本 45。鄭氏二—50。事又見晉書九二文苑傳。

(一)○「志」鈎沈依鮑氏刊本作「意」、今依四部叢刊本改。(二)○胡校本作「未有意學問」。(三)○胡校本「耀」作「光」。(四)○「向」當依晉書作「尚」。(五)○「更」今依四部叢刊本補。

116 桓玄時、牛大疫、有一人食死牛肉、因得病亡。復生云、初死時^(一)、見人執錄^(二)、將至天上、有一貴人問云、『此人何罪。』對曰、『此人坐食疫死牛肉^(三)。』貴人云、『今須牛以轉輪^(四)、肉以充百姓食^(五)、何故復殺之。』催令還^(六)。既更生、具說其事^(七)。於是食牛肉者無復有患。

校記 御覽八百八十七·又*九百。廣記三百八十三。○鄭氏四—160。鈎沈作廣記三百七十三、七三年版全集已正之。鄭氏注云、這句話的意思是因為天上需要牛担任運輸、所以人間有大批牛死亡。

(一)○鈎沈以上二句作「死時」二字。御覽八八七引「死」上有「玄」(云)、廣記引亦有「云」。御覽九〇〇引作「復生云、初死時」。今依御覽九〇〇引補。(二)○御覽九〇〇引「錄」作「錄」。(三)○廣記引無「人」。(四)○御覽八八七四部叢刊本·廣記鈔宋本無「今」、鮑氏刊本有。廣記引「輪」作「輪」。(五)○鈎沈依御覽八八七鮑氏刊本引「肉」上有「既不能」三字、四部叢刊本兩引·廣記引均無、今依刪之。御覽九〇〇引無「食」。(六)○御覽九〇〇引至此為止、而「令」作「遣」。(七)○「事」鈎沈依鮑氏刊本作「言」、今依四部叢刊本·廣記引改。

117 吳北寺終祚道人臥齋中、鼠從坎出^(一)、言終祚後數日必當死^(二)。終祚呼奴令買犬^(三)、鼠云、『亦不畏此也^(四)。但令犬入此戶^(五)、必死。』須臾犬至^(六)、果然^(七)。終祚乃下聲語其奴曰^(八)、『明日市雇十檐水來^(九)。』鼠已逆知之云^(一〇)、『止。欲水澆取我^(一一)、我穴周流、無所不至。』竟日澆灌^(一二)、了無所獲。密令奴更借三十餘人^(一三)、鼠云、

『吾上屋居，奈我何。』至時處在屋上。奴名周^(二四)、鼠云、『阿周盜二十萬錢叛。』後試開庫^(二五)、實如所言也^(二六)。奴亦叛去^(二七)。終祚當為商賈^(二八)、閉其戶而謂鼠曰^(二九)、『汝正欲使我富耳^(三〇)。今有遠行^(三一)、勤守吾房中^(三二)、勿令有所零失也^(三三)。』時桓溫在南州^(三四)、禁殺牛甚急、終祚載數萬錢^(三五)、竊買牛皮^(三六)、還東貨之、得二十萬。還室猶閉^(三七)、一無所失^(三八)、其怪亦絕^(三九)、遂大富^(四〇)。

校記 類聚九十五。御覽*八百八十五·又九百十一。*廣記四百四十。○淵鑑四三二鼠。古今圖書集成神異典三一九。胡校本73。鄭氏三一111。

(一)○胡校本「坎」下有「地」。(二)○御覽九一一引「後」作「復」。御覽八八五·廣記引無「必」。(三)○廣記引無「終」。御覽八八五引「買」作「置」。(四)○御覽八八五·廣記引無「也」。(五)○御覽八八五引「但令」作「具」、廣記引作「其」。御覽八八五四部叢刊本引「此」作「八」、按當誤、鮑氏刊本·廣記引無「此」。(六)○「須臾」今依類聚·御覽四部叢刊本九一一引補。胡校本亦有。(七)○御覽八八五·廣記引「然」作「爾」。(八)○御覽八八五·廣記引無「終」。(九)「十檐兒」御覽二(九一一)引作「水檐兒」。○鮑氏刊本有「兒」、四部叢刊本無。類聚引無「日」。胡校本「市」上有「人」。(一〇)○御覽九一一·胡校本「鼠」下有「便」。(一一)○御覽九一一引「止」作「正」。(一二)○類聚引「竟」作「競」。(一三)○御覽九一一引無「餘」。(一四)御覽引「周」作「同」。○下同。胡校本「名周」作「各圍」、誤。(一五)○御覽九一一引無「叛後」二字。胡校本無「叛後試」三字。(一六)○御覽九一一引無「也」。(一七)○自「終祚乃下聲語」以至此、凡九十五字、御覽八八五·廣記引無。(一八)○廣記引無「終」。御覽九一一引「當」作「常」、又八八五引作「嘗」。御覽八八五·廣記引無「賈」、御覽九一一引作「估」。(一九)○御覽八八五·廣記引無「其」而」。(二〇)○類聚引無「正」。御覽八八五引「富」下有「貴」、四部叢刊本「富」上有空闕一格。(二一)○「有」鈎沈依御覽鮑氏刊本、而類聚·御覽四部叢刊本·胡校本均無、御覽八八五·廣記引均作「既」。(二二)○御覽八八五·

廣記引均無「中」。(二三)○御覽八八五引無「也」。(二四)(溫)一作「玄」。○類聚·御覽九一一引均作「去」。御覽八八五鮑氏刊本引「州」作「川」。(二五)○廣記汪氏校語云、「載」字原闕、據明鈔本補。「錢」今依類聚引補。廣記「萬」作「船」。(二六)○御覽九一一鮑氏刊本引「牛」誤作「生」。(二七)○御覽八八五引「還」下有「時」。廣記亦有。廣記引「室」作「戶」。御覽八八五·廣記引「閉」作「闔也」。胡校本「猶」作「牢」。(二八)○御覽八八五·廣記引「一」作「都」。(二九)○類聚引無「其」。御覽九一一四部叢刊本引無此四字。胡校本「其怪」作「鼠」。(三〇)○御覽九一一四部叢刊本引作「後遂富積二三千萬」、又八八五四部叢刊本引作「自是浸富」、鮑氏刊本作「自是稍富」、廣記引作「自後稍富」。胡校本作「後遂富積」。

118 桓玄既肆無君之心、使御史害太傅道子於安城^(二)。玄在南州坐^(三)、忽見一平上幘人、持馬鞭、通云、「蔣侯來。」

玄驚愕然、便見階下奴子御轡車、見一士大夫、自云是蔣子文、『君何以害太傅與為伯仲。』顧視之間、便不復見。

校記 御覽三百五十九。○胡校本 15。鄭氏五—205。

(一)○胡校本「道」上有空闕一格。(二)○胡校本無「坐」。

119 桓玄在南郡國第居時、出詣殷荊州^(一)、於鵠穴逢一老公^(二)。驅一青牛、形色瓌異^(三)、桓即以所乘馬易牛^(四)。乘至零陵溪^(五)、牛忽駿駛非常^(六)、因思息駕飲牛^(七)、牛逕入水不出^(八)。桓遣人覘守^(九)、經日絕迹也^(一〇)。

校記 御覽九百。廣記三百六十。○淵鑑四三五牛。胡校本 29。鄭氏二—68。事見宋書五行志、晉書五行志、渚宮故事五(廣記四三四亦引)。

(一)(以上二句十四字)廣記引作「晉商仲堪曾從桓玄行」。(二)○「於鵠」廣記引作「至鶴」、宋書·晉書亦作「鶴穴」。(三)○御覽四部叢刊本「瓌」作「怪」、鈎沈依鮑氏刊本、胡校本亦同。(四)廣記引作「堪即以

所乘牛易而取之。」(五)○廣記「乘」作「行」。(六)「溪、牛忽」四字廣記引有。○宋書作「零陵涇溪」。廣記引「駛」作「駛」。(七)○今依御覽四部叢刊本補「思」。廣記引「飲牛」作「顧之」、胡校本作「駕」下有「次」。(八)○胡校本作「牛乃竟入水不出」。(九)○胡校本無「人」。(一〇)○廣記三百六十引末作「牛乃徑走入江、伺之終日不出、堪心以為怪。未幾玄敗、堪亦被誅戮焉。」○胡校本此句作「終月絕蹤也」。

120 索元在歷陽疾病、西界一年少女子姓某、自言為神所降、來與元相聞、許為治護。元性剛直、以為妖惑、收以付獄、戮之中於市中。女臨死曰、『卻後十七日』(一)、當令索元知其罪。『如期、元果亡』。

校記 世說傷逝篇(19)注。○鄭氏五——239。

(一)○「七」鈎沈脫之、七三年版全集已補。

121 晉孝武帝母李太后本賤人(一)、簡文無子、會遍令善相者相宮人、李太后給卑役不豫焉(二)。相者指之、『此當生貴子、而有虎厄』。帝因幸之、生孝武及會稽王道子(三)。既登尊位、服相者之驗(四)、而怪有虎害(五)、且生所未見、乃令人畫作虎象(六)、因以手撫、欲打虎戲、患手腫痛(七)、遂以疾崩。

校記 御覽八百九十二。○天中記四一。胡校本 50。鄭氏一——18。事之前半見晉書三二后妃傳。

(一)○「本」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「給」、七三年版全集依四部叢刊本已訂、胡校本亦作「本」。(二)○鈎沈排印本「卑」作「卑」、稿本作「卑」、御覽兩本、胡校本亦同、今依改。胡校本「焉」作「為」。(三)○「及」鈎沈依鮑氏刊本作「帝」、今依四部叢刊本改、胡校本亦同。(四)○「驗」鈎沈依鮑氏刊本作「見」、今依四部叢刊本改、胡校本亦同。(五)○「害」鈎沈作「厄」、未知何據、今依御覽兩本改、胡校本亦同。(六)○胡校本有後句云「以厭之」三字。(七)○「便」今依四部叢刊本補、胡校本亦同。

122 晉太元初^(一)，苻堅遣將楊安侵襄陽，其一人於軍中亡，有同鄉人扶喪歸。明日應到家，死者夜與婦夢云，『所送者非我尸，倉樂面下者是也^(二)。汝昔為吾作結髮猶存，可解看便知。』迄明日送喪者果至^(三)，婦語母如此，母不然之。婦自至南豐，細檢他家尸^(四)，髮如先，分明是其手迹。

校記 廣記三百二十二。○鄭氏四——144。廣記鈔宋本亦有奪字，今止依黃刻本。

(一)○汪氏校語云、「晉太」二字原空闕，據黃本。(二)○汪氏校語云、「我尸倉」三字原空闕，據黃本補。(三)○汪氏校語云、「知迄明」三字空闕，據黃本補。(四)○汪氏校語云、「豐細檢」三字原空闕，據黃本補。

123 北府索盧貞者^(一)，本中郎荀羨之吏也。以晉太元五年六月中病亡^(二)，經一宿而蘇。云見羨之子粹，驚喜曰，『君算未盡，然官須得三將，故不得便爾相放。君若知有幹捷如君者^(三)，當以相代。』盧貞即舉龔穎^(四)，粹曰，『穎堪事否。』盧貞曰，『穎不復下已^(五)。』粹初令盧貞疏其名，緣書非鬼用，粹乃索筆自書之。盧貞遂得出。忽見一曾鄰居者，死亡七八年矣^(六)，為太山門主，謂盧貞曰，『索都督獨得耶。』因囑盧貞曰，『卿歸為謝我婦^(七)，我未死時，埋萬五千錢於宅中大牀下，我乃本欲與女市釧^(八)，不意奄終不得言於妻女也^(九)。』盧貞許之。及蘇，遂使人報其妻，已賣宅移居武進矣。固往語之^(一〇)，仍告買宅主，令掘之，果得錢如其數焉。即遣其妻與女市釧。尋而龔穎亦亡，時輩共奇其事^(一一)。

校記 廣記三百八十三。○胡校本 126。鄭氏四——184。

(一)○廣記鈔宋本「貞」作「員」、胡校本作「眞」、下同。(二)○鈔宋本「晉太」作「泰」。(三)○胡校本「捷」作「捷」。(四)○胡校本「龔」作「弓」。(五)○「已」鈎沈排印本作「已」、七三年版全集已正。(六)○「已」鈎沈排印本作「亡」、今依正。(七)○鈔宋本「婦」作「娘」。(八)○胡校本「女」作「女子」、鈔

宋本作「汝」、誤。(九)○「妻女」鈎沈作倒、今依正。(一〇)○「固」廣記談刻本・黃刻本同、鈔宋本作「同」、汪校本、胡校本作「因」。(一一)○「輩」鈎沈依黃刻本作「果」、今依改。

124 琅邪人姓王忘名^(一)、居錢塘、妻朱氏以太元九年病亡、有二孤兒^(二)。王復以其年四月暴死、三日而心下猶暖^(三)、經七日方蘇。說、初死時^(四)、有二十餘人皆烏衣見錄、錄去^(五)、到朱門白壁、狀如宮殿、吏朱衣素帶^(六)、玄冠介幘、或所被著悉珠玉相連結、非世中儀服。復前見一人長大^(七)、所著衣狀如雲氣。王向叩頭、自說、『婦已亡^(八)、餘孤兒、尚小、無奈何^(九)。』便流涕、此人為之動容、云、『汝命自應來、以汝孤兒^(一〇)、特與三年之期。』王又曰^(一一)、『三年不足活兒。』左右有一人語云^(一二)、『俗戶何癡。此間三年、世中是三十年^(一三)。』因便送出。又三十年^(一四)、王果卒^(一五)。

校記 御覽八百八十七。廣記三百八十三。○鈎沈作「三百七十三」、七三年版全集已訂之。淵鑑三二一再生。胡校本 127。鄭氏四——187。

(一)○「忘名」、廣記鈔宋本作「忘其名」、御覽四部叢刊本作「名志」、「志」訛。(二)○廣記引「二」作「三」。(三)○御覽四部叢刊本「下」在「三日」之上、疑筆誤。鈎沈依鮑氏刊本。(四)○廣記引無自「三日」以至「初死」、凡十五字。(五)○廣記・胡校本「錄去」作「云」。(六)○鈎沈「素」作「紫」、今依御覽・廣記引改、胡校本亦同。(七)○廣記・胡校本「復」下有「將」。(八)○御覽四部叢刊本「婦」作「歸」、疑訛。(九)○廣記引「無」下有「相」、胡校本有「依」。(一〇)○廣記・胡校本「以」作「為」。(一一)○廣記・胡校本「又」作「訴」。(一二)○廣記・胡校本無「有」。(一三)○「是世中」鈎沈以鮑氏刊本作「世中是」、今依御覽四部叢刊本・廣記引改。胡校本亦同。(一四)○廣記・胡校本「又」下均有「活」。(一五)○廣記・胡校本無此句。

125 晉太元十年，阮瑜之居在始興佛圖前，少孤貧不立，哭泣無時。忽見一鬼書磚著前云^(一)，『父死歸玄冥，何為久哭泣。即後三年中，君家可得立。僕當寄君家，不使有損失，勿畏我為凶，要為君作吉。』後鬼恆在家，家須用者，鬼與之。二三年用小差^(二)，為鬼作食，共談笑語議。阮問姓，答云，『姓李名留之，是君姊夫耳。』阮問，『君那得來。』鬼云，『僕受罪已畢，今暫生鬼道，權寄君家，後四五年當去。』曰，『復何處去。』答云，『當生世間。』至期，果別而去。

校記 廣記三百二十。○胡校本 110。鄭氏四— 172。

(一)○汪氏校語云、「搏」原作「搏」，據明鈔本改。黃刻本·胡校本亦作「搏」，今依汪校。(二)○汪氏校語云、明鈔本「君」作「用」、鈎沈引作空闕一格、今依明鈔本改。

126 晉太元中、瓦官寺佛圖前淳于矜^(一)、年少潔白、送客至石頭城南、逢一女子、美姿容、矜悅之、因訪問。二情既和^(二)、將入城北角、共盡欣好^(三)、便各分別。期更剋集、便欲結為伉儷。女曰，『得婿如君、死何恨。我兄弟多、父母並在^(四)、當問我父母。』矜便令女歸^(五)、問其父母、父母亦懸許之^(六)。女因敕婢取銀百斤、絹百匹、助矜成婚。經久養兩兒。當作秘書監、明果驪卒來召^(七)、車馬導從、前後部鼓吹。經少日、有獵者過覓矜、將數十狗徑突入、齮婦及兒^(八)、並成狸、絹帛金銀、並是草及死人骨蛇魅等^(九)。

校記 珠林三十一(百二十卷本四二)○鄭氏三— 122。事又見廣記四四二引、但注作「出玄怪錄」、疑當出幽明錄。

(一)○廣記引無「寺」。(二)○廣記引「和」作「洽」。(三)○珠林大正藏本·廣記引「欣」作「忻」。(四)○珠林大正藏本·廣記引「父」均作「翁」、下同。(五)○珠林兩本「歸」作「婢」、鈎沈從之、今依廣記引改。(六)○廣記引「懸」作「願」。(七)○廣記引「養」作「生」。(八)○珠林大正藏本「驪」作「驟」。(九)

○珠林大正藏本「狗」作「犬」。(一〇)○廣記引「辭」作「咋」。(一一)○大正藏本・廣記引無「蛇魅等」三字、鈎沈依百二十卷本。

127 晉太元中、高衡為魏郡太守、戍石頭。其孫雅之在廐中^(二)、云、有神來降。自稱白頭公、拄杖、光耀照屋、與雅之輕舉宵行、暮至京口、晨已來還。後雅之父子為桓玄所滅。

校記 廣記二百九十四。○胡校本 119。鄭氏五—208。事見搜神後記五—54。
(一)○「其」鈎沈作空闕一格、廣記汪校本・黃刻本均作「其」、依補。

128 太元年中^(一)、臨海有巫李^(二)、不知所由來、能卜相作水符^(三)、治病多愈、亦禮佛讀經。語人云、『明年天下當大疫、此境尤劇、又二紀之後、此邦之西北大郡^(四)、僵尸橫路。』時汝南周叔道罷臨海令、權停家、巫云^(五)、『周令今去宜南行^(六)、必當暴死。』便指北山曰、『後二十日、此山應有異、則其事彰也^(七)。』後十餘日^(八)、大石夜頽落百丈、碎礧若雷^(九)。庾楷為臨海太守、過詣周、設饌作伎^(一〇)。至夜、庾還舫中^(一一)、天曉庾自披屏風呼、『叔道何癡不起。』左右撫看^(一二)、氣絕久矣。到明年、縣內病死者數千人^(一三)。

校記 御覽七百三十五。○胡校本 3。鄭氏五—224。

(一)○御覽引作「大元年中」、胡校本作「太元年中」。鈎沈作「大元中」、今依改。
(二)○「巫李」鈎沈依鮑氏刊本作「李巫」、今依四部叢刊本・胡校本改。
(三)○胡校本「水符」作「符水」。
(四)○胡校本「之」作「則寧」。
(五)○胡校本「巫」作「直」。
(六)○御覽四部叢刊本「宜」上有「不」。
(七)○鈎沈依鮑氏刊本作「此應有異事彰也」、今依四部叢刊本改。胡校本作「此山之下應有異、口者事彰也」。
(八)○鈎沈稿本作「後十日餘」依鮑氏刊本、鈎沈排印本誤作「餘十日餘」、七三年版全集已訂之。今依四部叢刊本・胡校本改。
(九)

○「碎」鈎沈作「碎」、御覽·胡校本均作「碎」、今依改。(一〇)○御覽四部叢刊本「設」作「殷」。(一一)○「舫」鈎沈依鮑氏刊本作「航」、今依四部叢刊本·胡校本。(一二)○鈎沈「撫」作「撫」、今依改。(一三)○御覽四部叢刊本·胡校本均無「人」。

129 泰元中、有一師從遠來、莫知所出。云、『人命應終、有生樂代死者^(一)、則死者可生。若偈人求代、亦復不過少時。』人聞此、咸怪其虛誕。王子猷子敬兄弟特相和睦、子敬疾屬續、子猷謂之曰、『吾才不如弟、位亦通塞、請以餘年代弟。』師曰、『夫生代死者、以己年限有餘、得以足亡者耳。今賢弟命既應終、君侯算亦當盡、復何所代。』子猷先有背疾、子敬疾篤、恆禁來往、聞子敬亡、便撫心悲惋、都不得一聲、背即潰裂^(二)。推師之言、信而有實。

校記 世說傷逝篇(16)注。*御覽三百七十一。○天中記一七。鄭氏五——223。

(一)○余氏箋疏引無「死」。(二)已上七句亦見御覽三百七十一引。○「子敬」二字今依御覽引補、而御覽引無「便」、「得」。

130 王胤^(一)、祖安國、張顯等、以太元中乘舡、見仙人賜糖飴三餅、大如比輪錢、厚二分。

校記 御覽八百五十二。○鄭氏五——218。

(一)○鈎沈「胤」依鮑氏刊本作「允」、今暫依四部叢刊本改、但此等人物皆不顯名、未詳孰是。

131 太元中、北地人陳良、與沛國劉舒友善、又與同郡李焉共為商賈^(一)。曾獲厚利、共致酒相慶、焉遂害良、以韋裹之、棄之荒草、經十許日、良復生歸家。說、死時、見一人著赤幘引良去、造一城門、門下有一牀、見一老人執朱筆點校籍^(二)。赤幘人言曰、『向下土有一人、姓陳名良、游魂而已、未有統攝、是以將來。』校籍者曰^(三)、『可令便去。』

良既出、忽見友人劉舒、謂曰、『不圖於此相見。卿今幸蒙尊神所遣、然我家廁屋後桑樹中有一狸^(四)、常作妖怪、我家數數橫受苦惱。卿歸、豈能為我說此耶^(五)。』良然之。既蘇、乃詣官疏李焉而伏罪。仍特報舒家、家人涕泣、云悉如言。因伐樹得狸^(六)、殺之、其怪遂絕。

校記 廣記三百七十八。○胡校本¹²⁵。鄭氏四—188。事見搜神後記四—43、但與此稍不同。

(一)○鈎沈「郡」作「鄰」、未知何據。廣記諸本・胡校本皆作「郡」、今依改。(二)○「校籍」鈎沈作「校」一字而奪「籍」、今依補。(三)○鈔宋本無「日」。(四)○鈔宋本無「屋」。(五)○鈎沈排印本奪「此」、七三年版全集已補。(六)○談刻本「伐」誤作「我」、汪校已正。

132 晉太元末、長星見、孝武甚惡之^(一)。是夕華林園中飲^(二)、帝因舉杯屬星曰^(三)、『長星、勸爾一杯酒、自古亦何

時有萬歲天子^(四)。』取杯酌之^(五)。帝亦尋崩也。

校記 占經八十八。○鄭氏二—60。事又見世說雅量篇40、晉書九孝武紀。

(一)○庫本「甚」作「心」。(二)○七三年版全集已補「夕」字、恆德堂本亦有、今從。庫本作「夜在華林園中飲酒」。(三)○庫本無「帝」。(四)○庫本「天子」下有「耶」。(五)○庫本無此句。

133 南康宮亭廟、殊有神驗、晉孝武世、有一沙門至廟、神像見之、淚出交流、因標姓字^(一)、則是昔友也。自說、『我

罪深、能見濟脫不。』沙門即為齋戒誦經、語曰、『我欲見卿真形。』神云、『稟形甚醜、不可出也。』沙門苦請、遂化為蛇、身長數丈、垂頭梁上、一心聽經、目中血出。至七日七夜、蛇死、廟亦歇絕。

校記 廣記二百九十五。○古今圖書集成神異典三一・四八。胡校本¹²¹。鄭氏五—230。疑是本篇²⁵⁴條之異文也。
(一)○「標」鈎沈稿本・廣記諸本均作「標」、今依胡校本・鈎沈排印本。

134

晉孝武帝於殿中北窗下清暑^(一)，忽見一人^(二)，著白夾黃練單衣^(三)，舉身沾濕^(四)，自稱、『華林園中池水神^(五)、名曰淋澤君也^(六)。若善見待^(七)、當相福祐^(八)。』帝飲已醉^(九)，取常所佩刀擲之^(一〇)。刀空過無礙^(一一)、神忿曰^(一二)、『不以佳事垂接^(一三)、當令知所以居^(一四)。』少時而帝暴崩^(一五)、皆呼此靈為禍也^(一六)。

校記 御覽八百八十三。占經一百十三。*廣記二百九十四。續談助四(殷芸小說(鈎沈 27))。古今圖書集成神異典三〇。胡校本 56。鄭氏二一 59。

(一)〔孝武帝〕占經引作「武帝」。○小說引亦同、但列此條於晉孝武之項。小說引「於」上有「嘗」。廣記引無「於」。小說・御覽・廣記・胡校本無「中」。占經庫本「中」作「上」、無「北」、而「暑」作「曙」、以「清曙」屬於下句。廣記引無「清暑」。 (二)○廣記引無「忽」。 (三)〔夾〕廣記引作「帔」。占經引作「綈」、廣記引作「疏」。○占經庫本「夾」作「幃」。小說引作空闕一格。廣記鈔宋本・明鈔本均作「練」。 (四)○「濕」鈎沈作「濡」、未知何據、今依小說・御覽・占經庫本・胡校本改。 (五)○小說・占經庫本「稱」下有「是」。『園中池水神』御覽引作「池中水之神」、廣記引作「園水池中神」、胡校本作「池水中之神」。 (六)○續談助引「琳瑯君」、占經庫本「澤」作「冷」、胡校本作「岑」而無「也」。 (七)○小說引句頭有「語帝」二字。而「善」作「能」。 (八)○小說引作「必當相祐」。占經庫本「當相」作「有」。 (九)○小說引「時帝」作「帝時」。廣記引無「帝飲已醉」四字。 (一〇)○小說引句頭有「便」、而無「所」。廣記・胡校本無「常」。 (一一)○小說引「刀」作「刃」、廣記引無「刀」。 (一二)○占經庫本「忿」作「忽」。 (一三)〔佳事〕續談助四引作「佳士」。○小說引作「已不能佳士見接」。廣記引無此句六字。占經庫本「佳」作「往」。 (一四)○小說引作「乃至於此、當知之」、廣記引作「當令君知之」、占經庫本作「當令知所過」。胡校本作「當令知」。小說・占經庫本均以「居」屬於下句。 (一五)○廣記・占經庫本均無「帝」、廣記鈔宋本無「而」。胡校本作「已而居少時暴崩」。 (一六)○小說・廣記・

占經庫本均無此句。胡校本「靈」作「是」。

- 135 義熙三年、山陰徐琦每出門^(二)、見一女子、兒極豔麗^(三)、琦便解臂上銀鈴之^(四)。女曰『感君來貺。』以青銅鏡與琦^(四)、便爾結為伉儷^(五)。

校記 書鈔一百三十五、又一百三十六。*御覽八百十二。○淵鑑三八一鈴。胡校本4云、「徐琦每見一女子、姿色甚美、便解臂上銀鈴贈之」。鄭氏一—15。事見異苑六。

(一)○書鈔一三六引「出」下有「一鏡」二字。御覽引無「出門」。(二)○書鈔一三六引「豔」作「豐」。御覽引作「姿色甚美」。(三)「臂上」二字御覽引有。「銀鈴」御覽引作「鈴」。○書鈔一三六引「銀」上有「璧」。御覽引至此為止。(四)○書鈔一三六引「以」上有「既」。(五)○書鈔一三六引「爾」作「共」。

- 136 晉義熙五年、彭城劉澄常見鬼。及為左衛司馬、與將軍巢營解字相接。澄夜相就坐語、見一小兒赭衣、手把赤幟、團團似芙蓉花。數日巢大遭火。

校記 廣記三百二十。○天中記一〇。胡校本111。鄭氏四—174。

- 137 義熙七年、東陽費道斯新娶得婦^(一)、相愛、婦梳頭、道思戲以銀釵著戶閣頭^(二)。

校記 書鈔一百三十六兩引、一末云有、「遂志還六國、入行人湖矣」、當有誤。○孔氏校語云、「遂志」以下系傳鈔者竄入。淵鑑三八一釵。鄭氏一—29。鄭氏注云、按『北堂書鈔』引文未畢、搜神記卷一七載吳人費季事、與此則有相似處。參看搜神記一七—402、錄異傳(鈎沈13)。

(一)○「費」字依別一引補。孔注云、今案陳本「道斯」上有「楊」字、據本篇下引作「費道思」。(二)「以」

一引作「拔」。○「思」當作「斯」。

138 晉義熙中、范寅為南康郡、時贛縣吏說、先入山採薪、得二龜、皆如二尺盤大^(一)。薪未足、遇有兩樹駢生、吏以

龜側置樹間、復行採伐。去龜處稍遠、天雨、懶復取。後經十二年、復入山、見先龜、一者甲已枯、一者尚生、極長、樹木所夾處^(二)、可厚四寸許、兩頭厚尺餘、如馬鞍狀。

校記 廣記四百七十二。○胡校本 139。鄭氏三一 80。

(一)○胡校本「二」作「一」。(二)○汪氏校語云、「夾」原作「所」、據明鈔本改。鈎沈以意作「所□處」、胡校本作「所夾處」、今依胡校本改。

139 義熙中、江乘聶湖忽有一板、廣數尺、長二丈餘、恆停在此川溪^(一)。採菱及捕魚者、資以自濟。後有數人共乘板入湖、試以刀斫、即有血出、板仍沒、數人溺死。

校記 御覽七百六十七。○胡校本 75。鄭氏三一 95。

(一)○胡校本「川」作「洲」。

140 河東賈弼之^(一)、小名翳兒^(二)、具諳究世譜^(三)。義熙中、為琅邪府參軍。夜夢有一人、面黧皤甚、多鬚大鼻矐目^(四)、請之曰、「愛君之貌、欲易頭、可乎^(五)。」弼曰、「人各有頭面、豈容此理。」明晝又夢、意甚惡之^(六)。乃於夢中許易^(七)。明朝起、自不覺、而人悉驚走藏。云、「那漢何處來^(八)。」琅邪王大驚、遣傳教呼、見弼到琅邪、遙見起還內^(九)。弼取鏡自看、方知怪異。因還家、家人悉驚入內、婦女走藏、云、「那得異男子^(一〇)。」弼坐自陳說良久^(一一)、並遣人至府檢問、方信^(一二)。後能半面啼^(一三)、半面笑^(一四)、兩足手口各捉一筆、俱書^(一五)、辭意皆美^(一六)、此為異也、餘

並如先^(二七)。俄而安帝崩、恭帝立^(二八)。

校記 類聚十七。御覽三百六十四。*廣記二百七十六。又三百六十。*六帖二三。*海錄九上。○*白帖七。*五色線上。*文房四譜一。天中記二二。淵鑑二二夢。胡校本 68。鄭氏一—35。廣記三六〇引作出「西明雜錄」、鈔宋本作出「幽明錄」。

(一)○白帖·六帖御覽·廣記二七六·五色線·文房四譜·胡校本皆無「之」。(二)○胡校本「翳」作「翳」。(三)二句御覽引有。○胡校本亦有。(四)「類聚音注、鮑」防老反。○類聚引「鮑」作「查」、廣記二七六引作「瘡鮑」、三六〇引作「面查醜甚」、御覽引作「面鮑^鮑甚多」。胡校本作「大鼻而瘡鮑甚多」。御覽引無「鬚」。(五)海錄碎事九略引作「愛君美貌、欲易君頭、遂許之」。○白帖·六帖引亦如此。(六)「弼曰」至此、已上據廣記(三六〇)引補。(七)○廣記三六〇引「易」作「之」。(八)○御覽·胡校本無「藏云那漢何處來」七字。(九)已上五句御覽引有。○胡校本亦有。(一〇)○御覽引無此句六字。類聚引奪「異」、廣記三六〇引有。(一一)○類聚引無「良久」。(一二)已上十一字依御覽引補。○廣記三六〇引亦有、但無「人」、「問」作「閱」。(一三)「半面啼」三字依御覽引補。(一四)海錄亦有「半面啼」三字在「半面笑」下。○白帖·六帖·五色線·文房四譜引均同。廣記二七六引作「半面笑啼」。(一五)○廣記二七六引作「兩手足及口中」、又三六〇·御覽引均作「兩手」。文房四譜引作「兩手兩足并口、齊奮兩筆、書成」。廣記三六〇談刻本·黃刻本引「捉」作「執」、鈔宋本作「捉」。又二七六引作「題」、白帖·六帖·海錄·五色線引均作「兩手把筆」。(一六)六帖二十三引作「文詞各異」、海錄亦作「文詞各異」。○白帖·五色線·文房四譜引亦同。廣記二七六引作「詞翰俱美」。(一七)○胡校本作「餘並與人同」。(一八)廣記三百六十有末二句。

141

晉義熙中、羌主姚弋婁洛陽陰溝取塼^(一)、得一雙雄鵝^(二)、並金色、交頸長鳴、聲聞九皋、養之此溝^(三)。

校記 類聚九十一。廣記四百六十二。御覽九百十九。○天中記五八。淵鑑四二六鵝。胡校本42。鄭氏三一81。事亦見異苑三。

(一)廣記·御覽引「駱」並作「略」。○類聚中華書局本·胡校本皆亦作「略」、或當從。廣記·胡校本無「陰」。○御覽引「雙」作「隻」、疑訛。(三)○御覽引無此句。

142 隆安初、陳郡殷氏為臨湘令、縣中一鬼、長三丈餘、跣上屋、猶垂腳至地。殷人、便來命之。每搖屏風、動窗戶、病轉甚。其弟觀亦見、恆拔刀在側、與言爭。鬼語云、『勿為罵我。當打汝口破。』鬼忽隱形、打口流血、後遂喁偏^(一)、成殘廢人。

校記 廣記三百十九。○胡校本100。鄭氏四—173。

(一)○鈎沈「喁」作「喁」、未知何據、廣記諸本皆作「喁」、今依改。胡校本「喁偏」作「喁癖」。

143 安帝隆安初、雍州刺史高平郗恢家內、忽有一物如蜥蜴。每來輒先扣戶^(一)、則便有數枚、便滅燈火。兒女大小、莫不驚懼。以白紵、不信、須臾即來。至隆安二年^(二)、郗恢與殷仲堪謀議不同、下奔京師、道路遇害、并及諸子。

校記 廣記三百六十。○鄭氏二—70。

(一)○鈔宋本「扣」作「叩」。(二)○鈎沈依廣記黃刻本(汪校本同)作「龍安」、今依鈔宋本改。

144 晉安帝隆安初^(一)、曲阿民謝盛乘船、入湖採菱、見一蛟來向船、船迴避、蛟又從其後、盛便以叉殺之、懼而還家、經年無患^(二)。至元興中^(三)、普天亢旱、盛與同旅數人、步至湖中、見先叉在地、拾取之、云、『是我叉^(四)。』人問其故、具以實對。行數步、乃得心痛、還家一宿便死。

校記 御覽九百三十。廣記一百三十一。○淵鑑四三八蛟。鄭氏三—126。

(一)○廣記引「初」作「中」。(二)○廣記引無此句。(三)廣記引「元興」作「興寧」。○當作「元興」。(四)○廣記引「是」上有「此」。

145 殷仲宗以隆安初入蜀、為毛璩參軍、至涪陵郡^(一)、暮宿在亭屋中。忽有一鬼、體上皆毛、於窗櫺中執仲宗臂牽^(二)、仲宗大呼、左右來救之、鬼乃去。

校記 御覽八百八十三。○胡校本 34。鄭氏四—178。

(一)○胡校本「陵群」作「夜群」、疑訛。(二)○胡校本無「牽」。

146 晉隆安年中、顏從嘗起新屋、夜夢人語云、「君何壞我家。」明日牀前掘除之、遂見一棺材、從便為設祭、云、「今當移好處、別作小冢。」明朝一人詣門求通、姓朱名護、別坐生列云^(一)、「我居四十年、昨厚貺相感何已。今是吉日、便可出棺矣。僕以寒暑衣手巾箱中有金鏡^(二)、以相助。」遂以棺頭舉巾箱、出金鏡三雙贈從^(三)。

校記 書鈔一百三十五。唐類函^(一)○引書鈔。○鄭氏四—165。

(一)唐類函引書鈔作「列坐乃言」。○孔氏校語云、陳·俞本亦同。(二)唐類函引書鈔無此「以寒暑衣手」五字。○孔氏校語云、陳·俞本亦無五字。(三)○孔氏校語云、陳·俞本「雙」作「枚」。

147 晉安帝元興中、一人年出二十、未婚對、然目不干色、曾無穢行。嘗行田、見一女甚麗、謂少年曰、「聞君自以柳李之儔、亦復有桑中之歡邪。」女便歌、少年微有動色、後復重見之、少年問姓云、「姓蘇名瓊、家在塗中。」遂要還盡歡。從弟便突入、以杖打女、即化成雌白鵝。

校記 廣記四百六十。○鄭氏三一99。鄭氏注云、按劉敬叔『異苑』卷八載徐爽事、與此相類。

148 晉元熙中、桂陽郡有一老翁、常以釣為業。後清晨出釣、遇大魚食餌、掣綸甚急、船人奄然俱沒。家人尋喪於釣所、見老翁及魚並死、為釣綸所纏。魚腹下有丹字、文曰、『我聞曾潭樂、故從檐潭來』。磔死弊老翁、持釣數見欺、好食赤鯉鱸、今日得汝為。』

校記 御覽六十六。○胡校本2。鄭氏三一87。

(一)○胡校本「喪」作「翁」。 (二)○胡校本「從檐」作「縱檐」。

149 孫恩作逆時^(一)、吳興紛亂^(二)、一男子避急^(三)、突入蔣侯廟^(四)。始入門、木像彎弓射之^(五)、即死^(六)。行人及守廟者無不必見^(七)。

校記 珠林六(百二十卷本一〇)。廣記二百九十三。○鄭氏五—204。事見搜神後記五—53。

(一)○珠林引文頭有「魏」。孫恩晉人、鈞沈因刪「魏」字。 (二)○廣記引「紛」作「分」。 (三)○廣記引「避」作「忽」、鈔宋本作「避急、忽人」。 (四)○廣記引無「廟」、汪校本依明鈔改作「蔣廟」。 (五)○鈔宋本「木」作「神」。 (六)○廣記黃刻本·汪校本「死」作「卒」、鈔宋本作「時卒」。 (七)○廣記引「無不必見」作「無不皆見也」。

150 諸葛長民富貴後、嘗一月、或數十日、輒於夜眠中驚起、跳踉如與人相打狀。毛脩之嘗與同宿、駭愕不達此意、視之良久、長民告毛^(一)、『此物奇健、非我無以制之。』毛曰^(二)、『是何物。』長民曰、『我正見一物甚黑、而手腳不分明、少日中多夕來^(三)、輒共鬪、深自驚懼焉。』屋中柱及椽桷間^(四)、悉見有蛇頭、令人以刀懸斫^(五)、應刀隱滅、去

輒復出、悉以紙裹柱桷、紙內簌簌如有物行聲^(六)。

校記 御覽八百八十五。○鄭氏二—67。事見搜神後記八—89、五行記（廣記三六〇引）、晉書八五本傳。

（一）○鈎沈依鮑氏刊本闕「長」、今依四部叢刊本補。（二）○四部叢刊本「毛」作「良」。（三）○四部叢刊本「少日中」作空闕三格。（四）○「桷」鈎沈作「角」、今依正。（五）○鮑氏刊本「斫」作「砍」、鈎沈以意改、四部叢刊本作「斫」。（六）○四部叢刊本「有」下有「物」、今依補。

151 司馬休之遣文武千餘人迎家、達南都、值風泊舡。上岸伐薪、見聚肉數百斤、乃割取還以鑊煮之^(一)、湯始欲熱、皆變成數千蝦蟆也。

校記 書鈔一百四十五。○鄭氏二—66。

（一）○鈎沈排印本「取」下有「之」、今依書鈔引刪、稿本亦無。

152 姚泓叔父大將軍紹總司戎政^(一)、召胡僧問以休咎^(二)。僧乃以麪為大胡餅形^(三)、徑一丈、僧坐在上^(四)、先食正西、次食正北^(五)、次食正南、所餘卷而吞之^(六)、訖便起去、了無所言^(七)。是歲五月、楊盛大破姚軍於清水。九月、晉師北討、掃定潁洛^(八)。明年遂席卷豐鎬^(九)、生禽泓焉。

校記 御覽八百六十。*書鈔一百四十四。○鄭氏五—237。

（一）○書鈔引無「大將軍」「總司戎政」。（二）○書鈔引無「召」。（三）○書鈔引「以麪」作「求麵」。（四）○書鈔引無「在」。（五）書鈔引作「東南」。（六）○書鈔引無「所餘」。（七）已上亦見書鈔一百四十四。○以上二句書鈔引作「便起無言」。（八）○鈎沈「掃」作「埽」、今依御覽引改。「潁」四部叢刊本誤作「潁」。（九）○「明年」二字、今依御覽引補。

153 安定人姓韋、北伐姚泓之時、歸國至都、住親知家。時已獲濟也^(一)、有客來問之、韋云、『今雖免慮、而體氣憊然、未有氣力^(二)、思作一羹、無由能得^(三)、至淒苦^(四)。』夜中眠熟、忽有叩牀而來告者云^(五)、『官與君錢。』便驚、出戶、見一千錢在外。又見一烏紗冠幘子^(六)、執板背戶而立、呼主人共視、比來已不復見、而取錢用之。

校記 廣記三百二十一。○胡校本 131。鄭氏二—53。

(一)○廣記談刻本作「時□□□齊」、鈔宋本最後墨打作「也」。黃刻本作「時□□擾亂齊」。胡校本作「時已獲濟」。今暫從胡校本而依鈔宋本補「也」。「齊」或當衍、「濟」疑當作「泓」歟。(二)○汪氏校語云、「氣力」二字原空闕、據黃本補。胡校本空闕一字。(三)○「無由」談刻·黃刻本均作「尤莫」、今依鈔宋本·胡校本改。(四)○胡校本「淒」作「淒」。(五)○「叩」鈎沈作「扣」、黃刻本·談刻本皆作「叩」。汪氏校語云、「而來告」三字原空闕、據黃本補。胡校本作「□□告」。(六)○汪氏校語云、「紗冠」二字原空闕、據黃本補。胡校本作「一烏□幘子」。「烏」、「烏」之訛。「子」廣記諸本皆誤作「于」、胡校本·鈎沈作「子」。

154 晉朱黃祖奉親至孝^(一)、母病篤、庭中稽顙。俄頃^(二)、天漢開明、有一老翁將小兒^(三)、持箱自通、即以兩丸藥賜、母服之^(四)、衆患頓消^(五)。因停宿。夜中廳事上有五色氣際天^(六)、琴歌清好。祖往視之、翁坐斗帳裏^(七)、四角及頂上各有一大珠、形如鵝子、明彩炫耀^(八)。翁曰、『汝人三月、可汎河而來。』依期行、見門題曰『善福門』、內有水曰『涸源池』、有芙蕖如車輪。

校記 御覽九百九十九。又六百九十九。○天中記二·四八·五三。淵鑑五·天漢·三七·六帳。*胡校本 21。鄭氏五—203。

(一)〔朱〕一〔九九九〕引作「末」。○天中記二引作「末」。御覽九九九引無「奉親」。(二)○御覽六九九引無

以上二句六字、胡校本作「夜禱於天」。(三)○「翁」鈎沈依鮑氏刊本六九九引作「公」、胡校本亦同、今依改。(四)○御覽九九九引無自「將小兒」至「即」、凡八字。(五)○御覽六九九引無「衆」、胡校本同。(六)○御覽四部叢刊本「際」作「祭」。(七)○「翁」今依四部叢刊本補。(八)御覽六百九十九(引至此為止)。○自「因停宿」至此、八句凡四十五字、御覽九九九引無。胡校本引至此為止、「明」字作空一格。

155 晉臨川太守謝朓^(一)、夜中聞鼓吹聲^(二)、兄藻曰^(三)、「夜者陰間、不及存、將在身後^(四)。」及死贈長水校尉^(五)、加鼓吹一部^(六)。

校記 御覽五百六十七。書鈔一百八引末有「一部」二字。○鄭氏二—52。事亦見宋書樂志。

(一)○書鈔引無「晉臨川太守」。(二)○書鈔引作「夜微門(聞)鼓吹鳴」。(三)○御覽四部叢刊本「藻」作「澡」、書鈔·晉書均作「藻」。(四)○以上三句書鈔引作「此當在身後」。(五)○書鈔引無「及死」。(六)○今依書鈔引補「一部」。書鈔引無「加」。

156 晉兗州刺史沛國宋處宗^(一)、嘗買得一長鳴雞^(二)、愛養甚至、恆籠著窗間^(三)。雞遂作人語^(四)、與處宗談論^(五)、極有言致^(六)、終日不輟。處宗因此言功大進^(七)。

校記 類聚九十一。李瀚蒙求注下。御覽九百十八。事類賦注十八。○事文類聚後集四六。萬花谷續集一四。天中記五八。淵鑑四二五雞·三八二籠。胡校本 67。鄭氏三—84。

(一)○蒙求注引無「晉兗州刺史」。(二)○鈎沈無「得」、今依類聚·御覽引補。(三)○蒙求注引「恆籠」作「常」、御覽·事類賦注·胡校本作「栖(棲)籠」。事類賦注引「著」作「置」。(四)○蒙求注引句頭有「後」而無「遂」。(五)○御覽·事類賦注·胡校本均無「處」。御覽引「論」作「語」、胡校本作「玄」。(六)賦注

引作「玄致」。○蒙求注引無此句四字。賦注中華書局本作「言致」、鈎沈注依劍光閣本、事文類聚引亦同。類聚引「致」作「智」。(七)「功」李瀚蒙求注下引作「功業」。○萬花谷引亦同。蒙求注引「言」作「而」。類聚引「言功」作「言巧」、事文類聚引作「玄乃」、胡校本作「玄功」、或當從胡校本。

157

晉王度鎮廣陵、忽見二騶、持鵠頭板來召之^(二)、王大驚問騶^(三)、『我作何官。』騶云、『尊作平北將軍徐兗二州刺史^(三)。』王曰、『吾已作此官^(四)、何故復召耶。』鬼云、『此人間耳、今所作是天上官也^(五)。』王大懼之^(六)、尋見迎官玄衣人、及鵠衣小吏甚多^(七)。王尋病薨。

校記 珠林五十六「百二十卷本七〇」。御覽六百六。○廣記二九四引珠林。朝鮮本李璧王荊公詩箋注二九「和楊樂道韻六首」。鄭氏四——192。

(一)○珠林四部叢刊本「召」作「名」、下同。(二)○珠林引「王」下有「文」、疑衍。御覽·李璧箋注引無。今刪。(三)「平北」珠林引作「平地」。○大正藏本作「平北」。鈎沈「尊」依御覽鮑氏刊本作「召」、今依珠林·御覽四部叢刊本改。李注亦同。(四)○「吾」鈎沈作「我」、今依珠林·御覽引改。(五)○御覽引句頭有「且」。御覽四部叢刊本「今」作「令」。李璧箋注「是」作「乃」、而注引至此為止。(六)○御覽引「之」作「亦」。(七)「鵠」御覽引作「鵠」。(八)○御覽引「病」作「疾」。

158

晉廬陵太守龐企^(一)、字子及、上租坐事繫獄、而非其罪。見螻蛄行其左右、相謂曰、『使爾有神、能活我死、不當生乎^(二)。』因投飯與螻蛄、食盡去、有頃復來、形體稍大^(三)、意異之。復與食數日間^(四)、其大如豚。及意報當行刑^(五)、螻蛄掘壁根為大孔破、得從此孔出亡^(六)。後遇赦得活^(七)。

校記 初學記二十。御覽六百四十三。○淵鑑一五〇獄。鄭氏三——78。事亦見搜神記二〇——459·珠林六二·廣記

四七三引搜神記・義楚六帖二三亦引。

(一)○御覽四部叢刊本「龐」作「寵」、誤。(二)「當生」御覽引作「亦善」。○御覽四部叢刊本「生」作「善」。
(三)○御覽鮑氏刊本「形體」作「其軀」。(四)○御覽引無「間」。(五)「意報」二字御覽引無。(六)
○御覽四部叢刊本「破」作「道」。鮑氏刊本作「企破得此出獄」。(七)○御覽引句末有「矣」。

159 晉祕書監太原溫敬林亡一年、婦桓氏^(一)、忽見林還、共寢處、不肯見子弟。兄子來見林、林小開窗出面見之、後酒醉形露^(二)、是鄰家老黃狗、乃打死之^(三)。

校記 廣記四百三十八。○胡校本 157。鄭氏三—100。

(一)○「桓」廣記談刻本闕筆、黃刻本誤作「栢」、鈎沈依黃刻本作「柏」、今依改。(二)○胡校本「後」下有「飲」、或當從。(三)○「死」鈎沈作「殺」、未知何據、今依正。

160 王仲文為河南主簿、居緱氏縣、夜歸、道經大澤中。顧車後有一白狗、甚可愛、便欲呼取、忽變為人形、長五六尺、狀似方相、或前或卻、如欲上車。仲文大怖、走至舍、捉火來視、便失所在。月餘日、仲文將奴共在路、忽復見、與奴並頓伏、俱死。

校記 廣記一百四十一。○鄭氏二—71。事見搜神後記七—86。

161 晉永和六年^(一)、潁川陳慶孫家後有神樹一株^(二)、多就求福^(三)、遂起廟^(四)、名天神廟^(五)。慶孫有烏牛甚丁肥、行疾如風^(六)。忽神於空中言^(七)、「我是天神、樂卿此牛^(八)、若不與我^(九)、來月二十日、當殺爾兒^(一〇)」。慶孫曰、「人生有命、命不由汝^(一一)」。至此日兒果死^(一二)。復言^(一三)、「汝不與我^(一四)、至五月、殺汝婦^(一五)」。又不與^(一六)。至時

婦果死^(二七)。又來言^(二八)，『汝不與我^(二九)，秋當殺汝^(三〇)。』慶孫大怒曰，『小鬼妄縱橫擊人。』欲往燒廟，眾人諫止得住^(三一)。至秋遂不死^(三二)，家亦平安。鬼乃來謝曰^(三三)，『君為人心正^(三四)，天地所無也。方受大福^(三五)，願莫道此事、天地聞之、我罪不細。實見小鬼、得作司命度事幹、見君婦兒終期、為此欺君索食耳、願深恕亮。君祿籍年八十^(三六)，家方如意、鬼神祐助、吾亦當奴僕相事。』遂聞稽顙聲。

校記 廣記三百十八。○天地瑞祥志一四、依瑞祥志、此條當在第90之後。胡校本98。鄭氏三一124。

(一)○五字今依瑞祥志引補。(二)○瑞祥志引「孫」下有「少覺問信道術」六字。又「神樹」下有「一株」、今依補。(三)○瑞祥志引脫「求」。(四)○瑞祥志引無「遂」。(五)○瑞祥志引「名」下有「為」。(六)○以上二句七字依瑞祥志引補。但瑞祥志引無「有」。(七)○瑞祥志引作「忽空有云」、今依補「忽」字。(八)○瑞祥志引無「此」、而「牛」下有次句云「當相祐助」。(九)○瑞祥志引「與」下有「者」而無「我」。(一〇)○瑞祥志引句頭有「至」、而「爾」作「汝」。(一一)○瑞祥志引「汝」下有「輩」。(一二)○「此」今依瑞祥志引補。(一三)○瑞祥志引「復言」上有「死後」二字。(一四)○瑞祥志引作「不與牛」。(一五)○瑞祥志引「至」下有「夏」、「殺」上有「當」。(一六)○瑞祥志引無此句三字。(一七)○瑞祥志引作「至期復婦死」。(一八)○瑞祥志引作「死復神來曰」。(一九)○瑞祥志引「我」作「牛」。(二〇)○瑞祥志引「秋」上有「至」、句末又有「也」。(二一)○以上四句凡二十二字、今依瑞祥志引補。廣記引止作「又不與」。胡校本與廣記引同、但句末有「之」。(二二)○瑞祥志引「遂」作「慶孫」。又有下句云「家亦平安」、今依補。(二三)○瑞祥志「乃」作「便」。(二四)○瑞祥志引有下句云「天地所無也」。今依補。(二五)○瑞祥志引句末有「也」、而無下文。(二六)○廣記·胡校本「祿」均作「錄」、鈎沈「錄」以意改作「祿」歟、今依鈎沈。

162

畢修之外祖母郭氏、嘗夜獨寢、喚婢、應而不至、郭屢喚猶爾。後聞蹋牀聲甚重^(一)、郭厲聲呵婢、又應諾諾不至。

俄見屏風上有一面如方相。兩目如升、光明一屋中、手如簸箕^(三)、指長數寸、又挺動其耳目。郭氏□道精進^(三)、一心至念、此物乃去^(四)。久之、婢輩悉來、云、『向欲起^(五)、如有物鎮壓之者、體輕便來。』

校記 廣記三百五十九。○鈎沈作廣記三百五十八、七三年版全集已正之。鄭氏三一129。

(一)○「蹋」鈎沈依黃刻本作「塌」、今依汪校本改。(二)○「中手」談刻本・黃刻本均作「手中」、鈎沈以意改作「手掌」、今依鈔宋本。(三)○鈎沈「郭氏」下有空闕一格、廣記諸本皆無、今暫從鈎沈。(四)○廣記諸本引「此」作「凡」、未知鈎沈所據、今暫從鈎沈。(五)○「起」鈎沈・廣記談刻本・黃刻本皆作「應」、今依鈔宋本改。

163 桓邈為汝南郡、人齋四烏鴨作禮。大兒夢四烏衣人請命^(一)、覺、忽見鴨將殺、遂救之、買肉以代。還夢四人來謝而去。

校記 廣記二百七十六。○鄭氏三一86。

(一)○鈔宋本引無「人」。

164 桓恭為桓石民參軍^(一)、在丹徒。所住廨、牀前一小陷穴^(二)、詳視是古墓^(三)、棺已朽壞^(四)。桓食^(五)、常先以鮭飯投穴中^(六)、如此經年。後眠始覺^(七)、見一人在牀前、云、『吾終沒以來^(八)、七百餘年、後絕嗣滅^(九)、烝嘗莫繼^(一〇)。君恆食見播及、感德無已、依君籍、當應為寧州刺史。』後果如言^(一一)。

校記 廣記三百二十。○廣記三三二重出、黃刻本刪之。天中記一六。淵鑑三四八廨署。胡校本109、與廣記三三〇引略同。鄭氏四—167。

(一)○廣記黃刻本三三〇引「石」作「安」、汪校本三三二引亦依明鈔本作「安」。今依鈔宋本(談本三三二引墨打、

鈔宋本作「石」・談本三三〇・胡校本改。(二)○廣記三三二引無「小」。(三)○廣記三三二引作「詳見古冢」。(四)○廣記三三二引作「視之果有壞棺」。(五)○廣記三三二引作「恭每食」。(六)○廣記三三二引無「鮭」。(七)○廣記三三二引無此句、而作「忽」一字。(八)○「吾」鈎沈稿本作如此、排印本作「我」、今依改。廣記三三二引無「終」、而「以」作「已」。(九)○廣記三三二引作「嗣息絕滅」、胡校本作「後嗣絕滅」。(一〇)○「繼」鈎沈依黃刻本、汪校本三三二〇・胡校本均作「寄」、汪校本三三二引作「及」、皆通。(一一)○以上五句、廣記三三二引作「嘗食見餐、感君之德、報君以寧州刺史也。未幾果遷。」

165 庾宏為竟陵王府佐^(一)、家在江陵。宏令奴無患者載米餉家、未達三里、遭劫被殺、屍流泊查口邨。時岸傍有文欣

者、母病、醫云、「須得觸體屑、服之即差。」欣重賞募索。有鄰婦楊氏、見無患尸、因斷頭與欣。欣燒之、欲去皮肉、經三日夜不焦、眼角張轉。欣雖異之、猶惜不棄、因刮耳頰骨與母服之、即覺骨停喉中、經七日而卒。尋而楊氏得疾、通身洪腫^(二)、形如牛馬、見無患頭來罵云、「善惡之報、其能免乎。」楊氏以語兒、言終而卒。

校記 廣記一百十九。○胡校本 152。鄭氏五—240。

(一)○胡校本奪「佐」。(二)○胡校本「洪」作「紅」。

166 陽羨縣小吏吳龔、有主人在溪南。嘗以一日乘掘頭舟過水、溪內忽見一五色浮石、取內牀頭、至夜化成一女子^(一)、自稱是河伯女。

校記 書鈔一百三十七。初學記五。御覽五十二。*事類賦注七。○天中記八。本草綱目五二。淵鑑二六石(依御覽等)、三八六舟(依書鈔)。鄭氏一—11。事見祖冲之述異記(鈎沈 86)。又見今本任昉述異記(306)。

書鈔引云、陽羨小吏吳龔、乘掘頭舡過溪、獲五色浮石取之、乃變為女、自稱是河伯女。

(一)○初學記·御覽·事類賦注引至此為止。御覽引「舟」作「舡」、文末有「也」。

167 河南人趙良^(一)、與其鄉人諸生至長安^(二)、及新安界^(三)、遇霖雨^(四)、糧乏、相謂曰、「飢正爾、當那得食邪^(五)」。在後堂應時羹飯備具^(六)、兩人驚愕、不敢食^(七)、有人聲曰、「但食無嫌也^(八)」。『明日早、兩人復曰、「那復得美食。」即復在前。遂至長安、無他禍福^(九)。』

校記 御覽八百四十九。*書鈔一百四十二。*御覽十。○淵鑑三三八八食。古今圖書集成乾象典八五。胡校本 38。鄭氏四—150。

鈎沈作「書鈔一百三十四」、但孔氏校本一百三十四專說服飾、七三年版全集依孔氏校本改為一百四十二卷。孔氏校語引嚴氏校云、以上三一條無竄入輅車篇、按此下應接後一百四十二卷尾四神一條之上、已照移正。

(一)○御覽一〇引有「人」。(二)○御覽一〇引「及」作「之」、又八四九引作「到」。(三)〔及新安〕三字依書鈔一百三十四〔二百四十二〕引補。○御覽一〇引作「至新安」。(四)○「遇」鈎沈作「遭」、但諸書皆作「遇」、今依改。(五)○以上二句、鈎沈依御覽八四九鮑氏刊本引作「爾當正飢、那得美食耶」。書鈔引止作「飢」一字、御覽一〇·胡校本作「飢、那得美食耶」、御覽八四九四部叢刊本引作「飢正爾、當那得食耶」、今從之。「美」或「羹」之訛歟。(六)〔在後堂〕三字依書鈔引補。○書鈔引至此為止。御覽八四九引「羹」作「美」、又「具」作「在前」。(七)○以上二句御覽八四九引有。(八)御覽一〇引作「有人聲語云、進疎食」。○胡校本亦同。御覽一〇引至此為止。(九)○胡校本以上六句作「衆取啖之、各得飽」。

168 成彪兄喪、哀悼結氣^(一)、晝夜哭泣^(二)。兄提二升酒一盤梨就之、引酌相歡^(三)、彪問略荅、彪悲咽問、「兄今在天上、福多苦多。」久弗應^(四)、肅然無言。瀉餘酒著甌中、挈甌而去^(五)。後釣於湖^(六)、經所共飲處、釋綸悲感。有大

魚跳入缸中^(七)、俯視諸小魚。彪仰天號慟、俛而見之、悉放諸小魚^(八)、大者便自出缸去^(九)。

校記 御覽九百三十六・*九百六十九。*類聚八十六。○淵鑑四〇〇梨（依類聚引）・四四二魚（依御覽九三六引）。胡校本17。鄭氏四—139。

（一）○胡校本「結」作「情」。 （二）○胡校本「畫」作「盡」。 （三）已上亦見御覽九百六十九、「歡」作「勸」。
（四）○類聚中華書局本「久」作「又」、淵鑑四〇〇引作「久」。 （五）類聚八十六（引至此為止）。○自「兄提」至此、凡十句、御覽九三六・胡校本無。但胡校本文末作「夜見兄來共語、提二十罨酒一盤梨就之、引酌相勸」。 （六）○胡校本「湖」作「澤」。 （七）○「缸」鈎沈依鮑氏刊本作「船」、今依四部叢刊本、下同。 （八）○胡校本無「諸」。 （九）○胡校本「自」作「跳」。

169 東平呂球、豐財美貌、乘船至曲阿湖、值風不得行、泊菰際。見一少女、乘船採菱、舉體皆衣荷葉。因問、『姑非鬼耶、衣服何至如此。』女則有懼色、荅云、『子不聞荷衣兮蕙帶、倏而來兮忽而逝乎^(一)。』然有懼容、迴舟理棹、逡巡而去。球遙射之、即獲一獺^(二)、向者之船、皆是蘋蘩蘊藻之葉。見老母立岸側、如有所候、望見船過、因問云、『君向來不見湖中採菱女子耶。』球云、『近在後。』尋射、復獲老獺。居湖次者咸云、湖中常有採菱女、容色過人、有時至人家、結好者甚衆。

校記 類聚八十二。○*李嶠雜詠一百二十首「菱」詩注。事文類聚後集三七。*群書類編故事二四。鄭氏三—98。
（一）○以上李嶠詩注略引、「呂球」作「呂求」、而答詞下句以下作「悠然而來。忽不見、化為獺而去也」。 （二）○「即」鈎沈排印本誤作「印」、七三年版全集已正。

170 河東常醜奴寓居章安縣^(一)、以採蒲為業^(二)。將一小兒、湖邊拔蒲、暮恆宿空田舍中。時日向暝^(三)、見一女子、容

姿殊美^(四)、乘一小船^(五)、載尊徑前、投醜奴舍寄住。醜奴嘲之、滅火共臥^(六)、覺有腥氣^(七)、又指甚短、惕然疑是魅^(八)。女已知人意、便求出戶、變而為獺^(九)。

校記 御覽九百九十九、又*九百八十。類聚八十二。○*天中記四六。鄭氏三—104。事亦見甄異傳(鈎沈16)、異苑八。

(一)○御覽九八○引「河」作「阿」、訛。(二)○以上十字類聚·御覽九八○引無。(三)二句依類聚引補。
○御覽九八○引作「暮宿空舍、時日暮」。(四)○類聚·御覽九八○引作「姿容極美」。(五)○類聚引無「一」。
(六)○類聚引以上二句作「因臥」二字。(七)○類聚引「腥」作「臊」。(八)○類聚無以上二句九字。(九)
○類聚引無「而」。

171 人有山行墜澗者、無出路、飢餓欲死^(一)。見龜蛇甚多、朝暮引頸向四方、人因學之、遂不復飢^(二)。體殊輕便、能登巖岸。經數年後^(三)、疎身舉臂、遂超出澗上、即得還家。顏色悅澤、頗更聰慧。泊食穀啖滋味^(四)、百日復其本質。

校記 御覽六十九。○鄭氏—22。事見博物志(廣記四五六引、今本一〇)。

(一)○御覽四部叢刊本「欲」作「僅」。(二)○鈎沈排印本奪「復」、今依補。(三)○御覽鮑氏刊本「後」作「復」、四部叢刊本作「後」、鈎沈以意改。(四)○御覽鮑氏刊本「泊」作「汨」、四部叢刊本作「泊」、鈎沈亦意改。

172 建德民虞敬上廁^(一)、輒有一人授手內草與之^(二)、不覩其形、如此非一過^(三)。後至廁、久無送者、但聞戶外鬪聲、窺之、正見死奴與死婢爭先進草、奴適在前、婢便因後過之^(四)、由此輒兩相擊。食頃敬欲出、婢奴陣勢方未已、乃厲聲叱之、奄如火滅、自是遂絕。

校記 御覽一百八十六。○淵鑑三五○廁。胡校本 48。鄭氏四—149。
(一)○胡校本「上」作「如」。(二)○御覽四部叢刊本「手內草」作「草手內」或當從。(三)○胡校本「過」作「遇」。(四)○胡校本「因」作「於」。「之」鈎沈依御覽鮑氏刊本奪之、今依四部叢刊本補、胡校本亦同。

173 廣陵韓晷^(一)、字興彥、陳敏反時、與敏弟恢戰於尋陽^(二)。還營下馬^(三)、覺鞭重、見有綠錦囊^(四)、中有短卷書、著鞭鞘^(五)、皆不知所從來、開視之、故穀紙佛神呪經、乃世之常聞也^(六)。

校記 御覽三百五十九·又七百四有末句。○淵鑑二二九鞭。胡校本 16。鄭氏五—243。
(一)一「御覽七〇四」引作「略」。○鈎沈依御覽鮑氏刊本作「咎」、今依四部叢刊本改作「晷」。(二)○御覽七〇四引無自「字興彥」至此凡十五字。(三)○胡校本「營」作「當」。御覽七〇四引「還營」作「將」。(四)○胡校本「綠錦囊」作「錄錦囊」。(五)○「鞭」御覽七〇四引有。(六)○「乃」鈎沈依鮑氏刊本作「故」、今依四部叢刊本改。胡校本無此句。

174 武宣程羈、偏生未被舉、家常使種蔥、後連理樹生於園圃。
校記 御覽八百二十四。○鄭氏六—272。

175 譙群胡馥之娶婦李氏^(一)、十餘年無子、而婦卒、哭慟云^(二)、「汝竟無遺體遂喪^(三)、此酷何深^(四)。」婦忽然起坐曰^(五)、「感君痛悼^(六)、我不即朽、君可瞑後見就^(七)、依平生時陰陽^(八)、當為君生一男。」語畢還臥。馥之如言^(九)、不取燈燭、暗而就之交接^(一〇)、後嘆曰^(一一)、「亡人亦無生理、可別作屋見置^(一二)、瞻視滿十月^(一三)、然後殯。」爾來覺婦身微煖^(一四)、如未亡、既及十月、果生一男^(一五)、男名靈產。

校記 御覽三百六十。廣記三百二十一。○天中記三九。胡校本 57。鄭氏四—168。

(一)○廣記引「譙」作「上」。廣記鈔宋本無「之」。(二)○廣記·胡校本「哭」下有「之」、而無「云」。(三)○「汝」今依廣記·胡校本補。「喪」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「傷」、今依四部叢刊本改。廣記引無「遂喪」。(四)○廣記·胡校本「此」作「怨」。(五)○「然」鈎沈奪之、今依補。廣記引無。(六)○「痛」御覽四部叢刊本作「藏」、廣記鈔宋本作「喪」。(七)○廣記引無「君」、談刻本「暝」作空闕二格、黃刻本作「人定」、鈔宋本有「君」、而「暝」作空闕一格。(八)○廣記引無「陰陽」。胡校本作「如平生」。(九)○廣記鈔宋本「言」下有空闕一格。(一〇)○廣記引無「交接」、胡校本亦同。(一一)○廣記引「後嘆」作「復」、胡校本亦同。(一二)○廣記引「別」作「側」、鈔宋本作「則」。(一三)○廣記黃刻本「瞻視」作「須伺」。談刻本「瞻」作空闕一格。(一四)○廣記引「來」作「後」。胡校本「來」作「未幾」、而「爾」屬於上句。(一五)○廣記引無「及」、而「果」作「後」。

176 王伯陽亡。其子營墓、得三漆棺、移置南岡。夜夢魯肅暝云、「當殺汝父。」尋復夢見伯陽云(一)、「魯肅與弟爭墓。」後於坐褥上見數升血、疑魯肅殺之故也。墓今在長廣橋東一里。

校記 御覽三百七十五。○胡校本 52。鄭氏四—166。事亦見廣記三八九引王伯陽一說、引作出「搜神記」、但不見今本搜神記、而見搜神後記六—62。

(一)○胡校本「云」作「公」、疑訛。

117 海陵民黃尋先居家單貧(一)、嘗因大風雨(二)、散錢飛至其家、來觸離援(三)、誤落在餘處(四)、皆拾而得之(五)。尋後巨富(六)、錢至數千萬(七)、遂擅名於江表(八)。

校記 御覽八百三十六、又四百七十二。李瀚蒙求注下。*楊瑀山居新語。*類林雜說十四。○事文類聚續集二六。淵鑑三六二錢。胡校本 58。鄭氏一 27、注云、「按御覽八百七十七引『廣五行記』……與幽明錄所記姓名、籍貫并同、而結局不同云云。」廣記三六〇亦引五行記。

李瀚蒙求注「黃尋飛錢」云、海陵黃尋先貧困。因大風雨、散飛錢至其家、觸藩籬、誤落者無數。拾得後富、至數千萬、擅名江北也。

(一)〔稿本欄外注云〕楊瑀山居新語略引「尋」作「鄒」。○御覽四七二引「民」作「人」。胡校本「先」作「父」。以下同。(二)○胡校本無「因」。(三)○御覽四七二引句頭有「錢」。(四)李瀚蒙求注下引作「觸藩落者無數」。○御覽八三六引無「在」。胡校本無以上二句九字。(五)○御覽八三六引無「皆」、胡校本亦同。(六)○御覽四七二引無「後」。(七)楊瑀山居新語略引「數千」作「十」。○御覽四七二引至此為止。(八)〔稿本欄外注云〕楊山居新語略引「江表」作「江北」、類林雜說略引亦作「江北」。○蒙求注、事文類聚引亦作「江北」。

178

餘杭人沈縱^(一)、家素貧^(二)、與父同入山。還、未至家、見一人左右導從四百許、前車輜重^(三)、馬鞭夾道、鹵簿如二千石。遙見縱父子、便喚住^(四)、就縱手中燃火、縱因問是何貴人。答曰、「是鬪山王、在餘杭南^(五)。」縱知是神、叩頭云、「願見祐助。」後入山得一玉狴^(六)。從此所向如意^(七)、田蠶並收、家遂富^(八)。

校記 御覽三百五十九・又*四百七十二。廣記二百九十四。○*天中記三九。胡校本 14。鄭氏五— 202。參看齊諧記(鈎沈 9)。

(一)〔杭〕廣記引作「姚」。(二)○胡校本無「家」。(三)○廣記鈔宋本「前」作「而」。廣記引「輜重」作「副」。(四)○「使」鈎沈依鮑氏刊本作「便」、廣記・胡校本亦作「便」、今依御覽四部叢刊本・廣記鈔宋本改。(五)○胡校本「杭」下有「縣」。(六)〔狴〕廣記引作「枕」。○御覽四七二引作「豚」、廣記鈔宋本作「枕」。

御覽四七二引無自「還未至家」至「後入山」凡七十三字。胡校本句前有「遂去」二字。」（七）○御覽三五九・廣記・胡校本無「所向」。胡校本句頭有「縱」。（八）○二句御覽四七二引有。四部叢刊本無「遂」、依鮑氏刊本。

179

項縣民姚牛^(一)、年十餘歲^(二)、父為鄉人所殺、牛常賣衣物市刀戟^(三)、圖欲報讐。後在縣署前相遇^(四)、手刃之於衆中^(五)。吏捕得^(六)、官長深矜孝節、為推遷其事、會赦得免。又為州郡論救、遂得無他^(七)。今後出獵^(八)、逐鹿入草中^(九)、有古深奔數處^(一〇)、馬將趣之。忽見一公^(一一)、舉杖擊馬、馬驚避、不得及鹿。令怒^(一二)、引弓將射之。公曰、「此中有奔、恐君墮耳。」令曰、「汝為何人。」翁跪曰^(一三)、「民姚牛父也^(一四)、感君活牛、故來謝恩^(一五)。」因滅不見^(一六)、令身感其事^(一七)、在官數年、多惠於民。

校記 御覽四百八十二・又四百七十九・又*三百五十三。廣記三百二十。○淵鑑三十一報德。胡校本44。鄭氏五
241。

（一）○御覽三五三引無「民」。（二）○御覽四八二・廣記・胡校本無「歲」。（三）○廣記引「物」作「服」、但鈔宋本作「物」。胡校本作「牛賣衣市刀」。（四）○御覽三五三・廣記引「署」均作「門」。御覽三五三引有「相遇」二字。自「牛常」以至此、凡十九字、御覽四七九引無。（五）○御覽三五三引至此為止。（六）○廣記引「捕」作「擒」、但鈔宋本作「捕」。（七）二句廣記引有。（八）○御覽四八二・胡校本「今後」作「後令」。（九）○御覽四八二引「中」作「草」、胡校本作「草右」。（一〇）○廣記引「奔」作「井」、下同。（一一）○廣記引「公」作「翁」、下同。（一二）○廣記引作「奴」、疑訛。（一三）○御覽四八二引「公為跪曰」、廣記引作「翁長跽曰」。鈎沈依御覽四七九引。（一四）○御覽四七九引無「民」。（一五）○廣記引無「恩」。（一六）○御覽四七九引「因」作「遂」。御覽四七九・廣記引至此為止。（一七）○「其」鈎沈依鮑氏刊本作「冥」、今依四部叢刊本改。胡校本此句作「令感」二字。

180 吳縣費升為九里亭吏、向暮見一女從郭中來、素衣哭人埭、向一新冢哭、日暮不得入門、便寄亭宿。升作酒食、至夜、升彈琵琶令歌、女云、『有喪儀、勿笑人也。』歌音甚媚、云、『精氣感冥昧、所降若有緣、嗟我遭良契、寄忻霄夢閒。』中曲云、『成公從義起^(一)、蘭香降張碩^(二)、苟云冥分結、纏綿在今夕。』下曲云、『佇我風雲會、正俟今夕游、神交雖未久、中心已綢繆。』寢處向明、升去、顧謂曰、『且至御亭。』女便驚怖。獵人至、群狗入屋^(三)、於牀咬死、成大狸。

校記 御覽五百七十三。○鄭氏三—103。

(一)○鈎沈「義」依御覽鮑氏刊本作「儀」、今依四部叢刊本改。(二)○四部叢刊本「碩」作「磧」、今從鈎沈。(三)○「群」鈎沈誤作「郡」、七三年版全集已正之。

181 代郡界有一亭^(一)、常有怪、不可詣止^(二)。有諸生壯勇^(三)、行歌止宿^(四)、亭吏止之。諸生曰、『我自能消此。』乃住宿食^(五)、至夜^(六)、鬼吹五孔笛、有一手、都不能得攝笛^(七)、諸生不耐、忽便笑謂^(八)、『汝止有一手、那得遍笛。我為汝吹來。』鬼云、『卿為我少指耶^(九)。』乃引手、即有數十指出^(一〇)。諸生知其可擊^(一一)、拔劍斫之^(一二)、得一老雄雞^(一三)、從者並雞雛耳^(一四)。

校記 御覽五百八十。事類賦注十一。廣記四百六十一。○天中記四三。胡校本148。鄭氏三—101。

(一)○廣記·賦注·胡校本「有」作「中」。(二)○廣記·胡校本以上二句作「作怪不可止」。(三)○賦注引句頭有「忽」。廣記·胡校本句末有「者」。(四)廣記引作「暮行欲止亭宿」。○胡校本亦同。御覽四部叢刊本「止」作「正」。(五)已上四句依廣記引有。○胡校本亦有。(六)二字賦注引有。○賦注劍光閣本引作「至夜忽見一手」、中華書局本引無。廣記引作「夜諸生前坐、出一手」。胡校本與廣記引同。(七)○廣記·胡校本無

此句。(八)○廣記·胡校本以上二句作「諸生便笑鬼曰」。賦注中華書局本引無「不耐忽」三字。(九)○御覽·賦注中華書局本無「卿」。賦注兩本·胡校本「為」作「謂」。(一〇)○以上二句鈎沈依賦注劍光閣本。御覽·賦注中華書局本無「引手即有」四字。廣記·胡校本「乃」下有「復」。(一一)○賦注兩本無「知其可擊」四字。(一二)○廣記·胡校本句頭有「因」。(一三)○廣記·胡校本無「一」。(一四)○廣記引無此句。御覽引無「耳」、賦注引有。胡校本作「殺之遂絕」。

182 一士人姓王、坐齋中、有一人通刺詣之、題刺云舒甄仲。既去、疑非人、尋刺曰、是予舍西土瓦中人。令掘之(一)、果於瓦器中得一銅人、長尺餘。

校記 御覽六百六。○淵鑑二〇五刺。鄭氏三—79。事又見荀氏靈鬼志(鈎沈20)。鄭氏注云、「晉書文苑傳亦載鄒湛之事。」但作「甄舒仲」。

(一)○御覽四部叢刊本無「之」。

183 襄陽城南有秦民墓(二)、為性至孝、親沒、泣血三年。人有為其咏蓼莪詩者(三)、民間其義、涕泗不自勝。

校記 御覽六百十六。○胡校本18。鄭氏一—40。

(一)○「墓」鈎沈依御覽鮑氏刊本引無、今依四部叢刊本·胡校本引補。(二)○胡校本「咏」作空闕一格。

184 尋陽參軍夢一婦人前跪、自稱、『先葬近水淪沒(一)、誠能見救、雖不能富貴、可令君薄免禍。』參軍答曰、『何以為誌。』婦人曰、『君見渚邊上有魚釵(二)、即我也。』參軍明旦覓、果見一毀墳、其上有釵、移置高燥處。却十餘日、參軍行至東橋、牛奔直趣水、垂墮忽轉、正得無恙也。

校記 御覽七百十八。○天中記四九。淵鑑三八一釵。胡校本 53。鄭氏四——163。

(一)○「淪」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「淪」、今依四部叢刊本、胡校本亦同。(二)○胡校本「魚」作「銀」。

185 清河崔茂伯女結婚裴氏、尅期未至^(一)、女暴亡^(二)。提一金罍受二升許^(三)、徑到裴牀前立、以罍贈裴。

校記 御覽七百五十八。○胡校本 12。鄭氏一——12、注云、「太平廣記卷三三四有崔茂伯條、未注出處、疑即幽明錄之文。」

廣記三三四云、崔茂伯女、結婚裴祖兒。婚家相去五百餘里。數歲不通。八月中、崔女暴亡、裴未知也。日將暮、女詣裴門、拊掌求前、提金罍、受二升許、到牀前而立。裴令坐、問所由。女曰、我是清河崔府君女。少聞大人以我配君、不幸喪亡、大義不遂。雖同牢未顯、然斷金已著、所以故來報君耳。便別以金罍贈裴。女去後、裴以事啟父、父欲遣信參之。裴曰、少結崔氏姻、而今感應如此、必當自往也。父許焉。裴至、女果喪。因相弔唁、裴具述情事、出罍示茂伯。先以此罍送女人瘞。既見罍、遂與裴俱造女墓。未至十餘里、裴復見女在墓言語、傍人悉聞聲、不見其形。裴懷內結、遂發病死、因以合葬。

(一)○胡校本「尅」作「刻」。(二)○胡校本「暴亡」作「暮已」。(三)○胡校本「二」作「一」。

186 弘農徐儉家、有一遠來客、寄宿。有馬一疋、中夜驚跳。客不安、騎馬而去。一物長丈餘、來逐馬後、客射之、聞如中木聲。明日尋昨路、見箭着一確柵^(一)。

校記 御覽七百六十二。○胡校本 62。鄭氏三——130。

(一)○胡校本「柵」作「柵上」。

187 劉松在家、忽見一鬼、拔劍斫之^(二)。鬼走松起逐、見鬼在高山巖石上臥^(三)、仍往逼突^(四)、群鬼爭走、遣置藥杵臼及所餘藥^(五)、因將還家。松為人合藥時、臨熟取一撮經此臼者^(六)、無不效驗。

校記 御覽七百六十二。○胡校本 24。鄭氏四—154。

(一)○御覽四部叢刊本「拔」作「杖」、疑訛。胡校本同。(二)○四部叢刊本「石」作「室」。(三)○「仍」鈎沈依鮑氏刊本作「乃」、今依四部叢刊本改。胡校本亦作「仍」。(四)○胡校本「所」作「取」、誤。(五)○四部叢刊本無「撮」。

188 曲阿有一人、忘姓名、從京還、逼暮不得至家。遇雨、宿廣屋中^(一)。雨止月朗、遙見一女子、來至屋簷下^(二)。便有悲歎之音^(三)、仍解腰中縷繩^(四)、懸屋桷自絞^(五)、又覺屋簷上如有人牽繩絞^(六)。此人密以刀斷縷繩^(七)、又斫屋上、見一鬼西走、向曙女氣方蘇能語^(八)、家在前持^(九)、此人將歸^(一〇)、向女父母說其事、或是天運使然、因以女嫁與為妻^(一一)。

校記 御覽七百六十六。○胡校本 74。鄭氏一—7。

(一)○胡校本「廣」作「廢」。(二)○胡校本「來至」作「求止」。(三)○胡校本「悲歎」作「恐難」。(四)〔原注、縷〕去遠切。○鮑氏刊本作「云遠切」。「仍」鈎沈依鮑氏刊本作「乃」、今依四部叢刊本改、胡校本亦同。(五)○鈎沈「桷」作「角」、今依改。胡校本作「梁」、「絞」作「縊」。(六)○四部叢刊本無「絞」、胡校本「如有人」作「有如牽繩者」。(七)○「斷」鈎沈依鮑氏刊本作「斲」、今依四部叢刊本。「縷」作「卷」。(八)○御覽鮑氏刊本「蘇」作「酥」、鈎沈依正。(九)○此句意不通。胡校本作「云、家在村、因母責之、求死」。按或「持」是「村」之訛歟。(一〇)○胡校本無「將」。(一一)○胡校本無「與」。

189 爰琮為新安太守、郡南界有刻石、爰至其下醺飲^(一)。忽有人得剪刀於石下者、衆咸異之。琮問主簿、主簿對曰、昔吳長沙桓王嘗飲餞孫洲、父老云、「此洲狹而長、君當為長沙乎^(二)。」果應。夫三刀為州、得交刀、君亦當交州。後果交州。

校記 御覽八百三十引世說、注云「幽明錄」同。○今本世說無此條。鄭氏二—54。

(一)○鈎沈奪「飲」、今依補。(二)○鈎沈「當」誤作「嘗」、七三年版全集已正。

190 有一僮小兒^(一)、放牛野中、伴輩數人。見一鬼、依諸叢草間、處處設網、欲以捕人。設網後未竟、僮小兒竊取前網、仍以罨之、即縛得鬼。

校記 御覽八百三十一。○鄭氏四—152。事見搜神後記六—71、文同。

(一)〔原注、僮〕土行反。

191 琅邪諸葛氏兄弟二人、寓居晉陵、家甚貧耗、常假乞自給。穀在圖中^(一)、計日用未應盡^(二)、而早以空罄^(三)。始者故謂是家中相竊盜^(四)、故復封檢題識^(五)、而耗如初。後有宿客遠來、際夕至巷口^(六)、見數人擔穀從門出^(七)、客借問、『諸葛在不^(八)。』答云、「悉在。」客進語訖^(九)、因問^(一〇)、「卿何得大糶穀。」主人云「今恆告乞少穀欲充口^(一一)、云何復得糶之^(一二)。」客云、「我向來逢見數人^(一三)、擔穀從門出、若不糶者^(一四)、為何事^(一五)。」主人兄弟相視、竊自疑怪^(一六)、試入看封題儼然如故^(一七)、試開圖量視^(一八)、即無十許斛^(一九)、乃知前後所失^(二〇)、非人為之也^(二一)。

校記 類聚八十五。御覽八百三十七。○秘府略八六四。鄭氏四—181。

(一)○「圖」秘府略引作「筭」、御覽引作「困」、皆下同。(二)○「用」鈎沈作「月」、諸書皆作「用」、今從。(三)○秘府略引作「而已宮(空)罄(罄)」。(四)○秘府略引「始者故」作「初」、「中」作「人」、而無「盜」。

御覽引無「故」。(五)○秘府略引「故」作「政」、「封」作「對」、疑皆誤。御覽引無「故」。(六)○「際夕」二字御覽引有。(七)○「擔」類聚引作「檐」、今依秘府略·御覽引改、下同。秘府略引「門」誤作「問」。(八)○御覽引「不」作「否」。(九)○御覽引「語訖」作「內言語之後」。(一〇)○自「客借問」以下至此、凡十七字、秘府略引作「客謂諸葛曰」五字。(一一)○「少穀欲」三字御覽引有。○「今恆」二字今依秘府略引補。但秘府略作「今恆告元(乞)」。(一二)○「復得」二字御覽引有。(一三)○類聚引無「數」。(一四)○御覽引有此句及「從門」二字。(一五)○御覽引無「是」。(一六)○秘府略引無「竊」。(一七)○類聚·秘府略引無「試」、類聚引「人」誤作「人」。秘府略引無「題」、而「儼」作「儼」。(一八)○秘府略引作「開視」二字。(一九)○類聚引無「即」、秘府略引「即」作「已」、而無「許」。(二〇)○「乃」依秘府略引補。(二一)○秘府略引「為之」作「之為」。御覽引無「也」。

192

河南陽起^(一)、字聖卿、少時病瘧^(二)、逃於社中^(三)、得素書一卷^(四)、譴劾百鬼法、所劾輒效^(五)。為日南太守、母至廁上^(六)、見鬼頭長數尺、以告聖卿、聖卿曰^(七)、『此肅霜之神、効之出來、變形如奴^(八)、送書京師^(九)、朝發暮反^(一〇)、作使當千人之力。』有與忿恚者、聖卿遣神夜往、趣其牀頭、持兩手、張目正赤、吐舌拄地^(一一)、其人怖幾死。

校記 廣記二百九十二。御覽八百八十三。○胡校本 80。鄭氏五—220。事之一半見列異傳(鈎沈 26)。

(一)○御覽鮑氏刊本「陽」作「楊」。(二)○廣記引「病」作「疾」、鈔宋本「瘧」作「瘧」。(三)○廣記引無「逃」。(四)○廣記引無「素」。胡校本無「一」。(五)○御覽引有此句。(六)○「母」御覽(鮑氏刊本)引作「每」。○四部叢刊本作「母」。(七)○御覽引二字不重。(八)○胡校本「効」誤作「効」。廣記引「出來」作「來出」。鈔宋本作「來出變形」作「使出役神」。(九)○廣記引無「師」。(一〇)○廣記引「反」作「返」、胡校本亦同。(一一)○「拄」鈎沈作「柱」、今依廣記鈔宋本改。

193 劉斌在吳郡時、妻縣有一女、忽夜乘風雨、恍惚至郡城內^(一)、自覺去家正一炊頃^(二)、衣不沾濡^(三)。曉在門上、求通言『我天使也、府君宜起迎我^(四)、當大富貴、不尔必有凶禍。』劉問所來、亦不自知^(五)。後二十許日、劉果誅^(六)。

校記 御覽八百八十五。廣記三百六十。○鄭氏二—72。事見宋書五行志五。

(一)○廣記引作「恍恍」、但鈔宋本作「恍惚」。御覽引同。(二)○「正」鈞沈依鮑氏刊本作「止」、今依四部叢刊本改、廣記引亦同。(三)○御覽四部叢刊本「不」作「小」。(四)○廣記引「迎」作「延」。(五)○「自知」鈞沈依鮑氏刊本作「知、自」、今依四部叢刊本改、廣記引亦同。(六)○廣記引「果」作「被」。

194 護軍琅邪王華有一牛、甚快、當乘之、齒已長。華後夢牛語之曰、『衰老不復堪苦載、載二人尚可^(一)、過此必死。』華謂偶爾夢。與三人同載還府^(二)、此牛果死^(三)。

校記 御覽九百。○淵鑑四三五牛。胡校本32。鄭氏三—89。

(一)○胡校本無「載」。(二)○胡校本「同」下有「醉」。(三)○胡校本無「此」。

195 吳興戴眇家僮客姓王、有少婦美色、而眇中弟恆往就之。客私懷忿怒、具以白眇、『中郎作此、甚為無理^(一)、願遵敕語。』眇以問弟、弟大罵曰、『何緣有此。必是妖怪。敕令撲殺^(二)。』客初猶不敢、約厲分明^(三)、後來閉戶欲縛、便變成大狸、從窗中出^(四)。

校記 御覽九百十二。○胡校本71。鄭氏三—115。

(一)○「理」鈞沈依鮑氏刊本作「禮」、今依四部叢刊本改、胡校本亦同。(二)○四部叢刊本「撲」作「打」、按「打」之訛。胡校本作「格」。(三)○「約厲分明」四部叢刊本作空闕四格、胡校本作「約厲分明」、今暫從鮑

氏刊本。(四)○胡校本「縛」下有「之」。(五)○胡校本「出」上有「跳」。

196 巴東有一道士^(二)、忘其姓名、事道精進、入屋燒香。忽有風雨至、家人見一白鷺從屋中飛出、雨住、遂失道士所在。

校記 御覽九百二十五。○淵鑑四二七鷺。鄭氏五—211。

(一)○「一」今依四部叢刊本補。

197 會稽謝祖之婦、初育一男、又生二蛇、長二尺許、便逕出門去。後數十年、婦以老終。祖忽聞西北有風雨之聲、頃之、見一蛇、長十數丈、腹可十餘圍、入戶遶靈座^(二)、因至柩所、繞數匝、以頭打柩、目血淚俱出、良久而去。

校記 御覽九百三十四。○鄭氏三—82。參看搜神記一四—347、寶奉之妻之事。

(一)○「遶」鈎沈依鮑氏刊本作「造」、今依四部叢刊本改。

198 會稽郡吏鄧縣薛重^(一)、得假還家、夜戶閉、聞妻牀上有丈夫鼾聲^(二)、喚妻、妻從牀上出^(三)、未及開戶、重持刀便逆問妻曰、「醉人是誰。」妻大驚愕、因苦自申明^(四)、實無人意。重家唯一戶、搜索了無所見、見一大蛇、隱在牀腳、酒臭、重便斬蛇寸斷、擲於後溝。經數日而婦死、又數日而重卒。經三日復生、說始死時^(五)、有神人將重到一官府^(六)、見官寮問、「何以殺人。」重曰、「實不曾行凶。」曰、「寸斷擲在後溝、此是何物。」重曰、「此是蛇、非人。」府君愕然而悟曰、「我常用為神^(七)、而敢淫人婦、又妄訟人。」敕左右召來、吏卒乃領一人來、著平巾幘、具詰其淫妻之過、將付獄。重乃令人送還。

校記 御覽九百三十四。○鄭氏三—110。事見廣記四五七引廣古今五行記、文略同。

(一)○御覽引「鄮」下有音注云「音懋」。(二)○四部叢刊本「𩑦」作「眼」。(三)○「久」鈎沈依鮑氏刊本作「妻」、今依四部叢刊本。(四)○四部叢刊本「苦」作「若」。(五)○四部叢刊本無「時」。(六)○四部叢刊本無「神」、而「人」下有「浩」。(七)○四部叢刊本「常」作「當」、或當從。

199 曲阿虞晚所居宅內^(一)、有一阜莢樹^(二)、大十餘圍^(三)、高十餘丈、枝條扶疏、陰覆數家、諸鳥依其上。晚令奴斫上枝、因墮殆死^(四)。空中有罵詈者言^(五)、『虞晚^(六)、汝何意伐我家居。』便以瓦石推擲^(七)、大小並委頓。如此一年漸消滅^(八)。

校記 御覽九百六十。○胡校本 33。鄭氏三—125。參看次條。

(一)○胡校本「晚」作「眩」、下同。(二)○鈎沈排印本奪「樹」、七三年版全集已補。(三)○胡校本「十」誤作「小」。(四)○「墮」鈎沈依鮑氏刊本作「墜」、今依四部叢刊本、胡校本亦同。(五)○「詈」鈎沈依鮑氏刊本無、今依四部叢刊本補、胡校本亦同。「言」鈎沈作「曰」、今依四部叢刊本·胡校本。(六)○四部叢刊本無「虞」。(七)○「推擲」鈎沈依鮑氏刊本作「擲之」、今依四部叢刊本、胡校本亦同。(八)○胡校本「此」誤作「屯」。「一」鈎沈誤作「二」、諸本均作「一」、今依正。胡校本「漸」作「便」。

200 虎晚家有皂莢樹^(一)、有神、隔路有大榆樹。古傳曰、是雌雄。晚被斫、此樹枯死。

校記 類聚八十八。○鄭氏六—273。

(一)○類聚汪氏校語云、「太平御覽九百六十作虞」。即指前條也。按「虎」當作「虞」、此條元屬於與前條同一故事、或是異文歟。

201 太原王仲德年少時^(二)、遭亂避胡賊、絕粒三日、草中臥、忽有人扶其頭呼云、『可起啗棗。』王便寤、瞥見一小兒、長四尺、即隱、乃有一囊乾棗在前、噉之小有氣力、便起。

校記 御覽九百六十五。○天中記五二。淵鑑四〇二棗。胡校本 37。鄭氏五—201。

(一)○胡校本「年」下有「老」、衍。

202 安定人周敬、種瓜時亢旱、鬼為澆水澆瓜^(一)、瓜大滋繁、問姓名不答。還白父、『嘗有惠於人否。』父曰、『西郭樊營先作郡吏、償官數百斛米、我時以百斛助之、其人已死。』

校記 御覽九百七十八。○鄭氏四—177。

(一)○「澆」鈎沈依鮑氏刊本作空闕一格、今依四部叢刊本補。音注云「音輦」。

203 有人家甚富、止有一男、寵恣過常。游市、見一女子美麗^(一)、賣胡粉、愛之無由自達、乃託買粉、日往市得粉便去、初無所言。積漸久、女深疑之、明日復來、問曰、『君買此粉、將欲何施。』答曰、『意相愛樂、不敢自達、然恆欲相見、故假此以觀姿耳。』女悵然有感、遂相許以私^(二)、尅以明夕。其夜安寢堂屋、以俟女來、薄暮果到、男不勝其悅、把臂曰、『宿願始伸於此^(三)。』歡踴遂死。女惶懼、不知所以、因遯去、明還粉店。至食時、父母怪男不起、往視已死矣^(四)。當就殯殮。發篋箇中^(五)、見百餘裹胡粉^(六)、大小一積。其母曰、『殺吾兒者、必此粉也^(七)。』入市遍買胡粉、次此女、比之手跡如先、遂執問女曰、『何殺我兒。』女聞鳴咽、具以實陳。父母不信、遂以訴官。女曰、『妾豈復恡死。乞一臨尸盡哀。』縣令許焉。徑往撫之慟哭、曰、『不幸致此^(九)、若死魂而靈、復何恨哉。』男豁然更生、具說情狀、遂為夫婦、子孫繁茂。

校記 廣記二百七十四。○胡校本 140。鄭氏一—2。

(一)○胡校本無「子」 (二)○廣記鈔宋本無「以」、胡校本亦同。胡校本「私」作「和」。 (三)○鈔宋本「伸」作「申」、胡校本亦同。 (四)○鈔宋本「已死矣」作「死」一字、胡校本同。 (五)○胡校本無「筭」。 (六)○胡校本無「見」。 (七)○鈔宋本無「必」、胡校本亦同。 (八)○鈔宋本「恡」作「惜」。 (九)○胡校本「致」作「至」。

204 許攸夢烏衣吏奉漆案^(一)、案上有六封文書。拜跪曰、『府君當為北斗君、會明年七月^(二)。』復有一案、四封文書云、『陳康為主簿^(三)。』覺後適康至^(四)、曰、『今來當謁。』攸聞益懼、問康曰、『我作道師、死不過作社公、今日得北斗、主簿余為忝矣。』明年七月、二人同日而死。

校記 廣記二百七十六。○萬花谷前集二六。胡校本141。鄭氏四—190。

(一)○萬花谷引「許攸」作「許收」。 (二)○「會」今依廣記鈔宋本。胡校本補。 (三)○萬花谷引「陳康」作「陳康伯」。 (四)○「適」鈎沈作空闕一格、汪氏校語云、「適」原作「王」、據許本改。今從。胡校本無。

205 廣平太守馮孝將男馬子、夢一女人、年十八九歲^(一)、言、『我乃前太守徐玄方之女^(二)、不幸早亡、亡來四年、為鬼所枉殺、按生錄乃壽至八十餘、今聽我更生、還為君妻、能見聘否。』馬子掘開棺視之、其女已活、遂為夫婦^(三)。

校記 廣記二百七十六。○鄭氏一—9。事亦見異苑八·搜神後記四—41、文更詳。

(一)○廣記鈔宋本無「歲」。 (二)○鈔宋本無「乃」。 (三)○鈔宋本「婦」作「妻」。

206 京口有徐郎者、家甚縑縷、常於江邊拾流柴。忽見江中連船^(一)、蓋川而來、逕迴入浦、對徐而泊、遣使往云、『天女今當為徐郎妻。』徐入屋角、隱藏不出、母兄妹勸勵疆之^(二)。使至舫^(三)、先令於別室為徐郎浴、水芬香非世常有、

贈以繪絳之衣。徐唯恐懼、累膝牀端、夜無躊躇接之禮^(四)。女怒遣之使出^(五)、以所贈衣物乞之而退。家大小怨惜煎罵^(六)、遂懊歎卒^(七)。

校記 廣記二百九十二。○胡校本 116。鄭氏一—10。

(一)○胡校本「船」作「舡」、下同。(二)○胡校本「妹」作「煤」、「勵」作「厲」、「之」鈎沈作「出」、今依鈔宋本改。(三)○「使」鈎沈作「未」、今依鈔宋本改。(四)○鈔宋本「躊」作「交」。(五)○汪氏校語云、「怒遣之使出」五字原作「然後發遣」、據明鈔本改。鈔宋本同、依改。(六)○「惜」鈎沈排印本作「情」、今依改。(七)○鈔宋本「歎」下有「而」。

207 侯官縣常有閤下神、歲終諸吏殺牛祀之。沛郡武曾作令、斷之、經一年、曾遷作建威參軍。當去^(一)、神夜來問曾、
『何以不還食。』聲色極惡、甚相譴責。諸吏便於道中買牛共謝之、此神乃去。

校記 廣記二百九十四。○胡校本 120。鄭氏五—207。

(一)○此二字鈎沈奪、今依補。

208 甄沖字叔讓、中山人。為雲社令、未至惠懷縣。忽有一人來通云、社郎。須臾便至、年少、容貌美淨、既坐寒溫、云、「大人見使、貪慕高援、欲以妹與君婚、故來宣此意。『甄愕然曰、『僕長大、且已有家、何緣此理』。』」社郎復云、「僕妹年少、且令色少雙、必欲得佳對、云何見拒。『甄曰、『僕老翁、見有婦、豈容違越。』」相與反覆數過、甄殊無動意。社郎有恚色、云、「大人當自來、恐不得違爾^(一)。』」既去、便見兩岸上有人、著幘捉馬鞭、羅列相隨、行從甚多。社公尋至、鹵簿導從如方伯、乘馬輦^(二)、青幢赤絡、覆車數乘。女郎乘四望車、錦步障數十張、婢十八人來車前^(四)、衣服文彩、所未嘗見。便於甄傍邊岸上張幔屋、舒薦席^(五)。社公下隱漆几^(六)、坐白旃坐褥、玉唾壺、以瑇瑁

為手巾籠、捉白塵尾。女郎卻在東岸、黃門白拂來車立、婢子在前。社公引佐吏令前坐、當六十人、命作樂、器悉如瑠瑯。社公謂甄曰、『僕有陋女、情所鍾愛、以君禮德令茂、貪結親援、因遣小兒已具宣此旨。』甄曰、『僕既老悴、已有室家^(七)、兒子且大、雖貪貴聘、不敢聞命。』社公復云、『僕女年始二十、姿色淑令、四德克備、今在岸上、勿復為煩、但當成禮耳。』甄拒之、轉苦、謂是邪魅、便拔刀橫膝上、以死拒之、不復與語。社公大怒、便令呼三班兩虎來、張口正赤、號呼裂地、徑跳上、如此者數十^(八)、相守至天明、無如之何。便去。留一牽車。將從數十人、欲以迎甄。甄便移至惠懷上縣中住^(九)、所迎車及人至門、中有一人、著單衣幘、向之揖、於此便住不得前。甄停十餘日方敢去、故見二人著幘捉馬鞭隨至家、至家少日而婦病遂亡^(一〇)。

校記 廣記三百十八。○胡校本 99。鄭氏一—5。

(一)○「理」廣記談刻本、黃刻本「里」、汪校本依明鈔本改作「議」、鈞沈以意改作「理」、胡校本亦作「理」、今從。(二)○胡校本「違爾」作「爾違」。(三)○胡校本「輦」作「與」。(四)○「子」鈞沈誤作「十」、今依正。「夾」鈞沈依黃刻本作「來」、今依汪校本改。胡校本亦作「子」「夾」。(五)○胡校本「薦」作「簾」。(六)○「漆」廣記黃刻本、汪校本作「膝」、鈔宋本、明鈔本、胡校本作「漆」、今依改。(七)○鈞沈排印本「室家」作「家室」、諸本皆作「室家」、今依改。(八)○鈞沈依黃刻本「十」下有「次」、汪校本亦同、今依鈔宋本、胡校本刪。(九)○鈞沈奪「至」、今依補。(一〇)○「婦」胡校本亦同。汪校本作「染」、汪氏校語云、「染」原作「歸」、據明鈔本改。

209 秣陵人趙伯倫曾往襄陽、船人以豬豕為禱^(一)、及祭但狔肩而已。爾夕倫尋夢見一翁一姥^(二)、鬢首蒼素、皆著布衣、手持橈櫂、怒之。明發、輒觸沙衝石、皆非人力所禁、更施厚饌、即獲流通。

校記 廣記三百十八。○胡校本 93。鄭氏五—209。

(一)○廣記鈔宋本無「豕」。(二)○「尋」鈎沈·廣記引均作「等」、今依胡校本改。

210 桂陽人李經與朱平帶戟逐焉^(一)。行百餘步、忽見一鬼、長丈餘、止之曰、『李經有命、豈可殺之。無為、必傷汝手。』平乘醉直往經家、鬼亦隨之。平既見經^(二)、方欲奮刃、忽屹然不動^(三)、如被執縛、果傷左手指焉、遂立庭間、至暮乃醒、而去。鬼曰、『我先語汝、云何不從。』言終而滅。

校記

廣記三百十八。○胡校本 94。鄭氏四—147。

(一)當有脫文。○鈔宋本「焉」作「馬」。(二)○鈔宋本「之平」作「平之」。(三)○胡校本「屹」作「仡」。

211 剡縣胡章^(一)、與上虞管雙喜好干戈^(二)、雙死後、章夢見之、躍刃戲其前、覺甚不樂、明日以符帖壁。章欲近行、已汎舟理櫂、忽見雙來、攀留之云、『夫人相知、情貫千載。昨夜就卿戲、值眠、吾即去、今何故以符相厭。大丈夫不體天下之理、我畏符乎。』

校記

廣記三百十九。○胡校本 104。鄭氏四—146。

(一)○「剡」廣記·胡校本均作「郊」、今依鈎沈。(二)○胡校本「喜」作「善」。

212 吳中人姓顧、往田舍、晝行去舍十餘里、但聞西北隱隱、因舉首、見四五百人、皆赤衣、長二丈、倏忽而至、三重圍之。顧氣奄奄不通、輾轉不得、且至晡^(一)、圍不解、口不得語、心呼北斗。又食頃、鬼相謂曰、『彼正心在神、可捨去。』豁如霧除。顧歸舍、疲極臥。其夕、戶前一處、火甚盛而不然、鬼紛紜相就、或往或來、呼顧談、或入去其被、或上頭而輕如鴻毛、開晨失。

校記

廣記三百十九。○胡校本 101。鄭氏五—225。

(一)○「旦」鈎沈·黃刻本作「且」、汪校本·胡校本均作「旦」、今依改。

213 劉道錫與從弟康祖少不信有鬼、從兄興伯少來見鬼、但辭論不能相屈。嘗於京口長廣橋宅東云、『有殺鬼在東籬上。』道錫笑便、問其處^(一)、牽興伯俱去、捉大刀欲斫之。興伯在後喚云、『鬼擊汝』。道錫未及鬼處、便聞如有大仗聲^(二)、道錫因倒地、經宿乃醒。一月日都差。興伯復云、『廳事東頭桑樹上有鬼、形尚孺、長必害人。』康祖不信、問在樹高下、指處分明。經十餘日、是月晦夕、道錫逃闇中、以戟刺鬼所在便還、人無知者。明日、興伯早來^(三)、忽驚曰、『此鬼昨夜那人刺之。殆死、都不能復動、死亦當不久。』康大笑。

校記 廣記三百二十。○胡校本 112。鄭氏四—153。

(一)○「笑、便」鈎沈作「便笑」、諸本皆作「笑、便」、今依正。 (二)○胡校本「仗」作「杖」。 (三)○胡校本「早」作「蚤」。

214 鄴縣故尉趙吉^(一)、常在田陌間。昔日有一蹇人、死埋在陌邊。後二十餘年、有一遠方人過趙所門外、遠方人行十餘步、忽作蹇。趙怪問其故、遠人笑曰、『前有一蹇鬼、故倣以戲耳^(二)。』

校記 廣記三百二十。○胡校本 113。鄭氏四—140。

(一)○胡校本「鄴」作「鄆」。 (二)○胡校本「倣」作「效」。

215 東萊王明兒居在江西、死經一年、忽形見還家、經日命招親好敍平生、云、『天曹許以暫歸。』言及將離語、便流涕問訊鄉里、備有情焉。敕兒曰、『吾去人間、便已一周、思覩桑梓。』命兒同觀鄉閭。行經鄧艾廟、令燒之、兒大驚曰、『艾生時為征東將軍、沒而有靈、百姓祠以祈福、奈何焚之。』怒曰、『艾今在尚方摩鎧、十指垂掘、豈其有

神。』因云、『王大將軍亦作牛、驅馳殆斃、桓溫為卒、同在地獄。此等並困劇理盡^(二)、安能為人損益。汝欲求多福者、正當恭順、盡忠孝順^(三)、無恚怒、便善流無極。』又令可錄指爪甲、死後可以贖罪。又使高作戶限。『鬼來人室內^(四)、記人罪過、越限撥腳、則忘事矣。』

校記 廣記三百二十。○胡校本 107。鄭氏四—135。

(一)○「困」鈎沈作「因」、諸本皆作「困」、今依正。 (二)○鈎沈奪「順」、今依補。 (三)○鈎沈奪「內」、今依補。

216 廣陵劉青松晨起、見一人著公服、資板云^(一)、『用為魯郡太守^(二)。』言訖便去^(三)。去後亦不復見。板來日、復召曰^(四)、『君便應到職。』青松知必死、告妻子處分家事、沐浴^(五)。至晡、見車馬^(六)、吏侍左右^(七)。青松奄忽而絕^(八)。家人咸見其升車、南出百餘步、漸高而沒^(九)。

校記 廣記三百二十一。○胡校本 130。鄭氏四—193。

(一)○胡校本「資板」作「齋版」。 (二)○「用」鈎沈作「召」、今依廣記鈔宋本改、胡校本亦同。 (三)○胡校本「言訖」作「投版」。 (四)○「板」鈎沈作「至」、今依鈔宋本改、胡校本亦同。「召」鈎沈作「至」、今依胡校本改。 (五)○「計洗」鈎沈作「事沐」、今依鈔宋本改、胡校本亦同。 (六)○鈔宋本「車馬」作「馬車」。 (七)○胡校本奪「右」。 (八)○鈔宋本無此句、作空闕六格。胡校本與廣記他本引同。 (九)○胡校本「而沒」作「不見」。

217 豫章太守賈雍有神術^(一)、出界討賊、為賊所殺、失頭、上馬回營、胸中語曰、『戰不利、為賊所傷。諸君視、有頭佳乎、無頭佳乎。』吏涕泣曰、『有頭佳。』雍曰^(二)、『不然、無頭亦佳。』言畢遂死。

校記 廣記三百二十一。○鄭氏一—19。此條廣記諸本皆未著出處、未知鈎沈何據。搜神記二—267、錄異傳（鈎沈6）引此事、文與此略同、廣記或採之搜神·錄異歟、今暫存之而俟後考。

（一）○鈔宋本文頭有空闕一格、或當作「漢」歟。（二）○鈎沈排印本「曰」作「云」、今依諸本改。

218 呂順喪婦^{（一）}、更娶妻之從妹、因作三墓^{（二）}、構累垂就^{（三）}、輒無成。一日順晝臥^{（四）}、見其婦來、就同寢^{（五）}、體冷如冰、順以死生之隔語使去^{（六）}。後婦又見其妹、怒曰、「天下男子復何限^{（七）}、汝乃與我共一壻。作豕不成、我使然也。」俄而夫婦同時俱殮^{（八）}。

校記 廣記三百二十二。○胡校本132。鄭氏四—137。

（一）○鈔宋本校勘記云、「呂順上脫二字」。（二）○鈔宋本「因」作「改」。（三）○鈔宋本「構」作「御名」。

（四）○鈔宋本脫「一日順」三字。（五）○「寢」鈎沈作「衾」、未知何據、今依改。（六）○「之隔」鈔宋本作「□□□□解」、胡校本「隔」下有「解」。（七）○「復」鈎沈作「獨」、未知何據、今依廣記諸本改。（八）○「同時」今依鈔宋本補。

219 衡陽太守王矩為廣州。矩至長沙、見一人長丈餘、著白布單衣白帟^{（一）}、將奏在岸上、呼矩奴子、「過我。」矩省奏為杜靈之、入船共語、稱敘希闊、矩問、「君京兆人、何時發來。」荅矩^{（二）}、「朝發。」矩怪問之、杜曰^{（三）}、「天上京兆、身是鬼、見使來詣君耳。」矩大懼、因求紙筆曰、「君必不解天上書。」乃更作折卷之、從矩求一小箱盛之、封付矩曰、「君今無開、比到廣州^{（四）}、可視耳。」矩到數月悒悒、乃開視、書云、「令召王矩為左司命主簿。」矩意大惡、因疾卒。

校記 廣記三百二十二。○胡校本135。鄭氏四—191。事亦見晉書一〇〇王矩傳。

(一)○「白蛤」二字、今依鈔宋本補。(二)○胡校本「矩」作「云」。(三)○胡校本「杜」下有「答」。(四)○胡校本「比」作「此」。

220 馬仲叔王志都、並遼東人也、相知至厚。叔先亡^(一)、後年忽形見^(二)、謂曰、「吾不幸早亡、心恆相念。念卿無婦、當為卿得婦^(三)、期至十一月二十日^(四)、送詣卿家、但掃除設牀席待之。」至日^(五)、都密掃除施設、天忽大風、白日晝昏。向暮風止、寢室中忽有紅帳自施^(六)、發視其中、牀上有一婦、花媚莊嚴^(七)、臥牀上、纔能氣息。中表內外驚怖、無敢近者。唯都得往、須臾便蘇起坐、都問、「卿是誰。」婦曰、「我河南人、父為清河太守^(八)、臨當見嫁、不知何由、忽然在此。」都具語其意。婦曰、「天應令我為君妻。」遂成夫婦。往詣其家、大喜、亦以為天相與也。遂與之、生一男、後為南郡太守。

校記 廣記三百二十二。○*天中記二〇。胡校本134。鄭氏一—6。

(一)○胡校本「亡」作「王卒」、「王」衍。(二)○胡校本無「年」。(三)○胡校本「當」作「今」。(四)○胡校本「期至」作「當以」、鈔宋本作「當□□□」。(五)○胡校本「至」作「到」。(六)○鈔宋本「寢室」作「客屋」。胡校本「紅」作「屏」。(七)○鈔宋本「媚」作「稱」。(八)○胡校本「河」作「和」。

221 會稽賀思令善彈琴。嘗夜在月中坐、臨風撫奏^(一)。忽有一人、形器甚偉^(二)、著械有慘色。至其中庭稱善^(三)、便與共語。自云是嵇中散、調賀云、「卿下手極快^(四)、但於古法未合^(五)。」因授以廣陵散。賀因得之、於今不絕^(六)。

校記 廣記三百二十四。○御覽五七九引為「世說」、今本世說無此文。天中記四二。胡校本137。鄭氏四—158。

(一)鈔宋本「撫奏」作「鳴彈」、胡校本亦同。御覽引作「鳴弦」。(二)○御覽引「器」作「兒」。(三)○御覽引「至其」作「在」。(四)○御覽引「下手」作「手下」。(五)○御覽引「合」作「備」、胡校本作「便」。

(六)○御覽引「賀因得」作「遂傳」二字、胡校本作「賀遂傳」。

222 鉅鹿有龐阿者、美容儀。同郡石氏有女、曾內覩阿、心悅之。未幾、阿見此女來詣阿、阿妻極妬^(二)、聞之、使婢縛之、送還石家^(三)、中路遂化為烟氣而滅。婢乃直詣石家、說此事。石氏之父大驚曰、「我女都不出門、豈可毀謗如此。」阿婦自是常加意伺察之^(四)。居一夜、方值女在齋中、乃自拘執以詣石氏。石氏父見之愕^(五)、曰、「我適從內來、見女與母共作、何得在此。」即令婢僕於內喚女出^(六)、向所縛者奄然滅焉。父疑有異^(七)、故遣其母詰之。女曰、「昔年龐阿來廳中、曾竊視之^(八)。自爾彷彿即夢詣阿、及入戶即為妻所縛。」石曰、「天下遂有如此奇事。夫精情所感、靈神為之冥著、滅者蓋其魂神也。」既而女誓心不嫁。經年、阿妻忽得邪病、醫藥無徵。阿乃授幣石氏女為妻。

校記 廣記三百五十八。○鄭氏一—14。

(一)○汪氏校語云、「阿」原作「妻」、據明鈔本改。按黃刻本亦作「妻」、鈎沈稿本作「阿」、當以意改。(二)○鈔宋本無「送」。(三)○「婦」鈎沈依黃刻本作「父」、今依汪校本改。(四)○「貽」鈎沈作「貽」、談刻·黃刻·汪校本均作「貽」、鈔宋本作「貽」、七三年版全集已訂之。(五)○鈔宋本「婢」作「奴」。(六)○「疑」鈎沈作空闕一格、七三年版全集已補之。(七)○鈔宋本「視」作「窺」。

223 會稽國司理令朱宗之、常見亡人殯、去頭三尺許、有一青物、狀如覆盆。人或當其處則滅、人去隨復見、凡屍頭無不有此青物者。又云、人殯時、鬼無不暫還臨之。

校記 廣記三百六十。○鄭氏四—134。

(一)○鈔宋本「凡屍」作「凡尸」、上字誤。

224 新埜庾謹母病、兄弟三人、悉在侍疾。忽聞牀前狗鬬聲非常。舉家共視、了不見狗、只見一死人頭在地、猶有血、兩眼尚動。其家怖懼、夜持出於後園中埋之。明旦視之、出在土上、兩眼猶爾。即又埋之、後旦已復出。乃以塼著頭令埋之、不復出。後數日、其母遂亡。

校記 廣記三百六十。○鄭氏二—73。事見搜神後記八—90。

225 東陽丁譁出郭^(一)、於方山亭宿、亭渚有劉散騎遭母艱於京葬還^(二)。夜中忽有一婦自通云^(三)、『劉女郎^(四)。患瘡、聞參軍能治、故來耳。』譁使前、姿形端媚、從婦數人^(五)。命僕具肴饌、酒酣歎曰、『今夕之會、令人無復貞白之操。』丁云、『女郎盛德、豈顧老夫。』便令婦取琵琶彈之^(六)、歌曰、『久聞忻重名^(七)、今遇方山亭、肌體雖朽老、故是悅人情^(八)。』放琵琶、上膝抱頭^(九)。又歌曰、『女形雖薄賤、願得忻作婿、纏綿觀良宵^(一〇)、千載結同契。』聲氣婉媚、令人絕倒。便令滅火、共展好情^(一一)。比曉忽不見。吏云、『此亭舊有妖魅。』

校記 廣記三百六十。○鄭氏三—118。

(一)○鈔宋本「郭」作「都」。(二)○「艱」鈎沈作「喪」、廣記諸本均作「艱」、今依改。(三)○鈔宋本無「一」。(四)○汪氏校語云、「女」字原闕、據明鈔本·陳校本補。鈔宋本作「州女郎」。今依補「女」字。(五)○「婦」鈎沈作「婢」、談刻·黃刻·汪校本皆作「婦」、今依改。(六)○汪氏校語云、「婦」原作「婢」、據明鈔本改。鈔宋本無「婢」「婦」。今從鈎沈。「琵琶」鈎沈排印本作「瑟」、廣記諸本作「琵琶」、今依改、下同。(七)○「忻」鈎沈作「所」、黃刻本刻字難判讀、今依汪校本改。(八)○汪氏校語云、「亦足」原作「故是」、據明鈔本改。鈔宋本作「故足」。今依鈔宋·鈎沈。(九)○鈔宋本「上」上有「跳」、「頭」作「頸」。(一〇)○汪氏校語云、「觀」原作「覲」、「宵」原作「覲」、據明鈔本改。今從汪校。(一一)○鈔宋本「好情」作「情好」。

226 京兆董奇庭前有大樹、陰映甚佳。後霖雨、奇獨在家鄉^(一)、有小吏言云^(二)、『承雲府君來^(三)。』乃見承雲、著通天冠、長八尺^(四)、自稱為方伯某第三子^(五)、有雋才、『方當與君周旋。』明日、覺樹下有異、每晡後無人、輒有一少年、就奇語戲、或命取飲食。如是半年、奇氣強壯、一門無疾。奇後適別墅^(六)、其僕客三人送護、言、『樹材可用、欲貨之、郎常不聽、今試共斬斫之^(七)。』奇遂許之^(八)。神亦自爾絕矣。

校記 廣記四百十五。○胡校本 162。鄭氏三—123。

(一)○胡校本「家鄉」作「庭」。(二)○胡校本句頭有「忽」、而「小」上有「一」、無「言」。談刻·黃刻·汪校本皆無「云」。(三)○談刻·黃刻·汪校本皆「承雲」上有「太」。(四)○胡校本「尺」下有「餘」。(五)○汪氏校語云、「言」原作「有」、據明鈔本改。黃刻本作「稱」、鈎沈所依。胡校本作「敘」。(六)○胡校本「下」作「別」。今依改。(七)○胡校本「今」作「令」。(八)○胡校本「遂許」作「還快」。

227 清河郡太守至、前後輒死。新太守到、如廁、有人長三尺、冠幘皂服、云、『府君某日死^(一)。』太守不應、意甚不樂、催使吏為作亡具^(二)、外頗怪其事^(三)。日中如廁、復見前所見人^(四)、言、『府君今日日中當死^(五)。』三言亦不應。乃言、『府君當道而不道、鼠為死。』乃頓仆地、大如豚。郡內遂安。

校記 廣記四百四十。○胡校本 155。鄭氏三—113。參看本篇王周南之事(鈎沈52)。

(一)○胡校本「某」上有「于」。(二)○汪氏校語云、「乃」原作「崔」、據明鈔本改。胡校本作「催」。今依汪校本。汪氏校語又云、「亡具」原作「主人」、據明鈔本改。今亦依汪校本。(三)○汪氏校語云、「事」原作「日」、據明鈔本改。胡校本句頭有「至」。今暫從汪校本。(四)○胡校本「所見人」作「怪」。(五)○胡校本「今」下有又一「日」、今依從。

228 上虞魏虔祖婢、名皮納、有色、徐密樂之^(二)。鼠乃託為其形而就密宿、密心疑之、以手摩其四體、便覺縮小、因化為鼠而走。

校記 廣記四百四十。○胡校本 154。鄭氏三—114。

(一)○談刻·黃刻·汪校本皆無「徐」。但廣記小題為「徐密」、今從鈎沈、胡校本亦有「徐」。

229 晉陵民蔡興、忽得狂疾、歌吟不恆。常空中與數人言笑、或云、『當再取誰女^(二)。』復一人云、『家已多。』後夜、忽聞十餘人將物入里人劉餘之家^(三)、餘之拔刀出後戶、見一人黑色、大罵曰、『我湖長來詣汝、而欲殺我。』即喚伴群、『何不助余乎^(三)。』餘之即奮刀亂斫^(四)、得一大鼃及狸^(五)。

校記 廣記四百六十九。○胡校本 151。鄭氏三—107。

(一)○胡校本「再取」作「載」。 (二)○談刻本「之」作「人」、誤。黃刻·胡校本不誤。 (三)○「乎」廣記談刻·黃刻·汪校本皆作「耶」、鈔宋本·胡校本作「乎」、今依從。 (四)○「斫」依鈔宋本改、鈎沈·廣記談刻·黃刻·汪校本皆作「砍」。胡校本亦作「斫」。 (五)○胡校本文末有「殺之」二字。

230 江淮有婦人、為性多慾、存想不捨、日夜常醉^(二)。旦起、見屋後二少童^(三)、甚鮮潔、如宮小吏者^(三)、婦因欲抱持、忽成二掃帚^(四)、取而焚之。

校記 廣記三百六十八。○胡校本 89。鄭氏一—21。

(一)○「常」鈎沈作「嘗」、諸本皆作「常」、今依改。 (二)○胡校本「少」作「小」。 (三)○胡校本「宮」作「官」。 (四)○「二」依鈔宋本補、胡校本亦同。

231 東魏徐忘名、還作本郡、卒、墓在東安靈山。墓先為人所發、棺柩已毀。謝玄在彭城、將有齊郡司馬隆、弟進、及東安王箱等^(一)、共取壞棺、分以作車。少時三人悉見患、更相注連、凶禍不已。箱母靈語子孫云、『箱昔與司馬隆兄弟、取徐府君墓中棺為車、隆等死亡喪破、皆由此也。』

校記 廣記三百二十。○胡校本 114。鄭氏五—242。

(一)○鈎沈「東安」誤作「安東」、七三年版全集已正。

232 秦高平李羨家奴健、至石頭岡^(一)、忽見一人、云、『婦與人通情、遂為所殺、欲報讎、豈能見助。』奴用其言、果見人來、鬼便捉頭、奴喚與手^(二)、即使倒地^(三)、還半路便死。鬼以千錢一疋青絞纓袍與奴^(四)、囑云、『此袍是市西門丁與許、君可自著、慎勿賣也^(五)。』

校記 珠林六十七〔百二十卷本八四〕。○鄭氏四—161。

(一)○珠林引「岡」作「岡」。(二)○「喚」鈎沈作「換」、未知何據、今依珠林改。(三)○「使」鈎沈作「時」、文意更通、然珠林諸本皆作「使」、今從。四部叢刊本「倒」作「到」。(四)○珠林引「千」上有「一」。(五)○「慎」今依大正藏本補。

233 宋初^(一)、義興周超^(二)、為謝晦司馬^(三)、在江陵。妻許氏在家^(四)、夜遙見屋裏月光^(五)、一死人頭在地^(六)、血流甚多、大驚怪^(七)、即便失去。後超被法。

校記 御覽八百八十五。廣記一百四十一。○鈎沈本作「一百三十七」、七三年版全集已正。胡校本 36。鄭氏二—63。

(一)二字廣記引有。(二)○胡校本「超」作「起」、下同。(三)○胡校本「為」上有「出」。(四)○御覽四部叢刊本作「妻許在家」、鮑氏刊本作「妻許家在鄴」。(五)廣記引作「有光」。○胡校本作「白光」。「夜」

今依御覽四部叢刊本補，胡校本亦同。（六）○御覽引有「一死」，胡校本亦有。（七）〔甚多大〕三字廣記引有。○御覽四部叢刊本作「甚大」，胡校本亦同。

234

宋永初三年（一）、吳郡張縫家（二）、忽有一鬼、云、『汝分我食、當相祐助。』便與鬼食、舒席著地、以飯布席上、肉酒五肴。如是鬼得便、不復犯暴人（三）。後為作食、因以刀斫其所食處、便聞數十人哭、哭亦甚悲、云、『死何由得棺材（四）。』又聞云（五）、『主人家有梓船（六）、奴甚愛惜、當取以為棺（七）。』見擔船至（八）、有斧鋸聲（九）、治船既竟（一〇）。聞呼喚舉尸著船中（一一）、縫眼不見（一二）、唯聞處分、不聞下釘聲（一三）、便見船漸漸升空（一四）、入雲霄中、久久滅（一五）、從空中落船、破成百片（一六）、便聞如有百數人大笑云（一七）、『汝那能殺我（一八）。我當為汝所困者邪（一九）。但知惡心、我憎汝狀（二〇）、故破船壞耳（二一）。』縫便回意奉事此鬼（二二）、問吉凶及將來之計、語縫曰、『汝可以大甕著壁角中、我當為覓物也。』十日一倒、有錢及金銀銅鐵魚腥之屬。

校記 廣記三百二十三。珠林六十七（百二十卷本八四）。○鄭氏四—179。

（一）○珠林「宋」誤作「晉」。（二）〔縫〕廣記引作「隆」。（三）○廣記引無自「便與鬼食」以至此、凡六句二十七字。按此二十七字當在「便回意奉事此鬼」之下。（四）○廣記引無「材」。（五）○珠林引無「云」。（六）○廣記引「梓」作「破」。（七）○廣記引無「以」。（八）○廣記引「擔」作「取」。（九）○廣記引「斧」誤作「釜」。（一〇）○廣記引作「日既暝」。（一一）○廣記引「著」作「置」。「船」鈎沈作「棺」、今依改。（一二）○廣記引「眼」作「皆」。（一三）○廣記引無此句五字。（一四）○廣記引無「漸」一字。（一五）○廣記引作「及滅後」（一六）廣記引無此二句。（一七）○廣記引「便」作「復」、但鈔宋本作「便」。「百數」鈔宋本作「數百」。廣記談刻・黃刻・汪校本作「數十」。（一八）○廣記引句末有「也」。（一九）○廣記引無此句八字。（二〇）○廣記引以上二句作「但向以意惡我憎汝」、鈔宋本作「但以意惡向我憎汝狀」。（二一）廣

記引作「隱沒汝船〔耳〕」。珠林六十七〔引至此為止〕。○珠林大正藏本「破」作「排」、四部叢刊本作「撲」。廣記鈔宋本作「隱沒汝」作「擺被」二字。未知鈎沈何據、但今暫從鈎沈。 (二二二)〔縫〕本作「隆」、承上文改、下同。

235 宋高祖永初中^(二)、張春為武昌太守時、人有嫁女^(三)、未及升車、忽便失性、出外毆擊人乘云^(四)、『已不樂嫁俗人。』巫云^(四)、『是邪魅。』乃將女至江際^(五)、擊鼓以術祝治療。春以為欺惑百姓^(六)、制期須得妖魅^(七)。後有一青蛇來到巫所、即以大釘釘頭。至日中、復見大龜從江來、伏前、更以赤朱書背作符、更遣去入江^(八)。至暮有大白鼉從江中出^(九)、乍沉乍浮、向龜隨後催逼、鼉自忿死、冒來先人幔^(一〇)、與女辭訣。女慟哭云^(一一)、『失其姻好^(一二)。』自此漸差。或問巫曰、『魅者歸於何物^(一三)。』巫云、『蛇是傳通、龜是媒人、鼉是其對。』所獲三物、悉示春^(一四)。春始知靈驗。

校記 御覽九百三十二。*珠林三十一〔百二十卷本四二〕。○淵鑑四四一鼉。胡校本 64。鄭氏五—221。事又見廣記四六八引廣古今五行記。

(一)○珠林引「宋高祖」作「晉」、誤。(二)○珠林引無「有」。(三)○御覽四部叢刊本「云」誤作「玄」。鮑氏刊本「乘」作「垂」。(四)〔自「云」至「巫」〕珠林引作「云、不樂嫁女家事俗巫」(五)〔至「江」〕已上亦見珠林三十一、有「至」字、據補。○胡校本「至」作「巫」。(六)○胡校本「欺」作「誑」。(七)○御覽鮑氏刊本「制」作「刻」、鈎沈同、御覽四部叢刊本·胡校本「制」、今依改。(八)○御覽四部叢刊本引無「去」。御覽引「江」作「立」、胡校本作「江」。(九)○胡校本無「白」。(一〇)○「自忿死、冒來先」六字、胡校本作「自忽冒死先來」。又「幔」作「慢」。(一一)○胡校本「慟」作「痛」。(一二)○鈎沈依御覽鮑氏刊本作「姻好」、四部叢刊本作「因好」、胡校本作「好因」。(一三)○胡校本「魅」上有「三」。(一四)○「示春」鈎沈依鮑氏刊本作「是魅」、四部叢刊本·胡校本均作「示春」、今依改。

236 宋初^(一)、淮南郡有物髡人髮^(二)、太守朱誕曰、『吾知之矣。』多置竊以塗壁^(三)。夕有數蝙蝠^(四)、大如雞、集其上。不得去、殺之乃絕。屋簷下已有數百人頭髻^(五)。

校記 御覽九百四十六。廣記四百七十三。○天中記五九。淵鑑四四七蝙蝠。胡校本 55。鄭氏三一 105。
(一)〔宋初〕二字廣記引有。(二)〔髡人髮〕廣記引作「取人頭髻」。(三)原注云、「竊、音離」。○廣記引「置」作「買」。(四)〔數〕廣記引作「一」。(五)〔屋簷下〕廣記引作「觀之、鈎簾下」。○廣記鈔宋本「屋簷」作「屋廡」。

237 有貴人亡後、永興令王奉先夢與之相對如平生。奉先問、『還有情色乎^(一)。』答云、『某日至其家^(二)、問婢。』後覺、問其婢、云、『此日魘夢郎君來^(三)。』

校記 廣記二百七十六。○胡校本 143。鄭氏四— 141。
(一)○汪校本「還」作「遠」、黃刻本同、胡校本作「還」。(二)○胡校本「日」作「已」。(三)○「魘」汪校本作「某」、黃刻本作「其」、胡校本作「魘」。

238 徐羨之為王雄少傳主簿^(一)、夢父作謂曰^(二)、『汝從今已後、勿渡朱雀桁、當貴。』羨之後行半桁、憶先人夢、迴馬、而桁折^(三)。以此除主簿、後果為宰相。

校記 廣記二百七十六。○胡校本 144。鄭氏二— 55。
(一)○鄭氏依宋書四三徐羨之傳改「雄」為「雅」。(二)○鄭氏依宋書改「作」為「祚之」。(三)○胡校本「而」下有「桁折」二字、當從。

239 吳郡張茂度在益州時，忽有人道朝廷誅徐羨之傳亮謝晦三人，遂傳之紛紜^(一)，張推問道^(二)，『造言之主，何由言此。』答曰『實無所承，恍忽不知言之耳。』張鞭之，傳者遂息，後乃驗^(三)。

校記 占經一百十三。○鄭氏一—34。

(一)○占經庫本無「之」。(二)○庫本無「道」。(三)○庫本文末有「日月正與符同」一句。

240 景平元年，曲阿有一人病死，見父於天上，父謂曰^(一)，『汝算錄正餘八年，若此限竟^(二)，死便入罪謫中。吾比欲安處汝，職局無缺者^(三)，惟有雷公缺，當啟以補其職。』即奏按入內，便得充此任。今至遼東行雨，乘露車中有水^(四)，東西灌灑，未至於中路，復被符至遼西。事畢還，見父苦求還云，『不樂處職。』父遣去，遂得蘇活。

校記 廣記三百八十三。○鈎沈稿本作「三百七十三」，七三年版全集已訂之。鄭氏四—189。

(一)○「父謂曰」廣記汪校本·黃刻本均作「謂父曰」，鈎沈以意改。(二)○鈎沈依黃刻本「限」作「恨」，今依汪校本改。鈔宋本無「此」。(三)○鈎沈依黃刻本「職」作「破」，今依汪校本改。(四)○汪氏校語云，「中有」原作「牛以」，據明鈔本改。今從汪校本。

241 元嘉初，散騎常侍劉儁家在丹陽郡^(一)。後嘗閒居，而天大驟雨^(二)，見門前三小兒，皆可六七歲，相牽狡獪^(三)，而並不沾濡。儁疑非人^(四)。俄見共爭一瓠壺子，儁引彈彈之，正中壺，霍然不見。儁得壺，因掛閣邊。明日，有一婦人入門，執壺而泣^(五)，儁問之，對曰^(六)，『此是小兒物^(七)，不知何由在此。』儁具語所以^(八)，婦持壺埋兒墓前。間一日，又見向小兒持來門側，舉之，笑語儁曰，『阿儁已復得壺矣。』言終而隱。

校記 廣記三百二十四。御覽三百五十。○淵鑑三三五彈。胡校本11。鄭氏四—175。

(一)○御覽引無「常持」、胡校本亦無。胡校本「僞」作「雋」。(二)○廣記引作「閒居、而天大」作「遇」一字、廣記鈔宋本「遇」作「大」。胡校本與御覽引略同、「驟」作「□」。(三)○廣記引「牽」作「率」、胡校本亦同。御覽引有音注云、「獐、音會」。(四)○廣記引無此句。(五)○自「僞得壺」以至「執壺」、御覽引作「僞出、人問前得一壺」、胡校本略同、但「人問」作「問人」。(六)○御覽引無「僞問之對」四字、胡校本同。(七)○廣記引「小」作「吾」。(八)○御覽·胡校本引至此為止、而「語所以」作「說之」、胡校本亦同。

242

元嘉九年、征北參軍明襲之有一從者^(一)、夜眠大魘、襲之自往喚之、頃間不能應、又失其頭髻、三日乃寤、說云、
『被三人捉足、一人髻之。忽夢見一道人、以丸藥與之、如桐子。令以水服之。』及寤、手中有藥、服之遂瘥^(二)。

校記 廣記二百七十六。○胡校本 145。鄭氏三—106。

(一)○「襲」、汪校本作「裔」、胡校本作「禱」、鈎沈依黃刻本作「襲」、「襲」是「裔」或體、今依鈎沈、下同。胡校本「有一」作「值」。(二)○鈔宋本·胡校本「瘥」均作「差」。

243

元嘉九年、南陽樂遐嘗在內坐^(一)、忽聞空中有人呼其夫婦名甚急^(二)、半夜乃止^(三)、殊自驚懼^(四)、後數日、婦屋後還、忽舉體衣服總是血^(五)、未一月、而夫婦相繼病卒^(六)。

校記 御覽八百八十五。廣記三百六十。○天地瑞祥志一七。鄭氏二—64。

(一)○御覽引無「內」。瑞祥志引無「坐」。(二)○瑞祥志引無「聞」「人」。(三)○瑞祥志句頭有「半日」二字。御覽鮑氏刊本「日」作「年」。(四)○瑞祥志引無此句四字。(五)○瑞祥志引「婦屋後還忽舉體」七字作「夜」一字。廣記·瑞祥志引「總」作「悉」、御覽引作「惣」。(六)○瑞祥志引「而」作「日」。

244 元嘉中交州刺史太原王徽始拜、乘車出行、聞其前錚錚有聲^(一)、見一輜車當路、而餘人不見、至州遂亡。

校記 廣記三百六十。○鄭氏二—65。

(一)○「錚錚」汪校本·黃刻本均作「錚鋒」、鈎沈或以意改歟。

245 元嘉中、益州刺史吉翰遷為南徐州。先於蜀中載一青牛、每常自乘^(一)、恆於目前養視、翰遭疾多日、牛亦不肯食、

及亡、牛流涕滂沱。吉氏喪未還都、先遣驅牛向宅^(二)、牛不肯行、知其異^(三)、即待喪^(四)、喪既^(五)、下船便隨去。

校記 御覽九百。○天中記五五。淵鑑四三五牛。胡校本30。鄭氏三—90。

(一)○「每」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「下」、今依御覽四部叢刊本改。胡校本亦作「下」。而「乘」下有「之」。

(二)○胡校本「向」作「回」。

(三)○胡校本「知」上有「人」。

(四)○胡校本「待喪」作「止」。

(五)○胡

校本「喪」上有「待」。

246 宋吉翰從弟名譽石^(一)、先作檀道濟參軍。嘗病、因見人著朱衣前來、揖云、「特來相迎^(二)」。『譽石厚為施設求免。

鬼曰、「感君延接、當為少停。』乃不復見。譽石漸差。後丁艱、還壽陽、復見鬼曰、「迎使尋至^(三)、君便可束裝^(四)。』

譽石曰、「君前已留懷、今復得見慙否。』鬼曰、「前召欲相使役故停耳。今泰山屈君為主簿、又使隨至^(五)、不可辭

也。』便見車馬傳教、油戟羅列於前^(六)、指示家人、家人莫見也^(七)。譽石介書呼親友告別、語笑之中、便奄然而盡。

校記 廣記三百二十三。○鄭氏四—194。

(一)○「宋吉翰」汪校本、鈎沈均作「吉未翰」、今依鈔宋本改。

(二)○鈔宋本「特」作「故」。「相」鈎沈作

「將」、未知何據、今依廣記引改。

(三)○「使尋至」鈔宋本作「尋至虎」。

(四)○汪校本「裝」作「粧」、

黃刻本同。鈔宋本作「裝」。

(五)○「又使」鈔宋本作「先迎」。

(六)○「油」鈎沈稿本空闕一格、今依汪校

476

地獄即空。』徙著百里城中、其在此中者、皆奉佛法弟子、當過福舍。七日隨行、所作功德有少有無者。又見呼十人^(五九)、當上生天、有車馬侍從迎之^(六〇)、升虛空而去。復見一城^(六一)、縱廣二百餘里^(六二)、名為『受變形城^(六三)』。云、生時未聞道法、而地獄考治已畢者^(六四)、當於此城更受變報^(六五)。入此門^(六六)、見當有數千百土屋^(六七)、有坊巷^(六八)、中央有大瓦屋^(六九)、當廣五千餘步^(七〇)、屋下有五百餘吏^(七一)、對錄人名作善惡者行狀^(七二)、受所變身形之路^(七三)、各從其所趣而去^(七四)。殺生者云當作蜉蝣蟲^(七五)、朝生夕死、若出為人^(七六)、常當短命^(七七)。偷盜者作猪羊身、屠肉償人。淫逸者作鴿驚蛇身^(七八)。兩舌者作鴟鴞鵂鶩^(七九)、惡聲人聞、皆呪令死。抵債者為驢騾馬牛魚鱉之屬^(八〇)。大屋下有地戶北向^(八一)、一戶南向。呼從北戶人^(八二)、出南戶者、皆變身形作鳥獸^(八三)。又見一城、縱廣百里^(八四)、其中瓦屋^(八五)、安居快樂。云、生時不作惡行、不見大道、亦不受罪、名為鬼城、千歲得出為人^(八六)。又見一城、廣五千餘步^(八七)、名為地獄^(八八)。中罰謫者不堪苦痛、還家索代、家為解謫、皆在此城中^(八九)。男女五六十萬^(九〇)、皆裸形無服、飢困相扶、見泰叩頭啼哭。泰問吏、『天道地獄道門、相去幾里。』曰、『天道地獄道門相對^(九一)。』泰按行匝還^(九二)、主者問、『地獄如法否^(九三)。』卿無罪、故相挽為水官都督^(九四)、不爾與獄中人無異。『泰問、『人生何以為樂^(九五)。』主者言、『唯奉佛弟子精進不犯禁戒為樂耳。』又問、『未奉佛時、罪過山積、今奉佛法^(九六)、其過得除否^(九七)。』曰、『皆除。』主者又召都錄使者、問、『趙泰何故死來^(九八)。』使開滕檢年紀之籍^(九九)、云、『有餘算三十年^(一〇〇)、橫為惡鬼所取、今遣還家。』由是大小發意奉佛、為祖父母及弟懸幡蓋^(一〇一)、誦法華經、作福會也^(一〇二)。

校記 廣記一百九。辯正論八〔信毀交報篇第八〕注〔大正藏本七〕。○*義楚六帖二。胡校本 146。鄭氏五— 244。事又見冥祥記〔鈎沈 4〕。參看珠林六引趙泰傳。

（一）亦見辯正論八注引、〔邱〕作「丘」。○以下依辯正論之注皆在鈎沈稿本欄外。〔丘〕鈎沈依黃刻本作「邱」、今依辯正論・汪校本・胡校本改。（二）〔論注引〕「進」作「思」。（三）〔宋〕論注作「晉」、誤。又無「十」字、作「七月三日」。（四）又〔論注引〕「忽」作「卒」。○胡校本同。（五）〔論注引〕「微」作「故」。（六）○

論注引・胡校本「伸」作「申」。(七)○論注引「鳴」作「聲」。(八)論注作「索飲食便起」。○胡校本作「索求飲食便起」。廣記鈔宋本無「訖」。(九)論注「鐵」下有「端正」二字。○辯正論宋・元・明本作「端正」、而大正藏本止作「正」一字。今依補二字。(一〇)○論注引無「見」。(一一)○胡校本「十」作「千」、疑訛誤。(一二)「五六十」下論注作「如此」。○「五六十」下鈎沈依廣記引作「主吏著皂單衫」、今依鈎沈注所引論注改。論注大正藏本無「人」「者」、而「主」作「注」、「科」作「斷」。鈎沈注引與宋・元・明本同。(一三)○廣記引「泰」上有「將」、今依刪。(一四)○論注引「西」下有「向」。(一五)論注「斷勘」句作「科出案名」。(一六)○鈎沈排印本「過」作「故」、今依鈎沈稿本改、廣記・論注・胡校本皆同。(一七)○廣記引無「何」。(一八)論注「師」作「部」、「督」作「都」。○大正藏本作「督」。胡校本作「部」、而「辭恆」作「□□」。(一九)○胡校本「三」作「五」、誤。(二〇)論注「祠」作「祀」。(二一)「論注」「佛」下有「法」字。(二二)「論注」「生」作「死」。○鈎沈依廣記作「生」、今依論注改。胡校本「慈心布施死在福」作空闕六格。(二三)「論注」「穩」作「隱」。○廣記鈔宋本・胡校本亦同。(二四)論注「所為」作「所事」、「上」作「亦」。○今依論注改。鈎沈排印本脫「上」字、七三年版已補。(二五)○論注「斷」作「科」。胡校本「所為(所事)」下作空闕六格、而「竟」作「畢」。(二六)○論注大正藏本「書」作「畫」。(二七)論注「此處」下有「當歸索代」四字。○今依論注補此句。(二八)○論注引「官」作「館」。胡校本「水」作「令」。(二九)「論注」「馬」下有「兵」字。○今依補。(三〇)「論注」「男子」作「男女」。○今依論注改。廣記鈔宋本・胡校本亦同。論注又作「五六千人」。(三一)「論注」「火」作「大」、下同。○胡校本・廣記鈔宋本亦作「大」。(三二)「論注」「縱」作「橫」。(三三)○胡校本「千丈」作「大」。(三四)論注「劍」下有「上人著」三字。(三五)「論注」「火」仍作「大」。(三六)○明版論注「火」作「大」、胡校本亦作「大」、而「上」作「下」。(三七)論注「假」作「毀」。○「毀」廣記汪校本・黃刻本作「假」、胡校本・論注大正藏本作「殿」、今依鈎沈注及廣記鈔宋本改。(三八)「論注」「泰

見」二字到、「一弟」作「二弟」。○廣記鈔宋本·胡校本均作「見泰」。(三九)論注無「其」字。(四〇)論注「為有」二字作「為其於」三字。「幡」下無「蓋」字。○今依論注補「為其於」三字。(四一)(論注)又無「轉法華經」四字。(四二)○胡校本無「願」。(四三)○論注「往」作「徑」。(四四)論注「云」下有「名」字。○胡校本「光大舍」作空闕三格。(四五)論注「重」下有「黑」字。○鈎沈稿本脫「黑」字、廣記諸本·胡校本·論注皆有「黑」字、今依補。(四六)○論注大正藏本「壁」作「壁」。(四七)(論注)又「日」作「目」。○胡校本「耀」作「輝」。(四八)論注「象」作「顧負」二字。○鈎沈依廣記引「伏」下有「象」字、今依論注改。汪氏校語亦云、「負」原作「象」、據明鈔本改。廣記引「師」作「獅」、論注·胡校本作「師」、下同。論注引無「前」。(四九)論注無「大」字。○廣記鈔宋本·胡校本亦無。(五〇)(論注)「餘」作「六」。○廣記鈔宋本·胡校本亦作「六」、今依改。(五一)(論注)「日」作「白」。○大正藏本作「日」、同校勘云、宋·元·明版作「白」。今從鈎沈所引論注改。(五二)(論注)「牀」作「座」。(五三)論注「名」字作「四坐並」三字。「薩」下有「又」字。○鈎沈注當作「名字作並」、今從論注改。又大正藏本無「又」字、但宋·元·明版引有。(五四)(論注)泰問「吏」下有「人是」。○論注宋·元·明版如鈎沈注所云、而下「吏」作「答」。大正藏本作「泰問吏人、吏曰」。今依鈎沈所引論注補「是」。(五五)○論注引無「此」字。(五六)(論注)「言」作「云」。(五七)(論注)「欲」下有「慈」字。論注「獄」下有「中」字。○今皆從論注。論注大正藏本「云」下有「言令」二字、宋·元·明版作「今」。(五八)論注「有」下有「百」字。(五九)論注「即時」起作「即空。從著百里城中。其在此中者、皆奉佛法弟子、當過福舍。隨行七日、所作功德、有少無者。又見呼」云云。○今依論注補。(六〇)(論注)「車馬」下有「侍從」二字。○今依論注補。(六一)(論注)「去」下有「出」字、無「云」字。○鈎沈「城」下有「云」、大正藏本有「云」字、宋·元·明版引無。胡校本「一」作「三」、而無「云」。今依刪「云」字。(六二)○鈎沈稿本脫「餘」、廣記汪校本·黃刻本·胡校本·論注皆有、今依補。(六三)(論注)「變」上有「吏」字、當衍。

○胡校本「受」作「更」。(六四)「來不」二字。論注作「時末」。○今從論注改。(六五)「論注」「受更」二字到。○今依論注。(六六)「論注」「北」作「此」。○今從論注。(六七)「論注」「見」下有「當有」二字。(又)「土」作「上」。「百」作「萬」。○今依論注補「當有」二字。大正藏本作「土」、宋・元・明版作「上」。(六八)「論注」「屋」下有「有坊巷」三字。○今依論注補。(六九)○「大」字今依諸書引補。稿本亦有。(七〇)「論注」「廣」上有「當」字、「十」作「千」。○今依論注補改。胡校本亦有「當」字。大正藏本作「十」、宋・元・明版作「千」。(七一)○「屋」字今依論注補。(七二)「論注」「事」作「者行」二字。○今依論注改。論注「錄」作「收」。(七三)「論注」「是」作「所」。○今依論注改。胡校本「受是」作「是受」。(七四)「論注」「路」下有「各」字。「趨」作「趣」、下有「而」字。○今皆依論注補改。胡校本亦作「趣」。(七五)「論注」「殺」下有「生」字。○今從。(七六)「論注」「若」下有「出」字。○今從。(七七)「論注」「常」下有「當」字。○今從。(七八)「論注」「逸」作「佚」。○大正藏本作「姪逸」、而校勘記云、明版「逸」作「佚」。「鵠」廣記諸本引作「鵠」、胡校本亦同、今依論注改。胡校本「驚」作「鴛」。(七九)「論注」「惡」作「兩」。「鵠」下四字作「鴛鵠鵠」。○「兩」今從論注。廣記汪校本「鴛」作「鵠」、黃刻本作「鵠」、鈔宋本作「鴛鵠鵠」、論注大正藏本作「鴛鵠鵠」。今暫從鈎沈。(八〇)「論注」「驢」下有「驟」字。○今從。胡校本無「馬」。「鼈」鈎沈排印本作「鰲」、今依鈎沈稿本・論注・胡校本。(八一)「論注」「房」作「戶」。○廣記鈔宋本亦作「戶」、今依改。胡校本「房」下有「一戶」二字。(八二)○「人」鈎沈依廣記作「又」、今依論注改。(八三)○廣記鈔宋本「鳥獸」二字不明。(八四)○胡校本「百」作「十」。(八五)論注「其」下有「中」字。○今從。胡校本「屋」作「房」。(八六)「論注」「生時」起作「生時不作惡行、不見大道、亦不受罪、名為鬼城、千歲云云」。○今從鈎沈注所引改。大正藏本「大」作「天」。鈎沈依廣記作「生時不作惡、亦不為善、當在鬼趣、千歲」云云。(八七)論注「廣下」無「有」字。○今從刪之。廣記鈔宋本・胡校本皆無。(八八)「論注」「地」下有「獄」。○今依論

注補。廣記鈔宋本「獄」下有「池」字。（八九）（論注）「苦痛」下有「還家索代、家為解謫、皆在此城中」三句。○今依論注補。大正藏本第一句作「還歸索一代」、校勘記云、元·明版無「一」字。（九〇）○論注「六」下有「十」字、今依補。（九一）（論注）「啼哭」下有「泰問吏、『天道地獄道門、相去幾里。』」曰、「天道地獄道門相對。」「四句。○今依論注補。（九二）（論注）「畢」作「匝」。○今依改。（九三）（論注）「否」作「不」。（九四）（論注）「免」作「使」。○廣記黃刻本作「免」、汪校本作「挽」、今依汪校本改。胡校本「故」作「過」、「使」作「僕」、疑訛。（九五）（論注）「生」作「死」、「以」作「者」。胡校本「何以」作「以何」。（九六）論注「今奉」下無「佛」字。（九七）（論注）「否」作「不」。（九八）（論注）「泰」作「文和」二字。○廣記鈔宋本·胡校本亦同。（九九）○論注大正藏本「檢」作「視」。胡校本「紀」誤作「犯」。（一〇〇）論注無「云」字、「有」下有「餘」字。○「餘」字今依補。（一〇一）論注「祖」下有「父母」二字、「及」下有「二」字。○今依補「父母」二字。胡校本「及」下有「一」字。（一〇二）論注末「凡十字」作「懸幡蓋、作福會也」。○今依補「會」字。

248 蔡廓作豫章郡、未發^(二)、大兒始迎婦在渚次^(三)、兒欲渡婦舡、衣挂舡頭、遂墮水即沒。徐羨之作揚州、登敕兩岸、厚賞漁人及崑崙、共尋覓、至三更不得。婦哀泣之間、髣髴如夢聞壻告之曰^(四)、「吾今在卿船下。」以告婢、婢白之。令水工沒覓、果見坐在舡下^(四)、初出水、顏色如平生。

校記 御覽三百九十六。○胡校本 40。鄭氏四——143。

（一）○「未」鈎沈依鮑氏刊本作「水」、今依四部叢刊本改、胡校本亦同。（二）○胡校本「渚」作「路」。（三）○「壻」四部叢刊本作「聲」、誤。胡校本作「聲」。（四）○胡校本「見」下有「尸」字。

249 宋永興縣吏鍾道、得重病初差、情欲倍常。先樂白鶴墟中女子、至是猶存想焉。忽見此女子、振衣而來、即與燕好。是後數至^(二)。道曰、『吾甚欲雞舌香。』女曰『何難。』乃掬香滿手以授道^(三)。道邀女同含咀之^(四)。女曰、『我氣素芳、不假此。』女子出戶、狗忽見隨咋殺之、乃是老獺。口香即獺糞、頓覺臭穢。

校記 廣記四百六十九。○胡校本 150。鄭氏三—97。

(一)○胡校本奪「後」。(二)○「掬」鈎沈排印本作「掏」、今依稿本・廣記諸本改。(三)○胡校本無「咀」。

250 近世有人、得一小給使、頻求還家、未遂。後日久、此吏在南窗下眠^(一)。此人見門中有一婦人^(二)、年五六十、肥大行步艱難。吏眠失覆、婦人至牀邊、取被以覆之^(三)、回復出門去。吏轉側衣落、婦人復如初。此人心怪、明問吏、以何事求歸。吏云、『母病。』次問狀貌及年、皆如所見、唯云形瘦不同。又問、『母何患。』答云、『病腫耳。』即與吏假使出^(四)、便得家信、云母喪。追計所見之肥、乃是其腫狀也。

校記 廣記三百二十三。○胡校本 136。鄭氏四—138。

(一)○胡校本奪「南」。(二)○胡校本奪「此」。(三)○胡校本「被」作「錦裳」。(四)○胡校本「腫」下有「耳」、今從胡校本而刪廣記「即」上之「而」字。胡校本又「使」作「始」。

251 焦湖廟祝有柏枕、三十餘年、枕後一小坼孔。縣民湯林行賈經廟祈福、祝曰、『君婚姻未。可就枕坼邊。』令林入坼內、見朱門瓊宮、瑤臺勝於世、見趙太尉為林婚、育子六人、四男二女、選林祕書郎、俄遷黃門郎。林在枕中、永無思歸之懷、遂遭違忤之事。祝令林出外間、遂見向枕、謂枕內歷年載、而實俄忽之間矣。

校記 書鈔一百三十四。案廣記二百七十六(二百八十三)引幽明錄。又寰宇記一百二十六引搜神記、幽明錄云、宋世焦湖廟有一柏枕、或云玉枕。枕有小坼。時單父縣人楊林為賈客、至廟祈求。廟巫謂曰、君欲好婚否。林曰、幸

甚。巫即遣林近枕邊。因人坼中、遂見朱樓瓊室。有趙太尉在其中、即嫁女與林、生六子、皆為祕書郎。歷數十年、並無思歸之志。忽如夢覺、猶在枕傍、林愴然久之。

皆與書鈔文異。云玉枕者搜神記說也。○按廣記引與寰宇記引文略同、「宋世」二字廣記引有、然則是宋世之故事、當不見於搜神記。但寰宇記引無「宋世」二字、而且寰宇記所引文不見今本搜神記、又此條未見他書引作搜神記。

淵鑑三七八枕（與書鈔引文同）。胡校本 115（與廣記引文同）。鄭氏一——3。

252 宋時餘杭縣南有上湘湖^(一)、中央作塘。有一人乘馬看戲、將三四人至岑村飲酒、小醉、暮還。時炎熱、因下馬入

水中、枕石眠、馬斷走歸^(二)、從人悉追馬^(三)、至暮不返^(四)。眠覺日已向晡、不見人馬、見一婦來、年可十六七、云、

『女郎再拜、日既向暮^(五)、此間大可畏、君作何計。』問、『女郎姓何。那得忽相聞^(六)。』復有一年少、年可十三四、

甚了了、乘新車、車後二十人至、呼上車云、『大人暫欲相見。』因迴車而去。道中駱驛把火^(七)、尋見城郭邑居^(八)、

至使人城^(九)、進廳事上^(一〇)、有信幡題云『河伯^(一一)。』俄見一人、年三十許、顏容如畫、侍衛繁多、相對欣然。敕行

酒炙^(一二)、云、『僕有小女、乃聰明^(一三)、欲以給君箕箒。』此人知神、敬畏不敢拒逆^(一四)。便敕備辦、令就郎中婚^(一五)、

承白已辦。送絲布單衣及紗袷裙紗衫襪履^(一六)、皆精好、又給十小吏、青衣數十人。婦年可十八九、姿容婉媚^(一七)、

便成禮^(一八)。三日後大會客^(一九)、拜閤、四日云、『禮既有限、當發遣去。』婦以金甌麝香囊與婿別^(二〇)、涕泣而

分^(二一)、又與錢十萬藥方三卷云、『可以施功布德』復云、『十年當相迎。』此人歸家、遂不肯別婚、辭親出家、作道

人。所得三卷方者^(二二)、一卷脈經、一卷湯方^(二三)、一卷丸方、周行救療、皆致神驗。後母老邁兄喪^(二四)、因還婚宦。

校記 珠林七十五（百二十卷本九二）。廣記二百九十五。○胡校本 88。鄭氏一——4。本事亦見搜神記四——76。

汪氏校語云、「按『法苑珠林』九二卷（百卷本作七五）引本條、首有「幽明錄」三字。據『太平廣記』二九五引、正作『幽明錄』。是本條出自『幽明錄』無疑。然『法苑珠林』在本條前又引『搜神記·馮夷』條、以釋本條

中所謂「何伯」者、應在本條之末、不知何時竄本條前、而「出『搜神記』」四字、仍留在本條條末。致本書誤收、當刪正。」按汪說是也。

- (一)○珠林·廣記引均無「宋時」二字、鈎沈據珠林前條馮夷之事「宋時、弘農華陰潼鄉陽首里人也。服八石、得水仙道、為河伯。」引二字。搜神記引「宋時」作「吳」、汪氏校語以為後人妄增。廣記鈔宋本無「南」。珠林引「湖」作「湘」、下同。廣記·胡校本均作「湖」、鈎沈改作「上湘湖」。或由今蕭山縣有湘湖。今暫從鈎沈。(二)○胡校本「斷」下有「轡」。(三)○珠林引「人」作「又」。胡校本作「者」。(四)○珠林大正藏本「返」作「反」、四部叢刊本作「及」。(五)○廣記鈔宋本「暮」作「晚」。(六)○珠林大正藏本「聞」作「問」。(七)○珠林引「道中」下有「路」、胡校本作「語」。珠林大正藏本「把」作「抱」。(八)○廣記引無「尋」。珠林引無「見」、胡校本亦同。珠林大正藏本「居」作「車」而屬下。(九)○廣記引「至便」作「既」。(一〇)○廣記引無「上」。(一一)○鈎沈排印本「伯」作「泊」、七三年版全集已正之。珠林引「伯」下有「信」。而無「俄」。(一二)○搜神記引「炙」作「笑」、汪校以為誤。(一三)「乃」廣記引作「頗」。○胡校本亦同。(一四)○廣記引無「敬畏」二字。(一五)○搜神記引「令」作「會」。(一六)○廣記汪校本「送」作「進」、汪氏校語云、「進」原作「遂」、據明鈔本改。黃刻本作「遂」。又廣記引「及紗」倒、汪氏校語云、「衣」下原有「紗」字、據明鈔本刪。鈎沈從珠林·胡校本。(一七)○鈎沈排印本「容」誤作「宮」、已正。(一八)○珠林引無「禮」、廣記引亦同。汪氏校語云、「禮」字原闕、據明鈔本補。今依廣記鈔宋本引補。廣記鈔宋本無「便」。胡校本作「便來」二字。(一九)○廣記引「後」作「經」。(二〇)○珠林宋·元·明版·胡校本無「別」。珠林大正藏本·廣記引有。(二一)○廣記鈔宋本「泣」作「淚」、珠林大正藏本作「洩」。(二二)○廣記引無「者」、珠林·胡校本有。(二三)○鈎沈排印本「湯」誤作「陽」、已正。(二四)○廣記引無「邁」。

253 宋有一國^(一)、與羅刹相近^(二)、羅刹數入境、食人無度、王與羅刹約言。自今以後^(三)、國中家各專一日^(四)、當各送往^(五)、勿復枉殺。有奉佛家、唯有一子、始年十歲^(六)、次當充行^(七)。父母哀號、使至心念佛^(八)、爰及宗親、助子屬想。便送此兒、辭別捨之^(九)。以佛威神力^(一〇)、大鬼不得近。明日見子尚在、歡喜同歸、於茲遂絕。國人嘉慶慕焉^(一一)。

校記 珠林五十(百二十卷本六三)。廣記一百十二。○胡校本161、胡氏案語云、此條原鈔本闕字甚多、今依太平廣記一百十二卷校補。鄭氏五—228。

(一)○胡校本無「宋」。(二)○胡校本「近」作「隣人」。(三)○廣記·珠林大正藏本·胡校本「以」作「已」、珠林四部叢刊本作「以」。(四)○廣記引「家」上有「人」。(五)○廣記引「各」作「分」。廣記鈔宋本脫此四字。(六)○廣記鈔宋本脫「一子始」三字。(七)○廣記引此下有云「捨別之際」。(八)○珠林大正藏本·廣記引「使」作「便」、當從。廣記鈔宋本脫「至心念佛」四字。(九)已上四句廣記引無。胡校本亦無。鈎沈排印本「兒」作「鬼」、稿本·珠林皆作「兒」、今依改。(一〇)○廣記·胡校本「力」下有「故」。(一一)○廣記·胡校本「嘉慶慕」三字作「賴」。

254 安侯世高者、安息國王子、與大長者共出家、學道舍衛城。值主不稱^(一)、大長者子輒恚、世高恆呵戒之。周旋二十八年^(二)、云當至廣州、值亂、有一人逢高、唾手拔刀曰、『真得汝矣』。高大笑曰^(三)、『我宿命負對^(四)、故遠來相償。』遂殺之。有一少年云、『此遠國異人、而能作吾國言、受害無難色、將是神人乎。』衆皆駭笑。世高神識還生安息國、復為王作子、名高安侯。年二十、復辭王學道、十數年、語同學云、『當詣會稽畢對。』過廬山、訪知識^(五)。遂過廣州、見年少尚在、徑投其家、與說昔事、大欣喜^(六)、便隨至會稽。過嵇山廟、呼神共語、廟神蟒形、身長數丈、淚出。世高向之語、蟒便去^(七)、世高亦還船。有一少年上船、長跪前受呪願、因遂不見。世高曰^(八)、『向少年即廟神、得離惡形矣^(九)。』云廟神即是宿長者子。後廟祝聞有臭氣^(一〇)、見大蟒死、廟從此神歇。前至會稽、入市門、值有相打

者、誤中世高頭、即卒。廣州客遂瘞之於僧舍^(二)。

校記 廣記二百九十五。○胡校本¹²²。鄭氏五²²⁹。事亦見慧皎高僧傳一、三寶感通錄下。參看宣驗記(鈎沈17)

魯迅案語。又本篇¹³³。

(一)○鈎沈「主」作「王」、已正。廣記鈔宋本「值主不稱大長者」七字、作「長者□□□□□」。 (二)○鈔宋本無「八」。 (三)○鈔宋本「笑」作「異」。 (四)○鈎沈引「宿」作「夙」、今改。 (五)○鈔宋本「山訪」作「二度」。 (六)○鈔宋本「喜」作「嘉」。 (七)○鈔宋本「蟒」作「神」。胡校本「蟒」下有「形」。 (八)○廣記汪氏校語云、「世高」原作「廣州客」、據明鈔本改。鈔宋本亦綴作「世高」。 (九)○鈔宋本無「得」。 (一〇)○胡校本「臭」誤作「鼻」。 (一一)○汪氏校語云、「瘞之於佛舍」五字、原作「事佛精進」、據明鈔本改。鈔宋本同、但「佛」作「僧」。今依改。

255 有新死鬼、未半年^(一)、形疲瘦頓^(二)、忽見生時友人、死及二十年^(三)、肥健、相問訊。曰、『卿那爾^(四)』。曰、『吾飢餓殆不自存^(五)、卿知諸方便^(六)、故當以法見教。』友鬼云、『此甚易耳、但為人作怪、人必大怖^(七)、當與卿食。』新鬼往入大墟東頭^(八)、有一家奉佛精進^(九)、不得怪進屋^(一〇)、西廂有磨、鬼就推此磨^(一一)、如人推法^(一二)、此家主便語子弟曰^(一三)、『佛憐我家貧^(一四)、令鬼推磨^(一五)。』乃輦麥與之^(一六)、至暮磨數十斛^(一七)、鬼疲頓乃去^(一八)。遂罵友鬼、『卿那誑我。』又曰、『但復去、自當得也。』復從墟西頭入一家^(一九)、家奉道^(二〇)、門傍有碓、此鬼便上碓如人舂狀。此人又言^(二一)、『昨日鬼助某甲、今復來助吾、可輦穀與之^(二二)。』又給婢簸篩、至暮得五十斛^(二三)、力疲甚、不與鬼食、鬼暮歸大怒曰、『吾自與卿為婚姻、非他比^(二四)、如何見欺^(二五)。』二日助人、不得一甌飲食^(二六)。友鬼曰、『卿自不偶耳^(二七)。』此二家奉佛事道^(二八)、以至心能感動天地^(二九)、今去可覓百姓家作怪^(三〇)、則無不得^(三一)。鬼復去、得一家、門首有竹竿、從門入、見有一群女子、窗前共食、至庭中、有一白狗、便抱令空中行^(三二)、其家見之大驚、言自

來未有此怪^(三三)、占云^(三四)、『有客鬼索食^(三五)、可殺狗并甘果酒飯於庭中祀之^(三六)、可得無他。』其家如師言^(三七)、鬼果大得食。此後恆作妖怪^(三八)、是鬼之業也^(三九)。

校記 廣記三百二十一。○天地瑞祥志一四。胡校本129。鄭氏四—180。

(一)○「未半年」三字、今依瑞祥志引補。(二)○「瘦疲」鈞沈依廣記引作「疲瘦」、今依鈔宋本改、瑞祥志·胡校本亦同。瑞祥志無「頓」。(三)○瑞祥志引「死及」作「死鬼來」三字。(四)○瑞祥志引無「訊曰卿那爾」、而有「新鬼」二字。(五)○瑞祥志引無「吾飢」二字、「存」今依瑞祥志改、鈞沈作「任」、鈔宋本作「在」。(六)○瑞祥志引此句作「若知方便」四字、而奪下句六字。(七)○瑞祥志奪「大」。(八)○瑞祥志奪「大墟」二字。(九)○瑞祥志引奪「有」「精進」三字。(一〇)○「不得怪進」四字、今依瑞祥志引補、「怪」疑衍。(一一)○「推」鈞沈依廣記黃刻本作「捱」、汪氏校語云、「推」字原空闕、據明鈔本補。今依鈔宋本·汪校本改。胡校本亦同。(一二)○瑞祥志引以上二句作「鬼□如人推」五字。(一三)○廣記鈔宋本「主」下有「使」、疑「便」之訛、胡校本作「便」。瑞祥志引作「家主言」三字。(一四)○鈔宋本此句作「我家至貧」。(一五)○瑞祥志引以上二句作「鬼神助磨」。(一六)○鈔宋本「乃」作「益」。(一七)○「暮」「十」今依瑞祥志及鈔宋本改、胡校本亦同。鈞沈依廣記作「夕」而無「十」。瑞祥志又「斛」下有「麥」字。(一八)○瑞祥志句頭有「鬼」字、今依補。(一九)○胡校本「墟」上有「大」。(二〇)○鈔宋本無「家」、胡校本亦同。(二一)○「又」字今依鈔宋本·胡校本補。(二二)○鈔宋本「可」作「益」、胡校本亦同。(二三)○「暮得五十斛」五字、今依鈔宋本·胡校本補。(二四)○鈔宋本以上二句作「吾與曰婚姻、此他此鬼」九字、文當有訛奪。胡校本上句作「吾與卿家婚姻」。(二五)○自「又曰、但復去」起至此、瑞祥志引無。(二六)○瑞祥志引以上二句作「助人不得一飲」六字。胡校本上句頭有「以」字。(二七)○鈔宋本·胡校本「偶」作「遇」。(二八)○瑞祥志引無「事」。(二九)○此句鈞沈依廣記引作「情自難動」、胡校本亦同、今依瑞祥志改。(三〇)○瑞

祥志引「百姓」作「門前竹竿」、「作怪」作「往為作怪」。鈔宋本·胡校本「家」下有「為」字。(三二)○鈔宋本無「則」。(三三)○瑞祥志引自「則無不得」以此、作「即往、果入門見一女子共食、鬼便令空中行」。(三三)○瑞祥志引「大驚、言自來」作「惶怖生來」。鈔宋本「之大驚言」作「此」、胡校本「之大驚言自」作「比來」、當有訛誤。(三四)○瑞祥志引「占」上有「卜」字。(三五)○鈎沈奪「鬼」字、今依瑞祥志·廣記引等補。(三六)○瑞祥志引「殺狗」作「打物」、「庭中」作「中庭」。鈔宋本「果」作「泉」、疑訛。(三七)○瑞祥志引無以上二句九字。鈔宋本·胡校本「其家」作「便」。(三八)○「妖」字、今依瑞祥志·鈔宋本補。(三九)○鈎沈此句依廣記引作「友鬼之教也」、今依瑞祥志引改。

256 東昌縣山有物、形如人、長四五尺、裸身被髮、髮長五六寸、常在高山巖石間住。暗啞作聲、而不成語、能嘯相呼、常隱於幽昧之間、不可恆見。有人伐木、宿於山中、至夜眠後、此物抱子、從澗中發石取蝦蟹、就人火邊、燒炙以食兒。(二)時人有未眠者、密相覺語、齊起共突擊、便走而遺其子、聲如人啼也。此物使男女群共引石擊人(三)、趣得子然後止(三)。

校記 御覽八百八十三。○*本草綱目五一。胡校本 82。鄭氏一—16。參看搜神記一二—313。

(一)○胡校本「炙」作「煮」。(二)○胡校本「使」作「便」。(三)○鈎沈「趣」作「輒」、今依正。又依胡校本補「子」字。

257 會稽施子然(一)。有一人身著練單衣、直造席、捧手與子然語、子然問其姓名、即荅曰(二)、『僕姓盧、名鈎、家在壇谿邊臨水。』復經半旬中、其作人掘田塍西溝邊蟻堀(四)、忽見大坎滿中螻蛄(五)、將近斗許、而有數頭極壯、一箇彌大。子然至是始悟曰、『近日客稱盧鈎(六)、反音則「螻蛄」也(七)。家在壇谿、即西坎也。』悉灌以沸湯、自是遂

絕。

校記 ○鈞沈未著出處，七三年版全集注云，御覽九百四十八引佚書名。按自此條至第二六一條，鈞沈皆據胡校本引、文全同。胡校本 9。鄭氏三一 75。事亦見續異記（鈞沈 3），或此本續異記之文歟，今暫存此。

（一）○御覽引作「子然曰」三字。（二）○「恰」四部叢刊本誤作「恰」、鮑氏刊本作「恰」。（三）○御覽引「曰」作「云」。（四）○胡校本「蟻」作「故」、今依御覽引改。（五）○胡校本「坎」作「頃」、今依御覽引改。按「滿中」當倒，鮑氏刊本「滿」作「溝」。（六）○御覽引無「稱」。（七）○「也」依御覽引補。

258

吳興徐長夙與鮑南海有神明之交^{（一）}，欲授以祕術，先謂徐宜有約誓^{（二）}，徐誓以不仕^{（三）}。於是受錄^{（四）}，常見八大神在側^{（五）}，能知來見往，才識日異。縣鄉翕然有美談^{（六）}，欲用為縣主簿。徐心悅之，八神一朝不見其七^{（七）}，餘一人倨傲不如常。徐問其故^{（八）}，答云，『君違誓，不復相為，使身一人留衛錄耳。』徐乃還錄^{（九）}，遂退。

校記 ○鈞沈未著出處。七三年版全集注云，御覽八百八十二引世說，廣記二百九十四同。按此條與御覽·胡校本略同。不見今本世說，今暫存此。胡校本 78。鄭氏五— 222。

（一）○廣記引「南海」作「靚」。胡校本「南海」下有「神」、鈞沈同，今暫從御覽引刪。（二）○廣記引「謂」作「請」。胡校本「約」作「納」、今依御覽引改。（三）○廣記引無「誓徐」二字。（四）○廣記引「受」作「授」。（五）○廣記引句頭有「以」字。（六）○廣記引「縣」作「州」、下同。廣記引無「有」。（七）○御覽引「其七」作「七人」。（八）○御覽鮑氏刊本「問」誤作「同」。（九）○胡校本「乃」作「仍」、今依御覽引改。

259

彭虎子少壯有膂力，常謂無鬼神。母死，俗巫戒之云，『某日殃殺當還^{（一）}，重有所殺，宜出避之。』合家細弱，悉出逃隱，虎子獨留不去。夜中，有人排門入，至東西屋覓人不得，次入屋間廬室中^{（二）}。虎子遑遽無計，牀頭先有一甕、

便入其中、以板蓋頭、覺母在板上、有人問、『板下無人邪。』母云、『無。』相牽而去。

校記

○鈎沈未著出處。七三年版全集注云、廣記三百十八。汪氏校語云、出稽神錄、明鈔本作出幽明錄。今暫存此。胡校本95。鄭氏四—132。

(一)○胡校本「殃」作「決」、今廣記引改。(二)○廣記引「間」作「向」。

260

晉升平元年、任懷仁年十三、為臺書佐。鄉里有王祖復為令史、恆寵之。懷仁已十五六矣、頗有異意。祖銜恨、至嘉興殺懷仁、以棺殯埋於徐祚家田頭^(一)。祚夜宿息田上^(二)、忽見有冢、至朝中暮三時食、輒分以祭之、呼云、『田頭鬼來就我食。』至暝眠時、亦云、『來伴我宿。』如此積時、後夜忽見形云、『我家明當除服作祭、祭甚豐厚、君明隨去。』祚云、『我是生人、不當相見。』鬼云、『我自隱君形。』祚便隨鬼去、計行食頃、便到其家。家大有客、鬼將祚上靈座、大食減^(三)。合家號泣、不能自勝、謂其兒還。見王祖來、便曰、『此是殺我人、猶畏之。』便走出、祚即形露、家中大驚、具問祚^(四)、因敘本末。遂隨祚迎喪、既去、鬼便斷絕。

校記

○鈎沈未著出處。七三年版全集注云、廣記三百二十。汪校本小注云、出幽明錄。廣記黃刻本小注云、稽神錄。胡校本106。鄭氏四—169。

(一)○胡校本「家」作「後」、今依廣記改。(二)○胡校本「夜」作「後」、鈎沈作「夜」、與廣記引同。(三)○廣記引「減」作「滅」。(四)○鈎沈「具」作「因」、疑筆誤、今依廣記引及胡校本改。

261

臨淮朱綜遭母難、恆外處住、內有病、因前見婦^(一)、婦曰、『喪禮之重、不煩數還。』綜曰、『自荼毒以來、何時至內。』婦曰、『君來多矣。』綜知是魅。敕婦婢候來、便閉戶執之、及來登牀、往赴視。此物不得去、遽變老白雄雞。推問是家雞、殺之遂絕。

校記 ○鈞沈未著出處。七三年版全集注云、廣記四百六十一。廣記黃刻本小注云、劉義慶幽明錄、鈞沈看漏。汪校本同。胡校本 147。鄭氏三一 116。

(一)○汪氏校語云、「婦」字原闕、據明鈔本補。今從汪校。廣記引「前見」作倒。

262 漢武鑿昆明極深、悉是灰墨無復土、舉朝不解、以問東方朔。朔曰、「臣愚不足以知之、可試問西域胡僧。」帝以朔不知、難以覈問^(一)。後漢明帝時^(二)、外國道人來、入洛陽^(三)。時有憶方朔言者、乃試問之、胡人云^(四)、「經云、「天地大劫將盡、則劫燒灰^(五)」、「此燒之餘。」乃知朔言有旨。

校記 蘇易簡文房四譜五引曹毗志怪、又云出幽明錄。○鄭氏一—24。事見搜神記一三—328、三輔故事、曹毗志怪(鈞沈1)、*雜鬼神志怪(鈞沈3)、慧皎高僧傳一竺法蘭傳。本條當在第38之後。

(一)○文房四譜叢書集成本「帝」作「上」。學海類編本·庫本·叢書集成本皆「覈」作「核」。(二)○「明」字、今依文房四譜三本補。(三)○文房四譜庫本·叢書集成本「來入」顛倒。(四)○文房四譜三本「云」作「曰」。(五)○「灰」字、今依文房四譜三本補。

263 蒲城李通死、來云^(一)、見道士王浮身被鎖械^(二)、見沙門法祖為閻羅王講首楞嚴經、王浮求祖懺悔^(三)、祖不肯赴。孤負聖人^(四)、死方思悔^(五)。

校記 辯正論五注。案末二句或是陳氏案語。○祖庭事苑六。鄭氏五—232。鈞沈本作「辯正論六注」、今依大正藏本改作「五」。參看高僧傳一帛遠傳。本條當在晉南渡之前後(第69)。

(一)○辯正論引「云」下有「見沙門法祖為閻羅王講首楞嚴經」十四字、今依祖庭事苑引改。祖庭事苑引無「首」。(二)○辯正論注引句頭有「又」字、今刪。(三)○「王浮」二字、今依祖庭事苑引補。(四)○祖庭事苑引

「人」作「仁」。(五)○祖庭事苑引「思悔」作「悔也」。

264

康阿得死三日^(二)、還蘇^(三)、說初死時、兩人扶腋、有白馬吏驅之、不知行幾里、見北向黑闇門^(三)、南人見東向黑門、西人見南向黑門、北人見有十餘梁間瓦屋、有人卑服籠冠、邊有三十餘吏^(四)、皆言府君、西南復有四五十吏。阿得便前拜府君、府君問、『何所奉事^(五)』。得曰、『家起佛圖塔寺、供養道人。』府君曰、『卿大福德^(六)。』問都錄使者、『此人命盡耶。』見持一卷書、伏地案之、其字甚細、曰、『餘算三十五年。』府君大怒曰、『小吏何敢頓奪人命。』便縛白馬吏著柱處、罰一百、血出流漫。問得、『欲歸不。』得曰、『爾。』府君曰、『今當送卿歸、欲便遣卿案行地獄。』即給馬一匹、及一從人。東北出、不知幾里、見一城、方數十里、有滿城上屋。因見未事佛時亡伯伯母亡叔叔母^(七)、皆著杻械、衣裳破壞、身體膿血。復前行、見一城。其中有臥鐵牀上者、燒牀正赤。凡見十獄、各有楚毒。獄名、『赤沙』、『黃沙』、『白沙』、如此『七沙』。有刀山劍樹、抱赤銅柱、於是便還。復見七八十梁間瓦屋、夾道種槐^(八)、云名『福舍』。諸佛弟子住中^(九)、福多者上生天、福少者住此舍。遙見大殿、二十餘梁、有一男子二婦人從殿上來下、是得事佛後亡伯伯母亡叔叔母。須臾有一道人來、問得、『識我不。』得曰、『不識。』曰、『汝何以不識我。我共汝作佛圖主。』於是遂而憶之^(一〇)。還至府君所、即遣前二人送歸、忽便蘇活也^(一一)。

校記

辯正論七注。○鈎沈作出辯正論八注、今依正。*義楚六帖四·二。事見三寶感應要略錄上。

(一)○義楚六帖寬文九年和刻本四引「得」作「德」。二引作「得」。(二)○義楚四引「蘇」作「活」。(三)○辯正論大正藏本無「闇」、鈎沈與宋·元·明版同。(四)○大正藏本「三」作「二」、義楚四引亦作「念」。鈎沈與宋·元·明版同。(五)○義楚四引作「作何善業」。(六)○義楚二引作「卿大有功德」。(七)○義楚四引作「亡伯伯母叔母」、二引作「先亡叔母等」。(八)○「夾」大正藏本作「挾」、鈎沈與宋·元·明版同。(九)○義楚四引「諸」作「是」。(一〇)○「遂」大正藏本作「笑」、鈎沈與宋·元·明版同。(一一)○大正藏本

無「也」、鈎沈如前。

265

石長和死、四日蘇、說初死時、東南行、見二人治道、恆去和五十步、長和疾行亦爾。道兩邊棘刺皆如鷹爪、見人大小群走棘中、如被驅逐、身體破壞、地有凝血。棘中人見長和獨行平道、嘆息曰、『佛弟子獨樂得行大道中。』前行見七八十梁瓦屋、中有閣十餘、梁上有窗向^(一)、有人面辟方三尺、著皂袍、四縫掖^(二)、憑向坐、唯衣襟以上見^(三)。長和即向拜、人曰^(四)、『石賢者來也、一別二十餘年。』和曰、『爾。』意中便若憶此時也。有馮翊牧孟承夫妻先死^(五)。閣上人曰、『賢者識承不。』長和曰、『識。』閣上人曰、『孟承生時不精進、今恆為我埽地。承妻精進、晏然與官家事。』舉手指西南一房、曰、『孟承妻今在中。』妻即開窗向、見長和問、『石賢者何時來。』徧問其家中兒女大小名字平安不、『還時過此、當因一封書。』斯須見承閣西頭來、一手捉埽帚冀箕、一手捉把筲^(六)、亦問家消息。閣上人曰、『聞魚龍超修精進、為信爾不。何所修行。』長和曰、『不食魚肉、酒不經口、恆轉尊經、救諸疾痛。』閣上人曰、『所傳莫妄。』閣上人問都錄主者^(七)、『石賢者命盡耶。枉奪其命耶。』主者報、『按錄餘四十年^(八)。』閣上人敕主者、輜車一乘^(九)、兩辟車騎、兩吏送石賢者。須臾、東向便有車騎人從、如所差之數、長和拜辭、上車而歸。前所行道邊、所在有亭、傳吏民牀坐飲食之具。條然歸家^(一〇)、前見父母坐其尸邊、見屍大如牛、聞屍臭不欲入其中。繞屍三市、長和嘆息、當屍頭前、見其亡姊於後推之、便踣屍面上^(一一)、因即蘇^(一二)。

校記

辯正論七注。○鈎沈作「八」與前條同。*義楚六帖二·四。鄭氏五—235。事又見冥祥記（鈎沈58）。按據

冥祥記石長和趙人、因本條當在第90前後。

（一）○鈎沈「向」、與宋·元·明版同、大正藏本作「內」。 （二）○鈎沈「縫掖」作「縱掖」、七三年版全集已訂之。大正藏本「掖」作「掖」、明版作「掖」、可見鈎沈所據是明版。 （三）○大正藏本「襟」作「衿」。 （四）○大正藏本「人」作「又」。 （五）○大正藏本「馮翊牧」作「憑收」、訛奪。元·明版作「馮翊牧」。 （六）○

大正藏本奪「筭」。(七)○鈎沈排印本奪「人」，今依稿本・大正藏本補。(八)○大正藏本無「報、按」二字。
(九)○大正藏本「轆」作「獨」。(一〇)○大正藏本「然」作「忽」。(一一)○明版作「踣」、鈎沈所據是明版之一證也。大正藏本作「落」。(一二)○大正藏本文末有「矣」。

○266 有一人□車、遇寒雪不得至。告廟主簿求在門外亭屋中。夜眠、覺見一人有頭首、兩臂以下便無。行在空中。訪之於俗巫、云、『是八部將軍也。籍曰四道王者。東曰吳王、南曰越王、西曰秦王、北曰趙王也。』

校記 天地瑞祥志一四。

○267 綏母堂上子姪姪夜集(二)、忽有一物從牀墮地、視乃死人頭、流血滂沱。後誅滅也。

校記 天地瑞祥志一七。

(一)「姪」字或當衍。

○268 「吳」堪得螺、化為女子、號螺婦。令聞而求之。堪不與。令以事虐堪、曰、『令要蝦蟆毛、鬼臂、不獲即如罪。』婦為致之。令又繆語曰、『更要禍斗。』婦又引一獸、狀如犬、而食火。令取火試、忽焚縣宇。後因立祠。

校記 咸淳毘陵志十四。

○269 孫皓時、王僧辨上事云、『佛法宜滅、中國不利。』尋便下詔、集諸沙門、陳兵圍寺、欲行誅廢之事。為僧會法師曰、『佛若神也、宜崇之。若其無靈、黑衣一日同命。』諸僧或逃或縊。會乃清齋七日、期現威神。以銅鉢盛水、置庭中。齋畢而美光暉曜、忽聞庭鉢鏜然有聲、忽見舍利光明庭宇、浮光鉢上。皓及大眾前看、駭謬失措、離席改容。

會進曰、『陛下使孟賁之力、擊以百鈞之鎚、金剛之質、終不毀壞。』皓如言。清先經行、頌讚禮拜、散華燒香、高唱聲曰、『誠追感慈氏、來津未絕、則法輪將轉、徹於靈途、威神不少、宜現今日。不然三寶永絕。』言訖、壯士運槌。觀者戰慄而氣竭、槌碎而利不損(二)、光明挺出、暉彩充盈。皓伏投誠、勤營齋講、起塔在建初寺太市北。後猶光瑞、元嘉十九年秋、寺剎夜放光明、鮮紅彩發、有火光夾四層上、從西繞南。又見一物如雉尾扇、隨其進止不斷。其夕觀者發心。二十許日、都市中咸見剎上有長紫光等。

校記 義楚六帖一引吳誌、幽明錄。事又見宣驗記(鈎沈13)、文大同。本條當在第59前後。

(一)○按「利」上奪「舍」字。

○270 史儁道士有學識、奉道而慢佛、常語人言、『佛是小神、不足事爾。』每見佛像、恆輕謔之。後因腳疾攣縮、種種祈福無應。友人趙文曰、『佛福第一、可試造觀音像。』儁以病急如言造之。夢觀音菩薩降神而愈。因發信也。

校記 義楚六帖二。事又見冥祥記(鈎沈130)、宣驗記(鈎沈9)。

○271 元嘉八年、河東浦坂城內失火、不可救、唯寺及經像大小不燒。人共驚歎。

校記 義楚六帖二。此事又見宣驗記(鈎沈28)、冥祥記(鈎沈127)。本條當在第242之前。

○272 元嘉三年正月十四日(二)、李且暴死、心暖七日重活。具細說地府善惡報應罪福冤對不虛等事。

校記 義楚六帖一六。本條當在第241之後。

(一)「元喜」當作「元嘉」。

○273 劉曠豫章海昏人。義熙二年病、困頓二十餘日。手足皆冷、正腹微暖。二日二夜、蹶然起坐、云、『有人著平

幘喚曠。西北向有樓、其上有綵女團坐作樂、見曠住樂、相指而笑。游歷未遍、不知所從而出、倏忽至此、病於此。』都愈後月餘、黨輩於平澤射獵、留曠守舍。因書眠、聞語何女郎通使。便覺、颯然已至、自說、東海何氏、八歲而夭、於今十歲、應為君妻、故來修好。何女郎曰、『昔日樓上之擊節、我也。眾以君見棄、是以相笑。智瓊、杜蘭香咸我曹也。』婢名採薇、奴名邊羅。常以九石合拌奠果、問家中吉凶、及晴雨之占必驗。曠母妻嫌之、被妬日滋。女曰、『應為君妻、妬嫌已至、三年而無子、何以見忌。』後留信宿、曠家以湯澆之。慘然而言曰、『苟不我容、便與君辭。既去之後、慎勿相憶為君累也。』

校記 溫豫侍兒小名錄續補（叢書集成本）。本條當在第135之前。

○274 羊祜患頭風、治之。祜曰、『生三日時、首向北戶、覺風吹、意甚患之、不能語耳。病源既遠、不可治也。』

校記 類說一一。本條當在第61之後。

○275 嵇康燈下彈琴、忽一人長丈餘、著黑單衣、革帶。康孰視、乃吹火滅、曰、『恥與魑魅爭光。』

校記 明鈔說郭三。類說一一引前半。本事又見語林（鈎沈25）、靈鬼志（鈎沈7）、異苑六。本條當在第50之後。

○276 玉案山有金華洞、太一湫。

校記 類編長安志九。文固不全。

○277 〔蚊〕蓋嘗究厥譜□、考于典集、寔蚩尤之餘孽、始涿鹿之誅殛、僅存膚血之遺餘、致滋種之蕃息。

校記

琅琊代醉編三九。不似幽明錄文。

謝氏鬼神列傳

凡一條

1 下邳陳超為鬼君弼所逐、改名何規、從餘杭步道還家^(一)、求福、絕不敢出入。五年後、意漸替懈^(二)、與親舊臨水戲。酒酣、共說往來、超云、『不復畏此鬼也。』小俛首、乃見鬼影在水中、超驚怖。時亦有乘馬者、超借馬騎之、下鞭奔驅。此鬼去超遠近常如初^(三)、微聞鬼云、『汝何規耶。急急就死。』

校記 御覽三百五十九。○參看廣記一二九引冥報志王範妻、明鈔本作出還冤記、事又見今本冤魂志寶顏堂秘笈本。

(一)○「家」今依四部叢刊本補、鮑氏刊本引無。(二)○「懈」鈎沈依鮑氏刊本作「解」、今依四部叢刊本改。(三)○「去」鈎沈引作「與」、以意改歟。今依御覽引改。

殖氏志怪記

凡二條

1 宗正卿會稽謝謨、夜獨坐椀飲。室中忽見人、椎髮袒臂、來飲傾甕不去。謨以為盜、援劍逐之。
校記 書鈔一百四十四。○淵鑑三九一飲。按文似不完。

2 客星通坐(一)。

校記 書鈔二十。

(一)○孔氏校語云、俞本「通」坐「逼」。

集靈記

凡一條

1 王諶琅邪人也、仕梁為南康王記室、亡後數年、妻子困於衣食。歲暮諶見形謂婦曰、『卿困乏衣食。』妻因與之酒、別而去。諶曰、『我若得財物、當以相寄。』後月、小女探得金指環一雙（一）。

校記 御覽七百十八。

（一）〇「雙」鈎沈依鮑氏刊本引、四部叢刊本作「隻」。今從鈎沈。

漢武故事

原輯五十三條 刪一條 新附十三條 凡六十五條

1 漢景帝王皇后、槐里王仲女也。名姝兒。母臧氏、臧荼孫也。初爲仲妻、生一男兩女。其一女卽后也。仲死、更嫁長陵田氏、生二男。后少孤、始嫁與金王孫、生一男矣。相士姚少翁善相人、千百勿失、見后而嘆曰、『天下貴人也。當生天子。』田氏乃奪后歸^(一)、內太子宮、得幸有娠^(二)、夢日入其懷^(三)。帝又夢高祖謂己曰^(四)、『王夫人生子^(五)、可名爲瓌^(六)。』及生男^(七)、因名焉^(八)。是爲武帝^(九)。帝以乙酉年七月七日旦生於猗蘭殿^(一〇)。年四歲、立爲膠東王^(一一)。少而聰明、有智術。與宮人諸兄弟戲、善徵其意、而後應之。大小皆得其歡心。及在上前恭敬、應對有若成人。太后下及侍衛咸異之。是時薄皇后無子、立栗姬子爲太子。長公主嫖有女、欲與太子婚。栗姬妬、寵少衰。王夫人因令告栗姬曰、長公主前納美人得幸于上、子何不私謁長公主結之乎。時諸美人皆因長公主見得貴幸也。故栗姬怒不聽。因怨長公主、謝不許婚。長公主亦怒、王夫人因厚事之。長公主更欲與王夫人男婚、上未許。後長公主還宮、時膠東王數歲^(一二)、長公主嫖抱置膝上^(一三)、問曰、『兒與得婦不^(一四)。』膠東王曰、『欲得婦^(一五)。』長主指左右長御百餘人、皆云不用。末指其女問曰^(一六)、『阿嬌好不。』於是乃笑對曰^(一七)、『好、若得阿嬌作婦、當作金屋貯之也^(一八)。』長主大悅、乃苦要上、遂成婚焉^(一九)。皇后既廢、栗姬次應立、而長主伺其短、輒微白之。上嘗與栗姬語、屬諸姬子、曰、『吾百歲後善視之^(二〇)。』栗姬怒勿肯應。又罵上老狗。上心銜之未發也^(二一)。長主曰譖之、因譽王夫人男之美。王夫人陰告長主、使大臣請立栗姬爲后。上以爲栗姬諷之。遂發怒、誅大臣^(二二)、廢太子爲王。栗姬自殺。遂立王夫人爲后^(二三)。膠東王爲皇太子^(二四)。時年七歲^(二五)、上曰、『瓌者微也。』因改曰徹^(二六)。

校記 御覽八十八。續談助三。*史記外戚世家索隱。又正義。*文選顏延之宋文皇帝元皇后哀冊文注。*類聚八三。*初學記九。十。*御覽三十一。一百四十七。一百八十一。八百十一。*事類賦注五。*猗覺寮雜記上。○*

北堂書鈔一（二引）・二三・二六引皆寥寥數語。＊類聚一六。＊通典一〇五。＊李白詩補注四白頭吟。＊事類賦注九。＊記纂淵海一〇八。＊樂府詩集四二。＊長安志三。＊事文類聚前集一九・二〇。＊歲時廣記二八。＊玉海一五九。＊類編長安志二。明鈔說郭五二（古今逸史、歷代小史、古今說海說纂部、四庫本、說庫所收漢武故事、以上皆同系統）。＊天中記五・一二・一五・二二。＊淵鑑三六一金・五九太子・五八嬪妃・五七靈感・四八帝誕・五七皇后總載・五九太子妃。經典集林一五—1・2・3。參看史記外戚世家王太后傳、漢書外戚傳孝景王皇后傳。

（一）○自「漢景帝」至此、以上依明鈔說郭引補。（二）（內太子宮、得幸）六字依初學記九引補。御覽八十八引（有娠）作「妊身」。○明鈔說郭引亦有、「有娠」作「有任」。（三）○續談助・明鈔說郭引無「其」。（四）（謂已）二字御覽八十八引有。○御覽八十八引「帝」上有「景」、又「夢」下有「見」、又三二引「又」作「嘗」。明鈔說郭引亦有「景」、又「作亦」。（五）御覽八十八引（夫）作「美」。○御覽三一・長安志・歲時廣記・明鈔說郭引亦同。明鈔說郭引「生」作「得」。（六）○以上又見書鈔二三・明鈔說郭引。淵鑑五八・五七・四八引皆亦同。（七）○御覽八十八引「男」下有「日」。（八）○御覽八十八引「名」下有「之」。（九）○御覽八十八引無「是爲」二字。（一〇）已上亦散見史記外戚世家索隱・文選顏延之「宋文皇帝元皇后哀冊文」注・初學記九・又十・御覽三十一・又一百四十七・事類賦注五。○又見書鈔一・長安志三・通典一五・歲時廣記二八・事文類聚前集一九・玉海一五九・明鈔說郭五二・天中記五・一二・淵鑑五九。（一一）二句御覽八十八・又一百四十七引並有。○又見御覽二八一・初學記一〇・明鈔說郭引。又見呂才五行祿命葬書論（文苑英華七四〇）・舊唐書七九呂才傳・通典一〇五。（一二）○自「少而聰明」至此、以上依明鈔說郭補。（一三）○御覽八八・一八一引並無「嫖」、明鈔說郭引亦同、因為上已出、當刪。御覽八八引「置膝上」作「着其膝上」。（一四）○續談助・明鈔說郭引「不」作「否」、下同。（一五）○明鈔說郭引無以上二句七字。（一六）○御覽二八一引「末」作「因」。明鈔說郭引無「末」、「問曰」。（一七）○明鈔說郭引無「於是乃」三字。續談助引無「對」。（一八）已上九句依御覽八十

八引。○明鈔說郭引亦有。續談助引「笑曰」以下亦有、但無「也」、而「金」上有「黃」。類聚八三引云、「帝年數歲、長公主遍指侍者曰、與子作婦、好否。皆不用、後指陳后、帝曰、若得阿嬌、當作金屋貯之。」御覽八八·淵鑑三六一·五七引均文同。又見初學記一〇·事類賦注九·紺珠九·李白詩補注四·萬花谷前集一七·事文類聚前集二〇引。（一九）「數歲」至此、已上亦散見史記外戚世家正義·類聚八十三（已見前）·初學記十·御覽一百八十一·又八百十一。猗覺寮雜記上引「婚」作「昏」。○類聚一六引云、「初武帝為太子、時長公主欲以女配帝。時帝尚小、長公主指女問帝曰、得阿嬌好不。帝曰、若得阿嬌、以金屋貯之。主大喜、乃以配帝。是曰陳皇后、阿嬌、后字也」。淵鑑五九引文同。御覽八八·一八一引「成」作「定」。「長公主更與王夫人男婚」至此、以上又見樂府詩集四二引。（二〇）○「屬諸姬子」至比、以上今依明鈔說郭引補。（二一）○「未發也」三字、今依明鈔說郭引補。（二二）○「王夫人陰告」至此、以上今依明鈔說郭引補。鈞沈依御覽八八·續談助引作「上亦賢之」四字而已。（二三）「是時」至此、已上續談助引有。○御覽八八·續談助引「皇后既廢」上有「是時皇后無子、立栗姬子為太子」二句、明鈔說郭引已引此二句於上文、因今刪此。（二四）○續談助·明鈔說郭引並無「皇」。（二五）○初學記一〇·御覽一四七引並有此意。（二六）○續談助引「曰」作「為」、明鈔說郭引作「名」。

○附1 后名阿嬌、即長公主嫖女也。曾祖父嬰、堂邑侯、傳至午、尚長公主、生后也。

校記 史記外戚世家索隱。

2 丞相周亞夫侍宴^(一)、時太子在側。亞夫失意、有怨色、太子視之不輟、亞夫於是起^(二)。帝問曰^(三)、「爾何固視此人耶^(四)」。對曰、「此人可畏、必能作賊」。帝笑、因曰^(五)、「此快快非少主臣也^(六)」。』

校記 御覽八十八。續談助三（2）。○*類說二——1。經典集林一五——4。

（一）〔侍宴〕續談助引作「宴見」。 （二）○續談助引無「於是」。 （三）○御覽引無「問」。 （四）○續談助

引「故」作「因」、而無「耶」。(五)○御覽作倒。(六)御覽引「主」下有「之」字。

3 廷尉上囚。防年繼母陳氏殺年父^(二)、年因殺陳^(三)。依律、年殺母、大逆論。而帝疑之^(三)、詔問太子。太子對曰、「夫繼母如母、明其不及母也、緣父之愛、故比之於母耳。今繼母無狀、手殺其父、則下手之日、母恩絕矣。宜與殺人者同、不宜大逆論」。帝從之、年棄市刑^(四)。議者稱善。時太子年十四^(五)、帝益以奇之^(六)。

校記 御覽八十八。○天中記二五。琅玕代醉編一五。經典集林一五—5。

(一)○明鈔說郭引有「氏」「年」、今依補。(二)○「年」今依明鈔說郭補。(三)○「而」今依御覽四部叢刊本補。(四)○「刑」今依四部叢刊本補。(五)○明鈔說郭引句末有「歲」。(六)○「以」鈎沈奪之、今依補。明鈔說郭引無此句四字。

4 及卽位^(二)、常晨往夜還。與霍去病等十餘人、皆輕服爲微行、且以觀戲市里、察民風俗。嘗至蓮勺通道中行、行者皆奔避路。上怪之、使左右問之^(三)、云、「有持戟前呵者數十人^(三)」。時微行率不過二十人、馬七八匹、更步更騎、衣如凡庶、不可別也、亦了無騶御、而百姓咸見之。

校記 御覽八十八。○琅玕代醉編一五。經典集林一五—6。

(一)○御覽四部叢本「及」作「從」、經典集林本作「後」、鮑氏刊本作「及」。(二)○鈎沈排印本「之」誤作「乏」、七三年版全集已正。(三)○御覽四部叢刊本·經典集林本「前」作「詐」。

5 元光元年、天星大動、光耀煥煥竟天^(二)、數夜乃止。上以問董仲舒、對曰^(三)、「是調星搖、人民勞之妖也^(三)」。是時謀伐匈奴、天下始不安^(四)。上謂仲舒妄言、意欲誅之^(五)。仲舒懼、乞補刺史以自效^(六)。乃用軍爲侯^(七)、屬程不識

屯雁門。

校記 續談助三。○類說二一—2。琅玕代醉編三四。*錢注杜詩一四閣夜詩。

(一)○類說引無「煥煥」二字。(二)○類說引無「上以問」「對」。(三)○類說引「人民」作倒。(四)○類說引「始」作「殆」。(五)○類說引無「仲舒」「意」。(六)○類說引「刺」作「劇」、譌。(七)○類說引至此為止。

6 太后弟田蚡欲奪太后兄子竇嬰田、嬰不與^(一)。上召大臣議之。羣臣多是竇嬰、上亦不復窮問、兩罷之。田蚡大恨、欲自殺、先與太后訣、兄弟共號哭訴太后、太后亦哭弗食。上不得已、遂乃殺嬰^(二)。後月餘日、蚡病、一身盡痛、若擊者。叩頭復罪。上使視鬼者察之、見竇嬰答之。上又夢竇嬰謝上屬之。上於是頗信鬼神事。

校記 續談助三。資治通鑑攷異一。○參看漢書外戚傳孝景王皇后傳。

(一)案此下當有後嬰所厚灌夫因酒忤蚡蚡乃奏案灌夫家屬橫皆得棄市罪嬰上書論救事、今未見諸書徵引。(二)資治通鑑攷異一。案「上召大臣」至此、已上續談助作「乃構嬰於太后、上不得已殺嬰」、蓋已多所刪節。

7 卽位、改號建元。長主伐其功、求欲無厭。上患之、皇后寵亦衰。皇太后謂上曰、『汝新卽位、先爲明堂。太皇太后已怒。今又忤長主、必重得罪。婦人性易悅、其深慎之。』上納太后戒、復與長公主和、皇后寵幸如初。建元六年、太皇太后崩、上始親政事、好祀鬼神、謀議征伐。長主自伐滋甚、每有所求、上不復與、長主失望、愈出醜言。上怒欲廢皇后、曰、『微長公主勿及此、忘德勿祥、且容之。』乃止。然皇后寵遂衰、嬌妬滋甚。女巫楚服、自言有術、能令上意回。晝夜祭祀、合藥服之。巫著男子衣冠幘帶綬、與皇后寢居、相愛若夫婦。上聞窮治侍御巫與后、諸妖蠱呪詛、女而男淫、皆伏辜。廢皇后處長門宮、后雖廢、供養如法、長門無異上宮也。長主以宿恩猶自親近、後置酒主家、見所

幸董偃^(二)。上為之起、偃亦能自結媚于上。貴寵聞于天下。嘗宴飲宣室、引公主及偃。東方朔司馬相如等並諫、上不聽。偃既富則淫于他色、與主漸疏、主怒因閉于內、不復聽交游。上聞之賜偃死。後卒與公主合葬。

校記 *通鑑攷異一。○明鈔說郭五二。此條當入於第4・5條之間。參看通鑑一八武帝元光五年、亦引漢武故事。

(一)○通鑑攷異一引云、「陳皇后廢處長門宮、寶太主以宿恩猶自親近。後置酒主家、主見所幸董偃」。「寶太主」疑攷異之誤、而且「主見所幸偃」之「主」亦衍。

8 陳皇后廢、元朔元年^(一)、立衛子夫為皇后。初、上行幸平陽主家、置酒作樂^(二)、子夫為主謳者^(三)、善歌、能造曲、每歌挑上^(四)、上意動^(五)、起更衣、子夫因侍尚衣軒中、遂得幸^(六)、頭解、上見其美髮悅之^(七)、歡樂。主遂內子夫於宮中^(八)。上好容成道、信陰陽書^(九)。時宮女數千人、皆以次幸。子夫新入、獨在藉末、歲餘不得見。上釋宮人不中用者出之^(一〇)、子夫因涕泣請出^(一一)。上曰、「吾昨夜夢子夫庭中生梓樹數株^(一二)、豈非天意乎^(一三)。」是日幸之、有娠生女^(一四)。凡三幸、生三女^(一五)。後生男、即戾太子也。

校記 續談助三。*書鈔一百六。*文選張衡西京賦注、又潘岳西征賦注。*御覽九百五十八。○*類聚八九(佚出處)。*蒙求注中。樂府詩集九四。明鈔說郭五二。*天中記五一。淵鑑四一五梓・一八五歌。經典集林一六—55。56。參看史記外戚世家衛皇后傳、漢書外戚傳衛皇后傳。

(一)○此句今依明鈔說郭引補。(二)○此句今依樂府詩集・明鈔說郭引補。(三)○樂府詩集引「謳」上有「主」、今依補。(四)書鈔一百六引「挑上」作「怨上」、當誤。(五)○明鈔說郭引「意」作「喜」。(六)○今依明鈔說郭引補「尚」「軒中」「遂」。(七)二句亦見文選張衡西京賦注・又潘岳西征賦注。○亦見蒙求注引云、「衛子夫得幸、頭解、帝見其髮鬢美而悅之也」。(八)○明鈔說郭引作「遂內于宮中」、今依補「中」字。(九)

○此二句明鈔說郭引無。(一〇)○續談助各本·明鈔說郭引皆「釋」作「擇」、或鈎沈筆誤歟。(一一)○明鈔說郭引「涕泣」作倒。(一二)○「夜」今依御覽引·明鈔說郭引補。續談助各本引無。類聚引作「中庭生梓樹」。經典集林引作「梓數樹」。(一三)○御覽·經典集林引均無「意」。類聚作「出非至告乎」。(一四)已上五句亦見御覽九百五十八。○但無「生女」二字。(一五)○明鈔說郭引「三」作「二」。

9 淮南王安好學多才藝。集天下遺書、招方術之士^(一)、皆爲神仙、能爲雲雨。百姓傳云、『淮南王、得天子、壽無極。』上心惡之、徵之。使覘淮南王、云、『王能致仙人、與共遊、變化亡常、或爲童子、或爲老子^(二)、又能隱形升行、服氣不食。』上聞而喜其事、欲受其道。王不肯傳、云、『無其事。』上怒、將誅、淮南王知之、出令與羣臣、因不知所之^(三)。國人皆云、『神仙或又見王者。』常恐動人情、乃令斬王家人首、以安百姓爲名。收其方書、亦頗得神仙黃白之事、然試之不驗。上既感淮南道術、乃徵四方有術之士^(四)。於是方士自燕齊而出者數千人。齊人李少翁、年二百餘歲、色如童子^(五)、上甚信之、拜爲文成將軍、以客禮之。於甘泉宮中畫太一諸神像、祭祀之。少翁云、『先致太一、然後升天、升天然後可至蓬萊。』歲餘而術未驗。上漸厭倦^(六)、會所幸李夫人死^(七)。上甚思悼之^(八)。少翁云^(九)、『能致其神。』乃夜張帳^(一〇)、明燭具酒食、令上居他帳中^(一一)、遙見李夫人、不得就視也^(一二)。上愈益相思悲感、作賦曰、『美聯娟以修姱兮、命櫟絕而勿長、飾新宮以延貯兮、泯不歸乎故鄉、慘鬱鬱其無穢兮、隱處幽而懷傷、釋輿馬于山椒兮、奄修夜之不陽云云^(一三)。』

校記 續談助三。*書鈔一百一。*初學記二十五。○*類說二一—4。樂府詩集五四。明鈔說郭五二。*淵鑑一
九四求書。*經典集林一五—10·13。參看史記封禪書、漢書外戚傳李夫人傳。通鑑一九武帝元狩四年。又參看後
附漢武外傳之文。

(一) 書鈔一百一引作「招天下之術士」。(二) 以上四句十五字、今依類說引補。(三) 類說引以上二句

作「出與羣臣去、不知所之」。類說引至此爲止。自「招方術之士」至此、有略見樂府詩集。（四）○明鈔說郭自文頭至此、略引云、「淮南王安招方術之士、習爲神仙。上聞而喜仙事。」（五）二句見史記孝武本紀正義引、今補於此。○明鈔說郭引亦有、今依補「餘」字、而「如」作「若」。（六）○此句今依明鈔說郭引補。（七）（上所幸」三字、據初學記二十五引補。○今依明鈔說郭引省「上」。（八）○鈎沈奪此句五字、今依初學記二五、明鈔說郭引補。（九）○初學記引「云」作「言」。（一〇）○初學記引無「帳」。（一一）○初學記引無「令」。（一二）○「所幸李夫人」至此、以上亦見初學記二五。（一三）○「上愈益」至此、以上今依明鈔說郭引補、又所引歌辭與漢書外戚傳李夫人傳引同。

○9附 道藏漢武外傳（叢書集成初編本）云、

淮南王好學才藝、集天下道書、招方士。皆策神氣、能雲雨。百姓傳云、「王能致仙人與遊處、變化無常、或童子、或老人。王又能隱形飛行、服氣不食。」帝聞而嘉其事、欲受其道。王不肯傳。云、「無其事。」帝怒、將誅淮南王。王知之、出令與羣臣去、不知所之。國人皆云神仙、或有見王者。帝恐動人情、乃令斬王家人首、以安百姓、名爲淮南王。收其方書、亦頗得黃白之事。然非其要法、試之多不驗。帝既感淮南之道、乃徵四方有術之士。自燕齊而出者數千人矣。齊人李少翁、年二百歲、色若童子、作諸方術皆有驗。帝甚新之、拜爲文成將軍、以客禮之。于甘泉宮中、畫太乙諸神像祀之。少翁云、「先致太乙、然後可得昇天。昇天、然後可至蓬萊。」歲餘未驗、帝漸厭倦。少翁又使鬼神方皆驗、唯祀太乙積年無應。帝性急峻、甚惑之。而少翁愈驕矜、帝怒誅之。文成被誅後月餘、使者籍質從關東還、逢于漕亭。謂使者曰、「爲吾謝帝、不能忍少日、而敗大事乎。帝好自愛、後四十年、求我于勞成山、方共事不相怨也。」使者還、具言之。乃令發其棺、視之無所見、唯有竹筩一枚。帝疑其弟子竊其尸而藏之。乃收捕驗問、了無蹤跡。帝太悔誅、復徵諸方士、更于甘泉祀太乙。又別設一座祀文成、帝親執禮。會東郡送一短人、長五寸、衣冠具足。帝疑其山精。帝令在案上、召方朔。朔至、呼短人曰、「巨靈、汝何忽叛來。阿母還未。」短人不對。因指謂

帝曰、『王母種桃、三千年一作子、此兒不良、已三過偷之、失王母意。故被謫來此。』帝大驚、愈知朔非世上人也。短人謂帝曰、『王母使臣來告陛下、求道之法。唯有清淨、不宜躁擾。後五年與帝會。』言終不見。帝愈恨、又召問方朔。朔曰、『陛下自當知、臣不得說。』終已無言、帝以其神不敢逼也。

10 李少君言、『冥海之棗大如瓜、種山之李大如瓶也。』

校記 海錄碎事二十二。○此條在鈎沈稿本欄外。紺珠九—1。按史記孝武本紀、李少翁、李少君、各為別人。此條當入於第9條前。漢武帝外傳李少君之條有此句。參看史記孝武本紀、封禪書。

11 少翁者諸方皆驗、唯祭太乙、積年無應。上怒誅之^(一)。文成被誅後月餘^(二)、有使者藉資從關東還^(三)、逢之于漕亭^(四)、謂使者曰、『為吾謝上、不能忍少日、而敗大事乎。上好自愛、後四十年、求我于蓬山、方將共事、不相怨也^(五)。』還見言之^(六)。上乃疑、發其棺、無所見、唯有竹筒一枚。捕驗問無蹤跡也^(七)。于是上大悔、復徵諸方士、常輕服為微行^(八)。

校記 史記孝武本紀正義。○明鈔說郭五二。經典集林一五—14。參看史記孝武本紀、第9條後附漢武外傳。

(一)○「少翁者」至此、以上今依明鈔說郭引補。(二)○史記引作「文成誅後月餘」。(三)○鈎沈「有」作「日」、「藉」作「籍」、今依史記校點本(一九五九中華書局)改。史記引無「從」。(四)○明鈔說郭引無「之」、而「漕」作「渭」。(五)○「謂使者」至此、以上今依明鈔說郭引補。(六)○鈎沈「見言」作倒、今依史記引改。(七)○「還見言之」以至此、以上明鈔說郭引無。經典集林引「問」作「問」。(八)○「于是」以至、今依明鈔說郭引補。

12 上微行嘗至於柏谷^(二)、夜投亭長宿^(三)、亭長不內、乃宿於逆旅^(四)。逆旅翁謂上曰、『汝長大多力、當勤稼穡、何忽帶劍羣聚^(五)、夜行動衆^(六)、此不欲為盜則淫耳。』上默然不應、因乞漿飲、翁答曰^(七)、『吾止有溺^(八)、無漿也^(九)。』有頃、還內。上使人覘之、見翁方要少年十餘人^(一〇)、皆持弓矢刀劍、令主人嫗出安過客^(一一)。嫗歸謂其翁曰^(一二)、『吾觀此丈夫、乃非常人也^(一三)。且亦有備、不可圖也。不如因禮之。』其夫曰、『此易與耳。鳴鼓會衆、討此羣盜、何憂不尅。』嫗曰、『且安之、令其眠、乃可圖也。』翁從之。時上從者十餘人、既聞其謀、皆懼、勸上夜去。上曰、『去必致禍、不如且止以安之。』有頃嫗出、謂上曰、『諸公子不聞主人翁言乎^(一四)。此翁好飲酒、狂悖不足計也。今日具令公子安眠無他。』嫗自還內^(一五)。時天寒^(一六)、嫗酌酒多與其夫及諸少年、皆醉^(一七)。嫗自縛其夫、諸少年皆走^(一八)。嫗出謝客、殺雞作食。平明上去^(一九)。是日還宮、乃召逆旅夫妻見之、賜嫗金千斤^(二〇)、權其夫為羽林郎^(二一)。自是懲戒、希復微行^(二二)。時丞相公孫弘數諫上弗從^(二三)、弘謂其子曰、『吾年已八十餘、陛下擢為宰相、士猶為知己死。況不世之君乎。今陛下微行不已、社稷必危、吾雖不逮史魚、冀萬一能以尸諫^(二四)。』因自殺、上聞而悲之、後二十餘日有柏谷之逼。乃改殯弘、為起墳冢在茂陵旁、上自為誄曰、『公孫之生、污瀆降靈。元老克壯、為漢之貞^(二五)。弗予一人^(二六)、迄用有成。去矣游矣、永歸冥冥。嗚呼夫子曷其能刑。載曰、萬物有終、人生安長。幸不為夭、夫復何傷^(二七)。』弘嘗諫伐匈奴、為之小止。弘卒、乃大發卒數十萬、遣霍去病討胡。殺休屠王、獲天祭金人^(二八)。上以為大神、列於甘泉宮。人率長丈餘、不祭祝、但燒香禮拜。天祭長八尺、擎日月、祭以牛。上令依其方俗禮之^(二九)、方士皆以為夷狄鬼神、不宜在中、因乃止^(三〇)。

校記 御覽八十八・又一百九十五・*五十四・*一百二。*文選潘岳西征賦注。續談助三。*書鈔一百二。*初學記八。*類聚九。○*世說新語文學篇四—23注。*初學記九。*類說二一。事文類聚別集二五。群書類編故事一七。明鈔說郭五二。*又八緯略引。天中記一六。又*三五。淵鑑三〇六逆旅。*三四谷。*四〇帝王總載。*二〇〇誄。參看通鑑一七武帝建元三年。

(一)初學記八。御覽五十四。○初學記八引云、「帝微行至柏谷。」又九引見注(三)。御覽五四引云、「上微行至柏谷、宿於逆旅。」御覽八八引「微行」作「又嘗」、又一九五引作「嘗」、續談助引「微行」下有「嘗」字、今依補之。御覽八八引無「於」。(二)○御覽八八·一九五引無「長」、但選注引有。(三)○此二句書鈔二〇引亦有。選注引無「於」。初學記九引云、「上嘗輕服微行、至柏谷、夜投亭長不納、乃宿於逆旅。」(四)○御覽八八引無「群」、而「聚」作「衆」、但一九五引作「聚」。(五)○御覽八八引無「動衆」二字。(六)○續談助引「喻」上有「旅」。御覽八八引·續談助引皆無「答」。(七)○續談助引「吾」作「無」。類聚九引·續談助引·御覽一九五引「止」作「正」。(八)已上亦略見類聚九·御覽五十四。○又略見續談助三。類聚九引云、「上微時行至柏谷、舍於逆旅。逆旅翁罵之、因從乞漿。翁曰、正有溺、無漿也。」(九)選注引無「調上」至此〔方〕。○御覽八八引「要」作「與」。(一〇)○選注引「安過」作「遇」。(一一)○選注引「嫗歸」作「婦」。(一二)○御覽八八引·選注引無「乃」字。(一三)○御覽一九五引「公」作「翁」。(一四)○御覽一九五引「自」作「因」。(一五)「不如因禮之」至此〔時〕已上選注及御覽八八引並無。(一六)○選注引無「及諸少年」四字、而「皆」作「夫」。(一七)○御覽一九五引無以上二句十字。(一八)御覽引或(八八)作「旦」。○選注引亦作「旦」。(一九)書鈔二十引作「十斤」。○孔氏校本書鈔亦作「千斤」、未知鈎沈何據。鈎沈排印本「嫗」作「姬」、今依改。(二〇)○御覽一九五引無「擢」。(二一)御覽八八·又一百九十四。文選潘岳西征賦注、無末二句。○事文類聚·群書類編故事·淵鑑三〇六引皆至此為止。天中記一六亦無末二句。(二二)○續談助引作「公孫雄」、明鈔說郭引自此句至「自為誅」之間、「雄」作「弘」、書鈔二〇二引作「弘」。今據史記平津侯傳從「弘」、下同。(二三)○「弘(雄)、謂其子曰」至此、以上今依明鈔說郭補。(二四)舊註一作「禎」。(二五)舊註一作「拂」。(二六)書鈔一百二引云、「公孫弘薨、上聞而悲之、乃改殯之、上自誅之」。○續談助十萬卷樓叢書本「夭」誤作「大」。(二七)○「弘(雄)、嘗諫伐匈奴」至此、明鈔說郭亦引、但「胡」作「匈奴」、「殺

休屠王」作「至澤蘭、過居延」。(二二八)○世說文學篇第四—23注引漢武故事云、「昆邪王殺休屠王、以其衆來降、得其金人之神、置之甘泉宮。金人皆長丈餘、其祭不用牛羊、唯燒香禮拜、上使依其國俗祀之。」說郭八緯略引亦同、但無末一句耳。(二二九)「時丞相公孫弘數諫」至此、已上見續談助三。

13 于上林鑿昆明池^(二)、積其土為山、高三十餘丈。又起柏梁臺、高二十丈、悉以香柏^(三)、香聞數十里^(四)、以處神君^(四)。神君者長陵女子也。先嫁為人妻^(五)、生一男、數歲死。女子悲哀悼痛之^(六)、歲中亦死^(七)。死而有靈、其姒宛若祀之^(八)、遂關言語^(九)。宛若為主、民人多往請福^(一〇)、說人家小事頗有驗^(一一)。平原君亦事之、其後子孫尊顯、以為神君力、益尊貴。武帝即位、太后迎于宮中祭之、聞其言、不見其人^(一二)。上遂祀神君請術^(一三)、至是神君求出^(一四)、乃營柏梁臺舍之^(一五)。初霍去病微時^(一六)、數自禱神君、乃見其形、自修飾^(一七)、欲與去病交接、去病不肯、乃責之曰^(一八)、『吾以神君清潔故齋戒祈福。今欲規為淫^(一九)、此非神明也。』因絕不復往^(二〇)。神君亦慚乃去^(二一)。及去病疾篤、上令為禱神君^(二二)、神君曰、『霍將軍精氣少、壽命不長^(二三)。吾嘗欲以太一精補之、可得延年^(二四)、霍將軍不曉此意、遂見斷絕^(二五)。今病必死、非可救也^(二六)。』去病竟薨^(二七)。上乃造神君請術^(二八)、行之有效^(二九)、大抵不異容成也^(三〇)。神君以道授宛若、亦曉其術、年百餘歲、貌有少容^(三一)。衛太子未敗一年、神君亡去^(三二)。自柏梁燒後^(三三)、神稍衰。東方朔娶宛若為小妻^(三四)、生三人^(三五)、與朔同日死^(三六)。時人疑化去弗死也^(三七)。自後貴人公主慕其術、專為淫亂、大者抵罪、或夭死、無復驗云^(三八)。

校記 續談助三。御覽七百三十九。*御覽九百八十一。又九百五十四。○天地瑞祥志一四。廣記二九一。明鈔說郭五二。四庫本漢武故事。*類聚八八。*文選張衡西京賦注。*長安志三。*海錄四下。*玉海一六二。琅琊代醉編三〇。淵鑑二八七疾。*四一三柏。經典集林*一五—30。一六—51。

(一)○明鈔說郭·庫本有「于上林」三字。(二)選注引作「以香柏為之」。(三)五字依御覽九百八十一。

又九百五十四引補。○文選張衡西京賦注·類聚八八引·長安志·海錄引皆有此五字、而此等書引止關柏梁臺而已。

(四)○廣記·玉海引以上作「起柏梁臺、以處神君」。(五)○瑞祥志引「先」下有「是女」二字。(六)○瑞祥志引「女子悲哀悼痛」作「痛悼病之」、廣記作「女悼痛」、庫本作「女子悲痛」。(七)○「嫁為人妻」至此、以上依瑞祥志·廣記·明鈔說郭·庫本引補。瑞祥志·廣記引有「歲中」二字。(八)○瑞祥志守注云、「姒、昆弟之妻相謂為似。今如妯娌妯娌、兄弟婦也。宛若字也。」說郭引舊注云、「宛若、姒之名也。」庫本同。廣記引「祀作「祠」」。(九)○說郭舊注云、「(關)通也。」庫本亦同。廣記引作此句作「遂聞言」。瑞祥志引無此句及下句。(一)○以上二句依廣記引補。(一一)○瑞祥志引無「說人家小事」五字。(一二)○「平原君」以下至此、依廣記引補。瑞祥志又略引。(一三)○說郭·庫本引有此句。(一四)○瑞祥志引「至是」作「若」、疑譌。(一五)○自「其姒宛若」至此、主依廣記·瑞祥志·明鈔說郭·庫本引補。但說郭引無末二句。瑞祥志引無句末之「之」。(一六)○說郭引·庫本有「初」、瑞祥志引作「始」。(一七)三字御覽(七三九)引有。○廣記·說郭·庫本皆有。瑞祥志引作「目饒脩」、疑有譌。(一八)○瑞祥志·廣記引無「乃」、「之」作「神君」。(一九)○廣記引無「規」。瑞祥志引亦同、而「欲」上有「現」字。(二〇)○自「乃責之」至此、以上瑞祥志·廣記·說郭·庫本均有、今依補。廣記引「因」作「自」。(二一)御覽(七三九)引有此句。○廣記·說郭·庫本皆有。「乃去」今依瑞祥志補。瑞祥志引無下句「及」字。(二二)○廣記引無「為」。御覽七三九引「令」作「命」。(二三)御覽(七三九)引有此句。○續談助引無。瑞祥志引有。廣記引無「壽」。說郭引「不」作「勿」、庫本作「弗」。(二四)○說郭引·庫本並「得」作「以」。(二五)○廣記引「遂」作「乃」。(二六)○廣記引以上二句作「今不可救也」。瑞祥志引「病」作「疾」。庫本「非」作「不」。(二七)「霍去病微時」至此、以上亦見御覽七百三十九。○瑞祥志引至此為止、文末有「也」字。續談助引「薨」作「死」、廣記引作「卒」。(二八)○說郭引·庫本無「乃」。(二九)○說郭引奪「行」。(三〇)○說郭引「異容」作「容易」。(三一)○自「神君以道授」至此、以上說

郭・庫本有、今依補。(三三)○廣記引「亡」作「乃」。以上二句廣記・說郭・庫本有、今依補。(三三)○說郭・庫本「梁」作「臺」。(三四)舊注「宛若」神君之姒。○續談助引「娶」作「取」。(三五)○說郭・庫本並「人」作「子」。(三六)○廣記引至此為止、而「同日」作「俱」。(三七)○說郭・庫本並「弗」作「未」。(三八)○「自後」以下至此、今依說郭・庫本補。

14 薄忌奏、『祠太一用一太牢、為壇開八通鬼道、令太祝立其祠長安東南^(一)』。上祀太時祭、常有光明照長安城如月光。上以問東方朔曰^(二)、『此何神也。』朔曰、『此司命之神、總鬼神者也^(三)』。上曰、『祠之能令益壽乎。』對曰、『皇者壽命懸於天、司命無能為也。』

校記 御覽八百八十二。續談助三。○參看史記孝武本紀、封禪書。通鑑一八武帝元光二年。

(一)「以上」續談助三(引)。(二)○御覽引無「曰」、續談助十萬卷樓叢書本亦同、粵雅堂本有。(三)續談助三引「上問」五句、接「長安東南」下、「鬼神」作「鬼錄」。○續談助引至此為止。

15 上少好學、招求天下遺書^(一)、上親自省校、使莊助司馬相如等以類分別之^(二)。尤好辭賦^(三)、每所行幸、及奇獸異物、輒命相如等賦之^(四)。上亦自作詩賦數百篇^(五)、下即成^(六)、初不留意^(七)。相如作文遲^(八)、彌時而後成^(九)、上每歎其工妙^(一〇)、謂相如曰、『以吾之速、易子之遲^(一一)、可乎。』相如曰、『於臣則可、未知陛下何如耳^(一二)。』上大笑而不責也^(一三)。

校記 御覽八十八。續談助三。*書鈔一〇二。*紺珠集九。○*書鈔一二。天中記三七。經典集林一五—9。

(一)○此句亦見書鈔一二。(二)已上御覽引有。(三)○「尤」續談助引有。御覽四部叢刊本「辭」作「醉」、恐謬。(四)上四句亦見書鈔一百二。(五)○自「每所行幸」至此、續談助引無。(六)○紺珠引作「帝作

則即成」。 (七)○御覽各本「意」作「思」、或鈎沈以意改歟。此句續談助引無。 (八)○鈎沈「造」作「作」、今依御覽・續談助引改。 (九)紺珠集九引作「累日方成」。 (一〇)○「工」御覽引有。御覽四部叢刊本「歎」誤作「難」。 (一一)○紺珠引「子」作「汝」。 (一二)「耳」紺珠集引作「爾」。 (一三)○紺珠引作「帝亦不責」。

16 上喜接士大夫、拔奇取異、不問僕隸、故能得天下奇士^(一)。然性嚴急^(二)、不貸小過、刑殺法令、殊為峻刻^(三)。汲黯每諫上曰^(四)、『陛下愛才樂士^(五)、求之無倦、比得一人^(六)、勞心苦神^(七)、未盡其用、輒已殺之^(八)。以有限之士^(九)、資無已之誅^(一〇)。臣恐天下賢才將盡於陛下^(一一)、欲誰與為治乎^(一二)。』黯言之甚怒^(一三)、上笑而喻之^(一四)、曰、『夫才為世出、何時無才、且所謂才者、猶可用之器也。才不應務、是器不中用也。不能盡才以處事、與無才同也。不殺何施。』黯曰、『臣雖不能以言屈陛下、而心猶以為非。願陛下自今改之、無以臣愚為不知理也^(一五)。』上顧謂羣臣曰、『黯自言便辟、則不然矣、自言其愚、豈非然乎。』時北伐匈奴、南誅兩越、天下騷動。黯數諫爭、上弗從。乃發憤謂上曰、『陛下恥為守文之士君、欲希奇功於爭表。臣恐欲益反損、取累於千載也。』上怒、乃出黯為郡吏。黯忿憤、疽發背死。謚剛侯^(一六)。

校記 續談助三。御覽八十八・又四百五十四。*類聚二十四。○*白帖一一。*六帖三九。*淵鑑二九六諫。
*經典集林一五—11。參看通鑑一九武帝元狩三年。

(一)已上續談助引有。 (二)○御覽四五四引「然」下有「上」。 (三)○御覽四五四引以上三句作「法令峻刻」。 (四)○御覽八八・四五四引無「上」。 (五)○御覽四五四引「愛」上有「不」、而無次句「無」。 (六)○御覽八八引無「一」、而類聚・御覽四五四引有。 (七)○御覽八八引作「勞苦神明」、又四五四引作「心勞苦神」。 (八)○御覽八八鮑氏刊本引無「已」。 (九)○御覽八八四部叢刊本引無「以有限之」四字。 (一〇)○御覽(鮑

氏刊本」引「資」作「恣」。○續談助十萬卷樓叢書本作「咨」、皆譌。(一一)○續談助·御覽四五四引無「於」。(一二)「汲黯每諫」至此、已上亦見類聚二十四。○白帖·六帖亦引之。續談助·御覽四五四引「誰與」作倒、而續談助引「治」作「理」。白帖引此句作「陛下將何治乎」。(一三)○御覽四五四引無此句。(一四)「性嚴急」至此、已上據御覽八十八。○亦略見御覽四五四引。四五四引無「而」。(一五)已上三句「一句即「黯曰」御覽四百五十四(亦)引之。○又四五四引「自今」下有「已後」、而無「為」字。(一六)(以上)續談助三(引)。

17 上嘗輦至郎署^(一)、見一老郎^(二)、鬚鬢皓^(三)、衣服不整^(四)。上問曰^(五)、「公何時為郎^(六)、何其老也^(七)。」對曰、「臣姓顏名駟、江都人也^(八)、以文帝時為郎^(九)。」上問曰^(一〇)、「何其不遇也^(一一)。」駟曰^(一二)、「文帝好文而臣好武^(一三)、景帝好老而臣尚少^(一四)、陛下好少而臣已老^(一五)、是以三世不遇^(一六)。故老於郎署^(一七)。」上感其言^(一八)、擢拜會稽都尉^(一九)。

校記 後漢書張衡傳注。文選張衡思玄賦注。御覽三百八十三、*又七百七十四。草堂詩箋二十九。紺珠集九。○蒙求注中。*草堂詩箋三五。倭漢朗詠集私注下之下(六地藏寺本)。*記纂淵海一二七。*唐柳先生集五睢陽廟碑注。*玉海七九。*大典七三二七。天中記三九。淵鑑三三七。又二七五老人。經典集林一五—8。

(一)○後漢書注·蒙求注·紺珠引均無「嘗輦」、蒙求注引句末有「舍」字。玉海引此句作「武帝輦過郎舍」。(二)○詩箋引句頭有「因」字。而「老郎」作「署郎」。御覽三八三引無「郎」、又七七四引作「一人老郎」。紺珠引作「一郎」。鈎沈「老郎」作「老翁」、未知何據。書鈔·後漢書注·蒙求注引皆作「老郎」、今依改。(三)「鬚鬢」御覽引或(七七五)作「鬚眉」。○蒙求注·詩箋·紺珠引亦同。朗詠集注引作「鬚眉」。(四)「整」御覽引或(三八三)作「完」、今依書鈔一百四十。○此句後漢書注·蒙求注·御覽四部叢刊本七七四·朗詠集注·詩箋二九·紺珠引皆無。御覽鮑氏刊本七七四引「整」作「同」。詩箋三五引「服」作「而」。(五)○後漢書注·蒙求注引無「上」

「曰」、紺珠引無「上」、書鈔·御覽七七四引無「曰」。(六)○後漢書注·蒙求注引無「公」。紺珠引無此句。(七)○書鈔·蒙求注·朗詠集注引無此句。御覽三八三引「也」作「矣」。後漢書注·御覽七七四·詩箋引皆作「也」。紺珠引作「耶」。詩箋三五引至此為止。(八)○御覽七七四四部叢刊本引以上二句錯刻在前之「上問」上、而無「也」。後漢書注·蒙求注·朗詠集注·紺珠引無此句。書鈔引至此為止。(九)選注引云、「顏駟、不知何許人。漢文帝時為郎、至武帝嘗輦過郎署、見駟彪眉皓髮、上問曰、叟何時為郎、何其老也。答曰、臣文帝時為郎。」與後漢書注及御覽引頗不同、蓋出別一本。○後漢書注·詩箋引有「以」字。(一〇)○蒙求注引「上」作「帝」、下同、而無「曰」。(一一)○蒙求注引作「何久不遇」。御覽三八三引作「何不遇也」、紺珠引同、但「也」作「耶」。朗詠集注引作「何不遷」。鈎沈依御覽七七四鮑氏刊本引作「何其老而不遇也」、今依四部叢刊本引刪「老而」。(一二)三句御覽引有。○後漢書注·詩箋引無此三句。(一三)○蒙求注·御覽三八三·朗詠集注引無「而」、下同。(一四)詩箋「少」下有「今」字。○御覽三八三引「尚」作「又」。朗詠集注引作「景帝好美、臣兒醜」。按依選注引。(一五)選注引作「至景帝好美而臣貌醜、陛下即位好少而臣已老」。○大典引作「景帝好美、而臣又醜、陛下好壯、而臣已老」。(一六)御覽七七四·紺珠引至為止。○「駟曰」至此亦見記纂淵海引。後漢書注·記纂淵海·柳先生集注引「世」作「葉」。蒙求注引作「朝」。朗詠集注引作「代」。後漢書注·詩箋引句末有「也」。詩箋引無「三世」。(一七)選注引有此句。○朗詠集注引無。(一八)○蒙求注·朗詠集注引「其言」作「之」。(一九)○「擢拜」依選注引、御覽三八三引作「拜為」、後漢書注·蒙求注·詩箋均作「擢為」。朗詠集注引作「用為會稽太守」。

18 天子至鼎湖、病甚、浮水發根言於上曰、『上郡有神、能治百病。』上乃令發根禱之、即有應。上體平、遂迎神君會於甘泉、置之壽宮。神君、最貴者大夫、次大禁司命之屬、皆從。非可得見、聞者音與人等。來則蕭然風生、帷幄皆

動。於北宮設鍾虞羽旂，以禮神君。神君所言，上輒令記之，命曰畫法^(二)。率言人事多、鬼事少。其說鬼事與浮屠相類。欲人為善、責施與、不殺生。

校記 續談助三。○參看史記孝武本紀、封禪書。通鑑二〇武帝元狩五年。

(一) ○續談助粵雅堂本、十萬卷樓本引「畫」皆作空闕一格、鈎沈依史記孝武本紀補。

19 齊人公孫卿謂所忠曰、『吾有師說秘書言鼎事、欲因公奏之。如得引見，以玉羊一為壽。』所忠許之。視其書而有疑、因謝曰、『寶鼎事已決矣、無所復言。』公孫卿乃因鄆人平時奏之。有札書言^(一)、『宛侯問於鬼區臾^(二)、區曰、「帝得寶鼎、神策延年、是歲乙酉^(三)、朔旦冬至、得天之紀、終而復始^(四)。於是迎日推算、乃登仙於天。」今年得朔旦冬至、與黃帝時協。臣昧死奏。』帝大悅、召卿問。卿曰、『臣受此書於申公、已死、尸解去。』帝曰、『申公何人。』卿曰、『齊人安期生同受黃帝言、有此鼎書。申公嘗告臣言、漢之聖者、在高祖之曾孫焉。寶鼎出、與神通、封禪得上太山、則能登天矣。黃帝郊雍祠上帝、宿齋三月、鬼區與尸解而去、因葬雍、今大鴻冢是也。其後黃帝接萬靈於明庭、甘泉是也。升仙於寒門、谷口是也。』^(五)

校記 「續談助四漢孝武內傳注。」○參看本條後附漢武外傳。又參看通鑑二〇武帝元鼎四年。

(一) 已上據漢武孝武帝內傳補。 (二) 舊註「宛」一作「究」。 (三) 「乙」舊註一作「己」。 (四) 「宛侯」至此、已上續談助四所錄漢武內傳注引故事。○注「宛」上有「黃帝得寶鼎」五字。 (五) 「於是迎日推算」至此、已上並依內傳補。晁氏云、「內傳什有五、六、皆增贅漢武故事與十洲記也。」

○19附 道藏漢武外傳(叢書集成初編本)云、

齊人公孫卿謂所忠曰、『吾有師說秘書言鼎事、欲因公奏之、如得引見、以玉羊一為壽。』所忠許之、視其書而有疑、謝曰^(一)、『寶鼎事已決矣、無所復言^(二)。』公孫卿乃因鄆人平時奏之。有札書言、「黃帝得寶鼎、究侯問于鬼區臾。

對曰：『帝得寶鼎、神華延年、歲己酉、朔旦冬至、得天之紀、終而復始^(一)。』于是帝迎日推算、凡二十推、百八十歲、黃帝乃登仙于天。今年得朔旦冬至、與黃帝時協、臣昧死奏。』武帝大悅、召問卿。卿對曰：『臣受此書于申公、已死尸解去。』帝曰：『申公何人。』卿曰：『齊人、安期先生、同受黃帝言、有此鼎書。申公嘗告臣、言漢之聖者、在高祖之曾孫焉、寶鼎出而與神通、封禪得上泰山、唯有黃帝。漢主當上封、封則能登天矣。黃帝且與百鬼戰、且學仙、百餘歲、乃得與神通。黃帝郊雍、祠上帝、宿齋三月。鬼與^(四)區尸解而去^(五)。因葬雍、今大鴻塚是^(六)也。其後黃帝接萬靈于明庭、甘泉是也。昇仙於寒門^(七)、谷口是也。黃帝採首山銅、鑄鼎于荊山、鼎既成、有龍垂胡髯下迎、帝上龍、羣臣及後宮從上龍者七十餘人。小臣不得上、乃悉持龍髯拔墜帝弓。百姓仰望黃帝上天、乃抱其弓與龍髯而號。故後世號其塚曰鼎湖、其弓曰為烏號。』武帝于是歎曰：『嗟乎、吾誠能及黃帝、視去天下如棄土。』帝祠黃帝塚于喬山、顧問公孫卿曰：『黃帝仙不死、有塚何也。』對曰：『黃帝仙去、羣臣思慕無已、乃葬其衣冠、非真塚也。』武帝又歎曰：『吾後昇天、臣亦嘗思慕、持吾衣冠葬于東陵乎。』

(一) 續談助鈔內傳上有「因」字。(二) 續談助此下有注云「汾陰得寶鼎、見于祖廟、藏于宗廟、以合靈應。」(三) 以上三十二字、續談助無。(四) 「與」字、據續談助補。(五) 續談助此下有注云、「黃帝得寶鼎、宛侯問於鬼與區、區曰、帝得寶鼎、神策延年、是歲乙酉、朔旦冬至、得天之紀、終而復始。」此一事出漢武故事、四十六字、「宛」下注一作「究」、「乙」下注一作「巳」、據史記封禪書作「宛」作「巳」者、是原本以注為正、文見前、字句小異、未知孰是。(六) 「也」字、據續談助補。(七) 「於」字、據續談助補。以上均錢熙祚注。

20 上為伐南越、告禱泰一。為泰一鑄旗、命曰靈旗^(一)、畫日月斗、大吏奉以指所伐國^(二)。

校記 紺珠集九。○參看史記孝武本紀、封禪書。

(一) 「命曰」已上依漢書郊祀志補。○略引。史記孝武本紀又曰、「其秋、為伐南越、告禱泰一、以牡荊畫幡日月北

斗登龍、以象天一三星、為泰一鋒、名曰靈旗、為兵禱、則太史奉以指所伐國。」（二）漢書作「太史」、此當誤。○紺珠（明刊本）引文末有「而祈為」三字。或下當有奪文。

21 拜公孫卿為郎、持節候神。自太室至東萊、云、「見一人、長五丈、自稱巨公^(一)、牽一黃犬、把一黃雀、欲謁天子、因忽不見^(二)。」上於是行緱氏、登東萊、留數日、無所見、惟見大人跡。上怒公孫卿之無應、卿懼誅、因衛青白上云、「仙人可見、而上往遽、以故不相值。今陛下可為觀於緱氏、則神人可致。且仙人好樓居、不極高顯、神終不降也。」於是上於長安作飛廉觀、高四十丈、於甘泉作延壽觀^(三)、亦如之^(四)。

校記 三輔黃圖五。＊類聚九十四（鈎沈本作「九十二」、今正）。＊御覽三百七十七。＊又九百四。＊又九百二十二。＊事類賦注十九。○事類賦注二三。＊淵鑑二五六・四二八・四三六。編珠二。經典集林一六—37・38。參看史記孝武本紀、封禪書。通鑑二〇武帝元封元年。

（一）御覽引有此句、「巨」一（九二鮑氏刊本引）作「神」。 （二）類聚九十四・御覽三百七十七・又九百四・又九百二十二・事類賦注十九（引並至此為止）。○御覽九二三・事類賦注一九引以上全文、但無各「一」、而「把」作「持」。事類賦注兩引皆「欲」上有「云」。以上三輔黃圖引止作「公孫卿言、神人見於東萊山、欲見天子」十五字。 （三）○編珠引有此句、下文作「以避暑」。 （四）（以上依）三輔黃圖五。

22 上巡邊至朔方、還祭黃帝冢橋山。上曰、「吾聞黃帝不死、今有冢、何也。」公孫卿曰、「黃帝已僊上天、羣臣思慕、葬其衣冠。」上歎曰、「吾後升天、羣臣亦當葬吾衣冠東陵乎。」乃還甘泉、類祠太一。

校記 通鑑攷異一云、「史記漢書皆云『或封』、漢武故事云『公孫卿對』、今取之。」案故事逸文、未見他書稱引。今即以通鑑補之。○參看史記孝武本紀、封禪書、漢書郊祀志上、通鑑二〇武帝元鼎六年。又參看第19附漢武外傳。

23 上於未央宮以銅作承露盤^(一)、仙人掌擎玉杯^(二)、以取雲表之露^(三)、擬和玉屑、服以之求仙^(四)。於其旁生芝草九莖、莖如金、葉朱、實夜中有光、上嘉之^(五)。

校記 事類賦注三。御覽十二·又七百五十九。紺珠集九。*初學記二。○*類聚九八。*玉海一九五(兩引)。天中記三。淵鑑一〇露·又三八四杯。經典集林一五—29。

(一)〔於未央宮〕四字依紺珠集九引補。(以銅)二字依事類賦注三引補。○御覽二二引「上」作「帝」、又七五九引作「武帝」。御覽一二、一引「承露盤」作「金莖」而無「仙人掌」、玉海一引亦同、又一引作「作銅承露盤」、上有仙人掌以承路」。事類賦注中華書局本亦作「帝作銅承路盤」、上有仙人掌擎玉盤」、鈎沈依劍光閣本引。類聚引作「承甘露盤」。 (二)○事類賦注中華書局本引已見上。紺珠引「擎玉杯」作「之」。 (三)已上見初學記二、御覽七百五十九。○類聚·事類賦注劍光閣本·玉海引皆至此為止。類聚引「以」作「為」。御覽一二·事類賦注·玉海引「取」作「承」。 (四)○御覽一二·紺珠引「服」下有「之」、今依補。紺珠引「求仙」作「求長生」。 (五)○「於其旁」至此、以上事類賦注中華書局本引有、今依補。劍光閣本引無。

24 樂成侯上書言、『方士樂大、膠東人、故曾與文成侯同師。』上召見大、大悅。大乃敢大言、處之無疑^(一)。大有方術^(二)、嘗於殿前樹旂數百枚^(三)、大令旂自相擊^(四)、繡繡竟庭中^(五)、去地十餘丈、觀者皆駭^(六)。

校記 通鑑攷異一。御覽三百四十。○明鈔說郭五二。庫本。淵鑑二二七旂旗。經典集林一五—15。參看史記孝武本紀、封禪書、漢書郊祀志。通鑑二〇武帝元鼎四年。

(一)○文頭至此為止、以上明鈔說郭·庫本引有、今依補。 (二)御覽引有此句。 (三)〔旂〕御覽引作「旌」。○御覽四部叢刊本「枚」誤作「人」、鮑氏刊本引無。 (四)○御覽引「大」作「因」、當從。 (五)○御覽引無

「繡繡竟」三字。(六)○御覽引「皆」作「大」。

25 帝拜樂大為天道將軍。使著羽衣、立白茅上、授玉印。大亦羽衣、立白茅上受印^(二)。示不臣也^(三)。上乃封為樂通侯、賜甲第僅奴千人、乘輿車馬、帷幄器物、以充其家。又以女公主妻之、送金千斤、更號當利公主。連年妖妄滋甚^(四)。
校記 御覽九百九十六。○明鈔說郭五二。庫本。淵鑑四一一茅。經典集林一五—15。參看史記孝武本紀、封禪書、漢書郊祀志。通鑑二〇武帝元鼎四年。

(一)○御覽四部叢刊本引「受」作「授」。(二)御覽九百九十六〔引至此為止〕。(三)○「上乃」至此、以上明鈔說郭·庫本引有、今依補。

26 樂大曰、『神尚清淨。』上於是於宮外起神明殿九間^(一)。神屋^(二)、鑄銅為柱、黃金塗之^(三)。丈五圍^(四)、基高九尺、以赤玉為陛^(五)。基上及戶^(六)、悉以碧石^(七)。椽亦以金^(八)、刻玳瑁為龍虎禽獸^(九)、以薄其上、狀如隱起^(一〇)。椽首皆作龍形、每龍首銜鈴、流蘇懸之^(一一)。鑄金如竹狀以為壁^(一二)、白石脂為泥^(一三)、漬椒汁以和之^(一四)、白蜜如脂^(一五)、以火齊薄其上^(一六)。扇屏悉以白琉璃作之^(一七)、光照洞徹^(一八)。以白珠為簾箔^(一九)、玳瑁押之^(二〇)。以象牙為蔑^(二一)、帷幕垂流蘇^(二二)。以琉璃珠玉、明月夜光、雜錯天下珍寶為甲帳、其次為乙帳。甲以居神、乙以自御^(二三)。俎案器服、皆以玉為之^(二四)。前庭植玉樹^(二五)、植玉樹之法^(二六)、葺珊瑚為枝^(二七)、以碧玉為葉^(二八)、花子或青或赤^(二九)、悉以珠玉為之^(三〇)、子皆空其中^(三一)、如小鈴鎗鎗有聲^(三二)。薨標作金鳳皇^(三三)、軒翥若飛狀^(三四)、口銜流蘇、長十餘丈^(三五)、下懸大鈴。庭中皆鑿以文石^(三六)、率以銅為瓦^(三七)、而淳漆其外^(三八)、四門並如之^(三九)。雖崑崙玄圃、不之過也^(四〇)。上恆齋其中、而神猶不至。於是設諸偽、使鬼語作神命云、『應迎神、嚴裝入海。』上不敢去、東方朔乃言大之無狀、上亦發怒、收大腰斬之^(四一)。

校記 續談助三。類聚六十一。又*六十九。*八十三。*御覽一百八十八(四引)。又一百八十一。一百八十七。六百九十九。七百。七百一。七百六十七。八百一。八百五。八百七。八百八。八百九。*書鈔一百三十二(四引)。*六帖十。十四。*初學記九(不著出處)。紺珠集九。*海錄五(二引)。*三輔黃圖二。史記孝武本紀。○*類聚八四。*初學記二五。*後漢書班彪傳注。*文選揚雄甘泉賦注。*白帖三。四。御覽八〇三。*雍錄一〇。*類說二一—八。*萬花谷續集六。*玉海九一。又一七五。*演繁露二。*明鈔說郭一〇事始引。*永樂大典二二五九。天中記一五。*四九。淵鑑三四〇居處。*三四六室(二引)。三六三玉。三六四珠。又珊瑚。又瑠璃。三七六帳。又屏風。又簾。*編珠二。經典集林一五—35。36。37。參看通鑑二〇武帝元鼎五年。

(一)黃圖二引故事云、「神明殿在未央宮」。(神明殿)三字據御覽七百六十七引補。○鈞沈作「御覽九百六十七」、今依正。(二)○「屋」鈞沈依續談助引作「室」、但諸本引多作「屋」、今依改。一作「堂」。(三)二句見類聚六十一。○亦見白帖·六帖。(四)三字見六帖十。○白帖三。(五)○續談助引「玉」作「土」、鈞沈依類聚六一引。「上於是」至此玉海一七五節引作「上起神屋、鑄銅爲柱、黃金塗之、赤玉爲階」。(六)○續談助引「戶」作「庀」、鈞沈從御覽八〇九引。(七)御覽八百九引「石」作「玉」。○御覽四部叢刊本·鮑氏刊本均作「石」、疑魯迅筆誤。(八)○御覽一八八引作「以金椽爲」。(九)○類聚六一引無「龍虎」。(一〇)○類聚六一引無此句。(一一)「椽亦以金至此」、已上六句亦見御覽二百八十八。(一二)○鈞沈依續談助粵雅堂叢書本「竹」下有「收」字、十萬卷樓叢書本引無、今依十萬卷樓本刪之。類聚六一引「金」作「銅」、而無「狀以爲壁」四字。(一三)○類聚六一引句頭有「以赤」二字。(一四)○類聚六一引無「漬」「以」。(一五)○類聚六一引無此句。(一六)御覽八百九引作「綴以火齊」。(一七)「扇屏」書鈔一百三十二引作「屏牖(屏風)」、御覽七百一引作「屏屏風」、又八百八引作「扉」。(一八)六帖·御覽一百八十八引漢武故事云、「帝起神屋、有雲母窗、有珊瑚窗」、似亦此處逸文。○以上二句亦見書鈔一三三·御覽八〇八·七〇一、但七〇一引下句作「光冶洞澈也」。(一九)

○類聚六一引「簾」下有「薄」、書鈔一三二・初學記二五引有「箔」、但續談助引無、今依補。(二二〇)海錄碎事五引云、「上起神屋、以眞珠為簾、玳瑁為押」。○萬曆卓氏刊本(上海辭書出版社景印)「為押」作「押之」、御覽八〇三引作「為押」。類聚六一引「押」作「壓」。以上二句亦見類聚八四・初學記二五・御覽八〇三。(二二一)御覽七百引有「牙」字、據補。類聚六十一引「蔑」作「床」。○書鈔一三二・初學記二五・萬花谷後集六引均有「牙」。書鈔・初學記・萬花谷引均「蔑」作「篋」。(二二二)○類聚六一引無此句。(二二三)已上四句(自「以琉璃珠玉」至此)亦見書鈔一百三十二(二引)・初學記九・類聚六十九・六帖十四・御覽六百九十九・紺珠集九引。「御」並作「居」。(欄外注)海錄碎事五引「以琉璃」至此、「御」亦作「居」。○初學記九中華書局本引此句作「乙以上自御之」、類聚六一・玉海九一引亦同、但無「以」字。以上四句亦見白帖四・明鈔說郭一〇事始引、皆「御」作「居」、事始引「琉璃珠玉、明月夜光」作「琉璃珠、夜光珠」、「以」作「者」。亦略見御覽八〇二。(二二四)○類聚六一引無以上二句。(二二五)○雍錄一〇引「樹」作「木」。(二二六)○類聚六一引及他書皆無此句、但續談助引有而已。(二二七)類聚八十三・御覽八百五・又八百七引「枝」下有「柯」字、後漢書班固傳注引無。○類聚八三・御覽四部叢刊本皆無「柯」字、但御覽八〇七鮑氏刊本引有「柯」字。書鈔二〇引云、「前庭植玉樹」。大典二二五九引云、「武帝起神堂、前庭植玉樹、葺珊瑚為枝」。御覽八〇七引有以上二句。類聚六一・文選注・雍錄引無「葺」字、類聚八三・御覽八〇五引作「以」。(二二八)○文選注七・後漢書注・類聚六一・雍錄引無「以」。以上三句亦見後漢書注、文選注、雍錄。後漢書注・文選注引均有「葺」字。(二二九)○類聚六一引脫「華子」二字。類聚八三・御覽八〇五引作「華子赤青」。(三三〇)○自「前庭植玉樹」至此演繁露二節引。(三三一)○御覽八〇五引無「子皆」。(三三二)○自「前庭」至此、以上亦見類聚八三・御覽八〇五。類聚六一・八三・御覽八〇五引「小」上皆有「如」字、今依補。御覽八〇引止有「鎗」一字、句末有「也」。(三三三)御覽一百八十七引「標」作「附」。○御覽一八七引無「皇」。類聚八三引無「金」。(三三四)已上亦見類聚六十一。(三三五)○「薨」以至此、以上

亦見御覽一八七。(三六)御覽八百二引「壁」作「砌」。○不見御覽八〇二·八〇三引、御覽七六七引作「砌」。(三七)御覽一百八十八引此句。○書鈔二〇亦引此句。御覽七六七引「銅」作「布」。(三八)○白帖三·六帖一〇亦引以上二句、但無「而淳」二字。(三九)○「砌以文石」至此、以上四句亦見御覽七六七。(四〇)御覽一百八十一引已上二句。○「之」鈎沈作「是」、未知何據、今依御覽引改、續談助引無「之」。(四一)史記孝武本紀引末三句。○續談助引「狀」作空闕一格、依孝武本紀補、孝武紀引無「亦」「收大腰」三字。鈎沈依續談助引。明鈔說郭五二·庫本亦引作「連年妖妄滋甚而不效、上怒收大、腰斬之」。

27 東方朔生三日、而父母俱亡、或得之而不知其始、以見時東方始明、因以為姓。既長、常望空中獨語。後游鴻濛之澤、有老母采桑、自言朔母。一黃眉翁至^(一)、指朔曰、「此吾兒^(二)」。吾卻食服氣、三千年一反骨洗髓^(三)、二千年一剝皮伐毛^(四)。吾生已三洗髓五伐毛矣^(五)。』

校記 紺珠集九。○大典一一〇七七引作「漢武故事」、而注云「見仙傳」。

(一)○紺珠集(民國五九年臺灣商務印書館景印明刊本)引無「眉」、但標目作「黃眉翁」、大典引有。(二)○大典引有「也」。(三)○「反骨」二字、今依明刊紺珠·大典引補。(四)○鈎沈「二」作「三」、今依明刊紺珠·大典引改。「剝皮」二字、亦依明刊紺珠·大典引補。(五)○鈎沈「五」作「三」、今依明刊紺珠·大典引改。

28 朔告帝曰、「東極有五雲之澤、其國有古慶之事、則雲五色、著草木屋室^(一)、色皆如其色^(二)。』

校記 紺珠集九。○明鈔說郭九。

(一)○「室」今依明鈔說郭九引補。(二)○明鈔說郭引無上「色」。

29 帝齋七日、遣樂賓將男女數十人至君山、得酒、欲飲之。東方朔曰、『臣識此酒、請視之。』因即便飲。帝欲殺之、朔曰、『殺朔若死^(二)、此為不驗^(三)。如其有驗、殺亦不死。』帝赦之。

校記 御覽四十九。寰宇記（殘本（古逸叢書本））一百十三。

（一）○寰宇記殘本一一三（古逸叢書本）引「殺朔」作「臣」一字。（二）○寰宇記殘本引「為」作「酒」。

30 東郡送一短人^(一)、長七寸^(二)、衣冠具足^(三)。上疑七山精^(四)、常令在案上行^(五)、召東方朔問^(六)。朔至呼短人曰^(七)、『巨靈、汝何忽叛來^(八)、阿母還未^(九)。』短人不對、因指朔謂上曰^(一〇)、『王母種桃^(一一)、三千年一作子^(一二)、此兒不良^(一三)、已三過偷之矣^(一四)、遂失王母意^(一五)、故被謫來此^(一六)。』上大驚、始知朔非世中人^(一七)。短人謂上曰、『王母使臣來^(一八)、告陛下求道之法^(一九)、唯有清淨、不宜躁擾。復五年、與帝會。』言終不見^(二〇)。上愈恨、召朔問其道。朔曰、『陛下自當知。』上以其神人不敢逼也。乃出宮女希幸御者二十人、以賜之。朔與行道女子、並年百歲而死。唯一女子、長陵徐氏、號儀君、善傳朔術、至今上元延中、已百三十七歲矣。視之如童女、諸侯貴人更迎致之、問其道術。善行交接之道、無他法也。受道者皆與之通、或傳世淫之法也。陳盛父子、皆與之行道。京中好淫亂者爭就之。翟丞相奏壞風俗、請僇尤亂惡者。今上勿聽、乃徒女子于燉煌、後遂入胡、不知所終^(二一)。

校記 御覽三百七十八。*七百十。*九百六十七。*類聚八十六。六十九。六帖十四。又二十一。九十九。*齊民要術十。*初學記二十九（二引）。*事類賦注二十六。*埤雅十三。*草堂詩箋十二。*書鈔十二。○*初學記一九。*白帖四。七。八。事文類聚後集一八。又*二五。類說二一。*五色線上。*群書類編故事二三。明鈔說郭五二。*天中記二一。五二。四八。*續博物志三。*琅琊代醉編三〇。淵鑑二六一形貌。*三八二案。*三九九桃。*二五六短小人。經典集林一六一41。參看第9條後附漢武外傳。

（一）○齊民要術·類聚·初學記二八。六帖四。御覽七一〇。又九六七引「送」皆作「獻」。御覽七一〇引文頭有

「武帝時」三字。御覽九六七引無「一」。(二)類聚(六九)引(七寸)作「五寸」。○御覽七一○·明鈔說郭引亦同。(三)○類聚六九引無此句。(四)○御覽三七八引無「上」、又七一○引「疑」下有「是」。明鈔說郭引無「山」。(五)○「長七寸」至此、以上齊民要術·類聚·初學記二八引均無。(六)○齊民要術引「召」作「帝呼」、類聚·初學記二八引作「呼」。要術·初學記二八·明鈔說郭引無「問」。(七)○御覽七一○引無此句。(八)○白帖四引「汝」作「如」、而無「忽」。類聚六九引無「來」。(九)已上亦見類聚六十九·御覽七百十、「還未」並作「健不」。六帖十四·又二十一引作「安不」。○白帖四引亦作「健否」。六帖明嘉靖刊本一四引「還未」作「健否」、而二引無「安不」、明鈔說郭引作「巨靈、阿母還來否」。(一〇)○要術一〇·初學記二八引無「不對、因」三字、類聚八六引無「不對」。初學記二八引又無「上」。(一一)○要術·類聚引「王母」上有「西」。初學記二八引「種」作「東園」。(一二)○要術引「作」作「著」、類聚引作「為」、初學記二八·明鈔說郭引作「結」、二八又一引無。事類賦注引「作子」作「實」。(一三)○初學記二八引無「不良」。類聚句末有「也」。(一四)「王母」至此、已上亦見齊民要術十·類聚八十六·初學記二十八(二引)·六帖九十九·御覽九百六十七·事類賦注二十六·埤雅十三。「指朔」至此亦見草堂詩箋十二、「此兒」作「此子」。○六帖九九此處不引。初學記二八(二引)亦作「此子」。而又一引奪「過」。要術「已」作「以」。類說引作「此小兒」。明鈔說郭引無「矣」。埤雅引云、「海上有蟠桃、三千霜乃熟、一千年開華、一千年結子、東方朔嘗三盜此桃矣」。(一五)○明鈔說郭引無「遂」。(一六)○類說引至此為止、但無「遂失王母意、故」六字。(一七)○明鈔說郭引句末有「也」。(一八)○明鈔說郭引「臣」作「人」。(一九)書鈔十二引云、「巨靈告求道之法」。○今依書鈔·御覽三七八·明鈔說郭引補「告」字。(二〇)御覽三七八(引至此為止)。○鈞沈引亦至此為止。明鈔說郭「不」作「勿」。(二一)○「上愈恨」至此、以上今依明鈔說郭引補。琅琊代醉編三〇引亦有、「僂尤亂惡」作「戮尤亂甚」。

31 帝齋于尋眞臺、設紫羅薦。

校記 類聚六十九。○御覽三一引漢武內傳云、「帝登尋眞之臺齋。至七月七日夜、忽見天西南、白雲起鬱鬱直來趨宮、有頃西王母至、乘紫雲之輦。」

32 王母遣使謂帝曰^(一)、『七月七日我當暫來。』帝至日、埽宮內、然九華之燈^(二)。七月七日、上於承華殿齋^(三)、日正中^(四)、忽見有青鳥從西方來集殿前^(五)。上問東方朔^(六)、朔對曰^(七)、『西王母暮必降尊像上^(八)、宜灑掃以待之^(九)。』上乃施帷帳、燒兜末香^(一〇)、香^(一一)、兜渠國所獻也^(一二)、香如大豆、塗宮門^(一三)、聞數百里^(一四)。關中嘗大疫、死者相係^(一五)、燒此香、死者止^(一六)。是夜漏七刻、空中無雲、隱如雷聲、竟天紫色^(一七)。有頃、王母至^(一八)、乘紫車^(一九)、玉女夾馭、戴七勝^(二〇)、履玄瓊鳳文之舄^(二一)、青氣如雲、有二青鳥如鳥^(二二)、夾侍母旁^(二三)。下車、上迎拜、延母坐、請不死之藥。母曰、『太上之藥、有中華紫蜜、雲山朱蜜、玉津金漿、其次藥有五雲之漿^(二四)、風實雲子、玄霜絳雪^(二五)、上握蘭園之金精、下摘圓丘之紫柰^(二六)、帝滯情不遣^(二七)、欲心尚多、不死之藥、未可致也。』因出桃七枚、母自噉二枚^(二八)、與帝五枚^(二九)。帝留核着前。王母問曰、『用此何為^(三〇)。』上曰、『此桃美、欲種之。』母笑曰^(三一)、『此桃三千年一著子、非下土所植也^(三二)。』留至五更、談語世事、而不肯言鬼神、肅然便去。東方朔於朱鳥牖中窺母、母謂帝曰^(三三)、『此兒好作罪過、疏妄無賴、久被斥退^(三四)、不得還天、然原心無惡、尋當得還^(三五)。帝善遇之。』母既去、上惆悵良久^(三六)。

校記 續談助三。*書鈔一百五十五・一百五十一・十二。*類聚四・八十六・又九十一。*初學記四・二十八。
*法苑珠林三十六〔百二十卷本四九〕。*六帖四・十・九十九。*御覽三十一・九百八十三・九百二十七・八百五十七・八百六十一・九百七十・九百七十六・一百八十八。*大觀本草六。*事類賦注五・二十六。*紺珠集九。*海錄碎事五。*草堂詩箋六・四・三十四・三十八。○*書鈔一二・二三・三三。*類聚六九〔兩引〕。*唐寫文選

集注殘本郭璞詩注。*白帖一·二七·三〇（兩引）·三。*海錄一三上（兩引）。*類說二一。*事文類聚前集二·後集四七。歲時廣記二八。*倭名類聚鈔一二。*香字鈔。*世俗諺文（兩引）。*長安志四。*草堂詩箋一二。*趙次公注杜詩（千秋節有感二首之二）。*萬花谷後集四·續集二。*玉海一五九·一六九。*香譜。*通雅四三。*天中記五·四六。*淵鑑四二·青鳥·三九一·漿·三四六室·一二四點免·一九七月七日·五雲。

（一）○御覽引無「使」，或鈎沈以意補。 （二）御覽三十一（一引）。○今依御覽引補「之」字。 （三）○長安志引「承華殿」上有「上林」二字。玉海一六九作「上林有承華殿」。 （四）○御覽三二引「日正中」作「其日」，又九二七引無「日」。白帖一·二七兩引作「正中」。 （五）〔集殿前〕三字，據書鈔一百五十五所引補。又十二引云「青鸞集殿」。○類聚四·九一·初學記四·海錄一三·事類賦注五·世俗諺文·草堂詩箋四·六·三四·一二·事文類聚後集四七·萬花谷後集四·歲時廣記引皆與書鈔一五五引同有「集殿前」三字。御覽三一引無「見」「青」。又九二七引「青」上有「一」，白帖一·二七·紺珠集九·長安志·萬花谷四引亦同。 （六）草堂詩箋四卷六卷三十四卷引並有「何鳥也」三字。○歲時廣記引亦同，紺珠集九引有「何鳥」。 （七）○御覽三一·九二七引無「對」。 （八）○書鈔一五五·類聚四·九一·御覽三一·九二七·事類賦注·事文類聚後集四七·世俗諺文等多此句作「此西王母欲來也」。 （九）六字依紺珠集九引補。 （一〇）大觀本艸六引作「兜木香末」。○類說引作「具末香」。歲時廣記引作「貝末香」。 （一一）○御覽九二七·法苑珠林引「香」上有「兜末」二字。 （一二）法苑珠林三十六引〔渠〕作「末」。○珠林大正藏本作「渠」。歲時廣記引「兜率」。 （一三）○珠林·御覽引無「宮」、本草·香譜引有。 （一四）○珠林·御覽·本草·歲時廣記·香譜引皆無「數」。類聚六九引自「西王母」至此，以上作「『西王母感上區區之誠，暮必神降。』上乃施帷帳、燒兜沫香、香聞數百里。」 （一五）〔係〕本草引作「枕」。○香譜引亦同。 （一六）〔關中〕四句據珠林引補。御覽九百八十三引作「關中常大疾疫、死者因生」。本草作「疫則止」。○香譜引與本草同。 （一七）○以上四句草堂詩箋作「是夕漏七刻、西方隱隱若雷聲」、歲時廣記引亦同。

「西王母」至此、又略見珠林引。（一八）書鈔二百五十五引云、「紫氣乃從西王母」。（一九）詩箋六引作「紫雲車」。○類說引亦同。歲時廣記引作「雲車」。（二〇）○鈎沈依續談助十萬卷樓叢書本「戴」作「載」、今依粵雅堂叢書本等改作「戴」。類說·歲時廣記引「戴」上有「母」。（二一）紺珠集引此句、今補於此、亦見海錄碎事五。○海錄引「鳳文」作倒。（二二）○初學記四引「二」作「一」。（二三）已上亦散見類聚四·又九十一·初學記四·六帖四·御覽三十一·又九百二十七·事類賦五·紺珠集九。○亦見白帖一·又二七·事文類聚後集四七·世俗諺文·長安志四·萬花谷後集四·玉海一五九。御覽九二七引「旁」下有「之」。（二四）五句見御覽八百五十七·又八百六十一、今補於此。○八五七引至「朱蜜」為止、八六一引無「中華紫蜜、雲山朱蜜」、而「液」作「津」。唐寫文選注引有「金漿玉津」。今從「津」。（二五）二句見紺珠集九、注云、「仙家上藥、帝得之」、今據內傳正、並補於此。（二六）二句見初學記二十八·御覽九百七十、並奪「下」字、今據內傳補。○事類賦注二六亦引二句、而無「下」字。（二七）○類說引「遣」作「盡」。（二八）○類聚八六引「自」作「因」。御覽九六七·事類賦注二六引「噉」作「啖」。（二九）草堂詩箋三十八引作「以五枚與帝」。○類聚八六·初學記二八·御覽九六七引亦同、事類賦注二六引亦同、但無「枚」。世俗諺文引云、「王母齎桃五枚、以獻帝」。（三〇）○類聚八六·初學記二八引並無「為」。（三一）○御覽九六七引「笑」作「歎」。（三二）「帝留核」至此、已上依御覽九百六十七·類聚八十六·初學記二十八·事類賦注二十六引補。六帖九十九引作「一千年生華、一千年結實、人壽幾何、遂止」。蓋出別本。○「桃七枚」至此、以上亦見草堂詩箋一二。又「帝留核」至此、以上亦見萬花谷續集二。白帖引與六帖引同。趙次公注杜詩引云、「西王母齎仙桃七枚、獻帝。帝欲留核種、王母笑曰、此桃一千年生、一千年結實、人壽幾何。遂指東方朔曰、仙桃三熟、此兒已三偷矣」。世俗諺文引云、「帝以枚欲種之。王母笑曰、此樹一千年生、一千年華、一千年實、人壽幾何、能及之乎」。草堂詩箋三八引「著子」作「熟」、而「非」下有「可」。但同一二引略如本文。（三三）「調帝」二字、御覽一百八十八引有。○「窺母」至此、海錄引作「竊視之、王母視朔、顧

上曰」。白帖三〇・世俗諺文引云、「西王母指東方朔曰、仙桃三熟、此（小）兒已三（度）偷（去）也。」或此亦出別本歟。（三四）○御覽一八八・類說・歲時廣記引「退」作「逐」。（三五）「東方朔」至此、已上亦見六帖十・紺珠集九也。○又見白帖三・御覽一八八。（三六）續談助三。

33 後上殺諸道士妖妄者百餘人^(一)。西王母遣使謂上曰^(二)、「求仙信邪^(三)。欲見神人^(四)、而先殺戮^(五)、吾與帝絕矣。」又致三桃曰、「食此可得極壽^(六)。」使至之日、東方朔死。上疑之、問使者。曰、「朔是木帝精為歲星^(七)、下游人中^(八)、以觀天下、非陛下臣也^(九)。」上厚葬之（一〇）。

校記 開元占經二十三・*又四十六・*御覽九百六十七・五・*事類賦注二・*紺珠集九・*海錄碎事七（上）。○類說二十一・*草堂詩箋三三・*能改齋漫錄七・*大典八五二六・錢注杜詩一〇題鄭虔。經典集林一六—48。（一）御覽引有此句。○類說引「後上殺」作「上又至海上、考竟」、又「妖」上有「尤」。（二）○類說引無「謂上」。（三）○御覽九六七引「仙」下有一格空闕。類說引無此句。（四）御覽引有已上六字。（五）○御覽四部叢刊本引無「先」。（六）已上亦見御覽九百六十七。○紺珠集引「謂上曰」至此、以上止作「致三桃」。（七）占經四十六引云、「朔是歲星精」。（八）○紺珠・詩箋引「中」作「間」。（九）「使至」至此、已上亦見御覽五・事類賦注二・紺珠集九・海錄碎事七（上）。○類說・草堂詩箋・能改齋漫錄・大典・錢注杜詩引亦有。（一〇）開元占經二十三、次又云、「一本云、朔死、乘飛雲去、仰望大霧、望之不知所在。朔在漢朝、天上無歲星。」

34 上幸梁父、祠地主^(一)、上親拜、用樂焉^(二)、庶羞以遠方奇禽異獸、及白雉百鳥之屬^(三)。其日山上有白雲^(四)、又呼萬歲者^(五)。上禪肅然^(六)、為蓋^(七)。帝祀甘泉、有紫雲從西北來、散於殿前^(八)。

校記 御覽八・*又八百七十二・*書鈔九十一・*類聚九十。○類聚九八・*又一。淵鑑五雲・四二二雉。經典

集林一五—18。參看通鑑二〇武帝元封元年。

(一)○類聚九八引無「主」、九〇引有。御覽八七二引「祠地主」作「祀地」。(二)○類聚九八引有此句。(三)二句據類聚九十引補。○「鳥」鈎沈作「鳥」、今依改。(四)○「山」今依類聚九十・書鈔・御覽引補。(五)○類聚九〇引至此為止。類聚九〇引無「有」、書鈔引作「聞」、御覽八引作「曰」、「者」作「聲」。(六)○此句類聚九八引作「禪肅然」、一引作「上禪肅然」、御覽八引作「封禪之上肅然」、今依補「上」一字。(七)○御覽八七二引「為」作「如」。類聚一・玉海一九五引又有以上二句。(八)○以上三句十五字、今依玉海一九五引補、此或系第22條文末歟、今暫引存於此。

35 上自封禪後、夢高祖坐明堂、羣臣亦夢、於是祀高祖於明堂^(二)、以配天。還坐高陵館。

校記 御覽一百九十四、*三百九十九。○長安志四。玉海一六五。類編長安志三。*大典一三二三五。經典集林一五—21。按此條當是第36條中之佚文、當刪。今移之第36。

(一)已上亦見御覽三百九十九。

36 上於長安作蜚簾觀、於甘泉作延壽觀、高二十丈^(二)。有築通天臺於甘泉、去地百餘丈、望雲雨悉在其下^(三)。春至泰山、上自封禪後、夢高祖坐明堂、羣臣亦夢^(四)、於是祀高祖於明堂、以配天。還作道山宮、以為高靈館^(五)。又起建章宮為千門萬戶^(六)、其東鳳闕、高二十丈^(七)、其西唐中、廣數十里、其北太液池、池中有漸臺、高三十丈^(八)。池中又作三山、以象蓬萊、方丈、瀛洲^(九)、刻金石為魚龍禽獸之屬^(一〇)、其南方有玉堂壁門大鳥之屬^(一一)、玉堂基與未央前殿等、去地十二丈^(一二)、階陛咸以玉為之^(一三)、鑄銅鳳皇、高五丈、飾以黃金、棲屋上^(一四)。又作神明臺并幹樓、高五十餘丈、皆作懸閣^(一五)、輦道相屬焉。其後又為酒池肉林、聚天下四方奇異鳥獸於其中^(一六)、鳥獸能言能歌舞、或奇形異

態、不可稱載^(二六)。其旁別造奇華殿、四海夷狄器服珍寶充之^(二七)、琉璃珠玉火浣布切玉刀、不可稱數、巨象大雀、師子駿馬、充塞苑廐、自古已來所未見者必備^(二八)。又起明光宮、發燕趙美女二千人充之^(二九)。率取年十五已上二十已下、滿四十者出嫁、掖庭令總其籍、時有死出者隨補之^(三〇)。凡諸宮美人可有七八千^(三一)。建章、未央、長樂三宮、皆輦道相屬、懸棟飛閣、不由徑路^(三二)。率使宦者婦人分屬^(三三)、使三婦人知書者為僕射、大者領四百人、小者領一百人^(三四)。常被幸御者、輒注其籍、增其俸。三宮秩比六百石。宮人既多極、被幸者數年一再遇、挾婦人媚術者甚衆。選二百人^(三五)、常從行郡國、載之後車^(三六)。與上同輦者十六人、員數恆使滿^(三七)、皆自然美麗、不假粉白黛黑^(三八)、侍尚衣軒者亦如之^(三九)。嘗自言^(四〇)、『能三日不食、不能一時無婦人^(四一)』。『善行導養術、故體常壯悅。其應有子者、皆記其時日、賜金千斤^(四二)。』其有孕者、拜爵為容華、充侍衣之屬^(四三)。

校記 續談助三。*御覽四百九十三·三百八十·一百七十三·一百七十六·七百七十四。*類聚六十二·六十三。
*史記封禪書索隱。*又孝武本紀索隱〔鈎沈作「正義」誤、今正。〕*三輔黃圖五。*水經渭水篇注。*初學記二十四〔三引〕。*書鈔一百四十。○*書鈔二〇。*文選西京賦注。*類聚一八。*御覽一九四·三九九·九一四。
*記纂淵海五二。*萬花谷後集二四。*長安志四。*玉海一六二·又一六五。演繁露九。*類編長安志三。*明鈔說郭五二。*大典一三三三五。*天中記一三·二一。*淵鑑三二三奢·三四九臺·三四六堂·三四四門·三四一宮·二五五美婦人·三八七輦。經典集林一五—21·24·25·26·27。按前第35條當是此條之佚文、今依改移於此文中。參看史記孝武本紀、封禪書、漢書郊祀志、通鑑二二武帝元封二年、又二二武帝太初元年、三輔黃圖二〔明光宮〕。
(一) 四字據史記封禪書索隱引補。○鈎沈依百衲本、標點本作「三」。第21條依三輔黃圖作「四十丈」。(二) 黃圖五亦引上三句、又云、「(去長安三百里)、望見長安城。(黃帝以來祭天圓丘處)、武帝時、祭泰乙、上通天臺、舞八歲童女三百人、(置)祠祀(招仙人、祭)泰乙云。令人升通天臺、以候天神。天神既下祭所、若大流星。乃舉烽火、而就竹宮望拜。上有承露盤、仙人掌擎玉杯、以承雲表之露。元鳳間自毀、椽桷皆化為龍鳳、從風雨飛去。」

疑亦出漢武故事、而作者變其本文。○「祭泰乙」至「而就竹宮望拜」、以上亦見錢注杜詩一五覆舟二首。此文亦見玉海一六二、引至「雲表之露」、未知作者變其文否。今補玉海引文於符號之內。顧炎武歷代宅京記五亦引全文。(三)○玉海引「夢」下有「想」字。(四)○「上自封禪後」至此、以上從第35條移於此。見御覽一九四·又三九九·長安志·類編長安志·玉海一六五·大典·經典集林一五—21。御覽一九四·又三九九·玉海引「靈」作「陵」。(五)五字御覽(四九三)引有。(六)六字亦見水經渭水篇注引。(七)水經注·初學記二十四引並有此句。御覽(四九三)引「三」作「二」。○參看本注(一一三)。(八)御覽(四九三)引有此句。(九)○御覽四九三引「刻」作「削」。(一〇)御覽(四九三)引作「其南有玉臺玉堂」。○續談助各本「屬」下有「三」字。(一一)史記孝武本紀正義(當作「索隱」)·類聚六十三·初學記二十四·御覽一百七十六·又四百九十三引並有此句。○索隱及御覽四九三引有此句十四字。他書引皆作「玉堂去地十二丈」。玉海一六一引作「二十丈」。御覽四九三四部叢刊本引「未」誤作「中」、「丈」誤作「門」。(一二)○類聚六三·御覽一七六·演繁露九引作「基階皆用玉也」、御覽四九三引作「階陛皆用玉璧」。演繁露九引以上二句。(一三)五句初學記二十四引有、據補。又水經注引云、「南有壁門三層、高三十餘丈、中殿十二間、階陛咸以玉為之、鑄銅鳳五丈、飾以黃金、樓(棲)屋上。椽首薄以玉璧、因日璧玉門也。」與他所引少異。○按當從水經注引、初學記二四引亦云、「漸臺高三十丈、南有壁門三層、內殿階陛、咸以玉為之、鑄銅鳳皇高五丈、飾以黃金、棲屋上。」萬花谷後集引亦略同。又御覽九一四引云、「武帝作玉堂、以玉璧薄椽頭、鑄為大鳥、黃金塗、長五丈、栖屋上。」(一四)○御覽四九三引「閣」作「閤」。(一五)(四方)二字御覽(四九三)引有。(一六)三句據御覽(四九三)引補。(一七)○御覽四九三引「四海夷狄器服」作「四夷」。(一八)「起建章宮」至此、已上亦見御覽四百九十三、又有「琉璃」云云、據補。(一九)○書鈔二〇引云、「收美女以充明光宮」、又云「美女二千人」。(二〇)○「又起明光宮」至此、以上亦見長安志四、長安志引「已下」作「已還」、「四十」作「三十」、「嫁」下有「之」。後二者明鈔說郭引亦同。「隨」字今依御覽一七三。

長安志引補。(二一)○明鈔說郭引「可有七八千」作「萬有八千」。(二二)「起明光宮」至此、已上亦見御覽一百七十三·類聚六十二、「率取」已下五句據補。○類聚六二引無「率取」以下五句、類聚一八引有「率取」句、但無以下三句、而且「千」作「十」、誤。「建章宮」至此、已上亦見初學記二四引、但闕「未央」一宮。文選注亦引云、「上起明光宮、桂宮、長樂宮、皆輦道相屬、縣棟飛閣、北度從宮中西上城、至神明臺。」有少異。(二三)○此句今依明鈔說郭引補。(二四)○「使三婦人」至此、已上今依記纂淵海引補、明鈔說郭引亦略同。(二五)○「常被幸御者」至此、以上今依明鈔說郭引補。(二六)二句據御覽三百八十引補。書鈔一百四十·御覽七百七十四引作「常從行之徒」。○書鈔引如鈞沈注、但御覽七七四引云、「常從行國、載之後車」、奪「郡」一字而已。明鈔說郭亦引此二句、「行」作「幸」。(二七)○明鈔說郭引「員」作「充」。「起明光宮」至此、以上亦略見書鈔二〇。(二八)○「起明光宮」至此、以上亦略見類聚一八。明鈔說郭引「黑」作「綠」。御覽三八〇引「假」作「使」。(二九)「起明光宮」至此、已上又略見御覽三百八十。○「尚」字今依明鈔說郭引補。(三〇)○此句三字今依明鈔說郭引補。(三一)○「起明光宮」至此、以上又略見記纂淵海、淵海引「不假粉白黛黑」作「不施粉黛」、「時」作「日」、後者明鈔說郭引亦同。(三二)○以上三句今依明鈔說郭引補。(三三)○「起明光宮」至此、以上亦見明鈔說郭。

37 宮中皆畫八字眉。

校記 紺珠集九。○事文類聚後集一九云、「漢武宮人畫八字眉」、但不著出處。

38 甘泉宮南有崑明、中有靈波殿、皆以桂為柱、風來自香。

校記 類聚八十九。○淵鑑四一六桂。經典集林一五—32。類聚中華書局本注云、「明本本條作漢武故事、按今見

三輔黃圖。」按黃圖四引三輔故事云、「一說、甘泉宮南有昆明池、池中有靈波殿、皆以桂為殿柱、風來自香。」或當刪歟。

39 未央庭中設角抵戲、享外國、三百里內皆觀^(二)。角抵者、六國所造也^(三)。秦并天下、兼而增廣之。漢興雖罷、然猶不都絕、至上復采用之。并四夷之樂、雜以奇幻、有若鬼神^(四)。角抵者、使角力相抵觸也^(五)。其雲雨雷電、無異於真、畫地為川、聚石成山、倏忽變化、無所不為。

校記 *類聚四十一。*御覽七百五十五。*書鈔一百十二。○*廣韻覺韻。*倭名類聚抄四。淵鑑一八八(兩引)雜戲。經典集林一五—22·23。參看漢書武帝紀元封三年條。

(一)〔享外國、二百里內皆觀。角抵〕十一字據書鈔一百十二·類聚四十一引補。○鈎沈注、「十一字」當改作「九字」而注以上二句。類聚引無「皆」字。(二)○書鈔引至此為止。以上又略見廣韻。御覽四部叢刊本奪「抵」字。(三)○「角抵者」至此、以上類聚引無。(四)已上見御覽七百五十五。○「使角力相觸」五字又見廣韻。「觸」下御覽鮑氏刊本有「者」、類聚·御覽四部叢刊本引無、今依刪。(五)○下「角抵者」至此、以上見類聚四十一。

40 初始皇砌石起宇^(一)、至漢武又加修飾焉^(二)。

校記 初學記七。草堂詩箋十三。○古文苑五張衡溫泉賦注。長安志一五。玉海二四。類編長安志六。天中記一〇。淵鑑三二泉。經典集林一五—33。

(一)草堂詩箋十三引「始」上有「秦」字。(二)「武又」止作一「甚」字。○古文苑引無「至」。玉海引無「至」「又」二字、而「漢武」作「武帝」。

41 大將軍四子皆不才^(一)、皇后每因太子涕泣、請上削其封。上曰、『吾自知之、不令皇后憂也。』少子竟坐奢淫誅、上遣謝后、通削諸子封爵、各留千戶焉。

校記 通鑑攷異一。○通鑑二二武帝元封五年條亦引漢武故事。

(一)〔大將軍〕案衛青也。

42 上巡狩過河間、見有青紫氣自地屬天^(一)。望氣者以為其下有奇女^(二)、必天子之祥^(三)。求之^(四)、見一女子在空館中^(五)、姿貌殊絕、兩手皆拳^(六)。上令開其手、數百人擘莫能開^(七)、上自披^(八)、手即伸^(九)。由是得幸、為拳夫人^(一〇)。進為婕妤、居鉤弋宮、宮在直門南^(一一)。解皇帝素女之術^(一二)、大有寵。有身^(一三)、十四月產昭帝^(一四)。上曰、『堯十四月而生、鉤弋亦然。』乃命其門曰堯母門^(一五)。從上至甘泉、因幸告上曰^(一六)、『妾相運正應為陛下生一男、七歲妾當死、今年必死^(一七)。宮中多蠱氣^(一八)、必傷聖體^(一九)。』言終而臥^(二〇)、遂卒^(二一)。既殯、香聞十餘里^(二二)、因葬雲陵。上哀悼^(二三)、又疑非常人^(二四)、發冢、空棺無尸^(二五)、唯衣履存焉^(二六)。為起通靈臺於甘泉^(二七)、常有一青鳥集臺上往來^(二八)、至宣帝時乃止^(二九)。

校記 *御覽二百三十六。*類聚七十。又九十一。*初學記十。*續談助三。*書鈔二十六(鉤沈作六十二、七三年版全集已正)。*史記外戚世家索隱。*黃圖三。○*漢書外戚傳注。*書鈔二三。*御覽九二七。明鈔說郭五二。*類說二一。*事文類聚前集一一。*歲時廣記四〇。*長安志四。*玉海一五六。*淵鑑三二八仙。一一氣。五八嬪妃(兩引)。四二青鳥。經典集林一六—58。29、一五—28。「香聞十餘里」以下又見搜神記—29。參看漢書外戚傳鉤弋趙婕妤傳、通鑑二三武帝太始三年、本條後附漢武外傳。

(一)○說郭引無「見」。類聚七八引無「有」。(二)○事文類聚·歲時廣記引「奇女」作「貴子」。(三)○說郭引無「必」。(四)○說郭引有「上使」。(五)○說郭引「見」下有「有」。(六)○「皆」鉤沈引作

「一」、今依類聚·說郭引改。(七)○說郭引「百」作「十」、「開」作「舒」、而「擘」下有「之」。(八)○說郭引作「上于是自披手」。(九)○說郭引「申」作「伸」。(一〇)○說郭引「為」作「號」。文頭至此、以上又略見事文類聚前集一二·歲時廣記四〇、均有後文云、「後人見其手拳而有國色、故因之而為藏鈎之戲」、疑衍。(一一)黃圖三引故事云、「鈎弋宮在直門之南」。○史記外戚世家索隱亦引故事作「鈎弋」宮在直門南。「漢書外戚傳師古注作「在直門南也」。長安志·玉海一五六·歷代宅京記四引亦同。今依補。(一二)書鈔二十六引此句。(一三)○說郭引「身」作「娠」。(一四)○說郭引「月」下有「而」、「昭帝」作「是為昭帝焉」。(一五)已上見類聚七十八。(一六)○說郭引無「幸」。(一七)○說郭引無「年」、而「死」下有「于此、不可得歸矣。願陛下自愛」十二字。(一八)○說郭引「蠱」上有「巫」。(一九)○說郭引有下句云、「幸慎之」。(二〇)○說郭引「終」下有「忽然」二字。(二一)○說郭引句頭有「有頃」、類說引亦有。(二二)○「餘里」鈎沈依鮑氏刊本作倒、今依御覽四部叢刊本·說郭引改、但史記索隱引無「餘」字。說郭引句頭有「而戶」二字。(二三)○說郭引句末有「之」。(二四)○說郭引「疑」下有「其」。(二五)○二句史記外戚世家索隱引作「發棺無尸」、說郭引作「乃發冢開視」。御覽四部叢刊本「空」誤作「室」。(二六)史記封禪書索隱引有「衣」字、據補。○鈎沈誤作「封禪書」、「既殯」至此略見史記外戚世家索隱。(二七)續談助三引云、「拳夫人葬雲陵、上為起通靈臺於甘泉」。○說郭引「起」上有「上乃為」、又類聚·初學記·御覽四部叢刊本(一三六·九二七)·類說引皆有「為」字、今依補。說郭引至此為止。(二八)○「拳夫人」至此、以上散見御覽一三六。又「通靈臺」至此、見類聚九一·御覽九二七。(二九)「從上至甘泉」至此、見「初學記十」。○初學記引有後文云、「拳夫人即昭帝母」、前文之縮約也。類說引此句作「帝崩乃絕」。

42附 道藏漢武外傳(叢書集成初編本)云、

武帝巡狩過河間、有紫青氣自地屬天。望氣者以為下當有奇女、天子拜之。帝使求之、見一女子在空館中、姿貌殊絕、

兩手皆拳。帝令開其手、數擘之、手莫能舒。帝于是自披手即伸。由是得幸、號為拳夫人、進為婕妤、居為鉤弋宮。解素女之術、大有寵。有娠十四月乃產、是為昭帝。帝曰、『昔堯十四月而生、今鉤弋亦然。』乃命其門曰堯母門。後至甘泉、因幸告帝曰^(二)、『妾相運正應為陛下生一男。男年七歲、妾當死^(三)。今年必不得歸。願陛下自愛。』言終遂卒。既殯、不臭、香聞十餘里^(四)、因葬之雲陵。帝甚哀悼、又疑其非常人、乃發塚開視、空棺無尸、唯衣履存焉。乃為起通靈臺于甘泉、常有青鳥集臺上往來^(四)、至宣帝時乃止^(五)。

(一)御覽一百七十八引傳作「調」。(二)御覽有「矣」字。(三)御覽「香」上有「屍」字。(四)「青鳥」上「御覽有「三」字。○四部叢刊本有「一」字。(五)御覽作「止矣」。以上均錢熙祚注。

43 望氣者言、宮中有蠱氣。上又見一男子帶劍入中龍華門、逐之弗獲。上怒閉長安城諸宮門、索十二日、不得乃止。校記 續談助三。○*長安志八。大典三五一九。參看通鑑二二武帝征和二年條。

44 治隨太子反者、外連郡國數十萬人。壺關三老鄭茂上書、上感悟、赦反者。拜鄭茂為宣慈校尉、持節徇三輔、赦太子。太子欲出、疑弗實。吏捕太子急、太子自殺。

校記 通鑑攷異一。

45 上幸河東^(一)、祠后土^(二)。顧視帝京、欣然中流與羣臣飲醺^(三)。上歡甚^(四)、乃自作秋風辭曰^(五)、『秋風起兮白雲飛、草木黃落兮鴈南歸、蘭有秀兮菊有芳、攜佳人兮不能忘^(六)、汎樓舫兮濟汾河^(七)、橫中流兮揚素波^(八)。簫鼓鳴兮發權歌^(九)、歡樂極兮哀情多^(一〇)。少壯幾時兮奈老何^(一一)。』顧謂羣臣曰、『漢有六七之厄^(一二)、法應再受命。宗室子孫、誰當應此者。六七四十二、代漢者當塗高也^(一三)。』羣臣進曰、『漢應天受命、祚踰周殷、子子孫孫、萬世不絕。陛下安得此

亡國之言^(二四)、過聽於臣妾乎。』上曰、『吾醉言耳。然自古以來、不聞一姓遂長王天下者。但使失之、非吾父子可矣。』

校記 御覽八十八。＊書鈔一百六。○＊書鈔二・四一。＊玉海二九・九四。＊樂府詩集八四。經典集林一六—60。

參看文選四五秋風辭、御覽五七〇・五九一引漢書、按此「漢書」或皆系「漢武故事」之誤、不見今本漢書。

(一) 四字御覽引作「行幸」。○玉海・樂府詩集引均作「帝行幸河東」。(二) 〇此句今依玉海・樂府詩集引補、

文選同。(三) 二句御覽引有。〇此二句鈎沈補於「顧視帝京」句上、今依玉海等引改。然鈎沈依御覽作「言」、

今改。玉海二九引無「飲」、但玉海九四・樂府詩集引有、文選亦同。(四) 〇三字今依玉海二九引補、樂府詩集

引「上」作「帝」。文選作「上」。(五) (自乃) 二字御覽引有。○玉海・樂府詩集引皆有。(六) 〇「秋風」

至此、以上今依玉海補。樂府詩集引「攜」作「懷」、玉海二九引與文選引同。(七) 〇鈎沈奪「濟」、今依補。(八)

〇玉海九四引至此為止、而且秋風辭止引「汎樓船」以下二句耳。(九) 〇書鈔引「鳴」作「吹」、今依玉海等引

改。鈎沈又奪「兮」、今補。(一〇) 〇書鈔一百六(引至此為止)。〇書鈔引「歡樂極」作倒、今依玉海等改。(一

一) 〇此句今依玉海等補。(一二) 〇此句書鈔四一引有、「六」作「三」、「厄」作「阨」。(一三) 〇此句書鈔

二引有、但無「也」。(一四) 〇鈎沈奪「此」字、今依補。

46 上欲浮海求神仙、海水暴沸涌、大風晦冥、不得御樓船、乃還。上乃言曰、『朕即位已來、天下愁苦、所為狂勃^(二)、

不可追悔。自今有妨害百姓費耗天下者罷之。』田千秋曰、『三山靈而難徵、鼎湖遠而無驗^(三)、請罷諸方士、斥遣之^(四)。』

上曰、『大鴻臚奏是也^(四)。其海上諸侯及西王母驛悉罷之。』拜千秋為丞相。

校記 續談助三。○＊類說二一。參看通鑑二二武帝征和四年條。

(一) 〇續談助十萬卷樓叢書本・類說引「勃」作「悖」。(二) 〇「曰、三山」至此、凡十三字今依類說引補。

續談助引「曰」作「奏」。(三) 〇類說引無「斥」。(四) 〇類說引亦有此句。

47 時上年六十餘、髮不白、更有少容、服食辟穀、希復幸女子矣^(一)。上每見羣臣、自歎愚惑。『天下豈有仙人、盡妖妄耳。節食服藥、故差可少病^(二)。』自是亦不服藥、而身體更瘠瘦^(三)、二三年中^(四)、慘慘不樂^(五)。行幸五柞宮、謂霍光曰、『朕去死矣。可立鉤弋子、公善輔之^(六)。』光泣頓首曰、『陛下尚康豫、豈有此耶。』上曰、『吾病甚、公不知耳^(七)。』三月丙寅^(八)、上晝臥不覺^(九)。顏色不異、而身冷無氣^(一〇)、明日色漸變^(一一)、閉目。乃發哀告喪^(一二)。殯未央前殿^(一三)、朝晡上祭、若有食之者^(一四)。葬茂陵、芳香之氣異常、積於墳塋之間、如大霧^(一五)。常所幸御^(一六)、葬畢^(一七)、悉居茂陵園^(一八)。上自婕妤以下二百餘人^(一九)、上幸之如平生、而傍人不見也^(二〇)。光聞之^(二一)、乃更出宮人、增為五百人、因是遂絕^(二二)。

校記 御覽八十八。＊續談助三。＊初學記二。＊御覽十五。＊事類賦注三。○＊類說二二。明鈔說郭五二。＊淵

鑑一○霧。經典集林一—61・62・63。

(一)○此後當有奪文、上下不屬。(二)○自「上每見群臣」至此、類說亦引。說郭・類說引無「故」。(三)○續談助引「更」作「皆」、今依說郭引。類說引無以上二句。(四)○「二三」鈎沈依續談助引作「一二」、今依說郭・類說引。類說引無「中」。(五)「時上六十餘」至此、已上並據續談助三引補。○說郭・類說引亦有。(六)○「行幸五柞宮」至此、御覽八八亦有、鈎沈引之於文頭。今從說郭・類說引。類說引「去」下有「公」、衍。說郭引「可」上有「公」。(七)○「光泣」至此、以上今依說郭・類說引補。類說引無「頓首」、「耶」。(八)○類說引無此句。(九)○類說引無「不覺」。(一〇)○續談助引無以上二句。說郭「冷」作「已」。(一一)○類說引作「漸變色」。(一二)○續談助引至此為止。類說引無此句。(一三)○今依說郭引補「殯」字。(一四)○說郭引無「者」。(一五)已上十八字據初學記二・御覽十五・事類賦注三引補。○御覽四部叢刊本引「墳塋」作「憤慥」。(一六)○「幸御」今依說郭引、類說引作「御幸」、御覽八八引無「幸」字。(一七)○類說

引無二字。(一八)○說郭·類說引均「居」作「出」。(一九)○說郭·類說引均無「上」。說郭引無「二百餘人」。(二〇)○說郭引「不」作「勿」。(二一)○類說引「光」上有「霍」。(二二)○類說引無「因是」。

48 始元二年、吏告民盜用乘輿御物者^(一)、案其題、乃茂陵中明器也、民別買得。光疑葬日監官不謹、容致盜竊、乃收將作以下^(二)、繫長安獄考訊。居歲餘、鄴縣又有一人於市貨玉杯^(三)、吏疑其御物^(四)、欲捕之、因忽不見。縣送其器、推問又茂陵中物也^(五)。光自呼吏問之^(六)、說市人形貌如先帝^(七)。光於是嘿然、乃赦前所繫者。歲餘、上又見形^(八)、謂陵令薛平曰、「吾雖失世^(九)、猶為汝君^(一〇)、奈何令吏卒上吾山陵上^(一一)、磨刀劍乎。自今已後、可禁之。」平頓首謝^(一二)、忽然不見^(一三)。因推問^(一四)、陵旁果有方石^(一五)、可以為礪^(一六)、吏卒常盜磨刀劍。霍光聞欲斬陵下官^(一七)、張安世諫曰^(一八)、「神道茫昧、不宜為法^(一九)。」乃止^(二〇)。時甘泉宮恆自然有鍾鼓聲^(二一)、候者時見從官鹵簿似天子儀衛^(二二)、自後轉稀、至宣帝世乃絕^(二三)。

校記 御覽八十八。*又七百五十九。*水經渭水篇注。*書鈔一百六十。*紺珠集九(兩引)。○*海錄一〇下。
*類說二一。*長安志一四。*類編長安志八。*丹鉛總錄二四、*丹鉛餘錄一〇、*丹鉛摘錄一〇。*淵鑑三八四杯。*古今圖書集成神異典四一。經典集林一六—64·65·66。

(一)○今依御覽八八四部叢刊本·類說引補「者」字。御覽四部叢刊本又「物」作「服」。(二)○鈎沈依鮑氏刊本「以」作「匠」、今依御覽八八四部叢刊本改。(三)○御覽七五九引「鄴」作「鄂」。又七五九引無「又」。(四)○御覽七五九引無「疑其御物」四字。(五)二句紺珠集九引作「而得其杯、乃隨葬具也」。○「推問」二字、今依御覽八八·類說引補、又七五九引無「又」「也」。(六)○御覽七五九引「光」上有「霍」、而無「自」「吏」「之」三字。(七)「鄴縣」至此、已上亦見御覽七百五十九。○亦見海錄十下·紺珠集九·錢注杜詩一五諸將詩。紺珠集九引云、「帝葬後、茂陵人持玉杯貨于市。吏捕之、忽不見、而得其杯、乃其隨葬具者。霍光問持杯人狀兒、頗類

帝焉」。海錄引亦略同。錢注杜詩引「杯」作「盃」。(八)○書鈔引「上又見形」作「君形見」。(九)書鈔一百六十·水經渭水篇注引「世」並作「勢」。○長安志·類編長安志·丹鉛三錄引皆作「勢」。據阮籍詠懷詩當作「勢」。(一〇)○書鈔引「汝」作「故」、而無「為」。類說引此句作「尤君」二字。(一一)○(山)書鈔引有。○類說引「山陵」作「塚」。(一二)三句「自今」至此。據水經注引補。○長安志·類編長安志引亦有。(一三)○水經注引「忽然」作「因」。類說引無以上四句十五字。(一四)書鈔引作「怪問之」、○水經注引無「因」。(一五)○(果)水經注引有此字。○書鈔引無「方」。(一六)○書鈔引無此句。御覽八八引無「可」。類說引無「為」。(一七)○水經注引無「聞」、而「陵下官」作「之」。(一八)○水經注引無「諫」。(一九)○書鈔引無以上二句九字。(二〇)「霍光聞」至此、已上據書鈔一百六十·水經渭水篇注引補。○兩書引至此為止。「上又見形」以下、長安志·類編長安志引至此為止。(二一)○「時」今依類說引補。類說引「恆」作「常」、而無「宮」。紺珠引「恆」作「嘗」、「聲」作「音」、而無「自然」。(二二)「儀衛」二字、紺珠集九引有。○類說·紺珠引無「候者」、「時」作「又」、「似」作「如」。「甘泉」至此、亦見紺珠。(二三)○類說引無「自後轉稀至」五字。

49 宣帝卽位、尊孝武廟曰世宗^(一)。奏樂之日^(二)、虛中有唱善者。告祠之日、白鵠羣飛集後庭。西河立廟、神光滿殿中^(三)、狀如月。東萊立廟、有大鳥跡竟路^(四)、白龍夜見^(五)。河東立廟^(六)、告祠之日、白虎銜肉置殿前^(七)。又有一人騎白馬^(八)、馬異於常馬、持尺一札^(九)、賜將作丞^(一〇)。文曰^(一一)、『聞汝續尅成、賜汝金一斤^(一二)。』因忽不見、札乃變為金、稱之有一斤^(一三)。廣川告祠之明日、有鐘磬音、房戶皆開、夜有光、香氣聞二三里。宣帝親祠甘泉^(一四)、有頃、紫黃氣從西北來^(一五)、散於殿前^(一六)、肅然有風、空中有妓樂聲、羣鳥翔舞蔽之^(一七)。宣帝既親觀光怪、乃疑先帝有神、復招諸方士、冀得仙焉^(一八)。

校記 御覽八十八。*書鈔八(五引)·八十九·一百五十。*類聚一·九十八(中華書局本引作漢書)。*御覽六

百六・五百三十一・八百七十二。○類說二一。*玉海一九五。*編珠一。*淵鑑一六九宗廟（兩引）・二〇五札。經典集林一六一 67・68・69・70・71・72・73。

（一）○「日世宗」三字、御覽八八鮑氏刊本引有、四部叢刊本引無。（二）○類說引作「樂奏之日」。（三）書鈔引「神」上有「由是」二字。○書鈔引「殿」上有「于」。（四）○書鈔引無「竟路」、御覽四部叢刊本「竟」作「意」、疑譌。（五）已上亦散見書鈔八十七。（六）○御覽五三一引作「宣帝立孝武廟於河東」。（七）○御覽五三一引無此句。（八）書鈔引有「白」字。御覽五三一引「有」作「見」。（九）御覽八八引「尺」作「捉」、今依書鈔。○御覽六〇六引「尺一札」作「一尺札」。（一〇）○御覽六〇六引「丞」上有「大匠」二字。（一一）書鈔引有「文」字。○御覽六〇六・五三一引亦有。（一二）御覽六百六引「一斤」作「十斤」、下同。（一三）「河東」至此、已上亦見書鈔八十七・御覽五百三十一・又六百六。（一四）○類聚兩引・御覽八七二・玉海引均無「親」。書鈔八九引「甘泉」上有「武帝」二字。（一五）○類聚一引無「有頃」、書鈔・御覽八七二・玉海引無「頃」。類聚兩引・御覽七七二引「黃氣」作「雲」。類說引作「紫氣黃雲」。（一六）已上三句亦見書鈔八十九・類聚一・又九十八・御覽八百七十二。○亦見玉海一九五。（一七）○「天」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「之」、今依四部叢刊本改。（一八）○以上亦散見類說二一引。

50 白雲趣宮。

校記 書鈔十二。○經典集林一六一 74。御覽八引漢武帝內傳云、「帝登尋真之臺齋戒。到七月七日夜、忽見天西南如白雲起、直來趣宮、須臾聞雲中鐘鼓之聲。復半食頃、西王母至、乘紫雲之輦、臨發、雲氣勃鬱、盡為香氣。」

51 漢成帝為趙飛燕造服湯殿、綠琉璃為戶。

校記 御覽八百八。○淵鑑三六四瑠璃。按此條與武帝無關、故經典集林不採之。當刪。

52 一畫連心細長、謂之連頭眉、又曰仙蛾妝。

校記 海錄碎事七。○今粧臺記云、「魏武帝令宮人掃青黛眉、連頭眉、一畫連心細長、謂之仙蛾妝、齋梁間多效之。」或海錄誤引。

53 高皇廟中御衣自篋中出、舞於殿上。冬衣自下在席上。平帝時。哀帝廟衣自在押外。

校記 草堂詩箋十一（行次昭陵詩）。

○54 張寬字叔文、漢時為侍中。從祀於甘泉、至渭橋。有女子浴於渭水、乳長七尺。上怪其異、遣問之。女曰、「帝後第七車、知我所來。」時寬在第七車、對曰、「天星主祭祀者。齋戒不嚴、即女人星見。」

校記 廣記一六一。*長安志一六。琅琊代醉編二四。淵鑑四星。經典集林一五—20。廣記黃刻本又作出「漢武故事」、鈎沈失收、今依補。本事見搜神記四—72、益部耆舊傳、華陽國志十上、獨異志中。

○55 李果為洛陽令、公正、吏民畏之。有劉兼者、夜宿村邸。聞戶外曰、「古今正人李令、見其行事、令人破膽。我輩可於他縣血食。」開戶視之、無人、乃鬼神也。

校記 記纂淵海一五七。未詳李果是何時人。

○56 河間王來朝、與言鬼神。王笑上無端。又非上征伐、常陋上所為。上遣豎持藥酖之。王賢明、天下悲之。上秘其

事厚葬之。

校記 類說二一。

○ 57 星辰影動搖^(一)、東方朔謂民勞之應^(二)。

校記 草堂詩箋三一。杜詩趙次公先後解輯校丁帙七閣夜詩。

(一) 詩箋引無「影」。(二) 詩箋引「謂」作「云」、而此四字在文頭。此條或第5條之訛譌歟、今暫存於此。

○ 58 西登隴首。

校記 書鈔一六。漢書武帝紀太始二年三月詔有「往者朕郊見上帝、西登隴首、獲白麟以饋宗廟云云」之語。

○ 59 開樽火出。

校記 書鈔二三。經典集林一六—76。漢書外戚傳丁姬列傳云、「開丁姬樽戶、火出炎四五丈、吏卒以水沃滅、乃得人、燒燔樽中器物。」

○ 60 民不勝痛。

校記 書鈔四一。經典集林一六—77。

○ 61 武帝有三雲殿。

校記 唐寫文選殘本謝玄暉始出尚書詩注。

○ 62 蘭殿、后所居之殿。

校記 紺珠集九。

○ 63 神明殿在未央宮。

校記 三輔黃圖二。歷代宅京記四未央宮（一九八四・中華書局本）。

○ 64 長安有通天宮。

校記 玉海一五六・一六二。

○ 65 鼎湖宮、谷口宮、望仙宮、通天宮。

校記 天中記一三。淵鑑三四一宮引故事云、「有鼎湖宮、宜春宮、谷口宮。」

○ 66 帝于甘泉作儲胥觀以避暑。

校記 編珠二。

妬記

凡七條

1 桓大司馬平蜀^(二)、以李勢女爲妾。桓妻南郡主兇妬、不卽知之。後知、乃拔刀率數十婢往李所^(三)、因欲斫之。見李在窗前梳頭^(四)、髮垂委地^(五)、姿貌絕麗。乃徐下地結髮^(六)、斂手向主曰、「國破家亡、無心以至今日、若能見殺、實猶生之年^(七)。」神色閑正^(八)、辭氣淒哀^(九)。主乃擲刀^(一〇)、前抱之曰^(一一)、「阿姊見汝、不能不憐^(一二)。何況老奴^(一三)。」遂善遇之^(一四)。

校記 類聚十八。世說賢媛篇(21)注。六帖十七。○白帖六、一二。天中記一九。事見俗說(鈎沈16)。敦煌文書P.二五四九。類林雜說九引作蜀記。參看俗說(鈎沈16)校記。

(一)○「桓大司馬」、世說作「溫」。類聚引無「平蜀」二字。六帖引此句作「桓司馬」三字。(二)鈎沈稿本云、「妬記注云、凶妬不卽知之後知乃、以上九字世說注有。」○世說「刀」作「刃」、而無「率數十婢」四字。白帖、六帖引作「拔刀率婢數十人」。(三)○世說無「前」。(四)○世說引無此句。(五)○世說「絕」作「端」。(六)○世說此句作「徐徐結髮」。類聚宋本「髮」作「髻」。(七)○世說無「曰」以下之言。(八)○「閑」鈎沈作「閒」。(九)○世說「氣」作「甚」、白帖引作「旨」。類聚宋本「惋」作「婉」。(一〇)○世說「乃」作「於是」。(一一)○白帖、六帖引無「前」字。(一二)世說注引作「阿子我見汝亦憐」。六帖引作「我見猶憐」。○「阿子」類聚引作「阿姊」、余氏有考證云、「則阿子乃晉人呼兒女之詞。蓋公主憐愛李勢妹、以兒女子畜之、呼爲阿子者、親之也。類聚十八引妬記作阿姊者、非。」(世說箋疏十九)、今從余氏說。(一三)○白帖、六帖引至此爲止。(一四)○世說無「遇」字。

2 王丞相曹夫人^(一)、性甚忌、禁制丞相不得有侍御。乃至左右小人、亦被檢簡^(二)。時有妍妙^(三)、皆加誚責^(四)。王公不能久堪、乃密營別館、衆妾羅列、兒女成行^(五)。後元會日、夫人於青疏臺中望見兩三兒騎羊^(六)、皆端正可念^(七)。婦人遙見、甚憐愛之^(八)。語婢云^(九)、「汝出問此是誰家兒。奇可念^(一〇)。」給使不達旨、乃答云^(一一)、「是第四五等諸郎^(一二)。」曹氏聞驚愕大恚^(一三)、不能自忍^(一四)、乃命車駕^(一五)、將黃門及婢二十人、人持食刀^(一六)、自出尋討。王公亦遽命駕^(一七)、飛轡出門。猶患牛遲^(一八)、乃左手攀車闌^(一九)、右手捉塵尾、以柄助御者打牛^(二〇)、狼狽奔馳、方得先至^(二一)。蔡司徒聞而笑之^(二二)。乃故詣王公^(二三)、謂曰^(二四)、「朝廷欲加公九錫^(二五)、公知不^(二六)。」王謂信然^(二七)、自敘謙志。蔡曰、「不聞餘物^(二八)、唯聞有短轡轎車長柄塵尾爾。」王大愧^(二九)。後貶蔡曰、「吾昔與安期千里共在洛水集處^(三〇)、不聞天下有蔡允兒。」正忿蔡前戲言耳。

校記 世說輕詆篇(6)注。類聚三十五。○廣記二七二。天中記一九。稗史彙編四八。事又見白帖六一二。六帖一七。廣記二四七引晉史。建康實錄七。群書類編故事九。廣記二七二引云、王導妻曹氏甚妬忌、制丞相不得有侍御。乃至左右小人、有妍少者、必加誚責。乃密營別館、衆妾羅列、有數男。曹氏知大驚恚、乃將黃門及婢二十人、人持食刀、欲出討尋。王公遽命駕、患遲、乃親以塵尾柄助御者打牛、狼狽奔馳、乃得先至。至原作去、據明鈔本改。司徒蔡謨聞、乃詣王謂曰、朝廷欲加公九錫、知否。王自敘謙世說輕詆篇注、謀作謙。志。蔡曰、不聞餘物、惟聞短轡轎車、長柄塵尾耳。導大慙。」

(一)○世說無「王」字。(二)○類聚引無此句十字。(三)○類聚引「妙」作「少」。(四)○『類聚』引「皆」作「必」。(五)○類聚引「兒」作「男」。(六)○類聚引「望」上有「觀」、下有「忽」字。又「兒」上有「小」字。(七)○類聚引無「可念」二字。(八)○類聚引無「遙見甚憐愛之」六字。(九)○世說無「云」字。(一〇)三字依類聚引補。(一一)○類聚引無「答」字。(一二)○類聚引「是」上有「此」字。世說「五」誤作「王」字。(一三)○類聚引「聞驚愕大恚」作「驚恚」二字。(一四)類聚引有此句。(一五)

○世說無「乃」字。類聚引「車駕」作「駕車」。(一六)○類聚引無「人」字。(一七)○類聚引無「遽命駕」三字。(一八)○類聚引無「牛」字。(一九)○類聚引「左手」上有「以」字。「闌」世說誤作「蘭」、類聚引亦誤作「攔」。(二〇)○類聚引無「助御者」三字。(二一)○世說「方」誤作「劣」。(二二)○類聚引無「而笑」二字。(二三)○類聚引無「故詣王公」四字。(二四)○類聚引「調」下有「王」字。(二五)○類聚引無「公」字。(二六)○世說「不」作「否」。(二七)○「調信然」、類聚引作「爲信」二字。(二八)○類聚引「餘物」上有「加」字。(二九)○類聚引「愧」上有「羞」字、又引至此爲止。廣記引亦同。(三〇)○世說宋本引至「洛水」爲止。蓋鈎沈據袁本世說而已。

3 謝太傅劉夫人、不令公有別房寵^(二)。公既深好聲樂^(三)、不能令節^(三)、復遂頗欲立妓妾^(四)。兄子及外生等微達此旨^(五)、共問訊劉夫人^(六)。因方便稱「關雎」「螽斯」有不忘之德^(七)。夫人知以諷已^(八)、乃問、「誰撰此詩。」答云、「周公。」夫人曰、「周公是男子、乃相爲爾^(九)。若使周姥撰詩^(一〇)、當無此語也^(一一)」。

校記 類聚三十五。御覽五百二十一。○記纂淵海一九二。群書類編故事九。事見白帖六·一二。六帖一七。

(一)○御覽引「公」作「太傅」。類聚引無「寵」字。(二)○御覽引「樂」作「色」。(三)御覽引有此句。(四)○「復」鈎沈作「後」、今據正、御覽引無此字。(五)○類聚引無「及」字。御覽引「此」作「其」。(六)○御覽引作「乃共諫劉夫人」。(七)○御覽引無「因」字、「忌」上有「妬」字。(八)○御覽引無「以」字。(九)○類聚引無「乃」字。御覽引「爾」作「耳」。(一〇)○御覽引「撰詩」作「傳」。(一一)○御覽引「當」作「應」、類聚引無「語」字。

4 武歷陽女嫁阮宣子^(一)、無道妬忌^(二)、禁婢甌覆槃蓋、不得相合^(三)。家有一株桃樹、華葉灼耀、宣歎美之^(四)、即

便大怒、使婢取刀斫樹、摧折其華。

校記 類聚八十六（作妬女記）。御覽九百六十七（鈎沈作「九百六十九」、七三年版全集已正）。又*七百五十八。事類賦注二十六（作「妬女記」。中華書局本作「妬記」。）○天中記五一、作「妬婦記」。淵鑑三九九桃、作「妬女記」。廣群芳譜二五。

（一）○事類賦注脫「歷」字。「阮宣子」、三本皆作「阮宣武」、當作斷句如下、「武歷陽女嫁阮宣、武無道妬忌」。阮宣子即阮脩也。（二）○御覽九六七引無「無道」二字。（三）○御覽七百五十八。○御覽七六九引、事類賦注引俱無此二句十字。（四）○古小說鈎沈資料「妬記」（『魯迅輯校古籍手稿』第五函）注云、「事類賦注二十六引、宣歎、作「阮歎」、又婢、作「奴」。○按鈎沈據劍光閣本事類賦注。

5 京邑有士人婦、大妬忌於夫^{（一）}。小則罵詈、大必捶打^{（二）}。常以町繩繫夫脚^{（三）}、且喚便牽索^{（四）}。士人密與巫嫗爲計^{（五）}。因婦眠、士人入廁、以繩繫羊、士人緣牆走避^{（六）}。婦覺牽繩而羊至^{（七）}、大驚怪^{（八）}、召問巫^{（九）}。巫曰、「娘積惡^{（一〇）}、先人怪責、故即君變成羊。若能改悔^{（一一）}、乃可祈請。」婦因悲號、抱羊慟哭^{（一二）}、自咎悔誓^{（一三）}。師嫗乃令七日齋^{（一四）}、舉家大小悉避於室中^{（一五）}、祭鬼神^{（一六）}。師祝羊還復本形。婿徐徐還^{（一七）}、婦見婿啼問曰^{（一八）}、「多日作羊、不乃辛苦耶。」婿曰^{（一九）}、「猶憶噉草不美、腹中痛爾。」婦愈悲哀^{（二〇）}。後復妬忌、婿因伏地作羊鳴。婦驚起、徒跣呼先人爲誓、不復敢爾^{（二一）}。於此不復妬忌^{（二二）}。

校記 類聚三十五。○周文圀開顏錄（明鈔說郛六五）引作「出妬記」。天中記一九。

（一）○開顏錄引無「忌」字。（二）○開顏錄引作「大則箠打」。（三）○開顏錄引無「夫」字。（四）○開顏錄引「繩」作「至」。（五）○開顏錄引「士人」作「夫」、「與」作「乞」。（六）○開顏錄引「緣」作「踰」、而無「走」字。（七）○開顏錄引「婦」作「婦人」。（八）○開顏錄引無「怪」字。（九）○開顏錄引「巫」

作「巫嫗」、下同。(一〇)○開顏錄引「娘」作「娘子」。(一一)○開顏錄引「能」下有「克己」二字。(一二)○開顏錄引「慟哭」上有「大」字。(一三)○開顏錄引「自」上有「深」字、而「誓」下有「不復妬」三字。(一四)○開顏錄引無「師」、而「齋」上有「清」字。(一五)○開顏錄引「室」作「水」、誤。(一六)○開顏錄引無「神」字。(一七)○開顏錄引「壻」作「士人」、而無「徐」字。(一八)○開顏錄引「壻啼」作「聲」。(一九)○開顏錄引「壻」作「答」。(二〇)○開顏錄引「婦」作「婦人」。(二一)○自「後復妬忌」至此、凡二十五字、開顏錄引無。(二二)○開顏錄引「於」作「自」、「忌」作「矣」。

6 泰元中、有人姓荀、婦庾氏、大妬忌。荀嘗宿行、遂殺二兒。爲屋不立齋室、唯有廳事、不作後壁、令在堂上冷然望見外事。凡無鬚人不得入門。送書之人若以手近荀手、無不痛打。客若共牀坐、亦賓主俱敗。鄰近有年少徑突前詣荀、接膝共坐、便聞大罵、推求刀杖。荀謂客曰、「僕狂婦行、君之所聞。君不去、必誤君事。」客曰、「僕不畏此。」乃前捉荀手、婦便持杖直前向客、客既大健、又有短杖在衣裏、便與手^(二)、老嫗無力、卽倒地、客打垂死。荀走叛不敢還。婦密令覓荀云、「近遭狂人、非君之過、君便可還。」荀然後敢出。婦兄來就荀、共方牀臥、而婦不知、便來捉兄頭、拽著地欲殺^(三)、方知是兄、慙懼入內。兄稱父命、與杖數百、亦無改悔。

校記 類聚三十五。○天中記一九。參看俗說(鈎沈44)。

(一)○「手」鈎沈作「婦」、今據宋本。(二)○「拽」鈎沈作「曳」、今據宋本。

7 諸葛元直妻劉氏、大妬忌、恒與元直杖。與杖之法、大罪十、小罪五。然得手摩、不得一一受也。常行杖小重、元直不勝痛^(二)、纔得一兩、仍以手摸。婦誤打指節腫^(三)。從此作制、每與杖、輒令兩手各捉緦跗。元直^(四)遇見婦捉緦跗欲成衣^(五)、謂當與已杖、失色怖。婦曰、「不也。捉此自欲成衣耳。」乃欣然。」 三〇〇闕字。

校記 類聚三十五。○*天中記一九。鈎沈所引與天中記引同。

(一)○「不勝痛」上二十七字、鈎沈所據本脫之、今據宋本補。

「不下疑有脫文」。(三)○三闕字據宋本。

(二)○宋本「婦」下有「不」字汪紹楹校語云、

異聞記

凡二條

1 郡人張廣定者^(一)、遭亂常避地^(二)。有一女年四歲^(三)、不能步涉、又不可擔負、計棄之、固當餓死。不欲令其骸骨之露。邨口有古大冢、上顛先有穿穴、乃以器盛縋之、下此女於冢中、以數月許乾飯及水漿與之、而捨去。候世平定^(四)、其間三年、廣定乃得還鄉里^(五)、欲收冢中所棄女骨、更殯埋之。廣定往視。女故坐冢中、見其父母、猶識之、喜甚^(六)。而父母猶初疑其鬼也^(七)、父下入就之^(八)、乃知其不死。問之『從何得食^(九)』。女言、『糧初盡時甚飢、見冢角有一物、伸頸吞氣、試效之、轉不復飢。日月為之、以至於今。父母去時所留衣被、自在冢中、不行往來^(一〇)、衣服不敗、故不寒凍。』廣定乃索女所言物^(一一)、乃是一大龜耳。女出食穀、初小腹痛、嘔逆、久許乃習。

校記 抱朴子內篇三。○*意林四(四部叢刊本)。廣記四七二引獨異志。*施注蘇詩「和陶讀山海經」其五引抱

朴子。*少室山房筆叢三六。事又見幽明錄(鈎沈47)。參看博物志一〇。

(一) 意林引作「同郡人張廣」。○鈎沈依少室山房筆叢所引意林、四部叢刊本意林作「張廣定」、而無「者」。施注蘇詩引「郡人」上有「其」字。筆叢引奪「定」。(二) ○「常」今依抱朴子(四部叢刊本、王明校釋本一九八〇中華書局以平津館校刊本為底本、略稱王氏校釋本)補。(三) ○「一」今依抱朴子引補。(四) ○四部叢刊本「世」作「此」。(五) ○「乃」今依抱朴子引補。(六) ○鈎沈「甚喜」倒作「喜甚」、今依抱朴子引改。(七) ○「猶」今依抱朴子引補。抱朴子引「疑」作「恐」。(八) ○「父下」今依王氏校釋本補。(九) ○「之」今依抱朴子引補。(一〇) ○「行」今依抱朴子引補。(一一) ○「乃」今依抱朴子引補。

2 東城池有王餘魚。池決、魚不得去。將死、或以鏡照之。魚看影、謂其有雙。於是比目而去。

異聞記

校記

北戸錄一。

玄中記

原輯七十條 新附二條 凡七十二條

1 伏羲龍身、女媧蛇軀。

校記 文選靈光殿賦注。路史後紀二注。路史後紀一又引首句。○玉函 1。荅泮林十種古逸書元中記 12・13（以下略稱古逸書）。黃奭逸書考 8（以下略稱逸書考）。葉德輝觀古堂所著書第二集、郎園先生全書郭氏玄中記 13（以下略稱葉氏）。

2 顓頊氏三子俱亡^(一)、處人宮室、善驚小兒^(二)。漢世以五營千騎、自端門傳炬送疫、棄洛水中。

校記 荊楚歲時記注。玉燭寶典十二引作「自端門送至洛水」。○明鈔說郭二五荊楚歲時記引玄中記、亦與玉燭寶典引同。玉函 2。古逸書 21。逸書考 4。葉氏 23。參看蔡邕獨斷。搜神記一六—376、論衡二五解除篇、二二訂鬼篇。
(一)○玉燭寶典引「三子」上有「有」字。(二)○論衡二二訂鬼篇以上引禮緯（御覽五三〇亦引）。

3 刑天與帝爭神、帝斷其首、葬之常羊山、乃以乳為目^(一)、以臍為口。

校記 御覽五百五十五引山海經注云、「玄中記亦載」。○見今本山海經海外西經。
(一)○御覽四部叢刊本引「乃」上有「及」、疑衍。(二)○「臍」鈎沈作「齊」、今依御覽四部叢刊本改。

4 尹壽作鏡^(一)。

校記 御覽七百十七。海錄碎事五。○事物紀原八。明鈔說郭一〇事始引玄中記、皆云「堯之臣」、按留存注文。

玉芝堂談薈二六。格致鏡原五六。玉函4。古逸書70。逸書考10。葉氏65。

(一)○海錄引「鏡」作「地鏡」。

5 旬始作帽。

校記 通典五十七。通志略(二三器服一)引「冠」作「帽」。○「帽」鈎沈作「冠」。按此文系於通典「帽」條、理該作「帽」、北宋本通典作「帽」、今依改。事物紀原八。玉函3。古逸書71。逸書考9。葉氏66。

6 狗封氏者、高辛氏有美女、未嫁^(二)。犬戎為亂、帝曰^(三)、有討之者、妻以美女、封三百戶。帝之狗名繫護^(三)、三月而殺犬戎^(四)、以其首來^(五)。帝以為不可訓民、乃妻以女^(六)、流之會稽東南二萬一千里^(七)、得海中土方三千里^(八)、而封之^(九)、生男為狗、生女為美女^(一〇)。封為狗氏國^(一一)。

校記 御覽九百五。類聚九十四。(稿本欄外注云、)亦見路史發揮二引「帝以」二句作「帝以女妻之、不可教訓」、「流」作「浮」、「美女」作「美人」、末句作「是為犬封氏」。○*江漢叢談二。*天中記五四。*說略七。淵鑑四三六狗。繹史八。*格致鏡原八七。三農紀二二。玉函5。古逸書14。逸書考5。葉氏14。事見搜神紀一四—341。

(一)○御覽引以上作「昔高辛氏」。 (二)○御覽引「曰」上有「言」。 (三)御覽引作「繫瓠」。 (四)○御覽引「三」上有「亡」、路史引有「去」。 (五)○類聚引「以其」作「之」、疑有奪字。 (六)○御覽引以上二句作「帝以女妻之」。 (七)○御覽引「會稽」上有「於」、而無「二萬一千里」。 (八)御覽引「千」作「百」。 (九)○御覽引無「之」。 (一〇)類聚九十四(引至此為止)。 (一一)○「氏」鈎沈作「民」、今依御覽四部叢刊本改。

7 丈夫民。殷帝太戊、使王英採藥於西王母。至此絕糧、不能進、乃食木實、衣以木皮。終身無妻、產子二人、從背脇間出、其父則死。是為丈夫民。去玉門二萬里。

校記 御覽三百六十一。○玉芝堂談薈一〇（兩引）。淵鑑二四四生子。玉函 6。古逸書 19。荅氏注云、「案山海經海外西經郭注、與此亦同、王英作王孟」。逸書考 6。葉氏 21。

8 扶伏民者、黃帝軒轅之臣曰茄豐^(一)、有罪、刑而放之、扶伏而去。後是為扶伏民^(二)、去玉門關二萬五千里。

校記 御覽七百九十七。○路史後紀五。*丹鉛總錄四。古逸書 15。葉氏 15。

(一)○丹鉛總錄引作「黃帝之臣有荊茄豐」。 (二)○古逸書引「是」作「世」。

9 化民、食葉三七年化、能以自裹如蠶績、九天生翼、十年而死^(一)。去琅邪四萬里。

校記 御覽八百二十五。○玉函 19。古逸書 20。荅氏注云、「案藝文類聚八十八、御覽九百五十五、俱引括地圖、作『化民食桑二十七年、化而自裹』、據此『葉』上當脫『桑』字、『三』字當『二十』之訛也。」逸書考 28。葉氏 22。

(一)○御覽四部叢刊本「十」作「七」。

10 奇肱氏、善奇巧、能為飛車、從風遠行。

校記 御覽七百五十二。○古逸書 16。葉氏 16。參看山海經海外西經奇肱國、兼名苑注（倭名類聚抄三引）。

11 君子之國、地方千里、多木槿之華^(一)。

校記 類聚八十九。○明鈔說郭四。玉函 20。古逸書 27。逸書考 20。葉氏 29。
(一)○明鈔說郭引「之華」作「花」。

12 伊俗與唐吾同俗^(二)、民穴居、去玉門一萬里。

校記 書鈔一百五十八。○淵鑑二六穴。玉函 24。古逸書 17、作出「藝文類聚」、但不見類聚。葉氏 17。
(一)○玉函·古逸書引上「俗」作「族」。

13 飛路之民、地寒穴居、食木根。

校記 書鈔一百五十八。○葉氏 18。

14 丁零之民、地寒穴居、食禽鼠之肉、民號為名裘。

校記 書鈔一百五十八。○葉氏 19。

15 朱梧縣、其民服役、依海際居。產子、以沙石自擁。不食米、止資魚以為生氣^(一)。

校記 御覽三百六十一。○玉函 7。古逸書 18。逸書考 7。葉氏 20。
(一)○「止」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「正」、今依御覽四部叢刊本改。

16 吳國西有具區澤^(二)、中有包山、山有洞庭寶室^(三)。入地下潛行、通瑯琊東武^(三)。

校記 寰宇記九十一。御覽四十六。*初學記八。○吳郡志一五(三引)。*萬花谷後集六。天中記八。*淵鑑三

三五江南道。玉函22。古逸書9。逸書考29。葉氏10。

(一)○初學記引無「國」。(二)已上亦見初學記八。○亦見吳郡志一引。初學記引無「山」「寶」。御覽引無「山」。寰宇記引「室」作「石」。(三)○吳郡志一引「武」下有「山」。吳郡志別一引有後文云、「山穴道、一名椒山」。

17 蜀郡有青城山、有洞穴潛行^(一)、分為三道^(二)、各通一處^(三)、西北通崑崙^(四)。

校記 御覽五十四・又一百六十六。○廣記一四(神仙拾遺引)。^{*}玉芝堂談薈二二。蜀中廣記六。淵鑑二六穴。玉函23。古逸書11。逸書考30・31。葉氏12。

(一)一作「青城有穴」。○御覽一六六引作「山有穴潛行」、鈎沈據玉函注作如此。御覽五四・廣記引無「潛行」。廣記引無「有」。(二)○鈎沈作「分道」、御覽兩引・廣記引皆無「道」、今刪之。(三)已上二句一引(五四)作「分為三孔」。○廣記引無下句。(四)○御覽一六六引無此句。

18 彭城北有九里山、有穴潛通琅琊、又通王屋、俗呼為黃池穴。

校記 寰宇記十五。書鈔一百五十八・白帖六引並作「彭城北有黃池穴、如洞室、北通王屋山^(一)」。○玉函云出白帖六、古逸書云出白帖八、而並不見白帖。按此系玉函誤記、今當刪「白帖六」注記。淵鑑二六穴、與書鈔引同。玉函25。古逸書10。逸書考32。葉氏11。

(一)○書鈔引「王」作「黃」。

19 天下之多者水也^(一)。浮天載地^(二)、高下無不至^(三)、萬物無不潤^(四)。

校記 水經注序。類聚八。初學記六。白帖(六帖)六。御覽五十九。文選海賦注引前二句。事類賦注七。○白帖

二。天地瑞祥志一六。*草堂詩箋二一。天中記九。山堂肆考二二。淵鑑三〇水總載。玉函8。古逸書6、引水經注序文也。逸書考1。葉氏7。

(一) 事類賦注引作「莫水若焉」。○草堂詩箋引「多」作「大」。類聚·初學記·文選注·白帖·六帖·天地瑞祥志一六·草堂詩箋引皆「也」作「焉」。(二) ○草堂詩箋引至此為止。(三) ○鈎沈「無」下有「所」、但諸書引均無、未知鈎沈何據、今依刪之、下同。白帖·六帖引至此為止。(四) ○初學記引文末有「者」、天地瑞祥志引作「也」。

20 天下之強者^(一)、東海之沃焦焉^(二)。水灌之而不已^(三)。沃焦者山名也^(四)、在東海南方三萬里^(五)、海水灌之而即消^(六)、故水東南流而不盈也^(七)。

校記 御覽五十二·又六十。寰宇記二十二。類聚八。白帖(六帖)五。文選江賦注。事類賦注六。○慧琳一切經音義四一。白帖二。海錄三上。*緯略七。明鈔說郭四。天中記九。玉芝堂談薈二三。淵鑑三六海。玉函9。古逸書7。逸書考2。葉氏8。

(一) 選注引(強)作「大」。○海錄引亦同。(二) 白帖(六帖)引作「惡焦」。○白帖·類聚·寰宇記·明鈔說郭引皆作「惡焦」。御覽五二四部叢刊本引「焦」下有「石」字。(三) ○海錄·寰宇記引均無此句。白帖·御覽六〇·事類賦注引無「之」。(四) ○海錄·寰宇記引無「者」。(五) ○文選注·御覽六〇·事類賦注·海錄·明鈔說郭引至此為止。事類賦注·御覽六〇引「東海南方」作「海東」。白帖·六帖引「東海」作「海東」。御覽五二引無「在東海南」。寰宇記引「東海南」作「縣東面」。(六) ○類聚·白帖·六帖引至此為止。類聚引「之」作「水」。白帖·六帖引無「而」。御覽五二引「而即消」作「隨盡」。(七) ○御覽五二引無「南」也。

21 天下之弱者^(一)、有崑崙之弱水焉^(二)、鴻毛不能起也^(三)。

校記 史記匈奴〔大宛〕傳索隱。漢書外夷〔西域〕傳注。御覽六十五。草堂詩箋十。○草堂詩箋一六。天中記九。升庵詩話一。玉函10。古逸書8。逸書考3。葉氏9。崑崙河源考。

(一)○漢書注・草堂詩箋兩引無此句。(二)○御覽引無「有」。草堂詩箋一○引無「之」。史記索隱・草堂詩箋一六引無「焉」。(三)○草堂詩箋一○引無「能」。史記索隱引「起」作「載」、草堂詩箋一六引作「舉」。御覽・詩箋一六引無「也」。萬斯同崑崙河源考引有下二句、而上文云、「神丘有火穴、光景照千里」。

22 天下之大物、北海之蟹^(一)。舉一蟹能加於山^(二)、身故在水中^(三)。

校記 御覽九百四十二。○五色線下。蟹略一。天中記五七。玉芝堂談薈三五。淵鑑四四四蟹。格致鏡原九五。玉函46。古逸書54。逸書考13。葉氏52。

(一)○五色線引句頭有「有」、句末有「焉」。(二)○五色線引無「能」。(三)○五色線引文末有「矣」。

23 東南之大者、巨鼃焉^(一)。以背負蓬萊山^(二)、周迴千里^(三)。巨鼃巨龜也^(四)。

校記 初學記三十。文選思玄賦注、*又文選吳都賦注。*御覽三十八。○天地瑞祥志一八。*緯略六。天中記五七。*錢注杜詩九「臨邑舍弟書至」詩。*山堂肆考二二五。淵鑑四四○龜。*格致鏡原九四。玉函11。古逸書52。逸書考11。葉氏50。

(一)○御覽引「巨」上有「有」。瑞祥志引無「焉」。(二)○御覽引至此為止。(三)文選思玄賦注。○山帶閣註楚辭三引云、「巨靈之龜、背蓬萊山而抃」。(四)文選吳都賦注引云、「鼃、巨龜也」。○上「巨」字、疑衍、當刪。鈎沈引吳都賦注作「巨鼃龜也」、顛倒、七三年版全集已正。瑞祥志引作「巨鼃、龜千歲、能與人語」。當以補。

24 東方之東海、有大魚焉^(一)。行海者一日逢魚頭、七日逢魚尾^(二)、其產則三百里水為血^(三)。

校記 御覽九百三十六。廣記四百六十四。*莊子逍遙遊成玄英疏。○天地瑞祥志一八。*事類賦注二九。天中記五六。玉芝堂談薈三五。淵鑑四四一魚。玉函55。古逸書53。逸書考12。葉氏51。

(一)廣記引作「東方之大者東海魚焉」。○瑞祥志引作「有東海大魚」。成玄英疏引無「之東海」。(二)○事類賦注引至此為止。瑞祥志引「逢」作「過」、御覽引作「遇」、而無「魚」。玄英疏引無「海」、而「逢」作「過」。(三)成玄英莊子逍遙遊疏引作「產三日、碧海為之變紅」。○天中記引略同。「水」御覽鮑氏刊本引無、今依御覽四部叢刊本·廣記引補。瑞祥志引無「其」「三」、而文末有「也」。廣記引「其」作「魚」、而無「三」。

25 天下之高者、扶桑、無枝木焉^(一)。上至天^(二)、盤蜿而下屈^(三)、通三泉也^(四)。

校記 齊民要術十。御覽九百五十五。事類賦注二十五。○淵鑑四一四桑。玉函31。古逸書5。逸書考23。葉氏6。
(一)○鈎沈「扶桑」上有「有」、要術·御覽引皆無、今依刪。(二)○鈎沈「天」上有「於」、要術·御覽引皆無、今依刪。(三)事類賦注二十五引作「盤屈而下」。(四)○要術引文末有「也」、今依補。

26 木子之大者、有積石山之桃實焉^(一)。大如十斛籠^(二)。

校記 齊民要術十。類聚八十六(鈎沈作八十八、七三年版全集已正)。初學記二十八。御覽九百六十七。○事類賦注二六。*本草綱目二九。天中記五一。玉芝堂談薈三五。淵鑑三九九桃。廣群芳譜五四。格致鏡原七四。玉函32。古逸書23。逸書考24。葉氏28。

(一)○要術引無「有」。初學記引無「山」「實」。(二)○事類賦注引「籠」作「器」。

27 東方有柴都焉、在齊國^(一)。有山^(二)、山上有泉^(三)、如井狀、深不測。春夏常出雨雹^(四)、敗五穀^(五)。人以柴木塞之^(六)、則不出^(七)、不柴塞^(八)、則出也^(九)、故曰柴都焉^(一〇)。

校記 書鈔一百五十二。御覽十四·又七十。廣記三百九十九。○天中記三。玉芝堂談薈二四·二五。淵鑑九雹。格致鏡原四·九。玉函12。稗史彙編一二。古逸書4。逸書考14。葉氏4。

(一)御覽二引有此〔在齊國〕三字。又〔都〕作「渚」。○御覽兩引皆有此三字。御覽七〇引「都」作「渚」、下同。又廣記引有。(二)○御覽七〇引無「有」。廣記引「有」作「之」、意更通。(三)○御覽一四·廣記引作「山有泉水」、御覽七〇引作「山泉」二字。(四)御覽〔兩〕引作「至春夏時、雹從井中出」。○廣記引亦同。但御覽七〇引無「夏」。(五)○御覽一四引「敗」上有「常」、又七〇引有「出常」、廣記引有「出則」。(六)○御覽一四·廣記引「人」下有「常」、而無「木」。御覽七〇引「柴」作「林」。(七)○御覽一四·廣記引無此句。御覽七〇引有。(八)○廣記引無「柴」。(九)已上九字御覽引有。○書鈔引無。御覽七〇引無以上二句六字。廣記引「則出也」作「雹為患」。(一〇)○御覽一四引「曰」作「號為」、而無「焉」。御覽七〇引「曰」作「名為」。廣記引「曰」作「號」、而無「焉」。

28 南方有炎火山焉^(一)。在扶南國之東、加營國之北、諸薄國之西^(二)。山從四月而火生^(三)、十二月火滅。正月二月三月火不然^(四)、山上但出雲氣、而草木生葉枝條^(五)。至四月火然、草木葉落、如中國寒時草木葉落也^(六)。行人以正月二月三月行過此山下^(七)、取柴以為薪^(八)、燃之無盡時^(九)、取其皮績之^(一〇)、為火浣布^(一一)。

校記 類聚八十〔兩引〕。御覽八百六十八。事類賦注八。○*明鈔說郭四。通雅三七。玉芝堂談薈二四·二七。

*山堂肆考二三。淵鑑三五九火。格致鏡原二七。玉函14。古逸書3。逸書考15。葉氏3。

(一)御覽引有「火」字。○事類賦注引無「焉」。(二)○事類賦注引無「在扶南」至此、三句十六字。(三)○事類賦注引作「四月火生」。(四)○類聚引無「三月」。(五)○御覽引無「葉」。事類賦注引「正月」至此、以上作「火滅之後、草木皆生枝」。(六)○類聚一引無「在扶南」至此以上六九字。(七)○類聚一引無「下」。事類賦注引無「草木葉落」至此十九字。(八)御覽引「取柴以」作「取此木」。○事類賦注引亦「柴」作「此木」。(九)○類聚一引「事類賦注引無」時」。(一〇)○事類賦注引「取」作「以」。(一一)○鈎沈「為」上有「以」、類聚・御覽・事類賦注引皆無「以」、今依刪。按鈎沈依玉函引。

29 北方有鍾山焉、山上有石首如人首。左目為日、右目為月、開左目為晝、開右目為夜。開口為春夏、閉口為秋冬。
校記 御覽三十八。○玉函 13。古逸書 2。逸書考 16。葉氏 2。

30 東南有桃都山、上有大桃樹^(一)、名曰桃都、枝相去三千里。上有一天雞^(二)、日初出、光照此木^(三)、天雞則鳴^(四)、羣雞皆隨而鳴也^(五)。下有二神、左名隆、右名寔文也^(六)。並執葦索伺不祥之鬼、得而煞之^(七)。今人正朝作兩桃人立門旁、以雄雞毛置索中^(八)、蓋遺象也^(九)。

校記 *齊民要術六。*類聚九十一。*御覽九百十八。*又二十九。玉燭寶典一。○三部經音義四。*嚴陸校宋本初學記三〇。*事類賦注一八。*李白詩補註一「大鵬賦」云、「桃都山有大樹、曰桃都枝相去三千里、上有天雞、日初出照此木、天雞即鳴、天下雞皆隨之。」又一五「夢遊天姥」詩、又二十「遊太山六首」四。*萬花谷續集一四。*歲時廣記五。*緯略八。*爾雅翼一三。*明鈔說郭四。天中記五八。山堂肆考二。淵鑑四二五雞。玉函 17。古逸書 22。24。逸書考 17。18。葉氏 24。25。

(一)○齊民要術引有「桃」字、今依補。(二)○音義引・御覽引無「一」。(三)○類聚・音義・御覽・事

類賦注・李白詩補註、明鈔說郭引無「光」。(四)○類聚・音義・御覽・事類賦注・明鈔說郭引「則」作「即」。
(五)齊民要術六・類聚九十一・御覽九百十八。○三部經音義・校宋本初學記・事類賦注・李白詩補註・萬花谷・緯略・明鈔說郭引至此為止。三部經音義引異文云、「日出暘谷、照桃枝時、神鷄見旭日光芒、初發音聲。天下凡鷄隨之咸鳴」。類聚・音義・御覽・事類賦注・李白詩補註・明鈔說郭引皆「群」作「天下」。而鈎沈引作「之鳴」、今依齊民要術引改補作「而鳴也」。類聚引無「鳴」。(六)玉燭寶典一注。○今依玉燭寶典注補「文也」二字。(七)已上三句以玉燭寶典引括地圖補。(八)○玉燭寶典引無「毛」。(九)御覽二十九。玉燭寶典一。○玉燭寶典引「蓋遺」作「又此」、鈎沈依御覽鮑氏刊本作「遺象」、四部叢刊本作「遺勇」、歲時廣記引作「示勇」。

31 蓬萊之東、岱輿之山、上有扶桑之樹。樹高萬丈。樹巔常有天雞、為巢於上。每夜至子時、則天雞鳴、而日中陽鳥應之、陽鳥鳴、則天下之雞皆鳴。

校記 古玉圖譜二十四。○葉氏 5。按鈎沈依葉氏引此條、但不見古玉圖譜。圖譜七古玉天雞玄璜引瑤山玉采云、「天雞產北極幽都之山、羽毛金色、當晦夜子丑之時、則先鳴、而日中之鳥應之、而天下之鷄皆鳴、旭日旦矣。」瑤山玉采、或云瑤山玉彩。雖葉氏於其序誇耀自己之發見、然非有確實根據、此條當刪、但因未知何據、今暫存於此。

32 崑崙西北有山(一)、周迴三萬里、巨蛇繞之、得三周。蛇為長九萬里(二)。蛇居此山(三)、飲食滄海。

校記 類聚九十六。廣記四百五十六。*白帖(六帖)九十八。*御覽三十八。○*白帖二九。淵鑑四三九蛇。格致鏡原九九。玉函 15。古逸書 50。逸書考 43。葉氏 48。

(一)御覽引作「西南山」。(二)已上白帖九十八・御覽三十八亦引。○白帖・六帖略引。(三)○廣記引「居」上有「常」字。

33 玉門之西南為霹靂^(二)。羌之東、有一國、五六百戶、無他事役。國中有山、山上有祠廟^(三)。國人每歲出石尖數千枚^(四)、輸於廟中、名霹靂尖^(五)、以給霹靂所用。從春雷出而尖日減、至秋而尖盡^(五)。

校記 御覽七百九十七·又十三·又五十二。書鈔一百五十二。封氏聞見記八。事類賦注七。○本草綱目一〇。續博物志一。*山堂肆考一九。淵鑑八雷。格致鏡原三。玉函16。古逸書1。逸書考26。葉氏1。事亦見今本任昉述異記上—83。

(一)〔為霹靂〕三字書鈔引有。(二)○書鈔引以上二句略作「國之內有廟」。(三)〔石尖〕一引〔御覽一三·五四引〕作「石礮」〔原注云、子林反〕。事類賦注同、小注云、「一作礮」。書鈔引作「礮」。聞見記引作「礮」。(各書下同)。○書鈔·聞見記·御覽一三·五四引「每」作「歲」。御覽七九七引各本「尖」上有「石」、鈎沈奪之、今依補。聞見記引「枚」作「石」、注云「一作名」。(四)○書鈔·御覽五四引「名」下有「為」、御覽一三引有「曰」。(五)○書鈔引「秋」下有「而」、今依補。

34 東海有蛇丘之地^(一)、險多漸洳^(二)、衆蛇居之、無人民。蛇或人頭而蛇身。

校記 類聚九十六。廣記四百五十六。○淵鑑四三九蛇。格致鏡原九九。玉函22。古逸書49。逸書考42。葉氏47。事亦見書鈔一五七丘篇引外國圖。

(一)○廣記引無「之」。(二)○類聚引「洳」作「茹」。假借而已。

35 員丘之上多大蛇、以雄黃精厭之^(一)。

校記 御覽九百八十八。○玉函 54。古逸書 51。逸書考 44。葉氏 49。事亦見御覽九三四引外國圖。

(一)○「厭」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「壓」、今依四部叢刊本改。

36 大月氏及西胡有牛^(一)、名為日反牛^(二)。今日割取其肉三四斤^(三)、明日其肉已復、創即愈也^(四)。漢人入此國、以牛示之、以為珍異^(五)。漢人曰、「吾國有蟲、大如小指^(六)、名為蠶^(七)、食桑葉、為人吐絲。」外國人不復信有蠶也^(八)。

校記 類聚六十五。御覽八百二十五。*御覽九百。又一百六十六。*書鈔百四十五。*通典一百九十二。*事類賦注二十二。*寰宇記八十。○*本草綱目五一。淵鑑三五六蚕。*四三五牛。*格致鏡原八六。*三農紀一九。玉函 18。古逸書 48。逸書考 19。葉氏 46。參看今本博物志三(御覽一六六引)。

(一)「及西胡」三字書鈔引有。○御覽九〇〇引亦有。「氏」書鈔·御覽·事類賦注引皆作「支」。(二)書鈔百四十五引作「日支牛」。御覽九百引作「反牛」。通典一百九十二引作「日及」。事類賦注二十二引作「白皮牛」。○類聚·御覽八二五引並作「日及」、按「反」「及」「皮」字形相近、所謂魯魚之誤、今暫依書鈔補「牛」字。(三)類聚引作「二三斤」。○類聚上海古籍出版社本引作「割取肉一二斤」。書鈔引作「三斤」。通典引作「今日取其肉」。(四)類聚引作「明日瘡愈」、事類賦注·通典引並同。御覽九百。又一百六十六引云「割而復生、名曰復牛」。寰宇記八十同、(但下)「復」作「及」。○書鈔引作「明日肉已復生」。御覽一六六鮑氏刊本引作「復牛」、四部叢刊本作「及牛」。鈎沈本文依御覽九百引。書鈔·通典·事類賦注·御覽九〇〇·一六六·寰宇記引至此為止。(五)○鈎沈此句依御覽鮑氏刊本引作「見牛不知以為珍異」、類聚引作「示之、以為珍異」、御覽四部叢刊本作「以牛示之、以為珍異」、今從御覽四部叢刊本引改。(六)○御覽引作「大小如指」、今依類聚引改。(七)○類聚引「為」作「日」。(八)○類聚引作「外國復不信有之」。

37 大樹之山、西有采華之樹^(一)、服之則通萬國之言。

校記 類聚八十八。御覽九百五十二。○玉函 18。古逸書 29。逸書考 33。葉氏 31。

(一)○類聚引「西」下有「則」字。

38 玄菟北有山、山有花、人取紡績葛布^(一)。

校記 御覽八百二十。○天中記五○。淵鑑三六六。格致鏡原二七。玉函 19。古逸書 28。逸書考 27。葉氏 30。

(一)○鈎沈依御覽鮑氏刊本作「紡織為布」、今依四部叢刊本改。

39 東海之東有樹、名為白蒙、其汁刻為脂、色白如脂、味甘。

校記 書鈔一百四十七。○格致鏡原六六。玉函 27。古逸書 25。逸書考 21。葉氏 26。

40 荊州有樹名烏臼、實如胡麻子、其汁如脂、食如豬脂味也^(一)。

校記 書鈔一百四十七。齊民要術十引作「荊陽有烏臼、其實如雞頭、迺之如胡麻子、其汁味豬脂」。○大典一四

五三六、引齊民要術。*農政全書三八。格致鏡原六五。玉函 28。古逸書 26。逸書考 22。葉氏 27。

(一)○書鈔孔氏校語云、「玉函山房輯本及陳·俞本、其汁二句作『擣其汁可為脂、其味亦如豬脂』、餘同。」「食」鈎沈作「其味亦」、但與玉函不全同、今據書鈔孔氏校本改。

41 凡梓木為楹、居下則木鳴、謂之爭位。

校記 韻府八庚。○淵鑑四一五梓。格致鏡原六五。古逸書 74。葉氏 67。

42 千歲之樹^(二)、枝中央下、四邊高。百歲之樹、其汁赤如血。

校記 御覽九百五十二。*類聚八十八。*珠林二十八〔百二十卷本三七〕。○*淵鑑四一二木。*格致鏡原六四。玉函29。古逸書30・31。葉氏32。

(一)○御覽引「之樹」作「樹之」、按鈎沈據「百歲之樹」改。

43 千歲樹精為青羊^(二)、萬歲樹精為青牛^(三)、多出遊人間^(三)。

校記 御覽八百八十六引全。*類聚八十八。*珠林二十八〔百二十卷本三七〕引前二句。*類聚九十四。*初學記二十九。*白帖〔六帖〕九十六引次句。*御覽九百。九百二引首句。○按此條是次條44・45之前文也。天地瑞祥志一四・一九、御覽九百引證之。*白帖二九。*古文苑七枯樹賦注。*事類賦注二二。永樂大典八五二七。*淵鑑四三五牛・四三六羊。格致鏡原八六。古今圖書集成神異典三一五。玉函33。古逸書34・35。逸書考49。葉氏32。(一)○類聚八八引「樹」上有「之」、次句同。御覽九〇二引亦有。古文苑注引「千歲之木精為青牛」。此說又見今本述異記上—136。事類賦注亦引此句、作「千歲之梓樹精為青羊」。(二)○珠林・瑞祥志十四引無「青」。白帖亦引此句。(三)○瑞祥志十四引文末有「也」、而相接第45條之文。

44 漢桓帝時^(二)、出游河上^(三)、忽有一青牛從河中出、直走邊桓帝邊^(三)、人皆驚走^(四)。太尉何公時為殿中將軍^(五)、為人勇力^(六)、走往逆之^(七)。牛見公往^(八)、乃反走還河^(九)。未至河、公及牛^(二〇)、乃以左手拔牛左足脫^(二一)、以右手持斧斫牛頭而殺之^(二二)。此青牛是萬年木精也^(二三)。

校記 書鈔六十四。御覽二百三十九・又九百。「牛見公往」已下、書鈔引作「手攬其右足、牛見公乃走還河。案

何公進」。其文頗略、今從御覽。○天地瑞祥志一四。天中記五五。淵鑑一〇四雜號將軍（文與書鈔引同）。玉函 34。古逸書 38。逸書考 45。葉氏 35。

（一）○瑞祥志引作「至桓帝」。御覽九〇〇引無「帝時」。 （二）○御覽九〇〇引句頭有「嘗」。 （三）○瑞祥志引作「湯帝」二字。御覽九〇〇引無此句。 （四）御覽引有此句。○御覽九〇〇引無「皆」。 （五）御覽一引「九〇〇」作「中尉將軍」。○御覽二三九引無「時」。 （六）○御覽引「為人」作「有」。 （七）○瑞祥志引作「往還之牛」。御覽二三九引句頭有「輒」、而無「往」。又九〇〇引無「往」之。 （八）○御覽九〇〇引無「往」。古逸書引作「牛目之」、未知何據。 （九）○御覽九〇〇引無「乃反」二字。 （一〇）○御覽九〇〇引無以上二句六字。 （一一）○「左」今依御覽九〇〇引補、無「乃」「脫」、「拔」作「挽」。瑞祥志引作「以手挽牛左足脫」。 （一二）○御覽九〇〇引無「以」。瑞祥志引作「遂殺牛也」。 （一三）○「者」今依御覽引補。御覽九〇〇引無「是」「精」、而「年」下有「之」。

45 秦文公造長安宮、面四百里、南至終南山。山有梓樹^{（一）}、大數百圍、蔭宮中^{（二）}。公惡而伐之^{（三）}、連日不尅^{（四）}。天輒大風雨^{（五）}、飛沙石、人皆疾走。至夜瘡皆合^{（六）}。有一人、中風雨、傷寒不能去^{（七）}。留宿^{（八）}。夜聞有鬼來問樹^{（九）}、言秦王凶暴相伐^{（一〇）}、得不困耶^{（一一）}。樹曰、「來即作風雨擊之、其奈吾何^{（一二）}」。鬼又曰^{（一三）}、「秦王若使三百人^{（一四）}、被頭以赤絲^{（一五）}、繞樹伐汝^{（一六）}、得無敗乎^{（一七）}」。樹默然不應^{（一八）}。明日人上言、秦王依此言伐之^{（一九）}。樹斷^{（二〇）}、中有青牛駭逸、逐之人澧水^{（二一）}。秦王因立旄頭騎^{（二二）}。

校記 御覽六百八十・又九百五十八。珠林六十七（百二十卷本八四）。*書鈔一百三十。事類賦注二十四。○*白帖三十。*六帖九九。天地瑞祥志一四。*明鈔說郭一〇事始。天中記五一。玉芝堂談薈二六。淵鑑四一五梓。廣群芳譜七二。玉函 35。古逸書 36・37。逸書考 46。葉氏 36。事見史記秦本紀、列異傳（鈎沈 5）、錄異傳（鈎沈 3）、搜

神記一八—415。

(一) 御覽一引〔六八〇〕作「秦始皇時、終南山有梓樹」、珠林引同。○瑞祥志引亦同、文頭有「昔」、而無「終」。
(二) ○瑞祥志引無此句。事類賦注引「宮」上有「秦」。(三) 御覽一引〔六八〇〕作「始皇惡之、興兵伐之」。
珠林同。○瑞祥志引「公惡而」作「始皇」。事類賦注引句頭有「秦文」二字。(四) ○瑞祥志引無此句。(五)
○御覽九五八・事類賦注引無「天」。(六) ○「皆」今依珠林引補。(七) 「蹇」御覽引作「寒」、依珠林引改。
○珠林四部叢刊本・大正藏本引皆作「寒」、大正藏校勘記無注。未知鈎沈何據、而今暫從鈎沈。(八) ○瑞祥志
引「至夜瘡皆合」至此作「有一人不能去」。「飛沙石」至此以上御覽九五八・事類賦注引無。(九) ○御覽九五八
引作「夜有鬼問樹」。事類賦注引作「夜有人聞有鬼問梓樹」。(一〇) ○瑞祥志引作「奈何秦王、天下凶暴、相伐
不止」。(一一) ○瑞祥志引「得」作「子」。(一二) ○瑞祥志引無「擊之其奈吾何」六字。御覽九五八・事類
賦注引無前句「來即作風雨擊之」。(一三) ○珠林引無「鬼」。瑞祥志・御覽九五八・事類賦注引無「又」。(一
四) ○瑞祥志引「秦王」作「秦皇」。御覽九五八・事類賦注引無「秦王」。珠林・御覽六八〇引無「若」。(一五)
○瑞祥志引「被頭」作「被髮」。御覽九五八引「被」作「披」、而無「赤」。事類賦注引「被頭」作「披髮」、而無「赤」。
(一六) ○瑞祥志引「伐汝」作「而伐」。(一七) ○御覽九五八引「伐汝得無敗乎」作「豈不敗汝」。事類賦注引
作「汝豈不敗」。(一八) 御覽一引〔六八〇〕作「樹淡然無言」、珠林引「淡」作「寞」。○瑞祥志引無以上二句。
御覽鮑氏刊本作「淡」。四部叢刊本作「漠」。珠林四部叢刊本作「寞」、大正藏本作「漠」。珠林引「應」作「聲」。
事類賦注引「樹」上有「遂」。(一九) 御覽一引〔六八〇〕作「疾人報秦皇案言伐斷」、珠林引作「病人報秦王案
言伐之」。○瑞祥志引作「即聞病人告秦皇、秦皇伐之」。事類賦注引無「上」、而「言」下有「於」。御覽六八〇引無
「明日」。(二〇) ○書鈔引無「伐汝」至此凡二十五字。御覽九五八引無「樹斷」二字。瑞祥志引無「樹」。(二
一) 書鈔・珠林引並作「中」有一青牛出、迎之走入河」。御覽一引〔六八〇〕作「中央有一青牛、逐之入水」、今

依事類賦注。○珠林引作「逐」不作「迎」。瑞祥志引以上二句作「中有一青牛、出走入河」。御覽九五八引無「駭逸」。事類賦注句末有「中」。瑞祥志·御覽九五八·事類賦注引至此為止。(二二)○書鈔·珠林引句頭有「於是」。珠林引無「因」。書鈔引文末有「也」、而自「秦王若使三百人」引至此。白帖引作「遂立牛祠也」。瑞祥志引後有前條44之文。照瑞祥志一四引、此等文章次序當作第43·45·44也。

46 姑獲鳥夜飛書藏^(二)、蓋鬼神類^(三)。衣毛為飛鳥、脫毛為女人^(三)。一名天地少女、一名夜行游女^(四)、一名鉤星^(五)、一名隱飛^(六)。鳥無子^(七)、喜取人子養之^(八)、以為子^(九)。今時小兒之衣不欲夜露者、為此物愛以血點其衣為誌、即取小兒也^(一〇)。故世人名為鬼鳥^(一一)、荊州為多^(一二)。昔豫章男子、見田中有六七女人、不知是鳥、匍匐往^(一三)、先得其所解毛衣^(一四)、取藏之^(一五)、即往就諸鳥^(一六)。諸鳥各去就毛衣^(一七)、衣之飛去^(一八)。一鳥獨不得去^(一九)、男子取以為婦^(二〇)。生三女。其母後使女問父^(二一)、知衣在積稻下得之^(二二)、衣而飛去^(二三)。後以衣迎三女^(二四)、三女兒得衣亦飛去^(二五)。今謂之鬼車^(二六)。

校記 御覽八百八十三·又九百二十七、有末句。又十三(此三字衍、七三年版全集已刪之)。北戶錄一。*荊楚歲時記(又御覽一九引)。*備急千金方一一。*外臺秘要方三五。*經史證類本草十九。水經注三十五。(欄外注云)朱翌猗覺寮雜記下引、與水經注同。○*歲時廣記一(荊楚歲時記引)。*類說二三引北戶錄。*本草綱目四九。天中記五九。*通雅四五。*格致鏡原八一。玉函45。古逸書46·47。逸書考52。葉氏45。事亦見搜神記一四—354。酉陽雜俎前集一六。

備急千金要方一一引玄中記云、「天下有女鳥、名曰姑獲、肘後子母秘錄作鳥獲。一名天帝女、一名隱飛鳥、一名夜行游女。又曰鉤星鬼。喜以陰雨夜過、飛鳴徘徊。人村里喚得來者、是也。鳥淳雌無雄、不產。陰氣毒化生。喜落毛羽於人中庭、置兒衣中、便令兒作癩病、必死。即化為其兒也。」是以小兒生至十歲、衣被不可露也、七八月尤忌。

（外臺秘要方三五引略同。庫本）

醫心方二五引小品方云、玄中記云、天下有女鳥、一名姑獲、又名鈎星鬼也。喜以陰雨夜過、飛鳴徘徊、人村里喚得來者是也。是鳥專雌無雄、不產、喜落毛羽中塵、置人兒衣中、便兒作癩病、必死、便化為其兒也、是以小兒生至十歲、衣被不可露、七八月尤忌。（日本古典全集本）

小兒衛生總微論方一二引云、寶鑑所引玄中記有無辜之禽、一名姑獲、一名鈎星鬼、但喜夜飛、人有暴露小兒衣袂襁包、其禽飛立在上、令兒患此疾（無辜）也。（同上）

（一）○北戶錄引無「鳥」。（二）○北戶錄引無此句。

（三）二句北戶錄引在「豫章男子」句上。○北戶錄・

御覽九二七引無「飛」。（四）御覽引作「名為帝少女、一名夜游」、今依北戶錄引補。○御覽九二七引云、「名為

天帝少女、一名夜行游女」。歲時廣記一引作「夜遊女」、又作「夜遊鬼」（學海類編本）。（五）御覽一引（九二七）

作「鈎星」。○北戶錄引無此句。（六）○歲時廣記引作「隱飛鳥」。（七）○北戶錄引無此句。（八）○北戶

錄引作「好取人兒食之」。歲時廣記引「子」作「女子」。（九）○北戶錄引無此句、御覽八八三引無「以」。（一

〇）「今時」至此、已上荊楚歲時記注引作「有小兒之家、即以血點其衣為誌」、御覽引作「人養小兒、不可露其衣、

此鳥度即取兒也。」、經史證類本草十九引作「今時人、小兒衣不欲夜露者為此也」、今依北戶錄引補。○荊楚歲時記

（增訂漢魏叢書本）引「誌」作「證」。（一一）荊楚歲時記注引有此句。○歲時廣記引「故（人）世號鬼鳥」。荊

楚歲時記・經史證類本草・類說引至此為止。（一二）○歲時廣記引作「荊湖彌多」、而引至此為止。（一三）

○北戶錄・御覽九二七引「匍」作「扶」。（一四）○「所解」今依北戶錄・御覽九二七引補。北戶錄・御覽八八

三引無「衣」。（一五）○北戶錄引「取」作「即」、御覽八八三引無「取」。（一六）○御覽八八三引無「即」。

（一七）○北戶錄・御覽九二七引無「諸鳥」。北戶錄・御覽八八三引「去」作「走」。北戶錄引「就」作「取」。（一

八）○北戶錄引無「衣之」、御覽九二七引「之」作「此」。（一九）○北戶錄引無「得」。（二〇）○北戶錄引

「婦」作「妻」、而無「以」。御覽八八三引無「取」。(二二)○御覽八八三引作「其女母後令問父」。(二三)○御覽九二七引「知」作「取」、八八三引無「之」。(二三)○御覽九二七引「衣」下有「之」。(二四)○北戶錄引無「衣」「三女」。(二五)○御覽九二七引無「亦」。北戶錄·御覽八八三引至此為止。(二六)〔御覽〕九百二十七引有末句。水經注三十五引云、「陽新男子于水次得之(女鳥)、遂與共居、生二女、悉衣羽而去。豫章間養兒、不露其衣、言是鳥落塵於兒衣中、則令兒病、故亦謂之飛夜遊女矣」。

47 狐五十歲能變化為婦人。百歲為美女^(一)、為神巫^(二)。或為丈夫^(三)、與女人交接^(四)。能知千里外事、善蟲魅、使人迷惑失智。千歲即與天通^(五)、為天狐^(六)。

校記 廣記四百四十七。*初學記二十九。*御覽九百九〔鈎沈作「九百九十」、七三年版全集已正〕。○*白帖二十九。*六帖九七共與初學記引同。天地瑞祥志一九。萬花谷前集三七。天中記六〇。*山堂肆考二一九。淵鑑四三一狐。*格致鏡原八八。玉函50。古逸書39。逸書考53。葉氏37。

(一)二句初學記二十九亦引、首句作「千歲之狐為淫婦」。○白帖·六帖引亦同、止引二句而已。(二)三句御覽九百九亦引、首句作「五十歲之狐為淫婦」、末句作「又為巫神」。(三)○萬花谷引無「或」。以上瑞祥志亦引、云「百歲狐為巫神、為美女、五十歲狐淫婦也」。(四)○萬花谷引「人」作「子」。(五)○萬花谷引無「善蟲魅使人迷惑失智千歲」十一字。(六)○山堂肆考引「天狐」作「通天狐」。

48 百歲鼠化為神。

校記 御覽九百十一。○天地瑞祥志一九。玉函51。古逸書40。逸書考57。葉氏38。

49 百歲之鼠、化為蝙蝠。

校記 初學記二十九。白帖〔六帖〕九十八。御覽九百十一。○白帖二九。淵鑑四三三鼠。玉函52。古逸書41。逸書考56。葉氏39。

50 百歲伏翼、其色赤、止則倒懸^(一)。得而服之、使人神仙^(三)。千歲伏翼、色白。得食之、壽萬歲。

校記 類聚九十七。御覽九百四十六。*水經注三十七〔鈎沈作「二十七」、七三年版全集已正〕。○北戶錄一注引水經注云、與玄中記說略同。天地瑞祥志一九。天中記五九。玉芝堂談薈三二。格致鏡原九六。玉函47。古逸書42。43。逸書考55。葉氏40。參看北戶錄一注。按此條本是一條、鈎沈排印本分為二條、今依鈎沈稿本合為一條。
(一)○水經注引作「蝙蝠百歲者倒懸」。瑞祥志引「止」作「正」。(二)二句依水經注三十七引補。

51 千歲之鶴、隨時鳴。

校記 敦煌石室所出唐寫本類書殘卷。

52 千歲之燕、戶北向。

校記 類聚九十二。酉陽雜俎續八〔廣記四六一引〕。○爾雅翼一五注。明鈔說郭九感應經引。說略四。淵鑑四二四燕。玉函53。古逸書44。逸書考54。葉氏42。

53 千歲之龜、能與人語。

校記 春秋左傳文四年正義引玄中要記。○六家詩名物疏九。詩傳名物集覽一。玉函49云、「春秋左傳文四年孔穎

達正義引玄中要記。」但此文不見文公四年條、而見宣公四年條、鈎沈依玉函誤。逸書考 48 引作「宣四年」是。葉氏 44。

54 千歲之龜、能與人語。

校記 初學記三十。○古逸書 45。逸書考 47。葉氏 43。按「龜」或「鼃」之訛歟。前條 53 之異文也。

55 千歲蟾蜍頭生角^(一)。得而食之壽千歲^(二)。又能食山精^(三)。

校記 御覽九百四十九。*玉燭寶典五。*廣韻二十四鹽。○天地瑞祥志一八。*海錄三二下。天中記五七。格致鏡原九八。玉函 48。古逸書 55。逸書考 58。葉氏 53。參看抱朴子內篇一七。

(一)○瑞祥志·御覽·廣韻引無「千歲」。廣韻引「角」下有「者」、「蜍」作「蟾」。(二)已上二句、玉燭寶典五·廣韻二十四鹽亦引。○廣韻引無「得而」、而句末有「也」。玉燭寶典引無「而」。海錄引亦作「食之壽千歲」。(三)○瑞祥志引文末有「也」。

56 山精如人。一足長三四尺。食山蟹、夜出晝藏^(一)。人晝日不見^(二)、夜聞其聲如鬼神^(三)。千歲蟾蜍食之。名曰山澡也^(四)。

校記 御覽八百八十六〔鈎沈作「八百十六」、七三年版全集已正〕。草堂詩箋三。○*異苑〔廣記三九七引、今本三〕。天地瑞祥志一四。*天中記七。本草綱目五一。*通雅二二。古今圖書集成神異典三一五。玉函 44。古逸書 56。73。逸書考 50。葉氏 54。參看抱朴子內篇一七。

(一)○瑞祥志引「出」作「行」。(二)○「晝日」二字、今依瑞祥志·御覽四部叢刊本·草堂詩箋引補。鈎沈

依御覽鮑氏刊本作「人不能見」、御覽四部叢刊本・草堂詩箋引並無「能」、今從。
瑞祥志引補。草堂詩箋引無「夜」。(四)○此句他書不引、今依瑞祥志引補。

57 蟻長三四寸、蟾蜍鸞鴛鴦悉食之。

校記 廣韻二十五德。○玉函 56。古逸書 58。逸書考 60。葉氏 56。按蟻是水狐也、此條系次條之佚文也、當合為一條也。

58 水狐者、視其形蟲也、見其氣乃鬼也^(一)。長三四寸。其色黑。廣寸許。背上有甲、厚三分許。其口有物^(二)、向前如角狀。見人則氣射人。去二三步即射人、中人六七人死^(三)。

校記 御覽九百五十。廣記四百七十三。經史證類本草二十二。

廣記四百七十三題感應經引玄中記云、「域以氣射人、去人三十步、即射中其影、中人死十六七。」

經史證類本草二十二引云、「水狐蟲也、長四寸、其色黑、背上有甲。其口有角、向前如弩、以氣射人。江淮間謂之短狐。射工通為谿病。此既其蟲、故能相壓伏也。」

○陸氏詩疏廣要卷下之下。六家詩名物疏三九。詩傳名物集覽五。*天中記五七。本草綱目四二。玉函 56。古逸書 57。逸書考 59。葉氏 55。參看搜神記十二— 314、洪範五行傳(類聚一〇〇引)、漢書五行志、博物志二、抱朴子內篇一七。

(一)○今依御覽四部叢刊本補「見」。(二)○今依御覽四部叢刊本改「頭」為「口」。(三)○陸氏詩疏廣要・六家詩名物疏・詩傳名物集覽引並有後文云、「鴛鴦鸞蟾蜍悉食之」。即前 57 條也。

59 越燕、斑胸、聲小。胡燕、紅襟、聲大。

校記 丹鉛總錄〔二十一〕。○陸氏詩疏廣要卷下之下。丹鉛摘錄八。總錄・摘錄引均「越燕」「胡燕」作倒、茆氏古逸書本 75 上作「越」、下作「胡」、鈎沈同。西陽雜俎前集一六云、「胸斑黑、聲大、名胡燕」、茆氏或據西陽之記事以意改歟、今暫從鈎沈。

60 玉精為白虎。金精為牛馬^(一)。銅精為僮奴^(二)。鉛精為老婦。

校記 御覽八百八十六・*又八百十三・八百十二・九百十二。*廣韻二十三錫。○*寶要抄〔寶要抄錄文〕古泉圖順・『杏雨』二〇〇二年第五號。*御覽八一。通雅二一。*天中記五〇・六〇。*玉芝堂談薈二六。*淵鑑三六一金・三六二銅。格致鏡原三四。古今圖書集成神異典三一五。玉函 42。古逸書 59・60・61・62・63。逸書考 51。葉氏 57・58。

格致鏡原三四引云、「黃金之氣為火。白金之氣為雄雞。銅鐵之氣為胡人。銅器之精為馬。金至百斤以上、其精為羊。」
(一)○寶要抄引作「金之精為牛馬」、今依此改「車馬」作「牛馬」。御覽八一引作「金之精為牛」。(二)御覽八百十三引作「奴婢」。○御覽各本不作「奴婢」、而作「銅之精為童奴」。當刪此注。(三)廣韻引云、「鉛錫之精為婢」。御覽八百十二引作「為老婢」。又九百十二引作「為狐狸」。

61 松脂淪入地中、千歲為伏神茯苓。

校記 初學記二十八。類聚八十八。廣韻三鍾〔三鍾、鈎沈稿本作二空格、七三年版全集已填之〕。御覽九百五十三。事類賦注二十四有末〔伏神〕二字。○御覽鮑氏刊本無「伏神」二字、但四部叢刊本引有、今依四部叢刊本・事類賦注引改作「伏神茯苓」。倭名類聚抄一〇引云、「松脂淪入地、千歲則為伏苓」。嘉泰會稽志一七。淵鑑四一二松。

古逸書 32。逸書考 34。葉氏 33。事見博物志（今本四、御覽八〇八・九八九引）引神仙傳、抱朴子（今本一一、御覽八八八引老子玉策）。

62 楓脂淪入地中（二）、千秋為虎珀（三）。

校記 御覽八百八。酉陽雜俎十二引云、「楓脂入地為琥珀。」○寶要抄。*通雅四八。山堂肆考二〇九。淵鑑三六四琥珀。玉函 36。古逸書 33。逸書考 35。葉氏 34。

（一）○御覽四部叢刊本「淪」作「輪」。 （二）○寶要抄引作「千歲為虎魄」。

63 珊瑚出大秦西海中（二）、生水中石上。初生白、一年黃、三年赤、四年蟲食敗。

校記 御覽八百七。○寶要抄。大典二二五九。淵鑑三六四珊瑚。格致鏡原三三。玉函 37。古逸書 68。逸書考 36。葉氏 63。

（一）○鈎沈「大秦」下有「國」字、今依寶要抄・御覽・大典引刪。淵鑑以下皆引有。

64 金鋼出天竺大秦國、一名削玉刀。削玉如鐵刀削木。大者長尺許、小者如稻米。欲刻玉時、當作大金鑲、著手指間（二）、開其背如月、以割玉刀內鑲中、以刻玉。

校記 御覽八百十三。○玉函 43。古逸書 69。逸書考 40。葉氏 64。參看次條 65。
（一）○御覽四部叢刊本無「間」。

65 天竺大秦國出金指鑲。

校記 書鈔一百三十六。○玉函43注。逸書考41。葉氏64。按此前條64之佚文歟。

66 馬瑙出大月氏^(一)。

校記 通典一百九十二。類聚八十四。御覽八百八。○寶要抄。淵鑑三六四瑪瑙。格致鏡原三三。玉函38。古逸書64。逸書考37。葉氏59。

(一)○通典注「馬」作「瑪」。類聚引「大月氏」作「月氏國」。寶要抄引作「馬瑙出月氏」。御覽引「瑙」作「腦」、「大月氏」作「月氏」。

67 車渠出天竺國^(一)。

校記 類聚八十四。御覽八百八。○寶要抄。淵鑑三六四車渠。格致鏡原三三。玉函39。古逸書65。逸書考38。葉氏60。

(一)○寶要抄引「渠」作「渠」。

68 大秦國有五色頗黎、紅色最貴^(一)。

校記 御覽八百八。○緯略八。本草綱目八。通雅四八。淵鑑三六四玻璃。格致鏡原三三。玉函40。古逸書67。葉氏61。

(一)○緯略引「色」下有「者」。

69 木難出大秦。

校記 御覽八百九。○玉函41。古逸書66。逸書考39。葉氏62。

70 五肉七菜、勝膾腥臊^(一)。

校記 書鈔一百四十五。○玉函57。古逸書72。逸書考25。葉氏68。

(一)○書鈔孔氏校語云、「玉函山房輯本玄中記、「臊」作「膾」、餘同。陳·俞本「膾」作「掩」、又陳本「臊」作「膾」、俞本「腥臊」作「鶉鴉」。古逸書引依俞本作「勝膾鶉鴉」。

○71 蛭虵、身長三四尺、有四足、形如守宮。尋脊有針^(一)、利如刀、甚毒惡。中人不過半日則死^(二)。

校記 慧琳一切經音義三三·四一·四七·五七·續集六。

(一)卷三三引「脊」作「脊」、誤。(二)卷四一引「日」作「月」。續集六引「則」作「即」。

○72 北溟有燭龍之地、名曰龍庭也。

校記 慧琳一切經音義二〇。

○73 南海中有丹穴山、鳳鳥所栖乳、海嶼之洲也。

校記 慧琳一切經音義二〇。參看山海經一南山經。

○74 夫自稱山岳神者、必是蟒虵。自稱江海神者、必是鼃黿魚鱉。自稱天地父母神者、必是猫狸野獸。自稱將軍神者、必是熊羆虎豹。自稱仕人神者、必是猿猴獼猴。自稱宅舍神者、必是犬羊猪犢。

校記 弘明集一四檄太山文引黃羅子經、玄中記。牧田諦亮編弘明集研究譯注云、玄中記、未詳、或道經歟。

○ 75 契丹富豪要裹頭巾者、納牛駝七十頭馬百匹、名曰舍利。是庶人雖富豪、在匈奴亦不得服巾也。
校記 說略二一。「契丹」北魏時此族自號。

○ 76 羴、胡羊也。羴、羊腊也。似羊四耳九尾、目在背。
校記 淵鑑四三六羊。*格致鏡原八六。

陸氏異林 凡一條

1 鍾繇嘗數月不朝會^(一)、意性異常^(二)。或問其故、云、『常有好婦來、美麗非凡。』問者曰、『必是鬼物、可殺之^(三)。』婦人後往、不即前、止戶外^(四)。繇問何以。曰、『公有相殺意。』繇曰、『無此。』乃勤勤呼之^(五)、乃入^(六)。繇意恨恨^(七)、有不忍之心^(八)、然猶斫之傷髀^(九)。婦人即出、以新縣拭血竟路^(一〇)。明日、使人尋迹之^(一一)、至一大冢、木中有好婦人^(一二)、形體如生人^(一三)、著白練衫^(一四)、丹繡襦褠^(一五)、傷左髀^(一六)、以襦褠中縣拭血^(一七)。叔父清河太守說如此^(一八)。

校記 魏志鍾繇傳注。御覽八百十九、又八百八十七。○少室山房筆叢三六(庫本二〇)引魏志注。淵鑑三六六綿。事見搜神記一六一399、文同、但闕文末一句、又幽明錄(鈎沈51)。

(一)○御覽八一九引無「會」。(二)○御覽八一九引無此句。(三)○御覽八一九四部叢刊本引作「不可不殺之」。(四)○少室山房筆叢引無此句三字。(五)○御覽兩引、筆叢引均無「乃」。(六)○御覽八八七四部叢刊本引「入」誤作「曰」。(七)○三國志注引無「恨」字。御覽八一九引無此句。(八)○御覽兩引無「之」。(九)御覽二引(鮑本八一九「髀」作「腳」)○四部叢刊本引作「胛」。御覽八八七引無「猶」、八一九引「斫」作「斬」。筆叢引「意恨恨有不忍之心然猶」十字作「以刀」。(一〇)○御覽八八七鮑氏刊本引「綿」誤作「絲」。(一一)○御覽兩引無「日」、八一九引無「之」。(一二)○筆叢引「木」作「冢」。(一三)○御覽鮑氏刊本引無「人」。(一四)御覽二引(八八七)作「衣青絹衫」。○御覽八一九引無「衫」。(一五)○筆叢中華書局本引「繡」作「a」、庫本引作「綿」。鈎沈依御覽八一九作「兩當」、今依三國志注改、下同。(一六)御覽一引(八一九)作「傷一腳」。○御覽八八七引「左」作「一」。(一七)○御覽兩引至此為止。御覽八一九鮑

氏刊本引「綿」誤作「絹」。

(一八)裴氏松之曰、「清河、陸雲也」。○筆叢引無「如此」。

曹毗志怪

原輯一條 新附一條 凡二條

1 漢武鑿昆明池^(一)、極深悉是灰墨^(二)、無復土^(三)、舉朝不解。以問東方朔。朔曰、『臣愚不足以知之^(四)、可試問西域胡人^(五)。』帝以朔不知、難以移問^(六)。至後漢明帝時、外國道人入來洛陽^(七)、時有憶方朔言者^(八)、乃試以武帝時、灰墨問之^(九)。胡人云^(一〇)、『經云、天地大劫將盡^(一一)、則劫燒^(一二)、此劫燒之餘^(一三)。』乃知朔言有旨^(一四)。

校記 初學記七。草堂詩箋二十六、又三十八。○御覽六七。長安志四。杜氏趙次公先後解輯校已帙卷五千秋節二首。文房四譜五。*王荊公詩箋註三七寄國清處謙詩。類編長安志八。天中記二五。稗史彙編一一。淵鑑三三地。三九昆明池。玉燭寶典四引雜鬼怪志(鈎沈雜鬼神志怪3)。事亦見搜神記一三—328、文同、幽明錄(鈎沈262)、法苑珠林一二。

(一)○詩箋「武」下有「帝」。文房四譜引無「池」。(二)(悉是)二字詩箋一(三八)作「見」。(三)○詩箋二六引無「復」。(四)○詩箋二六引無「之」、又三八引此句作「朔答不知」四字。(五)○詩箋二六引「可試」作「請」。御覽·長安志·杜詩趙注引無「人」。詩箋二六引無「胡」、文房四譜引作「胡僧」。(六)○詩箋兩引無以上二句九字。御覽·長安志·杜詩趙注·文房四譜引「移」均作「核」。(七)詩箋一(二六「道」)作「胡」。○詩箋兩引無「入」「洛陽」。(八)○詩箋引無「時」。(九)○詩箋兩引無「試」、又二六引無「武帝時」三字。文房四譜引無「武帝時灰墨」五字。(一〇)○詩箋二六引「云」作「答曰」。(一一)○鈎沈奪「經云」二字、今依諸書補。(一二)詩箋並「燒」作「灰」、下「燒」字同。○文房四譜引「燒」下有「灰」字。(一三)○詩箋引「餘」下有「也」。文房四譜引無「劫」字。(一四)(詩箋三八)有末六字、「乃」作「方」、「旨」作「驗」。○長安志引「旨」作「自」。

○ 2

樓舡上建樓櫓、戈舡上建戈矛。又作二石人、東西相對、象牽牛織女。

校記 玉海一四七。按此亦昆明池事、本與前條合為一文。

郭季產集異記

原輯十一條 新附四條 凡十五條

1 兗州人缸行、忽見水上有浮鎖、牽取得數十許丈^(一)、乃得一白牛。與常牛無異、而形甚光鮮可愛。知是神物、乃放之。牛於是入水、鎖亦隨去。

校記 御覽九百。

(一)○鈎沈·稿本奪「十」、今依補。

2 吳郡吳泰能筮^(二)。會稽盧氏失博山香爐^(三)、使泰筮之。泰曰^(四)、「此物質雖為金、其象實山、有樹非林、有孔非泉、闔闔興風^(五)、時發青煙^(六)、乃此香爐也^(六)。』語其主處^(七)、求即得之矣^(八)。

校記 書鈔一百三十五。類聚七十。御覽七百三。○天中記四九。

(一)〔吳郡〕二字類聚引有。○書鈔引「泰」作「太」。 (二)書鈔引〔盧氏〕作「有人」。 (三)○書鈔引無「泰」。 (四)○類聚引「闔闔」作「闔閭」、而無「風」、或奪歟。御覽引句末有「至」。 (五)○類聚引「時」作「見」。書鈔引「時」作「上」。 (六)○類聚·御覽引並無「乃」。今依書鈔·類聚引補「此」字。 (七)○書鈔引無「主」。 (八)○書鈔引無「求」。類聚引無「之矣」、御覽引無「矣」。

3 陽平宋董、善解夢^(一)。有孫氏求官、睡得夢^(二)、雙鳳集其兩拳。以問董^(三)。董曰^(四)、「鳳皇非梧桐不棲、非竹實不食。卿當大凶、非苴杖即削杖也^(五)。』後孫氏果遭母喪。

校記 御覽四百。廣記二百七十六。

(一)○廣記引無此句。御覽四部叢刊本作「堇」、鮑氏刊本作「謹」、今依四部叢刊本、下同。(二)○廣記引無「睡得」二字。(三)○廣記引「堇」作「占者宋堇」。(四)○廣記引無「堇」。(五)○廣記引無「也」。

4 張天錫在涼州、夢一綠色狗^(一)、形甚長^(二)、從城東南來^(三)、欲齧張^(四)、張牀上避之^(五)、一匝乃墮地^(六)。後符堅遣苟長往破張^(七)、着綠地錦袍^(八)、從東南門入^(九)、皆如夢焉^(一〇)。

校記 御覽四百。廣記二百七十六。○天中記五四。廣記引作出「李產集異傳」、當有訛奪。

(一)○廣記引「狗」作「犬」。(二)○廣記引無「形」。(三)○鈎沈排印本「城」誤作「地」、今依御覽·稿本改。廣記引無「城東」二字。「來」御覽引無、依廣記引。(四)○廣記引「齧張」作「昨天錫」。(五)○廣記引無「張」。御覽引無「之」、依廣記引。(六)○「一匝」今依御覽四部叢刊本補、鮑氏刊本引無「一」。(七)○廣記引「長」作「甚」。○御覽四部叢刊本作「狗長」。廣記引「甚」下有「者」、疑「着·著」之訛誤。(八)○廣記引無「往破張着」四字。(九)○廣記引作「從南來、攻入門、大破之」。(一〇)○廣記引無此句。

5 宋中山劉玄居越城^(一)。日暮忽見一人着烏袴褶來^(二)、取火照之^(三)。面首無七孔、面莽儼然。乃請師筮之。師曰、「此是君家先世物^(四)、久則為魅、殺人。及其未有眼目、可早除之^(五)。」劉因執縛、刀斫數下^(六)、變為一枕^(七)、乃是其先祖時枕也^(八)。

校記 御覽七百七。廣記三百六十八。

(一)「居越城」三字廣記引有。○「宋」字亦廣記引有。(二)○廣記引有「日」「來」。(三)○廣記引無「照之」。(四)○廣記引無「君」、而「世」作「代時」。(五)已上十二字依廣記引補。(六)○廣記引「斫」作「斷」。(七)○廣記引句頭有「乃」字。(八)○廣記引句頭有「此」字、而「其先祖」作「祖父」。御覽引

無「也」字。

6 廣平游先期妄見一人^(二)、着赤袴褶、知是其魅^(三)、乃以刀斫之、乃死^(三)。良久方變^(四)、是所常着屐也^(五)。

校記 御覽六百九十八。廣記三百六十八。○天中記四八。

(一) 廣記引作「廣平游先朝喪其妻、見一人」。(二) ○「其」今依御覽引補、廣記引無。(三) ○廣記引無此句二字。(四) ○廣記引無「方變」二字。(五) ○廣記引句頭有「乃」、「所」作「已」。御覽四部叢刊本引「屐」作「履」。御覽引無「也」。

7 丹陽張承先家、有鬼、長為其主取物^(二)。會有客須尊二斗^(三)、鰾魚二十頭^(三)。鬼將一小兒、持籃至驛騎街十字路

^(四)、令小兒睡^(五)、覺看籃中已有尊鰾^(六)。

校記 御覽七百六十四・又九百八十。

(一) ○御覽七六四四部叢刊本引無「主」。又九八〇引無「其」、而「物」上有「它」、鮑氏刊本亦同。鈎沈依鮑氏刊本七六四引。(二) ○御覽七六四四部叢刊本引無「二」、「斗」作「斤」、七六四鮑氏刊本引無「斗」。(三)

御覽七六四四部叢刊本引「鰾」作「鯉」、下同。(四) ○御覽九八〇引無「持籃」「街十字路」、而「至」作「置」。

(五) ○御覽七六四引無「令」。又九八〇引「睡」下有「眼」、疑「眠」之訛。(六) ○又九八〇鮑氏刊本引「尊鰾」作「鰾魚」、誤。

8 丹陽張承先家有一鬼^(二)、為張偷得一箭筒、語之^(三)、「慎勿至新亭射、此三井陶家物。」張以借佗、鬼罵欲燒物^(三)、張馳取還、乃止。

校記 書鈔一百二十六。御覽三百五十。○按此條本與前7條為一文也。

(一)○書鈔引無「家」。(二)○御覽引「語之」作「云」。(三)御覽引「物」作「屋」。

9 劉登往經墳冢邊、曰『我偶□餅。』徐即為辦置林間、有十餘鬼、皆焦頭來摸餅。

校記 書鈔一百四十四。

10 廣陵士甲、市得一宅、但聞中有搖鈴聲^(一)、書輒止^(二)。後遂見其真形、乃是其故人。問曰、『何以常搖鈴』。答曰、『我典使君藥物、故夜持時耳。』問曰^(三)、『晝日何以不持時。』曰、『白日是使道之夜。』因別而去。

校記 御覽三百三十八。

(一)○「遙」鈎沈依鮑氏刊本作「捶」、今依四部叢刊本改、下同。(二)○四部叢刊本「晝」作「夜」、理不通、鮑氏改作「晝」。(三)○「曰」鈎沈依鮑氏刊本作「白」、今依四部叢刊本改。

11 會稽照誕入海採菜、於山上曝之。夜、忽見群鬼張目切齒、欲來擊誕、誕奮刀砍之、見鬼悉披靡^(一)。乃就誕乞少紫菜^(二)、誕不為與。

校記 御覽九百八十。

(一)○「靡」鈎沈依鮑氏刊本作「麻」、今依四部叢刊本改。(二)○鈎沈依鮑氏刊本句頭有「歷」字、今依四部叢刊本刪之。

○12 習鑿齒將梨數十送與安公、安講次、衆集。安手自將梨分割散衆。數無少剩。

校記 義楚六帖一四。御覽九六九引世說云、「安公講、僧嘗數百。習鑿齒嘗餉十梨、正值講。安公便於座中手自剖紛梨、盡人遍都無偏頗。」不見今本世說。參看高僧傳五釋道安傳。

○13 郗超送米千碩與遠法師、齒與謝安書、再二賞歎。符以十萬師伐襄陽、得一人半矣。

校記 義楚六帖一四。世說雅量篇32云、「郗嘉賓欽崇釋道安德問、餉米千斛、修書累紙、意寄殷勤。道安答直云、損米。愈覺有待之為煩。」闕於一人半、參看晉陽秋（廣記二四六引）、高僧傳五釋道安傳、又晉書八二習鑿齒傳。

○14 三國時、有人口吐猛火、先以藥在器中、取一片木與黍糠、含之再三吹吁、而張口火出。因就熟處、取以爨之、則便火熾。又書帛投火、不然。

校記 義楚六帖一八。

○15 亂世以經書為甲冑兜鍪。

校記 義楚六帖二三。

王浮神異記

凡八條

1 晉冶氏女徒病^(一)、棄之。舞羆之馬僮、飲馬而見之。病徒曰、『吾良夢。』馬僮曰^(二)、『汝奚夢乎。』曰、『吾夢乘水如河汾三。』馬僮當以告舞^(三)、舞羆自往視之、曰、『尚可活、吾買汝。』答曰、『既棄之矣^(四)。猶未死乎。』舞羆曰、『未死^(五)。』遂買之。至舞羆氏而疾有間、而生荀林父。

校記 御覽六百四十二引瓊語、文末注云、神異記又載之。

(一)○御覽四部叢刊本「治」作「治」。 (二)○今依四部叢刊本補「曰」字。 (三)○御覽四部叢刊本作「馬當以告舞僮」、鮑氏刊本作「馬當以無僮告」。今以意改。 (四)○「既」今依四部叢刊本補。 (五)○御覽兩本均無「死」、鈎沈以意補歟、今暫從之。

2 陳敏、孫皓之世為江夏太守。自建業赴職、聞宮亭廟驗^(一)、過乞在任安穩、當上銀杖一枚。年限既滿、作杖擬以還廟。撫捶鐵以為幹、以銀塗之。尋徵為散騎常侍、往宮亭、送杖於廟中訖、即進路。日晚、降神巫宣教曰、『陳敏許我銀杖、今以塗杖見與、便投水中、當送以還之。欺蔑之罪、不可容也。』於是取杖看之、剖視、衆見鐵幹^(二)、乃置之湖中。杖浮在水上、其疾如飛、遙到敏舫前、敏舟遂覆也。

校記 御覽七百十。○天中記四八。淵鑑三七八杖。事見廣記二九三引神鬼傳、文少異。古今圖書集成神異典三〇引亦作「神鬼傳」。

(一)原注「言靈驗」。 (二)○「衆」鈎沈引作「中」、或以意改歟。今暫從御覽兩本。

3 餘姚人虞洪、入山採茗、遇一道士、牽三青牛^(一)、引洪至瀑布山^(二)、曰、『吾丹丘子也。聞子善具飲^(三)、常思見惠^(四)。山中有大茗、可以相給、祈子他日有甌犧之餘^(五)、乞相遺也^(六)。』因立奠祀^(七)。後常令家人入山^(八)、獲大茗焉。

校記 茶經(下)。御覽八百六十七。寰宇記九十八。廣記四百十二(顧渚山記引)。○御覽四一引譌作「神異經」。明鈔說郭八三引茶經。天中記四四。淵鑑三九○茶。

(一)○廣記引作「三百青羊」、寰宇記又作「羊」。(二)已上六字、廣記引作「飲瀑布水」。(三)○廣記引「具」作「茗」。御覽四部叢刊本「飲」誤作「飯」。(四)○廣記引無「見」。(五)○御覽·寰宇記引「犧」作「蟻」、廣記引作「犧」、今依茶經改。(六)○御覽·寰宇記引「乞」作「不」、意不通、廣記引作「必」、今依茶經引改。(七)(尊祀)廣記引作「茶祠」。(八)○「常」今依茶經引補。御覽四一引作「後常與家人往山」。廣記引作「後常與人往山」。寰宇記引作「後嘗與家人入山」。

4 丹丘出大茗、服之生羽翼。

校記 事類賦注十七。○鈎沈作「十六」、今正。但事類賦注中華書局本作出「天台記」、鈎沈從劍光閣本引、此書除此條以外不引王浮神異記、恐非神異記。御覽八六七又引此文作出「天台記」。

5 東方見春山外多柚。

校記 御覽九百七十三。○萬花谷後集三八又引作「東方裔外有建春山、其上多橘柚」、但此條見今本神異經東荒經中、當刪。

6 赤城山、一峯特高、可三百丈^(一)、丹壁爍日。

校記 寰宇記九十八。此條亦述異記之訛歟。

(一)○以上三句又見祖沖之述異記(鈎沈9)。

7 琅邪東武山^(一)、徙於會稽、壓殺百姓。

校記 寰宇記九十六引「神異志」。○李氏劍國曰、此數語、系出『神異志』、恐非本書、此書不詳、或許是『神異傳』之別名。

(一)○寰宇記江西萬氏刊本「東武山」作「東山」、鈎沈以意補「武」。

8 白狄先生、馮翊人。

校記 元和姓纂「十」。

○9 建陽上百餘里、有仙人葬、山亦神仙所居之地。

校記 寰宇記一〇一引作出「神異錄」、未知是非、今暫引於此。

續異記

凡十一條

1 後漢黃門郎蕭士義、和帝永元二年被戮。數日前、家中常所養狗、來向其婦前而語曰、『汝極無相祿、汝家尋當破敗、當奈此何^(一)。』其婦默然、亦不駭。狗少時自去。及士義還內、婦仍學說狗語、未畢、收捕便至^(二)。

校記

廣記一百四十一。

(一)○廣記諸本皆有「此」、今依補。(二)○鈔宋本「便」作「使」。

2 徐邈、晉孝武帝時為中書侍郎、在省直、左右人恆覺邈獨在帳內、以與人共語。有舊門生^(一)、一夕伺之、無所見。天時微有光、始開窗戶^(二)、瞥觀一物^(三)、從屏風裏飛出、直入前鐵鑊中^(四)。仍逐視之、無餘物、唯見鑊中聚菖蒲根、下有小青蚱蜢。雖疑此為魅、而古來未聞、但摘除其兩翼。至夜、遂入邈夢云、『為君門生所困、往來道絕。相去雖近、有若山河。』邈得夢、甚悽慘。門生知其意、乃微發其端。邈初時疑不即道。語之曰、『我始來直者^(五)、便見一青衣女子從前度、猶作兩髻、姿色甚美。聊試挑謔、即來就己。且愛之、仍溺情。亦不知其從何而至此。』兼告夢。門生因具以狀白^(六)、亦不復追殺蚱蜢。

校記

廣記四百七十三。○淵鑑四四六螽斯。

(一)○鈔宋本「舊」作「老舊」二字。(二)○汪氏校語云、「開字原闕、據明鈔本補。」黃刻本亦有之、因鈎沈引有。鈎沈稿本奪「戶」字、今依補。(三)○鈎沈「觀」作「覩」、今依諸本改。(四)○鈎沈奪「前」、稿本不誤而有之、今依補。(五)○汪氏校語云、「明鈔本直者作此省。」(六)○鈔宋本「具」作「是」。

3 晉義熙中、零陵施子然、雖出自單門、而神情辨悟。家大作田。至穫時^(一)、作蝸牛廬於田側守視、恆宿在中。其夜、獨自未眠之頃^(二)、見一丈夫來、長短是中形人^(三)、著黃練單衣袷、直造席、捧手與子然語。子然問其姓名。即荅云『僕姓廬、名鉤。家在粽溪邊^(四)、臨水。』復經半旬中、其作人掘田塍西溝邊蟻垤、忽見大坎、滿中螻蛄、將近斗許、而有數頭極壯、一箇彌大。子然至是始悟曰^(五)、『近日客廬鉤、反音則螻蛄也。家在粽溪、即西坎也。悉灌以沸湯、於是遂絕^(六)。』

校記 廣記四百七十三。○御覽九四八引、文略同、但佚出處。淵鑑四四七螻蛄。本事亦見幽明錄(鈎沈257)

(一)○「穫時」二字、鈎沈稿本作空闕二格、鈎沈排印本奪之、今據談刻本補。(二)○鈔宋本「自」作「處」。
(三)○御覽引以上作「子然曰、有一人、身」、「子然」、謫。(四)○御覽引「粽」作「壕」、下同。(五)○「至」諸本作「自」、今據鈔宋本改。(六)○御覽引「於」作「自」。

4 劉穆之夢有人稱劉鎮軍相迎^(一)。旦占之、曰、『吾死矣。今豈有劉鎮軍邪。』後宋武帝遣人迎^(二)、共定大業。武帝時為鎮軍將軍。

校記 廣記二百七十六。

(一)○「劉穆之夢」、廣記引承異苑前條之文而作「穆之又夢」、鈎沈因而改。(二)○今依諸本補「帝」字。

5 吳興俞亮、以永明八年補護軍府史^(一)。於常眠處^(二)、聞有羊聲^(三)。疑為神怪。竊於戶窺之^(四)、見其牀下有一羊^(五)、高可二尺^(六)、毛色若丹^(七)、光耀滿室。

校記 初學記二十九。*六帖九十六。御覽九百二。○*白帖二九。天中記五四。淵鑑四三六羊。

(一)○「史」鈎沈作「使」、今依諸本改。白帖·六帖引無「以」「補」。(二)○白帖·六帖引無「於」、「眠」

又誤作「映」。(三)○白帖·六帖引無「聞」。(四)○白帖·六帖引無此句五字。(五)○初學記引無「一」、白帖·六帖引「牀」誤作「林」、無「有一」、又「羊」下有「也」字。(六)○初學記·御覽引皆作「可高」、鈎沈或以意改歟。白帖·六帖引無「可」字、而「尺」下有「許」字。(七)○白帖·六帖引無「色」字。

6 秣陵令中山劉沼、梁天監三年為建康監、與門生作食次^(一)、竈裏得一龜、長尺許、在灰中了不以燔炙為弊。劉為設齋會、放之于婁湖^(二)。劉俄遷秣陵令。

校記 廣記一百十八。

(一)○鈎沈「次」作「於」、今依諸本改。(二)○鈎沈排印本「湖」誤作「胡」、稿本不誤、今依正。

7 零陵太守廣陵劉興道、罷郡住齋中。按牀在西壁下、忽見東壁邊有一眼、斯須之間便有四、漸漸見多、遂至滿室。久乃消散、不知所在。又見牀前有頭髮、從土中稍稍繁多。見一頭而出、乃是方相頭、奄忽自滅。劉憂怖、沈疾不起。

校記 廣記一百四十一。○玉芝堂談薈一一。

8 晉陵無錫尉嚴無欲、貯穀、後開乃成虵、以艸焚之^(一)、便貧^(二)。

校記 御覽一百九十。

(一)○「以」字、今依御覽四部叢刊本引補、鮑氏刊本引無。(二)○「便」又依四部叢刊本引改、鮑氏刊本引作「使」、鈎沈依鮑氏刊本。

9 竟陵王誕在廣陵^(一)。左右侍直^(二)、眠中夢人告之曰^(三)、「官須髮為稍耗^(四)」。覺則已失髮矣^(五)。如此者數十

人^(六)。

校記 御覽三百四十一。廣記二百七十六。○天中記二二。事又見宋書七九竟陵王誕傳。

(一) 廣記引作「劉誕」。(二) 廣記引無「侍」。(三) 廣記引無「中」。(四) 御覽鮑氏刊本「稍」作「稍」、鈎沈依廣記引。「眊」鈎沈依廣記引作「旄」、今依御覽四部叢刊本引改。(五) 廣記引「覺則」作「則覺」。(七) 廣記引無「者」。

10 孫氏妻黃氏^(一)、忽見一童子當前^(二)、以釵擲之、躍入雲去^(三)。夜聞戶外歌曰、「昔填夏家塚^(四)、輦泥頭欲禿。今寄黃氏居^(五)、非意傷我目。」尋覓巢中、得一白鷺、其左目傷^(六)。

校記 事類賦注十九。御覽九百二十二。○山堂肆考二一五。淵鑑四二四燕。花木鳥獸集類中。

(一) 事類賦注劍光閣本作「黃氏」、中華書局本引無「氏」、御覽四部叢刊本引無「黃氏」、鮑氏刊本引有二字。(二) 事類賦注中華書局本·御覽引無「忽」、「當」事類賦注劍光閣本引作「在」、今依事類賦注中華書局本·御覽引改。(三) 廣記引作「中」。(四) 御覽引作「首」。○鮑氏刊本引「昔」作「首」、四部叢刊本引作「昔」。(五) 廣記引作「寄」御覽鮑氏刊本引作「居」、鈎沈依此、今依四部叢刊本·事類賦注引改。(六) 廣記引「其」依事類賦注劍光閣本引。山堂肆考引亦同。他書引皆無。山堂肆考引「左目」左「目果」。

11 山陰朱法公者、嘗出行、憩於臺城東橘樹下。忽有女子、年可十六七。形甚端麗。薄晚、遣婢與法公相聞、方夕欲詣宿。至人定後、乃來。自稱姓檀、住在城側。因共眠寢。至曉而云^(一)、「明日復來。」如此數夜。每曉去、婢輒來迎。復有男子可六七歲、端麗可愛。女云是其弟。後曉去、女衣裙開、見龜尾及龜腳。法公方悟是魅、欲執之。向夕復來、即然火照覓、尋失所在。

校記

廣記四百六十九。

(一) ○「云」黃刻本作「去」、今依談刻本・汪氏校本引改。

錄異傳

凡二十七條

1 周時尹氏、貴盛、五世不別^(一)、會食數千人^(二)。遭飢荒、羅鼎作糜^(三)、啜之^(四)、聲聞數十里^(五)。三人入鑊取焦糜、深故不見也^(六)。

校記 書鈔一百四十四^(二引)。初學記二十六。御覽八百五十九。困學紀聞二十。○廣卓異記一八。事文類聚一六。天中記一七。又四六。淵鑑二四四宗族。又三八九粥。繹史三〇。事又見雜鬼神志怪^(鈎沈1)。事文類聚引云、「尹吉甫仕至上卿、其家大富、食口數百人。時歲大饑、曾鼎鑊作粥、啜聲聞數里。食訖、失三十人、乃在鑊中齧取焦粥而已。」

(一)○初學記·廣卓異記·紀聞引「世」均作「葉」。(二)○廣卓異記引「數」上有「家」字。(三)已上困學紀聞二十。○書鈔引無「數千人遭飢荒羅鼎」八字。初學記·紀聞引「糜」作「粥」。(四)○書鈔·初學記「啜」作「聽」、廣卓異記引作「吮」。(五)已上亦見書鈔一百四十四·初學記二十六·御覽八百五十九。○亦見廣卓異記一八。廣卓異記引無「聲」。(六)^(已上十二字見)書鈔一百四十四^(別一引)。

2 魏安釐王曰、「寡人得如鵠之飛、視天下如莽也。」吳客有隱游者、聞之、作木鵠而獻王^(一)。王曰、「此有形無用者也。夫作無用之器、世之姦民也。」召游者加刑焉。游者曰、「臣聞大王之好飛也、故敢獻鵠、安知王之不知此也^(二)。可謂知有用之用、未寤無用之用矣。」乃取而騎之、遂翻然而飛去、莫知所之。

校記 御覽九百十六。

(一)○「王」鈎沈據鮑氏刊本作「之」、今依四部叢刊本改。(二)○「不知」二字、鈎沈據鮑氏刊本作「惡」、

今依四部叢刊本改。

3 秦文公時、雍州南山有大梓樹^(一)。文公伐之、輒有大風雨、樹生合不斷。時有一人病、夜往山中、聞有鬼語樹神曰^(二)、『秦若使人被髮、以朱絲繞樹伐汝^(三)、汝得不困耶^(四)。』樹神無言。明日、病人語聞^(五)。公如其言伐樹^(六)、樹斷^(七)、其中有一青牛^(八)、出走入澧水中^(九)。其後牛復出澧水中^(一〇)、使騎擊之、不勝。有騎墮地復上^(一一)、髮解、牛畏之^(一二)、入水不出^(一三)。故置髦頭騎因此也^(一四)。

校記 史記秦本紀正義。＊初學記八。大平寰宇記三十。御覽四十四。○＊古文苑七庾信枯樹賦注。天中記五五。＊淵鑑三三五關內道。甘肅通志五〇。尚史三二。七國攷九。本事見列異傳(鈎沈4)、搜神記一八一415、玄中記(鈎沈45)、摯虞決疑要注(御覽二一九引)。參看海錄碎事一一上髦頭。

(一)初學記引有「州」字、「大」作「文」。史記正義引無「州」字。○古文苑注有「州」字、又作「文」。(二)御覽引無「曰」。(三)御覽引「樹伐」作「伐樹」、而無「汝」。(四)御覽引「困耶」作「憂否」。(五)御覽引無以上二句十字。(六)御覽引「公」作「文公」。(七)史記正義引作「斷中」。○「中」字當屬下文。(八)今依寰宇記補「其中」二字、史記·御覽引又有「中」字。(九)史記正義引「澧」作「豐」。(一〇)史記正義引「牛復出」作「牛出豐水中」。○今依史記正義·寰宇記引補「澧水中」三字。御覽引無「其後牛」三字。(一一)御覽引無「有」字。(一二)御覽引「牛」下有「乃」字。(一三)史記正義引無「水」字。○寰宇記引亦無、御覽引有。(一四)史記正義引無「騎」字。史記正義引「因此也」此三字作「漢魏晉因之。武都郡立怒特祠、是大梓牛神也」十八字。○御覽引有「騎」字。寰宇記引無「騎」字。御覽引無「因此」二字。

4 吳王夫差小女曰玉、年十八。童子韓重、年十九。玉悅之、私交心問、許為之妻。重學於齊魯之間^(一)、屬其父母

使求婚。王怒不與。玉結氣死。葬閭門外。三年重歸^(三)。問其父母、父母曰、『王大怒、女結氣死^(三)、已葬矣。』重哭泣哀慟、具牲幣往弔。玉從墓側形見^(四)、謂重曰、『昔爾行之後、令二親從王相求、謂必克從大願^(五)。不圖別後遭命奈何。』玉左顧宛頸而歌曰^(六)、『南山有鳥^(七)、北山張羅。志欲從君^(八)、讒言孔多。悲結生疾^(九)、沒命黃墟。命之不造、冤如之何。羽族之長、名為鳳凰、一日失雄、三年感傷。雖有衆鳥、不為匹雙。故見鄙姿、逢君輝光。身遠心近、何嘗暫忘^(一〇)。』歌畢、歔歔涕流、不能自勝。要重還家。重曰、『死生異道、懼有尤愆^(一一)、不敢承命。』玉曰、『死生異路、吾亦知之、然一別永無後期。子將畏我為鬼而禍子乎。欲誠所奉^(一二)、寧不相信。』重感其言、送之還家。玉與之飲醺三日三夜^(一三)、盡夫婦之禮^(一四)。臨出、取徑寸明珠以送重^(一五)、曰、『既毀其名、又絕其願、復何言哉。自愛^(一六)。』若至吾家、致敬大王。』重既出、遂詣王自說其事。王大怒曰、『吾女既死、而重造訛言、以玷穢亡靈^(一七)。此不過發冢取物、託以鬼神。』趣收重^(一八)。重脫走至玉墓所、訴玉。玉曰、『無憂跪今歸白王。』玉粧梳、忽見、王驚愕悲喜、問曰、『爾何緣生。』玉跪而言曰^(一九)、『昔諸生韓重來求玉^(二〇)、大王不許。今名毀義絕^(二一)、自致身亡^(二二)。重從遠還、聞玉已死、故賻牲幣詣冢弔唁、感其篤終、輒與相見、因以珠遺之、不為發冢、願勿推治。』夫人聞之、出而抱之、正如烟然。

校記 廣記三百十六。○吳郡志四七。*杜詩九家注三十—21。*杜詩趙次公先後解輯校「觀公孫大娘弟子舞劍器行」。*至元嘉禾志一四。事見搜神記一六—394

(一)○吳郡志引無「之間」。(二)○汪氏校語云、「歸原作詰、據明鈔本改。」黃刻本亦作「詰」。吳郡志引作「歸」而無「詰」。鈎沈補「歸」而留「詰」、今依刪「詰」。(三)○吳郡志引「女」作「玉」。(四)○吳郡志引「從」作「於」。(五)○吳郡志引無「克」大」。(六)○吳郡志引「宛」作「延」。(七)○吳郡志引「鳥」作「鳥」。(八)○吳郡志引「欲」作「願」。(九)○吳郡志引「結」作「怨」。(一〇)○吳郡志引「嘗」作「當」。(一一)○吳郡志引無此句四字。(一二)○吳郡志引「欲」作「款」。(一三)○吳郡志引無「玉

與之飲醺」五字而作「留」一字。（一四）○吳郡志引無此句五字。（一五）○吳郡志引「以送」作「遺」。（一六）○汪氏校語云、「願郎原作時節、據明鈔本改。」談刻本・黃刻本、又吳郡志引均作「時節」、今從汪校。（一七）○吳郡志引無「以」。（一八）○吳郡志引「趣」作「趨」。（一九）○汪氏校語云、「跪原作跪、據明鈔本改。」鈔宋本作「跪」、吳郡志引亦同、今從。（二〇）○吳郡志引無「昔諸生」三字。（二一）○吳郡志引「今」作「令」。（二二）○鈔宋本「亡」作「死」。

5 伍子胥恨吳王、驅水為濤、今會稽錢塘丹徒、皆立子胥祠、欲止其濤也。

校記 事類賦注六。○事類賦注劍光閣本引作出「錄異記」、但中華書局本引作出「論衡」。又淵鑑類函三七潮濤引「錄異記」云、

夫差殺伍子胥、煮之於鑊、乃以鴟彝梟投之於江。子胥悲恨、驅水為濤、以溺殺人。今時會稽丹徒大江、錢塘浙江、皆立子胥之廟、蓋欲慰其恨心、止其猛濤也。時有見子胥乘素車白馬、在潮頭之中、因立廟以祠焉。廬州城內淝河岸上、亦有子胥廟、每朝暮潮時、淝水之水、亦鼓怒而起、至廟前高一尺廣十餘丈、食頃而定。俗云、與錢塘潮水相應焉。

按前半見論衡書虛篇、文略同、亦見今本杜光庭錄異記卷七異水。疑此條屬於杜撰錄異記歟、今暫存於此。

6 漢武帝時、蒼梧賈雍為豫章太守、有神術。出界討賊、為賊所殺、失頭。雍上馬還營。營中咸走來視雍。雍胸中語曰（一）、『戰不利、為賊所傷。諸君視有頭為佳（二）、無頭佳乎（三）。』吏泣曰（四）、『有頭佳。』雍曰、『不然、無頭亦佳（五）。』言畢遂死。

校記 御覽三百六十四・*又三百七十一。○*駢志九。淵鑑二五九頭。又見廣記三三一引佚書名。本事見搜神記

一一—267、幽明錄（鈎沈267）。

（一）○御覽三七一引無「中」。 （二）○御覽三七一引無「戰不利為賊所傷諸君視」十字。 （三）○御覽三七一引無此句四字。 （四）○御覽三七一引「泣」上有「涕」字。 （五）○御覽三七一引無「不然」「頭」三字。

7 漢時、大雪積地丈餘^(一)。洛陽令身出按行^(二)、見人家皆除雪出^(三)、有乞食者^(四)。至袁安門、無有行路^(五)。謂安已死。令人除雪入戶^(六)、見安僵臥。問何以不出^(七)。安曰、『大雪人皆餓、不宜干人^(八)。』令以安為賢^(九)、舉孝廉^(一〇)。

校記 書鈔七十九。類聚二。初學記二。御覽十二。又四百二十六。*事類賦注三。○*野客叢書一二。淵鑑九雪。一一五孝廉。

（一）○初學記引無「積」。事類賦注中華書局本引作「大雪丈餘」、劍光閣本引無以上八字。 （二）○事類賦注劍光閣本引「身」作「嘗」。 （三）○類聚·御覽一二引「人」作「民」。 （四）二句初學記·御覽（一二）引有。 ○類聚引無「有乞食者」。事類賦注引亦有此二句。 （五）○類聚引無「行」、御覽四二六引無「有」、事類賦注劍光閣本引無「有行」二字。 （六）○御覽四二六引無「令人」「戶」三字。 （七）○御覽一二·事類賦注引無「以」。 （八）○事類賦注引至此為止。 （九）○初學記引無「安為」二字。 （一〇）○類聚·御覽引「舉」下均有「為」。

8 袁安葬其母^(一)、逢二書生^(二)、語其葬地、遂至四世五公^(三)。其後公路年十八^(四)、驕豪^(五)、故常飯乳食蜜飯^(六)。諸女以絳為地道、游行其上^(七)、葬地所致也。

校記 *書鈔九十二·*又九十四。御覽五百五十六·*八百五十。○*淵鑑一八一葬。*格致鏡原三二。參看幽明錄（鈎沈40）、殷芸小說（鈎沈54）。

(一)○御覽鮑氏刊本引脫「葬」字。(二)○御覽引「二」作「三」。(三)○書鈔兩引均至此為止。書鈔九四引「五」作「三」、九二引句末有「也」。(四)○御覽八五○引「其後」作「袁」。(五)○御覽八五○引無此二字。(六)「飯乳」二字依御覽八百五十引補。○御覽八五○引自「公路年十八」起至此為止、而無「故」。(七)○御覽鮑氏刊本引「上」作「土」。(八)○鈎沈稿本已奪「此」字、御覽兩本均有「此」字、今依補。

9 劉照、建安中為河間太守。婦亡、埋棺於府園中。遭黃巾賊、照委郡走。後太守至、夜夢見一婦人^(二)、往就之。後又遣一雙鎖^(三)、太守不能名。婦曰、「此菱蕤鎖也。以金鏤相連、屈申在人、實珍物。吾方當去、故以相別。慎無告人。」後二十日、照遣兒迎喪、守乃悟云云。兒見鎖、感慟不能自勝^(三)。

校記 廣記三百十六。○正楊四。*唐音癸籤一九。事見祖台之志怪(鈎沈2)。

(一)○廣記鈔宋本「一婦人」作「一好婦人」。(二)○鈔宋本「鎖」作「鑽」、下同。(三)○正楊引「感慟」作「悲痛」。

10 吳左中郎廣陵相胡熙、字元光^(二)。女名中、許嫁當出、而歛有身。女亦不自覺。熙父信嚴而有法、乃遣熙妻丁氏殺之。歛有鬼語腹中、音聲嘖嘖曰、「何故殺我母。我某月某日當出。」左右驚怪、以白信。信自往聽、乃捨之。及產兒、遺地則不見形、止聞兒聲在于左右。及長大、言語亦如人。熙妻別為施帳、時自言當見形、使姥見。熙妻視之、在丹帷裏^(三)、前後釘金釵、好手臂、善彈琴、時問姥及母所嗜、欲為得酒脯棗之屬以還。母坐作衣、兒來抱膝緣背、數戲中不耐之、意竊怒曰、「人家豈與鬼子相隨。」即於傍怒曰、「就母戲耳、乃罵作鬼子。今當從母指中、入于母腹、使母知之。」中指即直而痛、漸漸上入臂髀、若有貫刺之者、須臾欲死。熙妻乃設饌祝請之、有頃而止。

校記 廣記三百十七。

(一)○鈎沈「光」誤作「先」、今依廣記諸本正。(二)○「裏」廣記諸本均作「裏」、鈎沈或以意改歟、今從。

11 吳赤烏三年、句章民揚度至餘姚^(一)。夜行、有一年少持琵琶求寄載^(二)。度受之、鼓琵琶作數十曲。曲畢、乃吐舌擘目、以怖度而去。復行二十里許、又見一老父寄載、自云姓王名戒、因復載之。謂曰、『鬼工鼓琵琶、甚哀。』戒曰、『我亦能鼓。』即是向鬼、復擘眼吐舌、度怖幾死。

校記 御覽五百八十三。○天中記四三。淵鑑一八九琵琶。事見搜神記一六—389。文同。

(一)○御覽兩本引「民」均作「氏」、鈎沈以意改。(二)○鈎沈「年少」作「少年」、御覽引均作「年少」、今依改。

12 吳時嘉興倪彥思^(一)、忽有鬼魅在家^(二)、能為人語^(三)、飲食如人、惟不見形^(四)。思乃延道士逐之。酒肴既設、道士便擊鼓^(五)、召請諸神。魅乃取伏虎於神坐上^(六)、吹作角聲、以亂鼓音^(七)。有頃^(八)、道士忽覺背中冷、驚起解衣、乃伏虎也。

校記 書鈔一百三十五。御覽七百十二。○天中記四九。淵鑑三八○伏虎。事前半見搜神記一七一405。

(一)○書鈔引「彥」作「老」。(二)○御覽四部叢刊本引「在」作「其」、鮑氏刊本引作「入其」二字。(三)

○御覽引「為」作「與」。(四)二句御覽引有。(五)二句御覽引有。(六)○御覽引無「上」。(七)○御覽引無「鼓」。(八)○御覽引無「有」。

13 吳人費季、客賈去家、與諸賈人語曰、『吾臨行就婦求金釵、婦與之、吾乃置戶楣上、忘向婦說^(一)。』妻夢見季死、前金釵在戶上。妻取得發哀。一年、季卻還。

校記 御覽七百十八。○天中記四九。淵鑑三八一叙。事見搜神記一七一402。

(一)○御覽四部叢刊本引「向」誤作「白」。

14 隆安中、吳縣張君林、忽有鬼來助其驅使。林家甌破無可用、鬼乃撞盆底穿以充甌^(二)。

校記 御覽七百五十七。○事見甄異傳(鈎沈7)、文更詳。

(一)○御覽鮑氏刊本引「底」作「抵」。鈎沈「充」作「當」、未知所據、今依改。

15 會稽山陰賀瑀、字彥琚、曾得疾^(一)、不知人^(二)、惟心下尚溫。居三日乃蘇。云吏將上天見官府。府君居處甚嚴。使人將瑀入曲房^(三)。房中有層架、其上有印、其中有劍^(四)、使瑀取之^(五)、惟意所好^(六)。瑀短不及上層^(七)、取劍以出^(八)。問之、『子何得也。』瑀曰、『得劍^(九)。』吏曰、『恨不得印、可以驅策百神。今得劍、惟使社公耳。』疾既愈、每行、即見社公拜謁道下。瑀深惡之。

校記 廣記三百八十三。書鈔八十七。初學記十三。○*歲時廣記一四。淵鑑一六七社稷。本事見搜神記一五一364。

書鈔八七引云、「會稽賀瑀曾得疾、不知人、死三日蘇、云、吏將上天、見官府。吏(初學記作使)人將瑀入曲房、中有層架、其上有印、其中有劍、使瑀唯意取之。瑀短不及上層、取劍以出。門下問、『何得。』曰(初學記作云)、『得劍。』吏(初學記引無吏)曰、『得印可以驅懾百神。今得劍、(初學記引無以上二句十一字)唯使社公耳。』疾愈、果有鬼來白事(初學記引無白事)、自(初學記引無自)稱社公。」

(一)○廣記黃刻本「曾」作「會」。(二)○鈔宋本引此句作「人不知」。(三)○廣記黃刻本引「瑀入」誤作

「病人」。(四)○「其中有劍」廣記引作「及劍」、今依書鈔·初學記引改。(五)○廣記黃刻本引「取」作「收」。

(六)○「惟」廣記引作「及雖」、按鈎沈依書鈔·初學記引改。廣記鈔宋本作「唯」。(七)○廣記引無「瑀」、

按鈎沈依書鈔・初學記引補。(八)○廣記鈔宋本引「以出」作「因上」。(九)○廣記鈔宋本引「曰得」作「自」、疑有脫字。

16 烏程丘友嘗病死^(一)、經一日半、復得生^(二)。云將去上天。入大解舍^(三)、見一人著紫幘而坐^(四)。或告友、爾祖丘孝伯也、今作主錄、告人言「友不應死」^(五)。使人遣之。」友得還去。出門見其祖父母繫一足在門外樹。後一月亡。校記 廣記三百八十三。*書鈔一百二十七。○*淵鑑二七○幘。

(一)書鈔引作「丘支」。○鈎沈奪「嘗病」二字、今依補。書鈔引「烏程」誤作「馬程」、「死、經」作「已死」。(二)○廣記引「半、復得生」作「活」一字、鈎沈依書鈔引改。(三)○書鈔引無此句四字。(四)已上亦見書鈔一百二十七。○廣記引無「而」、此依書鈔引補。廣記黃刻本引「幘」「坐」作「演」「里」、意不通、故鈎沈依書鈔引。(五)○「言」鈎沈依黃刻本引作「旨」、今依汪校本・談刻本改。又「死」作「今」、今依改。(六)○「繫」鈎沈依黃刻本作「紫」、今依汪校本・談刻本改。

17 昔廬陵邑子歐明者^(一)、從賈客^(二)。道經彭澤湖、每以船中所有多少投湖中^(三)、云以為禮。積數年後復過^(四)、忽見湖中有大道^(五)、道上多風塵^(六)、有數吏單衣乘馬車來候明^(七)、云是青洪君使要^(八)。明知是神、然不敢不往^(九)。須臾遙見有府舍門下吏卒^(一〇)。明甚怖、問吏恐不得還^(一一)。吏曰、無可怖^(一二)。青洪君以君前後有禮、故要君^(一三)。必有重送^(一四)、君皆勿收^(一五)、獨求如願爾^(一六)。去、果以繒帛送、明辭之^(一七)。乃求如願^(一八)。神大怪明知之、意甚惜^(一九)、不得已^(二〇)、呼如願使隨明去^(二一)。如願者、青洪君婢也^(二二)、常使之取物^(二三)。明將如願歸^(二四)、所願輒得^(二五)、數年大富^(二六)。意漸驕盈、不復愛如願。歲朝雞一鳴^(二七)、呼如願。如願不起^(二八)。明大怒、欲捶之。如願乃走。明逐之於冀上^(二九)。冀上有昨日故歲掃除聚薪^(三〇)、如願乃於此得去^(三一)。明不知^(三二)、謂逃在積薪冀中、乃以杖捶使出

(三三)。久無出者(三四)、乃知不能(三五)。因曰、『汝但使我富、不復捶汝。』今世人歲朝雞鳴時、轉往捶糞、云使人富也(三六)。

校記 御覽四百七十二・又*五百・*二十九・*初學記十八・*類林雜說八。(稿本欄外注)*海錄碎事二略引「荊楚歲時記」云、有商人過清明湖、見清明君、(問所須。有人教云、但乞如願。君許之、果得一婢。自是商人所有求、皆如願。曉起而撻之、走入糞壤中、忽不見。)末作「今人正旦以細繩繫偶人、投于糞壤中、云令如願。」○荊楚歲時記。廣記二九二談刻本作出「博異錄」、鈔宋本作出「傳異錄」、明鈔本作「錄異傳」、今從明鈔。歲時廣記七。*事物紀原八。*苕溪漁隱叢話後集三一。天中記四。淵鑑二五八奴婢。

荊楚歲時記引錄異記云、有商人區明者、過彭澤湖、有車馬出、自稱青洪君、要明過、厚禮之、問何所須。有人教明、但乞如願。及問以此言答、青洪君甚惜如願、不得已許之、乃其婢也。既而送出、自余商人或有所求、如願並為即得。後至正旦、如願起晚、乃打如願、如願走入糞中、商人以杖打糞掃、喚如願、竟不還也。此如願遺事。今北人正月十五日夜、立於糞掃邊、令人執杖打糞堆上、云以治腰痛、意者亦為如願故事耳。

按錄異傳文至喚如願竟不還也為止。以下是荊楚歲時記文、而御覽二九引全文。本事見搜神記四—83

(一)御覽二十九引「歐明」作「區明」。○御覽四七二引作「甌明」。初學記・類林引均無「昔」「邑子」。(二)類林作「從賈客」。○御覽四七二四部叢刊本引作「從客賈」、鮑氏刊本引作「從客賈」。御覽五〇〇引「者從賈客道」作「商行」。鈎沈作「從客過」、今依初學記・類林引改。(三)「輒以船中所有多少」已上八字類林作「每以珍寶」。○御覽五〇〇引作「每以物」。鈎沈依御覽四七二引「每」作「輒」、今依初學記引改。廣記引作「每過輒」。(四)「稿本欄外注」、「後」類林作「復」。○但類林引作「後復」、與初學記引同、今依改。(五)「忽」字、今依初學記・類林引補。廣記引無自「云以為禮」以至「湖中」十三字、而「有」作「見」。(六)○初學記・類林引均無「道」、廣記引作「之」。廣記引又無「多風塵」。御覽五〇〇引無自「云以為禮」以至此凡二十一字。(七)○

初學記・御覽四七二・類林引均無「單衣」。御覽五〇〇引作「有吏着單衣」、廣記作「有數吏皆著黑衣」。「明」字、今依初學記・類林引補。御覽五〇〇・廣記引無「來候」。(八)○廣記鈔宋本引「要」作「邀」、下同。御覽五〇〇引無「是」。御覽五〇〇・廣記引句末有「明過」二字。(九)○初學記・類林引無以上二句九字。(一〇)○稿本欄外注「上十二字(須臾至明)據類林引補。○廣記引此句上有「吏車載明」一句。初學記引「遙」作「達」。廣記引無「遙」。御覽五〇〇引作「至一府舍」。(一一)○以上九字御覽五〇〇・廣記引無、初學記・類林引只作「明甚怖」。(一二)○初學記引作「無所怖」。御覽五〇〇・廣記引無此句。類林引無「可」。(一三)○御覽四七二四部叢刊本引「青」誤作「責」。初學記・廣記・類林引「以」作「感」、而廣記引無「前後」二字。御覽五〇〇引自「無可怖」至此凡十五字、作「青洪君感君以禮」。(一四)○御覽四七二引無「有」、廣記引「必有」作「以」。廣記鈔宋本「重」作「物」。初學記引「送」作「遺」。(一五)○御覽四七二引「君」下有「者」、以屬上句。又五〇〇引無「君」。初學記・御覽五〇〇・廣記引皆「收」作「取」。御覽五〇〇引「獨」作「但」、而無「爾」。(一六)○廣記引句末有「之」。(一七)○廣記引「辭之」作「不受」。初學記・御覽五〇〇引無以上九字。(一八)○稿本欄外注「類林作「必有厚遺、然勿取、但求如願耳。明既見青洪君、君問所須。明日、欲求如願。」○御覽五〇〇引此句作「明從之」。廣記引「乃」作「但」。(一九)○御覽五〇〇・類林引無以上九字。廣記引句末有「之」。(二〇)○御覽五〇〇引此句上有「青洪君」。類林引「不得已」作「於是乎」。(二一)○初學記引無自「神大怪」至「如願」凡十五字、而「隨」下有「明」字。御覽五〇〇引作「送明去」。類林引「隨」作「同」而下有「明」字。今依補「明」字。(二二)○御覽五〇〇引「青洪君」作「神」廣記引無「君」也。類林引「婢」上有「侍」字。(二三)○廣記引無「之」。類林引無此句五字。(二四)○御覽五〇〇引無以上二句十字。初學記引無「如願」。類林引無「將如願」。(二五)○初學記・御覽五〇〇・類林引均「欲」作「願」、今依改。廣記引「欲」作「須」。初學記・御覽五〇〇・類林引均無「之」、今依刪之。(二六)已上略見初學記十八引。(稿本欄外注「類林雜說八。

○御覽五〇〇引至此為止。御覽四七二引「大富」作「大成富人」、廣記引作「成富人」。(二七)○廣記引句頭有「正月」二字、「一」上有「初」。(二八)○廣記引「起」上有「即」。(二九)○廣記引無「明逐之」。(三〇)○廣記引無「冀上」、而句下有「足以偃人」一句四字。(三一)○廣記引「此」下有「逃」。(三二)○廣記引無「不知」。(三三)○廣記引「捶」下有「冀」。(三四)○廣記引「久」作「又」。(三五)○廣記引「能」下有「得」。(三六)○廣記引無「也」。

18 文翁者、廬江人。為兒童時、乃有神異。及長、當起歷下陂以作田、文翁盡日斫伐柴薪^(一)、以為陂塘。其夜、忽有數百頭野豬、以鼻載土著柴中^(二)、比曉成塘。

校記 御覽七十四。○本事又見幽明錄(鈎沈34)、殷芸小說(鈎沈47)。

(一)○御覽四部叢刊本引「盡」作「晝」、鈎沈依鮑氏刊本。(二)○御覽兩本引「鼻」上有「一」、或鈎沈以意刪之歟。

19 有王更生者、為漢中太守。郡界有袁氏廟、靈響。更生過廟祭、去而遺其刀。遣小史李高還取刀。高見刀在廟牀上。高進取去、仰見座上有一君、着大冠袍衣、頭鬢半白、謂高曰、『可取還^(一)。勿道見我^(二)、後吾當祐汝。』高還、如言不道。後高仕為郡守、當復遷為郡。高時年已六十餘、祖高者百餘人。高乃道、『昔為更生小吏、見遣至廟所、取遺刀^(三)、見廟神、使吾莫道。至今不敢道、然心常以欺君為慙。』言畢、此刀立刺高心下、須臾死。

校記 御覽三百四十五。○事見廣記二九二引廣古今五行記。

(一)○鈎沈「還」作「去」、但御覽兩本均作「還」、今依改。(二)○鈎沈依鮑氏刊本作「如言不道」、今依四部叢刊本改。(三)○鈎沈作「取所遺刀」、御覽兩本均作「所取遺刀」、今依改。

20 隗炤者、汝陰鴻壽亭民^(一)、善於易。臨終^(二)、書板授其妻曰、「吾亡後^(三)、當大荒窮、雖爾、而慎莫賣宅^(四)。到後五年春^(五)、當有詔使來頓此亭^(六)、姓龔。此人負吾金、卿以此板往責之、勿違言也^(七)。」言訖而卒^(八)。亡後果大困^(九)、欲賣宅者數矣^(一〇)、憶夫言輒止。到期日^(一一)、有龔使者果止亭中^(一二)、妻遂齎板往責使者^(一三)。使者執板、惘然不知所以^(一四)、乃言曰^(一五)、「我平生不踐此處^(一六)、何緣爾耶^(一七)。」妻曰、「夫臨亡手書板、見命如此、不敢妄也^(一八)。」使者沈吟良久而寤^(一九)、「賢夫何能^(二〇)。」妻曰、「亡夫善於易^(二一)、而未曾為人卜也^(二二)。」使者曰、「噫、可知矣^(二三)。」乃顧命侍者^(二四)、取著而筮之^(二五)、卦成、抵掌歎曰^(二六)、「妙哉。隗炤生含明隱迹^(二七)、而莫之聞^(二八)、可謂鏡窮達而洞吉凶者也。」於是告炤妻曰^(二九)、「吾不相負金也^(三〇)。賢夫自有金耳^(三一)。乃知亡後當匱窮^(三二)、故藏金以待泰平。所以不告兒婦者^(三三)、恐金盡而困無已也。知吾善易^(三四)、故書板以寄意耳^(三五)。金有五百斤、盛以青甌^(三六)、覆以銅拌、埋在堂屋東頭、去壁一丈、入地九尺^(三七)。」妻還掘之、皆如卜焉^(三八)。

校記 類聚八十三。御覽七百二十八・又八百十一。○天中記五〇。淵鑑三六一金。本事見搜神記三一 66、晉書九五隗炤傳、廣記二一六作出「國史補遺」、明鈔本作出「繫蒙」。

(一) 御覽二引作「陰」。○鈎沈排印本脫「汝南」二字、類聚・御覽七二八引均作「汝陰」、御覽八一引作「汝南陰」、鈎沈稿本依御覽八一引作「汝南」。按御覽八一引「南」或衍、今依類聚・御覽七二八引改作「汝陰」。御覽七二八引「民」作「人也」。(二) 御覽七二八引「終」作「死」。(三) 御覽八一引「亡後」作「死」。(四) 御覽兩引無「而」。類聚・御覽七二八引句末有「也」。(五) 御覽七二八引「到後」作「却後」、又八一引作「後到」。(六) 御覽八一引「來頓」作「頓來」。(七) 御覽八一引無此句、七二八又引作「勿違吾言」。(八) 四字御覽(七二八)引有。○御覽八一引無。(九) 〇「亡」類聚・御覽八一引有、今依補。御覽七二八引句末有「乏」字。(一〇) 御覽七二八引無「者數矣」三字。(一一) 〇御覽七二八引無「到」。

(一二)○御覽引「果止亭中」作「至亭」。(一三)○御覽七二八引無「責使者」三字。(一四)○類聚·御覽八一引「惘然不知所以」作「不知所言」，鈎沈從御覽七二八引。(一五)○類聚·御覽八八一引均無「乃言」二字。(一六)○御覽七二八引無「平」、八一引「平生」作「生平」。類聚·御覽七二八引無「處」，鈎沈從御覽八一引。(一七)○御覽八一引「耶」作「也」。(一八)已上四句御覽(七二八)引有。(一九)○御覽八一引無「使者」、「而寤」。後者類聚引亦無。(二〇)○御覽七二八引「能」作「善」。(二一)○類聚·御覽八一引均無「亡」「於」兩字。(二二)○類聚·御覽八一引無「也」。(二三)○類聚引無「噫」。御覽八一引無「噫」「知」兩字。(二四)○御覽七二八引無「顧」「侍者」。(二五)○御覽七二八引無「而」。(二六)○御覽七二八引「抵」作「撫」。御覽七二八引「歎」上有「而」。(二七)○御覽七二八引無「炤」。(二八)○御覽七二八引無此句四字。(二九)○御覽八一引無自「抵掌」至「於是」凡三十字，而「告」上有「謂」字。(三〇)○御覽七二八四部叢刊本引「不」下有「可」字，鮑氏刊本引「不」作「未嘗」。類聚·御覽八一引無「也」。(三一)○類聚·御覽八一引無「耳」。(三二)○御覽七二八引無「乃」「當」，後者八一引亦無。(三三)○御覽兩引「兒婦」作「婦兒」、八一鮑氏刊本引作「妻兒」。(三四)○類聚引無「知」。(三五)○類聚引「耳」作「耶」。(三六)御覽(七二八)引「甌」作「甌」、一(八一)作「鉗」。(三七)○御覽八一四部叢刊本引「地」作「在」。(三八)○御覽七二八引「卜焉」作「其言」。

21 嘉興令吳士季者^(一)、曾患瘡^(二)、乘船經武昌廟過^(三)、遂遣人辭謝、乞斷瘡鬼焉^(四)。既而去廟二十餘里^(五)、寢際^(六)、忽夢塘上有一騎追之、意甚疾速。見士季^(七)、乃下馬與一吏共入船^(八)。後縛一小兒將去^(九)。既而瘡疾遂愈^(一〇)。

校記 廣記三百十八。御覽七百四十三。

(一)○御覽引無「者」。(二)○廣記鈔宋本引「曾」作「嘗」。御覽引止作「瘡」。(三)○御覽引無「乘船」

「過」。(四)○御覽引無「焉」。(五)○御覽引無「既而」「餘」。(六)○御覽引「寢際」作「臥」。(七)御覽引作「夢見塘上有一人、乘馬追呼、行太急、來至季船」。○御覽引無「有」。又四部叢刊本引「來」作「速」。鈎沈依鮑氏刊本引。(八)○「馬」廣記諸本引均無、鈎沈依御覽引補。御覽引無「一」。(九)○御覽引「縛」下有「取」、而無「將」字。(一〇)○御覽引作「夢覺、瘡即斷」。

22 弘老者吳興烏程人^(一)、患瘡經年不差^(二)。弘後獨至田舍^(三)、瘡發^(四)、有數小兒^(五)、或騎公腹^(六)、或扶手腳^(七)。公因陽暝^(八)、忽起捉得一兒^(九)、遂化成黃鵠^(一〇)、餘者皆走^(一一)。公乃縛以還家^(一二)。暮縣窗上^(一三)、云、「明日當殺食之^(一四)。」比曉^(一五)、失鵠處^(一六)。公瘡遂斷^(一七)。于時人有得瘡者^(一八)、但呼『弘公』^(一九)、便瘡斷^(二〇)。

校記 御覽九百二十五・又七百四十三。廣記三百十八。

(一)一「御覽七四三」作「宏公」、廣記引作「邵公」、下同。○御覽鮑氏刊本引作「宏」、清諱、今依四部叢刊本等改。四部叢刊本七四三引作「弘父」。廣記鈔宋本作「弘公」。「者」今依御覽九二五・廣記引補。御覽七四三・廣記引無「吳興烏程人」。(二)「不差」二字廣記引有。(三)○御覽九二五引「田」作「旁」。廣記引無「弘」、而「至田舍」作「在野居」。御覽七四三鮑氏刊本引「獨」誤作「猶」。(四)○廣記引作「瘡作之際」。(五)○廣記引句頭有「見」字。(六)○廣記引無此句四字。(七)○御覽引「手」作「首」、御覽七四三引此句作「持公首腳」、廣記引作「持公手足」、「手」鈎沈從廣記引。(八)○御覽七四三引「公」下有「見」字。御覽九二五引「陽」作「佯」。(九)○廣記引「兒」上有「小」字。(一〇)○御覽七四三引無「遂」字。(一一)○廣記引「餘者」作「其餘」、但鈔宋本作「餘者」。(一二)○廣記引「公乃」作「仍」。(一三)○御覽七四三引作「縣著窗上」、廣記引作「懸於窗」。(一四)○御覽七四三引無「云」「日」二字。廣記引「云明日當」作「將」。(一五)○廣記引作「及曙」。(一六)○御覽七四三引無「處」。廣記引「處」作「所在」。(一七)

○御覽七四三引無「公」。廣記引「公」作「而」、「斷」作「愈」。(一八)○御覽七四三引無「得」。廣記引無「人」、而「得」作「患」。(一九)御覽引一(九二五)作「依」。○御覽九二五引無「公」。(二〇)○御覽七四三引無「瘡」。廣記引此句作「即差」二字。

23 陳世母黃氏^(一)、亡後還家、但聞聲。世忽亡斧。黃言、問家奴福、盜之。

校記 御覽七百六十三。

(一)○四部叢刊本引無「氏」、鈎沈依鮑氏刊本引。

24 謝邈之為吳興郡、帳下給使鄒覽、乘樵船在部伍後^(一)。至平望亭、夜風雨^(二)、前部伍頓住。覽露船無所庇宿、顧見塘下有人家燈火^(三)、便往投之^(四)。至有一茅屋^(五)、中有一男子、年可五十、夜織薄。別床有小兒、年十歲許^(六)。覽求寄宿、此人欣然相許^(七)。小兒啼泣歔歔、此人喻止之不住、啼遂至曉。覽問何意。曰、「是僕兒^(八)。以其母當嫁^(九)、悲戀故啼耳。」將曉覽去、顧視不見向屋^(一〇)、唯有兩家。艸莽湛深^(一一)。行逢一女子乘船^(一二)、調覽曰、「此中非人所行^(一三)、君何故從中出。」覽具以昨夜所見事告之^(一四)。女子曰、「此是我兒。實欲改適、故來辭墓。」因哽咽、至冢號咷、不復嫁。

校記 廣記三百十八。○吳郡志四七。

(一)○吳郡志引無「在部伍後」四字。(二)○鈎沈奪「風」字、今依補。(三)○吳郡志引無「人家」。(四)○吳郡志引無「便」。(五)○廣記鈔宋本引無「一」。吳郡志引「至有一」作「得」。(六)○鈎沈「年」作「空格、今依補、又「許」今依吳郡志引補」。(七)○吳郡志引無「此人」。(八)○廣記鈔宋本引「僕」作「孩」。(九)○「以」字、今依吳郡志引補。(一〇)○吳郡志引「顧」作「回」。(一一)○吳郡志引「艸」作「榛」、

「湛」作「甚」、或當從歟。(一二)○廣記鈔宋本引「逢」作「還」、若是者、當在此斷句。(一三)○吳郡志引「中」作「間」。(一四)○鈎沈奪「昨夜」「事」、今依諸本補。

25 江巖常到吳採藥。及富春縣清泉山^(一)、遙見一美女^(二)、紫衣、獨踞石而歌^(三)、聲有碣石之音。巖往未及數十步^(四)、女輒去^(五)、惟見所踞石耳^(六)。如此數日、巖乃擊破石^(七)。遂從石中得一紫玉^(八)、長一尺^(九)。後不復見女^(一〇)。
校記 御覽八百五。事類賦注九。○淵鑑二六三玉。格致鏡原三一。本事見列異傳(鈎沈44)。

(一)○事類賦注劍光閣本引「及」作「於」、「泉」作「皋」。(二)○事類賦注引無「遙」。(三)○事類賦注引無「獨」。(四)○事類賦注引無「聲」。(五)○鈎沈排印本「未」作「來」、稿本·御覽·事類賦注引均作「未」、今依正。(六)○御覽四部叢刊本引作「輒去、女處」、事類賦注引作「女輒不見」、鈎沈依御覽鮑氏刊本、今從。(七)○事類賦注引無此句六字。(八)○事類賦注引無「擊」。(九)○鈎沈奪「遂」、今依補。事類賦注引無「遂從石中」四字。(一〇)○事類賦注引「長」上有「廣」字。(一一)○事類賦注引無此句五字。

26 邴浪者、安樂人、行到松茲縣九田山^(一)、見一鳥、形如雉而色正赤、集山巖石上、鳴聲如吹笙。浪即射中之、鳥仍入石穴中、浪遂鑿石、得一赤玉、狀如鳥形。

校記 御覽八百五。○淵鑑三六三玉。參看前條及列異傳(鈎沈44)。
(一)○御覽四部叢刊本引「茲」作「滋」。

27 婦人帶宜男艸、生兒。

校記 御覽九百九十六。○引作「錄異記」、未知此條系錄異傳、或系杜光庭錄異記、但不見今本錄異記。

○ 28

校記

潭袁等州有沙蟲、卽毒蟲鱗中蟲、入沙。人中之如針孔、粟粒不得。術士禁之、剗去肉卽死。
琅琊代醉編三九引「錄異記」。不似錄異記之體、暫存之。

雜鬼神志怪

原輯二十條 新附二條 凡二十二條

1 昔周時、尹氏貴盛、數代不別^(一)、食口數千。常遭飢荒、羅鼎鑊作糜。啜糜之聲、聞數十里中。臨食失三十人、入鑊中墾取鑊底糜、鑊深大、故人不見也。

校記 御覽四百七十。○引作出「雜鬼神志」。本事又見錄異傳(鈎沈1)。

(一)○「別」鈎沈依鮑氏刊本引作「絕」、今依四部叢刊本引改。

2 齊人田乃已釀千日酒^(一)、過飲一斗^(二)、醉臥千日、乃醒也^(三)。

校記 書鈔一百四十八。○書鈔引作出「雜鬼神志怪」。草堂詩箋三一引作出「鬼神志怪集」。天中記四四引作出「鬼神志怪錄」。淵鑑三九二酒引作出「志怪」。參看博物志卷一○劉玄石千日酒。

(一)○詩箋引「田乃已釀」作「田氏能為」。天中記引「已」作「之」。淵鑑引作「田無已」。(二)○詩箋・天中記引「過飲」顛倒作「飲過」。(三)○詩箋引無「也」。天中記有後文云、「有故人趙英飲之、喻量而去。其家以為死、埋之。乃之許千日當醒、往至其家、破棺出之、尚有酒氣」。

3 漢武帝鑿昆明池、悉是灰墨。問東方朔。曰、「非臣所知、可訪西域胡人。」

校記 玉燭寶典四引雜鬼怪志。○本事見曹毗志怪(鈎沈1)、幽明錄(鈎沈262)、搜神記一三—328。

4 弘農鄧紹、嘗八月旦入華山采藥。見一童子、執五綵囊、盛柏葉上露^(一)。囊似蓮花、內有青鳥^(二)。露皆如珠、滿

囊。紹問曰、『用此何為。』答曰、『赤松先生取以明目。』言終、便失所在^(三)。

校記 玉燭寶典八。○鈎沈所引止有二句八字、今暫存此。

玉燭寶典八云、「是月〔八月〕白露雖濃、猶未凝房。故風土記云、流於草葉、適適有聲。每旦恆垂、易為採取。仙童所向、便覺如珠。志恠則云、囊似蓮花、內有青鳥。直〔眞？〕人於俗、^久〔亦〕復府〔符？〕同、後來乃以拭面。云、令穴理柔滑。實驗如此。」

（一）已上依續齊記補。○玉燭寶典八、上文引有續齊諧記。 （二）〔已上二句〕玉燭寶典八引志怪。 （三）「露皆如珠」至此、並見續齊諧記。

5 會稽人吳詳、見一女子溪邊洗腳、呼詳共宿。明旦別去、女贈詳以紫巾、詳答以白布手巾。

校記 御覽七百十六引志怪。案書鈔引神怪錄〔鈎沈1〕亦載之。○淵鑑三七九手巾。本事見搜神後記六—59、珠林四六、廣記三一七引法苑珠林、文更詳、首尾相應。

6 建康小史曹著^(一)、為廬山府君所迎。見門有一大甕^(二)、可受數百斛、但見風雲出其中。

校記 御覽七百五十八引志怪。案祖台之志怪〔鈎沈8・9〕亦記曹著見廬山君事。前半亦見搜神記四—79。

（一）○「史」鈎沈引作「吏」、祖台之志怪作「吏」、且御覽兩本均作「史」、今依改。 （二）○御覽四部叢刊本引「大」作「丈」。

7 昔有人與奴^(一)、俱得心腹痛、治不能愈^(二)。奴死、乃剖腹視之^(三)、得一白鼈、赤眼、甚鮮淨^(四)。以諸藥內鼈口中^(五)、終不死^(六)。後有人乘白馬來者^(七)、馬溺澣鼈^(八)、縮頭藏腳^(九)。乃試取馬溺灌之^(一〇)、豁然消成水^(一一)。病者頓

飲一升^(二)、即愈^(三)。

校記 御覽九百三十二引志怪。○類聚九三引「怪志」。淵鑑四三三馬（與類聚引同）。事又見祖台之志怪（本草綱目引・鈎沈16）搜神後記三—33、文稍詳。

（一）○類聚引無「昔」。 （二）○類聚引無此句四字。 （三）○類聚引「乃剖腹」作「剖」。 （四）○類聚引無此句五字。 （五）○類聚引「以」作「取」、而無「鼈」。 （六）○類聚引無「終」。 （七）○類聚引無「者」。 （八）○類聚引無「馬」、而「鼈」作「之」。 （九）○類聚引句頭有「乃」、而「藏」作「縮」。 （一〇）○類聚引無「乃」。 （一一）○類聚引「豁然」作「便」、「成」作「為」。 （一二）○類聚引「頓」作「乃」、句末有「馬溺」二字。 （一三）○類聚引作「乃差」。

8 顧邵為豫章、崇學校、禁淫祀、風化大行。歷毀諸廟、至廬山廟、一郡悉諫、不從。夜忽聞有排大門聲、怪之。忽有一人開閣逕前、狀若方相、自說是廬山君^(一)。邵獨對之、要進上牀^(二)。鬼即入坐。邵善左傳^(三)、鬼遂與邵談春秋、彌夜不能相屈。邵歎其精辯、調曰、「傳載晉景公所夢大厲者、古今同有是物也。」鬼笑曰、「今大則有之、厲則不然。」燈火盡、邵不命取、乃隨燒左傳以續之。鬼頻請退、邵輒留之。鬼本欲凌邵、邵神氣湛然、不可得乘。鬼反和遜求復廟、言旨懇至。邵笑而不答^(四)。鬼發怒而退。顧調邵曰、「今夕不能讐君。三年之內、君必衰矣。當因此時相報。」邵曰、「何事恩恩、且復留談論。」鬼乃隱而不見。視門閣悉閉如故。如期、邵果篤疾^(五)、恆夢見此鬼來擊之、並勸邵復廟。邵曰、「邪豈勝正。」終不聽。後遂卒。

校記 廣記二百九十三引志怪。續談助四。○古今圖書集成神異典三〇・五四。事亦見殷芸小說（鈎沈106、簡略）。 （一）○諸本皆作「廬君」、或鈎沈以意補歟、今暫從之。「說是」廣記鈔宋本引作「稱」。 （二）○廣記鈔宋本引「要」作「邀」。 （三）○廣記鈔宋本引「善」作「恆讀」。 （四）已上略見續談助四。 （五）○廣記鈔宋本引

「篤疾」作「疾篤」。

9 古今相傳、夜以火照水底、悉見鬼神。溫嶠平蘇峻之難、及於湓口、乃試照焉^(一)。果見官寺赫奕^(二)、人徒甚盛^(三)。又見群小兒兩兩為偶、乘輜車、駕以黃羊、睚眦可惡。溫即夢見神怒曰、「當令君知之。」乃得病也。

校記 廣記二百九十四引志怪。○事亦見晉書六七溫嶠傳。

(一)○廣記鈔宋本引「焉」作「之」。(二)○鈔宋本引「官」作「宮」。(三)○鈔宋本引「人」作「神」。
鈎沈「徒」作「從」、今依廣記諸本改。

10 永嘉中、黃門將張禹曾行經大澤中。天陰晦、忽見一宅門大開。禹遂前至廳事、有一婢出問之。禹曰、「行次遇雨、欲寄宿耳。」婢入報之。尋出呼禹前。見一女子、年三十許、坐帳中。有侍婢二十餘人^(一)、衣服皆燦麗。問禹所欲。禹曰、「自有飯、唯須飲耳。」女敕取鑊與之。因然火作湯、雖聞沸聲、探之尚冷。女曰、「我亡人也。冢墓之間、無以相供^(二)、慙愧而已。」因獻歆告禹曰、「我是任城縣孫家女^(三)。父為中山太守。出適頓丘李氏。有一男一女、男年十一、女年七歲。亡後、李氏幸我舊使婢承貴者^(四)。今我兒每被捶楚、不避頭面、常痛極心髓。欲殺此婢、然亡人氣弱、須有所憑。託君助濟此事、當厚報君。」禹曰、「雖念夫人言、緣殺人事大、不敢承命。」婦人曰、「何緣令君手刃。唯欲因君為我語李氏家、說我告君事狀。李氏念昔、承貴必作禳除^(五)。君當語之、自言能為壓斷之法。李氏聞此、必令承貴葺事、我因伺便殺之。」禹許諾。及明而出、遂語李氏、具以其言告之。李氏驚愕、以語承貴、大懼、遂求救於禹。既而禹見孫氏自外來、侍婢二十餘人、悉持刀刺承貴、應手仆地而死。未幾、禹復經過澤中、此人遣婢送五十匹雜綵以報禹。

校記 廣記三百十八引「志怪」。

(一)○「十」鈎沈誤作「人」、今依廣記諸本正。談刻本「侍」作「待」、誤。(二)○鈎沈引「供」作「共」、蓋依黃刻本、廣記鈔宋本引作「供」、今依此改。(三)○廣記鈔宋本引無「縣」。(四)○鈎沈奪「李氏」二字、今依補。(五)○「作」鈎沈排印本奪之、今依補。

11 沙門竺僧瑤、得神呪^(一)、尤能治邪。廣陵王家女病邪、召瑤治之^(二)。瑤入門^(三)、便瞋目大罵云^(四)、『老魅不念守道、敢干犯人^(五)。』女乃在內大哭^(六)、云、『人殺我夫。』魅在其側曰^(七)、『吾命盡於今、可為痛心^(八)。』因歔歔悲啼^(九)。又曰、『此神也、不可與爭^(一〇)。』傍人悉聞^(一一)。於是化為老鼃^(一二)、走出庭中^(一三)。瑤令撲殺之也^(一四)。

校記 御覽九百三十二引「許氏志怪」。廣記四百六十八引「志怪」。○淵鑑四四一鼃引「許氏志怪」。

(一)○御覽引「呪」作「符」。(二)○廣記引無「瑤」。(三)○廣記引無「瑤」。(四)○廣記引無「便」
「大」二字、而「瞋」作「瞋」。御覽引無「云」字。(五)○「敢」鈎沈依廣記引作「而」、今依御覽引改。(六)
御覽引「哭」作「喚」。○「在內」二字御覽引有。(七)○御覽引「魅」作「鬼」、而無「其」。(八)四字御
覽引有。(九)○廣記引無「悲啼」二字。(一〇)○廣記引無「也」。御覽引無「與」。廣記引「爭」作「事」、
但鈔宋本引作「爭」。(一一)四字御覽引有。(一二)○廣記引「於是化為」作「乃成」二字。(一三)○
「中庭」鈎沈依廣記引作「庭中」、今依御覽。廣記鈔宋本引改。(一四)○御覽引「令」作「人」。廣記談刻本。
汪校本引「撲」作「僕」、鈎沈依黃刻本引、而御覽兩本均作「撲」。御覽引無「也」。

12 會稽王國吏謝宗、赴假。經吳皋橋、同船人至市、宗獨在船。有一女子、姿性婉婉、來詣船、因相為戲。女即留宿歡醺、乃求寄載。宗許之。自爾船人夕夕聞言笑。後逾年、往來彌數。同房密伺、不見有人、知是邪魅、遂共掩被、良

久得一物、大如枕。須臾、又獲二物、並小如拳^(二)、視之、乃是三龜。宗悲思數日方悟、向說如是。云、『此女子一歲生二男。大者名道愍、小者名道興。』宗又云、『此女子及二兒初被索之時、大怖、形並縮小、謂宗曰、『可取我枕投之。』時族叔道明為郎中令^(三)、籠三龜示之。

校記 廣記四百六十八引「志怪」。案亦見孔氏志怪(鈎沈9)。○文稍有異同。按此是孔氏志怪異文、當移於彼。

(一)○鈎沈排印本「小」誤作「立」、今依正。(二)○鈎沈排印本奪「族」、今依補。廣記鈔宋本引「明」作「民」。

13 石季倫母喪、洛下豪俊赴殯者傾都。王戎亦入臨殯、便見鬼攘臂打撻鑿、甚惶惶。有一人當棺立、此鬼披胸陷之。此人即應鑿而倒。人便去^(二)、得病半日死。故世間相傳、不宜當棺、由戎所見。

校記 御覽三百七十一引「志怪集」。

(一)○御覽四部叢刊本引「便」下有一字、或是「尋」字、未能判讀、明刊本・鮑氏刊本均省之。

14 陶侃微時^(一)、遭大喪葬。家貧、親自營塋。有斑特牛、專以載致、忽然失去。便自尋覓。道中逢一老公、便舉手指云、『向於岡上見一牛眠山中^(二)、必是君牛、眠處便好可作墓安墳、則致極貴^(三)。』侃指一山。云、『此好、但不如下、當世有刺史。』言訖便不復見。太尉葬之如其言^(五)。侃指別山與周訪家、則并世刺史矣。

校記 御覽五百五十九引「志怪集」。*書鈔九十四引「志怪集」。案亦見孔氏志怪、無末二句。○鈎沈作「孔氏志怪」、誤。見祖台之志怪(鈎沈4)。

書鈔引云、陶太尉微時、喪當葬。親自營作塋、有特牛車、塋已載致、忽然失去。便自尋覓。於道中遇一老翁、指云、『向於山岡上見一牛、眠在墟中、此牛眠處、便可作墓安墳。當之、則致極貴也。』

(一)〔侃〕書鈔引作「太尉」。(二)〇鈎沈排印本「山」誤作「牛」、今依正。(三)已上亦見書鈔九十四引志怪集。(四)〇御覽四部叢刊本引「小」下有「下當」二字。(五)〇諸本均作「之葬」、今依祖台之志怪改。

15 雜國桓韓子諸盛十詩、群小兒共在後屋、作粥。立成、盛以長盤十椀。群兒還、忽有婦人出其間。

校記 書鈔一百四十四引「志怪集」。案首句有譌奪字、文亦不全。

16 夏侯弘常自云見鬼神^(一)、與其言語委曲^(二)。衆未之信^(三)。鎮西將軍謝尚^(四)、常所乘馬忽暴死^(五)。會弘詣尚^(六)。尚憂惱甚至^(七)。弘謂尚曰^(八)、『我為公活馬如何^(九)』。尚常不信弘^(一〇)、答曰、『卿若能令此馬更生者^(一一)、卿真實通神矣^(一二)』。弘於是便下牀去^(一三)、良久還、語尚曰^(一四)、『廟神愛樂君馬^(一五)、故取之耳^(一六)。向我詣神請之、初殊不許、後乃見聽、馬即耳便活^(一七)』。尚對死馬坐^(一八)、意甚不信、怪其所言^(一九)。須臾、其馬忽從門外走還^(二〇)、衆咸見之、莫不驚惋^(二一)。既至馬屍間^(二二)、便滅^(二三)。應時能動^(二四)。有頃奮迅呼鳴。尚於是嘆息^(二五)。謝曰、『我無嗣、是我一身之罰^(二六)』。弘經時無所告、曰『頃所見小鬼耳、必不能辨此源由^(二七)』。後忽逢一鬼、乘新車、從十許人、着青絲布袍。弘前捉牛鼻^(二八)。車中人謂弘曰、『何以見阻^(二九)』。弘曰、『欲有所問。鎮西將軍謝尚無兒。此君風流令望、不可使之絕祀。』車中人動容曰、『君所道正是僕兒。年少時與家中婢通、約不婚而婚。今此婢死、在天訟^(三〇)、是故無兒^(三一)』。弘具以告。尚曰、『吾少時誠有此事^(三二)』。弘忽行江陵逢一大鬼^(三三)、提弓戟急走^(三四)、有小鬼數百從之^(三五)、弘畏懼、下路避之。大鬼過後、捉一小鬼^(三六)、問『此是何物^(三七)』。曰、『廣州大殺。』弘曰、『以此矛戟何為^(三八)』。曰、『以此殺人^(三九)、若中心腹者輒死^(四〇)。中餘處、不至于死^(四一)』。弘曰、『治此病有方不。』鬼曰、『殺烏雞薄心^(四二)、即差。』弘又曰^(四三)、『今欲何行也^(四四)』。鬼曰、『當至荊揚二州^(四五)』。爾時此二州皆行心腹病^(四六)、略無有不死者^(四七)。弘在荊州教人殺烏雞以薄之^(四八)、十得八九^(四九)。今有中惡^(五〇)、輒用

烏雞薄之^(五)、自弘之由也^(五)。

校記 御覽八百九十七引「志怪集」・八百八十四引「弘于江陵」已下(引志怪)。^{*}廣記三百二十二引「志怪錄」。

○類聚九三引「怪志」。本草綱目四八烏骨雞。淵鑑四三三馬引類聚。按此條本是三話、廣記引統為一條、今暫從鈎沈。事見搜神記二—48。

類聚九三引怪志云、謝尚所乘馬忽死、尚甚愛惜之。時有夏侯弘、自言見鬼神、與言語。尚初不信。弘曰、『我能令馬活、信通神不。』乃下牀去、良久還曰、『廟神愛君馬。今已請得還。』須臾衆人皆見馬從外來、至死馬邊便滅、死馬即活。

(一)○御覽引作「孫弘」、今依廣記。○廣記引無「神」。(二)○廣記引無「委曲」。(三)○廣記引無此句四字。(四)○廣記引無「將軍」。(五)○廣記引無「常」「暴」。(六)○御覽鮑氏刊本引無「詣」。廣記引無此句四字。(七)○御覽引作「尚」常愛惜至甚、今依廣記。○御覽鮑氏刊本引無「尚」。廣記引又無「尚」。(八)○今依御覽四部叢刊本引補「弘」、鮑氏刊本引無。(九)○「公」今依御覽四部叢刊本引補。鮑氏刊本引「我」上有「為」、「活馬」重複、疑皆衍文。(一〇)○廣記引無自「弘謂尚曰」至此、凡十六字。(一一)○廣記引無「更」。(一二)○廣記引作「卿真為見鬼也」。○廣記鈔宋本引「鬼」作「道」。(一三)○廣記引無「於是便下牀」。(一四)○廣記引無「語尚」。(一五)○廣記引無「愛」。(一六)○御覽引無「取之」。廣記引無「耳」。(一七)○廣記引無以上十八字、而作「當活」二字。御覽四部叢刊本引「耳」作「空格」、「耳」鈎沈依鮑氏刊本。疑譌。(一八)○御覽四部叢刊本引「對死馬坐、意」作「時□□□□」。鮑氏刊本引「坐」作「生」。鈎沈依廣記引。(一九)○廣記引無以上二句八字。(二〇)○廣記引無「其」、而「從」作「自」。(二一)○廣記引無以上二句八字。(二二)○廣記引無「既」。(二三)「問便滅」三字廣記引有。(二四)○廣記引句末有「起行」二字。(二五)御覽八百九十七引志怪集「至此為止」。廣記三百二十二引志怪錄、文甚簡略。○廣記引無以

上二句十一字。(二六)○廣記鈔宋本引「是」作「□□□」。 (二七)○廣記鈔宋本引「能辨」作「□□□」。
(二八)○廣記諸本皆「捉」作「提」、但鈔宋本作「捉」、未知鈎沈何依。(二九)○廣記鈔宋本引「阻」作「任」。
(三〇)○以上四句十二字、今依廣記鈔宋本引改、鈎沈作「誓約不再婚、而違約。今此婢死、在天訴之」。(三一)
一)○廣記鈔宋本引無「是」。(三二)○廣記諸本皆引有「吾」、鈎沈奪之、今依補。(三三)○「忽行」鈎沈
依廣記引作「於」、今依御覽引。「逢」亦鈎沈作「見」、今依御覽引。(三四)○御覽四部叢刊本引作「投弓戟集
走」、「投」疑「持」之訛。鈎沈引作「提矛戟」、今依御覽鮑氏刊本引。(三五)○廣記引有「有小鬼隨從數人」、
今依御覽引改。(三六)○廣記引「捉」下有「得」、御覽·廣記鈔宋本引無、今從御覽等刪之。(三七)○鈎
沈依廣記引無「是」、今依御覽引補之。(三八)十三字依御覽引補。(三九)○鈎沈依廣記引作「殺人以此矛
戟」、今依御覽引改。(四〇)○鈎沈依廣記引作「無不輒死」、今依御覽·廣記鈔宋本引刪「無不」二字。(四
一)七字依御覽引補。(四二)○御覽引作「薄心」。○鈎沈依廣記引作「以烏雞薄之」、今依御覽改。(四三)○
御覽引無「又」。(四四)○御覽引無「也」。(四五)○御覽引無「至」。(四六)○「此二州皆」鈎沈以廣
記引作「比日」、今依御覽引改。(四七)○鈎沈「略無」作「無有」、今依御覽引改。廣記鈔宋本引亦同。(四
八)○「在荊州」鈎沈依廣記引作「乃」一字。御覽引無「以」字。(四九)○「得」鈎沈作「不失」、今依御覽
引改。(五〇)○御覽·廣記鈔宋本引均無「有」。(五一)○御覽引無「輒」「薄之」三字。(五二)○今依
御覽引補「自」字。

17 晉陳國袁無忌、寓居東平。永嘉初、得疫癘、家百餘口、死亡垂盡。徙避大宅^(一)、權住田舍。有一小屋、兄弟共
寢板牀、薦席數重^(二)、夜眠失曉^(三)、牀出在戶外、宿昔如此。兄弟怪怖、皆不得眠^(四)。後見一婦人來、在戶前、知忌
等不眠、前却戶外^(五)。時未曙明、月朗見之^(六)、綵衣白粧^(七)、頭上有范鐸及銀釵象牙梳^(八)。忌等便逐之^(九)。初繞屋

走而倒^(一〇)、頭髻及范錫之屬皆墮^(一一)。忌悉拾之。仍復出門南走。臨道有井、遂入井中^(一二)。忌還眠。天曉、視范錫及釵牙梳^(一三)、並是真物。掘壞井^(一四)、得一楸棺、三分井水所漬^(一五)。忌便易棺器衣服^(一六)、還其物^(一七)、於高燥處葬之^(一八)、遂斷。

校記 珠林九十五(一二)○卷本一一四、引志怪集。廣記三百二十二引「志怪錄」。

(一)○珠林引「徙」作「往」。(二)○廣記鈔宋本引「板牀薦席」作「板薦」二字。(三)○廣記引「失」作「及」、或當從。(四)○珠林·廣記鈔宋本引此句作「皆不眠」。廣記引作「不能得眠」。(五)○廣記鈔宋本引無「眠」、而「却」作「劫」、誤。(六)○廣記引作「月明共窺之」、鈔宋本引作「明月即見之」。(七)○珠林引「粧」作「莊」。(八)廣記引「范錫」作「花插」、下同。○珠林大正藏本引作「花插」。(九)○廣記引「忌」上有「無」字、但鈔宋本引無、下皆同。廣記引「便」作「共」。(一〇)鈎沈「而」依珠林引作「四」、今依廣記引改。(一一)○「髻」鈎沈依珠林引作「髮」、今依廣記引改、但鈔宋本引作「髮」。珠林·廣記鈔宋本引「墮」下有「落」字。(一二)○廣記引「井」作「其」。但鈔宋本引同於珠林引。(一三)○廣記引「范錫」及釵」作「花釵」、鈔宋本作「花及釵」。(一四)○廣記引「掘」作「遂」、鈔宋本引無「遂」。(一五)廣記引作「俱已朽壞」○廣記鈔宋本引作「三分所得」。(一六)○廣記引作「乃易棺並服」。鈔宋本作「乃易棺器衣服」。(一七)○廣記引無此句、鈔宋本引作「遷其餘物」。(一八)○廣記引句頭有「遷」字。

18 會稽郡常有大鬼、長數丈、腰大數十圍、高冠玄服^(一)。郡將吉凶、跂于雷門^(二)、示憂喜之兆^(三)。謝氏一族、憂喜必告。謝弘道未遭母艱數月^(四)、鬼晨夕來臨。及後將轉吏部尚書^(五)、拊掌三節舞^(六)、自大門至中庭、尋而遷問至^(七)。謝道欣遭重艱、至離塘行墓地、往向夜、見離塘有雙炬^(八)、須臾火忽入水中^(九)、仍舒長數十丈、色白如練、稍稍漸還赤、散成數百炬、追逐車從而行。悉見火中有鬼、甚長大^(一〇)、頭如五石籬、其狀如大醉者^(一一)。左右小鬼^(一二)、共扶

之。是年、孫恩作亂、會稽大小、莫不翼戴。時以為欣之所見、亂之徵也^(三)、禹會諸侯會稽防風之鬼也。

校記 廣記三百二十三引「志怪」。＊御覽八百八十四引「志怪」。

(一)○御覽八八四・廣記鈔宋本引均「服」作「衣」。(二)○廣記引「跂」作「先」、鈔宋本引作「跋」。(三)○御覽引「兆」作「色」。(四)○御覽引無「謝」、而「艱」作「難」。(五)○御覽引無「將」。(六)○廣記鈔宋本引「舞」作「儺」。(七)已上亦見御覽八百八十四引志怪。(八)○鈞沈「炬」作「烜」、廣記諸本皆作「炬」、今依改。(九)○鈞沈排印本「忽」誤作「急」、今依改。(一〇)○廣記鈔宋本引「長大」作「大長」。(一一)○廣記鈔宋本引「其」作「鬼峨」、而且無「者」。(一二)○廣記鈔宋本引「左右」作「諸」。(一三)○廣記鈔宋本引「徵」作「祥」。

19 魏劉赤斧者^(一)、夢蔣侯召為主簿。期日促^(二)。乃往廟陳請。母老子弱、情事果切^(四)、乞蒙放恕^(五)。會稽魏邊^(六)、多才藝、善事神、請舉邊自代^(七)。因叩頭流血。廟祝曰、「特願相屈^(八)、魏邊何人、而擬斯舉^(九)。」赤斧固請^(一〇)、終不許。尋而赤斧死^(一一)。

校記 珠林六十七「百二十卷本八四」引志怪傳。廣記二百九十三引志怪。事亦見搜神記五—93。

(一)廣記引「赤斧」作「赤父」、下同。(二)○珠林引無「期」。(三)○「請」鈞沈作「情」、諸本皆作「請」、今依改。(四)○廣記引「果」作「過」。(五)○珠林大正藏本引「蒙」作「夢」、誤。(六)廣記引「邊」作「過」、下同。(七)○珠林引「舉」作「與」。(八)○廣記鈔宋本引作「特相屈君」。(九)○廣記引「擬」作「有」。(一〇)○珠林大正藏本引「固」作「因」。(一一)○廣記引句末有「焉」字。

20 宋咸寧中^(一)、太常卿韓伯子某、會稽內史王蘊子某、光祿大夫劉耽子某、同游蔣山廟。有數婦人像^(二)、甚端正。

某等醉、各指像以妻足配戲弄之^(三)。即以其夕、三人同夢蔣侯遣傳教相聞曰^(四)、『家子女並醜陋、而猥蒙榮顧^(五)、輒尅某月某日悉相迎^(六)。』某等以其夢指適異常^(七)、試往相問、而果各得此夢^(八)、符協如一。於是大懼。備三牲、詣廟、謝罪乞哀。又俱夢蔣侯親來降、已曰、『君等既已顧之^(九)、實貪會對^(一〇)。尅期垂及^(一一)、豈容方更中悔。』經少時並亡。

校記 珠林七十五(百二十卷本九二)引「志怪傳」。廣記二百九十三引「志怪」。○事亦見搜神記五—94。

(一)○宋無咸寧、有譌。(二)○珠林大正藏本·廣記諸本引句頭均有「廟」。(三)廣記引作「各指像以戲相匹配」。(四)○珠林四部叢刊本引「傳」誤作「傳」。(五)○廣記引「蒙」作「垂」。(六)○廣記引無「某月」、而「迎」上有「奉」、但鈔宋本引無「奉」字。(七)○廣記鈔宋本引「指」作「旨」。(八)○鈎沈「此」作「其」、未知何據、今依珠林·廣記引改。(九)○珠林引「已」作「以」。(一〇)○珠林大正藏本引「會」作「令」、四部叢刊本引作「今」、鈎沈據廣記引。(一一)○珠林四部叢刊本引奪「尅」字。

○21 新淦聶友少時貧、嘗獵見一白鹿、射中。後見箭著梓樹。

校記 廣記三七四、汪氏校語云、原闕出處、明鈔本作「宣室志」、今見說郭二五小說引作「怪志」。殷芸小說(鈎沈127)。事見搜神後記八—94、有後文。

○22 周司禮卿張希望、移舊居改造見鬼人。馮毅見之、曰、『當新廡下、有一伏尸^(一)、極怒。公可避之。』望笑曰、『吾少長已來、未曾信如此事^(二)。公勿多言^(三)。』後月餘、毅入、見鬼持弓矢、隨希望後、適及階、鬼引弓射中肩膊^(四)、希望覺背痛、以手撫之。其日卒。

校記 廣記三二九引作出「志怪」。

(一) 廣記鈔宋本引「尸」作「屍」、而其下有「晉朝三品將軍」六字、當補。(二)「此」字今依鈔宋本引補、但鈔宋本引無「信」字。(三)「多」、今依鈔宋本引補。(四)鈔宋本作「鬼引射中膊脾間」。

○23 長孫紹祖常行陳蔡間。日暮、路側有一人家、呼宿。房內聞彈箏篴聲、竊于窗中窺之。見一少女、容態閒婉、明燭獨處。紹祖微調之、女撫絃不輟、笑而歌曰、「宿昔相思苦、今宵良會稀、欲持留客被、一願拂君衣。」紹祖悅懽、直前撫慰^(一)。女亦欣然曰、「何處公子、橫來相干。」因與會合。又謂紹祖曰、「昨夜好夢、今果有徵。」屏風衾枕、率皆華整、左右有婢、仍命饌。頗有珍羞、而悉無味。又飲白醪酒。女曰、「猝值上客、不暇更營佳味。」纔飲數杯。女復歌、歌曰、「星漢縱復斜^(二)、風霜淒已切。薄陳君不御、誰知思欲絕。」因前擁紹祖、呼婢徹燭共寢、仍以小婢配其蒼頭。將曙、女揮淚與別、贈以金鏤小合子、「無復後期、時可相念。」紹祖乘馬出門百餘步、顧視乃一小墳也。愴然而去。其所贈合子、塵埃積中、非生人所用物也。

校記 廣記三三六引作出「志怪錄」、但文體甚似唐代傳奇、或非六朝志怪歟。今暫存此。

(一)「慰」鈔宋本引作「翫」。(二)「縱」鈔宋本引作「從」。

○24 李汾撫琴于四明山、月夜有女子、至端正無比。惟覺口帶高緇黑色。留宿極歡。汾偷女子青□履子一隻、女泣求、不與。及明見鮮血滿地、驗履乃豬蹄殼也。汾惶駭、尋血至山前、張氏溷中、見一牝豚、後足已刳一殼、豕視汾、瞋目咆哮、如有怒色。汾以事白張叟、叟即殺之。汾即棄山院、別遊他邑。

校記 天中記五四引「搜神記」、而云「誌怪錄」尹縱之事同。今暫存此。

○25 顧光寶善畫。建康陸溉患瘡經年、光寶詣之。以墨塗一獅子、謂溉曰、「此出手便靈異、可於戶外榜之、虔誠

祈壽。』既如其言。是夕中夜、戶外有窸窣之聲、良久乃不聞。明日所畫師子口中臆前有血淋漓、乃於戶外皆有點焉。溉病遂愈、時人異之。

校記 淵鑑四二九師子引「志怪錄」、未知六朝志怪不、今暫存此。

○ 26 有書生遇神女、見胡僧、僧指曰、「此西王母第三女、號玉卮娘。」

校記 淵鑑二五五美婦人引「志怪錄」、未知是六朝志怪不、今暫存此。

○ 27 晉懷帝永嘉中、譙國丁杜渡江至陰陵界、時天昏霧、在道北見一物、如人倒立、兩眼垂血、從頭下聚地、兩處各有升餘。杜與從弟、齊聲喝之、滅而不見。立處聚血、皆化為螢火、數千枚縱橫飛去。

校記 古今圖書集成神異典三一六引「志怪錄」、未知是六朝志怪不、今暫存此。

○ 28 一山中壑、忽崩塞口、水聚生蓮。蓮中一枝結苞、開金色蕊、中坐一佛像。鄉人禮禱、烘動。一官心明捷、帶敕印拜之。佛閉目。意甚怪、令人決崖、以枯棹車涸。中乃一大虾蟆、口吞蓮枝。積薪焚之。

校記 三農紀一○蓮藕、引志怪錄、但同書引用甚杜撰、不知是六朝志怪不、今暫存此。

祥異記

凡二條

1 宋元稚宗者、河東人也。元嘉十六年、隨鍾離太守阮愔在郡。愔使稚宗行至遠村、郡吏蓋苟邊定隨焉。行至民家、恍忽如眠、便不復寤^(一)。民以為死。舁出門外、方營殯具、經夕能言。說初有一百許人、縛稚宗去、數十里、至一佛圖、僧衆供養、不異於世。有一僧曰、『汝好獵、今應受報。』便取稚宗、皮剝鬻截、具如治諸牲畜之法。復納于澡水、釣口出之^(二)、剖破解切、若為膾狀。又鑊煮爐炙、初悉糜爛、隨以還復、痛惱苦毒、至三乃止。問、『欲活否。』稚宗便叩頭請命。道人令其蹲地、以水灌之、云、『一灌除罪五百。』稚宗苦求多灌。沙門曰、『唯三足矣。』見有蟻類數頭、道人曰、『此雖微物、亦不可殺、微復論巨此者也。魚肉自此可戒耳^(三)。齊會之日、悉著新衣、無新可浣也。』稚宗因問、『我行旅有三、而獨嬰苦、何也。』道人曰、『彼二人自知罪福、知而無犯。唯爾愚蒙、不識緣報、故以相戒。』因爾便蘇。數日能起^(四)。由是遂斷漁獵云。

校記 廣記一百三十一。○談刻本・黃刻本均作出「祥異記」。

(一)○鈞沈「寤」作「寤」。今依正。(二)○「釣」談刻本・汪校本誤作「釣」。(三)○「此」鈞沈作空闕一格、今依補。汪氏校語云、「戒」原作「噉」、據明鈔本改、今從汪氏。(四)○鈞沈「數」作「四」、今依諸本改。

2 前齊永明中、楊都高座寺釋慧進者^(一)、少雄勇遊俠。年四十、忽悟非常、因出家、蔬食布衣、誓誦法華、用心勞苦、執卷便病。乃發願造百部、以悔先障。始聚得一千六百元、賊來索物、進示經錢、賊慙而退。爾後遂成百部、故病亦愈。誦經既廣、情願又滿、迴此誦業、願生安養。空中告曰、『法願已足、必得往生。』無病而卒、八十餘矣。

校記 廣記一百九。○談刻本・黃刻本均作出「祥異記」、鈔宋本作出「冥祥記」、汪氏校語云、明鈔本作出「冥異記」、按見冥祥記。」冥祥記（鈎沈 125）引文與此大同、或談刻等本誤繫祥異記、今暫存此。事又見高僧傳一二釋慧進傳、三寶感通錄下、法華經傳記四。

（一）○「楊」廣記鈔宋本作「揚」、當從。鈎沈「都」作「邨」、未知何據、今依改。「座」鈎沈作「坐」、今依改。

宣驗記

原輯三十五條 新附一條 凡三十六條

1 渤海張融、字眉嶠。晉咸寧中、子婦產男、初不覺有異。至七歲、聰慧過人^(一)。融曾將看射、令人拾箭還、恆苦遲。融孫云、『自為公取也』^(二)。後射纔發、便赴、遂與箭俱至棚、條已捉矢而歸。舉坐怪愕^(三)。還經再宿、孫忽暴病而卒。將殯^(四)、呼諸沙門燒香^(五)。有一胡道人謂云、『君速斂此孫、是羅刹鬼也、當噉害人家。』既見取箭之事、即狼狽闔棺。須臾、聞棺中有撲擺聲^(六)、咸輟悲駭愕、遽送葬埋。後數形見。融作八關齋、於是便去。

校記

廣記三百五十七。

(一)○廣記鈔宋本引「慧」作「惠」。 (二)○鈔宋本引「公」作「翁」。 (三)○談刻本引「愕」作「鄂」、稿本依黃刻本引作「愕」、鈔宋本引亦同。 (四)○鈎沈奪「將殯」、今依諸本引補。 (五)○黃刻本引「呼」作「乎」。 (六)○鈔宋本引「撲擺」顛倒作「擺撲」。

2 晉義熙中、京師長年寺道人惠祥與法向連堂。夜四更時^(一)、惠遙喚向暫來。往視、祥仰眠、手交于胸上、足脰直^(二)、云、『可解我手足繩。』曰、『上並無繩也。』祥因得轉動^(三)、云、『向有人衆、以我手足、鞭捶交下、問何故齧蟲。』語祥若更不止、當入兩石間磕之^(四)。祥後懲戒於蟲、餘無精進。

校記

御覽九百五十一。

(一)○「時」御覽四部叢刊本引作「中」、鈎沈依鮑氏刊本引。 (二)「脰下原注」音鼎。○四部叢刊本音注作「敕鼎切」。「脰」鈎沈依鮑氏刊本引作「挺」、雖義同、今依四部叢刊本引改。 (三)○「因」鮑氏刊本引誤作「困」、鈎沈改作「因」。 (四)「磕下原注」音益。○「石」字御覽兩本引無、鈎沈以意補。鮑氏刊本引「問」誤作「問」。

3 安荀本姓路^(一)、吳郡人也。年十餘、身嬰重疾、良藥必進、日增無損。時太玄臺寺釋法濟^(二)、語安荀曰、「恐此疾由業、非醫所消^(三)。貧道案佛經云、「若履危苦、能歸依三寶、懺悔求願者、皆獲甄濟。」君能捐棄邪俗^(四)、洗滌塵穢、專心一向、當得痊愈。」安荀然之。即于宅內設觀世音齋^(五)、澡心潔意、傾誠戴仰^(六)、扶疾稽顙、專念相續。經七月初夜、忽見金像高尺許、三摩其身、從首至足、即覺沈痾豁然消愈。既靈驗在躬、遂求出家、求住太玄臺寺。精勤匪懈、誦法華經、菜食長齋、三十七載。常翹心注想、願生兜率。宋元嘉十六年、出都造經、不測所終。

校記 比丘尼傳二、玄藻本姓路、吳郡人也。安荀女也。注宣驗記云、是即安荀也。今據改其名、以補斯記。

- (一)○比丘尼傳大正藏本引「荀」作「苟」、元·明本作「苟」。(二)○大正藏本引無「太」、但下文有「太」。
(三)○大正藏本引「醫」作「藥」。(四)〔能〕此下原有「與女並」三字。(五)○大正藏本引「內」作「上」。
(六)○鈎沈排印本「戴」誤作「載」、今依正。

4 元嘉元年、建安郡山賊百餘人、掩破郡治、抄掠百姓資產子女、遂入佛圖、搜掠財寶^(一)。先是、諸供養具^(二)、別封置一室^(三)。賊破戶、忽有蜜蜂數萬頭、從衣簾出、同時噬螫群賊、身首腫痛、眼皆盲合^(四)。先諸所掠、皆棄而走^(五)。蜂飛邀逐噬擊、彌路賊遂惶懼、從便道而去。是時蠟日、所縛子女、各還其家。

校記 御覽九百五十。*事類賦注三十。○*天中記五七。*淵鑑四四六蜂。事見搜神後記三一31。

- (一)○御覽鮑氏刊本引奪「搜」字。(二)○御覽鮑氏刊本引「具」作「其蜂」。(三)○「置」鈎沈依事類賦注劍閣本引作「貯」、今依他諸本引改。(四)○「眼皆」御覽引作「兩眼」。(五)已上事類賦注三十亦引。
○天中記五七亦引至此為止。

5 宋元嘉中、吳興郡內嘗失火。燒數百家蕩盡。惟有經堂草舍、儼然不燒。時以為神。

校記 廣記一百六十一。(稿本欄外注云)辯正論八「誤、當作七、以下鈎沈皆誤作八」注引無「宋」字、「郡」作「郭」、末有「也」字。○事又見義楚六帖二、文有節略、而「神」下有「力」。「草」辯正論大正藏本引作「車」。

6 車母者、遭宋廬陵王青泥之難、為佛佛虜所得^(一)、在賊營中為奴^(二)。其母先來奉佛、即然七燈於佛前、晝夜精心念觀世音^(三)、願子得脫。如是經年、其子忽得叛還^(四)。七日七夜、獨行自南走^(五)。常值天雨陰^(六)、不知東西^(七)。遙見有七段火光、望火而走、似村欲投、終不可至。如是七夕、不覺到家、見其母猶在佛前伏地^(八)、又見七燈。因乃發悟^(九)。母子共談^(一〇)、知是佛力。自後懇禱^(一一)、專行檀忍^(一二)。

校記 廣記一百一十。辯正論七注。○義楚二。古今圖書集成神異典七四。

(一)(稿本欄外注、下同)辯正論八(七)注引「虜」上有「佛佛」二字。○今依補。義楚引又同、「得」作「獲」。
(二)論注引「中」下有「為奴」二字。○今依補。(三)論注引「夜」上有「晝」字、「念」作「哭」。○「晝」字今依補。義楚引「觀世音」作「觀音菩薩」。(四)論注引「忽」下有「得」字。○今依補。(五)○論注引「獨行」二字到。(六)論注引「天」下有「雨」字。○今依補。論注引無「常」字。(七)論注引「東西」二字到。○義楚引「知」作「辯」。(八)○廣記鈔宋本引「伏地」作「拜」。(九)○「因」談刻本引誤作「囚」。
(一〇)○義楚引「共談」作「俱喜」。(一一)論注「禱」作「到」。(一二)論注「慈悲」作「檀忍」、廣記誤。○義楚引「行」作「志」、「慈悲」亦作「檀忍」。「檀忍」今依改。鈔宋本引「悲」作「忍」。

7 吳郡人沈英^(一)、被繫處死。臨刑市中、日誦觀音名號^(二)、心口不息。刀刃自斷、因而被放。一云、吳人陸暉、繫獄分死、乃令家人造觀音像、冀得免死。臨刑三刀、其刀皆折。官問之故。荅云、『恐是觀音慈力。』及看像、頂上乃

有三刀痕現^(三)、因奏獲免。

校記 廣記一百十一。辯正論八(七)注。○古今圖書集成神異典九四。參看旌異記(鈎沈8)

(一) 辯正論七注引作「沈英」。○今依改。(二) 論注引「觀音」並作「觀世音」。(三) ○辯正論大正藏本引「現」作「見」、校勘記云、元版·明版作「現」。

8 榮陽高苟^(一)、年已五十。為殺人被收。鑊項地牢^(二)、分意必死^(三)。同牢人云、努力共年觀世音^(四)。苟云、「我罪至重^(五)、甘心受死^(六)、何由可免。』同禁勸之、因始發心^(七)、誓當捨惡行善、專念觀音、不簡造次^(八)。若得免脫、願起五層浮圖^(九)、捨身作奴、供養衆僧。旬日用心^(一〇)、鉗鑊自解。監司驚懼^(一一)。語苟云^(一二)、「若佛神憐汝^(一三)、斬應不死^(一四)。』臨刑之日、舉刀未下、而折刃斷^(一五)。奏得原免。

校記 廣記一百十一。辯正論七注。○*義楚二。三寶感應要略錄上。論注引云「出宣驗記及續搜神記」、但不見今本搜神後記。

(一) (稿本欄外注、下同) 論注七引「苟」作「苟」。○廣記鈔宋本引後「苟」作「苟」、義楚引亦作「高狗兒」、今依改「苟」作「苟」、下同。(二) 論注引「頓」作「項」。○廣記鈔宋本引作「項」、談刻本引作「頓」、黃刻本·汪校本引作「頓」、今依改作「項」。(三) ○略錄引作「分必受死」。(四) 論注「念」作「誦」、「觀」下有「世」字。○略錄引亦同。今依改。(五) ○略錄引「至」作「甚」、而句末有「耳」。(六) 論注「誣」作「死」。○今依改。略錄引無「甘心」二字。(七) 論注「日」作「因」。○談刻·黃刻本均作「日」、汪氏校語云、「因」原作「日」、據明鈔本改。鈔宋本亦作「因」、今依改。略錄引「因」下有「如」、疑衍。(八) 論注「離」作「簡」。○今依改。(九) 論注「浮」作「佛」。略錄亦同。(一〇) 論注「日」作「月」。(一一) 論注「懼」作「怪」。○略錄亦同。(一二) 論注「語」下有「高」字。○略錄亦同。(一三) 論注無「若」字。○略錄亦同。(一四)

四)○略錄引「斬」作「暫」疑訛。(一五)論注「舉刀〔刃斷〕」句作「舉刀未下、而折」。○今依補。略錄引作「舉刀未下刀、刀折刃斷」、中「刀」字疑衍。

9 史雋有學識^(一)、奉道而慢佛。常語人云、「佛是小神、不足事耳^(二)」。『每見尊像、恆輕謔之。後因病腳攀、種種祈福、都無效驗。其友人趙文謂曰、『經道福中、灌像福第一^(三)。可試造觀音像。』雋以病急、如言鑄像^(四)。像成^(五)、夢見觀音^(六)、遂差^(七)。

校記 辯正論七注。廣記一百十一。○辯正論注云、出「宣驗冥祥等記」。古今圖書集成神異典九四。又見幽明錄(鈎沈270)、冥祥記(鈎沈130)。

(一)○辯正論大正藏本引「雋有」作「俊者」。(二)(稿本欄外注、下同)辯正論七注引「也」作「耳」。○今依改。(三)論注「福中」下有「佛福」二字。○辯正論大正藏本引「第」上有「灌像福」三字、今依補、一本「灌像」作「佛」。(四)○論注引「鑄」作「灌」。(五)○廣記鈔宋本引無「像」。(六)○辯正論大正藏本引「夢」下有「見」。今依補。(七)論注「果得差」作「遂差」。○今從論注引。

10 吳唐、廬陵人也。少好驅煤獵射、發無不中、家以致富。後春月將兒出射^(一)、正值麀鹿將麀。鹿母覺有人氣^(二)、呼麀漸出^(三)。麀不知所畏^(四)、徑前就煤^(五)。唐射麀即死^(六)。鹿母驚還、悲鳴不已^(七)。唐乃自藏於草中、出麀致淨地^(八)。鹿直來其地^(九)、俯仰頓伏、絕而復起。唐又射鹿母^(一〇)、應弦而倒。至前場^(一一)、復逢一鹿^(一二)、上弩將放、忽發箭反激^(一三)、還中其子、唐擲弩抱兒^(一四)、撫膺而哭。聞空中呼曰、「吳唐、鹿之愛子、與汝何異^(一五)」。『唐驚聽不知所在^(一六)。』

校記 御覽九百六。事類賦注二十三。○廣記四四三引作出「宣室志」、不見今本宣室志、文與此條略同。但事類

賦兩本均作「冥驗記」、或此齋竟陵王蕭子良所撰冥驗記之佚文歟。未知是否、今暫存於此。*事文類聚後集三六。淵鑑四三〇鹿。

廣記引云

吳唐者、廬陵人也。少好射獵、矢不虛發。嘗方春、將其子出獵、乃值一麀將麀戲焉。麀覺有人氣、引麀潛去。麀未知所畏、因前就唐。唐射之而死。麀驚還悲鳴。唐乃置麀淨地、自藏草中、麀來俯舐頓伏。唐又射之、應弦而倒。既而又逢一麀、張弩之間、箭忽自發、激中其子。唐即投弓抱子、撫膺而哭。忽聞空中呼曰、吳唐。麀之愛子、與汝何異。驚視左右、虎從旁出、遙前、搏折其臂、還家一宿而卒。出宣室志。汪氏校語云、御覽九〇六引作出宣驗記。

(一)〇「月」鈎沈作「日」、今依諸本引改。(二)〇御覽・事類賦注中華書局本引均無「鹿」、賦注劍光閣本引有。賦注引無「有」。(三)〇賦注引無「漸出」。(四)〇御覽四部叢刊本引「畏」誤作「猥」。(五)〇賦注劍光閣本引「徑」誤作「經」。(六)〇賦注劍光閣本引無「即」。(七)「不已」二字賦注引有。(八)〇賦注中華書局本引「致」作「值」、劍光閣本引作「置」。(九)〇「母」御覽引有、今依補、賦注中華書局本引無。「其」諸本引皆無、或鈎沈以意補之歟。賦注中華書局本引無「地」。劍光閣本無「直來地」。(一〇)〇賦注劍光閣本引「鹿母」作「之」。(一一)〇賦注引「場」作「邑」。(一二)〇賦注引「逢」作「射」。(一三)〇賦注引無「上弩將放忽發」六字。(一四)〇賦注引「抱」作「擁」。(一五)〇賦注引至此為止。(一六)〇廣記引有後文、參看前揭文。

11 程德度、武昌人。昔在潯陽、夜見屋裏自明。先有鷲窠、忽有小兒、長尺餘、潔白、從窠出(二)、至牀前曰、「卻後三年、當得長生之道。」尋聞而滅。甚秘密之。

校記 御覽九百二十二。

(一)○鈎沈「窠」下有「中」字、御覽兩本引無、今依刪。

12 沛國周氏有三子^(一)、瘡並不能言^(二)。一日有人來乞飲^(三)、聞其兒聲、問之。具以實對。客曰、『君有罪過^(四)。可還內思之^(五)。』既異其言^(六)、知非常人^(七)。良久乃云^(八)、『都不憶有罪過^(九)。』客曰、『試更思幼時事。』入內、食頃出曰、『記小兒時、當牀有鷺巢^(一〇)、中有三子、母還哺之、輒出取食^(一一)。屋下舉手得及、指內巢中、鷺子亦出口承受^(一二)。乃取三瘡^(一三)、各與之、吞即死^(一四)。母還不見子、悲鳴而去。恆自悔責^(一五)。』客變為道人之容、曰、『君既自知悔^(一六)、罪今除矣^(一七)。』便聞其兒言語周正、即不見道人^(一八)。

校記 御覽九百二十二。事類賦注十九。○賦注兩本均作「冥驗記」。事文類聚後集四五。事見搜神記二—17。

(一)○賦注劍光閣本引「有」作「生」。(二)○鈎沈「瘡並」作倒、今依正。(三)「一日」二字賦注引有。○劍光閣本引有、但中華書局本引無。(四)「有罪過」三字賦注引有。○劍光閣本引有、但中華書局本引作「君子」、疑有訛誤。(五)○諸本引闕上句、因而「之」作「過」、鈎沈依賦注劍光閣本引作「之」、今從鈎沈。(六)○鈎沈「既」依劍光閣本作「周」、今依諸本引改。(七)○賦注中華書局本引「常」作「其」。劍光閣本引此句作「思之」二字。(八)○「乃」賦注劍光閣本引有、他本引無。(九)○賦注劍光閣本引此句作「都不記憶」。(一〇)○「巢」鈎沈依御覽鮑氏刊本作「窠」、今依御覽四部叢刊本・賦注引改、下同。(一一)○賦注引無「還哺之輒」四字。(一二)○自「屋下」至此、凡十七字、賦注引無。(一三)○賦注中華書局本引「乃」作「因」。(一四)○鈎沈「即」作「既皆」、今依御覽四部叢刊本・賦注中華書局本引改。御覽鮑氏刊本引作「既」。以上三句十一字賦注劍光閣本引作「試各以疾瘡食之、皆死」。(一五)○賦注引「恆」作「常」。(一六)○「既」鈎沈排印本誤作「即」、今依正。(一七)○賦注劍光閣本引「罪」下有「孽」字。(一八)○以上二句十三字、賦注引作「兒即皆能言」。

13 王導、河內人也。兄弟三人、並得時疾、其宅有鵲巢、旦夕翔鳴、聞其誼譟^(一)、俱惡之。念云、差當治此鳥。既差、果張取鵲、斷舌而殺之。兄弟悉得啞疾^(二)。

校記 御覽七百四十引「靈驗記」。

(一)○「聞其」鈎沈依鮑氏刊本作「忽甚」、今依四部叢刊本改。(二)○「啞」鈎沈依鮑氏刊本作「瘡」、今依四部叢刊本。

14 天竺有僧、養一犍牛^(一)。日得三升乳、有一人乞乳、牛曰、「我前身為奴、偷法食。今生以乳饋之^(二)。所給有限、不可分外得也。』

校記 御覽九百。淵鑑四三五牛。

(一)○「一」鈎沈作「二」、今依正。(二)○「饋」鈎沈排印本作「饋」、誤、今依正。

15 有鸚鵡飛集他山^(一)。山中禽獸輒相愛重^(二)。鸚鵡自念雖樂^(三)、不可久也、便去^(四)。後數月^(五)、山中大火^(六)。鸚鵡遙見^(七)、便入水露羽^(八)、飛而灑之^(九)。天神言^(一〇)、「汝雖有志意^(一一)、何足云也^(一二)。』對曰^(一三)、「雖知不能救^(一四)、然嘗僑居是山^(一五)、禽獸行善、皆為兄弟^(一六)、不忍見耳^(一七)。』天神嘉感^(一八)、即為滅火^(一九)。

校記 類聚九十一。初學記三十。六帖九十四(引作出「靈驗記」)。御覽九百二十四。○白帖二九引亦作出「靈驗記」。錦繡萬花谷後集四〇。淵鑑四二一鸚鵡。

(一)○初學記引無「有」。六帖·御覽引無「他山」、白帖引無「他」。(二)○類聚引無「獸」。白帖·六帖引下三字作「有愛重之」。(三)○御覽引無「自念雖樂」。(四)○白帖·六帖引無「鸚鵡」：便「十一」字。(五)

○白帖・六帖引無「數月」、御覽引無「數」。(六)○初學記引無「大」、白帖・六帖引「大」作「有」。(七)○白帖・六帖引無「遙見便」三字。(八)○御覽引「霑」作「沾」、今從類聚等引。(九)○白帖・六帖引無「而」。(一〇)○白帖・六帖引「言」作「曰」。(一一)○初學記・白帖・六帖・御覽引無「意」。(一二)○白帖・六帖引無「也」。(一三)○白帖・六帖・御覽引「對」作「鸚鵡」二字。(一四)○初學記引無「雖」、御覽引作「猶」、而無「救」。白帖・六帖引無此句五字。(一五)○白帖・六帖引無「然」、「是」作「此」。(一六)○白帖・六帖引無此句四字。(一七)○白帖・六帖引「耳」作「加」。(一八)○白帖・六帖引「嘉感」作「感之」。(一九)六帖引作「為雨」。○白帖引亦同。

16

野火焚山。林中有一雉、入水漬羽、飛以滅火^(一)、往來疲乏、不以為苦。

校記 御覽九百十七。

大唐西域記六云、拘尸那揭羅國。大磚精舍側不遠^(二)、有窰堵波、是如來修菩薩行時為群雉王救火之處。昔於此地有大茂林。毛群羽族、巢居穴處、驚風四起、猛焰飄逸^(三)。時有一雉、有懷傷慙、鼓濯清流、飛空奮灑。時天帝釋俯而告曰、汝何守愚、唐勞羽翮^(四)、大火方起、焚燎林野、豈汝微軀所能撲滅。雉曰、說者為誰。曰、我天帝釋耳。雉曰、今天帝釋有大福力、無欲不遂、救災拯難、若指諸掌、反詰無功^(五)、其咎安在。猛火方熾、無得多言。尋復奮飛、往趣流水。天帝遂以掬水泛灑其林、火滅煙消、生類全命。故今謂之救火窰堵坡也。

○*淵鑑四二一雉。

(一)○鈎沈依御覽鮑氏刊本引「以」作「故」、今依四部叢刊本引改。(二)○大唐西域記京大本引無「大磚」二字。(三)○京大本「逸」作「急」。(四)○京大本「唐」作「虛」。(五)○京大本「詰」作「誥」。

17 蟒死于吳末。

校記 梁釋慧皎高僧傳一（引「宋臨川康王宣驗記」云）。

案傳略云、安清字世高、窮理盡性、自識緣業。初高自稱、先身已經出家、有一同學多瞋分衛、高屢訶諫、終不悛改。如此二十餘年、乃與同學詞訣云、我當往廣州、畢宿世之對、卿明經精勤、不在吾後、而性多恚怒、命過當受惡形、我若得道、必當相度。遂適廣州、值寇賊大亂、行路逢一少年、唾手拔刀、曰、真得汝矣。高笑曰、我宿命負卿、故遠來相償。伸頸受刃、賊遂殺之。既而神識還為安息王太子、即今時世高身也。高遊化中國、宣經事畢、值靈帝之末、關雎擾亂、乃振錫江南、云、我當過廬山、度昔同學。行達鄴亭湖廟、此廟舊有威靈、高同旅三十餘船、奉牲請福、神乃降祝曰、舫有沙門、可便呼上。客咸驚愕、請高人廟。神告高曰、吾昔外國與子俱出家學道、好行布施、而性多瞋怒。今為鄴亭廟神、周迴千里、並吾所治。以布施故、珍玩甚豐、以瞋恚故、墮此神報。今見同學、悲欣可言、壽盡旦夕、而醜形長大、若於此捨命、穢汙江湖。當度山西澤中。此身滅後、恐墮地獄、吾有絹千疋、并雜寶物、可為立法營塔、使生善處也。高曰、故來相度、何不出形。神曰、形甚醜異、衆人必懼。高曰、但出、衆不怪也。神從牀後出頭、乃是大蟒、不知尾之長短。至高膝邊、高向之梵語數番。讚唄數契。蟒悲淚如雨、須臾還隱。高即取絹物、辭別而去。舟侶颺帆、蟒復出身、登山而望、衆人舉手、然後乃滅。倏忽之頃、便達豫章。即以廟物為造東寺。高去後、神即命過、暮有一少年上船、長跽高前、受其咒願、忽然不見。高謂船人曰、向之少年、即鄴亭廟神、得離惡形矣。後人於山西澤中、見一死蟒、頭尾數里。今潯陽郡蛇村是也云云。後更引宣驗記言、以備異說。蓋唯蟒死時代、記傳有殊、其餘事跡、並相仿弗耳。

○辯正論七注又云、

梁外兵尚書劉璆晉塔寺記云、沙門安世高者、安息國王之太子也。陰持入經、是其所出也。往豫章、至宮亭湖。廟神告世高曰、『吾昔在外國、出家作道人、好行布施、不持戒。今日在此為宮亭湖神、周圍千里、並吾所統。百姓貢

獻、珍玩無數。是我先身損己之報。若能持戒、福應生天、以毀禁故、墮此神中。師是同學、今得相見、悲欣可言。壽盡旦夕、而醜形長大、不欲於此捨命、穢汚湖水。當度山西空澤之中。此身滅後、恐墮地獄。吾有絹一千匹石函中、并諸雜物、可為我立塔、營建三寶、使我過世得生善處、深以相託。』世高聞此、涕泣流漣。便語神曰、『何不現形、面共言對。』神曰、『毀戒之罪、形甚醜陋、見必驚怖。』世高曰、『但暫現身、吾不懼也。』神從床後出頭、乃是大蟒蛇。至世高膝邊、淚如雨下。不知其尾長短所在。俄而入於床後。世高於是收取絹物、悉內船中、辭別而退。宗侶一時颺帆進路。神復出蛇身、登于山頂、遙望發去、衆人舉手、然後乃滅。倏忽之間、便達豫章。即於彼境以起東寺、神即移度山西過命、頭尾相去、四十餘里。今尋陽郡蛇村是也。世高還都、以廟中餘物、於瓦官寺起塔三層。世高後夢神來報云、『蒙師作福、已離蟒身。』又見宣驗記也。

事又見三寶感通錄下、釋門自鏡錄上、三寶感應要略錄上。參看幽明錄（鈎沈254・133）。按此條系安世高、當在本篇第1條。

18 吳王孫皓、性甚暴虐、作事不近人情。與嫖女看治園地、土下忽得一軀金像、形相麗嚴^(二)。皓令置像廁傍、使持屏籌。到四月八日、皓乃尿像頭上^(三)、笑而言曰、『今是八日、為尔灌頂^(三)。』對諸嫖女、以為戲樂。在後經時、陰囊忽腫。疼痛壯熱、不可堪任。自夜達晨、苦痛求死。名醫上藥、治而轉增。太史占曰、犯大神所為。敕令祈禱靈廟、一禱一劇。上下無計。中宮有一宮人^(四)、常敬信佛、兼承帝之愛^(五)、凡所說事^(六)、往往甚中、奏云、『陛下求佛圖未。』皓問、『佛大神耶。』女曰、『天上天下、尊莫過佛。陛下前所得像、猶在廁傍。請收供養、腫必立差。』皓以痛急、即具香湯、手自洗像、置之殿上、叩頭謝過、一心求哀。當夜痛止、腫即隨消。即於康僧會受五戒、起大市寺^(七)、供養衆僧也。

校記 辯正論七注。○事亦見義楚二引方誌、云、

吳孫皓得金銅佛、尿之灌頂、立感陰腫、痛不可忍。太官卜曰、為犯大神、遍禱神祇。皆不能愈。有宮人事佛、奏請求佛。依言求之、立愈。生信供養。或云僧會奏。

又見旌異記（鈎沈1）、梁高僧傳一康僧會傳。

（一）○大正藏本引「麗」作「明」。 （二）○大正藏本引「尿」作「溺」。 （三）○大正藏本引「尔」作「爾」。
（四）○大正藏本引「宮人」作「嫖女」。 （五）○大正藏本引以上二句作「先奉佛法、內有所知」。 （六）○大正藏本引「說」作「記」。 （七）○大正藏本引「市」作「佛」。

19 孫皓時、有王正辯上事言^{（一）}、佛法宜滅^{（二）}、中國不利胡神^{（三）}。皓便下詔集諸沙門^{（四）}、陳兵圍寺^{（五）}、欲行誅廢之事^{（六）}。調僧會法師曰、「佛若神也、宜崇之。若其無靈、黑衣一日同命。」僧或縊死、或逃於外。會乃請齋、期七日現神^{（七）}。以銅鉢盛水置庭中^{（八）}。中食畢^{（九）}、而曦光暉曜^{（一〇）}、忽聞庭鉢鎗然有聲^{（一一）}。忽見舍利明照庭宇^{（一二）}、浮於鉢上。皓及大眾前看、駭愕失措^{（一三）}。離席改容而進。會曰、「陛下使孟賁之力、擊以百鈞之槌、金剛之質、終不毀破。」皓如言。請先經唄禮拜^{（一四）}、散華燒香。歌唱曰^{（一五）}、「誠運蹤慈氏^{（一六）}、來津未絕、則法輪將轉、徹於靈塗^{（一七）}、威神不少、宜現今日^{（一八）}、不然則三寶永絕。」言畢、壯士運槌生風^{（一九）}、觀者顫慄。而氣竭槌碎^{（二〇）}、舍利不損。光明挺出、輝采充盈^{（二一）}。皓敬伏投誠^{（二二）}、勤營齋講。此塔在建康大市北^{（二三）}。後猶光瑞。元嘉十九年秋、寺剎夜放光明、鮮紅彩發^{（二四）}、有大光俠四層上^{（二五）}、從西繞南。又見一物、如雉尾扇、隨其進止不斷。其夕觀者^{（二六）}、或值或不值。二十許日、都市中咸見剎上有大紫光也^{（二七）}。

校記 辯正論七注、云出「吳錄」及「宣驗記」。○三寶感應要略錄上引云、出「異錄」「宣驗」等記。事見幽明錄（鈎沈269）、文大同。

（一）○略錄引「辯」作「解」、訛。略錄引多訛誤。 （二）○略錄引「滅」作「感」。 （三）○略錄引「利」作

「列」。(四)○略錄引「下」作「一」。以上略錄引皆訛。(五)○鈎沈稿本・辯正論注大正藏本作「寺」、略錄亦作「寺」。鈎沈排印本誤作「守」、今依改。(六)○略錄引無「行」。(七)○論注大正藏本引「神」下有「變」。(八)○「鉢」鈎沈排印本誤作「鉾」、今依正。(九)○略錄引無「中」一字。(一〇)○略錄引「而曦」作「義乃」、有訛。(一一)○略錄引「忽」下有「有」。(一二)○略錄引「庭」作「墀」。(一三)○略錄引「駭」作「驍」、誤。(一四)○略錄引「請」作「調」、疑訛。(一五)○論注大正藏本引作「高唱丹」。(一六)○論注大正藏本「距」作「悼」。略錄引作「蹤」。按此句當有訛。今依略錄引改。(一七)○略錄引「靈」作「幽」。(一八)○略錄引「宜」作「冥」。(一九)○論注大正藏本「運」作「渾」、誤。略錄引「壯」作「在」、「運」作「軍」、皆訛。(二〇)○略錄引「竭」作「端」、誤。(二一)○論注大正藏本作「輝彩充楹」。(二二)○論注・略錄大正藏本引無「敬」。(二三)○略錄引「此」作「石」、「康」作「唐」、後者誤。(二四)○略錄引「紅」作「江」、誤。(二五)○論注大正藏本引「大」作「火」。略錄引此句作「有異火光使四層上」。鈎沈排印本「俠」作「從」、今依論注引改。「俠」當作「挾」。(二六)○論注大正藏本引「不斷其夕」作「不詳其名」。(二七)○自「又見一物」至此、略錄引異文、云、「又以大燒騰光上踊、作大蓮花。遂發信乃為立寺、名為建切、改所住地名佛地矣」。

20 孫祚、齊國沮陽人^(一)。位至太中大夫。少子稚、字法暉、小聰慧奉法^(二)。年十八、晉咸康元年、桂陽郡患亡^(三)。祚以任武昌^(四)、到三年四月八日、廣置法場^(五)、請佛延僧、建齋行道。見稚在衆中翽從像後^(六)。往喚問之^(七)、稚跪拜^(八)、具說興居^(九)。便隨父母歸家^(一〇)。父先有疾、稚云、「無禍祟、到五月當差。」言辭委悉^(一一)、云、「作福^(一二)、可以拔魂免苦^(一三)。」其事不虛。

校記 辯正論七注。○義楚二。

(一)○義楚引無「沮陽」二字。(二)○論注大正藏本引「小」作「少」、當從。義楚引「慧」作「惠」。(三)○義楚引無「郡」、而「患亡」作「病卒」。(四)○義楚引「以」作「後」。(五)○義楚引「場」作「講」。(六)○大正藏本引「翊」作「竝」、義楚引作「翊」。(七)○義楚引作「又問」二字。(八)○義楚引無「稚」。(九)○義楚引無此句四字。(一〇)○義楚引無「便」「母」二字。(一一)○自「稚云」至此、凡十四字、義楚引無。(一二)○義楚引「作」上有「須」。(一三)○義楚引「拔」作「扶」。

21 榮陽人毛德祖^(一)、初投江南、偷道而遁^(二)。逢虜騎所追、伏在道側蓬蒿之內^(三)。草短蒿疏^(四)、半身猶露^(五)、分意受死^(六)。合家默然念觀世音^(七)、俄然雲起雨注、遂得免難也^(八)。

校記 辯正論七注。○義楚二。

(一)○辯正論注大正藏本引無「德」。(二)○大正藏本引「遁」作「道」。義楚引「道」作「路」、「遁」與鈎沈同。(三)○義楚引「蓬蒿之內」作「蒿中」。(四)○義楚引無此句四字。(五)○義楚引「猶」作「將」。(六)○義楚引「意受」作「受其」。(七)○義楚引無「合家」「然」「世」四字。(八)○義楚止作「而免」二字。

22 隊主李儒、後鎮虎牢、為魏虜所圍、危急欲降。夜踰城出、見賊縱橫並臥。儒乃一心念觀世音、便過賊處。趣一燒澤、賊即隨來。儒便入草、未及藏伏。群馬向草、儒大驚恐、一心專念觀音、賊馬忽然自驚走^(一)、因此得脫也。

校記 辯正論七注。○事又見義楚二、未記出處、云、

隊主李儒鎮虎牢關、為魏虜所圍、危急欲降。夜踰城出、見賊縱橫臥地。儒乃一心念觀音、過即入深澤。未及藏身、尋被來逐、欲至群馬向儒、即大驚恐而免。

(一)○大正藏本引「賊馬」作「焉」、而無「走」。

23 晉義熙十一年、太原郡郭宣與蜀郡文處茂、先與梁州刺史楊收敬為友。收敬以害人被幽。宣與處茂同被桎梏。念觀世音十日已後、夜三更、夢一菩薩慰喻之、告以大命無憂。亦覺而鎖械自脫。及曉還著。如是數徧^(二)。此二人相慶發願、若得免罪、各出錢十萬、與上明寺作功德^(三)。共立重誓。少日、俱免。宣依願送錢向寺。處茂違誓不送。盧循起兵^(四)、茂在戎、於查浦為流矢所中。未死之間曰、「我有大罪。」語訖而死也^(四)。

校記 辯正論七注。○大正藏本未記出處。而宋·元·明本均作「宣驗記」。事又見義楚二、此又未記出處、云、晉義熙十一年、太原郭宣、與蜀郡處茂、共梁州刺史楊牧敬為友。敬以害人被禁。事連宣茂、二人念觀音、許錢各十萬與西明寺、作功德。夜夢菩薩、枷鎖解脫。宣依願施錢、筏不還。後遇戎查蒲、被流矢所中、未死曰、「我有大罪」、語訖而死自悔。

(一)○大正藏本引「徧」作「過」。(二)○大正藏本引「寺」上有「西」。(三)○鈎沈排印本「盧」作「虜」、今依正。(四)○大正藏本引無「也」字。

24 宋吳興太守瑯琊王襲之、有學問、愛老莊、而不信佛、唯事宰殺為志。初為晉西省郎中、至好賓客。於內省所養一雙鵝、甚愛翫之、以為得性。夜忽夢鵝口銜一卷書^(二)、可十許紙、取看皆說罪福之事。明旦果見乃是佛經。因遂不殺。篤信過人。後更富貴也。

校記 辯正論七注。○大正藏本未記出處、但宋·元·明本均作出「宣驗記」。義楚二引此事、而未記出處、云宋吳興太守瑯琊王襲之、有學問、愛賓客。於省內養鵝兩頭、甚翫之。欲殺。一夜夢見鵝銜十紙書、受與看之、明善惡之果。元信莊老、不重佛僧。因是發心止殺、後轉貴也。

(一)○句頭當有「欲殺」或「將戮」等語、恐奪。

25 益州刺史郭銓、亡已二十餘年。以元嘉八年、乘輿導從如平生、見形於女婿劉凝之家、曰、『僕謫事未了、努力為作四十九僧會法集齋、乃可得免。』言訖忽然不見(二)。

校記 辯正論七注。○事又見義楚二、未記出處。文大同、但「四十九僧」作「四十」。文末有云、「又張達繫獄、念觀音、獲免解脫」。

(一)○大正藏本引無「言訖」二字、宋・元・明本均有。

26 俞文載鹽於南海、值黑風(一)、默念觀音、風停浪靜、於是獲安。

校記 辯正論七注。○事又見義楚二、文同、但未記出處。

(一)○大正藏本引無「黑」、義楚引同。宋・元・明本均有。

27 程道慧、字文和、武昌人。舊不信佛(一)、世奉道法。沙門乞者、輒詰難之。論云、『若窮理盡性、無過老莊。』後因疾死(二)、見閻羅王、始知佛法可崇。遂即奉佛(三)。

校記 辯正論七注。○事又見義楚二、未記出處、云、

程道惠、字文和、武昌人。不信佛奉道、僧從乞者難之。若窮理盡性、無過莊老。因病卒、見閻羅王、放還信佛。

(一)○大正藏本引「佛」下有「法」。(二)○大正藏本引「疾」作「病」、惟明本作「疾」、可見鈎沈所睹是明

本。(三)○句頭當有「放還」等語。

28 元嘉八年、河東蒲坂城大失火、不可救。唯精舍大小儼然、及白衣家經像、皆不損墜。百姓驚異、倍共發心。
校記 辯正論七注。○事又見幽明錄（鈎沈 271）、冥祥記（鈎沈 127）。

29 陳玄範妻張氏、精心奉佛。恆願自作一金像、終身供養。有願莫從^(一)。專心日久、忽有觀音金像、連光五尺、見高座上。

校記 辯正論七注、云、出「宣驗」「冥祥」等記。○冥祥記（鈎沈 131）。
（一）○鈎沈依明本「莫」作「皆」、大正藏本引作「莫」、今依改。

30 張導母王氏、素篤信。四月八日、齋食、感得舍利、流光出口、輝映食盤。

校記 辯正論七注。

31 鄭鮮、字道子^(一)、善相法^(二)。自知命短、念無可以延^(三)。夢見沙門、問之。須延命也^(四)、可六齋日^(五)、放生念善、持齋奉戒、可以延齡得福也^(六)。因爾奉法^(七)、遂獲長年^(八)。

校記 辯正論七注。○義楚二。廣記一六二。參看冥祥記（鈎沈 77）。

（一）○按「鮮」下當有「之」字。廣記引「鄭」上有「唐」字。義楚引「道子」作「子道」、誤。（二）○義楚引無「相」。（三）○義楚引「無可」作「何」。廣記引作「無以可」。（四）○廣記引「也」作「耶」。（五）○廣記引「六」作「大」。（六）○義楚引「齡」作「命」、而無「得福也」三字。廣記引無「也」。（七）○大正藏本引「因」上有「鮮」字、而無「爾」字。廣記引亦同。義楚引此句作「悟而為之」。（八）○義楚引此句作「後延其壽」。

32 彭城劉式之、常供養一像、無故失去、不知所在。式之夙夜思愆自責、至念冥通。經百日後、其像忽然自現本座^(一)、神光照室。合家驚喜、倍復傾心。

校記 辯正論七注。

(一)○大正藏本引「現」作「見」。

33 劉遺民、彭城人。少為儒生、喪親、至孝以聞。家貧、卜室廬山西林中。體常多病^(一)、不以妻子為心、絕迹往來、精思禪業。半年之中、見眉間相、漸見佛一眼、及髮際二色。又見全身。謂是圖畫。見一道人奉明珠、因遂病差。

校記 辯正論七注。○事又見義楚二、但未記出處、文略同、云、

劉遺民、彭城人。少為儒生、事親至孝。以家貧止室廬山西林寺。多病、不以妻子為心。居、絕跡往來。精思禪業。半年之中、見眉相現、漸見佛一眼及髮、又見全身。為是圖畫。

又見一道人奉明珠一顆、因是病差。

(一)○大正藏本引無「體常」二字、宋·元·明本均有。

34 佛佛虜破冀州、境內道俗、咸被殲戮^(一)。凶虐暴亂、殘殺無厭。爰及關中、死者過半。婦女嬰稚、積骸成山。縱其害心、以為快樂。仍自言曰、「佛佛是人中之佛、堪受禮拜。」便畫作佛像、背上佩之、當殿而坐、令國內沙門^(二)、向背禮像、即為拜我。後因出遊^(三)、風雨暴至^(四)、四面暗塞、不知所歸、雷電震吼、霹靂而死。即葬之後^(五)、就塚霹靂其棺^(六)、引屍出外^(七)、題背為凶虐無道等字^(八)。國人慶快、嫌其死晚。少時、為索頭主涉圭所吞^(九)、妻子被刑戮^(一〇)。

校記 辯正論七注引「宣驗記」、又云、見「蕭子顯齊書」。○義楚二、又云、見「蕭子顯齊書」。

(一)○義楚引「殲」作「殘」。(二)○義楚引「沙門」作「僧」。(三)○義楚引「遊」下有「郊外」二字。(四)○義楚引此句作「逆風暴雨」。(五)○義楚引此句作「尋即葬之」。(六)○義楚引句頭有「又」。(七)○大正藏本引「引」作「烈」。義楚引「出」作「在」。(八)○義楚引「等」作「之」。(九)○大正藏本引「涉」作「沙」。自「少時」至此、凡十字、義楚引無。(一〇)○義楚引「子」下有「並」字。

35 相州鄴城中、有丈六真金立像一軀^(一)。逢丁零軍于^(二)、志性兇悖^(三)、無有信心。乃彎弓射像^(四)、箭中像面^(五)、血下交流。雖加瑩飾、血不能止、其痕終在^(六)。又選五百力士、挽令仆地^(七)、消鑄為銅、擬充器用^(八)。像乃口發大聲^(九)、響烈雷震。力士亡魂喪膽^(一〇)、人皆仆地。迷悶宛轉、怖不能起^(一一)。由是賊侶慙惶^(一二)、歸信者衆。丁零後時著疾^(一三)、被誅而死^(一四)。聞者稱快^(一五)。

校記 辯正論七注。廣記一百十六。○義楚二。古今圖書集成神異典四八。

(一)〔稿本欄外注、下同〕辯正論七注引「銅」作「真金」。○義楚引亦作「真金」、今依改。(二)〔論注〕「賦丁零者」作「逢丁零軍于」。○義楚引同、今依改。(三)〔論注〕「悖」作「勃」。○大正藏本・義楚引「志」均作「至」。(四)○義楚引「像」作「佛」。(五)○鈎沈「面」上奪「箭中像」三字、今依補。義楚引「像」作「佛」。(六)○以上二句、鈎沈依辯正論注作「血痕猶在」、廣記引亦同、今依義楚引補。(七)○鈎沈「挽令」依廣記作「令挽」、今依大正藏本・義楚引改。(八)○義楚引二句八字作「擬令消鑄」四字。(九)○「像」字今依大正藏本・義楚引補。義楚引無「乃口」。(一〇)○義楚引無「喪膽」二字。(一一)○以上二句八字、義楚引無。(一二)○此句鈎沈依廣記引作「由是賊侶慙惶」、今依大正藏本改。(一三)○義楚引無「後時」、而「著」作「得」。(一四)〔論注〕「乃」作「而」。○今依改。義楚引此句作「戮害而死」。(一五)○此句今依義楚引

補。

○ 36 魏陳思王曹植^(一)、曾登魚山^(二)、忽聞巖岫有誦經聲、清婉遼亮^(三)、遠谷流響。遂依擬其聲、而製梵唄、至今傳之。

校記 玄應一切經音義六。慧琳一切經音義二七。事見殷芸小說(鈎沈90)、今本異苑五。

(一) 慧琳本引無「魏」。(二) 慧琳本引「魚」作「漁」。(三) 慧琳本「遼」作「適」。

○ 37 吏部尚書孔瓊、字彥寶、素不信佛、因與范泰、四月八日至瓦官寺、共放生懺悔。死後數旬、託夢與兄弟云、「吾本不信佛、因與范泰放生、乘一善力、今脫苦罪。福報應決定不差。汝當勵心為福、助我興善、可以脫苦。」

校記 義楚二。辯正論七注引瓊別傳、文大同、或此系義楚誤引歟。今暫存於此。論注大正藏本引「兄弟」作「兄子」。

冥祥記

原輯百三十一條及自序 新附三條 凡百三十四條

自序 琰稚年在交趾。彼土有賢法師者、道德僧也。見授五戒、以觀世音金像一軀、見與供養。形製異今、又非甚古、類元嘉中作。鎔鑄殊工、似有真好。琰奉以還都。時年在齟齬、與二弟常盡勤至、專精不倦。後治改弊廬、無屋安設、寄京師南澗寺中。于時百姓競鑄錢、亦有盜毀金像以充鑄者。時像在寺、已經數月。琰晝寢、夢見立于座隅、意甚異之。時日已暮、即馳迎還。其夕、南澗十餘軀像、悉遇盜亡。其後久之、像於曠暮間放光、顯照三尺許地、金輝秀起、煥然奪目。琰兄弟及僕役同覩者十餘人。于時幼小、不即題記、比加撰錄、忘其日月。是宋大明七年秋也。至泰始末、琰移居烏衣、周旋僧以此像權寓多寶寺。琰時暫游江都、此僧仍適荊楚。不知像處、垂將十載。常恐神寶與因俱絕。宋升明末、游蹟峽表、經過江陵^(一)、見此沙門、迺知像所。其年、琰還京師、即造多寶寺訪焉。寺主愛公、云無此寄像。琰退慮此僧孟浪、將遂失此像、深以惆悵。其夜、夢人見語云、像在多寶、愛公忘耳、當為得之。見將至寺、此人手自開殿^(二)、見像在殿之東眾小像中、的的分明。詰旦造寺、具以所夢請愛公。愛公乃為開殿、果見此像在殿之東、如夢所覩。遂得像還。時建元元年七月十三日也。像今常自供養^(三)、庶必永作津梁。循復其事^(四)、有感深懷、沿此徵覲、綴成斯記。夫鏡接近情、莫踰儀像、瑞驗之發、多自此興。經云、鎔斲圖續類形相者^(五)、爰能行動、及放光明。今西域釋迦彌勒二像、暉用若冥^(六)、蓋得相乎。今華夏景楷^(七)、神應亟著、亦或當年群生、因會所感、假馮木石、以見幽異、不必尅由容好而能然也。故沈石浮深、實聞閩吳之化、塵金瀉液^(八)、用舒彭宋之禍^(九)。其餘銓示繁方、雖難曲辨^(一〇)、率其大抵^(一一)、允歸自從^(一二)。若夫經塔顯效、旨證亦同、事非殊貫、故繼其末^(一三)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕·又*十四〔百二十卷本二一〕。唐釋道宣三寶感通錄卷二〔中〕。○釋文紀一九引與感通錄略同。

(一)○珠林一七大正藏本引「經」作「徑」。(二)○鈎沈排印本「此」誤作「與」、今依正。(三)〔稿本欄外注〕唐釋道宣三寶感通錄卷二引「像今常自供養」至末。○「像今」作「此像」。珠林一四(二二)引與感通錄引略同。(四)○珠林一七(二五)引「循」作「修」。(五)○感通錄引「斲」作「剗」。(六)〔冥〕一引作「眞」。(稿本欄外注)感通錄「冥」作「眞」、「楷」作「模」。○珠林二五四部叢刊本止作「暉用若冥」、他本均作「暉用若眞」。(七)一引〔感通錄·珠林一四(二二)〕作「今東夏景模」。○珠林一七(二五)引「楷」作「措」。(八)○感通錄引「瀉」作「寫」。(九)〔稿本欄外注〕感通錄作「用綿彭宋之福」。○依大正藏本校勘記、作「綿」者宋·元·明本也。珠林一七大正藏本引「舒」作「紓」。(一〇)○止珠林四部叢刊本二一引作「辨」、他本皆作「辯」。(一一)○珠林一七大正藏本引「抵」作「哲」。(一二)〔稿本欄外注〕感通錄作「允歸日從」。○珠林一七(二五)引「自」作「目」。宋本作「目」。(一三)〔珠林〕又十四引「像今常自供養」已下。○感通錄引此句作「故叶其求」。據大正藏本校勘記、宋本作「故不盡其本」、皆據引用者意而改文也。

1 漢明帝夢見神人形垂二丈、身黃金色、項佩日光。以問群臣。或對曰、「西方有神、其號曰佛、形如陛下所夢、得無是乎」^(一)。於是發使天竺、寫致經像、表之中夏。自天子王侯、咸敬事之。聞人死精神不滅、莫不懼然自失。初使者蔡愔、將西域沙門迦葉摩騰等齋優填王畫釋迦佛像^(二)、帝重之^(三)、如夢所見也。乃遣畫工圖之數本、於南宮清涼臺及高陽門顯節壽陵上供養^(四)。又於白馬寺壁、畫千乘萬騎遶塔三匝之像^(五)、如諸傳備載^(六)。

校記 法苑珠林十三(百二十卷本二一)。三寶感通錄二(中)。○三寶感應要略錄上。

(一)○略錄引無此句。(二)○珠林大正藏本·感通錄引「佛」作「倚」。略錄引無「等」。(三)○略錄引「重」作「主」、誤。(四)○珠林大正藏本引「及」作「乃」、誤。(五)○略錄引「之像」作「遶像亦爾也」。(六)○略錄引「諸」作「法」、句末有「矣」。

2 晉羊太傅祐^(一)，字叔子，泰山人也。西晉名臣，聲冠區夏。年五歲時，嘗令乳母取先所弄指環。乳母曰：『汝本無此，於何取耶。』祐曰：『昔於東垣邊弄之，落桑樹中。』乳母曰：『汝可自覓。』祐曰：『此非先宅，兒不知處。』後因出門游望，逕而東行^(二)。乳母隨之。至李氏家，乃入至東垣樹下^(三)，探得小環。李氏驚恨曰^(四)：『吾子昔有此環，常愛弄之。七歲暴亡。亡後不知環處。此亡兒之物也，云何持去。』祐持環走。李氏遂問之^(五)。乳母既說祐言。李氏悲喜，遂欲求祐，還為其兒。里中解喻，然後得止。祐年長，常患頭風。醫欲攻治。祐曰：『吾生三日時，頭首北戶，覺風吹頂，意其患之，但不能語耳。病源既久，不可治也。』祐後為荊州都督、鎮襄陽，經給武當寺殊餘精舍。或問其故，祐默然。後因懺悔，敘說因果。乃曰：『前身承有諸罪，賴造此寺，故獲申濟，所以使供養之情偏慇懃重也^(六)。』

校記 法苑珠林二十六(百二十卷本三五)。○*義楚四引珠林。事之前半又見搜神記一五—369、晉書羊祐傳、及廣記三八七引獨異記。

(一)○珠林大正藏本引「祐」作「祐」。下同。(二)○珠林大正藏本引「逕」作「遙」。(三)○珠林大正藏本引「下」作「中」。(四)○珠林大正藏本引「氏」作「家」、「悵」作「異」。(五)○鈎沈依珠林四部叢刊本作「遂」、今依大正藏本引改。(六)○珠林大正藏本引「慇懃」作「殷勤」。

3 晉沙門仕行者^(一)、潁川人也。姓朱氏。氣志方遠，識宇沈正，循心直詣^(二)，榮辱不能動焉。時經典未備，唯有小品、而章句闕略，義致弗顯。魏甘露五年，發迹雍州、西至于闐，尋求經藏。踰歷諸國。西域僧徒、多小乘學，聞仕行求方等諸經，咸駭怪不與。曰：『邊人不識正法，將多惑亂。』仕行曰：『經云、千載將末^(三)，法當東流。若疑非佛說，請以至誠驗之。』乃焚柴灌油。烟炎方盛，仕行捧經，涕淚稽顙^(四)，誓曰：『若果出金口，應宣布漢地。諸佛菩薩、宜為證明。』於是投經火中，騰燎移景。既而一積煨盡，文字無毀，皮牒若故。舉國欣敬，因留供養。遣弟子法饒、齋

送梵本、還至陳留浚儀倉垣諸寺出之^(五)、凡九十篇、二十萬言。河南居士竺叔蘭、練解方俗、深善法味、親共傳釋、今放光首品是也。仕行八十乃亡、依闍維之火滅。經日屍形猶全。國人驚異、皆曰、若真得道法、當毀壞。應聲碎散。乃斂骨起塔。慧志道人先師相傳。釋公亦具載其事也。

校記 法苑珠林二十八(百二十卷本三七)。○事又見慧皎高僧傳四朱士行傳。祐錄一三朱士行傳。內典錄二。三寶感通錄下。義楚一〇。

(一)(稿本欄外注)慧皎高僧傳作「士行」。○珠林大正藏本引「沙門仕行」作「仕行沙門」、鈎沈依百二十卷本。(二)○珠林四部叢刊本引「循」作「修」。(三)○珠林大正藏本「載」下有「後」字。(四)○珠林大正藏本引「涕淚」作「涕流」。(五)(稿本欄外注)高僧傳云、「陳留倉垣水南寺」。○鈎沈「諸」作「詩」、未知何據、今依珠林大正藏本・四部叢刊本改。

4 晉趙泰、字文和、清河貝丘人也。祖父京兆太守^(一)。泰郡舉孝廉^(二)、公府辟、不就。精思典籍^(三)、有譽鄉里。當晚乃膺仕^(四)、終於中散大夫^(五)。泰年三十五時、嘗卒心痛、須臾而死。下屍於地、心煖不已^(六)、屈伸隨人^(七)。留屍十日^(八)。平旦、喉中有聲如雨^(九)。俄而蘇活^(一〇)。說初死之時、夢有一人、來近心下。復有一人、乘黃馬。從者二人、來扶泰腋^(一一)。徑將東行、不知可幾里。至一大城、崔嵬高峻^(一二)。城色青黑、狀錫^(一三)。將泰向城門人^(一四)。經兩重門、有瓦屋可數千間^(一五)。男女大小、亦數千人、行列而立^(一六)。吏著皂衣。有五六人條疏姓字^(一七)、云當以科呈府君。泰名在三十^(一八)。須臾、將泰與數千人男女、一時俱進。府君西向坐、簡視名簿訖^(一九)、復遣泰南入黑門^(二〇)。有人著絳衣坐大屋下、以次呼名、問生時所事^(二一)。『作何孽罪^(二二)、行何福善。諦汝等辭、以實言也^(二三)』。此恆遣六部使者、常在人間^(二四)、疏記善惡、具有條狀。不可得虛。『泰答、』父兄仕宦、皆二千石。我少在家、修學而已、無所事也、亦不犯惡。』乃遣泰為水官監作使^(二五)、將二千餘人運沙裨岸、晝夜勤苦。後轉泰水官都督、知諸獄事。給泰馬兵、令案行

地獄。所至諸獄、楚毒各殊。或針貫其舌、流血竟體。或被頭露髮、裸形徒跣、相牽而行。有持大杖^(二六)、從後催促。鐵牀銅柱、燒之洞然、驅迫此人^(二七)、抱臥其上。赴即焦爛^(二八)、尋復還生。或炎爐巨鑊^(二九)、焚煮罪人。身首碎墮^(三〇)、隨沸翻轉。有鬼持叉、倚于其側。有三四百人、立于一面、次當入鑊、相抱悲泣。或劍樹高廣^(三一)、不知限量^(三二)。根莖枝葉^(三三)、皆劍為之。人眾相訾、自登自攀、若有欣意^(三四)。而身首割截^(三五)、尺寸離斷。泰見祖父母及二弟^(三六)、在此獄中。相見涕泣。泰出獄門、見有二人齎文書來、語獄吏^(三七)、言有三人、其家為其於塔寺中懸幡燒香、解救其罪、可出福舍。俄見三人、自獄而出、已有自然衣服、完整在身。南詣一門、云名開光大舍^(三八)、有三重門、朱采照發。見此三人、即入舍中。泰亦隨入。前有大殿、珍寶周飾、精光耀目。金玉為牀。見一神人、姿容偉異、殊好非常、坐此座上。邊有沙門立侍、甚眾^(三九)。見府君來、恭敬作禮。泰問此是何人、府君致敬。吏曰、『號名世尊、度人之師、有願令惡道中人皆出聽經^(四〇)。』時云有百萬九千人^(四一)、皆出地獄、入百里城。在此到者、奉法眾生也^(四二)。行雖虧殆、尚當得度、故開經法。七日之中、隨本所作善惡多少^(四三)、差次免脫。泰未出之頃、已見千人^(四四)、升虛而去。出此舍^(四五)、復見一城、方二百餘里、名為受變形城。地獄考治已畢者、當於此城、更受變報。泰入其城、見有土瓦屋數千區、各有坊巷^(四六)。正中有瓦屋高壯、闌檻采飾。有數百局吏、對校文書云、殺生者當作蜉蝣、朝生暮死。劫盜者當作豬羊、受人屠割。姪佚者作鶴驚麋^(四七)、兩舌者作鴛鴦鵲^(四八)。捍債者為驢騾牛馬^(四九)。泰案行畢、還水官處。主者語泰、『卿是長者子^(五〇)、以何罪過、而來在此。』泰答、『祖父兄弟、皆二千石。我舉孝廉^(五一)、公府辟不行^(五二)。修志念善、不染眾惡。』主者曰、『卿無罪過^(五三)、故相使為水官都督。不爾、與地獄中人無以異也。』泰問主者曰、『人有何行、死得樂報。』主者唯言^(五四)、『奉法弟子、精進持戒、得樂報、無有謫罰也^(五五)。』泰復問曰、『人未事法時、所行罪過、事法之後、得以除不^(五六)。』答曰、『皆除也。』語畢、主者開籐篋、檢泰年紀^(五七)、尚有餘算三十年在。乃遣泰還。臨別、主者曰、『已見地獄罪報如是、當告世人、皆令作善。善惡隨人^(五八)、其猶影響^(五九)、可不慎乎。』時親表內外侯視泰者、五六十人、同聞泰說。泰自書記、以示時人。時晉太始五年七月十三日也。乃為祖父母二弟延請僧眾、大設福會。

皆命子孫改意奉法、課勸精進^(六〇)。時人聞泰死而復生^(六一)、多見罪福^(六二)、互來訪問。時有太中大夫武城孫豐、關內侯常山郝伯平等十人^(六三)、同集泰舍^(六四)、款曲尋問、莫不懼然、皆即奉法也^(六五)。

校記 法苑珠林七(百二十卷本一二)。廣記三百七十七。○事又見幽明錄(鈎沈247)。*法苑珠林六引趙泰傳。

- (一)〔京兆〕廣記引作「清河」。○廣記諸本皆作「京兆」、鈎沈誤記。(二)○珠林大正藏本・廣記引「舉」作「察」。(三)○廣記引「典籍」作「聖典」。(四)○珠林引「當」作「嘗」。廣記引無「膺」。(五)○廣記引無「於」。(六)○廣記引「已」作「冷」。(七)○珠林大正藏本・廣記引「伸」作「申」。廣記引「人」作「意」。(八)○廣記引「留屍」作「既死」。(九)○廣記引「平旦」作「忽然」。(一〇)○珠林大正藏本・廣記引「蘇」作「蘇」。(一一)○珠林大正藏本引此句作「扶策泰掖」。廣記汪氏校語云、「腋原作脹、據明鈔本改」。廣記鈔宋本引「脹」作「服」。(一二)○珠林大正藏本・廣記引「鬼」作「宰」。(一三)○廣記引作「城邑青黑色」。○珠林・廣記諸本皆作「城邑」、鈎沈或以意改作「城色」。(一四)○廣記引句頭有「遂」字。(一五)○廣記引「屋」作「室」。(一六)○廣記引無「立」。(一七)○廣記鈔宋本引「疏」作「數」。(一八)○珠林大正藏本引「三」作「二」。(一九)○廣記引「簡」作「閱」。(二〇)○廣記引「黑」作「里」。(二一)○廣記引無「所事」。(二二)〔孽〕字依廣記引補。○〔孽〕廣記黃刻本引有、他本無。珠林引作「作何罪」、廣記談刻本・汪校本均作「何作罪」。(二三)○廣記引無「辭」。(二四)○廣記引無「常」。(二五)○廣記引「使」作「吏」。(二六)○廣記引「杖」作「仗」。(二七)○廣記黃刻本引「迫」作「道」、誤。(二八)○珠林大正藏本引「赴」作「起」。(二九)○廣記引「爐」作「鑪」。廣記鈔宋本引「炎」作「炙」。(三〇)○鈎沈「墜」作「墮」、今依諸本改。(三一)○廣記引有此字(廣)。(三二)○珠林大正藏本・廣記引「量」作「極」。(三三)○珠林大正藏本引「根」誤作「限」。(三四)〔欣意〕廣記引作「欣競」。○珠林大正藏本亦同。(三五)○廣記引「首」作「體」。(三六)○廣記鈔宋本引無「母」。(三七)○廣記引「語」作「說」。

(三八)○廣記引無「云」。(三九)○廣記引「侍」作「倚」。(四〇)○珠林大正藏本・廣記引「願」作「頃」。
 (四一)○廣記引無「云」、「百」兩字。(四二)○珠林大正藏本「生」作「坐」。(四三)○「所」鈎沈排印
 本誤作「城」、今依正。(四四)○珠林大正藏本・廣記引「十」作「千」、今從改。(四五)○廣記黃刻本引「出」
 作「之」。(四六)○坊巷廣記引作「房舍」○珠林大正藏本作「房巷」。(四七)○珠林大正藏本「洸」作「洸」、
 廣記引作「逸」。廣記鈔宋本引「驚」作「驚」。廣記引「鷹」作「鷹」。(四八)○廣記引無「者」、「鷄」作「鷄」。
 (四九)○廣記鈔宋本・黃刻本引「捍」作「捍」、誤。(五〇)○珠林引作「長」、廣記引作「誰」、鈔宋本引無
 「誰」。(五一)○珠林引無「廉」、依廣記引補。(五二)○珠林大正藏本引「辟」作「辭」。(五三)○廣
 記引無「過」、鈔宋本引有。(五四)○廣記引「唯言」作倒。(五五)○鈎沈排印本「謫」作「滴」、今依正。
 (五六)○珠林引作「得除以不」、廣記引作「得以除否」。(五七)○廣記引無「泰」。(五八)○廣記鈔宋本
 引無「惡」。(五九)○廣記鈔宋本引「其」作「具」。(六〇)○廣記引「勸」作「觀」。(六一)○廣記引
 「時」作「土」。(六二)○廣記談刻本引「福」誤作「復」。(六三)○珠林大正藏本引「山」作「共」。(六
 四)○廣記引「舍」作「會」。(六五)○珠林大正藏本・廣記引無「也」。

5 晉沙門支法衡、晉初人也^(一)。得病旬日亡。經三日而蘇活^(二)。說死時、有人將去、見如官曹舍者數處、不肯受之。
 俄見有鐵輪、輪上有鐵爪^(三)、從西轉來。無持引者、而轉駛如風。有一吏呼罪人當輪立、輪轉來轢之、翻還如此、數人
 碎爛。吏呼衡道人來當輪立。衡恐怖自責、悔不精進、今當此輪乎。語畢^(四)、吏謂衡曰^(五)、「道人可去。」於是仰
 首^(六)、見天有孔、不覺倏爾上昇。以頭穿中、兩手搏兩邊、四向顧視、見七寶宮殿^(七)、及諸天人。衡甚踊躍、不能得
 上。疲而復還下^(八)、所將衡去人笑曰、「見何等物^(九)、不能上乎。」乃以衡付船官。船官行船、使為柁工。衡曰、「我
 不能持柁。」強之。有船數百、皆隨衡後。衡不曉捉柁、踰沙洲上。吏司推衡、「汝道而失^(一〇)、以法應斬。」引衡上岸、

雷鼓將斬^(二)。忽有五色二龍、推船還浮。吏乃原衡罪^(三)。載衡北行。三十許里、見好村岸、有數萬家、云是流人。衡竊上岸。村中饒狗、牙欲齧之^(四)。衡大恐懼。望見西北有講堂、上有沙門甚衆、聞經唄之聲。衡遽走趣之。堂有十二階。衡始躡一階^(五)、見亡師法柱踞胡床坐。見衡曰、『我弟子也、何以而來。』因起臨階^(六)、以手巾打衡面、曰、『莫來。』衡甚欲上、復舉步登階。柱復推令下。至三乃止^(七)。見平地有井一口^(八)、深三四丈、塹無隙際。衡心念言、此井自然。井邊有人謂曰、『不自然者、何得成井。』雖見法柱^(九)、故倚望之、謂衡、『可復道還去、狗不齧汝。』衡還水邊、亦不見向來船也。衡渴欲飲水、乃墮水中、因便得穌。於是出家、持戒菜食。晝夜精思^(一〇)、為至行沙門。比丘法橋、衡弟子也^(一一)。

校記 珠林七(百二十卷本一二)。○廣記三八二。*釋門自鏡錄上。

- (一)○廣記引無此句四字。自鏡錄引作「釋法衡、未詳氏族、雖懷慕道、不甚精勤。」(二)○廣記引無「活」。
(三)○廣記引無「鐵」。(四)○自鏡錄引此句作「乃至心念佛」。(五)○「吏」今依廣記引補。(六)○廣記鈔宋本引「首」作「視」。(七)○廣記引「宮殿」作「官船」、但鈔宋本作「宮殿」。(八)○廣記引無「還」。
(九)○廣記引無「等」。(一〇)○廣記引無此句四字。(一一)○廣記鈔宋本引「雷」作「當」。(一二)○廣記引「衡罪」作「之」。(一三)○珠林大正藏本引「牙」作「互」。自「載衡北行」至此、凡三十二字、廣記奪之。(一四)○廣記引無「衡」。(一五)○珠林大正藏本引「因」作「回」。(一六)○廣記引「止」作「上」。
(一七)○廣記引「井一口」作「一井」。(一八)○珠林大正藏本引「雖」作「唯」。(一九)○廣記引「晝」作「盡」、但鈔宋本作「晝」。(二〇)○自鏡錄引無以上二句。

6 晉安羅江縣、有霍山、其高蔽日。上有石杆^(一)、面徑數丈。杆中泉水、深五六尺、經常流溢。古老傳云、列仙之所游餌也。有沙門釋僧群、隱居其山、常飲此水、遂以不飢、因而絕粒。晉安太守陶夔^(二)、聞而求之。群以水遺陶、出

山輒臭。陶於是越海造山。于時天景澄朗。陶踐山足、便風雨晦暝。如此者三、竟不得至。群所栖營^(三)、與泉隔一澗。旦夕往還、以一木為梁。後旦將渡^(四)、輒見一折翅鴨、舒翼當梁、頭逆喙。僧群永不得過。欲舉錫撥之、恐其墜死。於此絕水、俄而飢卒。時傳云、年百四十。群之將死、為眾說云、『年少時嘗打折一鴨翅、將或此鴨因緣之報乎。』

校記 珠林六十三(百二十卷本七九)。○釋門自鏡錄下。事又見異苑(今本五)、高僧傳一二(又廣記一三二引)。

*義楚二十二引珠林。

釋門自鏡錄卷下云、釋僧群、未詳何人。清貧守節、蔬食誦經。後居蘆山、山孤在海中、上有石孟、徑數丈許、水六七尺、常有清流。古老相傳、群仙所居、飲水不飢、因絕粒。群庵舍與孟隔小澗、常以一木為梁、由之汲水。後時忽有一折翅鴨、舒翼當梁、頭就喙。群欲即舉杖撥之、忽憶少年時、經折一鴨翅、自驗以為見報、乃絕飲而終。臨終向人具說而已。

(一)〔稿本欄外注〕高僧傳「石杵」作「石孟」、疑「杵」是「杆」字之訛。○珠林大正藏本亦作「杆」、今依改、下同。(二)〔稿本欄外注〕高僧傳云「陶夔」。○大正藏本引亦同。四部叢刊本引作「陶憂」。未知作「夏」之本。今從大正藏本。(三)鈎沈作「營」、未知何據。珠林兩本、均作「策」、今暫從鈎沈。(四)○珠林大正藏本引「旦」作「且」。

7 晉沙門佛調、不知何國人。往來常山積年、業尚純朴、不表辭飾、時咸以此重之。常山有奉法者兄弟二人、居去寺百里。兄婦病甚篤^(一)、載出寺側、以近醫藥。兄既奉調為師、朝晝常在寺中、諮詢行道。異日調忽往其家、弟具問嫂所苦^(二)、并審兄安否。調曰、『病者羸可、卿兄如常。』調去後、弟亦策馬繼往、言及調旦來、兄驚曰、『和尚旦初不出寺、汝何容相見。』兄弟爭問調、調笑而不答、咸共異焉。調或獨入深山、一年半歲^(三)、齎乾飯數升^(四)、還恆有餘^(五)。有人嘗隨調山行數十里^(六)。天暮大雪、調入石穴虎窟中宿。虎還橫臥窟前。調語曰、『我奪汝居處、有愧如何。』虎弭耳

下山。隨者駭懼。調自剋亡期、遠近悉至。乃與訣曰^(七)、『天地長久、尚有崩壞。豈況人物、而欲永存。若能盪除三垢、專心真淨、形數雖乖、而神會必同。』衆咸涕流。調還房端坐、以衣蒙頭、奄然而終。終後數年、調白衣弟子八人、入西山伐木^(八)、忽見調在高巖上、衣服鮮明、姿儀暢悅。皆驚喜作禮、問、『和尚尚在此耶。』答曰、『吾常自在耳。』具問知故消息、良久乃去。八人便捨事還家、向同法者說、衆無以驗之。共發冢開棺、不見其屍。

校記 珠林二十八(百二十卷本三七)。○事見高僧傳九。今依稿本欄外注云、「高僧傳在載耆域之前、當修正」、移為第7。又見三寶感通錄下。

(一)○珠林大正藏本「婦」作「嫂」。(二)○珠林四部叢刊本「嫂」作「嫂」。(三)○大正藏本「半歲」作「餘半」。(四)○大正藏本「升」作「斗」。(五)○大正藏本「恆」作「常」。(六)○大正藏本「嘗」作「常」。(七)○大正藏本「與」作「興」。(八)○大正藏本「木」作「材」。

8 晉沙門耆域者、天竺人也^(一)。自西域浮海而來、將游關洛、達舊襄陽、欲寄載船北渡。船人見梵沙門衣服弊陋、輕而不載。比船達北岸、耆域亦上。舉船皆驚。域前行、有兩虎迎之、弭耳掉尾、域手摩其頭、虎便入草。於是南北岸奔往請問、域曰無所應答^(二)。及去、有數百人追之、見域徐行、而衆走猶不及。惠帝末、域至洛陽。洛陽道士悉往禮焉。域不為起。譯語譏其服章曰、『汝曹分流佛法、不以真誠、但為浮華、求供養耳。』見洛陽宮、曰、『忉利天宮、髣髴似此。當以道力成就、而生死力為之、不亦勤苦乎。』沙門支法淵^(三)法興、並年少。後至、域為起立。法淵作禮訖、域以手摩其頭曰、『好菩薩、羊中來。』見法興入門、域大欣笑、往迎作禮。捉法興手、舉著頭上、曰、『好菩薩、從天人中來。』尚方中有一人、廢病數年、垂死。域往視之、謂曰、『何以墮落、生此憂苦。』下病人於地、臥單席上、以應器置腹上、紵布覆之。梵唄三偈訖、為梵咒可數千語。尋有臭氣滿屋。病人曰、『活矣。』域令人舉布、見應器中如汙泥者^(四)。病人遂瘞^(五)。長沙太守滕永文、先頗精進。時在洛陽、兩腳風攣經年。域為咒、應時得申、數日起行。滿水寺

中有思惟樹^(五)、先枯死、域向之咒、旬日、樹還生茂。時寺中有竺法行善談論、時以比樂令。見域、稽首曰、『已見得道證、願當稟法^(六)。』域曰、『守口攝意、身莫犯、如是行者、度世去。』法行曰、『得道者當授所未聞。斯言、八歲沙彌亦以之誦^(七)、非所望於得道者。』域笑曰、『如子之言、八歲而致誦、百歲不能行。人皆知敬得道者、不知行之即自得。以我觀之易耳。妙當在君、豈慍未聞。』京師貴賤、贈遺衣物、以數千億萬、悉受之。臨去、封而留之、唯作幡八百枚、以駱駝負之先遣、隨估客西歸天竺。又持法興一納袈裟隨身。謂法興曰、『此地方大為造新之罪、可哀如何^(八)。』域發、送者數千人。於洛陽寺中中食訖、取道。人有其日發長安來、見域在長安寺中。又域所遣估客及駱駝奴達燉煌河上、逢估客弟於天竺來、云近燉煌寺中見域。弟子瀑登者云、於流沙北逢域、言語款曲、計其旬日、又域發洛陽時也。而其所行蓋已萬里矣。

校記 珠林二十八(百二十卷本三七)。○事見高僧傳九(珠林六一(七六)亦引)。又見三寶感通錄下。

(一)○感通錄作「晉武帝太康中、沙門耆域者、西域人」。(二)○「日」珠林大正藏本・四部叢刊本均作「日」、

鈎沈以意改。(三)○珠林大正藏本「者」作「苦」。(四)○珠林大正藏本「瘡」作「差」。(五)○珠林大

正藏本「滿」作「兩」、高僧傳亦作「滿」。(六)○「稟」鈎沈作「秉」、未知何據、今依珠林兩本引改。(七)

○鈎沈排印本「八」誤作「人」、今正。(八)○感通錄句下有「及晉亂鼎沸、斯言不朽」九字。

9 晉犍陀勒、不知何國人也。嘗游洛邑、周歷數年。雖敬其風操、而莫能測焉。後語人曰、盤鵠山中有古塔寺^(一)、若能修建、其福無量。衆人許之、與俱入山。既至、唯草木甚蕪、莫知基朕。勒指示曰、『此是寺基也。』衆試掘之、果得塔下石礎。復示講堂、僧房、井竈。開鑿尋求、皆如其言。於是始疑其異。寺既修復^(二)、勒為僧主。去洛百里。每朝至洛邑、赴會聽講竟、輒乞油一鉢、擎之還寺。雖復去來早晚、未曾失中晡之期。有人日能行數百里者、欲隨而驗之。乃與俱發^(三)、此人馳而不及、勒顧笑曰、『汝執吾袈裟、可以不倦。』既持衣後、不及移晷、便已至寺。其人休息數日

乃還。方悟神人。後不知終。

校記 珠林二十八〔百二十卷本三七〕。○事見高僧傳一〇。又見三寶感通錄下（略）。

（一）〔稿本欄外主〕高僧傳「鷗」作「鷁」。○珠林四部叢刊本作「鷁」、鷁字異體。（二）○珠林大正藏本「修」下有「復」、今依補。（三）○大正藏本「俱」下有「發」、今依補。

10 晉抵世常、中山人也。家道殷富。太康中、禁晉人作沙門。世常奉法精進、不懼憲網^(一)、潛於宅中起立精舍、供養沙門、于法蘭亦在焉。僧衆來者、無所辭卻。有一比丘、姿形頑陋、衣服塵敝^(二)、跋涉塗濘、來造世常。常出為作禮、命奴取水、為其洗足。比丘曰、「世常應自洗我足^(三)」。常曰、「年老疲瘵^(四)、以奴自代」。比丘不聽。世常竊罵而去、比丘便見神足^(五)、變身八尺、顏容瓌偉^(六)、飛行而去。世常撫膺悔歎、自撲泥中。時抵家僧尼及行路者五六十人、俱得望視、見在空中數十丈上、了了分明。奇芬異氣、經月不歇^(七)。法蘭即名理法師見宗者也。有記在後卷傳。蘭以語於弟子法階、階每說之、道俗多聞^(八)。

校記 珠林二十八〔百二十卷本三七〕。○*珠林五四〔六七〕。事又見三寶感通錄下、文亦與珠林五四同。*義楚一九引三寶感通錄。

（一）○珠林五四引有此句、今依補。（二）○珠林大正藏本引「敝」作「弊」。珠林五四引亦同。（三）○珠林五四引作「常自洗之。何用奴也。」（四）○珠林五四引此句作「死病」二字。（五）○大正藏本「見」作「現」。珠林五四引亦同。（六）○珠林五四引作「容儀光偉」。（七）○珠林五四・感通錄引至此為止。（八）○大正藏本文末有「矣」。

11 晉沙門康法朗、學於中山。永嘉中、與四比丘西入天竺^(一)。行過流沙、千有餘里。見道邊敗壞佛圖、無復堂殿、

蓬蒿沒人。法朗等下拜瞻禮^(三)，見有二僧、各居其一^(四)，一人讀經、一人患病。穢汗盈房。其讀經者了不營視、朗等惻然興念、留為煮粥、埽除浣濯^(五)。至六日、病者稍困、注痢如泉。朗等共料理之。其夜、朗等並謂病者必不移旦^(六)。至明晨往視^(六)、容色光悅^(七)、痛狀休然^(八)。屋中穢物^(九)、皆是華馨。朗等乃悟是得道冥士以試人也^(一〇)。病者曰、『隔房比丘、是我和尚。久得道慧^(一一)、可往禮覲。』法朗等先嫌讀經沙門無慈愛心、聞已乃作禮悔過。讀經者曰、『諸君誠契并至^(一二)、同當入道。朗公宿學業淺、此世未得願也。』謂朗伴云、『慧此居植根深^(一三)、當現世得願。』因而留之。法朗後還中山為大法師、道俗宗之。

校記 珠林九十五(百二十卷本一一四)。廣記八十九。○*李白詩一八「送通禪師」士贇注云、「沙門康法朗、晉永嘉中人也」。事見高僧傳四高法朗傳。

(一)○珠林大正藏本·廣記引「四」作「一」。(二)○珠林引作「下瞻禮拜」。(三)○珠林大正藏本引「各」上有「僧」、「一」作「傍」、後者廣記鈔宋本亦同、廣記引作「旁」。(四)○珠林大正藏本引「浣」作「澣」。(五)○廣記引「移旦」作「起」、但鈔宋本作「移但」。(六)○廣記引「視」下有「之」。(七)○廣記鈔宋本引「色」作「奘」。(八)○廣記引作「病狀頓除」。(九)○廣記引句頭有「然」。(一〇)○珠林大正藏本引「冥」作「眞」、廣記引作「之」。(一一)○廣記引「慧」作「惠」、但鈔宋本作「慧」。(一二)○汪氏校語云、「諸」原作「請」、據陳校本改。廣記鈔宋本作「諸」。(一三)○珠林大正藏本引「居」作「若」。廣記引「慧此居」作「惠若」。

12 晉竺長舒者、其先西域人也。世有資貨為富人。竺居晉元康中內徙洛陽。長舒奉法精至、尤好誦觀世音經。其後鄰比失火。長舒家悉草屋、又正下風、自計火已逼近、政復出物^(一)、所全無幾、乃敕家人不得輦物^(二)。亦無灌救者。唯至心誦經。有頃、火燒其鄰屋、與長舒隔離、而風忽自迴、火亦際屋而止。于時咸以為靈。里中有輕險少年四五人、共

毀笑之、云、『風偶自轉、此復何神。何時燥夕^(三)、當熱其屋、能令不然者、可也。』其後天甚早燥^(四)、風起亦駛。少年輩密共束炬、擲其屋上。三擲三滅、乃大驚懼、各走還家。明晨、相率詣長舒^(五)、自說昨事、稽顙辭謝。長舒答曰、『我了無神、政誦念觀世音、當是威靈所祐。諸君但當洗心信向耳。』自是鄰里鄉黨咸敬異焉。

校記 珠林二十三(百二十卷本三二)。○*辯正論七注(又廣記一一〇引)引「晉錄」、「冥祥記」。鈎沈第128引辯正論注、異文、參看第128。事見傅亮光世音應驗記(牧田諦亮『六朝古逸觀世音應驗記の研究』昭和四五・平樂寺書店)、法華傳記六亦引法苑珠林二三。

傅亮光世音應驗記云、竺長舒者、其先西域人也。世有資貨為富人。居晉元康中內徙洛陽。長舒奉佛精進、尤好誦光世音經。其後鄰比有火、長舒家是草屋、自計火已逼近、政復出物、所全無幾。光世音經云、若遭火、當一心誦念。乃勅家人不復輦物。亦無灌救者。唯至心誦經。有須火燒其鄰屋、與長舒隔離、而風忽自迴、火亦際屋而止。于時咸以為靈應。里中有凶險少年四五、共毀咲之、云、『風偶自轉、此復何神。何時燥夕、當熱其屋、能令不燃者可也。』其後天甚早燥、風起亦駛。少年輩密共束炬、擲屋上、三擲三滅、乃大驚懼、各還走家。明晨相率詣長舒家、自說昨事、稽顙辭謝。長舒答曰、『我了無神、政誦念光世音、當是威靈所祐。諸君但當洗心信向耳。』鄰里鄉黨咸敬異焉。

(一)○珠林四部叢刊本「政」作「致」。(二)○大正藏本「輦」作「槌」。(三)○大正藏本「時」作「晴」。

(四)○鈎沈排印本「早」作「早」、今正。(五)○大正藏本「長舒」下有「家」。

13 晉潯陽廬山西有龍泉精舍、即慧遠沙門之所立也。遠始南渡、愛其區丘欲創寺宇、未知定方。遣諸弟子訪履林澗、疲息此地。群僧並渴。率同立誓曰、『若使此處、宜立精舍、當願神力、即出佳泉^(一)。』乃以杖掘地、清泉涌出。遂畜為池^(二)。因構堂于其後^(三)。天嘗亢旱、遠率諸僧轉海龍王經、為民祈雨。轉讀未畢、泉中有物、形如巨蛇^(四)、騰空而去。俄爾洪雨四澍、高下普霑^(五)。以有龍瑞、故名焉^(六)。

校記 珠林六十三〔百二十卷本七九〕。○事見高僧傳六釋慧遠傳。

(一)○珠林大正藏本「佳」作「嘉」。(二)○大正藏本「池」作「治」。(三)○大正藏本無「于」。(四)○大正藏本「巨」作「豆」。(五)○大正藏本此句作「澗過離畢」。(六)○大正藏本「故」下有「取」。

14 晉沙門于法蘭、高陽人也。十五而出家。器識沈秀、業操貞整。寺于深巖。嘗夜坐禪、虎入其室、因躡牀前。蘭以手摩其頭、虎奮耳而伏^(一)、數日乃去。竺護、燉煌人也。風神情宇、亦蘭之次。于時經典新譯、梵語數多、辭句煩蕪、章偈不整、乃領其旨要、刊其游文。亦養徒山中。山有清澗、汲漱所資。有採薪者、嘗穢其水、水即竭涸、俄而絕流。護臨澗徘徊、歎曰、『水若遂竭、吾將何資。』言終而清流洋溢、尋復盈澗。並武惠時人也。支道林為之像讚曰、『于氏超世、綜體玄旨。嘉道山澤、仁感虎兕。護公澄寂、道德淵美。微吟空澗、枯泉還水。』

校記 珠林六十三〔百二十卷本七九〕。○于法蘭之事見高僧傳四、竺護事見高僧傳一。

(一)○珠林大正藏本「奮」作「揚」。

15 晉司空盧江何充、字次道、弱而信法、心業甚精。常於齋堂、置一空座^(一)、筵帳精華、絡以珠寶、設之積年、庶降神異。後大會道俗、甚盛。坐次一僧、容服羸垢、神情低陋、出自眾中、逕升其座、拱默而已、無所言說。一堂怪駭、謂其謬僻。充亦不平^(二)、嫌於顏色。及行中食、此僧飯於高座、飯畢、提鉢出堂。顧謂充曰、『何侯徒勞精進^(三)。』因擲鉢空中、陵空而去^(四)。充及道俗、馳遽觀之。光儀偉麗、極目乃沒。追共惋恨、稽顙累日。

校記 法苑珠林四十二〔百二十卷本五五〕。○事又見三寶感通錄下。

(一)○珠林四部叢刊本無「一」。(二)○珠林大正藏本「平」作「悅」。(三)○大正藏本「侯」作「俟」、誤。而無「徒」。(四)○大正藏本「空」作「虛」。

16 晉尼竺道容、不知何許人。居于烏江寺^(一)。戒行精峻、屢有徵感。晉明帝時、甚見敬事。以華籍席、驗其所得、果不萎焉。時簡文帝事清水道、所奉之師、即京師所謂王濛陽也。第內具道舍^(二)、容亟開化^(三)、帝未之從。其後帝每入道屋、輒見神人為沙門形、盈滿室內、帝疑容所為、因事為師、遂奉正法。晉氏顯尚佛道、此尼力也。當時崇異、號為聖人。新林寺即帝為容所造也。孝武初、忽而絕迹、不知所在。乃葬其衣鉢、故寺邊有冢在焉^(四)。

校記

珠林四十二(百二十卷本五五)。○事又見比丘尼傳一。

(一)○珠林大正藏本「于」作「乎」。(二)○大正藏本「弟」作「第」、「其」作「具」。比丘尼傳作「第內為立道舍」、今依大正藏本改。(三)○大正藏本「客亟」作「容函」、不從。(四)○大正藏本「在焉」作「云」一字、比丘尼傳亦同。

17 晉闕公則^(一)、趙人也。恬放蕭然、唯勤法事^(二)。晉武之世、死于洛陽。道俗同志、為設會於白馬寺中。其夕轉經。宵分、聞空中有唱讚聲^(三)。仰見一人、形器壯偉、儀服整麗、乃言曰、「我是闕公則、今生西方安樂世界、與諸菩薩共來聽經^(四)。」合堂驚懼、皆得覩見、時復有汲郡衛士度、亦苦行居士也。師於公則、其母又甚信向^(五)、誦經長齋、家常飯僧^(六)。時日將中、母出齋堂、與諸尼僧、逍遙眺望。忽見空中有一物下、正落母前、乃則鉢也。有飯盈焉^(七)、馨氣充敦^(八)。闔堂肅然、一時禮敬。母自分行齋人食之、皆七日不飢^(九)。此鉢猶云尚存此土^(一〇)。度善有文辭^(一一)、作八關懺文。晉末齋者尚用之。晉永昌中死、亦見靈異。有造像者作聖賢傳^(一二)、具載其事云、度亦生西方。吳興王該日燭曰^(一三)、「闕竇登霄^(一四)、衛度繼軌。咸恬以無生、俱蛻骸以不死^(一五)」者也。

校記

珠林四十二(百二十卷本五五)。*三寶感通錄四(大正藏本卷下、多省略)。○衛士度事見異苑五。

(一)○感通錄(以下大正藏本)作「闕公則者」、下同。(二)〔稿本欄外注〕「法事」感通錄引作「法華」。○大

正藏本引作「法事」、校勘記云、元·明本作「法華」。(三)○感通錄引作「空中聞昌薩聲」。(四)○感通錄引「菩薩」作「上人」。(五)○鈎沈排印本「向」誤作「尚」、今依正。(六)○珠林大正藏本引無「家」。(七)○感通錄引「焉」作「滿」。(八)○感通錄引作「香氣充堂」。(九)○感通錄引至此為止。(一〇)○珠林大正藏本引「此」作「北」。校勘記、明本作「此」。(一一)○感通錄引作「土度有文章」。(一二)○鈎沈「造」作「浩」、珠林大正藏本引作「造」、今依改。(一三)○珠林引「日」作「曰」、「曰」作「日」、今從『魯迅輯校古籍叢編』第一卷「古小說鈎沈」(一九九〇·人民文學出版社)。(一四)○珠林大正藏本引「隻」作「叟」。四部叢刊本引「闕」作「鬪」。(一五)○自「作八關懺文」至此、凡六十八字、感通錄引無。

18 晉南陽滕普(一)、累世敬信。妻吳郡全氏、尤能精苦。每設齋會、不逆招請。隨有來者、因留供之。後會僧數闕少、使人衢路要尋。見一沙門、蔭柳而坐、因請與歸。淨人行食、翻飯于地、傾簞都盡、罔然無計。此沙門云、『貧道鉢中有飯、足供一衆。』使普分行、既而道俗內外、皆得充飽。清淨既畢、擲鉢空中、翻然上升、極目乃滅。普即刻木作其形像、朝夕拜禮。普家將有凶禍、則此像必先倒踏云。普子含、以蘇峻之功封東興者也。

校記 珠林四十二(百二十卷本五五)。○事又見三寶感通錄下。「滕普」作「滕並」、含之父也。

(一)○珠林大正藏本引「普」作「並」、下同。

19 沙門竺法進者、開度浮圖主也。聰達多知、能解殊俗之言。京洛將亂、欲處山澤。衆人請留、進皆不聽。大會燒香、與衆告別。臨當布香、忽有一僧來、處上座。衣服塵垢、面目黃腫。法進怪賤、牽就下次、輒復來上。牽之至三、乃不復見。衆坐既定、方就下食、忽暴風揚沙、桺桺傾倒。法進懺悔自責、乃止不入山。時論以為世將大亂、法進不宜入山、又道俗至意、苦相留慕、故見此神異、止其行意也(一)。

校記 珠林四十二(百二十卷本五五)。○事又見三寶感通錄下。

(一)○珠林大正藏本引「也」作「云」。

20 晉周閔^(二)、汝南人也^(三)。晉護軍將軍^(四)。家世奉法^(五)。蘇峻之亂、都邑人士^(六)、皆東西波遷^(六)。閔家有大品一部、以半幅八丈素反覆書之。又有餘經數臺、大品亦雜在其中。既當避難軍行、不能得盡持去、尤惜大品、不知在何臺中^(七)。倉卒應去、不展尋搜^(八)、徘徊歎咤^(九)。不覺大品忽自出外。閔驚喜持去。周氏遂世寶之。今云尚在^(一〇)。一說云、周嵩婦胡母氏、有素書大品。素廣五寸^(一一)、而大品一部盡在焉。又并有舍利、銀甕貯之^(一二)。並緘于深篋^(一三)。永嘉之亂、胡母將避兵南奔^(一四)、經及舍利、自出篋外、因取懷之^(一五)、以渡江東。又嘗遇火、不暇取經。及屋盡火滅、得之於灰燼之下、儼然如故。會稽王道子就嵩、曾云求以供養^(一六)。後嘗暫在新渚寺^(一七)。劉敬叔云、曾親見此經、字如麻大^(一八)、巧密分明^(一九)。新渚寺、今天安是也。此經蓋得道僧釋慧則所寫也^(二〇)。或云、嘗在簡靖寺、靖首尼讀誦之^(二一)。

校記 珠林十八(百二十卷二六)。廣記一百十三。○*三寶感應要略錄中引作出「冥報記」。

(一)○廣記引無「晉」。(二)○廣記引無「也」。(三)○廣記引無「將軍」。(四)○珠林大正藏本·廣記引無「家」。(五)○廣記引無「人士」。(六)廣記引(波遷)作「播遷」。○珠林大正藏本引「波」作「滅」、誤。略錄引「波」作「被」。(七)○珠林大正藏本引「臺」作「囊」、下同。廣記引「臺」作「部」、下同、但鈔宋本引作「臺」。廣記引又「餘」作「他」。(八)廣記引無此句。(九)○珠林大正藏本引「徘徊」作「裴回」。廣記引「咤」作「惋」、但鈔宋本作「咤」。(一〇)○廣記引「今云」作「至今」。略錄引「一說」以下甚簡略。(一一)○廣記引文頭有「其」字、但鈔宋本引無。(一二)○廣記引「貯」作「真」。(一三)○廣記引句末有「中」字、但鈔宋本無。(一四)○廣記引「將」作「氏時」。(一五)○廣記引「取」作「求」、但鈔宋本作「取」。(一

六)○珠林大正藏本引「云」作「雲」、廣記引作「曾孫雲」、但鈔宋本引無「孫」。(一七)○廣記引「嘗」作「常」。(一八)○廣記引「大」作「子」。(一九)○廣記引「巧密」作「點畫」。(二〇)○廣記鈔宋本「蓋」下有「是」字。廣記引無「釋」字。(二一)○今從大正藏本補「誦之」二字。廣記引此句作「道尼轉誦」、而無上句末「寺」字、鈔宋本「轉」作「讀」。

21 晉史世光者、襄陽人也^(一)。咸和八年、於武昌死^(二)。七日、沙門支法山轉小品、疲而微臥。聞靈座上、如有人聲。史家有婢、字張信、見世光在靈上^(三)、著衣衾、具如平生^(四)。語信云、『我本應墮龍中^(五)、支和尚為我轉經^(六)。曇護曇堅迎我上第七梵天快樂處矣。』護堅並是山之沙彌、已亡者也。後支法山復往為轉大品、又來在坐^(七)。世光生時、以二旛供養。時在寺中、乃呼張信、『持旛送我。』信曰、『諾。』便絕死。將信持旛、俱西北飛上一青山、上如瑠璃色^(八)。到山頂、望見天門、世光乃自提旛^(九)、遣信令還、與一青香如巴豆、曰、『以上支和尚。』信未還、便遙見世光直入天門。信復道而還、倏忽醒活^(一〇)、亦不復見手中香也、旛亦故在寺中。世光與信、於家去時^(一一)、其六歲兒見之^(一二)、指語祖母曰、『阿爺飛上天^(一三)、婆為見不^(一四)。』世光後復與天人十餘、俱還其家、徘徊而去。每來必見簪衿、去必露髻。信問之。答曰、『天上有冠、不著此也。』後乃著大冠、與群天人^(一五)、鼓琴行歌、經上母堂。信問何用屢來。曰、『我來、欲使汝輩知罪福也、亦兼娛樂阿母。』琴音清妙、不類世聲^(一六)、家人大小、悉得聞之^(一七)。然聞其聲^(一八)、如隔壁障、不得親察也。唯信聞之、獨分明焉。有頃去、信自送^(一九)。見世光入一黑門^(二〇)、有頃來出^(二一)、謂信曰、『舅在此、日見榜撻^(二二)、楚痛難勝。省視還也。舅生犯殺罪^(二三)、故受此報。可告舅母、會僧轉經、當稍免脫。』舅即輕車將軍報終也^(二四)。

校記 珠林五(百二十卷本八)。廣記一百十二。

(一)○廣記引無「者」「也」。(二)○廣記引作「死於武昌」。(三)○珠林大正藏本引「靈」作「座」。廣記

引「上」作「座」。(四)○廣記引無「恰」。(五)廣記引「龍中」作「獄中」。○廣記鈔宋本作「龍中」。(六)○珠林大正藏本引「和尚」作「和上」、下同。(七)○珠林大正藏本・廣記引「坐」均作「座」。(八)○珠林大正藏本・廣記引無「上」。(九)○珠林引無「世」。廣記引「提」作「持」。(一〇)○珠林大正藏本引「醒」作「蘇」、四部叢刊本作「甦」、廣記引作「乃」。鈎沈作「醒」、未知何據。(一一)○廣記引無「於家」二字。(一二)○廣記引「其」下有「家有」二字。(一三)○珠林大正藏本引「爺」作「郎」、廣記引亦作「爺」、鈔宋本作「耶」。大正藏本校勘記云、明本作「爺」。(一四)○廣記引「不」作「否」。(一五)○汪氏校語云、「此也後乃著」五字、據法苑珠林五補。「人」鈎沈作「神」、未知何據、今依珠林・廣記引改。(一六)○廣記引「世」作「凡」。(一七)○廣記引無「大小」、「得」。(一八)○廣記引無「聞」。(一九)廣記引有「送」字。○珠林大正藏本亦有。(二〇)○珠林引無「世」。(二一)廣記引作「尋即出來」。○廣記鈔宋本引「出來」作「來出」。(二二)○廣記引「榜」作「撈」、但鈔宋本作「榜」。(二三)○珠林大正藏本・廣記引「生」作「坐」。(二四)○汪氏校語云、「輕」字據明鈔本補。鈔宋本引有「輕」字。廣記引無「報終也」三字。

22 晉張應者、歷陽人。本事俗神、鼓舞淫祀。咸和八年、移居蕪湖。妻得病。應請禱備至、財產略盡。妻、法家弟子也、謂曰、「今病日困、求鬼無益、乞作佛事。」應許之。往精舍中、見竺曇鎧。曇鎧曰、「佛如愈病之藥。見藥不服、雖視無益。」應許當事佛。曇鎧與期明日往齋^(一)。應歸、夜夢見一人、長丈餘、從南來。入門曰、「汝家狼藉^(二)、乃爾不淨。」見曇鎧隨後、曰、「始欲發意、未可責之。」應先巧眠覺^(三)、便炳火作高座^(四)、及鬼子母座。曇鎧明往、應具說夢^(五)。遂受五戒、斥除神影^(六)、大設福供。妻病即聞^(七)、尋都除愈^(八)。咸康二年、應至馬溝羅鹽^(九)。還泊蕪湖浦宿^(一〇)。夢見三人、以鋼鈎釣之^(一一)。應曰、「我佛弟子。」牽終不置、曰、「奴叛走多時^(一二)。」應怖謂曰^(一三)、「放我、當與君一升酒調^(一四)。」乃放之。調應、「但畏後人復取汝耳。」眠覺、腹痛泄痢^(一五)、達家大困。應與曇鎧^(一六)、問絕

已久^(二七)。病甚、遣呼之^(二八)、適值不在。應尋氣絕。經日而蘇活^(二九)。說有數人以鋼鈎釣^(三〇)、將北去下一坂岸。岸下見有鑊湯刀劍^(三一)、楚毒之具。應時悟是地獄^(三二)。欲呼師名、忘曇鑑字、但喚、『和尚救我^(三三)』。亦時喚佛。有頃、一人從西面來^(三四)、形長丈餘^(三五)、執金杵、欲撞此鈎人曰^(三六)、『佛弟子也、何人此中^(三七)』。鈎人怖散^(三八)。長人引應去、謂曰、『汝命也盡^(三九)、不復久生。可暫還家。頌唄三偈、并取和上名字、三日當復命過、即生天矣。』應既蘇^(四〇)、即復恍然^(四一)。既而三日^(四二)、持齋頌唄、遣人疏取曇鑑名^(四三)。至日中^(四四)、食畢、禮佛讀唄^(四五)、徧與家人辭別^(四六)。澡洗著衣、如眠便盡^(四七)。

校記 珠林六十二(百二十卷本七八)。○事見廣記一一三引法苑珠林、又見神鬼傳(廣記一〇〇引)、*靈鬼志(鈎沈24、辯正論注七引)。

(一)○廣記引此句作「曇調期明日當往」。(二)○廣記引此句作「此家何」三字。(三)○廣記引作「應眠覺」三字。(四)○廣記引「炳」作「秉」。(五)○廣記引「具說」作「說其」。(六)○廣記引「斥」作「屏」。(七)○廣記引「即」作「有」。(八)○廣記引「都除」作「即全」。(九)○廣記引「糴」作「市」。(一〇)○廣記引「浦」作「夜」。(一一)○鈎沈作「以鏗鈎釣之」、珠林大正藏本作「以鋼鈎釣之」、珠林四部叢刊本作「以鏗鈎釣之」。今從大正藏本、下同。廣記引無「鋼」字。(一二)○廣記引「叛」作「判」、誤。(一三)○廣記引「怖」作「恐」。(一四)○廣記引無「調」。(一五)○廣記引句頭有「釣人」。(一六)○廣記引無「痛」。(一七)○廣記引「與」作「日」。汪氏校語云、「自但畏起十九字、據明鈔本補」。(一八)○廣記引「呼」作「請」。(一九)○廣記引此句作「數日而蘇」。(二〇)○廣記引無「鋼」、而「釣」下有「之」。(二一)○廣記引「岸下見」作「盛」一字。(二二)○廣記引無「時」。(二三)○珠林兩本均作「和尚」、今從。(二四)○廣記引「面來」作「方」。(二五)○廣記引無「形」。(二六)○鈎沈「釣」作「鈎」、今依珠林兩本改、下同。(二七)○

廣記引無自「此釣人」至此、凡十二字。(二八)○廣記引「人」下有「皆」。(二九)○鈎沈「也」作「已」、未知何據。今依珠林兩本改。廣記引無。(三〇)○廣記引「既」作「即復」二字。(三一)○珠林大正藏本「忱」作「休」。廣記引無此句。(三二)○廣記引作「三日之中」。(三三)○廣記引「疏」上有「將」字。(三四)○廣記引奪「中」。(三五)○珠林大正藏本引「讀」作「讚」、廣記引亦同。(三六)○廣記引無「徧」。(三七)○廣記引以上二句作「澡沐冠帶、如睡而亡」。

23 晉董吉者^(一)、於潛人也。奉法三世、至吉尤精進。恆齋戒誦首楞嚴經^(二)。村中有病、輒請吉讀經、所救多愈。同縣何晃者、亦奉法士也^(三)。咸和中^(四)、卒得山毒之病、守困^(五)。晃兄惶遽、馳往請吉。董何兩舍、相去六七十里。復隔大溪、五月中、大雨。晃兄初渡時^(六)、水尚未至。吉與期設中食後^(七)。比往而山水暴漲、不復可涉。吉不能泅、遲迴嘆息。坐岸良久^(八)、欲下不敢渡^(九)。吉既信直、必欲赴期。乃惻然發心、自誓曰、『吾救人苦急、不計軀命。尅冀如來大士^(一〇)、當照乃誠。』便脫衣、以囊經戴置頭上、逕入水中、量其深淺、乃應至頸^(一一)。及吉渡、正著膝耳^(一二)。既得上岸、失囊經、甚惋恨^(一三)。進至晃家^(一四)、三禮懺悔、流涕自責。俛仰之間、便見經囊在高座上。吉悲喜取看、浥浥如有溼氣。開囊視經、尚燥如故。於是村人、一時奉法。吉所居西北、有一山高峻^(一五)、中多妖魅、犯害居民。吉以經戒之力、欲伐降之^(一六)。於山際四五畝地、手伐林木、構造小屋^(一七)、安設高座、轉首楞嚴經。百餘日中、寂然無聞^(一八)。民害稍止。後有數人至吉所^(一九)、語言良久。吉思惟此客言者^(二〇)、非於潛人、窮山幽絕^(二一)、何因而來、疑是鬼神。乃謂之曰、『諸君得無是此中鬼耶。』答曰、『是也。聞君德行清肅、故來相觀。并請一事、想必見聽。吾世有此山、游居所託。君既來止、慮相逆冒^(二二)、恆懷不安。今欲更作界分、當殺樹為斷。』吉曰、『僕貪此靜寂^(二三)。讀誦經典、不相干犯。方為卿比^(二四)、願見祐助。』鬼答、『亦復憑君、不見侵尅也^(二五)。』言畢而去。經一宿^(二六)、前所芟地^(二七)、四際之外、樹皆枯死、如火燒狀^(二八)。吉年八十七亡^(二九)。』

校記 珠林十八〔百二十卷本二六〕。廣記一百十二。

(一)○廣記引無「晉」者。(二)○珠林大正藏本引「恆」作「常」、下同。(三)○廣記引無「者」「士也」。
(四)○廣記引無「咸和中」。(五)○廣記引無「守」。汪氏校語云、「困」原作「因」、據明鈔本改。(六)○廣記鈔宋本「渡」作「度」、下同。(七)此字〔後〕廣記引有。○珠林引「設」作「投」。(八)○廣記引無「坐岸」二字。(九)○廣記引無此句。(一〇)○廣記引無「尅」。(一一)○廣記引「頸」上有「吉」、但鈔宋本無。(一二)○廣記引此句作「及渡才至膝耳」、鈔宋本作「及吉度不至膝耳」。(一三)○廣記引「惋」作「悲」。
(一四)○廣記引「進」作「尋」。(一五)○廣記引無「一」、而「峻」作「險」、鈔宋本作「嶮」。(一六)○廣記引「伐降」作「降伏」。(一七)○廣記引「構」作「搆」。(一八)○廣記引無「中」、而「聞」作「妖」、但鈔宋本作「聞」。(一九)○廣記引「至」作「與」、而無「所」。(二〇)○廣記引無「此客言者」四字。(二一)○鈔沈排印本「窮」作「穹」、今依改。(二二)○廣記引「逆」作「犯」。(二三)○珠林四部叢刊本・廣記鈔宋本引作「靜寂」、珠林大正藏本・廣記引作倒。(二四)廣記引作「方喜為此」。(二五)○廣記引無「見」。(二六)○廣記引無「一」。(二七)○鈔沈排印本奪「所」字、今依補。廣記引無「前」字。(二八)○廣記引此句作「如焚焉」。(二九)○廣記引無此句。

24 晉周璫者^(一)、會稽剡人也。家世奉法。璫年十六、便菜食持齋、諷誦成具^(二)。及頃轉經^(三)。正月長齋、竟延僧設受八關齋^(四)。至鄉市寺^(五)、請其師竺僧密及支法階竺佛密^(六)、令持小品、齋日轉讀^(七)。至日三僧赴齋^(八)、忘持小品。至中食畢。欲讀經方憶、意甚惆悵^(九)。璫家在坂怡村^(一〇)、去寺三十里、無人遣取。至人定燒香訖、舉家恨不得經^(一一)。密益踟躕。有頃、聞有叩門者^(一二)、言送小品^(一三)。璫愕然心喜。開門、見一年少、著單衣帙^(一四)、先所不識、又非人行時^(一五)。疑其神異、便長跪受經、要使前坐。年少不進^(一六)、期夜當來聽經^(一七)。比道人出、忽不復見^(一八)、香氣遍一

宅中^(二九)。既而視之、乃密經也^(三〇)。道俗驚喜。密經先在廚中、緘鑰甚謹。還視其鑰、儼然如故、於是村中十餘家、咸皆奉佛、益敬愛璫^(三一)。璫遂出家、字曇疑。諷誦衆經、至二十萬言^(三二)。

校記 珠林十八〔百二十卷本二六〕。廣記一百十。

- (一)○廣記引無「者」。(二)○以上二句廣記引作「便蔬食誦經」。(三)○珠林大正藏本引「頃」作「須」。廣記引無此句四字。(四)○珠林大正藏本・廣記引無「受」。(五)○廣記引無此句四字。(六)○珠林大正藏本・廣記引「僧」作「佛」。廣記引句頭有「及」字、而無下「竺」字、均在「支法階」斷句。(七)○廣記引無「日」。(八)○廣記引此句作「三日僧赴齋」。(九)○廣記引無「意」。(一〇)○珠林大正藏本引「坂」作「阪」。(一一)○廣記引「舉」作「本」。(一二)○廣記引無「有」。(一三)○廣記引句末有「經」。(一四)○珠林大正藏本引「衣帙」作倒、廣記亦同、但「帙」作「袂」。(一五)○珠林大正藏本引無「行」、廣記引無「行時」、而「人」作「時人」。(一六)○廣記引「不」下有「肯」字。(一七)○珠林大正藏本引「期」作「斬」、廣記引作「日斯」。(一八)○廣記引無「道人」忽」。(一九)○廣記引此句作「香氣滿宅」。(二〇)○廣記引「乃」下有「是」。(二一)○廣記引無此句四字。(二二)○珠林大正藏本句末有「云」字。

25 晉孫稚、字法暉、齊國般陽縣人也。父祚、晉太中大夫。稚幼而奉法。年十八、以咸康元年八月病亡。祚後移居武昌。至三年四月八日、沙門于法階行尊像、經家門。夫妻大小出觀、見稚亦在人衆之中、隨侍像行。見父母、拜跪問訊。隨共還家。祚先病、稚云、『無他禍崇、不自將護所致耳。五月當差。』言畢辭去。其年七月十五日、復歸、跪拜問訊、悉如生時。說其外祖父為太山府君、見稚、說稚母字曰、『汝是某甲兒耶。未應便來、那得至此。』稚答、『伯父將來。欲以代譴^(一)。』有教推問、欲鞭罰之、稚救解得原。稚兄容、字思淵、時在其側。稚謂曰、『雖離故形、在優樂處、但讀書無他作、願兄勿復憂也。但勤精進^(二)、繫念修善^(三)、福自隨人矣。我二年學成、當生國王家。同輩有五百人、今

在福堂、學成皆當上生第六天上。我本亦應上生、但以解救先人、因緣纏縛、故獨生王家耳。』到五年七月七日、復歸。說郛城當有寇難。事例甚多、悉皆如言。家人秘之、故無傳者。又云、『先人多有罪謫、宜為作福。我今受身人中、不須復營、但救先人也。願父兄勤為功德。作福食時、務使鮮潔。一一如法者受上福。次者次福。若不能然、然後費設耳^(四)。當使平等、心無彼我、其福乃多。』祚時有婢、稚未還時、忽病殆死、周身皆痛^(五)。稚云、『此婢欲叛我、前與鞭、不復得去耳。』推問婢^(六)、云、『前實欲叛、與人為期。日垂至而便住。』云云^(七)。

校記 珠林九十一〔百二十卷本一〇九〕。○廣記三二〇引法苑珠林、文同。事又見宣驗記（鈎沈20）。

（一）○珠林大正藏本・廣記引「謫」作「謫」。 （二）○廣記引句頭有「他」、或衍文歟。 （三）○廣記引無此句四字。 （四）○大正藏本引無「然」、而「後」作「徒」。廣記引亦同。 （五）○大正藏本・廣記引「周」作「通」、四部叢刊本「同」。 （六）○大正藏本「推」作「稚」。 （七）○廣記引「云云」作「云耳」。

26 晉李恆、字元文、譙國人。少時、有一沙門造恆、謂曰、『君福報將至^(一)、而復對來隨之。君能守貧修道、不仕宦者、福增對滅。君其勉之。』恆性躁、又寒門、但問仕當何所至、了不尋究修道意也。與一卷經^(二)、恆不肯取。又固問、榮途貴錢何如。沙門曰、『當帶金紫、極於三郡。若能於一郡止者、亦為善也^(三)。』恆曰『且當富貴、何顧後患。』因留宿。恆夜起、見沙門身滿一牀、人呼家人、大小窺視^(四)、復變為大鳥、踣屋梁上。天曉、復形而去^(五)。恆送出門、忽不復見。知是神人。因此事佛、而亦不能精至。後為西陽、江夏、廬江太守、加龍驤將軍。大興中、預錢鳳之亂、被誅。

校記 珠林五十六〔百二十卷本七〇〕。○廣記八九引法苑珠林。事又見三寶感通錄下。

（一）○廣記引「將」作「對」。 （二）○廣記引句頭有「沙門」二字。 （三）○廣記引「也」作「道」。 （四）○珠林大正藏本引「窺」作「mm」。 （五）○廣記引此句作「而形如舊」。

27 晉竇傳者、河內人也^(一)。永和中、并州刺史高昌、冀州刺史呂護^(二)、各權部曲、相與不和。傳為昌所用、作官長^(三)。護遣騎抄擊^(四)、為所俘執。同伴六七人、共繫人一獄^(五)。鎖械甚嚴。尅日當煞之。沙門支道山^(六)、時在護營中。先與傳相識。聞其執厄^(七)、出至獄所候視之。隔戶共語。傳謂山曰、『今日困厄^(八)、命在漏刻、何方相救^(九)。』山曰、『若能至心歸請^(一〇)、必有感應^(一一)。』傳先亦頗聞觀世音^(一二)、及得山語、遂專心屬念。晝夜三日、至誠自歸。觀其鎖械^(一三)、如覺緩解、有異於常。聊試推盪、忽然離體^(一四)。傳乃復至心曰^(一五)、『今蒙哀祐^(一六)、已令桎梏自解。而同伴尚多、無心獨去^(一七)。觀世音神力普濟^(一八)、當令俱免。』言畢、復牽挽餘人、皆以次解落、若有割剔之者。遂開戶走出^(一九)、於警徼之間^(二〇)、莫有覺者。便踰城逕去。時夜向曉^(二一)、行四五里。天明不敢復進^(二二)、共逃隱一榛中^(二三)。須臾、覺失囚^(二四)、人馬絡繹^(二五)、四出尋捕。焚草踐林、無不至遍^(二六)。唯傳所隱一畝許地^(二七)、終無至者。遂得免還^(二八)。鄉里敬信異常、咸皆奉法^(二九)。道山後過江、為謝居士敷具說其事^(三〇)。

校記 珠林一七〔百二十卷本二五〕。○傳亮光世音應驗記。廣記一一〇、汪氏校語云、明鈔本作出「冥祥記」。抄宋本亦同。

(一)○應驗記引無「晉」。廣記引「傳」作「傳」、下同、但廣記抄宋本作「傳」。廣記引無「也」。(二)○應驗記無「并州刺史」「冀州刺史」。(三)○珠林大正藏本引「官」作「宮」。(四)○應驗記「擊」作「繫」。疑譌。(五)○應驗記・珠林大正藏本・廣記引無「入」。(六)○廣記引「道」作「遁」、下同。(七)○汪氏校語云、「厄」原作「厄」、據明鈔本・許本改。鈔宋本亦作「厄」。(八)○應驗記無「今日」。廣記引無「日」、但鈔宋本有。(九)○廣記引「相」上有「得」、但鈔宋本無。(一〇)○應驗記此句上有「人事不見其方、唯光世音菩薩救人危難」十六字。(一一)○應驗記「必」作「忽」。(一二)○應驗記「先亦」作倒、而無「頗」。(一三)○應驗記「觀」上有「內」。(一四)○應驗記・珠林大正藏本「忽」作「懼」、廣記鈔宋本作「淮」、廣記引

作「摧」。(一五)○廣記引「至」作「致」、鈔宋本作「志」。珠林大正藏本「日」作「日」。(一六)○珠林大正藏本引無「今」。(一七)○應驗記「心」作「情」。(一八)○應驗記「觀」作「光」。(一九)○鈎沈排印本「戶」作「門」、今依改。(二〇)○應驗記句頭有「行」字。珠林大正藏本「徼」作「激」。(二一)○應驗記「向」上有「已」。(二二)○應驗記・珠林大正藏本・廣記引「不」下有「敢」字、今依補。(二三)○應驗記「榛」作「藁」、廣記引作「林」。(二四)○廣記引句頭有「護」。應驗記「囚」作「閔」、疑譌。(二五)○應驗記「人」作「之」、疑譌。又「絡繹」作「落驛」。珠林大正藏本作「駱驛」、校勘記云、明本作「絡繹」、可見鈎沈依明本。(二六)○應驗記作「無幽不遍」。廣記引作「無不徧至」。(二七)○應驗記「隱」下有「處」字。(二八)○應驗記「免」作「逸脫」二字。(二九)○應驗記「咸皆」作「咸住」、「住」當「佳」之譌、珠林大正藏本作「成佳」、「成」是「咸」之譌。大正藏本校勘記云、明本作「咸皆」。廣記引無「皆」。應驗記・廣記引「法」上有「佛」。(三〇)○應驗記「謝居士敷」作「謝慶緒」。廣記引句末有「焉」。但鈔宋本無。

28 晉大司馬桓溫、末年頗奉佛法^(一)、飯饌僧尼^(二)。有一比丘尼、失其名、來自遠方、投溫為檀越。尼才行不恆^(三)、溫甚敬待、居之門內。尼每浴、必至移時。溫疑而窺之。見尼裸身揮刀、破腹出臟、斷截身首、支分齷切。溫怪駭而還。及至尼出浴室^(四)、身形如常。溫以實問。尼答云、「若遂凌君上、刑當如之^(五)。」時溫方謀問鼎、聞之悵然。故以戒懼、終守臣節。尼後辭去^(六)、不知所往。

校記 珠林三十三(百二十卷本四五)。○事又見搜神後記二—16、幽明錄(鈎沈107)、晉書桓溫傳、建康實錄九、三寶感通錄下、*義楚八又引感通錄。

(一)○珠林大正藏本引無「佛」。(二)○大正藏本引作「飯飴尼僧」。(三)○鈎沈排印本「才」作「纔」、今依正。(四)○大正藏本引「及至」作「有頃」。(五)○大正藏本「刑」作「形」。(六)○大正藏本引無

「後」。鈎沈排印本「辭」誤作「解」、今依正。

29 宋李清者^(一)、吳興於潛人也。仕桓溫大司馬府參軍督護。於府得病、還家而死。經久蘇活^(二)。說云、初見傳教持信幡喚之、云、『公欲相見。』清謂是溫召^(三)、即起束帶而去。出門、見一竹輿、便令人中。二人推之、疾速如馳。至一朱門、見阮敬、時敬死已三十年矣。敬問清曰、『卿何時來。知我家何似。』清云、『卿家異惡。』敬便雨淚、言、『知吾子孫如何。』答云、『具可。』敬云、『我今令卿得脫。汝能料理吾家不。』清云、『能。』若能如此、不負大恩。『敬言、『僧達道人、是官師^(九)、甚被敬禮^(一〇)、當苦告之。』還內良久、遣人出云、『門前四層寺、官所起也。僧達常以平旦入寺禮拜、宜就求哀。』清往其寺、見一沙門、語曰、『汝是我前七生時弟子。已經七世受福、迷著世樂、忘失本業。背正就邪、當受大罪、今可改悔。和尚明出、當相佐助^(一一)。』清還先輿中、夜寒噤凍^(一二)。至曉門開、僧達果出至寺^(一三)。清便隨逐稽顙。僧達云、『汝當革心為善^(一四)、歸命佛法、歸命比丘僧。受此三歸、可得不橫死。受持勤者、亦不經苦難。』清便奉受。又見昨所遇沙門、長跪請曰、『此人僧乎宿世弟子^(一五)。忘正失法。方將受苦、先緣所追。今得歸命、願垂慈愍^(一六)。』答曰、『先是福人、當易拔濟耳^(一七)。』便還向朱門。俄遣人出云、『李參軍可去。』敬時亦出^(一八)、與清一青竹枝^(一九)、令閉眼騎之。清如其語^(二〇)、忽然至家。家中啼哭、及鄉親塞堂、欲人不得。會買材還、家人及客赴監視之、唯屍在地。清人至屍前、聞其屍臭、自念悔還。但外人逼突^(二一)、不覺人屍時^(二二)、於是而活。即營理敬家、分宅以居。於是歸心三寶^(二三)、勤信法教^(二四)、遂作佳流弟子。

校記 珠林九十五(百二十卷本一一四)。廣記三百七十九。

(一)案(宋)當作「晉」。廣記引無。(二)○珠林大正藏本・廣記引「久蘇」作「夕蘇」。(三)○廣記鈔宋本引無「是」。(四)○廣記引「異」作「暴」。(五)○廣記引「具」作「且」。(六)二字廣記引有。(七)○鈎沈「不」作「否」、今依諸本改。(八)○鈎沈奪「能」、今依珠林引補。廣記引亦無。(九)○汪氏校語云、

「是」原作「在」、據明鈔本改。鈔宋本亦同。(一〇)〇鈎沈「敬禮」作倒、今依正。(一一)〇廣記引無「佐」。(一二)〇珠林大正藏本「噤」作「麟」。(一三)〇廣記引無「至寺」二字。(一四)〇廣記引無「心」、但鈔宋本引有。(一五)案「乎」字有譌。廣記引作「達」、亦非。〇大正藏本引作「中」。(一六)〇廣記鈔宋本「愍」作「悲」。(一七)〇珠林大正藏本「拔」作「扶」。(一八)〇廣記鈔宋本「亦」作「前」。(一九)廣記引「枝」作「杖」。(二〇)〇廣記引「語」作「言」。(二一)〇廣記引「但」作「得」。(二二)〇廣記引「屍」作「少」。汪氏校語云、明鈔本「少」作「尸」。鈔宋本作「屍」。(二三)〇廣記引「三」作「法」、但鈔宋本作「三」。(二四)〇鈎沈「法」作「佛」、今依諸本改。

30 晉呂竦、字茂高、兗州人也。寓居始豐^(一)。其縣南溪^(二)、流急岸峭、迴曲如縈。又多巨石、白日行者、猶懷危懼。竦自說^(三)、其父嘗行溪中^(四)、去家十許里。日向暮、天忽風雨、晦冥如漆、不復知東西。自分覆溺。唯歸心觀世音、且誦且念。須臾、有火光來岸、如人捉炬者、照見溪中了了。遙得歸家^(五)、火常在前導、去船十餘步。竦後與郗嘉賓周旋^(六)、郗所傳說^(七)。

校記 珠林六十五(百二十卷本八二)。〇廣記一一〇引法苑珠林。事見傅亮光世音應驗記。

(一)〇應驗記以上十四字在「猶懷危懼」句下。(二)〇應驗記此句作「始豐南溪中」。(三)〇應驗記無「竦」。(四)〇珠林大正藏本引「嘗」作「當」、誤。(五)〇應驗記「遙」作「逕」。(六)〇鈎沈排印本「後」誤作「復」、今依正。(七)〇應驗記作「郗口所說」。

31 晉徐榮者^(一)、瑯琊人。嘗至東陽^(二)、還經定山、舟人不慎、誤墮洄渚中。游舞濤波^(三)、垂欲沈沒。榮無復計、唯至心呼觀世音。斯須間、如有數十人齊力引船者^(四)、踊出渚中^(五)、還得平流。沿江還下^(六)、日已向暮、大陰闇、風雨

甚駛、不知所向、而濤波轉盛。榮誦經不輟口。有頃、望見山頭有火光赫然、迴柁趣之、逕得還浦^(七)。舉船安隱。既至、亦不復見光。同旅異之^(八)、疑非人火。明日問浦中人、昨夜山上是何火光。衆皆愕然曰、『昨風雨如此、豈如有火理^(九)、吾等並不見。』然後了其為神光矣。榮後為會稽府督護^(一〇)、謝敷聞其自說如此^(一一)。時與榮同船者^(一二)、有沙門支道蘊、謹篤士也、具見其事。後為傅亮言之^(一三)、與榮所說同^(一四)。

校記 珠林六十五(百二十卷本八二)。○廣記一一○引法苑珠林。事見傅亮光世音應驗記。

(一)○應驗記無「晉」。(二)○珠林大正藏本引「嘗」作「當」。應驗記作「常」。(三)○應驗記「舞」作「舞」。句末有「之間」二字。(四)○應驗記「引」作「掣」。(五)○應驗記「踊」作「涌」。(六)○應驗記「還」字重出、疑衍。(七)○珠林大正藏本「還」作「運」。(八)○大正藏本「旅」作「侶」。(九)○應驗記無「如」。(一〇)○大正藏本無「會」。(一一)○應驗記「敷」作「慶緒」。(一二)○應驗記無「時」、而「船」作「舟」。(一三)○應驗記「後」作「復」、「傅亮」作「余」、「言」作「說」。(一四)○應驗記「所說同」作「同說」。

32 晉興寧中^(一)、沙門竺法義^(二)、山居好學^(三)。住在始寧保山^(四)、游刃衆典、尤善法華。受業弟子、常有百餘。至咸安二年、忽感心氣疾病^(五)、積時攻治備至、而了不損^(六)、日就縣篤。遂不復自治^(七)。唯歸誠觀世音^(八)。如此數日。晝眠、夢見一道人、來候其病。因為治之、剗出腸胃^(九)、前洗腑臟^(一〇)、見有結聚不淨物甚多^(一一)。洗濯畢、還內之。語義曰、『汝病已除^(一二)。』眠覺^(一三)、衆患豁然。尋得復常^(一四)。案其經云^(一五)、或現沙門梵志之像^(一六)。意者義公所夢其是乎^(一七)。義以太元七年亡^(一八)。自竺長舒至義六事、並宋尚書令傅亮所撰^(一九)。亮自云^(二〇)、其先君與義游處^(二一)、義每說其事^(二二)、輒慷慨增肅焉^(二三)。

校記 珠林九十五(百二十卷本一一四)、又十七(同二五)。廣記一百十。案傅亮所撰六事、竺長舒已見前卷、

餘不可攷。○傳亮所撰六事、即是光世音應驗記也。又珠林九五所引、文末云出述異記。或述異記亦收此事、鈎沈不採錄。事又見高僧傳四竺法義傳。

(一)○應驗記無此句、珠林九五引無「興寧中」三字。(二)○應驗記「義」下有「者」。(三)○廣記引「學」作「善」、但鈔宋本作「學」。(四)○應驗記此句在「尋得復常」之後、且「住在」作「義住」。珠林一七引以上四句作「晉始寧山有竺法義、晉興寧中沙門」。(五)已上六句依珠林十七引補。○珠林九五引作「後得病」。珠林一七引後文云、「常存念觀世音、乃夢見一人、破腹洗腸。寤便病愈。」(六)○應驗記「了」下有「自」字。(七)○應驗記無「自」。(八)○應驗記奪「唯歸」二字。(九)○應驗記「腸」作「腹」。(一〇)○應驗記「腑」作「府」、廣記鈔宋本作「腑藏」、廣記引作「臟腑」。(一一)○應驗記無「物」。(一二)○應驗記無「汝」、句末有「也」。(一三)○廣記引「眠」作「夢」、但鈔宋本作「眠」。(一四)○廣記引句末有「業」字。(一五)○廣記引「案」作「故」。(一六)○廣記引「像」作「象」。(一七)○廣記引無「所」。應驗記以上三句在文末。且「所」作「之」。(一八)○應驗記無此句。廣記引「元」作「原」。(一九)二句廣記引作「宋尚書令傳亮撰其事迹」。○案此二句當在文末、引用者注文也。(二〇)○應驗記無此句三字。(二一)○應驗記「其」作「余」、而「君」下有「少」、無「義」字。廣記引無「處」、但鈔宋本有。(二二)○應驗記無「其」。(二三)○自「亮自云」至此、珠林一七引作「傳亮每云、吾先君與義公游處無間、說觀世音神異、莫不大小肅然。」

33 晉杜願、字永平、梓潼涪城人也^(一)。家巨富。有一男、名天保、願愛念。年十歲、泰元三年、暴病而死。經數月日、家所養猪、生五子、一子最肥。後官長新到、願將以作禮、捉就殺之。有一比丘、忽至願前、謂曰、「此狔是君兒也。如何百餘日中而相忘乎^(二)。」言竟忽然不見。四顧尋視、見在西天^(三)、騰空而去。香氣充布^(四)、彌日乃歇。

校記 珠林五十二(百二十卷本六五)。○廣記四三九引法苑珠林。事又見三寶感通錄下。*義楚二四又引珠林。

- (一)○「城」今依珠林大正藏本引補。(二)○「何」鈎沈以百二十卷本作「前」、今依大正藏本改。(三)○鈎沈奪「在」、今依補。廣記引「西天」作「雲中」。(四)○廣記引「香」作「雲」。

34 晉唐遵、字保道、上虞人也。晉太元八年、暴病而死。經夕得穌。云有人呼將去、至一城府、未進。頃見其從叔、自城中出、驚問遵、『汝何故來。』遵答、『違離姊姊、並歷年載、欲往問訊、本明當發、夜見數人、急呼來此。即時可得歸去、而不知還路。』從叔云、『汝姑喪已二年。汝大姊兒道文、近被錄來。既蒙恩放、仍留看戲、不即還去、積日方歸、家已殯殮。乃入棺中、又搖動棺器、冀望其家覺悟開棺』。棺遂至路、落檀車下』。其家或欲開之。乃問卜者』。卜云不吉、遂不敢開。不得復生』。今為把沙之役、辛勤極苦。汝宜速去、勿復住此。且汝小姊、又已喪亡。今與汝姑、共在地獄、日夕憂苦。不知何時、可得免脫。汝今還去、可語其兒、勤修功德、庶得免之。』於此示遵歸路。將別、又屬遵曰』、『汝得還生、良為殊慶。在世無幾、儻如風塵』。天堂地獄、苦樂報應。吾昔聞其語、今觀其實。汝宜深勤善業、務為孝敬。受法持戒』、慎不可犯』。一去人身、入此罪地。幽窮苦酷、自悔何及。勤以在心、不可忽也』。我家親屬、生時不信罪福、今並遭塗炭、長受楚毒、焦爛傷痛、無時暫休。欲求一日改惡為善、當何得耶。悉我所具』。故以囑汝。勸化家內、共加勉勵。』言已、涕泣』、因此而別。遵隨路而歸、俄而至家。家治棺將竟、方營殯殮。遵既附屍、屍尋氣通。移日稍差。勸示親識、並奉大法。初遵姑嬭南郡徐漢』、長姊嬭江夏樂瑜、其小姊嬭吳興嚴晚』。途路縣遠、久斷音息。遵既差、遂至三郡、尋訪姑及小姊。姊子果並喪亡。長姊亦說兒道文殯後、棺動墮車、皆如叔言。既聞遵說道文橫死之意、姊追加痛恨、重為製服。

校記 珠林九十七(百二十卷本一一六)。

- (一)○珠林大正藏本「悟」作「寤」。(二)○大正藏本「檀」作「棺」。(三)○鈎沈排印本「問」誤作「向」、今正。(四)○大正藏本「得復」作「復得」、校勘記云、明本作「得復」。(五)○大正藏本「囑」作「屬」。(六)

○大正藏本「儻」作「條」。(七)○大正藏本「受」作「愛」。(八)○四部叢刊本引無「可」。(九)○大正藏本「忽」作「忘」。(一〇)○大正藏本「具」下有「知」。(一一)○大正藏本「涕」作「洩」。(一二)○大正藏本「□」作「適」、下同。(一三)○「其」鈎沈依百二十卷本作「于」、今依大正藏本改。

35 晉謝敷、字慶緒、會稽山陰人也、鎮軍將軍輜之兄子也。少有高操、隱于東山、篤信大法、精勤不倦。手寫首楞嚴經。當在都白馬寺中、寺為災火所延^(一)、什物餘經、並成煨盡、而此經止燒紙頭界外而已^(二)。文字悉存、無所毀失。敷死時、友人疑其得道。及聞此經、彌復驚異^(三)。至元嘉八年、河東蒲坂城中大災火。火自隔河飛至^(四)、不可救滅、處戍民居^(五)、無不蕩盡。唯精舍塔寺、並得不焚。里中小屋、有經像者、亦多不燒。或屋雖焚毀、而於煨盡之中^(六)、時得全經、紙素如故^(七)。一成歎異、相率敬信。

校記 珠林十八〔百二十卷本二六〕。○廣記一一三引法苑珠林。後半不關謝敷、按以佛經不燒為一條。蒲阪大火之事又見幽明錄(鈎沈271)、宣驗記(鈎沈28)。*蘇易簡文房四譜四。又見*義楚三。今以鈎沈第127條合於此文為一則。

(一)○珠林大正藏本引無「火」。(二)○大正藏本引「止」作「正」。(三)○廣記引至此為止。(四)○大正藏本引無「隔」。(五)○大正藏本引「處」作「虜」。(六)○大正藏本引「而」作「面」、疑誤。又「中」作「下」。(七)○自「至元嘉八年」至此、蘇易簡文房四譜引有、參看本篇127。

36 晉濟陰丁承、字德慎^(一)。建安中^(二)、為凝陰令。時北界居民婦、詣外井汲水。有胡人長鼻深目、左過井上、從婦人乞飲^(三)。飲訖、忽然不見。婦則腹痛、遂加轉劇。啼呼有頃、卒然起坐、胡語指摩。邑中有數十家、悉共觀視。婦呼索紙筆來、欲作書、得筆、便作胡書、橫行、或如乙、或如己。滿五紙、投著地、教人讀此書。邑中無能讀者。有一小

兒、十餘歲、婦即指此小兒能讀。小兒得書、便胡語讀之、觀者驚愕、不知何謂。婦叫小兒起僂^(四)。小兒既起、翹足以手弄相和^(五)。須臾各休。即以白德慎。德慎召見婦及兒、問之、云、『當時忽忽不自覺知。』德慎欲驗其事、即遣吏齎書詣許下寺、以示舊胡。胡大驚、言、『佛經中聞、亡失道遠、憂不能得。雖口誦、不具足。此乃本書。』遂留寫之。

校記 珠林十八〔百二十卷本二六〕。

(一)○大正藏本引「慎」作「眞」、下同。(二)案晉紀元無「建安」、疑當作「建元」也。(三)○大正藏本引無「人」。(四)○大正藏本引「僂」作「舞」。(五)○大正藏本引「弄」作「扑」。

37 晉瑯琊王凝之妻^(一)、晉左將軍夫人謝氏奕之女也。嘗頻亡二男、悼惜過甚、哭泣累年、若居至艱。後忽見二兒俱還、皆著鎖械、慰勉其母、宜自寬割、兒並有罪、若垂哀憐、可為作福。於是哀痛稍止、而勤功德。

校記 珠林三十三〔百二十卷本四五〕。○事又見幽明錄(鈎沈102)、異苑六、晉錄(辯正論七注引)。

(一)○珠林大正藏本引奪「妻」字。

38 晉沙門支遁、字道林、陳留人也。神宇雋發、為老釋風流之宗。常與其師、辨論物類。謂鷄卵生用、未足殺之^(一)、與諸蜎動^(二)、不得同罰。師尋亡。忽見形來至遁前、手執鷄卵、投地破之。見有鷄雛、出殼而行。遁即惟悟^(三)、悔其本言。俄而師及鷄雛、並滅不見。

校記 珠林七十二〔百二十卷本八九〕。○事見高僧傳四支遁傳(又廣記八七引)。釋門自鏡錄下。*義楚二三引珠林。

釋門自鏡錄下云、支遁、字道林、俗姓蘭、陳留人也。少出家、神俊超悟、千載唯一。而以為鷄卵受氣未足、謂非有命、言食之無罪。其師戒素之僧、恆常誨勵、遁快辯直言、師莫能屈。師既亡、後忽復見形、取鷄卵對遁擲地、乃有

鷄雛從卵而出、飛翔飲啄。遁意稍疑、未能全革、後復欲食之。遂夢有夫婦二人、胡跪遁前云、有子三十、明日供廚食、從師乞命。願垂矜教。乃銜鷄子從遁前扣破。皆有白衣兒、從內而出。覺已深自悔責、蔬食終身。

(一)○高僧傳「殺之」作「為殺」。(二)○珠林大正藏本引「蜎」作「蠕」。(三)○大正藏本引「悟」作「瘡」。

39 晉廬山七嶺、同會於東、共成峯嶸。其崖窮絕、莫有昇者。晉太元中、豫章太守范寧、將起學館、遣人伐材其山。見人著沙門服、凌虛直上。既至、則迴身踞其峯、良久、乃興雲氣^(一)、俱滅。時有採藥數人、皆共瞻觀。當時能文之士^(二)、咸為之興。沙門釋曇諦廬山賦曰、「應真凌雲以踞峯、眇忽翳景而入冥。』者也^(三)。

校記 珠林十九〔百二十卷本二六〕。○事見三寶感通錄下。

(一)○珠林四部叢刊本引「興」作「與」。(二)○鈎沈奪「當時」二字、今依補。(三)○珠林大正藏本引「眇」作「杪」。『魯迅輯錄古籍叢編』第一卷鈎沈校記云、案「忽」字原脫、據景宋本類聚卷七引補。今從之。

40 晉沙門釋僧朗者^(一)、戒行明嚴、華戎敬異。嘗與數人、俱受法請、行至中途。忽告同輩曰、「君等留寺衣物、似有竊者。』同旅即返^(二)、果及盜焉。晉太元中^(三)、於奉高縣金輿山谷、起立塔寺、造製形像。苻堅之末^(四)、降斥道人、惟敬朗一衆、不敢毀焉。于時道俗信奉、每有來者。人數多少、未至一日、輒已逆知^(五)。使弟子為具、必如言果到。其谷舊多虎、常為暴害。立寺之後、皆如家畜。鮮卑慕容德、以二縣祖課^(六)、充其朝中。至今號其谷為朗公谷也^(七)。

校記 珠林十九〔百二十卷本二七〕。○事又見高僧傳五竺僧朗傳。三寶感通錄下。

(一)○珠林大正藏本引「釋」作「竺」。(二)○大正藏本引「旅」作「侶」、「返」作「反」。(三)○感通錄「太元」作「太康」、但「太康」不符「苻堅末」。(四)○大正藏本引「苻」作「苻」。今從。(五)○大正藏本引「逆」作「送」、疑譌。(六)○大正藏本引「租」作「粗」、「課」作「調」。(七)○大正藏本引「也」作

「云」。

41 晉沙門釋法相^(二)、河東人也。常獨山居、精苦為業。鳥獸集其左右、馴若家獸。太山祠大石函、以盛財寶。相時山行、宿于其廟。見一人玄衣武冠、令相開函、言終不見。其函石蓋、重過千鈞、相試提之、飄然而開。於是取其財寶、以施貧民。後渡江南、住越城寺、忽敖游放蕩^(三)、優俳滑稽^(三)、或時裸袒^(四)、干冒朝貴。鎮北將軍司馬恬惡其不節、招而酖之^(五)。頗傾三鍾、神氣清怡、怡然自若。年八十九、元興末卒。

校記 珠林十九〔百二十卷本二七〕。○事見高僧傳十二釋法相傳。弘贊法華傳六。三寶感通錄下。

(一)○珠林大正藏本無「釋」。感通錄「晉」作「梁」。(二)○鈎沈「遨」作「敖」、今依改。(三)○大正藏本引「優俳」作倒。(四)○大正藏本「裸」作「裸」。(五)○大正藏本「酖」作「鳩」。感通錄亦同。

42 晉張崇、京兆杜陵人也。少奉法。晉太元中、苻堅既敗^(一)、長安百姓有千餘家、南走歸晉。為鎮戍所拘、調為游寇、殺其男丁、虜其子女。崇與同等五人、手脚共械^(二)、銜身掘坑^(三)、埋築至腰。各相去二十步。明日將馳馬射之、以為娛樂。崇慮望窮盡、唯潔心專念觀世音。夜中、械忽自破、上得離身。因是便走、遂得免脫。崇既腳痛、同尋路經一寺^(四)、乃復稱觀世音名、至心禮拜。以一石置前、發誓願、言、『今欲過江東、訴亂晉帝^(五)、理此冤魂、救其妻息。若心願獲果、此石當分為二。』崇禮拜已、石即破焉。崇遂至京師、發白虎樽^(六)、具列冤氏。帝乃悉加有^(七)、已為人略賣者、皆為編戶^(八)。智生道人、目所親見^(九)。

校記 珠林六十五〔百二十卷本八二〕。○廣記一一○引法苑珠林、文大同。

(一)○珠林大正藏本引「符」作「苻」、今從大正藏本。(二)○大正藏本「共」作「柎」、四部叢刊本作「其」。未知鈎沈何據、或依「其」臆改。(三)○大正藏本「銜」作「持」、「掘」作「出」。(四)○大正藏本「尋」

作「等」。(五)○廣記引「亂」作「辭」。(六)○大正藏本・廣記引「樽」作「樽」、今依改。(七)○四部叢刊本「加」作「如」、疑譌。(八)○廣記引「為」上有「贖」字。(九)○廣記引文末有「其事者」三字。

43 晉王懿、字仲德、太原人也。守車騎將軍。世信奉法。父苗^(一)、苻堅時為中山太守^(二)、為丁零所害^(三)。仲德與兄元德、攜母南歸。登陟峭嶮、飢疲絕糧。無復餘計、惟歸心三寶。忽見一童子、牽青牛、見懿等飢、各乞一飯。因忽不見。時積雨大水、懿前望浩然、不知何處為淺、可得揭躡^(四)。俄有一白狼、旋繞其前、過水而反^(五)、似若引導。如此者三。於是逐狼而渡、水纔至膝^(六)。俄得陸路、南歸晉帝^(七)。後自五兵尚書^(八)、為徐州刺史。嘗欲設齋、宿昔灑掃、敷陳香華、盛列經像。忽聞法堂有經唄聲、清婉流暢。懿遽往觀、見有五沙門在佛坐前、威容偉異、神儀秀出。懿知非凡僧、心甚歡敬。沙門迴相瞻眄、意若依然。音旨未交、忽而竦身飛空而去。親表賓僚、見者甚眾。咸悉欣躍^(九)、倍增信悟^(一〇)。

校記 珠林六十五(百二十卷本八二)。○*廣記一一三引法苑珠林。

(一)○廣記引「苗」作「黃」。(二)○珠林大正藏本引「符」作「苻」、今依改。(三)○廣記引「零」作「岑」、但鈔宋本作「零」。(四)○大正藏本引「躡」作「厲」、廣記鈔宋本同。(五)○大正藏本引「反」作「返」。(六)○大正藏本引「纔」作「裁」。(七)○大正藏本「帝」作「朝」、廣記引同。(八)○大正藏本「五兵」作「王丘」、四部叢刊本作「王兵」。廣記作「五兵」、或鈎沈依廣記引歟。(九)○大正藏本引「躍」作「踊」。(一〇)○大正藏本引「悟」作「寤」、四部叢刊本作「悞」。

44 晉程道惠^(一)、字文和、武昌人也。世奉五升米道^(二)、不信有佛。常云、『古來正道、莫踰李老。何乃信惑胡言、以為勝教。』太元十五年、病死。心下尚暖、家不殯殮。數日得蘇^(三)。說初死時、見十許人縛錄將去。逢一比丘、云、『此

人宿福、未可縛也。』乃解其縛、散驅而去。道路修平、而兩邊棘刺森然、略不容足。驅諸罪人、馳走其中。肉隨著刺、號呻聒耳。見惠行在平路、皆歎羨曰、『佛弟子行路、修福人也^(四)。』惠曰、『我不奉法。』其人笑曰、『君忘之耳。』惠因自憶先身奉佛、已經五生五死。忘失本志。今生在世、幼遇惡人、未達邪正、乃惑邪道。既至大城、逕進聽事。見一人、年可四五十、南面而坐。見惠、驚曰^(五)、『君不應來。』有一人、著單衣幘、持簿書對曰、『此人伐社殺人、罪應來此。』向所逢比丘亦隨惠入、申理甚至。云、『伐社非罪也。此人宿福甚多、殺人雖重、報未至也。』南面坐者曰、『可罰所錄人。』命惠就坐、謝曰、『小鬼謬濫、枉相錄來。亦由君忘失宿命^(六)、不知奉大正法故也^(七)。』將遣惠還、乃使暫兼覆校將軍。歷觀地獄。惠欣然辭出、導從而行。行至諸城、城城皆是地獄^(八)。人衆巨億、悉受罪報。見有掣狗、噬人百節、肌肉散落、流血蔽地^(九)。又有群鳥、其喙如鋒、飛來甚速、欬然而至^(一〇)、人人口中、表裏貫洞。其人宛轉呼叫^(一一)、筋骨碎落。其餘經見、與趙泰腐荷、大抵麤同、不復具載。唯此二條為異、故詳記之^(一二)。觀歷既徧、乃遣惠還。復見向所逢比丘、與惠一銅物、形如小鈴、曰、『君還至家、可棄此門外、勿以入室。某年月日、君當有厄。誠慎過此、壽延九十。』時道惠家於京師大街南^(一三)、自見來還。達皂莢橋、見親表三人、住車共語、悼惠之亡。至門、見婢行哭而市。彼人及婢、咸弗見也。惠將入門、置向銅物門外樹上、光明舒散、流飛屬天。良久還小、奄爾而滅。至戶聞屍臭、惆悵惡之。時賓親奔弔、突惠者多^(一四)、不得徘徊。因進入屍、忽然而穌。說所逢車人及市婢、咸皆符同。惠後為廷尉、預西堂聽訟^(一五)、未及就列、欬然頓悶^(一六)、不識人、半日乃愈。計其時日、即道人所戒之期。頃之、遷為廣州刺史。元嘉六年卒、六十九矣^(一七)。

校記 珠林五十五(百二十卷本六九)。○事見廣記三八二引廣異記、文大同。

(一)○珠林大正藏本「惠」作「慧」、下同。(二)○「斗」鈎沈依百二十卷本作「升」、大正藏本引作「斗」、廣記引作「斗」、斗字異體、今依改。(三)○「穌」鈎沈作「穌」、今依兩本改、下同。(四)○大正藏本「復勝」作「修福」、今從之。(五)○鈎沈排印本「驚」下有「問」、衍字、今依刪。(六)○四部叢刊本引「忘」

作「妄」、鈎沈稿本亦作「妄」、排印本作「忘」、大正藏本作「忘」、今從大正藏本。（七）○「故」鈎沈作「教」、未知何據、今依珠林兩本改、廣記引亦作「故」。（八）○大正藏本引無一「城」字。（九）○大正藏本「蔽」作「籍」。（一〇）○此句鈎沈依百二十卷本作「鳩然血至」、今依大正藏本改。（一一）○大正藏本引此句作「跪轉呼噉」。（一二）○自「其餘」至此、凡二十七字、廣記引無。趙泰之事見本篇（鈎沈4）、幽明錄（鈎沈247）、屠荷未詳、按是次條沙門慧達、劉薩荷歟。（一三）○大正藏本引「街」作「桁」、廣記亦同。（一四）○廣記「突」作「哭」。（一五）○大正藏本「訟」作「誦」、廣記亦同。（一六）○鈎沈排印本「頓」誤作「煩」、今依正。（一七）○廣記引「六」作「八」、或當從歟。不然則當作「九十六」。

45 晉沙門慧達^(一)、姓劉名薩荷、西河離石人也。未出家時^(二)、長於軍旅、不聞佛法。尚氣武^(三)、好畋獵。年三十一、暴病而死。體尚溫柔^(四)。家未殮^(五)。至七日而穌。說云、將盡之時、見有兩人執縛將去。向西北行。行路轉高^(六)、稍得平衢。兩邊列樹。見有一人、執弓帶劍、當衢而立。指語兩人、將荷西行^(七)。見屋舍甚多、白壁赤柱。荷入一家、有女子美容服、荷就乞食。空中聲言、「勿與之也。」有人從地踊出、執鐵杵、將欲擊之。荷遽走、歷入十許家皆然、遂無所得。復西北行、見一嫗乘車、與荷一卷書。荷受之。西至一家、館宇華整。有嫗坐于戶外、口中虎牙。屋內牀帳光麗、竹席青几。復有女子處之。問荷、「得書來不。」荷以書卷與之。女取餘書比之^(八)。俄見兩沙門、謂荷、「汝識我不^(九)。」荷答、「不識。」沙門曰、「今宜歸命釋迦文佛。」荷如言發念、因隨沙門俱行。遙見一城、類長安城、而色甚黑、蓋鐵城也。見人甚長大、膚黑如漆、頭髮曳地。沙門曰、「此獄中鬼也^(一〇)。」其處甚寒、有冰如席、飛散著人。著頭^(一一)、頭斷、著腳、腳斷。著臂、臂斷^(一二)。二沙門云、「此寒冰獄也^(一三)。」荷乃內自剋責^(一四)、便識宿命^(一五)、知兩沙門往維衛佛時、並其師也。作沙彌時^(一六)、以犯俗罪、不得受戒。世雖有佛、竟不得見。從此已來^(一七)、再得人身、一生羌中、今生晉中^(一八)。又見從伯、在此獄裏。謂荷曰、「昔在鄴時、不知事佛。見人灌像、聊試學之、而不肯還直。

今故受罪、猶有灌福、幸得生天^(一九)。』次見刀山地獄。次第經歷、觀見甚多。獄獄異城^(二〇)、不相雜廁。人數如沙^(二一)、不可稱計。楚毒科法、略與經說相符。自荷履踐地獄、示有光景^(二二)。俄而忽見金色^(二三)、暉明皎然。見人長二丈許^(二四)、相好嚴華、體黃金色^(二五)。左右並曰^(二六)、『觀世音大士也^(二七)。』皆起迎禮。有二沙門、形質相類、並行而東^(二八)。荷作禮畢^(二九)。菩薩具為說法、可千餘言^(三〇)、末云^(三一)、『凡為亡人設福、若父母兄弟、爰至七世、姻婭親戚、朋友路人、或在精舍、或在家中、亡者受苦、即得免脫。七月望日^(三二)、沙門受臘、此時設供、彌為勝也。若制器物^(三三)、以充供養、器器標題、言為某人親奉上三寶。福施彌多、其慶逾速。沙門白衣、見身為過、及宿世之罪、種種惡業、能於聚中盡自發露、不失事條、勤誠懺悔者、罪即消滅。如其弱顏羞慚、恥於大眾露其過者、可在屏處、默自記說、不失事者、罪亦除滅^(三四)。若有所遺漏、非故隱蔽、雖不獲免、受報稍輕。若不能悔、無慚愧心、此名執過不反、命終之後、剋墜地獄。又他造塔及與堂殿、雖復一土一木、若染若碧、率誠供助、獲福甚多。若見塔殿、或有草穢、不加耘除、蹈之而行、禮拜功德、隨即盡矣^(三五)。』又曰、『經者尊典、化導之津。波羅密經、功德最勝。首楞嚴亦其次也。若有善人、讀誦經處、其地皆為金剛、但肉眼眾生、不能見耳、能勤諷持、不墮地獄^(三六)。般若定本^(三七)、及如來鉢、後當東至漢地。能立一善、於此經鉢、受報生天、倍得功德。』所說甚廣、略要載之。荷臨辭去、謂曰^(三八)、『汝應歷劫、備受罪報。以嘗聞經法、生歡喜心、今當見受輕報。一過便免。汝得濟活、可作沙門。洛陽、臨淄、建業、鄆陰、成都五處並有阿育王塔。又吳中兩石像、育王所使鬼神造也、頗得真相。能往禮者、不墮地獄。』語已東行。荷作禮而別。出南大道、廣百餘步。道上行者、不可稱計。道邊有高座、高數十丈、有沙門坐之。左右僧眾、列倚甚多。有人執筆、北面而立、謂荷曰^(三九)、『在襄陽時、何故殺鹿。』跪答曰^(四〇)、『他人射鹿、我加創耳^(四一)。』又不噉肉、何緣受報。』時即見襄陽殺鹿之地^(四二)、草樹山澗^(四三)、忽然滿目^(四四)。所乘黑馬、並皆能言。悉證荷殺鹿年月時日。荷懼然無對。須臾、有人以叉叉之、投鑊湯中。自視四體、潰然爛碎。有風吹身、聚小岸邊^(四五)、忽然不覺還復全形^(四六)。執筆者復問^(四七)、『汝又射雉、亦嘗殺雁。』言已、又投鑊湯^(四八)、如前爛法^(四九)。受此報已^(五〇)、乃遣荷去^(五一)。入一大城^(五二)、有人居

焉。謂荷曰、『汝受輕罪^(五三)、又得還生、是福力所扶。而今以後、復作罪不^(五四)。』乃遣人送荷^(五五)。遙見故身^(五六)、意不欲還。送人推引、久久乃附形^(五七)、而得蘇活。奉法精勤、遂即出家^(五八)。字曰慧達。太元末、尚在京師。後往許昌、不知所終。

校記 珠林八十六(百二十卷本一〇三)。○*釋門自鏡錄上云、「冥祥記」等。參看高僧傳一三、三寶感通錄下。

(一)○自鏡錄引「晉沙門」作「釋」。(二)○自鏡錄引「未出」作「在」。(三)○珠林大正藏本引無「氣」。

自鏡錄引「氣武」作「武器」。(四)○自鏡錄引「尚」作「且」。(五)○自鏡錄引「未」下有「敢」。(六)○大正藏本引無「行」字。(七)○自鏡錄引「西」上有「向」、而無「行」。(八)○自「白壁赤柱」至此、自鏡錄引無。(九)○自鏡錄引「不」作「否」。(一〇)○大正藏本引「此」作「地」。(一一)○珠林兩本、自鏡錄引無「著」、鈎沈以意補之歟。(一二)○以上四字、今依自鏡錄引補。(一三)○自鏡錄引「獄」上有「地」。(一四)○此句五字、今依自鏡錄引補。(一五)○大正藏本引「便」下有「自」字。(一六)○自鏡錄引此句作「于時得作沙門時」。(一七)○「從」下今依自鏡錄引補「此已來」三字。(一八)○自鏡錄引「中」作「地」。(一九)○自「又見從伯」至此、凡四十四字、自鏡錄引無。(二〇)○自鏡錄引「城」作「域」。(二一)○自鏡錄引「如沙」作「甚多」。(二二)○以上二句十字、自鏡錄引無。(二三)○自鏡錄引「而忽見」作「有」。(二四)○自鏡錄引「見」作「一」。(二五)○自鏡錄引此句作「舉體金色」。(二六)○自鏡錄引無「並」。(二七)○自鏡錄引「世」下有「音」字。今依補。(二八)○自鏡錄引「而東」作「東西」。(二九)○自鏡錄引「荷」上有「薩」。(三〇)○自鏡錄引「可」作「出」。(三一)○自鏡錄引「末」作「又」。(三二)○珠林四部叢刊本「日」作「月」、誤。(三三)○珠林大正藏本引「制」作「割」。(三四)○大正藏本引「除」作「降」。(三五)○鈎沈排印本「隨」上有「功」、衍、今刪。(三六)○「墮」鈎沈作「墜」、今依珠林兩本引改。(三七)○大正藏本引「般」作「波」。(三八)○自「凡為亡人設福」至此、自鏡錄引無。(三

九)○自「洛陽、臨淄」至此、自鏡錄引無、而有「薩荷又遇見、有人謂曰」。(四〇)○自鏡錄引「跪」上有「荷」。
(四一)○自鏡錄引「創」作「槍」。(四二)○自鏡錄引「殺」作「射」。(四三)○自鏡錄引「澗」作「藪」。
(四四)○自鏡錄引此句作「宛然在目前」。(四五)○自鏡錄引「小」作「水」。(四六)○大正藏本引「然」作「焉」。(四七)○自鏡錄引此句作「人復謂曰」。(四八)○「又」鈎沈作「叉」、今依珠林兩本改。但自鏡錄引作「叉」。(四九)○自鏡錄引此句作「準前糜爛」。(五〇)○自鏡錄引「報」作「罪」。(五一)○自鏡錄引「荷」上有「薩」。(五二)○自鏡錄引「入」上有「去」。(五三)○大正藏本·自鏡錄引「罪」作「報」。
(五四)○自鏡錄引「不」字在句頭。(五五)○自鏡錄引「荷」上有「薩」。(五六)○自鏡錄引句頭有「薩荷」二字。(五七)○自鏡錄引無「久」字。(五八)○自鏡錄引至此為止。後文云、「其後禪悟妙化、別有傳記」。

46 晉沙門竺法純、山陰顯義寺主也。晉元興中、起寺行牆、至蘭上買材^(一)。路經湖道。材主是婦人、而應共至材所、準許價直。遂與同船俱行。既入大湖、日暮暴風、波浪如山。純船小水入、命在瞬息。念值行無福、忽遇斯災。又與婦人俱行、其以罔懼。乃一心誦觀世音經。俄有大舟、泛流趣純^(二)。適時既入夜、行旅已絕。純自惟念、不應有此流船、疑是神力。既而共渡乘之^(三)。而此小船、應時即沒。大舟隨波鼓蕩^(四)、俄得達其岸耳^(五)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕○*廣記一一○引法苑珠林。事又見高僧傳一二竺法純傳、法華傳記四引與高僧傳同。

(一)○珠林大正藏本引「蘭上」作「上蘭渚」。(二)○大正藏本引無「泛」。(三)○大正藏本引「渡」作「度」、廣記亦同。(四)○大正藏本「蕩」作「盪」。(五)○大正藏本·廣記引「耳」作「也」。

47 晉沙門釋開達、隆安二年、登龍採甘草、為羌所執。時年大飢、羌胡相噉。乃至達柵中、將食之。先在柵者、十有餘人^(一)、羌日夕亨俎^(二)、唯達尚存。自達被執、便潛誦觀世音經、不懈乎心。及明日當見噉、其晨始曙、忽有大虎、遙逼羣羌^(三)、奮怒號吼。羌各駭怖迸走。虎乃前齧柵木^(四)、得成小闕^(五)、可容人過。已而徐去。達初見虎齧柵、必謂見害。既柵穿而不入、心疑其異。將是觀音力^(六)。計度諸羌、未應便及^(七)、即穿柵逃走。夜行晝伏、遂得免脫。

校記

珠林十七〔百二十卷本二五〕。○廣記一一〇引法苑珠林。事又見法華傳記六、「開達」作「慧達」。

(一)〇鈎沈排印本「十有」作倒、今依正。(二)〇大正藏本引「日」作「曰」、校勘記云、明本作「日」。又「亨」作「烹」、四部叢刊本作「享」。廣記引作「烹」。(三)〇大正藏本引「遙」作「逕」。(四)〇大正藏本引「齧」作「齧」、四部叢刊本「嚙」、廣記引作「噬」、皆下同。(五)〇大正藏本「闕」作「闕」、廣記引作「缺」、今依大正藏本改。(六)〇廣記引「將」作「調」。大正藏本・廣記引「觀」下有「世」字。(七)〇「及」鈎沈作「反」、未知何據、今依諸本改。

48 晉潘道秀、吳郡人。年二十餘、為軍糾主北為征固^(一)。既而軍小失利。秀竄逸被掠。經數處作奴。浮虜異域、欲歸無因。少信佛法、恆志心念觀世音^(二)。每夢寐、輒見像^(三)。後既南奔、迷不知道。於窮山中、忽覩真形、如今行像。因作禮、禮竟、豁然不覺失之^(四)。乃得還路、遂歸本土。後精進彌篤。年垂六十而亡^(五)。

校記

珠林十七〔百二十卷本二五〕。廣記一百十。

(一)案此句有譌。廣記引作「嘗隨軍北征」。○大正藏本引「糾」作「亂」。(二)〇大正藏本引「恆志」作「當至」、廣記亦「志」作「至」。(三)廣記引有「像」字。○大正藏本引亦有。(四)二句廣記引作「怡然、不覺安行」。○廣記鈔宋本作「豁然不覺失之」。(五)〇廣記引無此句六字。

49 晉樂苟^(一)、不知何許人也。少奉法、嘗作福富平令^(二)、先從征盧循^(三)、值小失利、船舫遭火垂盡^(四)、賊亦交逼。正在中江、風浪駭目、苟恐怖分盡、猶誦念觀世音^(五)。俄見江中有一人、挺然孤立、腰與水齊、苟心知祈念有感^(六)。火賊已切^(七)、便投水就之。身既浮涌^(八)、脚以履地^(九)、尋而大軍遣船迎接敗者^(一〇)、遂得免濟^(一一)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕。廣記一百十。

(一) 廣記引並作「苟」。○珠林大正藏本亦同。(二) 廣記引無「福」、或衍文歟。(三) 〇「盧」鈎沈排印本作「廬」、稿本作「盧」、依正。珠林兩本引「廬」作「虜」。(四) 〇「船」珠林引無、廣記引有。(五) 〇廣記引「猶誦」作「尤」、但鈔宋本引作「猶誦」。(六) 〇廣記引「祈念」作「念經」、但鈔宋本作「祈念」。(七) 廣記引無此句。(八) 〇大正藏本・廣記引「身」作「體」。(九) 〇廣記引「以」作「似」、大正藏本校勘記云、宋・元本作「似」。(一〇) 〇廣記引「尋」作「俄」、但鈔宋本作「尋」。廣記引「大」作「天」。(一一) 〇廣記引句頭有「於是」二字、而無「免」。

50 晉沙門釋法智為白衣時^(一)、嘗獨行至大澤中、忽遇猛火、四方俱起。走路已絕、便至心禮誦觀世音。俄然火過^(二)、一澤之草、無有遺莖者。唯智所處容身不燒^(三)。於是始乃敬奉大法。後為姚興將^(四)、從征索虜、軍退失馬、落在圍裏^(五)。乃隱溝邊荊棘叢中^(六)、正得蔽頭^(七)、復念觀世音、心甚勤至。隔溝人遙喚後軍、指令煞之、而軍過搜覓^(八)、輒無見者、遙得免濟^(九)。後遂出家^(一〇)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕。廣記一百十。○古今圖書集成神異典七九。

(一) 〇廣記引無「晉」。(二) 〇廣記引「然」作「而」、但鈔宋本作「然」。(三) 〇珠林大正藏本・廣記引「智」上均有「法」字。廣記引又「處容身」作「容身處」、但鈔宋本作「處容身」。(四) 〇廣記鈔宋本引無「為」。(五) 〇珠林四部叢刊本作「裏」作「裏」。(六) 〇廣記引無「荊」、而「棘叢」作「叢棘」。(七) 〇「正」

今依大正藏本補。(八)○「過」珠林兩本均作「遏」、鈎沈從廣記引。(九)○大正藏本「遙」作「徑」、廣記引作「遂」、而無「濟」。(一〇)○廣記引「遂」作「逕」、但鈔宋本作「遂」。

51 晉南宮子敖^(一)、始平人也。戍新平城、為佛佛虜兒長樂公所破^(二)、合城數千人皆被誅害。子敖雖分必死、而猶至心念觀世音。既而次至子敖^(三)、羣刀交下、或高或僻^(四)、持刀之人忽疲懈^(五)、四支不隨。爾時長樂公親自臨刑、驚問之、子敖聊爾答云、「能作馬鞍。」乃令原釋。子敖亦不知所以作此言^(六)。時後遂得遁逸。造小形像^(七)、貯以香函、行則頂戴也^(八)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕。廣記一百十。○古今圖書集成神異典九二。

(一)○珠林兩本引「宮」作「公」。(二)○大正藏本引「佛佛」作「乞伏」。(三)○大正藏本引「子」作「于」。(四)○大正藏本引「僻」作「低」。(五)○「忽」鈎沈作「或」、未知何據、今依珠林·廣記引改。(六)○「以」鈎沈奪之、今依補。(七)廣記引作「乃造一觀音小像」。(八)○大正藏本引「也」作「云」、廣記引無。

52 晉劉度^(一)、平原遼城人也。鄉里有一千餘家^(二)、並奉大法、造立形像、供養僧尼。值虜主木末時^(三)、此縣嘗有逋逃、未大怒、欲盡滅一城。眾並兇懼^(四)、分必殄盡^(五)。度乃潔誠、率眾歸命觀世音。頃之、未見物從空中下^(六)、繞其所住屋柱^(七)、驚視、乃觀世音經。使人讀之^(八)、未大歡喜、用省刑戮^(九)。於是此城即得免害^(一〇)。

校記 珠林十七〔鈎沈誤作「十一」、七三年版全集已訂之。百二十卷本二五〕。廣記一百十。○三寶感應要略錄下。古今圖書集成神異典七九。

(一)○廣記引無「晉」。(二)○廣記引無「一」。(三)○略錄引「值」作「緬」。廣記引「未」作「末」、下同。(四)○廣記引「並」作「皆」。(五)○珠林四部叢刊本·略錄引「殄」作「彌」。(六)○略錄·廣記

引無「中」。(七)○廣記引無「所住」二字。(八)廣記引無此句。○廣記鈔宋本引有。(九)○廣記引「用」作「因」。(一〇)○略錄引文末有「云云」二字。

53 晉郭宣之、太原人也。義熙四年、為楊思平梁州府司馬。楊以輒害范元之等被法^(一)、宣亦同執在獄、唯一心歸向觀世音菩薩。後夕將眠之際、忽親觀菩薩光明照獄、宣瞻覲禮拜、祈請誓願、久之乃沒。俄而宣之獨被恩赦^(二)。既釋、依所見形、製造圖像、又立精舍焉。後歷零陵衡陽、卒官。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕。○參看辯正論七注(廣記一一〇引)、宣驗記(鈎沈23)作「郭宣」。

(一)○珠林大正藏本引「被」作「彼」、誤。(二)○大正藏本引「赦」作「放」。

54 晉新野庾紹之、小字道覆、晉湘東太守、與南陽宋協中表昆弟、情好綢繆。紹元興末、病卒^(一)。義熙中、忽見形詣協。形貌衣服、具如平生、而兩脚著械。既至、脫械置地而坐。協問、『何由得顧^(二)』。答云、『暫蒙假歸、與卿親好、故相過也。』協問鬼神之事、紹輒漫略^(三)、不甚諧對。唯云、『宜勤精進、不可殺生。若不能都斷、可勿宰牛、食肉之時、無噉物心^(四)』。協云、『五臟與肉、乃復異耶^(五)』。答曰、『心者、善神之宅也^(六)、其罪尤重。』具問親戚、因談世事、末復求酒^(七)。協時時餌茱萸酒^(八)、因為設之。酒至、對杯不飲^(九)、云有茱萸氣。協曰、『為惡之耶^(一〇)』。答云、『下官皆畏之、非獨我也。』紹為人語聲高壯^(一一)、此言論時不異恆日^(一二)。有頃、協兒遽之來^(一三)、紹聞履聲、極有懼色。謂協曰、『生氣見陵、不復得住。與卿三年別耳。』因貫械而起、出戶便滅。協後為正員郎、果三年而卒。

校記 珠林九十四〔百二十卷本一一三〕。廣記三百二十一〔鈎沈誤作三百二十四、七三年版全集已訂之〕。○事見異苑六。

(一)○鈎沈「末」誤作「卒」、七三年版全集已訂之。珠林大正藏本・廣記引「卒」作「亡」。

(二)○廣記引「得」下有「來」字。(三)○廣記引「紹」作「言」。(四)○廣記引「無噉」作「勿啗」。(五)○廣記引「復」作「有」、鈔宋本作「有復」。(六)○廣記引「善」作「藏」、但鈔宋本作「善」。(七)○珠林四部叢刊本「末」作「未」、誤。(八)○廣記引「時餌」作「與」。(九)○廣記引奪「對」字。(一〇)○廣記引無「之」。(一一)○廣記引「紹」下有「之」。(一二)○廣記引「此」作「比」。但鈔宋本作「此」。大正藏本引「恆」作「常」。(一三)○廣記鈔宋本引「有頃協歸逐之家」作「有漢曰協歸逐之家」、有譌。

55 晉沙門釋法安者、廬山之僧遠法師弟子也。義熙末、陽新縣虎暴甚盛。縣有大社樹、下有築神廟、左右民居以百數。遭虎死者、夕必一兩。法安嘗游其縣、暮投此村、民以懼虎、早閉門閭、且不識法安、不肯受之。法安逕之樹下^(一)、坐禪通夜、向曉、有虎負人而至、投樹之北、見安、如喜如跳、伏安前。安為說法授戒、虎踞地不動^(二)、有頃而去。至旦、村人追死者至樹下、見安大驚、謂其神人、故虎不害。自茲以後、而虎患遂息。衆益敬異、一縣士庶、略皆奉法。後欲畫像山壁、不能得空青、欲用銅青、而又無銅。夜夢人逕其牀前云^(三)、『此中有兩銅鐘、便可取之。』安明即掘得、遂以成像。後遠法師鑄像、安送一勸助。餘一、武昌太守熊無患借觀之、遂留不改^(四)。

校記 珠林十九〔百二十卷本二七〕。○事又見高僧傳六法安傳。

(一)○鈞沈「逕」依百二十卷本作「遙」、今依珠林大正藏本引。(二)○鈞沈「踞」作「據」、未知何據、今依珠林二本改。(三)○大正藏本引「逕」作「迂」、訛。(四)○此句有譌、「改」疑當作「還」。

56 漢沙門竺曇蓋^(一)、秦郡人也。真確有苦行、持鉢振錫^(二)、取給四輩^(三)。居于蔣山、常行般舟、尤善神咒、多有應驗。司馬元顯甚敬奉之、衛將軍劉毅聞其精苦、招來姑孰^(四)、深相愛遇。義興五年^(五)、大旱、陂湖竭涸、苗稼焦枯、祈祭山川、累旬無應。毅乃請僧設齋、蓋亦在焉。齋畢、躬乘露桁^(六)、浮泛川溪、文武士庶、傾州悉行。蓋於中流、焚

香禮拜^(七)、至誠慷慨、乃讀海龍王經。造卷發音、雲氣便起、轉讀將半、沛澤四合、纔及釋軸、洪雨滂注、畦湖畢滿^(八)、其年以登。劉敬叔時為穀國郎中令、親豫此集、自所覩見。

校記 珠林六十三(百二十卷本七九)。○按此或本異苑之文歟、但不見今本。

(一)案〔漢〕當作〔晉〕、珠林誤題。(二)○珠林大正藏本引「持」作「提」。(三)○大正藏本引「取給」作「行化」。(四)○大正藏本引「孰」作「熟」。(五)案〔義興〕當作「義熙」。(六)○大正藏本引「桁」作「航」。(七)○大正藏本引「焚」作「燔」。(八)○「畢」珠林兩本均作「必」、或鈎沈以意改歟。

57 晉向靖、字奉仁、河內人也。在吳興郡喪數歲女^(一)。女始病時、弄小刀子、母奪取不與、傷母手。喪後一年、母又產一女、女年四歲、謂母曰、『前時刀子何在。』母曰、『無也。』女曰、『昔爭刀子、故傷母手、云何無耶。』母甚驚怪、具以告靖、靖曰、『先刀子猶在不。』母曰、『痛念前女、故不錄之。』靖曰、『可更覓數箇刀子^(二)、合置一處、令女自擇^(三)。』女見大喜、即取先者^(四)、曰、『此是兒許。』父母大小乃知前女審其先身。

校記 珠林二十六(百二十卷本三五)。廣記三百八十七。○類說五。事文類聚後集五。群書類編故事七。

(一)四字廣記引作「有一女、數歲而亡」。(二)○廣記引「覓」作「取」。(三)○廣記引「擇」作「識」、類說以下均同。(四)廣記引至「即取先者」。○類說以下均同。

58 趙石長和者、趙國高邑人也^(一)。年十九時^(二)、病一月餘日亡^(三)。家貧、未能及時得殯斂^(四)、經四日而穌^(五)。說初死時、東南行、見二人治道、在和前五十步^(六)、和行有遲疾、二人治道^(七)、亦遂緩速、常五十步。而道之兩邊、棘刺森然、皆如鷹爪^(八)、見人甚衆、羣走棘中^(九)、身體傷裂、地皆流血。見和獨行平道、俱歎息曰、『佛子獨行大道中。』前至、見瓦屋采樓^(一〇)、可數千間、有屋甚高^(一一)、上有一人、形面壯大、著皂袍四縫、臨牕而坐。和拜之^(一二)、閣上

人曰、『石君來耶。一別二千餘年^(二二)。』長和爾時意中便若憶此別時也^(二四)、和相識有馬牧孟丞夫妻^(二五)、先死已積年歲^(二六)、閣上人曰、『君識孟丞不。』長和曰、『識。』閣上人曰、『孟丞生時不能精進、今恆為我司埽除之役^(二七)。孟丞妻精進、居處甚樂。』舉手指西南一房曰、『孟妻在此也。』孟妻開牕見和、厚相慰問、遍訪其家中大小安否消息^(二八)、曰、『石君還時、可更見過、當因附書也^(二九)。』俄見孟丞執箒提箕、自閣西來、亦問家消息。閣上人曰、『聞魚龍超精進為信爾^(三〇)、何所修行^(三一)。』長和曰、『不食魚肉、酒不經口、恆轉尊經、救諸疾痛。』閣上人曰、『所傳不妄也^(三二)。』語久之間^(三三)、閣上人問都錄主者^(三四)、『審案石君名錄^(三五)、勿謬濫也。』主者案錄云^(三六)、『餘三十年命在^(三七)。』閣上人曰、『君欲歸不。』和對曰、『願歸。』乃敕主者、以車騎兩吏送之。長和拜辭、上車而歸。前所行道、更有傳館吏民飲食儲峙之具。倏忽至家、惡其屍臭^(三八)、不欲附之、於屍頭立。見其家亡妹於後推之、踣屍面上、因得蘇活^(三九)。道人支法山時未出家^(四〇)、聞和所說、遂定入道之志。法山者、咸和時人也。

校記 珠林七(百二十卷本一二)。廣記三百八十三。○事又見幽明錄(鈎沈265)。

- (一)○「邑」珠林引無、依廣記引。(二)○廣記引無「時」。(三)○廣記引作「病月餘卒」。(四)○廣記引作「未及殯殮」。(五)○廣記引「日」作「月」、汪氏校語云、「日原作月、據明鈔本改」。鈔宋本亦作「日」。(六)○廣記引「和」作「長和」、下皆同。(七)○廣記引無「治道」。(八)○廣記引無「皆」。(九)○廣記引「走」作「足」、但鈔宋本作「走」。(一〇)○廣記引無「見」、而「采」作「御」。珠林大正藏本作「采」作「行」。(一一)○廣記引無「有」。(一二)○廣記引作「升之」。○黃刻本如此、但談刻、汪校本皆作「拜之」。(一三)○大正藏本引「千」作「十」。(一四)○廣記引無「爾時意中」四字、而「憶」下有「得」。(一五)○廣記引「和相識有馬牧」作「相識中有馬放」。大正藏本「丞」作「承」、下同。(一六)○廣記引無「年」。(一七)○大正藏本「恆」作「常」、下同。(一八)○鈎沈「否」作「不」、今依諸本改。廣記引無「消息」二字。(一九)○「附」珠林二本引無、依廣記引。(二〇)○廣記引「精」作「積」、汪氏校語云、「精原作積、據明鈔本改」。

鈔宋本亦作「精」。(二二)○廣記引「爾」作「耳」。(二三)○大正藏本「妄」作「志」、誤。(二四)○大正藏本・廣記引無「問」。(二五)○廣記引無「名」、但鈔宋本引有。(二六)○廣記引無「云」。(二七)○廣記引無「命在」二字。(二八)○廣記引無「臭」。(二九)○廣記引無「活」。(三〇)○廣記引「道人支法山」作「法道人山」、但鈔宋本與珠林同。

59 趙沙門單、或作善、字道開、不知何許人也。別傳云、燉煌人、本姓孟、少出家、欲窮棲巖谷、故先斷穀食。初進麵、三年後服練松脂^(一)、三十年後唯時吞小石子、石子下、輒復斷酒脯雜果。體畏風寒、唯噉椒薑、氣力微弱、而膚色潤澤、行步如飛。山神數試、未曾傾動、仙人恆來、意亦不耐、每齧蒜以卻之。端坐靜念、晝夜不眠。久住抱罕^(二)。石虎建武二年、自西平迎來、至鄴下、不乘舟車、日行七百餘里。過南安、度一童子為沙彌、年十三四、行亦及開。既至、居於昭德佛圖、服縷羅弊^(三)、背陞恆袒^(四)。於屋內作棚閣、高八九尺、上織菅為帳、禪於其中。絕穀七載、常御雜藥、藥有松脂伏苓之氣。善能治目疾、常周行墟野、救療百姓、王公遠近、贈遺累積、皆受而施散、一毫無餘。石虎之末、逆知其亂、乃與弟子南之許昌。昇平三年、來至建業、復適番禺、住羅浮山、蔭臥林薄、邈然自怡。以其年七月卒、遺言露屍林裏、弟子從之。陳郡袁彥伯、興寧元年、為南海太守、與弟穎叔登游此岳^(五)、致敬其骸、燒香作禮。

校記 珠林二十七(百二十卷本三六)。○事又見高僧傳九單道開傳、*三寶感通錄下。

稿本欄外注云、「高僧傳在佛調之前。」高僧傳以單道開為晉人、若是則當移在第7之前。

(一)○珠林大正藏本引「練」作「鍊」。(二)○大正藏本此句作「久在抱罕」。(三)○大正藏本此句作「裳服縷弊」。(四)○大正藏本「陞恆」作「膊常」。(五)○珠林引「叔」作「升」、鈎沈依高僧傳改。

60 秦徐義者^(一)、高陸人也。少奉法、為苻堅尚書。堅末^(二)、兵革蜂起、賊獲義、將加戮害^(三)、乃埋其兩足、編髮於

樹。夜中專念觀世音^(四)、有頃得眠^(五)、夢人謂之曰、『今事亟矣、何暇眠乎。』義便驚起、見守防之士^(六)、並疲而寢。乃試自奮動、手髮既解、足亦得脫、因而遁去^(七)。百餘步、隱小叢草^(八)、便聞追者交馳、火炬星陳、互繞此叢、而竟無見者^(九)。天明賊散^(一〇)、歸投鄴寺^(一一)、遂得免之^(一二)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕。廣記一百十。

(一)○廣記引文頭有「苻」、而無「者」。(二)○廣記引「堅末」作「時」。(三)○廣記引無「戮」。(四)○廣記引「夜中」作「至夜義」。(五)○廣記引「得眠」作「忽」。(六)○廣記引「守防之士」作「防守者」、鈔宋本作「防守之士」。(七)○廣記引無「因」「去」二字。(八)○廣記引作「隱草中」。(九)○廣記引無自「火炬」至「竟」凡十字、而作「秉炬」二字。(一〇)○廣記引「天」作「迨」。(一一)○廣記引句頭有「義」、廣記鈔宋本「鄴」作「鄰」。(一二)○大正藏本「之」作「云」、廣記作「焉」。

61 秦畢覽東平人也^(一)。少奉法、隨慕容垂北征、沒虜、單馬逃竄。虜追騎將及^(二)、覽至心誦念觀世音。既得免脫、因入深山^(三)、迷惑失道、又專心歸念^(四)。中夜見一道人、法服持錫、示以途徑、遂得還路^(五)、安隱至家^(六)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕。廣記一百十。

(一)○廣記引文頭有「苻」、而無「也」。(二)○廣記引「追騎」作「騎追」。(三)○廣記引無「因」「深」二字。(四)○廣記引「歸」作「持」。(五)○廣記引無此句四字。(六)○廣記引「隱」作「然」。

62 宋沙門法稱、臨終曰、『有嵩山人告我^(一)、「江東劉將軍應受天命。」並以三十二璧一餅金為信。』宋祖聞之、命僧惠義往嵩山、七日七夜行道、夢有一長鬚翁指示。及覺、分明憶所在、掘而得之^(二)。

校記 廣記二百七十六。○事見高僧傳七釋慧義傳、南齊書祥瑞志、南史宋武帝紀。

(一)○汪氏校語云、「嵩原作松、據明鈔本改」。高僧傳亦作「嵩」、今依改。下同。(二)○廣記鈔宋本此句作「掘得」二字。

63 宋仇那跋摩者^(一)、此言功德種^(二)、鬪寶王子也。幼而出家、號三藏法師。宋初、來游中國、宣譯至典甚衆。律行精高、莫與為比。惠觀沙門欽其風德^(三)、要來京師、居於祇洹寺。當時來詣者、疑非凡人、而神味深密、莫能測焉。嘗赴請於鍾山定林寺、時諸道俗多採衆華、布僧席下、驗求真人。諸僧所坐、華同萎頓、而跋摩席華、鮮榮如初。於是京師歎然增加敬意^(四)。至元嘉八年九月十八日卒、都無痾患、但結跏趺坐、斂衽叉手、乃經信宿、容色不變。于時或謂深禪、既而得遺書于筵下、云獲沙門二果、乃知其終。弟子侍側、普聞馨烟^(五)。京師赴會二百餘人、其夕轉經、戶外集聽盈階。將曉、而西南上有雲氣勃然、俄有一物、長將一市、遶屍而去^(六)、同集成觀云。跋摩未亡時^(七)、作三十偈、以付弟子曰、「可送示天竺二僧也。」

校記 法苑珠林四十二(百二十卷本五五)。○事又見高僧傳三求那跋摩傳、三寶感通錄下。

(一)○高僧傳三求那跋摩傳、感通錄「仇」皆作「求」。(二)(稿本欄外注「種」)高僧傳云、此言功德鎧。案跋摩是鎧、記誤也。○高僧傳次句云、「本刹利種」、因而誤也。(三)高僧傳「惠」作「慧」。○珠林大正藏本亦作「慧」。(四)○大正藏本「意」作「異」、誤。(五)○大正藏本「普」作「並」、「馨」作「香」。(六)○大正藏本「匝」作「匹」、「屍」作「死」。(七)○大正藏本「跋」下有「摩」字、今依補。

64 宋陳安居者、襄陽縣人也。伯父少事巫俗、鼓舞祭祀、神影廟宇、充滿其宅^(一)。父獨敬信釋法、旦夕齋戒。後伯父亡、無子、父以安居紹焉。安居雖即伯舍、而理行精求、淫饗之事、廢不復設^(二)。於是遂得篤病、而發則為歌神之曲^(三)、迷悶昏僻。如此者彌歲、而執心愈固。常誓曰、「若我不殺之志、遂當虧奪者、必先自鬻截四體、乃就其事。」家

人並諫之、安居不聽。經積二年^(四)、永初元年、病發遂絕、但心下微暖、家人不斂。至七日夜、守視之者、覺屍足間如有風來、颺衣動衾。於是而穌有聲、家人初懼屍蹙、並走避之。既而稍能轉動、未求飲漿^(五)。家人喜之、問從何來。安居乃具說所經見、云初有人若使者、將刀數十、呼將去。從者欲縛之、使者曰、『此人有福、未可縛也。』行可三百許里^(六)、至一城府、樓宇甚整。使者將至數處^(七)、如局司所居、末有人授紙筆與安居曰、『可疏二十四通死名。』安居即如言疏名成數通、有一侍從內出^(八)、揚聲大呼曰、『安居可入。』既入、稱有教付刺奸獄、吏兩人、一云、『與大械。』一云、『此人頗有福、可止三尺械^(九)。』疑論不判、乃共視文書、久之、遂與三尺械。有頃、見有貴人、翼從數十、形貌都雅^(一〇)、謂安居曰、『汝那得來。』安居具陳所由、貴人曰、『汝伯有罪、但宜錄治、以先植小福、故暫得游散^(一一)、乃敢告訴。吾與汝父、幼少有舊、見汝依然、可隨我共游觀也。』獄吏不肯釋械、曰、『府君無教、不敢專輒。』貴人曰、『但付我、不使走逸也。』乃釋之。貴人將安居徧至諸地獄、備觀衆苦^(一二)、略與經文相符。游歷未竟、有傳教來云、『府君喚安居。』安居茫懼然^(一三)、求救於貴人。貴人曰、『汝自無罪、但以實對、必無憂也。』安居至閤、見有鉗梏者數百、一時俱進、安居在第三。既至階下、一人服冠冕、立于囚前、讀諸罪簿。其第一者云^(一四)、昔娶妻之始、夫妻為誓、有子無子、終不相棄、而其人本是祭酒、妻亦奉道、共化導徒衆^(一五)、得仕女弟子^(一六)、因而奸之、遂棄本妻、妻常冤訴。府君曰、『汝夫妻違誓、大義不罪一、終罪一也^(一七)。師資義著在三^(一八)、而奸之、是父子相淫、無以異也。付法局詳刑^(一九)。』次讀第二女人辭牒、忘其姓名、云家在南陽冠軍縣黃水里、家安爨器於福竈口、而比婦眠重、嬰兒於竈上匍匐走行、糞汙爨器中。此婦寤、已即請謝神祇、盥洗精熟^(二〇)、而其舅乃罵詈此婦^(二一)、言無有天道鬼神、置此女人^(二二)、得行污穢^(二三)。司命聞知^(二四)、故錄送之^(二五)。府君曰、『眠竈非過^(二六)、小兒無知、又已請謝神明、是無罪也。舅罵詈言無道、誣謗幽靈、可錄之來。』須臾而到、赤索捉至^(二七)。安居階下人具讀名牒、為伯所訴云云。府君曰、『此人事佛、大德人也。其伯殺害無辜、訾誑百姓、罪宜窮治。以昔有小福、故未加罪^(二八)、伯今復謗訴無辜^(二九)。』教催錄取、未及至^(三〇)、而府君遣安居還、云、『若可還去、善成勝業、可壽九十三、努力勉之。勿復更來也。』安居出

至閣^(三二)、局司云、『君可拔卻死名。』於是安居以次抽名既畢、而欲向游貴人所、貴人亦至、云、『知汝無他、得還甚善、努力修功德。吾身福微、不辦生天、受報於此、輔佐府君、亦優游富樂、神道之美。吾家在宛^(三三)、姓某名某、君還為吾致意^(三四)。深盡奉法、勿犯佛禁、可具以所見示語之也。』乃以三人送安居^(三五)、出門數步^(三六)、有專使^(三七)、送符與安居、謂曰、『君可持此符、經過戍邏以示之、勿輒偷過、偷過有徒適也。若有水礙、可以此符投水中、即得過也。』安居受符而歸、行久之、阻大江、不得渡。安居依言投符、瞭然如眩、乃是其家屋前中方地也^(三八)。正聞家中號慟哭泣、所送之人^(三九)、勸還就身。安居云、『身已臭穢^(四〇)、吾不復能歸。』此人乃強排之、踣於屍腳上。安居既愈、欲驗黃水婦人、故往冠軍縣尋問、果有此歸。相見依然、如有曩舊^(四一)、云、已死得生^(四二)、舅即以某日而亡^(四三)。說所聞見、與安居悉同。受五戒師字僧昊^(四四)、襄陽人也、末居長沙、本與安居同里、聞其口說。安居之終、亦親覩^(四五)、果九十三焉^(四六)。

校記 珠林六十二(百二十卷本七八)。○廣記一一三引法苑珠林。

(一)○廣記引以上二句作「神像盈宅」。(二)○廣記引以上二句作「廢絕淫祀」。(三)○廣記引「於是遂得篤病、而發」作「忽得病發狂」。(四)○廣記引此句作「經三年」、而無下句。(五)○珠林大正藏本引「末」作「未」、廣記引作「仍」、廣記鈔宋本作「乃」。(六)○「可」稿本誤作「百」、排印本因刪之、今依諸本補。廣記作「行可百餘里」。(七)○廣記引「數處」作「府所」、鈔宋本作「樓處」。(八)○大正藏本「侍」作「寺」、廣記引作「人」。(九)○廣記引「可止」作「只可」、鈔宋本作「可只」。次句廣記引作「議論不決」。(一〇)○大正藏本引「都」作「閑」。(一一)○廣記引「暫」作「今」、「游」作「擊」。(一二)○廣記引此句作「備見苦楚」。(一三)○大正藏本引「茫」作「忙」、廣記引「茫懼然」作「惶懼」。(一四)○廣記引「者云」作「措行」。(一五)○廣記引以上二句作「嘗亦奉道供化、徒衆中」。(一六)○「仕」鈎沈作「士」、今依大正藏本引改、廣記引作「一」。(一七)○廣記引以上二句作「大義不終、罪一也」。(一八)○大正藏本引「資」

作「諮」。(一九)○大正藏本引「刑」作「形」。(二〇)○廣記引「精熟」作「精潔」。(二一)○大正藏本・廣記引「乃」作「每」、四部叢刊本作「母」。(二二)○廣記引此句作「致此惡婦」。(二三)○四部叢刊本引「污穢」作倒。(二四)○「命」鈎沈排印本誤作「令」、七三年版全集已訂之。(二五)○「故」鈎沈作「此」、未知何據、今依珠林二本、廣記引改。(二六)○「竈」鈎沈作「重」、未知何據、今依珠林二本・廣記引改。(二七)○珠林二本「索」作「官」、此句當有譌、難讀。廣記因而改作「次到」、屬下。(二八)○大正藏本引「加」作「知」、誤。廣記引「加罪」作「加之罪耳」。(二九)○大正藏本・廣記引無「伯」。(三〇)○廣記引此句作「已」。(三一)○廣記引此句作「將離府」、鈔宋本作「將離府臺閣」。(三二)○大正藏本引「苑」下有「陵」。(三三)○「君」今依珠林二本・廣記引補。次句廣記引作「尊奉法戒」、但鈔宋本與珠林同。(三四)○大正藏本引「人」作「力士」二字、廣記引作「人力士」。(三五)○廣記引「數步」作「數百步」。(三六)○大正藏本・廣記引「專使」作「傳教」。(三七)○廣記引此句作「乃是其家庭中也」。(三八)○大正藏本・廣記引「之」作「三」。(三九)○大正藏本「云」作「之」。廣記引作「聞其身臭穢、曰」。(四〇)○廣記引「曩舊」作「舊識」。(四一)○「已」鈎沈作「己」、今依珠林二本・廣記引改。(四二)○大正藏本・廣記引「某」作「其」。(四三)○大正藏本引「受」作「授」、「昊」作「旻」。(四四)○自「受戒」至此、凡三十二字、廣記引無。(四五)○廣記引此句作「安居果壽九十三也」。

65 宋沙門僧規者、武當寺僧也^(一)。時京兆張瑜於此縣、常請僧規在家供養。永初元年十二月五日、無痾忽暴死、二日而穌愈^(二)。自說云、五日夜五更中^(三)、聞門巷間曉曉有聲^(四)、須臾、見有五人、炳炬火^(五)、執信幡、逕來入屋、叱咀僧規^(六)、規因頓臥恍然^(七)、五人便以赤繩縛將去^(八)。行至一山、都無草木、土色堅黑、有類石鐵。山側左右、白骨填積。山數十里^(九)、至三歧路、有一人甚長壯、被鎧執仗、問五人、『有幾人來。』答曰^(一〇)、『政一人耳^(一一)』。五人

又將規入一道中、俄至一城外^(二)、有屋數十、築壤為之^(三)。屋前有立木、長十餘丈、上有鐵梁、形如桔槔^(四)。左右有匱、貯土^(五)。土有品數^(六)、或有十斛形、亦如五升大者。有一人、衣幘並赤、語規曰、『汝生世時^(七)、有何罪福。依實說之、勿妄言也。』規惶怖未答、赤衣人語一人如局吏云^(八)、『可開簿、檢其罪福也。』有頃、吏至長木下、提一匱土、懸鐵梁上稱之、如覺低昂^(九)。吏謂規曰、『此稱量罪福之秤也^(一〇)。汝福少罪多、應先受罰^(一一)。』俄有一人、衣冠長者、謂規曰、『汝沙門也、何不念佛。我聞悔過可度八難。』規於是一心稱佛、衣冠人謂吏曰、『可更為此人稱之、既是佛弟子、幸可度脫。』吏乃復上匱稱之、稱乃正平^(一二)。既而將規至監官前辯之、監執筆觀簿、遲疑久之^(一三)。又有一人、朱衣玄冠、佩印綬、執玉板、來、曰、『簿上未有此人名也。』監官愕然、命左右收錄去^(一四)。須臾、見反縛向五人來^(一五)。監官曰、『殺鬼、何以濫將人來。』乃鞭之。少頃有使者稱^(一六)、『天帝喚道人來^(一七)。』既至帝宮、經見踐歷^(一八)、略皆金寶、精光晃昱、不得凝視^(一九)。帝左右朱衣寶冠、飾以華珍^(二〇)。帝曰、『汝是沙門、何不勤業、而為小鬼橫收捕也。』規稽首諸佛、祈恩請福^(二一)。帝曰、『汝命未盡、今當還生。宜勤精進、勿屢游白衣家^(二二)。殺鬼取人、亦多枉濫、如汝比也。』規曰、『橫濫之厄、當以何方而濟免之。』帝曰、『廣設福業、最為善也。若不辦、爾可作八關齋。生免橫禍、死離地獄、亦其次也。』語畢、遣規去。行還未久、見一精舍、大有沙門、見武當寺主白法師、弟子慧進、皆在焉。居宇宏整、資待自然、規請欲居之。有一沙門曰、『此是福地、非君所得處也^(二三)。』使者將規還至瑜家而去^(二四)。

校記 珠林八十三(百二十卷本一〇〇)。○釋門自鏡錄上。

- (一)○自鏡錄引以上二句十一字作「釋僧規、未詳何許人。少出家、頗以化物為務、而輕犯小戒、多游俗家。」(二)
○自鏡錄引「痾」作「病」、「死」作「亡」、而無「愈」。(三)○珠林大正藏本・自鏡錄引「五」作「二」。(四)
○大正藏本引「巷」作「街」。(五)○自鏡錄引「炳」作「秉」。(六)○大正藏本引「咀」作「喝」。(七)
○「規」鈎沈無、今依珠林二本補。自鏡錄引亦有。(八)○自鏡錄引「赤」作「走」、訛。(九)○自鏡錄引

「山」上有「過」。(一〇)○珠林二本「問」下有「曰」字、正有譌、鈎沈因以「曰」移在「答」下。今從。自鏡錄引「五人」下有「曰」、而且「答」下又有「曰」。(一一)○大正藏本「政」作「正」。自鏡錄引亦同。(一二)○自鏡錄引無「一道中俄至」五字、而「城」下又有「城」字。(一三)○自鏡錄引句頭有「悉」字。(一四)○大正藏本引「桔槔」作「櫟槔」。(一五)○自鏡錄引「匱」作「土mk」、而無「貯土」二字。(一六)○自鏡錄引此句作「大小數品」、而無後二句十一字。(一七)○自鏡錄引無「世」。(一八)○自鏡錄引「人」下有「語一人」三字、今依補。(一九)○大正藏本「昂」作「仰」。(二〇)○鈎沈排印本「稱」誤作「種」、七三年版全集已訂之。自鏡錄引「秤」作「稱」。(二一)○自鏡錄引「罰」作「罪」。(二二)○大正藏本「稱」作「秤」。(二三)○自鏡錄引「疑」下有「未決」二字。(二四)○「去」珠林二本均作「云」、鈎沈以意改歟。自鏡錄引亦作「云云」。(二五)○自鏡錄引「向」下有「者」。(二六)○自鏡錄引「少頃」作「須臾」。(二七)○自鏡錄引「喚」上有「命」。(二八)○自鏡錄引此句作「經歷所見」。(二九)○自鏡錄引無此句四字。(三〇)○自鏡錄引無此句四字。(三一)○自鏡錄引此二句九字作「規稽首祈恩」。(三二)○自鏡錄引帝語中「盡」作「終」、「家」下有「也」字。(三三)○自「殺鬼」至此、自鏡錄引無。(三四)○自鏡錄引無「還」、而文末有「也」字。

66 何澹之、東海人、宋大司農。不信經法、多行殘害。永初中得病、見一鬼、形甚長壯、牛頭人身、手執鐵叉、晝夜守之。憂怖屏營、使道家作章符印錄、備諸禳絕、而猶見如故。相識沙門慧義、聞其病往候、澹之為說所見。慧義曰、「此是牛頭阿旁也。罪福不昧、唯人所招。君能轉心向法、則此鬼自消。」澹之迷很不革、頃之遂死。

校記 珠林八十三(百二十卷本一〇〇)。

(一)○珠林大正藏本引「候」下有「之」、而無下句之「之」、疑譌奪。

67 宋沙門竺慧熾^(一)、新野人、住在江陵四層寺。永初二年卒、弟子為設七日會。其日將夕、燒香竟。道賢沙門因往視熾弟子、至房前、忽見曖曖若人形^(二)。詳視、乃慧熾也。容貌衣服、不異生時^(三)。調賢^(四)、『君旦食肉^(五)、美不。』賢曰、『美。』熾曰、『我坐食肉、今生餓狗地獄^(六)。』道賢懼讐未及得答^(七)。熾復言^(八)、『汝若不信、試看我背後。』乃迴背示賢、見三黃狗、形半似驢、眼甚赤、光照戶內、狀欲齧熾而復止^(九)。賢駭怖悶絕、良久乃穌。具說其事。因茲悛悔^(一〇)。

校記 珠林九十四(百二十卷本一一三)。○釋門自鏡錄下。事又見異苑五(廣記三三四引)。

(一)○自鏡錄引無「宋沙門」三字。(二)○自鏡錄引「忽」下有「見」、今依補。又無「曖」字。(三)○自鏡錄引「生」下有「平」。(四)○自鏡錄引「賢」下有「曰」。(五)○自鏡錄引「旦」作「且」。(六)○自鏡錄引「生」作「墮」。(七)○自鏡錄引「懼讐」作「驚悚」。(八)○自鏡錄引「復」下有「語」。(九)○自鏡錄引「齧」作「噬」。(一〇)○此句今依自鏡錄補。

68 晉王練、字玄明、瑯琊人也^(一)、宋侍中。父珉、字季琰、晉中書令。相識有一梵沙門^(二)、每瞻珉風采^(三)、甚敬悅之、輒語同學云、『若我後生得為此人作子、於近願亦足矣。』珉聞而戲之曰、『法師才行、正可為弟子子耳^(四)。』頃之、沙門病亡、亡後歲餘、而練生焉。始生能言^(五)、便解外國語及絕國之奇珍銀器珠貝^(六)。生所不見、未聞其名、即而名之、識其產出。又自然親愛諸梵過於漢人。咸謂沙門審其先身。故珉字之曰阿練、遂為大名云云^(七)。

校記 珠林二十六(百二十卷本三五)。廣記三百八十七。辯正論七陳子良注引冥祥記云、

瑯琊王珉、其妻無子、常祈觀音乞兒。珉後行路、逢一胡僧、其意極甚悅之。其胡僧曰、我死當為君子。少時道人果亡、三月間珉妻有妊、及生能語、即解西域十六國音、大聰明、有器度。即晉尚書王淵明身也。故小名阿練、敘前生

時、事事有驗。(廣記一一〇又引)。

○*義楚六帖二・四。*類說五。事文類聚後集五引作「洞冥記」、譌。天中記三九。

(一)○珠林大正藏本引「瑯琊」作「琅耶」、而其校勘記云、明本作「瑯琊」。(二)○大正藏本引「沙門」作「僧」。
廣記引「梵」作「胡」。(三)○大正藏本引「采」作「彩」。(四)○廣記引「弟子」下奪「子」。(五)○
「生」今依大正藏本引補。(六)○大正藏本・廣記引無「之」字、又均「銀」作「銅」。(七)○大正藏本・
廣記引無「云」字。

69 宋孫道德^(一)、益州人也。奉道祭酒、年過五十、未有子息。居近精舍、景平中、沙門謂德^(二)、『必願有兒、當至心
禮誦觀世音經、此可冀也。』德遂罷不事道、單心投誠^(三)、歸觀世音。少日之中而有夢應、婦即有孕、遂以產男也^(四)。

校記 法苑珠林十七(百二十卷本二五)。太平廣記一百十。

(一)〔宋〕珠林引作「晉」、今依廣記。(二)○廣記引「德」上有「道」。(三)○廣記引「單」作「丹」。(四)
○廣記引此句作「產男」二字。大正藏本「也」作「云」、四部叢刊本作「也」。

70 宋齊僧欽者、江陵人也。家門奉法、年十許歲時、善相占云、『年不過三六。』父母兄弟甚為憂懼、僧欽亦增加勤
敬、齋戒精苦。至年十七、宋景平末、得病危篤、家齋祈彌勵^(一)、亦淫祀求福、疾終不愈。時有一女巫云、『此郎福力
猛盛、魔魍所不能親^(二)、自有善神護之、然病久不差、運命或將有限。世有探命之術、少事天神^(三)、頗曉其數。當為
君試效之。』於野中設酒脯之饋、燒香然燈、或如寢寐、須臾復興、夕中一兩如此^(四)、經七日七夕、云、『始有感覺、
見諸善神方為此郎祈禱、蒙益兩筭矣。病必得愈、無所憂也。』僧欽於是遂差、彌加精至、其後二十四年而終、如巫所
言、則一筭十二年矣。

校記 珠林六十二(百二十卷本七八)。

(一)○珠林大正藏本引「家」下有「中」字。(二)○大正藏本「能」作「敢」。(三)○大正藏本「少」作「小」。(四)○自「燒香」至此、凡十八字、今依大正藏本補。四部叢刊本止作「燒錢」二字。

71 宋魏世子者、梁郡人也。奉法精進、兒子遵修^(一)、唯婦迷閉^(二)、不信釋教。元嘉初^(三)、女年十四病死、七日而甦^(四)。云、「可安施高座、并無量壽經^(五)。『世子即為具設經座、女先雖齋戒禮拜^(六)、而未嘗看經^(七)、今即升座轉讀^(八)、聲句清利^(九)、下啟父言、』兒死便往無量壽國^(一〇)、見父兄及已三人、池中已有芙蓉大華、後當化生其中。唯母獨無、不勝此苦、乃心故歸啟報^(一一)。』語竟、復絕^(一二)、母於是乃敬信法教云^(一三)。

校記 珠林十五(百二十卷本二三)。太平廣記一百十四。○*義楚一引珠林。

(一)○珠林大正藏本·廣記引「子」作「女」。(二)○廣記引「閉」作「執」。(三)○廣記引無「釋教、元嘉初」五字。(四)○廣記引「甦」作「蘇」。(五)○義楚引此句作「佛像香花」。(六)○廣記引此句作「女雖持齋戒」。(七)○廣記引無「而」。(八)廣記引有「今」字。○廣記引無「轉讀」二字。(九)○廣記引「聲句」作「誦聲」。(一〇)○廣記引無「壽」。(一一)○廣記引無「乃心」二字。(一二)○鈎沈排印本「竟」誤作「絕」、七三年版全集已訂之。(一三)「信」字、「教」字、據廣記引補。○「云」依大正藏本補、四部叢刊本作「云云」。

72 宋張興者、新興人也。頗信佛法、嘗從沙門僧融曇翼時受八戒。興常為劫所引^(一)、夫得走逃^(二)、妻坐繫獄、掠笞積日。時縣失火、出囚路側、會融翼同行、經過囚邊。妻驚呼、「閨梨何以賜救^(三)。』融曰、「貧道力弱、無救如何^(四)。唯宜勤念觀世音、庶獲免耳。』妻便晝夜祈念、經十許日^(五)、於夜夢一沙門、以脚踏之^(六)、曰、「咄咄、可起。』妻即

驚起、鉗鎖桎梏、忽然俱解^(七)。便走趣戶^(八)、戶時猶閉、警防殊嚴^(九)、既無由出。慮有覺者、乃還著械^(一〇)。尋復得眠^(一一)、又夢向沙門曰、『戶已開矣。』妻覺而馳出、守備者並已昏睡^(一二)、妻安步而去。時夜甚闇、行可數里^(一三)、卒值一人。妻懼避地、已而相訊、乃其夫也。相扶悲喜^(一四)、夜投僧翼、翼藏匿之、遂得免^(一五)。時元嘉初也^(一六)。

校記 珠林十七〔百二十卷本二五〕。廣記一百十。

(一)○廣記引「劫」下有「賊」字。(二)○廣記引此句作「逃避」二字。(三)○廣記引「以」作「不」。(四)○廣記引「無」作「不能」。(五)○廣記引「許日」作倒、但鈔宋本作「許日」。(六)○廣記引作「以足躡之」。(七)○珠林大正藏本引「忽」作「懼」。(八)○廣記引無以上二句八字。(九)○廣記引以上二句作「閉戶警防」。(一〇)○廣記引作「乃却自械」。(一一)○廣記引無此句四字。(一二)○廣記作「守備俱寢」。(一三)○廣記引以上二句作「闇行數里」。(一四)○「扶」大正藏本作「符」、訛、廣記作「見」。(一五)○大正藏本作「因遂獲免」、廣記作「獲免焉」。(一六)○廣記引無此句五字。

73 宋元嘉初^(一)、中有黃龍沙彌曇無竭者、誦觀世音經、淨修苦行。與諸徒屬五十二人往尋佛國、備經荒險、貞志彌堅^(二)。既達天竺舍衛。路逢山象一羣、竭齎經誦念、稱名歸命、有師子從林中出、象驚奔走。後有野牛一羣、鳴吼而來、將欲加害、竭又如初歸命、有大鷲飛來、牛便驚散。遂得尅免。

校記 法苑珠林六十五〔百二十卷本八二〕。○廣記一一○引法苑珠林。事又見高僧傳三曇無竭傳、法華經傳記四。(一)○高僧傳·法華傳記「元嘉」均作「永初」、或當作「永初中、有黃龍云云」。(二)○廣記引無此句四字。

74 宋唐文伯、東海懸榆人也。弟好蒲博、家資都盡。村中有寺、經過人或以錢上佛、弟屢竊取。久後病癰。卜者云、

『崇由盜佛錢。』父怒曰、『佛是何神、乃令我兒致此。吾當試更虜奪、若復能病、可也。』前縣令何欣之婦上織成寶蓋帶四枚、乃盜取之、以為腰帶。不盈百日、復得惡病。發瘡之始、起腰帶處。世時在元嘉年初爾^(一)。

校記 珠林七十九〔百二十卷本九六〕。廣記一百十六。

(一)○廣記引無此句八字。

75 宋沙門釋道罔^(一)、扶風好畤人也。本姓馬氏、學業淳粹、弱齡有聲。元嘉二年九月、在洛陽為人作普賢齋。道俗四十許人、已經七日、正就中食、忽有一人、袴褶乘馬、入至堂前、下馬禮佛。罔謂常人、不加禮異。此人登馬揮鞭、忽失所在。便見赤光、赫然竟天、良久而滅。後三年十二月、在白衣家復作普賢齋。將竟之日、有二沙門、容服如凡、直來禮佛。衆中謂是庸僧^(二)、不甚尊仰、聊問何居。答曰、『住在前村。』時衆白衣有張道、覺其有異、至心禮拜。沙門出門、行可數十步、忽有飛塵、直上衝天、追目此僧、不復知所。罔以七年與同學來游京師、時司空何尚之始構南澗精舍、罔寓居焉。夜中忽見四人乘一新車、從四人傳教^(三)、來在屋內、呼與共載道。罔驚其夜至、疑而未言。因眼閉^(四)、不覺昇車。俄而至郡後沈橋。見一貴人、著帙被篋布單衣、坐牀熏繖^(五)、形似華蓋、鹵簿從衛可數百人、悉服黃衣、見罔驚曰、『行般舟道人、精心遠詣、旨欲知其處耳。何故將來。』即遣人引送罔還。至精舍門外、失所送人、門閉如故、扣喚久之、寺內諸僧咸驚相報告、開門內之。視所住房戶、猶故關之。

校記 珠林十七〔百二十卷本二四〕。○事又見高僧傳十二釋道罔傳。三寶感通錄下。法華經傳記四。弘贊法華傳一。參看本篇97。

(一)○珠林大正藏本引「罔」作「璟」、下同。(二)○「衆」鈎沈排印本誤作「泉」、七三年版全集已訂之。大正藏本引「庸」作「常」。(三)○大正藏本引無「人」。(四)○大正藏本引「閉」作「聞」。(五)○大正藏本引「熏」作「薰」。

76 宋李旦、字世則、廣陵人也。以孝謹資素著稱鄉里。元嘉三年、正月十四日、暴病、心下不冷^(二)、七日而甦^(三)、

含以飲粥、宿昔復常。云有一人、持信幡來至牀頭、稱府君教喚、旦便隨去。直北向行^(四)、道甚平淨。既至、城閣高麗^(五)、似今宮闕、遣傳教慰勞、問呼^(六)、『旦可前。』至大廳事上^(六)、見有三十人、單衣青幘、列坐森然、一人東坐、披袍隱几^(七)。左右侍衛、可有百餘、視旦而語坐人云、『當示以諸獄、令世知也。』旦聞言已、舉頭四視^(八)、都失向處、乃是地獄中。見羣罪人、受諸苦報、呻吟號呼、不可忍視。尋有傳教、稱府君信、『君、可還去^(九)、當更相迎。』因此而還。至六年正月復死、七日又活、述所見事、較略如先。或有罪囚寄語報家、道生時犯罪、使為作福、稱說姓字^(一〇)、親識鄉伍。旦依言尋求、皆得之。又云、『甲申年當行疾癘、殺諸惡人、佛家弟子、作八關齋、心修善行^(一一)、可得免也。』旦本作道家祭酒、即欲棄錄本法、道民諫制、故遂兩事、而常勸化、作八關齋。

校記 法苑珠林六(百二十卷本一〇)○珠林二本均作出「冥報記」。又廣記三八二引「冥報記」。按此事並不屬於冥報記、當屬冥祥記、岑仲勉「唐唐臨冥報記之復原」已辯之。第77・80皆冥祥記。事又見幽明錄(鈎沈272)。

(一)○廣記引奪「不」字。(二)○廣記引「甦」作「蘇」。(三)○廣記引作「直向北行」。(四)○廣記引「閣」作「闕」。(五)○廣記引無「問」字。(六)○廣記引無「事」字。(七)○廣記引「披」作「被」。(八)○廣記鈔宋本引「四視都」作「回視却」。(九)○廣記引「信」作「放」、而無「可」字。(一〇)○珠林大正藏本・廣記引「稱」作「稍」。(一一)○珠林大正藏本「心修」作「戒修心」、廣記引作「修心」。

77 宋尚書僕射滎陽鄭鮮之、元嘉四年、從大駕巡京至都、夕暴亡、乃靈語著人曰、『吾壽命久盡、早應過世、賴比歲來敬信佛法、放生布施、以此功德、延駐數年耳^(一)。夫幽顯報應、有若影響、宜放落俗務、崇心大教。』于時勝貴多皆聞云。

校記 珠林六〔百二十卷本一〇〕。○參看宣驗記（鈎沈31）。此條珠林二本均作出「冥報記」、參看前條校記。事又見*義楚一六。

（一）○「駐」鈎沈作「馳」、未知何據、今依珠林兩本改。

78 宋周宗者^(一)、廣陵肥如人也^(二)。元嘉七年、隨劉彥之北伐、王師失利、與同邑六人逃竄。閒行於彭城北、遇一空寺、無有僧徒、中有形像、以水精為相、因共竊取^(三)、出村貿食^(四)。其一人羸病、等輩輕之^(五)、獨不得分^(六)。既各還家^(七)、三四年中、宗等五人、相繼病癩而死^(八)、不得分者、獨獲全免^(九)。

校記 珠林七十九〔百二十卷本九六〕。廣記一百十六。

（一）○廣記引無「宋」、但下文「元嘉七年」上有「宋」字。（二）○廣記引「肥如」作「郡」。（三）○廣記引句末有「之」字。（四）○廣記引句頭有「乃」字、而「貿」作「貸」。（五）○廣記引「輕」上有「皆」。（六）○廣記引「分」下有「與」。（七）○廣記引「既」下有「而」。（八）○珠林大正藏本「繼」作「係」。（九）○廣記引無「全」。

79 宋順陽郭詮^(一)、字仲衡、晉益州刺史。義熙初、以黨附桓玄被誅^(二)。亡後三十餘載^(三)、元嘉八年、忽見形詣女壻南陽劉凝之家、車衛甚盛。調凝之曰^(四)、「僕有謫事、可見為作四十僧會^(五)、當得免也^(六)。」言終不見。劉謂是魍魎、不不在意。後夕詮又與女夢言^(七)、「吾有謫罰^(八)、已告汝壻、令為設會^(九)、何以至今^(一〇)、不能見矜耶。」女晨起、見詮從戶過、怒言、「竟不能相救。今便就罪。」女號踊留之^(一一)、問當何處設齋^(一二)。答云、「可歸吾舍^(一三)。」倏然復沒。凝之即狼狽供辦^(一四)、會畢、有人稱詮信、與凝之相聞^(一五)、言、「感君厚惠、事始獲宥。」言已失去、於是而絕^(一六)。

校記 珠林九十一〔百二十卷本一〇九〕。廣記三百二十四。○廣記引略多。事又見*義楚六引珠林。義楚二、未著出處。

(一)案〔宋〕當作「晉」、廣記引無。(二)二句依廣記引補。(三)○廣記引此句作「及」。(四)○廣記引自「忽見」至此、凡二十字作「忽乘輿道從、顯形謂女婿劉凝之曰」。(五)○珠林大正藏本「四」作「三」。廣記鈔宋本以上二句作「僕將有所請、可三十僧會」。(六)○廣記引作「得免脫也」。(七)○「後」鈞沈排印本誤作「復」、今依正。自「言終」至此、四句廣記引作「又女夢言」、鈔宋本引無「又」。(八)○廣記鈔宋本作「吾獲罰不了」。(九)○廣記引無上句四字、而下句作「令汝夫作福」。(一〇)〔何以至今〕四字廣記引有。○廣記引句頭有「設會」二字、但鈔宋本引無。(一一)○自「女晨起」至此、凡二十四字、廣記引無。(一二)○廣記引句頭有「女」。(一三)○廣記鈔宋本引至此為止、而云、出「異苑」。(一四)○廣記引無「凝之即狼狽供」六字。(一五)○四部叢刊本奪「之」。廣記引無「相聞」二字。(一六)○廣記引無以上二句。而汪氏校語云、「明鈔本作出異苑」。不見今本異苑。

80 宋司馬文宣^(一)、河內人也。頗信佛法^(二)。元嘉九年^(三)、丁母難、弟喪、月望旦^(四)、忽見其弟身形於靈座上^(五)、不異平日、迴遑歎嗟^(六)、諷求飲食。文乃試與言曰、「汝平生時、修行十善^(七)、若如經言、應得生天、若在人道^(八)、何故乃生此鬼中耶^(九)。」沈吟俯仰^(一〇)、默然無對。文宣即夕夢其弟云^(一一)、「生所修善、蒙報生天。旦靈牀之鬼^(一二)、是魔魅耳^(一三)。非某身也^(一四)。恐兄疑怪、故詣以白兄^(一五)。」文宣明旦請僧轉首楞嚴經、令人撲繫之。鬼乃逃入牀下、又走戶外、形稍醜惡。舉家駭懼、詈叱遣之^(一六)。鬼云、「餓乞食耳^(一七)。」積日乃去^(一八)。頃之、母靈牀頭有一鬼、膚體赤色、身甚長壯。文宣長息孝祖與言^(一九)、往反答對周悉^(二〇)。初雖恐懼、末稍安習之^(二一)。鬼亦轉相附狎、居處出入、殆同家人。於時京師傳相報告^(二二)、往來觀者、門巷豐跡^(二三)、時南林寺有僧、與靈味寺僧含沙門與鬼言論^(二四)、

亦甚款曲。鬼云、『昔世嘗為尊貴、以犯眾惡、受報未竟、果此鬼身。去寅年有四百部鬼^(二五)、大行疾癘、所應鍾災者^(二六)、不忤道人耳^(二七)。而犯橫極眾、多濫福善、故使我來監察之也。』僧以食與之、鬼曰、『我自有糧、不得進此食也。』含曰、『鬼多知。我生何來^(二八)、何因作道人。』答曰、『人中來、出家因緣、本誓願也。』問諸存亡生死所趣、略皆荅對、具有靈驗。條次繁多、故不曲載。含曰、『人鬼道殊、汝既不求食、何為久留。』鬼曰、『此間有一女子、應在收捕、而奉戒精勤、故難可得。比日稽留、用此故也^(二九)。籍亂主人、有愧不少。』自此已後、不甚見形、後往視者^(三〇)、但聞語耳。時元嘉十年也。至三月二十八日、語文宣云、『暫來寄住、而汝傾家營福、見畏如此、那得久留。』孝祖云、『聽汝寄住、何故據人先亡靈筵耶。』答曰、『汝家亡者、各有所屬。此座空設、故權寄耳。』於是辭去。

校記 珠林六〔百二十卷本一〇〕。○廣記三二五引「冥報記」、珠林兩本亦云出「冥報記」、參看第76條校記。事之前半見*義楚十六引珠林。

(一)○廣記引無「宋」字。(二)○珠林大正藏本引無「佛」、廣記引無「法」。(三)○廣記引「九」作「元」。(四)○廣記引「月」上有「數」字。(五)○廣記引無「身形於」三字。(六)○廣記引「嗟」作「咤」。(七)○廣記引此句作「勤修行善」、但鈔宋本「善」作「十善」。(八)○廣記引「若」作「或」。(九)○廣記引「生」作「墜」、但鈔宋本作「生」。廣記引「耶」作「即」、屬下文。(一〇)○珠林大正藏本引「沈」作「說」、疑譌。(一一)○「宣」今依大正藏本・廣記引補。(一二)○廣記引無「旦」字。(一三)○大正藏本「魅」作「魁」。(一四)○廣記引「其」作「某」、今依改。(一五)○廣記引無「詣」。(一六)○「詈叱」鈎沈作倒、今依諸本改。(一七)○廣記引「餓」作「飢」、鈔宋本作「餓」。(一八)○廣記引「積」作「經」。(一九)○廣記引「息」作「子」。(二〇)○廣記鈔宋本「反」作「復」。(二一)○廣記引「末」作「久」。(二二)○廣記引無「時」、而「傳」作「轉」。(二三)○廣記引「巷」作「限」。(二四)○廣記引「味」作「珠」。「含」作「舍」、下同。(二五)○廣記引「去」作「云」。(二六)○廣記引「鍾」作「羅」。(二七)○廣記引「忤」

作「悟」。(二八)○廣記引奪「何」。(二九)○廣記引「用」作「因」。(三〇)○廣記引「後」作「復」、但鈔宋本作「後」。

81 宋沙門曇遠^(一)、廬江人也。父萬壽、御史中丞。遠奉法精至^(二)、持菩薩戒、年十八、元嘉九年^(三)、丁父艱、哀毀致招疾、殆將滅性、號踊之外、便歸心淨土、庶祈感應。遠時請僧、常有數人^(四)、師僧含亦在焉^(五)。遠常向含悔懺宿業、恐有煩緣^(六)、終無感徹^(七)。僧含每獎厲、勸以莫怠^(八)。至十年二月十六日夜^(九)、轉經竟、衆僧已眠、四更中^(一〇)、忽自唱言歌誦^(一一)。僧含驚而問之、遠曰、『見佛身黃金色、形狀大小、如今行像、金光周身^(一二)、浮焰丈餘、旛華翼從^(一三)、充牣虛空^(一四)、環妙麗極、事絕言稱。』遠時住西廂中、云^(一五)、『佛自西來、轉身西向、當宁而立^(一六)、呼其速去。』曇遠常日羸喘、示有氣息^(一七)、此夕壯厲、悅樂動容。便起淨手、含布香手中^(一八)、并取園華、遙以散佛。母謂遠曰、『汝今若去、不念吾耶。』遠無所言、俄而頓臥。家既宿信聞此靈異、既皆欣肅、不甚悲懼。遠至五更、忽然而終、宅中芬馨^(一九)、數日乃歇。

校記 珠林十五〔百二十卷本二三〕。廣記一百十四。○廣記引略多。

(一)〔沙門〕二字廣記引作「何」。○珠林大正藏本「沙門」下有「何」字。(二)○廣記引「遠」上有「曇」字、下皆同。而無「精至」二字。(三)○廣記引無此句四字。(四)○廣記引以上二句作「時請僧數人」。(五)○廣記引無此句六字。(六)○廣記引無此句四字。珠林大正藏本引無「煩」。(七)○廣記引「徹」作「徵」、當從。(八)○廣記引作「不令懈怠」。(九)○廣記引此句作「爾後因夜」。(一〇)○廣記引無此句三字。(一一)○珠林兩本重複「歌誦」、疑衍。(一二)○廣記引無以上三句十二字。(一三)○大正藏本「翼」作「翊」。(一四)○廣記引「牣」作「滿」。(一五)○廣記引無以上三句十五字。(一六)○「宁」珠林兩本引作「佇」、鈎沈以意改。廣記引無以上二句八字。(一七)○廣記引以上二句作「曇遠素羸弱少力」。(一八)

○廣記引以上二句作「便於合中取香著手中」。(一九)○「宅中」鈎沈作「中宅」、今依諸本改。

82 宋尼釋智通、京師簡靜尼也^(一)。年貌姝少^(二)、信道不篤^(三)。元嘉九年、師死罷道、嫁為魏郡梁羣甫妻^(四)、生一男、年大七歲^(五)、家甚貧^(六)、無以為衣。通為尼時、有數卷素無量壽法華等經、悉練擣之、以衣其兒。居一年、而得病、恍忽驚悸、竟體剝爛^(七)、狀若火瘡、有細白虫、日去升餘^(八)、燥痛煩毒^(九)、晝夜號叫^(一〇)。常聞空中語云、「壞經為衣、得此劇報。」旬餘而死。

校記 珠林十八〔百二十卷本二六〕。廣記一百十六。○*義楚六帖三引云、

宋尼智通、年兒殊美、信道不篤。返家生兒、窮無衣服、以素經為襁褓。兒後患瘡、白虫日出一升、痛苦而死、驗之有神。

法華傳記九。類說五。明鈔說郭四。古今圖書集成神異典二〇六。事見釋門自鏡錄上、文與法華傳記同。

(一)○傳記引作「尼智通、少出家、住京師簡靜寺」。(二)○傳記引無此句。廣記引「姝」作「殊」。(三)○明鈔說郭引以上二句作「年少不信師詹」。(四)○珠林大正藏本「羣」作「犀」、「妻」作「妾」、傳記亦作「犀」、廣記引無「羣」、「妾」同。(五)○傳記引「年大」作「六」。(六)○大正藏本「貧」作「窮貧」、傳記引作倒、廣記引亦同。(七)○廣記引作「肌體壞爛」。(八)○傳記引「去」作「出」。(九)○大正藏本・廣記引「燥」作「疹」、傳記引作「慘」。一〇○大正藏本引「叫」作「噉」。

83 宋命氏二女、東官曾城人也、是時祖姊妹^(一)。元嘉九年^(二)、姊年十歲、妹年九歲、里越愚蒙、未知經法。忽以二月八日並失所在、三日而歸、麗說見佛。九月十五日又失^(三)、一句還、作外國語、誦經及梵書^(四)、見西域沙門、便相開解。明年正月十五日、忽復失之、田間作人云、其從風徑飄上天。父母號懼、祀神求福^(五)。既而經月乃返、剃頭為尼、

被服法衣、持髮而歸。自說、見佛及比丘尼、曰、『汝宿世因緣、應為我弟子。』舉手摩頭、髮因墮落、與其法名、大曰法緣、小曰法綵。臨遣還、曰、『可作精舍、當與汝經法也。』女既歸家、即毀除鬼座、繕立精廬、夜齋誦經^(六)、夕中每有五色光明、流泛峯嶺、若燈燭。二女自此後、容止華雅^(七)、音制詮正^(八)、上京風調^(九)、不能過也。刺史韋朗孔默等^(一〇)。並迎供養、聞其談說、甚敬異焉^(一一)。於是溪里皆知奉法。

校記 珠林五·又二十二(百二十卷本八·又三一。後者略引)。○事見三寶感通錄下。

(一)○珠林二二引作「東官命二女」、而引在「元嘉九年」下。(二)一引(二二)作「元年」。○感通錄引亦同、而此句在文頭。(三)○二二引句頭有「至」字。(四)○二三四部叢刊本引「梵」作「胡」。(五)一引(二二)作「父母哀哭、求禱神鬼」。(六)○珠林五大正藏本引「齊」作「齋」、而無「經」。二二引作「旦夕禮誦」。(七)○珠林五大正藏本「二」作「云」、疑譌。(八)○二二引以上二句作「自此容止音調、詮正有法」。感通錄引同。(九)○二二引「調」作「規」。感通錄引同。(一〇)(孔默等)三字一引(五)作「就里」。(一一)○二二引以上三句作「並迎敬異云云」、而無下句八字。感通錄引同。

84 宋王球、字叔達、太原人也^(一)。涪陵太守、以元嘉九年於郡失守^(二)、繫在刑獄、著一重鎖^(三)、釘鑠堅固^(四)。球先精進、既在圜圖^(五)、用心尤至。獄中百餘人、並多飢餓、球每食、皆分施之。日自持齋、至心念觀世音。夜夢昇高座、見一沙門、以一卷經與之、題云^(六)『光明安行品并諸菩薩名^(七)』。球得而披讀、忘第一菩薩名、第二觀世音^(八)、第三大勢至、又見一車輪。沙門曰、『此五道輪也^(九)』。既覺、鎖皆斷脫、球心知神力、彌增專到^(一〇)。因自釘治其鎖、經三日而被原有。

校記 珠林二十三(百二十卷本三二)。○廣記一一○引法苑珠林。事見法華傳記五、「王球」作「王珠」、「叔達」作「叔衍」。

(一)○廣記引無「也」。(二)○廣記引「九」作「元」。(三)○廣記引無此句四字。(四)○廣記引「釘鏢」作「防鎖」。(五)○珠林大正藏本「在」作「有」。廣記引無此句四字。(六)○廣記引「云」作「名」。(七)○廣記引「安」作「按」。(八)○廣記引無「世」。(九)○廣記引「輪」作「門」。(一〇)○廣記引「到」作「志」。

85 宋劉齡者、不知何許人也^(一)。居晉陵東路城村、頗奉法^(二)、於宅中立精舍一間、時設齋集。元嘉九年三月二十七日、父暴病亡。巫祝並云、『家當更有三人喪亡。』鄰家有道士祭酒^(三)、姓魏名叵^(四)、常為章符、誑化村里、語齡曰、『君家衰禍未已、由奉胡神故也^(五)。若事大道、必蒙福祐、不改性者、將來滅門。』齡遂揭延祭酒^(六)、罷不奉法。叵云、『宜焚去經像、災乃當除耳。』遂閉精舍戶^(七)、放火焚燒^(八)、炎熾移日、而所燒者^(九)、唯屋而已。經像幡幢^(一〇)、儼然如故。像於中夜、又放光赫然^(一一)。時諸祭酒有二十許人、亦有懼畏靈驗、密委去者。叵等師徒、猶盛意不止、被髮偶步、執持刀索、云、『斥佛還胡國、不得留中夏、為民害也。』齡於其夕、如有人毆打之者、頓仆於地、家人扶起、示餘氣息^(一二)、遂委攣蹙、不能行動。道士魏叵、其時體內發疽、日出二升^(一三)。不過一月、受苦便死。自外同伴、並皆著癩。其鄰人東安太守水丘和傳於東陽無疑^(一四)、時亦多見者。

校記 珠林六十二(百二十卷本七八)。○廣記一二三引法苑珠林。文末有「東安太守水丘和傳於東陽無疑」之記事、按此原是齊諧記之文也。

(一)○廣記引無「者」「也」。(二)○廣記引「法」上有「佛」。(三)○珠林大正藏本・廣記引「道士」作「事道」。(四)○廣記引「叵」作「巨」、下同。(五)○廣記引「胡」作「不明」、而無「故」。(六)○大正藏本「揭」作「亟」、廣記引作「敬」。(七)○廣記引「閉」作「爇」、而無「戶」。(八)○廣記引無此句四字。(九)○廣記引無此句四字。(一〇)○大正藏本「幡」作「坐」、廣記引作「座」。「幡」、頓字異體。(一一)

一〇「光」鈎沈排印本誤作「火」、七三年版全集已訂之。○廣記引作「大放赤光」。(一一)○廣記引「示」作「方」。(一二)○廣記引「二」作「血三」。(一四)○廣記引「丘」作「立」、而無「無疑」。

86 宋馬虔伯^(一)、巴西閬中人也。少信佛法、嘗作宣漢縣宰^(二)。以元嘉十二年七月夜^(三)、於縣得夢^(四)、見天際有三人、長二丈餘、姿容嚴麗^(五)、臨雲下觀、諸天妓樂、盈切空中^(六)、告曰、「汝厄在荊楚、戊寅之年、八月四日、若處山澤、其禍剋消、人中齋戒、亦可獲免、若過此期、當悟道也」^(七)。時俯見相識楊暹等八人、並著鎖械、又見道士胡遼、半身土中^(八)。天中天際神人^(九)、皆記八人命盡年月、唯語遼曰、「若能修立功德、猶可延長也。」暹等皆如期終亡^(一〇)、遼益懼、奉法山居、勤勵彌至。虔伯後為梁州西曹掾^(一一)、州將蕭思話也。蕭轉南蠻、復命為行參軍、虔伯耳荊楚之言^(一二)、心甚懼然^(一三)、求蕭解職、將適衡山、蕭苦不許。十五年即戊寅歲也^(一四)、六月末、得病、至八月四日、危篤守命^(一五)。其日黃昏後、忽朗然徹視、遙見西面有三人^(一六)、形長可二丈^(一七)、前一人衣帙垂鬢^(一八)、頂光圓明^(一九)、後二人姿質金曜、儀相端備、列於空中、去地數仞。虔伯委悉詳視、猶是前所夢者也。頃之不見、餘芳移時方歇、同居小大、皆聞香氣、因而流汗、病即小瘥。虔伯所居宇卑陋^(二〇)、于時自覺處在殿堂、廊壁環曜^(二一)、皆是珍寶。於是所患悉以平復^(二二)。

校記 珠林三十二(百二十卷本四四)。廣記一百十三。

(一)○廣記引「虔」作「處」、下皆同。(二)○珠林大正藏本・廣記鈔宋本引無「宰」、廣記引作「令」。(三)○廣記引無「以」。(四)○廣記引無「於縣得」三字。(五)○廣記引「麗」作「厲」、汪氏校語云、「厲」明鈔本作「麗」。(六)○「切」鈎沈依百二十卷本作「仞」、今依大正藏本改。廣記引「切」作「於」。(七)○大正藏本「悟」作「寤」。(八)○廣記引「土中」作「出空」。(九)○廣記引無「天中」「神」。(一〇)○廣記引「終」作「而」、但鈔宋本作「終」。(一一)廣記引有「掾」字。(一二)○廣記引「耳」作「思」。(一

三)○廣記引無「然」。(一四)○廣記引「五」作「三」、但鈔宋本作「五」。(一五)○廣記引無「四日」「守命」。(一六)○廣記引「面」作「方」。(一七)○廣記引「形」作「行」。(一八)○廣記引「帙」作「袷」。(一九)○廣記引作「頂有光」、鈔宋本作「頂有光明」。(二〇)○廣記引「字」作「頗」、但鈔宋本作「字」。(二一)○廣記引「環曜」作「煥耀」。(二二)○大正藏本引無「悉」、而「以」下有「漸」字。四部叢刊本引無「平」。廣記引此句作「俄即所患平復」。

87 宋沙門竺惠慶^(一)、廣陵人也。經行修明。元嘉十二年、荊揚大水、川陵如一^(二)。惠慶將入廬山^(三)、船至小^(四)、而暴風忽起、同旅已得依浦、唯惠慶船未及得泊^(五)、飄颻中江、風疾浪涌、靜待淪覆^(六)。慶正心端念^(七)、誦觀世音經。洲際之人、望見其船迎颺截流、如有數十人牽挽之者、逕到上岸^(八)、一舫全濟。

校記 珠林六十五(百二十卷本八二)。○廣記一一引法苑珠林。事見高僧傳一二釋慧慶傳。

(一)○珠林大正藏本「惠」作「慧」。(二)○廣記引無此句四字。(三)○大正藏本引奪「慶」。(四)○廣記引「小」作「江」。(五)○大正藏本・廣記引「船」作「舫」、下同。廣記引無「未及得泊」四字。(六)○廣記引「靜」作「唯」。(七)○廣記引「念」作「意」。(八)○廣記引「上」作「其」。

88 宋葛濟之、句容人、稚川後也。妻同郡紀氏、體貌閑雅、甚有婦德。濟之世事仙學^(一)、紀氏亦同、而心樂佛法、常存誠不替。元嘉十三年^(二)、方在機織、忽覺雲日開朗、空中清明、因投釋篋梭、仰望四表。見西方有如來真形、及寶蓋幡幢、蔽映天漢。心獨喜曰、『經說無量壽佛、即此者耶^(三)。』便頭面作禮。濟之敬其如此、仍起就之、紀授濟手、指示佛所、濟亦登見半身及諸幡蓋^(四)、俄而隱沒。於是雲日鮮彩、五色燭耀、鄉比親族、頗亦覩見^(五)、兩三食頃、方稍除歇^(六)。自是村閭多歸法者。

校記 珠林十五（百二十卷本二三）。廣記一百十四。

（一）○廣記引「仙學」作「神僊」。 （二）○廣記引此句作「忽一旦」。 （三）○廣記引「佛」作「者」、此句作「即應此耶」。 （四）○自「濟之」至「濟」、凡十九字、廣記引作「乃引濟之」四字。 （五）○廣記引以上二句作「鄉里備覩」。 （六）○廣記引以上二句作「移時方歇焉」、而無下句。

89 宋尼慧木者、姓傅氏、十一出家、受持小戒^(一)、居梁郡築戈村寺。始讀大品、日誦兩卷。師慧超、嘗建經堂、木往禮拜、輒見屋內東北隅有一沙門、金色黑衣、足不履地。木又於夜中臥而誦習、夢到西方、見一浴池、有芙蓉華、諸化生人、列坐其中。有一大華、獨空無人、木欲登華、攀牽用力、不覺誦經、音響高大。木母謂其魘、驚起喚之。木母篤老、口無復齒、木恆嚼哺飴母、為以過中、不得淨漱、故年將立、不受大戒。母終亡後、木自除草開壇、請師受戒。忽於壇所見天地晃然、悉黃金色、仰望西南、見一天人、著纓衣、衣色赤黃、去木或近或遠、尋沒不見。凡見靈異、秘不語人。木兄出家、聞而欲知、乃誑誘之曰、『汝為道積年、竟無所招、比可養髮、當訪出門。』木聞甚懼、謂當實然、乃粗言所見。唯靜稱尼聞其道德、稱往為狎、方便請問、乃為具說。木後與同等共禮無量壽佛、因伏地不起、咸謂得眠、蹴而問之、木竟不答。靜稱復獨苦求問、木云、『當伏地之時、夢往安養國見佛、為說小品、已得四卷。因被蹴即覺、甚追恨之。』木元嘉十四年時已六十九。

校記 珠林十五（百二十卷本二三）。○事又見比丘尼傳二。義楚八。

（一）○珠林大正藏本引此句作「持小乘戒」。

90 宋釋僧瑜、吳興餘杭人、本姓周氏。弱冠出家、號為神理^(一)、精修苦業、始終不渝。元嘉十五年、游憩廬山^(二)、同侶有曇溫慧光等、皆厲操貞潔、俱尚幽棲。乃共築架其山之陽、今招隱精舍是也。瑜常以為結溺三途^(三)、情形故也、

情將盡矣、形亦宜損^(四)、藥王之躡、獨何云遠。於是屢發言誓、始契燒身。四十有四、孝建二年六月三日、將就本志。道俗赴觀、車騎填接。瑜率衆行道、訓授典戒。爾日密雲將雨^(五)、瑜乃慨然發誓曰、『若我所志克明、天當清明、如期誠無感^(六)、便宜滂澍。使此四輩知神應之無昧也。』言已、頃之、雲景明霽。及焚燭交至、合掌端一、有紫氣騰空、別表烟外、移晷乃歇。後旬有四日、瑜所住房裏、雙桐生焉、根枝豐茂、巨細如一、貫榦直竦^(七)、遂成鴻樹。理識者以為婆羅寶樹、尅炳泥洹、瑜之庶幾、故見斯證。因號曰雙桐沙門。吳郡張辯、時為平南長史^(八)、親覩其事、具為傳讚云。

校記 珠林六十三(百二十卷本八〇)。○事見高僧傳一二釋僧瑜傳、弘贊法華傳五、法華傳記一〇、文皆略同。

(一)○珠林大正藏本「為」作「有」。(二)○大正藏本「憇」作「惕」。(三)○高僧傳「結溺」作「結果」。

(四)○大正藏本「損」作「殞」。(五)○大正藏本「日」作「旦」。(六)○大正藏本「期」上有「其」字。

(七)○大正藏本「榦」作「榦」、疑譌。(八)○大正藏本「平」作「乎」、譌。

91 宋阮稚宗者、河東人也。元嘉十六年、隨鍾離太守阮惔在郡^(一)。惔便與稚宗行至遠村^(二)、郡吏蓋苟邊定隨焉^(三)。行達民家、恍忽如眠、不復寤。民以為死、舉出門外^(四)、方營殯具。經夕能言。說、初有一百許人、縛稚宗去、行數十里、至一佛圖、僧衆供養、不異於世。有一僧曰、『汝好漁獵、今應受報。』便取稚宗、皮剝鬚截、具如治諸性獸之法、復納于深水、鉤口出之^(五)、剖破解切、若為膾狀、又鑊煮鑪炙、初悉糜爛、隨以還復、痛惱苦毒、至三乃止。問欲活不、稚宗便叩頭請命。道人令其蹲地、以水灌之、云灌除罪五百。稚宗苦求多灌、沙門曰、『唯三足矣。』見有蟻數頭、道人指曰、『此雖微物、亦不可殺、無論復巨此者也。魚肉自死、此可啗耳^(六)。齋會之日、悉著新衣、無新、可浣也^(七)。』稚宗因問、『我行旅有三、而獨嬰苦、何也。』道人曰、『彼二人自知罪福、知而故犯。唯而愚蒙^(八)、不識緣報、故以相誡。』因爾便穌、數日能起。由是遂斷漁獵耳^(九)。

校記 珠林六十四(百二十卷本八〇)。○事見祥異記(鈎沈1、廣記一三一引)、文大同、俟後考。祥異記「阮」

作「元」。

(一)○珠林大正藏本「隨」作「隋」、謫。(二)○大正藏本「便與」作「使」。(三)○大正藏本「苟」作「苟」。
(四)○大正藏本「門外」作「外門」。(五)○大正藏本「鉤」作「釣」。(六)○大正藏本「啗」作「噉」。(七)
○大正藏本「浣」作「澣」。(八)○大正藏本「蒙」作「矇」、四部叢刊本作「朦」。(九)○大正藏本「耳」
作「云」。

92 宋邢懷明、河間人。宋大將軍參軍^(一)、嘗隨南郡太守朱循之北伐^(二)、俱見陷沒。於是伺候閒隙、俱得遁歸^(三)。夜
行晝伏、已經三日、猶懼追捕、乃遣人遣覘虜候、即數日不還。一夕、將雨隱闇、所遣人將曉忽至。至乃驚曰、「向遙
見火光甚明、故來投之、那得至而反闇。」循等怪愕。懷明先奉法、自征後^(四)、頭上恆戴觀世音經^(五)、轉讀不發。爾
夕亦暗誦、咸疑是經神力。於是常共祈心^(六)、遂以得免、居於京師。元嘉十七年^(七)、有沙門詣懷明云、「貧道見此巷中
及君家、殊有血氣、宜移避之。」語畢便去^(八)。懷明追而目之、出門便沒^(九)、意甚惡之。經二旬、鄰人張景秀傷父、
及殺父妾^(一〇)、懷明以為血氣之徵、庶得無事。時與劉斌劉景文比門連接^(一一)、同在一巷、其年並以劉湛之黨、同被誅
夷云。

校記 珠林二十三(百二十卷本三二)。○廣記一一○引法苑珠林。

(一)○廣記引「宋」作「為」。(二)○「循」鈎沈作「脩」、未知何據、今依諸本改、下同。(三)○珠林大
正藏本「遁」作「道」、訛。(四)○廣記引作「自出征」。(五)○大正藏本「恒」作「常」。「戴」鈎沈排印本
誤作「載」、今依諸本正。(六)○廣記引無此句六字。(七)○廣記引此句作「忽」一字。(八)○廣記引
無此句四字。(九)○廣記引「沒」作「不見」、但鈔宋本作「沒」。(一〇)○廣記引「父妾」作「妻」、但鈔
宋本作「父妾」。(一一)○廣記引無「比門連接」四字。

93 宋程德度、武昌人。父道惠^(一)、廣州刺史、度為衛軍臨川王行參軍^(二)。時在尋陽、屋有燕窠、夜見屋裏、忽然自明、有一小兒、從窠而出^(三)、長可尺餘、潔淨分明。至度牀前曰、『君却後二年、當得長生之道。』儼然而滅。德度甚祕異之^(四)。元嘉一七年、隨王鎮廣陵、遇禪師釋道恭、因就學禪、甚有解分。到十九年春、其家武昌空齋、忽有殊香芬馥、達於衢路。闔境往觀、三日乃歇。

校記 珠林二十八〔百二十卷本三七〕。

(一)○珠林大正藏本「惠」作「慧」。 (二)○珠林四部叢刊本「度」誤作「廣」。 (三)○四部叢刊本「窠」作「巢」。 (四)○四部總刊本「德」誤作「得」。

94 宋劉琛之、沛郡人也。曾在廣陵逢一沙門、謂琛之曰、『君有病氣、然當不死、可作一二百錢食、飯飽衆僧、則免斯患。』琛之素不信法、心起忿慢。沙門曰、『當加祇信、勿用為怒。』相去二十步、忽不復見。琛之經七日、便病時氣、危頓殆死。至九日方晝、如夢非夢、見有五層佛圖在其心上、有二十許僧遶塔作禮。因此而寤、即得大利、病乃稍愈。後在京師住、忽有沙門、先不相識、直來入戶、曰、『君有法緣、何不精進。』琛之因說先所逢遇、答曰『此賓頭盧也。』語已便去、不知所向。琛之以元嘉十七年夏、於廣陵遙見惠汪精舍前^(一)、旛蓋甚衆、而無形像。馳往觀之、比及到門、奄然都滅。

校記 珠林三十六〔百二十卷本四八〕。○事見三寶感通錄下、但「劉琛之」作「劉凝之」。

(一)○珠林大正藏本「惠」作「慧」。

95 宋伏萬壽、平昌人也。元嘉十九年、在廣陵為衛府行參軍、假訖返州^(一)、四更初過江^(二)。初濟之時^(三)、長波安流、

中江而風起如箭、時又極暗、莫知所向。萬壽先奉法勤至^(四)、唯一心歸命觀世音、念無間息。俄爾與船中數人同覩北岸有光、狀如村火、相與喜曰、『此必是歐陽火也』^(五)。迴舳趣之^(六)、未旦而至。問彼人、皆云、『昨夜無然火者。』方悟神力^(七)、至設齋會^(八)。

校記 珠林二十七〔百二十卷本三六〕。○廣記一一引法苑珠林。

(一)○「州」鈎沈作「舟」、未知何據、今依珠林兩本改。珠林大正藏本「訖返」作「說反」、上文「說」、疑譌。廣記引作「乞假返州」。 (二)○大正藏本「江、初」作「初江」。廣記引「過」作「涉」。 (三)○廣記引無此句四字。 (四)○大正藏本「勤」作「對」、疑譌。 (五)○廣記引無「歐」。 (六)○大正藏本「舳」作「舡」、廣記引作「船」。 (七)○廣記引句末有「焉」字、而無下句。 (八)○大正藏本「設」上有「乃」。而無「會」。

96 宋顧邁、吳郡人也。奉法甚謹、為衛府行參軍。元嘉十九年、亦自都還廣陵、發石頭城、便逆湖、朔風至、橫決、風勢未弭、而舟人務進、既至中江、波浪方壯。邁單船孤征、憂危無計、誦觀世音經、得十許徧、風勢漸歇、浪亦稍小。既而中流、屢聞奇香芬馥不歇。邁心獨嘉、故歸誦不輟、遂以安濟。

校記 珠林二十七〔百二十卷本三六〕。

97 秦沙門釋道罔^(一)、鄉里氏族、已載前記^(二)。姚秦弘始十八年^(三)、師道懿遣至河南霍山採鍾乳、與同學道朗等四人共行^(四)。持炬探穴^(五)、入且三里、遇一深流、橫木而過。罔最先濟、後輩墜木而死^(六)。時火又滅、冥然昏闇。罔生念已盡、慟哭而已。猶故一心呼觀世音、誓願若蒙出路、供百人會、表報威神。經一宿而見小光炯然、狀若焚火^(七)、儼忽之間、穴中盡明。於是見路、得出嚴下。由此信悟彌深^(八)、屢覩靈異。元嘉十九年、臨川康王作鎮廣陵、請罔供養。其年九月、於西齋中作十日觀世音齋、已得九日、夜四更盡、衆僧皆眠、罔起禮拜、還欲坐禪^(九)、忽見四壁有無數沙門、

悉半身出見、一佛螺髻、分明了了。有一長人、著平上幘、箋布袴褶^(一〇)、手把長刀^(一一)、貌極雄異、捻香授道罔、道罔時不肯受^(一二)。壁中沙門語云、『罔公可為受香、以覆護主人。』俄而霍然無所復見。當爾之時、都不見聚會諸僧、唯觀所置釋迦文行像而已。

校記 六十五(百二十卷本八二)。○廣記一一一引法苑珠林。採鍾乳之事又見高僧傳一二釋道罔傳(珠林三五又引)。法華傳記四、與高僧傳同。參看本篇75。

(一)○廣記引文頭有「姚」字。(二)○廣記引無以上二句八字。按本篇第75云、「宋沙門釋道罔、扶風好畤人也、本姓馬氏」。珠林三五引高僧傳又云、「釋道罔、姓馬、扶風人」。(三)○珠林大正藏本引「秦姚」作「姚秦」、今依改。(四)○廣記引「學」作「道」。(五)○大正藏本引「穴」作「究」。(六)○廣記引「木」作「水」。(七)○廣記引「焚」作「螢」。(八)○大正藏本「悟」作「寤」。(九)○廣記引「還」作「謝」。(一〇)○廣記引無「箋」。(一一)○大正藏本引「手」作「毛」、譌。(一二)○大正藏本引無「道罔」。

98 宋尼釋曇輝、蜀郡成都人也。本姓青陽、名白玉^(一)、年七歲、便樂坐禪。每坐、輒得境界、意未自了、亦謂是夢耳。曾與姊共寢、夜中入定。姊於屏風角得之、身如木石、亦無氣息。姊大驚怪、喚告家人、互共抱扶、至曉不覺。奔問巫覡、皆言鬼神所憑、至年十一、有外國禪師曇良耶舍者來入蜀^(二)、輝請諮所見。耶舍者以輝禪既有分、欲勸化令出家。時輝將嫁、已有定日。法育未展、聞說、其家潛迎還寺^(三)、家既知、將逼嫁之。輝遂不肯行、深立言誓、『若我道心不果、遂被限逼者、便當投火飼虎、棄除穢形、願十方諸佛證見至心。』刺史甄法崇、信尚正法、聞輝志業、迎與相見。并招綱佐及有懷沙門互加難問^(四)、輝敷演無屈、坐者歎之^(五)。崇乃許離夫家、聽其入道。元嘉十九年、臨川康王延致廣陵^(六)。

校記 珠林二十二(百二十卷本三一)。○事又見比丘尼傳四。義楚八。

(一)○珠林大正藏本「白」作「日」、譌。(二)○大正藏本引「者」作「尼」。校勘記云、明本作「者」。(三)○按此十二字當有訛奪。比丘尼傳云、「耶舍一見、歎此人有分、令其修習、囑法育尼使相左右。母已許嫁於暉之姑子、出門有日、不展餘計。育尼密迎還寺。暉深立誓願」云云。(四)○珠林四部叢刊本「召」作「石」、譌。(五)○四部叢刊本「歎」作「難」、譌。(六)○大正藏本文末有「寺」字。

99 時宋淮南趙習、元嘉二十年為衛軍府佐、疾病經時、憂必不濟、恆至心歸佛^(一)。夜夢一人、形貌秀異、若神人者、自屋梁上、以小裹物及剃刀授習、云、「服此藥、用此刀、病必即愈」^(二)。習既驚覺、果得刀藥焉。登即服藥、疾除。出家、名僧秀、年逾八十乃亡。

校記 珠林二十二(百二十卷本三一)。

(一)○珠林大正藏本「恆」作「常」。(二)○大正藏本引無「即」。

100 宋沙門釋慧全、涼州禪師也。開訓教授、門徒五百。有一弟子、性頗驕暴、全常不齒。後忽自云、得三道果。全以其無行、永不信許。全後有疾、此弟子夜來問訊、時戶猶閉如故、全頗驚異、欲復驗之、乃語明夕更來。因密塞牖戶、加以重關。弟子中宵而至、逕到牀前、調全曰、「闍黎可見信來。」因曰、「闍黎過世、當生婆羅門家。」全曰、「我坐禪積業、豈方生彼。」弟子云、「闍黎信道不篤、兼外學未絕、雖有福業、不能超詣。若作一勝會^(一)、得飯一聖人、可成道果耳。」全於是設會。弟子又曰、「可以僧伽黎布施、若有須者、勿擇長幼。」及會訖施衣、有一沙彌、就全求衣、全謂是其弟子、全云、「吾欲擬奉聖僧、那得與汝。」迴憶前言不得擇人、便以歡施。他日見此沙彌、問云、「先與汝衣著不大耶。」沙彌曰、「非徒不得衣、亦有緣事、愧不預會。」全方悟先沙彌者、聖所化也。弟子久乃過世、過世之時、無復餘異、唯塚四邊、時有白光。全元嘉二十年猶存、居在酒泉。

校記 珠林十九〔百二十卷本二七〕。○事見三寶感通錄下。

(一)○珠林大正藏本「勝」作「切」、譌。

101 宋王胡者、長安人也。叔死數載、元嘉二十三年、忽見形還家、責胡以修謹有關、家事不理、罰胡五杖。傍人及鄰里、並聞其語及杖聲、又見杖癰迹、而不覩其形。唯胡猶得親接。叔謂胡曰、『吾不應死、神道須吾筭諸鬼錄。今大從吏兵、恐驚損墟里^(一)、故不將進耳。』胡亦大見衆鬼紛鬧若村外^(二)。俄然叔辭去、曰、『吾來年七月七日、當復暫還、欲將汝行、游歷幽途、使知罪福之報也。不須費設、若意不已、止可茶來耳^(三)。』至期果還^(四)、語胡家人云、『吾今將胡游觀、畢當使還、不足憂也。』胡即頓臥牀上、泯然如盡。叔於是將胡徧觀羣山、備覩鬼怪、末至高高山^(五)。諸鬼遇胡^(六)、並有饌設、餘族味不異世中^(七)、唯薑甚脆美。胡欲懷將還、左右人笑胡云、『止可此食、不得將還也。』胡末見一處、屋宇華曠、帳筵精整、有二少僧居焉。胡造之、二僧為設雜果檳榔等。胡游歷久之、備見罪福苦樂之報、乃辭歸。叔謂胡曰、『汝既已知善之可修、何宜在家^(八)。白足阿練、戒行精高、可師事也。』長安道人足白、故時人謂為白足阿練也。甚為魏虜所敬、虜主主事為師^(九)。胡既奉此諫^(一〇)、於其寺中^(一一)、遂見嵩山上年少僧者遊學衆中^(一二)。胡大驚、與叙乖闊、問何時來。二僧答云、『貧道本住此寺、往日不憶與君相識。』胡復說高高之遇、此僧云、『君謬耳、豈有此耶。』至明日、二僧無何而去^(一三)。胡乃具告諸沙門、叙說往日嵩山所見、衆咸驚怪、即追求二僧、不知所在、乃悟其神人焉^(一四)。元嘉末、有長安僧釋曇爽來游江南、具說如此也。

校記 珠林六〔百二十卷本一〇〕。○*義楚一六引珠林。廣記三三三引、未著出處。

(一)○廣記引「墟」作「鄰」。(二)○廣記引「若」作「于」、或當從歟。(三)○珠林大正藏本引「茶」作「茶」。廣記引「來」作「食」、廣記鈔宋本作「果」、當從。(四)○大正藏本「期」作「斯」。(五)○珠林兩本「末」作「未」、廣記作「末」。(六)○大正藏本「遇」作「過」、廣記引作「道」、皆不通。鈎沈或以意改。(七)

○大正藏本「族」作「施」、廣記引「餘族」作「其品」。珠林引當有訛。(八)○廣記引此句作「返家尋」三字而屬下句、鈔宋本作「何修在家」。(九)○大正藏本・廣記引無下「主」、而廣記引上「主」作「王」。(一〇)○大正藏本「諫」作「練」、譌。廣記引作「訓」。(一一)○「其」鈎沈排印本作「是」、今依珠林兩本改。廣記引無此句四字、但鈔宋本引有。(一二)○廣記引以上二句作「遂與嵩山上年少僧者遊學、衆中忽見二僧」、意不通。鈔宋本「與」作「要」、而無「忽見二僧」、亦意不通。(一三)○廣記引「無何」作「不辭」。(一四)○廣記引無此句六字。鈔宋本校勘記云、「在」下脫「元嘉末有長安僧釋曇爽來游江南其說如此也出法苑珠林」。脫句在本卷章授節內。

102 宋居士卞悅之^(一)、濟陰人也。作朝請、居在潮溝。行年五十、未有子息、婦為娶妾^(二)、復積載不孕。將祈求繼嗣、千徧轉觀世音經^(三)、其數垂竟、妾便有娠、遂生二男。時即元嘉二十八年己丑歲也云云^(四)。

校記 珠林五十二(百二十卷本六五)。廣記一百十一。○古今圖書集成神異典一〇三。

(一)「居士」二字廣記引有。○珠林大正藏本亦有。(二)○珠林兩本・廣記引「娶」作「取」。(三)廣記引作「發願誦觀世音經千徧」。(四)廣記引有「時」字。原奪「二」字、今補。○廣記引有「時即」二字、今補「即」字。廣記「十八」作「十四」、而無「己丑」二字。按元嘉中己丑歲即是二十六年、十八年、十四年均不當、未詳鈎沈何以「二」字補。大正藏本「己丑」作「己五」、而無「云云」。校勘記云、明本作「丑」。

103 宋沙門釋曇典、白衣時年三十、忽暴疾而亡^(一)、經七日方活。說、初亡時、見二人驅將去、使輦米^(二)。伴輦可有數千人、晝夜無休息。見二道人云、「我是汝五戒本師。」來慰問之。師將往詣官主^(三)、云、「是貧道弟子、且無大罪、歷算未窮。」即見放遣。二道人送典至家、住其屋上、具約示典。可作沙門、勤修道業。言訖下屋、道人推典著屍腋下、

於是而穌。後出家、經二十年、以元嘉十四年亡。

校記 珠林九十〔百二十卷本一〇八〕。

(一)〇珠林大正藏本「疾」作「病」。(二)〇大正藏本引「輦米伴輦」作「輩來馱輩」。當有訛。(三)〇大正藏本「師」作「即」。

104 宋王淮之^(一)、字元曾、瑯琊人也。世以儒專^(二)、不信佛法。常謂、身神俱滅、寧有三世。元嘉中、為丹陽令、十年、得病氣絕、少時還復暫甦^(三)。時建康令賀道力省疾、下牀會^(四)、淮之語力曰、『始知釋教不虛、人死神存、信有徵矣。』道力曰、『明府生平置論不爾、今何見而乃異之耶』^(五)。淮之斂眉答云、『神實不盡、佛教不得不信。』語卒而終。

校記 珠林七十九〔百二十卷本九六〕。廣記九十九。〇*類說五。樂善錄四。

(一)〇類說引「淮」作「灌」、譌。(二)〇廣記引作「世尚儒業」。(三)〇珠林大正藏本「甦」作「蘇」。(四)〇廣記引作「適會下牀」。(五)上二字「之耶」及「乃」字、並依廣記引補。〇廣記鈔宋本引無「乃」「耶」兩字。

105 宋沙門慧和者^(一)、京師聚造寺僧也。宋義嘉難^(二)、和猶為白衣、隸劉胡部下^(三)。胡嘗遣將士數十人值謀東下、和亦預行。行至鵲渚^(四)、而值臺軍西上、謀衆離散、各逃草澤、和得竄下、至新林外。會見野老衣服縷弊^(五)、和乃以完整袴褶易其衣、提籃負擔、若類田人。時諸游軍捕此散謀、視和形色、疑而問之。和答對謬略、因被笞掠、登將見斬。和自散走、但恆誦念觀世音經^(六)、至將斬時、祈懇彌至^(七)。既而軍人揮刀屢跌、三舉三折、並驚而釋之。和於是出家、遂成精業。

校記 珠林二十七〔百二十卷本三六〕。〇廣記一一一引法苑珠林。

(一)〇珠林大正藏本・廣記引倒作「慧和沙門」。(二)〇廣記引無「宋」字、而「義」作「元」、汪氏校語云、

法苑珠林二七引「元」作「義」、「義嘉」劉宋晉安王起兵時所建年號、見宋書鄧琬傳。(三)○大正藏本「隸」作「疑」、譌。廣記引作「屬」。(四)○「鵲」鈎沈作「雀」、今依諸本改。(五)○廣記引無「外會」二字。(六)○大正藏本·廣記引「但」作「便」、大正藏本「恆」作「常」。(七)○大正藏本引「至」作「篤」。

106

宋慧遠沙門者、江陵長沙寺僧也。師慧印、善禪法、號曰禪師。遠本印蒼頭、名黃遷、年二十時、印每人定輒見遷、先世乃是其師、故遂度為弟子。當寄江陵西楊道產家^(一)、行般舟勤苦。歲餘、因爾遂頗有感覺。或一日之中、赴十餘處齋、雖復終日竟夜行道轉經、而家家悉見黃遷在焉。衆稍敬異之、以為得道。孝建二年一日^(二)、自言死期、謂道產曰、『明夕吾當於君家過世。』至日、道產設八關、然燈通夕。初夜中夜、遷猶豫衆行道、休然不異。四更之後、乃稱疲而臥、顏色稍變、有頃而盡。闔境為設三七齋、起塔、塔今猶存。死後久之、現形多寶寺^(三)、調曇珣道人云、『明年二月二十三日、當與諸天共相迎也。』言已而去。曇珣即於長沙禪房設齋九十日、捨身布施。至其日苦乏氣^(四)、自知必終、大延道俗、盛設法會。三更中、呼問衆僧、『有聞見不。』衆自不覺異也^(五)。珣曰、『空中有奏樂聲、馨烟甚異^(六)、黃遷之契、今其至矣。』衆僧始還堂就席、而珣已盡。

校記 珠林九十七·又十九(百二十卷本一一六·又二七)。○事見三寶感通錄下、文與珠林一九引大同。

珠林一九引云、宋孝文時、江陵長沙寺沙門慧遠者、本名黃遷、即禪師慧印之弟子也。印每人定見遠、是印之先師、雖應為蒼頭、故度為弟子。常寄江陵楊家行般舟、勤苦歲餘、頗有感覺。一日十會、通見遠身、而般舟之處、行道如故。自剋終日、至期果卒。久之現形多寶寺僧曇珣、曰、明年二月二十三日、當與天人相迎。言已不見。珣於是日設大法會、建捨身齋。其日苦氣、自知必盡。三更中、聞空中樂聲、香煙甚異。曰、遠公之契至矣。尋爾神遊。(四部叢刊本)

(一)○珠林四部叢刊本(一一六)引「楊」作「揚」。(二)○珠林大正藏本(九七、下同)引「日」作「旦」。

(三)○大正藏本「現」作「見」。(四)○大正藏本引無「乏」。(五)○大正藏本「自」作「曰」。(六)
○大正藏本「馨烟甚」作「靄煙香」。

107 宋路昭太后、大明四年、造普賢菩薩乘寶輦白象、安於中興禪房、因設講于寺。其年十月八日、齋畢解座、會僧二百人。于時寺宇始構、帝甚留心、輦蹕臨幸、旬必數四、僧徒勤整、禁衛嚴肅。爾日僧名有定、就席久之、忽有一僧、預于座次^(二)、風貌秀舉、闔堂驚矚、齋主與語、往還百餘言、忽不復見。列筵同覩、識其神人矣。

校記 珠林十七〔百二十卷本二四〕。○三寶感應要略錄下、文略同、但多訛誤。事又見高僧傳七釋道溫傳。三寶
感通錄下、弘贊法華傳一。按此條與次條原是一事。

(一)○珠林大正藏本「預」作「豫」。

108 宋大明年中、有寺統法師名道溫、居在稜陵縣。既見皇太后叡鑒沖明^(一)、聖符幽洽、滌思淨場、研襟至境。固以
聲藻震中、事靈梵表。迺創思鎔斲、抽寫神華。模造普賢、彩儀盛像。寶傾宙珍、妙盡天飾。所設講齋、訖今月八日^(二)、
囑會有限、名簿索定^(三)、引次就席、數無盈減。轉經將半、景及昆吾、忽覩異僧、預于座內^(四)、容止端麗、氣貌秀發、
舉衆矚目^(五)、莫有識者。齋主問曰、『上人何明。』答曰、『名慧明。』問住何寺。答云、『來自天安。』言對之間、倏
然不見。闔堂驚魂、遍筵肅慮、以為明祥所賁、幽應攸聞、紫山可覩^(六)、華臺不遠。蓋聞至誠所感、還景移緯、澄心所
殉、發石開泉。況帝德涵運、皇功懋洽、仁洞乾遐、理暢冥外。故上王盛士、尅表大明之朝、勸發妙身、躬見龍飛之室。
意若曰、陛下慧燭海縣、明華日月。故以慧明為人名、繼天興祚、式垂無疆、故以天安為寺稱。神基彌遠、道政放凝、
九服識泰、萬寓齊悅^(七)。謹列言屬縣、以輕天休。

校記 珠林十七〔百二十卷本二四〕。○事見高僧傳七釋道溫傳。參看前107條校記。

(一)○「皇太后」以下列言全文見高僧傳。傳云「溫時既為僧主、迺列言秣陵白」、而繼引列言全文、與此條有異同。按「既見」下當有訛奪。(二)○「訖」鈎沈排印本作「迄」、今依諸本改。(三)○珠林大正藏本「素」作「素」。(四)○大正藏本「預」作「豫」。(五)○「衆」鈎沈排印本作「僧」、今依諸本正。(六)○大正藏本「覲」作「覲」。(七)○大正藏本「寓」作「彙」。

109 宋蔣小德^(一)、江陵人也。為兵州^(二)。刺史朱循時、為聽事監師^(三)、少而信向、勤謹過人、循大喜之^(四)、每有法事、輒令典知其務^(五)。大明末年、得病而死、夜三更、將殮便穌活。言^(六)、有使者、稱王命召之、小德隨去。既至、王曰、「君精勤小心、虔奉大法、帝敕精旨^(七)、以君專至、宜速生善地。而君算猶長^(八)、故令吾特相召也。君今日將受天中快樂、相為欣然^(九)。」小德嘉諾。王曰、「君可且還家、所欲屬寄、及作功德、可速之、七日復來也。」小德受言而歸。路由一處、有小屋殊陋弊、逢新寺難公於此屋前^(一〇)。既素識^(一一)、具相問訊、難云^(一二)、「貧道自出家來、未嘗飲酒^(一三)、且就蘭公^(一四)、蘭公苦見勸逼、飲一升許、被王召、用此故也^(一五)。貧道若不坐此、當得生天、今乃居此弊宇、三年之後、方得上耳^(一六)。」小德至家、欲驗其言、即夕遽遣人參訊難公、果以此日於蘭公處睡臥、至夕無疾而亡^(一七)。小德既愈、七日內大設福供、至期奄然而卒。朱循即免家兵戶^(一八)。蘭難二僧並居新寺、難道行尤精^(一九)、不同餘僧^(二〇)。

校記 珠林九十四(百二十卷本一一三)。○釋門自鏡錄下。

(一)○自鏡錄引無「宋」字。(二)○「兵」鈎沈作如此、珠林四部叢刊本作「丘」、珠林大正藏本作「岳」。大正藏校勘記云、宋本作「兵」。今從。(三)○自「為兵州」至此、凡十三字、自鏡錄引無。(四)○大正藏本無「大」。(五)○自「循大喜之」至此、凡十四字、自鏡錄引無、又無此句之「年」。(六)○自鏡錄引作「云」。(七)○自鏡錄引此句作「被帝釋旨」。(八)○自鏡錄引「算」上有「年」。(九)○「相為」二字、今依自鏡

錄引補。(一〇)○自鏡錄引「屋」下有「住」、而「前」屬於下句。(一一)○自鏡錄引「識」上有「知」。(一二)○自鏡錄引「難」下有「公」。(一三)○自鏡錄引「嘗」作「曾」。(一四)○「旦」鈎沈排印本作「且」、七三年版全集已改。自鏡錄引作「且」、而其下有「暫」字。大正藏本作「早」。(一五)○自鏡錄引上句「被」上有「今」、「用」作「問」。(一六)○自鏡錄引「上」下有「昇」。(一七)○「無疾」今依自鏡錄引補。(一八)○「兵」珠林兩本引均作「丘」、鈎沈以意改。自鏡錄引無此句七字。(一九)○「尤」鈎沈排印本誤作「大」、今依改。(二〇)○自鏡錄引此句作「云云」。

110 宋吳興沈僧覆^(二)、大明末、本土饑荒、逐食山陽。晝入村野乞食、夜還寄寓寺舍左右。時山陽諸寺小形銅像甚衆^(三)、僧覆與其鄉里數人、積漸竊取、遂囊筐數四悉滿焉^(四)。因將還家^(五)、共鑄為錢。事既發覺、執送出都、入船便云^(六)、見人以火燒之。晝夜叫呼^(七)、自稱楚毒不可堪忍^(八)、未及刑坐而死。舉體皆斫裂^(九)、狀如火燒。吳郡朱亨親識僧覆、具見其事。

校記 珠林七十九(百二十卷本九六)。廣記一百十六。○*義楚一九引珠林。

(一)○廣記引「覆」作「復」、下同。(二)○廣記引奪「寺」字。(三)○廣記引無「焉」。(四)○廣記引句頭有「復」字。(五)○廣記引「船」作「舡」。(六)○珠林大正藏本「叫」作「噉」。(七)○廣記引無「堪」。(八)○廣記引「斫」作「折」。

111 宋尼釋慧玉、長安人也。行業勤修、經戒通備。嘗於長安薛尚書寺見紅白光十餘日中、至四月八日、六重寺沙門來游此寺、於光處得彌勒金像、高一尺餘。慧玉後南度樊鄢、住江陵靈收寺。元嘉十四年十月夜、見寺東樹有紫光爛起、暉映一林、以告同學妙光等、而悉弗之見也。二十餘日、玉常見焉。後寺主釋法弘將於樹下營築禪基、仰首條間、得金

坐像、亦高尺許也^(二)。

校記 珠林十六〔百二十卷本二四〕。○事又見三寶感通錄中。參看比丘尼傳二釋慧玉傳。

(一)○珠林大正藏本「也」作「云」。

112 宋費崇先者、吳興人也。少頗信法^(一)、至三十際^(二)、精勤彌至^(三)。泰始三年、受菩薩戒、寄齋於謝惠遠家^(四)、

二十四日、晝夜不懈。每聽經、常以鵲尾香鑪置膝前^(五)。初齋三夕、見一人容服不凡、逕來舉鑪將去^(六)。崇先視膝前

鑪、猶在其處。更詳視此人、見提去甚分明、崇先方悟是神異^(七)。自惟衣裳新濯、了無不淨、唯坐側有唾壺。既使去壺

^(八)、即復見此人還鑪坐前、未至席頃、猶見兩鑪、既至即合為一^(九)、然則此神人所提者、蓋鑪影乎^(一〇)。崇先又當聞

人說^(一一)、福遠寺有僧欽尼、精勤得道、欣然願見、未及得往、屬意甚至。嘗齋於他家、夜三更中^(一二)、忽見一尼、容

儀端麗^(一三)、著赭布袈裟、正立齋席之前、食頃而滅。及崇先後覲此尼^(一四)、色貌被服^(一五)、即窗前所覲者也^(一六)。

校記 珠林二十四〔百二十卷本三三〕。○初學記二十五。○廣記一一四引法苑珠林。○能改齋漫錄七。○淵鑑三

八○香爐、與初學記引同。○格致鏡原五八。

(一)○廣記引作「少信佛法」。 (二)○珠林大正藏本「際」作「餘」。廣記引無此句。 (三)○大正藏本「至」

作「篤」。廣記引止作「精勤」二字。 (四)○大正藏本·廣記引「惠」作「慧」。 (五)初學記二十五引云、「費

崇先少信佛法、常以鵲尾香爐置膝前」。○能改齋漫錄·格致鏡原引亦同。廣記引「鑪」作「爐」、下同。 (六)○

大正藏本「逕」作「徑」。 (七)○自「其處」至「崇先」、凡十五字、廣記引無。 (八)○廣記引「使」作「撤」。

(九)○「至」珠林四部叢刊本·鈎沈奪之、今依大正藏本·廣記引補。 (一〇)○廣記引「乎」作「耳」。 (一

一)○廣記引「當」作「嘗」。 (一二)○廣記引此句作「中夜」二字。 (一三)○大正藏本「端麗」作「儼若」。

(一四)○大正藏本「覲」作「觀」。廣記引此句作「崇先及見此尼」。 (一五)○廣記引「色」作「狀」。 (一

六)○廣記引「窗前」作「前夜」。

113

東海何敬叔、少而奉佛、至泰始中、隨湘州刺史劉韞監營浦縣^(二)。敬叔時遇有旃檀、製以為像、像就而未有光材。敬叔意願甚勤、而營索無處。憑几微睡、見一沙門衲衣杖錫來^(三)、語敬叔云、「縣後何家有一桐盾^(三)、甚堪像光、其人極惜之、苦求可得也。」敬叔寤、問、縣後果有何家。因求買盾、何氏云、「實有此盾、甚愛惜之、明府何以得知。」敬叔具說所夢、何氏驚嘉^(四)、奉以製光^(五)。

校記

御覽三百五十七。*廣記二百七十六。珠林十四。○珠林十四引未著出處、而云、

宋泰始中、東海何敬叔、少而奉法。隨湘州刺史劉韞監縣。遇有旃檀、製以為像。既就無光、營索甚勤、而卒無可獲。憑几思之、如睡、見沙門衲衣杖錫來、曰、「檀非可得、麝木不堪、惟縣後何家桐盾堪用、雖惜之、苦求可得。」寤問左右、果如言。因故求買之。何氏曰、「有盾甚愛、患人乞奪、曾未示人。明府何以得知、直求市耶。」敬叔以事告之。何氏敬嘉、奉以製光。後為湘府直省、中夜夢像、云、「鼠嚙吾足。」清旦疾歸、視像果然矣。鈎沈稿本欄外注亦引「後為」云云以下。

淵鑑二二八盾引與御覽引同。事見三寶感通錄中、其文與珠林一四引略同。

(一)〔稿本欄外注云〕珠林十四作「劉韞」。○鈎沈依御覽鮑氏刊本作「韞」、今依御覽四部叢刊本引改作「韞」、珠林引亦同。(二)上五字〔納衣杖錫來〕依廣記引補。○「一」亦依廣記引補。但他本引均無。今「納」字依珠林改作「衲」。(三)○「盾」御覽四部叢刊本引作「楯」、下同。(四)○御覽四部叢刊本引無「嘉」、鮑氏刊本引有、珠林引亦有、今從鈎沈。(五)○御覽四部叢刊本引「光」誤作「先」。

114

宋袁炳、字叔煥、陳郡人也。泰始末為臨湘令。亡後積年、友人司馬遜、於將曉間、如夢見炳來、陳敘闊別、訊問

安否。既而謂遜曰、『吾等平生立意置論^(一)、常言生為馳役、死為休息。今日始知^(二)、定不然矣。恆患在世為人^(三)、務馳求金幣、共相贈遺、幽途此事、亦復如之。』遜問、『罪福應報、定實如何。』炳曰、『如我舊見、與經教所說、不盡符同、將是聖人抑引之談耳。如今所見、善惡大科、略不異也。然殺生故最為重禁、慎不可犯也。』遜曰、『卿此微相示、良不可言、當以語白尚書也。』炳曰、『甚善、亦請卿敬情尚書^(四)。』時司空簡穆王公為吏部尚書^(五)、炳遜並其游賓^(六)、故及之。往返可數百語、辭去、遜曰、『闊別之久、恆思敘集^(七)、相值甚難、何必小住^(八)。』炳曰、『止暫來耳。不可得久留。且此輩語亦不容得委悉^(九)。』於是而去^(一〇)。初炳來闇夜、遜亦了不覺所以^(一一)、而明得覩見炳^(一二)、既去、遜下牀送之。始躡履而還闇^(一三)、見炳腳間有光可尺許、示得照其兩足^(一四)、餘地猶皆闇云。

校記 珠林二十一〔百二十卷本二九〕。廣記三百二十六。

(一)○廣記引「置」作「着」。(二)廣記引有「知」字。○珠林大正藏本引亦有。(三)○廣記引「有」作「為」。汪氏校語云、「為」原作「有」、據明鈔本改。今從。(四)○廣記引「情」作「詣」。(五)廣記引「司空簡穆王公」作「司空王僧虔」。(六)○廣記引「並」作「世為」。(七)○大正藏本「恆」作「常」。廣記引「敘」作「少」。(八)○廣記引「小」作「且」、但廣記鈔宋本作「小」。(九)○「且」廣記引作木釘、鈔宋本作「日」。(一〇)○廣記引「於是」作「揖別」、但鈔宋本如此。(一一)○珠林四部叢刊本引無「以」。(一二)○廣記引「而」作「天」。(一三)○廣記引「履」作「履」、「闇」作「暗」。(一四)○大正藏本・廣記引「示」作「亦」。

115 宋沙門道志者、北多寶僧也^(一)。嘗為眾僧令知殿塔^(二)、自竊帳蓋等寶飾^(三)、所取甚眾^(四)。後遂偷像眉間珠相、既而開穿垣壁、若外盜者、故僧眾不能覺也。積旬餘而得病、便見異人以戈矛刺之、時來時去、來輒驚噉^(五)、應聲流血。初猶日中一兩如此、其後疾甚^(六)、刺者稍數、傷瘻徧體^(七)、呻呼不能絕聲^(八)。同寺僧眾、頗疑其有罪、欲為懺謝。始

問猶諱而不言、將盡二三日、乃具自陳列、泣涕請救^(九)、曰、『吾愚悖不通、調無幽途、失意作罪、招此殃酷、生受楚拷^(一〇)、死繫刀鑊^(一一)、已糜之身、唯垂哀恕。今無復餘物、唯衣被氈履、或足充一會、并煩請願、具為懺悔。昔偷像相珠有二枚^(一二)、一枚已屬嫗人、不可復得。一以質錢^(一三)、在陳照家^(一四)、今可贖取^(一五)。』道志既死、諸僧合集、贖得相珠、并設齋懺、初工人復相珠時、展轉迴趣、終不安合。眾僧復為禮拜燒香、乃得著焉。年餘而同學等於昏夜間、聞空中有語、詳聽即道志聲也。自說云、『自死以來、備繫痛毒、方累年劫、未有出期。賴夢眾僧、哀憐救護、贖像相珠、故於苦酷之中^(一六)、時有閒息。感恩罔已^(一七)、故暫來稱謝、言此而已。』聞其語時、腥腐臭氣、苦痛難過、言終久久^(一八)、臭乃稍歇^(一九)。此事在泰始末年、其寺好事者、已具條記^(二〇)。

校記 珠林七十九(百二十卷本九六)。廣記一百十六。○事又見釋門自鏡錄上。

- (一)○廣記引「門」下有「僧」字。自鏡錄引作「道志未詳何許人、少出家、住宋北多寶寺」。(二)「為眾」二字、依廣記引補。(三)○廣記引「帳」作「幡」。(四)○珠林大正藏本引「甚」作「其」、譌。(五)○廣記引無「來」、而「噉」作「叫」。(六)○大正藏本·廣記引「疾」作「病」。(七)○廣記引作「瘡痍變遍體」。(八)○廣記引無「絕」。(九)○大正藏本引「涕」作「洩」。(一〇)○大正藏本引「拷」作「考」。(一一)○大正藏本·廣記引「繫」作「嬰」、下同。(一二)○廣記引「昔」作「者」、譌。(一三)○大正藏本引「質」作「質」。(一四)○廣記引「照」作「昭」。(一五)○廣記引「今可」作「令」。(一六)○廣記引無「於」。(一七)○大正藏本「思罔」作「自罔」、廣記引無「罔」。(一八)○廣記引下「久」作「之」。(一九)○大正藏本·廣記引無「臭」。(二〇)○以上三句凡十六字、廣記引無。

116 宋陳秀遠者、潁川人也。嘗為湘州西曹、客居臨湘縣^(一)。少信奉三寶、年過耳順、篤業不衰。宋元徽二年七月中、於昏夕間、閑臥未寢、歎念萬品死生、流轉無定、自惟己身、將從何來、一心祈念、冀通感夢。時夕結陰、室無燈燭、

有頃、見枕邊如螢火者^(二)、罔然明照、流飛而去。俄而一室盡明、爰至空中、有如朝晝。秀遠遽起坐、合掌端念^(三)。頃、見中宁四五丈上^(四)、有一橋閣焉、又闌檻朱彩^(五)、立於空中、秀遠了不覺升動之時、而已自見平坐橋側。見橋上士女、往返填衢、衣服粧束^(六)、不異世人。未有一嫗、年可三十許、上著青襖、下服白布裳、行至秀遠左邊而立。有頃、復有一婦人、通體衣白布、為偏環髻、手持華香、當前而立。語秀遠曰、『汝欲覩前身、即我是也、以此華供養佛故、故得轉身作汝^(七)。』迴指白嫗曰^(八)、『此即復是我先身也。』言畢而去、去後橋亦漸隱^(九)。秀遠忽然不覺還下之時、光亦尋滅也^(一〇)。

校記 珠林三十二(百二十卷本四四)。廣記一百十四(刪略少多)。

- (一)○珠林大正藏本「湘」作「相」。(二)○大正藏本「螢」作「螢」。(三)○大正藏本·廣記引「端念」作「喘息」、四部叢刊本「端」作「喘」、鈎沈以意改。(四)○大正藏本「宁」作「庭」、廣記引倒作「庭中」。(五)○「闌」珠林二本引作「欄」。(六)○大正藏本「粧」作「莊」。(七)○大正藏本·廣記引無「故」字。(八)○廣記作「復指青白嫗曰」。(九)○廣記引「去後橋」作「後指者」。(一〇)○大正藏本「也」作「去」、廣記引無。

117 宋沙門智達者、益州索寺僧也。行頗流俗、而善經唄。年二十三、宋元徽三年六月病死、身暖不殯、遂經二日稍還^(一)、至三日旦、而能言視。自說言始困之時、見兩人皆著黃布袴褶、一人立于戶外、一人逕造牀前、曰、『上人應去、可下地也。』達曰、『貧道體羸^(二)、不堪涉道。』此人復曰、『可乘輦也。』言卒而輦至、達既昇之、意識恍然、不復見家人屋及所乘輦^(三)。四望極目、但覩荒野、途逕艱危、示道登躡之^(四)、不得休息。至于朱門、牆闥甚華、達入至堂下。堂上有一貴人、朱衣冠幘、據牀傲坐^(五)、姿貌嚴遠^(六)、甚有威容、左右兵衛百許人、皆朱衣拄刀^(七)、列直森然。貴人見達、乃斂顏正色謂曰、『出家之人、何宜多過。』達曰、『有識以來^(八)、不憶作罪。』問曰、『誦戒廢不^(九)。』達曰、

『初受具足之時、實常習誦、比逐齋講、恆事轉經、故於誦戒、時有虧廢。』復曰、『沙門時不誦戒^(一〇)、此非罪何為。可且誦經。』達即誦法華、三契而止。貴人敕所錄達使人曰、『可送置惡地、勿令太苦^(一一)。』二人引達將去、行數十里、稍聞轟^𦏧、鬧聲沸火、而前路轉闇。次至一門、高數十丈、色甚堅黑、蓋鐵門也。牆亦如之。達心自念、經說地獄、此其是矣。乃大恐怖。悔在世時、不修業行。及大門裏、鬧聲轉壯^(一二)、久久靖聽^(一三)、方知是人叫呼之響^(一四)。門裏轉闇、無所復見。時火光乍滅乍揚、見有數人、反縛前行、後有數人、執扠扠之^(一五)、血流如泉。其一人乃達從伯母、彼此相見、意欲共語、有人曳之殊疾、不遑得言。入門二百許步、見有一物^(一六)、形如米囤、可高丈餘。二人執達、擲置囤上。囤裏有火、焰燒達身、半體皆爛、痛不可忍、自囤墜地、悶絕良久。二人復將達去。見有鐵鑊十餘、皆煮罪人。人在鑊中、隨沸出沒。鑊側有人、以扠刺之。或有攀鑊出者、兩目沸凸、舌出尺餘、肉盡焦爛^(一七)、而猶不死。諸鑊皆滿、唯有一鑊尚空。二人謂達曰、『上人即時應入此中。』達聞其言、肝胆塗地、乃請之曰、『君聽貧道、一得禮佛。』便至心稽首、願免此苦。伏地食頃、祈悔特至。既而四望、無所復見、唯覩平原茂樹、風景清明。而二人猶導達行、至一樓下、樓形高小、上有人裁得容坐、謂達曰、『沙門現受輕報、殊可欣也。』達於樓下、忽然不覺還就身時。達今猶存、在索寺也。齋戒愈堅、禪誦彌固。

校記 珠林九十〔百二十卷本一〇八〕。○事又見釋門自鏡錄上。弘贊法華傳九、文略同。

(一) ○珠林大正藏本引「稍」作「穌」。(二) ○鈎沈排印本「體」誤作「作」、七三年版全集已訂之。(三) ○大正藏本「屋」下有「室」字。(四) ○大正藏本「躡」下有「驅」字。(五) ○大正藏本作「倨傲床坐」、四部叢刊本作「據傲牀坐」、自鏡錄引同、或鈎沈以意改歟。(六) ○大正藏本「遠」作「肅」。(七) ○大正藏本「朱」下有「衣」、今依補。四部叢刊本「拄」作「柱」。(八) ○四部叢刊本「以」作「已」、大正藏校勘記云、明本作「已」。(九) ○大正藏本引無「廢」。(一〇) ○大正藏本引「時」作「而」。(一一) ○大正藏本「太」作「大」。(一二) ○四部叢刊本引無「轉」。(一三) ○鈎沈排印本下「久」誤作「之」、今依正。大正藏本引

「靖」作「靜」。(一四)○大正藏本「叫」作「噉」。(一五)○大正藏本「扠扠」作「叉叉」。(一六)○四部叢刊本引「一」下有「人」、疑衍。(一七)○大正藏本「圻」作「圻」。

118 宋袁廓、字思度、陳郡人也。元徽中、為吳郡丞。病經少日、奄然如死。但餘息未盡、棺含之具並備^(二)、待畢而

殮。三日而能轉動視瞬。自說云、有使者稱教喚、廓隨去、既至、有大城池、樓堞高整、階闌崇麗。既命廓進、主人南面、階陛森然、威飾冠首^(三)。執刀者點廓坐。坐定^(四)、溫涼畢^(五)、設酒炙果粽菹肴等^(六)、廓皆嘗進、種族形味^(七)、不異世中、酒數行^(八)、主人謂廓曰、『身主簿不幸、閤任有關^(九)、以君才穎、故欲相屈、當能顧懷不。』廓意亦知是幽途、乃固辭、『凡薄非所克堪、家少窮孤^(一〇)、兄弟零落、公私二三^(一一)、乞蒙恩放。』主人曰、『君當以幽顯異方、故有辭耳。此間榮祿資待、身口服御、乃當勝君世中勤勤之懷^(一二)。甚貧共事、想必降意、副所期也。』廓復固請曰、『男女藐然、並在齟齬、僕一旦恭任^(一三)、養視無託。父子之戀、理有可矜。』廓因流涕稽顙^(一四)。主人曰、『君辭讓乃爾、何容相逼。願言不獲、深為歎恨。』就案上取一卷文書、拘籛之^(一五)。既而廓謝恩辭歸、主人曰、『君不欲定省先亡乎。』乃遣人將廓行、經歷寺署甚衆、未得一垣、城門楣並^(一六)、蓋圜圜也^(一七)。將廓入中、斜趣一隅^(一八)、有諸屋宇、駢填銜接、而甚陋弊^(一九)。次有一屋^(二〇)、見其所生母羊氏在此屋中^(二一)、容服不佳、甚異平生、見廓驚喜。戶邊有一人、身面傷痍^(二二)、形類甚異、呼廓語、廓驚問其誰。羊氏謂廓曰、『此王夫人、汝不識耶。』王夫人曰、『吾在世時、不信報應、雖復無甚餘罪、正坐鞭撻婢僕過苦、故受此罰。亡來楚毒、殆無暫休、今特少時寬隙耳。前喚汝姊來、望以自代、竟無所益、徒為憂聚。』言畢涕泗。王夫人即廓嫡母也。廓姊時亦在其側。有頃、使人復將廓去、經涉巷陌^(二三)、閭里整頓、似是民居。末有一宅、竹籬茅屋、見父披被著巾^(二四)、凭案而坐。廓入門、父揚手遣廓曰、『汝既蒙罷^(二五)、可速歸去、不須來也^(二六)。』廓跪辭而歸、使人送廓至家而去^(二七)。廓今太子洗馬是也。

校記 珠林五十二(百二十卷本六五)。○廣記三七七引法苑珠林。

(一)○珠林大正藏本「含」作「概」、廣記引作「含」。(二)○大正藏本「首」作「自」、恐譌。(三)○自「階陛」至此凡十六字廣記引無。(四)○廣記引作「與廓溫涼畢、命坐」。(五)○大正藏本「肴」作「餽」。廣記引「肴」作「者」、而「等」下有「味」字。(六)○廣記引無以上二句八字。(七)○大正藏本「數」下有「巡」字。(八)○鈎沈排印本「主」誤作「至」、七三年本全集已訂之。廣記引無「身」。(九)○大正藏本「家」作「加」、廣記同。(一〇)○廣記引無此句四字。(一一)○廣記引無「有」「資待身口」「當」「勤勤之懷」。(一二)○廣記引「恭」作「供」。(一三)○大正藏本「涕」作「洩」、下同。(一四)○大正藏本。廣記引「瞻」作「點」。廣記亦「拘」作「勾」。(一五)○廣記引「城門楣並」作「門」。(一六)○大正藏本「蓋」作「黑」。(一七)○廣記引「斜」作「敘」。(一八)○廣記引無此句四字。(一九)○廣記引「屋」下有「弊陋」二字。(二〇)○廣記引「此屋中」作「焉」。(二一)○大正藏本「傷」作「瘍」。廣記引「瘕」作「疾」、而無下句四字。(二二)○大正藏本「巷」作「術」。(二三)○廣記引無「披被著巾」四字。(二四)○鈎沈「既」作「即」、今依珠林二本。廣記引改。(二五)○廣記引「來」作「遲」、但鈔宋本作「來」。(二六)○廣記引無「使人送廓」四字、而「而去」作「即活」、且無下句。

119

宋韓徽者、未詳何許人也。居於支江^(一)。其叔幼宗、宋末為湘州府中兵。昇明元年、荊州此事沈攸之舉兵東下、湘府長史庾佩玉阻甲自守、未至所赴。以幼宗猜貳、殺之、戮及妻孥。徽以兄子繫於郡獄、鐵木竟體、鉗梏甚嚴、須考畢情黨、將悉誅滅。徽遑迫無計、待斯而已^(二)。徽本嘗事佛、頗諷讀觀世音經、於是晝夜誦經至數百遍。方晝、而鎖忽自鳴、若燒炮石瓦爆訛之聲^(三)、已而視其鎖、雖然自解^(四)。徽懼獄司謂其解截、遽呼告之。吏雖驚異、而猶更釘鐐。徽如常諷誦、又經一日、鎖復鳴解、狀如初時。吏乃具告佩玉、玉取鎖詳視、服其通感、即免釋之、徽今尚在、勤業殊至。

校記 珠林二十七〔百二十卷本三六〕。

(一)○珠林大正藏本引「支」作「枝」。(二)○大正藏本「斯」作「期」。(三)○大正藏本「咤」作「吒」、疑「吒」字訛。(四)○大正藏本「鍤」作「淮」。

120 宋釋慧嚴、京師東安寺僧也。理思該暢^(一)、見器道俗。嘗嫌大涅槃經文字繁多、遂加刊削、就成數卷、寫兩三通、以示同好。因寢寤之際、忽見一人、身長二丈餘、形氣偉壯、謂之曰、『涅槃尊經、衆藏之宗、何得以君瓊思、輕加斟酌。』嚴悵然不釋、猶以發意、苟覓多知。明夕將臥、復見昨人、甚有怒色、謂曰、『過而知改、是謂非過。昨故相告、猶不已乎。此經既無行理、且君禍亦將及。』嚴驚覺失措、未及申旦、便馳信求還、悉燒除之。塵外精舍釋道嚴具所諳聞也^(二)。

校記 珠林十八〔百二十卷本二六〕。○事見三寶感應要略錄中、又參看高僧傳七釋慧嚴傳。釋門自鏡錄上。

(一)○珠林大正藏本「該」作「諧」。(二)○大正藏本引無「也」。

121 宋羅瓊妻費氏者、寧蜀人、父悅宋寧州刺史^(一)。費少而敬信、誦法華經、數年勤至不倦。後忽得病、苦心痛守命^(二)、闔門遑懼^(三)、屬續待時。費氏心念、我誦經勤苦、宜有善佑、庶不於此遂致死也^(四)。既而睡臥、食頃、如寤如夢^(五)、見佛於牕中、授手以摩其心^(六)、應時都愈^(七)。一堂男女婢僕、悉覩金光、亦聞香氣。瓊從妹即琰外族、曾祖尚書中兵郎費愔之夫人也^(八)。于時省疾牀前、亦具聞見。於是大興信悟、虔戒至終、每以此瑞進化子姪焉^(九)。

校記 珠林九十五〔百二十卷本一一四〕。廣記一百九。○事見弘贊法華傳六。珠林·廣記(包括鈔宋本)皆作出「述異記」。汪氏校語云、「法苑珠林九五作出冥祥記」、有誤也。按珠林九五所引故事次序、首為竺法義之事、(本篇32)、次羅瓊妻費氏(本條)、而次王文明(述異記鈎沈66)。以上三條文末云、「右三驗出述(一作「迷」)異記」、次有李

清之事（本篇29），而文末云「右此一驗出冥祥記」。其中竺法義、費氏、李清之事，皆說「歸誠觀世音」「誦法華經」「歸心三寶」、且費氏之條出王琰之名，止有王文明之事，全屬怪異之談，故事之類，與前三者甚異。因而鈎沈或以為故事之引用次序有誤，而以王文明屬於述異記，歸其他三條於冥祥記。今暫從鈎沈。

（一）○弘贊法華傳作「清信女費氏者，寧蜀人。宋寧州刺史費悅之女也。出為羅璵之妻。」（二）○廣記引以上二句作「後得病，忽苦心痛」，鈔宋本作「後忽得病，苦心垂命痛」。（三）○珠林大正藏本·廣記引「遑」作「惶」。（四）○廣記引無「於此」二字，但鈔宋本引有。（五）○廣記引上「如」作「而」、下「如」作「乃」。（六）○廣記引「授」作「援」、鈔宋本引「以」作「如」。（七）○法華傳「都」作「痊」。（八）○自「即琰」至此，凡十七字，廣記引無。（九）○廣記引「瑞」作「端」、但鈔宋本作「瑞」。法華傳「進」作「勸」。

122

宋彭子喬者，益陽縣人也。任本郡主簿、事太守沈文龍^{（一）}。建元元年，以罪被繫，子喬少年嘗經出家、末雖還俗，猶常誦習觀世音經。時文龍盛怒，防械稍急，必欲殺之。子喬憂懼，無復餘計，唯至誠誦經至百餘遍。疲而晝寢，時同繫者有十許人，亦俱睡臥。有湘西縣吏杜道策^{（二）}，亦繫在獄，乍寐乍寤，不甚得熟。忽有雙白鶴集子喬屏風上，有頃，一鶴下至于喬邊，時復覺如美麗人形而已。道策起，見子喬雙械脫在腳外，而械雍猶在焉^{（三）}。道策驚視始畢，子喬亦寤，共視械咨嗟。問子喬^{（四）}，『有所夢不。』喬曰，『不夢。』道策如向所見說之。子喬雖知必已^{（五）}，尚慮獄家疑其欲叛，乃解脫械雍更著^{（六）}。經四五日而蒙釋放^{（七）}。琰族兄璉，親識子喬及道策，聞二人說，皆同如此。

校記 珠林二十七（百二十卷本三六）。○廣記一一引法苑珠林。

（一）○珠林引「守」作「子」、廣記引作「守」。（二）○珠林大正藏本·廣記引「策」作「榮」、下同。（三）○大正藏本「雍」作「癰」、廣記引作「痕」。（四）○廣記引「子喬」作「道榮曰」「三、譌」。（五）○廣記引「已」作「己」。（六）○此處當有訛奪。廣記引作「乃取械著之」五字。（七）○廣記引至此為止，無下三句十九字。

123

宋董青建者^(一)、不知何許人、父字賢明、建元初為越騎校尉。初、建母宗氏孕建時^(二)、夢見人語云、『爾必生男、體上當有青誌、可名為青建。』及生如言、即名焉。有容止、美言笑、性理寬和、家人未嘗覩其慍色、見者咸異之。至年十四、而州迎主簿^(三)。建元初、皇儲鎮樊漢、為水曹參軍。二年七月十六日、寢疾、自云、『必不振濟。』至十八日臨盡、起坐謂母曰、『罪盡福至、緣類永絕、願母自割^(四)、不須憂念。』因七聲大哭^(五)、聲盡而絕。將殯喪齋前、其夜靈語云、『生死道乖、勿安齋前、自當有造像道人來迎喪者。』明日、果有道人來、名曇順、即依靈語、向曇順說之。曇順曰、『貧道住在南林寺、造丈八像垂成、賢子乃有此感應。寺西有少空地、可得安葬也^(六)。』遂葬寺邊。三日、其母將親表十許人、墓所致祭、於墓東見建如生^(七)、云、『願母割哀還去、建今還在寺住。』母即止哭而還、舉家菜食長齋。至閏月十一日、賢明夢見建云、『願父暫出東齋。』賢明便香湯自浴、齋戒出東齋^(八)。至十四夜、於眠中聞建喚聲^(九)、驚起、見建在齋前^(一〇)、如生時。父問、『汝住在何處^(一一)。』建云、『從亡來住在練神宮中、滿百日當得生忉利天。建不忍見父母兄弟哭泣傷慟、三七日禮諸佛菩薩請四天王、故得暫還。願父母從今以後、勿復啼哭祭祀^(一二)。阿母已發願求見建、母不久當命終^(一三)、即共建同生一處。父壽可得七十三、命終之後、當三年受罪報、勤苦行道、可得免脫。』問曰、『汝從夜中來、那得有光明。』建曰、『今與菩薩諸天共下、此其身光耳。』又問云、『汝天上識誰。』建曰、『見王車騎、張吳興、外祖宗西河。』建曰^(一四)、『非但此一門中生、從四十七年以來、至今七死七生^(一五)、已得四道果。先發七願、願生人間、故歷生死、從今永畢、得離七苦。建臨盡時、見七處生死、所以大哭者、與七家分別也。』問云、『汝皆生誰家^(一六)。』建曰、『生江吏部、羊廣州、張吳興、王車騎、蕭吳興、梁給事、董越騎等家。唯此間生十七年、餘處止五三年耳^(一七)。目今以後、毒癘歲多、宜勤修功德。建見世人死、多墮三塗、生天者少。勤精進、可得免度。發願生天、亦得相見。行脫差異、無相值期。』又問云、『汝母憂憶汝、垂死、可令見汝不。』建曰、『不須相見、益懷煎苦耳耶。但依向言說之。諸天已去、不容久住。』慘有悲色、忽然不見。去後竹林左右、猶有香氣、家人亦並聞餘香焉。

建云所生七家、江概、羊希、張永、王玄謨、蕭惠明、梁季父也^(二八)。賢明遂以出家、名法藏也。

校記 珠林五十二(百二十卷本六五)。○廣記一一四引法苑珠林。*義楚四又引珠林。

(一)○珠林引「宋」作「晉」、廣記引作「齊」、鈎沈作「宋」。按後出人名江概、羊希、張永、蕭惠明皆宋人、而且所謂建元不是晉紀元、而是齊紀元、當從廣記引。(二)○珠林大正藏本「宗」作「宋」、下同。(三)○廣記引「迎」作「辟」。(四)○廣記引「割」作「愛」。(五)○廣記引「七」作「失」、謄。(六)○珠林引「葬」作「喪」、廣記引作「葬」。(七)○廣記引無「墓所致祭、於」五字。(八)○鈎沈奪「戒」字、今依補。(九)○廣記引「眠」作「明」、謄。(一〇)○鈎沈奪「見」字、今依補。(一一)○珠林引「住」作「往」、廣記引作「住」。(一二)○珠林大正藏本・廣記引「祀」作「祠」。(一三)○大正藏本引「母」作「建」、誤。(一四)○此句上當有父問一項、今失而不由補。(一五)○鈎沈排印本下「七」誤作「也」、七三年版全集已訂之。(一六)○鈎沈「皆」作「昔」、今依諸本正。(一七)○大正藏本「止」作「正」。(一八)○「王概」鈎沈作「王湛」、珠林四部叢刊本作「王縣」、今依大正藏本・廣記引。「羊希」四部叢刊本作「羊布」。大正藏本・廣記引「謨」上有「宋」字、汪氏校語云、「宋字疑是衍文」。

124 齊王氏、名四娘、永明三年病死、下屍在地、為莊飾者、覺其心煖、故未殯殮。經二宿、肌體稍溫、氣息漸還、俄

而能言。自說、有二人錄其將去、至一大門、有一沙門、踞胡牀坐。見之甚驚、問何故來。乃罵此二人云、「汝誤錄人來、各鞭四十。『語此四娘^(一)』、女郎可去。』答曰、「向來悅悅、不知道路、請人示津。』沙門即命一人力送之行^(二)、少地、見其先死奴子倚高樓上、驚問、「四娘那忽至此。欲見新婦不。』答、「不知處。』喚奴自送、奴云、「不得奉送、四娘但去、前路應相值也。』投一馬鞭與之、曰、「謹執此鞭、自知行路^(三)。』可行數里、便見新婦、即四娘之婢也^(四)。正被苦謫、四體慘縛、如裝鵝鴨法、懸於路側、相見悲號。新婦自說、「生時作罪、今貽此楚毒^(五)。』欲屈手搏頰、求

乞哀助、而手被攀格、不得至頰。又聞左右受苦之聲、而不覩形。四娘問、『此為何聲。』答曰、『此是無行衆僧、破齋犯戒、獲此苦報、呼叫聲也。』於是沿路而歸、須臾至家。見其屍骸、意甚憎惡、不復願還。不覺有人排其跽著、乃得就身、而稍穌活。其人今休然尚存。

校記 珠林九十一〔百二十卷本一〇九〕。

(一)〇鈎沈「語」作「餘」而接上、未知何據、今依珠林二本改。(二)〇珠林大正藏本引無「力」。(三)〇大正藏本無「行」。(四)〇大正藏本「娵」作「嫂」。娵、嫂字異體。(五)〇大正藏本「貽」作「胎」、訛。(六)〇大正藏本「叫」作「噉」。

125 前齊永明中、揚都高座寺釋慧進者、少雄勇遊俠、年四十、忽悟非常、因出家。蔬食布衣、誓誦法華、用心勞苦、執卷便病。迺法苑造百部、以悔先障。始聚得一千六百文、賊來索物、進示經錢、賊慚而退。爾後遂成百部、故病亦愈。誦經既度、情願又滿、迴此誦業、願生安養。聞空中告曰、『汝願已足、必得往生。』無病而卒、八十餘矣。

校記 珠林九十五〔百二十卷本一一四〕。〇事見祥異記(鈎沈2)、文同。廣記一〇九引作出「祥異記」、汪氏校語云、明鈔本作「冥異記」、按見冥祥記。廣記鈔宋本作「冥祥記」。按文中有「前齊」語、不可以作齊王琰「冥祥記」之文、或屬於祥異記歟。事又見高僧傳一二釋慧進傳。三寶感通錄下。弘贊法華傳六。法華傳記四。淨土往生傳上。

126 沙門安法開者、北人也。嘗見吳公、長三尺、自屋墮地、旋徊而去。

校記 御覽九百四十六。

127 元嘉八年、蒲坂城中大災火、里中小屋雖焚、而於煨燼下得金經、紙素如故。

校記 蘇易簡文房四譜四。○參看宣驗記(鈎沈28)、幽明錄(鈎沈271)。按此文當是第35條之略文也。今因刪之。

128 晉世有竺長舒者、本天竺人。專心誦觀世音經為業。後居吳中、於時邑內遭火、屋宇連棟、薨簷相接、火至皆焚、無能為救。長舒家正在下風、分意燒毀、一心喚觀世音。欲至舒家、風迴火滅、竟家獲免。合縣驚異、歎其有神。時有凶惡少年、怪其老胡、有何靈應、火燒不然。到後夜風急、少年以火投屋、四投皆滅。年少嗟感、至明、乃叩頭首過。舒云、『我無神力、常以觀世音為業、每有事、恆得免脫也。』

校記 本條重出。已見第12條、其異文也。

129 晉世沙門僧洪住京師瓦官寺^(一)、當義熙十二年時、官禁鎔鑄、洪既發心鑄丈六金像^(二)、『像若圓滿^(三)、我死無恨。』便即偷鑄、鑄竟、像猶有模。所司收洪、禁在相府、鎖械甚嚴^(四)。心念觀世音^(五)、日誦百遍、便夢所鑄金像往獄、手摩頭曰、『無慮。』其像胸前一尺許銅色焦沸。當洪禁日、感得國家牛馬^(六)、不肯入欄、時以為怪。旬日敕至彭城、洪因放免^(七)、像即破模自現^(八)。

校記 辯正論七注。○*義楚一。廣記一一三引辯正論。按此條當在第53條之後。事又見高僧傳一三釋僧洪傳、法華傳記五。

義楚六帖一引云、晉世沙門僧洪住瓦官寺。敕斷銅佛、洪以有願、乃鑄像成、被禁。夢佛摩頂、後國家牛馬大驚不安、洪免刑也。

(一)○廣記引作「僧法洪」。(二)○廣記引「既」作「元」。(三)○辯正論大正藏本引無「像若」二字。(四)○廣記引以上三句作「所司知覺、收洪楚械」。(五)○大正藏本「心」作「一」、廣記引作「洪」。大正藏本・廣

記引無「世」。(六)○大正藏本·廣記引無「感得」二字。(七)○廣記引以上二句作「旬日有赦、洪得免」。(八)○大正藏本「現」作「見」。

130 史儁有學識^(一)、奉道而慢佛、常語人云、「佛是小神、不足事耳。」每見尊像、恆輕謔之。後因病腳攣、種種祈福、都無效驗。其友人趙文調曰、「經道福中、佛福第一」^(二)、可試造觀世音像。儁以病急、如言灌像、像成、夢觀音^(三)、遂差。

校記 辯正論七注云、出「宣驗」冥祥等記。○事見幽明錄(鈎沈270)、宣驗記(鈎沈9)。

(一)○辯正論大正藏本引「儁」作「俊」、而其下有「者」。(二)○大正藏本「佛」作「灌像」。(三)○大正藏本引「夢」下有「見」字。

131 陳玄範妻張氏、精心奉佛、恆願自作一金像、終身供養。有願莫從^(一)、專心日久、忽有觀音金像、連光五尺、見高座上^(二)。

校記 辯正論七注云、出「宣驗」冥祥等記。○廣記一一引辯正論。事又見義楚一、未著出處、文大同。

(一)○鈎沈「莫」作「皆」、今依辯正論大正藏本·廣記引改。(二)○大正藏本引無「見」、廣記引作「現」、而下句云、「衆歎其精感所致」。義楚引有後文云、「奉之有靈」。

○132 晉沙門釋道泰、常山衡唐精舍僧也。晉義熙中、嘗夢人云、「君之年命、當終六七。」泰年至四十二、便遇篤病、慮必不濟、悉以衣鉢之資、厚為福施。又歸誠屬念、稱誦觀世音、晝夜四日、勤心不替。時所坐牀前垂帷、忽於帷下見人、跨戶而入、足趺金色、光明照屋。泰乃褰帷遽視、奄然而滅。驚欣交萃、因大流汗、既覺體輕^(一)、所患平差。

校記 珠林一七（此卷後有「魏沙門釋道泰」一則、百二十卷本（二五）以為重出、因刪去此條）。廣記一一〇引法苑珠林。事見法華傳記五。

珠林一七「魏沙門釋道泰」云、魏常山衡唐精舍釋道泰、元魏末人。夢人謂曰、「爾至某年、當終於四十二矣。」泰寤懼之。及至其年、遇病甚憂。悉以身資為福。有友人曰、「余聞供養六十二億菩薩、與一稱觀音福同無異。君何不至心歸依。可必增壽。」泰乃感悟、遂四日四夜、專精不絕、所坐帷下、忽見光明、從戶外而入、見觀音足趺踞間、金色朗照。語泰曰、「汝念觀世音耶。」比泰蹇帷、頃便不復見。悲喜流汗、便覺體輕、所患悉愈。聖力所加、後終延年。大正藏本引云出唐高僧傳、四部叢刊本、未著出處。與法華傳記文大同。

（一）〇廣記引此句作「胸體即輕」。

○133 釋僧妙（二）、居于江陵上明村。妙至大明年初、游乞零陵。因居群治龍華精舍。販貨蓄聚米、至數千斛。大明八年卒。龍華寺災焚燬蕩盡、妙臨終以財物付弟子法宗、令造講堂僧房。法宗立堂畢、頗弛懈、未時建房。至泰始三年正月、被疾甚篤。時有道猛比丘、隨泉陵令高陽許靜慧在縣、縣即郡治之邑也。猛往看宗疾、入寺數步、見一沙門著桃花布裙、衣單黃小被、行且罵云、「小子法宗違我處分、不立僧房。費散財物。」云云。既而迴見道猛、如驚羞狀、以被蒙頭、入法宗房。猛常往來此寺、未嘗見此沙門。不欲干突之、先告法超道人、說所聞見。超疑詐妄、檢問形狀音氣、猛具言之。超曰、「即法宗之師也。亡來數載、共歎恨之。」其夕即靈語、使急召法宗。宗既至、數罵甚嚴、猶以僧房為言。音聲氣調、不異平生。法宗稽謝畢問、「和尚今生何處。善惡云何。」妙曰、「生處復粗可耳。但應受小譴、二年方可得免。兼有小枉橫、欲訴所司、為無袈裟、不能得行。可急為製也。」法宗曰、「袈裟可辦、未審和尚云何得之。」妙曰、「請僧設供、以袈裟為贖、我即得也。」法宗如言、飯僧贖衣。道猛時在會、又見僧妙倚于堂戶之外、拱手聽經。飯贖既畢、猛即見袈裟已在妙身。仍進堂中、欲依僧次就坐。問猛年臘、猛曰、「吾忘其年。是索虜臨江歲

之二月也。』妙云、『與吾同臘、見大一月耳。』乃坐猛下。猛即狹膝、空一坐位。妙端默聽經、至坐散、乃不復見。時一堂道俗百餘人。零陵太守羊闡亦預法集。自猛與妙講論往反、衆但聞猛獨言、所以咸知驗實者。猛與妙不相識、說其形色舉動年臘宿少、莫不符同。法宗始疾危困始命^(一)、至靈語曰、沈疾即愈。靈語所著、蓋是弱僮、而聲氣音詞、聽者莫辨其殊、故並信異之。初闡不甚奉法、因是大興敬悟、連建福集。即其年設講於此寺、持齋布施。

校記

釋門自鏡錄上引云、「宋龍華寺法宗不勤修造得病事、出冥祥記」。珠林三五引云、唐高僧傳。

(一)○珠林引作「宋沙門僧妙者、上黨人也。家姓馮氏。」(二)「始命」二字疑有訛、珠林引作「殆命」、當從。

○134

簡文有意興構(三層之塔)、未遂而崩。

校記

三寶感通錄上(大正藏本)引冥祥記。

旌異記

原輯十一條 新附二條 凡十三條

1 吳時、於建業後園平地獲金像一軀^(一)、討其本緣、即是周初育王所造、鎮於江府也。何以知然。自秦漢魏未有佛法南達、何得有像埋瘞於地。孫皓得之、素未有信、不甚尊重、置於廁處、令執屏籌。至四月八日、皓如廁^(二)、戲曰、『今是八日浴佛時。』遂尿頭上。尋即通腫、陰處尤劇、痛楚號叫^(三)、忍不可禁。太史占曰、『犯大神聖所致。』便遍祀神祇、並無效應。宮內伎女、素有信佛者、曰、『佛為大神、陛下前穢之、今急、可請耶。』皓信之、伏枕歸依、懺謝尤懇、有頃便愈。遂以馬車迎沙門僧會入宮、以香湯洗像、懺悔殷重、廣修功德於建安寺^(四)、隱痛漸愈也。

校記 法苑珠林十三(百二十卷本二一、引云、見高僧傳及旌異記等。)○事見宣驗記(鈎沈18)、高僧傳一康僧會傳。

(一)○大正藏本引「業」作「鄴」。(二)○大正藏·四部叢刊本引均無「廁」字、或鈎沈以意補歟。(三)○大正藏本引「叫」作「噉」。(四)○大正藏本引「安」作「鄴」。

2 西晉愍帝建興元年、吳郡吳縣松江滬瀆口、漁者萃焉。遙見海中有二人現、浮游水上、漁人疑為海神、延巫祝備牲牢以迎之、風濤彌盛、駭懼而返。復有奉五斗米道黃老之徒曰^(一)、『斯天師也^(二)。』復共往接、風浪如初。有奉佛居士吳縣朱膺聞之^(三)、歎曰、『將非大覺之垂降乎。』迺潔齋、共東靈寺帛尼及信佛者數人至瀆口^(四)、稽首迎之^(五)、風波遂靜。浮江二人、隨潮入浦、漸近漸明、乃知石像。將欲捧接、人力未展、聊試擎之、飄然而起。便輦還通玄寺^(六)。看像背銘、一名維衛^(七)、二名迦葉、莫測帝代、而書迹分明^(八)。舉高七尺、施設法座、欲安二像、人雖數十、而了不動^(九)。復重啟請、翻然得起^(一〇)。以事表聞朝廷、士庶歸心者十室而九。沙門釋法開^(一一)、來自西域、稱經說東方有二

石像^(二)、及阿育王塔、有供養禮觀者、除積罪云^(三)。又別傳云、天竺沙門一十二人、送像至郡。像乃水上^(四)、不沒不行。以狀奏聞、下敕聽留吳郡。

校記 珠林十三〔百二十卷本二一、引云、見高僧傳及旌異記等。〕○三寶感通錄中。事見高僧傳一三笠慧達傳、文有異同、如「朱膺」作「朱應」等。又珠林十二。

(一)○珠林大正藏本引「黃」作「費」、「徒」作「往」、皆譌。(二)○珠林大正藏本引「天」作「吾」。(三)○感通錄引「吳縣」下有「華里」二字。(四)○感通錄大正藏本引「靈」作「雲」。(五)○感通錄大正藏本引「迎」作「延」。(六)○感通錄大正藏本引「輦」作「舉」。(七)○珠林大正藏本引「維」作「惟」。感通錄大正藏本亦同。(八)○感通錄大正藏本「書」作「辭」。(九)○感通錄引「不」下有「可」。(一〇)○感通錄大正藏本引「翻」作「欸」。(一一)○感通錄大正藏本引「開」作「淵」。(一二)○感通錄大正藏本引「說」作「記」。(一三)○珠林大正藏本引此句作「除積劫罪」、感通錄引作「除積劫罪云」。(一四)○感通錄引「乃」下有「立」。

3 晉揚州江畔有亭湖神^(一)、嚴峻甚惡。於時有一客僧婆羅門、名曰法藏、善能持呪、辟諸邪毒、並皆有驗。別有小僧、就藏學呪經、於數年學業成就、亦能降伏諸邪毒惡。故詣亭湖神廟止宿、誦呪伏神、其夜見神、遂致殞命。藏師聞弟子誦呪致死、懷忿自來。夜到神廟、瞋意誦呪、神來出見^(二)、自亦致死。同寺有僧、每恆受持般若^(三)、聞師徒並亡、遂來神所、於廟夜誦金剛般若。至夜半中、聞有風聲極大、迅速之間、見有一物。其形偉大、壅聳驚人、奇特可畏、口齒長利、眼光如電、種種神變、不可具述。經師端坐、正念誦經、剎那匪懈、情無怯怕、都不憂懼。神見形泰、攝諸威勢、來至師前、右膝著地、合掌恭敬聽經訖。師問神曰、「檀越是何神靈。初來猛峻、後乃容豫。」神答云、「弟子惡業、報得如是、是此湖神、然甚敬信。」經師又問、「若神敬信、何意前二師並皆打死。」答云、「前二師死者、

為不能受持大乘經典、瞋心誦呪、見弟子來、逆前放罵、專誦惡語、欲降弟子。弟子不伏、于時二僧、見弟子形惡、自然怖死。亦非弟子故殺二僧。』左近道俗、見前二僧被殺、謂經師亦死、相率往看。且見平安、容儀歡泰。時人甚怪、競共問由、具答前意。寔因般若威力^(四)、聖教不虛。諸人因此發心、受持般若者衆。

校記 珠林八十五(百二十卷本一〇二、引云、右此二驗見侯君素集)。〇二驗、本條與次條也。

(一)〇大正藏本引「揚」作「楊」、校勘記云、明本作「揚」、魯迅所目睹亦是明本之一證也。(二)〇大正藏本引「見」作「現」。(三)〇大正藏本引「恆」作「常」。(四)〇鈎沈以「寔」與「實」通作「實」、今依諸本改。

4 魏泰嶽人頭山銜草寺僧釋志湛^(一)、齊州山荏縣人^(二)、是朗公曾孫之弟子也。立行純厚、省事少言。住銜草寺^(三)、寺即宋求那跋摩之所立也。游諸禽獸、而不驚亂^(四)、常誦法華^(五)、用為恆業^(六)。將終之日、沙門寶誌奏梁武帝曰^(七)、『北方山荏縣僧住銜草寺^(八)、是須陀洹聖人^(九)、今日入涅槃。』揚都道俗^(一〇)、聞誌此告^(一一)、皆遣遙禮^(一二)。端坐氣絕^(一三)、兩手各舒一指。有西天竺僧解云、『若是二果聖人^(一四)、各舒兩指^(一五)。湛舒一指、定是初果^(一六)。』將收人頭山^(一七)、造塔安之。鳥獸不汙^(一八)、今猶在焉。

校記 珠林八十五(見侯君素集。百二十卷本一〇二)。續高僧傳三十八(明本。大正藏本二八)。〇三寶感通錄下引云、見「侯君素旌異記」、但文刪略。大唐內典錄一〇、引文與三寶感通錄所引略同。事又見珠林一八引云、出「梁高僧傳」並雜錄記。按釋志湛不見高僧傳。珠林一八引與感通錄所引略同。鈎沈本與雍州僧之事合為一條、今分為別條(11)。

(一)〇感通錄引作「後魏末、齊州釋志湛者、住太山北人頭山邃谷中銜草寺」。續高僧傳引無頭銜。(二)〇珠林引「山荏」誤作「山莊」、下同。(三)〇續高僧傳引「住」下有「人頭山邃谷中」六字。(四)〇續高僧傳

引「游」上有「每」、下句作「而群不為亂」、而且以上二句在「住銜草寺」上。(五)○續高僧傳引「常」作「讀」。(六)○珠林大正藏本引「恆」作「常」。感通錄引作「人不測其素業」。(七)○珠林大正藏本引「寶」作「保」。(八)○續高僧傳引「僧」作「人」、「住」下有「今」字。(九)○續高僧傳引「聖」上有「果」、「人」作「僧者」。(一〇)○珠林大正藏本引「揚」作「楊」。續高僧傳引亦同。(一一)○「此告」二字、據續高僧傳引補。○珠林引「聞」作「問」。(一二)○續高僧傳引無「遣」、「禮」下有「拜」。且下文云、「故湛之亡也、寂無餘惱」。感通錄引作「湛之亡也、無惱而化」。(一三)○續高僧傳引「坐」作「然」。(一四)○續高僧傳引「聖人」作「者」。(一五)○續高僧傳引無「各」、句末有「驗」。(一六)○續高僧傳引無「舒一指」指定是「五」字、而句末有「也」字。(一七)○續高僧傳引「將」作「還」、「收」下有「葬于」二字。(一八)○續高僧傳引此句之上有「石灰塗泥」一句、而且此句作「鳥獸不敢凌汙」。

5 魏高祖太和初年^(一)、北代京闈官^(二)、自慨形殘^(三)、不逮餘人^(四)、旋奏乞入山修道^(五)、出敕許之^(六)。乃齎一部華嚴^(七)、晝夜讀誦^(八)、禮悔匪懈。夏首歸山^(九)、至六月末、髭鬚盡生^(一〇)、陰相復現^(一一)、丈夫相狀^(一二)、宛然復舊^(一三)。具狀奏聞^(一四)、高祖增信、內宮驚訝。於是北代之國、華嚴轉盛^(一五)。

校記 珠林八十五(見侯君素集。百二十卷本一〇二)又十八(見侯君素旌異記錄之。百二十卷本二六)。感通錄三(下。見侯君素旌異記)。續高僧傳三十八(大正藏本二八)。○大唐內典錄一〇。事又見義楚六帖一四引作見「魏史」。

(一)一引(珠林一八、感通錄)有此二字(高祖)、亦見續高僧傳三十八次乘禪師後。○珠林一八引「魏」上有「後」字、而「初年」作「中」。(二)○珠林一八·感通錄·內典錄·續高僧傳引無「北」。珠林一八四部叢刊本引「闍」上有「內」字。(三)○珠林一八大正藏本引「形」作「刑」、感通錄·內典錄·續高僧傳引「形殘」作「刑餘」。

(四)○珠林一八・感通錄引無此句四字。續高僧傳引「餘人」作「人族」。(五)○珠林一八・感通錄・內典錄・續高僧傳引無「旋」。珠林一八引大正藏本引「道」下有「思」、四部叢刊本引有「恩」字。(六)○珠林一八・感通錄・內典錄・續高僧傳引無「出」。(七)○珠林一八・感通錄・內典錄引無「一部」。(八)○珠林一八・大正藏本引無「誦」、四部叢刊本引「誦」作「禮」。(九)二句一引(珠林一八)作「懺悔不息、一夏不滿」。○感通錄・內典錄引亦同、但「懺」作「禮」。續高僧傳引上句作「禮悔不息」。(一〇)○珠林一八・感通錄・內典錄・續高僧傳引無「盡」。(一一)○珠林一八・感通錄・內典錄・續高僧傳引無此句四字。(一二)○珠林一八・感通錄・內典錄引此句作「得丈夫相」。續高僧傳引作「復丈夫相」。(一三)○珠林一八・感通錄・內典錄・續高僧傳引無此句四字。(一四)○珠林一八・感通錄・內典錄引「具」作「以」。續高僧傳引作「還」或作「遙」。(一五)(自「高祖增信」至此)一引(珠林一八)作「帝大敬重之、於是國中普敬華嚴、厚尊恆日。」○感通錄・內典錄引略同、但「敬」作「驚」、「國中」作「國」、而無「普」。珠林一八・大正藏本引「厚」作「後」、「恆」作「常」。內典錄引「厚」作「復」。續高僧傳引作「高祖信敬由來、忽見驚訝、更增常日。於是大代之國、花嚴一經、因斯轉盛。」

6 高齊初、沙門實公者^(一)、嵩山高棲士也。旦從林慮向白鹿山^(二)、因迷失道。日將過中^(三)、忽聞鍾聲、尋響而進、巖岫重阻、登陟而趣^(四)。乃見一寺、獨據深林。山門正南、赫奕輝煥。前至門所看額、云『靈芝寺』^(五)。門外五六犬、其大如牛^(六)、白毛黑喙、或踊或臥^(七)、以眼眄實^(八)、實怖將返。須臾見胡僧外來^(九)、實喚不應、亦不迴顧、直入門內、犬亦隨入。良久實見無人^(一〇)、漸入次門^(一一)、屋宇四周、房門並閉^(一二)、進至講堂、唯見牀榻、高座儼然。實入西南隅牀上坐、久之、忽聞棟間有聲^(一三)、仰視見開孔如井大^(一四)、比丘前後從孔飛下、遂至五六十人。依位坐訖^(一五)、自相借問、『今日齋時何處食來。』或言豫章成都長安隴右薊北嶺南五天竺等^(一六)、無處不至、動即千萬餘里。末後一

僧、從空而下、諸人競問、『來何太遲。』答曰、『今日相州城東彼岸寺鑒禪師講會、各各豎義^(二七)、有一後生^(二八)、聰俊難問、詞音鋒起^(二九)、殊為可觀、不覺遂晚^(三〇)。』實本事鑒為和上^(三一)、既聞此語、望得參話、希展上流^(三二)、整衣將起^(三三)、咨諸僧^(三四)、曰^(三五)、『鑒是實和上^(三六)。』諸僧直視、忽隱寺所在^(三七)、獨坐盤石柞木之下^(三八)。向之寺宇、一無所見^(三九)。唯覩巖谷禽鳥^(四〇)、翔集喧亂^(四一)。及出以問尚統法師^(四二)、尚曰^(四三)、『此寺石趙時佛圖澄法師所造^(四四)、年歲久遠、賢聖居之、非凡所住、或汎或隱^(四五)、遷徙無定。』今山行者、猶聞鍾聲^(四六)。

校記 珠林九十一〔百二十卷本一〇九〕。廣記九十九。○事見三寶感通錄下、文大同。

(一) 廣記引作「寶公」。○珠林大正藏本引亦作「寶公」、下同。感通錄引作「嵩公」、下同。(二) 〇「且」鈎沈依廣記引作「且」、今依珠林·廣記鈔宋本引改。(三) 〇「過」珠林四部叢刊本·感通錄·廣記引作「禺」、廣記鈔宋本作「隅」、珠林大正藏本引作「遇」、鈎沈以意改。(四) 〇「趣」鈎沈依廣記引作「趨」、今依珠林引改。(五) 廣記引作「靈隱寺」。○珠林大正藏本·感通錄引作「靈隱之寺」。廣記引無「云」。(六) 〇感通錄·廣記許刻本·汪氏校本引「大」均作「犬」。(七) 〇廣記引「踊」作「踴」。(八) 〇廣記引「以眼」作「迴眸」。(九) 〇珠林·感通錄引無「見」。感通錄引「胡」作「梵」。(一〇) 〇廣記引無「無」。(一一) 〇廣記引「入次」倒作「次入」。(一二) 〇「房門」鈎沈依廣記引作「門房」、今依改。感通錄引亦作「房門」。(一三) 〇廣記引「棟」作「東」。(一四) 〇感通錄引「井」作「口」。(一五) 〇廣記引「訖」作「乞」。(一六) 〇感通錄引「右」作「西」、而無「五天竺等」四字。(一七) 〇廣記引「豎」作「厝」、鈔宋本作「豎」。(一八) 〇珠林引此句作「大有後生」、感通錄引亦同。(一九) 〇珠林引「音」作「旨」、或當從歟、感通錄引無「詞音」二字。(二〇) 〇珠林引句末有「而至」二字、感通錄引亦同。(二一) 〇感通錄引無「為和上」三字。(二二) 〇廣記引無此句四字。(二三) 〇廣記引句頭有「因」、「將」作「而」。(二四) 〇珠林大正藏本引「咨」作「答」、廣記引作「白」。(二五) 〇鈎沈排印本「曰」作「司」、今依正。(二六) 〇「上」鈎沈從珠林百二十卷本、大

正藏本・廣記引均作「尚」。(二七)○珠林引無「在」。自「咨諸僧」至此、感通錄引作「奄然失地」四字。(二八)○珠林大正藏本引「柞」作「查」。(二九)廣記引作「諸僧直視寶、頃之、已失靈隱寺所在矣。寶但獨坐于柞木之上、一無所見。」○廣記鈔宋本引無「但」與「矣」、又「上」作「下」。(三〇)○感通錄引「覩」作「多」。(三一)○珠林大正藏本引「翔」作「翅」、「喧」作「誼」。又珠林引「喧亂」下有「切心」二字。感通錄引無「喧亂」二字。(三二)○廣記引「出」作「及出山」三字。又「問」下有「於」。感通錄引「及」作「嵩」。(三三)○廣記引「尚」作「法師」。感通錄引亦同。(三四)○珠林引「石」作「名」。廣記引「造」下有「者」、但鈔宋本引無。感通錄引「佛」作「浮」、而無「法師」二字。(三五)○珠林大正藏本・廣記引「汎」作「沈」。感通錄引「汎」作「現」、而無上句四字。(三六)○廣記引句末有「焉」、但鈔宋本引無。感通錄引文末有「云云」二字。

7 齊武成世^(一)、并州東看山側^(二)、有人掘地、見一處土、其色黃白、與傍有異。尋見一物、狀人兩唇^(三)、其內有舌、鮮紅赤色。以事奏聞、問諸道人^(四)、無能知者。沙門大統法師上奏曰^(五)、『此持法華者、令六根不壞^(六)、殷誦千遍^(七)、定感此徵^(八)。』乃敕中書舍人高珍曰、『卿是信向之人、自往看之、必有靈異。宜遷置淨所、設齋供養。』珍奉敕至彼、集諸持法華沙門、各執香鑪^(九)、潔齋旋遶而祝曰、『菩薩涅槃、年代已遠、像法流行、奉無謬者、請現靈感^(一〇)。』纔始發聲、唇舌一時鼓動^(一一)、雖無響及^(一二)、而似讀誦^(一三)。諸同見者、莫不毛豎。珍以狀聞、詔遣藏之石函^(一四)、遷於山室^(一五)。

校記 珠林八十五(百二十卷本一〇二)。^{*}三寶感通錄三(大正藏本下)。(稿本欄外注)亦見續高僧傳三十八(大正藏本二八)次湛後。○大唐內典錄一〇引云、並見「侯君素旌異記」。^{*}廣記一〇九、汪氏校語云、「出」[梁高僧傳]。法苑珠林三五(不見)、八五兩引俱作出「旌異記」。此北齊事、不當見梁高僧傳。」按廣記所引略似感通錄引。事又見珠林一八、引云出「梁高僧傳」并雜錄記。義楚二〇又引珠林。三寶感應要略錄中亦引梁高僧傳等。

(一)○感通錄引「或」作「陵」、廣記引作「帝」。(二)○廣記引「東看山」作「東山」。(三)〔稿本欄外注「人」續傳作「如」。○感通錄·內典錄·廣記引亦同。(四)○續傳·廣記引句頭有「帝」字。(五)○續傳引無「師」。(六)○續傳引無「令」、而句末有「報耳」二字。廣記引「令六根」作「亡相」。(七)○「殷」鈎沈排印本誤作「毀」、今依正。珠林大正藏本作「慙」。續傳引「殷誦」作「誦滿」、廣記亦同。(八)○感通錄·內典錄·續傳引此句作「其徵驗乎」、廣記引作「其驗徵矣」。(九)○續傳引此句作「執爐」。(一〇)○續傳引「靈感」作「感應」。(一一)○感通錄·內典錄引句頭有「此靈」二字、續傳引有「此之」二字。(一二)〔稿本欄外注〕「及」續傳作「聲」。(宋·元·明版)○大正藏本引作「及」。(一三)○續傳引「似」上有「相」。(一四)○續傳引「石函」二字在「遣」字之下。(一五)○續傳引文末有「云」字。

8 元魏天平中^(一)、定州募士孫敬德防於北陲^(二)、造觀音金像^(三)、年滿將還、常加禮事。後為劫賊橫引^(四)、禁於京獄^(五)、不勝拷掠、遂妄承罪。並斷死刑^(六)。明旦行決^(七)、其夜、禮拜懺悔^(八)、淚下如雨^(九)。啟曰^(一〇)、『今身被枉^(一一)、當是過去枉他^(一二)、願償債畢^(一三)、誓不重作^(一四)。又願一切衆生所有橫禍^(一五)、弟子代受^(一六)。』言已少時、依稀如夢^(一七)、見一沙門^(一八)、教誦觀世音救生經。經有佛名、令誦千遍、得度苦難。敬德歎覺、起坐緣之、了無參錯^(一九)、比至平明、已滿九百遍^(二〇)。有司執縛向市^(二一)、且行且誦、臨欲加刑、誦滿千遍。執刀下斫、折為三段^(二二)、不損皮肉、易刀又折。凡經三換、刀折如初^(二三)。監當官人、莫不驚異、具狀聞奏^(二四)。丞相高歡表請其事^(二五)、遂得免死^(二六)。敕寫此經傳之^(二七)、今所謂高王觀世音是也^(二八)。敬德放還^(二九)、設齋報願^(三〇)、出存訪像^(三一)、乃見項上有三刀痕^(三二)、鄉親同覩^(三三)、歡其通感^(三四)。

校記 三寶感通錄二(大正藏本中)。續高僧傳三十九(大正藏本二九)○珠林一四(百二十卷本二一)引云、見「齊志」及「旌異」等記。感通錄引亦同。事又見珠林一七引云、「唐高僧傳」(大正藏本)。感通錄下及大唐內典錄

一〇引「齊書」。參看宣驗記（鈎沈7）。

- （一）〇續傳引文頭有「昔」字。（二）〇續傳引「防於北陲」作「於防所」。（三）〇續傳引此句作「及年滿還」。（四）〇續傳引「橫」作「所」。（五）〇續傳引「於」作「在」。（六）〇續傳引「斷死」作「處極」。（七）〇續傳引「行」作「將」。（八）〇續傳引以上二句六字作「心既切望」。（九）〇續傳引作「淚如雨下」。（一〇）〇續傳引作「便自誓曰」。（一一）〇續傳引作「今被枉酷」。（一二）〇續傳引「枉」上有「曾」、句末有「來」字。（一三）〇續傳引句末有「了」字。（一四）〇續傳引無此句。（一五）〇續傳引「橫禍」作倒。（一六）〔稿本欄外注〕續高僧傳三十九作「又願一切衆生所有橫禍、弟子代受」。亦本旌異記、當據補。〇今依補。感通錄・珠林引均作「又發願云云」。（一七）〇續傳引「夢」作「睡」。（一八）〇續傳引「見」作「夢」。（一九）〇自「得度」至此、凡四句十六字、續傳引作「得免死厄、德既覺已、緣夢中經、了無謬誤」。（二〇）〇感通錄引「九」作「一」、今依珠林引改。續傳引無「一」或「九」。（二一）〇感通錄引「有」作「右」、今依珠林引改。（二二）〇珠林引此句作「刀折三段」。（二三）〇自「不損」至此、續傳引作「三換其刀、皮肉不損」。（二四）〇以上三句續傳引作「怪以奏聞」。（二五）〇鈎沈「丞」作「承」、今依諸本改。續傳引「其事」作「免刑」。（二六）〇續傳引無此句四字。（二七）〇續傳引此句作「仍敕傳寫被之世」。（二八）〇珠林大正藏本引「觀世音」下有「經」字。（二九）〇續傳引「敬德」作「德既」。（三〇）〇續傳引無此句。（三一）〇珠林大正藏本・感通錄引「存訪」均作「在防」、今依珠林四部叢刊本改。續傳引作「觀在防時所造像」。（三二）〇續傳引作「項有三刀迹」。（三三）〇「親」鈎沈依感通錄引作「郭」、今依珠林引改。（三四）〇續傳引以上二句作「悲感之深、慟發鄉邑」。

9 范陽五侯寺僧失其名^(一)、常誦法華為常業^(二)、初死之時^(三)、權殮堤下^(四)、後遷改葬^(五)、骸骨並枯、唯舌不壞。

校記 續高僧傳三十八〔大正藏本二八〕。〔稿本欄外注〕續傳載此在志湛與雍州僧之間。○三寶感通錄下引云、見「侯君素旌異記」。大唐內典錄一〇。事又見珠林十八〔百二十卷本二六〕引云、出「梁高僧傳」並雜錄記。廣記一〇九引、文皆與感通錄引同。

(一)〇珠林・廣記引句頭有「後魏」二字。(二)〇「為常業」三字、今依感通錄・內典錄引補。珠林・廣記引又同。(三)〇感通錄・珠林・內典錄・廣記引無「之時」二字。(四)〇鈎沈「殮」作「殯」、今依感通錄引改、珠林・內典錄・續高僧傳・廣記引亦作「殮」。(五)〇感通錄等引無「遷」字。

10 元魏北代乘禪師者^(一)、受持法華^(二)、精勤匪懈。命終、託河東薛氏為第五子^(三)、生而能言、自陳宿世^(四)、不願處俗。其父任北泗州刺史^(五)、隨任便往中山七帝寺^(六)、尋得本時弟子^(七)、語曰、「汝頗憶從我渡水往狼山不^(八)。乘禪師者、我身是也^(九)。房中靈几^(一〇)、可送除之^(一一)。』父母恐其出家^(一二)、便與納室。爾後便忘宿命之事、而常興厭離、端拱靜居^(一三)。

校記 續高僧傳三十八〔大正藏本二八〕。〔稿本欄外注〕續傳次并州東看山不壞舌後。○事又見珠林二六引唐高僧傳、文亦略同。

(一)〇珠林引「元魏」下有「之時有」、而句末「者」。(二)〇珠林引句頭有「常」。(三)〇珠林引句頭有「中陰」二字。(四)〇珠林引「世」作「業」。(五)〇珠林大正藏本「泗」作「棣」、他本及續傳大正藏本作「肆」。(六)〇珠林引句頭有「其第五郎」、而「七」上有「至」字。「往」鈎沈依續傳某本作「住」、今依大正藏本及珠林改。(七)〇珠林引「本時」上有「前世」二字。(八)〇續傳大正藏本引「渡」作「度」。(九)〇珠林引作「即我身是」。(一〇)〇珠林引句頭有「吾」、「几」作「机」。(一一)〇鈎沈引「速」作「送」、今依續傳大正藏本・珠林引改。珠林引「之」作「却」。(一二)〇珠林引此句上有「弟子聞驗、抱師悲慟哀傷」。

人聚道俗奇怪、將為大徵。」二十字。又「父母」下有「戀惜」二字。（一三）○珠林引「端拱」作「常樂」。

11 雍州有僧、亦誦法華、隱於白鹿山^(二)。感一童子、常來供給^(三)。至終置屍巖下^(三)、餘骸枯朽^(四)、唯舌多年不壞^(五)。

校記 珠林八十五（百二十卷本一〇二）。續高僧傳三十八（大正藏本二八）。○三寶感通錄下引云、見「侯君素旌異記」。大唐內典錄一〇。事又見珠林一八引梁高僧傳并雜錄記。廣記一〇九引珠林、文皆略同。此條鈎沈與第4條合為一條、今分為二條。

（一）○感通錄・內典錄引無「於」。（二）○感通錄引無「常來」。珠林・內典錄引無「來」。（三）○感通錄引「至終」作「及死」。續傳引亦同。內典錄引「至」作「及」。（四）○感通錄引此句作「餘骸並枯」、內典錄引作「餘體並枯」。（五）○感通錄・內典錄・續傳引作「唯舌如故」。

○12 梁天監末、富陽縣泉林寺釋道琳者、少出家、有戒節、誦淨名經。寺有鬼怪、自琳居之便歇。弟子為屋壓、頭陷入匱。琳為祈請、夜見兩胡僧、拔出其頭、旦遂平復。琳又設聖僧齋、鋪新帛於牀上、齋畢、見帛上有人迹、皆長三尺、衆咸服其徵感。

校記 三寶感通錄下引云、並見「侯君素旌異記」。大唐內典錄一〇。珠林四二（百二十卷本五五）引此事云、出梁高僧傳。高僧傳十二。

○13 盜發白茅冢。棺內大吼如雷、野雉悉雊。窟內火起、飛焰赫然。盜被燒死、得非伏火乎。

校記 西陽雜俎前集一三引云、「侯白旌異記」。

後記

一

本書は、中島長文氏が多年の作業を通して完成された魯迅『古小説鈎沈』（以下、『鈎沈』）校本である。『鈎沈』の性質に関しては、中島氏による序・旧序に解説があるので、ここでは重複を避ける。本校本の特色も、旧序二の「魯迅が未定とした部分を定稿とし、できるだけ正確なテキストを提供すべく校本の作成を目指したものである。先行する研究を参照し、魯迅が目撃した唐宋類書を中心として、テキストの各条文を再検討し、校訂を加え、校勘を記した」という記述に尽くされている。

中島氏は、自らの研究につき「名を魯迅研究に託するも殆ど言ふべきものなし。強ひてこれを言はんか、唯僅かに二篇あるのみ。一を古小説鈎沈校本と云ふ、工を竣ふと雖も、梓行の資なく、之を同学に頒かたんと欲するも由るなし。今一を中国小説史略考証と云ふ。年々学報に紙幅を占むるも、終に数章を剩して未だ完稿を見ず、信に九仞の功を一簣に虧くと謂ふべし」とと自負をこめて自謙する。もちろん六朝の小説の全貌を把握するには、『鈎沈』以外に『世説新語』や「すでに比較的まとまった伝本がある『搜神記』や『拾遺記』『異苑』など」も必須であるが、本校本が「古小説」研究において重要な資料であることは疑いをいれない。「今一」の『中国小説史略考証』は、二〇一〇年に至って、「完稿」が双楡書屋から四〇部を限って製本・寄贈された。『中国小説史略考証著録編』は、全体がウェブ上で公開されている。まさに蛇足となることを言い添えれば、中島氏の魯迅研究は「僅かに二篇」にとどまるものでなく、論文集『ふくろうの声 魯迅の近代』（平凡社、二〇〇一年）、訳注として『両地書』（魯迅全集一三、学

習研究社、一九八五年）と『中国小説史略』（全二冊、平凡社東洋文庫、一九九七年）、雑誌『颯風』掲載の多くの文がある。

中島氏による『鉤沈』校訂の成果は、十年以上の期間をかけて、左のとおり発表された。

- 『古小説鉤沈』校本 一 青史子 裴子語林（『神戸外大論叢』四三（二）、二三～六三頁）、一九九二年。
- 『古小説鉤沈』校本 二 裴子語林（續完）（『神戸外大論叢』四三（七）、一～四二頁）、一九九二年。
- 『古小説鉤沈』校本 三 郭子（『神戸外大論叢』四四（六）、一～二二頁）、一九九三年。
- 『古小説鉤沈』校本 四 郭子（續完） 笑林（『神戸外大論叢』四三（七）、一～二三頁）、一九九三年。
- 『古小説鉤沈』校本 五 俗説 水飾（『神戸外大論叢』四五（七）、一～三二頁）、一九九四年。
- 『古小説鉤沈』校本 六 殷芸小説（『神戸外大論叢』四六（六）、一～二五頁）、一九九五年。
- 『古小説鉤沈』校本 七 殷芸小説（續）（『神戸外大論叢』四七（二）、二七四～二五五頁）、一九九六年。
- 『古小説鉤沈』校本 八 殷芸小説（二續）（『神戸外大論叢』四七（五）、一～二〇頁）、一九九六年。
- 『古小説鉤沈』校本 九 殷芸小説（三續完） 妬記（『神戸外大論叢』四九（三）、一～一九頁）、一九九八年。
- 『古小説鉤沈』校本（軼事小説之部）人名索引（『神戸外大論叢』五〇（四）、五五～七四頁）、一九九九年。
- 『古小説鉤沈』本文研究 第一巻～第四巻（科学研究費補助金基盤研究（C）（2）研究成果報告書、二〇〇三年。

このうち『神戸外大論叢』掲載のものは、神戸市外国語大学学術情報リポジトリで全文を読むことができる。最後の『古小説鉤沈』本文研究』は神戸市外国語大学図書館以外の所蔵を知らない。全体を一冊にまとめるにあたって

は、中島氏が全体にわたって増訂を加えた原データファイルを基礎として用いた。『神戸外大論叢』に掲載された各篇は異体字まで印刷所が作字しており、読むのに困難はない。原データファイルにおいては、校訂作業をすすめたときに個人が使えたコンピュータ・ソフトの制約により入力できなかった漢字が多数あり、たとえば「塹」は「土十追」という形式で表示されている。その後の十数年間に、CJK統合漢字の制定などにより、個人でも容易に入力できる漢字の字数は飛躍的に増加している。原データファイルに欠けている多数の僻字を、『古小説鈎沈』主要校勘書目』に示された文献にもとづいて原典と照合しながら入力し、データに誤りがあった場合は訂正する作業は、伊藤令子氏が担当した。一部の疑問点については、平田が判断して修正した場合もある。残念ながら、原データファイルが確定されて以降に参照できるようになった新しい影印本・校訂本や古典籍画像データについては、充分に利用できていない。また軼事小説之部人名索引は省いた^二。

本書の精細な校勘の特色について、一点のみ指摘しておく。平田が初めてこの校本を見たとき不思議に思ったのは、逸文の出所として『淵鑑類函』（一七一〇年）、『佩文韻府』（一七一一年）、『古今圖書集成』（一七二五年）、『格致鏡原』（一七三五年）まで掲げ、校記に『玉函山房輯佚書』（一八七四年）を挙げていることだった。校訂に用いた資料にしても、明蔵を影印した四部叢刊本『法苑珠林』の如き、劣悪さで知られる版本の異文が含まれる。これでは、「校例」に「書物にはそれぞれにその書物の信用度というものがある。特に木版の印刷技術が極点に達した明末には、優れた版本も出た代わりに、商業主義と相まって粗製濫造のでたらめな書籍も輩出した。例えば小説関係では『五朝小説』や『重較說郛』などというものはその好例で、何でもかんでも無批判に詰め込んであって、その信用度はほとんどゼロに近い。その害は清朝に入っても『子史精華』など官撰の書にまで及んでいる。そうした書物は原則として引用しないし、校訂に必要がない限り言及しない」とある方針と矛盾しないのか。

しかし、校記に目を通していくと、本文の異同から、おのずと文献伝承の過程や系統、魯迅の作業過程、清代欽定

の書籍の用いた材料などが浮かびあがり、さきのような諸文献や版本によった校語が余贅ではないことが分かる。たとえば『裴氏語林』⁵や⁷の校記からは、魯迅が『鈎沈』を編むにあたって、じつは『玉函山房輯佚書』を藍本としていたことが判明する。『雜鬼神志怪』^{25・26・27}では『淵鑑類函』や『古今圖書集成』が共通して引用する正体不明の「志怪錄」に気づくであろう。『冥祥記』^{7・9・22}の校記で、『法苑珠林』大正蔵本の「嫂」「鵠」「鋼」が四部叢刊影明蔵本でそれぞれ「嬀」「鵠」「鏹」となっていることは、明蔵本の基づく祖本がこれら異体字を用いたものだったことをうかがわせる。さらに、周作人が「幼いころ小動物をおもちゃにし、あとで『花鏡』『格致鏡原』や『事類賦』などの本でその動物のお話を探したもので、いまでもまだだいたいは覚えていてる」^三と回想するように、魯迅・周作人兄弟にとって清代に流通していた博物の書が親しく愛すべき存在であったこと、『鈎沈』の編纂にとりかかるにあたっても、古小説の断片についての記憶を少年期の読書経験から掘り起こし、たぐりよせたであろうことは、無視できないのである。

現在、データベースの利用によって文献検索は飛躍的に容易になっている。本書は、まだそのような手段がなかった時代、資料に一冊ずつ目を通すことで作られた。それは魯迅が周作人とおこなった輯佚のしごとに近い。目と手ですすめられた作業ならではの発見が、本書の校記にはちりばめられている。

二

魯迅が古小説の逸文収集に取り組んだ意図について、中島氏は、『鈎沈』序が『漢書藝文志』の諸子十家の内、小説が観る可き者九家から排除されていることを言い、小説の社会的効用とその実績をよりどころに「伝統的な価値観からは文学の最高の地位にあった『詩』と同等のところまで小説を引き上げ」、「旧来の小説に対する価値観の完全

な逆転と、埋没させられたものの中から国人の心の表白と思士の結想を、つまり民族の思考と表現の鉅脈を発掘しようという態度が提示されている「ものであり、「民国期の民族的自己確認の一つの形態であつたろう」と説いている^四。この指摘は正しいであろう。以下、「逆転」と「発掘」に至る背景について、数点指摘しておきたい。

第一に、清代の学者が輯佚の範囲を拡張していったことがある。輯佚は、もと余蕭客『古経解鈎沈』（一七五九年自序）、王謨（一七三一〜一八一七）『漢魏遺書鈔』（一七九八年自序）、同『漢唐地理書鈔』（二八二一年自序）のように経史を中心としていた。対象とする文献の範囲を一挙に拡大したのが馬国翰（一七九四〜一八五七）『玉函山房輯佚書』（一八七四年刊）で、子編小説家類に『青史子』『宋子』『裴子語林』『笑林』『郭子』『玄中記』『齊諧記』『水飾』を収め、解題を附した。「小説」逸文をある程度体系的に集めた最初の例であり、『宋子』を除く七種は『鈎沈』にも含まれている。こうした趨勢をうけた魯迅が、実際に輯佚書という存在に出会ったのは、一八九六〜九八八ごろ（魯迅満一五〜一七歳）に購入した『二酉堂叢書』、ややおくれての『十種古逸書』を通じてであった^五。

第二に、章太炎（章炳麟、一八六九〜一九三六）の巨大な影響がある。章太炎の師であった俞樾（一八二一〜一九〇七）は、平生から小説戯曲を好み、自らも志怪『右台仙館筆記』を著し^六、読書劄記『茶香室叢鈔』は『搜神記』『拾遺記』、あるいは類書に引かれた『幽明録』『漢武故事』逸文をしばしばとりあげていた。その俞樾の「飄逸」に対する章太炎の「深刻」として比べられる師弟であつたが^七、「一般の想像とは逆に、古文の巨匠たる章太炎は、『水滸伝』など口語体を用いた章回小説を決して拒んではいなかったし、『水滸伝』のような白話で書かれた章回小説を高く評価さえした^八。章太炎の直弟子王仲犖（一九一三〜一九八六）は、次のように回想する。

太炎先生は、ときに末っ子に『水滸伝』を語ってやることがあつた。最初から最後まで、本も見ないで、手に取るがごとく語つたのである。私があるとき訪ねると、二人李達、本物の李達とにせ李達との話をしているとこ

ろであつた。おお、その語りたるや、まるでその現場を目のあたりに見るかのようにだつた。先生は十幾つのところに『水滸伝』を読まれたのだが、このときもう六十歳をこえていた。五十年前に読んだ本について、まだはつきりと覚えていたのである。^九

章太炎の小説観は、俞樾の影響あるいは個人的趣味としてだけとらえるべきではない。一九〇三年の『廬書』重訂本「訂文」では、洪江保『希臘羅馬文学史』（一八九一年）を引きながら、文学の普遍的な進化の最初に「史詩」を位置付け、さらにその進化の各段階として、大史詩―裨詩（「小説」を語る史詩）―物語―歌曲―正史詩（韻文で書かれた歴史）―半楽詩（音楽を伴った詩と史詩の混合）―牧歌―散行作話（日常空間内での物語）を位置づける^{一〇}。章太炎の考えに従えば、文学の各ジャンルは、人間の歴史とともに必然的かつ普遍的な法則に従って出て来る。さらに一九〇七年に発表された著名な論説「五無論」では、文学が普遍的に「人間の性情を知るのに、詩にかなうものはない。その次は小説・神話にかなうものはない^{一一}」と定義し、人間の思想・精神は文学に反映され、とりわけ詩と小説・神話が重要だとしている。当然、小説史の解明は、中国の民族的伝統を知るためにおろそかにできない。一九〇六年九月に日本の東京で開かれた国学講習会で、章太炎は中国小説史につき次のように語る。

小説の文体には、他の文体と少し異なるところもありますが、「雅（文化規範から外れない）」な作品も存在します。『史記』滑稽列伝・『漢書』東方朔伝、これらはどちらも小説の由来するところです。さて、『漢書』芸文志が「小説」と呼んでいるのは、「街談巷語道聽塗説者所造（日常空間内での物語、小耳にはさんだ噂を口にする人々が著したもの）」であり、いわゆる「身分いやしき柴刈る男に教えを乞う」ということばにあたります。邯鄲淳の『笑林』や劉義慶の『世説新語』は、みな当時の実話でした。

工夫してわざわざ話をこしらえた、『漢書』芸文志が「小説」と称する諸書は、一般に黄老学派の要素があつて、のちに超自然の要素もあわせもつようになりました。『搜神記』『幽明録』などは、「小説」の正統ではありませんが、引き続き怪しさ・不思議さを誇ります。『搜神記』『幽明録』の類は周縁的存在であり、「小説」本来のあり方にとつてどうかという面もありますが、抑制のきかない饒舌な文体ではなく、「小説」としてはまだ「雅」から外れておりません。

明^{マヤ}からこのかた^{二三}、文人たちは卑屈にも媚びを売つて、婚姻のことばかり考えるようになり、自分で風流さをひけらかし、廉恥というありかたを失い、かくて『雑事秘辛』『趙飛燕外伝』などの作品が現れて今日まではびこり、その拡散は止めようがありません。

「小説が」本来のあり方を取り戻した「雅」なものも出てきました。近世の小説のうち、日常空間内の物語としての『水滸伝』『儒林外史』、鬼神やあやかしを書いた『閱微草堂筆記』五種、これらはみな「雅」とみなして差し支えない作品です。

渋さを鼻にかけ、華やかさを自己満足しているような小説は、邪道に陥らないものではありません。^{二三}

類似の見解は、一九一〇年に発表した「人に与えて文を論ずるの書」および「五朝学」にも見える。

それから「小説」は『漢書』で「九流十家に数えられているものだから、でたらめに書くべきものではない。格の高い作品としては、宋鉞が著作をあらわし、支配者に対しては提言し、民衆に対しては教化した例がある。宋鉞の思想は黄老学派に似たものである。

つぎに、人物や風俗、学問や技術につき、史官や諸子が記録しきれなかったことを細かく説明しているものは、

文献の欠失の補完として評価できる。(原注…宋人の筆記には、よくこの種の作品があり、南朝の遺風をまだ伝えている。)
さらに、鬼神や妖怪の目撃談を取り上げて書いたものもあるが、工夫をこらして話をこしらえたわけではなく、ただありのままに表現し、まるで味付けしないかのようにあつさり、目立たずさりげなく書いているのが『搜神記』『幽明録』の類であつて、これらも大切に扱う価値がある。

唐人になると、巧みをこらして邪術や色事をめぐる物語を作るようになり(原注…前秦の王嘉が『拾遺記』を著したのが始まりである。王嘉はもと道士なのでしようがない。唐になると、れっきとした士大夫が何人も書くようになった)、近い世において、これらを模倣し、同様に「小説」と命名したものがあるけれども、もちろん「小説」本来のすがたではない。蒲松齡や林紓といった手合いの著作が「小説」と称することができているのは、「低級な参考書に過ぎない」『四書大全』や『四書講義』が六芸の儒家に混じっているのと同じようなことである。(「人に与えて文を論ずるの書」^{一四})

*

『太平広記』が引く南朝の小説は、「奇」といっても「雅」に近く、「怪」といっても「繆(勝手なでたらめ)」になるほどではなく、行き過ぎた誇張もない。ただ『拾遺記』だけ「他の小説と」性格が異なるが、もとはやはり北中国で作られたものである。『隋書』経籍志の雑史に『拾遺録』二巻があつて「偽秦の姚萇の方士王子年の撰」とされ、一方、王子年『拾遺記』十巻は「蕭綺の撰」とされている。蕭綺は単に取りまとめただけで、『拾遺記』は「南朝とは関係がない。唐人の小説は、半分くらいが邪術に関わる。文章の書きかたを心得ていないうゑに、立身出世をうらやむ気持ち、気ままに節度なく、自己の能力を誇つては天狗になるという態度が、文面に満ちあふれている。〔唐代の〕人の心が軽佻浮薄なものであつたことが、そこからは読み取れる。〔五朝学〕」^{一五}

ここから、章太炎が小説の価値を認め、特に魏晉南朝の古小説、明清の『水滸伝』『儒林外史』『閱微草堂筆記』を評価していたことが分かる。また、章太炎は小説をよく読んでいたと思われる^{一六}。一九〇八年四月～五月に少数の中国人留学生を対象として『説文解字』を講じた聴講ノートに、「謚」の用例として『漢武帝内伝』の「内外寂謚」が挙げられている事実は、その一端を示す^{一七}。同書を読んでいなければ、適切な用例としてその場で引くことはできなかっただろう。そして、一九〇八年四月以後から一九〇九年六月以前まで、約一年間にわたり、魯迅は章太炎の『説文解字』『莊子』の講義に出席していた。まさしく章太炎が古小説に関する前述の主張を公にしていた時期と重なっており、「魯迅が魏晉の文章に親しんだのは、章太炎による提唱と劉師培による「魏晉六朝重視の」方向性の明確化とのたまものである」（陳平原^{一八}）。日本から帰国した直後の一九〇九年六月から一九一一年年末までの二年半をかけて、魯迅が『鈎沈』の編纂に熱中した背景として、章太炎からの強い影響を想定する説は、説得力を有する^{一九}。ただし、章太炎は、六朝の古小説は史部・子部の文献の記載を補うものであり、作品成立当時の思潮を知る手段だとみなしている。それとは異なる文学観を、魯迅（および日本留学中の周作人）はもっていた。許寿裳は、章太炎の講義の席での魯迅にまつわるエピソードを伝えている。

魯迅は聴講の席でほとんど発言しなかった。ただ一回だけ、章先生が「文学の定義はどういうものか」とたずねられたとき、魯迅が「文学と学問的著作とは異なります。学問的著作は人間の思索を刺激するもので、文学は人間の感情を豊かにするものです（学説所以啓人思，文学所以增人感）」と答えたことがある。先生はこれを聞き、「君の分類法は、先人のものよりは優れているが、まだ不充分なところがある。郭璞の「江賦」や木華の「海賦」が、人間の悲しみや喜びの思いを刺激できるものか」とおっしゃった。魯迅は黙ったが納得しておらず、後で私にこう言った。「先生の文学についての定義づけは、範囲が広すぎる。文章になつてゐるもの、文章になつ

ていないもの、すべてを「文学」にしてしまわれるが、文字と文学とは区別すべきだ。「江賦」「海賦」などは、言語表現としてみると華麗だが、文学的価値をどう評価していいものやら」と。^{二〇}

ここで魯迅が支持する「文学」の定義「学問的著作は人間の思索を刺激するもので、文学は人間の感情を豊かにするものです（学説所以啓人思、文学所以増人感）」は、自ら創ったものではなく、章太炎が一九〇六年の「文学論略」で批判した先人の学説「学問的著作は人間の思想を啓発するもので、文学は人間の感情を揺さぶるものです（学説在開人之思想、文辞在動人之感情）」の引用である^{二二}。章太炎は、書写媒体（竹帛）に記されたあらゆる文字を「文」と呼び、表・帳簿・演算・地図など、通常は「文章になっていない」と見なされるものまで「文」に含め、その表現作法（法式）を広く論じることを「文学」と呼ぶ。したがって章太炎の「文学」には、言語美を追求していない理論的な著作も入ってくる^{二三}。これに対して、文学は必ず感情の豊かさを持たねばならないと考えた一九〇八〜一九〇九年の魯迅、そして文章は（一）書写媒体に記され、（二）専門的な学術的著作を含まず、（三）人生の思想を体现し、（四）Ideal, Impassioned, Artisticの三要素が不可欠、この四条件を満たしておらねばならず、「小説というものは、文章であり、芸術である」と説いた一九〇八年の周作人^{二四}、かれらにとって古小説は「文采光明の世界をいよいよ華麗にし、幽暗孤独の世界を飾り引き立てるに足る。思うにただ視聴を広めるための道具に止まるものではな」く、その逸文を輯める作業も「古い書物に魂を返してやるのは、自らの悦びを求めるため」の「逆転」と「発掘」だったことになる^{二五}。それは、清末の一八九七年に始まる小説評価の転換―社会変革のための、小説の有用性の唱道―ともはつきり異質であった。

日本の森槐南も、唐代以前の古小説を「文学の精華」とみなし、「小説を作る者固より初めより經典に益あらんとて之を結撰する者にあらず」として近代的な小説観を一九一〇〜一九二二年に発表していたことが、溝部良恵氏によ

り指摘されていることを付け加えておく^{二五}。

三

『鈎沈』以前の中国古小説史の資料は、なお不完全な状態であった。大正五年（一九一六）から六年（一九一七）まで京都帝国大学文学部で狩野直喜が講じた「支那小説史」の講義ノートをみると、漢魏晋小説の資料として『漢武内伝』『漢武故事』『飛燕伝』『拾遺記』『搜神記』『搜神後記』『異苑』『続齊諧記』『還冤志』を示し、版本として『漢魏叢書』『秘書二十一種』『龍威秘書』『津逮秘書』などを挙げるのみである^{二六}。一九二〇年に刊行された塩谷温『国訳漢文大成 晋唐小説』も、所拠の版本については同様であった。

そのような研究状況を熟知しているだけに、魯迅は『鈎沈』のできばえに自信を持っていた。一九二六年に『中国小説史略』が塩谷温『支那小説戯曲概論講話』の「小説」の部分を藍本としてしていると非難されたとき、

たとえば、現存する漢人の小説を、彼〔塩谷温〕は真作とみなすが、私は偽作とみなす。……六朝小説について彼は『漢魏叢書』に拠っているが、私は他のテキストや自らの輯本に基づいており、そのための手間を二年あまりかけ、稿本十冊は手元にある。^{二七}

と反論したのは、『鈎沈』稿本を手元に置いているゆえの発言である。ただ、この時点で『鈎沈』稿本の存在を知り、目にしていた者はほとんどいないだろう。同じ年、魯迅は厦門大学に勤務して『古小説鈎沈』を整理して出せば、「研究教授」の三、四年分の成果にできる」と考えていたが、結局は出版の可能性がないと判断し、厦門大学を辞職した

二八。中島氏「旧序一」に言うとおり、一九三五年になって鄭振鐸からの出版の誘いを断っているが、自著の価値を否定していたわけではない。

一九三六年十月に魯迅が没した後、遺された『鈎沈』稿本の価値を最初に顕彰したのは、一九三七年十月に魯迅没後一周年を記念して書かれた鄭振鐸「魯迅的治學精神」であった^{二九}。翌三八年七月に刊行された『魯迅全集』第八卷に『鈎沈』を収めたのに続き、鄭振鐸は同年十月に没後二周年を記念した「魯迅的輯佚工作」(『文藝陣地』第二卷第一期)において、魯迅による輯佚書のうちで『鈎沈』が最も重要であると評価し、魯迅自身による序跋がなく著作の経過が不明であることを惜しんだ。また北新書局の編集責任者として魯迅と親しかった趙景深は、『鈎沈』の補完を意図して、「小説瑣話 孔氏志怪輯逸」(一九四二年)、「読魯迅『古小説鈎沈』」(一九四六年)などを折りに触れて雑誌に発表した^{三〇}。抗日戦争の終結後、一九四七年十二月には、やはり生前の魯迅と関係の深かった台静農が、台北龍坡里で二十九種の作品について「古小説鈎沈解題」を書き、『鈎沈』の欠を補う^{三一}。以後、中国古小説史研究は、魯迅『鈎沈』を基軸のひとつとして、質的転換を遂げていくことになる。

二〇一七年八月二十七日 平田 昌司

注

一 中島長文「留別…歪詩四首 四一 一 号室北窓にて」(『神戸外大論叢』五五(一)、二〇〇四年)。

二 中島氏による古小説研究の成果としては、ほかに「任昉『述異記』考」「任昉『述異記』校本」(いずれも『東方学報』京都第七三冊、二〇〇一年)。

三 周作人「法布耳『昆虫記』」(『周作人散文全集』三卷)、二九頁。

- 四 中島長文「解説『悲涼の書』―『中国小説史略』」（鲁迅著、中島長文訳注『中国小説史略』²、平凡社、一九九七年、三六九―三七七頁）。
- 五 周作人「往南京」『周作人散文全集』十二卷（桂林：广西師範大学出版社、二〇〇九年）、六〇七頁。
- 六 金文京「俞樾の文芸観」（狭間直樹編『西洋近代文明と中華世界』（京都：京都大学学術出版会、二〇〇一年）、賈婀娜「論俞樾の小説創作と小説研究」、暨南大学二〇〇六年碩士論文。
- 七 周作人「地方与文芸」『周作人散文全集』三卷、一〇二頁。
- 八 陳平原「章太炎の述学文体」（夏晓虹・王風等『文学語言与文章体式―從晚清到五四』、合肥：安徽教育出版社、一八七―二二九頁、二〇〇六年）、一九三頁。
- 九 王仲聲「太炎先生二三事」『歴史論叢』三期、濟南：齊魯書社、一九八三年）、一五頁。この文章については、阿川修三氏から御教示いただいた。
- 一〇 『章太炎全集』三卷、上海：上海人民出版社、一九八四年、二二八頁。
- 一一 『民報』第一六号、一九〇七年九月、一六頁。
- 一二 原文は「自明以来」。後に引く「人に与えて文を論ずるの書」をあわせ見ると、「唐からこのかた」の誤りか。
- 一三 章念馳編訂『章太炎演講集』、上海：上海人民出版社、二〇一一年、三四―三五頁。楊天石主編『錢玄同日記（整理本）』上冊（北京：北京大学出版社、二〇一四年）の一八五頁によれば、章太炎は一九〇六年十月二十四日（旧曆九月十一日）に二十名ほどの学生を相手に文学の講義をおこなひ、小説に言及している。
- 一四 『太炎文録初編』卷二「与人論文書」。
- 一五 『太炎文録初編』卷一「五朝学」。
- 一六 羅志敏主編『章太炎藏書題跋批注校録』（濟南：齊魯書社、二〇一二年）に、量は少ないながら『閱微草堂筆記』への章太炎の書き込みを収める。
- 一七 『章太炎說文解字授課筆記』（北京：中華書局、二〇〇八年）、一〇六頁。
- 一八 陳平原「現代中国的『魏晉風流』与『六朝散文』」（陳平原『中国現代学術之建立―以章太炎、胡適之为中心』、北京：北京大学出版社、一九九八年）、三五五頁。

- 一九 張荅華「章太炎東京講学与魯迅」(『近代史研究』一九八六年六期)、一六五～一六六頁。
- 二〇 許寿裳『亡友魯迅印象記』(北京：人民文学出版社、一九五九年)。
- 二一 「文学」のこの定義は、明治期の文学概論に引用された英国の批評家トマス・ド・クインシーのポーブ論に見える。また許寿裳が魯迅のことばとしている「学説所以啓人思、文学所以増人感」は、浙江図書館本『国故論衡』中巻「文学総略」の文「学説以啓人思、文学以増人感」とほぼ一致する。この文の初出形「文学論略」(『国粹学报』二二期、一九〇六年)では「学説在開人之思想、文学在動人之感情」。
- 二二 章太炎の「文学」は、明治期の英文学研究に一定の影響を与えた米国の文学研究者ヘンリー・S・パンコーストの所説に似ている。
- 二三 周作人「論文章之意義暨其使命因及中国近時論文之失」(『周作人散文全集』一卷)、九六～九八頁、一一四頁。この論文は、当時の日本・欧米の文学論に対する反応として書かれたが、批判対象には明らかに章太炎が含まれている。
- 二四 中島長文訳注『中国小説史略』二三七〇頁の「古小説鈎沈序」訳文を用いた。
- 二五 溝部良恵「森槐南の中国小説史研究について——唐代以前を中心に——」(『慶應義塾大学日吉紀要・中国研究』一、二〇〇八年)。
- 二六 狩野直喜『支那小説戯曲史』(東京：みすず書房、一九九二年)。
- 二七 魯迅「不是信」(『華蓋集続編』)。
- 二八 『兩地書』四二、五八、『廈門通信』(『語絲』一一四期、一九二七年一月)。
- 二九 『申報』二三一五二号。中国近代期刊庫による。
- 三〇 それぞれ『小説月報』一七期(一九四二年)、『文藝春秋』三卷四期(一九四六年)に掲載。どちらも大成故紙堆による。前の文が『鈎沈』の採集もれの『孔氏志怪』逸文五条と指摘するうち、一は『雜鬼神志怪』に既収である。二は本書『雜鬼神志怪』〇23校記で六朝の作かどうか疑われている。三は単行本『異苑』に見え、四・五は『志怪録』に出る。趙景深の指摘が正確とは限らない。
- 三一 『台湾文化』第三卷第一期、一九四八年。大成故紙堆による。

魯迅『古小説鈎沈』校本

中島長文 校 伊藤令子 補正

(二〇部限定印刷)

二〇一七年八月三十一日

発行 京都大学文学研究科中国語学中国文学研究室

